

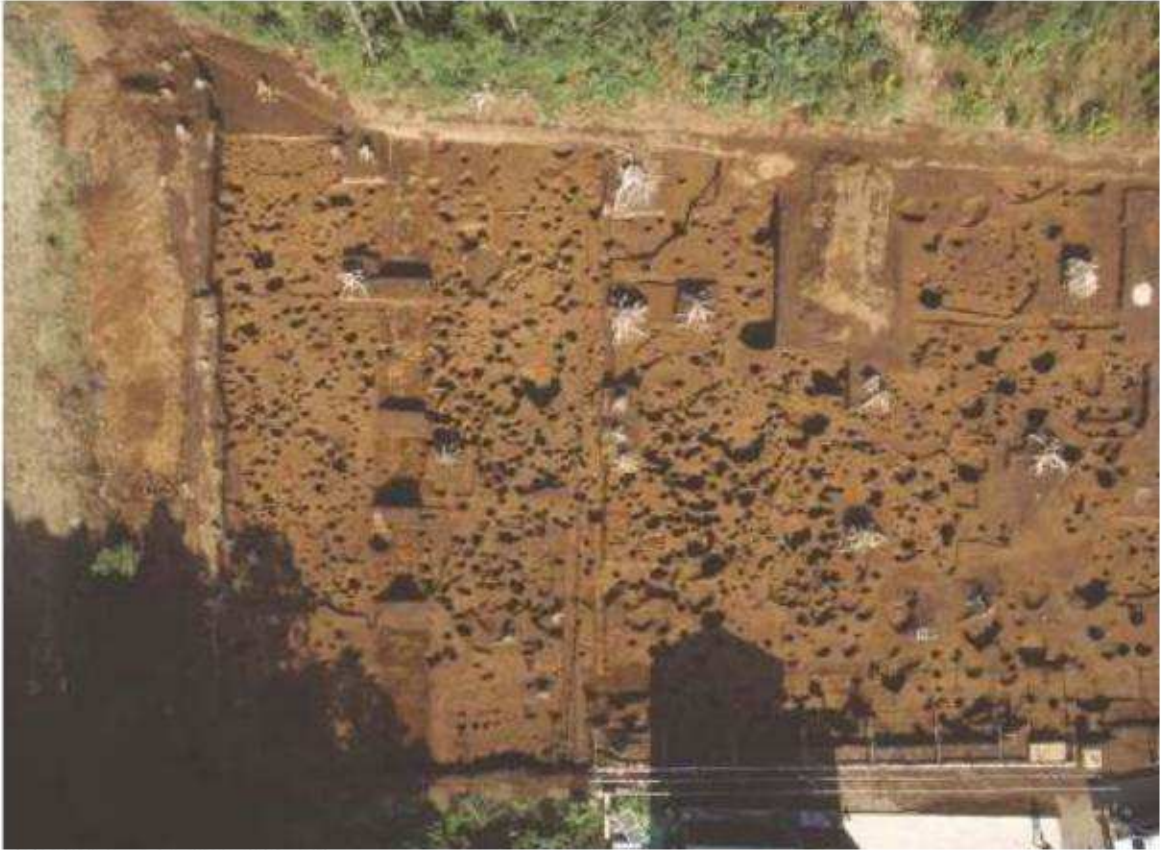
茨城県教育財団文化財調査報告第427集

ついで じ
築地遺跡
みやほらまえ
宮原前遺跡 2

一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 30 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団



築地遺跡A区全景（南から）



築地遺跡 出土縄文土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴って実施した、茨城県常総市築地遺跡、宮原前遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、築地遺跡では縄文時代を中心とした竪穴建物跡や多数の遺物が出土し、縄文時代の集落であることが明らかとなりました。また宮原前遺跡では、平成21年度の調査につづき、平安時代の竪穴建物跡や井戸跡などが確認できました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大なる御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、常総市教育委員会をはじめ、御指導、御協力いただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成30年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野 口 通

例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成26年度、平成27年度に発掘調査を実施した、茨城県常総市大輪町字築地754番地の1ほかに所在する築地遺跡及び茨城県常総市大生郷町字宮原前3448番地ほかに所在する宮原前遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

築地遺跡

調査 平成26年4月1日～10月31日

整理 平成28年4月1日～平成30年3月31日

宮原前遺跡

調査 平成26年4月1日～10月31日（第1期）

平成27年2月1日～3月31日（第2期）

平成27年4月9日～4月30日（第3期）

整理 平成29年7月1日～11月30日

3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成26年度

首席調査員兼班長 酒井 雄一

次席調査員 坂本 勝彦 平成26年4月1日～7月31日

平成26年9月1日～10月31日

平成27年2月1日～3月31日

次席調査員 作山 智彦 平成26年4月1日～6月30日

調査員 江原美奈子 平成26年4月1日～10月31日

調査員 近江屋成陽 平成26年7月1日～9月30日

調査員 根本 康弘 平成26年8月1日～8月31日

平成27年度

首席調査員兼班長 駒澤 悦郎

調査員 江原美奈子 平成27年4月9日～4月30日

調査員 皆川 貴之 平成27年4月9日～4月30日

4 整理及び本書の執筆・編集は、平成28年度が整理課長後藤一成、平成29年度が整理課長皆川修のもと以下の者が担当した。

次席調査員 江原美奈子 平成28年4月1日～平成30年3月31日

調査員 近江屋成陽 平成29年4月1日～6月30日

調査員 矢ノ倉正男 平成29年7月1日～平成30年3月31日

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

江原美奈子 第1章～第3章3節1、第4節

近江屋成陽 第3章第3節2～4、第4節

矢ノ倉正男 第4章

- 6 本書の作成にあたり、昭和38年の築地遺跡の調査内容や調査成果について、慶應義塾大学教授の安藤広道氏、神奈川県立歴史博物館の千葉毅氏からご指導、ご教示いただいた。
- 7 本書の作成にあたり、築地遺跡出土の土製品・石器・石製品の一部の図化業務については、株式会社アルカ、特定非営利活動法人井草文化財研究所に委託した。築地遺跡から出土した土器の胎土分析、及び黒曜石の産地同定、アスファルトの同定については（株）パレオ・ラボに、石器・石製品の石材鑑定についてはパリーノ・サーヴェイ株式会社に、獣骨・魚骨、骨角器の同定については（株）イビソクに委託した。また宮原前遺跡から出土した人骨の鑑定については、パリーノ・サーヴェイ株式会社に委託し、それぞれの成果は付章として巻末に掲載した。
- 8 宮原前遺跡から出土した人骨については、整理業務終了後、結城郡八千代町沼森1130番地の瑠璃光山宝蔵院金剛寺にて、供養、埋葬した。
- 9 築地遺跡、宮原前遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は、一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、築地遺跡については $X = + 8,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 11,640 \text{ m}$ 、宮原前遺跡については $X = + 8,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 10,720$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ビット PG - ビット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡・堀跡

SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴 UP - 地下式坑

遺物 B - 骨角器 DP - 土製品 M - 金属製品 N - 自然遺物 Q - 石器・石製品 W - 木製品

土層 K - 攪乱


- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は築地遺跡が 200 分の 1、400 分の 1、宮原前遺跡が 400 分の 1、800 分の 1 である。各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とし、築地遺跡の竪穴建物跡は 80 分の 1 に、その他種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。


(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉・朱墨

 炉・火床面

 粘土・炭化物・灰層範囲

 柱痕跡・柱あたり

●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ■骨角器 - - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 遺構図の断面図は、アルファベット順に配列し、標高の表示については同一のものはその先頭にのみ記載している。

8 今回の報告書で、整理作業の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

築地遺跡

変更 SI 10 → 第1号遺物集中地点, SK 7 → SI 7-P45, SK11 → SI 12-P19・20, SK15 → SI 3-P25,
SK25 → SI 7-P15, SK27 → SI 55-P 2, SK37 → SI 5-P53, SK43 → SI 37-P22・23,
SK47 → SI 6-P 7・10, SK50 → SI 13-P52, SK62・86・87 → 第1号粘土採掘坑,
SK95 → SI 60-P 8, SK96 → 第2号粘土貼土坑, SK97 → 第1号粘土貼土坑, SK101 → SI 8-P64,
SK124 → SI 31-P38, SK145 → SI 31-P27, SK151 → SI 40-P 6, SK170 → SI 35-P88,
SK172 → SI 35-炉7, SK173 → SI 35-P97・98, SK174 → SI 35-P94, SK175 → SI 47-P59,
SK176 → SI 47-P58, SK177 → SI 47-P62, SK184・186 → SI 35-P109, SK188 → SB 1-P19,
SK189 → SB 1-P 4, SK201 → SI 20-P50, SK205 → SI 60-P 2, SK206 → SI 60-P 1,
SK207 → SI 60-P 3, SK222 → SB1-P 5, SK225 → SI 54-P16, SK226 → SI59-P11,
SK227 → SI 54-P18, SK230 → SI 59-P 3・4, SK234 → SI 47-P 7, SK238 → SI 54-P 1,
SK239 → SI 54-P 2, SK252 → SI 40-P17, SK257 → SI40-P11, SK258 → SI 40-P10,
SK259 → SI 40-P12, SK262 → SI 40-P13

欠番 SI 17・21・26・33・38・50・52, SK 3・20・23・35・53・60・90・132・133・167・185・191・
245・263・273, PG 1・4・12・14, UP 5

宮原前遺跡

変更 SK82 → SB11-P 2, SK94 → 第1号粘土貼土坑, SK97 → SB13-P 8, SK114 → TP 3,
SK122 → TP 4, SK128 → 第1号墓坑, SA 1-P 1 → SB12-P 8, SA 1-P 2 → SB12-P 9,
SA 1-P 3 → SB12-P10, SA 1-P 5 → SB12-P12, SA 1-P 6 → SB12-P 1, SA 2-P 1 → SB12-P 7,
SA 2-P 2 → SB12-P 6, SA 2-P 3 → SB12-P 5, SA 2-P 4 → SB12-P 4, SA 2-P 5 → SB12-P 3,
SA 2-P 6 → SB12-P 2, PG 9-P18 → SB13-P10, PG 9-P19 → SB13-P 9, PG 9-P23 → SB13-P 1,
PG 9-P24 → SB15-P 5, PG 9-P26 → SB13-P 2, PG 9-P28 → SB15-P 7, PG 9-P30 → SB15-P 4,
PG 9-P31 → SB15-P 3, PG10-P10 → SB13-P 6, PG10-P12 → SB13-P 5, PG10-P15 → SB13-P 7

目 次

—上 卷—

序

例 言

凡 例

目 次

築地遺跡 宮原前遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 築地遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	17
1 縄文時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴建物跡	17

—中 卷—

(2) 土 坑	299
(3) 炉 跡	382
(4) ビット群	383
(5) 遺物包含層	389
(6) 遺物集中地点	480
2 室町時代の遺構と遺物	486
(1) 地下式坑	486
(2) 土 坑	495
(3) 堀 跡	499
3 江戸時代の遺構と遺物	503
(1) 掘立柱建物跡	503
(2) 井戸跡	504
(3) 粘土貼土坑	505
(4) 土 坑	507
4 その他の遺構と遺物	509

(1) 粘土探掘坑	509
(2) 土坑	511
(3) 溝跡	512
(4) 遺構外出土遺物	514
第4節 まとめ	516

—下 卷—

第4章 宮原前遺跡	531
第1節 調査の概要	531
第2節 基本層序	531
第3節 遺構と遺物	538
1 縄文時代の遺構と遺物	538
(1) 竪穴建物跡	538
(2) 陥し穴	542
(3) 土坑	543
2 古墳時代の遺構と遺物	546
竪穴建物跡	546
3 奈良時代の遺構と遺物	550
(1) 竪穴建物跡	550
(2) 井戸跡	563
(3) 土坑	564
4 平安時代の遺構と遺物	564
(1) 竪穴建物跡	564
(2) 井戸跡	585
(3) 土坑	589
5 室町時代の遺構と遺物	594
(1) 掘立柱建物跡	594
(2) 井戸跡	597
(3) 粘土貼土坑	598
(4) 土坑	599
6 江戸時代の遺構と遺物	600
(1) 井戸跡	600
(2) 墓坑	602
(3) 土坑	603
(4) 溝跡	605
(5) 道路跡	612
7 その他の遺構と遺物	614
(1) 掘立柱建物跡	614

(2) 土 坑	617
(3) 溝 跡	632
(4) ビット群	633
(5) 遺構外出土遺物	635
第4節 まとめ	637
付 章	641
1 築地遺跡出土石器・石製品の岩石肉眼鑑定	パリノ・サーヴェイ株式会社
2 築地遺跡出土黒曜石の産地同定	竹原弘展 (パレオ・ラボ)
3 築地遺跡出土アスファルト付着礫塊	藤根 久 (パレオ・ラボ)
4 築地遺跡出土土器の胎土分析	藤根 久 米田恭子 (パレオ・ラボ)
5 築地遺跡出土獣骨類・魚骨類の同定	(株) イビソク
6 宮原前遺跡の出土人骨について	パリノ・サーヴェイ株式会社
写真図版	PL 1 ~ PL58
抄 録	
付 図	

ついで 築地遺跡・みやはらまえ 宮原前遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

築地遺跡と宮原前遺跡は、常総市の北東部に位置し、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が、平成 26・27 年度に発掘調査を行いました。調査面積は、築地遺跡が 2,908㎡、宮原前遺跡が 10,446㎡です。



築地遺跡の調査成果

築地遺跡は、東西約 500 m、南北約 200 m の範囲で確認されており、今回の調査区はその東部にあたります。調査の結果、縄文時代の集落跡と、室町時代の堀跡や地下式坑、江戸時代の掘立柱建物跡や粘土貼土坑などを確認しました。



調査 A 区全景（北西上空から）



焼土が堆積している竪穴建物跡



厚く堆積する遺物包含層（第2号遺物包含層）



深い穴の底から出土した注口土器



土器が重なり合うように出土した土坑
（第122号土坑）

縄文時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、遺物包含層 2 か所などを確認しました。集落は中期前半から集落が営まれています。中心となるのは後期後葉から晩期中葉（約 3,500 ～ 2,800 年前）で、多くの遺構が重複していること、層厚 1 m 以上の厚い遺物包含層が確認されたこと、コンテナ 700 箱分の多量の遺物が出土したことなどが特筆されます。これらの特徴は、当期の関東地方で確認できる集落の一形態である「環状盛土遺構」に類似しています。重なり合う穴は、住居跡の柱穴や貯蔵穴、墓坑などの穴で、住居の構築と廃棄、整地行為などが断続的に繰り返された結果、遺物を包含する厚い層が生じたことがわかりました。穴の中には、径が 1.5 m、深さが 2 m ほどもある深い円筒形で、貯蔵穴と考えられるものや、浅い楕円形で、完形に近い土器が伏せられるように出土している墓坑と考えられるものなどがあります。深い穴の覆土中からはオオタニシやマツカサガイ、シカやイノシシなどの獣骨、ウナギなどの



様々な大きさの耳飾り



土偶と耳飾り



鹿の骨や角で作られた垂飾品や簪



アスファルトの付着した礫（左） 遺跡から比較的多く出土する焼成粘土塊（中央）と発泡体（右）

魚骨が出土するものがあり、ごみ穴に転用されたものもあるようです。ごみ穴からは食べかすのほか、台地上の遺跡では残りにくい骨鏃などの骨角器や漆塗りの櫛の破片などが出土しています。特に彫刻の施された垂飾品や簪は希少です。また穴の底からは、ほぼ完形の注口土器が出土しています。注口土器は果実酒などの液体物を注ぐ土器で、供食儀礼などを通して社会的な関係性を強化する儀式などに用いられたと考えられています。特筆される遺物の一つにアスファルトの付着した礫や石鏃があります。アスファルトは接着剤として用いられますが、秋田県や新潟県などの一部でしか産出せず、縄文時代の遺跡からの出土も限られており、当時の交流や交易を考える上で貴重な事例といえます。



E・F区完掘状況

宮原前遺跡の調査の内容

宮原前遺跡は、東西約 325 m、南北約 250 mの範囲で確認されており、調査区はその北部にあたります。今回は平成 21 年度に調査した調査区の延長です。

調査の結果、縄文時代から江戸時代までの遺構を確認しました。奈良時代の竪穴建物跡の竈では、砂岩の切石で構築されていました。奈良・平安時代にはまとまった集落を形成して、稲などの収穫物を保管した側柱建物跡や役人が執務したと考えられる総柱建物跡も見つかっています。また、平安時代の大型の井戸跡を確認しました。ここからは、「祝」などの墨書が出土しています。井戸を埋め戻す際に祭事が行われたことも想像されます。江戸時代の溝などからは、煙管の雁首、瀬戸の碗や丹波の播鉢などが出土しています。遠方との交流や喫茶の習慣などが伝わっていたことが窺えます。



第 10 号井戸跡完掘状況

調査は遺跡の一部でしたが、周りを谷に囲まれた台地上で、周辺の自然地形を利用して農業を営みながら生活する、古代から近世の人々の生き生きとした姿がよみがえります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、首都圏へのアクセスを円滑にするために、常総市において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の整備を進めている。

平成18年8月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無、及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成19年1月16日及び1月17日に現地踏査を実施し、続いて平成20年11月11～13日、及び平成25年9月18日に試掘調査を実施し、宮原前遺跡、築地遺跡の所在を確認した。平成21年1月16日、及び平成25年9月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に宮原前遺跡及び築地遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成21年1月29日、及び平成26年2月18日、12月9日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成21年2月24日、及び平成26年2月20日、12月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

平成21年3月6日、及び平成26年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成21年3月16日、及び平成26年2月21日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、宮原前遺跡及び築地遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、築地遺跡は平成26年4月1日から10月31日まで、宮原前遺跡は平成26年4月1日から10月31日、平成27年2月1日から4月30日まで、発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

築地遺跡の調査は、平成26年4月1日から10月31日までの7か月間、宮原前遺跡の調査は、第1期調査が平成26年4月1日から10月31日までの7か月間、第2期調査が平成27年2月1日から3月31日の2か月間、第3期調査が平成27年4月9日から4月30日までの1か月間にわたって実施した。築地遺跡は、調査前の現況でも縄文土器を中心に多量の遺物の出土が確認でき、また周辺地域の同様の性格を有する遺跡の調査例からみても、縄文時代後期から晩期の層厚のある遺物包含層を有する集落跡であることが予想された。そこで確認トレンチを設定して、遺物包含層の有無と遺構の掘り込み面を確認したところ、遺物包含層は20～120cmの層厚で、多量の遺物を包含し、A区・B区でそれぞれに確認できたことから、表層土を重機で除去したあと、A・B区とも遺物包含層の調査を開始した。遺物包含層は任意層位毎に掘り下げを行い、出土遺物は

層位や出土状況などを確認しながら記録し取り上げた。また遺物包含層上面及び遺物包含層中で遺構が確認できたものは、その都度調査して記録し、その後遺物包含層の掘り下げを続行した。なお、遺構の多くは遺物包含層除去後のローム層上で確認できたものである。以下、その概要を表で記載する。

築地遺跡 平成 26 年 4 月 1 日～10 月 31 日

工程 \ 期間	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
調査準備 表土撤去 遺構確認	■	■					
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■

宮原前遺跡 第 1 期調査 平成 26 年 4 月 1 日～10 月 31 日

工程 \ 期間	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
調査準備 表土撤去 遺構確認	■	■					
遺構調査		■	■	■			
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■

宮原前遺跡 第 2・3 期調査 平成 27 年 2 月 1 日～3 月 31 日、4 月 9 日～4 月 30 日

工程 \ 期間	2 月	3 月	4 月
調査準備 表土撤去 遺構確認	■		
遺構調査	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■
補足調査 撤収			■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地 754 番地の 1 ほか、宮原前遺跡は、茨城県常総市大生郷町字宮原前 3448 番地ほか、所在している。

築地遺跡、宮原前遺跡が所在する常総市は、茨城県の南西部に位置し、市の東部を小貝川、中央部を鬼怒川、東仁連川、西部を飯沼川が南北に流れ、東部には沖積低地が開け、西部に台地が発達している。東部の低地は、約 2 万年前の海退期に、現在の小貝川・利根川の河道を流れていたとされる古鬼怒川が、古東京湾の堆積物である成田層群を開析して形成されたもので、約 8,000～5,000 年前の縄文海進期には、海水面が上昇し、河谷に沿って海が侵入していたと考えられる。この低地の堆積層は鬼怒川・小貝川の氾濫原に堆積した標高約 12 m の沖積層からなり、河川堆積物である砂礫層や、小貝川や鬼怒川の氾濫時に形成された厚い泥炭層の堆積が見られる。西部の台地は、結城市から常総市にかけての結城台地と、利根川に平行して古河市方面から取手市に伸びる猿島台地がある。結城台地は鬼怒川と飯沼川により開析された標高 20～24 m の平坦で比較的起伏の少ない台地で、古東京湾に堆積した成田層を基盤とし、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の層順が観察できる³¹⁾。

築地遺跡は、鬼怒川と東仁連川に挟まれた、標高約 20 m の結城台地の縁辺部に、宮原前遺跡は同台地の中央部に位置している。台地は幅 2 km と狭く、低地面及び南に向かって緩やかに傾斜している。台地上は低地からの小支谷が複雑に入り組んでおり、築地遺跡の東側から北側にかけても、谷津が回り込むように入り込んでいる。宮原前遺跡の南側は、飯沼低地からの深い谷津が広がっている。両遺跡の立地する台地上と低地面との比高差は約 7 m である。

第2節 歴史的環境

築地遺跡及び宮原前遺跡が位置する台地上は、鬼怒川や飯沼低地からの支谷が複雑に入り込み、谷津に面した台地縁辺部を中心に多くの遺跡が確認されている。また、当遺跡周辺は、縄文土器や貝が散布するところとして古くから知られている。明治 31 年に坪井正五郎氏らによって編さんされた『日本石器時代人民遺物発見地名表』²³⁾にも当遺跡をはじめ瀧内遺跡〈45〉、天王原遺跡〈21〉、貝柄山遺跡〈60〉などの遺跡が掲載され、その内のいくつかは発掘調査も行われている。貝柄山遺跡は鬼怒川右岸の花島町に位置し、かつては花島貝塚と呼称されていた遺跡である。昭和 16 年に江坂輝弥氏らの日本古代文化学会によって発掘調査が行われ、昭和 17 年の『古代文化』第 13 巻第 9 号にその成果が公表されている³²⁾。標高約 4 m の低台地上に A～D の 4 か所の地点貝塚が確認され、貝層下からは早期末の炉穴や竪穴建物跡も確認されている。最も大きい D 貝塚は早期条痕文系の鶴ガ島台式土器が出土し、ハイガイ・サルボウ・ベンケイガイ・マガキ・オキシジミなどを中心とした貝種組成が確認されている。そのほか大日遺跡（旧大日山貝塚）〈6〉、溝藏遺跡〈15〉、約 6 km 北西で飯沼川に面する台地斜面部に位置し、関山Ⅰ式期の竪穴建物跡と地点貝塚が確認できた鴻野山貝塚⁴⁾、約 4 km 北西で飯沼川対岸の猿島台地上に位置し、関山Ⅱ式期の地点貝塚や浮島Ⅱ式期の竪穴建物跡が確認できた坂東市然山西遺跡⁵⁾など、縄文時代早期から前期の地点貝塚が見られ、当時の海岸線を推定することができる。

北西 1.5kmに位置する大生郷遺跡(34)は昭和 50～52 年に発掘調査が行われ、前期黒浜式期を中心とした竪穴建物跡が 10 棟確認されている⁶⁾。縄文時代中期の遺跡は、内守谷本郷遺跡や向地遺跡、貝置前沼遺跡など、市域南部の台地中央部で見られ、いずれも小規模な集落で、遺跡の継続期間も短いものが多いようである。当遺跡周辺では、北西に隣接する小支谷を挟んだ対岸に天王原遺跡がある。平成 21 年に発掘調査が行われ、阿玉台 I b～II 式期の竪穴建物跡 3 棟が確認されている⁷⁾。縄文時代後期から晩期では、六方遺跡(31)、金戸遺跡(28)、四ツ谷遺跡(29)がある。500 mほど西の、谷津に面する台地上に立地する六方遺跡では、後期初頭の建物跡や土坑が確認されている。金戸遺跡は、「金戸貝塚」あるいは「大生郷貝塚」と呼称が混乱しているが、齋藤弘道氏や鈴木正博氏が整理され、学史的には「金戸貝塚」とするのが妥当なようである。東仁連川に面して突出する舌状台地の先端に位置し、昭和 45 年から 48 年ころに行われた大規模な土取作業により湮滅してしまったが、その際の出土資料が渡辺明氏や鈴木正博氏、西本豊弘氏らによって報告されている。加曾利 B 3 式期を中心とした資料から、古鬼怒湾最奥部の貝塚の様相をうかがうことができる⁸⁾。四ツ谷遺跡は、谷津に面する斜面部の畑地に、後期安行式期を中心とした多量の遺物が散布している様子が確認できる。

古墳時代の集落は、前・中期は河川に臨む沖積地や水田周辺の低台地周縁に多く確認され、後期になると丘陵上や谷津の周縁、台地の深縁部に分散している。築地遺跡から約 1.5km北西の大生郷遺跡では、前期の竪穴建物跡 12 棟が確認されている。

古代の当地域は下総国岡田郡飯猪郷に属すると推測されており、同郡に属する坂東市然山西遺跡の竪穴建物跡では、「豊田」(904 年に岡田郡から豊田郡に改称)の文字の線刻された軒平瓦が、竈の補強材に使用されている。築地遺跡から北に約 4.5kmの国生地区には国生本屋敷遺跡があり、1986 年に旧石下町による発掘調査⁹⁾、1988 年には国立歴史民俗博物館による発掘調査が行われている。竪穴建物跡 28 棟や方形に巡る断面箱葉研状の大溝などのほか、7 世紀後半の方形に巡る溝跡と掘立柱建物跡が確認され、初期官衙的な性格付けがなされている¹⁰⁾。この国生地区内には、下総国司桑原王が創建したとされる延喜式内社の桑原神社もあり、国生本屋敷遺跡の遺構や出土遺物、周辺の地名などから岡田郡衙比定地とされている。10 世紀以降は常陸平氏を中心に、平将門の一族及び他氏族間の抗争の地となり、数多くの伝説を残している。

周辺の主な遺跡として、奈良時代中期の集落跡が確認された大生郷遺跡、在地窯産と推測される須恵器の使用が確認された上谷田遺跡¹¹⁾ などがある。また 9 世紀後葉から 10 世紀前葉が中心の集落跡である六方遺跡では、炉壁材や鉄滓などが竪穴建物跡に廃棄され、周辺に製鉄炉の存在が示唆されている。同建物跡からは、緑青が付着している土師器坏なども出土しており、銅鑄造に関連する遺構の存在も想定される。また六方遺跡では、宮原前遺跡に特徴的な「砂岩切石」を用いた竈が確認でき¹²⁾、当遺跡との関係性が伺われる¹³⁾。

中世になると、当地域は豊田荘となり、豊田氏の興亡に大きな影響を受けている。豊田氏は下妻・小栗・東条・鹿島氏などの常陸平氏一族とともに源頼朝の軍勢と抗争を繰り返すが、鎌倉幕府開府後は、御家人として存続している。戦国期には、小貝川西岸の微高地に築かれた豊田城を中心に小田氏と連携して支配を強めるが、その後下妻の多賀谷氏に滅ぼされる。関ヶ原合戦時に豊臣方についた多賀谷氏も領地を没収され、以後当地域は徳川幕府の直轄地や旗本領となる。小貝川西岸の古間木城跡(41)は、豊田氏の家臣でのちに多賀谷氏に属した渡辺氏の居城とされている。舌状台地の先端部を堀切で分断し、その内側を曲輪とする典型的な中世城郭で、その面影を現在に伝えている。

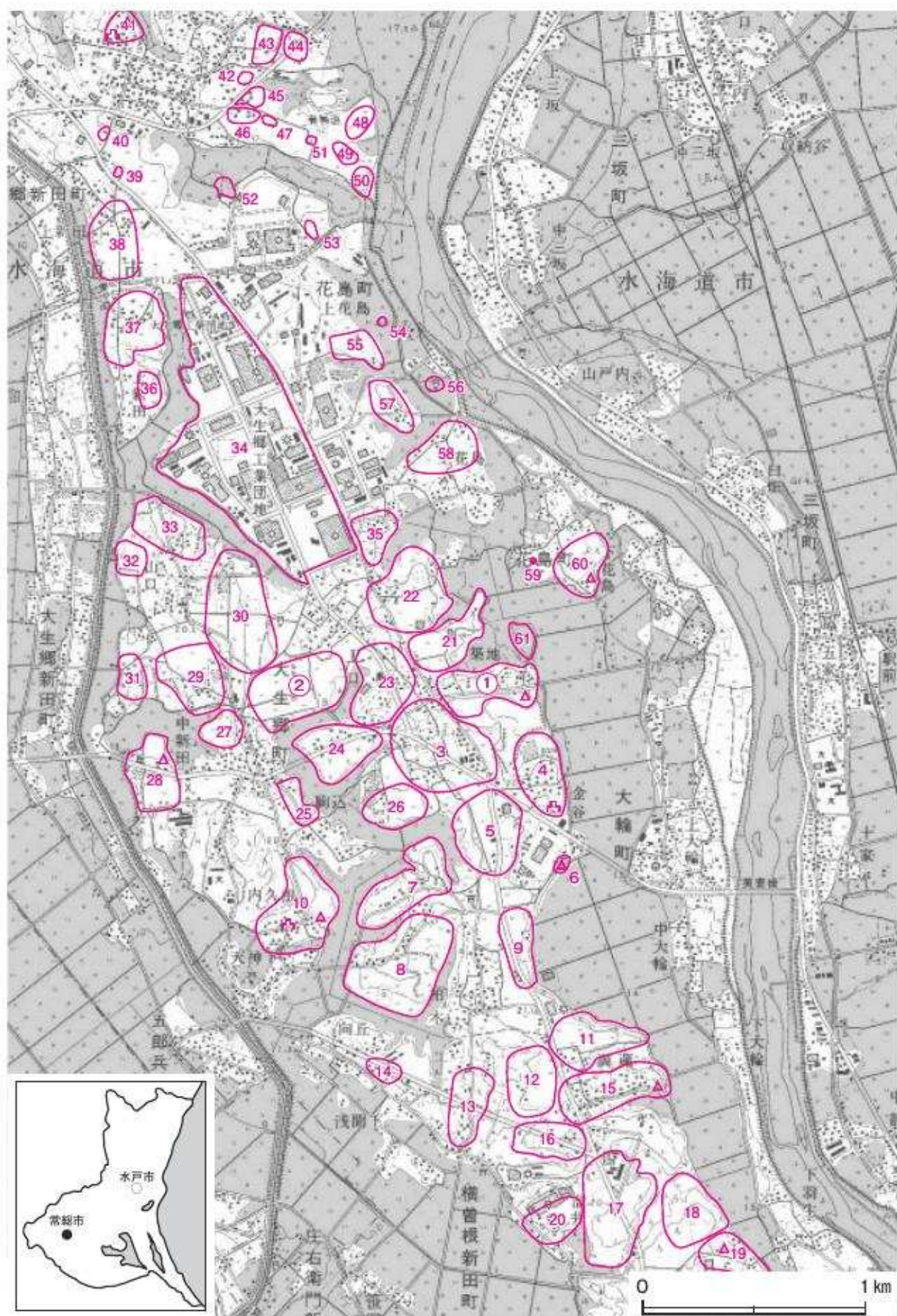
※文中の〈 〉内の番号は、第 1 図及び表 1 の該当番号と同じである。なお本章は既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』第 335 集を一部改編して引用している。

註

- 1) 水海道市史編さん委員会『水海道市史 上巻』水海道市 1983年3月
- 2) 坪井正五郎・野中完一『日本石器時代人民遺物発見地名表』東京帝国大学 1898年5月
- 3) 江坂輝弥「貝柄山貝塚」『古代文化』第13巻第9号 日本古代文化學會 1942年9月
- 4) 佐藤誠・常松成人・矢野文明『鴻野山貝塚発掘調査報告書』石下町史編纂室 1987年3月
- 5) 小川貴行・田村雅樹・佐藤一也「然山西遺跡」『茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告』第379集 2013年3月
- 6) 桜井二郎「大生郷工業団地内埋蔵文化財調査報告書-大生郷遺跡-」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅻ 1981年9月
- 7) 小川貴行「天王原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第371集 2013年3月
- 8) 渡辺明・鈴木正博・西本豊弘・浪形早季子「金土貝塚の再吟味-古鬼怒湾最奥部における貝塚文化と骨角器・貝製品の新例」『動物考古学』第27号 動物考古学研究会 2010年5月
- 9) 川井正一他「国生本屋敷遺跡発掘調査報告書」『石下町史資料』第2集 石下町史編さん室 1987年3月
- 10) 阿部義平編『茨城県国生本屋敷遺跡発掘調査報告』『国立歴史民俗博物館研究報告』第129集 国立歴史民俗博物館 2006年3月
- 11) 江原美奈子「上谷田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第319集 2009年3月
- 12) 齋藤和浩「宮原前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第335集 2011年3月
- 13) 大久保芳紀「六方遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第417集 2017年3月

参考文献

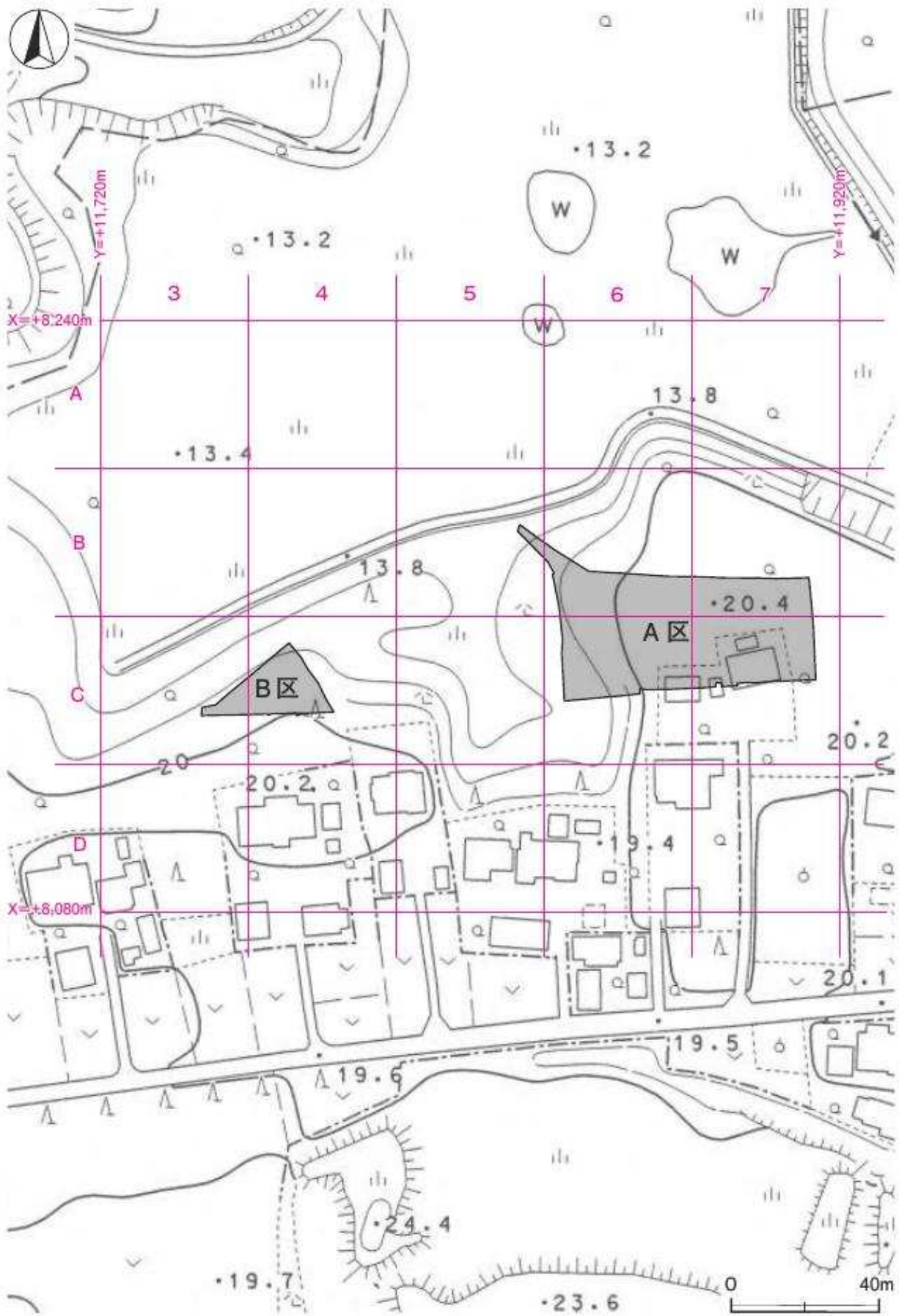
- 石下町史編さん委員会『石下町史』石下町 1988年3月



第1図 築地遺跡、宮原前遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「石下」「水海道」）

表1 築地遺跡、宮原前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						江 戸	番号	遺跡名	時代						江 戸	
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良・ 平 安	鎌 倉・ 室 町				江 戸	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良・ 平 安		鎌 倉・ 室 町
①	築地遺跡		○				○	○	32	山口遺跡		○		○	○			
②	宮原前遺跡		○		○	○	○	○	33	前中丸遺跡		○		○	○			
3	久保遺跡		○		○	○			34	大生郷遺跡		○		○	○			
4	大輪陣屋遺跡		○			○		○	35	大橋遺跡		○						
5	榎下遺跡				○	○			36	後中丸南遺跡		○						
6	大日遺跡		○						37	後中丸北遺跡		○		○	○			
7	小野台遺跡		○		○	○			38	古間木前遺跡		○		○	○			
8	柏木遺跡		○		○	○			39	山王B遺跡		○						
9	大塚遺跡		○		○	○			40	山王A遺跡								○
10	馬場遺跡		○		○	○	○		41	古間木城跡							○	
11	古寺家遺跡		○						42	稲荷遺跡		○		○				
12	安戸東遺跡		○			○			43	坊山遺跡		○		○				
13	入山遺跡		○		○	○			44	山中遺跡		○		○				
14	向山遺跡		○		○	○			45	淵内遺跡		○						
15	溝蔵遺跡		○		○	○			46	大久保遺跡		○		○				
16	溝倉北遺跡		○		○	○			47	鎌田遺跡		○						
17	溝倉東遺跡		○		○	○			48	宮内遺跡		○		○				
18	貝塚乙遺跡		○						49	四ツ木遺跡		○		○				○
19	貝塚甲遺跡		○		○	○			50	古間木遺跡		○					○	
20	溝倉南遺跡								51	寺田遺跡		○		○				
21	天王原遺跡		○						52	松山向遺跡				○				
22	高野台遺跡				○				53	霜田向遺跡		○		○				
23	大部堂遺跡		○		○	○			54	雉子尾遺跡		○		○	○			
24	中根遺跡		○		○	○			55	雉子尾前遺跡		○		○	○			
25	芝崎遺跡		○		○				56	香取遺跡		○			○			
26	南袋遺跡		○		○	○			57	鶴ヶ島遺跡				○	○			
27	中新田遺跡		○		○	○			58	薬師西遺跡		○		○	○			
28	金戸遺跡		○		○	○			59	下花島古墳群				○				
29	四ツ谷遺跡		○		○	○			60	貝柄山遺跡		○		○	○			
30	香取西遺跡		○		○	○			61	天神山遺跡		○		○	○			
31	六方遺跡		○		○	○												



第2図 築地遺跡調査区設定図（常総市都市計画図2500分の1）

第3章 築地遺跡

第1節 調査の概要

築地遺跡は、常総市の北部に位置し、鬼怒川右岸の標高約20mの台地縁辺部に立地している。この台地には、鬼怒川低地及び飯沼川低地帯から延びる谷津が複雑に入り込み、当遺跡の周辺も、東側から北側にかけて回り込むように鬼怒川からの深い谷津が入り込んでいる。当遺跡はこの谷津に北面した台地上から台地斜面部に位置し、南側は県道高崎坂東線を越えてさらに南まで広がっている。今回の調査区は、遺跡全体から見ると北東部にあたり、谷津に平行するように台地上から斜面部にかけて設定されている。この台地の縁辺部は、現代の土取り作業により大きく掘削されており、本来ならば一連の調査区であるが、この掘削部分を挟んで東側を調査A区、西側を調査B区とした。A区は台地上から台地縁辺部に、B区は台地斜面部に位置しており、A区中央部の台地上部とB区南部の斜面上部では約1mの比高差があり、B区の斜面上部と下部では約2mの比高差がある。調査面積はA区が2,304㎡、B区が604㎡で、調査前の現況は宅地、畑地及び山林である。

調査の結果、竪穴建物跡69棟（縄文時代）、掘立柱建物跡1棟（江戸時代）、地下式坑6基（室町時代）、井戸跡1基（江戸時代）、粘土貼土坑2基（江戸時代）、土坑213基（縄文時代193、室町時代11、江戸時代5、時期不明4）、粘土探掘坑1基（時期不明）、炉跡3か所（縄文時代）、堀跡1条（室町時代）、溝跡3条（時期不明）、ピット群10か所（縄文時代）、遺物包含層2か所（縄文時代）、遺物集中地点1か所（縄文時代）を確認した。ピット群については、出土土器から縄文時代としたが、それ以降の可能性もある。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に700箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・鉢・台付鉢・壺・注口土器）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（碗・鉢・皿・甕）、磁器（碗）、土製品（土錘・土器片錘・耳飾り・土版・土偶・有孔円盤・動物形・匙形・貝輪状・土器片円盤・土玉）、石器・石製品（石鏃・石錐・石匙・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石・石錘・砥石・礫器・玉類・石剣・石棒・独鈷石・五輪塔・茶臼）、骨角製品（骨鏃・栓状製品・簪・垂飾品）、木製品（櫛）、金属製品（煙管・釘）、銭貨、貝類、獣骨・魚骨などである。

第2節 基本層序

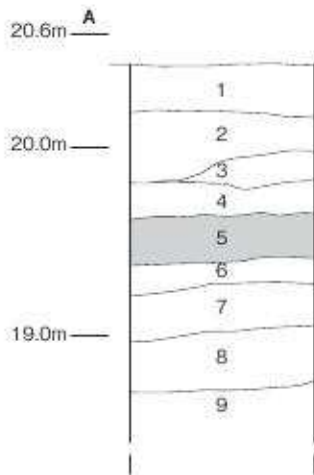
調査A区中央部の台地上の平坦面（B69区）にテストピットを設定し、土層の堆積状況を観察した。土層は9層に分層できる。土層観察は以下の通りである。

第1層は、極暗褐色を呈する耕作土である。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は20～30cmである。

第2層は、暗褐色を呈する縄文時代の第2号遺物包含層の一部である。ロームブロックをやや多く含み、焼土粒子・炭化粒子を少量含んでいる。また縄文土器等が多量に出土している。粘性・締まりともにやや弱く、層厚は20～40cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20cmである。

第4層は黄褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は



第3図 基本土層図

A' 20cmである。

第5層は暗褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は25cmである。黒色帯に相当する。

第6層は黄褐色を呈するハードローム層である。ロームがブロック状の部分があり、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は10～15cmである。

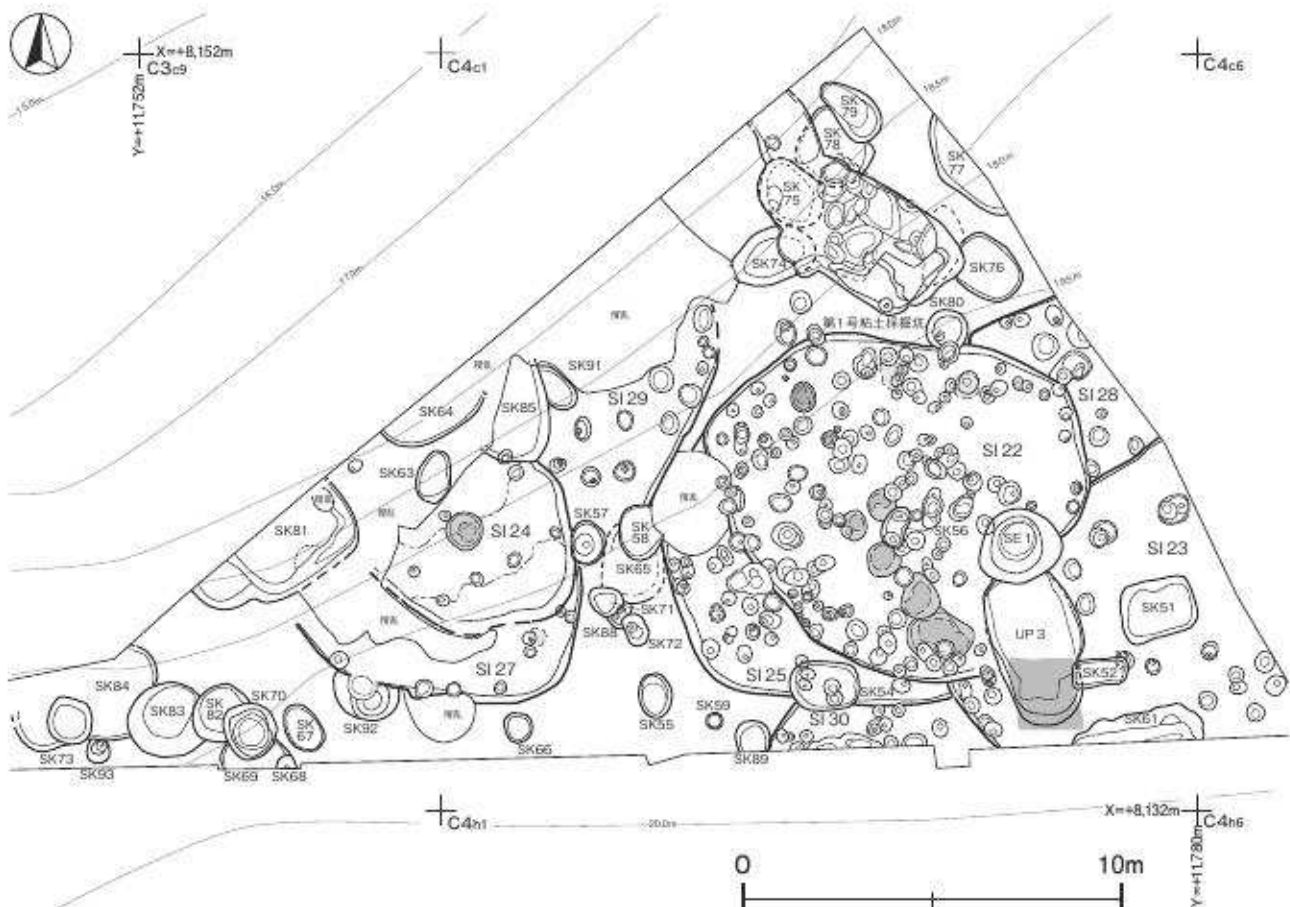
第7層は明黄褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は25cmである。

第8層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。ロームがブロック状の部分があり、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は30cmである。

第9層は、黄橙色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強い。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第2層中及び第3層の上面で確認した。

B区については、安全面への配慮から、テストピットを設定することができなかった。そこで、台地斜面部上位のC4g5区にある第3号地下式坑掘削時に、遺構の壁面でローム層の堆積状況を確認した。B区では黒色帯下のハードローム層（テストピット第7層に対応）が、遺構の確認面となっている。明黄褐色及び黄橙色のハードローム層（テストピット第8・9層に対応）下の標高17.7m付近で灰白色の常総粘土層が確認できた。粘性・締まりともに極めて強い。層厚は60～80cmである。常総粘土層下は竜ヶ崎礫層に相当する黄橙色土層で、粘性・締まりとも極めて強い。標高16.6mまで確認できたが、以下は未掘のため本来の層厚は不明である。



第4図 築地遺跡遺構全体図（B区） S = 1/200

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、炉跡 3 か所、ピット群 10 か所、遺物包含層 2 か所、遺物集中地点 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、遺物出土状況、及び遺物観察表中の分類は、第3節 1(5)遺物包含層で詳述する項目に準じている。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第6～16図 PL 4～6）

位置 調査A区南西部のC 6 c3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層 I-2層上面及び I-2層中で確認した。第2号遺物包含層の I-2・II層を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第4・7・55号竪穴建物跡、第24・26・46号土坑とも重複しているが、土層からの新旧関係は不明である。出土土器からは、本跡が最も新しいと考えられる。

規模と形状 東部が第1号堀に掘り込まれているため、南北軸は 5.72 mで、東西軸は 4.80 mしか確認できなかった。平面形は不整隅丸方形で、出入口ピットが確認できないため主軸方向は不明瞭ではあるが、炉跡から N-0°と推定できる。壁は高さ 50～75cmで、外傾している。

床 ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 ほほ中央部に位置する地床炉である。火床面が2か所確認できたことから、作り替えの可能性がある。

炉土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・灰・骨粉少量	4 赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	5 赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・骨粉少量、灰微量
3 赤黒色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量	6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 29か所。P 4・P 5は、深さや位置から主柱穴である。P 1～P 3は、第1号堀のなかで確認したものであるが、推定される床面からの深さや位置から主柱穴と考えられる。P 6～P 19は、径が 20～40cmで壁際に巡っていることから、壁柱穴と考えられる。東壁際の壁柱穴と出入口ピットは確認できなかった。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	9 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量
5 褐色	ローム粒子多量		
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

ピット深度表

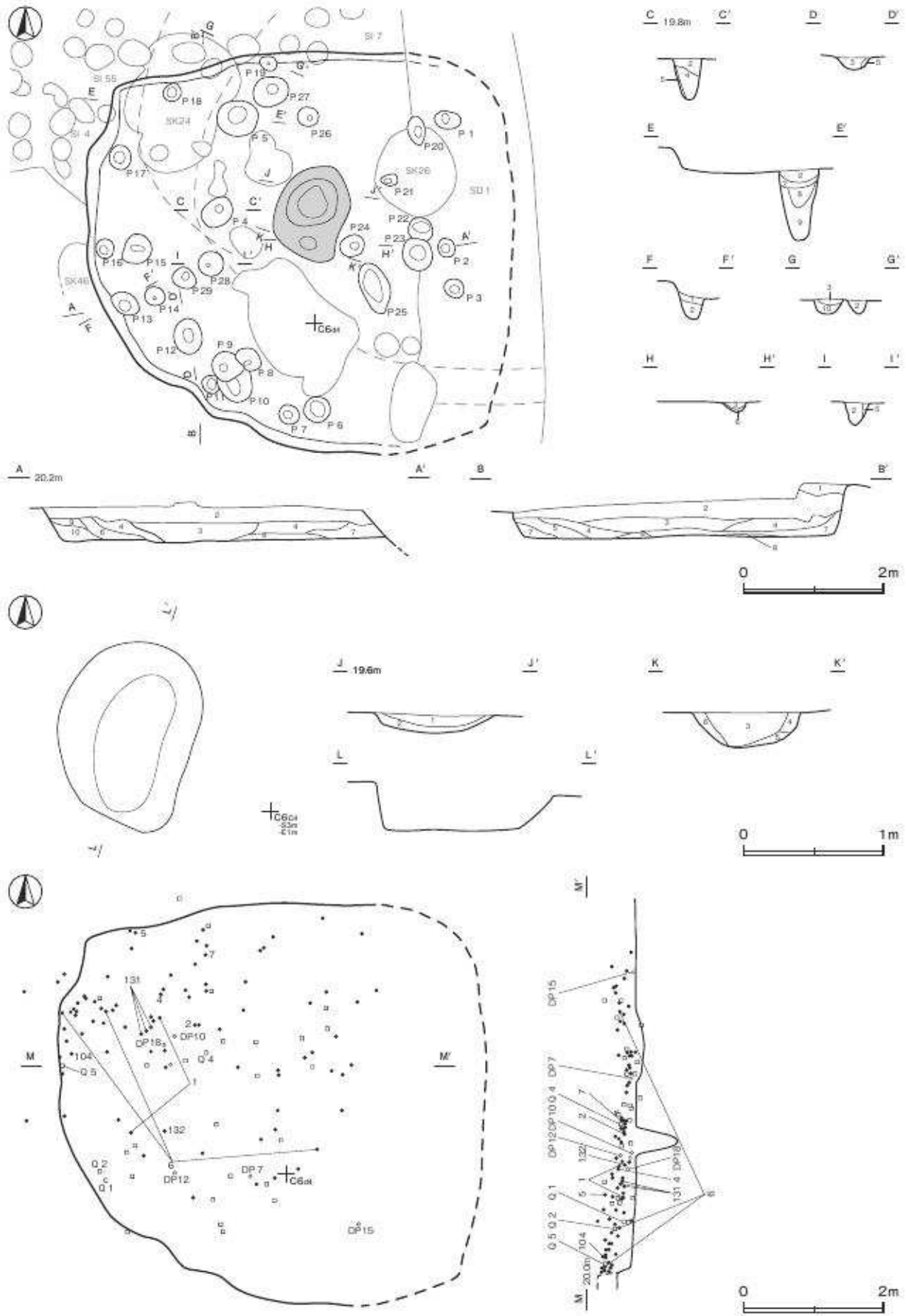
(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
深さ	(92)	(66)	(67)	58	99	13	18	12	16	15	5	20	31	18	17	21	9	51	20	16	16	13	7	15	9	14	23	32	19

覆土 10層に分層できる。遺物が多量に含まれているものの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 黒色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	8 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量



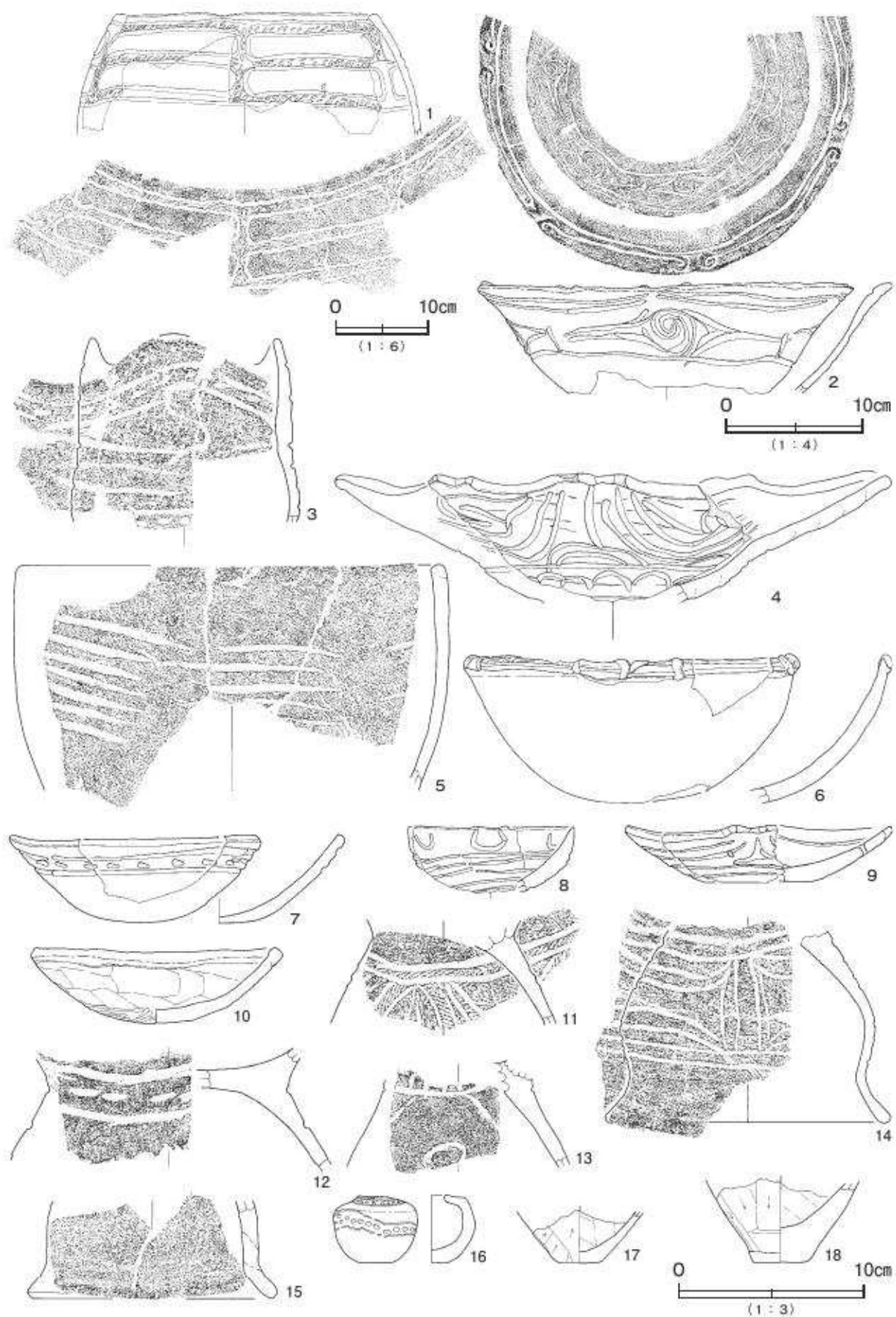
第6图 第1号竖穴建物迹实测图

遺物出土状況 縄文土器片 15,521 点 (237.23kg)、土製品 86 点 (土錘 1、土器片円盤 45、耳飾り 1、土版 12、土偶 14、有孔円盤 9、動物形 2、棒状 1、匙形 1)、石器・石製品 131 点 (石鎌 3、石錐 1、磨製石斧 13、打製石斧 3、石皿類 24、磨石類 49、石錘 3、砥石 12、礫器 1、玉類 1、石棒・石剣類 21) のほか、焼成粘土塊 12 点、発泡体 1 点、石核 24 点 (チャート)、剥片 168 点 (黒曜石 11、チャート 157)、獣骨類 75.2 g が、出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが見られるが、主体となるのは第 8 群 (晩期中葉) で、約 51% である。DP10・DP11 は動物形土製品で、DP10 はイノシシの鼻部、DP11 は約 1/2 の残存であるが、イノシシの頭部から前肢の部分と推測される。

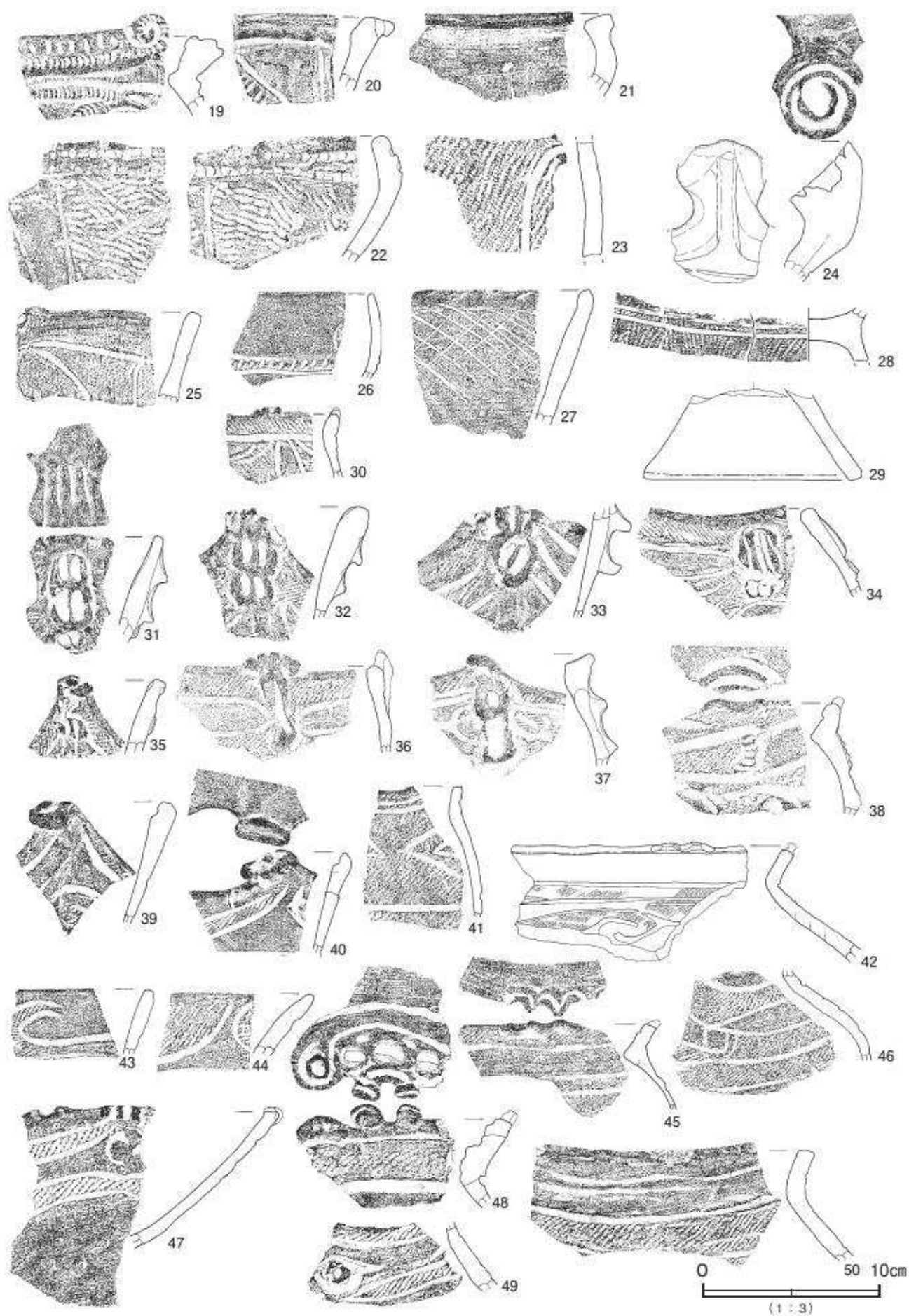
所見 時期は、出土土器から晩期中葉の安行 3 c 式期から安行 3 d 式期と考えられる。

第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 7～16 図)

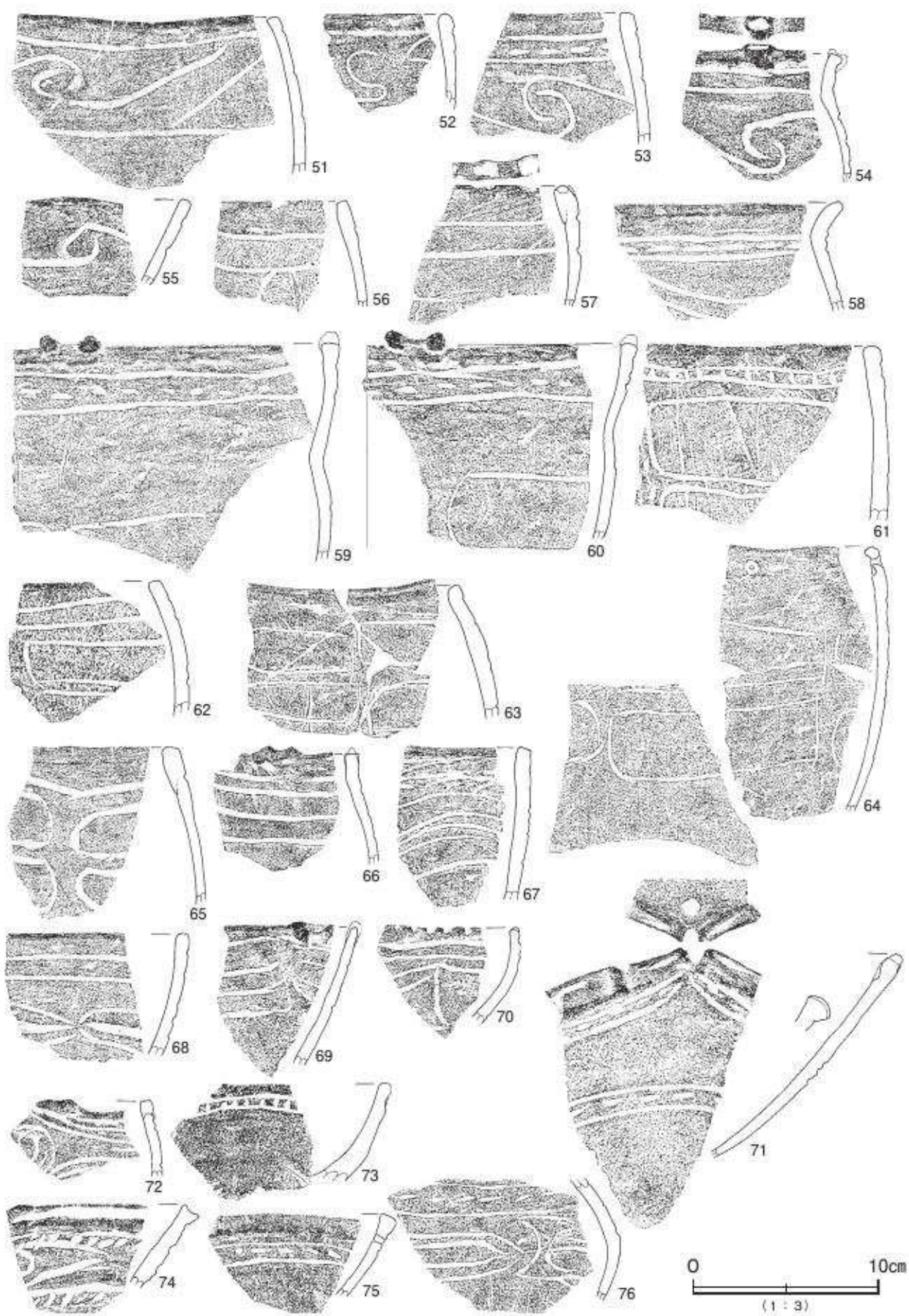
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[28.6]	(13.4)	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	良好	棒状文 外面磨き 内面ナデ	覆土中層	20% PL.27
2	縄文土器	浅鉢	27.1	(7.9)	-	珪・礫・割・絶好	明 褐	良好	支様 4 単位 体部研磨	覆土中層	80% 内面 PL.28
3	縄文土器	深鉢	[10.2]	(9.9)	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	良好	外・内面ナデ 一部発泡化	覆土中	10% PL.36
4	縄文土器	浅鉢	[29.5]	(6.8)	-	珪・礫・割・絶好	橙	良好	4 単位の流状口縁 内面磨き	覆土上層	10% PL.36
5	縄文土器	深鉢	[22.4]	(12.2)	-	長石・石英・赤色霞子	にぶい褐	普通	外面 7 条の横位沈線文	覆土上層	20%
6	縄文土器	浅鉢	17.2	(7.9)	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	口縁部外面貼付文 4 単位 内面磨き	覆土上層	60% PL.28
7	縄文土器	浅鉢	13.0	4.7	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	60% PL.28
8	縄文土器	浅鉢	[9.0]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部ナデ 内面磨き	覆土上層	10%
9	縄文土器	浅鉢	[14.2]	3.0	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	4 単位の流状口縁 内面磨き	覆土上層	20%
10	縄文土器	浅鉢	12.8	4.1	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面指頭ナデ→底磨き 内面ナデ	覆土中層	70% PL.28
11	縄文土器	台付鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	10%
12	縄文土器	台付鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	5%
13	縄文土器	台付鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線開閉突文 内面ナデ	覆土中層	5%
14	縄文土器	台付鉢	-	(10.2)	[14.9]	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	菱形状区画文 内面ナデ	覆土中層	20% PL.36
15	縄文土器	台付鉢	-	(5.3)	[13.0]	石英・雲母	浅 黄	普通	外・内面ナデ	覆土上層	10%
16	縄文土器	ミニムフ	1.8	3.5	1.8	長石・石英・雲母	褐	普通	外面ナデ 内面指頭ナデ	覆土中層	100%
17	縄文土器	製塩	-	(2.7)	2.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	外面削り 内面ナデ	覆土上層	10%
18	縄文土器	製塩	-	(4.4)	3.0	長石・石英・雲母	褐	良好	外面削り 内面ナデ	覆土中層	10%
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆起帯上爪彫文 内面ナデ	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	
21	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	無節 L 縄文→沈線開閉突文	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色霞子	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→沈線文 内面ナデ	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内面 C 字文 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に突起 1 か所 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 褐	普通	外・内面磨き	覆土中層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面頸部磨き 内面横位の磨き	覆土上層	
28	縄文土器	台付鉢	-	(3.0)	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→沈線 透かし孔あり 内面ナデ	覆土上層	10%
29	縄文土器	台付鉢	-	(5.1)	12.3	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面縦位の磨き 内面横位のナデ	覆土上層	20%
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線 RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・割・絶好	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	鉢	-	-	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
38	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	型 1	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文 内面ナデ	覆土下層	
42	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
44	縄文土器	鉢	-	-	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
46	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・礫・割・絶好	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
48	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
49	縄文土器	広口壺	-	-	-	珪・礫・割・絶好	にぶい橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	



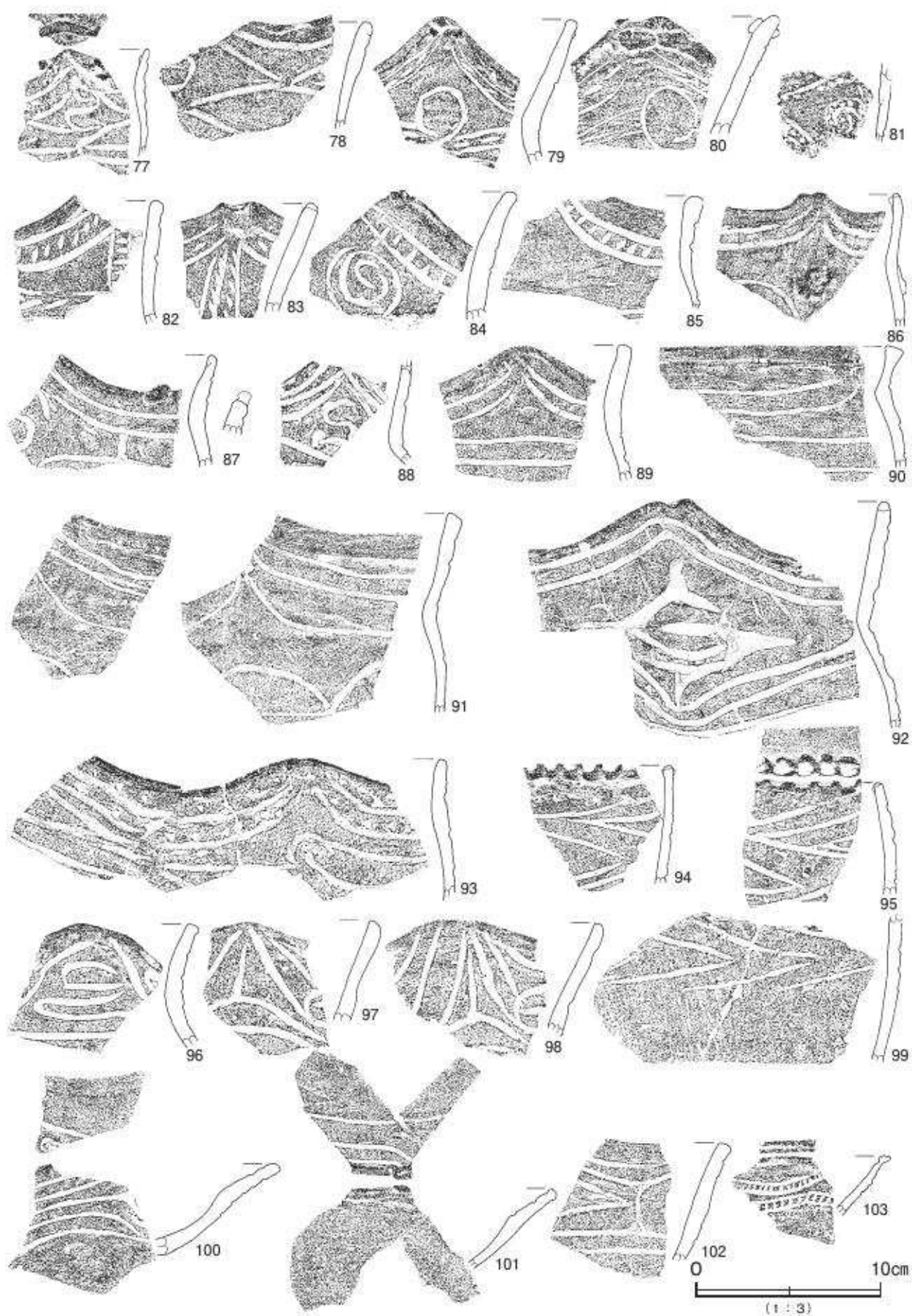
第7图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



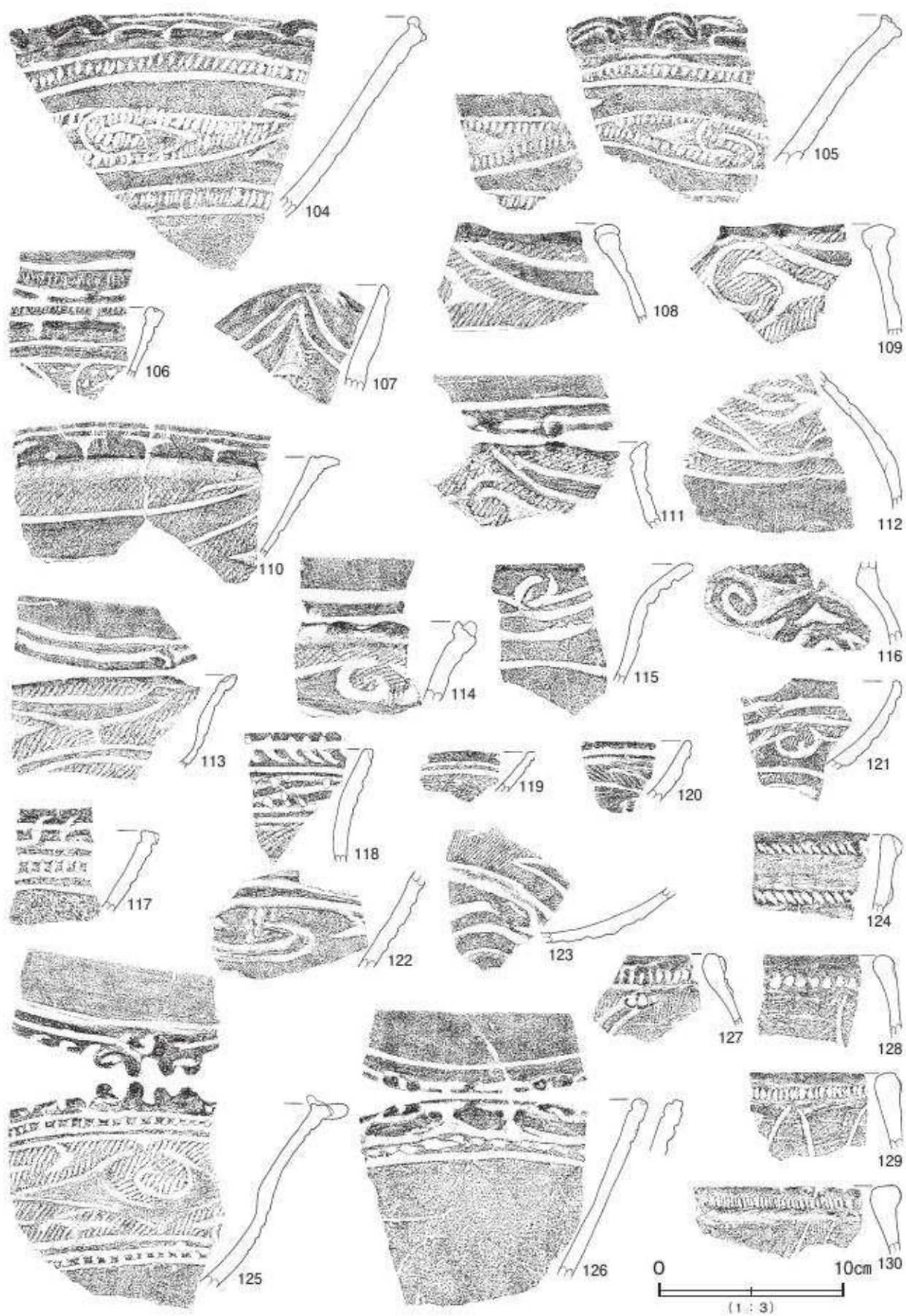
第8図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



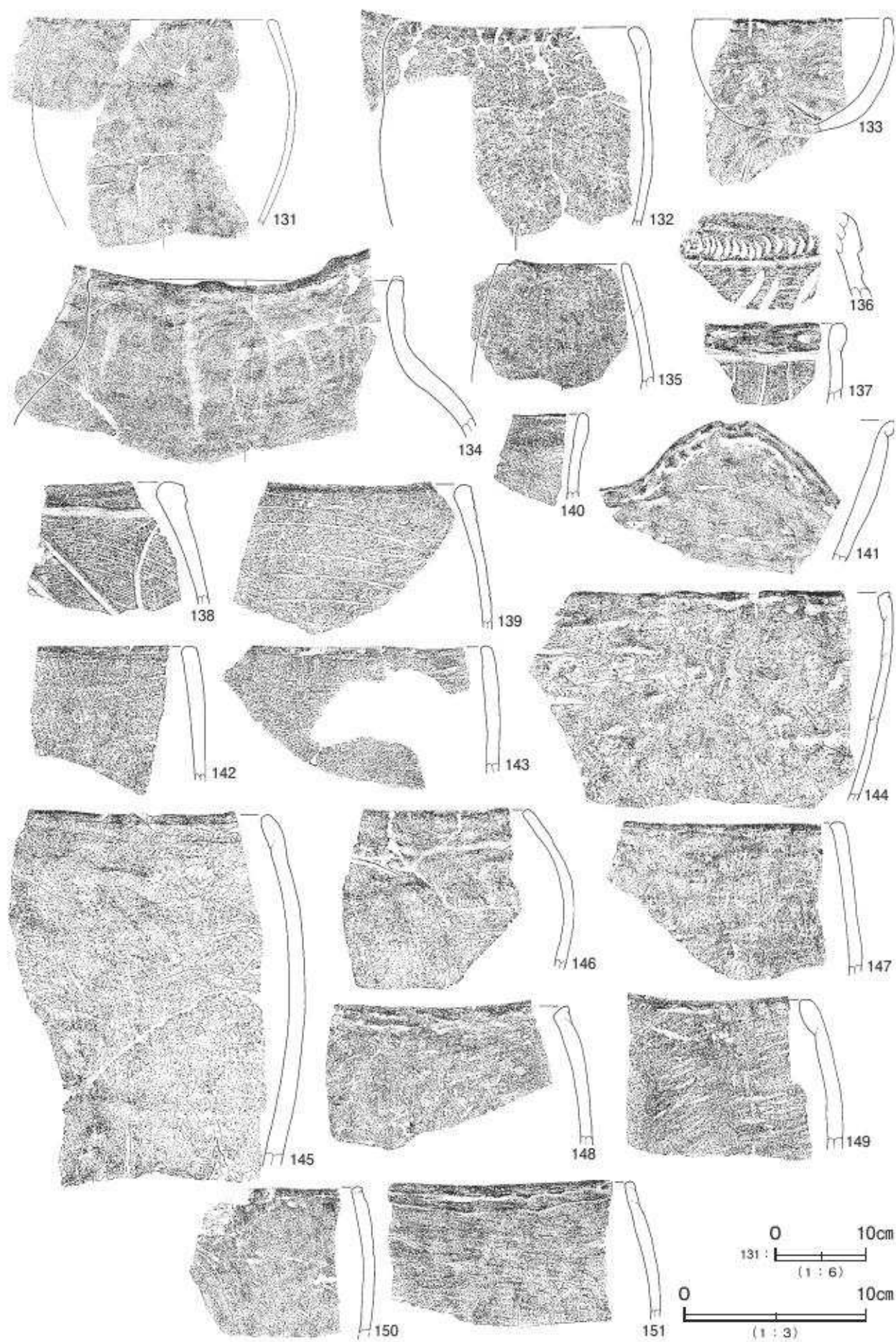
第9図 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



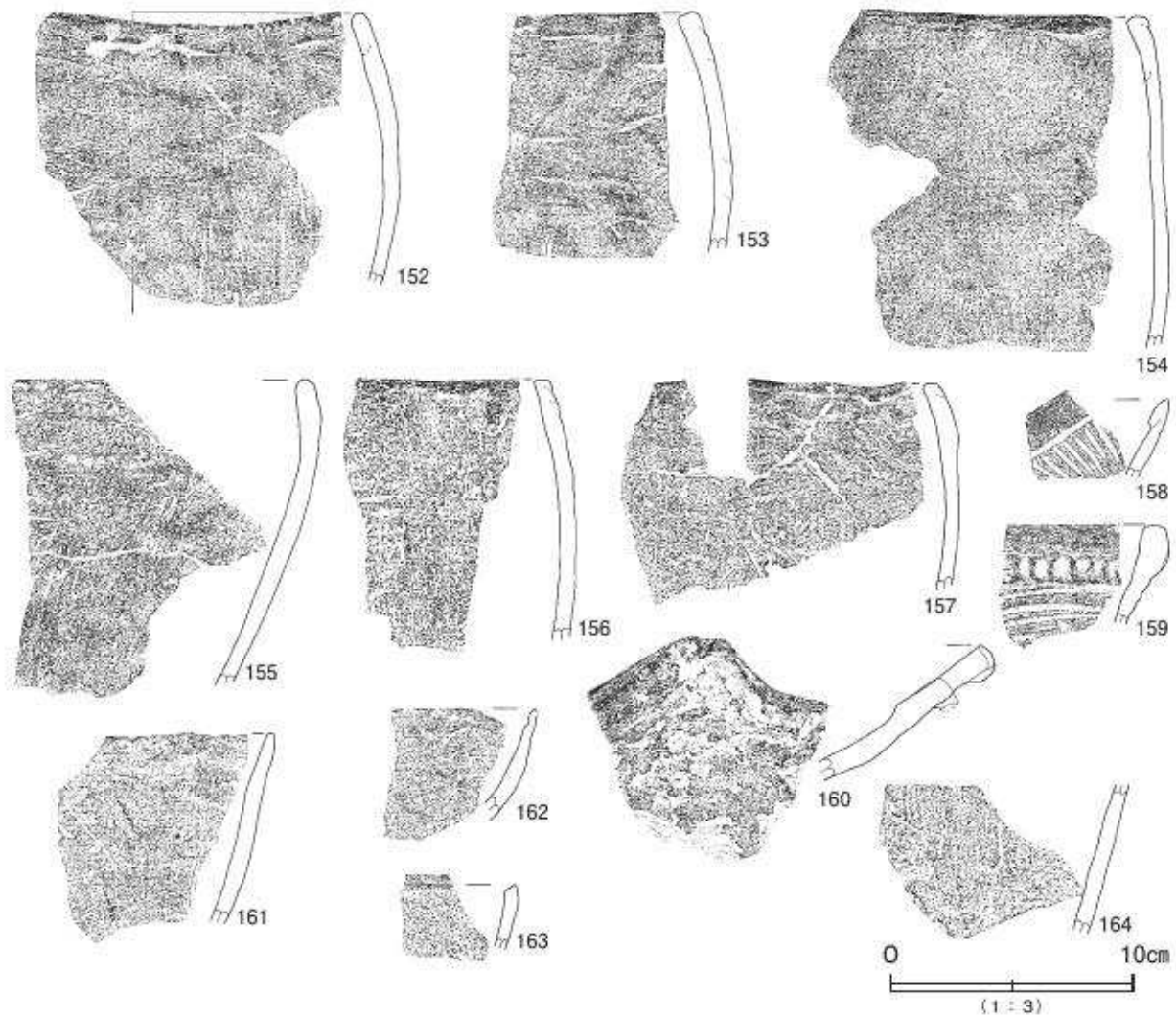
第10図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)



第 11 图 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



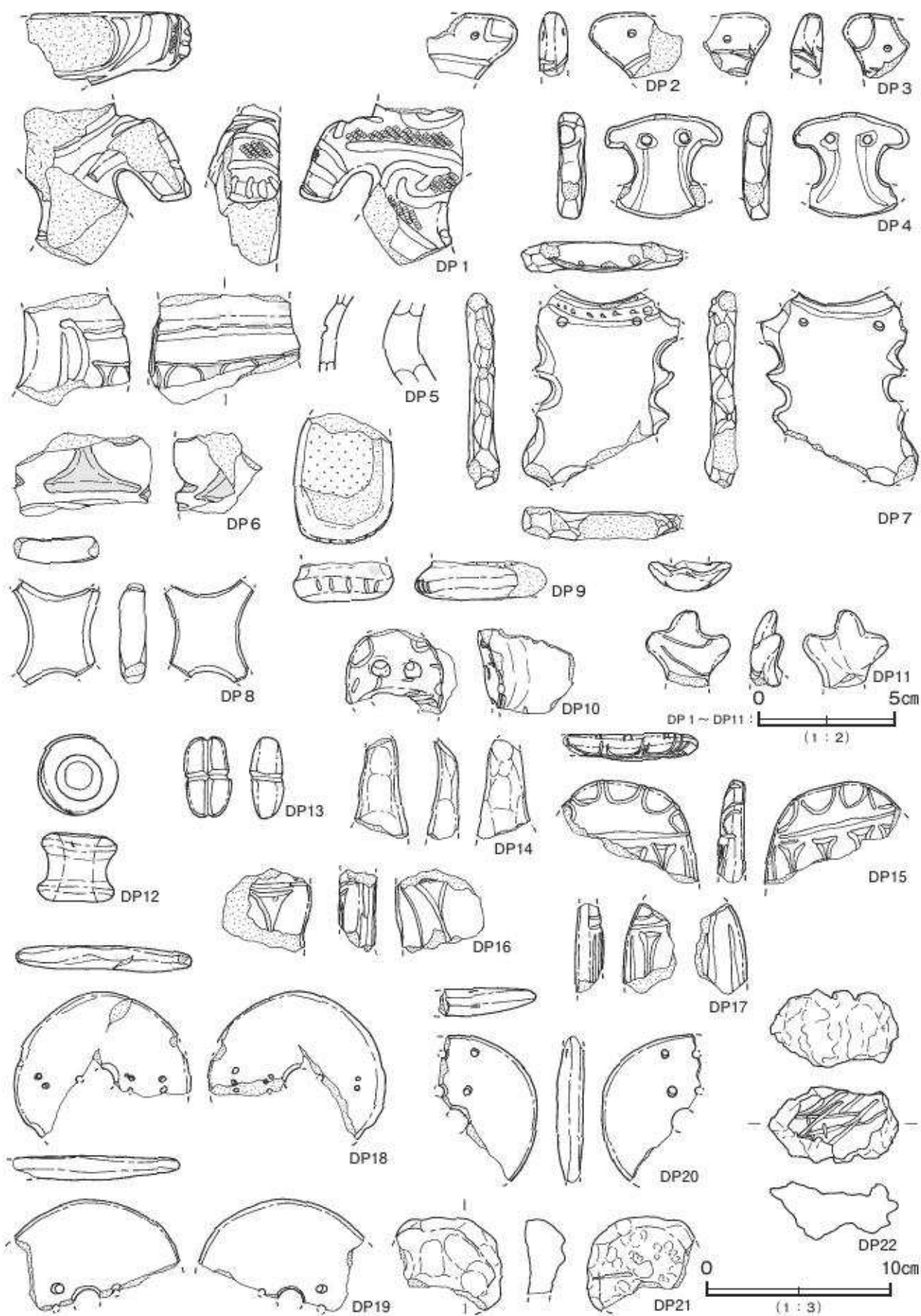
第 12 図 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (6)



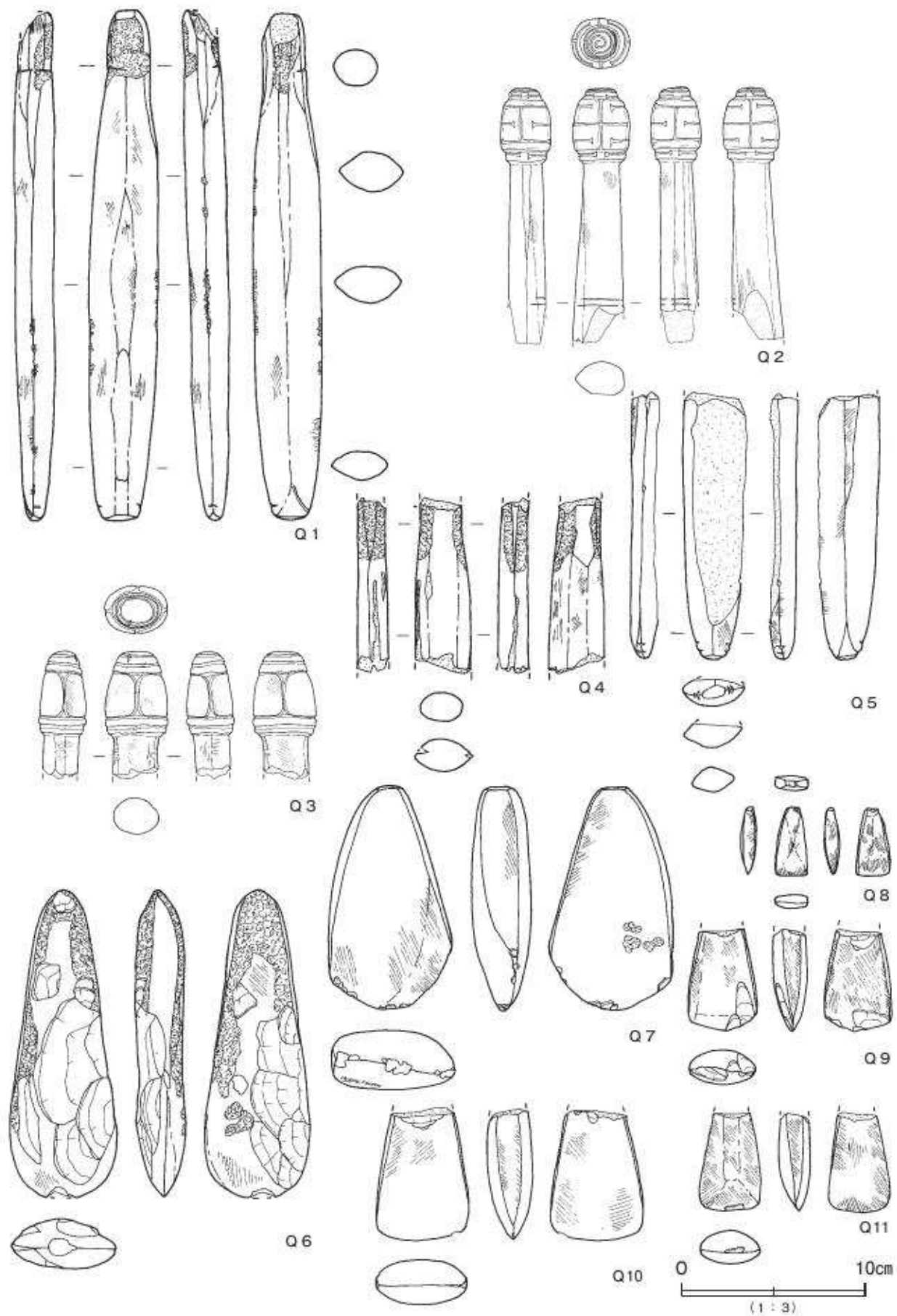
第13図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第7~16図)

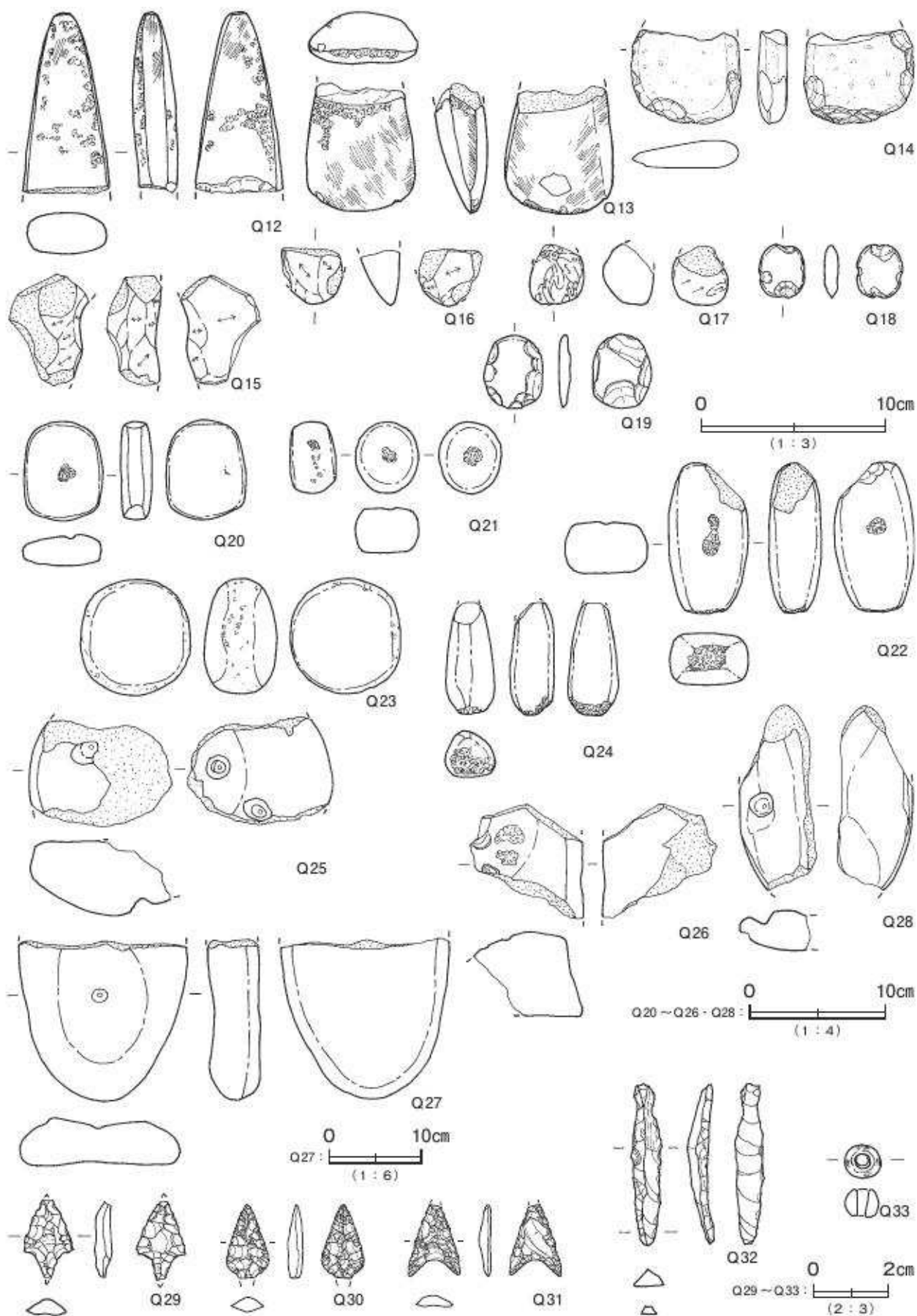
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
50	縄文土器	広口壺	-	-	-	灰・砂・鉄灰	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ステッキ状人相文 外・内面ナデ	覆土下層	PL36
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰・靑	普通	外面無文部ナデ 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文 内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・砂・鉄灰	橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土中層	
58	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・砂・鉄灰	橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	60と同一。
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	59と同一。
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・砂・鉄灰	橙	普通	外面横位沈線→斜突列 内面ナデ	覆土上層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・砂・鉄灰	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤陶	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部・内面磨き 補修孔1か所	覆土上層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部山形突起 外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・砂・鉄灰	淡黄橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
68	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	靑・灰	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
69	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部突起 外面沈線→磨き 内面ナデ	覆土中層	
70	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部刻み 外面ナデ 内面磨き	覆土中層	



第14图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測图(8)



第15图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(9)



第 16 图 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (10)

第1号竖穴建物跡出土遺物観察表(第7~16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き・口縁部に沈線文	覆土中層	
72	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
73	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突列→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	
74	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→刺突列→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	明赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	
76	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	PL36
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面変形状区画文・内面ナデ	覆土中層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	橙	普通	外面沈線→刺突列→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突列→無文部磨き・底部部外縁に付文・内面ナデ	覆土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文・内面ナデ	覆土中層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文・内面ナデ	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文・内面ナデ	覆土中層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ボタン状磨き付・内面ナデ	覆土中層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面磨き・内面ナデ	覆土下層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面対角状文・内面ナデ	覆土上層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面三又状入組文・内面ナデ	覆土下層	PL36
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	にぶい橙	普通	外面ナデ→沈線→刺突文・内面ナデ	覆土下層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面矢羽状文・内面ナデ	覆土上層	95・99と同一。
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘り	にぶい橙	普通	外面矢羽状文・内面ナデ	覆土下層	94・99と同一。
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面三又状入組文・内面ナデ	覆土下層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面三又状入組文・内面ナデ	覆土中層	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面三又状入組文・内面ナデ	覆土上層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	94・95と同一。
100	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面三又状入組文・内面縦線文と三又文・磨き	覆土下層	
101	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘り	にぶい赤褐色	普通	外面ナデ・内面磨き	覆土中層	
102	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	速褐色	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
103	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	外面沈線→刺突文・内面磨き	覆土中層	
104	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	105と同一・PL36
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	104と同一
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文・細密沈線文→無文部磨き・内面磨き	覆土下層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L縄文・内面ナデ	覆土上層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土下層	
110	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土下層	
112	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土上層	
114	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土下層	
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	石英・雲母・赤色粘り	にぶい橙	普通	外面三又状入組文・内面ナデ	覆土中層	
116	縄文土器	広口壺	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	橙	普通	外面入組三又文・内面磨き	覆土上層	
117	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→刺突文・ナデ・内面磨き	覆土中層	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文・内面磨き	覆土上層	
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土下層	
122	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
123	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土下層	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面縦線貼付・内面ナデ	覆土上層	
125	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	にぶい褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中層	PL36
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面にB突起・内面磨き	覆土上層	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→横貼付→LR縄文・内面ナデ	覆土下層	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面付点縦線文・内面ナデ	覆土上層	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面縦線貼付・頸部区画文内LR縄文光填	覆土上層	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土赤・黒・粘り	橙	普通	外面縦線貼付→LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土上層	
131	縄文土器	深鉢	[240]	(227)	-	胎土赤・黒・粘り	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	20%
132	縄文土器	深鉢	[136]	(109)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ 一部発色化	覆土中層	20%
133	縄文土器	鉢	[108]	(62)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ・内面磨き	覆土中	10%
134	縄文土器	広口壺	[172]	(89)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ→磨き	覆土中層	10%
135	縄文土器	深鉢	[73]	(69)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面縦方向の磨き・内面横方向のナデ	覆土上層	10%
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面縦線磨り出し・内面ナデ	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→区画文 内面ナデ 口縁部付近磨き	覆土中層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	にぶい橙	普通	外面ナデ→条線 内面ナデ	覆土下層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	にぶい橙	普通	波状口縁 外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土上層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面削り→ナデ 内面磨き	覆土中層	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	にぶい橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土中	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面削り 一部磨き 内面ナデ	覆土中層	
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
154	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	橙	普通	外面削り 一部ナデ 内面ナデ	覆土中層	
155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ナデ	P 5	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 5	
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑・繊維	橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 5	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑・繊維	褐 灰	普通	外面斜線文 内面磨き	P 23	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・礫・鉄屑	橙	普通	縦線貼付→条線 内面ナデ	P 23	
160	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波状口縁 外面ナデ 内面磨き	P 17	
161	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口B類
162	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明 褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	口B類
163	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面割線 内面ナデ 口縁部打ち削り状にヘラ切り	覆土中層	口C1類
164	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面削り 割線 内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.9)	(6.0)	2.7	(68.4)	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい褐	ミミズク 沈線→RL 縄文→無文部磨き	覆土上層	3b類
DP 2	土 偶	(2.4)	(3.3)	1.1	(6.9)	長石・石英	灰黄褐	X字状 表裏面ナデ	覆土上層	6e類
DP 3	土 偶	(2.4)	(2.4)	1.1	(5.4)	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい黄橙	X字状 表裏面磨き	覆土上層	6e類
DP 4	土 偶	3.9	4.2	1.1	(16.2)	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい橙	X字状 表裏面ナデ	覆土中層	6e類 PL39
DP 5	土 偶	(4.1)	5.5	4.2	(54.1)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	中空 赤彩	覆土上層	5d類
DP 6	土 偶	(3.0)	5.0	3.2	(31.6)	珪・礫・鉄屑・硝石	褐 灰	中空 上部ソケット状 赤彩	覆土下層	5d類
DP 7	土 偶	(7.1)	(5.8)	1.2	(39.2)	長石・石英・角閃石	暗 褐	X字条 表裏面磨き 赤彩	覆土下層	6e類
DP 8	土 偶	3.2	3.1	1.0	(11.1)	長石・石英	にぶい褐	X字状 表裏面ナデ	覆土上層	6e類
DP 9	土 偶	(1.4)	3.6	(4.7)	(29.6)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	ナデ調整 赤彩	覆土上層	7d類
DP10	動物形	(3.1)	(4.1)	(3.4)	(19.6)	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい橙	イノシシ鼻部分 外面ナデ	覆土下層	PL44
DP11	動物形	(2.8)	3.1	1.2	(6.2)	長石・石英	橙	イノシシ	床面	PL44
DP12	耳飾り	径4.2	-	3.7	58.8	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい黄褐	表裏面磨き	覆土中層	II 1類 PL42
DP13	土 鉢	4.3	2.6	1.9	23.7	長石・石英	にぶい褐	有溝 外面ナデ	覆土上層	
DP14	施 形	(5.5)	3.0	1.8	(19.3)	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	指環による成形	覆土中層	
DP15	土 版	(5.7)	(7.4)	1.5	(52.3)	長石・石英・繊維	黒 褐	I字文 表裏面磨き	床面	
DP16	土 版	(4.6)	(4.8)	2.0	(41.4)	長石・石英・角閃石	灰 褐	I字文 表裏面磨き	覆土下層	赤彩
DP17	土 版	(4.9)	(2.9)	1.5	(20.8)	長石・石英	黒 褐	I字文 表裏面磨き	覆土中層	
DP18	有孔円盤	径9.5	-	1.4	(75.8)	長石・石英・赤色粒子	明 褐	細かい貫通孔あり 表裏面ナデ	覆土中層	
DP19	有孔円盤	径(11.0)	-	1.3	(64.7)	珪・礫・鉄屑・硝石	黒 褐	貫通孔3か所 表裏面磨き	覆土中層	
DP20	有孔円盤	径(9.6)	-	1.5	(49.7)	珪・礫・鉄屑・硝石	にぶい橙	貫通孔5か所 表裏面磨き	覆土下層	
DP21	焼成粘土塊	5.1	5.9	2.2	(49.6)	長石・石英	明 褐	表面指環による成形 裏面刺突文	覆土中層	
DP22	焼成粘土塊	7.0	4.3	3.2	69.2	長石・石英	灰 褐	表面沈線	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	6等・6割類	27.7	3.6	2.1	379.5	緑泥片岩	石刻 頭部敲きによる成形 研磨整形「高井実型」。	覆土下層	焼熟 PL45
Q 2	6等・6割類	(13.8)	3.1	2.7	(132.6)	粘板岩	石刻 研磨整形 I字文施文	覆土中層	焼熟 PL45
Q 3	6等・6割類	(7.0)	3.5	2.6	(87.5)	粘板岩	石刻 研磨整形 I字文施文	床面	焼熟 PL45
Q 4	6等・6割類	(9.6)	3.1	1.8	(88.5)	緑泥片岩	石刻 頭部敲き成形 胴部研磨	覆土中層	
Q 5	6等・6割類	(14.5)	3.4	1.5	(86.0)	粘板岩	石刻 研磨整形 下部部面に沈線文	覆土上層	焼熟
Q 6	磨製石斧	16.8	5.7	2.8	(313.6)	ドレイイト	未成品 表裏面に敲き整形	覆土中層	焼熟 PL46
Q 7	磨製石斧	12.2	6.7	3.3	(133.5)	ドレイイト	定角式 研磨整形 刃部に細かい割線	覆土下層	焼熟 PL46
Q 8	磨製石斧	3.7	1.2	0.8	8.98	蛇紋岩	小形定角式 表裏面研磨整形	覆土下層	PL46
Q 9	磨製石斧	(5.6)	3.6	1.8	(59.2)	緑色岩	小形定角式 表裏面研磨整形	P 41	
Q 10	磨製石斧	(7.2)	5.0	2.5	(146.3)	ドレイイト	定角式 表裏面研磨整形	覆土下層	
Q 11	磨製石斧	(5.5)	3.4	1.8	(47.0)	花崗斑岩	小形定角式 表裏面研磨整形	覆土中	焼熟
Q 12	磨製石斧	(9.7)	4.7	2.3	(149.8)	玄武岩	定角式 表裏面に敲打痕	覆土中層	
Q 13	磨製石斧	(7.0)	5.9	2.8	(177.1)	蛇紋岩	定角式 折損部に敲打痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	打敷石芥	(5.1)	5.9	1.6	(63.8)	安山岩	分銅型	覆土下層	被熱
Q 15	砥石	(6.1)	(4.3)	(2.9)	(68.7)	砂岩	砥面3面	覆土中	2類
Q 16	砥石	(3.0)	(3.4)	(2.1)	(22.1)	砂岩	砥面2面	覆土上層	3類
Q 17	砥石	(3.3)	3.0	2.7	(24.1)	砂岩	砥面2面 筋状の研磨痕	覆土上層	1類
Q 18	石鉢	2.9	2.6	0.8	8.12	輝石ダイサイト	長軸・短軸に紐架け痕	覆土上層	3類
Q 19	陶器	4.1	3.2	0.6	10.7	無斑品質安山岩	両側面割離による刃部作出	覆土下層	
Q 20	磨石類	7.3	5.8	2.2	157.2	安山岩	表表面光沢のある磨り面	覆土下層	2a類
Q 21	磨石類	5.3	4.7	3.4	117.0	安山岩	側面の一部に凹痕あり	覆土下層	被熱 2c類
Q 22	磨石類	11.0	5.9	3.8	393.9	輝石安山岩	表表面と下端部に凹痕	覆土下層	被熱 2a類
Q 23	磨石類	8.5	8.1	5.2	518.4	輝石安山岩	表表面光沢のある磨り面	覆土中層	1a類
Q 24	磨石類	(8.2)	3.7	3.4	(135.2)	ホルンフェルス	自然産の下端部に敲打痕	覆土下層	4e類
Q 25	石皿類	(7.8)	(10.6)	5.6	(61.09)	安山岩	表表面に磨り面・凹痕	覆土中層	2類
Q 26	石皿類	(8.3)	(8.4)	6.2	(50.68)	安山岩	表表面に磨り面 表面に凹痕	覆土中層	2類
Q 27	石皿類	(17.5)	18.1	5.8	(256.4)	安山岩	表表面に磨り面 表面に凹痕	覆土下層	被熱 2類 PL48
Q 28	石皿類	(13.6)	(5.5)	3.2	(32.62)	緑泥片岩	表面に敲打痕	覆土上層	被熱 4類
Q 29	石鏝	(2.10)	1.4	0.5	(1.07)	チャート	有茎	覆土中層	PL47
Q 30	石鏝	(2.01)	1.16	0.42	(0.9)	瑪瑙	有茎 茎部欠損	覆土下層	PL47
Q 31	石鏝	(1.96)	1.41	0.33	(0.6)	凝灰岩	凹基 先端部欠損	覆土下層	PL47
Q 32	石鏝	4.4	0.8	0.45	1.95	チャート	表面に原石面残す 先端部磨減	覆土下層	PL47
Q 33	玉類	径0.9	-	0.26	0.94	ネフライト	小玉 片面穿孔	覆土中層	PL46

第2号竪穴建物跡 (第17・18区)

位置 調査A区北西部のB 6h5区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層Ⅰ-1層下で確認した。第2号遺物包含層Ⅱ層を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第37号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土土器からは、第37号竪穴建物跡が新しい。

規模と形状 北部が調査区域外に延び、また西部が第1号堀に掘り込まれているため、東西径4.0m、南北径3.8mしか確認できなかった。ピットの配置から径約5～6mの円形あるいは楕円形と推定できる。壁は高さ20cmで、ほぼ直立している。

床 台地の傾斜に沿って、北側に向かって下がっている。硬化面は確認できなかった。

ピット 11か所。径が40～60cmで深さのあるP 6～P 8が、位置的に支柱穴の可能性がある。P 6・P 7では複数か所確認できることから、立て替えの可能性がある。P 1～P 4、P 10・P 11は、径がやや大きいものの、壁際に巡っている。

ピット土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	4 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ	40	41	32	36	60	50	52	82	66	70	50

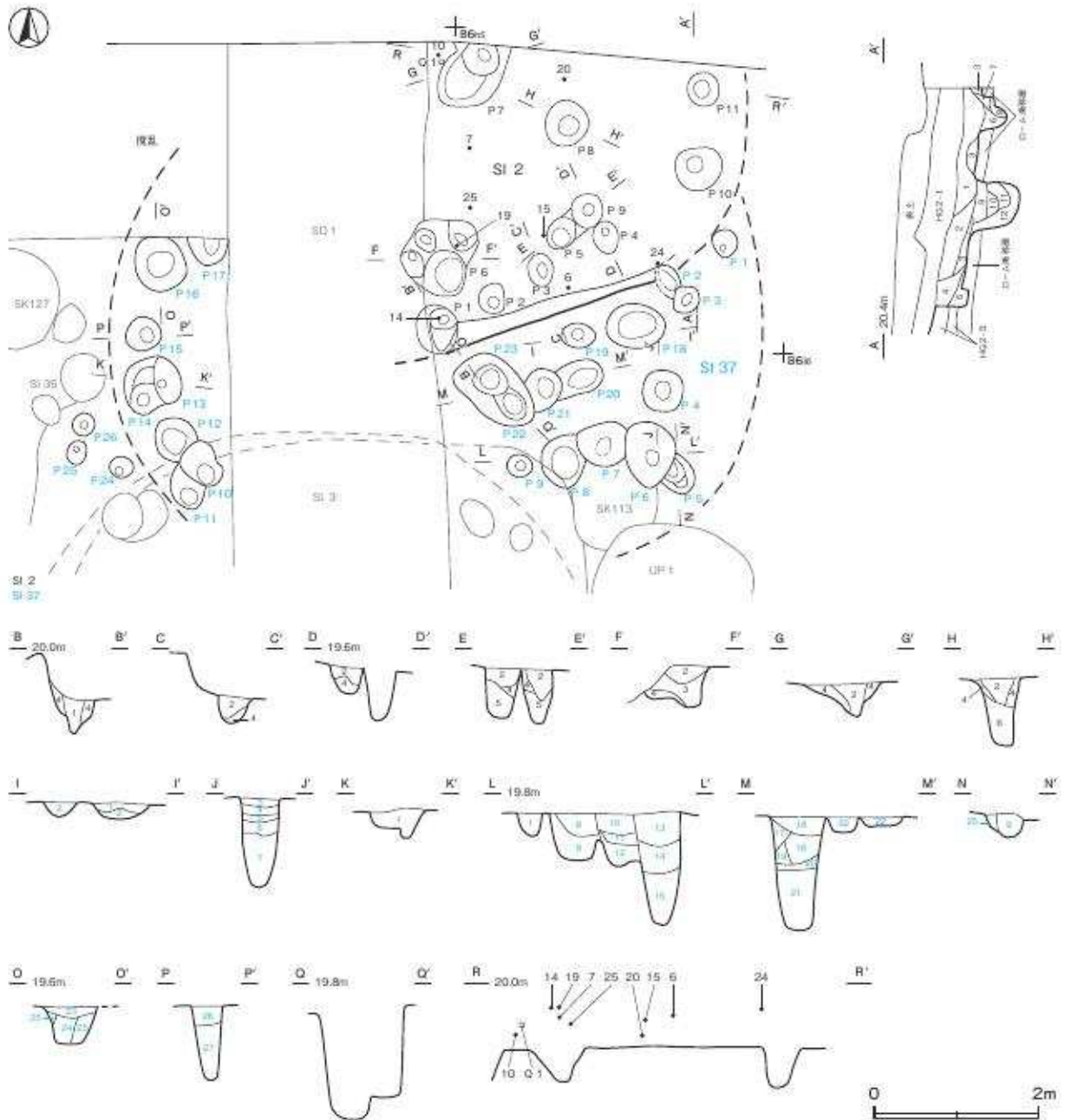
覆土 5層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている土が、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説 (P 10・P 11含む)

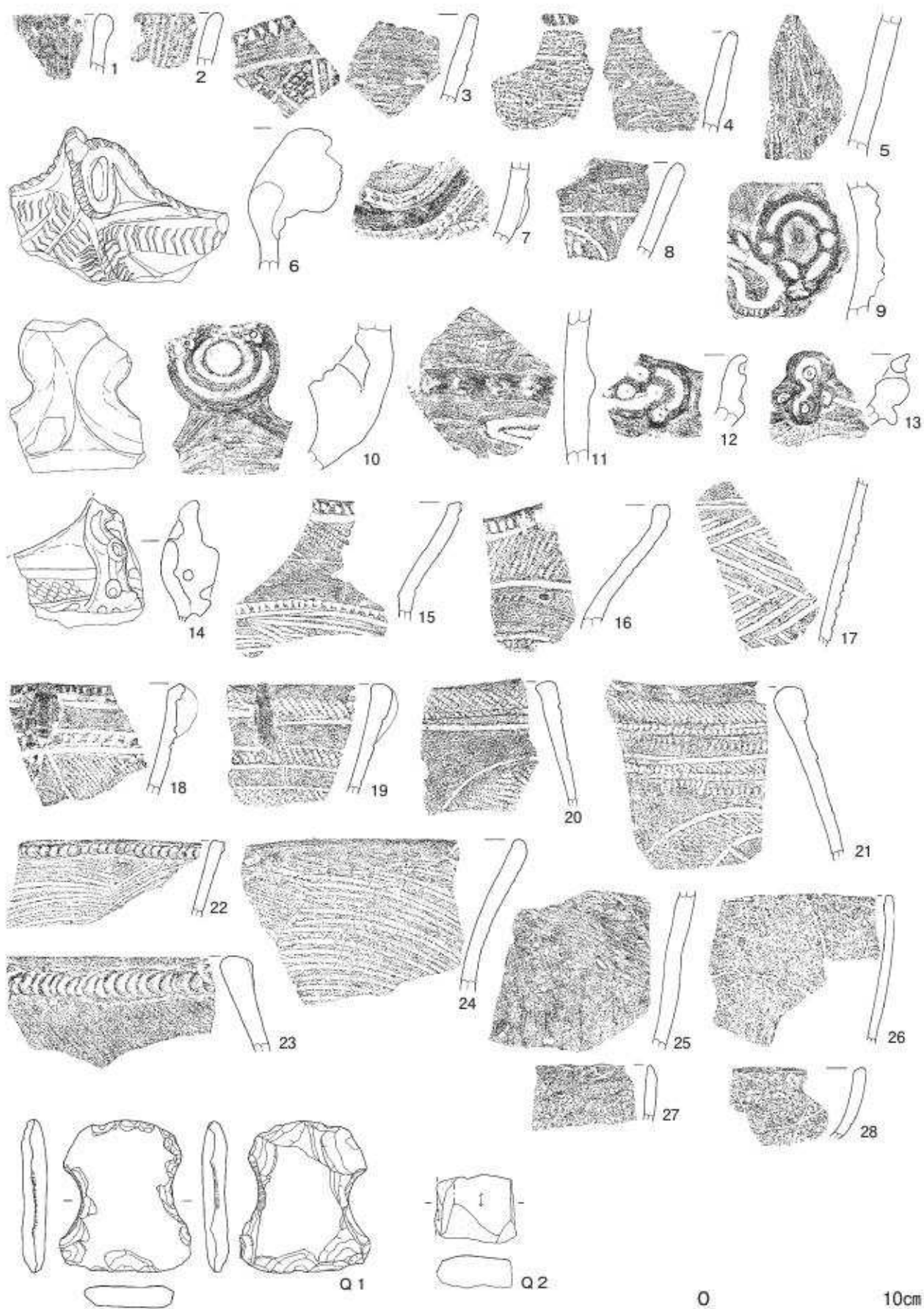
1 黒褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ローム粒子少量 (P 11覆土)
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量 (P 11覆土)
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 黒褐色	ローム粒子少量 (P 10覆土)
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量 (P 10覆土)
5 黒褐色	ローム粒子中量	11 暗褐色	ロームブロック中量 (P 10覆土)
6 黒褐色	ローム粒子少量 (P 11覆土)	12 暗褐色	ロームブロック多量 (P 10覆土)

遺物出土状況 縄文土器片 817 点 (215.3kg)、石器 4 点 (打製石斧 1、磨石類 2、砥石 1) のほか、剥片 5 点 (黒曜石 3、チャート 2) が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 3 群 (後期初頭) 24.4%、第 4 群 (後期前半) 30.9% である。

所見 時期は、土器の出土量と壁柱穴状の柱穴が巡っている建物跡であることから、後期初頭から前葉の可能性はあるが、建物跡に主柱穴が確認できる点と、中期前半の大形破片も出土していることから、本跡は中期前半の建物跡と推測される。後期以降の遺物はその後の造成等により混入したものと考えたい。



第 17 図 第 2・37 号竪穴建物跡実測図



第 18 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面縞条文L 内面ナデ	P 6	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面縞条文R 内面ナデ	覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面区画文内に押し文 文点に竹管文 内面日殺条文	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	灰 褐	普通	外・内面貝殻条文 口唇部刻み	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面貝殻波状文 内面ナデ	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・錫・純鉛	にぶい橙	普通	外面爪形文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・錫・純鉛	にぶい褐	普通	隆帯器爪形文 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・錫・純鉛	にぶい橙	普通	外面沈線間に刺突文 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤	普通	外面C字状貼付文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き 内面にC字状文	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面粗線貼付 丁字文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外面にC字状貼付文 内面磨き	P 6	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	口縁部外面にC字状貼付文 内面ナデ	P 7	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面LR縞文 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	口縁部沈線→RL縞文→無文部磨き 胴部RL縞文→条線	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縞文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面胴部矢羽状文 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨貼付→刻み・RL縞文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縞文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯筋沈線・刻み→RL縞文→磨き 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・錫・純鉛	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縞文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→粗線貼付 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→粗線貼付 内面磨き	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外・内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	明赤褐	良好	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口C2類
27	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	良好	外面削り 内面ナデ	覆土中層	口B類
28	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面ナデ→沈線文 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	打製石斧	7.9	6.9	1.15	101.0	緻密安山岩	分銅形 両側縁磨り痕	覆土中層	成熟 PL45
Q2	砥石	(3.6)	(4.3)	(1.7)	(35.14)	砂岩	砥面表裏2面	覆土上層	成熟 4類

第37号竪穴建物跡(第17・19図 PL12)

位置 調査A区北西部のB614区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第113号土坑を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第2・3号竪穴建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物からは、第2号竪穴建物跡よりも新しい。

規模と形状 第2号遺物包含層のⅡ層下のローム面で確認した。壁や炉跡、出入口ピットが確認できず、壁柱穴の配置から平面形を推定した。北部が調査区域外に延びるため、東西径7.0m、南北径3.0mしか確認できなかった。径約7mの円形と推定できる。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 26か所。P1～P17は、径が25～80cmで、円形に並んでいることから壁柱穴と考えられる。P22・P23は、位置や深さから主柱穴と考えられる。第2号竪穴建物跡としたP5・P9は、径がやや細いものの、位置的には本跡の主柱穴とも考えられる。いずれも2か所のピットが重複または隣接しており、立て替えの可能性はある。

ピット深度表

(cm)

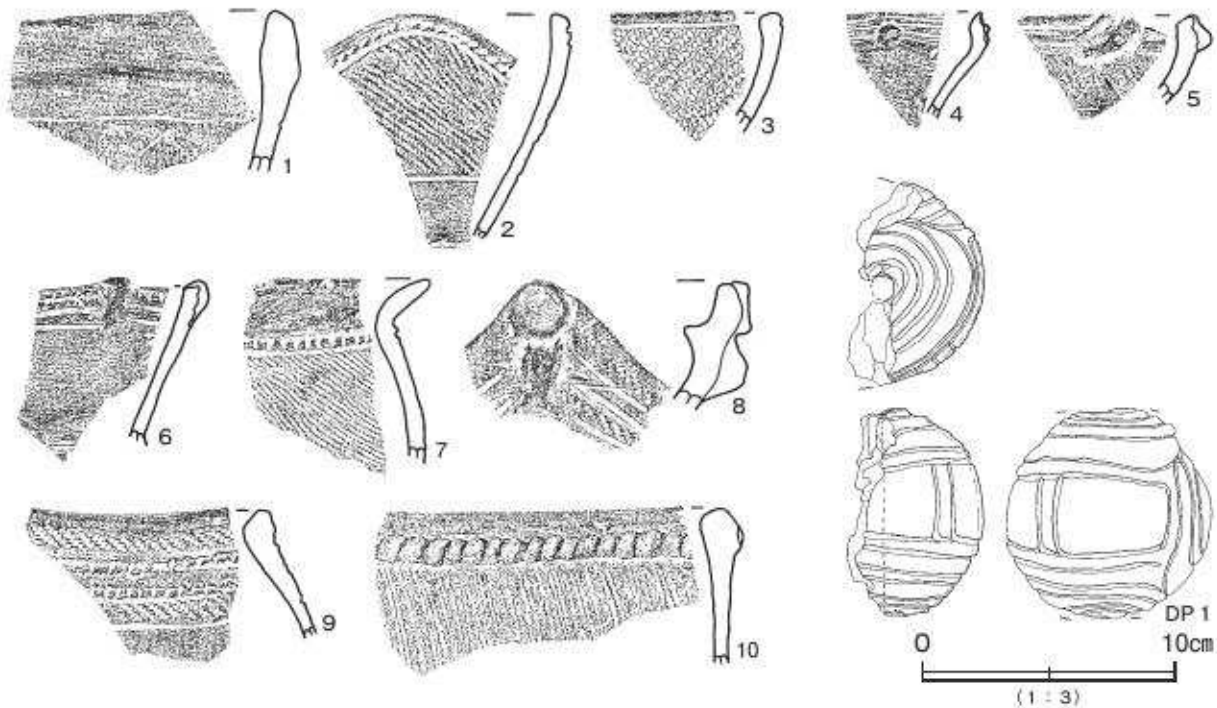
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	40	29	45	118	37	138	62	56	33	16	31	39	31	56	91	94	38	23	18	12	18	114	138	14	23	28

ビット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	17	褐色	ローム粒子多量
4	極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	18	極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	19	黒褐色	ロームブロック中量
6	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量	21	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	22	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	23	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量	25	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
12	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	26	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13	極暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量	27	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 151点 (254kg)、土製品2点 (土錘、土器片円盤)、石器1点 (磨石類) が、出土している。

所見 時期判断が可能な土器は少ないが、第4群 (後期前葉) から第7群 (後期後葉) までのものが、比較的まとまっている。よって時期は、出土土器と建物跡の形状から、後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられ、後期初頭から前葉の土器群は、第2号竪穴建物跡と同様、その後の造成等による混入と考えたい。調査では確認できなかったが、第2号遺物包含層中から掘り込まれていたものと推測される。



第19図 第37号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	P 4	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 16	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 4	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面頸部磨き 内面磨き	P 6	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→縦帯付→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外面に刻み 内面磨き	P 16	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文 内面口縁部磨き 胴部十字	P 6	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文 内面磨き	P 6	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面不磨	P 6	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土鏝	径(82)	-	(82)	(249.7)	長石・石英	にぶい・橙	球状 片面穿孔	層土中	PL44

第3A・B号竪穴建物跡 (第20～22図 PL 6)

位置 調査A区北西部のB 6j5区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層第I～2層下で確認した。第1号地下式坑、第1号堀に掘り込まれている。第5・6・9・37号竪穴建物跡、第30号土坑とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

規模と形状 東壁部分しか確認できなかったことから、出入口ピットと壁柱穴の配置から平面形を推定した。東壁と並行するように巡っているP 23・P 26～P 29・P 37～P 40を壁柱穴とする第3A号建物跡は、出入口ピットまで含めた長軸は8.3m、短軸は6.6mの隅丸長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。また、その西側に巡るP 25・P 30～P 36を壁柱穴とする第3B号建物跡は、長径8.3m、短径7.8mの不整楕円形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁は高さ7～32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 48か所。径が40～80cmで、深さのあるP 1～P 3、P 4～P 6が位置的に主柱穴の可能性があるが、それぞれのA・Bへの帰属は不明である。P 7・P 8、P 9・P 10は、位置と形状から出入口ピットと考えられる。P 11～P 40は、径が20～50cmで、位置と形状から壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説

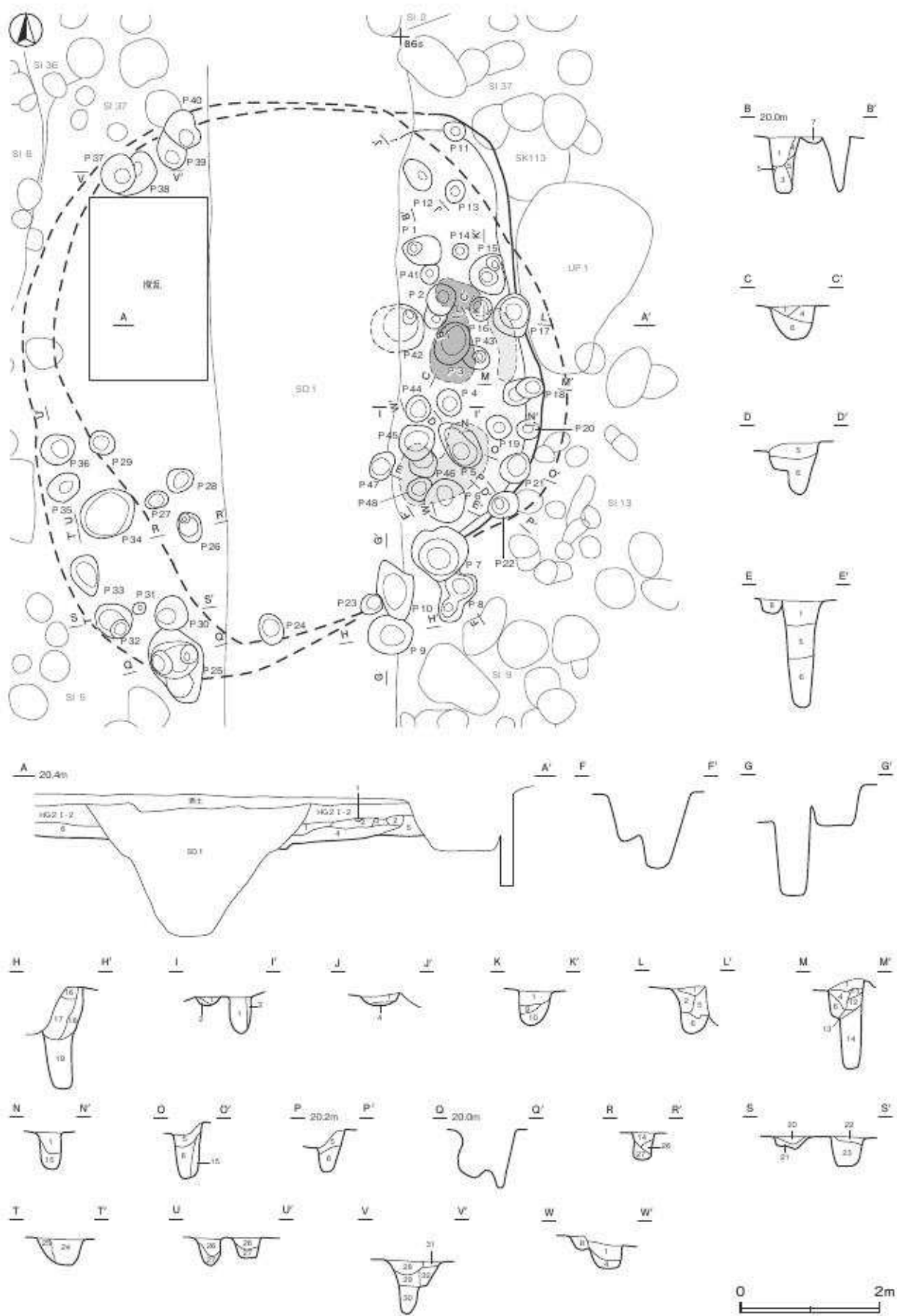
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	17	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2	褐色	ローム粒子多量	18	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	灰多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	21	褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	22	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・貝片微量
7	黒褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	23	暗褐色	ロームブロック微量
8	褐色	ロームブロック中量	24	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
9	極暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	25	暗褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	26	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	27	極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	28	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
13	極暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	29	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
14	黒褐色	ロームブロック少量	30	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
15	黒褐色	ローム粒子少量	31	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
16	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	32	褐色	ロームブロック中量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
深さ	83	81	51	54	73	156	104	73	146	16	33	15	33	11	64	14	69	41	52	69	69	60	40	130
番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
深さ	68	40	10	13	13	40	31	65	40	76	42	34	83	34	21	16	9	47	38	13	40	18	50	20

覆土 6層に分層できる。床面は地山ロームを掘り込んでいない。第1～3層は、焼土ブロックや炭化物が含まれている層が、ブロック状に堆積している。また、第4層はロームブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、第2号遺物包含層のII層に類似する土である。



第 20 图 第 3 号竖穴建物跡实测图

土層解説

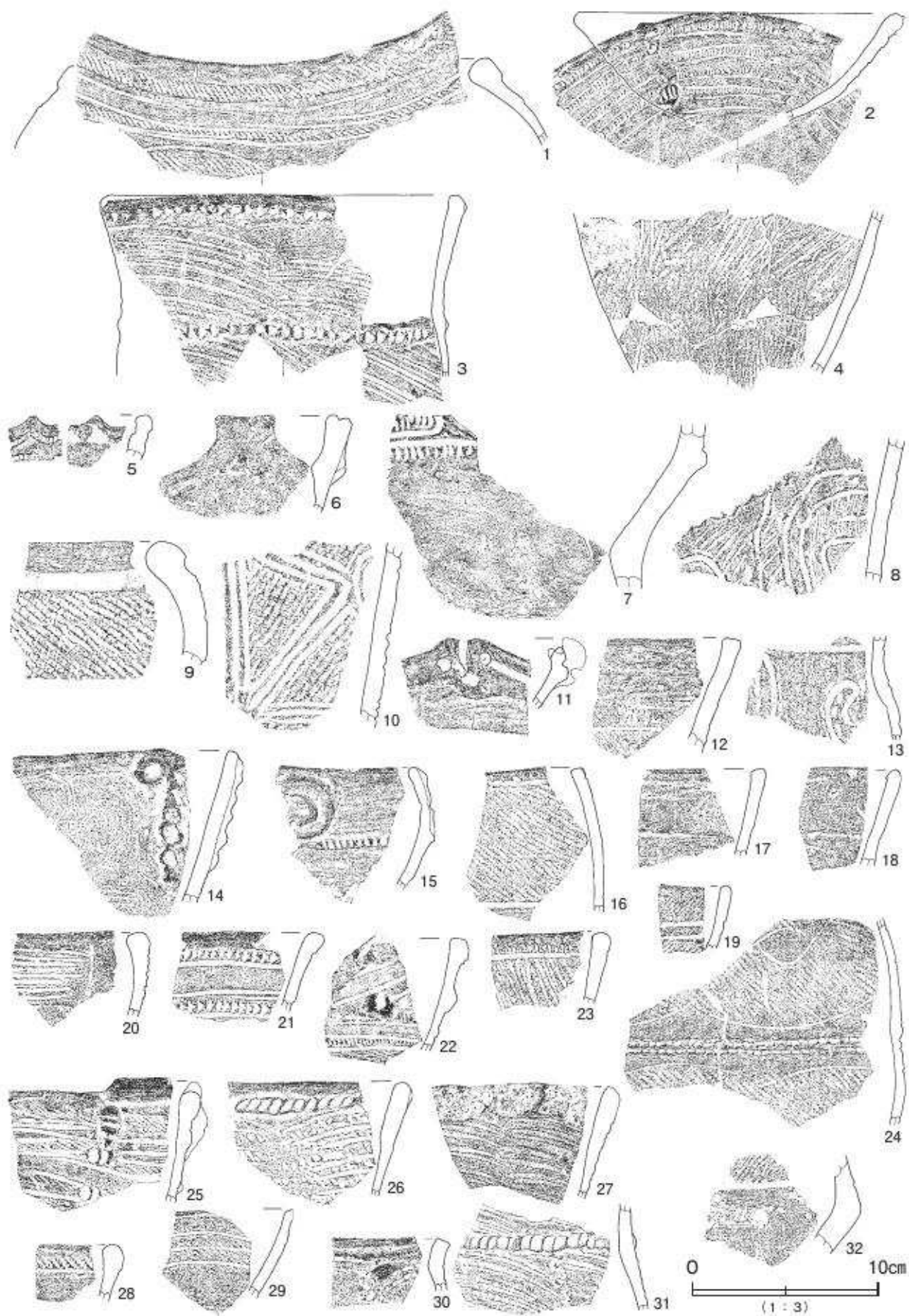
- | | | | |
|-----------|---------------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 藍 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 色 | 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 1,159 点 (17.34kg)、土製品 6 点 (土器片円盤 2、耳飾り 1、土偶 1、有孔円盤 1、棒状 1)、石器・石製品 7 点 (石鏃 1、石皿類 1、磨石類 3、浮子 1、石棒・石剣類 1) のほか、石核 1 点 (チャート)、剥片 10 点 (黒曜石 6、チャート 4)、獣骨片 46.0 g が出土している。東壁際中央及び出入口ピット北東部に確認できた焼土と炭化物は、覆土土層から出土したものである。P 6 の覆土中から、イノシシの歯が出土している。土器は中期前半のものから見られるが、晩期の土器はほとんど確認できず、主体となるのは第 3 群 (後期初頭) の 21.5%、第 4 群 (後期前葉) の 25.4% と、第 6・7 群 (後期後葉) の 24.5% である。

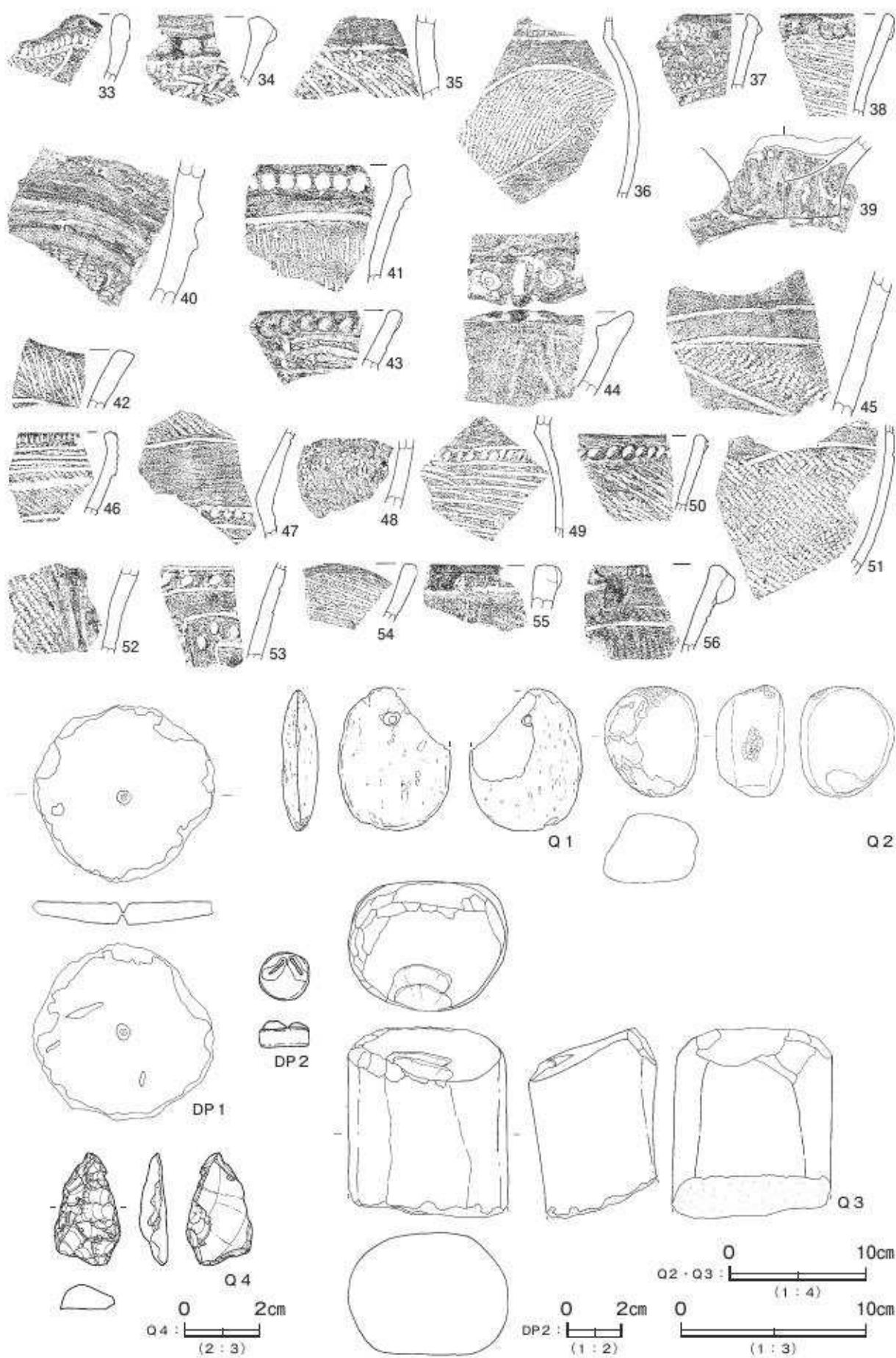
所見 時期は、出土土器と遺構の形状から、後期後葉の安行 1 式から安行 2 式期と考えられる。

第 3 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 21・22 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[22.6]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	5%
2	縄文土器	浅鉢	[17.4]	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯幅沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	30%
3	縄文土器	深鉢	[18.6]	(9.7)	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	P 4・P 5	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面胴部条線 下半磨き 内面ナデ	P 3	20%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面舟押文 内面削り込み三叉文	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面波頂部に瘤貼付 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面に爪形文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面沈線→斜線文 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面 0 段 3 本の RL 縄文→竹管状工具による沈線 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面に沈線文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面横位沈線→筒筒状工具による条線 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面 J 字文 内面胴部磨き 胴部ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ→筒筒状工具による条線 内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面に C 字状貼付文 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→刻み・RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面削り 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面削り 内面磨き	覆土下層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面 LR 縄文 内面ナデ	覆土下層	赤彩
20	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面区画内に横位の沈線文 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面隆起帯幅沈線→刻み→無文部磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文・刻み→磨き 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線 紐線刺磨 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 3	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 3	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面 2 本の有筋沈線文 内面ナデ	P 4	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	P 4	
32	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 17	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 5	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面地縄文→紐線貼付・沈線文 内面磨き	P 5	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面地縄文→条線→磨き 内面胴部磨き 胴部ナデ	P 5	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 5	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面 LR 縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	P 6	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	P 6	
39	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面・高部磨き 内面ナデ	P 6	10%
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面 RL 縄文→隆起帯貼付 磨き 内面磨き	P 7	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面筒筒状工具による刺磨文 内面磨き	P 7	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面沈線→斜線文→無文部磨き 内面磨き	P 7	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面ナデ	P 7	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	灰 褐	普通	外・内面ナデ	P 7	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	P 7	



第21图 第3号竖穴建物跡出土遺物 実測図(1)



第22図 第3号竪穴建物跡出土遺物 実測図(2)

第3号竖穴建物跡出土遺物観察表（第21・22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 7	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外周部沈線→RL縄文→無文磨き 胴部RL縄文→沈線	P 7	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面刺突文 内面磨き	P 15	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面刻み→条線 内面ナデ	P 15	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文→組線貼付→条線 内面磨き	P 34	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	P 34	保付着
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→磨き 内面ナデ	P 21	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線間刺突文 内面磨き	P 21	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面斜線文 内面磨き	P 21	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面条線→組線貼付 内面ナデ	P 41	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面瘤→沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 35	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	有孔円盤	96	98	13	121.7	灰・赤・黒・粘り	にぶい橙	深鉢底部の転用 中央の穿孔は未貫通	P 6	
DP 2	耳飾り	径1.7	-	10	2.87	長石・石英	にぶい赤褐色	ナデ調整	覆土上層	I 1類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	浮子	7.7	6.1	1.9	(24.5)	軽石	上部に貫通孔	P 6	PL47
Q 2	磨石類	7.9	6.8	4.9	371.9	安山岩	上端部と側面に凹痕	P 6	1a類
Q 3	石皿類	(13.6)	11.5	9.2	(227.0)	輝石安山岩	大形石臼の転用 下端は切断のまま 上端は切断後断面に利用	P 3	1類 PL48
Q 4	石鏝	3.06	1.79	0.77	4.1	チャート	未成品	覆土上層	

第4号竖穴建物跡（第23～30図 PL 4）

位置 調査A区西部のC 6 b2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のI層下で確認した。第5・7・19・55号竖穴建物跡を掘り込んでいる。第1号竖穴建物跡との新旧関係は捉えられなかったものの、出土土器と遺構の残存状態から、第1号竖穴建物に掘り込まれていると考えられる。

規模と形状 不整隅丸方形の掘り込みを本跡とするが、本跡では多数のピットを確認でき、また出土土器についても、大きく2つの時期のものが認められた。本跡は、南東部が第1号竖穴建物に掘り込まれているため、短軸は5.02m、出入口部を含めた長軸は5.82mしか確認できなかった。南部に出入口部と推測できる張り出し部を有する不整形で、主軸方向はN-2°-Wである。確認できた壁は、高さ25～30cmで直立しているが、土層断面から本来の壁の高さを推定すると、40～70cmほどである。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 長径65cm、短径53cmの楕円形で、床面のほぼ中央部に付設されている。深さ12cmの地床炉で、火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

土層解説

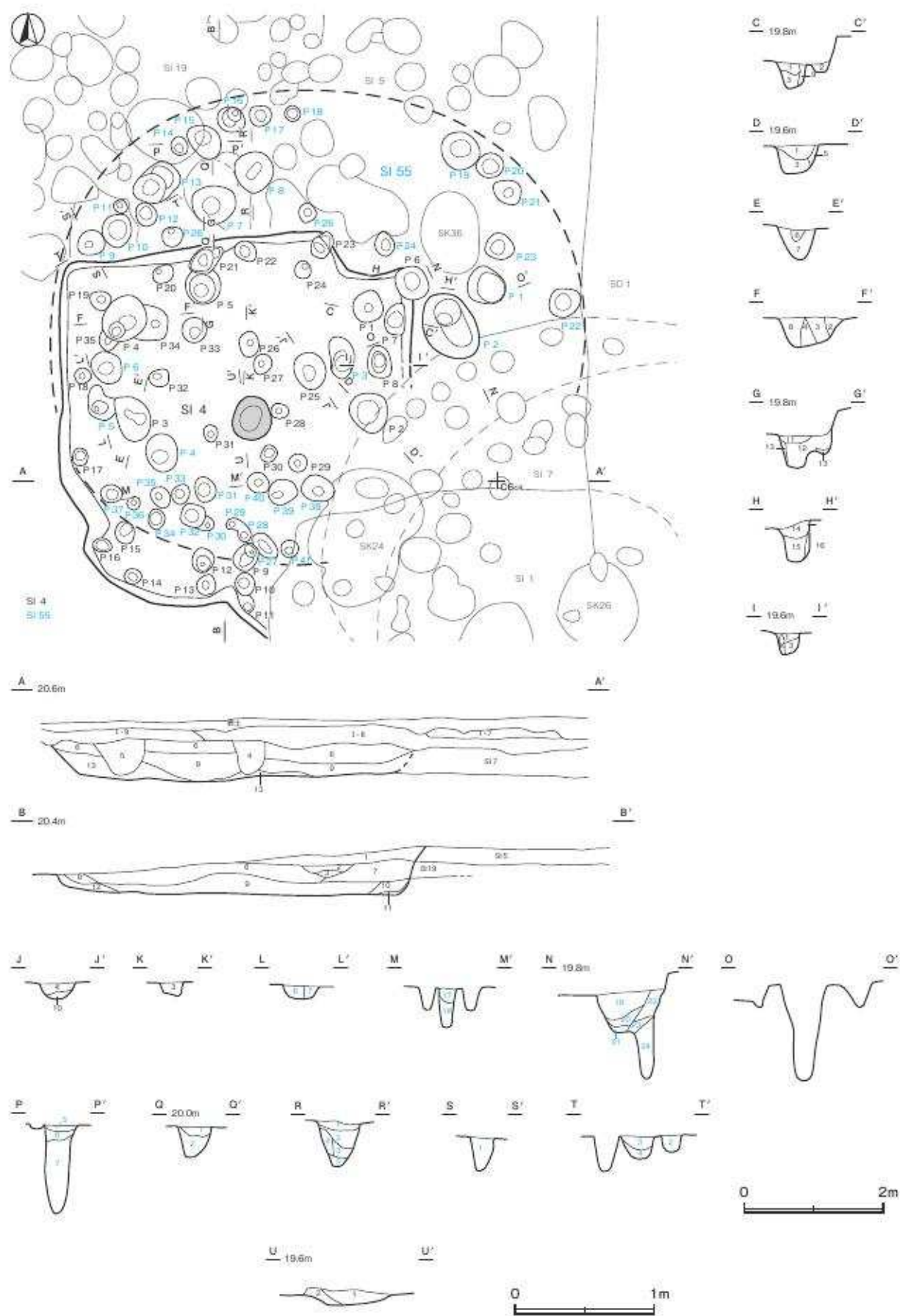
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

ピット 35か所。P 1～P 5は、位置と形状・深さから支柱穴である。P 6～P 24は径が20～50cmと細く、壁際に巡っていることから、壁柱穴である。第1号竖穴建物跡のP 17・P 18、第7号竖穴建物跡に帰属するP 18～P 21・P 38は、位置から本跡の壁柱穴の可能性もある。出入口部は本跡南壁が張り出す部分と考えられる。第1号竖穴建物に掘り込まれ、ピットの痕跡は確認できなかった。

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	63	51	44	54	53	39	18	46	42	27	19	41	15	12	40	6	15	22
番号	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
深さ	13	36	31	33	14	44	23	19	10	10	13	20	9	26	41	3	22	



第 23 图 第 4・55 号竖穴建物跡实测图 (1)

第4・55号建物跡ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量

第55号建物跡P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第55号建物跡P8土層解説

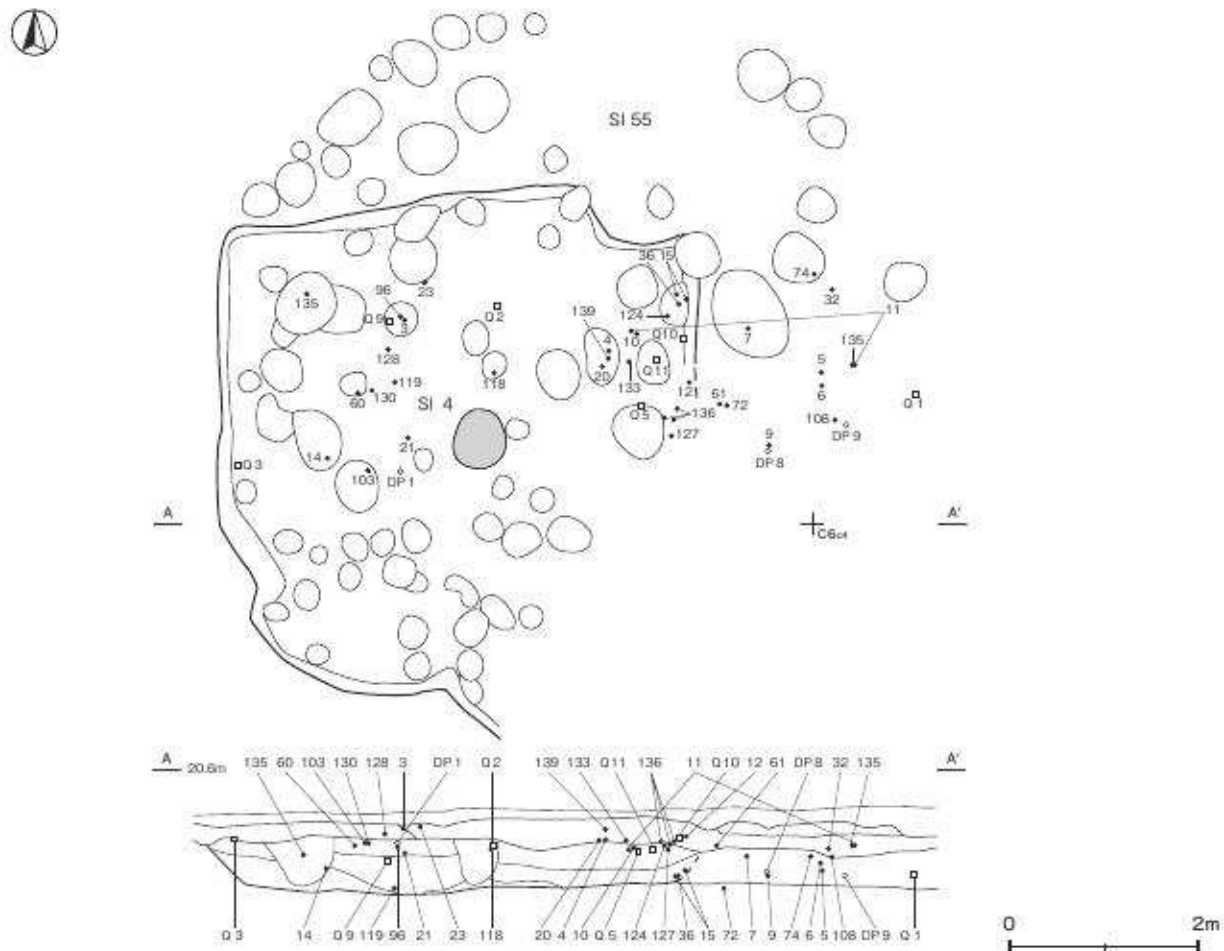
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

- 14 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 15 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 16 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 17 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 20 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 骨粉微量
- 21 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 22 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 23 暗褐色 ロームブロック中量
- 24 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第55号建物跡P9・P10・P12・P15土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

覆土 13層に分層できる。ローム粒子や焼土粒子、骨粉が含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4・5層はピット状の形状で、本跡上位の第2号遺物包含層中に別の遺構が存在する可能性がある。



第24図 第4・55号竪穴建物跡実測図(2)

土層解説

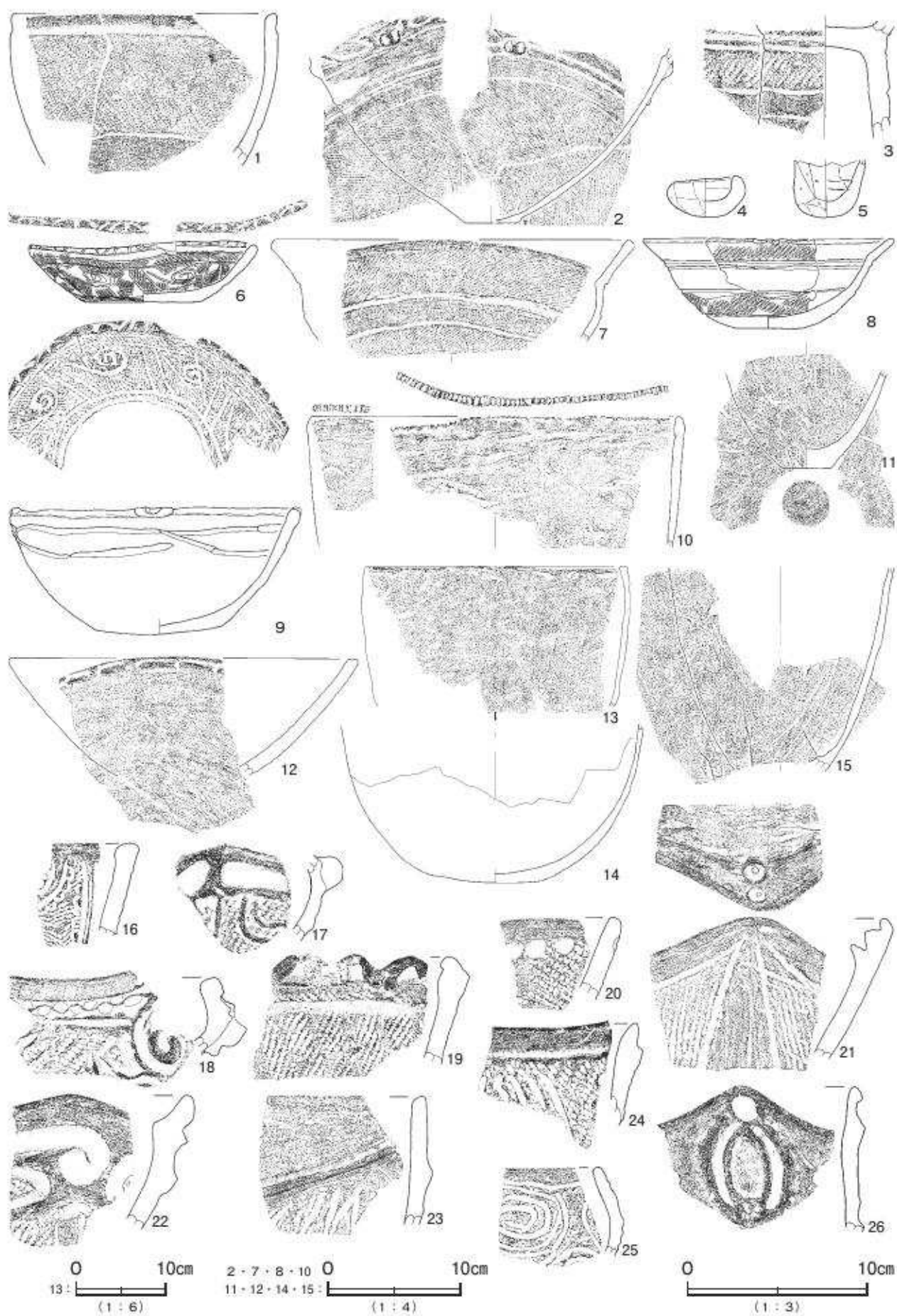
1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、骨粉少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	13 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
7 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量		

遺物出土状況 縄文土器片 8,350 点 (129.2kg)、土製品 28 点 (土錘 2、土器片円盤 7、耳飾り 1、土版 5、土偶 3、有孔円盤 2、匙形 1、貝輪状 5、棒状 2)、石器・石製品 70 点 (磨製石斧 5、打製石斧 3、石皿類 6、磨石類 36、石錘 2、砥石 9、礫器 1、石棒・石剣類 8) のほか、焼成粘土塊 6 点、発泡体 2 点、石核 19 点 (チャート 18、黒曜石 1)、剥片 29 点 (チャート 19、黒曜石 9、頁岩 1)、獣骨片 22.76 g (鹿角片 2 点、イノシシ歯片を含む) が出土している。遺物は主に覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、時期的なまとまりが見られるのは第 4 群 (後期前葉) 14.5%、第 5 群 (後期中葉) 18.8%、第 6・7 群 (後期後葉) 15.9%、第 8 群 (晩期前葉から中葉) 26.8% である。床面付近で炭化物の散布が確認できる。

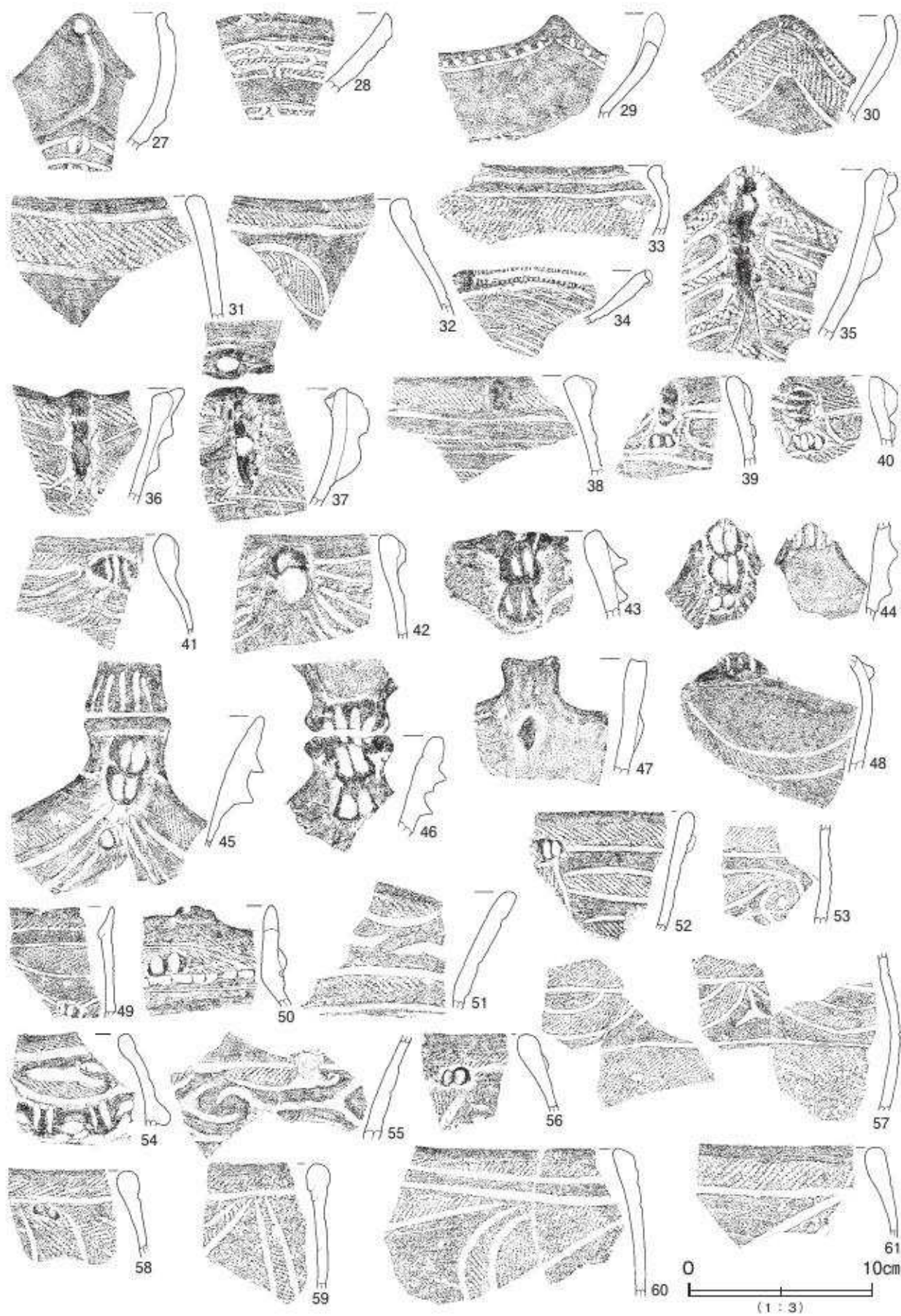
所見 時期は、出土土器と形状から晩期前葉から中葉の安行 3 b 式から安行 3 c 式期と考えられる。4 群土器が一定量出土していることから、本跡の構築以前に、該期の遺構が存在していた可能性がある。

第 4・55 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 25～30 図)

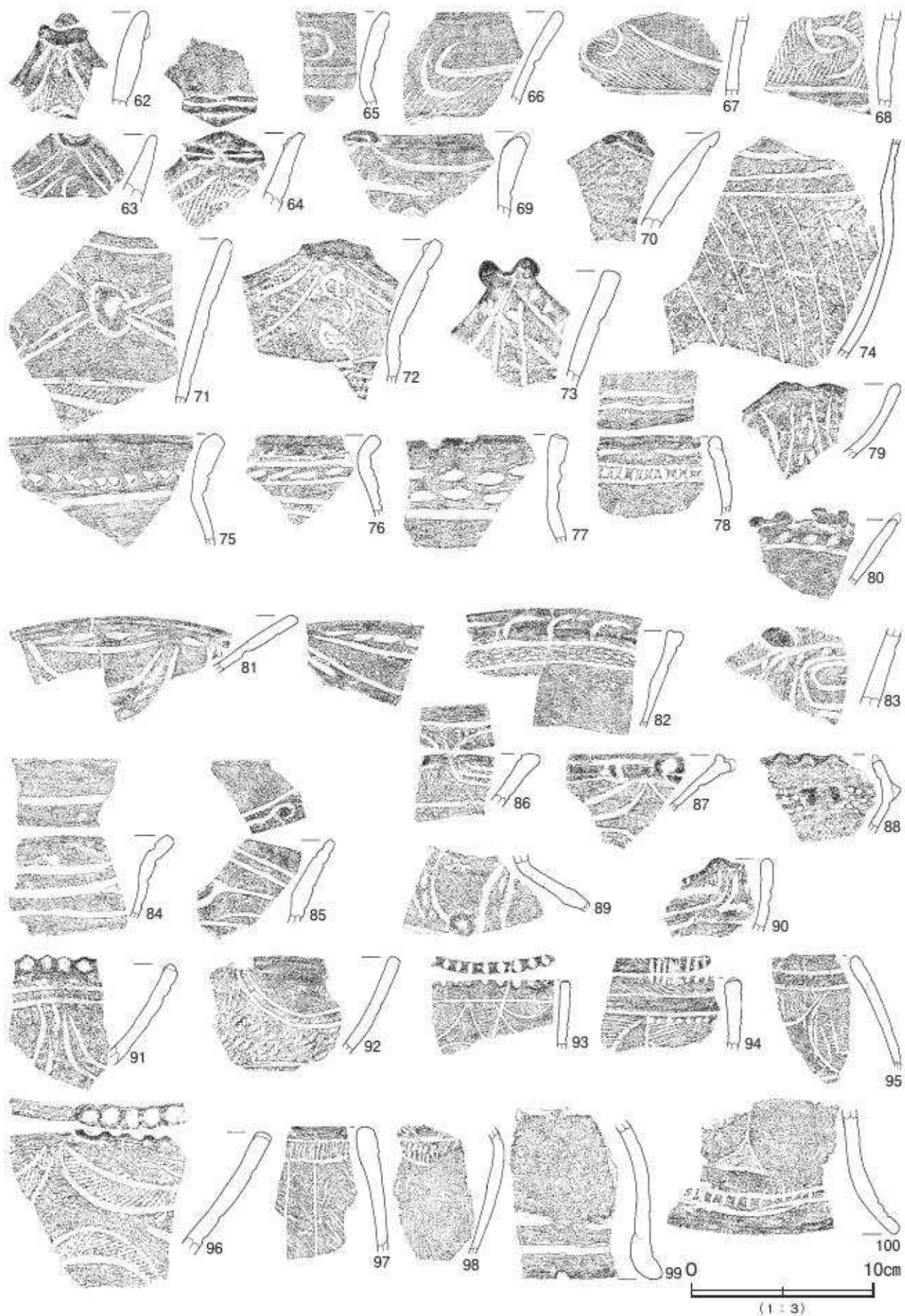
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[14.4]	(8.4)	-	長石・石英	赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	床面	二次焼成 20%
2	縄文土器	注口	-	(12.9)	[3.7]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	10%
3	縄文土器	台付鉢	-	(6.5)	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	10%
4	縄文土器	ミニチャート	3.1	2.2	-	貼・石英・赤・絶灰	にぶい褐色	普通	外・内面指頭ナデ	覆土上層	100%
5	縄文土器	ミニチャート	-	(3.1)	-	貼・石英・赤・絶灰	にぶい褐色	普通	外・内面指頭ナデ	覆土下層	50%
6	縄文土器	浅鉢	12.4	3.5	6.8	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文 口唇部B突起文 内面磨き	覆土中層	50%
7	縄文土器	浅鉢	[26.2]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	10%
8	縄文土器	浅鉢	[18.2]	(6.6)	[5.0]	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	覆土中	20% PL28
9	縄文土器	浅鉢	15.8	7.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面4単位の杵状文 磨き 外面磨き	床面	80% PL28
10	縄文土器	深鉢	[27.4]	(9.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面削り 口唇部に刻み 内面ナデ	覆土中層	10%
11	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	3.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面・底部磨き	覆土中層	30%
12	縄文土器	浅鉢	[25.6]	8.6	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口唇部に沈線文 内面ナデ	覆土上層	10%
13	縄文土器	深鉢	[28.6]	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ→粗い磨き	覆土下層	10%
14	縄文土器	鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	10%
15	縄文土器	深鉢	-	(15.6)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	10%
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面無銘L縄文→竹管文 内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面RL縄文→隆帯貼付 内面ナデ	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文→隆帯貼付 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→無銘L縄文 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文→懸垂文→懸垂文間磨き 内面磨き	覆土中層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆帯下沈線文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→懸垂文 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面C字状貼付文 内面磨き	覆土中層	
27	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面無文部 内面磨き	覆土上層	口縁部に炭
28	縄文土器	浅鉢	-	-	-	貼・石英・赤・絶灰	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→刻み 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面割部条線 内面磨き	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	



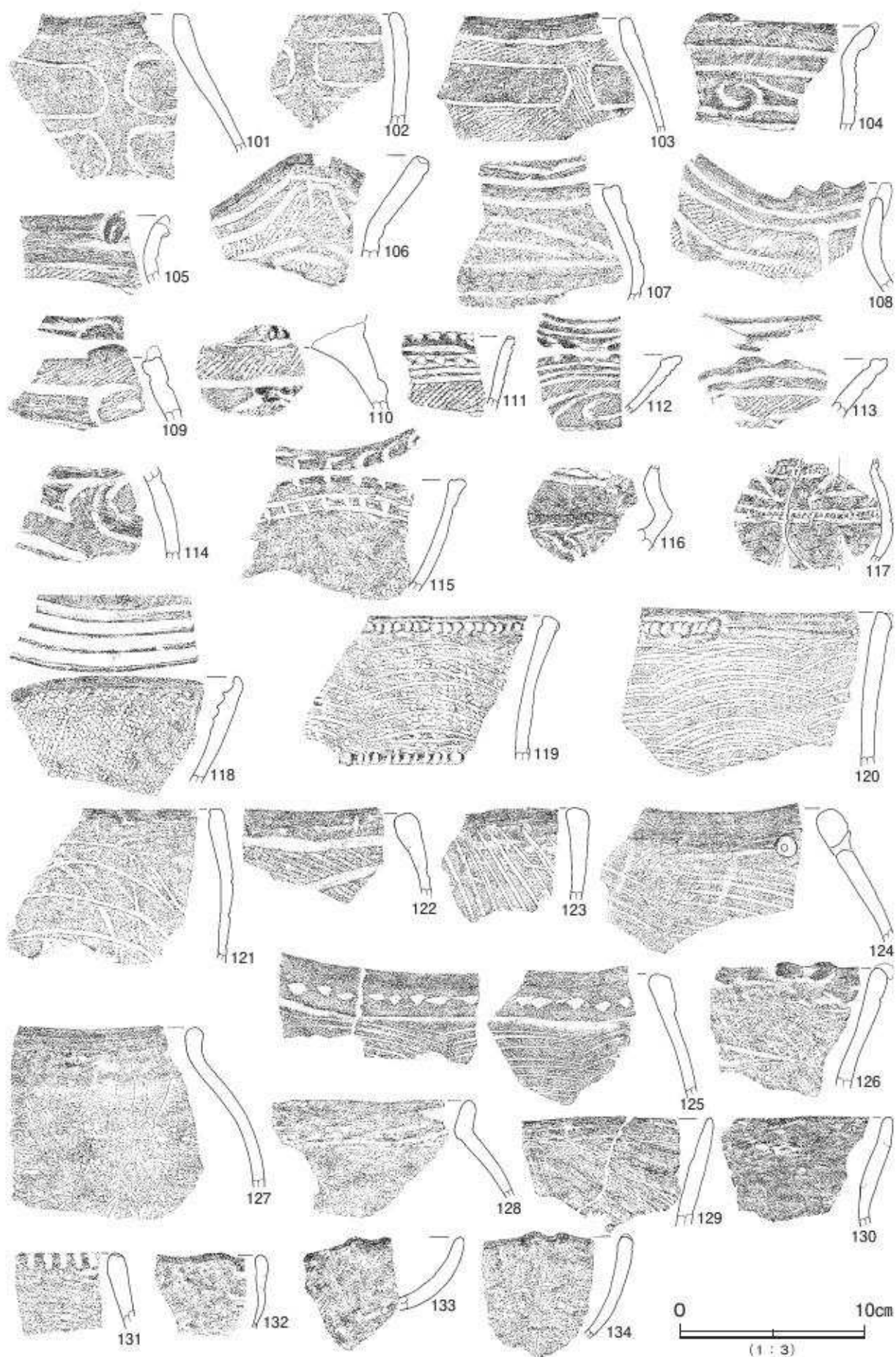
第25图 第4·55号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



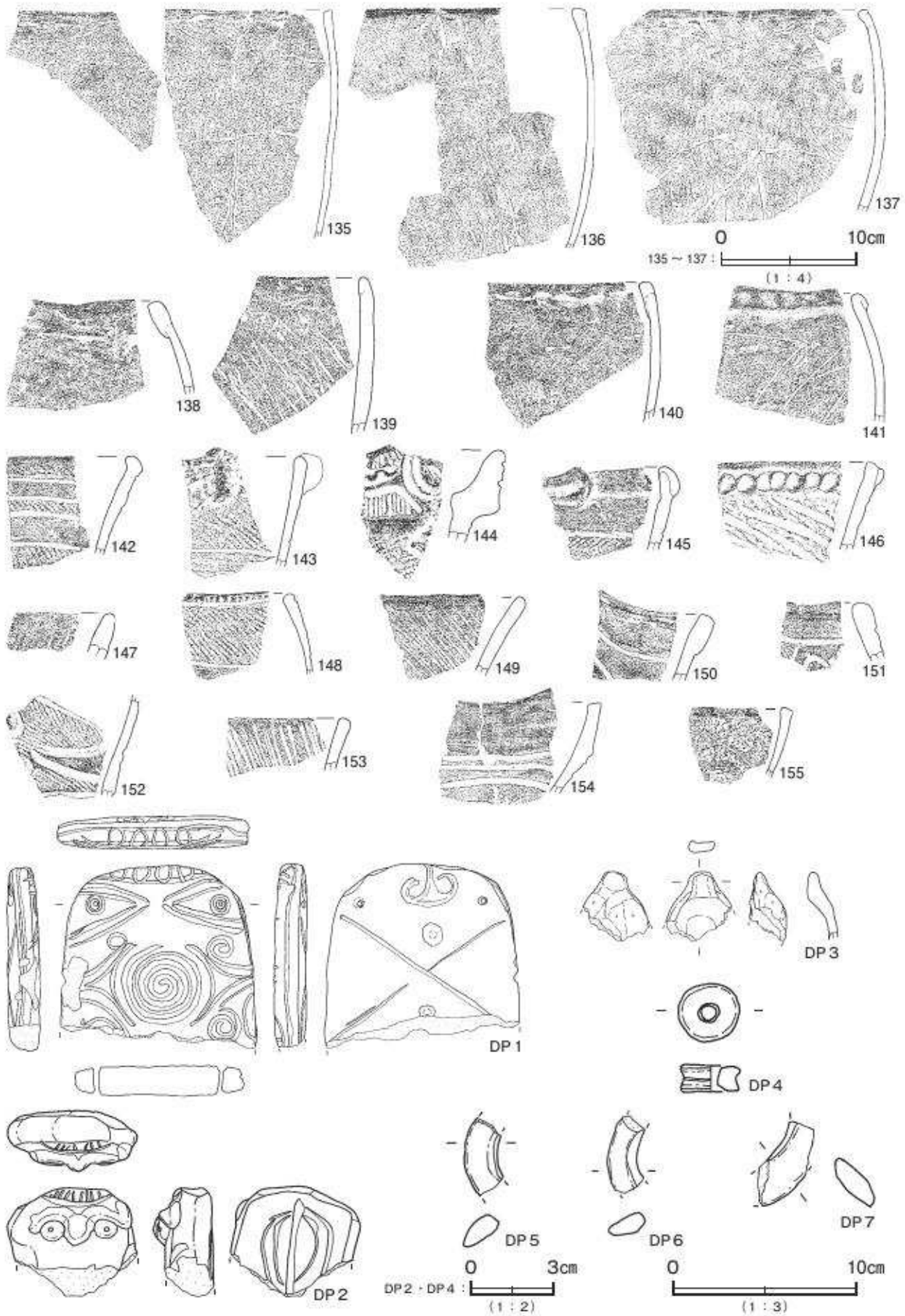
第26図 第4・55号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



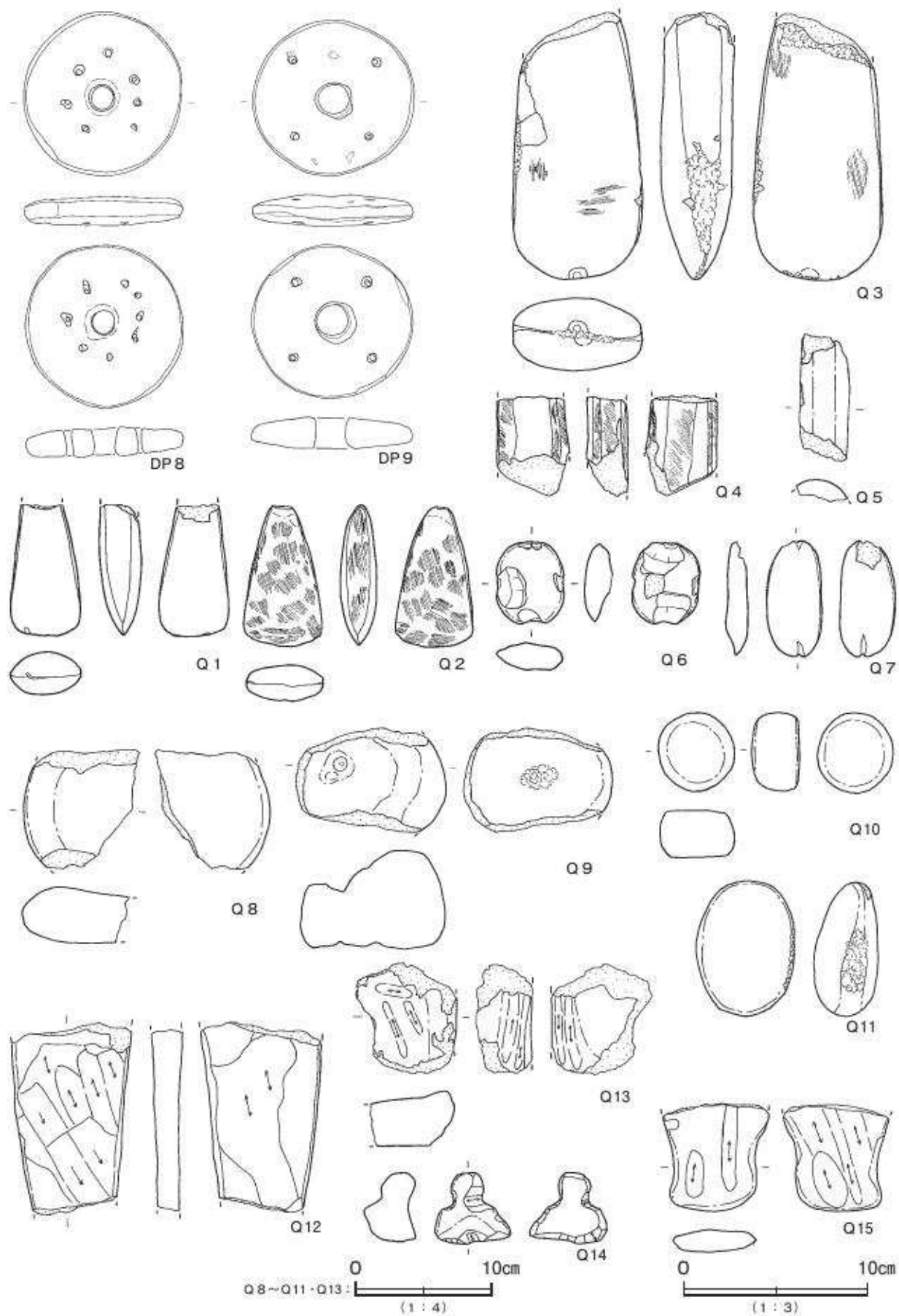
第27图 第4·55号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第 28 図 第 4・55 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第29図 第4・55号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



第30図 第4・55号竪穴建物跡出土遺物実測図(6)

第4・55号竖穴建物跡出土遺物観察表(第25～30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→瘤貼付→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰・椀	普通	外面隆帯隆沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面隆帯隆沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	椀	普通	外面隆帯隆沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→瘤貼付→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口縁部外面に突起 内面ナデ	覆土中層	
48	縄文土器	鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	灰・椀	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中層	
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐色 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面瘤貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	角底。
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐色 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
54	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英	灰・椀	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線→瘤貼付→LR縄文→無文部ナデ 内面ナデ	覆土中層	
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→ナデ 内面ナデ	覆土上層	
60	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→ナデ 内面ナデ	覆土中層	
61	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	椀	普通	外面条線→沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
63	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面波頂部押圧文 内面ナデ	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き 鉢巻状貼付文	覆土中層	
65	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
66	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
67	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	口縁部突起1か所 内面ナデ	覆土上層	
70	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	波頂部に鉢巻状貼付文 内面ナデ	覆土中層	
71	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	PL36
72	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外・内面磨き 口縁部に粘土粒巻き付け	覆土下層	
73	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰・椀	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中	
74	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
75	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒四石	にぶい椀	普通	外面口縁部削り 胴部磨き 内面磨き	覆土中層	
76	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	
77	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面口縁部削り 胴部磨き 内面ナデ	覆土上層	
78	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外・内面ナデ 内面に沈線文	覆土中	
79	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面三又状入組文 内面ナデ	覆土中	
80	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
81	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線間利突文による施文 内面磨き	覆土上層	
82	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線間に細かい利突文充塞 内面ナデ	覆土中層	
83	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	口縁部外面鉢巻状貼付文 内面磨き	覆土中層	
84	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面無文部・内面ナデ 内面に沈線文	覆土中	
85	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面三又状入組文 内面沈線文・磨き	覆土上層	
86	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面弧線文 内面沈線文・磨き	覆土上層	
87	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	口唇部に沈線文 内面ナデ	覆土上層	
88	縄文土器	鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面瘤貼付 細かい利突文充塞 内面ナデ	覆土中	
89	縄文土器	広口壺	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線間利突文による施文 無文部磨き 内面指頭ナデ	覆土中	
90	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面波頂部に三又文 内面ナデ	覆土上層	
91	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面無文部磨き 口唇部に押圧文 内面磨き	覆土上層	
92	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→無筋L縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
93	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 内面ナデ	覆土上層	
94	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 内面磨き	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 内面ナデ	覆土上層	
96	縄文土器	浅鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	灰・椀	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
97	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 内面ナデ	覆土上層	
98	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
99	縄文土器	台付鉢	—	—	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面L字文。無文部磨き 内面磨き	覆土上層	赤彩
100	縄文土器	台付鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい椀	普通	外面L字文 外面無文部・内面磨き	覆土中	
101	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	にぶい椀	普通	外面棒状文 無文部・内面ナデ	覆土中	
102	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・緑・黒・絶好	椀	普通	外面棒状文 無文部・内面ナデ	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土上層	
104	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面磨減 口唇部沈線文	覆土下層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→無節L縄文 内面口部磨き 胴部ナデ	覆土中層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
110	縄文土器	白付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→着貼付→無節L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
112	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
114	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面ナデ	覆土中	
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面磨き 二溝間の絞痕 口唇部刻み 内面磨き	覆土上層	
116	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面頸部ナデ 胴部矢羽状文 内面指頭ナデ	覆土上層	
117	縄文土器	壺	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中層	PL36 40% 赤彩
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面LR縄文 内面凹線・磨き	覆土上層	
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面基構文→着貼付→条線 内面沈線・磨き	覆土下層	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土下層	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→沈線→口縁部磨き 内面磨き	覆土中	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中層	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面条線 内面磨き 焼成後穿孔	覆土上層	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面紐線部分削り出し 内面ナデ	覆土上層	
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線 B突起 内面ナデ	覆土上層	
127	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面口部ナデ 胴部磨き 内面磨き	覆土上層	
128	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き	覆土上層	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面桶筒状工具による条線 内面磨き	覆土中層	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線 口唇部刻み 内面ナデ	覆土中	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	覆土中	
133	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
134	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ一部粗い磨き	覆土中	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 口縁部指頭ナデ 内面ナデ	覆土上層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面削り→条線 内面ナデ	覆土上層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 6	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外面着貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 9	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面胴部RL縄文 内面ナデ	P 23	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 25	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面紐線貼付→RL縄文→条線 内面ナデ	SI55 - P6	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文 内面ナデ	SI55 - P3	
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面沈線→削り→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	SI55 - P3	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面斜沈線 内面ナデ	SI55 - P7	二次焼成
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→細密沈線文→無文部磨き 内面磨き	SI55 - P8	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外面沈線→細密沈線文→無文部磨き 内面磨き	SI55 - P8	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	SI55 - P8	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	SI55 - P3	
154	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤褐	普通	外面無文部 内面磨き	SI55 - P10	
155	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面潤滑 内面ナデ 口縁部外側ぎ状にへら切り	覆土上層	口C2類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土板	(100)	10.7	1.8	(250.6)	長石・石英	灰黄褐	上部に貫通孔2か所 表裏面に赤彩	覆土上層	PL43
DP 2	土偶	(4.0)	4.7	2.2	(36.2)	長石・石英	橙	表裏面ナデ	覆土中層	4a型、PL39
DP 3	鹿形	(3.8)	(3.6)	2.0	(11.5)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	表裏面ナデ	覆土上層	PL44
DP 4	耳筒形	径2.2	-	1.0	5.08	長石・石英・赤色粒子	灰褐	表裏面磨き	覆土中層	II 1類
DP 5	貝輪状	(4.2)	2.2	1.8	(10.5)	長石・石英	浅黄褐	表裏面ナデ	覆土下層	
DP 6	貝輪状	(4.2)	2.0	1.3	(9.5)	長石・石英	にぶい黄褐	表裏面ナデ	覆土下層	
DP 7	貝輪状	(4.8)	2.9	2.6	(16.6)	長石・石英・赤色粒子	橙	表裏面ナデ	覆土上層	
DP 8	有孔円盤	径9.0	-	1.6	115.6	長石・石英・赤色粒子	橙	表裏面・側面ナデ	覆土下層	PL43 二次焼成
DP 9	有孔円盤	径8.8	-	1.8	131.4	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	表裏面磨き 周縁研磨	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(7.1)	3.8	2.3	(96.6)	フレライト	定角式 表表面研磨整形	覆土下層	PL46
Q 2	磨製石斧	7.7	4.2	1.9	96.3	蛇紋岩	定角式 表表面研磨整形	覆土上層	PL46
Q 3	磨製石斧	(14.5)	7.1	3.9	(674.9)	閃緑斑岩	定角式 表表面研磨整形 側面・刃部に敲打痕	覆土上層	
Q 4	磨製石斧	(5.4)	3.9	2.2	(86.8)	緑色岩	定角式 表表面研磨整形 掘り切り痕明瞭	覆土上層	PL46
Q 5	石槌・石錘	(6.8)	(2.7)	(1.2)	(30.1)	粘板岩	石剣 研磨整形	覆土上層	
Q 6	石 錘	2.9	2.5	1.1	9.48	砂 岩	打ち欠き4か所	床面	3類
Q 7	石 錘	6.3	2.9	1.1	32.3	頁 岩	長軸方向に切り目	覆土中層	2類
Q 8	石皿類	(8.5)	(8.3)	4.0	(229.7)	安山岩	表表面使用	覆土下層	1類
Q 9	石皿類	(7.4)	(10.6)	7.2	(509.1)	安山岩	表表面に凹痕	覆土中層	4類
Q 10	磨石類	6.5	5.3	3.4	167.0	輝石安山岩	表表面磨り面	覆土上層	1 c 類
Q 11	磨石類	9.5	6.9	4.5	437.2	角閃石輝石安山岩	一側縁に敲打痕	覆土上層	2 a 類
Q 12	砥 石	(10.4)	(6.6)	1.7	(138.5)	砂 岩	表裏2面に砥面	覆土中	被熟 2類
Q 13	石皿類	(7.9)	(7.2)	4.0	(268.2)	角閃石黒雲母花崗岩	表表面磨り面 表・側面に溝状の砥面あり	覆土下層	1類
Q 14	砥 石	3.9	4.2	2.8	33.5	砂 岩	側面に溝状の砥面	覆土中層	1類 PL48
Q 15	砥 石	(5.8)	5.8	1.2	(44.4)	砂 岩	表表面に砥面	覆土上層	4類

第 55 号竪穴建物跡 (第 23～30 図 PL 4)

位置 調査A区西部のC 6 b3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2号遺物包含層の I 層下で確認した。第 4号竪穴建物跡、及び第 5・19号竪穴建物跡としたピット群のうち、両跡に帰属しない弧状に巡る小ピットが確認できたこと、また第 4号竪穴建物跡から出土した土器群が、後期後半と晩期前葉の大きく 2 時期あることなどから、第 4号竪穴建物跡と別に本跡を想定した。第 1・5・7・19号竪穴建物跡、第 24・36号土坑と重複しているが、堆積状況での新旧関係は不明である。

規模と形状 弧状に巡る小ピット群から、南北径 7.6 m、東西径 7.7 mの円形と推定できる。壁は確認できなかった。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 41か所。P 1～P 8は、位置と形状・深さから主柱穴である。P 1・P 2、P 4～P 6、P 7・P 8などは、主柱穴の位置で 2～3か所が近接していることから、立て替えの可能性もある。また P 3は床面の中央に近い位置にあるが、深さがあることなどから、上屋保持にかかわるピットの可能性がある。このほか、第 4号竪穴建物跡の P 2～P 4なども、位置的には本跡に伴う可能性もある。P 9～P 21・P 27～P 41は径が 20～50cmと細く、東部はややまばらではあるが、弧状に巡っていることから、壁柱穴と考えられる。南東部は第 7号竪穴建物跡に帰属すると考えた P 7～P 9・P 18・P 19・P 39～P 43のうちの一部が、本跡に伴う可能性がある。南西部では P 31・P 33・P 35～P 40と、P 27～P 30・P 32・P 34・P 36・P 37・P 41の 2 条の壁柱穴列が確認できることから、2 回以上の立て替えの可能性があり、主柱穴の所見と整合する。

ピット深度表

(cm)

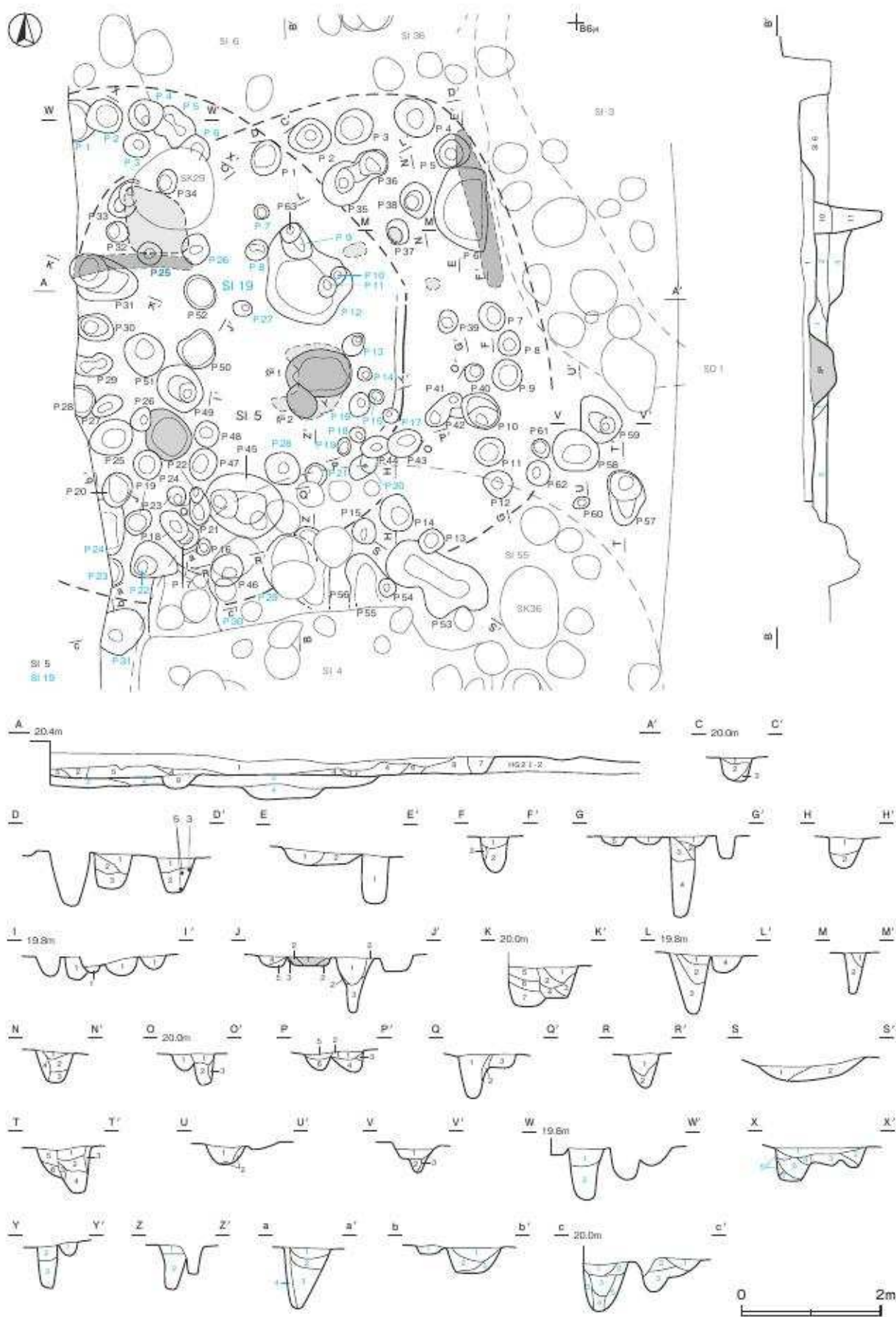
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	38	136	(132)	(109)	(57)	(61)	50	48	(52)	(22)	(24)	22	39	43	126	55	28	18	21	12	19
番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
深さ	26	20	29	34	24	(31)	(32)	(39)	(43)	(62)	(63)	(88)	(53)	(68)	(47)	(97)	(62)	(57)	(67)	(59)	

所見 第 4号竪穴建物跡の出土土器は、晩期の第 8 群のほか、後期後葉の第 5～7 群がまどまって確認されている。これらの土器と遺構の形状から、本跡の時期は後期後葉と考えられる。

第 5 A・B 号竪穴建物跡 (第 31～39 図 PL 4・6)

位置 調査A区北西部のB 6 j3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2号遺物包含層 I - 2 層中で確認した。第 19号竪穴建物跡を掘り込み、第 4号竪穴建物に掘り



第31图 第5·19号竖穴建物跡实测图(1)

込まれている。第3・55号竪穴建物跡、第29号土坑と重複または隣接しているが、新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 壁は確認できなかったが、炉と弧状に巡る小ピット群、出入口ピットから、2回以上の建て替えが想定できる。第5A号建物跡はP55・P56を出入口部とし、炉1を伴うもので、出入口部を含めた南北軸は7.5m、東西軸6.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-0°と推測できる。第5B号建物跡は、P53・P55を出入口部とし、炉2を伴うもので、出入口部を含めた南北軸は7.7m、東西軸は6.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-27°-Wである。第5A号建物跡と第5B号建物跡の新旧関係は捉えることができなかった。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 床面のほほ中央部で、2か所の火床面を確認した。炉1は長径98cm、短径68cmの楕円形で、15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。いずれも炉底面は火熱を受け赤変硬化している。炉1・炉2の新旧関係は捉えられなかった。

炉1土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・灰・骨粉少量、炭化粒子微量 | 6 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・灰微量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土ブロック・灰中量、ロームブロック少量、炭化粒子・骨粉微量 | 7 にごり褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・灰微量 |
| 3 にぶい棕色 | 焼土ブロック・灰中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 明赤褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子・骨粉微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・灰微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量、灰ブロック・ローム粒子・骨粉少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 11 橙褐色 | ローム粒子ブロック多量 |

炉2土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 橙褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 63か所。P1～P34・P61・P62は、位置と形状から壁柱穴である。東側のピット列P1～P15に比べて西側のピット列P16～P34のほうが径が小さいのは、西側のピット列の確認面が床面からやや下がった位置だったため、本来的にはP1～P15と同様の規模があったものと推測できる。P53～P56が出入口ピットで、P55・P56とP53～55が組み合うものと想定され、第5B号のP53～P55は第5A号のP55・P56に対し、約27度西に振れている。主柱穴は、位置や深さからP37・P38、P10・P41、P45、P49・P51などが該当するが、第5A号建物跡と第5B号建物跡のそれぞれの配置については明らかにすることができなかった。また壁柱穴の中にも深さがあるものがあり、主柱穴的な機能を有する可能性もある。

P1土層解説

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |

P7土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 |

P3土層解説

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、骨粉微量 |

P10～P12土層解説

- | | |
|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

P4土層解説

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・灰微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量 |

P14土層解説

- | | |
|--------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |

P5・P6土層解説

- | | |
|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、白色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |

P22・P47・P48土層解説

- | | |
|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|---------|

P 24・P 49 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

P 31 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

P 35・P 36 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

P 37 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

P 38 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、白色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

P 41 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

P 43・P 44 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

P 45 土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P 46 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

P 53 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

P 57 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量

P 58・P 59 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	37	(99)	58	56	(92)	(42)	53	27	24	112	17	16	20	47	40	(46)	30	35	(34)	(60)	(60)
番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
深さ	(65)	(58)	15	(39)	39	(44)	(35)	(38)	(45)	(74)	(92)	-	91	(87)	(44)	(79)	(66)	(35)	(54)	(65)	(44)
番号	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
深さ	23	26	45	48	(31)	(42)	(99)	(44)	(66)	19	20	43	(48)	-	48	34	52	(42)	(30)	(36)	99

覆土 8層に分層できる。焼土ブロックや炭化物が含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。覆土上層から焼土がブロック状に、また炭化物を多く含む層が帯状に確認されている。特に東部で確認できた炭化物層は、壁際に堆積しているようにも見え、壁材等が炭化したものの可能性もある。第9層はP 52の覆土、第10・11層はP 63の覆土である。

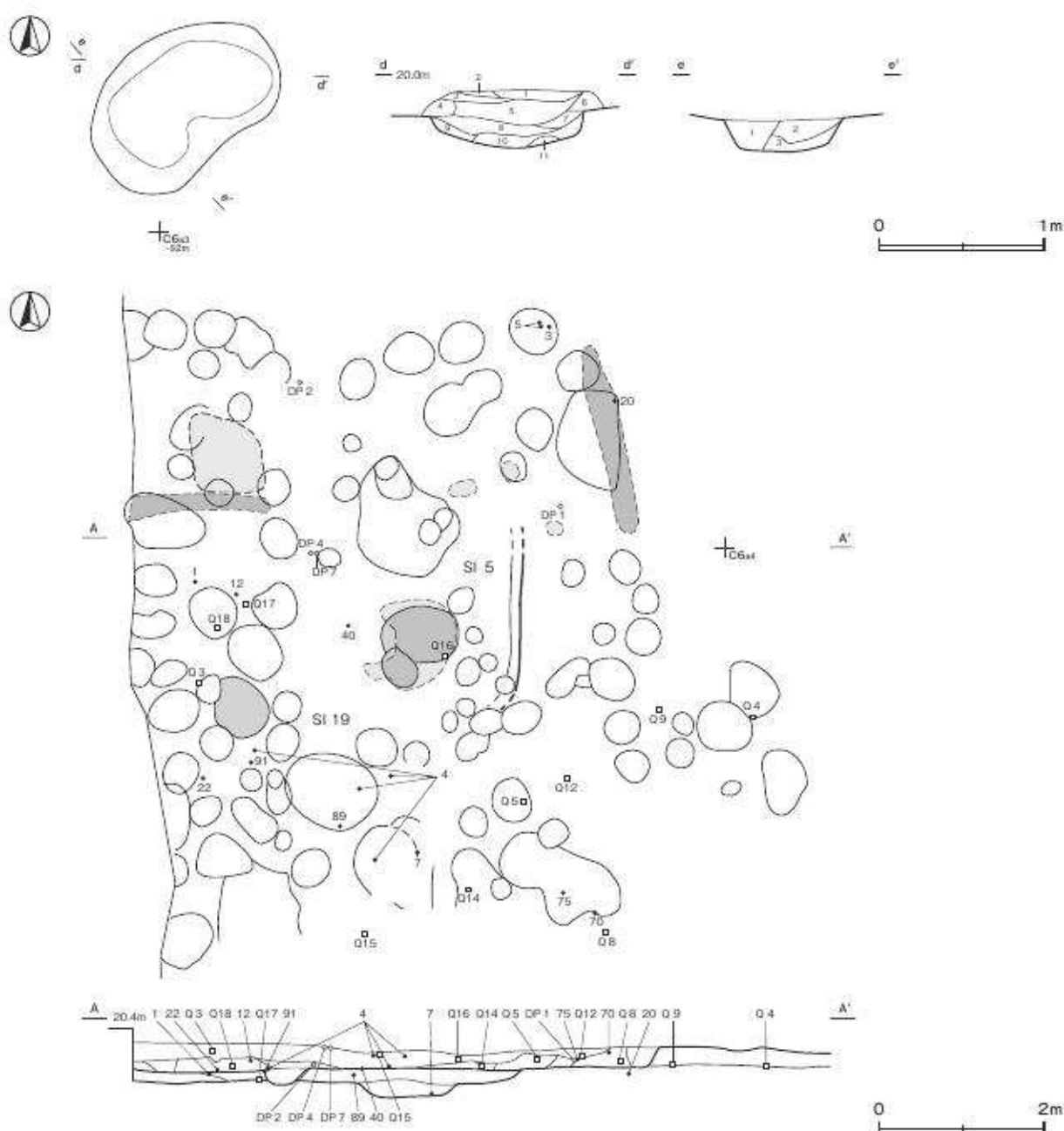
土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 5,972点 (296.7kg)、土製品 17点 (土器片円盤4、耳飾り3、土偶9、貝輪状1)、石器・石製品 53点 (石鏃1、磨製石斧2、打製石斧1、石皿類5、磨石類26、石錘2、礫器1、砥石7、石棒・石剣類8)のほか、焼成粘土塊3点、発泡体8点、石核6点 (チャート)、剥片16点 (黒曜石10、チャート6)、原石7点 (チャート6、翡翠1)、獣骨片 250.51 g、鹿角片 10.08 gが出土している。P 9の覆土中

からは、オオタニシヤ、マツカサガイ、ヤマトシジミの細片が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、時期的なまとまりが見られるのは第3群（後期初頭）14.3%、第4群（後期前葉）18.4%、第5群（後期中葉）15.5%、第6・7群（後期後葉）28.2%、第8群（晩期前葉～中葉）8.0%である。3・5はP4の底面付近から出土した。またDP1は、本跡から出土した頭部と重複する第19号竪穴建物跡から出土した胴部～脚部が接合したものである。

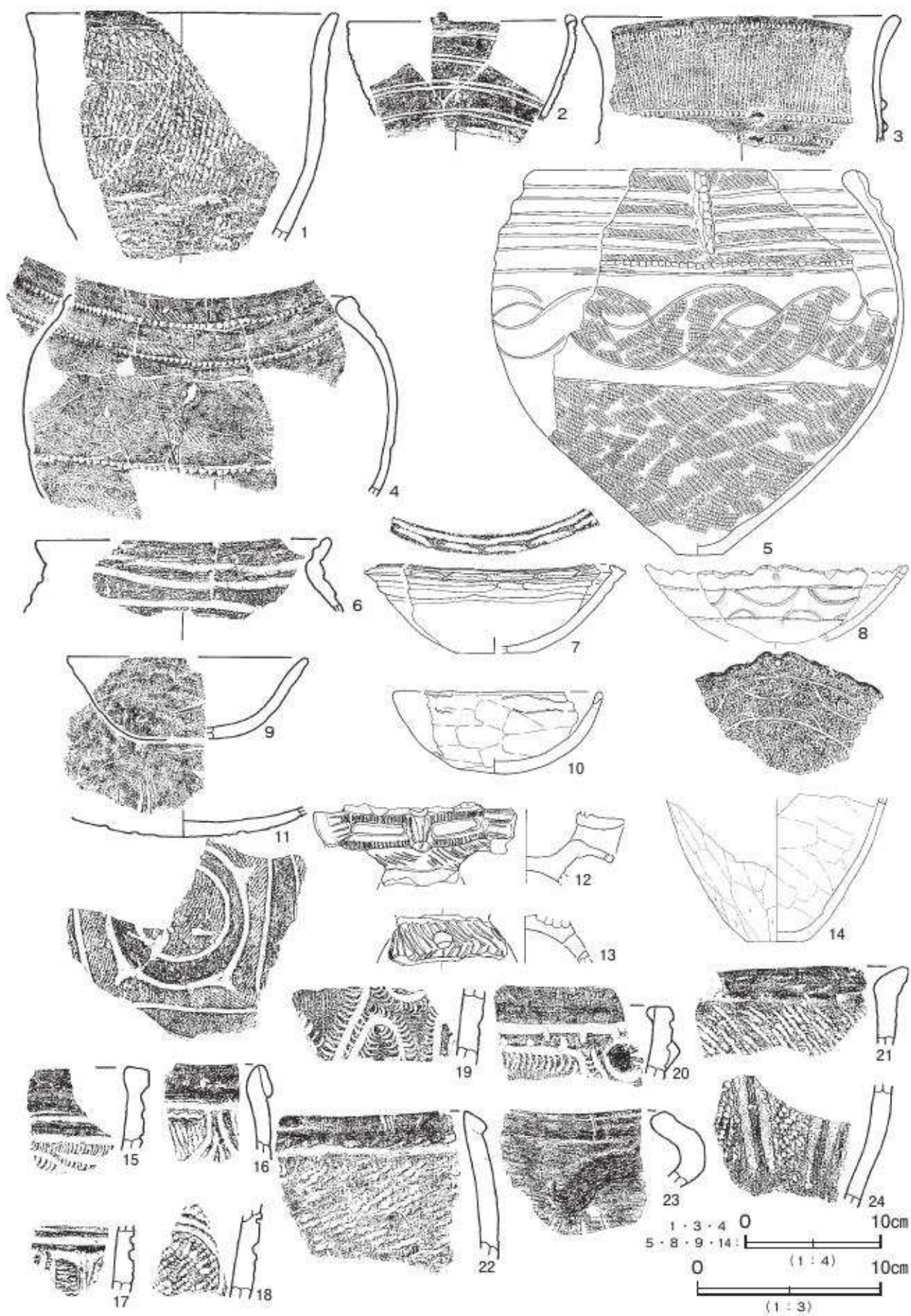
所見 壁柱穴が重複する部分が見られないことから、壁は大きく変更せず、出入口部と支柱穴を付け替えて建て替えをおこなったものと考えられる。掘方が明確でないため、それぞれに詳細な時期を判断することは困難であるが、出土土器や形状から、後期後葉安行1式から晩期中葉安行3c式と考えられる。



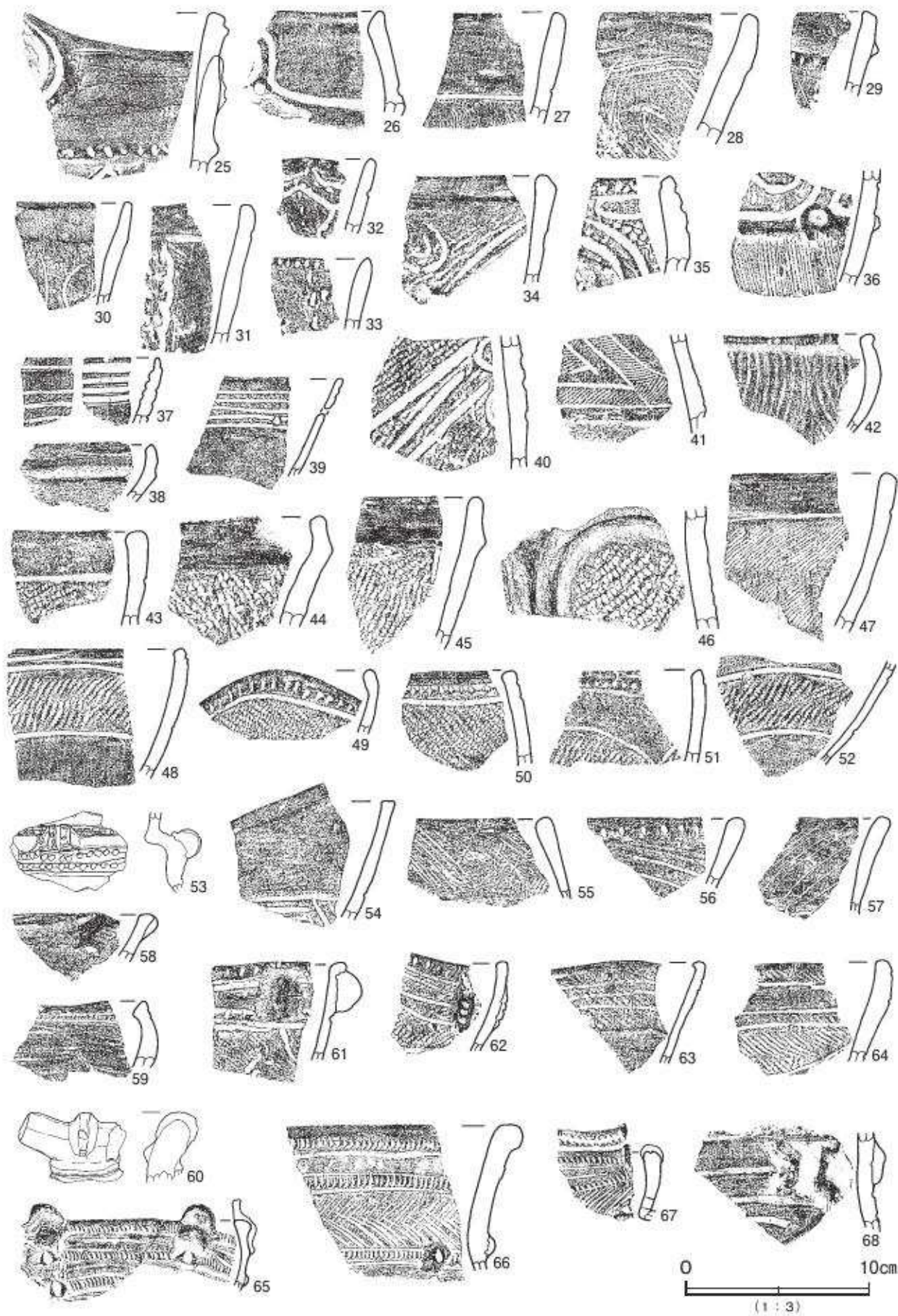
第32図 第5・19号竪穴建物跡実測図(2)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33～39図)

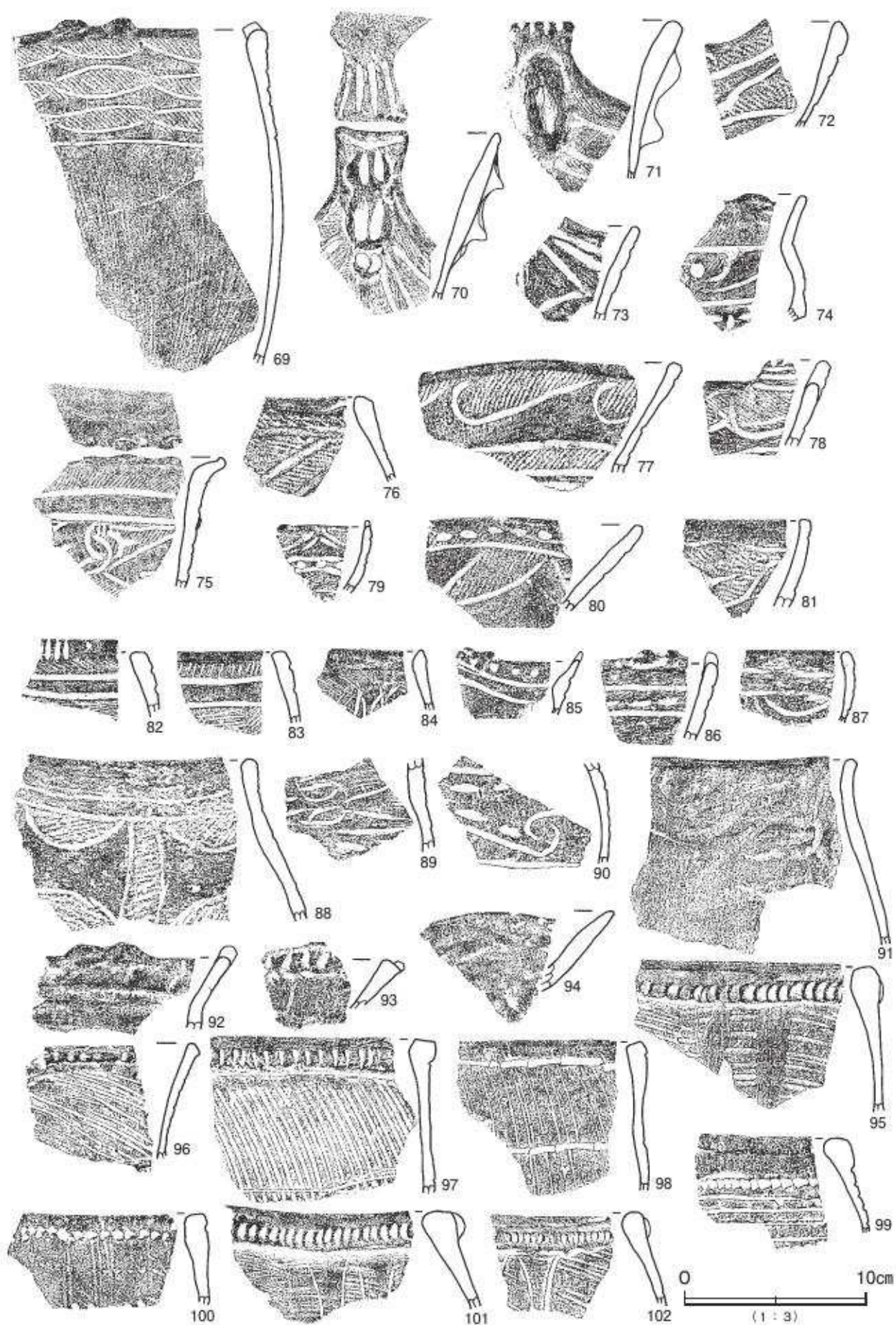
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[22.6]	(16.8)	—	珧・石英・雲母・絶乾子	にぶい橙	普通	外面無飾L	覆土下層	10%
2	縄文土器	壺	—	(12.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面L線部沈線→LR縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土上層	10%
3	縄文土器	台付鉢	[22.9]	(9.4)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面条線→沈線→刻み→粘貼付 内面磨き	P 4	10%
4	縄文土器	深鉢	[21.0]	(14.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→刻み→RL縄文 内面ナデ一部磨き	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	[23.0]	(29.0)	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ一部磨き	P 4	70% PL27
6	縄文土器	法口壺	[15.8]	(4.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中	5%
7	縄文土器	浅鉢	[12.6]	4.9	[4.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面磨き	覆土下層	30% PL36
8	縄文土器	浅鉢	[18.6]	(5.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	山形突起・風線文 内面磨き	覆土上層	20% PL36
9	縄文土器	浅鉢	[17.4]	6.1	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中	3% 基部一部磨
10	縄文土器	浅鉢	[11.4]	4.5	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	40% PL28
11	縄文土器	浅鉢	—	(1.5)	—	珧・石英・雲母・絶乾子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 13	5%
12	縄文土器	黄形台付	—	(4.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ	覆土下層	2% 基部一部磨
13	縄文土器	黄形台付	—	(2.6)	—	長石・石英	橙	普通	透かし孔4か所 内面ナデ	覆土下層	10%
14	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	4.8	珧・石英・雲母・絶乾子	橙	普通	外面削り 内面ヘラ状工具によるナデ	覆土下層	10%
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面刻み→沈線 内面ナデ	覆土中	—
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面無飾L縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	—
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面刻み→沈線 内面磨き	覆土下層	—
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面RL縄文→竹管文 内面ナデ	覆土下層	—
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面爪形文→沈線 内面ナデ	覆土下層	—
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→交互斜突文・爪形文 内面磨き	覆土下層	—
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面無飾L縄文 内面ナデ	床面	—
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面無飾L縄文 内面ナデ	覆土下層	—
23	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯筋貼付の風線文 内面磨き	覆土上層	—
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面RL縄文→沈線磨き 内面磨き	覆土下層	—
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面L線部C字状貼付文 磨き 内面ナデ	覆土下層	—
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面L線部C字状貼付文 ナデ 内面磨き	覆土下層	—
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	—
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	—
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面L線部縦線貼付 胴部格子目文 内面磨き	覆土下層	—
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L線部横文帯 内面磨き	覆土上層	—
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面竹管によるコンパス文 内面L線部磨き 胴部ナデ	覆土下層	—
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面斜突文充填 内面ナデ	覆土下層	—
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ハの字状斜突文 内面磨き	覆土上層	—
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無飾L縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	—
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	橙	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	—
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋→沈線→櫛歯状工具による条線文 内面磨き	覆土下層	—
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	—
38	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面L線部磨き 胴部削り 内面磨き	覆土中	—
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	覆土中	—
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	—
41	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土上層	—
42	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面集合沈線文 内面磨き	覆土上層	—
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明 褐	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土上層	—
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無飾R縄文 内面ナデ	覆土下層	—
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	—
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい褐	普通	外面RL縄文→隆起帯筋磨き 内面磨き	覆土下層	—
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面RL縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	—
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	—
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	—
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	—
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中層	一部発泡化
52	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	—
53	縄文土器	壺	—	—	—	長石・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→斜突文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	—
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面胴部斜線文 内面磨き	覆土上層	—
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→LR縄文 内面ナデ	覆土下層	—
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	珧・石英・雲母・絶乾子	橙	普通	外面ナデ→条線→刻み 内面ナデ	覆土上層	—
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ→条線 内面磨き	覆土下層	—
58	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面L線部粘貼付 内面磨き	覆土下層	—
59	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土下層	—
60	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波状L線部頂部突起 内面ナデ	覆土下層	—
61	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	—
62	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→沈線→刻み・粘貼付 内面磨き	覆土下層	—
63	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	—
64	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	二次焼成
65	縄文土器	台付鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	—
66	縄文土器	台付鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面矢羽状沈線→横位沈線→刻み→粘貼付 内面磨き	覆土下層	—



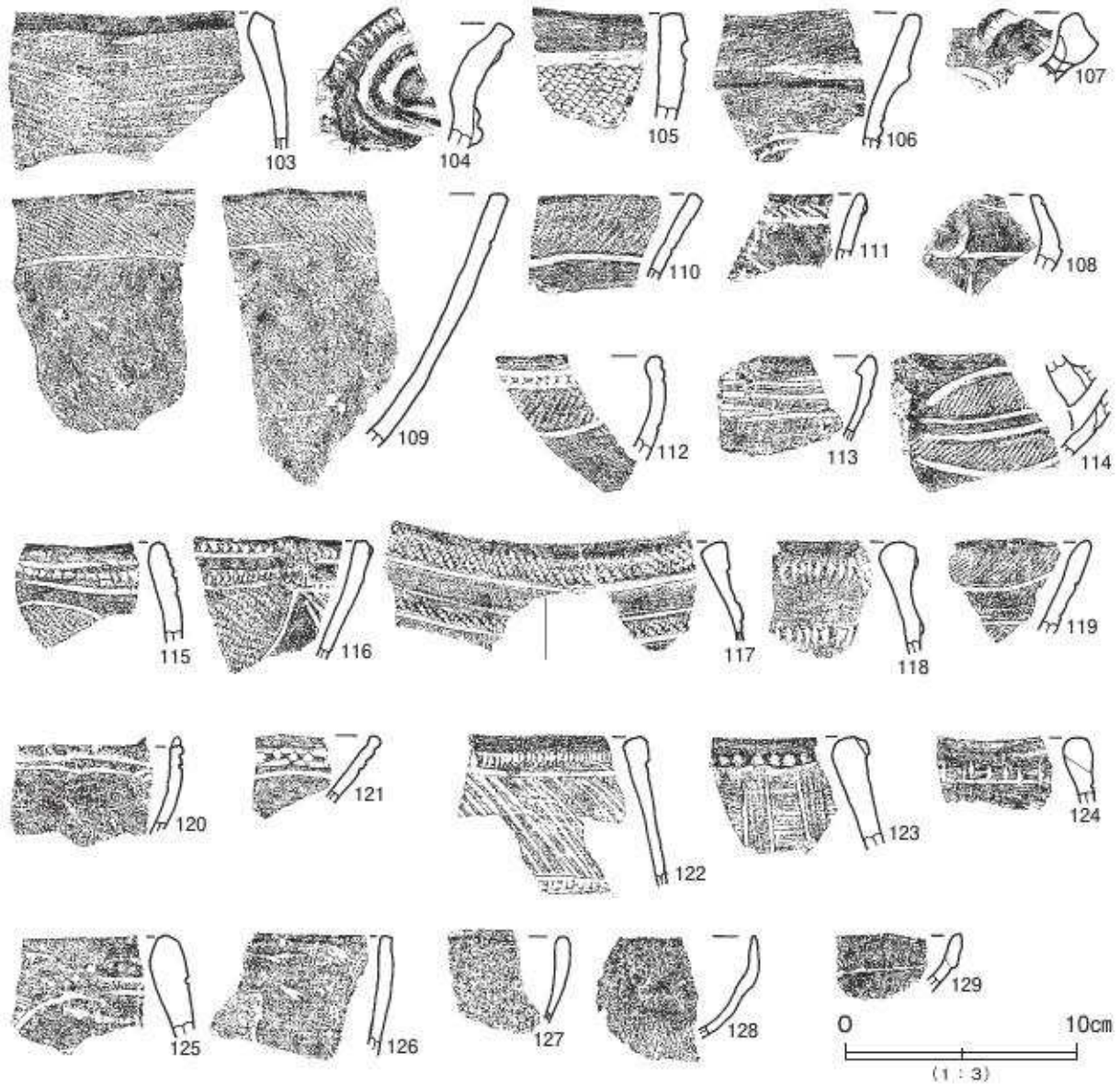
第33图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第34图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



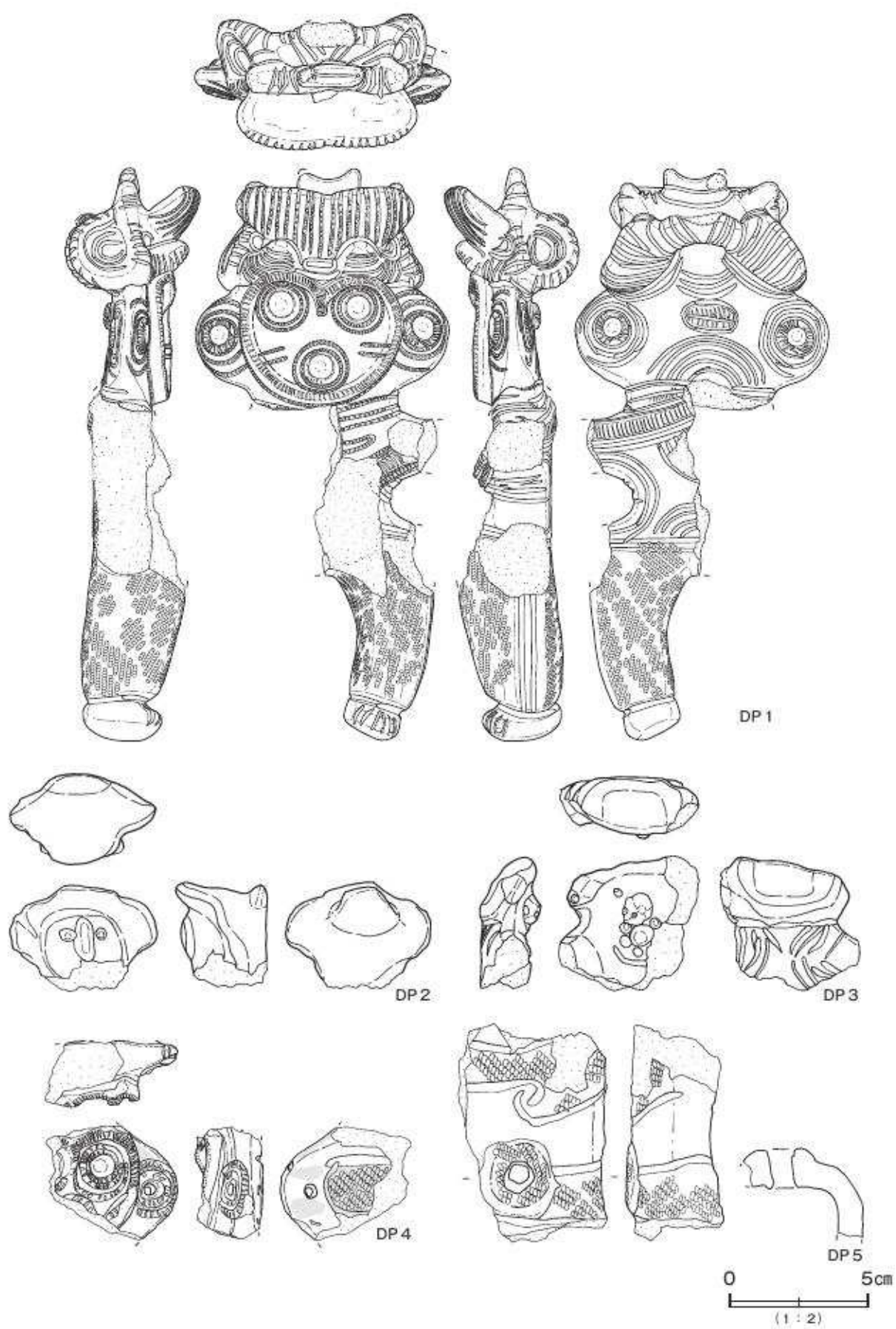
第35图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)



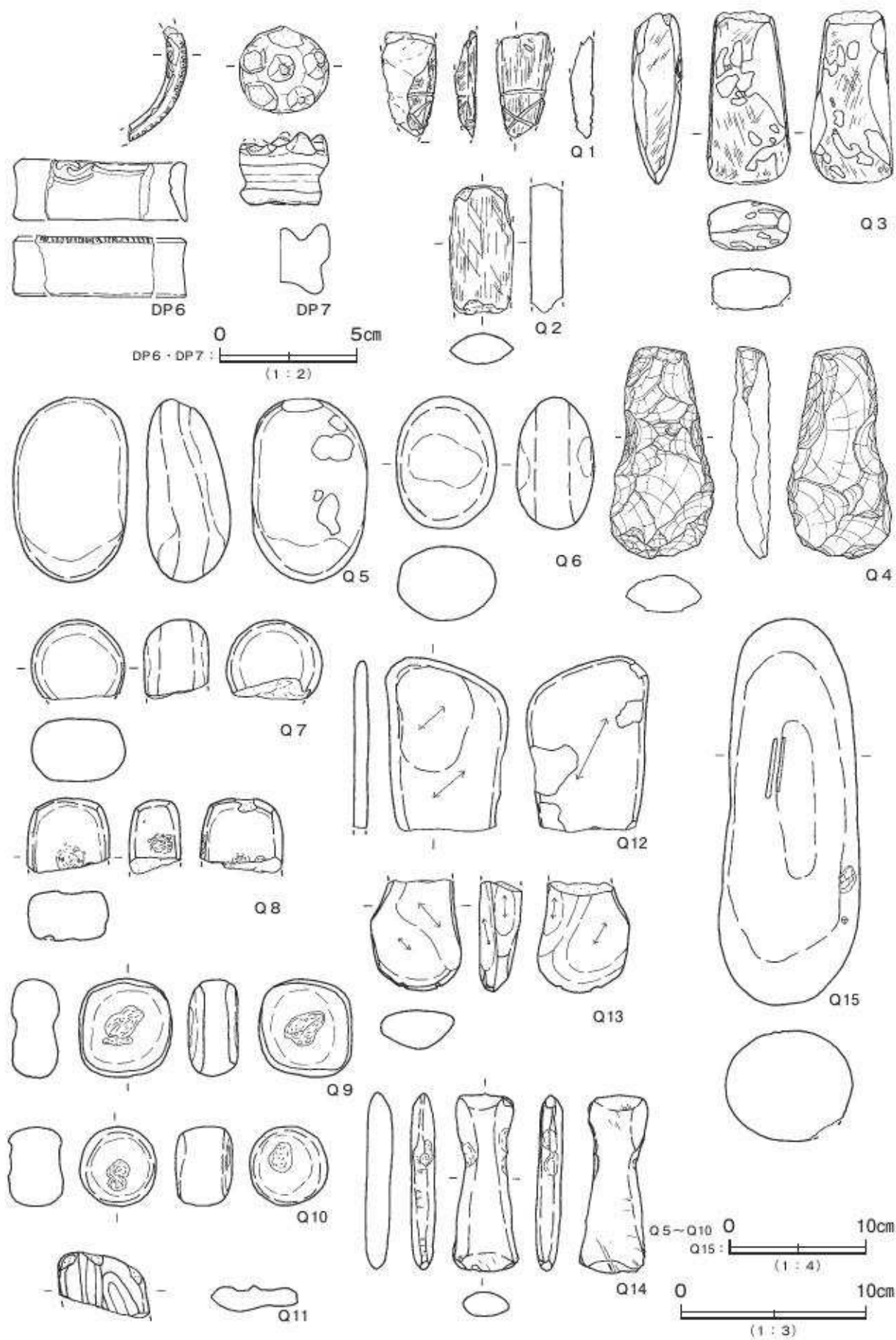
第36図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33～39図)

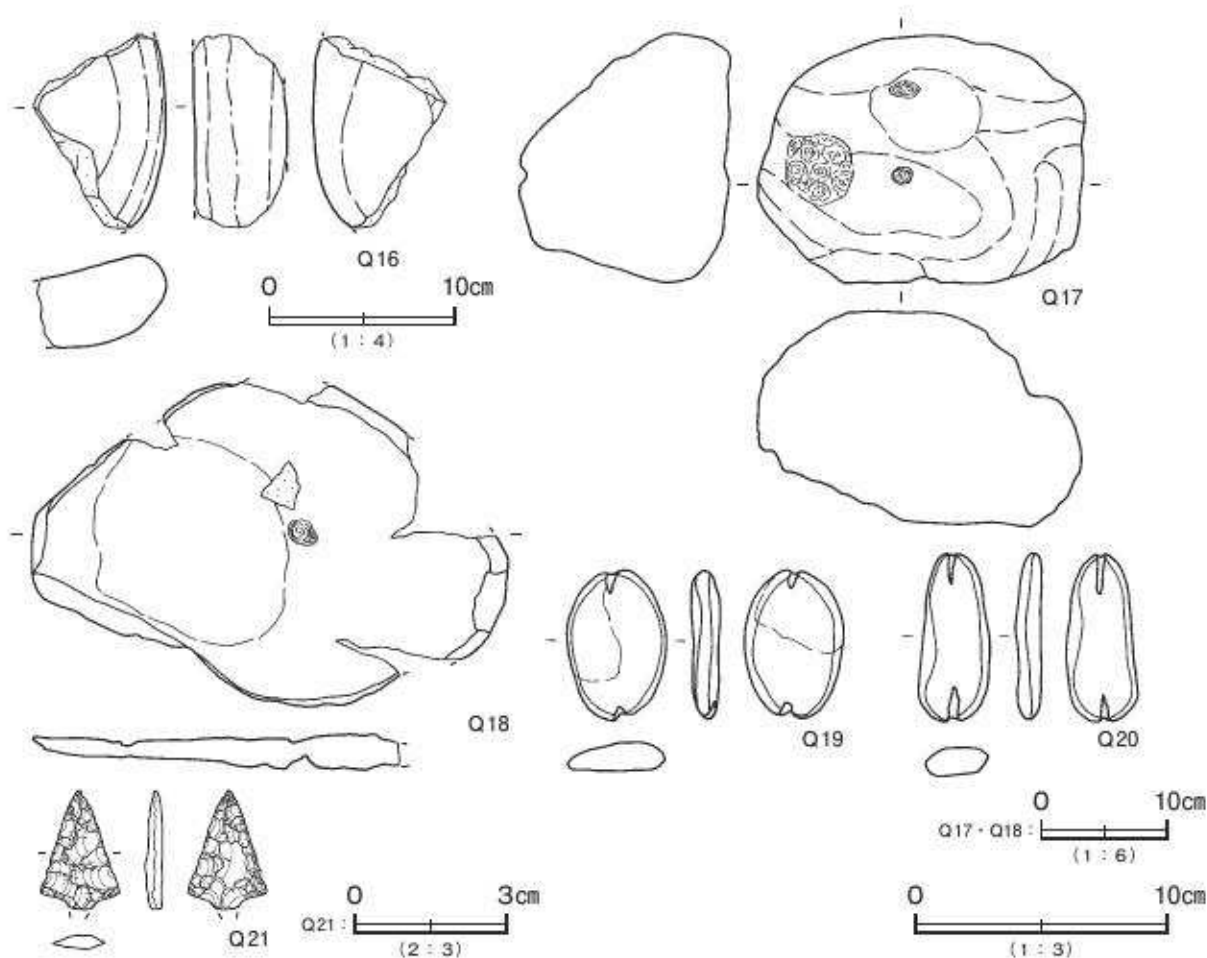
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	縄文土器	甕形台付	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→沈線→器入 口唇部沈線→刻み 内面磨き	覆土中	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面ナデ→箱筋付→沈線 内面ナデ	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・硝・粘石	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・硝・粘石	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→磨き 内面磨き	覆土下層	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
75	縄文土器	鉢	-	-	-	胎・灰・硝・粘石	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→RL 縄文→沈線 内面磨き	覆土中	
77	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土上層	
80	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・硝・粘石	灰 褐	普通	外面沈線→縦密沈線文→ナデ 内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→縦密沈線文→磨き 内面ナデ	覆土上層	



第37图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



第 38 図 第 5 号 壑 穴 建 物 跡 出 土 遺 物 実 測 図 (6)



第39図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33~39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄橙	普通	外面ナデ→細密沈線文 内面ナデ	覆土上層	
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面刺突文・B突起 内面磨き	覆土下層	
86	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部B突起 内面ナデ	覆土上層	二次焼成
87	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色矽子	橙	普通	外面沈線刺突文 内面ナデ	覆土下層	二次焼成
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	PL36
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面稲妻状区画文 内面ナデ	覆土下層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 褐	普通	外面ステッキ伏入組文 内面磨き	覆土中	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土下層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部山形突起 内面ナデ	覆土上層	二次焼成
93	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面に斜み 内面磨き	覆土上層	
94	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→縦線貼付→環状の磨き 内面口縁部磨き 裏面ナデ	覆土上層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土下層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→押しきり文 内面ナデ	覆土上層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→刻み 内面ナデ	覆土下層	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→刻み 内面ナデ	覆土上層	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→環線文→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯上に斜み 内面磨き	P 4	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ一部磨き	P 7	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面文磨き 裏面管登式工具による才磨き 内面磨き	P 45	
107	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色矽子	橙	普通	口縁部突起 貫通孔1か所 内面磨き	P 59	
108	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面口縁磨き 胴部削り 内面磨き	P 19	
109	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文 胴部削り→粗い磨き	P 47	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 63	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・霏母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面に紐線貼付 沈線→RL縄文→磨き 内面ナデ	P 6	保
112	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・霏母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→刻み→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 58	
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面横位沈線 内面磨き	P 43	
114	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 51	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・霏母	灰褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→磨き 内面磨き	P 43	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→磨き 内面磨き	P 51	
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・霏母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 4	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・霏・蛇紋石	橙	普通	外面隆起帯上刻み→無文部磨き 内面ナデ	P 8	
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 13	
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁部外面横線文 内面磨き	P 45	
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面口縁部二溝間の痕痕 内面ナデ	P 48	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・霏母	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線文 内面磨き	P 11	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・霏・蛇紋石	橙	普通	外面条線→紐線貼付→沈線磨き 内面口縁部磨き 底部ナデ	P 9	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・霏母	にぶい赤褐色	普通	外面付点線文 内面磨き	P 4	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	P 50	
126	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削離 内面ナデ	覆土上層	IC1類
127	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削離 内面ナデ	覆土上層	IC2類
128	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面指頭ナデ	覆土上層	ICB類
129	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面指頭ナデ	覆土中層	ICB類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	20.3	8.9	4.9	(314.6)	長石	橙	ミミズク 沈線内に細かい刺突文 脚部RL縄文	覆土下層	3a類 赤彩 PL39
DP 2	土 偶	(3.8)	5.3	3.2	(43.0)	長石・石英	にぶい赤褐色	山形 表裏面ナデ	覆土下層	2a類
DP 3	土 偶	(4.3)	(5.0)	2.2	(35.6)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	板状。裏面に縦線文	覆土下層	4e類 PL39
DP 4	土 偶	(4.0)	(4.7)	2.5	(32.5)	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	ミミズク 隆起上・溝底に刺突文 裏面RL縄文	覆土上層	3a類
DP 5	土 偶	(7.7)	(5.4)	(3.6)	(76.7)	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	中空 沈線→RL縄文→磨き 彫刻土製品の可能性あり	覆土下層	5c類 PL39
DP 6	耳飾り	径6.3	-	2.1	(6.7)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	外・内面磨き	覆土上層	V類
DP 7	耳飾り	径3.2	-	2.6	25.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	臼型で上面に突起文 表裏面ナデ	覆土上層	II 2類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	6群・石製	(5.7)	(3.0)	(1.2)	(21.8)	粘板岩	石刻 先端部に文様 表裏面研磨整形	覆土下層	
Q 2	6群・石製	(7.0)	3.4	1.7	(66.8)	結晶片岩	石刻 表裏面研磨整形	覆土上層	
Q 3	磨製石斧	(9.2)	4.5	2.6	(188.1)	輝緑岩	定角式 表裏面研磨整形	覆土上層	
Q 4	打製石斧	11.4	5.7	2.1	153.1	ホルンフェルス	撥形	覆土下層	PL45
Q 5	磨石類	13.4	8.3	6.1	988.6	安山岩	表裏面光沢のある磨り面	覆土中層	1a類
Q 6	磨石類	9.6	7.2	5.5	579.0	輝石安山岩	表裏面の一部を使用	覆土上層	1a類
Q 7	磨石類	(5.8)	6.8	4.7	(298.7)	凝灰岩	表裏面光沢のある磨り面	覆土上層	撥熱 1a類
Q 8	磨石類	(5.4)	5.9	3.7	(204.3)	安山岩	表裏・側面に凹痕	覆土下層	2d類
Q 9	磨石類	5.1	6.7	3.6	269.1	アイサイト	表裏面に磨り痕と凹痕	覆土下層	2d類
Q 10	磨石類	5.8	5.5	4.1	177.2	安山岩	表裏面に磨り痕と凹痕	覆土上層	2c類
Q 11	砥石	(3.4)	5.0	1.3	(19.6)	砂岩	表面に溝状の砥面あり	覆土上層	4類
Q 12	砥石	(9.4)	6.6	0.7	(76.4)	砂岩	全面使用	覆土上層	撥熱 2類
Q 13	砥石	(6.0)	4.8	2.2	(78.3)	砂岩	全面使用	覆土上層	3類
Q 14	砥石	9.6	3.1	1.4	44.4	砂岩	全面使用	覆土下層	4類 PL48
Q 15	石皿類	28.3	10.4	8.1	(361.2)	安山岩	中央部に2条の筋状の砥面	覆土上層	撥熱 3類
Q 16	石皿類	(10.3)	(7.0)	5.0	(362.4)	安山岩	表裏面磨り面	覆土上層	撥熱 1類
Q 17	石皿類	26.1	19.7	16.7	13,480	閃緑岩	表面に磨り面と凹痕	覆土下層	2類
Q 18	石皿類	37.8	(25.9)	2.8	(3,070)	安山岩	使用による摩耗	覆土下層	2類
Q 19	石 錘	5.9	3.95	1.1	36.8	輝石安山岩	長軸に切り目	覆土下層	塚付着 2類
Q 20	石 錘	6.65	2.8	1.1	30.1	緑色岩	長軸に切り目	覆土上層	2類
Q 21	石 織	(2.38)	1.57	0.36	(1.0)	チャート	有茎 基部欠損	覆土下層	PL47

第19号竪穴建物跡（第31・32・40・41図 PL 4・8）

位置 調査A区西部のB 6j2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層Ⅰ-2層下で確認した。第2号遺物包含層Ⅱ層を掘り込み、第4・5号竪穴建物、第29号土坑に掘り込まれている。第55号竪穴建物跡との新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 東壁の一部を確認したのみで、炉と弧状に巡る小ピット群、出入口ピットから推定した。西部が調査区域外となること及び南部が第4号竪穴建物跡に掘り込まれていることから、出入口部を含めた南北軸は7.7mで、東西軸は4.8mしか確認できなかった。円形あるいは隅丸方形の平面形で、炉と出入口ピットを通

る主軸方向はN-30°-Wと推測できる。壁は高さ20cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 出入口部寄りの位置で確認した。長径80cm、短径58cmの楕円形で、12cmほど掘りくぼめた地床炉である。焼土ブロックや灰を伴うものの、火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 31か所。P1～P23は、位置と形状から壁柱穴である。第5号竪穴建物跡に帰属するP15～P18も、本跡の壁柱穴となる可能性もある。P29・P30が形状と位置から出入口ピットと推定される。P25・P28が、位置と深さから主柱穴と考えられる。

P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

P4～P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量

P15・P16土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

P21土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P22土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

P23・P24土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

P30土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P31土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
深さ	12	73	39	47	23	29	41	16	23	25	50	16	50	22	19	62	34	34	40	53	39	87	14	39	62	28	24	56	38	21	72

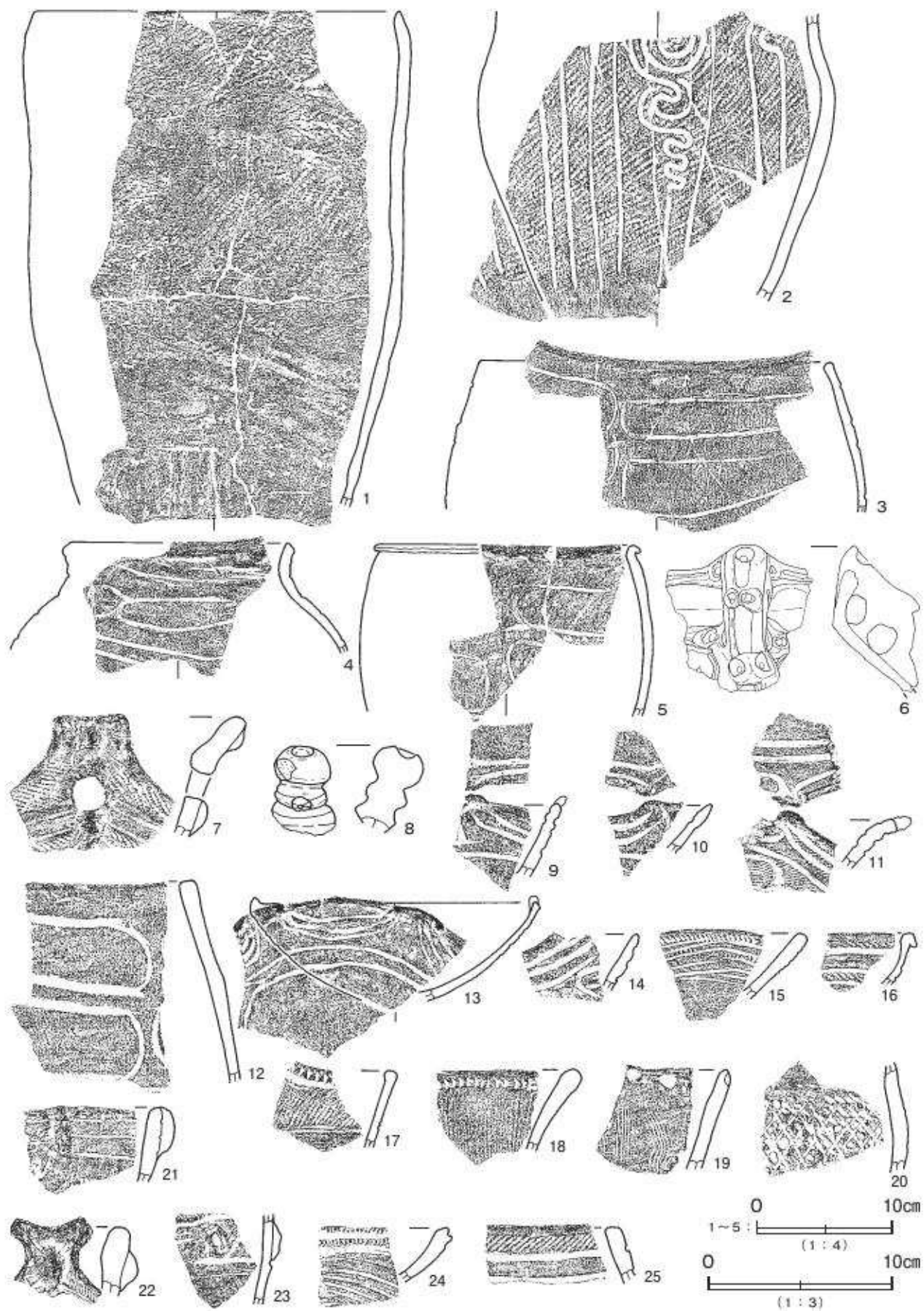
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。第4層はP12の覆土である。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

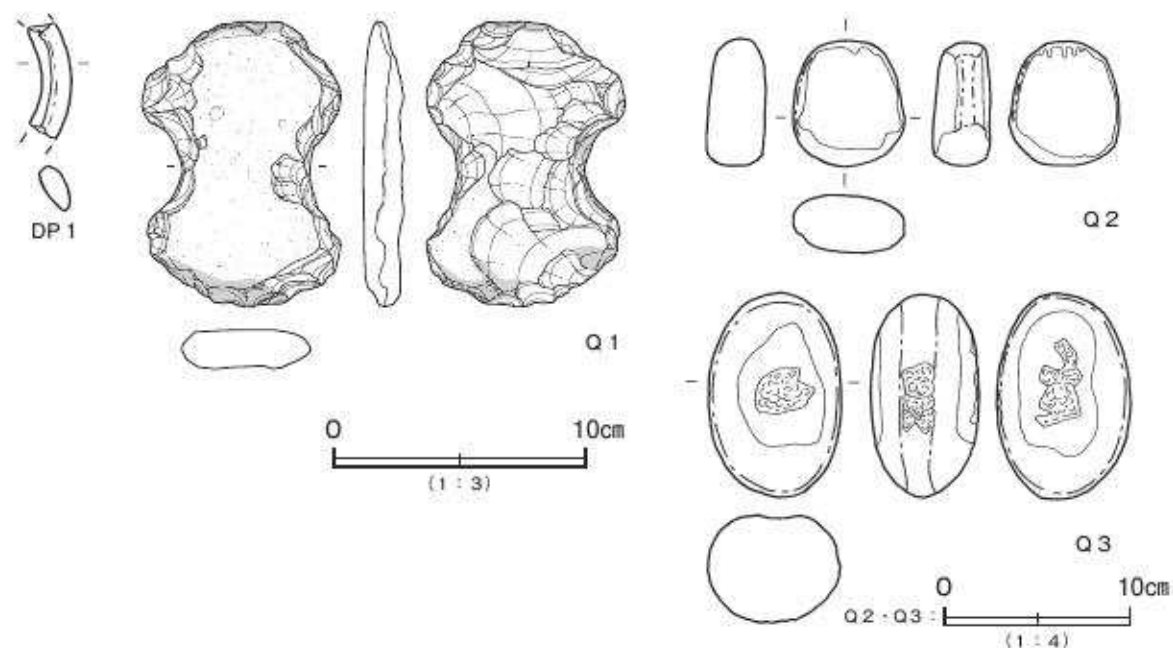
遺物出土状況 縄文土器片1,311点(22,24kg)、土製品5点(土器片円盤3、貝輪状2)、石器・石製品5点(磨製石斧1、打製石斧2、磨石類2)のほか、焼成粘土塊2点、剥片6点(チャート4、黒曜石2)が出土している。土器は中期前半から晩期中葉まで出土しているが、多いのは第3群(称名寺式)19%、第4群(堀之内式)23.5%である。後期後葉から晩期にかけては、第6～10群合わせて25%である。

所見 ほぼ真北に向かって確認できる壁や、その他の弧状に巡るピット群からは、上記以外の建物跡が存在した可能性もある。時期は、出土土器と形状及び重複関係から後期前葉から後葉と考えられる。重複している第5号竪穴建物跡とほとんど時間差が見られないことから、本跡の廃絶後、大きく時を開けずに、やや位置をずらして第5号竪穴建物が構築されたものと考えられる。本跡から出土した晩期中葉の土器群は、第5号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。また比較的大形の破片を含む第3・4群の土器群が一定量存在することから、



第40図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

本跡の構築以前に該期の遺構が存在した可能性もある。



第41図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表(第40～41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.0]	(36.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文 結節あり 内面ナデ	覆土中	20%
2	縄文土器	深鉢	-	(21.2)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面LR縄文→沈線文 内面ナデ	覆土中	20%
3	縄文土器	深鉢	[25.4]	(11.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面杵状文 内面ナデ	覆土中	20%
4	縄文土器	広口壺	[16.0]	(8.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面杵状文 内面ナデ 口縁部一部磨き	覆土中	20%
5	縄文土器	深鉢	[18.7]	(12.5)	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面杵状文 粗い磨き 内面ナデ	覆土中	10%
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・當母	橙	普通	把手部 寓文連続沈線文 外面磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面隆帯脇沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部突起 外・内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土・赤・黒・砂子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外・内面磨き 内面に弧線文	覆土中	
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土・赤・黒・砂子	橙	普通	外面沈線→無節L縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	杵状文 内面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	浅鉢	[15.8]	(5.8)	-	胎土・赤・黒・砂子	明 褐	普通	4単位 波頂部に鉢巻状貼付文 内面磨き	覆土中	30%
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面三叉状入組文 内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・當母	赤 褐	普通	外面斜沈線→刻み 内面ナデ	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆帯脇沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 4	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→刻み・LR縄文→磨き 内面磨き	P 4	
18	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面刻み→条線 内面磨き	P 4	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面櫛歯状工具による条線文 内面磨き	P 2	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面RL縄文→格子目文→磨き 内面磨き	P 28	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面ナデ 口縁部にLR縄文 内面磨き	P 28	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面磁貼付 隆帯上刻み 内面磨き	P 28	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面磨き	P 28	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐 灰	普通	外面口縁部沈線文と刻み 彫部条線 内面磨き	P 31	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 31	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	貝輪状	(4.6)	1.7	1.8	(11.9)	長石・石英	にぶい黄褐	へら状工具によるナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打製石斧	11.3	7.9	1.6	191.1	安山岩	分銅形 下端部に擦痕	覆土中	披熟 PL45
Q 2	磨石類	6.5	5.8	3.0	152.7	輝石安山岩	表裏面研磨	覆土中	1d類
Q 3	磨石類	10.6	7.0	5.6	556.1	輝石安山岩	表裏面研磨 表裏・側面に凹痕	覆土中	2a類

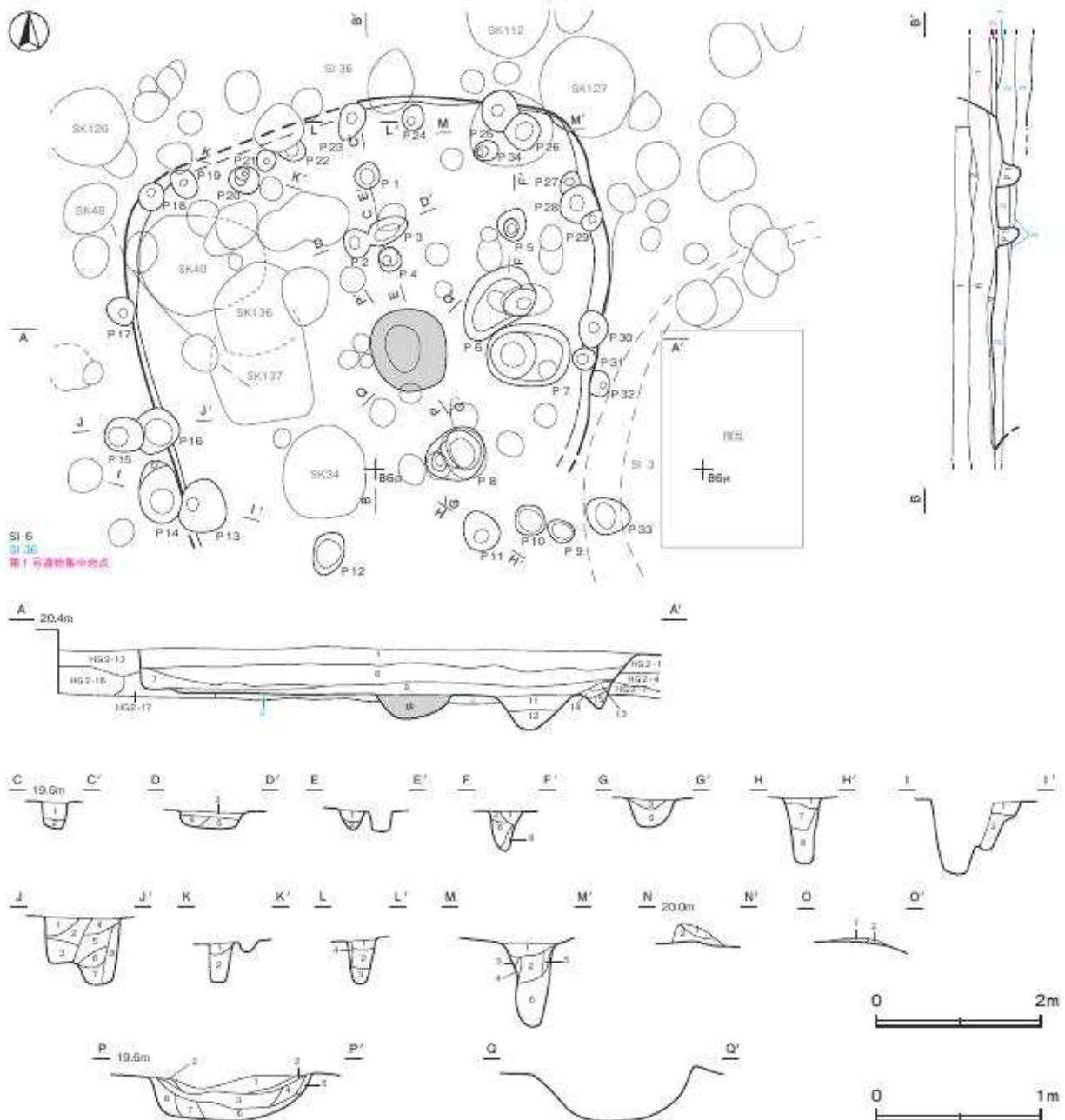
第6号竖穴建物跡 (第42～57図 PL 6)

位置 調査A区北西部のB 6 i2区。標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第36号竖穴建物跡、第40・136・137号土坑を掘り込み、第34号土坑に掘り込まれている。第127号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第2号遺物包含層を掘り下げ中に、焼土が帯状に方形に巡るように分布する状況が確認でき、精査したところ壁とピット、炉跡が確認できた。南部の掘り込みが不明瞭であるが、東西軸は5.90 mで、南北軸はピットの位置から、約5.7 mと推測できる。隅丸方形で、南北軸方向はN-17°-Wである。壁は高さ24～48cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。



第42図 第6・36号竖穴建物跡、第1号遺物集中地点実測図(1)

炉 中央やや南寄りに位置する。長径 100cm、短径 82cmの楕円形で、火床面までの深さが 40cmの地床炉である。掘方内には多量の灰を含む焼土が堆積している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 淡赤褐色 灰多量、焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量、灰中量、骨粉少量、炭化粒子微量 | 6 明黄褐色 ローム粒子多量 |
| 3 橙褐色 焼土粒子多量、灰ブロック少量 | 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量 | 8 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 34か所。P 5～P 8は、位置と深さから支柱穴である。出入口ピットは確認できなかった。P 9～P 12、P 17～P 32は、位置と形状から壁柱穴と考えられる。P 13～P 16は、壁際に位置するものの、他の壁柱穴に対して径が大きく深さもあることから、別遺構に伴う可能性がある。

P 1～P 5・P 8・P 11土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 8 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

P 20土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

P 23土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

P 13土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 26土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
- 3 淡赤褐色 灰多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 15・P 16土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	20	20	20	24	46	56	40	72	13	8	78	14	(62)	(92)	(59)	(88)	(40)
番号	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
深さ	(60)	(60)	(86)	(47)	(40)	(89)	(68)	(94)	(133)	(51)	(62)	(54)	(41)	(52)	(19)	(31)	(61)

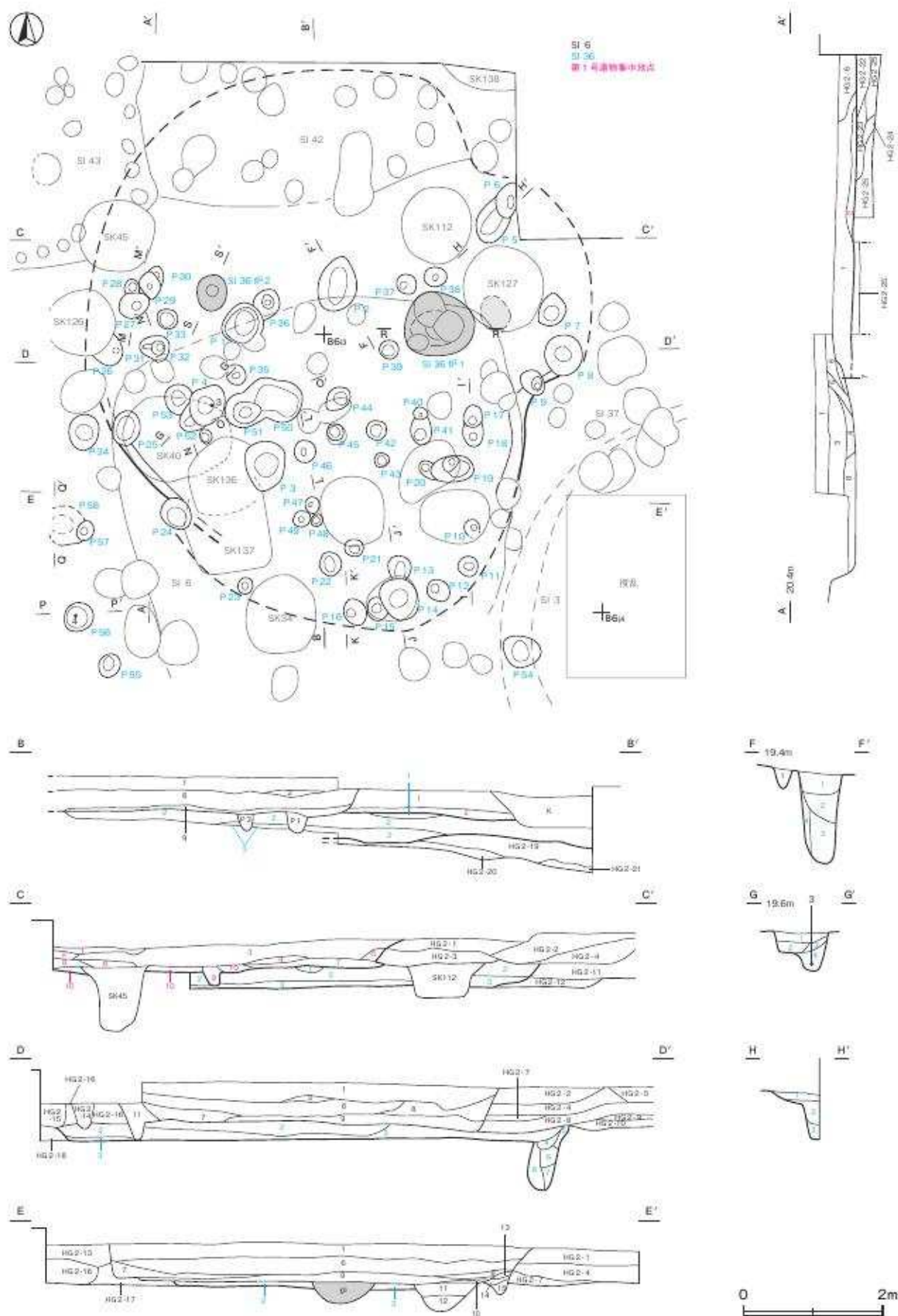
覆土 10層に分層できる。各層ともロームブロックや焼土粒子、骨粉が多く含まれ、また特に第1・6層では遺物が多量に含まれていることから、埋め戻されている。壁際の床面約5cm上では、焼土ブロックが多く含まれている第8層が堆積している。また北壁では、壁柱穴と焼土ブロックの間に炭化物を多く含む層が帯状に堆積しており、壁材等が炭化したものと考えられる。

土層解説

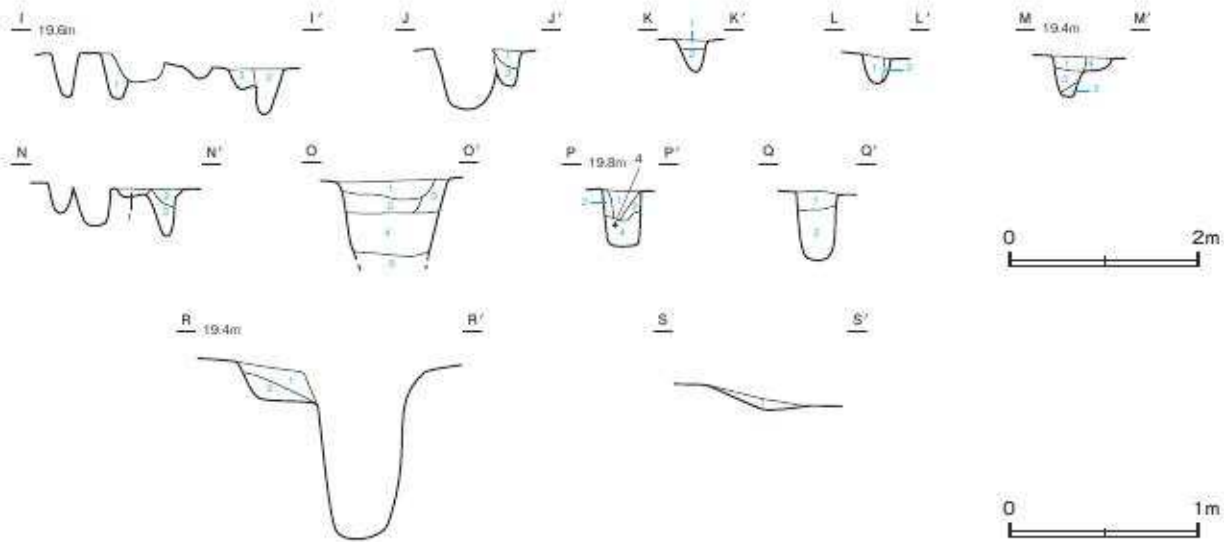
- | | |
|--------------------------------|---|
| 1 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 9 暗褐色 炭化物・ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・骨粉少量 | 10 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・骨粉微量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (P 7覆土) |
| 5 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量 | 12 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 (P 7覆土) |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 13 橙褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・灰少量、炭化粒子微量 (P 30覆土) |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、骨粉微量 | 14 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 (P 30覆土) |
| | 15 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 (P 30覆土) |

焼土土層解説 (第 44・45 図 N-N'、O-O')

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 | 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
|------------------------------|---------------------------|



第 43 图 第 6・36 号竖穴建物跡，第 1 号遺物集中地点実測図 (2)



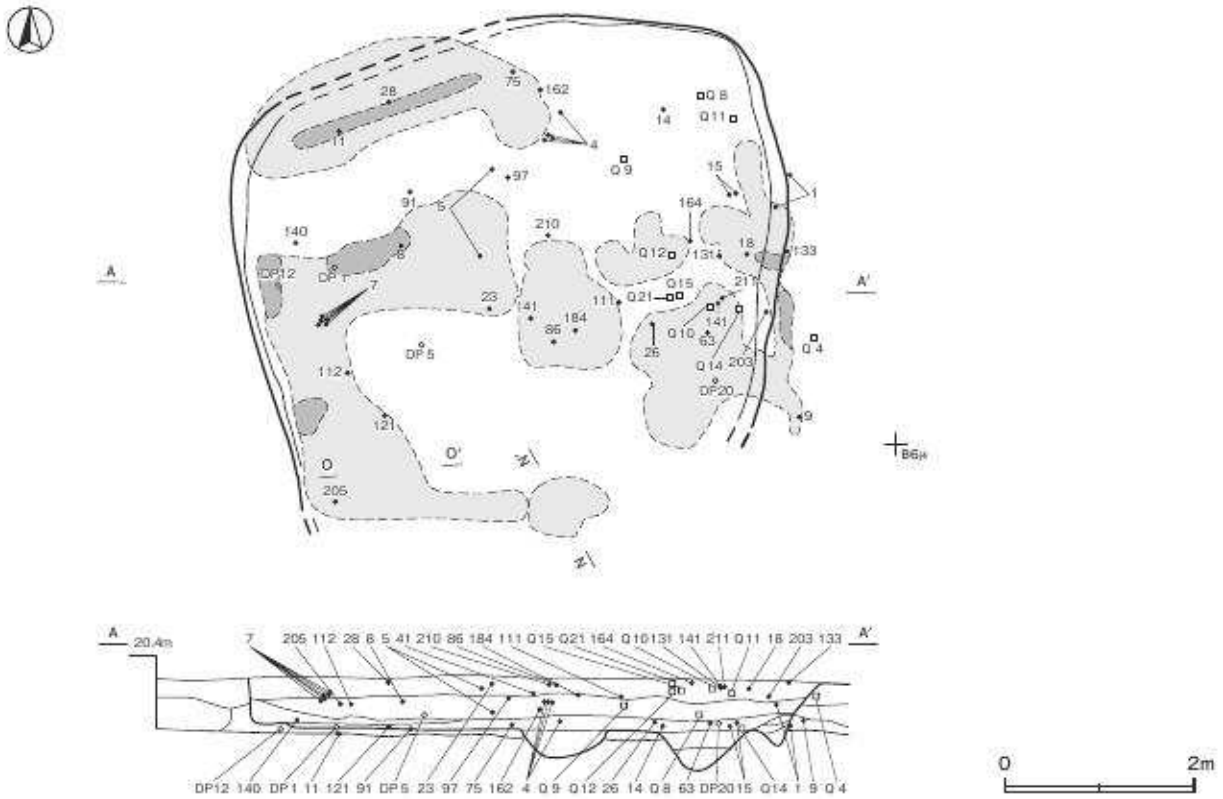
第44図 第6・36号竪穴建物跡、第1号遺物集中地点実測図(3)

遺物出土状況 縄文土器片 25,272点 (384.8kg)、土製品 33点 (土錘1、土器片円盤10、耳飾り8、土偶10、貝輪状4)、石器・石製品 72点 (石錐1、石鎌2、磨製石斧3、磨製石斧未成品1、打製石斧4、石皿類2、磨石類38、石錘6、砥石9、浮子1、石棒・石剣類5)のほか、焼成粘土塊8点、発泡体2点、石核14点 (チャート12、石英2)、剥片93点 (チャート47、黒曜石45、瑪瑙1)などが、出土している。また覆土中やP 8・P 28、炉跡内から、獣骨片や鹿角片が105.59g出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群 (後期前葉) 15%、第5群 (後期中葉) 38%と、第7群 (後期後葉) 25%である。復元可能な個体では、後期後葉の安行2式に比定できるものが多い。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、後期後葉の安行2式期と考えられる。床面のやや上位から焼土ブロックが出土していること、壁材の炭化痕跡が認められることから、焼失建物跡と考えられる。

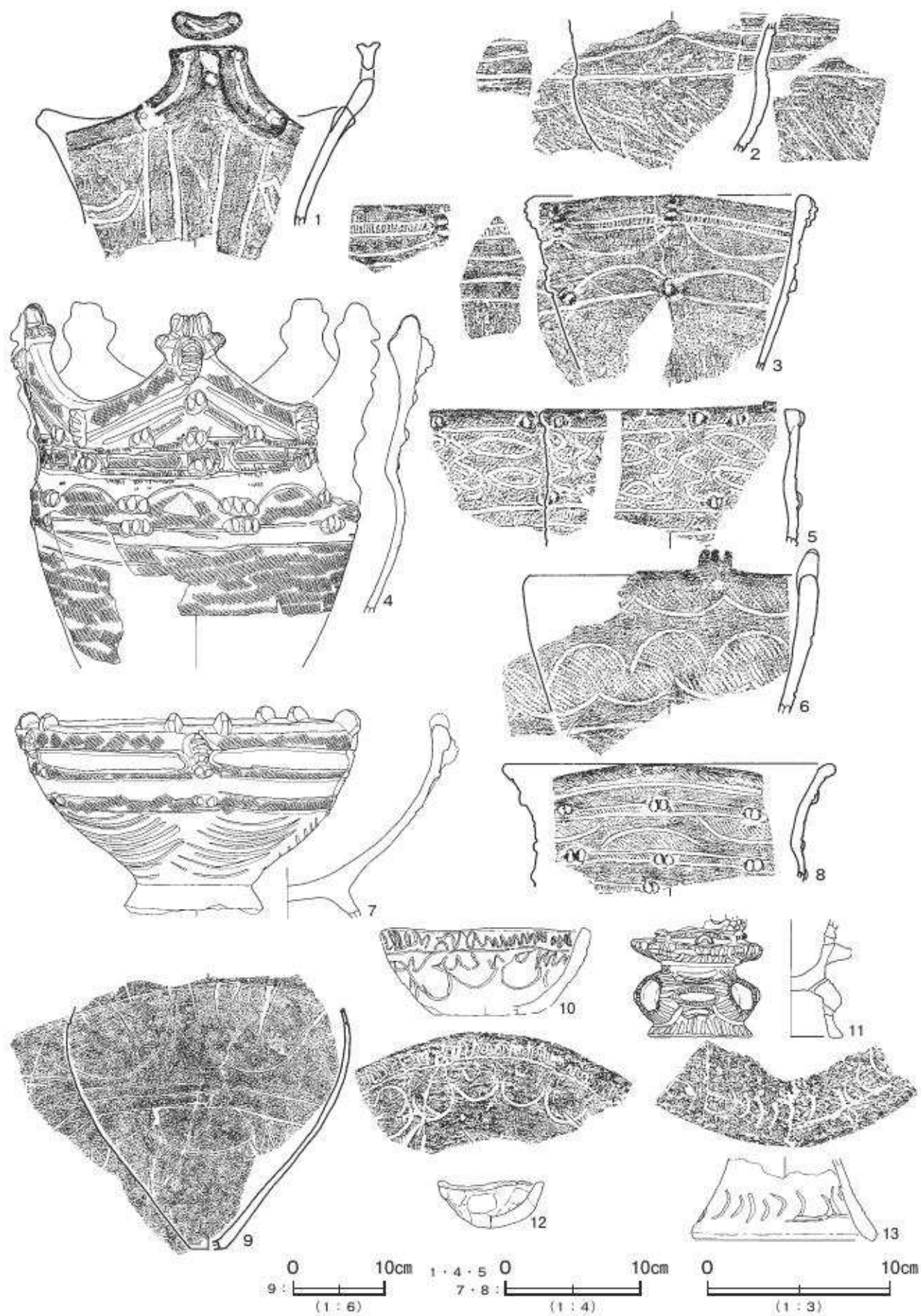
第6号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第46～57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.6]	[13.3]	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面筒状工具の利突文・無文部磨き・内面磨き	覆土下層	10%
2	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面際帯隆沈線→磨き・側部条線・内面ナデ	覆土上層	20%
3	縄文土器	深鉢	[15.0]	(9.6)	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面隆貼付→沈線→磨み→無文部磨き・側部磨り・内面磨き	覆土下層	10% PL36
4	縄文土器	深鉢	[24.6]	(26.3)	—	長石・石英	橙	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中層	40% PL27
5	縄文土器	深鉢	[18.2]	(9.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無筋L縄文→沈線→隆貼付・内面ナデ	覆土上層	10% PL36
6	縄文土器	深鉢	[15.4]	(8.9)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土下層	僅 10% PL30
7	縄文土器	台付鉢	24.3	(15.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中層	70% PL27
8	縄文土器	台付鉢	[23.6]	(8.5)	—	長石・石英・雲母	灰・褐	普通	外面沈線→RL縄文・磨み→無文部磨き→隆貼付・内面ナデ	覆土中層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(26.3)	[4.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土下層	10%
10	縄文土器	浅鉢	[10.8]	4.8	[5.7]	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面ナデ→沈線文・内面ナデ	覆土上層	40% PL36
11	縄文土器	黄彩合仕	—	(6.4)	5.4	長石・石英	明赤褐	普通	透かし孔3か所	覆土下層	20% PL30
12	縄文土器	ミニチャ	5.5	2.5	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面指頭ナデ・内面ナデ	覆土中層	90%
13	縄文土器	台付鉢	—	(4.5)	[3.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨り→條線文・内面ナデ	覆土中層	5%
14	縄文土器	深鉢	[25.8]	(21.2)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→隆貼付→区別文磨き・内面ナデ	覆土下層	10% PL36
15	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り→条線・内面ナデ	覆土下層	内面に僅 20%
16	縄文土器	深鉢	[18.3]	(7.7)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	外面条線→付点細線文・内面磨き	覆土中層	20%
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	外面角押文による條線文・内面ナデ	覆土中層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	黒・褐	普通	外面RL縄文→沈線文・内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面横位沈線→矢羽状沈線→竹管文・内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面O段多条のRL縄文・内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面RL縄文→隆貼付・内面ナデ	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	灰・褐	普通	外面LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土下層	

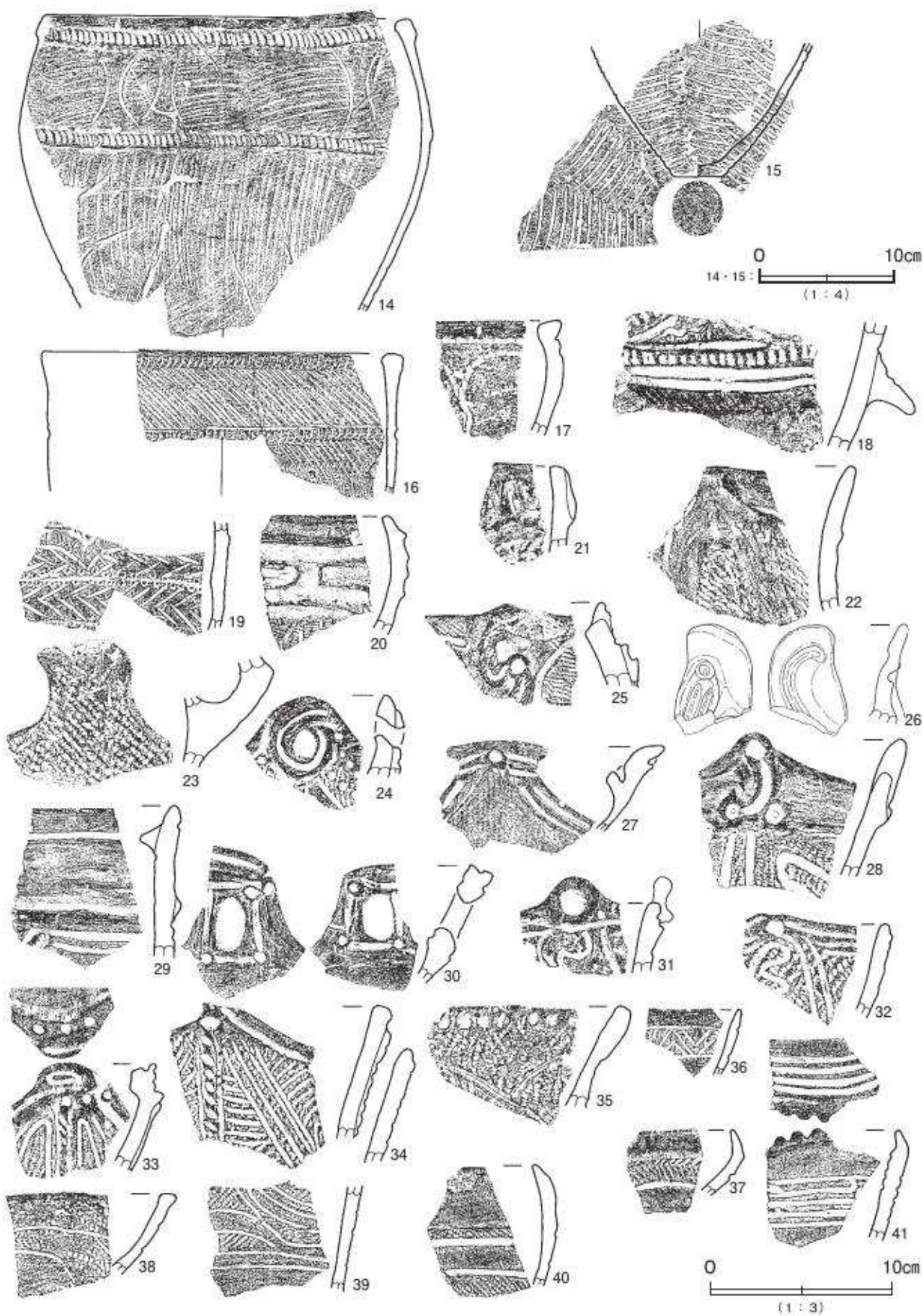


第45図 第6号竪穴建物跡実測図

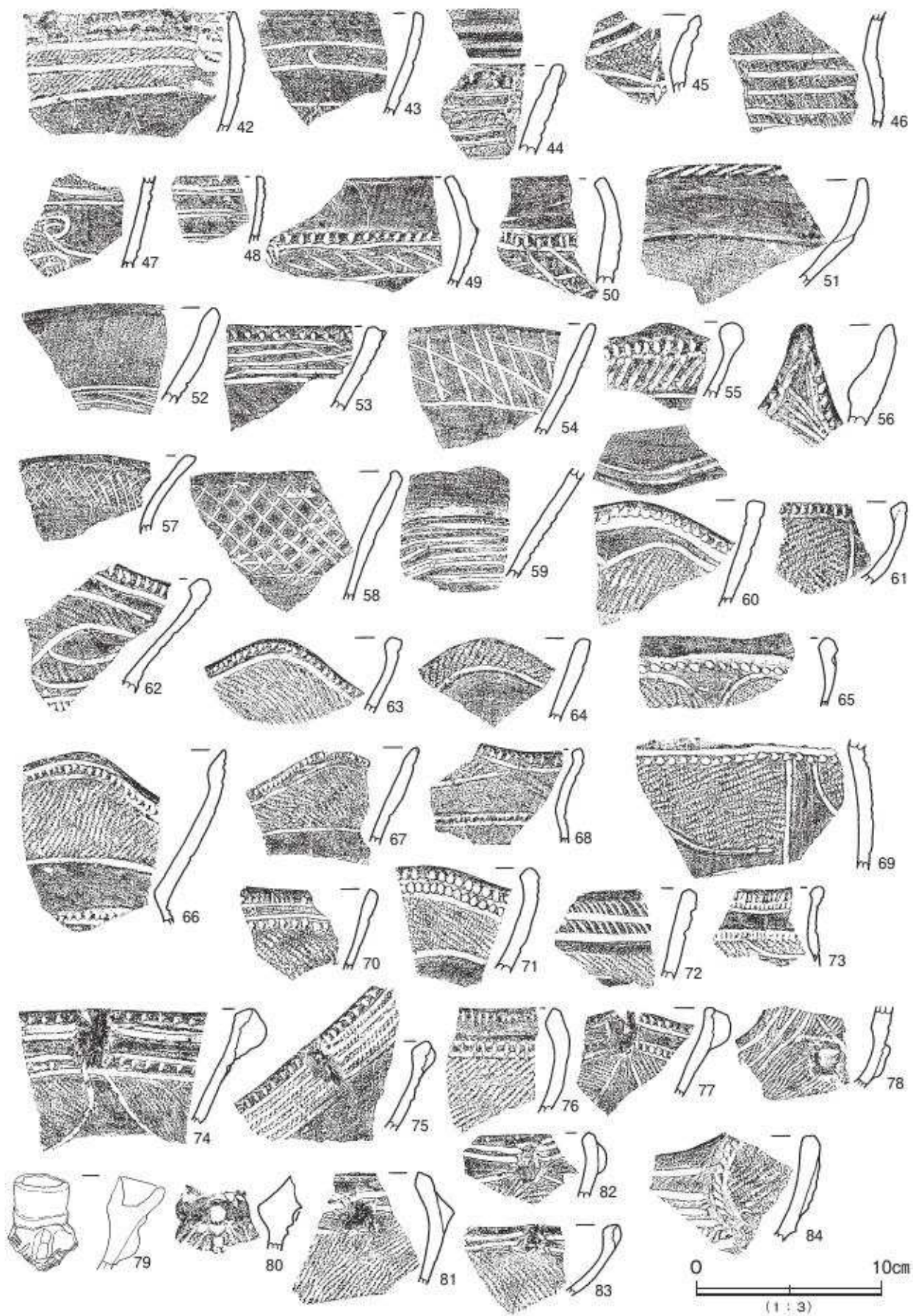
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	橋状把手部 外面LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文・刺突文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外部に沈線文 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き 内面に蓋受け状の突起	覆土中層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部に縄文連結沈線文 内面磨き	覆土中	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄	普通	外面丁字文 内面磨き	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文→沈線→隆帯貼付→沈線 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→削み・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
38	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外面LR縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面横帯文 内面磨き	覆土上層	
42	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外面LR縄文→竹管文による沈線 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	暗赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	暗赤黄	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	赤黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
48	縄文土器	壺	-	-	-	長石・雲母	明褐	普通	外面横帯文 内面磨き	覆土上層	
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄	普通	外面沈線→削み・斜線文→磨き 内面磨き	覆土中層	
50	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	暗赤灰	普通	外面沈線→削み→割部沈線文 内面磨き	覆土上層	
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外面磨き 口唇部削み 割部削み 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	外面斜行沈線文 無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部外面横帯沈線→削み 内面磨き	覆土中層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい黄褐	普通	口縁部外面区画沈線→斜線文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	



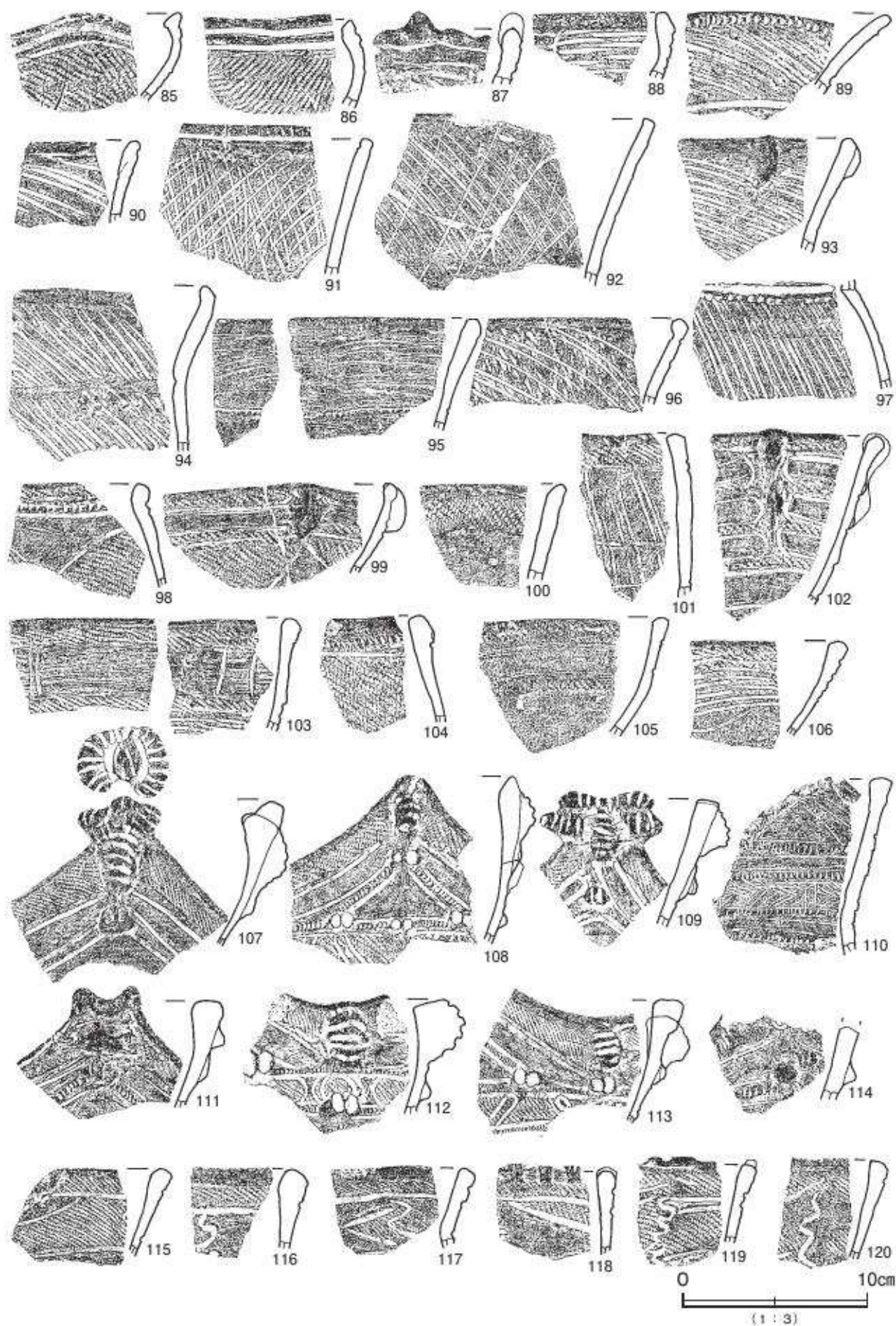
第46图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



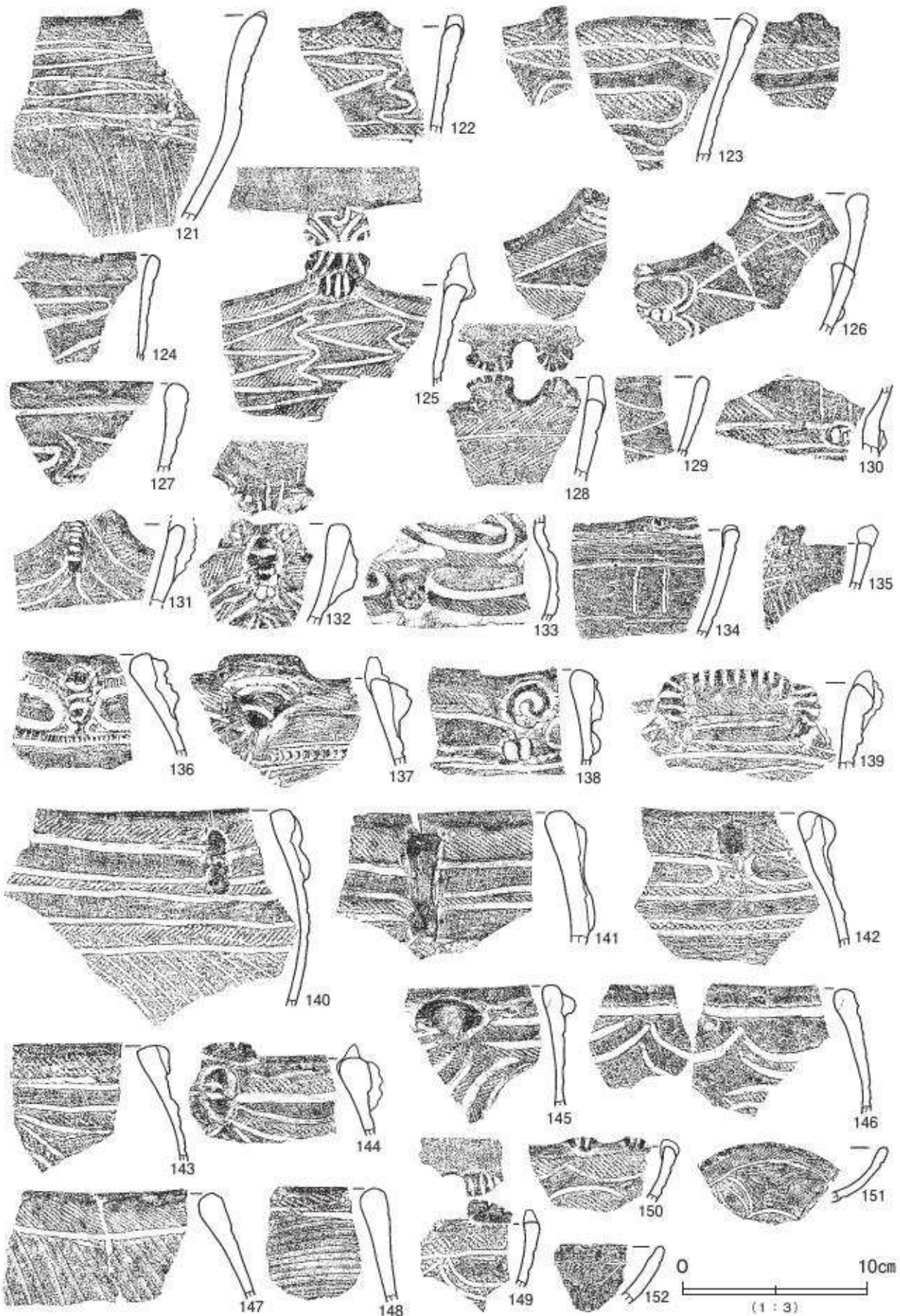
第 47 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物实测图 (2)



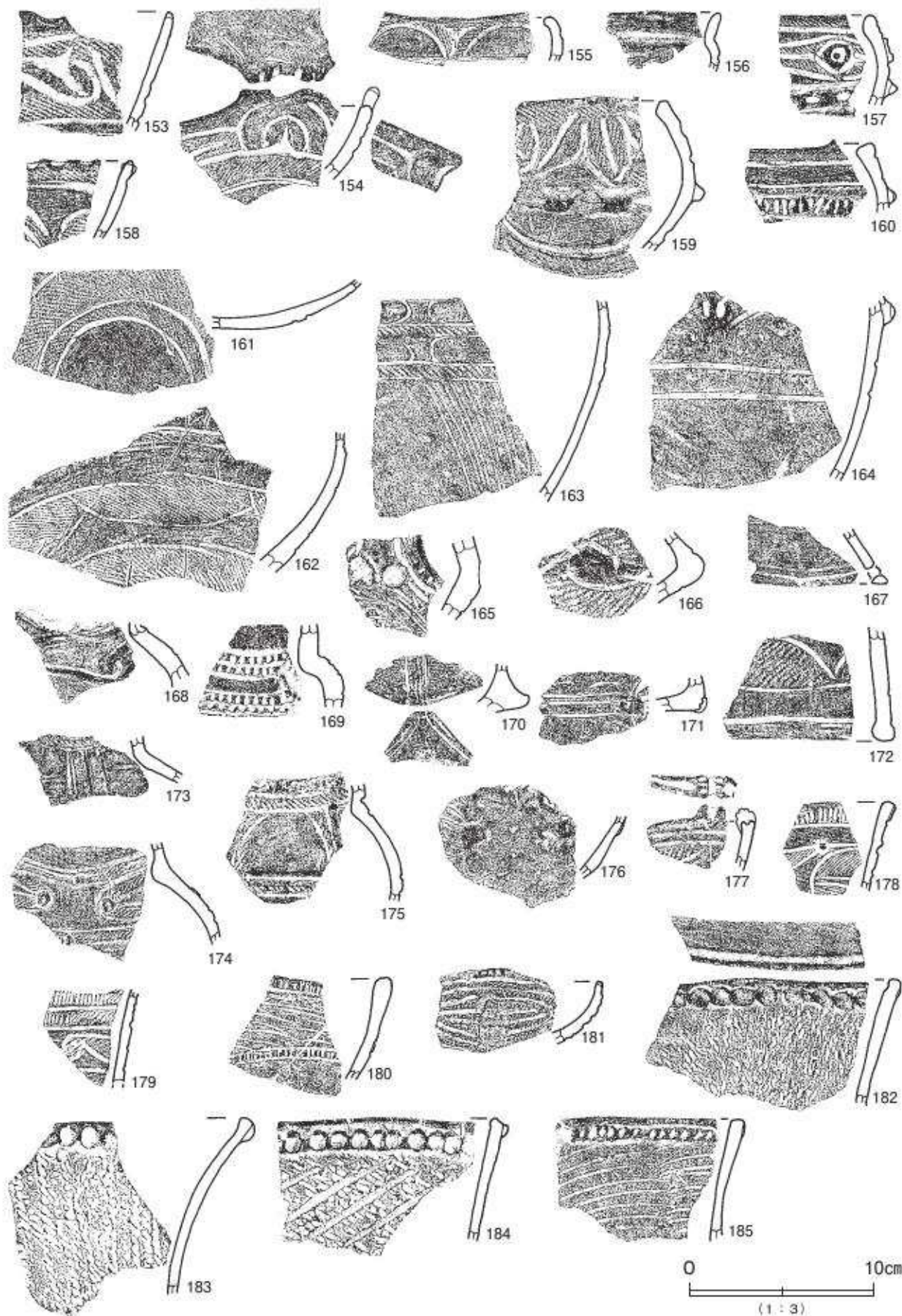
第 48 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



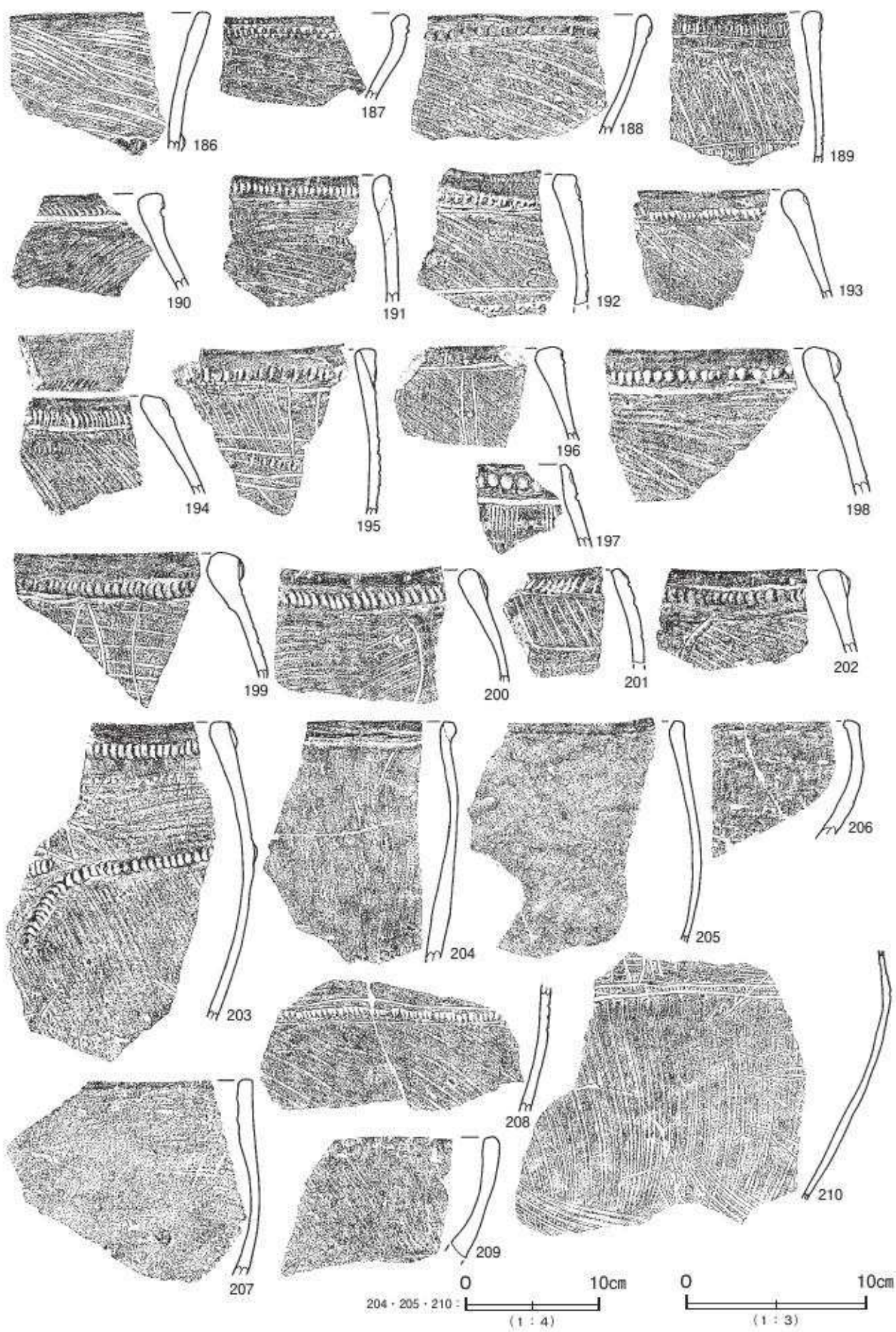
第 49 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第 50 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (5)



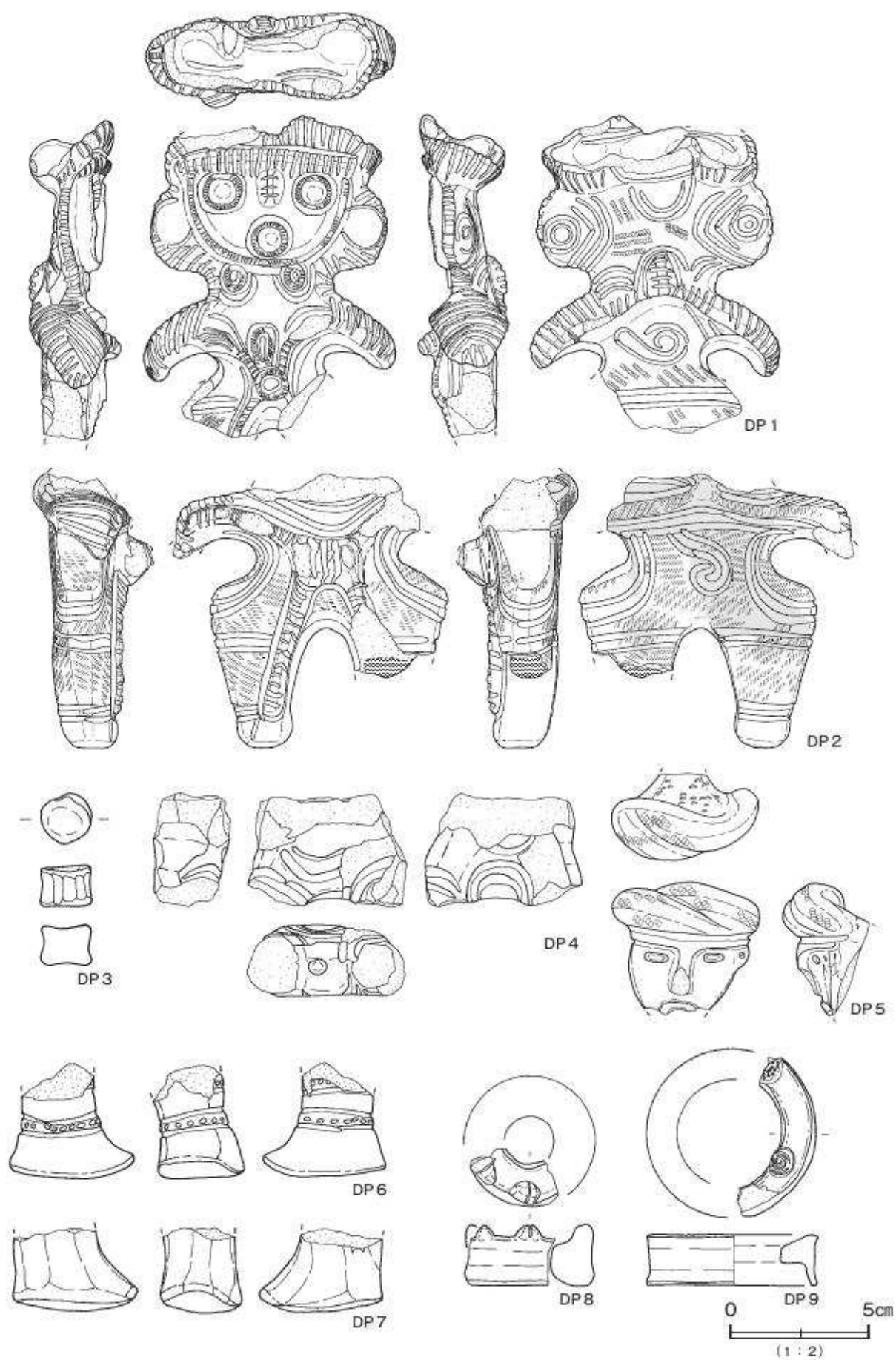
第 51 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (6)



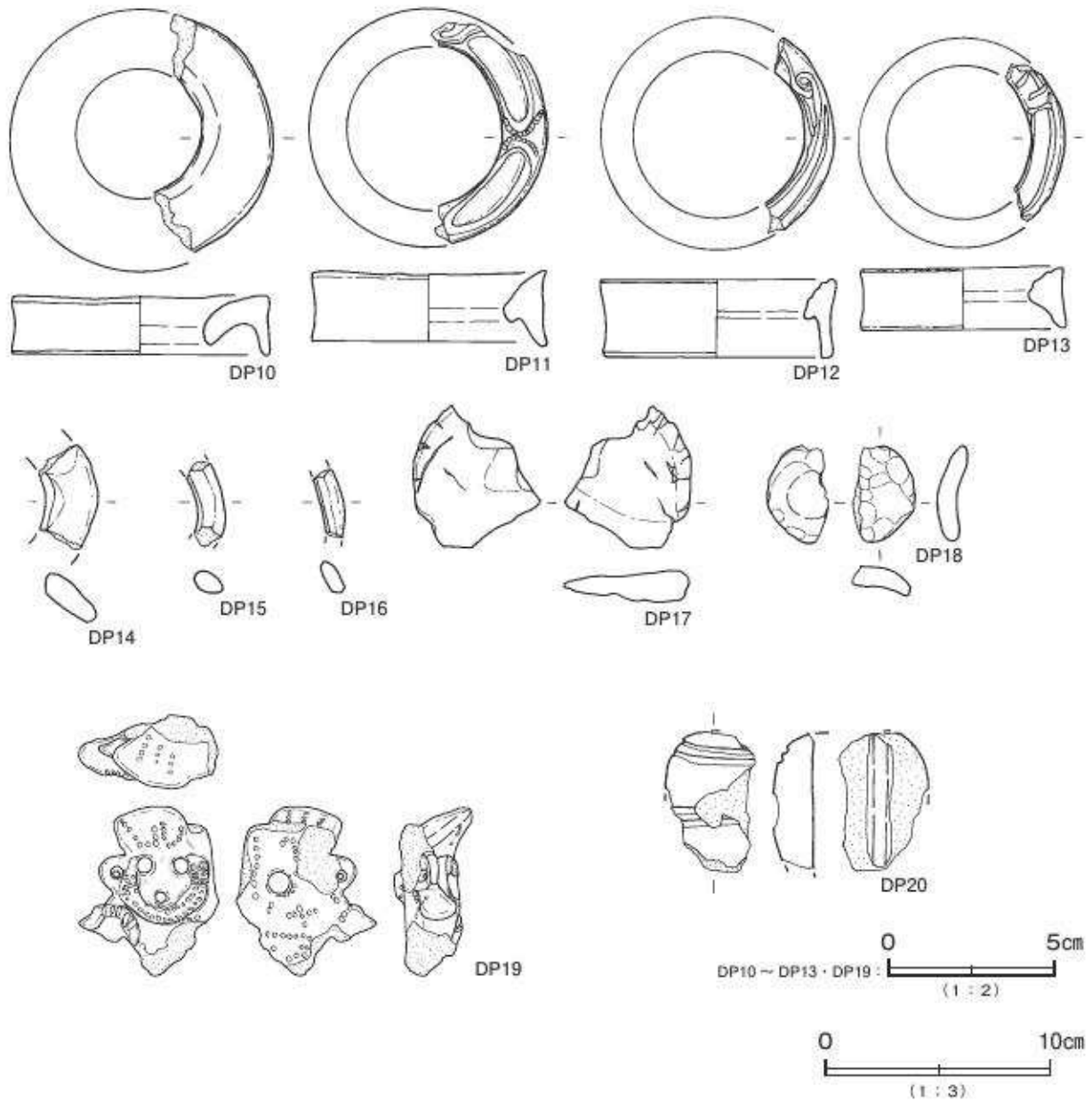
第 52 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (7)



第 53 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (8)



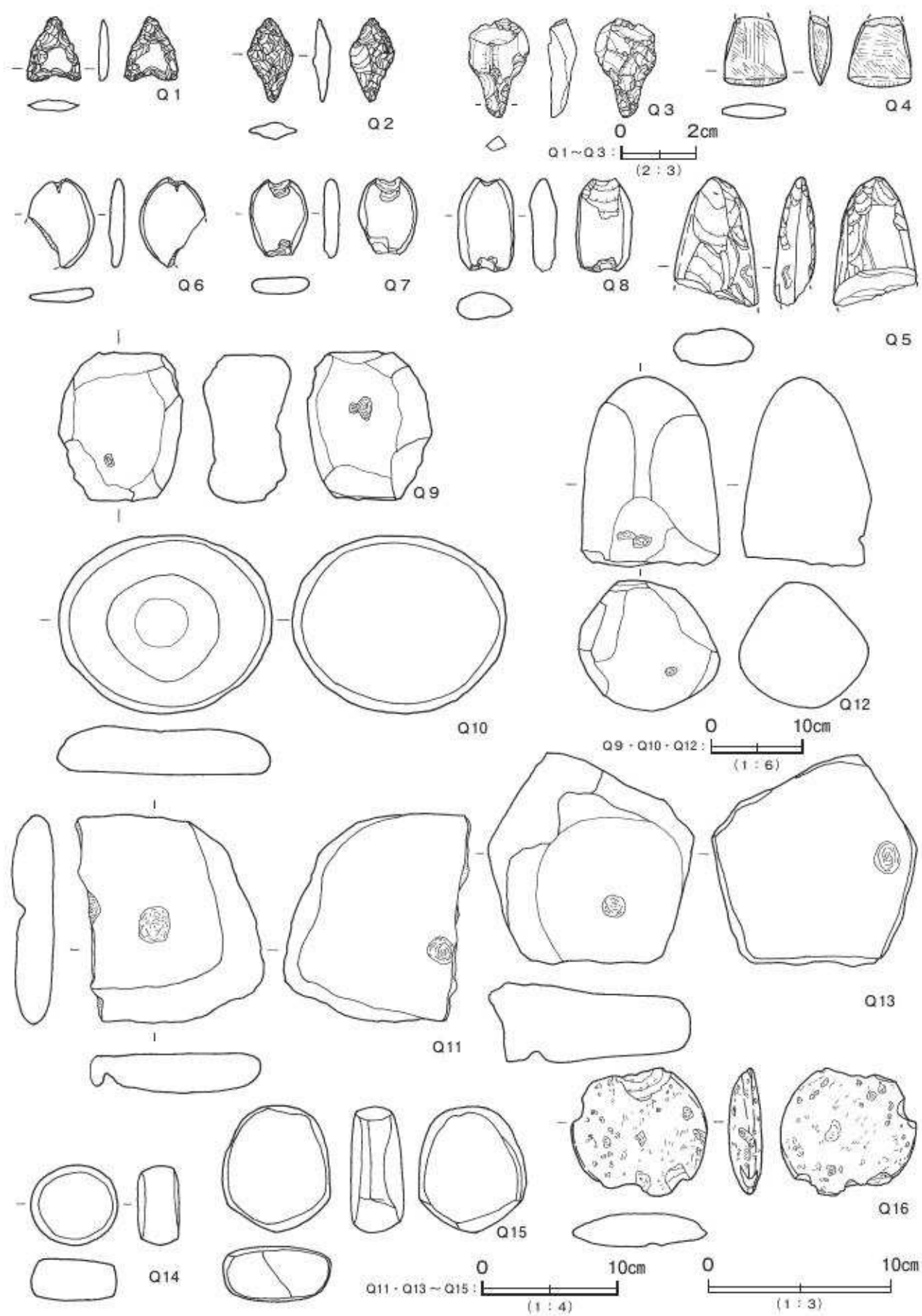
第54图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(9)



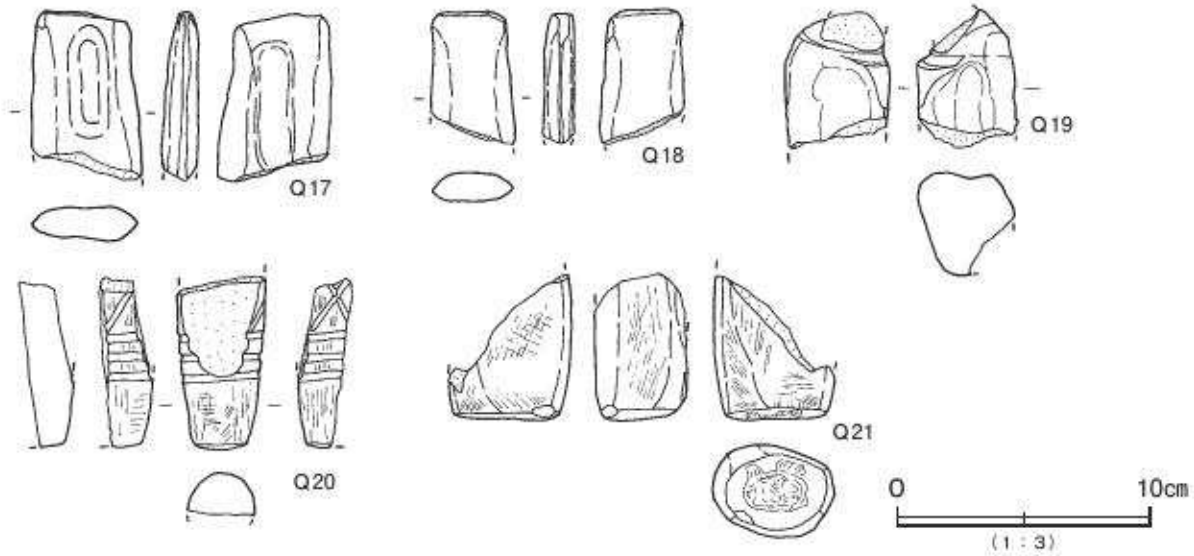
第55図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(10)

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第46~57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面斜線文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部外面沈線→刻み→斜線文 内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	雲母	黒褐色	普通	外面格子目文→頸部磨き 内面磨き	覆土中層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面格子目文→頸部磨き 内面磨き	覆土中層	
59	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土中層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
65	縄文土器	鉢	-	-	-	石英	にぶい青褐色	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→刻み・刺突文→RL縄文 内面ナデ	覆土中層	



第 56 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (11)



第 57 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (12)

第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 46 ~ 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	褐	普通	外面沈線→刻み・RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→刻み→RL 縄文 内面ナデ	覆土下層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→刻み・RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	橙	普通	外面隆起帯沈線→帯貼付→筋み→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→帯貼付 内面磨き	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	外面帯貼付→沈線→刻み・RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯刻み 内面磨き	覆土下層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯隆起帯貼付 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
83	縄文土器	浅鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面 LR 縄文→隆起帯貼付→沈線 内面磨き	覆土中層	
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土上層	二次焼成
86	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面 LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	にぶい橙	普通	口縁部外面突起・沈線文 内面ナデ	覆土下層	
88	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面横位の沈線→縦位の弧線文 内面磨き	覆土中層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	暗赤灰	普通	外面斜線文→刻み 内面磨き	覆土中	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面ナデ→斜線文 内面磨き	覆土上層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面斜格子目文 口唇部に刻み 内面ナデ	覆土上層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面斜格子目文 内面磨き	覆土下層	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面帯貼付→条線 内面磨き	覆土中層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線→頭部磨き 内面ナデ	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線→頭部連続刻文 内面ナデ	覆土中層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面 LR 縄文→条線文 内面磨き	覆土上層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→刺突文 内面磨き	覆土中層	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	にぶい橙	普通	外面沈線→刻み・RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・粘質・粘質	黒 褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土中層	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→条線→RL 縄文 内面ナデ	覆土下層	
102	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面条線→帯形隆起帯→RL 縄文→弧線文 内面ナデ	覆土上層	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面 RL 縄文→付点線文 内面磨き	覆土下層	
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	外面 RL 縄文→沈線 内面粗い磨き	覆土下層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文・筋み→帯貼付 内面ナデ	覆土上層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文・刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→刻み→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面口縁部隆起帯上筋筋文・筋み 無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	明赤褐	普通	外面口縁部隆起帯上筋筋文・筋み 無文部磨き→弧線文磨き 内面ナデ	覆土中層	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤 褐	普通	外面隆起帯隆起帯→RL 縄文・筋み→帯形隆起帯・筋筋文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面隆帯上刻み 内面ナデ	覆土上層	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	明 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土中層	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→条線→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	明 褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土下層	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	扉付着 PL.36
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明 褐	普通	外面磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土中層	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面磨貼付→沈線→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面磨貼付→沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部突起1か所 内面ナデ	覆土中層	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土中	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	外面隆帯磨貼付→刻み 内面ナデ	覆土上層	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→刻み→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆帯磨貼付→磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	橙	普通	外面隆帯磨貼付→LR 縄文→無文部磨き・条線 内面ナデ	覆土下層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	にぶい橙	普通	外面磨貼付→沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	灰 褐	普通	外面沈線→無節R縄文 内面ナデ	覆土下層	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	にぶい中褐	普通	外面条線→沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中層	
149	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
150	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
151	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	蓋。
152	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土・礫	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
154	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
155	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
156	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
157	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
158	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
159	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
160	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
161	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
162	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き・磨貼付 内面ナデ	覆土下層	
164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨貼付 縦線文。 内面ナデ	覆土上層	
165	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・雲母	黒 褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土上層	
166	縄文土器	壺	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	暗赤灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
167	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外・内面磨き 補修孔1か所	覆土上層	磨滅
168	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯による入組文 内面ナデ	覆土中層	
169	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面沈線→刻み 内面ナデ	覆土中層	
170	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
171	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面磨き	覆土上層	
172	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・雲母	明黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
173	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面隆帯起線文 無文部磨き 内面折頸ナデ	覆土上層	
174	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
175	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
176	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面磨貼付 内面ナデ	覆土上層	
177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土下層	
178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刻み・無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→刻み・LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
180	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・粘土	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刻み 内面ナデ	覆土中	
181	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→磨貼付→LR 縄文 内面ナデ	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	明黄褐色	普通	外面LR縄文→紐線貼付 内面ナデ	覆土下層	
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→紐線貼付 内面口縁部磨き 胴部ナデ	覆土上層	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面LR縄文→条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	二次焼成
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	床面	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線→刻み 内面ナデ	覆土中層	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	覆土下層	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中層	
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中層	
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中層	
192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土上層	
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土上層	
194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→沈線→刻み 内面磨き 口唇部に刻み	覆土中層	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面横位沈線→刻み・条線充填	覆土上層	
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面条線→付点紐線文・区画文 内面ナデ	覆土中層	
197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面歯状工具による条線→沈線 内面ナデ	覆土中層	
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中層	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条線→紐線貼付→風説文・磨き 内面ナデ	覆土上層	
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付→風説文→風説文間磨き 内面ナデ	床面	
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面付点紐線文→斜線文充填 内面磨き	覆土中層	
202	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付→風説文 内面ナデ	覆土中層	
203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面粗い磨き	覆土上層	
204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
205	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	
206	縄文土器	鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐色	普通	外面削り 口縁部ナデ 内面磨き	覆土中	
207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
208	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中層	
209	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→付点紐線文・風説文→風説文間磨き 内面ナデ	覆土上層	
211	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り 胴縁 内面ナデ	覆土上層	口C2類
212	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面剥離 内面ナデ	覆土上層	
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 3	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面条線→沈線 内面ナデ	P 7	
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	橙	普通	外面格子目文 内面磨き	P 10	
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面RL縄文 内面ナデ	P 10	
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆帯彫刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 8	
218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面凹線→RL縄文 内面ナデ	P 8	
219	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面条線→押し引き付点文 内面ナデ	P 8	
220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面歯状工具による条線 口唇部内押し 内面磨き	伊	
221	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	伊	
222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL縄文→沈線→磨き付 内面ナデ	伊	
223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条線→付点文 内面ナデ	伊	
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面条線→紐線貼付→風説文間磨き 内面磨き	伊	
225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	伊	
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部 内面磨き	焼土跡	
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面口縁部横位の沈線文 内面磨き	焼土跡	
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯彫刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	焼土跡	
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	焼土跡	
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	焼土跡	赤砂
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	焼土跡	
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	焼土跡	
233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 14	
234	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面紐線貼付→格子目文 内面ナデ	P 14	
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 14	
236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL縄文→紐線貼付→条線 内面磨き	P 18	
237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆帯彫刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 28	
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆帯彫刻み→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 28	
239	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	覆土中層	口A2類
240	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	口A2類
241	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面剥離 内面磨き	覆土中	口A2類
242	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	明赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類 PL38
243	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明褐色	普通	外面胴部削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口B類
244	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	浅鉢状 外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類
245	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面指頭ナデ 輪郭みね 内面ナデ	覆土上層	口B類
246	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口B類
247	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	橙	普通	外面削り 口縁部のみ出し状 胴部削り 内面ナデ	覆土中層	口B類
248	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中層	口B類 PL38
249	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中層	口B類

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
250	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面剥離 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口B類
251	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類
252	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中層	口B類 PL38
253	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口B類 PL38
254	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・細砂	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口B類 PL38
255	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面剥離 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土中	口C2類 PL38
256	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土中層	口C2類 PL38
257	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土上層	口C2類
258	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐	普通	外面剥離 内面ナデ 口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土中	口C2類
259	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部外側ぎ状にヘラ切り	覆土中層	口C1類
260	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部外側ぎ状にヘラ切り	覆土下層	口C1類
261	縄文土器	製塩	-	(24)	4.9	長石	橙	普通	外面削り 内面ナデ 底部木炭痕	覆土中層	5% PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(11.4)	8.9	3.3	(168.6)	長石・角閃石	橙	ミミズク RL縄文 二次焼成	覆土下層	3e類 PL39
DP 2	土 偶	(9.8)	(9.8)	4.2	(190.2)	長石・石英・角閃石	橙	ミミズク 無筋し縄文 左足欠損部ソケット状 赤彩	覆土中層	3f類 PL39
DP 3	耳飾り	径1.9	-	1.5	(4.5)	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	耳栓 外面指頭ナゲによる整形	覆土下層	I 2類
DP 4	土 偶	(4.0)	(5.7)	(2.7)	(66.3)	長石・石英・赤色砂子	橙	山形 股四部分に刺突文	覆土中層	2c類
DP 5	土 偶	(4.8)	5.3	(2.9)	(40.9)	長石・石英・赤色砂子	橙	頭部にRL縄文 後頭部に爪形文	覆土中層	7a類 PL39
DP 6	土 偶	(4.1)	(3.3)	(4.3)	(43.8)	長石・石英	赤 褐	山形	覆土中	2d類
DP 7	土 偶	(3.0)	(2.9)	(4.4)	(37.8)	長石・石英	黒 褐	山形 表裏面磨き	覆土中層	2d類
DP 8	耳飾り	径[4.6]	-	2.2	(10.0)	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	滑車型 ナデ	覆土下層	IV 2類
DP 9	耳飾り	径[6.1]	-	1.3	(12.6)	長石・石英	明赤褐	滑車型	P 10	IV 2類
DP10	耳飾り	径[7.8]	-	1.8	(23.2)	長石・石英・雲母	橙	滑車型 ナデ	覆土中層	III類
DP11	耳飾り	径[6.8]	-	2.3	(18.8)	長石・石英・赤色砂子	橙	滑車型 楕円文間に刺突による対弧文 表裏面磨き	覆土下層	IV 2類
DP12	耳飾り	径[7.0]	-	2.3	(13.3)	長石・石英	黒 褐	滑車型 表裏面磨き	覆土下層	IV 2類
DP13	耳飾り	径[6.2]	-	1.8	(10.6)	長石・石英	にぶい赤褐	滑車型 棒状文	覆土下層	IV 2類
DP14	貝輪状	(4.6)	2.6	1.2	(14.9)	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	表裏面ナデ	覆土下層	
DP15	貝輪状	(3.6)	1.8	1.0	(6.2)	長石・石英	にぶい橙	表裏面ナデ	覆土中層	
DP16	貝輪状	(3.0)	1.1	1.4	(4.4)	長石・石英	にぶい橙	表裏面ナデ	P 15	
DP17	焼成粘土塊	(6.3)	(5.6)	1.4	(34.1)	長石・石英	にぶい橙	粘土塊を押しした状態	覆土中層	
DP18	焼成粘土塊	4.3	(2.8)	1.3	(12.1)	長石・石英	にぶい赤褐	表裏面指頭痕明瞭	覆土中層	
DP19	土 偶	(5.1)	(4.2)	2.3	(21.9)	長石・石英	褐 灰	ミミズク 刺突文 赤彩	覆土上層	3e類 PL39
DP20	土 鉢	(6.2)	(3.8)	(2.2)	(55.2)	長石・石英	橙	片面穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏝	1.7	1.4	0.3	0.65	黒曜石	無茎 表裏に古い剥離痕	覆土中層	PL47
Q 2	石 鏝	2.3	1.2	0.5	0.91	瑪 瑙	有茎	覆土上層	PL47
Q 3	石 鏝	2.71	1.67	0.79	(2.7)	チャート	未成品	覆土上層	PL47
Q 4	磨製石斧	(3.8)	3.4	1.2	(26.1)	蛇紋岩	小形定角式 表裏面研磨 欠損部に研磨あり再加工の可能性	覆土上層	PL46
Q 5	磨製石斧	(7.05)	4.1	2.2	(86.7)	ホルンフェルス	未成品 剥離加工後側縁部敲打調整 万部欠損	覆土上層	
Q 6	石 鏝	4.9	3.6	0.9	(13.9)	安山岩	長軸方向に切り目	覆土上層	2類
Q 7	石 鏝	4.2	3.1	0.9	(16.5)	安山岩	長軸方向に打ち欠き	覆土中層	3類
Q 8	石 鏝	5.1	3.0	1.5	39.6	緑色岩	長軸方向に打ち欠き 上下紐袷部に擦痕	覆土下層	3類
Q 9	石皿類	(16.4)	(13.7)	9.7	(284.0)	デイサイト	表裏に磨面と凹痕	覆土中層	2類 被熱
Q 10	石皿類	23.4	19.9	5.2	387.90	輝石安山岩	表面中央部使用 裏面は使用痕あるいは平坦に加工。	覆土上層	2類
Q 11	石皿類	15.0	(13.5)	3.2	(80.6)	安山岩	表裏に磨面と凹痕	覆土上層	2類
Q 12	石皿類	(20.9)	15.2	14.2	(616.0)	輝石安山岩	表面3か所と欠損部に磨面	覆土上層	2類
Q 13	石皿類	(15.2)	(14.8)	6.4	(285.9)	雲母片岩	表面に磨痕 表裏面に凹痕	覆土下層	2類
Q 14	磨石類	5.7	6.2	3.0	148.1	安山岩	表裏面磨痕	覆土下層	1c類
Q 15	磨石類	(9.0)	(7.7)	(3.9)	(407.5)	角閃石黒雲母花崗岩	表裏面・上下端部に磨痕	覆土下層	1c類
Q 16	浮子	(6.9)	7.4	1.8	(31.2)	軽石	表面研磨による整形	覆土下層	
Q 17	砥石	(7.1)	16.5	1.4	(48.6)	砂岩	表裏に溝状の砥面	覆土上層	4類
Q 18	砥石	(5.3)	3.8	1.2	(26.4)	砂岩	両側縁を使用	覆土中層	4類
Q 19	砥石	(5.4)	4.0	4.1	(95.0)	砂岩	表裏2面の使用	覆土上層	3類
Q 20	砥石・石鏝	(6.7)	(3.5)	(2.2)	(58.1)	泥岩	石鏝 端部平坦	覆土上層	PL45
Q 21	砥石・石鏝	(5.8)	4.7	3.6	(135.8)	ホルンフェルス	石鏝 端部平坦 敲打痕	覆土上層	

第36号竪穴建物跡 (第42～44・58～61図 PL12)

位置 調査A区北西部のB-6i2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第6号竪穴建物、第34・40・112号土坑に掘り込まれている。第42・43号竪穴建物跡、第45・126・127・136・137号土坑とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不

明である。出土遺物からは、第42号竪穴建物跡よりは新しく、第43号竪穴建物跡、第45号土坑よりは古い。

規模と形状 第6号竪穴建物跡の調査中に、下層から炉跡と多数のピットを確認したことから、竪穴建物跡の存在を想定して掘り下げを行った。壁は一部しか確認できなかったが、壁柱穴の配置などから、西側に張出部を伴う出入口ピットを有し、弧状に巡っているP10～P16、P24～P30、及び第42号竪穴建物跡の帰属としたP3・P4・P11・P12・P18を壁柱穴とする建物跡を想定できる。推測される規模は、南北径約8m、張出部を含めた東西径6.9mの楕円形で、主軸方向はN-115°-Wである。壁は高さ10～16cmで、外傾している。これ以外にも弧状に巡っているP17～P22などがあり、2回以上の建て替えが想定できる。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 炉1は中央やや東寄りに位置し、大部分を第6号竪穴建物跡のピットに掘り込まれている。径100cmの円形で、深さ15cmの地床炉である。炉2は、中央やや西寄りに位置し、長径50cm、短径43cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

炉1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 58か所。P1～P4、P50・P51が、位置と形状、深さから支柱穴と考えられる。P40やP42も径が小さいものの、位置や深さから支柱穴の可能性はある。P5～P9は位置と深さから出入口施設に伴うピットと考えられる。壁柱穴の中にもP14・P24・P27など、径がやや大きく深さのあるものがあり、支柱穴的な役割を持つ可能性がある。P55～P58は本跡の調査時に確認したものであるが、壁外に位置していることや第6号建物跡の配置とほほ並行していることから、第6号建物跡に帰属する可能性も考えられる。

P2土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 骨粉中量、ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

P27・P29土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

P4土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・灰少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P32土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量（第6号建物跡P19覆土）
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

P5・P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

P46土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

P10・P17・P18土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P50・P51土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 褐灰色 灰・貝片多量、ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

P13土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

P56土層解説

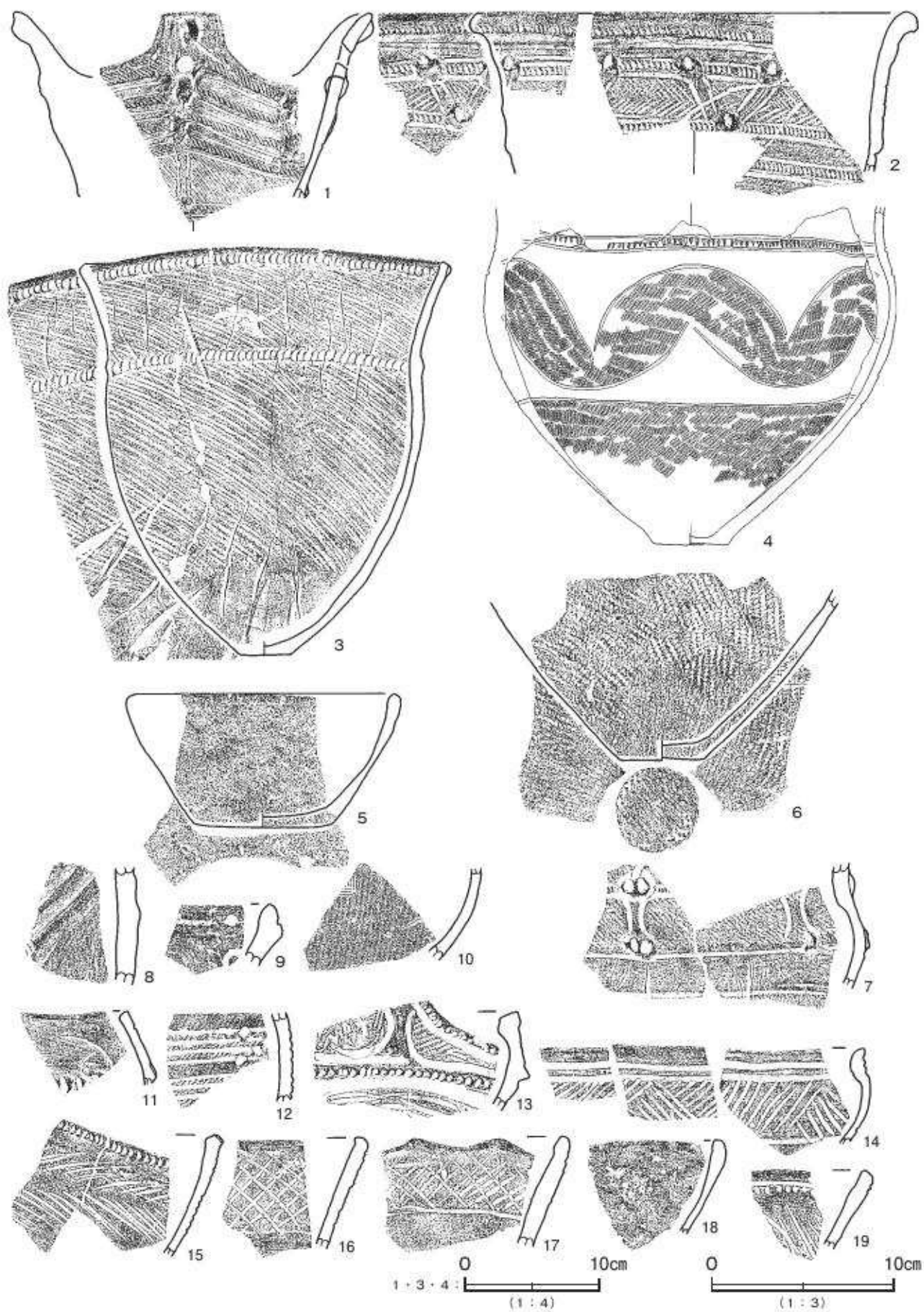
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

P16土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

P58土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量



第 58 图 第 36 号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	140	130	89	56	10	72	113	115	45	45	33	30	42	66	34	33	46	21	30	24	8	25	41	58	23
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	42	56	44	30	18	43	53	17	18	12	24	9	63	10	50	12	40	19	37	10	34	9	8	14	(80)
番号	51	52	53	54	55	56	57	58																	
深さ	75	25	41	15	15	59	41	73																	

覆土 3層に分層できる。各層ともローム粒子や遺物が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

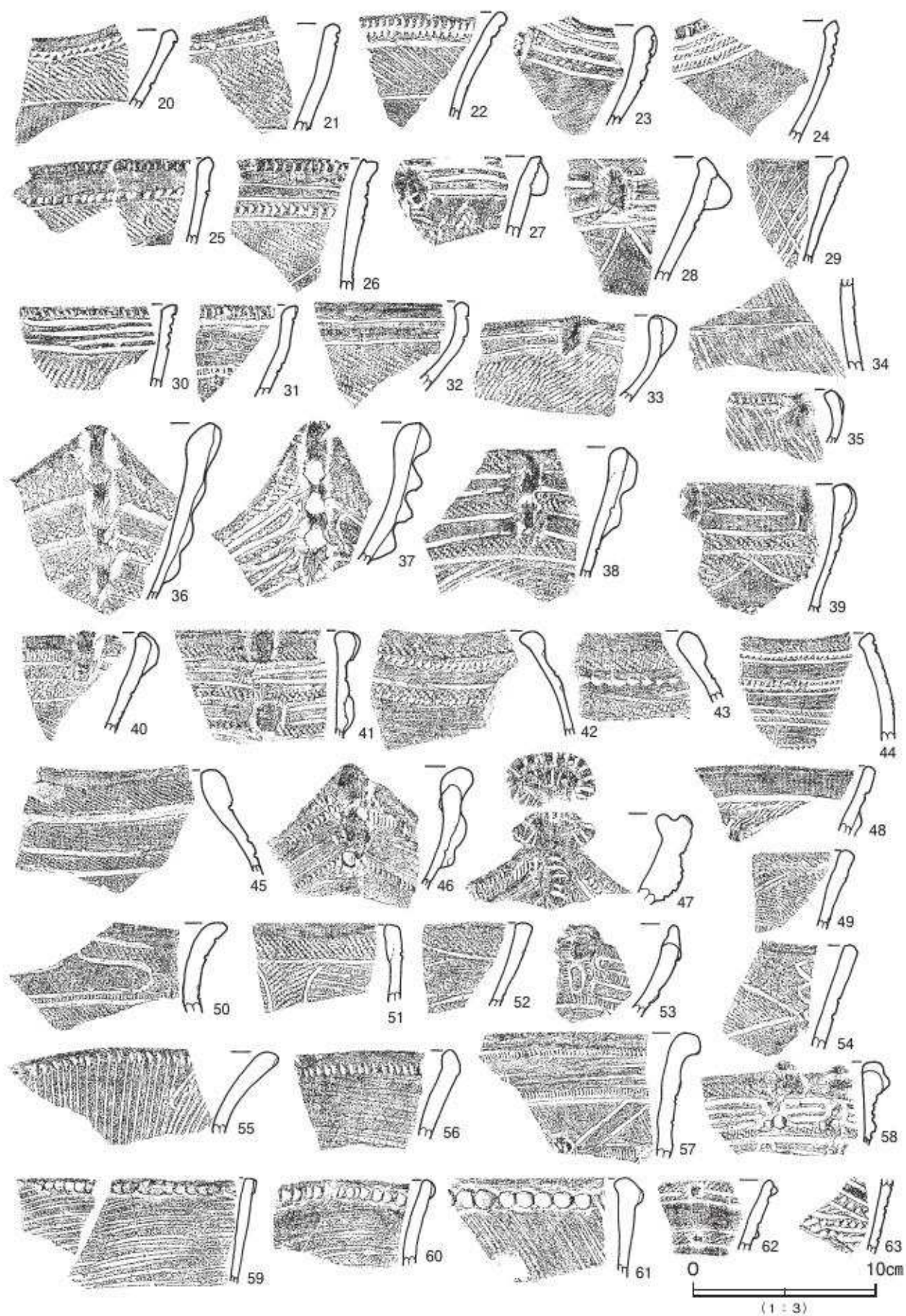
1	褐	色	ローム粒子中量	5	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 (P 8 覆土)	
2	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量 (P 8 覆土)
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量 (P 8 覆土)
4	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量 (P 8 覆土)	8	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量 (P 8 覆土)

遺物出土状況 縄文土器片 3,767 点(73.22kg)、土製品 9 点(土器片円盤 1、耳飾り 3、土偶 3、貝輪状 1、匙形 1)、石器・石製品 29 点(石鏃 1、磨製石斧 2、打製石斧 1、石皿類 2、磨石類 13、石錘 1、軽石製品 1、砥石 3、礫器 1、浮子 1、石棒・石剣類 3)のほか、焼成粘土塊 3 点、石核 2 点(チャート)、剥片 8 点(黒曜石 4、チャート 4)などが出土している。また覆土中や P 24・P 51 などから、獣骨片が 41.37 g 出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第 3 群(後期初頭) 20%、第 4 群(後期前葉) 21%、第 5 群(後期中葉) 16%、第 7 群(後期後葉) 18%である。4 は P 56 の覆土中から、3 は P 4 の底面付近から出土している。復元可能な個体は、安行 1 式に比定できるものが多いようである。

所見 時期は、出土土器と形状から、後期後葉の安行 1 式期と考えられる。

第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表(第 58～61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[24.0]	[13.3]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面露帯筋沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	5%
2	縄文土器	台付鉢	[23.8]	(8.8)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面矢羽状沈線→沈線・刻み→筋貼付 内面磨き	覆土中	10%
3	縄文土器	深鉢	[26.0]	28.4	3.6	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	P 4	70% PL31
4	縄文土器	深鉢	-	(24.8)	5.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→L 縄文→無文部磨き 胴部下半磨き 内面ナデ	P 56	40%
5	縄文土器	鉢	[14.2]	7.3	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面・底部削り 内面ナデ一部磨き	覆土中	20%
6	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面 RL 縄文→無文部磨き 内面磨き 底部削り→磨き	P 50	10%
7	縄文土器	鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→筋貼付→無文部磨き→無文部磨き 内面磨き	覆土中	10%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面微隆起帯文 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外面に露文沈線文 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面磨き 内面ナデ 石神型	覆土中	
11	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	普通	普通	外面沈線→矢羽状沈線→磨き 内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤 褐	普通	外面矢羽状沈線 口縁部凹線 内面磨き	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 褐	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面削り 内面粗い磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線 内面凹線文 磨き	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 褐	普通	外面沈線→刻み→条線→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐 灰	普通	外面 LR 縄文→沈線→磨き 内面磨き	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→刻み・RL 縄文→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土中	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面斜格子目文 内面磨き	覆土中	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面粗い磨き	覆土中	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→刻み→条線 内面磨き	覆土中	



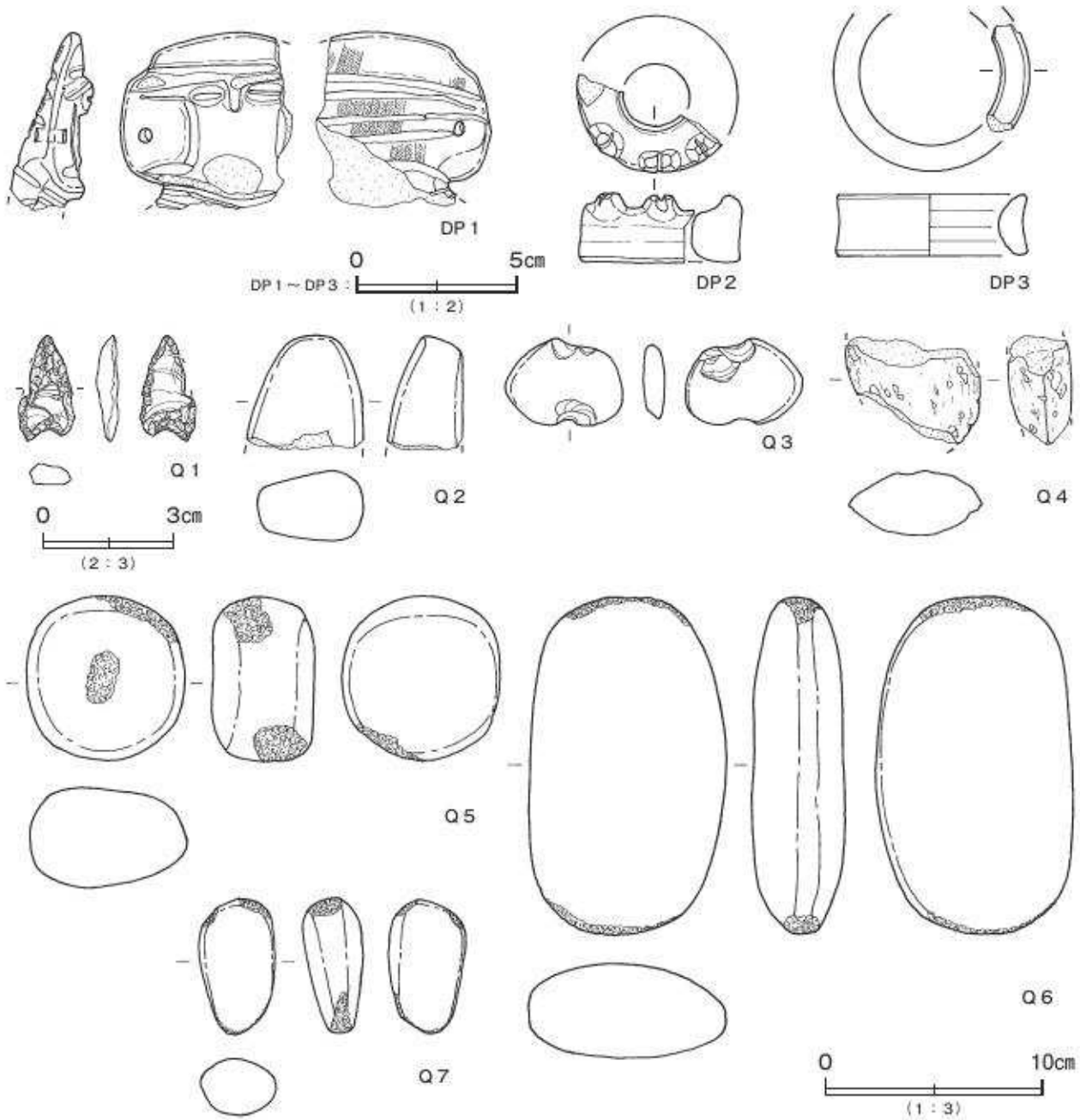
第59图 第36号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第60図 第36号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第36号竪穴建物跡出土遺物観察表(第58~61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪石・粘り・砂	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	外面条線→横位沈線→磨き 内面粗い磨き	覆土中	
35	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面輪貼付→刻み→条線 内面磨き	覆土中	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・粘り・砂	褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・粘り・砂	黒褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆帯輪沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆帯上刻み 内面ナデ	覆土中	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面隆帯上刻み 内面粗い磨き	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
50	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線→沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
53	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→隆帯上刻み 内面磨き	覆土中	



第61図 第36号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)

第36号竖穴建物跡出土遺物観察表(第58~61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰・褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
55	縄文土器	古付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部刻み→条線 内面磨き	覆土中	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい赤褐色	普通	外面口縁部刻み→条線 内面磨き	覆土中	
57	縄文土器	古付鉢	-	-	-	長石・石英	褐・灰	普通	外面隆起帯上刻み 内面磨き	覆土中	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外面隆起帯沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰・褐	普通	外面条線→粗線貼付 内面磨き	覆土中	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	灰・褐	普通	外面条線→粗線貼付 内面磨き	覆土中	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい赤褐色	普通	外面条線→粗線貼付 内面磨き	覆土中	
62	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面磨き	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→刻み・LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→粗線貼付→条線 内面ナデ	覆土中	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄・褐	普通	外面地縄文→粗線貼付・条線 内面ナデ	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青褐色	普通	RL縄文→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付→沈線→刻み 内面ナデ	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面輪貼付 内面ナデ	P 1	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面沈線→刻み 内面磨き	P 2	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→刻み・RL縄文 内面磨き	P 2	79と同一。
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	P 4	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	76と同一。
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 24	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 14	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	外面 RL縄文→沈線 内面磨き	P 50	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 50	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 50	
85	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 59	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面条線→沈線 内面磨き	P 24	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土偶	(5.5)	(5.4)	(2.6)	(48.7)	長石・石英・赤色粒子	橙	山形 無銘L縄文	覆土中	2a類
DP 2	耳飾り	3.0	径[5.0]	2.1	(17.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	滑車型 ナデ整形	覆土中	II 2類
DP 3	耳飾り	3.1	径[6.0]	1.9	(7.4)	長石・石英	黒褐色	滑車型 磨き整形	覆土中	II 2類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鎌	2.46	1.30	0.51	1.3	黒曜石	未成品 無茎	P 24	
Q 2	磨製石斧	(5.3)	(5.8)	3.6	(133.0)	安山岩	定角式	覆土中	
Q 3	石 鏃	4.0	5.5	1.0	29.3	安山岩	打ら欠き	覆土中	3類
Q 4	磨石製品	(5.0)	(6.3)	3.0	(19.8)	輝石	表面研磨により断面レンズ状に成形	覆土中	
Q 5	磨石類	7.6	7.3	4.8	(435.0)	輝石安山岩	表面・上下端部に敲打痕	覆土中	2c 草葉PL48
Q 6	磨石類	15.6	9.2	4.5	1000.2	輝石安山岩	表面・側面に磨痕 上下端に敲打痕	覆土中	2b類 表裏に痕
Q 7	磨石類	6.3	3.6	2.8	(87.8)	砂 岩	縁の上下端部に敲打痕	覆土中	3a類

第7A・B号竪穴建物跡（第62～64図 PL5）

位置 調査A区西部のC6c4区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層1～2層下で確認した。第24号土坑を掘り込み、第1・4・55号竪穴建物、第1号堀に掘り込まれている。第12号竪穴建物跡、第18・26号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東壁と北壁の一部が確認できたのみであることから、壁柱穴の配置と出入口ピットから判断した。出入口ピット及び壁柱穴の配列が、やや位置を東にずらして2か所確認できることから、掘方を伴い、掘方に沿って壁柱穴が巡り、不整形の出入口ピットを有するものを第7A号建物跡、それより約1.2m東にずれて弧を描いて巡っている壁柱穴列と、2つの並列する長楕円形ピットが出入口部となるものを第7B号建物跡とした。第7A号建物跡は、長径8.2m、出入口部を含めた短径8.0mの楕円形で、出入口ピットから見た主軸方向はN-38°-Eである。確認面からの壁の高さは10～25cmであるが、土層断面から推定される壁は高さ34cmで、緩やかに立ち上がっている。第7B号建物跡は、壁柱穴と出入口ピットの配置から長径約7.6m、出入口ピットを含めた短径約7.5mの円形で、出入口ピットからみた主軸方向はN-24°-Eである。土層断面から推定できる壁は高さ20cmで、ほぼ直立している。

床 第7A号建物跡は、東から西に向かってやや傾斜している。いずれも硬化面は確認できなかった。

ピット 47か所。P10～P15は位置と形状から第7A号建物跡の出入口ピット、P16～P30・P34・P35は第7A号建物跡の壁柱穴である。P10・P47は位置と形状から第7B号建物跡の出入口ピット、P1・

P 31 ~ P 33・P 36 ~ P 45 は第 7 B 号建物跡の壁柱穴である。P 2 ~ P 9 は、位置と大きさ及び深さから主柱穴の可能性があり、これらの配置や帰属は不明瞭である。

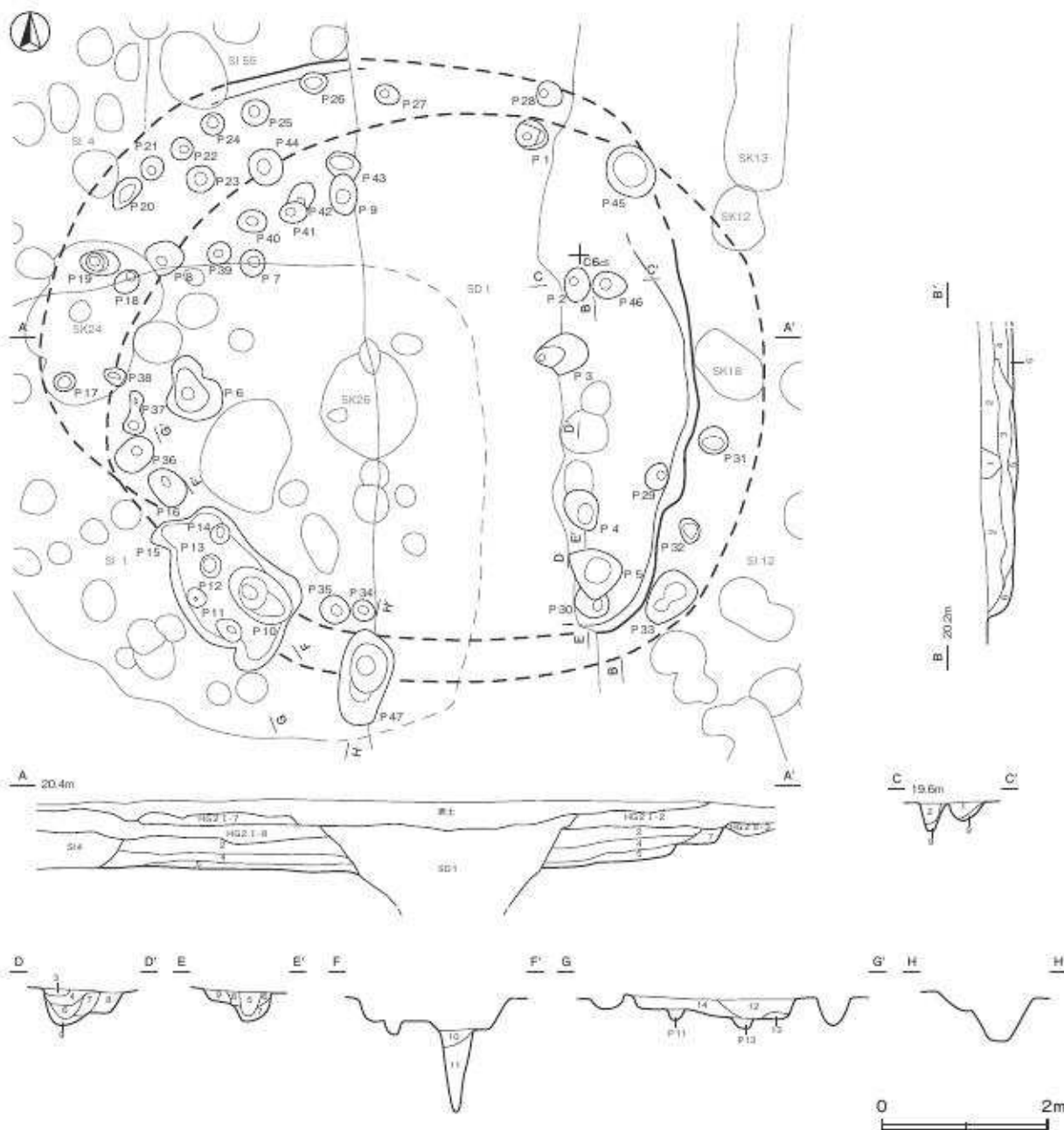
ピット土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |

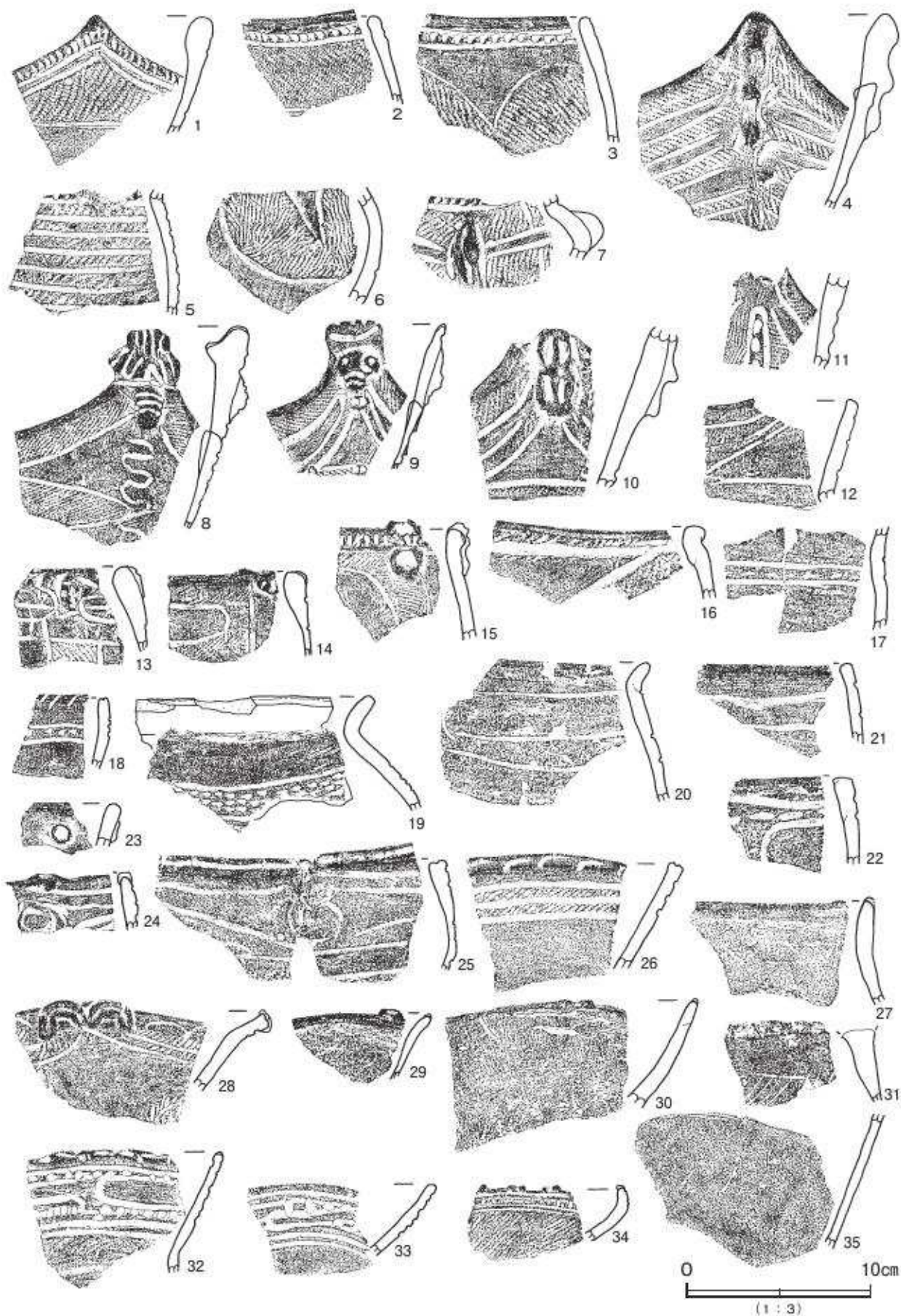
ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
深さ	(98)	33	37	45	37	(49)	58	120	73	(149)	(40)	(46)	(50)	(54)	(37)	(41)	(36)	(40)	(62)	21	28	17	12	24
番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
深さ	34	34	80	(60)	26	13	14	5	28	(24)	(36)	(29)	(29)	(29)	36	19	24	14	15	19	(24)	26	(63)	



第 62 図 第 7 号 堅 穴 建 物 跡 実 測 図



第 63 图 第 7 号竖穴建物跡出土遺物実装图 (1)

覆土 7層に分層できる。第1～6層は第7A号建物跡に帰属するもの、第7層は第7B号建物跡に帰属するものである。第3・5層は焼土ブロックや骨粉が含まれている層で、埋め戻された可能性がある。覆土中層で炭化物の散布が見られる。

土層解説

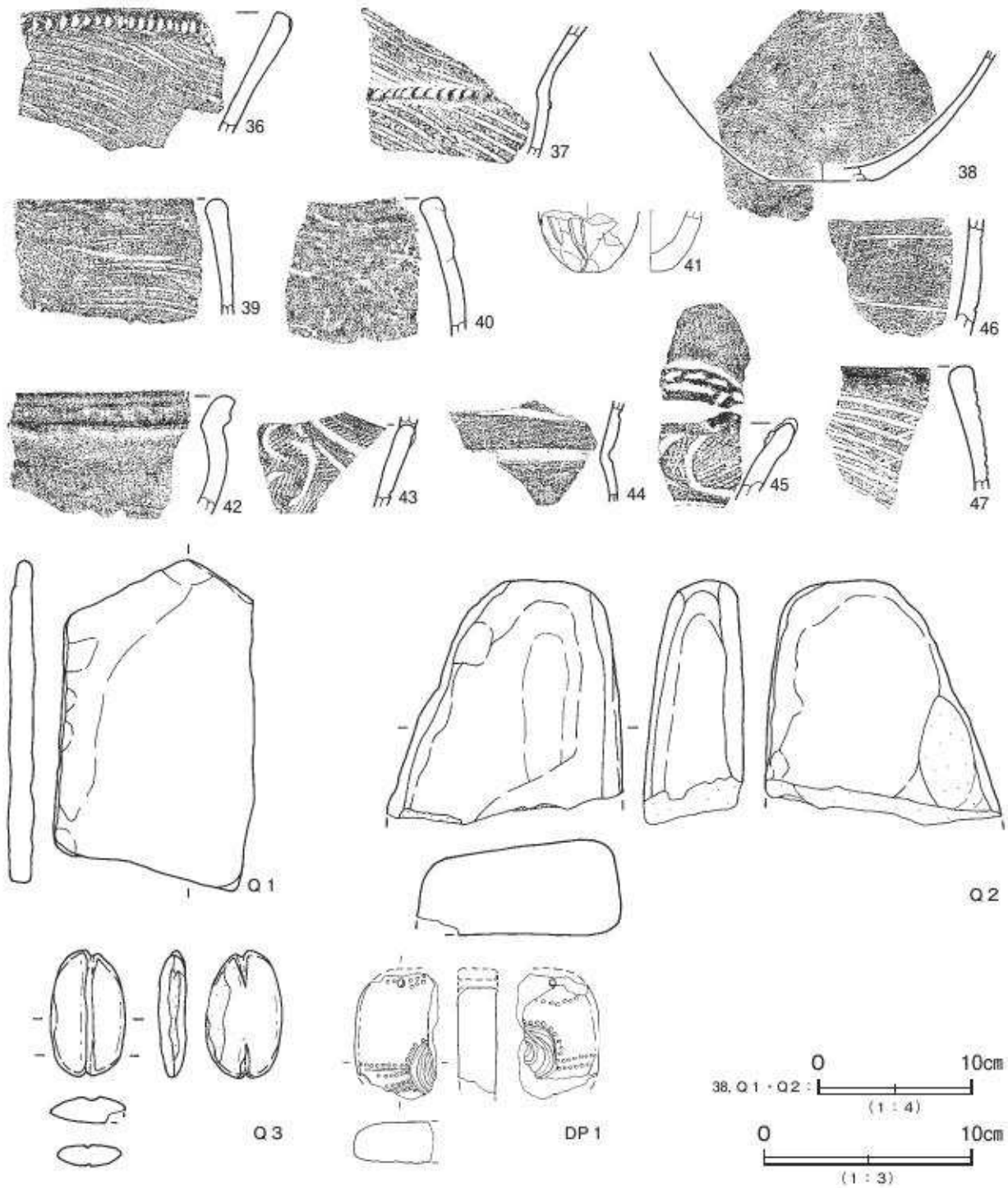
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・骨粉微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片2019点(32.4kg)、土製品4点(土器片円盤3、土版1)、石器・石製品11点(石皿類2、磨石類6、石錘1、石棒・石剣類2)のほか、焼成粘土塊2点、石核7点(チャート)、剥片7点(チャート5、黒曜石2)などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、主体となるのは、第4群(後期前葉)13.6%、第5群(後期中葉)19.2%と、第8群(晩期)32.8%である。

所見 覆土の堆積状況から、第7B号建物跡から第7A号建物跡に建て替えられている。時期は、出土土器から晩期前葉から中葉と考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表(第63～64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→刻み・RL縄文 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面無筋L縄文 無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面三角形区画文、内面ナデ	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文→磨貼付 内面ナデ	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・鉄・粘灰	にぶい橙	普通	外面沈線間刺突文 内面磨き	P7	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部刻み 内面磨き	覆土下層	
19	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面無文部ナデ 内面口縁部磨き 胴部ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面杓状文 内面ナデ	覆土中層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面杓状文 内面ナデ	覆土中層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ボタン状磨貼付 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	灰白	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土中層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面菱形状区画文、調整不明瞭	覆土中層	外・内面磨減
26	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L 内面ナデ	覆土中層	磨減
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ナデ 内面口縁部磨き	P8	
28	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・粘・粘灰	にぶい橙	普通	外面粗い磨き 内面磨き	覆土中層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面粗い磨き 口縁部にB突起 内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	古付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面細密沈線文充填 内面ナデ	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL36
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面羊歯状文 内面磨き	覆土中層	PL36
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・粘・粘灰	橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・粘・粘灰	にぶい橙	普通	外面条線→口縁部刻み 内面磨き	覆土中層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→粗磨貼付 内面頸部磨き 胴部ナデ	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	(6.6)	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土中層	20%
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	覆土上層	



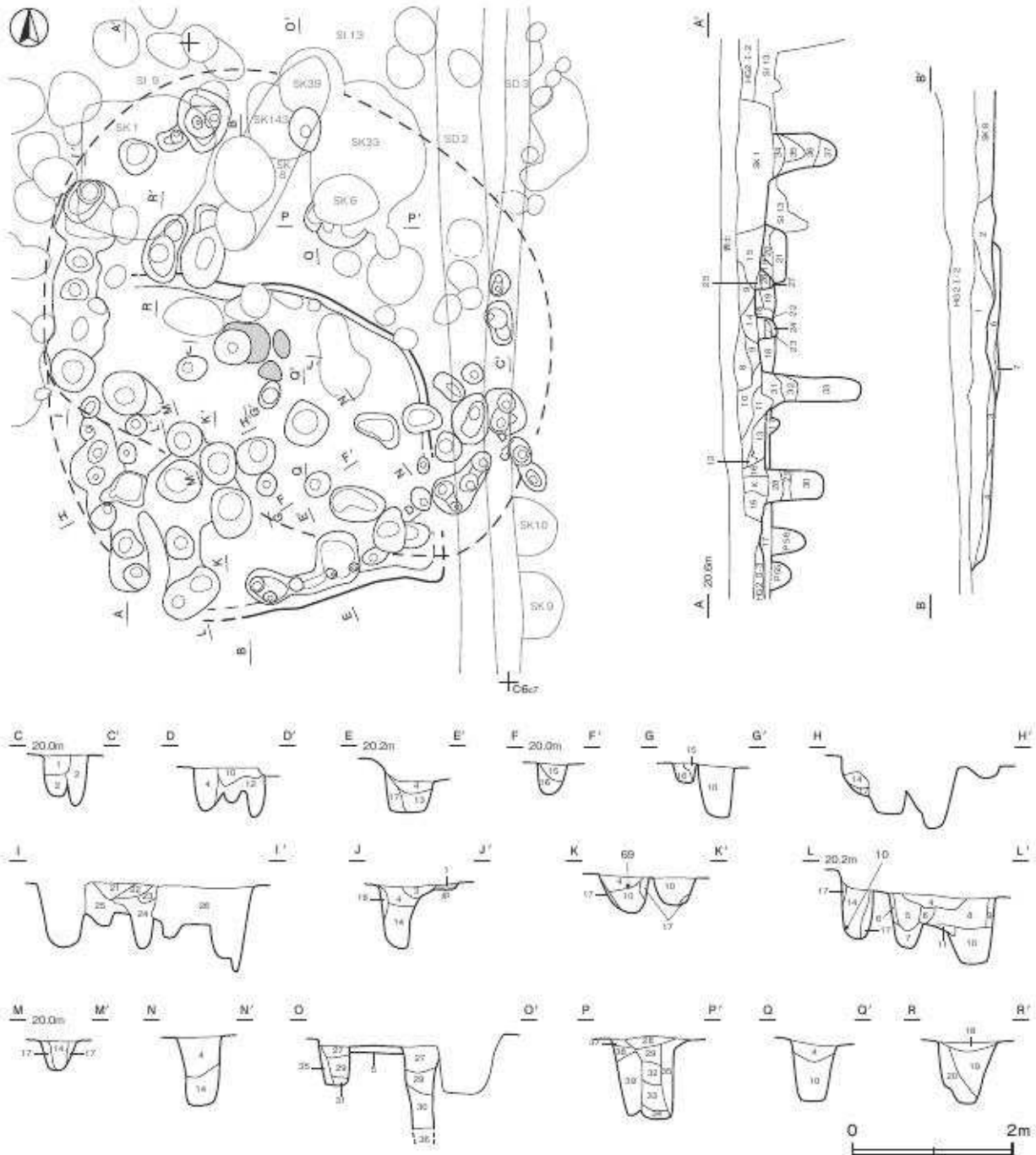
第64図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
41	縄文土器	ミニチュア	-	(29)	1.5	珪・鉄・銅・絶対好	にぶい橙	普通	外面指頭ナデ→沈線 内面指頭ナデ	覆土中層	30%
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄帯	普通	外・内面磨き	P 22	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 7	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面磨き 内面ナデ	P 16	
45	縄文土器	鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・絶対好	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 6	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤帯	普通	外面杵状文、内面ナデ	P 37	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・絶対好	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	P 7	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土版	(6.0)	(4.0)	(2.0)	(56.1)	長石・石英	にぶい緑	弧線文と細かい刺突文 上部に貫通孔	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質		特徴	出土位置	備考
Q 1	石皿類	(21.6)	13.1	1.6	(630.6)	砂岩		表面摩耗	覆土下層	3類
Q 2	石皿類	(15.8)	(15.4)	6.6	(394.1)	安山岩		表裏面・右側縁の3面使用	覆土下層	板状 1類
Q 3	石鏝	6.1	3.6	1.35	38.29	緑色岩		表面有溝 裏面切り目	覆土中層	1・2類

第8A～C号竪穴建物跡 (第65～70図 PL 5～7)

位置 調査A区西部のC6a6区、標高20mほどの台地上に位置している。



第65図 第8号竪穴建物跡実測図(1)

重複関係 第2号遺物包含層のI-2層下で確認した。第13号竪穴建物跡、第33号土坑を掘り込み、第1・6・8・39号土坑、第2・3号溝に掘り込まれている。第9号竪穴建物跡、第143号土坑とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかった。遺構の遺存状況から、いずれの竪穴建物跡よりも本跡が新しいことが想定できる。

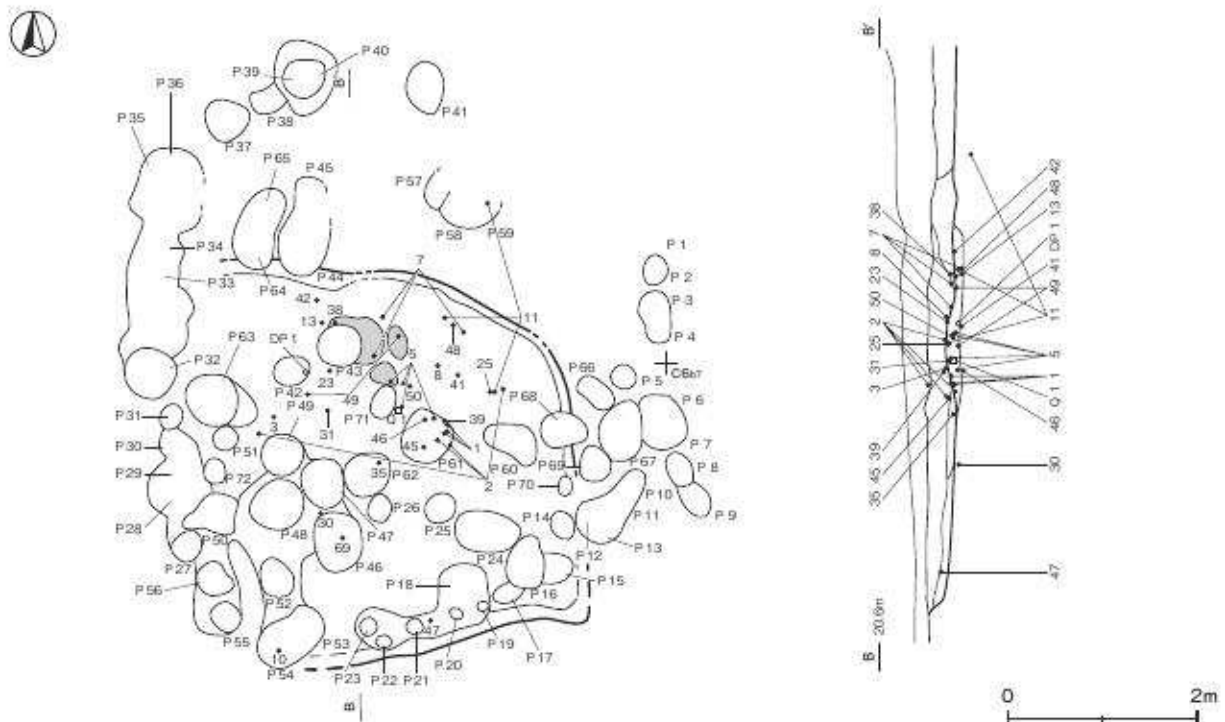
規模と形状 壁の一部が確認できたのみで、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。出入口ピットと想定されるピットが2か所確認できることから、建て替えの可能性はある。第8A号建物跡は、P53～P56を出入口部とし、P1～P23・P27～P41を壁柱穴とする建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径6.8m、出入口ピットまでの南北径は6.5mの円形で、出入口ピットから推定される主軸方向はN-23°-Eである。壁は高さ21cmで、外傾している。第8B号建物跡は、第8A号建物跡と壁柱穴や主柱穴を一部共有し、P46～P48を出入口部とし、P1～P16・P24～P26・P31～P41・P51を壁柱穴とする竪穴建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径6.8m、出入口部までの南北径は5.8mである。炉と出入口部を結ぶ主軸方向は、第8A号建物跡とはほぼ同様である。壁の掘り込みは確認できなかった。さらに、本跡南側の床面が5～10cmほど下がっている部分があり、これを第8C号建物跡とする。西壁を確認することができなかったため、南北径は約4.0m、確認できた東西径は3.9mの不整形円形である。壁は高さ5～10cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。いずれの建物跡においても、硬化面は確認できなかった。

炉 中央に位置し、P43に掘り込まれている。長径64cm、短径40cmで、深さ10cmの地床炉である。

炉土層解説

1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・骨粉中量、ローム粒子少量



第66図 第8号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 72か所。P 57～P 65が位置と形状、深さから支柱穴と考えられ、ほぼ同位置でピットが重複していることから、大きく位置を変えることなく柱を立て替えていることが推測される。西壁側の壁柱穴は、幅30～70cm、深さ40cmの溝状の掘方の中で確認できる。壁柱穴の中にも深さのあるものもあり、上屋を支える支柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。

ピット土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子中量	20 褐 色	ローム粒子多量
2 懸 暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	21 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
3 黒 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量	22 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4 懸 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	23 暗 褐 色	ロームブロック少量
5 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	24 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
6 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	25 暗 褐 色	ロームブロック少量
7 暗 褐 色	ロームブロック少量、骨粉微量	26 暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
8 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	27 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量
9 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	28 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10 黒 褐 色	貝片・骨粉中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	29 懸 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量
11 褐 色	ローム粒子多量	30 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子・貝片少量
12 黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	31 暗 褐 色	ロームブロック中量
13 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	32 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量、骨粉微量
14 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	33 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、骨粉微量
15 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	34 黒 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、骨粉微量
16 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	35 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
17 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	36 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・貝片少量
18 暗 褐 色	ローム粒子少量	37 褐 色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
19 暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	38 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
		39 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子少量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	42	52	80	38	25	45	31	48	36	61	46	68	69	23	64	32	75	40	55	66	49	45	59	45	38
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	26	32	52	54	48	47	80	86	64	56	114	73	55	74	84	(100)	32	79	40	21	46	36	81	36	55
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72			
深さ	33	70	61	-	46	33	95	100	100	84	70	65	113	82	38	15	46	24	39	14	74	20			

覆土 21層に分層できる。第1～5・8～16層が第8A・8B号建物跡、第6・7・17～21層が第8C号建物跡に帰属している。各層とも遺物が多く含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第5層は第33号土坑を貼床している。第22～37層はP 37・P 50・P 63の覆土である。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗 褐 色	ローム粒子少量
2 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	20 黒 色	ローム粒子少量
3 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子・骨粉少量	21 黒 色	ローム粒子中量
4 褐 色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	22 黒 褐 色	ローム粒子微量 (ピット覆土)
5 懸 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	23 黒 褐 色	ローム粒子少量 (ピット覆土)
6 褐 色	ロームブロック中量	24 黒 褐 色	ローム粒子中量 (ピット覆土)
7 暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	25 黒 褐 色	ローム粒子少量 (ピット覆土)
8 黒 褐 色	ローム粒子少量	26 黒 褐 色	ローム粒子中量 (ピット覆土)
9 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	27 黒 褐 色	ローム粒子少量 (ピット覆土)
10 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	28 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量 (P50覆土)
11 黒 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	29 黒 褐 色	ローム粒子中量 (P50覆土)
12 黒 色	ローム粒子微量	30 黒 褐 色	ローム粒子少量 (P50覆土)
13 暗 褐 色	ローム粒子少量	31 黒 褐 色	ローム粒子中量 (P63覆土)
14 黒 褐 色	ローム粒子微量	32 黒 褐 色	ローム粒子少量 (P63覆土)
15 黒 褐 色	ローム粒子少量	33 暗 褐 色	ローム粒子中量 (P63覆土)
16 黒 褐 色	ローム粒子少量	34 暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子微量 (P37覆土)
17 黒 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	35 暗 褐 色	ローム粒子少量 (P37覆土)
18 暗 褐 色	ロームブロック少量	36 黒 褐 色	ローム粒子少量 (P37覆土)
		37 暗 褐 色	ローム粒子中量 (P37覆土)

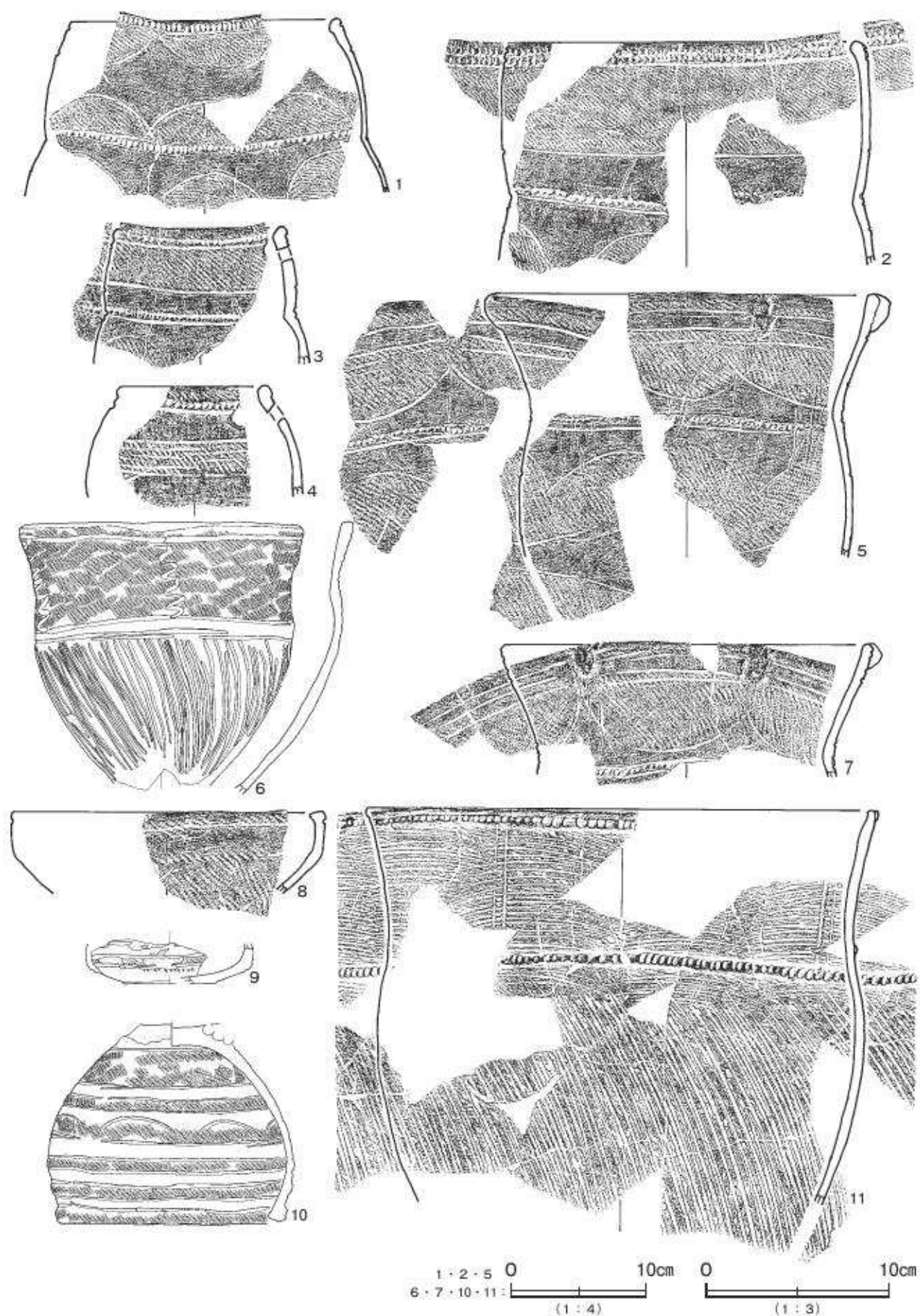
遺物出土状況 縄文土器片2,920点(49.42kg)、土製品5点(土錘1、土器片円盤1、土偶2、貝輪状1)、石器・石製品10点(磨製石斧2、磨石類7、砥石1)、骨角製品3点(簪1、栓状製品2)のほか、剥片12点

(チャート8, 黒曜石4)などが出土している。また覆土中やピットなどから、獣骨片が816.61g, オオタニシやマツカサガイ, ヤマトシジミなどの貝類が654.12g出土している。これらの自然遺物については、付章に分析結果を掲載しているので参照されたい。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群(後期前葉)18%、第5群(後期中葉)24%、第6群(後期後葉)16%、第7群(後期後葉)22%である。床面付近で出土しているものは、第6群の曾谷式から第7群の安行1式が多い。10はP54の底面付近から出土している。

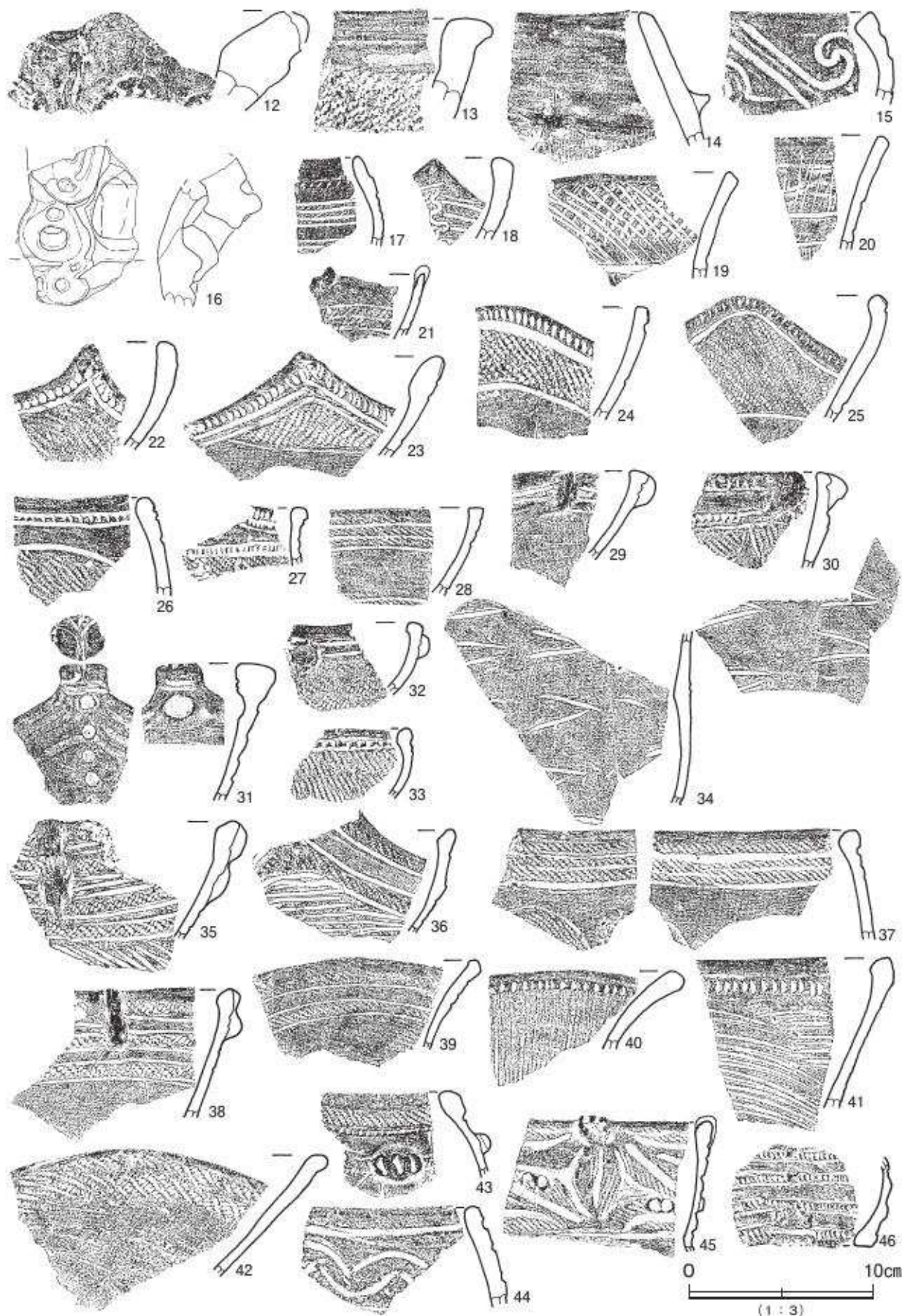
所見 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。第8A号建物跡と第8B号建物跡は、主軸方向を変えことなく壁柱穴を共有し、主柱穴の位置も大きく変わらないことから、比較的短期間の建て替えが考えられる。

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表(第67～70区)

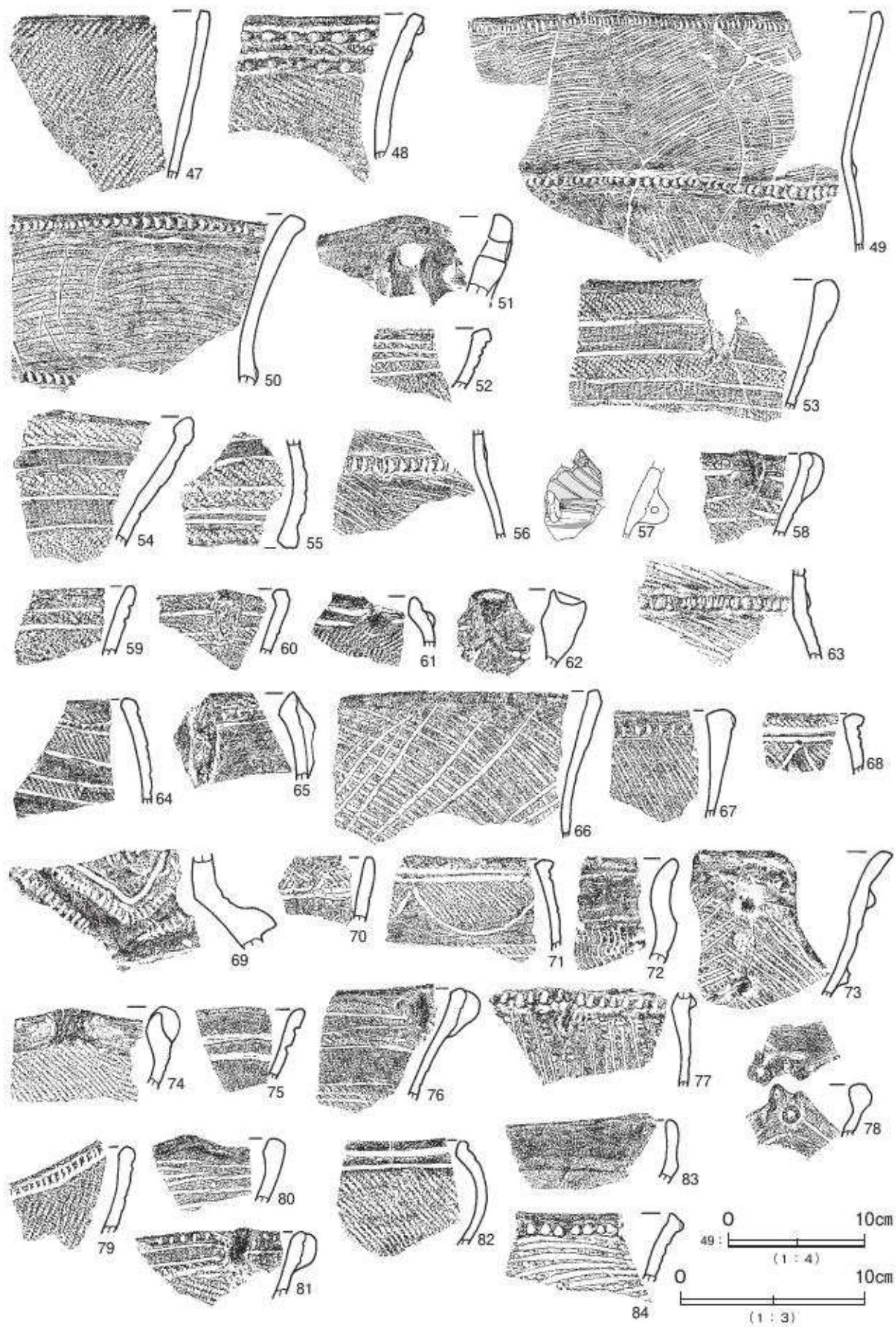
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[19.3]	(12.4)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	10% PL36
2	縄文土器	深鉢	[24.6]	(16.0)	-	長石・石英・角閃石	にぶい青褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	10%
3	縄文土器	深鉢	[9.2]	(7.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	10%
4	縄文土器	深鉢	[8.0]	(6.1)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	5%
5	縄文土器	深鉢	[27.0]	(19.0)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	8C覆土	10% PL36
6	縄文土器	深鉢	20.0	(19.8)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面RL縄文→横位・蛇行沈線→条線 内面磨き	P41	80% PL27
7	縄文土器	深鉢	[26.2]	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面磨貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	10% PL36
8	縄文土器	鉢	[17.1]	(4.5)	-	長石・石英・角閃石	赤黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	床面	10%
9	縄文土器	鉢	-	(2.1)	[5.2]	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	20%
10	縄文土器	台付鉢	-	(14.5)	15.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P54	50%
11	縄文土器	深鉢	[36.6]	(28.3)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面沈線→条線→区面沈線→紐線貼付 内面磨き	床面	40% PL27
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆帯筋爪形文 内面ナデ	P47	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	橙	普通	外面ワ段多条のLR縄文 内面磨き	8C覆土	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面口縁部磨き 胴部磨貼付工具の条線 内面磨き	床面	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐	普通	丁字文 外面無文部 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	把手部 外・内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黄橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面横位沈線→蛇行沈線 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面口縁部斜線文 内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黄灰	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	二次焼成
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	外面波頂部に凹線文と竹管文 内面磨き	床面	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨貼付→沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文 内面磨き	P53・P54	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面ナデ→矢羽状沈線文 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	床面	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤灰	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐	普通	外面隆帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
40	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面刻み→条線 内面磨き	P41	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤黒	普通	外面条線→付点文 内面磨き	8C覆土	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面RL縄文→磨き 内面磨き	床面	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面隆帯筋刻み→RL縄文→無文部磨き・磨貼付 内面磨き	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面対置文 外・内面ナデ	覆土上層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
46	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面隆帯筋沈線→刻み→無文部磨き 内面ナデ	8C覆土	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面RL縄文→紐線貼付 内面磨き	8C覆土	



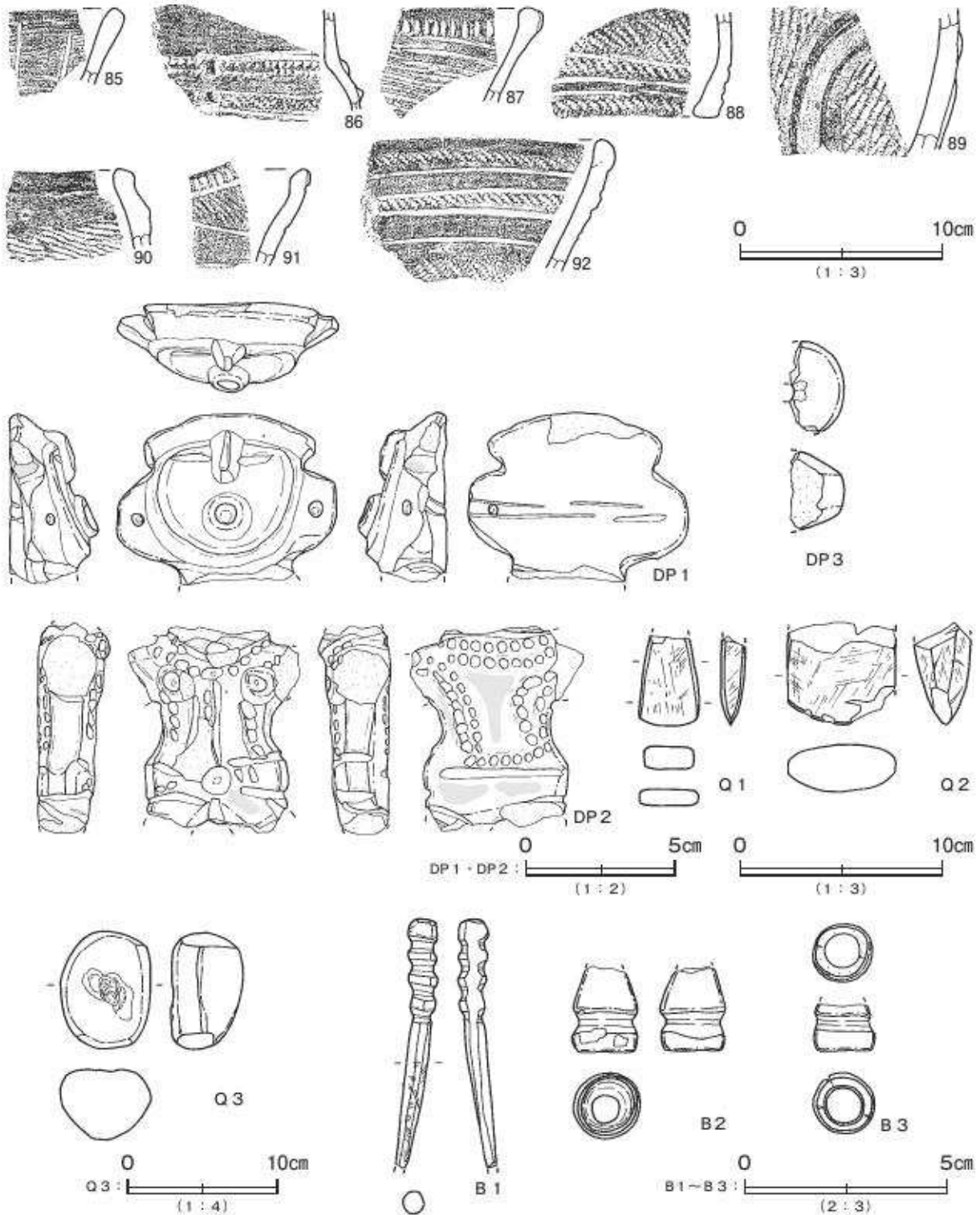
第 67 图 第 8 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 68 図 第 8 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 69 图 第 8 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第70図 第8号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)

第8号竖穴建物跡出土遺物観察表(第67~70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・砂・粘質・割石	明赤褐色	普通	外面条線→刻み・紐線貼付 内面磨き	床面	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	床面	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P 14	
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL.縄文→沈線 内面ナデ	P 18	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	暗赤灰	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 16	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 褐	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 26	
55	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 26	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面条線→組線貼付 内面磨き	P 26	
57	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面口縁部・頸部に突起 内面赤彩	P 42	頸部に煤
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 42	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 32	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 32	
61	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面磨貼付→沈線→LR縄文 内面磨き	P 32	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄褐	普通	外面隆帯部に刺突文 胴部RL縄文 内面磨き	P 36	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤 黒	普通	外面条線→組線貼付 内面磨き	P 42	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 36	
65	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 36	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面条線 内面口縁部凹線 磨き	P 36	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→付点細線文 内面ナデ	P 36	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 47	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	にぶい黄褐	普通	外面隆帯幅爪形文 内面磨り	P 46	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→羽状のRL縄文 内面ナデ	P 46	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 46	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄 橙	普通	外面口縁部磨き 胴部磨削状工具の条線 内面ナデ	P 49	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	P 49	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	P 48	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面ナデ 内面磨き	P 48	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・割・絶好	黒 褐	普通	外面磨貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 48	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面RL縄文→組線貼付→条線 内面磨き	P 48	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・割・絶好	黄 灰	普通	外面ナデ 口唇部内面に細かい刻み 内面磨き	P 53・P 54	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・絶好・割	橙	普通	外面沈線→刻み・LR縄文 内面ナデ	P 58・P 59	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面条線 内面磨き	P 58・P 59	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・絶好・割	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 58・P 59	
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・緑・絶好・割	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 58・P 59	
83	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	P 64・P 65	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面地縄文→組線貼付 内面磨き	P 64・P 65	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面条線 内面磨き	P 61	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤 黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・磨貼付 内面ナデ	P 61	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→刻み 内面磨き	P 61	
88	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・緑・絶好・割	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 61	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面RL縄文→隆帯貼付 内面磨き	P 68	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面無筋L縄文 内面ナデ	P 68	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 68	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 68	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.6)	(7.2)	2.9	(86.4)	長石・石英	灰 白	山形 赤彩	8C 覆土	2a 類 PL39
DP 2	土 偶	(6.8)	(5.6)	2.4	(78.6)	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐	山形 背面赤彩	覆土上層	2c 類 PL39
DP 3	土 鉢	径 [4.5]	-	(3.8)	(42.4)	長石・雲母	赤 褐	ナデ整形	覆土中	

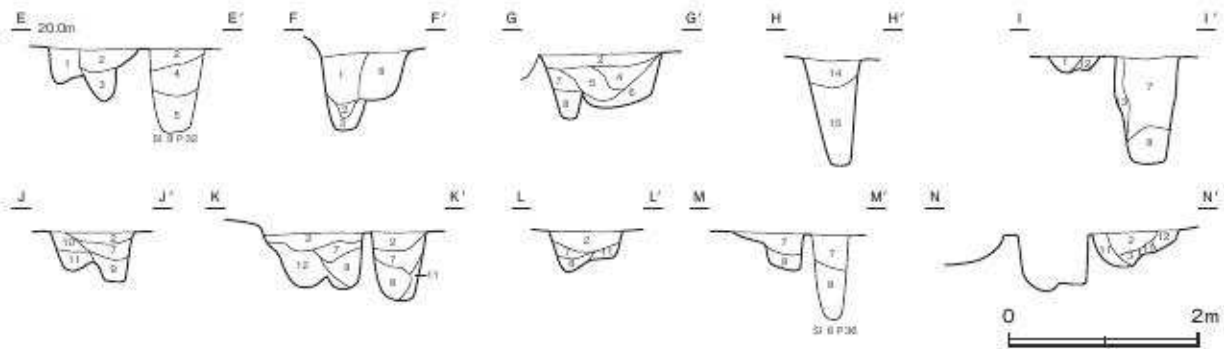
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(4.5)	2.9	1.1	(29.3)	緑色岩	小形定角式 全面研磨加工	覆土下層	
Q 2	磨製石斧	(5.0)	(5.3)	2.8	(91.6)	ドレライト	定角式 刃部丸味を帯びる 全面研磨加工	覆土中	
Q 3	磨石類	7.6	5.8	4.6	299.8	安山岩	表面面磨痕 表面に凹痕	覆土下層	2a 類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
B 1	箸	(6.2)	0.7	0.5	(2.11)	シカ中手骨	先端部欠損 表面割離	P 61	
B 2	棒状製品	径 1.6	孔径 1.2	(2.1)	(2.73)	鹿 角	外面磨き 赤彩 内面回転による穿孔	覆土下層	
B 3	棒状製品	径 1.5	孔径 1.3	(1.1)	(1.32)	鹿 角	外面磨き 内面回転による穿孔	P 60	

第9A・B号竪穴建物跡（第71～75図 PL 5・7）

位置 調査A区西部のB 6j5区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のI-2層下で確認した。第1・2号土坑、第1号堀に掘り込まれている。第3・8・13号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかった。各遺構の遺



第72図 第9号竪穴建物跡実測図(2)

存状況や出土土器から、第3・8・13号竪穴建物が本跡を掘り込んでいと推測される。

規模と形状 壁は確認できず、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。出入口ピットと推定できるピットが2か所確認できることから、建て替えの可能性がある。第9A号建物跡は、P 23・P 24を出入口部とし、P 1・P 2・P 4～P 7・P 12・P 13～P 15などを壁柱穴とする平面形が円形あるいは楕円形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径は6.6 m、出入口ピットまでの南北径は6.3 mで、出入口ピットから推定される主軸方向はN-14°-Eである。第9B号建物跡は、第9A号建物跡と壁柱穴を一部共有するもので、P 21・P 28～P 31を出入口ピットとし、P 9・P 10・P 11・P 16～P 20・P 34・P 47・P 48などを壁柱穴とする。平面形が円形あるいは楕円形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径は第9A号建物跡と同じで、出入口ピットまでの南北径は6.1 mである。出入口ピットから推定される主軸方向は、第9A号建物跡とほぼ同様である。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 49か所。上述した壁柱穴のほか、第8号竪穴建物跡に帰属するとしてP 39・P 40・P 65や第3号竪穴建物跡に帰属するとしてP 4・P 19・P 20・P 22・P 24・P 44・P 47・P 48も本跡に伴う可能性がある。P 32・P 33・P 35～P 37が、位置と形状・深さから主柱穴の可能性もある。そのほか第3号建物跡のP 6・P 7・P 9や第8号建物跡のP 36なども、位置と形状・深さから本跡の主柱穴の可能性もある。壁柱穴の中にも非常に深さのあるものもあり、上屋を支える主柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子中量、骨粉少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量、骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 | 18 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量 |
| 9 暗褐色 | 骨粉中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 20 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 21 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	13	75	19	53	51	56	44	36	52	53	84	(130)	16	97	10	120	59	11	62	55	71	40	43	53	89
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	
深さ	48	32	63	86	60	58	115	117	42	76	73	69	107	30	36	41	32	52	42	13	39	55	50	34	

覆土 床面に近い部分まで第2号遺物包含層として掘り下げたため、覆土の一部を確認したのみである。6層に分層できる。各層ともローム粒子やロームブロックがやや多く含まれている層が、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

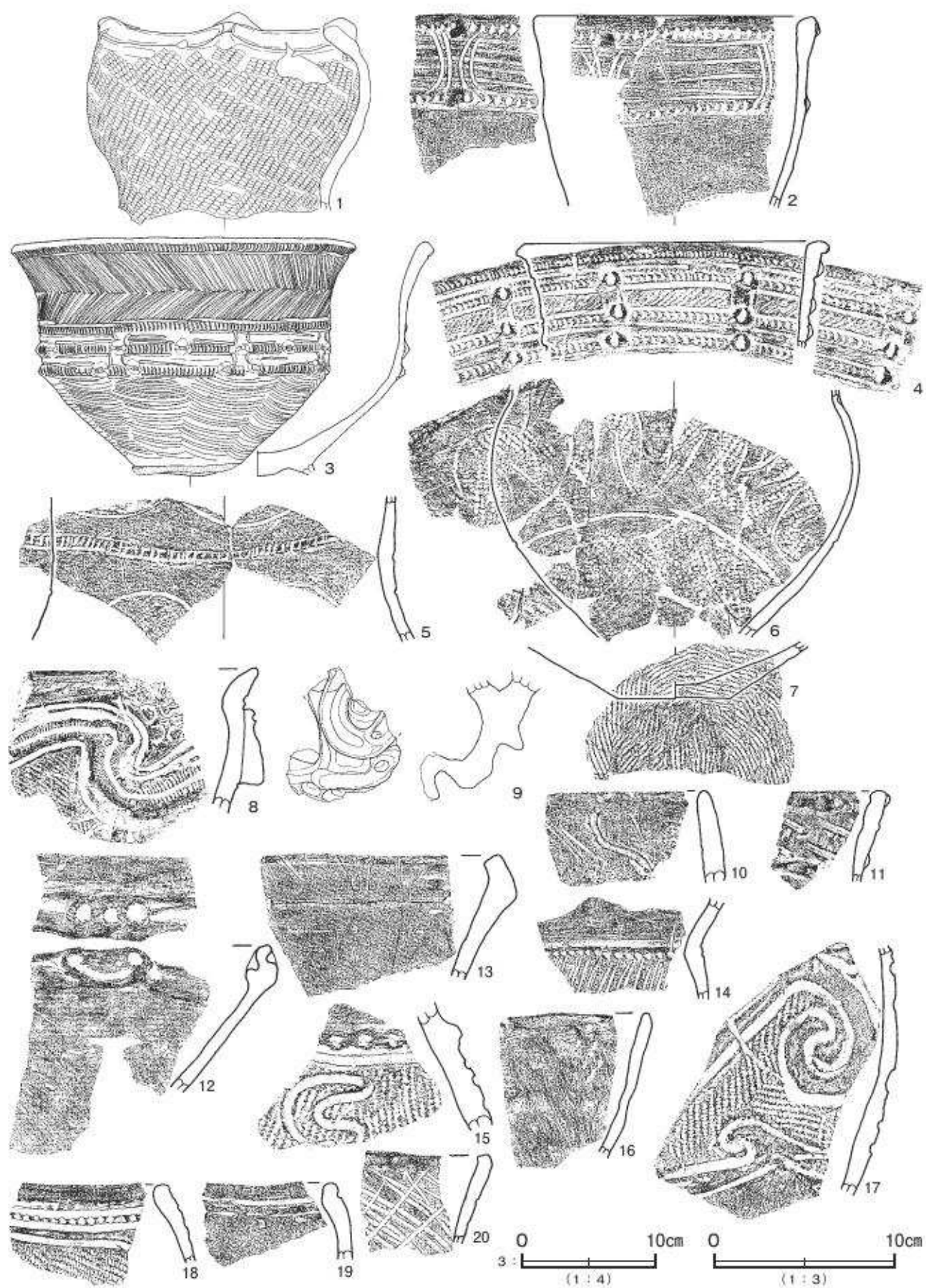
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 2,369 点 (31.67kg)、土製品 1 点 (貝輪状)、石器・石製品 12 点 (打製石斧 1、石皿類 1、磨石類 6、石錘 1、砥石 1、浮子 1、玉類 1) のほか、石核 2 点 (チャート)、剥片 11 点 (黒曜石 5、チャート 2、頁岩 4) などが出土している。また覆土中やピット中から、獣骨片が 22.62 g、オオタニシやマツカサガイ、ヤマトシジミなどの貝類が 4.63 g 出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが見られるが、第2群 (中期後半) 12%、第3群 (後期初頭) 16%、第4群 (後期前葉) 26%、第5群 (後期中葉) 16%、第6群 (後期後葉) 18%、第7群 (後期後葉) 17% で、各時期の土器群がほぼ同率で確認できる。3はP 20の覆土上層から出土している。また早期後半の条痕文系土器群が 132 点出土している。

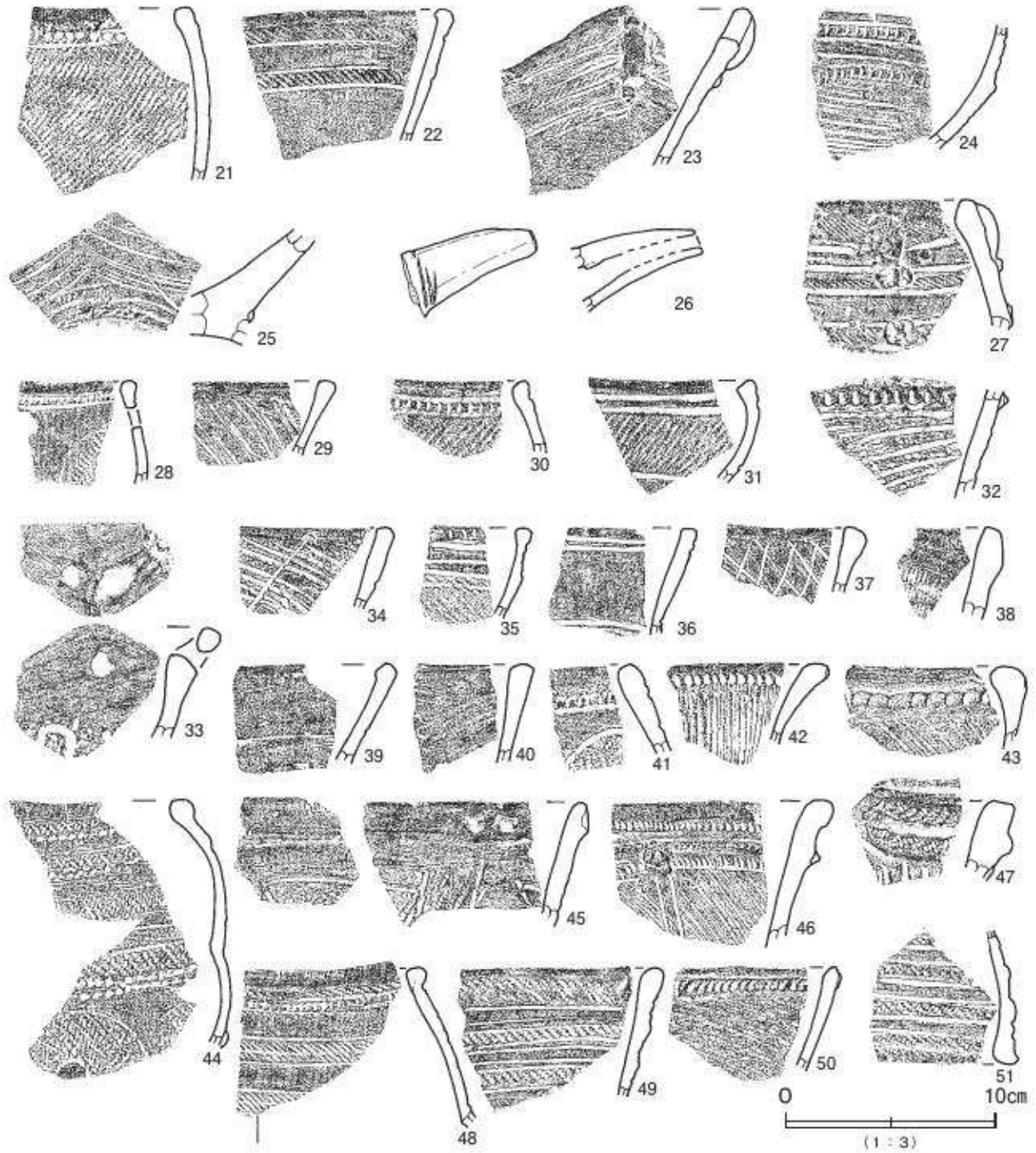
所見 時期は、出土土器から後期中葉から後期後葉の安行1式期と考えられる。また第3・4群の土器群が一定量確認できること、支柱穴の位置が不整で、壁柱穴構造の建物跡の可能性もあることなどから、本跡のA・Bいずれかが後期初頭から後期前葉となる可能性も考えられる。

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第73～75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	12.9	(11.6)	-	胚・胚・粘砂・燧石	にぶい橙	普通	外面LR縄文・内面磨き	床面	40% PL27
2	縄文土器	深鉢	15.8	(15.5)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→刻み→磨貼付→縦位の弧線文・内面磨き	覆土中	5・内径部1%
3	縄文土器	台付鉢	24.7	(17.5)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→隆帯上刻み・内面磨き	P 20	90% PL29
4	縄文土器	深鉢	17.1	(5.7)	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→刻み→磨貼付・内面磨き	床面	20% PL28
5	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	P 11	10%
6	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	胚・胚・粘砂・燧石	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	床面	20%
7	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	6.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	外面・底面LR縄文・内面粗い磨き	床面	20%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	胚・胚・粘砂・燧石	明赤褐色	普通	外面無筋L縄文充填・内面磨き	床面	
9	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	把手部 C字状磨付文・外・内面磨き	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ→蛇行沈線文・内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面地縄文→磨貼付→沈線文・内面口縁部に2条の呂線文	床面	
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面磨き・内面口縁部に高文連続沈線文	覆土中	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き	床面	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤灰	普通	外面刻文→条線・沈線→頸部磨き・内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面RL縄文→沈線・内面磨き	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面削り→粗い磨き・内面粗い磨き	床面	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文・内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→RL縄文・内面ナデ	覆土中	
19	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	灰黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面斜格子目文・内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→刻み・LR縄文・内面ナデ	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→頸部磨き・内面粗い磨き	覆土中	
24	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→刻み→条線・内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線・内面磨き	床面	
26	縄文土器	注口	-	-	-	胚・胚・粘砂・燧石	灰黄褐色	普通	外面磨き	覆土中	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	胚・胚・粘砂・燧石	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P 2	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面条線・内面ナデ	P 2	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→刻み・LR縄文・内面磨き	P 3	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	P 7	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯筋沈線→条線・内面磨き・口縁部凹線	P 7	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	胚・胚・粘砂・燧石	浅黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P 11	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条線・内面磨き	P 12	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→口縁部刻み・RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P 21	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外面無文部・内面磨き	P 23	



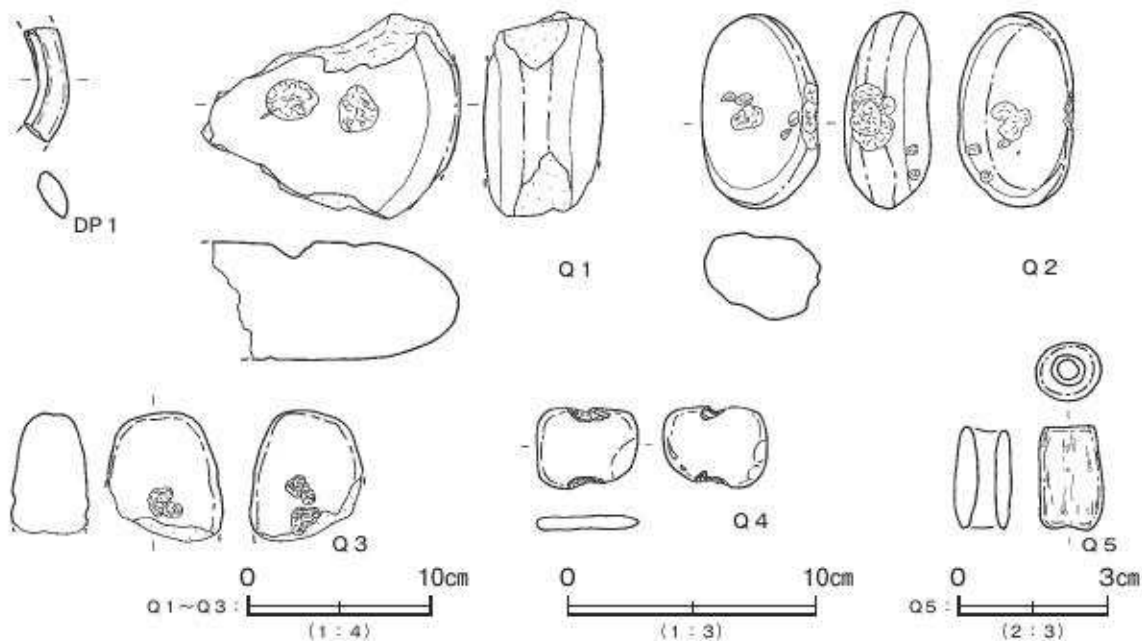
第 73 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物实测图 (1)



第74図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第73~75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面格子目文 内面口縁部凹線	P 23	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面櫛歯状工具による刻み充填 内面磨き	P 23	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面削り 内面磨き	P 33	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・角閃石	にぶい・橙	普通	外面条線 内面磨き	P 33	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤・鈍鉄	灰黄褐	普通	外面沈線→刻み→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 33	
42	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面条線→刻み 内面磨き	P 33	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	P 33	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 33	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	にぶい・黄橙	普通	外面LR 縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	P 35	
46	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	黒褐	普通	外面沈線→条線→隆起帯上刻み→雷貼付 内面磨き	P 35	



第75図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第73～75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆帯上LR縄文・内面ナデ	P 39	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→削み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 43	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆帯帯脇沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 43	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面地縄文→条線→組織貼付 内面磨き	P 43	
51	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯帯脇沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 39	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	貝輪状	径[100]	-	18	(106)	長石・石英	にぶい橙	外・内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石器類	(108)	(136)	6.2	(1092)	安山岩	表表面磨痕 裏面凹痕 裏面下端に黒色の付着物	覆土下層	2類
Q 2	磨石類	10.3	6.1	4.5	395.1	輝石安山岩	表表面磨痕 表裏・側縁に凹痕	覆土中	2a類
Q 3	磨石類	(69)	6.0	4.1	(259.7)	輝石安山岩	表表面磨痕 表裏面に凹痕	覆土中	2a類
Q 4	石錘	3.3	4.1	0.6	11.8	安山岩	短軸側に紐掛け部	覆土中	3類
Q 5	管玉	2.1	径[15-1]	-	4.93	蛇紋岩	両面穿孔	覆土下層	PL46

第11号竪穴建物跡(第76～80図 PL 7)

位置 調査A区南西部のC 6e6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のⅡ-1層を掘り込み、第21・22号土坑に掘り込まれている。第3号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南部が調査区域外となるため、東西軸は4.88mで、南北軸は3.8mしか確認できなかった。隅丸長方形と推測され、南北軸方向はN-3°-Wである。壁は掘り込みの深さは9～26cmであるが、土層断面図で確認できる壁の高さは50～58cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。壁際を除き、踏み固められている。

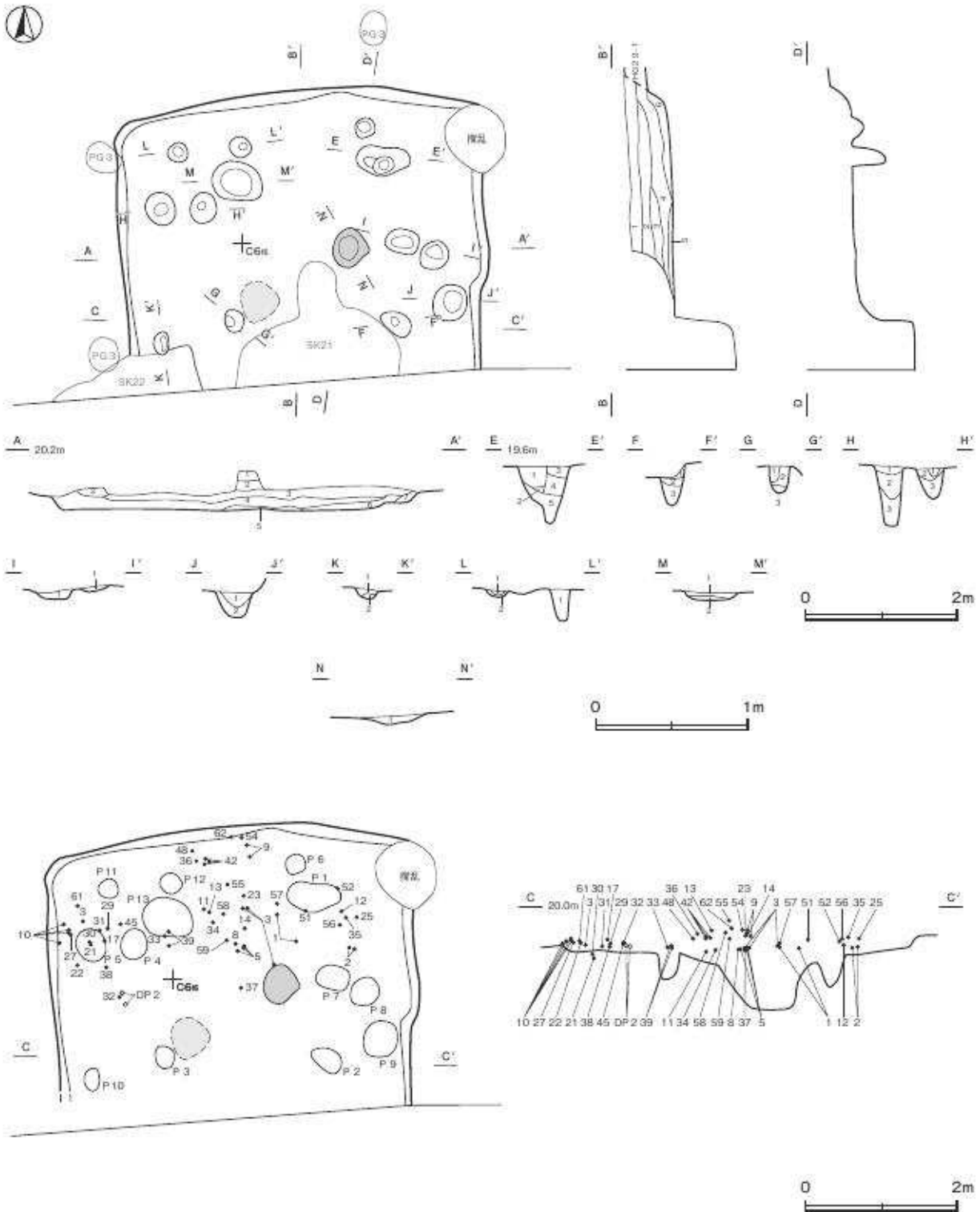
炉 中央やや東寄りに付設されている。長径50cm、短径45cmの楕円形で、深さが5cmの地床炉である。底面

は火熱のため、赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット 13か所。P1～P5は、位置と深さから主柱穴と考えられる。それ以外は補助柱穴的な役割のものと考えられるが、配置は不整である。



第76図 第11号竪穴建物跡実測図(1)

P 1 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

P 2 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

P 3・P 5・P12 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

P 4 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

P 7・P 8 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

P 9・P11・P13 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

P 10 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
深さ	78	56	33	41	81	16	14	8	33	15	12	43	13

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

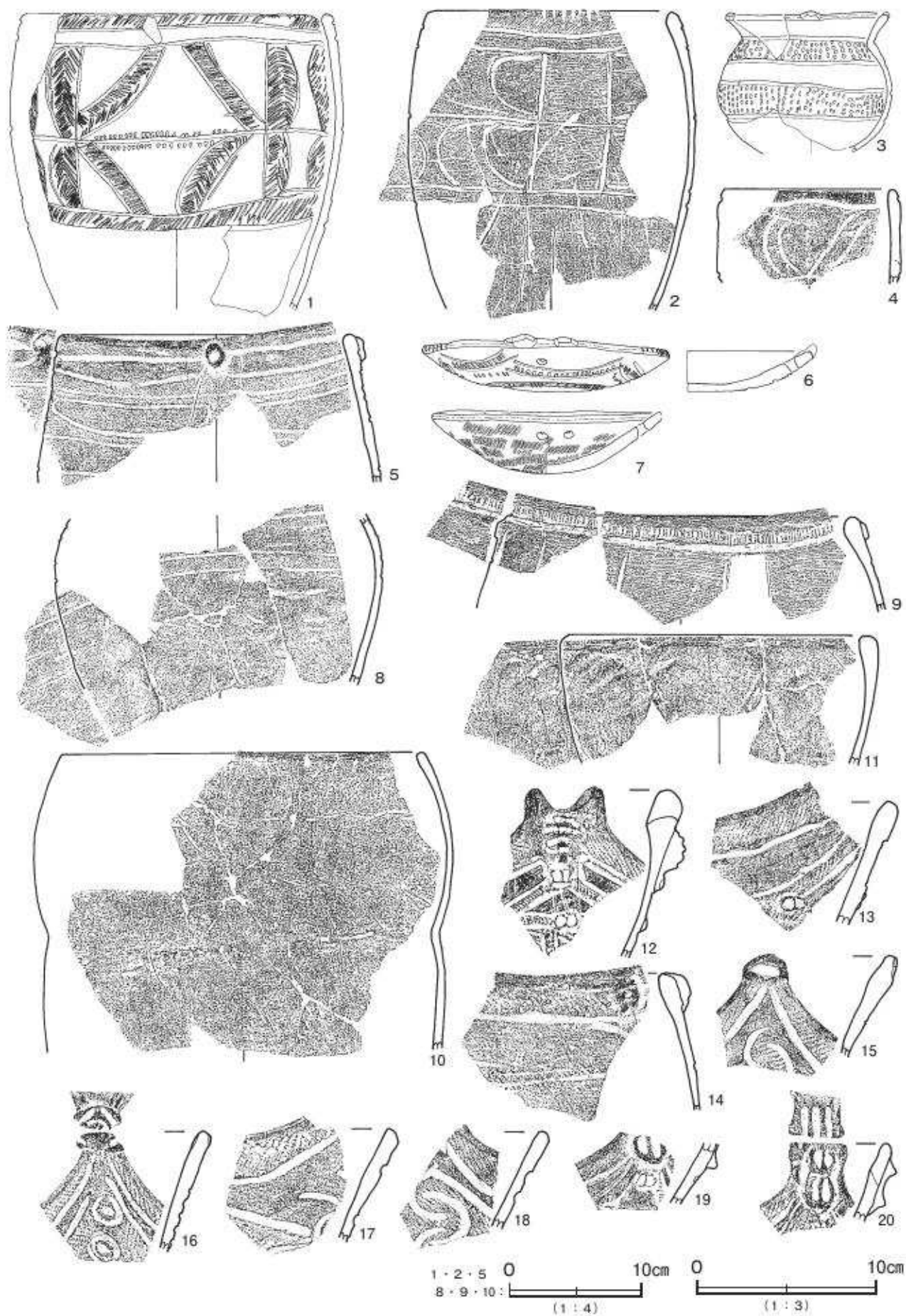
- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 2,360 点 (35.56kg)、土製品 8 点 (土器片円盤 2、耳飾り 1、土偶 3、土版 2)、石器・石製品 7 点 (磨製石斧 2、石皿類 2、砥石 1、礫器 1、石棒・石剣類 1) のほか、石核 3 点 (チャート)、剥片 17 点 (チャート 13、黒曜石 3、瑪瑙 1) などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、後期後葉以前は少なく、主体となるのは第 8 群のうち晩期前葉の 29%、晩期中葉の 14% である。

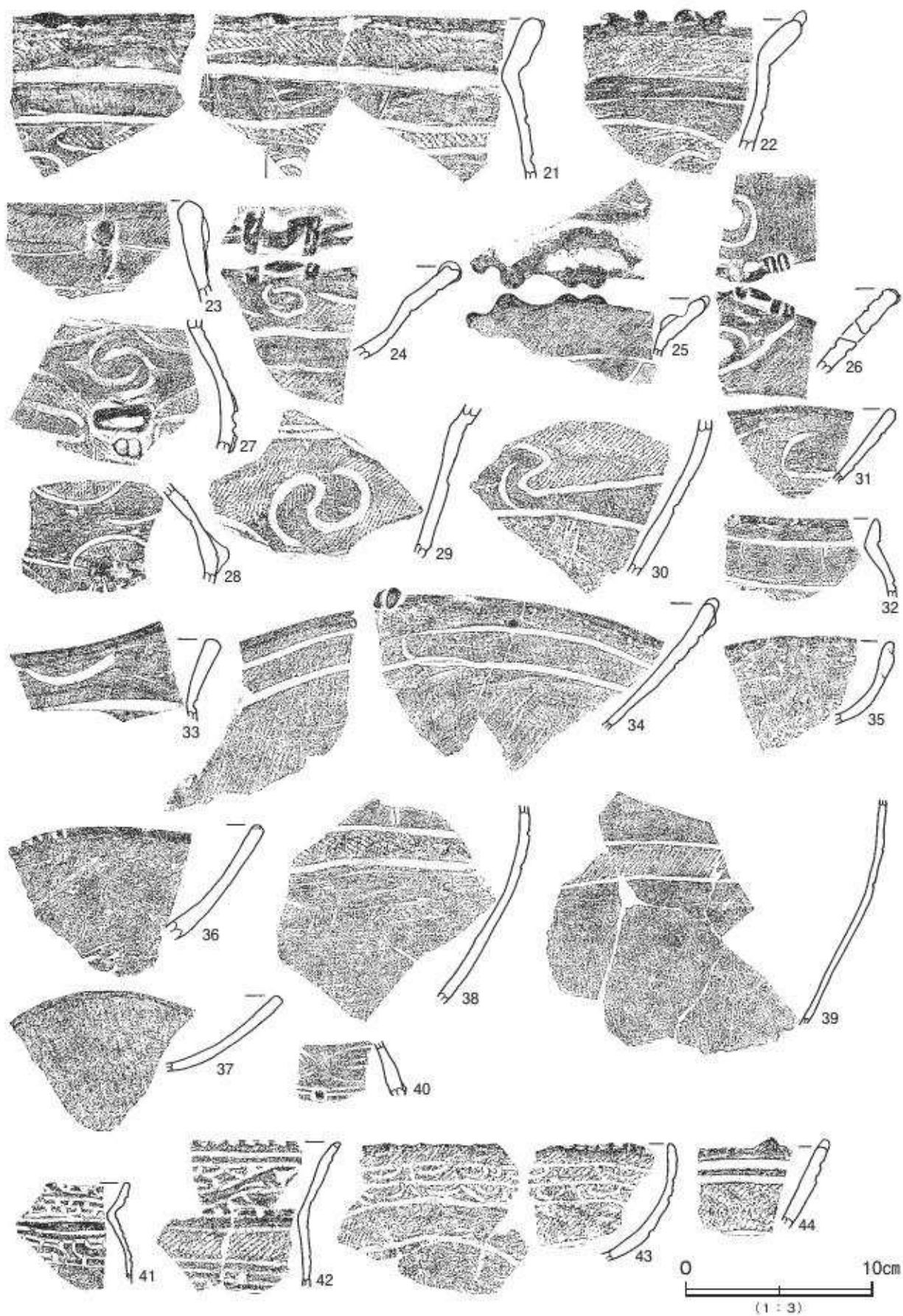
所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期から晩期中葉の安行 3 c 式期と考えられる。

第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 77 ~ 80 図)

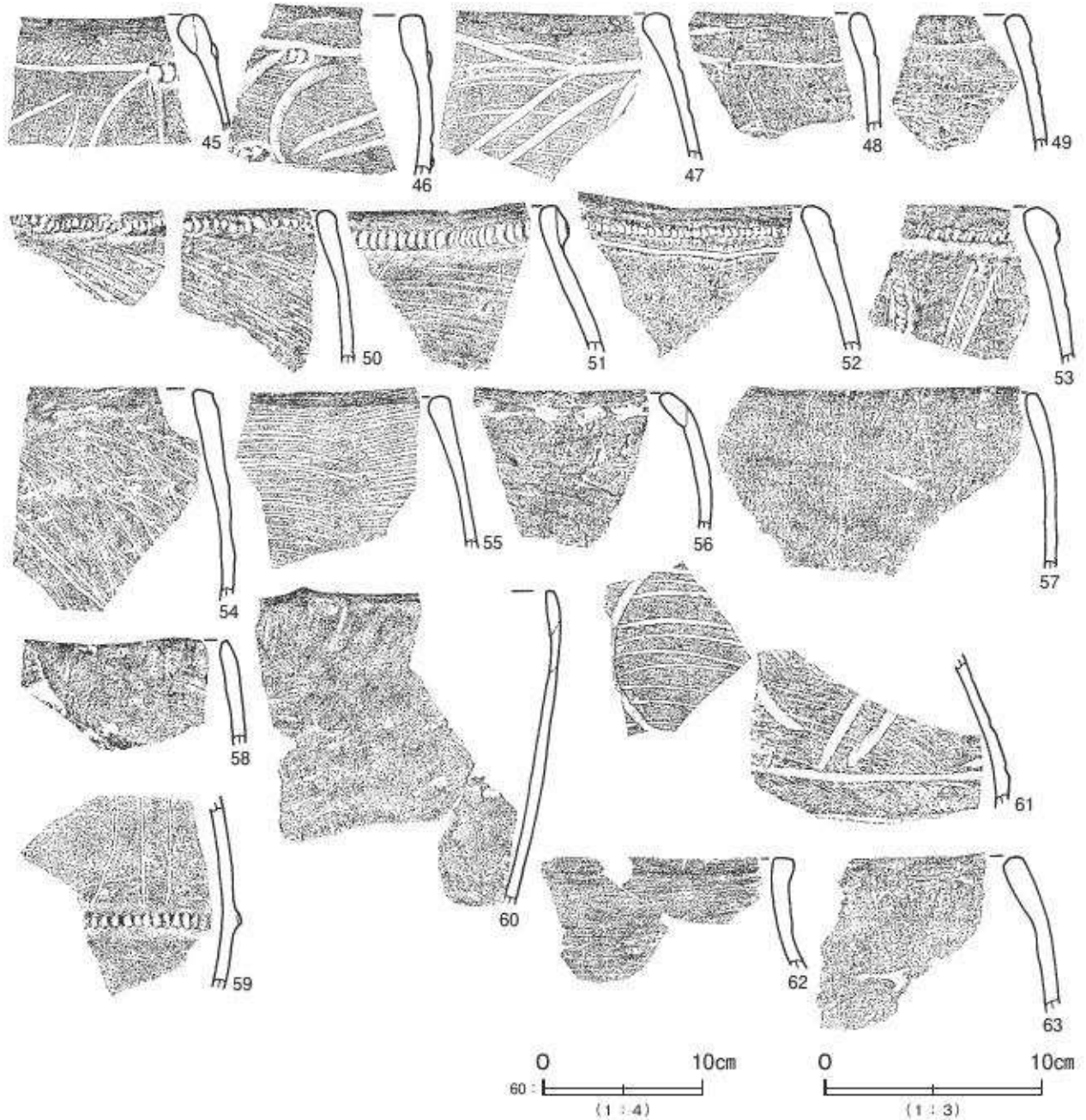
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[220]	(22.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 脚部削り 内面ナデ	覆土下層	30% PL27
2	縄文土器	深鉢	[17.6]	(17.9)	—	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→細密沈線文→磨き 脚部削り 内面ナデ	覆土下層	20% PL37
3	縄文土器	壺	8.4	(7.6)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部磨き 突起 4 単位 内面ナデ	覆土下層	40% PL30
4	縄文土器	深鉢	[9.6]	(5.2)	—	長石・石英・角閃石	褐色灰	普通	外面無文部磨き 副文線帯系 内面ナデ	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	[22.1]	(10.8)	—	長石・石英・赤色粒子	黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10% PL37
6	縄文土器	浅鉢	13.6	2.6	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→斜突文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	70% PL28
7	縄文土器	浅鉢	12.3	3.3	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面 LR 縄文 内面磨き 補修孔 2 か所	覆土下層	98% PL28
8	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	20%
9	縄文土器	深鉢	[25.0]	(6.9)	—	長石・石英・雲母・角閃石	褐色	普通	外面条線→区画文内磨き 内面ナデ 口縁部磨き	覆土上層	10%
10	縄文土器	深鉢	[26.2]	(21.9)	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	20%
11	縄文土器	深鉢	[17.8]	(7.2)	—	長石・石英	黒褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	10%
12	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	赤・黒	普通	外面隆起帯磨沈線→唇帯上縁・区画文・区画文→磨き付 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯磨沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・雲母	明褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	暗赤灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	赤・黒	普通	外面隆起帯磨沈線→LR 縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	



第 77 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



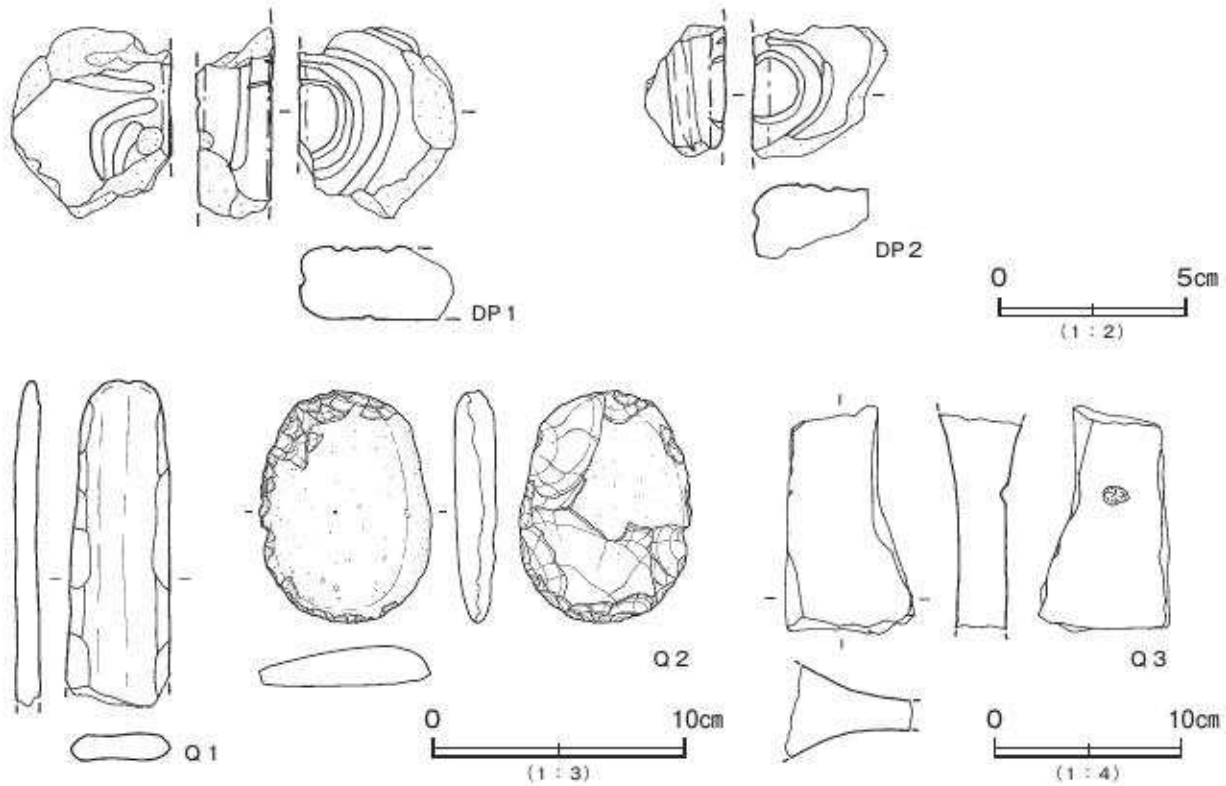
第78图 第11号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第79図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77~80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・珩・蛇肝・角閃	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
28	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	鉢	-	-	-	珪・珩・蛇肝・角閃	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・珩・蛇肝・角閃	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
32	縄文土器	広口器	-	-	-	珪・珩・蛇肝・角閃	にぶい赤褐色	普通	外面割部細密沈線文 磨き 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	暗赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	



第80図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77~80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
36	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 胴部ナデ 内面ナデ	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	壺	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	明黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面胴部LR縄文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→胴部区画沈線文→磨貼付 内面ナデ	覆土中	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰褐色	普通	外面条線→胴部区画沈線文 内面ナデ	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面条線→沈線 内面ナデ	覆土下層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	にぶい褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	にぶい黄褐色	普通	外面条線→粗線貼付 内面ナデ	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面粗線貼付→条線 内面ナデ	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	付点粗線文 外・内面ナデ	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面胴部区画沈線文→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	にぶい褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	明黄褐色	普通	外面磨減 内面倒り	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	明赤褐色	普通	外面ナデ→粗線貼付→胴部区画文 内面ナデ	覆土上層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・鉄屑・角閃	にぶい褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面条線→胴部区画文 内面ナデ	覆土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	P1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土版	(5.0)	(4.2)	2.0	(43.6)	長石・雲母	にぶい褐色	弧線文 側面に沈線文	覆土上層	
DP 2	土版	(3.5)	(3.6)	(2.2)	(21.6)	長石・石英・赤色粒子	褐色	弧線文 側面に沈線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	漆・石製	(12.9)	4.1	1.05	(194.6)	緑色片岩	石刻。表表面研磨整形 両側縁割離加工	覆土下層	
Q 2	漆・漆	9.2	6.9	1.7	125.8	安山岩	スクレイパー状	覆土下層	焼熱
Q 3	石製類	(11.8)	(6.1)	4.9	(281.0)	スコリア質安山岩	表表面磨損。表面に凹痕	覆土下層	2類

第12 A・B号竪穴建物跡（第81～85図 PL 5）

位置 調査A区西部のC 6c6区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第2～4号溝に掘り込まれている。本跡の範囲内に第7・32号竪穴建物跡、第18・19号土坑、第3号ピット群が位置しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 第8号竪穴建物跡の南部でピットが群在し、出入口ピットに相当するものが確認できたことから竪穴建物跡を想定したが、壁は確認できず、明確な平面形を捉えることができなかった。ピットの形状や深さ、配置等から、少なくとも2棟以上の建物跡が想定できる。第12 A号建物跡はP 7～P 10を出入口ピットとし、西側で南北の列状に配置されているピットを壁柱穴とすると、南北約8 m、東西6.5 mの長方形で、南北軸方向はN-31°-Eである。第12 B号建物跡は、P 38～P 41とP 42・P 43・P 50がハの字状に開く出入口ピットで、径6 mほどの円形の建物跡と推定できる。炉跡は確認できなかったものの、出入口ピットから推定される主軸方向はN-35°-Eである。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 80か所。第12 A号建物跡は、P 1～P 6・P 11～P 31、及び第32号建物跡の帰属としたP 17～P 20が、大きさ・深さとも不揃いであるが、壁柱穴と考えられる。主柱穴は位置や深さからP 32・P 39・P 46～P 48などが想定できるが、大きさ・深さともやや不揃いである。第12 B号建物跡は、P 25～P 31・P 37・P 44・P 45・P 61・P 64～P 67・P 72～P 76と、第32号建物跡に帰属するP 4～P 7・P 12・P 16などが壁柱穴と想定でき、いくつかの重複が考えられるが、大きさ・深さとも不揃いで、明確な配置を想定できない。主柱穴と想定されるピットも判断できなかった。

P 1～P 3・P 7～P 12・P 35・P 37・P 39～P 45・P 51～P 55・P 64・P 65・P 67・P 71 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、骨粉微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量
- 10 黒褐色 ロームブロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量
- 13 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量
- 15 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 16 褐色 ローム粒子中量
- 17 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

P 14 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

P 17 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

P 23 土層解説

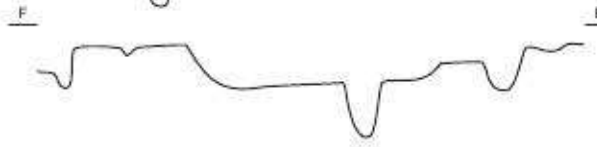
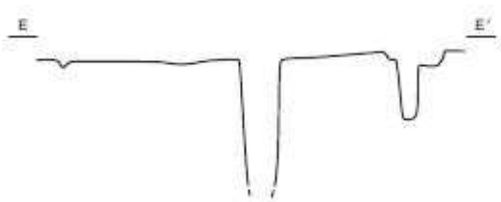
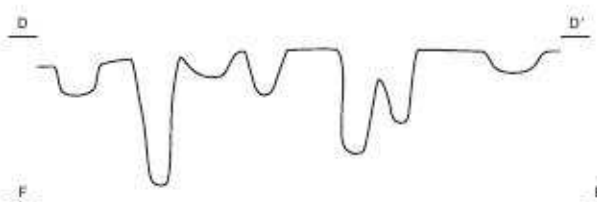
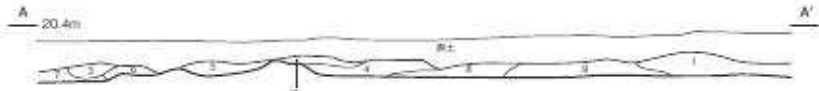
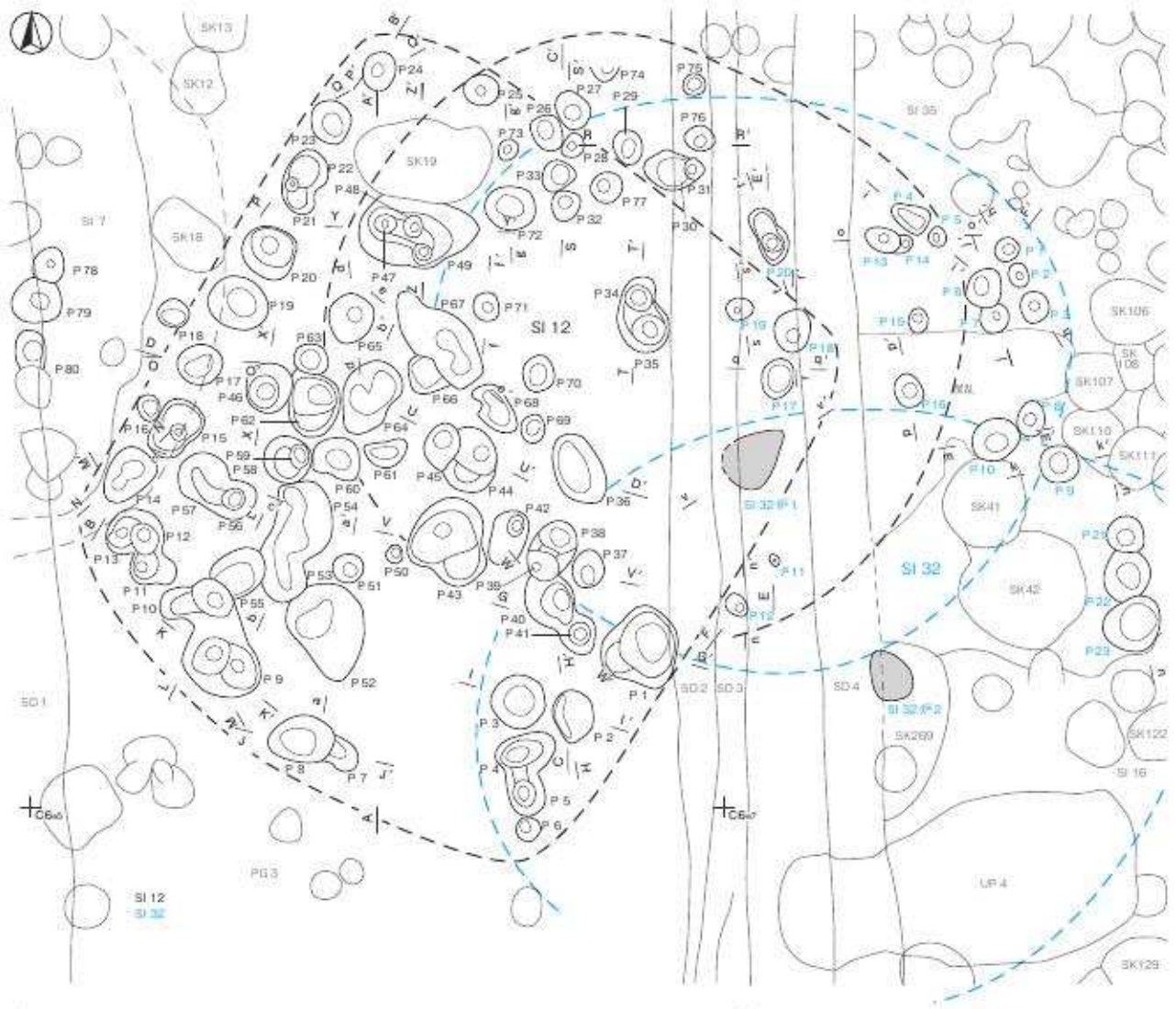
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量

P 24 土層解説

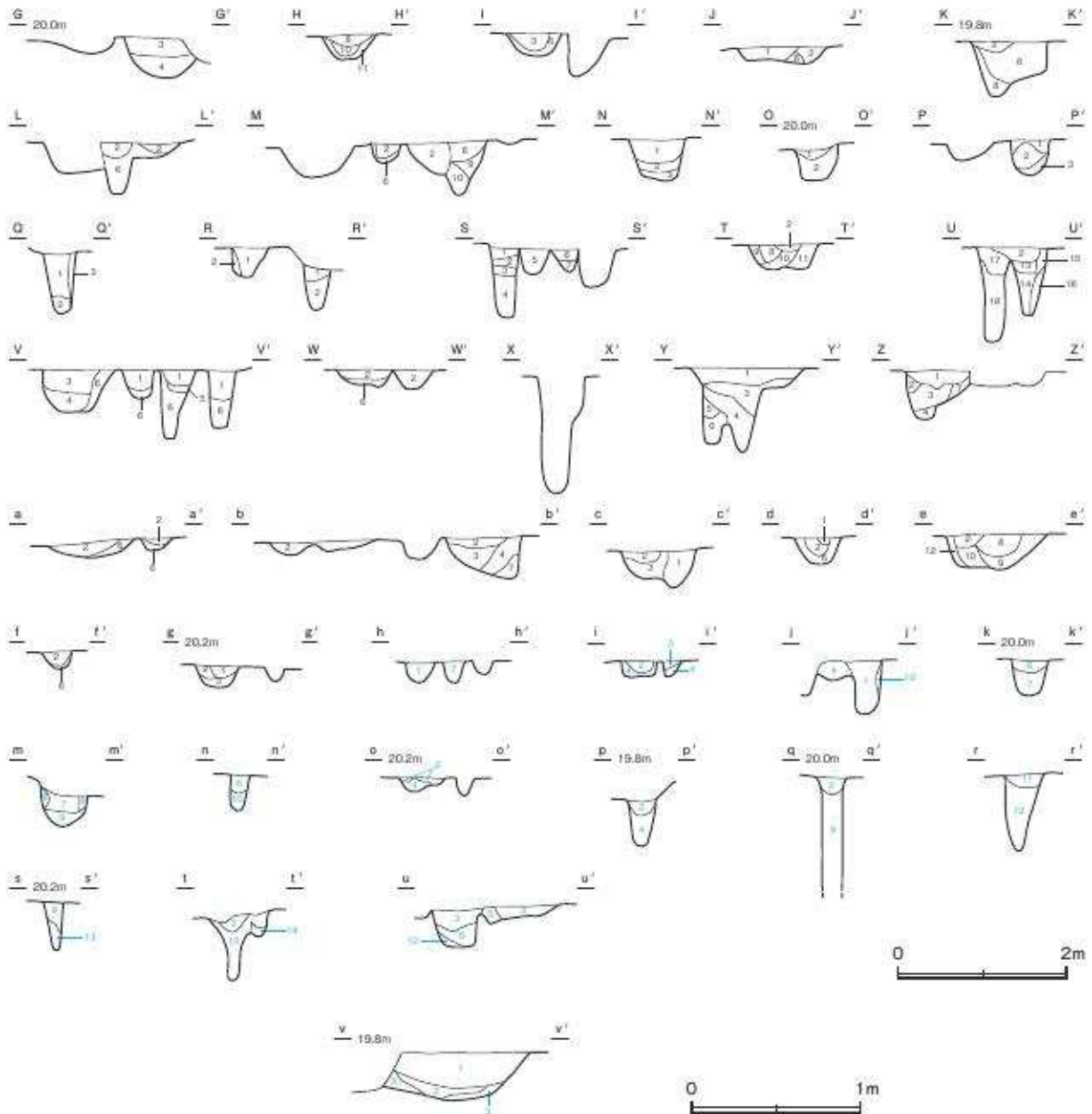
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

P 29 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量



第81图 第12·32号竖穴建物迹实测图(1)



第 82 図 第 12・32号竖穴建物跡実測図(2)

P 28・P 32・P 33 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

P 47～P 49 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量

P 56・P 57 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

P 72 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

P 76 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	45	49	25	49	32	18	15	20	64	66	42	81	55	50	46	20	35	15	30	83	21	44	43	105	33
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	48	45	43	34	39	42	88	46	26	28	27	65	30	74	44	20	60	46	75	108	138	87	96	58	42
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	14	35	17	18	44	48	35	18	27	23	43	26	26	46	29	13	40	12	12	12	20	26	18	-	16
番号	76	77	78	79	80																				
深さ	48	26	30	30	28																				

覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれている黒褐色土がブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

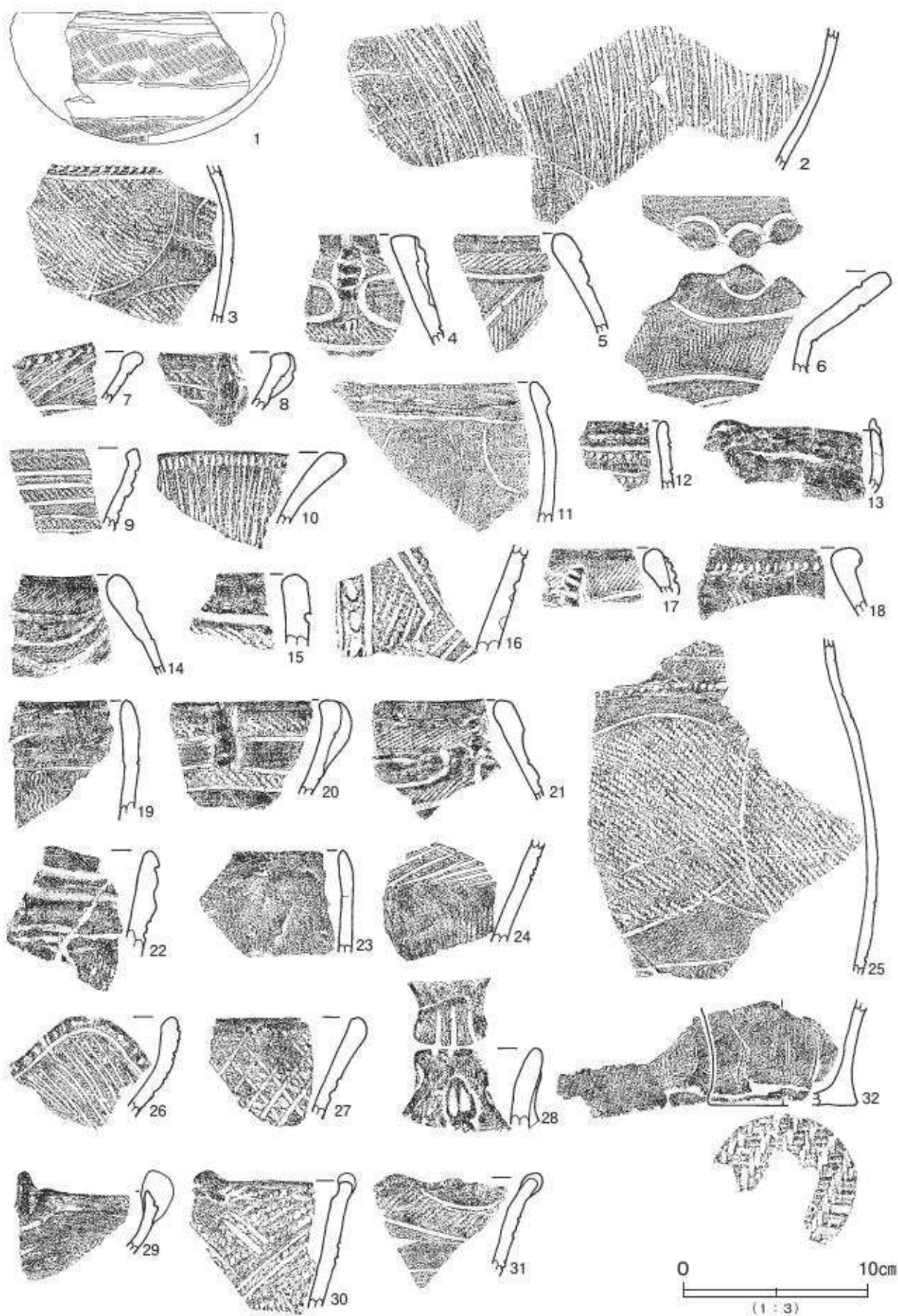
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 1,398点 (19.60kg)、土製品4点 (土器片錘1、土器片円盤2、土偶1)、石器・石製品12点 (磨製石斧2、石皿類1、磨石類3、石錘1、礫器2、石棒・石剣類3)のほか、焼成粘土塊1点、石核5点 (チャート)、剥片10点 (チャート7、黒曜石3) などが出土している。また覆土中やピット内から獣骨片が29.68g出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群 (後期前葉) 17%、第5群 (後期中葉) 33%、第6・7群 (後期後葉) 25%である。覆土がほとんど確認できなかったことから、遺物のほとんどはピット内からの出土である。ピット内には複数時期の遺物が混在しているが、P5・P21・P22・P25・P27・P58・P61・P65・P67・P70・P76からは後期中葉以前の土器群しか出土していないことが確認できる。

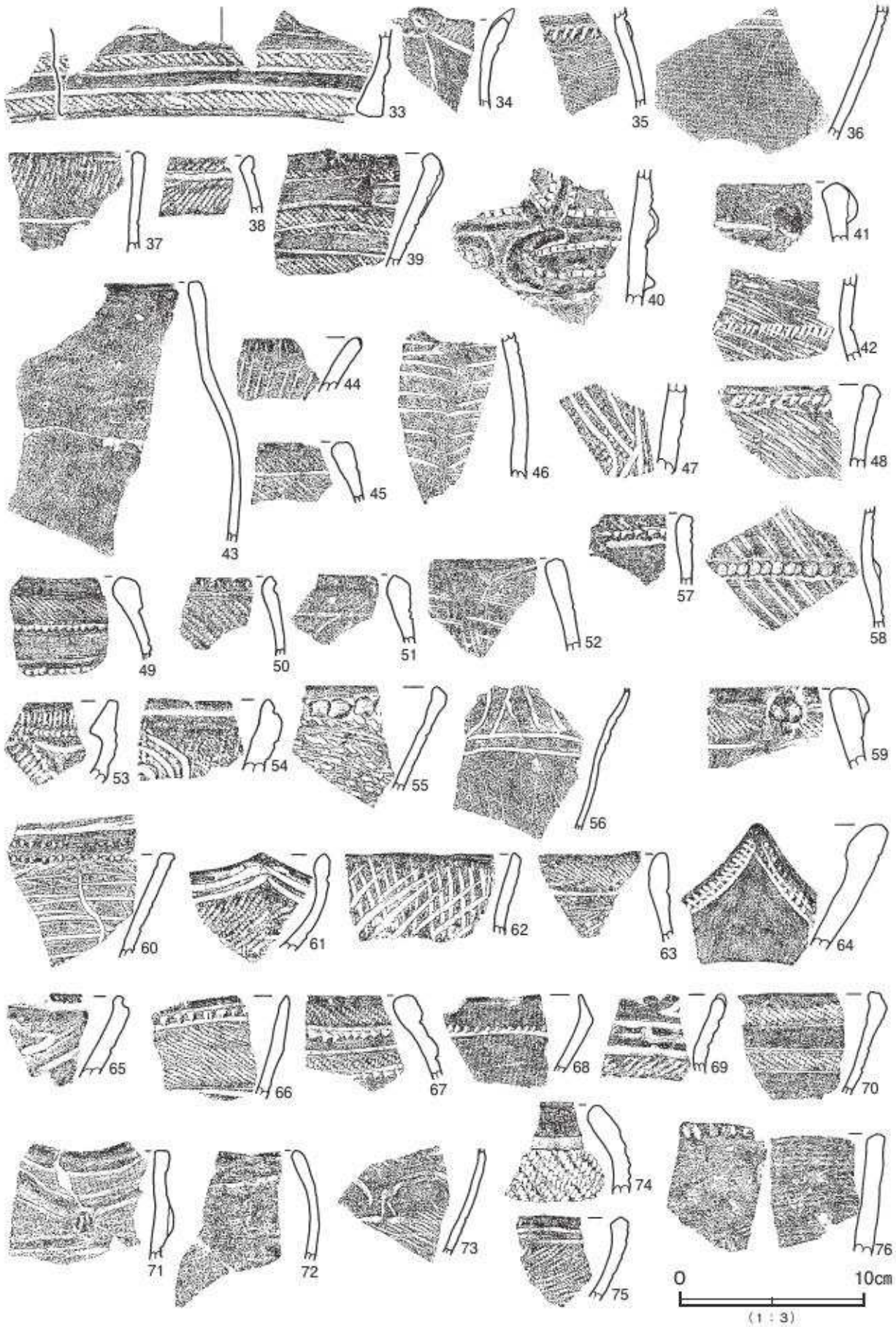
所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、第12A号建物跡が後期後葉、第12B号建物跡が後期前葉から中葉と考えられる。第12A号建物跡は、東側半分の壁柱穴列がはっきりせず、また西側半分の壁柱穴列も深さ・大きさとも不揃いで、当期の建物跡とするにはやや躊躇する部分もある。またP52～P57など、出入口ピットに類似する形状のピットが他にも存在すること、本跡の中央付近に群集するP58～P71も、弧状に巡るようにも捉えられることから、さらにいくつかの建物跡が重複していることが考えられる。

第12号壁穴建物跡出土遺物観察表 (第83～85図)

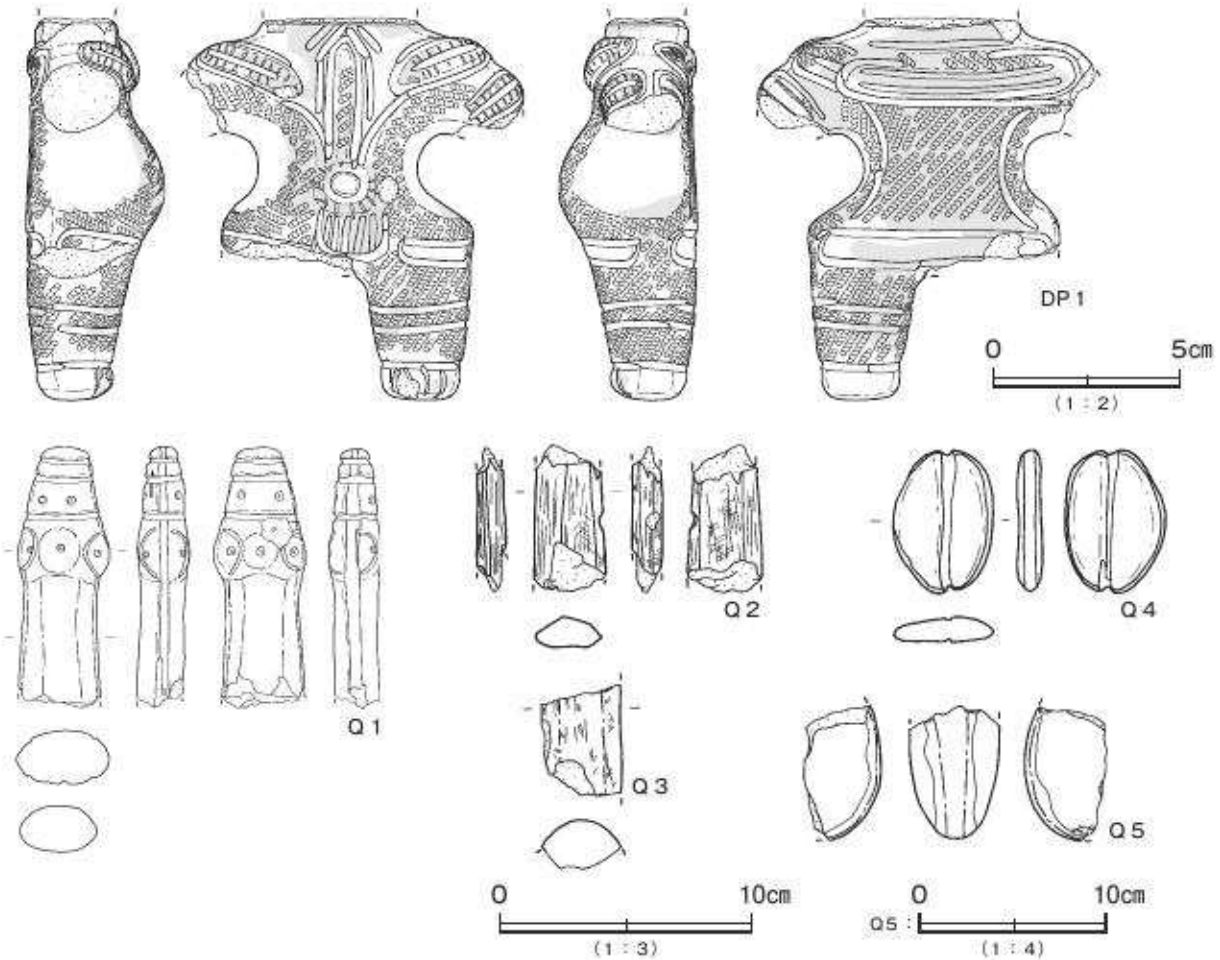
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	浅鉢	[140]	71	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	10%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘結子	にぶい褐色	普通	外面条線 内面ナデ	床面	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	床面	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P1	土器片円盤。
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P1	
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P1	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘結子	褐色	普通	外面斜線文→横位区間文 内面磨き	P2	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘結子	褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P2	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P2	
10	縄文土器	白付鉢	-	-	-	長石・雲母・粘結子	灰黄褐色	普通	外面条線→口唇部刻み 内面磨き	P2	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	副文線帯系。外・内面ナデ	P1	外面に煤
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部に刻み 外面斜突文 外・内面ナデ	P1	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P1	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	灰黄褐色	普通	外面隆帯輪沈線→無文L縄文→無文部磨き 内面ナデ	P7	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・粘結子	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	P9	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面ナデ	P9	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P9	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘結子	にぶい褐色	普通	外面粗線貼付→沈線文→区間文間RL縄文 内面ナデ	P9	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘子	にぶい黄褐色	普通	外面横位沈線→輪状工具の条線 内面磨き	P8	



第 83 図 第 12 号豎穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 84 图 第 12 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 85 図 第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 83 ~ 85 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 8	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 8	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	P 21・P 22	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 27	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	左3伏沈線文 外面胴部下半部位の磨き 内面磨き	P 27	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 23	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面斜線文 内面磨き	P 33	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄帯	普通	外面地縄文→格子目文 内面磨き	P 33	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面ナデ	P 33	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き	P 34・P 44	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面LR縄文→半截竹管文 内面ナデ	P 34・P 44	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 34・P 44	
32	縄文土器	深鉢	(5.6)	[4.0]		長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き 底部割代痕	P 34・P 44	5%
33	縄文土器	台付鉢	(4.7)	[17.6]		長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 32・P 33	5%
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 32・P 33	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→細線貼付 内面磨き	P 36	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	P 36	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 35	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	P 35	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 35	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面隆起帯筋角押文 内面磨き	P 38・P 39	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 38・P 39	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→付点文 内面磨き	P 38・P 39	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面ナデ 内面口縁部磨き 胴部ナデ	P 37	
44	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 内面ナデ	P 37	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→横位沈線→RL縄文 内面ナデ	P 37	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面ナデ→条線 内面ナデ	P 37	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	P 41	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線→組紐貼付 内面磨き	P 41	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面隆帯彫刻み→RL縄文・無文部磨き 内面ナデ	P 40	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 42	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面磨減 肩文様帯系。	P 42	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	P 42	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面扇形文 内面磨き	P 43	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面ナデ	P 43	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→竹管状工具による斜線文 内面ナデ 口縁部磨	P 43	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填 内面ナデ	P 43	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文・刻み 内面ナデ	P 50	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面条線→組紐貼付 内面磨き	P 50	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面隆帯彫刻沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 46・P 51	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面横位沈線文→能行沈線文 内面磨き	P 52	
61	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 52	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面斜線文 内面ナデ	P 52	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	P 53・P 54	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	外面沈線→刻み・磨き 内面磨き	P 53・P 54	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	P 55	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→口縁部磨き→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 55	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐	普通	外面隆帯彫刻沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 55	
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外・内面磨き	P 56・P 57	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・粘土・雲母	黒 褐	普通	外面無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	P 63	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆帯彫刻沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 71	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面隆帯彫刻沈線・磨き 内面ナデ	P 64	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 64	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→無節R縄文 内面ナデ	P 64	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	外面RL縄文→沈線→口縁部磨き 内面磨き	P 72	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 78	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面条痕文 口唇部刻み	P 74	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(10.1)	(8.9)	3.7	(215.8)	長石・雲母	黒 褐	ミミズク 隆帯上刻み・RL縄文→沈線 赤彩	P 29	3c類 PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃・石鏃	(10.2)	(3.8)	2.2	(116.0)	千枚岩	石鏃 頭部 表裏面研磨整形	P 1	PL45
Q 2	石鏃・石鏃	(5.8)	(2.9)	1.2	(27.3)	粘板岩	石鏃 表裏面研磨整形	覆土中	
Q 3	石鏃・石鏃	(4.5)	(3.2)	(1.9)	(33.9)	粘板岩	石鏃 表裏面研磨整形	P 33	
Q 4	石 鏃	5.6	3.9	1.05	31.3	頁 岩	長軸方向の有溝	P 1	2類
Q 5	磨石類	(7.0)	(4.0)	(4.7)	(153.8)	輝石安山岩	表裏面磨痕 下端部に敲打痕	P 55	2a類

第 32 A・B号竪穴建物跡 (第 81・82・86 図)

位置 調査A区西部のC 6c7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2～4号溝、第4号地下式坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第12・16・35号竪穴建物跡、第41・42・107・110・111・269号土坑が位置しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 第35号竪穴建物跡の南部で、炉跡とピットが弧状に巡っている部分が確認できたことから竪穴建物跡を想定したが、壁や出入口ピットを捉えることはできなかった。第32A号建物跡は、炉跡とその周囲をめぐるピット群から、径7m前後の円形の建物跡が想定できる。また本跡南側の焼土跡と、その周囲をめぐるように位置している本跡のP 9・P 10・P 21～P 23や第12号建物跡のP 2～P 6・P 38～P 41、第3号ピット群のP 8などから別の建物跡も想定でき、これを第32B号建物跡とする。径7m前後の円形で、出入口ピットは確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 炉1は第32A号建物跡の中央やや南寄りに位置し、長径75cm、短径56cmの不整楕円形で、29cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は第32B号建物跡の中央に位置し、長径65cm、短径45cmの楕円形で、5～10

cmほど浅く掘りくぼめた地床炉である。

炉1土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 23か所。P 1～P 3・P 5～P 8・P 10・P 12などが、位置と形状から第32 A号建物跡の壁柱穴となる可能性がある。また第12号建物跡の帰属としたP 33・P 70・P 71なども、位置と形状から本跡に帰属する可能性がある。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量
- 14 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

ピット深度表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
深さ	28	24	35	22	22	68	25	123	47	61	12	81	21	11	22	119	137	109	71	99	15	21	52

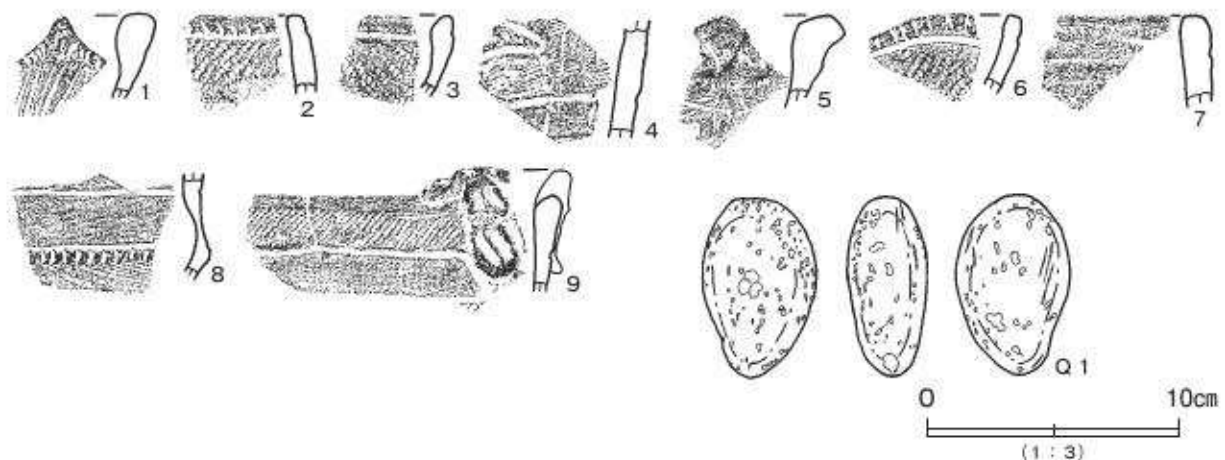
遺物出土状況 縄文土器片 205点 (2.14kg)、石器1点 (軽石製品) のほか、発泡体1点などが出土している。覆土がほとんど確認できなかったことから、遺物の多くはピット内からの出土である。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群 (後期前葉) 22%、第5群 (後期中葉) 30%である。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、後期前葉から中葉と考えられる。

第32号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面条線→口縁部刻み 内面磨き	P 9	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文・刻み 内面ナデ	P 9	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	P 9	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面櫛歯状工具による刺突文 内面磨き	P 12	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	P 19	内面煤付着
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・雲母・絶好	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文・刻み 内面ナデ	P 21	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・雲母・絶好	橙	普通	外面磨減 内面磨き	P 21	
8	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→条線→刻み・磨き 内面磨き	P 22	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・雲母・絶好	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 22・P 23	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	軽石製品	7.1	4.6	3.1	31.7	軽石	表面に敲打痕	P 20	



第86図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡（第87～92図 PL5・7）

位置 調査A区西部のB636区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のI-2・I-3層下で確認した。第8号竪穴建物、第1・2・6・8号土坑、第1号地下式坑、第2～4号溝に掘り込まれている。第9号竪穴建物跡、第33・39・143号土坑とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかった。各遺構の遺存状況や出土遺物から、本跡が第9号竪穴建物跡及び第33号土坑を掘り込んでいると推定される。

規模と形状 壁は確認できず、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。P45～P48を出入口ピットとし、P1～P44などを壁柱穴とする円形あるいは隅丸方形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径7.6m、出入口ピットまでの南北径は7.5mで、出入口ピットから推定される主軸方向はN-17°-Eである。壁柱穴が2列並列する部分があること、また第8号竪穴建物跡に帰属するとしたP44・P45・P65を、形状から出入口ピットと考え、軸方向をやや違えて建て替えている可能性がある。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 77か所。先述した壁柱穴のほか、第3号竪穴建物跡に帰属するとしたP22、第9号竪穴建物跡に帰属するとしたP13～P18、第8号竪穴建物跡に帰属するとしたP36・P57などが本跡に伴う可能性がある。P49～P57・P77が、位置と形状・深さから主柱穴の可能性はある。壁柱穴の中にも深さのあるものもあり、上屋を支える主柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。本跡の帰属としたP26・P63・P64は本跡の覆土及び第2号遺物包含層のI-2層を掘り込んでおり、本跡とは別遺構である。

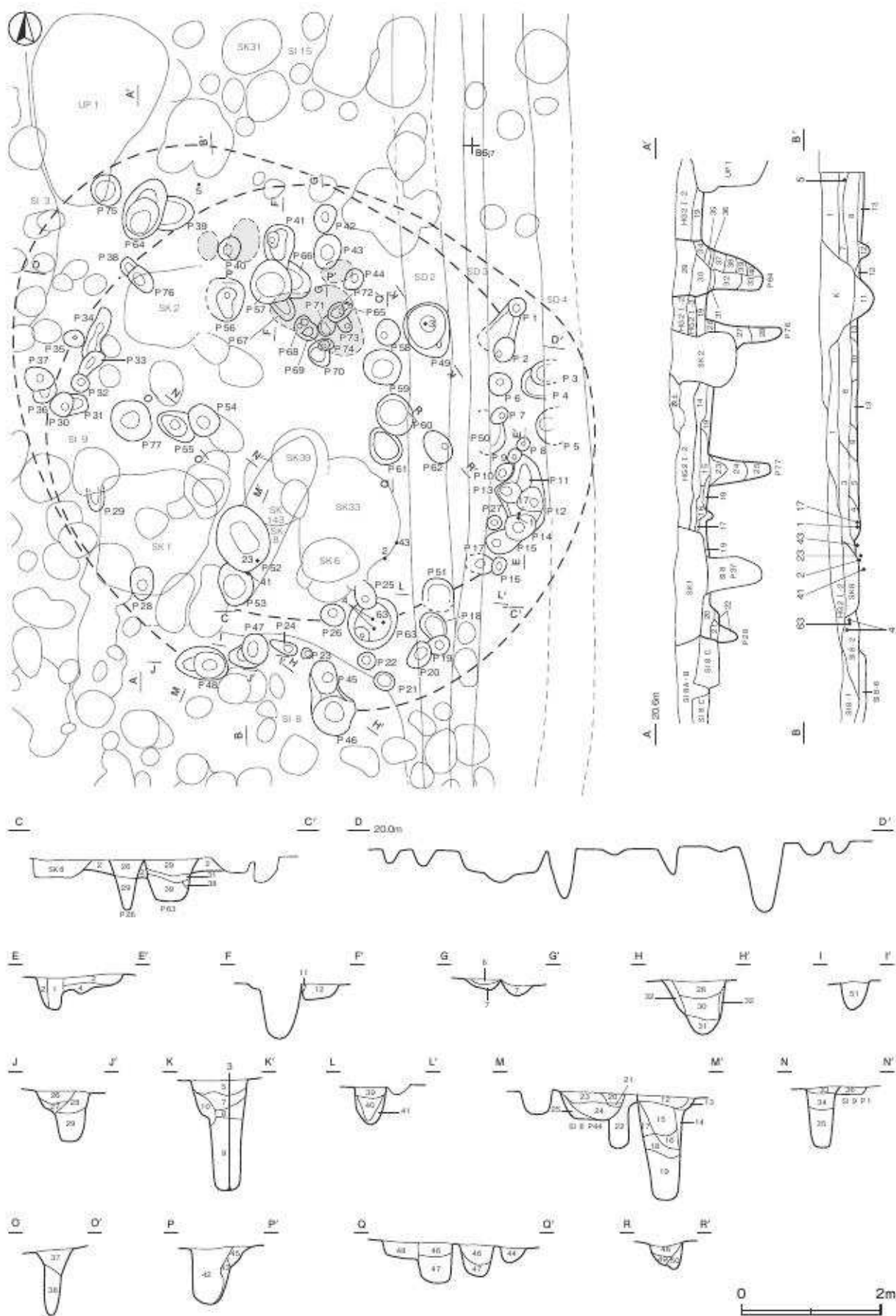
ピット土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	27	暗褐色	ロームブロック少量、骨粉微量
2	褐色	ローム粒子多量	28	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
3	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	29	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	30	黒褐色	貝片・骨粉中量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	31	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量
6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉微量	32	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	33	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	34	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
9	極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	35	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
10	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	36	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	37	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	38	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
13	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	39	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
14	褐色	ローム粒子多量	40	黒褐色	ローム粒子少量、骨粉微量
15	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	41	暗褐色	ローム粒子中量、骨粉微量
16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量	42	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	43	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子・骨粉微量
18	極暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	44	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	45	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
20	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量	46	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・骨粉微量
21	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	47	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
22	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	48	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
23	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	49	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
24	黒褐色	貝片中量、ロームブロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	50	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量（48より暗）
25	暗褐色	ローム粒子・貝片中量、炭化粒子少量			
26	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量			

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	93	11	35	50	23	56	39	24	70	76	13	40	26	49	33	10	84	4	13	8	8	9	11	13	-	57
番号	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
深さ	-	75	14	24	76	48	14	15	10	17	22	99	16	12	25	17	15	71	162	76	84	73	98	87	54	156
番号	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	
深さ	82	87	96	73	78	24	47	60	25	52	39	76	5	53	84	26	48	21	-	39	11	-	55	54	103	



第 87 图 第 13 号竖穴建物跡实测图

覆土 19層に分層できる。第7層は、焼土粒子がやや多く含まれている黒褐色土で、北部壁際を中心に堆積しており、埋没過程で焼土が廃棄されたものと考えられる。第13層は掘り込み底面で確認できた褐色土であるが、この面からいくつかのピットが掘り込まれている様子が確認できることから、本跡の本来の床面はこの第13層上面であった可能性が高い。第20～40層はP 26・P 28・P 63・P 64・P 76・P 77の覆土である。

土層解説

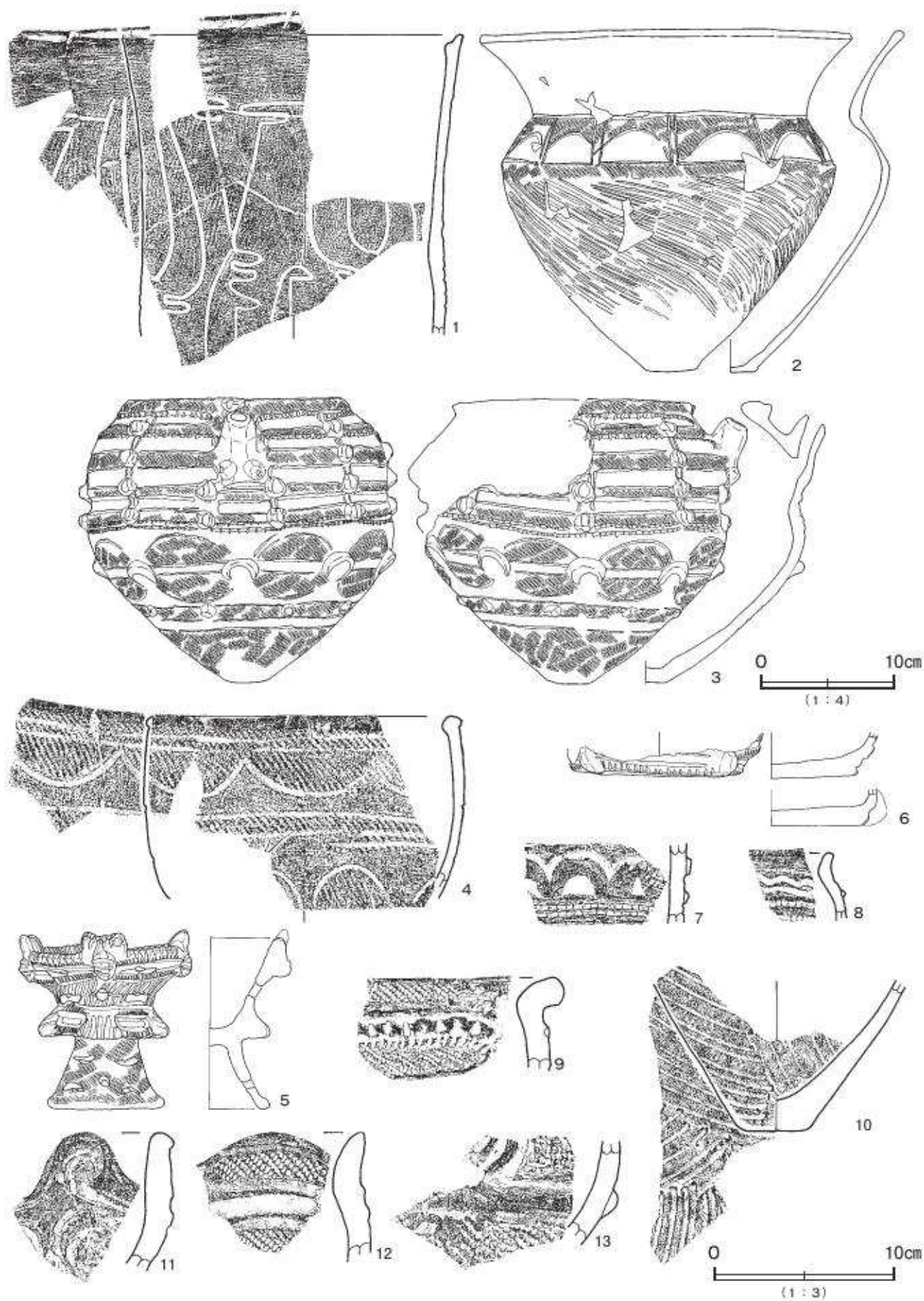
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	21	黒褐色	ローム粒子少量 (P28 覆土)
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	22	暗褐色	ローム粒子中量 (P28 覆土)
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	23	暗褐色	ローム粒子中量 (P77 覆土)
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	24	黒褐色	ローム粒子少量 (P77 覆土)
5	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	25	暗褐色	ローム粒子中量 (P77 覆土)
6	黒褐色	ローム粒子微量	26	暗褐色	ローム粒子少量 (P26・P76 覆土)
7	黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	27	暗褐色	ローム粒子中量 (P76 覆土)
8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	28	暗褐色	ローム粒子多量 (P76 覆土)
9	褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	29	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P26・P63・P64 覆土)
10	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	30	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P64 覆土)
11	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	31	黒褐色	ロームブロック少量 (P63・P64 覆土)
12	褐色	ローム粒子少量	32	黒褐色	ロームブロック微量 (P64 覆土)
13	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量 (9より締まり強)	33	黒褐色	ロームブロック少量 (P64 覆土)
14	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	34	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P64 覆土)
15	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	35	黒褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)
16	暗褐色	ローム粒子中量	36	暗褐色	ロームブロック多量 (P64 覆土)
17	黒褐色	ローム粒子少量	37	黒褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)
18	暗褐色	ローム粒子多量	38	暗褐色	ロームブロック中量 (P63・P64 覆土)
19	暗褐色	ローム粒子中量	39	黒褐色	ロームブロック中量 (P63・P64 覆土)
20	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量 (P28 覆土)	40	暗褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)

遺物出土状況 縄文土器片 6,076点(87.33kg)、土製品 12点(土錘1、土器片円盤6、耳飾り2、土偶1、貝輪状1、土玉1)、石器・石製品 26点(石鏃1、磨製石斧1、石皿類1、磨石類15、砥石4、礫器3、石棒・石剣類1)のほか、焼成粘土塊2点、発泡体1点、石核4点(チャート3、黒曜石1)、剥片25点(黒曜石13、チャート12)などが出土している。また覆土中やピット内から、獣骨片・鹿角片 4226gが出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第3群(後期初頭)16%、第4群(後期前葉)21%、第5群(後期中葉)21%、第7群(後期後葉)24%などである。3はP 49底面から出土している。

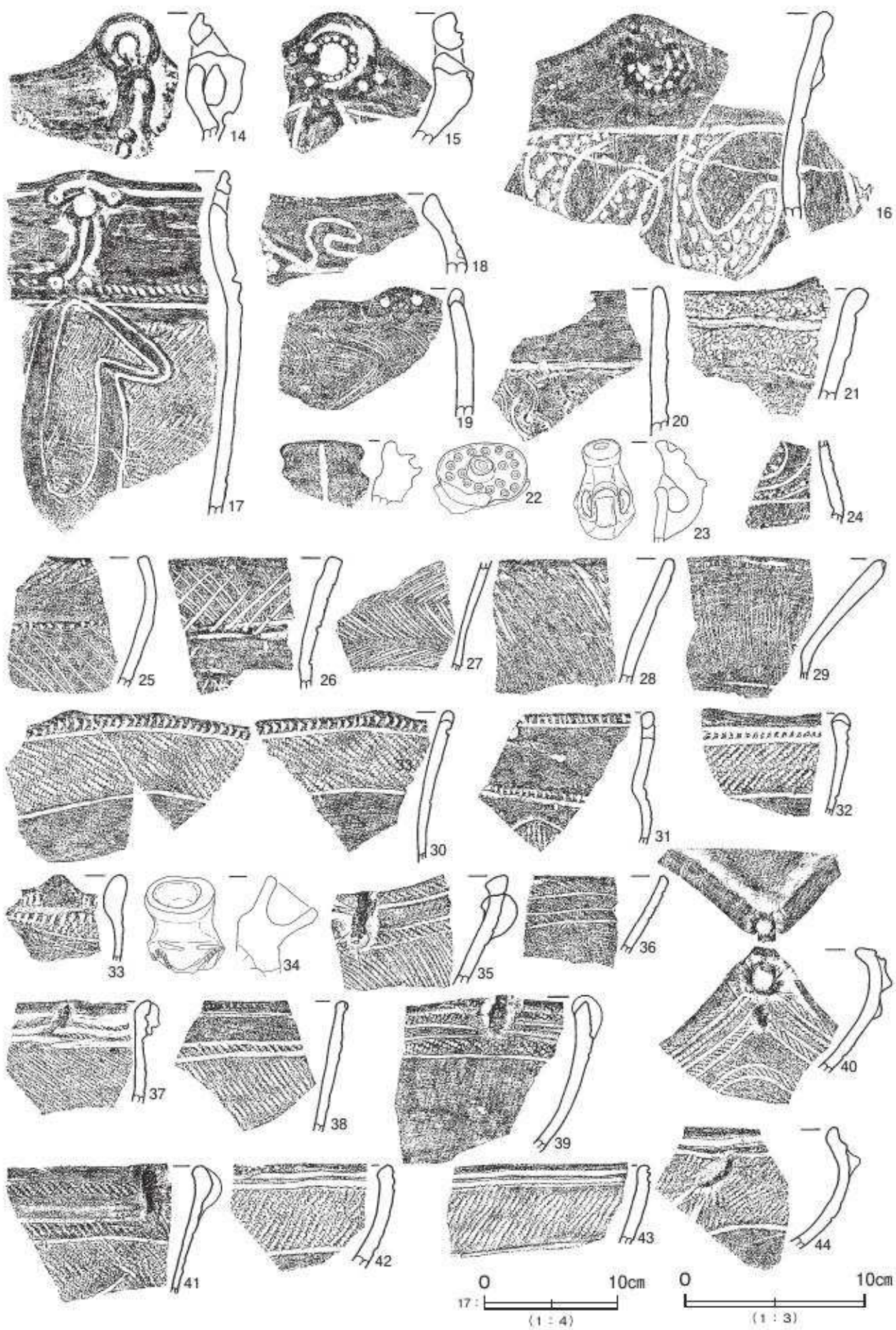
所見 時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行2式期と考えられる。なお、本跡の北東部にも出入口部と考えられるピットがある。本跡に伴うものとした場合、出入口部が北側になり、当遺跡では該当例が少ないことから、第15号竪穴建物跡に帰属するものと考えたが、位置的に本跡に伴う可能性もある。

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(第88～92図)

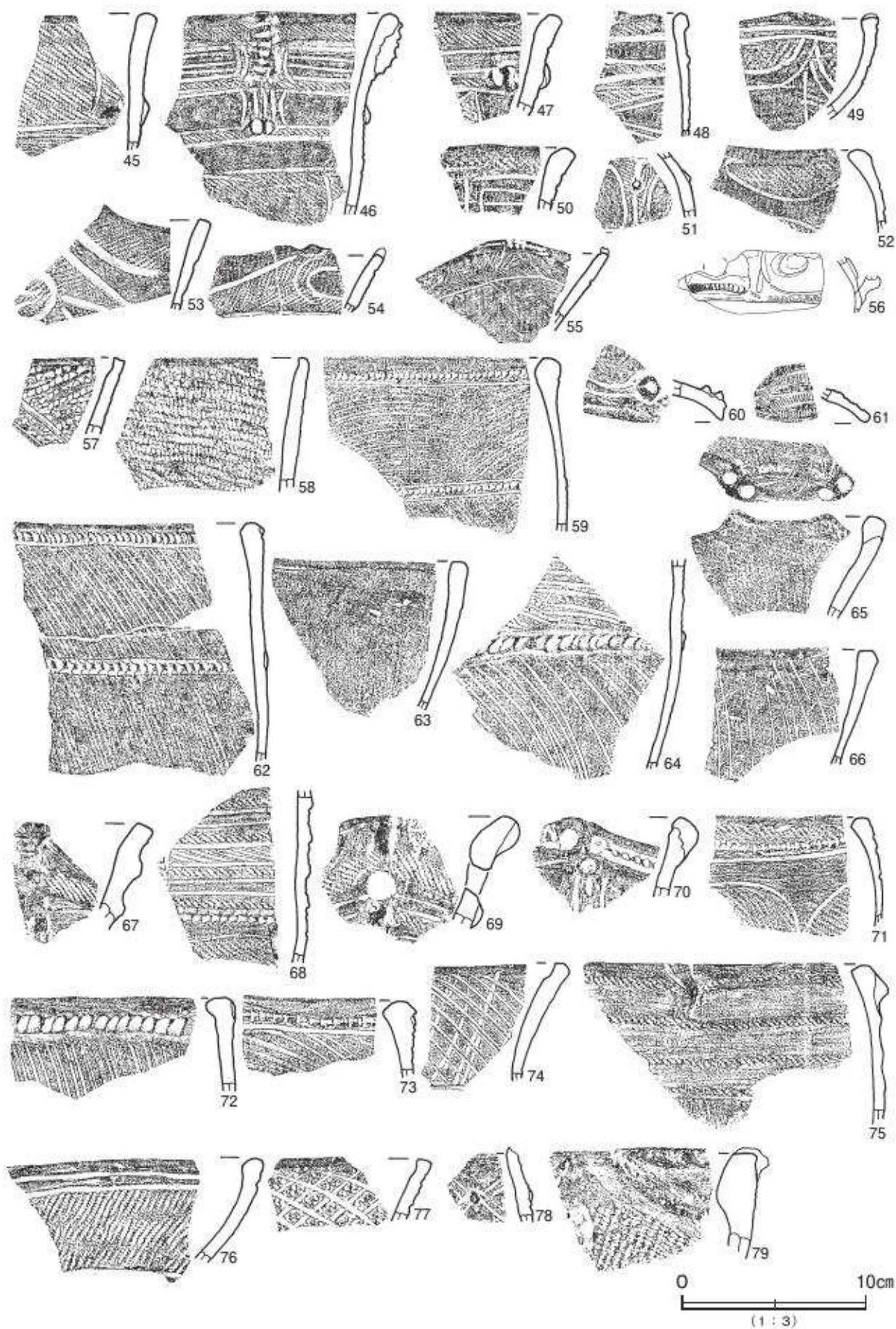
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[24.7]	(21.9)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→沈線→口縁部磨き 内面磨き	床面	20%
2	縄文土器	深鉢	27.0	25.5	3.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→R縄文→無文磨き 胴部条線→磨き 内面磨き	床面	80% PL29
3	縄文土器	注口	16.0	21.0	2.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面隆帯器沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 49	80% PL29
4	縄文土器	深鉢	[16.8]	(10.0)	—	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文 無文部ナデ 内面ナデ	覆土上層	20%
5	縄文土器	黄粉台付	9.0	10.0	6.4	長石・石英	—	普通	外面隆帯上刻み 脚部RL縄文 内面ナデ	覆土上層	95% PL30
6	縄文土器	角底	—	(26)	9.4	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面器貼付→隆帯器沈線→刻み→磨き 内面磨き	覆土上層	30%
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黄褐色	普通	外面有筋沈線 内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面KL縄文 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	2.9	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 底部木炭痕→ナデ 内面ナデ	覆土下層	10%
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰黄褐色	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面RL縄文→隆帯器器貼付 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	把手部 C字状貼付文 内面ナデ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	C字状貼付文 外・内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面利突文充填 無文部磨き 内面磨き	覆土中	PL37
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	外面胴部上半無筋L縄文 下半LR縄文→沈線磨き 内面磨き	床面	PL37



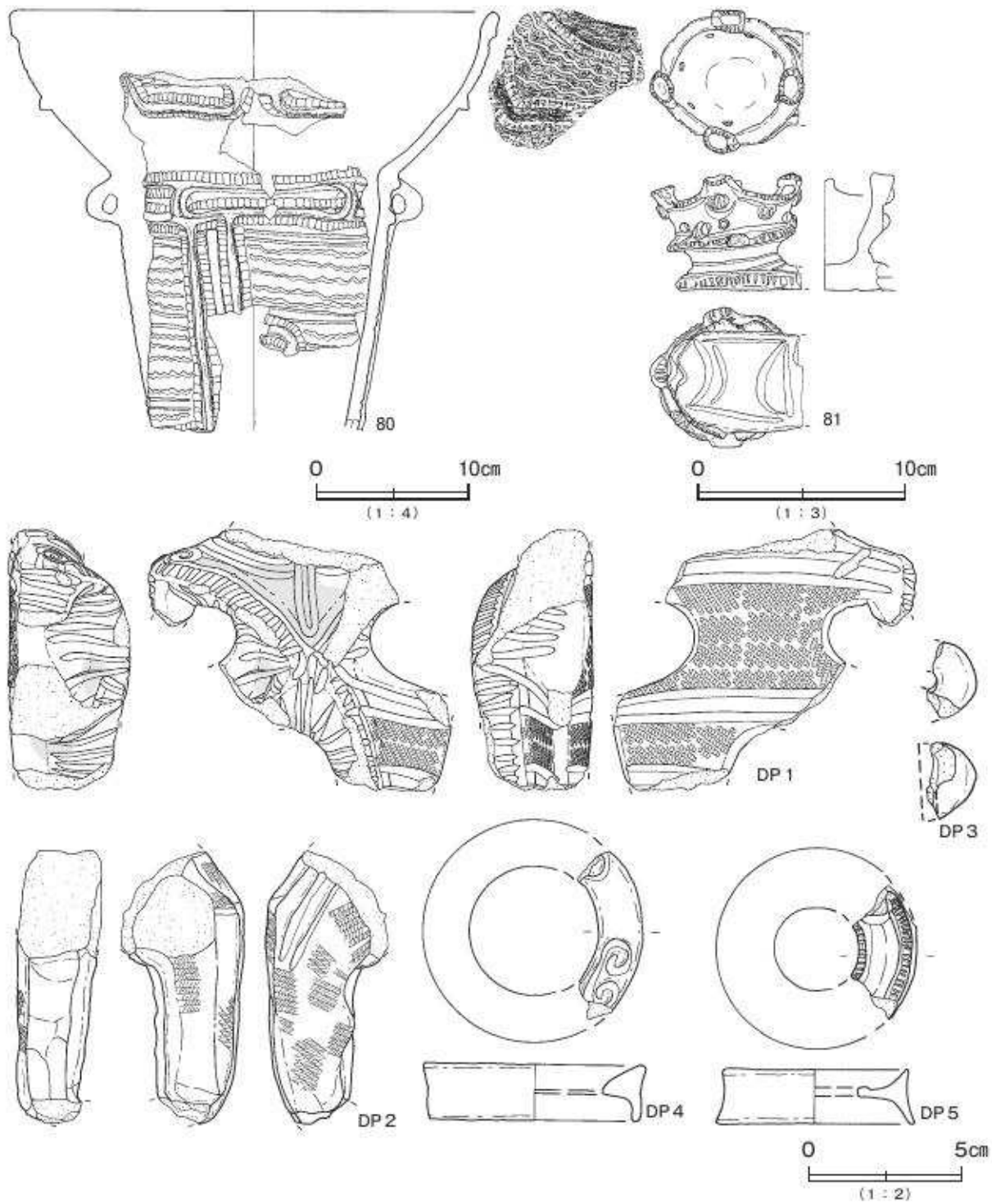
第 88 図 第 13 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 89 图 第 13 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



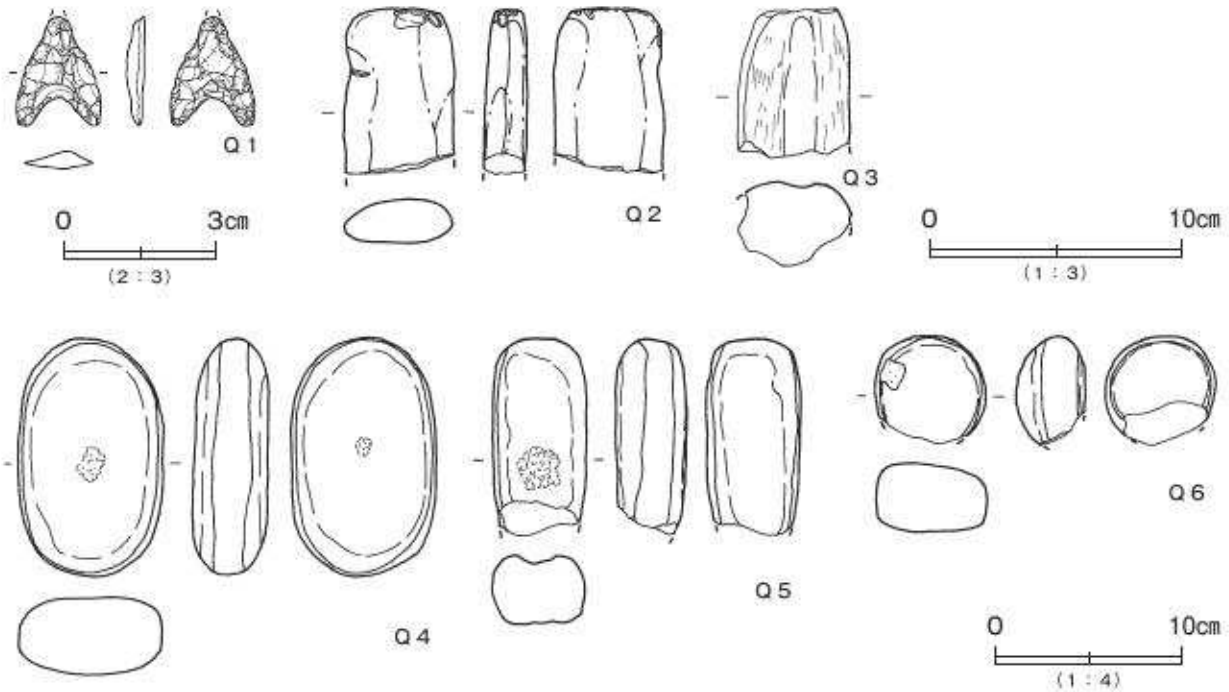
第 90 図 第 13 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第91図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(第88~92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	赤・黒	普通	口縁部外面にJ字文 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面櫛歯状工具の蛇行文 内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部磨き 裏面竹管状工具によるコンパス文 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	褐色	普通	外面口縁部RL縄文 内面磨き	覆土中	
22	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	突起部 外面竹管文 内面磨き	覆土下層	



第92図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(第88~92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄	普通	把手部 外面磨き 内面ナデ	床面	
24	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	浅黄	普通	外面LR縄文→刺突文 内面ナデ	覆土上層	
25	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面口縁部LR縄文 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→格子目文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・蛇肝・砂	暗赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面条線→口唇部刻み 無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆部上刻み 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面磨貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 条線 内面磨き	覆土中	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 口縁部刻み 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐	普通	外面隆部帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面磨貼付→隆部帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・蛇肝・砂	褐	普通	外面隆部帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	床面	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面横状沈線→RL縄文→磨貼付・条線文 内面磨き	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・蛇肝・砂	橙	普通	外面隆部帯沈線→RL縄文→区画内磨き 内面ナデ	覆土中	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→磨貼付→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
49	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き 外・内面赤彩	覆土上層	
50	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
51	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→縦密沈線文・光景→磨き 内面磨き	覆土上層	
56	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面LR縄文→沈線 内面ナデ	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土下層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土上層	
60	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面RL縄文。内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆帯上刻み→磨き 内面ナデ	覆土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	明赤褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土下層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	黒褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線→組線貼付 内面ナデ	覆土下層	
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤灰	普通	外・内面磨き	P 11 - P 13	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面刮り→条線 内面磨き	P 11 - P 13	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯上RL縄文 内面磨き	P 7	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面条線→隆帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 20	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 41	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	灰黄褐色	普通	口縁部外面に縄文連結沈線文 内面磨き	P 48	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	黒褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 48	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→組線貼付 内面磨き	P 41	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	P 41	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面斜格子目文 内面磨き	P 47	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤石・粘石	黒褐色	普通	外面隆帯沈線→RL縄文→無文部磨き 胴部条線 内面磨き	P 51	
76	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 49	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	P 49	
78	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→刻み 内面ナデ	P 57	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎石・粘石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面LR縄文→隆帯幅ナゾリ 内面磨き	覆土中	
80	縄文土器	深鉢	[30.6]	[26.7]	-	胎石・粘石・粘石	褐色	普通	外面隆帯幅ナゾリ 内面磨き	覆土中	20%
81	縄文土器	手燵	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい褐色	普通	外面隆帯上に刻み 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(8.4)	(9.8)	3.9	(17.42)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	ミミズク RL縄文→沈線 赤彩	覆土中	3c類
DP 2	土 偶	(8.8)	(4.0)	2.8	(92.9)	長石・石英・赤色粘土	褐色	ミミズク 無銘L縄文	覆土下層	3d類
DP 3	土 玉	径 [3.2]	-	2.5	(7.7)	長石・石英	橙	ナデ整形 片面穿孔	覆土下層	
DP 4	耳 筒	径 [7.2]	-	1.8	(12.7)	長石・石英	黒	外・内面磨き整形	覆土下層	IV 2類
DP 5	耳 筒	径 [6.4]	-	1.8	(7.4)	長石・石英・赤色粘土	明赤褐色	外面細かき刻み	覆土上層	III類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏡	(218)	1.68	0.38	(10)	凝灰岩	凹形	覆土下層	
Q 2	砥 石	(6.5)	4.4	1.8	(70.4)	砂 岩	全面使用	覆土下層	4類 既熟
Q 3	石 槌	(5.9)	(4.5)	(3.4)	(135.6)	角閃石片岩	石剣。表面研磨加工	覆土中	2 b類 既熟
Q 4	磨石類	12.4	7.6	4.1	6490	輝石アイサイト	表表面光沢のある磨痕・凹痕	覆土下層	2a類
Q 5	磨石類	(10.2)	4.9	3.8	(2838)	安山岩	表表面磨痕 表面に凹痕	覆土下層	2a類
Q 6	磨石類	(5.6)	5.8	3.6	(145.4)	安山岩	表表面光沢のある磨痕	覆土下層	1c類 既熟

第 14 号 堅穴建物跡 (第 93 ~ 95 図 PL 7)

位置 調査 A 区南西部の C 6 e4 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 38 号土坑を掘り込み、第 1 号堀に掘り込まれている。第 2 号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と形状 南部が調査区域外で、東部が第 1 号堀に掘り込まれているため、東西径は 5.6 m で、南北径は 5.8 m しか確認できなかった。円形と推定でき、壁は高さ 10 ~ 22 cm で、外傾している。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 中央やや南寄りに付設されている。長径 133 cm、短径 50 cm の楕円形で、深さ 30 cm の地床炉である。底面は火熱のため、赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 にぶい褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 27 か所。P 1 ~ P 7 は、位置と深さから主柱穴と考えられる。P 9・10 は出入口ピットの可能性がある。それ以外は補助柱穴的な役割のものと考えられるが、配置は不整である。小ピットが弧状に巡るようにも見え



第94图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	(75)	(75)	(75)	85	103	56	96	58	(65)	(54)	(45)	28	22	10	17	46	16	9	15	40	7	13	18	41	47	32	48

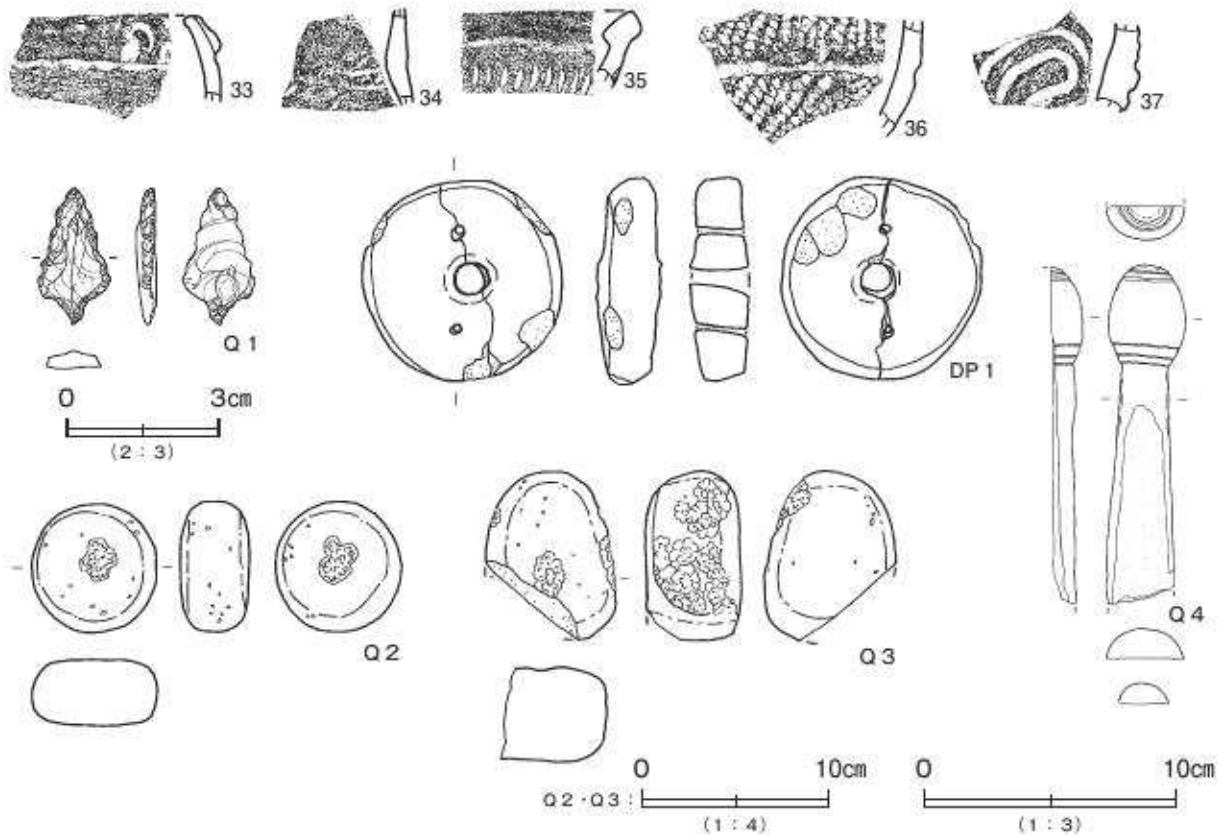
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、白色粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 968点 (14.56kg)、土製品5点 (土器片円盤2、有孔円盤3)、石器・石製品7点 (石鏃1、磨製石斧1、石皿類1、磨石類2、石棒・石剣類2) のほか、焼成粘土塊1点などが出土している。遺物は覆土上層から多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、後期後葉以前は少なく、主体となるのは第8群のうち晩期中葉35%、第10群 (晩期中葉前浦式) 13%である。

所見 時期は、出土土器から晩期中葉の前浦式期と考えられる。



第95図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第14号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第94・95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面隆帯上縁筋L襷文 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR襷文→無文肌磨き 縁巻状筋付文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	粉	普通	外面沈線→LR襷文 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→RL襷文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	菱形状区画文 外・内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	菱形状区画文 外・内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	菱形状区画文 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面磨減のため調整不明瞭 内面ナデ	覆土上層	
10	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面ナデ→刺突文 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部B突起 外・内面ナデ	覆土上層	
12	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面に横列の刺突文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	菱形状区画文。外・内面ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	縦線文 外・内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縦線文 外・内面ナデ	覆土上層	
16	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	菱形状区画文。外・内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	黒・赤・黄・白・灰	褐・灰	普通	S字状入組文 外・内面ナデ	覆土上層	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄・橙	普通	入組三叉文 外・内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐	普通	縦線入組文 外・内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	黒・赤・黄・白・灰	黒	普通	外面隆帯上LR縄文→無文部・沈線内磨き 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒・褐	普通	外面沈線→隆帯上LR縄文→無文部・沈線内磨き 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明・褐	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
23	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→隆帯上LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	黒・赤・黄・白・灰	明赤褐	普通	外面ナデ 内面粗い磨き	覆土上層	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	黒・赤・黄・白・灰	黒・褐	普通	口唇部刻み 外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	杵状文 外面沈線→磨き 内面ナデ	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	杵状文 外・内面ナデ 磨減	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外・内面磨き 口唇部に突起	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	黒・赤・黄・白・灰	橙	普通	外面付帯口縁 指環ナデ 胴部ナデ 内面ナデ	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤灰	普通	外面LR縄文 沈線間に刺突文 内面ナデ	P 4	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面ナデ 爪形文 内面磨き	P 24	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	P 20	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面無節L縄文→沈線文 内面磨き 煤付着	P 20	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	有孔円盤	径8.0	-	2.4	181.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	ナデ整形 貫通孔3か所	覆土上層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石錘	273	1.44	0.41	(1.4)	チャート	有茎	覆土下層	PL47
Q 2	磨石類	6.8	6.5	3.6	237.1	安山岩	表裏・側面使用 表裏面に凹痕	覆土上層	2c 類
Q 3	磨石類	(8.8)	(6.8)	5.1	(399.2)	輝石安山岩	裏・側面磨痕 裏・側面に敲打痕	覆土下層	2d 類
Q 4	石磨・石臼	(13.5)	3.1	(1.3)	(64.1)	粘板岩	石臼 研磨整形	覆土上層	PL45

第15号竪穴建物跡（第96～101図 PL7・8）

位置 調査A区北部のB6h6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層I層下で、広く焼土が分布している範囲を確認したことから、竪穴建物跡を想定して掘り下げを進めたところ、東西約7m、南北約9mの範囲で、複数の炉跡や出入口ピット及び多数のピットが確認できた。調査段階ではすべて第15号建物跡の帰属としたが、整理の結果、少なくとも4棟の建物跡の重複が想定できた。第2号遺物包含層下で焼土範囲が確認できたものを第15号建物跡、その南側で出入口ピットと壁柱穴から想定したものを第56～58号竪穴建物跡とする。本跡は、第131・135号土坑を掘り込み、第2・3号溝に掘り込まれている。第56～58号建物跡との新旧関係は堆積状況からは捉えられなかったが、焼土層の遺存状態などから、本跡が新しいものと考えられる。

規模と形状 北部が調査区域外で、東部は大きく攪乱を受けているため、壁、出入口ピット、及び壁柱穴は確認できなかったが、方形に分布する焼土層や炉跡、覆土の堆積状況などから、長軸約5.5m、短軸約4.5mの隅丸長方形で、推測される主軸方向はN-12°-Eである。

床 ほば平坦で、北部に向かってやや下がっている。硬化面は確認できなかった。

炉 推定できる床面の中央部から南部にかけて、3か所の炉跡が確認できた。炉1は長径80cm、短径69cm、深さ25cmの地床炉で、炉底面は火熱により赤変硬化している。炉2は長径78cm、短径52cm、深さ20cmの地床炉で、炉底面は火熱により赤変硬化している。炉3は長径60cm、短径52cm、深さ5cmの地床炉で、炉底面は浅い皿状を呈し、火熱により赤変硬化している。それぞれの新旧関係は不明である。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・骨粉・灰少量、炭化粒子微量
- 3 橙褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 明赤褐色 焼土粒子多量、骨粉少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 橙褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 橙褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 対象とする範囲で75か所のピットが確認できたが、それぞれの帰属を確定することは困難である。このうちP 55～P 59は、位置と形状、深さなどから本跡の支柱穴の可能性がある。

P 4・P 6・P 40・P 55・P 57・P 68 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 13 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 14 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 15 極暗褐色 ローム粒子少量

P 18・P 19 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

P 56 土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 62 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 8・P 24～P 26・P 41～P 44・P 58・P 63 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子中量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子中量
- 15 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 17 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 18 極暗褐色 ロームブロック少量
- 19 褐色 ローム粒子中量
- 20 黒褐色 ロームブロック少量

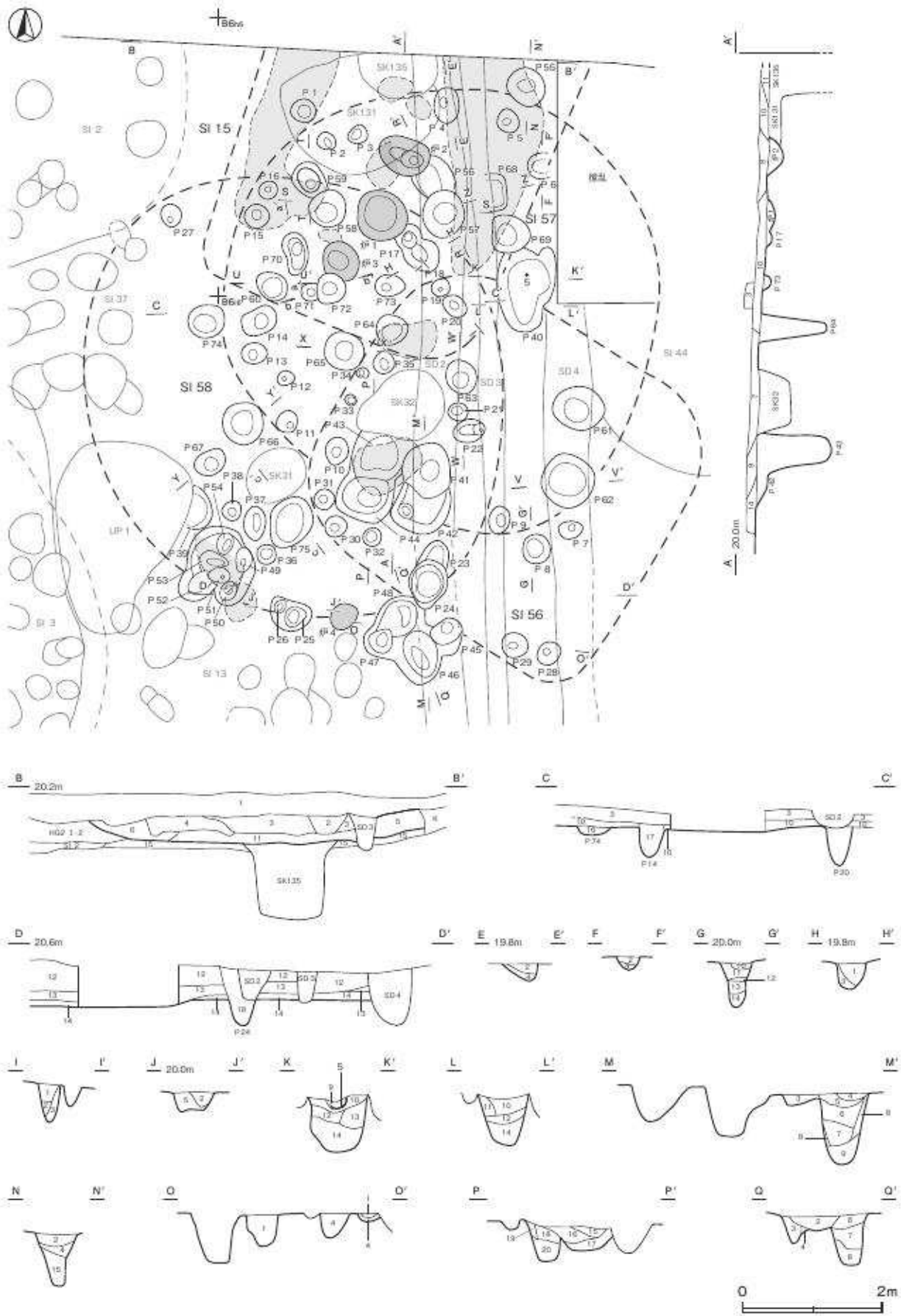
P 59・P 60・P 65～P 67・P 70・P 75 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	11	-	60	24	18	19	28	66	51	35	27	18	49	43	10	13	35	87	31	58	39	30	34	65	30
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	24	30	12	34	61	34	48	86	73	45	16	16	28	19	96	102	25	37	61	64	42	53	60	44	19
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	28	14	35	41	76	45	96	69	58	78	78	93	89	90	62	126	80	19	32	55	38	37	61	15	22



第96图 第15·56~58号竖穴建物跡实测图(1)

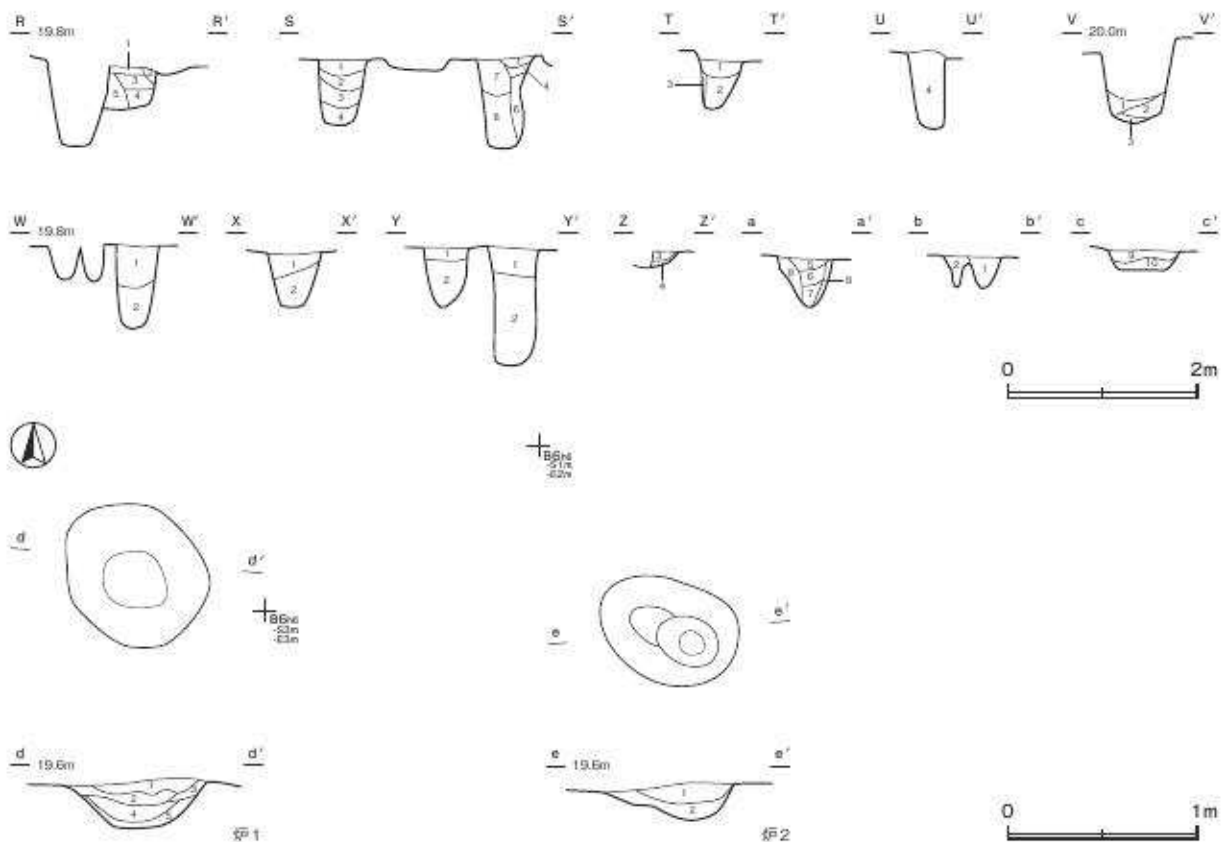
覆土 8層に分層できる。第4・5・8・11層は、焼土粒子が多く含まれている赤褐色土である。覆土上層から床面にかけて堆積しているが、床面に顕著な被熱痕は見られなかった。第7・9・12～14層は、第56・58号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。

土層解説

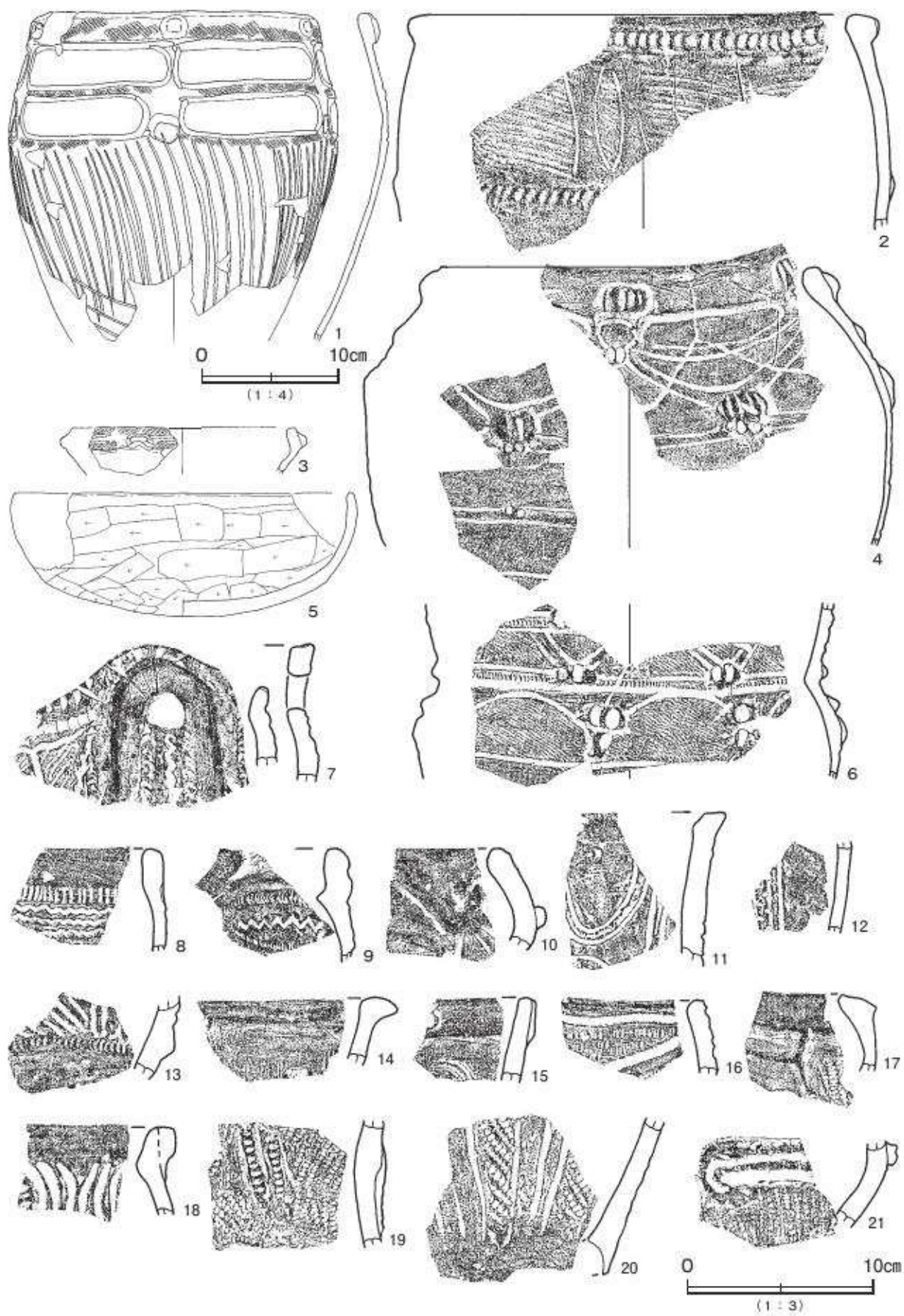
1 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量(表土)	10 極暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
4 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
5 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子少量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量(第56～58号竪穴建物跡覆土)	16 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量(P74覆土)
8 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量	17 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量(P14覆土)
9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)	18 黒褐色	ローム粒子少量(P24覆土)

遺物出土状況 調査段階で第15号建物跡に伴うものとした遺物は、縄文土器片2,114点(32.98kg)、土製品7点(土錘2、土偶1、棒状1、貝輪状1、匙形2)、石器・石製品13点(磨製石斧1、石皿類2、磨石類5、砥石2、石錘2、石棒・石剣類1)のほか、石核1点(黒曜石)、剥片10点(黒曜石6、チャート4)、獣骨片15.84g、オオタニシなどの貝類27.84gなどである。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、主体となるのは第4群(堀之内式)26.7%、第3群(称名寺式)18.9%、第7群(安行1・2式)16.4%である。

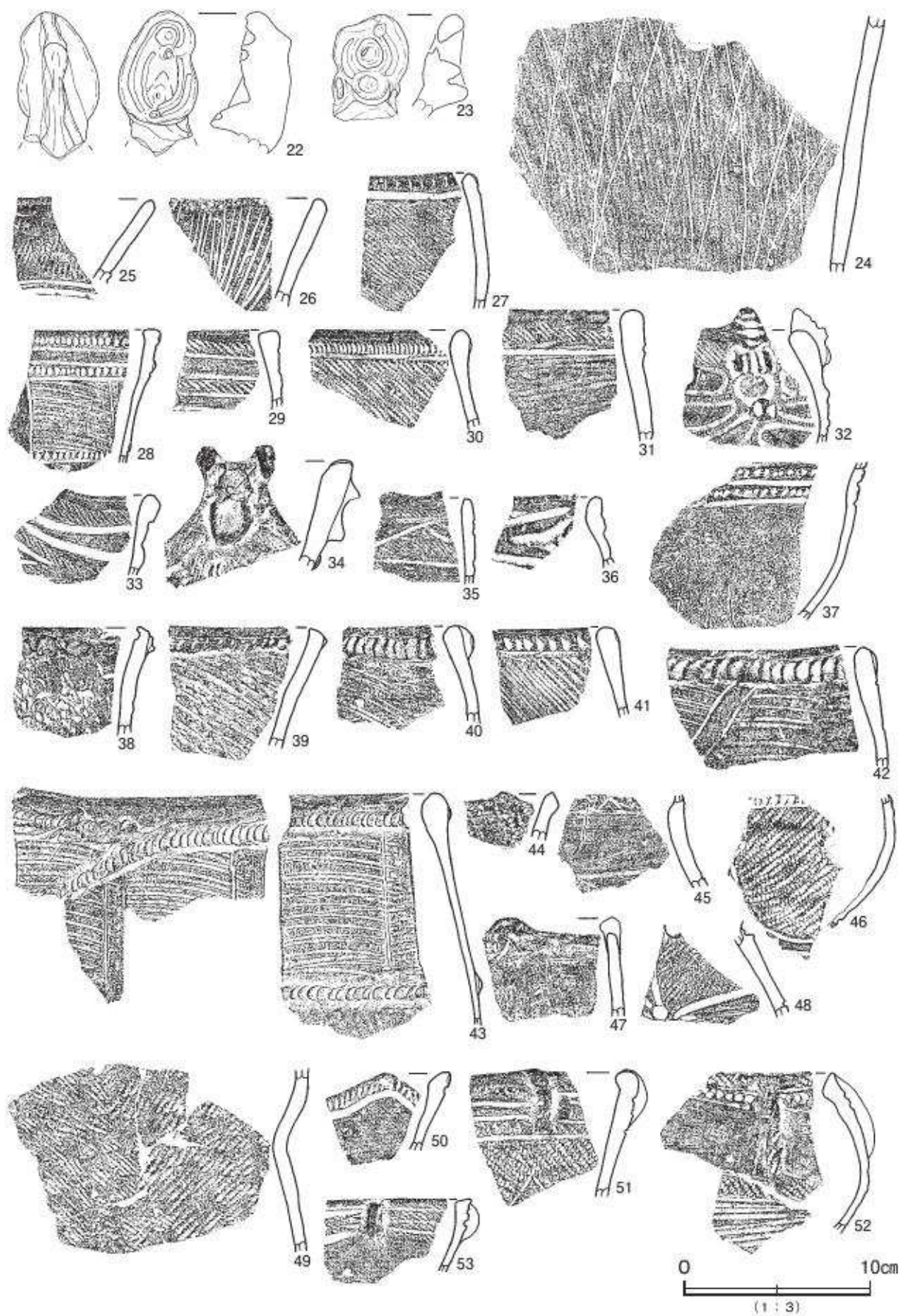
所見 時期は、出土土器と形状から後期後葉の安行2式期から晩期前葉の安行3a式期と考えられる。壁際に焼土が堆積する例は、第6・43号建物跡で確認でき、本跡は床面に被熱痕等が見られなかったものの、以上の例から焼失建物跡で、壁際の焼土は屋根材などの構築材の一部と考えられる。なお、平面形を捉えることができなかったが、本跡の南東部にも出入口ピットと想定されるP40があり、別の1棟が存在する可能性がある。



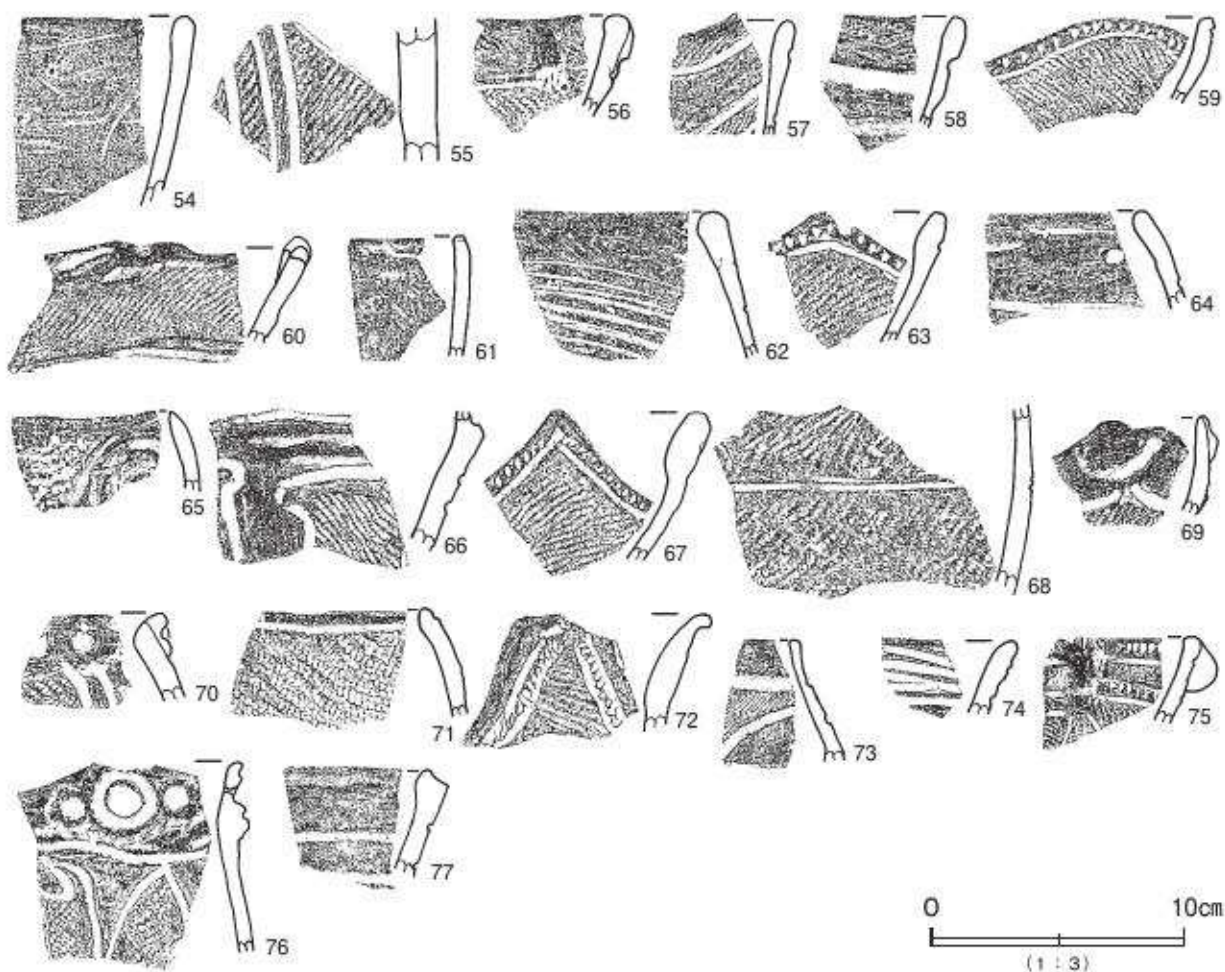
第97図 第15・56～58号竪穴建物実測図(2)



第98图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



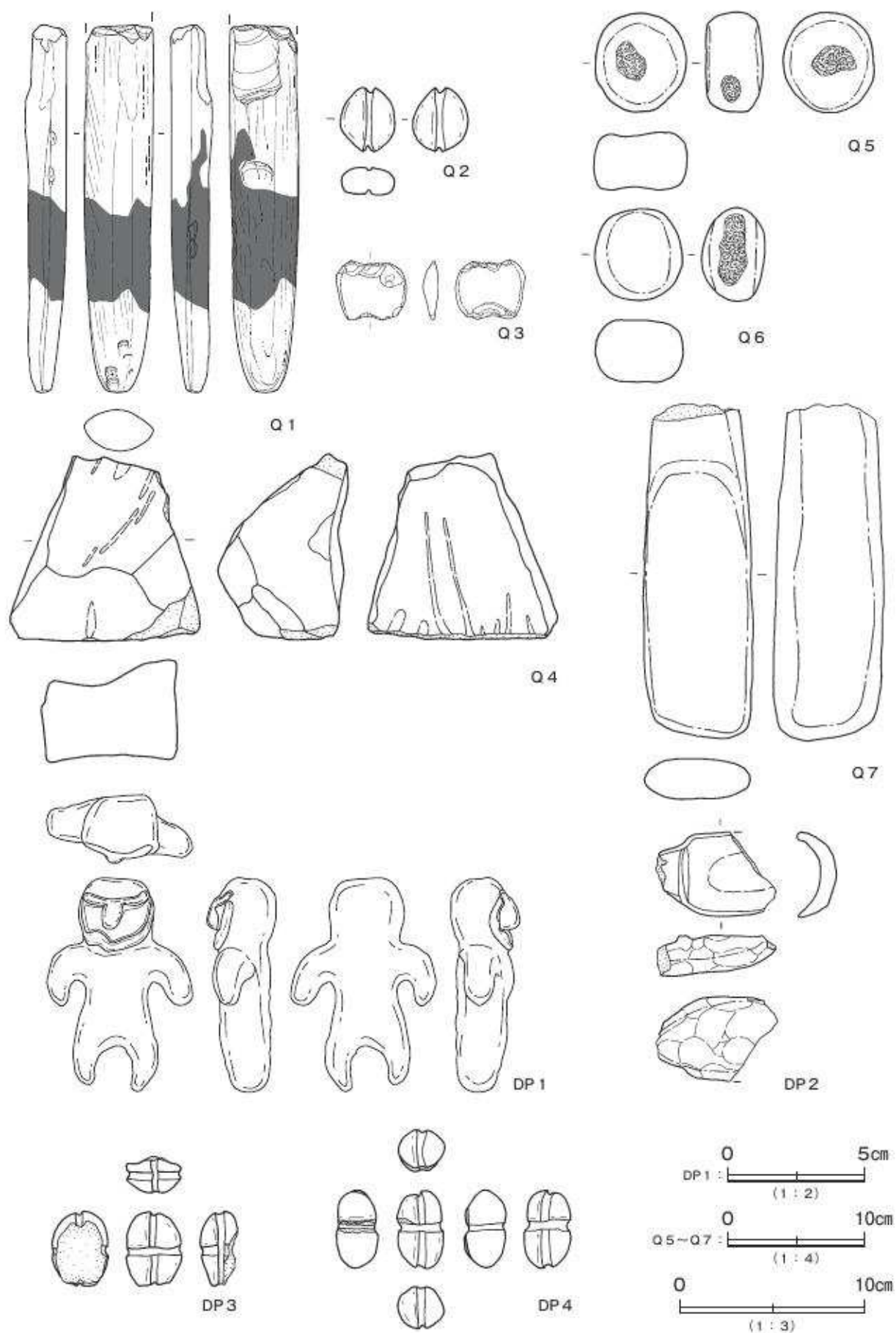
第 99 图 第 15 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第100図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第98~101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	20.2	(23.7)	—	長石・石英・赤色粒子	赤・灰	普通	外面隆帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	40% PL29
2	縄文土器	深鉢	[23.0]	(11.5)	—	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面紐線貼付→条線→区画文間磨き 内面ナデ	覆土上層	10%
3	縄文土器	深鉢	[12.0]	(2.5)	—	長石・石英・赤色粒子	黒・褐	普通	外面沈線→LR縄文→沈線間磨き 内面磨き	覆土下層	10%
4	縄文土器	深鉢	[20.2]	(9.2)	—	長石・石英	橙	普通	外面隆帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	20%
5	縄文土器	浅鉢	[18.0]	6.5	—	長石・石英・黒色・粘土	にぶい黄橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 40	40%
6	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面隆帯鬚沈線→削り→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面隆帯鬚爪形文 内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色・粘土	橙	普通	外面爪形文 内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色	にぶい黄橙	普通	外面爪形文 内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英・赤色・粘土	橙	普通	外面隆帯による波状文 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色	褐	普通	外面半截竹管文による対置文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色・粘土	橙	普通	外面縦位の交互斜突文 内面ナデ	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	褐	普通	外面半截竹管文 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黄・褐	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面磨き	如	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面櫛歯状工具による斜突文光景 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	明・褐	普通	外面RL縄文→微隆起文貼付 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口縁部外面縦位の沈線文 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色・粘土	にぶい赤褐	普通	外面隆帯上RL縄文 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	明赤・褐	普通	外面沈線→LR縄文→沈線間磨き 内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面口縁部捻糸文R 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・黒色粒子	黄・橙	普通	外・内面磨き 内面C字状貼付文	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波頂部C字状貼付文 内面ナデ	覆土下層	



第101図 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)

第 15 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 98 ~ 101 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘り	褐	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘り・粘り	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面条線→沈線→刻み・区画文→磨き 内面磨き	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	口縁部外面付点線縄文 頸部RL縄文 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線→沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外・内面ナデ	覆土中	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→無節R→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
36	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面に三文文 内面磨き	覆土中	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	頸部外面に沈線間刻突文 内面ナデ	覆土中	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘り・粘り	にぶい黄	普通	外面粗いLR縄文→粗線貼付 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面条線→粗線貼付 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面粗線貼付→条線 内面ナデ	土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘り・粘り	暗赤褐	普通	外面条線→付点線縄文 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面条線→粗線貼付→区画文間磨き 内面磨き	覆土下層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面条線→粗線貼付→区画文間磨き 内面ナデ	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口唇部外面に絡条帯注文文 内面ナデ	P 16	内面煤付着
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面格子目文→頸部磨き 内面ナデ	P 16	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 23	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ	P 20	
48	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 20	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面無節LR縄文とRL縄文の縦位回転施文 内面ナデ	P 29	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	口縁部外面刻み 内面磨き	P 29	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 29	
52	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 29	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 29	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外・内面ナデ	P 40	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面LR縄文→沈線→沈線間磨き 内面磨き	P 40	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 40	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 40	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面凹線文 内面ナデ	P 40	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 40	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面LR縄文 口唇部に沈線文 内面磨き	P 40	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面削り 内面ナデ	P 40	二次焼成
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面ナデ→条線 内面ナデ	P 40	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 43	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	P 43	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面RL縄文→隆起線文 内面ナデ	P 44	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 44	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗 褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 44	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘り・粘り	にぶい黄	普通	外面LR縄文 内面ナデ	P 59	
69	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	P 59	
70	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	P 45	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	P 48	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→刻み→条線 内面磨き	P 62	
73	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→無節LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 62	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→条線 内面磨き	P 74	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面粗貼付→沈線→刻み・RL縄文 内面磨き	P 74	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 72	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘り・粘り	灰 褐	普通	外・内面磨き	P 72	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 俵	7.7	5.3	2.5	51.6	長石・石英・角閃石	にぶい黄	板状 手づくねによる整形	覆土下層	4g 類 PL40
DP 2	遮 形	(6.5)	4.6	2.2	(35.8)	長石・石英	暗灰黄	手づくねによる整形	覆土下層	PL44
DP 3	土 鉢	4.0	3.0	(2.0)	(21.7)	長石・石英	灰 褐	有溝 ナデ整形	覆土下層	
DP 4	土 鉢	4.2	2.5	2.3	22.2	長石	にぶい黄	有溝 ナデ整形	P 74	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磁・銅類	(19.9)	3.79	2.28	(267.4)	緑泥片岩	石剣 中央部が帯状に黒変	覆土上層	PL45
Q 2	石 鏃	3.5	3.0	1.4	18.2	砂質頁岩	有溝	覆土下層	1類
Q 3	石 鏃	(3.1)	3.7	0.9	(11.6)	安山岩	上下端打ち欠き	覆土下層	3類
Q 4	砥 石	(10.1)	(10.4)	(7.1)	(629.4)	砂 岩	砥面 4 面 部分的に筋状の擦痕	覆土下層	2類
Q 5	磨石類	7.2	6.6	4.2	308.8	輝石安山岩	表裏面に凹痕	覆土下層	2c 類
Q 6	磨石類	6.8	6.3	4.6	298.7	輝石安山岩	側面に敲打痕	覆土下層	2類
Q 7	砥 石	(24.6)	7.9	3.0	(749.2)	緑色片岩	表裏に磨り面	覆土上層	2類

第 56 号竪穴建物跡 (第 96・97 図)

位置 調査A区北西部のB 6 16区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層 I 層下で確認した。第 15 号竪穴建物、第 2～4 号溝に掘り込まれている。第 44・57・58 号竪穴建物跡、第 32 号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは、第 44・57・58 号建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を推定した。P 45～P 48 を出入口部とし、P 19・P 24・P 28～P 35 を壁柱穴とすると、推定できる東西軸は 5.0 m、出入口ピットまでの南北軸は 5.5 m の方形で、出入口ピットから推定される主軸方向は N-28°-E である。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、P 8・P 61～P 63 が、位置と形状や深さなどから主柱穴の可能性はある。

覆土 第 9・14 層の一部は、本跡に帰属する可能性が高い。西壁に近い部分には焼土の分布が確認でき、建物の埋没過程で焼土が廃棄され、その後自然堆積したものと考えられる。

所見 本跡周辺の遺物は、第 15 号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。方形に壁柱穴が巡っていることから、当遺跡で確認できる竪穴建物跡の时期的な特徴と比較して、時期は後期後葉の安行 2 式期と考えられる。すぐ北に位置する第 15 号竪穴建物跡もほぼ同時期と考えられることから、ほぼ同一の地点に、比較的短期間に建物の廃絶・構築が繰り返されたものと考えられる。

第 57 号竪穴建物跡 (第 96・97 図)

位置 調査A区北西部のB 6 16区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層 I 層下で確認した。第 15 号竪穴建物、第 2～4 号溝に掘り込まれている。第 44・56・58 号竪穴建物跡、第 32・131・135 号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは第 44 号建物跡を掘り込み、第 56 号建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を推定した。P 41～P 44 を出入口部とし、P 2～P 6・P 9～P 16 を壁柱穴とすると、推定できる東西径は 6.4 m、出入口ピットまでの南北軸は 6.2 m の円形で、出入口ピットから推定される主軸方向は N-14°-E である。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、P 34・P 56・P 57・P 61・P 64・P 65 は、位置と形状、深さなどから主柱穴の可能性はある。

覆土 第 15・56 号竪穴建物に掘り込まれているため、確認することができなかった。

所見 本跡周辺の遺物は、第15号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。円形に壁柱穴が巡る平面形を呈することから、当遺跡で確認できる竪穴建物跡の時期的な特徴と比較して、時期は後期後葉の安行1式期と考えられる。

第58号竪穴建物跡（第96・97図）

位置 調査A区北西部のB6i6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層I層下で確認した。第15号竪穴建物、第1号地下式坑、第2・3号溝に掘り込まれている。第13・37・56・57号竪穴建物跡、第31・32号土坑とも重複しているが、堆積状況からは新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは第13・56号建物跡に掘り込まれていると推測できる。

規模と形状 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を想定した。P49～P54を出入口部とし、P16～P27を壁柱穴とすると、壁柱穴間の規模は東西径6.0m、出入口ピットまでの南北径は6.2mの円形で、出入口ピットから推定される主軸方向はN-24°-Eである。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、第37号竪穴建物跡に帰属するとしたP2～P5も本跡の壁柱穴となる可能性がある。

覆土 第14層の一部は、本跡に帰属する可能性がある。出入口部から南付近にかけて焼土の分布が確認でき、建物の埋没過程で焼土が廃棄され、その後自然堆積したものと考えられる。

所見 本跡周辺の遺物は、第15号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。円形に壁柱穴が巡る平面形を呈することや出土遺物などから、時期は後期初頭から前葉の称名寺2式期から堀之内1式期と考えられる。

第16号竪穴建物跡（第102・103図）

位置 調査A区中央部のC6e7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。本跡のP15が第129号土坑を掘り込み、第4号地下式坑、第4号溝に掘り込まれている。第31・32号竪穴建物跡、第102・122・269・274号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。

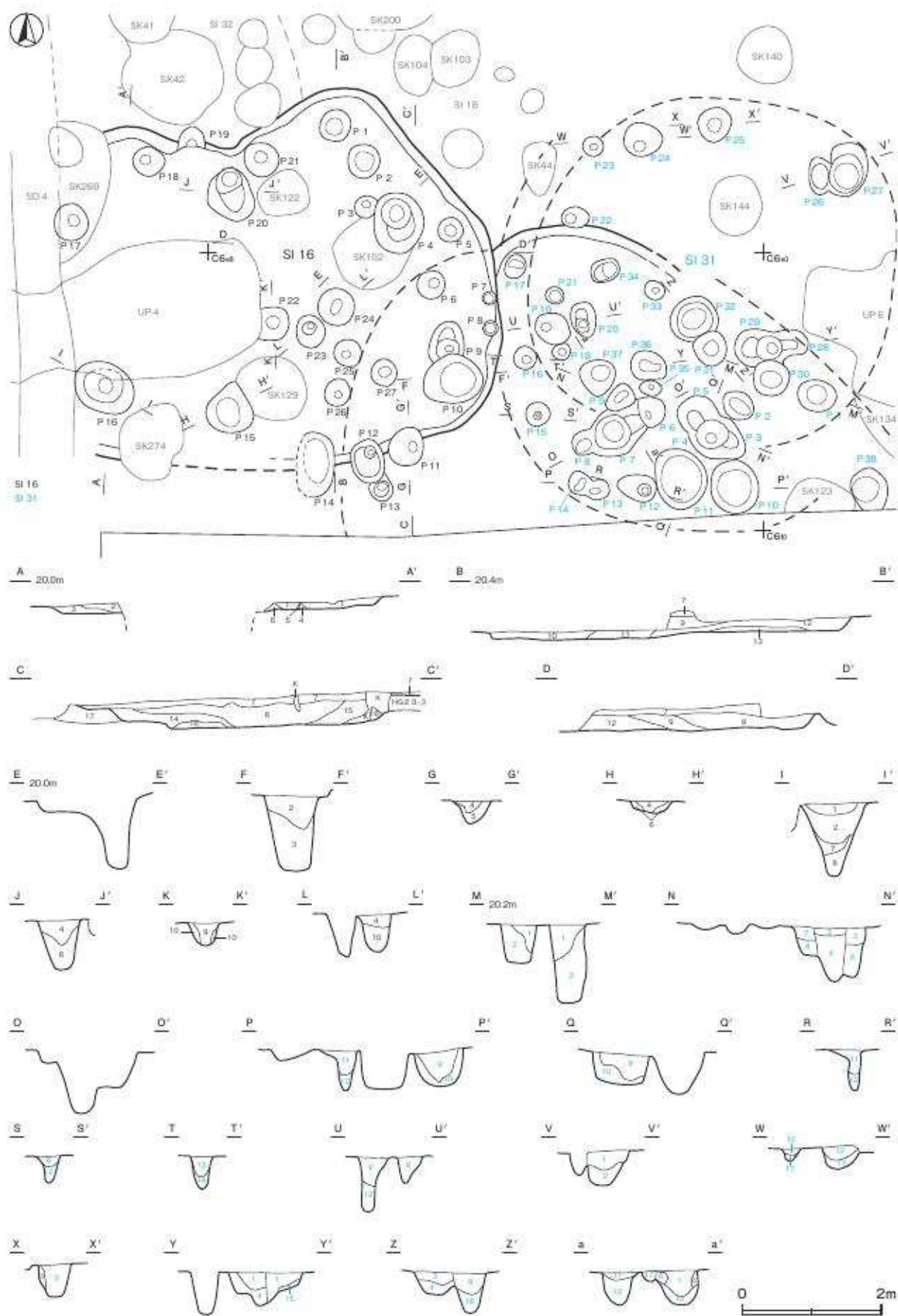
規模と形状 調査時に不整形な掘り込みを確認したことから2棟以上の重複と考え、第16・17号建物跡として調査したが、堆積状況やピットなどを検討した結果、1棟と判断した。西部が第4号溝に掘り込まれていること、また南壁が確認できなかったことから、南北径は4.7mで、東西径は6.5mしか確認できなかった。不整な楕円形で、東西軸方向はN-69°-Eである。壁は高さ10～20cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 27か所。P4・P10・P16・P17・P20は、径70～90cm、深さ100cm前後で、主柱穴と考えられる。また径30～40cm、深さ25～54cmのピットが壁際に巡っている。

ピット土層解説

1 黒色	炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	7 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
5 にがい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量



第102图 第16·31号竖穴建物跡実测图

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	54	24	47	102	32	45	16	12	29	107	34	17	67	37	23	105	83	48	16	100	44	34	73	57	32	32	26

覆土 16層に分層できる。中央部付近に黒褐色土、壁際の周辺部にローム粒子がやや多く含まれる暗褐色土が見られ、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第7層は表土に近い堆積土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子少量、炭化材微量	12 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 濃い黄褐色	ロームブロック中量	14 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(第2号遺物包含層堆積土)
9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量		

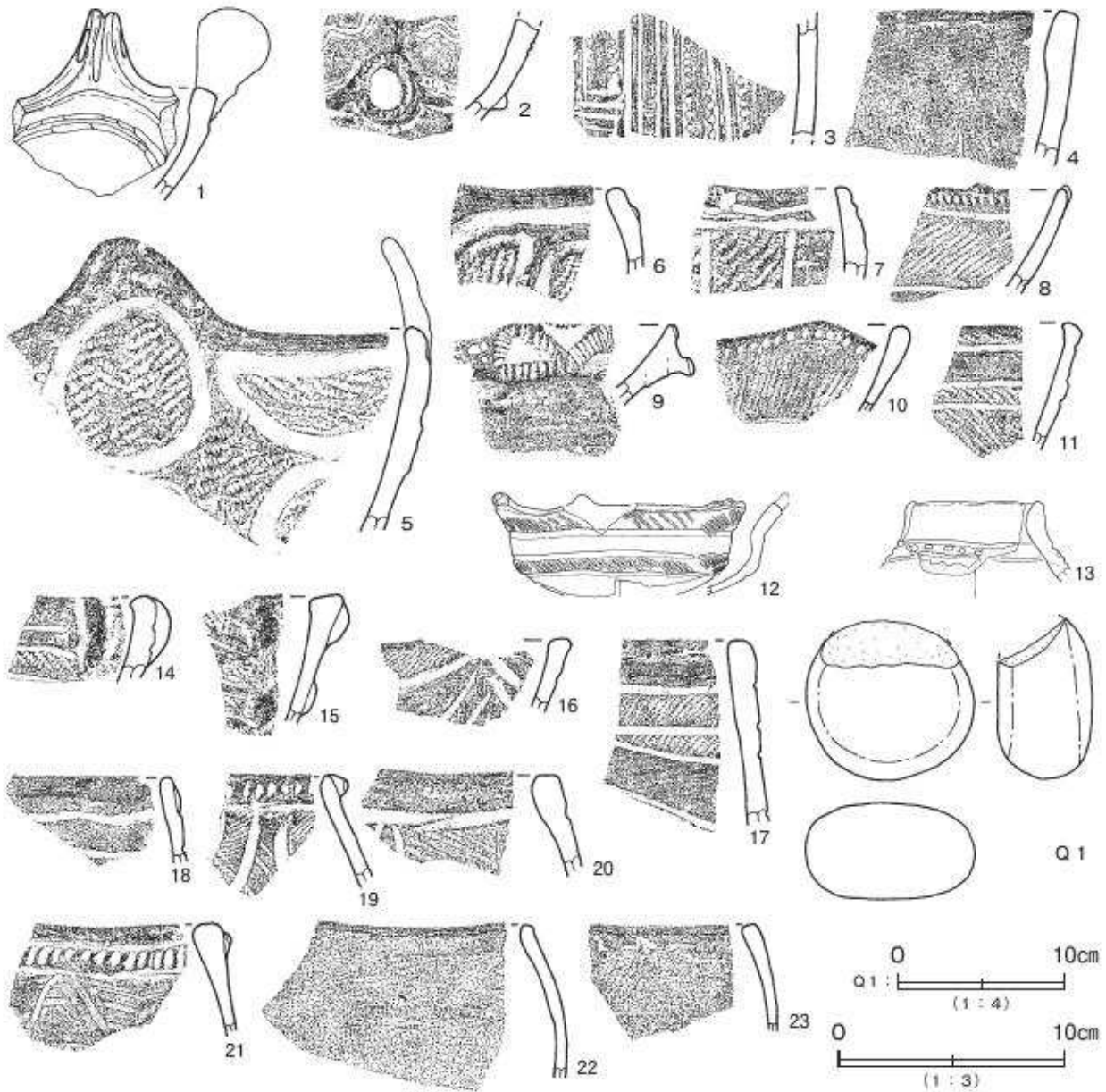
遺物出土状況 縄文土器片 379点 (5.97kg)、石器・石製品 6点 (磨製石斧1、磨石類3、砥石1、石棒・石剣類1)のほか、石核1点(チャート)、剥片1点(チャート)などが出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群(加曾利E式) 21.3%、第1群(阿玉台式) 19.1%、第8群(晩期安行式) 19.1%である。なかでも阿玉台Ⅱ～Ⅲ式、加曾利EⅢ式、安行3b式が多く確認できる。ピット内からは複数時期の遺物が混在しているが、P3・P6・P12・P18・P23・P26は後期中葉以前の土器群のみ出土している。

所見 時期は、出土土器や建物跡の形状などから、中期前半から後半と考えられる。第8群の土器は、重複している第31号建物跡、あるいは第2号遺物包含層に帰属するものと考えられる。

第16号壁穴建物跡出土遺物観察表(第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面2列の角押文・内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面半藁竹管による押しきり・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面半藁竹管による沈線文・内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外面横位の磨き・胴部縦位の磨き・内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面RL縄文→沈線文・内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→微隆起帯貼付・内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面も段多条のLR縄文→沈線→磨き・内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘り・黒砂	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面隆起帯上に爪形文・内面磨き	P16	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘り・黒砂	明赤褐色	普通	外面斜沈線文・内面磨き	P15	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P20	
12	縄文土器	浅鉢	11.4	(4.6)	-	筋・砥・粘り・黒砂	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	30%
13	縄文土器	壺	[6.2]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線間刺突文・内面ナデ	覆土中	10%
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P20	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P20	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面隆起帯沈線→LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り・内面ナデ	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→粗線貼付→胴部区画文→LR縄文・内面ナデ	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→口縁部沈線→胴部区画文・内面ナデ	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面条線→粗線貼付→胴部区画文・内面ナデ	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り・内面ナデ	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面削り・内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石類	(9.5)	10.0	5.7	(77.9)	凝灰質レイ岩	表裏・側面に磨り痕・特に下端が顕著	覆土中	1c類



第103図 第16号竖穴建物跡出土遺物実測図

第31A・B号竖穴建物跡 (第102・104・105図)

位置 調査A区中央部のC 6e9区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。第6号地下式坑に掘り込まれている。第16号竖穴建物跡、第123・144号土坑と重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。

規模と形状 第16号竖穴建物跡の東部で、壁の一部と多数のピットが確認できたことから建物跡を想定したが、明瞭な掘方や炉跡、床面等を確認することはできなかった。ピットの位置と形状から、P3～P5・P6～P8を出入口部とし、P1・P2・P15～P27などを壁柱穴とする第31A号建物跡と、壁の一部に沿うように弧状に巡っている壁柱穴を有する第31B号建物跡の、2棟の重複が推定できる。第31A号建物跡は、出入口ピットを含む南北径5.4m、東西径5.2mの円形で、出入口ピットから想定される主軸方向はN-3°-

Eである。第31 B号建物跡は、部分的な確認であることや、南部が調査区外に延びていることから不明瞭であるが、径6 m前後の円形、あるいは楕円形と推定できる。壁は高さ10cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 38か所。第31 A号建物跡では、上記した壁柱穴のほか、弧状に並んでいるP 10～P 17・P 22～P 27から、さらに別の1棟の重複も考えられる。第31 B号建物跡は、壁際のP 17・P 31～P 34・P 38のほか、第16号建物跡の帰属としたP 6・P 12～P 14・P 25～P 27なども本跡に伴う可能性がある。

ピット土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 極暗褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・白色粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
8 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量		

ピット深度表

(cm)

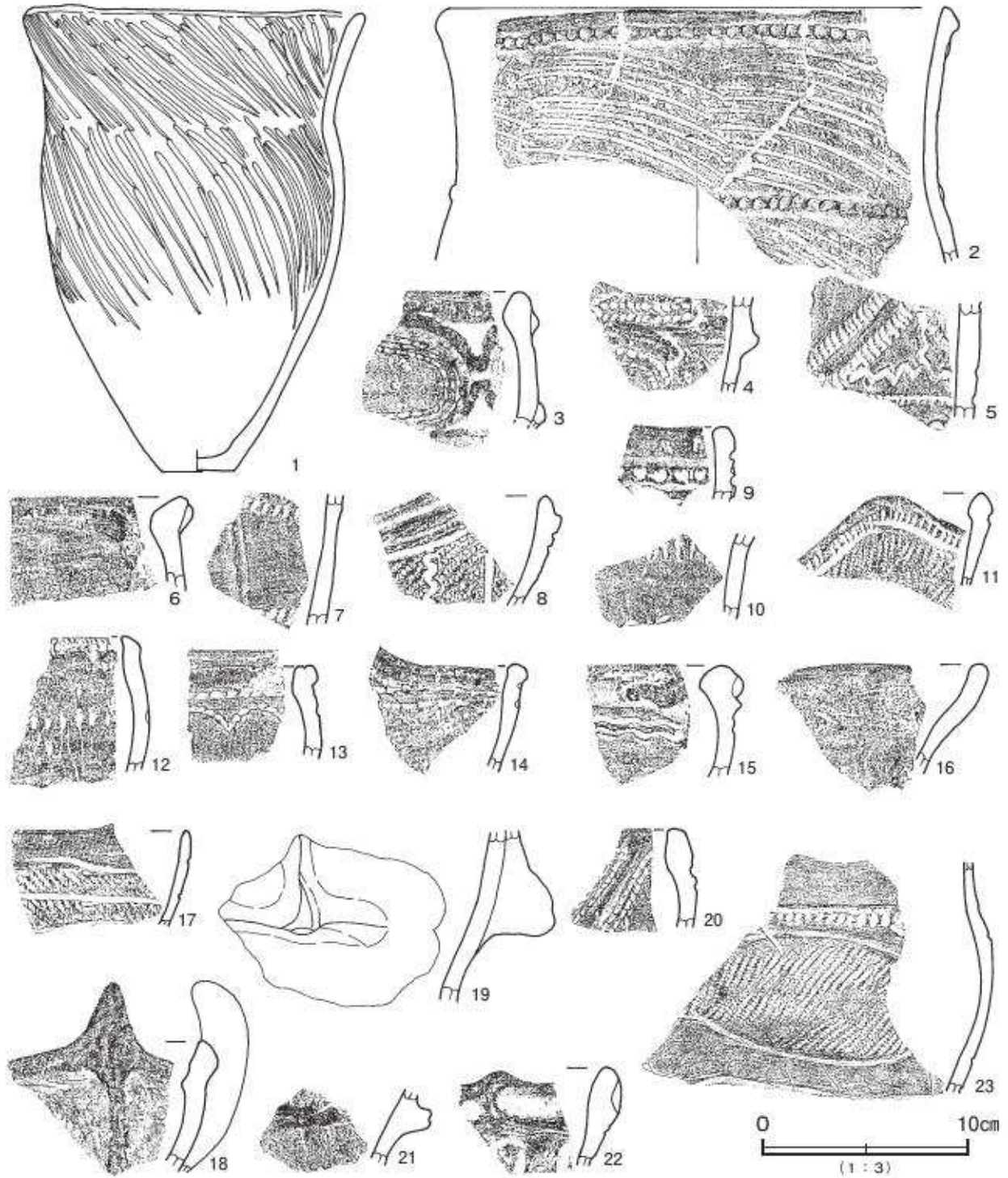
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	105	24	71	82	40	44	82	15	15	53	50	59	10	14	38	48	8	34	83	18	20	38	23	64	56
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38												
深さ	35	50	27	48	56	61	35	20	26	17	19	48	46												

遺物出土状況 縄文土器片 545点 (8.28kg)、土製品1点 (土偶)、石器・石製品5点 (石鏃1、打製石斧3、礫器1)のほか、石核1点 (チャート) などが出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第1群 (阿玉台式) 35.6%、第4群 (堀之内式) 22.4%、第5群 (加曾利B式) 16.7%である。なかでも阿玉台I b～II式、堀之内1式、加曾利B 2～B 3式が多く確認できる。ピットからは後期初頭から後期前葉の遺物が比較的多く出土しているが、P 5・P 30・P 36からは後期中葉から後葉の加曾利B 3式期、曾谷式期の遺物がまとまって出土しており、特にP 5上層からは、1の深鉢がほぼ完形で出土している。またP 10からは阿玉台I b式がまとまって出土している。P 7からは獣骨片が21.04 g出土しており、一部は焼けているものが見られる。

所見 時期は、出土土器や形状から、第31 A号建物跡は後期前葉から後葉、第31 B号建物跡は中期前半、あるいは後期初頭と考えられる。

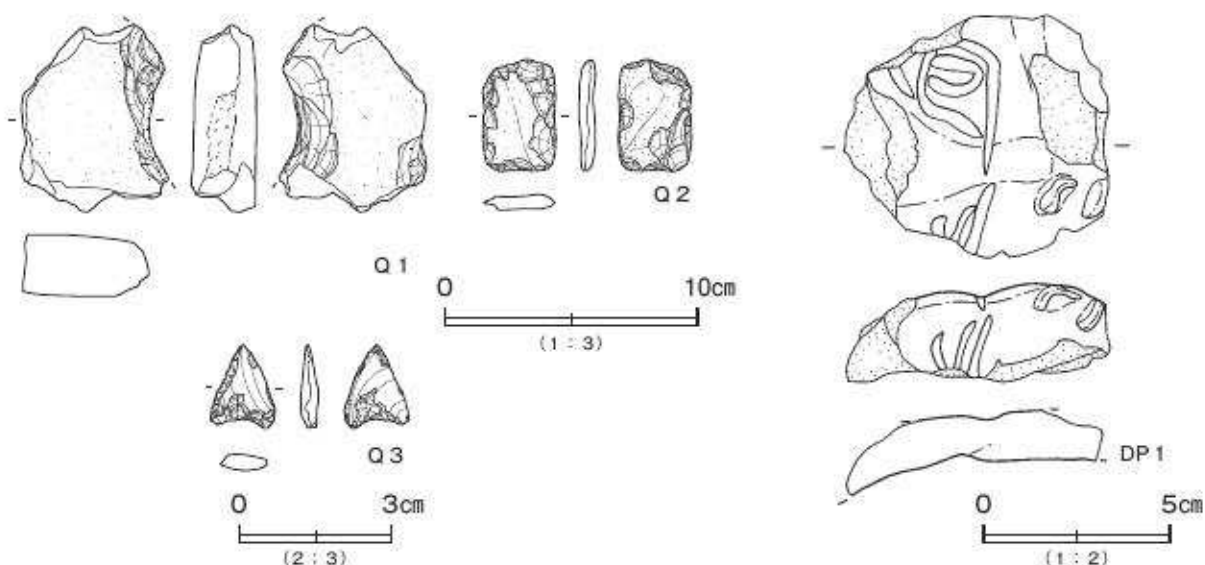
第31号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第104・105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	161	228	35	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面条線 下縁部磨き 内面ナデ 底部磨き	P 5	95% PL29
2	縄文土器	深鉢	[24.4]	[122]	—	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面無筋R縄文→条線→経線貼付 内面ナデ	覆土上層	10%
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面隆起帯縁に爪形文 内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面爪形文 内面ナデ	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面KL縄文→沈線 内面磨き	P 3	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面竹管文 内面ナデ	P 3	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面爪形文 ナデ 内面磨き	P 3	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面沈線→LR縄文・刻み 内面ナデ	P 8	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面爪形文 内面ナデ 口唇部刻み	P 10	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口唇部沈線文 外面1列の角押文 内面ナデ	P 10	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	P 10	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面波状文 内面ナデ	P 10	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外・内面ナデ	P 10	



第104図 第31号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面無節R縄文→沈線 内面磨き	P 10	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外・内面ナデ	P 9	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・粘石	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P 19	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・粘石	明赤褐色	普通	外面隆起帯縁2列の角押文 内面磨き	P 19	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・粘石	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P 20	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面口縁部に富文連続沈線文 内面磨き	P 30	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 30	



第 105 図 第 31 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 31 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 104・105 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	断土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土偶	(26)	(69)	(64)	(71.0)	長石・石英	黒褐色	中空 十字整形	覆土上部	5b 類
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q 1	打製石斧	(7.45)	(5.86)	2.59	(154.4)	角閃石輝石安山岩	分銅形 右側面に鋭打痕	覆土下部		
Q 2	礫器	4.45	2.92	0.67	11.7	安山岩	全周縁に割傷	P 1		
Q 3	石鏃	1.67	1.29	0.36	0.7	黒曜石	凹基	覆土上部		

第 18 号竪穴建物跡 (第 106～109 図)

位置 調査A区中央部の C 6 c8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層中で確認した。第 199 号土坑を掘り込み、第 32 号竪穴建物、第 105・109・111 号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第 20・35 号竪穴建物跡、第 103・104・106～108・110・125・128・200・275 号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 竪穴建物跡や土坑群との重複が著しく、明確な範囲を捉えることはできなかったが、P 1～P 4 が弧状に巡っていることや覆土の堆積状況などから、建物跡と判断した。第 35 号建物跡の炉 3 が本跡の炉跡とすると、径 6 m 前後の円形の平面形が推定できる。位置などから第 103・104 号土坑を出入口部とすると、推定できる主軸方向は N-5°-E である。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 第 35 号建物跡の炉 3 が該当する可能性がある。

ピット 8 か所。P 1・P 3・P 4 はローム粒子が含まれている黒褐色土。P 2・P 5 は暗褐色土が主体で、いずれも柱が抜き取られたあと、覆土が堆積している。

ピット深度表 (cm)

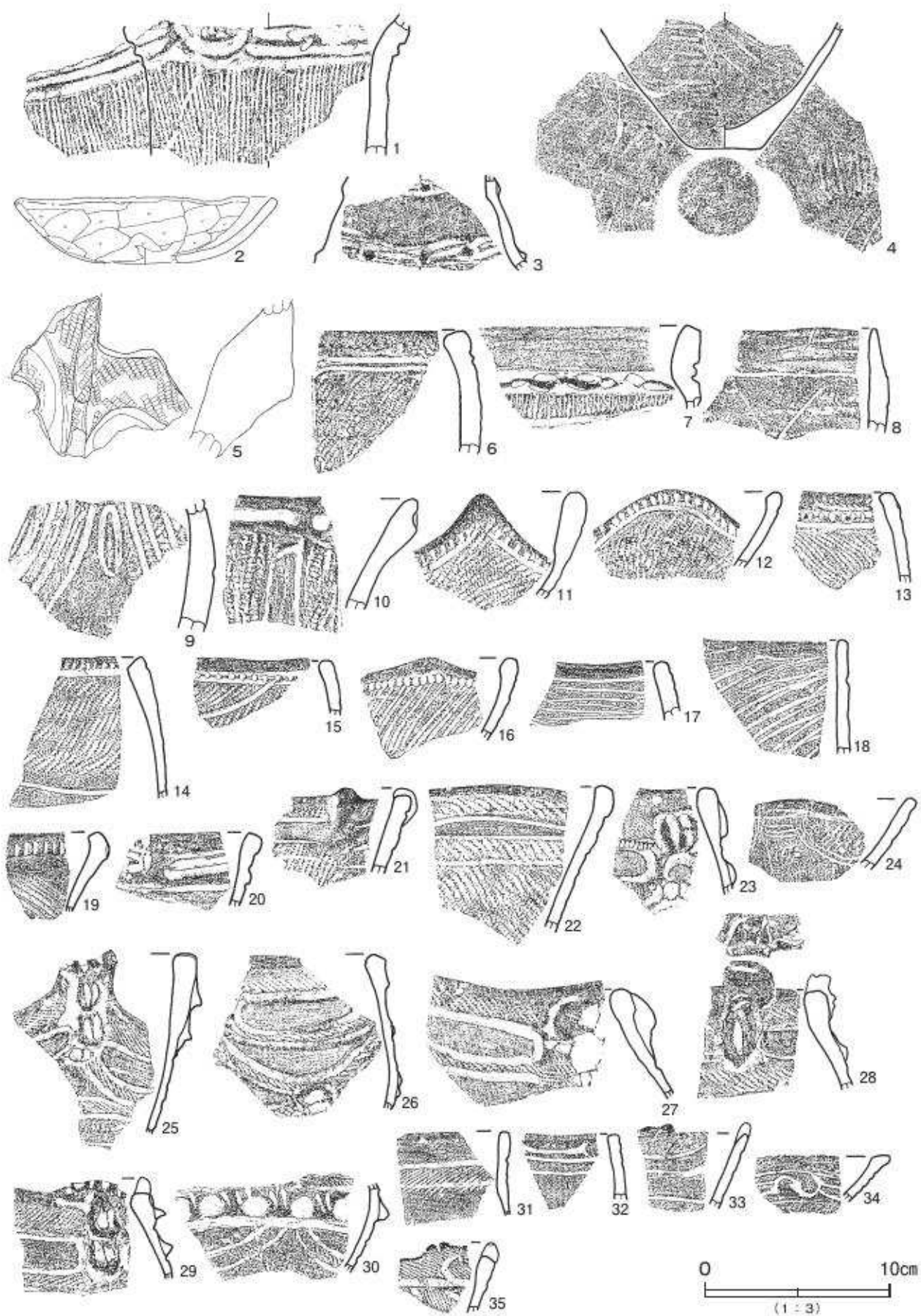
番号	1	2	3	4	5	6	7	8
深さ	40	75	84	44	62	23	85	20

遺物出土状況 縄文土器片 1,795 点 (29.08kg)、土製品 4 点 (土器片円盤、土偶、土版、貝輪状)、石器・石製品 23 点 (磨石類 14、砥石 3、石錘 2、浮子 1、加工痕のある剥片 1、石棒・石剣類 2) のほか、石核 3 点 (チャート 2、黒曜石 1)、剥片 8 点 (黒曜石 5、チャート 3)、獣骨片 5.21 g が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 5 群の後期中葉 (22.9%)、第 8 群の晩期前葉～中葉 (17.3%)、第 7 群の後期後葉 (15.9%)、第 4 群の後期前葉 (13.8%) のものである。ピット内からは後期中葉の土器が多く出土している。DP 1 は P 3 の覆土中から出土している。

所見 出土土器は後期中葉から晩期前葉にまともまっているが、周辺に当期の遺構が多数確認できること、炉跡やピットの配置が不明瞭であることなどから、時期を確定することができない。後期から晩期と考えておきたい。

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 107～109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	長石・石英・細礫	橙	普通	胴部外面磨き 糸文 R・内面ナデ	覆土上層	20%
2	縄文土器	浅鉢	[138]	(3.4)	—	灰・磁・硝子・粘土	灰・褐	普通	外面削り 内面磨き	覆土下層	30%
3	縄文土器	壺	—	(5.2)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面磨き 糸文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	3.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	内面黒 20%
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	にぶい黄橙	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面磨き 交互刺突文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口縁部外面磨き 内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面 RL 縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・丸四石	にぶい黄橙	普通	外面 LR 縄文→沈線→沈線磨き 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→口縁部削み→LR 縄文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	赤・褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒・褐	普通	外面条線→口縁部削み 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英	黒・褐	普通	外面条線文 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面条線 内面磨き	P 3	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	口縁部外面隆起帯 内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯磨沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰・褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐	普通	外面隆起帯磨沈線→糸貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
24	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 胴部削み 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	暗赤褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面隆起帯磨沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
30	縄文土器	鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	明・褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒・褐	普通	外面沈線→無文 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	外面保付着
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面玉突き三又文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒・褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→細密沈線文 内面ナデ	覆土中	
39	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	褐・灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・丸四石	にぶい黄橙	普通	外面沈線→刺突文 内面磨き	覆土中	
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	にぶい黄橙	普通	外面地縄文→紐線貼付→条線 内面磨き	P 3	
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	橙	普通	外面地縄文→紐線貼付→条線 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部削り出し状 内面ナデ	覆土下層	
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰・磁・硝子・粘土	にぶい黄橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面条線→副文横帯縄文 内面ナデ	覆土下層	

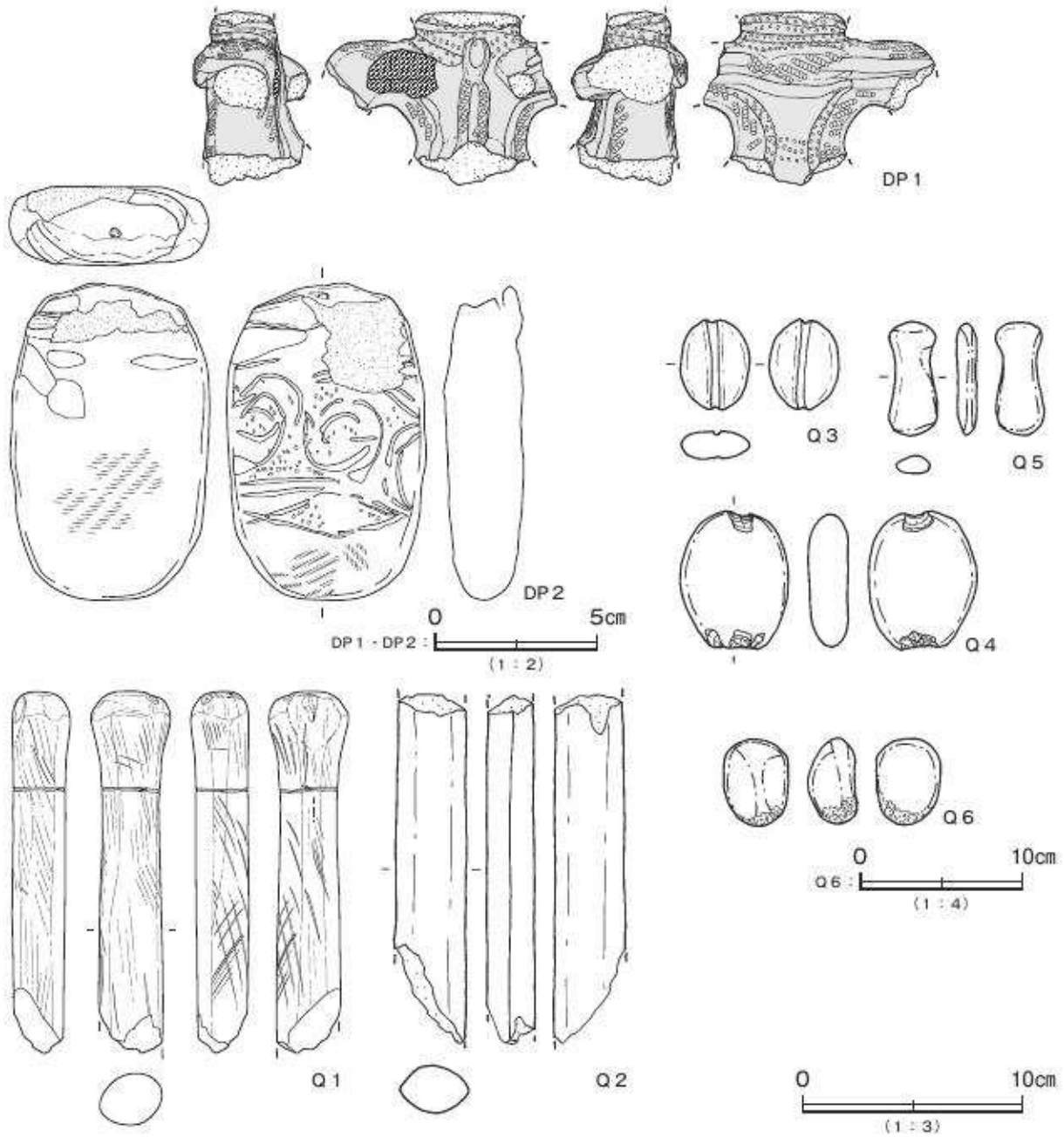


第 107 图 第 18 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第108図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面磨き→條形帯沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面条線 内面磨き	P 2	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	外面条線→口縁部削み 内面磨き	P 2	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 3	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填 内面磨き	P 3	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 3	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面条線→口縁部削み 内面磨き	P 3	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線 内面磨き	P 4	
59	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口B類
60	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口B類
61	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口B類
62	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土下層	口B類
63	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部へら切り	覆土下層	口C1類
64	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土下層	口B類



第109図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土偶	(53)	(70)	35	(82.1)	長石・石英	黒褐色	山形 隆起帯貼付→沈線→RL縄文・刺突文 赤彩	P 3	2c類
DP 2	土瓶	9.7	6.0	24	185.6	灰-砂-粘土-砂	黒褐色	表面に三叉状入組文と細かい刺突文 無滑L縄文	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・研削	(166)	3.64	2.67	(218.0)	角閃石片岩	石棒 研削塗彩 赤彩	覆土下層	PL45
Q 2	石・研削	(159)	3.3	2.2	(179.1)	角閃石片岩	石剣 研削塗彩	覆土上層	
Q 3	石 錘	4.0	3.2	1.3	21.0	輝石安山岩	有溝	覆土上層	1類
Q 4	石 錘	6.2	5.0	1.8	83.4	輝石安山岩	上下端打ち欠き	覆土中	3類
Q 5	砥石	5.1	2.2	0.9	11.4	砂岩	扁平	覆土中	4類
Q 6	磨石類	5.2	3.9	2.9	75.3	輝石安山岩	自然剥の下層部に敲打痕	覆土下層	6a類

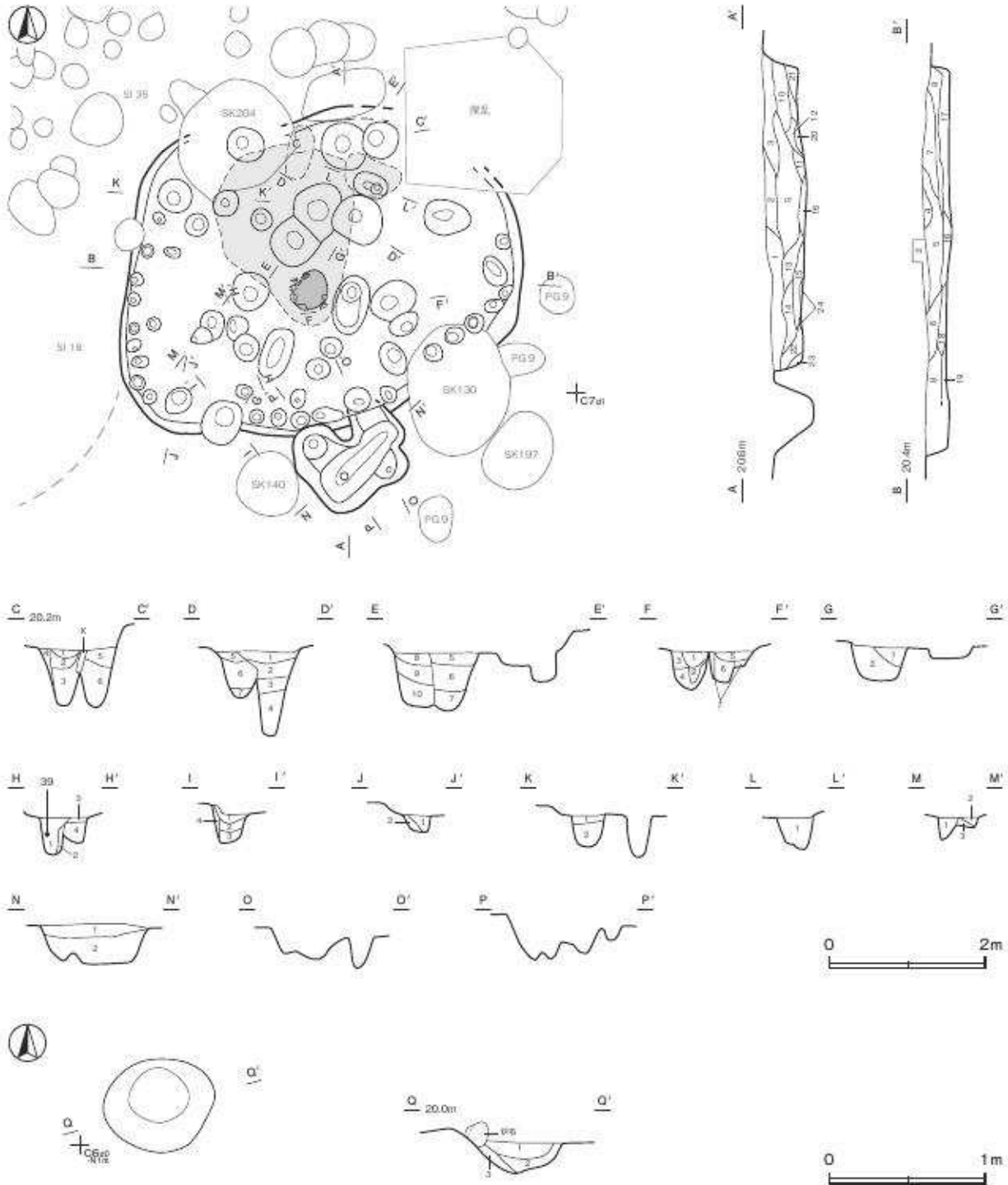
第 20 号 竪穴建物跡 (第 110 ~ 116 図 PL 8)

位置 調査A区中央部のC 6c0区。標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2号遺物包含層下で確認した。第 204号土坑を掘り込み、第 130号土坑に掘り込まれている。第 18・35号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況から新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 出入口ピットを含めた南北軸 5.12 m、東西軸 5.42 mの楕円形で、炉と出入口部を結んだ主軸方向はN - 18° - Wである。壁は高さ 26 ~ 48cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。



第 110 図 第 20 号 竪穴建物跡実測図 (1)

炉 中央やや南寄りに位置している。長径 54cm、短径 50cm の石囲炉で、北東側の石は確認できなかった。深さ 20cm で、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（掘方覆土） |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量（掘方覆土） | |

ピット 53か所。P4～P6、P7・P8、P11・P12は、位置と深さから支柱穴である。それぞれ2～3か所が近接していることから、立て替えの可能性がある。奥壁際のP1・P2は径が大きく、深さのあるピットで、支柱穴的な機能を有している可能性がある。P16～P43・P51～P53は位置と形状から壁柱穴で、P50は出入口ピットである。

P1・P2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P4～P6土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量、骨粉微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・骨粉少量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 10 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

P12・P47土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

P7・P10土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物・骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

P11土層解説

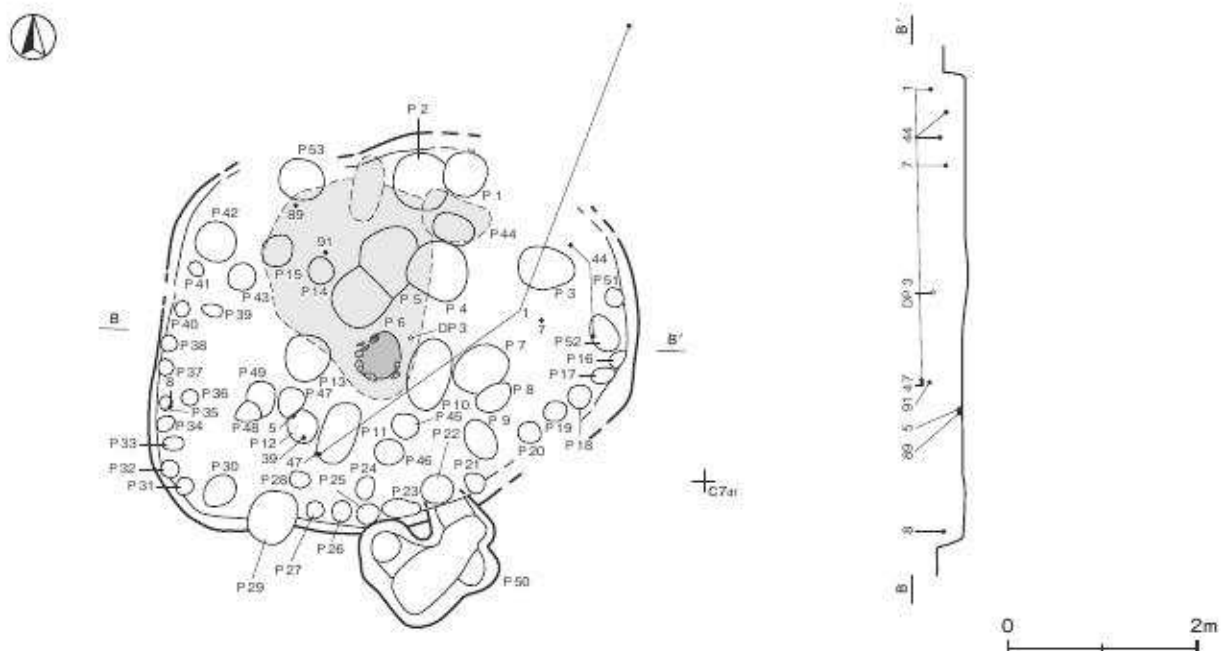
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

P29土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

P30土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量



第111図 第20号竪穴建物跡実測図(2)

P 42 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P 48・P 49 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 44 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

P 50 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	100	109	48	119	86	81	60	64	53	76	45	57	80	51	56	16	23	21	23	41	21	39	30	17	31	23	17
番号	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	
深さ	9	35	23	16	18	11	19	19	14	30	32	14	40	28	46	58	45	24	32	37	34	15	54	3	37	27	

覆土 24層に分層できる。全体的に骨粉が少量含まれている。焼土ブロックが多く含まれている層や黒褐色土、ロームブロックが多く含まれている層が、互層に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

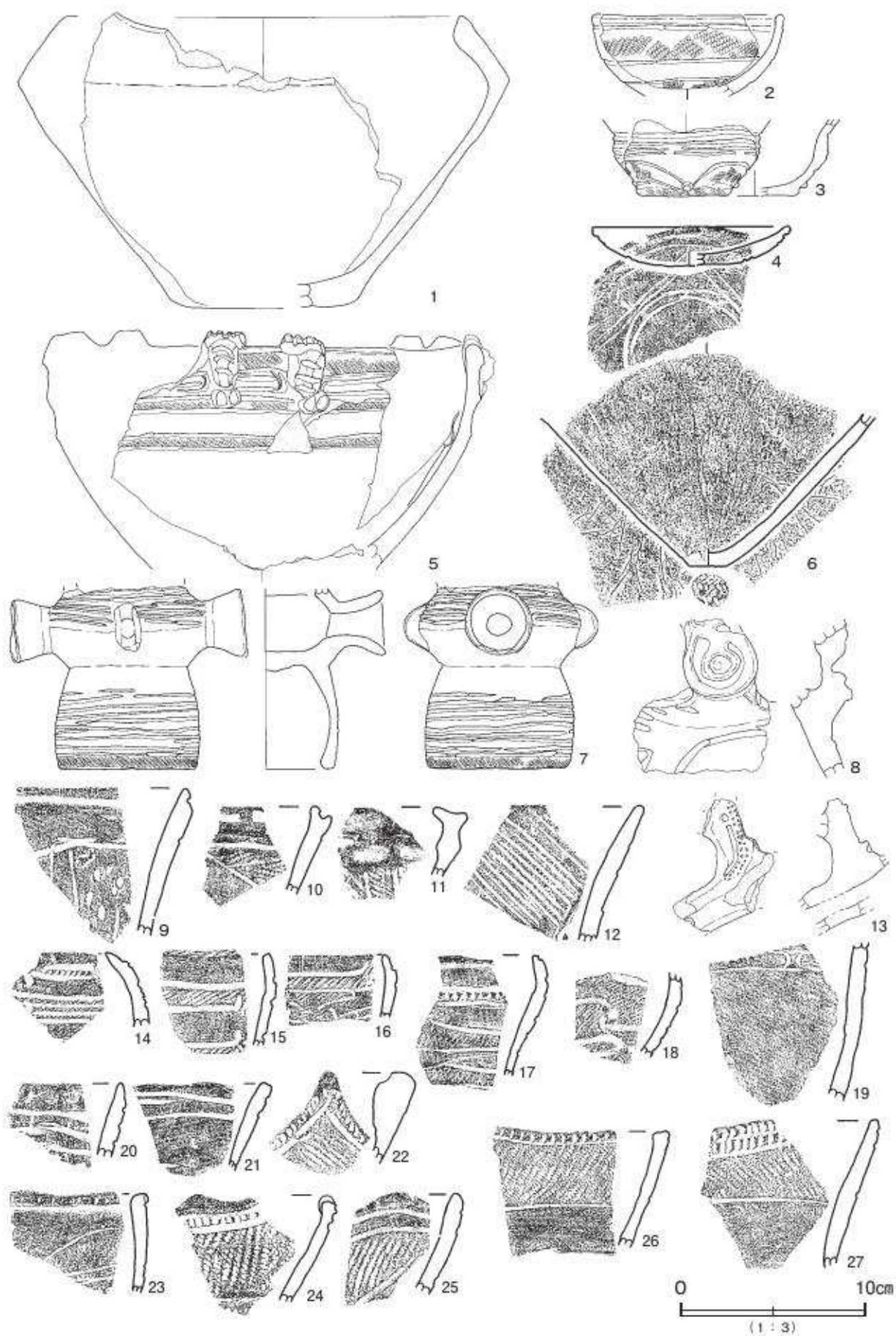
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 4 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 9 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 12 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 13 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 16 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 17 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 18 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 19 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 20 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 21 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 22 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
- 23 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 24 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片5,520点(88.02kg)、土製品15点(土錘3、土器片円盤6、耳飾り2、土偶3、貝輪状1)、石器・石製品39点(石鏃1、磨製石斧3、石皿類1、磨石類22、砥石7、浮子1、石棒・石剣類4)のほか、石核2点(黒曜石)、剥片7点(チャート4、黒曜石3)、鹿角片10.07g、加工痕のある獣骨片1点(1.23g)などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて、多量に出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群(安行1・2式)27.6%、第5群(加曾利B式)25.7%である。特に加曾利B3式から安行1式が多く確認できる。1は第47号竪穴建物跡から出土した土器と接合している。

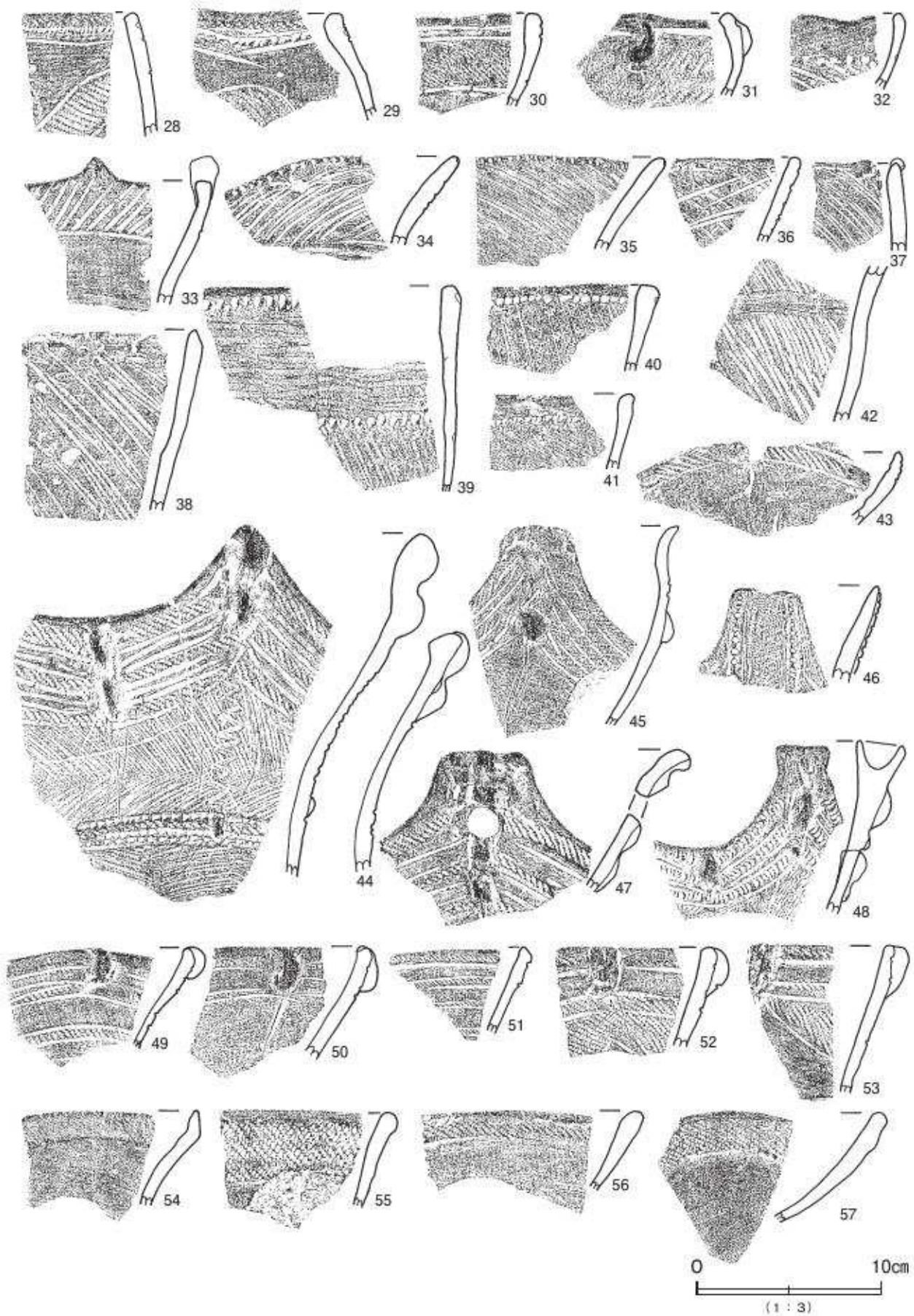
所見 時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表(第112～116図)

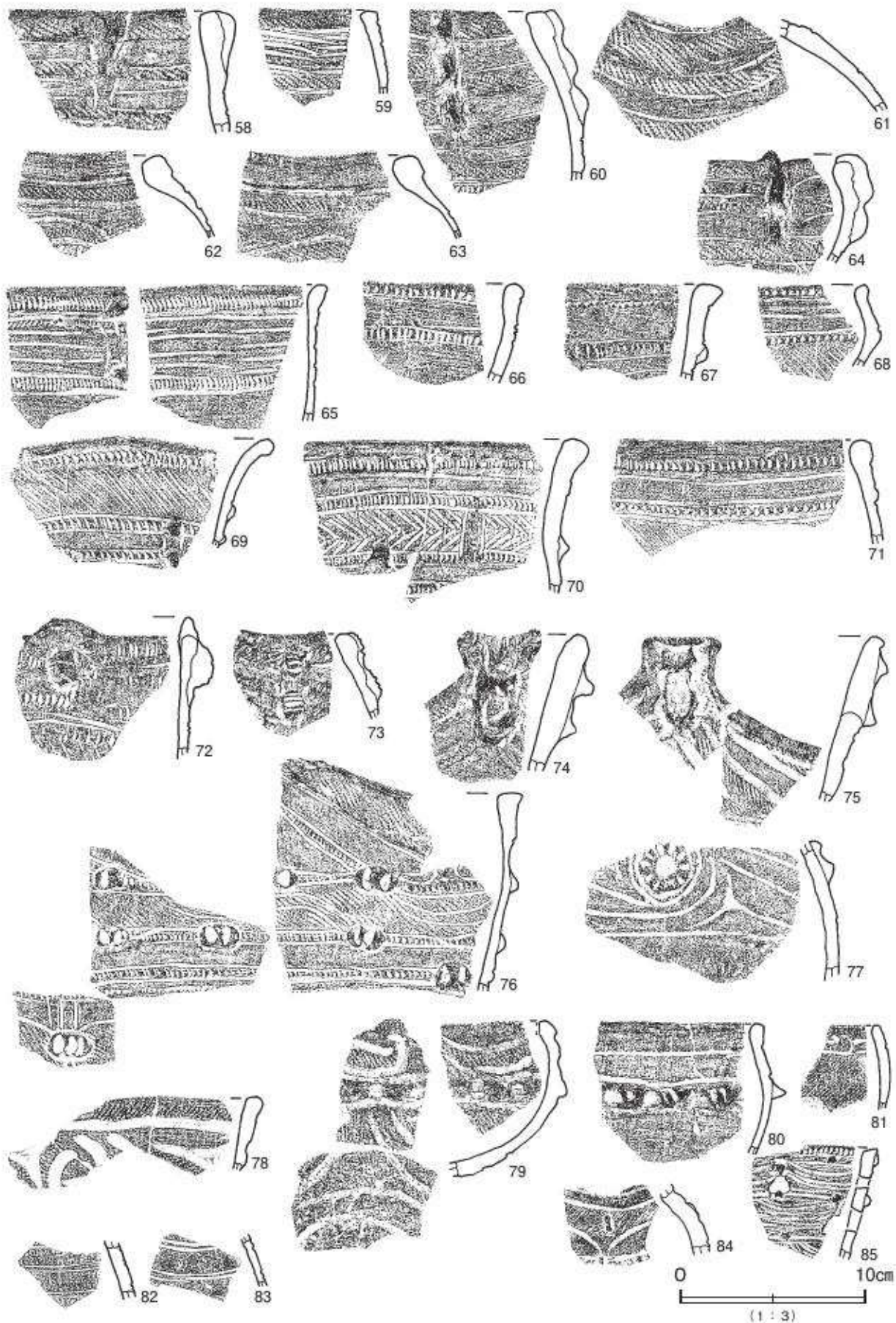
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	[21.3]	[15.9]	[10.9]	長石・石英	におい黄褐色	普通	外面口縁部→胴部上半磨き 内面磨き	覆土上層	30%	
2	縄文土器	浅鉢	[10.3]	—	(4.4)	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中	30% PL37
3	縄文土器	鉢	—	—	(4.4)	4.4	胎土・砂子・粘土	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土中	40%
4	縄文土器	浅鉢	[10.7]	—	[5.6]	長石・石英・雲母	におい褐色	普通	外面直線的な雲母文 内面磨き	覆土上層	10%	
5	縄文土器	台付鉢	[23.0]	—	(12.7)	—	長石・石英	におい赤褐色	普通	外面磨き 内面ナデ→底部粗い磨き 底部網代痕	覆土下層	30%
6	縄文土器	深鉢	—	—	(8.2)	2.0	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	外面磨き 内面ナデ→一部粗い磨き 底部網代痕	覆土下層	10%
7	縄文土器	黄彩台付	—	—	(9.8)	7.2	胎土・砂子・粘土	橙	普通	外面磨き 底部付近RL縄文 内面ナデ	覆土上層	90% PL30
8	縄文土器	壺	—	—	—	—	胎土・砂子・粘土	におい橙	普通	把手部 外・内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	長石・石英	におい黄褐色	普通	口縁部に沈線文 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	胎土・砂子・粘土	におい橙	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面ナデ	覆土下層	



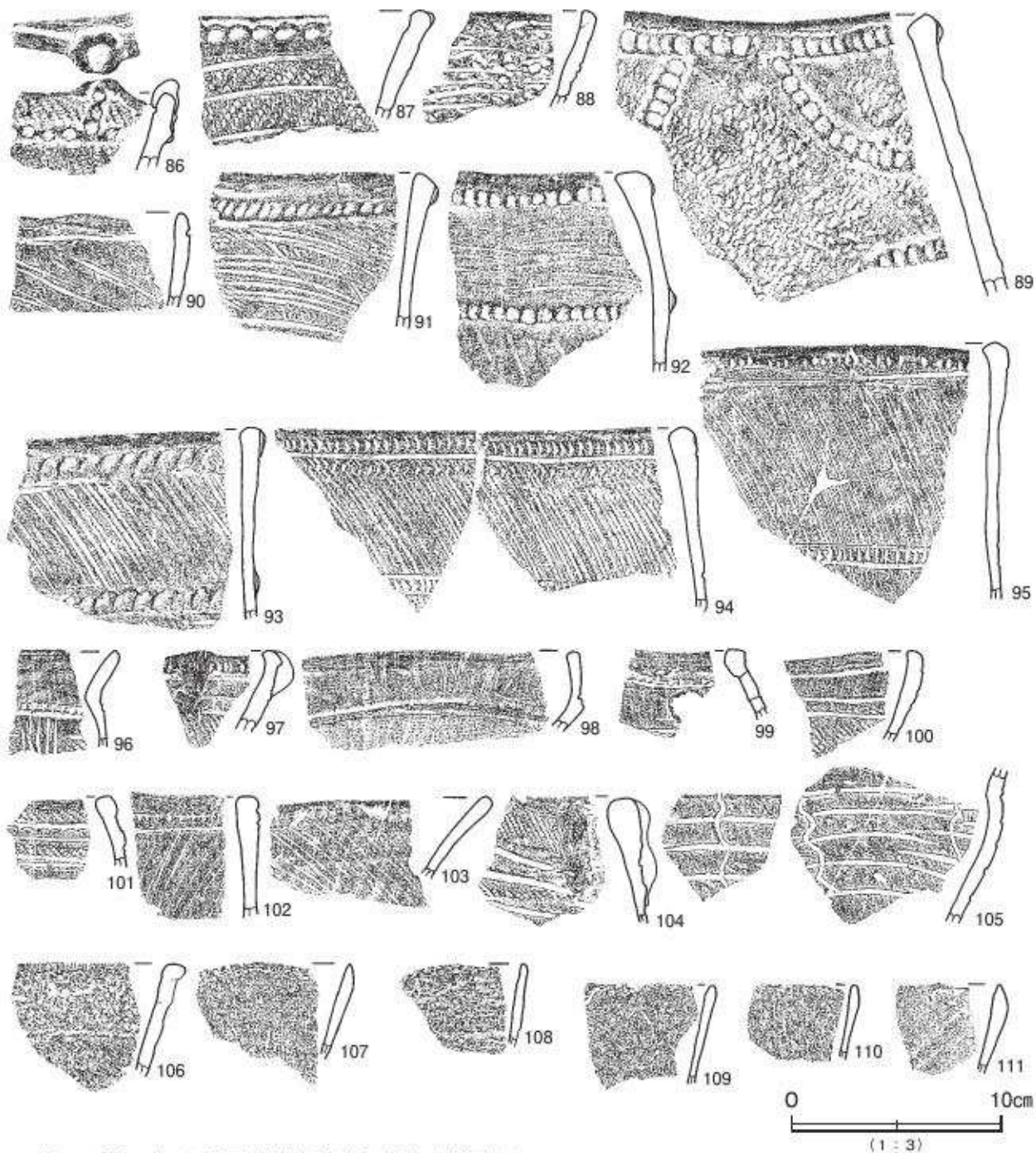
第 112 図 第 20 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 113 図 第 20 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



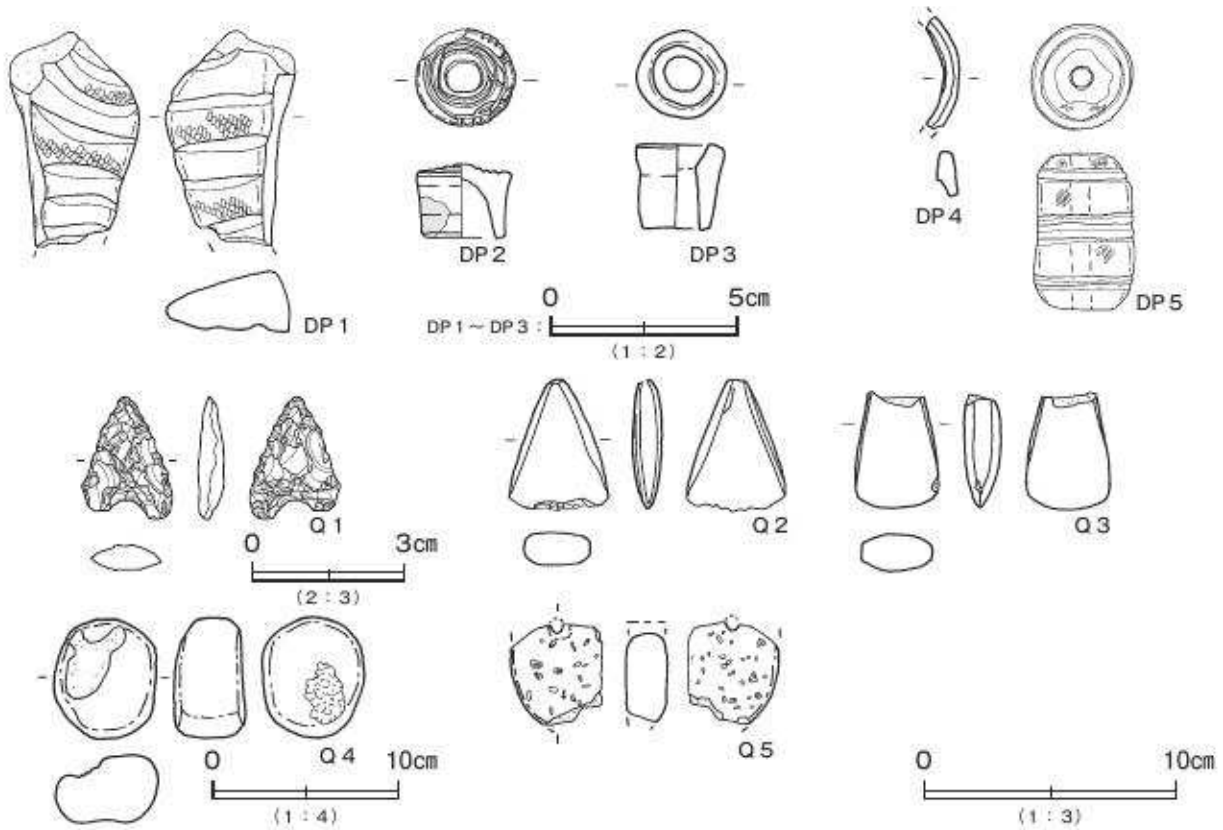
第 114 図 第 20 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第115図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表(第112~116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄橙	普通	外面半藪竹管状工具による斜線文・内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	把手部に濃文連続沈線文と刺突文	覆土下層	
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→磨き・内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→LR縄文→磨き・内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘り	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→磨き・内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→磨き・内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・針状物質	橙	普通	外面沈線→LR縄文→磨き・内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ナデ・内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・粘り	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	



第116図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→刻み→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
30	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・針葉物質	黒褐色	普通	外面沈線→無筋R縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	褐色	普通	外面埋貼付→沈線→LR縄文 内面磨き	床面	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面斜線文→斜線文 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→斜線文 内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→斜線文 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	黒褐色	普通	外面条線→口唇部刻み 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面斜格子目文 内面粗い磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面埋→条線 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	明赤褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面磨き	覆土中層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土中層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→頸部磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面斜線文→横位沈線→磨き 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→条線 内面磨き	覆土上層	PL37
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面沈線→箱筋付→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面LR縄文→埋貼付 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・赤褐色	橙	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面隆帯隆沈線→刻み・LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→埋貼付→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面貼付→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面口縁部RL縄文 胴部ナデ 内面磨き	覆土中	
55	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
56	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆帯上RL縄文→ナデ 内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆帯上RL縄文 胴部磨き 内面磨き	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 礫・粘土・炭灰	にぶい褐	普通	外面貼付→隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	63と同一。
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	62と同一。
64	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→削み 内面磨き	覆土中	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→削み→磨き 内面磨き	覆土中層	
67	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→削み→RL縄文 無文部磨き 内面ナデ	P 6	
68	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→削み→条線・磨き 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面条線→隆帯隆沈線→削み→磨き 内面磨き	覆土上層	
70	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面条線→隆帯隆沈線→削み→磨き 内面磨き	覆土中層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面条線→隆帯上削み→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆帯上削み 内面ナデ	覆土中層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面隆帯隆沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土中	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文・削み→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
79	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
80	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口頸部外面磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部玉突き三叉文 胴部LR縄文 内面磨き	覆土上層	
82	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐	普通	外面横帯文 無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面横帯文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	赤彩
84	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線・撥貼付→LR縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
85	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面微隆帯線文 内面磨き	覆土中層	赤彩
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文→組線貼付 内面磨き	覆土中	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面LR縄文→組線貼付→条線 内面磨き	覆土上層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面LR縄文→沈線 内面ナデ	覆土中層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文→組線貼付	覆土下層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面条線→沈線 内面磨き	覆土上層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→組線貼付 内面ナデ	覆土上層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	外面組線貼付→条線 内面磨き	床面	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線→組線貼付 内面磨き	覆土中	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線→付点組線文 内面磨き	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点組線文 内面一部磨き	覆土中層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 5・P 6	
98	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	P 6	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	P 7・P 10	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面RL縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	P 7・P 10	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 11	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線→付点組線文	P 11	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面条線 内面磨き	P 29	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面隆帯隆沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 30	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面横帯文→蛇行沈線文 内面磨き	P 52	
106	縄文土器	製塩	-	-	-	新 礫・粘土・炭灰	にぶい褐	普通	外面剥離 内面ナデ	覆土下層	口A1類
107	縄文土器	製塩	-	-	-	新 礫・粘土・炭灰	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類
108	縄文土器	製塩	-	-	-	新 礫・粘土・炭灰	橙	普通	外面剥離 内面ナデ	覆土中層	口B類
109	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面削り	覆土中	口B類
110	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類
111	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	口B類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.7)	(3.5)	1.7	29.8	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	ミミズク脚部 沈線→RL縄文→磨き	覆土中	3d類
DP 2	耳飾り	径2.6	-	1.9	11.5	長石・石英	灰 褐	周縁に細かい削み 赤彩	覆土上層	I 3類
DP 3	耳飾り	径2.3	-	2.2	9.2	長石・石英	黒 褐	磨き整形	覆土上層	II 1類 PL42
DP 4	貝輪状	径[5.8]	-	1.8	(9.1)	長石・石英	にぶい橙	ナデ整形	覆土下層	
DP 5	土 鉢	径4.2	-	6.2	119.8	長石・石英・雲母	橙	沈線→RL縄文・LR縄文を羽状に施文	覆土中	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 楯	244	181	0.52	0.20	チャート	凹基	覆土上層	
Q 2	磨製石斧	52	3.9	1.2	31.3	風化蛇紋岩	小形定角 刃部に剥離痕	覆土上層	PL46
Q 3	磨製石斧	(4.6)	3.3	1.5	(33.6)	輝石安山岩	小形定角	P 2	PL46
Q 4	磨石類	63	5.4	3.7	177.1	輝石安山岩	裏面に凹基	覆土下層	2c 型
Q 5	浮子	(4.1)	(3.6)	1.6	(7.7)	軽石	上部に片面穿孔の貫通孔	覆土上層	

第 22 A～C号竪穴建物跡（第 117～129 図 PL 9・10）

位置 調査B区東部のC 4e3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土直下で確認した。第 23・25・28・30号竪穴建物跡、第 1号遺物包含層を掘り込み、第 54・56号土坑、第 3号地下式坑、第 1号井戸に掘り込まれている。第 80号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 不整形な掘り込みと、複数のピットや炉が確認できたことから、少なくとも 3 回以上の建て替えが想定できる。東部の掘り込みを壁とし、P 41～P 43・P 77～P 82・P 92・P 93・P 107・P 117～P 121・P 130・P 131などを西壁際の壁柱穴とする第 22 A号建物跡は、炉と出入口ピットが確認できないため不明瞭な部分が多いが、東西径 7.5 m、南北径 6.4 mの楕円形と推定できる。確認できる壁は、現存高で 18 cmであるが、堆積状況から確認できる壁は高さ 40cmで、外傾している。北側の掘り込みを壁とし、P 38～P 40・P 44・P 59・P 60・P 65～P 67・P 71・P 72などを南壁際の壁柱穴とする第 22 B号建物跡は、東西径 6.5 m、南北径 7.0 mの円形あるいは隅丸方形と推定される。北側の壁は斜面部のため残存高で 20cmほどであるが、堆積状況から推定できる壁は高さ 50～60cmで、外傾している。南側の掘り込みを壁とし、P 89～P 95・P 107・P 117～P 120を北壁際の壁柱穴とする第 22 C号建物跡は、東西径 6.7 m、南北径 9.1 mの楕円形で、長軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ 50cmで、外傾している。長軸方向に炉が 4 基ほど一直線上に並んで確認されており、すべて本跡に伴うものと考えられる。出入口ピットは確認できなかった。

床 ほほ平坦であるが、斜面の傾斜に沿って、北側に緩やかに傾斜している。硬化面は確認できなかった。

炉 8か所の火床面が確認されている。炉 1は長径 82cm、短径 66cmの楕円形で、深さ 22cmの地床炉である。第 22 B号建物跡に帰属する可能性がある。炉 2から炉 8は位置的に第 22 C号建物跡に帰属する可能性が高く、ほほ一直線上に並んでいる。炉 2は長径 79cm、短径 78cm、深さ 40cmの地床炉、炉 3は長径 78cm、短径 48cm、深さ 18cmの地床炉である。炉 4は東西径 90cm、南北径 88cm、深さ 18cmの地床炉、炉 5は長径 122cm、短径 104cm、深さ 25cmの地床炉である。炉 6はP 113と重複するため、長径は 42cmで、短径は 42cmしか確認できなかった。深さ 6cmの地床炉である。炉 7・8は長径 178cmで、P 46～P 50と重複するため短径は 138cmしか確認できなかった。深さ 42cmの地床炉である。直接的な新旧関係は炉 8から炉 7への作り替えが確認されるのみであるが、すべてが同時に機能していたかは不明である。

炉 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量（火床面）
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量

炉 2 土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量（火床面）
- 3 明褐色 ロームブロック多量

炉 3 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・骨粉少量（火床面）
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

炉 4 土層解説

- 1 灰赤褐色 灰ブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

炉5土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量(火床面)
- 2 灰赤褐色 灰ブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

炉6土層解説

- 1 明赤褐色 ロームブロック・焼土粒子多量(火床面)

炉7・炉8土層解説

- 1 にみみ褐色 焼土粒子多量(炉7覆土)
- 2 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量(炉7覆土)
- 3 にみみ褐色 焼土ブロック・白色粘土粒子多量(炉8覆土)
- 4 にみみ褐色 焼土粒子多量、白色粘土粒子中量、炭化粒子微量(炉8覆土)
- 5 明赤褐色 焼土ブロック多量(炉8覆土)
- 6 にみみ褐色 焼土粒子多量、白色粘土粒子中量、炭化粒子微量(炉8覆土)
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、炭化物少量(炉8覆土)
- 8 黄褐色 ロームブロック多量(炉8覆土)

ピット この範囲内で確認できたピットは135か所で、本跡以外の第23・25・28号竪穴建物跡に帰属するピットも含まれているが、それぞれの帰属を判別することは困難である。位置と深さから、本跡に伴う主柱穴と壁柱穴を想定すると、P15・P31・P114・P125・P129・P132が第22A号建物跡の主柱穴で、P1～P11・P41～P43・P77～P82・P92・P93・P107・P117～P121・P130・P131などが壁柱穴の可能性はある。第22B号建物跡は、P25・P36・P69・P89・P108などが位置と深さから主柱穴と考えられる。P38～P40・P44・P59・P60・P65～P67・P86～P88・P96～P106・P119・P122・P126・P127などが壁柱穴で、中でもP86・P98・P106は深さがあり、上屋を支える補助柱穴的な役割があるものと考えられる。第22C号建物跡は、P28・P58・P71・P72・P75・P111・P113などが、位置と深さから主柱穴となる可能性があり、P12～P14・P45～P57・P61～P64・P68・P73・P74・P85・P87～P91・P94・P95・P107・P123・P124・P128・P135などが位置と形状から壁柱穴となる可能性はある。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量(3より詰まり強) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 明褐色 | ロームブロック多量(14より詰まり弱) |
| 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック多量 | 19 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 黄褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子多量 | | |
| 11 褐色 | ロームブロック多量 | | |

ピット深度表

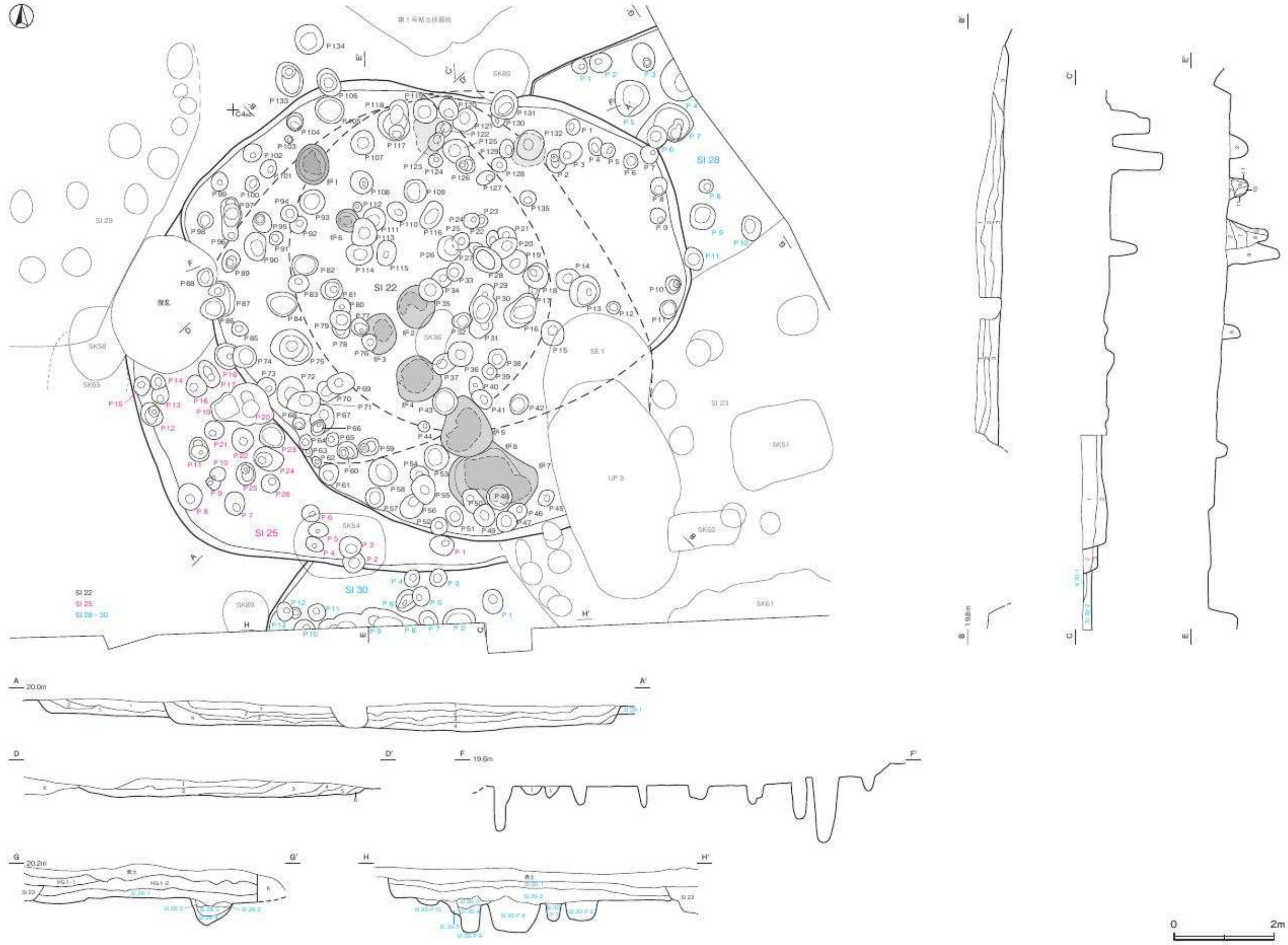
(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	35	30	22	40	65	35	60	45	42	25	23	20	50	27	82	120	5	95	116	85	15	14	22	23	54
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	23	65	85	21	124	125	25	29	14	38	43	25	26	25	12	14	13	30	-	14	15	14	-	42	35
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	25	47	78	20	60	58	25	125	21	43	92	-	-	-	35	40	80	31	122	50	117	74	19	105	110
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	-	40	-	-	-	78	15	30	15	10	117	17	45	88	18	24	37	14	20	-	-	45	75	55	15
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
深さ	47	20	43	60	39	102	38	40	33	20	83	38	43	110	22	27	27	55	30	54	80	-	-	17	103
番号	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135															
深さ	41	23	16	85	-	107	127	65	70	-															

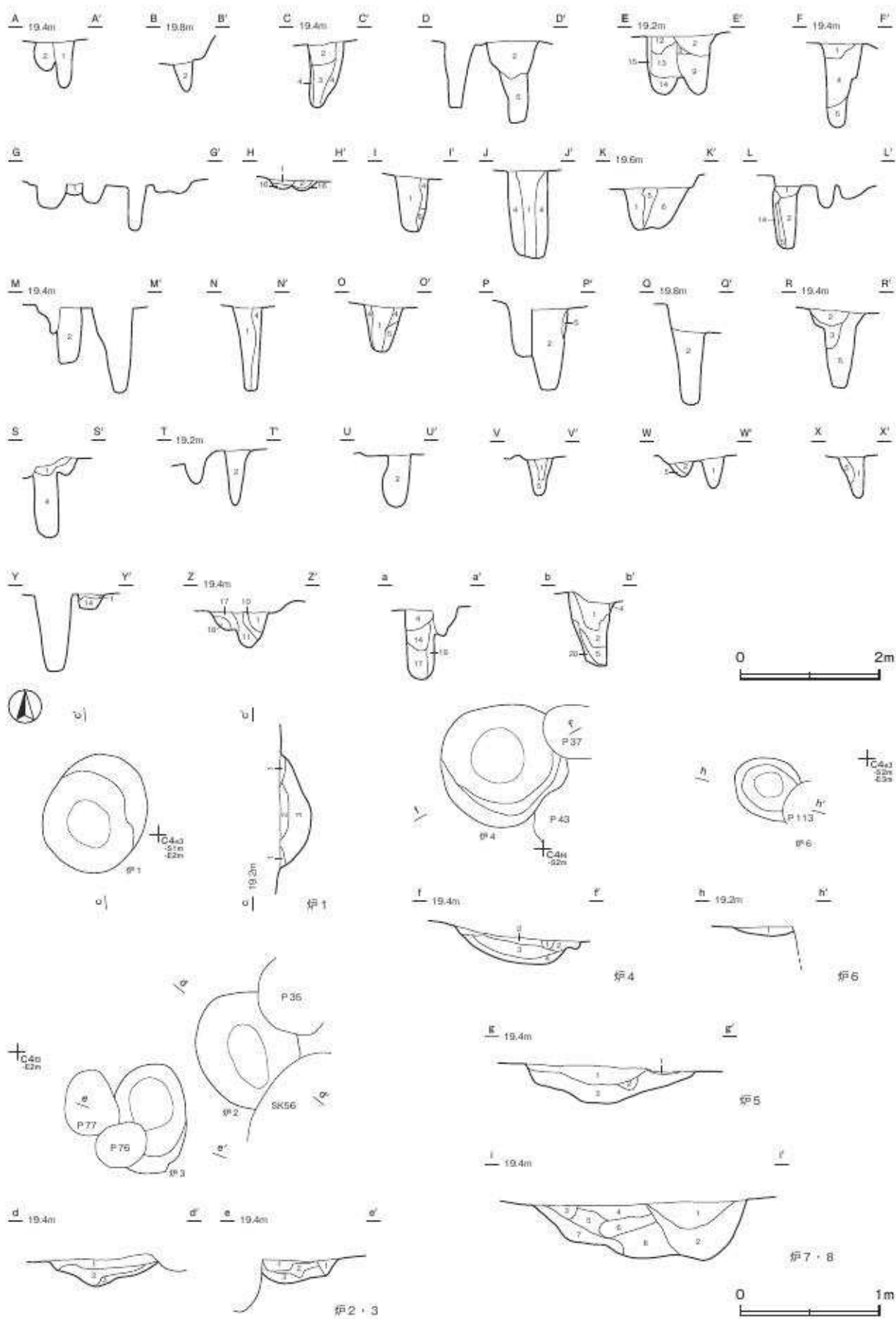
覆土 6層に分層できる。ローム粒子や縄文土器が多く含まれているものの、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。縄文土器などの遺物は、特に第2層以下から多量に出土している。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量(5より明) |

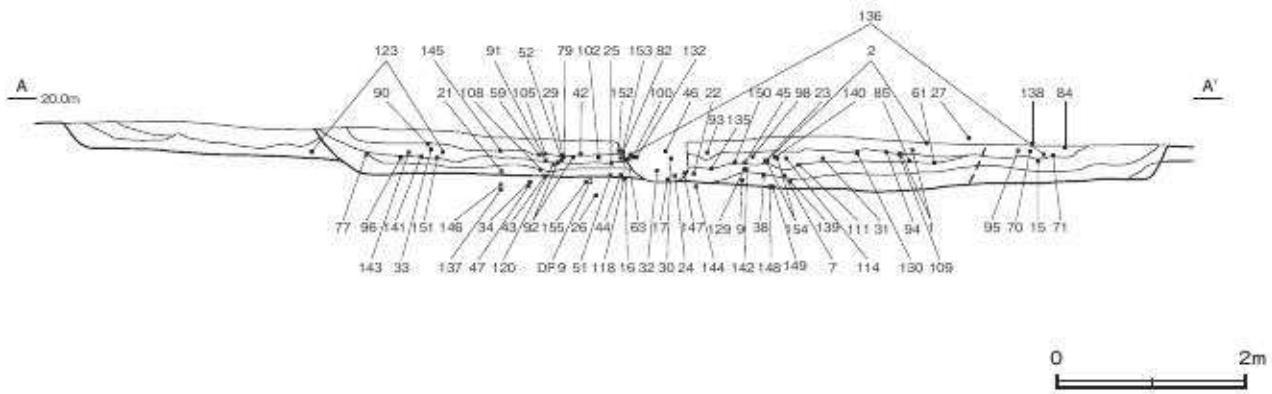
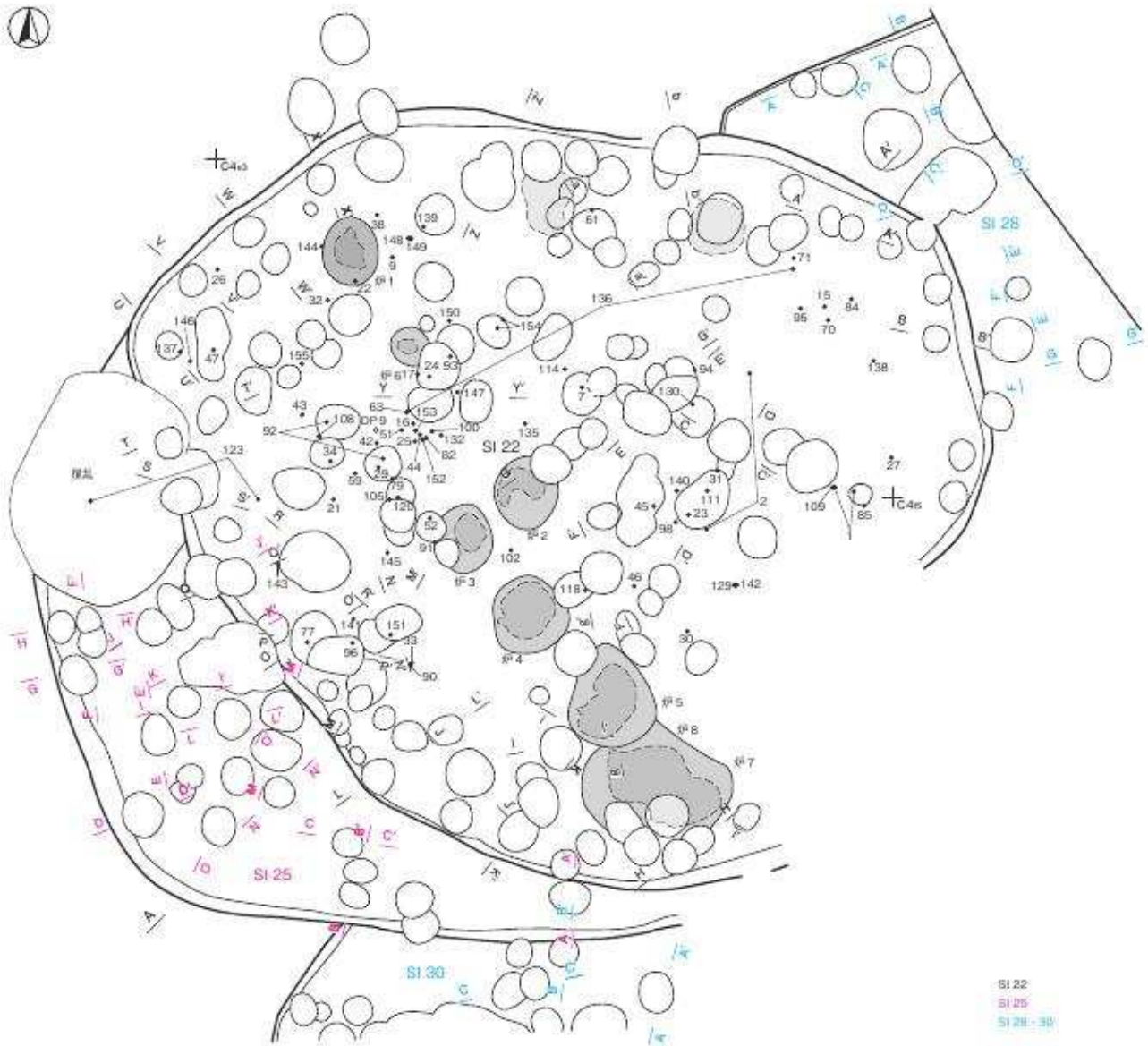


第117图 第22·25·28·30号竖穴建物跡实测图(1)



第118図 第22号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 21,550点 (302.9kg), 土製品 62点 (土錘 1, 土器片円盤 18, 耳飾り 9, 土版 5, 土偶 19, 有孔円盤 9, 匙形 1), 石器・石製品 105点 (石錐 2, 石鏃 5, 石匙 1, 石錘 3, 磨製石斧 8, 打製石斧 3, 石皿類 11, 磨石類 43, 砥石 11, 礫器 5, 玉類 3, 石棒・石剣類 10), 骨角製品 2点 (簪, 垂飾品)



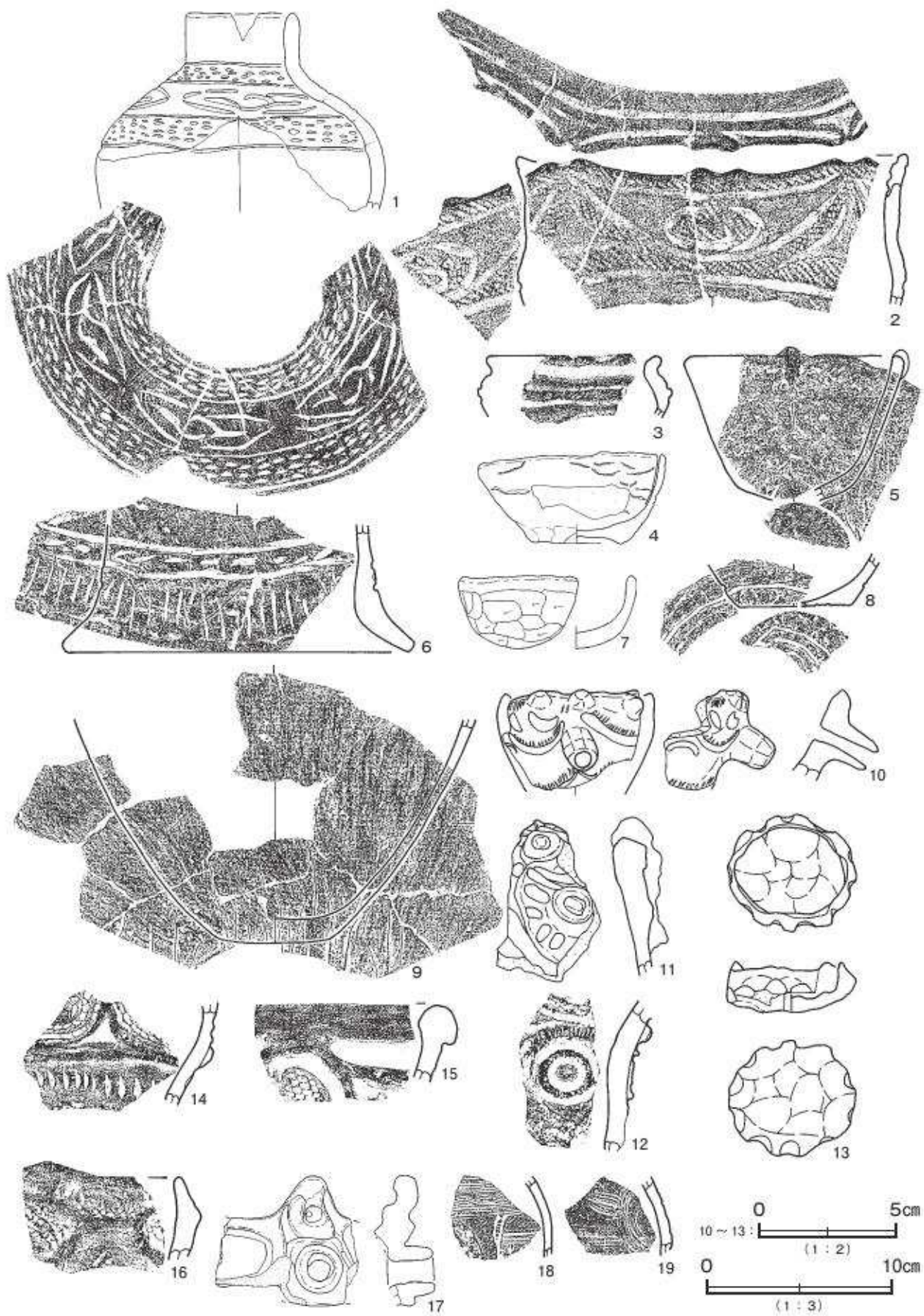
第 119 図 第 22・25・28・30号竪穴建物跡実測図(2)

のほか、焼成粘土塊 66 点、発泡体 8 点、石核 23 点（チャート 21、瑪瑙 1、頁岩 1）、剥片 134 点（チャート 95、黒曜石 35、瑪瑙 4）、軽石 3 点、獣骨片 133.84 g、鹿角片 16.94 g などが出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて、特に床面中央付近から多量に出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群および第 9 群、第 10 群の晩期前葉から中葉（27.1%）、第 5 群の後期中葉（21.8%）のもので、特に晩期中葉が多く確認できる。11・12 は土偶付深鉢の口縁部片である。B 1・B 2 は鹿角製品で、覆土中から出土している。

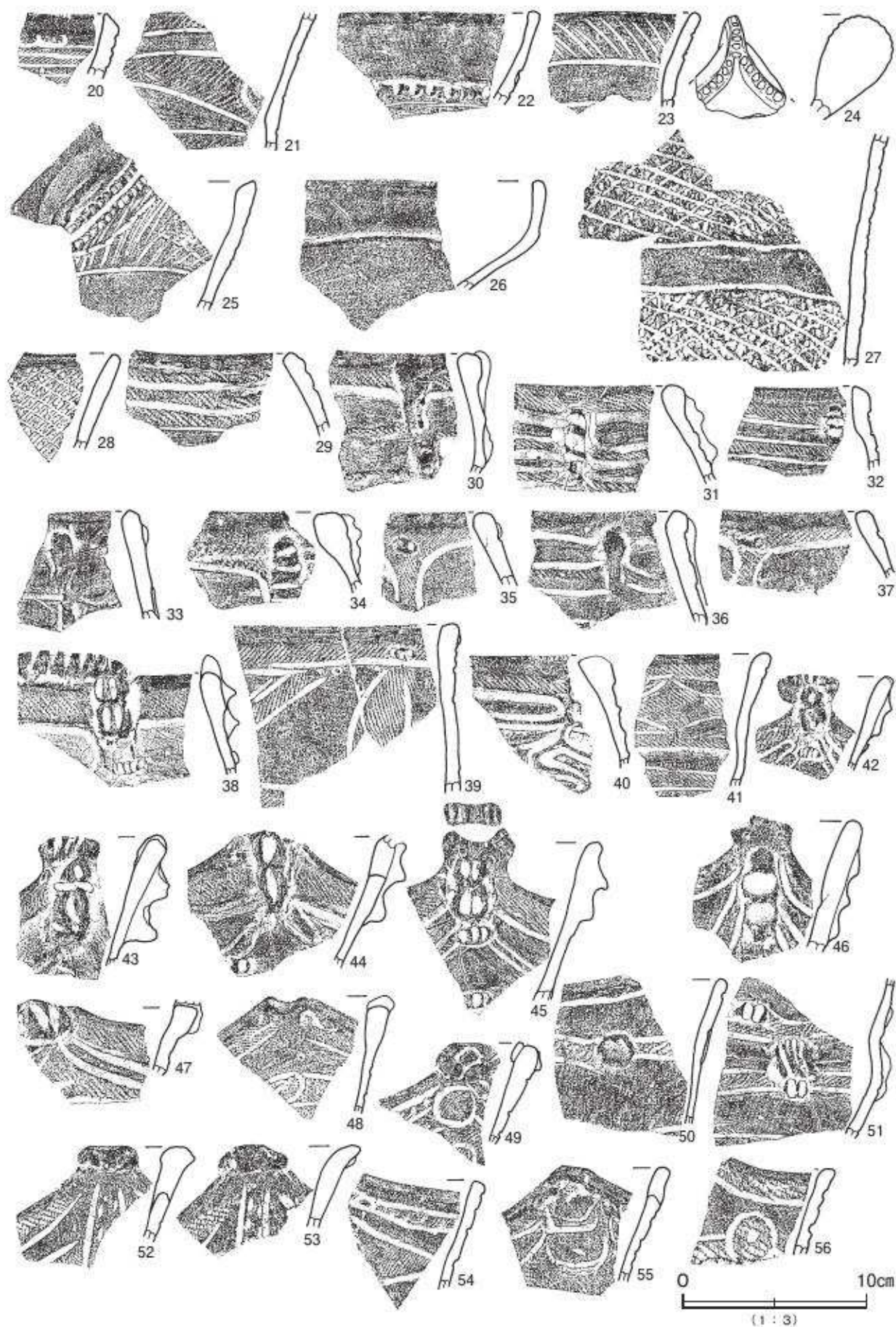
所見 時期は、出土土器から晩期中葉の安行 3 d 式期と考えられるが、後期中葉の土器群も多く確認できることから、一部は後期中葉にさかのぼる可能性もある。炉などの遺存状況から、第 22 A 号建物跡、第 22 B 号建物跡、第 22 C 号建物跡の順に建て替えられたものと考えられる。床面の北東部で焼土跡が 2 か所確認できるが、覆土中の焼土ブロックや焼土粒子は少なく、床面等が被熱により赤変硬化した様子も見られなかった。炉跡が多数確認できたこと、発泡した土器片や焼成粘土塊が多く出土していることなどから、工房的な性格を有する建物であった可能性がある。

第 22 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 120 ～ 129 図）

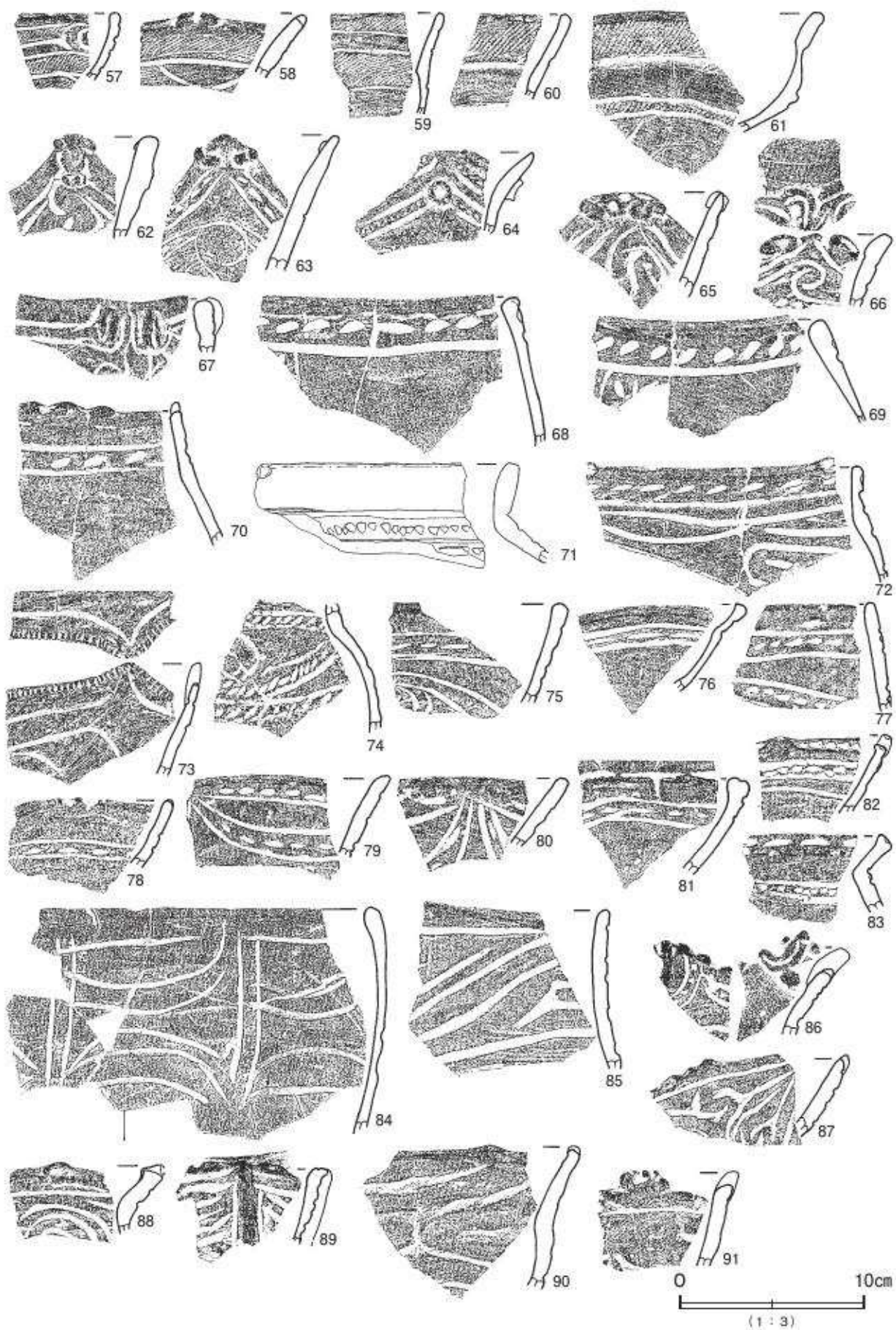
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	壺	5.6	(10.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい楊	普通	外面磨き 入組三文文 4 単位 内面ナデ	覆土上層	20% PL30
2	縄文土器	深鉢	[20.8]	(8.1)	—	長石・石英	黒楊	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中層	20%
3	縄文土器	広口壺	[9.0]	(3.3)	—	珪・珩・砂・鉄屑	橙	普通	外面沈線→無筋 L 縄文 内面ナデ	覆土上層	10%
4	縄文土器	鉢	9.8	5.0	4.4	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	P 50	70% PL35
5	縄文土器	鉢	[11.2]	8.1	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄楊	普通	外面ナデ 内面粗い磨き	覆土下層	30%
6	縄文土器	台付鉢	—	(6.9)	[3.3]	珪・珩・砂・鉄屑	にぶい楊	普通	外面沈線間斜突文 下縁部縦位の沈線文 内面ナデ	覆土中層	20%
7	縄文土器	鉢	6.0	3.9	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄楊	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	95%
8	縄文土器	鉢	—	(2.7)	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	灰黄楊	普通	底部に凹文 内面ナデ	覆土下層	10%
9	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	6.0	長石・石英	にぶい赤楊	普通	外面縦位の磨き 内面ナデ	覆土下層	30%
10	縄文土器	ミニチュア	[5.5]	(3.2)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄楊	普通	外・内面ナデ 透かし孔 1 か所	P 86	30%
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰黄楊	普通	外面ミニズク土偶顔面貼付 内面ナデ	覆土中層	PL37
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒楊	普通	外面ミニズク土偶顔面貼付 内面ナデ	P 81	外・内面磨き PL17
13	縄文土器	ミニチュア	3.9	1.3	—	長石・石英	にぶい楊	普通	指頭による整形	P 81	100%
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい黄楊	普通	外面隆起帯幅 2 列の角押文 内面磨き	図 5	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面 RL 縄文→隆起帯幅沈線 内面磨き	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面 RL 縄文→隆起帯幅ナデ 内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英・角閃石	にぶい黄楊	普通	注口部 外・内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英	黒楊	普通	胴部外面細線文 磨き 内面ナデ	覆土下層	
19	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英	明楊	普通	胴部外面細線文 磨き 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	にぶい楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	図 5	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	浅黄橙	普通	口縁部外面磨き 胴部縦線 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	黒楊	普通	外面沈線→斜線文 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・針状鉄屑	楊灰	普通	外・内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい楊	普通	外面沈線→条線・口唇部明み→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	赤楊	普通	口縁部外面磨き 胴部削り 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄楊	普通	外面横位沈線→地縄文→格子目文 内面ナデ	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面 LR 縄文→格子目文 内面磨き	図 5	
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒楊	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	灰楊	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒楊	普通	外面磨貼付→沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	黒楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	暗赤楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・磨貼付 内面ナデ	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい楊	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土中	
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・磨貼付 内面ナデ	覆土中層	
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄楊	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	珪・珩・砂・鉄屑	赤楊	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・磨貼付 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	灰楊	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰黄楊	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	暗赤楊	普通	外面隆起帯幅沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土中層	



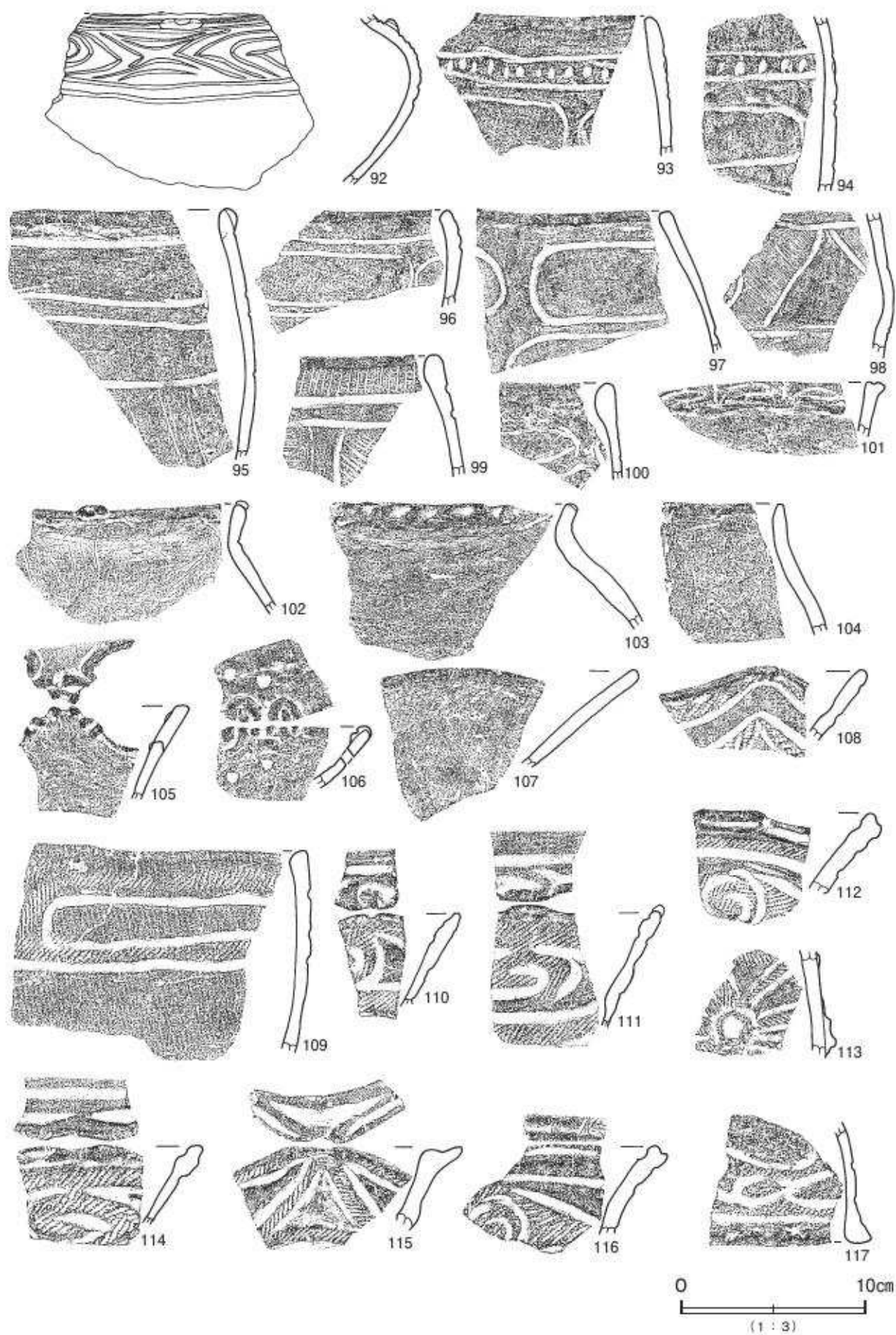
第 120 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



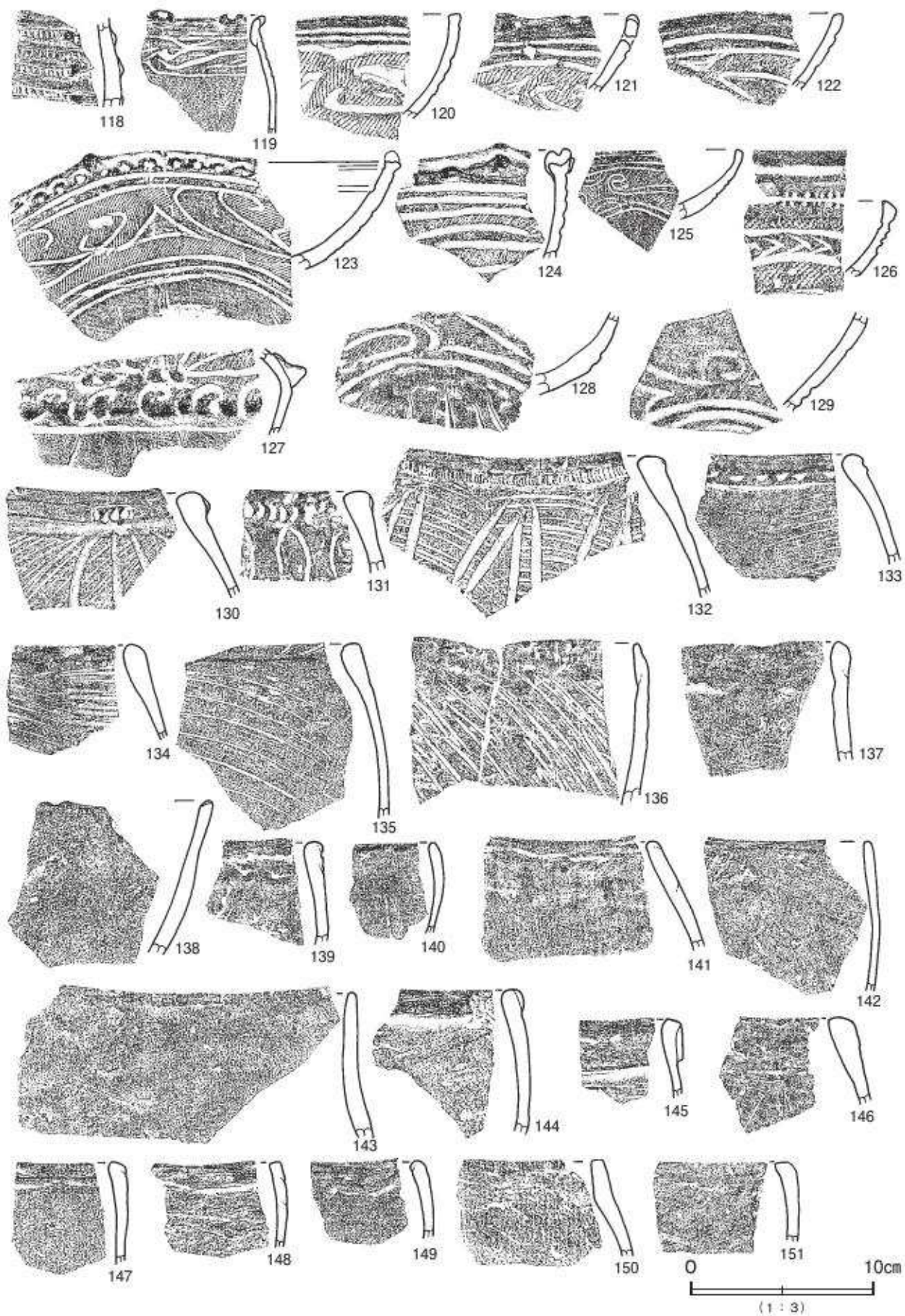
第121図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第122図 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



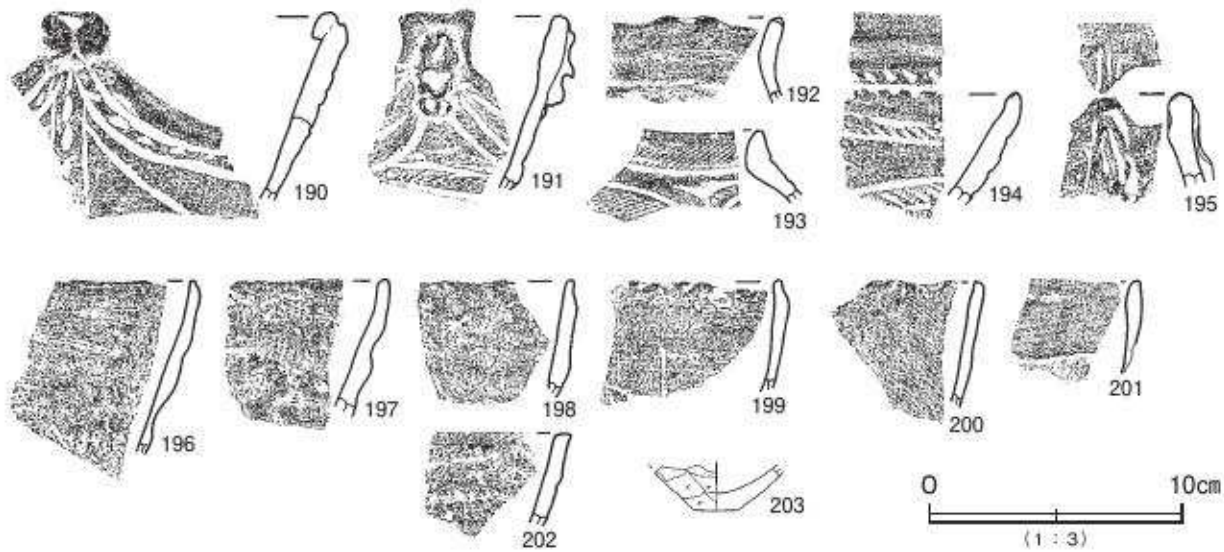
第 123 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第124图 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



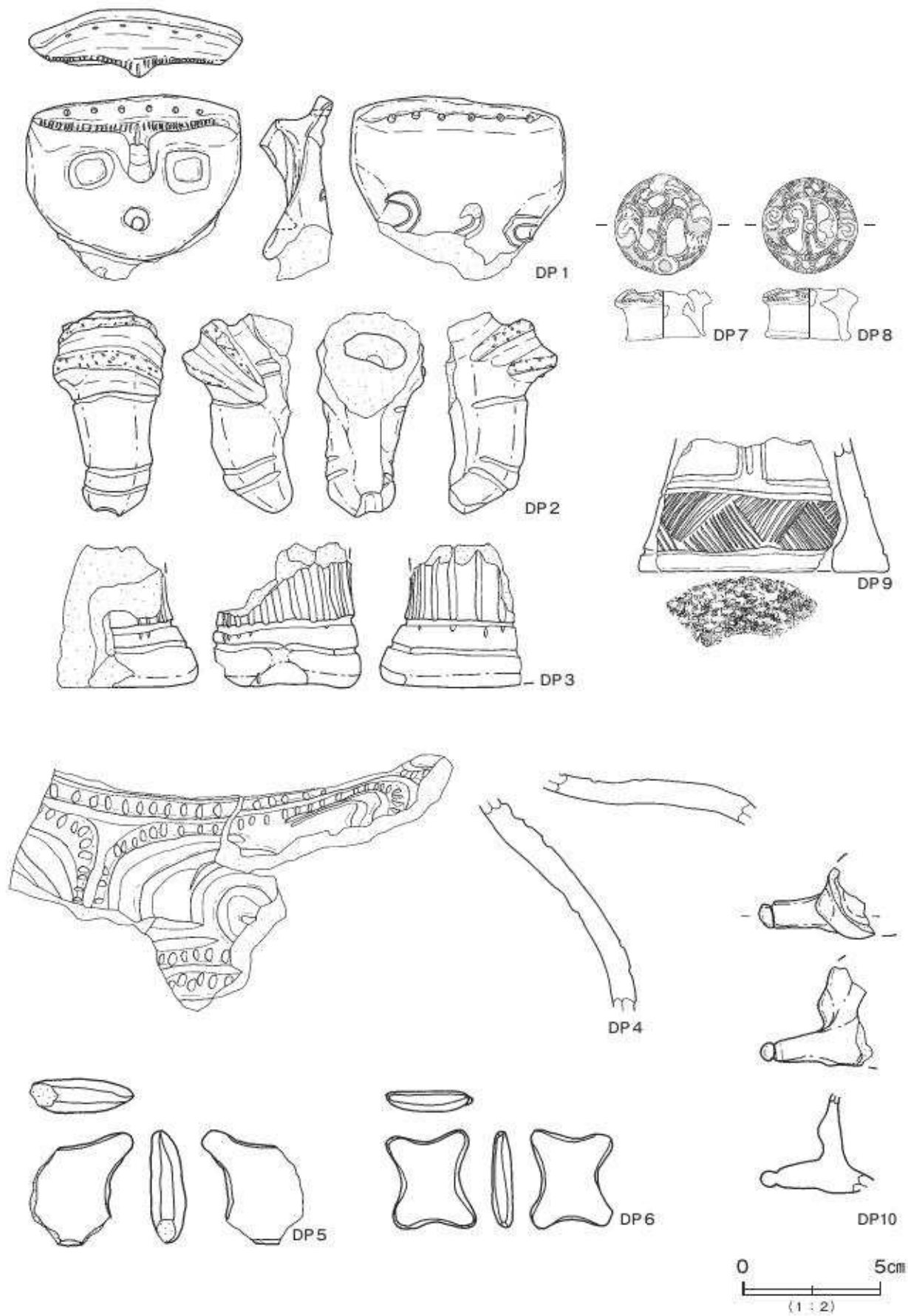
第 125 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (6)



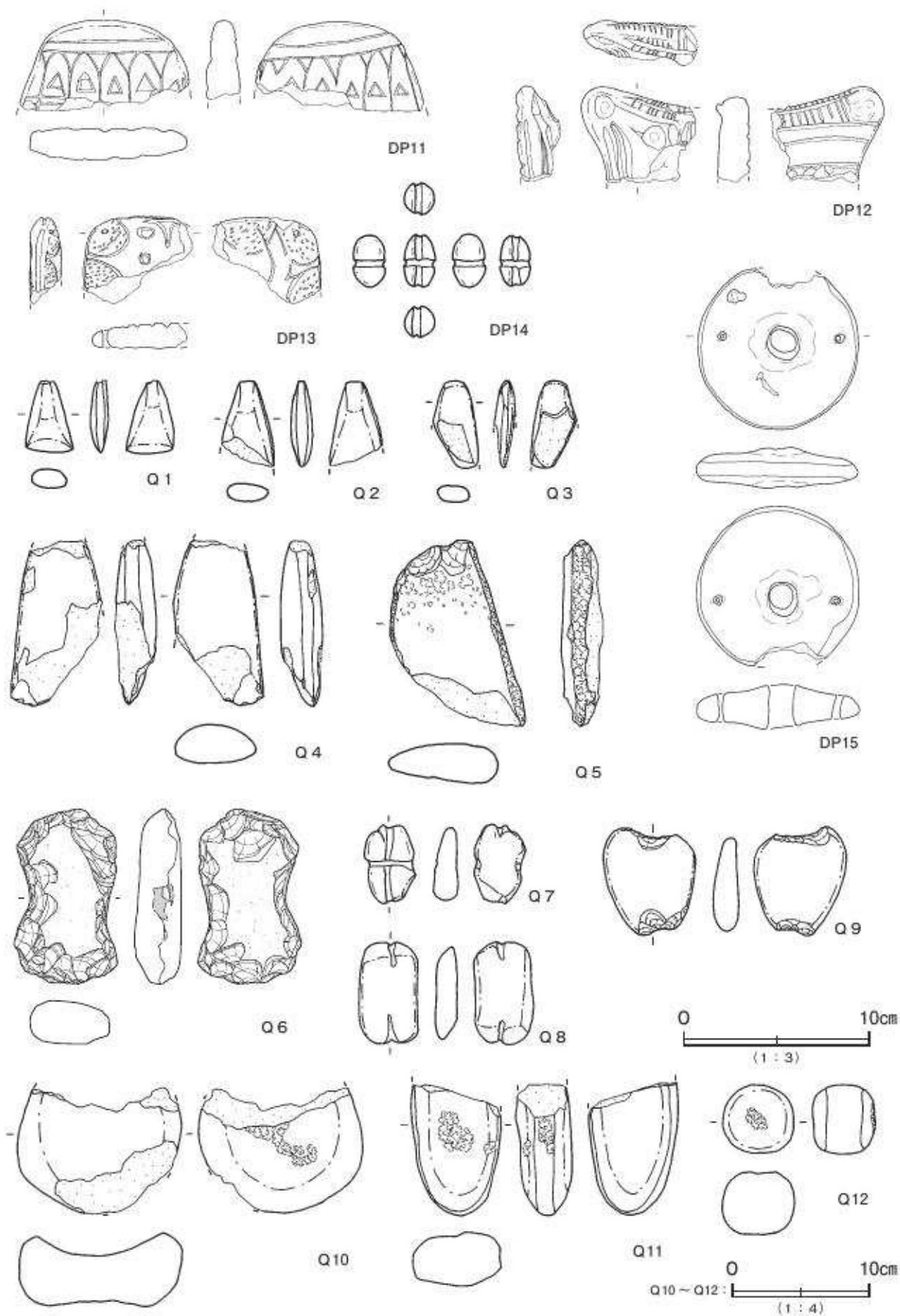
第126図 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(7)

第22号竖穴建物跡出土遺物観察表(第120~129図)

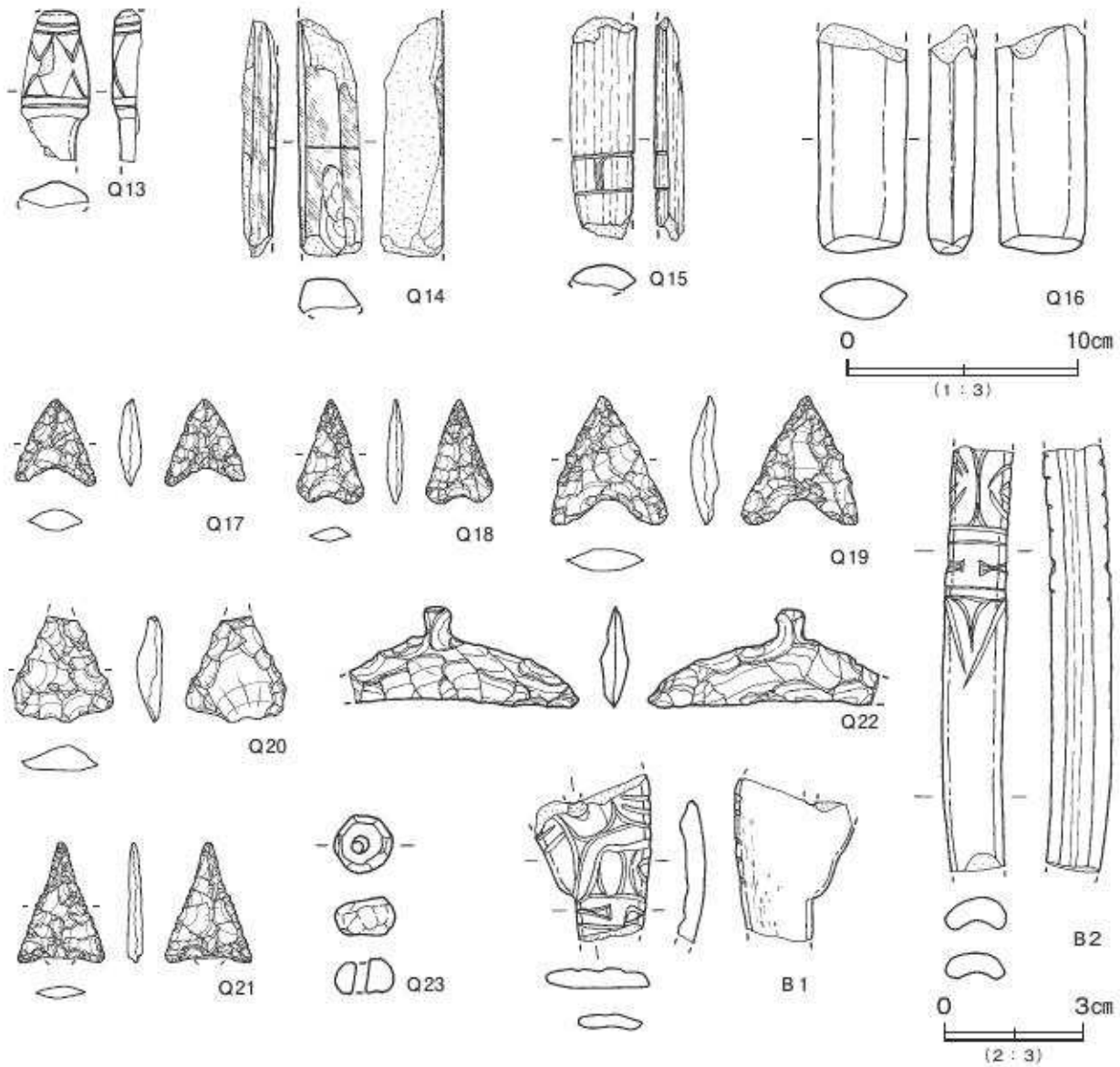
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅ナデ→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒・褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	橙	普通	外面沈線→LR縄文 鉢巻状貼付文 内面ナデ	覆土下層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外面隆起帯幅沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐・灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	灰黄褐	普通	外面口縁部LR縄文 頸部粗い磨き 内面粗い磨き	覆土中	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒・褐	普通	外面隆起帯幅沈線→LR縄文→無文部磨き 胴部磨き 内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	褐・灰	普通	沈線部に鉢巻状貼付文 腰部区画内無筋L縄文 内面磨き	覆土中層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	黄・橙	普通	沈線周利突文 内面ナデ	覆土中層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	三叉状入組文 内面磨き	覆土中	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	波頂部に鉢巻状貼付文 内面磨き	覆土中層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口縁部に2個一対の瘤 内面ナデ	覆土中層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐	普通	口縁部沈線周利突文 内面ナデ	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	口縁部沈線周利突文 内面ナデ	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	にぶい橙	普通	口縁部沈線周利突文 外・内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰・褐	普通	沈線周利突文 口縁部外面・内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	にぶい橙	普通	肩突を伴うステップ文 内面ナデ	覆土上層	
73	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	灰・褐	普通	口唇部に刻み 内面ナデ	覆土下層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	橙	普通	沈線周利突文による入組文 内面ナデ	覆土下層	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤・褐	普通	沈線周利突文による入組文 内面磨き	覆土下層	
76	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい黄褐	普通	沈線周利突文 内面磨き	覆土中層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	沈線周利突文 内面磨き	覆土中層	
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線周利突文 内面磨き	覆土上層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐	普通	沈線周利突文 内面磨き	覆土中層	
80	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐・灰	普通	沈線周利突文による弧線文 内面ナデ	覆土下層	
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	沈線周利突文 口唇部に三叉文 内面磨き	覆土上層	
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	筋・砥・粘土・砂質	橙	普通	沈線周利突文 内面磨き 口唇部に利突文	覆土中層	



第127図 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(8)



第 128 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (9)



第129図 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(10)

第22号竖穴建物跡出土遺物観察表(第120~129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐色	普通	沈線四刺突文・口唇部に刺突文・内面磨き	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面菱形状区画文・内面ナデ	覆土上層	PL37
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面三又状入組文・内面磨き	覆土中層	
86	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	波頂部に鉢巻状貼付文・内面磨き	覆土上層	
87	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面三又状入組文・内面粗い磨き	覆土上層	
88	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	口唇部に突起・内面磨き	覆土上層	
89	縄文土器	鉢	[8.0]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯貼付・内面磨き	覆土中	10%
90	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面菱形状区画文・内面磨き	覆土中層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	突起部に鉢巻状貼付文・内面磨き	覆土中層	
92	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面菱形状区画文・内面ナデ	覆土中層	PL37
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面杵状文・内面ナデ	覆土上層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面杵状文・内面磨き	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面杵状文・内面ナデ	覆土上層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面杵状文・内面ナデ	覆土中層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面杵状文・内面ナデ	P.97	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→縦密沈線文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→縦密沈線文→無文部磨き・内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→無節 R・内面ナデ	覆土中層	
101	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい椀	普通	外面磨き 内面ナデ 口唇部に縦線文	覆土上層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい椀	普通	外面磨き 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土中層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口唇部に押印文 外面削り 内面ナデ	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	波頂部に鉢巻状貼付文 外・内面磨き	覆土中層	
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい椀	普通	外面削り 焼成前穿孔の補修孔あり 内面ナデ	覆土中層	
107	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	
108	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	PL37
110	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
111	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
112	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 97	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
114	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土中層	赤彩
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
116	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
117	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
118	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面磨貼付→沈線→刻み→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
122	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
123	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	PL37
124	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文 内面磨き	覆土下層	
125	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節 L 縄文 内面磨き	覆土中層	
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土下層	
127	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き 胴部ナデ	覆土中層	
128	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
129	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土中層	発色化
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→口縁部沈線→磨貼付 内面ナデ	覆土上層	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面縦線貼付→縦線文 内面ナデ	覆土中層	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土中層	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線 口縁部縦線削りだし状 内面ナデ	覆土中層	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 口縁部指頭ナデ 内面削り	覆土中層	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面削り 内面指頭ナデ	覆土下層	
138	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外・内面磨き 口唇部刻み	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ 内面粗い磨き	覆土下層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	製塩土器。
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面ナデ 胴部条線 内面ナデ	覆土中層	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
148	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土下層	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土下層	
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
154	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面削り 内面磨き	覆土中層	
155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面 RL 縄文→隆帯貼付 内面磨き	P 4	内面赤彩。
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 地縄文→格子目文 内面ナデ	P 5	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	P 5	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面爪形文 内面ナデ	P 43	
160	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい椀	普通	口縁部に寓文連続沈線文 内面磨き	P 14	
161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面条線→縦線貼付→区画文 内面ナデ	P 14	
162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	P 16	
163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線間刺突文 内面磨き	P 18	
164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	P 19	
165	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	P 19	
166	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯盤沈線→斜み→無文部磨き 内面磨き	P 26	
167	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤褐色	普通	口唇部に山形文 外・内面ナデ	P 50	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
168	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ	P 53	
169	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 褐	普通	外面半裁竹管状工具による条線文 内面磨き	P 55	
170	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 55	赤彩
171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 55	
172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	変形状区画文。内面ナデ	P 55	二次焼成
173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐	普通	外・内面ナデ	P 58	
174	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面変形状区画文 内面磨き	P 60	
175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面縞条状区画文 内面ナデ	P 69・P 70	二次焼成
176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 71	
177	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤灰	普通	外面削り 口縁部内面ナデ 胴部削り	P 71	
178	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外・内面磨き 口唇部に割代痕。	P 73	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面変形状区画文 ナデ 内面磨き	P 72	
180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面変形状区画文 内面ナデ	P 72	
181	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 褐	普通	外面沈線→無筋 L 縄文 内面ナデ	P 72	
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面変形状区画文。内面ナデ	P 75	
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面条線 内面磨き	P 111	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→刻み 細密沈線文。内面磨き	P 111	
185	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→胴部磨き 胴部削り 内面磨き	P 97	
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 114	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面地縄文→条線→細線貼付 内面磨き	P 117	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線→横位沈線→RL 縄文 内面ナデ	P 117	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面胴部 RL 縄文縦位回転 内面ナデ	P 116	
190	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐	普通	外面変形状区画文 ナデ 内面磨き	P 118	
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→LR 縄文 内面ナデ	P 131	
192	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部B突起 内面ナデ	P 131	
193	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 133	
194	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 133	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 133	
196	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口唇部ヘラ切り	覆土中層	口C1類
197	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ 口唇部未調整	覆土中層	口B類
198	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口唇部ヘラ切り	覆土中層	口C1類
199	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面削り 内面ナデ 口唇部未調整	覆土中層	口B類
200	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口唇部未調整	覆土中層	口A2類
201	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口唇部磨き	覆土下層	口A2類
202	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	外面割離 内面ナデ 口唇部ヘラ切り	覆土上層	口C2類
203	縄文土器	製塩	-	(1.8)	1.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面削り 内面ナデ 底部削り	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(6.6)	7.8	2.5	(82.9)	長石・石英	にぶい橙	板状	覆土中層	4a類 PL40
DP 2	土 偶	(7.2)	(4.0)	(4.1)	(82.5)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	ミズク腕部 断面ソケット受部状	覆土下層	3b類
DP 3	土 偶	(5.1)	(5.2)	(5.1)	(104.6)	長石・石英・雲母	黒 褐	長形の中空土偶の脚部。	覆土下層	5d類
DP 4	土 偶	(9.2)	(15.9)	-	(135.0)	長石・石英・赤色粒子	橙	中空 外・内面ナデ整形	覆土中層	5c類
DP 5	土 偶	(4.1)	(3.6)	1.3	(13.6)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	X字状 ナデ整形	覆土上層	6e類
DP 6	土 偶	3.5	3.2	0.8	8.7	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	X字状 ナデ整形	覆土下層	6g類 PL40
DP 7	耳飾り	径3.62	-	1.87	8.5	長石・石英	にぶい黄橙	透かし彫り	覆土下層	PL42 赤彩
DP 8	耳飾り	径3.43	-	1.91	11.0	長石・石英	にぶい黄橙	透かし彫り	覆土上層	PL42 赤彩
DP 9	土 偶	(4.8)	(8.8)	-	(57.2)	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	筒型 外面磨き 内面ナデ 底部割代痕	覆土下層	1d類 PL40
DP10	鹿 形	(4.1)	(2.5)	(3.5)	(10.2)	長石・石英	褐	手づくね整形	覆土上層	
DP11	土 版	(4.9)	(9.1)	2.3	(69.8)	長石・石英・角閃石	橙	1字文と三角文の交互施文	覆土中層	PL43
DP12	土 版	(5.1)	(6.3)	2.4	(51.3)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	人面表現	覆土上層	PL43
DP13	土 版	(4.7)	(6.0)	1.8	(40.1)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	縦線文内に細かい刻突を充填 貫通孔1か所	覆土中	PL43
DP14	土 鉢	2.8	1.7	1.7	8.4	長石	にぶい褐	長軸十字状の有溝	覆土中	
DP15	有孔円盤	径8.6	-	2.3	136.8	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ整形 貫通孔3か所	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	3.9	2.6	1.0	15.2	蛇紋岩	小形定角式	覆土下層	PL46
Q 2	磨製石斧	(4.6)	(2.8)	1.2	(21.8)	角閃石	小形定角式	覆土下層	
Q 3	磨製石斧	(4.7)	(2.4)	1.1	(13.1)	緑色岩	小形定角式	P 55	PL46
Q 4	磨製石斧	(8.9)	(4.9)	2.3	(26.5)	角閃石片岩	定角式	覆土下層	
Q 5	磨製石斧	(10.0)	(7.4)	1.2	(185.5)	玄武岩	未成品 表面・側面に敲打痕 上端部に割離痕	覆土中層	
Q 6	打製石斧	9.47	5.60	2.54	181.1	輝石安山岩	分銅形 胴縁部に擦痕	覆土中	
Q 7	石 錘	4.2	(2.7)	(1.4)	(19.2)	砂 岩	有溝	覆土上層	1類
Q 8	石 錘	5.5	3.2	1.2	33.4	輝石安山岩	長軸上に切り目	覆土中層	2類
Q 9	石 錘	5.9	5.0	1.4	51.6	砂 岩	長軸上に打ち欠き	覆土上層	3類
Q 10	石 錘	(9.0)	(11.7)	5.4	(633.6)	安山岩	表裏に磨り面 裏面に凹痕	覆土中層	2類
Q 11	磨石類	(9.4)	(6.4)	4.0	(315.2)	輝石安山岩	表裏に磨り面 表面・側面に凹痕	覆土中層	2a類
Q 12	磨石類	4.8	5.1	4.5	159.9	多孔質輝石安山岩	表裏・側面に磨痕 表面に凹痕	覆土中層	2c類
Q 13	石 剣	(6.5)	(3.0)	(1.3)	(25.3)	粘板岩	胴部に1字文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	石剣	(10.3)	(2.3)	(1.5)	(54.7)	緑色片岩	下端部付近に縦線による横位沈線文	覆土下層	
Q 15	石剣	(9.7)	(2.8)	(1.2)	(40.9)	粘板岩	下端部付近に縦線による横位沈線文	覆土下層	PL45
Q 16	石剣	(10.0)	3.9	2.1	(145.8)	粘板岩	研磨整形	覆土下層	
Q 17	石鏃	1.90	1.76	0.49	1.1	チャート	凹基	覆土中層	PL47
Q 18	石鏃	2.28	1.45	0.35	0.8	瑪瑙	凹基	覆土下層	PL47
Q 19	石鏃	2.81	2.54	0.59	2.8	チャート	凹基	覆土上層	PL47
Q 20	石鏃	(2.32)	2.20	0.57	(2.4)	流紋岩	有茎	覆土上層	
Q 21	石鏃	(2.63)	1.88	0.33	(1.2)	チャート	有茎	覆土上層	PL47
Q 22	石匙	2.1	(5.0)	0.6	4.25	チャート	楕長	P 55	PL47
Q 23	玉類	径1.3	—	0.8	1.89	蛇紋岩	小玉 樹面研磨整形 片面穿孔	覆土中層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
B 1	垂飾品	(3.6)	2.6	0.6	(4.16)	鹿角	I字文による施文 着色。	覆土上層	PL48
B 2	簪	(9.3)	1.4	0.7	(9.53)	鹿角	I字文による施文 沈線内黒色 着色。	覆土中層	PL48

第 25 号竪穴建物跡 (第 117・119・130～133 図 PL 9・10)

位置 調査B区東部のC 4 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 表土直下で確認した。第 30 号竪穴建物跡を掘り込み、第 22 号竪穴建物、第 54 号土坑に掘り込まれている。第 23 号竪穴建物跡とも重複するが、新旧関係は不明である。

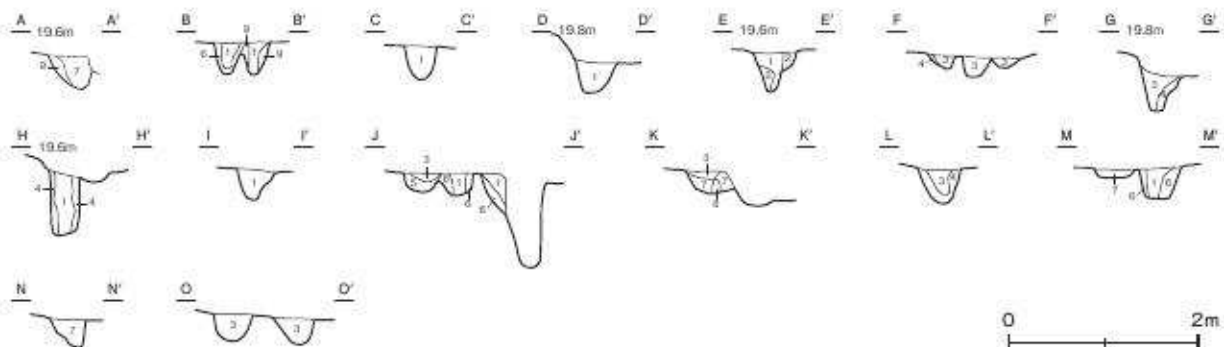
規模と形状 東部を第 22 号竪穴建物に掘り込まれているため、南西部の一部を確認したのみである。壁や壁柱穴から推定される規模と形状は、東西径は約 9.5 m、南北径は約 9.0 m の不整形円で、壁は高さ 25～30 cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは 26 か所であるが、本跡に帰属するピットは、第 22 号竪穴建物跡に帰属するとしてピットの中にも含まれていると考えられる。P 1～P 15 は位置と形状から壁柱穴と考えられ、第 22 号竪穴建物の帰属として P 45～P 47・P 96～P 98・P 100・P 101・P 117・P 123・P 124・P 126・P 128・P 135 などは、位置と形状から本跡の壁柱穴と考えることも可能である。支柱穴は位置と深さから、第 22 号竪穴建物跡の帰属として P 25・P 28・P 31・P 53・P 55・P 58・P 61・P 74・P 81・P 114 などが想定できる。出入口ピットは確認できなかった。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック多量 (8 より詰まり強) | 7 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 | ロームブロック多量 (2 より詰まり弱) |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量 | 9 明褐色 | ローム大ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黄褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第 130 図 第 25 号竪穴建物跡実測図

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	36	-	-	35	35	38	28	32	-	-	43	40	22	13	72	23	25	42	25	38	33	35	34	8	28	29

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや縄文土器が多く含まれているものの、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。縄文土器などの遺物は、特に第1・2層から多量に出土している。

土層解説

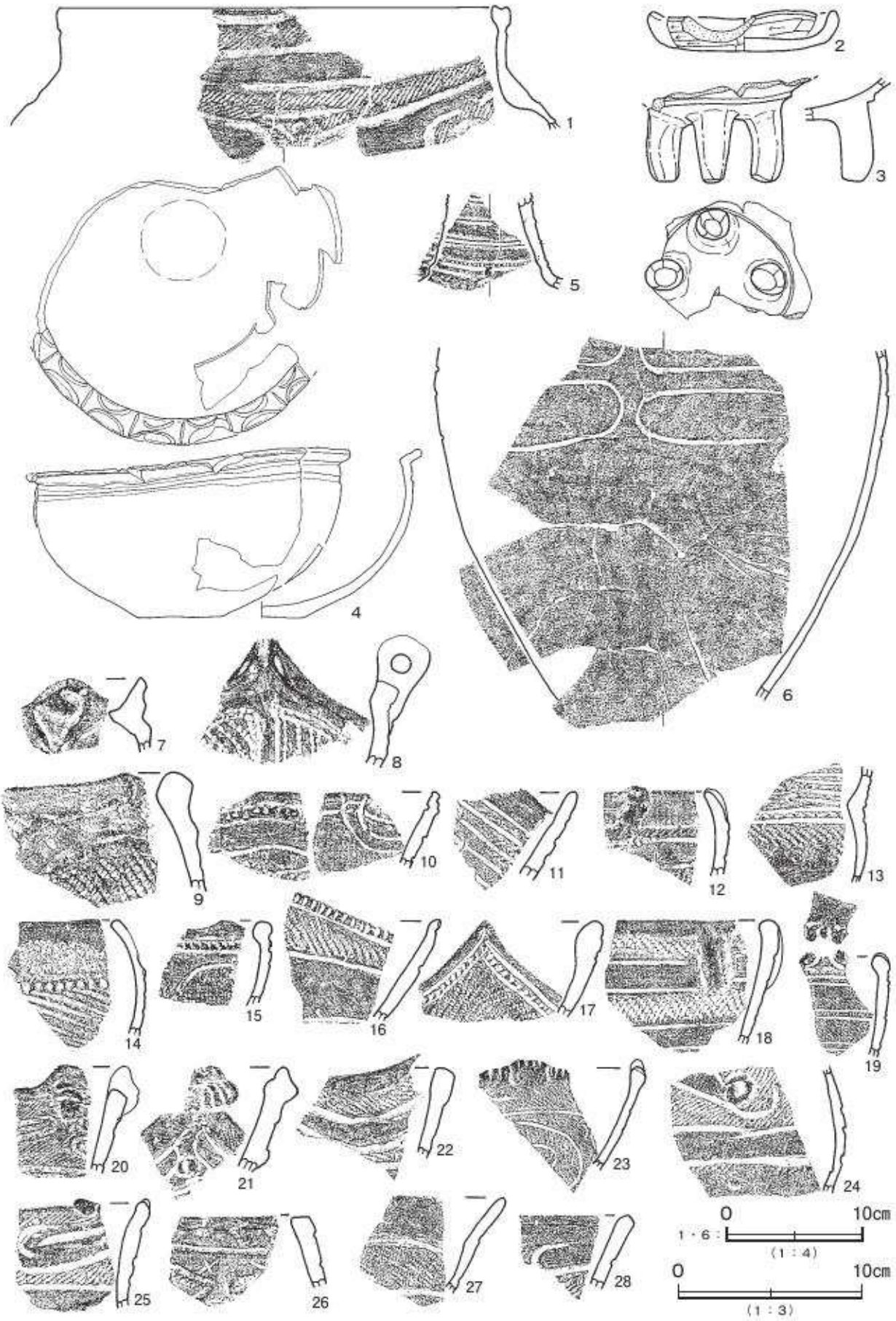
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 3,081点 (40.78kg)、土製品6点 (土器片円盤2、土版2、土偶1、有孔円盤1)、石器・石製品17点 (磨製石斧1、打製石斧1、石皿類1、磨石類8、石錘1、礫器1、石剣類1、玉類1、独鈷石1、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、発泡土器1点、石核6点 (チャート4、黒曜石2)、剥片23点 (チャート13、黒曜石10)、獣骨片11.4g、イノシシの歯3.62gなどが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8～10群の晩期前葉から晩期中葉(30.4%)である。そのほか第4群の後期前葉(15.4%)、第5群の後期中葉(22.9%)がやや高率で確認できる。

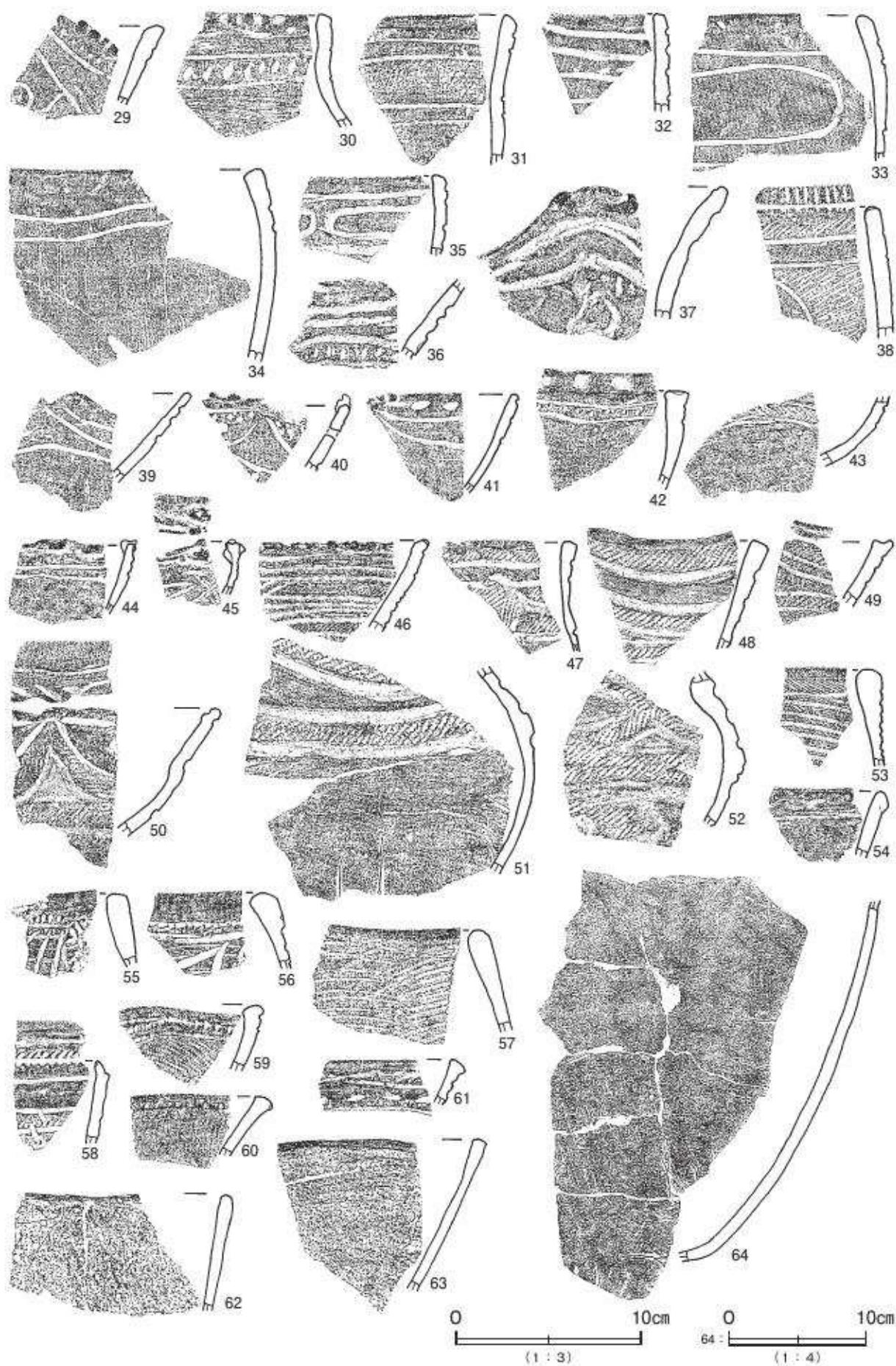
所見 時期は、出土土器と遺構の形状から、晩期中葉の前浦式期と考えられる。第22号堅穴建物に掘り込まれているが、出土遺物から確認できる時期差はほとんどなく、比較的短期間に建て替えが行われたものと考えられる。

第25号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第131～133図)

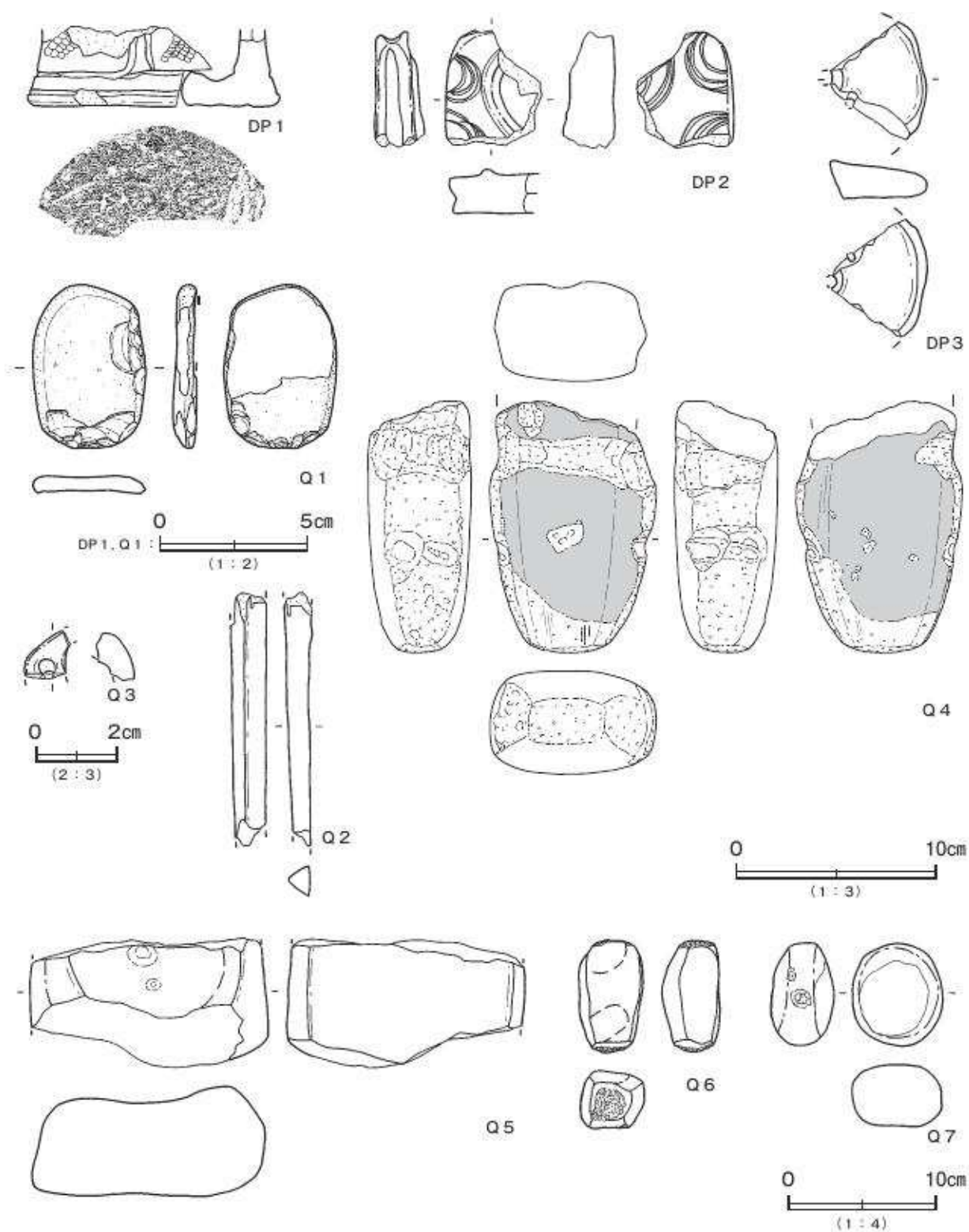
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考					
1	縄文土器	深鉢	[32.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	5%				
2	縄文土器	皿	[10.2]	2.1	8.8	珪・石英・細砂・織	赤灰	普通	外面削り	内面磨き	覆土下層	40%				
3	縄文土器	脚付鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	黒褐	普通	外面ナデ	内面磨き	覆土中	10% PL35				
4	縄文土器	浅鉢	[17.2]	9.2	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面磨き	歪み著しい	覆土下層	60% PL35				
5	縄文土器	壺	-	(5.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	外面微隆起文	磨き	内面ナデ	覆土上層	10%			
6	縄文土器	深鉢	-	(19.0)	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい橙	普通	外面杓状文	磨き	内面ナデ	覆土下層	10%			
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外・内面磨き		覆土中					
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	外面角押文	内面ナデ	覆土下層					
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆起帯貼付	→RL縄文	内面磨き	覆土上層				
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	口縁部外面に結線貼付	内面磨き	覆土上層					
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	横帯文	外面沈線	→LR縄文	内面磨き	覆土上層			
12	縄文土器	鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	外面沈線	→LR縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面隆起RL縄文	→沈線	閉鎖沈線	→RL縄文	内面磨き	覆土上層		
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線	→刻み	内面磨き	覆土上層				
15	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面沈線	→RL縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土下層			
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線	→RL縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面隆起帯貼付	→刻み	→LR縄文	内面磨き	覆土下層			
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面貼付	→沈線	→RL縄文	→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		
19	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面横帯文	内面磨き	覆土中					
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子・細砂	橙	普通	外面沈線	→LR縄文	内面ナデ	覆土上層				
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい橙	普通	外面隆起帯貼付	→RL縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土中			
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	外面隆起帯貼付	→無筋L縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
23	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	外面沈線	→RL縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土中			
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	外面沈線	→無筋L縄文	→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層			
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面沈線	→LR縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線	→細密沈線	→無文部磨き	内面磨き	覆土中			
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線	→RL縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土下層			
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線	→LR縄文	→無文部磨き	内面磨き	覆土下層			
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面菱形区画文	内面ナデ	覆土上層					
30	縄文土器	広口壺	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい橙	普通	外面沈線	閉鎖突文	内面磨き	覆土中				
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい褐	普通	外面杓状文	内面磨き	覆土下層					
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい橙	普通	外面杓状文	内面ナデ	覆土中					
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・石英・細砂・絶砂	にぶい赤褐	普通	外面杓状文	無文部磨き	内面粗い磨き	覆土下層				



第 131 图 第 25 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 132 図 第 25 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 133 図 第 25 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 25 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 131 ~ 133 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・磁・黏・粘灰好	にがい赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面工字文に近い文様 内面磨き	覆土中	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・磁・黏・粘灰好	にがい橙	普通	外面弧線文 内面ナデ	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	橙	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい橙	普通	外面沈線→縦帯沈線文充填 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	橙	普通	外面弧線文 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい橙	普通	外面細かい刺突文充填 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	橙	普通	口縁部にB突起 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい赤褐	普通	口唇部押圧文 内面磨き	覆土中	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい赤褐	普通	外面横位沈線→矢羽状沈線文 内面磨き	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部にB突起 内面磨き	覆土上層	
45	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口唇部に沈線文 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
46	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	雲形文。外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
49	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線→横位沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ 複合口縁。	覆土下層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→縦帯区画文 口縁部削り出し状 内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	灰褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 15	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外・内面磨き 口縁部に細線	P 15	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	P 22	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外・内面ナデ	P 17	
63	縄文土器	鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	にぶい橙	普通	外・内面磨き	P 24	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・灰・赤・純砂	明赤褐	普通	外・内面磨き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 罎	(2.6)	(8.4)	-	(47.7)	長石・石英	にぶい橙	筒型 沈線→LR縄文 底部に網代痕	覆土上層	1d類 PL40
DP 2	土 版	(5.7)	(4.8)	26	(69.2)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	表面に隆起帯貼付 側面に凹線	覆土下層	
DP 3	有孔円盤	(6.0)	(4.8)	20	(42.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	ナデ整形	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	礫 器	5.5	3.8	0.8	19.2	硬密質輝石安山岩	右側面・下端部を剥離	覆土下層	
Q 2	石 刺	(12.7)	(1.4)	(1.7)	(41.2)	粘板岩	楕圓整形	覆土下層	
Q 3	玉 類	(1.2)	(1.2)	10	(0.9)	変質凝灰岩	片面穿孔 穿孔中に破損。	P 5	
Q 4	焼結石	(12.7)	8.4	5.2	(78.0)	輝石安山岩	表裏面に磨痕 側面・下端部に敲打痕	覆土下層	PL45 煤
Q 5	石皿類	(8.5)	(15.7)	7.4	(144.2)	角閃石黒雲母花崗岩	表裏面磨痕 表面に凹痕	覆土下層	2類
Q 6	磨石類	7.3	4.2	3.9	187.0	流紋岩	自然礫の上下端に敲打痕	P17	4e類
Q 7	磨石類	6.8	6.0	4.0	237.8	輝石安山岩	表裏面・側面に磨痕 一側面に凹痕	覆土下層	2e類

第 28 号竪穴建物跡 (第 117・119・134・135 図 PL10)

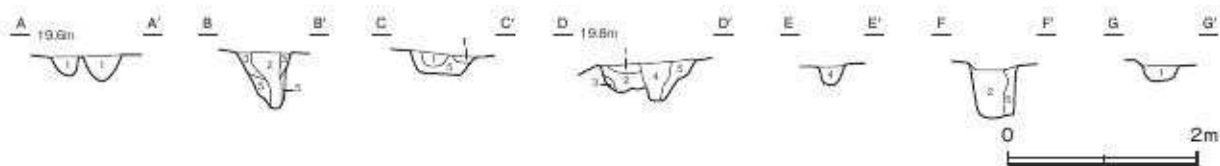
位置 調査B区東部のC 4e5区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層下で確認した。第 22・23 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第 22 号竪穴建物、南部を第 23 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は 4.9 mで、東西軸は 2.9 mしか確認できなかった。方形あるいは楕円形と推定され、東西軸方向は N - 65° - Eである。壁は高さ 6 ~ 10cmで、外傾している。

床 やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは 11 か所であるが、本跡に帰属するピットは、第 22 号竪穴建物跡に帰属するものの中にも含まれていると考えられる。P 1 ~ P 3・P 10・P 11 は壁際近くに巡っているピットで、第 22 号竪穴建物跡の帰属とした P 2 や P 12 など、位置と形状から本跡に帰属するものとも考えることも可能である。P 6・P 9 は位置と深さから支柱穴と考えられる。



第134図 第28号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ	20	25	60	53	25	30	40	20	55	16	8

覆土 単一層。ロームブロックが多く含まれている黒褐色土で、自然堆積である。第2～4層は、P4の覆土である。

土層解説

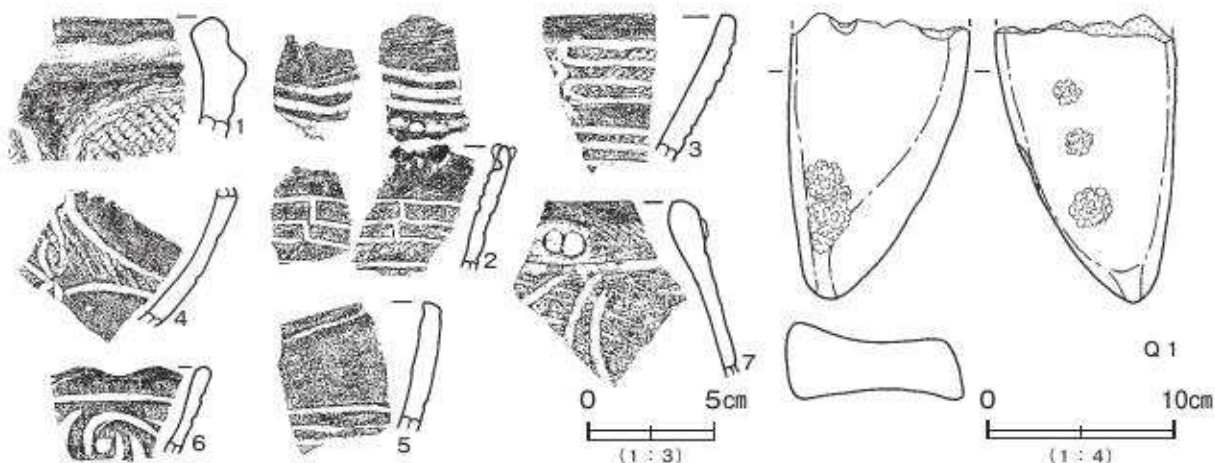
- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

HG1 土層解説

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 389点 (5.03kg)、土製品1点 (土器片円盤)、石器2点 (磨製石斧、石皿類) のほか、発泡土器1点、剥片2点 (黒曜石) などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも小破片で、主体となるのは第5群の後期中葉 (30.0%)、第4群の後期前葉 (22.7%)、第2群の中期後半 (14.5%) のものである。

所見 時期は、出土遺物が少なく時期の判断が困難であるが、遺構の形状から中期後半、あるいは後期後葉と考えられる。



第135図 第28号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 28 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質・粘質	橙	普通	外面 RL 縄文→隆起帯輪凹線 内面磨き	P 3	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質・粘質	灰・褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 5	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 9	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外・内面磨き 口縁部内面凹線状	P 10	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質・粘質	褐・灰	普通	外面玉粒三叉文 沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質・粘質	明赤褐	普通	外・内面磨き	P 10	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 1	石皿型	(14.9)	(9.4)	4.0	(3.845)	緑色岩	表裏面に凹痕	覆土下層	2類 PL48

第 30 号竖穴建物跡 (第 117・119・136 図 PL10)

位置 調査B区東部のC 4 g3 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第 22・23・25 号竖穴建物、第 54 号土坑に掘り込まれている。第 89 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

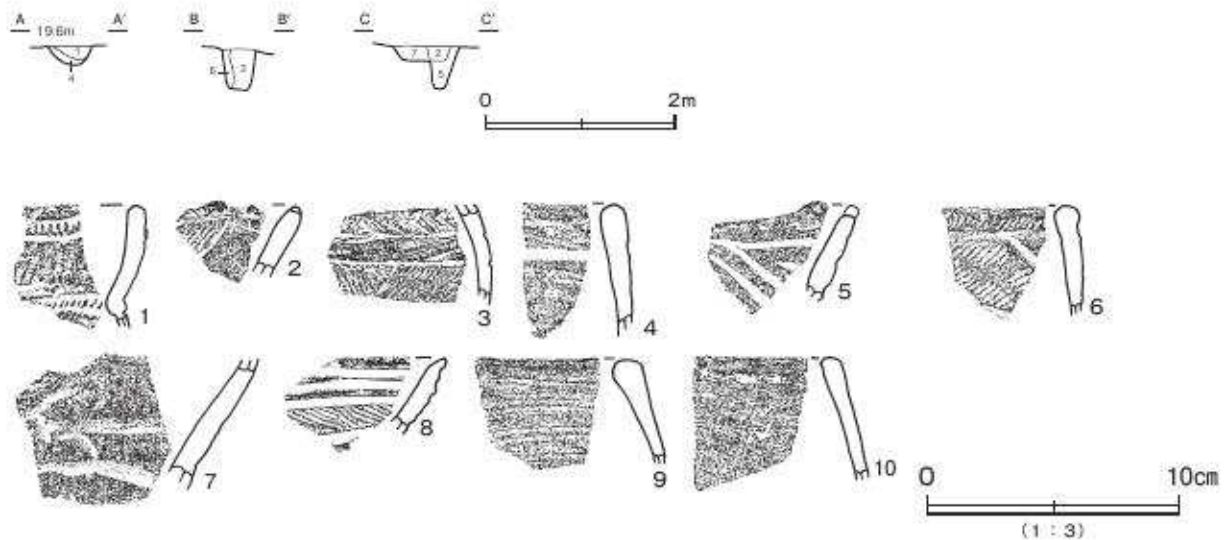
規模と形状 北部を第 25 号竖穴建物、東部を第 23 号竖穴建物に掘り込まれ、南部が調査区域外に伸びているため、東西径は 6.0 m、南北径は 1.3 m しか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。壁は高さ 22cm で、外傾している。

床 やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは 13 か所である。本跡に帰属するピットは、第 23・25 号竖穴建物跡の帰属とした中にも含まれているものと考えられるが、判断できない。P 8・P 9 は位置と深さから主柱穴の可能性がある。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒・褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 明・褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗・褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黄・褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗・褐色 | ロームブロック多量 | 7 暗・褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 明・褐色 | ロームブロック多量 | | |



第 136 図 第 30 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
深さ	21	41	44	-	46	17	35	58	54	12	-	-	-

覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。第3～5層は、P.9の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量 | 5 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片118点(1.41kg)、石器2点(磨製石斧、石皿類)が、出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも少量でかつ小破片であり、時間的なまとまりを捉えることができない。

所見 時期は、出土遺物が少なく、建物跡の形状も不明瞭なことから、詳細な時期は不明である。

第30号堅穴建物跡出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	炭石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文・内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面低位沈線→矢羽状沈線→無文部磨き・内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	炭・砂・粘土・鉄屑	明黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	炭石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	三叉状入組文・内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	炭石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→横筋L縄文→無文部磨き・内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	炭・砂・粘土・鉄屑	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	P.13	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	炭・砂・粘土・鉄屑	にぶい橙	普通	外面条線・内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	炭・砂・粘土・鉄屑	にぶい赤褐色	普通	外面前リ・内面ナデ	覆土中	

第23号堅穴建物跡(第137～141図 PL10)

位置 調査B区東部のC.4.45区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第28・30号堅穴建物跡、第1号遺物包含層を掘り込み、第22号堅穴建物、第51・52・61号土坑、第3号地下式坑、第1号井戸に掘り込まれている。第25号堅穴建物跡との新旧関係は不明である。

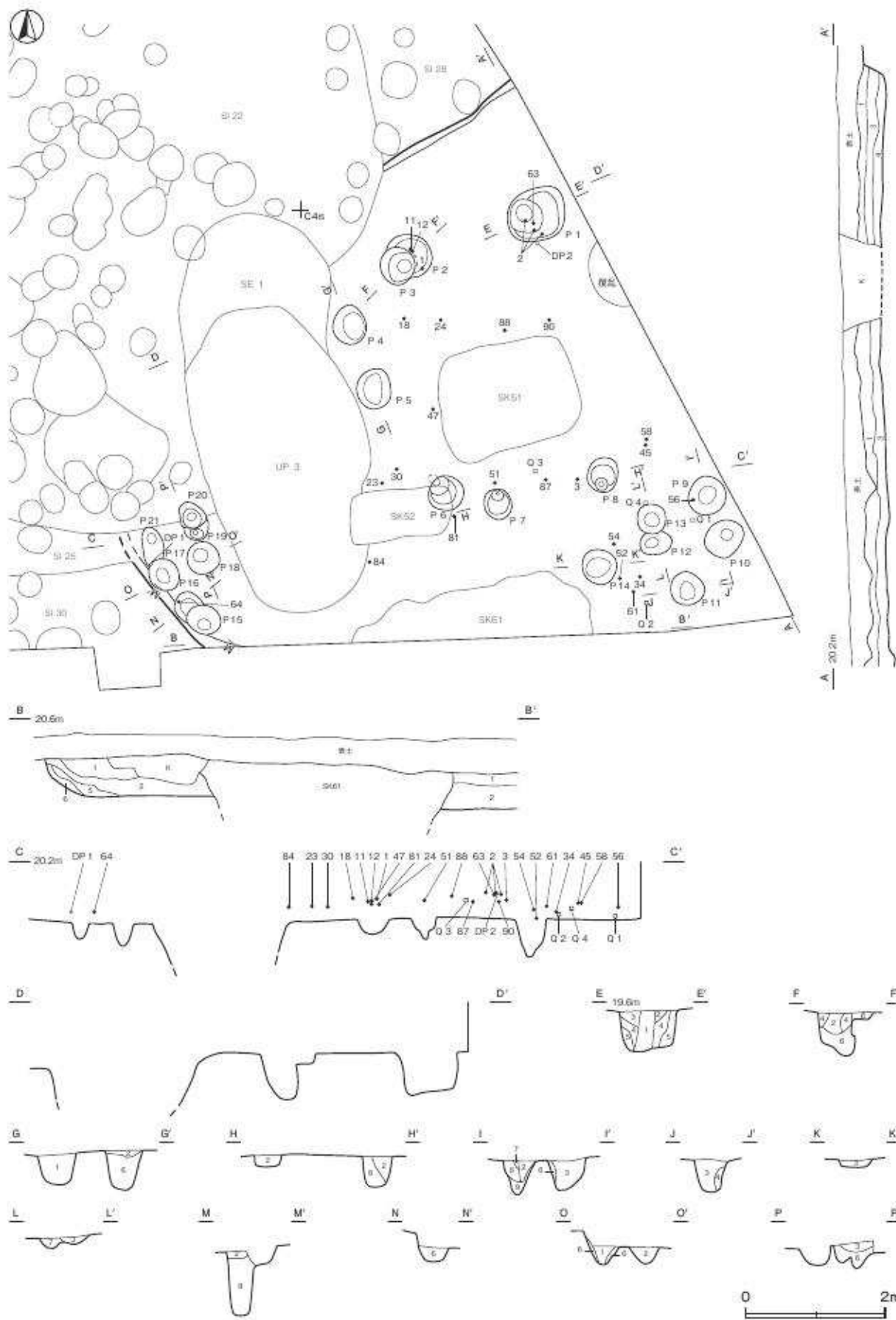
規模と形状 東部及び南部が調査区域外に延び、また北西部を第22号堅穴建物に掘り込まれているため、東西径は8.0mで、南北径は7.5mしか確認できなかった。残存部から楕円形または隅丸方形と推定できる。土層堆積状況から確認できる壁は高さ50cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ビット 21か所。P.1・P.3・P.4・P.10は位置と深さから主柱穴の可能性がある。P.15～P.17・P.21は位置と形状から壁柱穴と考えられるが、北壁際では壁柱穴が確認できなかった。あるいはこれらにP.9・P.12～P.14と第22号堅穴建物跡に帰属するP.2～P.7・P.23～P.26・P.33～P.35・P.49～P.53など弧状に巡るようにも見える小ビット群と合わせて、壁柱穴が密に巡る別の1棟を想定することも可能である。その場合、南北約10mの大形の円形の建物跡が想定される。

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | 9 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第 137 図 第 23 号竖穴建物跡実測図

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	58	11	62	55	45	20	17	20	45	50	48	15	13	11	95	24	28	25	32	40	28

覆土 6層に分層できる。第3・4層はロームブロックが多く含まれている暗褐色土で、埋め戻されている可能性が高い。

土層解説

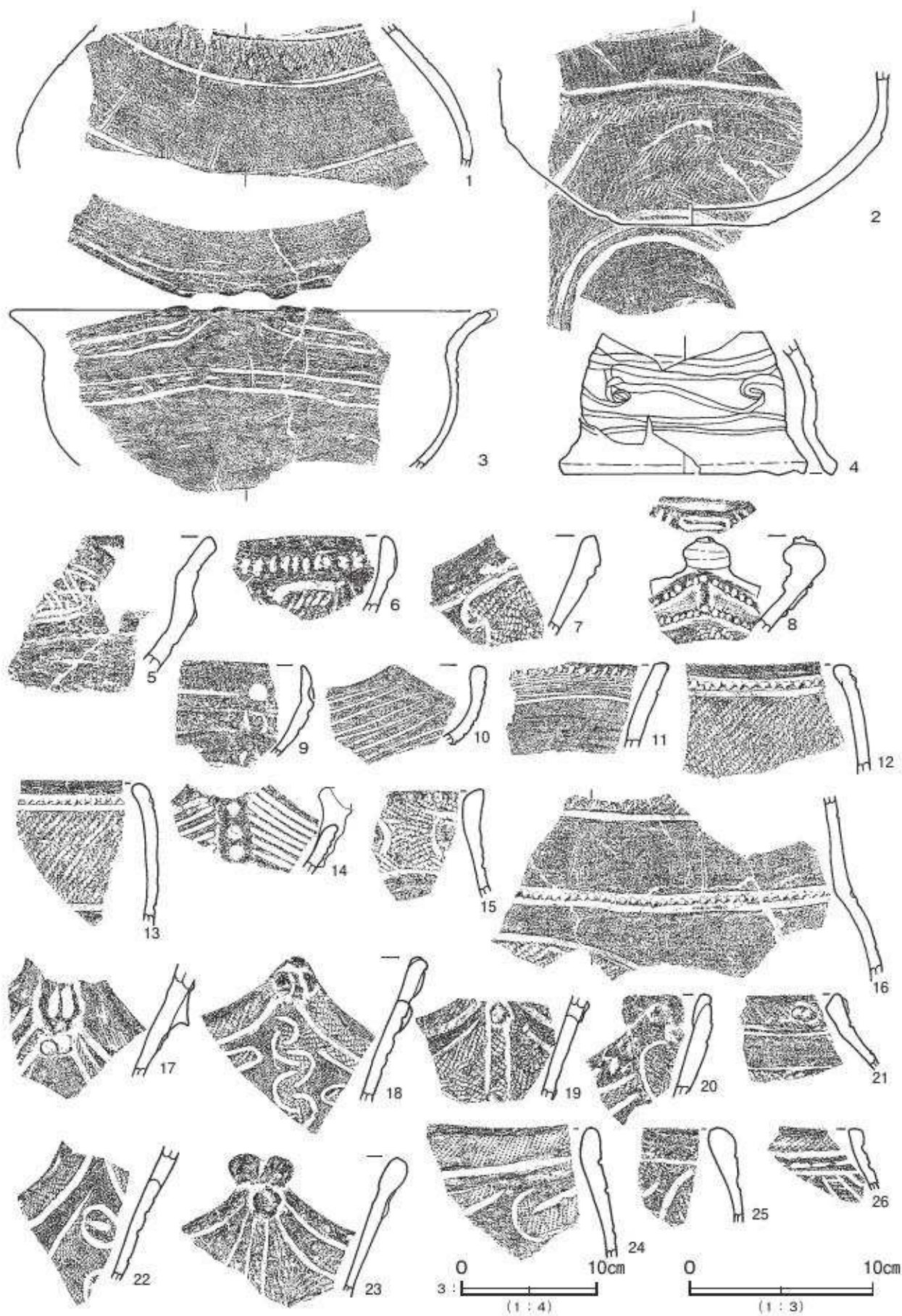
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片 3,873点 (57,24kg)、土製品5点 (土器片円盤3、土版1、土偶1)、石器22点 (磨製石斧5、石皿類1、磨石類8、砥石7、加工痕のある剥片1) のほか、焼成粘土塊1点、石核8点 (チャート)、剥片18点 (チャート11、黒曜石7) などが出土している。遺物は、覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8～10群の晩期前葉から中葉 (54.2%) のものである。DP 1は、覆土下層から出土した中空土偶の肩部である。

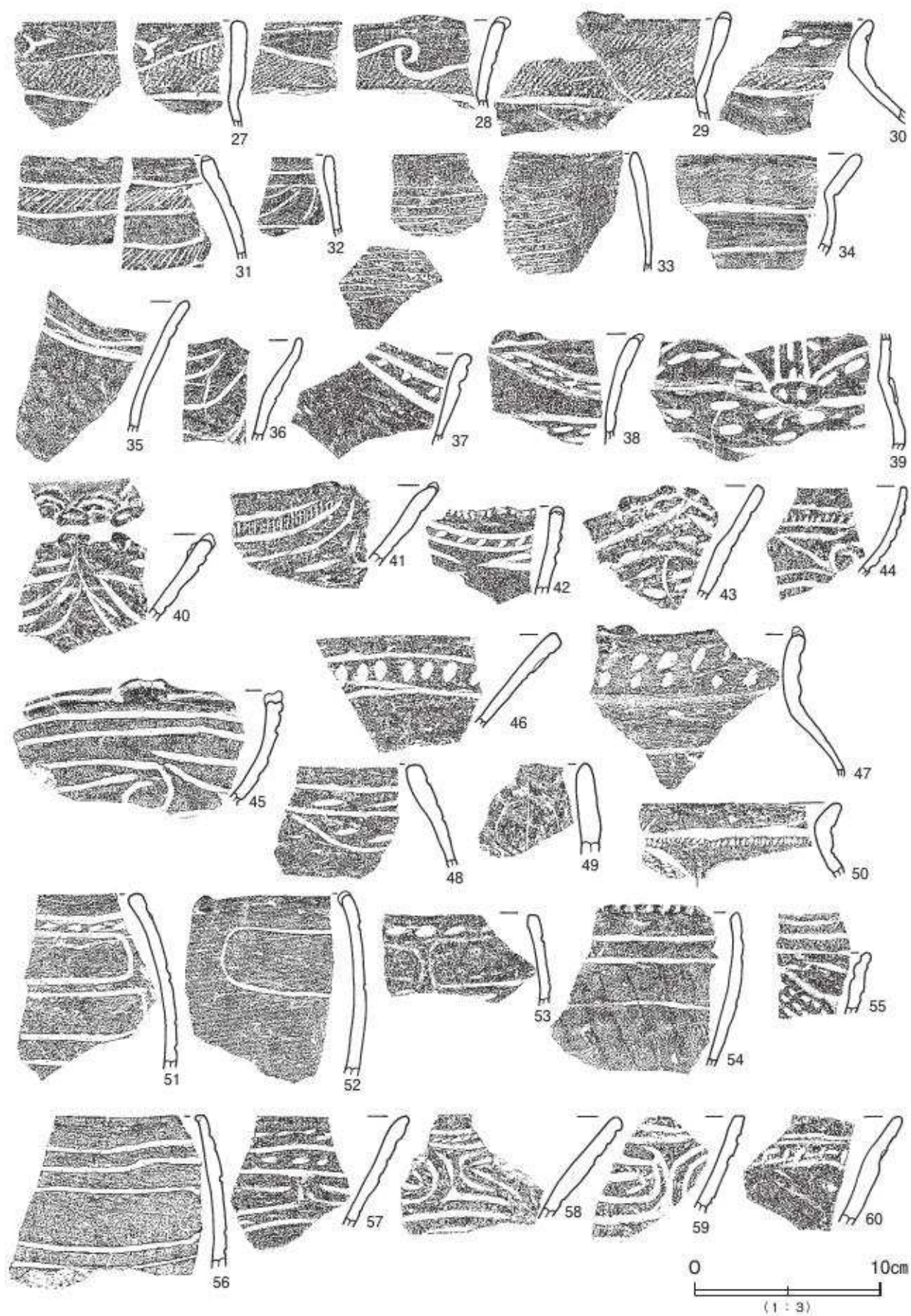
所見 時期は、出土土器から晩期前葉から中葉の安行3b式期から安行3c式期と考えられる。

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第138～141図)

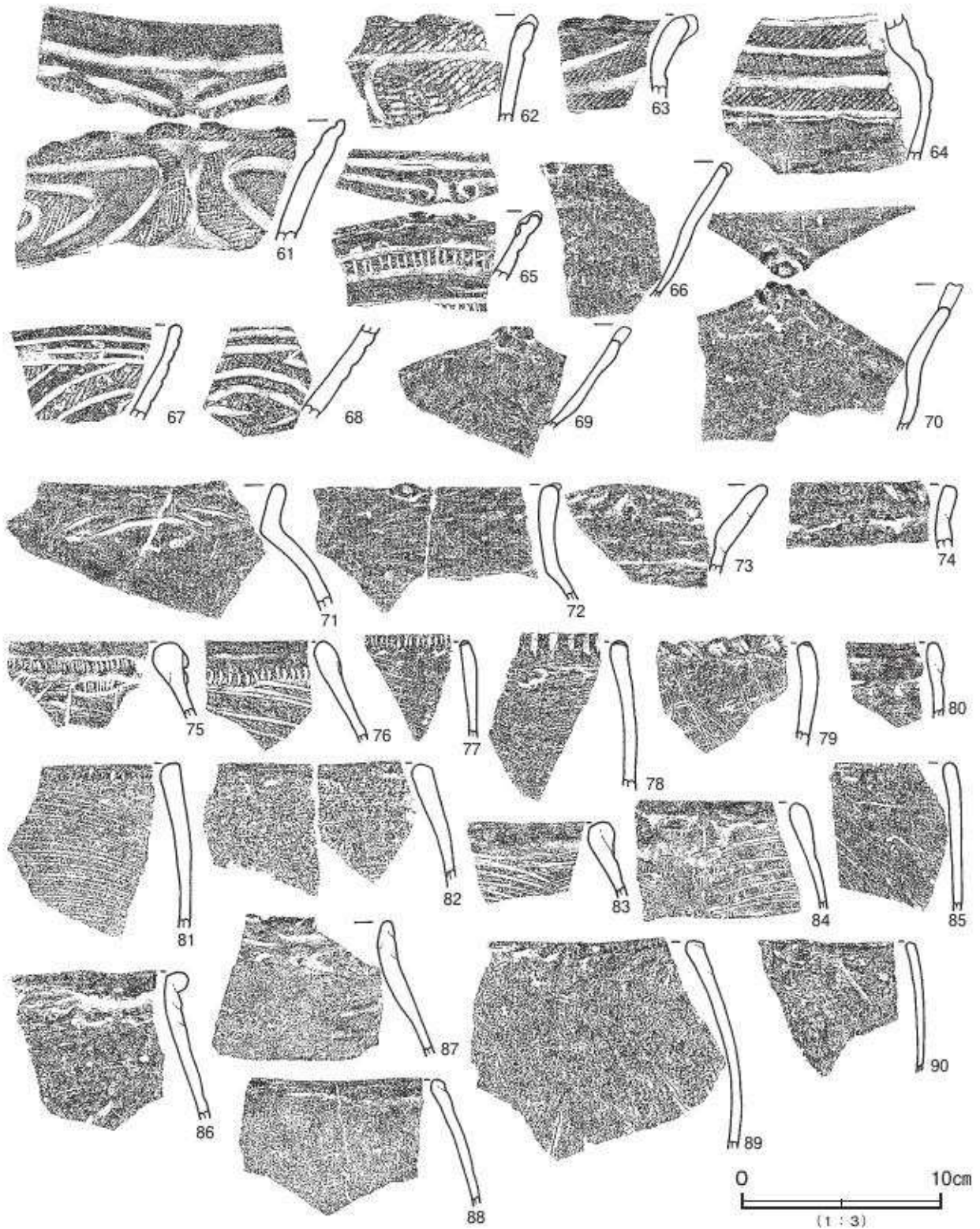
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	広口壺	-	(83)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→R縷文→無文部磨き 胴部下半削り 内面磨き	覆土中層	10%
2	縄文土器	鉢	-	(85)	8.3	灰・鉄・粘土・焼石	灰褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	30%
3	縄文土器	浅鉢	[33.7]	[11.2]	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	外面沈線剛刺突文による風線文 内面磨減	覆土中層	20% PL37
4	縄文土器	台付鉢	-	(7.4)	[13.2]	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面S字状入組文 内面ナデ	覆土上層	30%
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	赤褐色	普通	外面半截竹管文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縷文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	橙	普通	外面RL縷文 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面横帯文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→条線→口縁部刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→LR縷文 内面磨き	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰褐色	普通	外面縦位隆起帯→沈線 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面RL縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	黒褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面隆起帯隆起沈線→RL縷文 内面ナデ	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面沈線→帯形付→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→帯形付→RL縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縷文 内面磨き	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	黄褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	広口壺	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	灰褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→縷文沈線文充填→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面沈線→縷文沈線文充填→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面縷文→縷文沈線文充填→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縷文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・粘土・焼石	橙	普通	外面菱形状区画文、内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土上層	



第 138 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



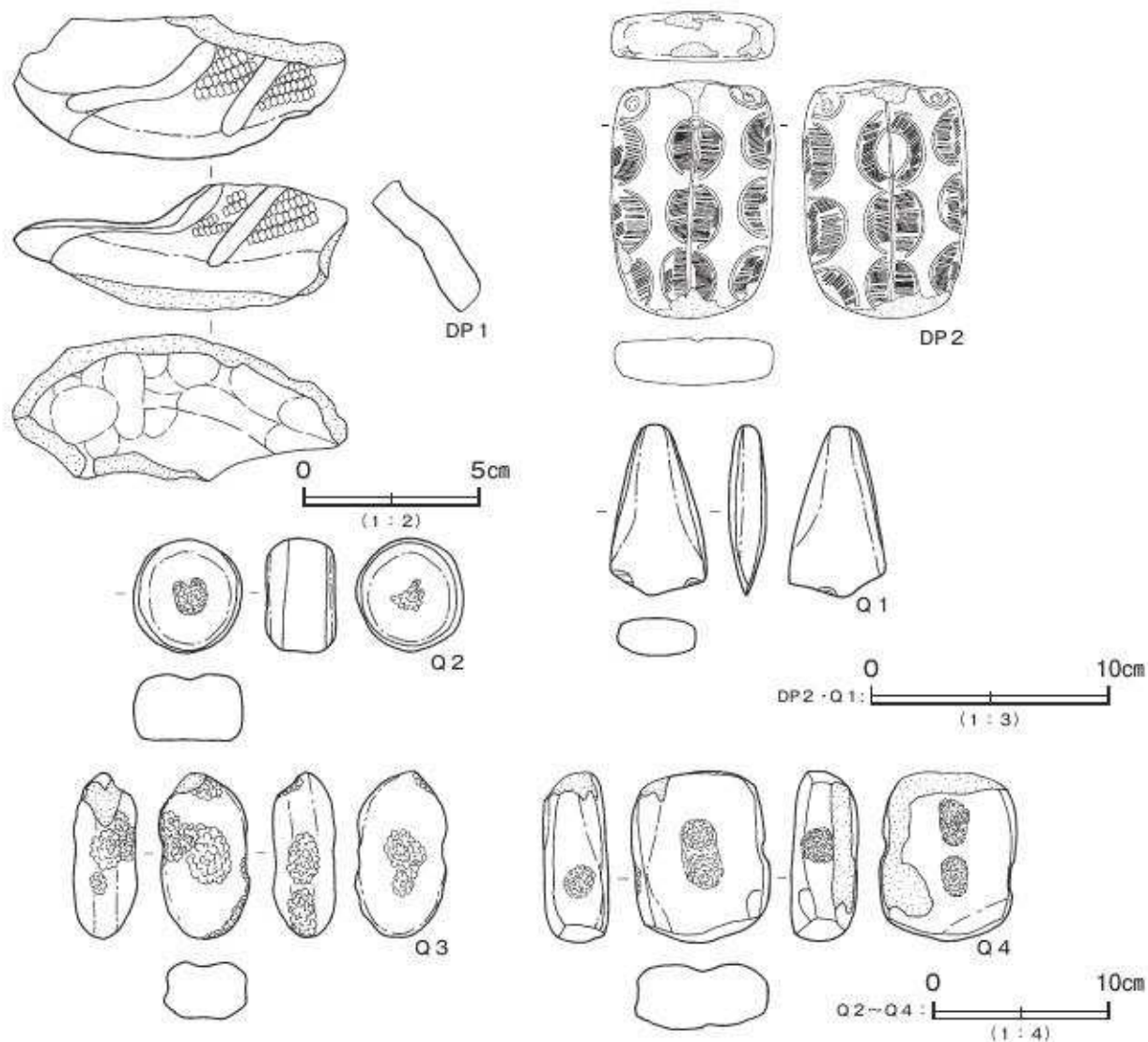
第139图 第23号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



第140図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表(第138～141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	粘・砂・粘附・粘附	黄橙	普通	外面沈線間斜交文による風線文 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	浅鉢	-	-	-	粘・砂・粘附・粘附	にぶい黄	普通	外面細密沈線文充填 粗い磨き 内面磨き	覆土上層	



第 141 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物 (4)

第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 138 ~ 141 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線間刺突文による風線文 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土中層	
45	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中層	
46	縄文土器	浅鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	にぶい橙	普通	外面沈線間刺突文 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	にぶい橙	普通	口縁部に複列の刺突文 磨き 内面ナデ	覆土中層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	にぶい黄褐色	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	覆土中層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面風線文 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	黄 橙	普通	外面沈線間に細かい刺突文 内面ナデ	覆土中層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面杵状文 内面ナデ	覆土中層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面杵状文 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	黄 橙	普通	外面磨滅のため調整不明瞭 杵状文 内面磨き	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面杵状文 胴部下半削り 内面ナデ	覆土上層	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	にぶい黄褐色	普通	外面縦列の刺突文充填 内面磨滅	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面杵状文 内面ナデ	覆土下層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面三又状入組文 内面ナデ	覆土上層	
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中層	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	筋 砥 砂子 黒砂	にぶい黄褐色	普通	外面入組文 内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→刺突文 内面ナデ	覆土上層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→無筋し縄文 内面ナデ	覆土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面刻み状の刺突文充填 内面磨き	覆土中	
66	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外・内面磨き 口唇部に突起	覆土中	
67	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→無筋し縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面削り→指頭ナデ 口唇部に突起 内面磨き	覆土上層	
70	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	波頂部に鉢巻状貼付文 ナデ 内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面磨き 口縁部に突起1か所	覆土中	
73	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面条線→紐線貼付→沈線→指頭ナデ 内面ナデ	覆土中	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面条線 内面ナデ 口唇部刻み	覆土上層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面条線 内面ナデ 口唇部刻み	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面筋状工具による条線 内面磨き 口唇部刻み	覆土上層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面紐線貼付→条線 内面ナデ	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	外・内面磨減のため調整不明瞭	覆土上層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土上層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 罎	136	9.3	14.2	60.8	長石・石英	橙	中空 沈線→RL縄文	覆土下層	5b類
DP 2	土 版	100	6.9	2.1	221.6	長石・石英・赤色粒子	黒褐	底面に細密沈線文充填	覆土中層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨石斧	7.2	4.0	1.6	54.3	蛇紋岩	定角式	覆土下層	PL46
Q 2	磨石類	6.3	5.9	3.8	166.2	多孔質安山岩	表裏・側面に磨痕 表裏面に凹痕	覆土下層	2c類
Q 3	磨石類	9.2	5.0	3.5	117.8	輝石安山岩	表裏・側面に凹痕	覆土中層	3a類 PL48
Q 4	磨石類	9.5	7.7	3.7	416.3	砂 岩	表裏面に磨痕 表裏・側面に凹痕	覆土下層	2d類

第24号竪穴建物跡（第142～145図 PL 8・10）

位置 調査B区西部のC 4fl区、標高20mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層下で確認した。第27・29号竪穴建物跡を掘り込み、第57号土坑に掘り込まれている。第63・64・85号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北部が後世に削平されているため、壁は南東部しか捉えられなかったが、攪乱内で確認できたピットを本跡のものとすると、長径約7m、短径5.1mの楕円形で、長径方向はN-56°-Wである。壁は斜面上部が高さ110cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。炉跡を中心に硬化面が確認できる。

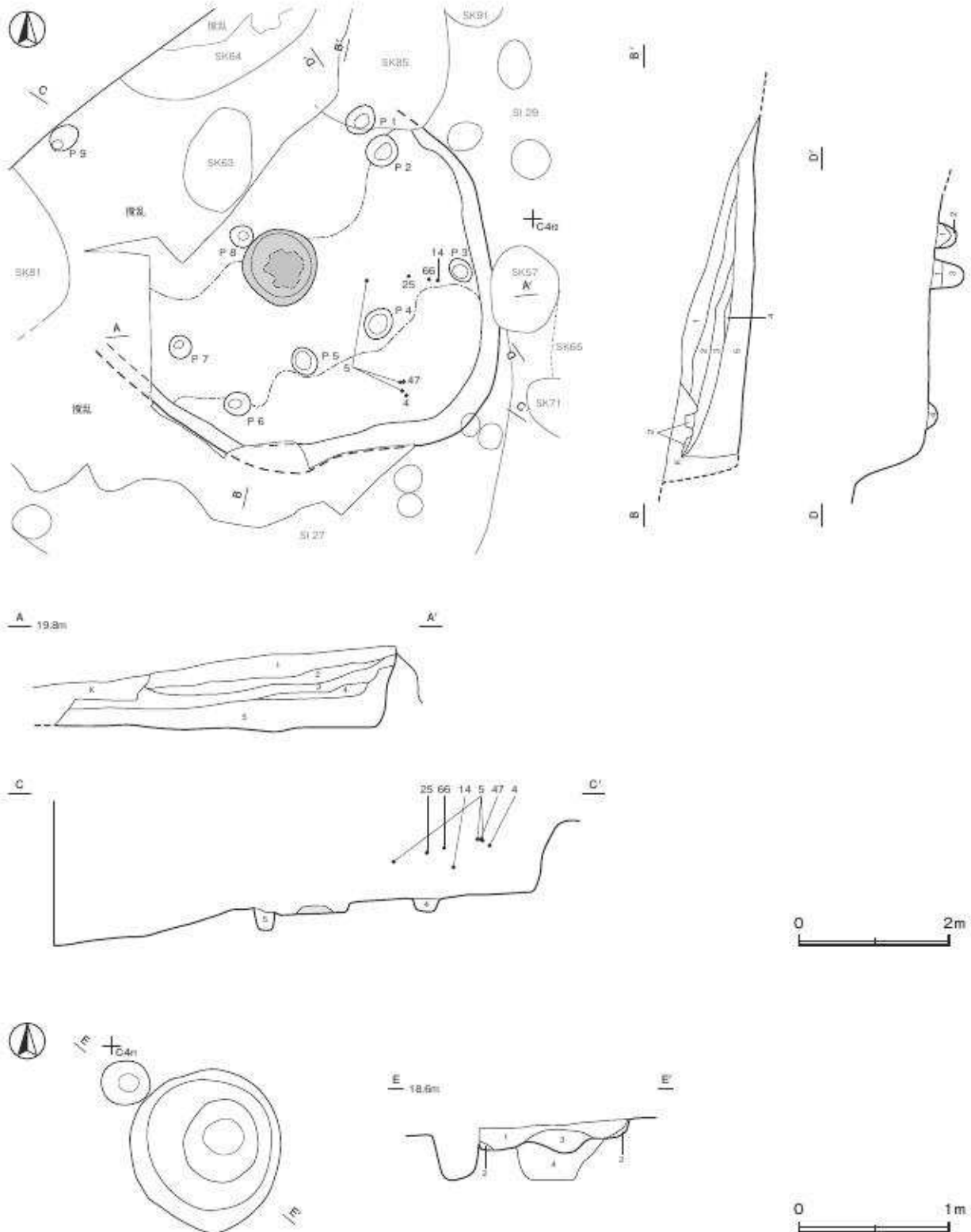
炉 床面のほぼ中央に付設されている。径100cm、深さ12～20cmの円形の地床炉で、覆土中に焼土粒子が多く含まれているものの、底面の被熱による赤変硬化はほとんど見られなかった。掘方底面がピット状に下がっており、埋甕炉だった可能性がある。

炉土層解説

- 1 明黄褐色 焼土粒子多量
- 2 明褐色 ロームブロック多量
- 3 明赤褐色 焼土ブロック多量

- 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 (掘方覆土)

ピット 9か所。いずれも径が30～40cm, 深さが30cm前後で, 覆土はローム粒子が多く含まれている褐色土である。



第142図 第24号竪穴建物跡実測図

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	29	45	18	15	24	14	19	30	33

覆土 5層に分層できる。第1～4層は自然堆積、第5層はロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層から縄文土器片がやや多く出土している。

土層解説

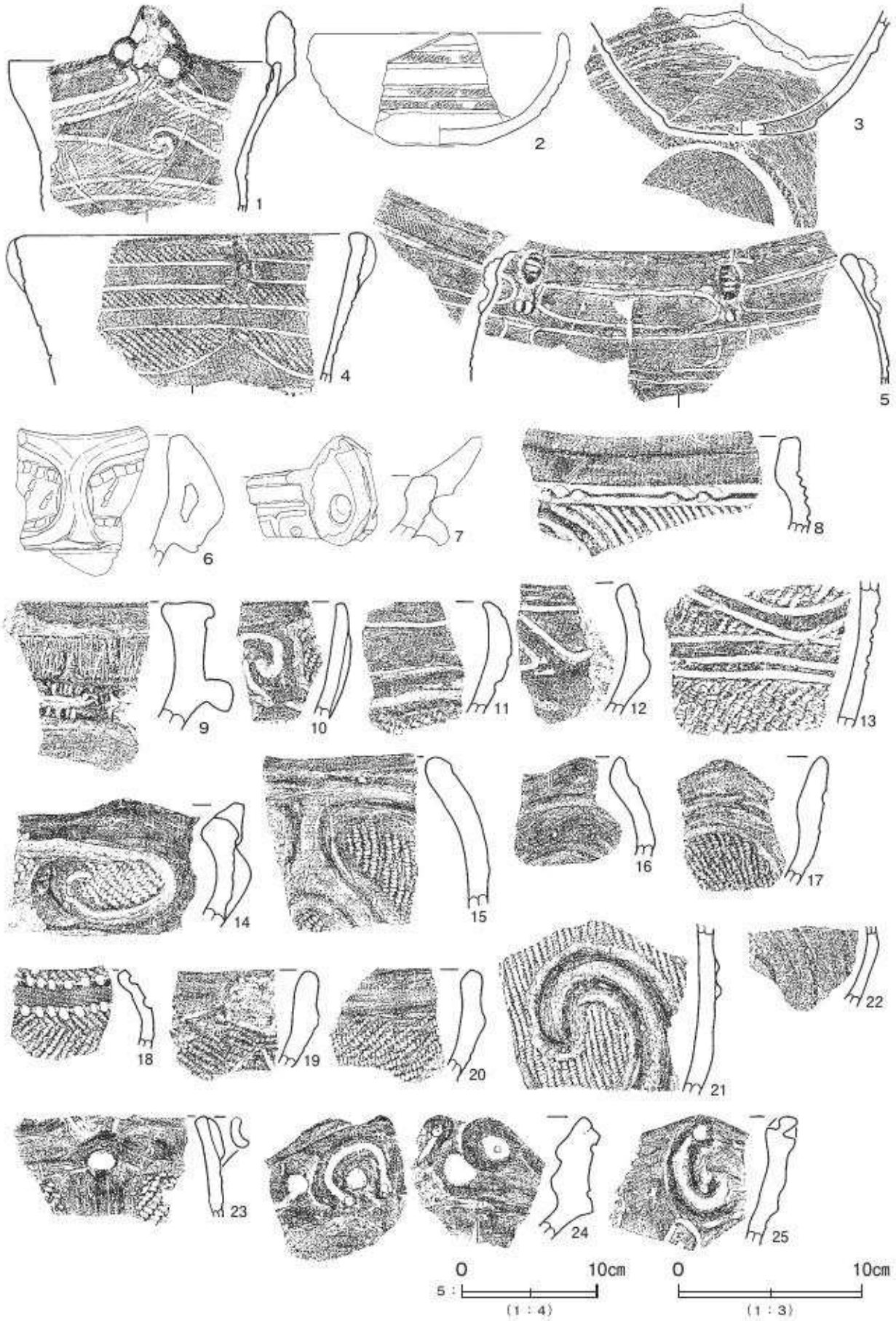
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 3,637点 (68.21kg)、土製品 10点 (土器片円盤9、耳飾り1)、石器 22点 (磨製石斧4、打製石斧1、石皿類2、磨石類6、砥石5、礫器3、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、石核4点 (チャート3、黒曜石1)、剥片 26点 (チャート 17、黒曜石9) などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群の中期後半 (31.0%) のもので、そのほかに第4群の後期前葉 (23.7%)、第5群の後期中葉 (18.1%) のものがやや高率で確認できる。

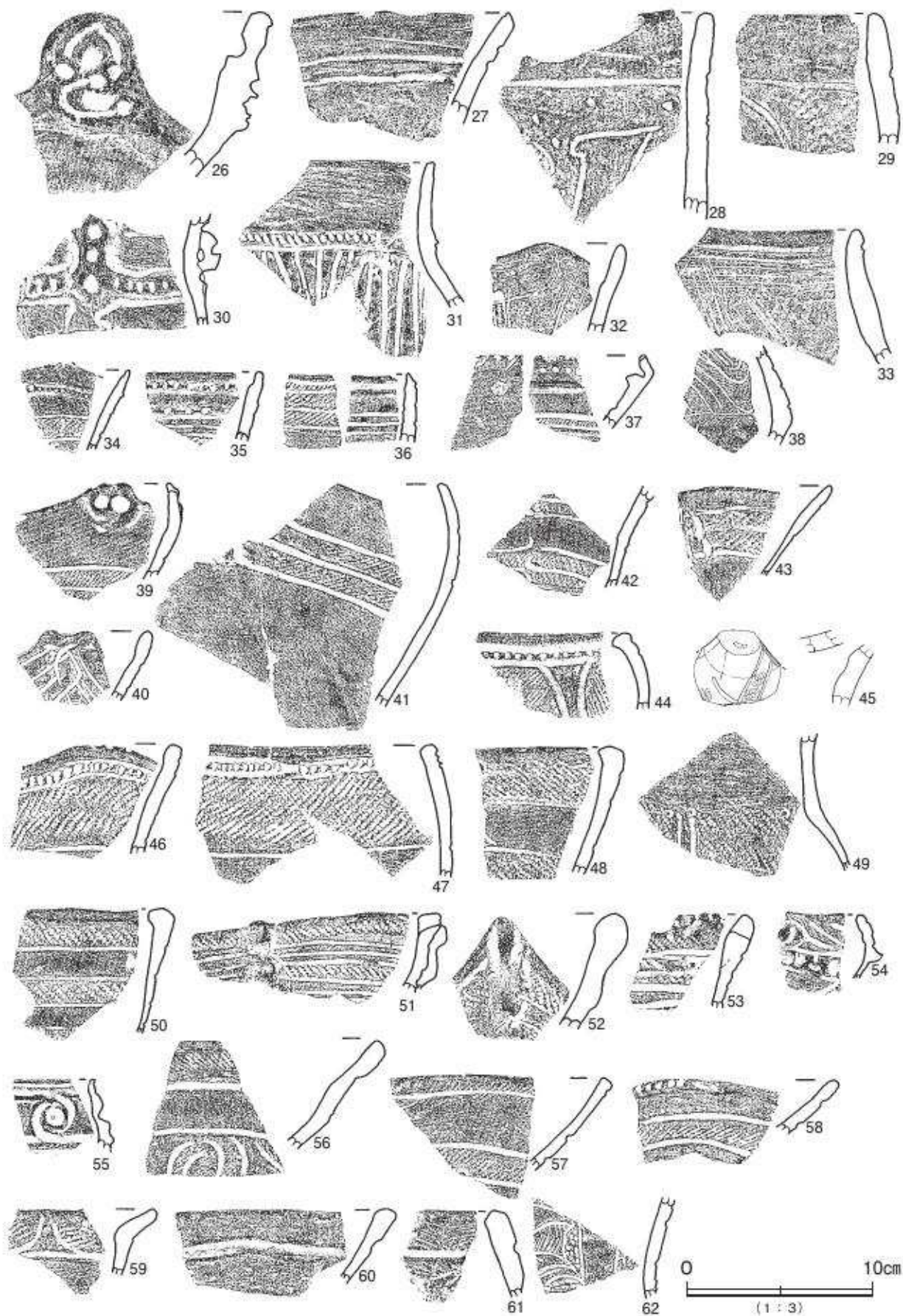
所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期後半の加曾利EⅡから加曾利EⅢ式期と考えられる。後期前葉から中葉の土器は、台地上の遺構からの流れ込みと考えられる。

第24号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第143～145図)

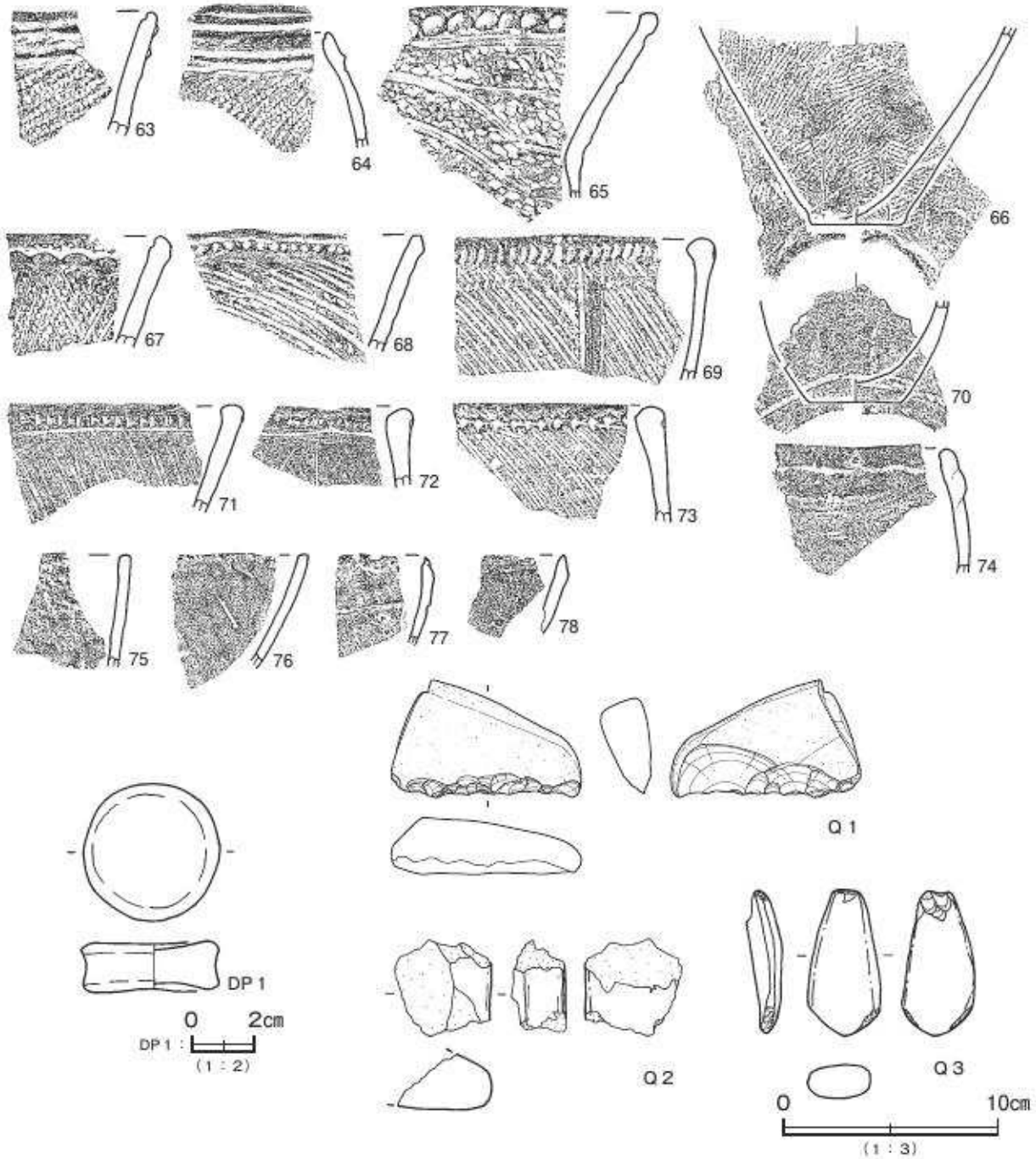
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[14.8]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	5%
2	縄文土器	浅鉢	[13.3]	6.1	4.0	長石・石英・雲母	暗褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	20%
3	縄文土器	鉢	-	(6.7)	[7.8]	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き 底磨き	覆土中層	10%
4	縄文土器	深鉢	[18.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	[24.6]	(9.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	10% PL37
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯筋L形文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面沈線文充填 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面口縁部沈線→条線充填→隆起帯筋L形文 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文充填 内面磨き	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面隆起帯による区画文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面0段3条のLR縄文→沈線→沈線磨き 内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面RL縄文→隆起帯筋沈線 内面磨き	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面RL縄文→隆起帯筋磨き 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面微隆起帯文 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→羽状縄文→斜交文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面RL縄文→隆起帯筋磨き 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面微隆起帯文 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	瓢型	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面RL縄文→隆起帯筋磨き 内面磨き	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面C字状貼付文 磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面RL縄文縦位回転 内面 ナデ	覆土中	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面隆起帯筋による区画文 内面磨き	覆土中	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯筋沈線→斜交貼付→口縁部磨き 内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文→衝刺状工具による条線 内面磨き	覆土中	



第 143 图 第 24 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 144 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 145 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 143 ~ 145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面LR 縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面ナデ 内面横帯文・磨き	覆土中層	
38	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面ナデ→横帯文 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 143 ~ 145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
45	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・口縁部削み 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→削文・裏面沈線文→沈線磨き 内面磨き	覆土上層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部ナデ 内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
55	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
56	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい黄橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面磨き	覆土中層	
60	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→縦密沈線文充填 内面ナデ	覆土上層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→縦密沈線文・削文充填 内面ナデ	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面RL縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面LR縄文→紐線貼付→口縁部磨き 内面磨き	覆土上層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→紐線貼付→沈線 内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	(4.2)	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土中層	30%
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面LR縄文→紐線貼付→半截竹管文 内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線→付点紐線文→区画文周磨き 内面ナデ	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	(4.4)	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面ナデ 底部削り	覆土上層	10%
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	橙	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土上層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
76	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面削り 口唇部ヘラ切り 内面ナデ	覆土上層	口C1類
77	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面削り 口唇部未調整 内面ナデ	覆土中層	口B類
78	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 口唇部未調整 内面ナデ	覆土上層	口B類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	耳飾り	径 4.3	-	1.6	32.3	長石・石英	にぶい橙	臼型 ナデ整形	覆土中	I 2 類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	産器	5.5	8.9	2.7	122.6	安山岩	下端面を両方向から割離	覆土上層	
Q 2	消製石斧	(4.5)	(4.6)	(2.5)	(60.4)	蛇紋岩	定角式	覆土上層	
Q 3	磨石類	6.7	3.4	1.7	50.9	砂岩	自然磨の上下端に敲打痕	覆土上層	6e 類

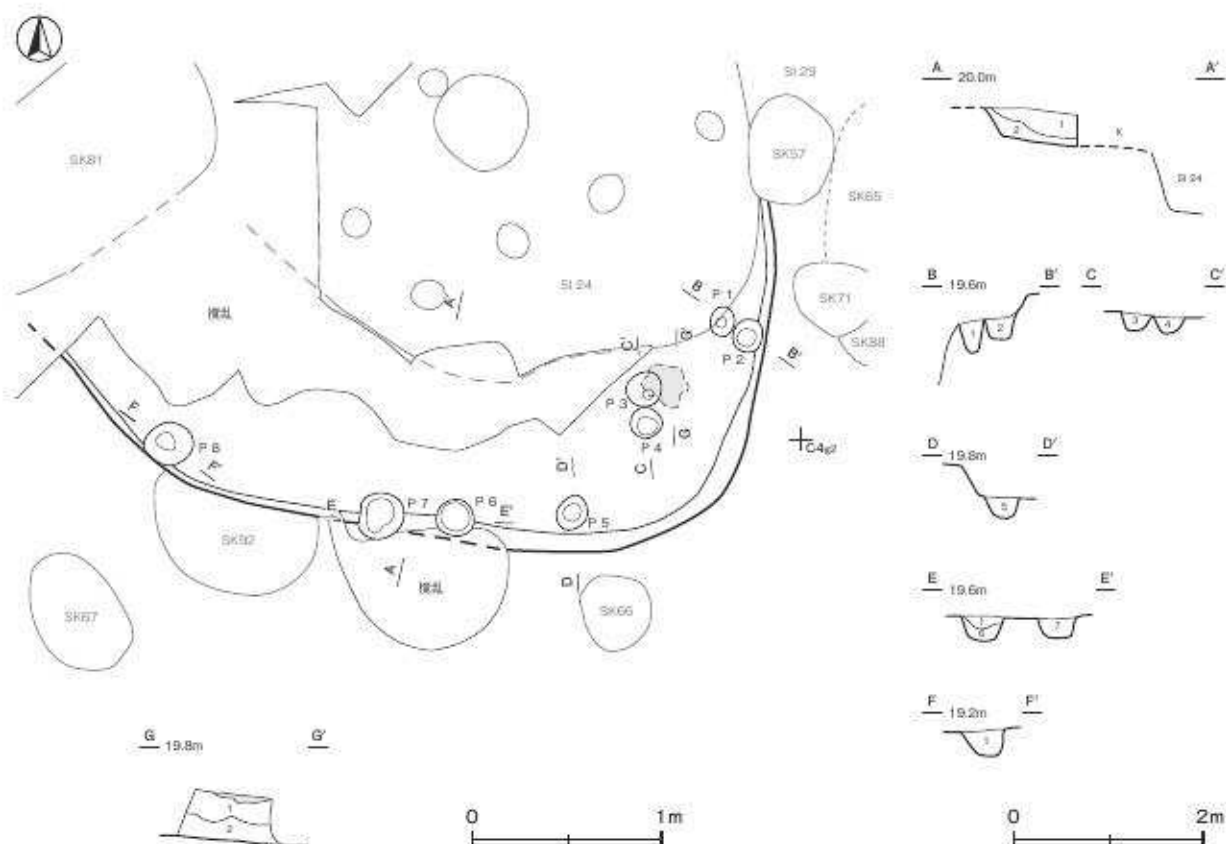
第 27 号竪穴建物跡 (第 146・147 図 PL 8・10)

位置 調査B区西部のC 4 f 区、標高 20 mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層下で確認した。第 92 号土坑を掘り込み、第 24 号竪穴建物、第 57・81 号土坑に掘り込まれている。第 29 号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北部が第 24 号竪穴建物に掘り込まれていることから、東西径は 7.3 m で、南北径は 3.7 m しか確認できなかった。楕円形と推定され、東西軸方向は N - 85° - W である。壁は高さ 15 ~ 30 cm で、外傾している。

床 斜面の傾斜に沿って、やや北側に下がっている。硬化面は確認できなかった。



第146図 第27号竪穴建物跡実測図

ピット 8か所。いずれも径30～50cm、深さ30cm前後で、覆土はローム粒子が多く含まれている褐色土である。壁際に位置しており、壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
深さ	35	24	18	20	24	21	26	29

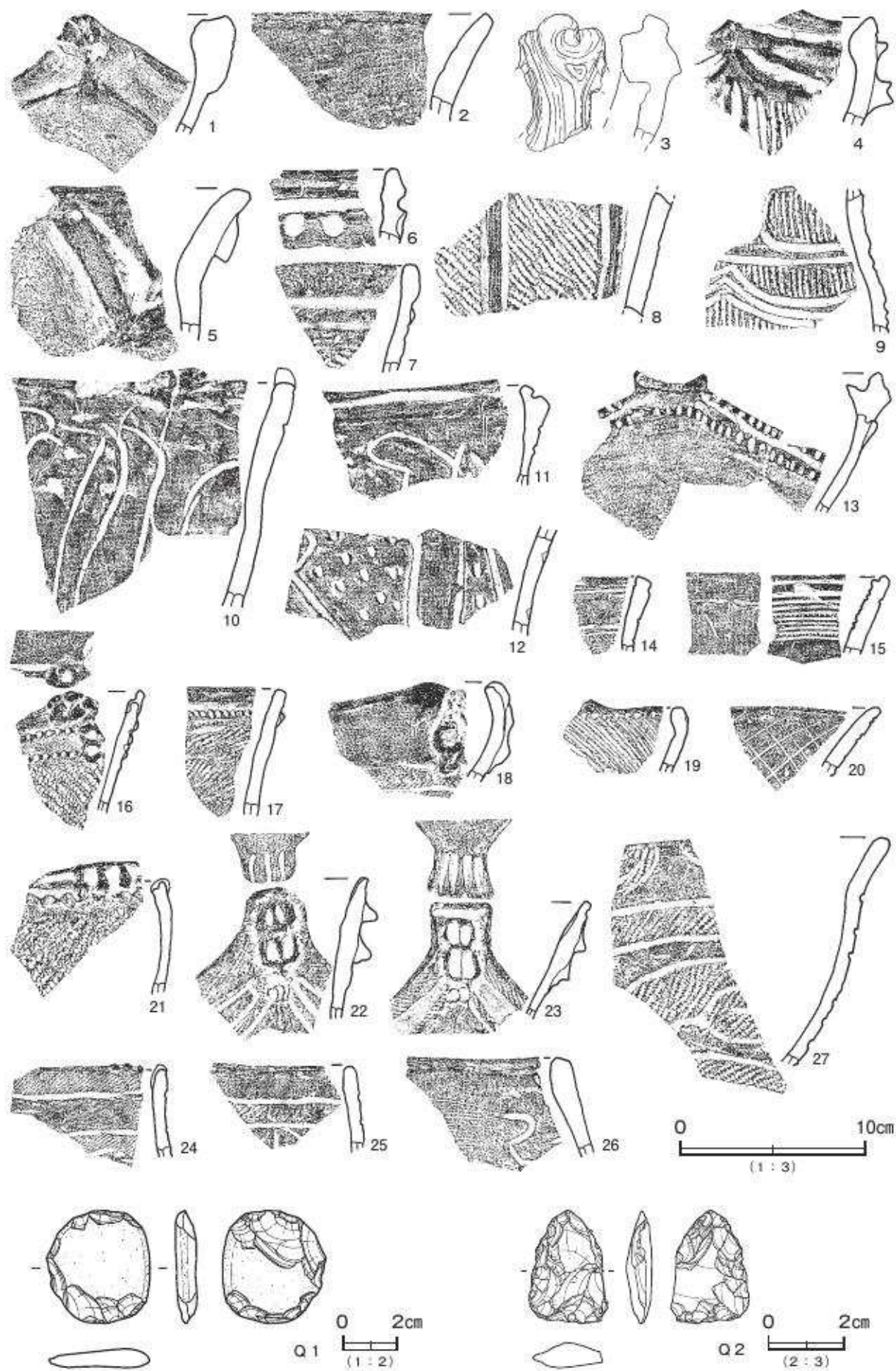
覆土 2層に分層できる。ローム粒子やロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|---------------------|------|-----------------------|

遺物出土状況 縄文土器片1,291点(23.76kg)、石器9点(石鏃未成品1、磨製石斧1、石皿類1、磨石類4、砥石1、礫器1)のほか、発泡土器1点、剥片6点(チャート4、黒曜石2)、軽石1点などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群の中期後半のもので、特に加曾利EⅡ式から加曾利EⅢ式が多く確認できる。覆土上層から焼土ブロックが出土しており、建物の廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期後半の加曾利EⅡ式から加曾利EⅢ式期と考えられる。



第147图 第27号竖穴建物跡出土遺物実測图

第 27 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 147 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り	にぶい赤褐	普通	口縁部外面肥厚・内面ナデ	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外・内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	脚付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐・灰	普通	把手部 外・内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面区画内沈線充填 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤・灰	普通	口縁部外面隆起帯による貼付文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面竹管状工具による刺突文 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	橙	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→LR 縄文縦位回転→沈線磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外面擦糸文 R→沈線→沈線磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面 J 字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	口縁部外面に沈線文 J 字文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面 J 字文 刺突文充填 無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部沈線・刻み 外・内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	外面区画内沈線充填 内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・粘り	黒・褐	普通	外・内面磨き 内面横帯文	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面細線貼付→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→細線貼付 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・赤・粘り	褐・灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	外面条線→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土中層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・粘り	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→細線貼付 口唇部沈線 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒・褐	普通	外面隆起帯磨沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐・灰	普通	外面隆起帯上 RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文 内面磨き	覆土中	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙	普通	外面条線→蛇行沈線文 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	礎 器	4.08	3.75	0.78	146	輝石安山岩	一面面・真端部を割断	覆土上層	
Q 2	石 鏡	3.06	2.13	0.70	45	チャート	未成品	覆土中層	

第 29 号竪穴建物跡 (第 148・149 図 PL 9・10)

位置 調査 B 区西部の C 4 e2 区、標高 20 m ほどの斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層下で確認した。第 24 号竪穴建物、第 58 号土坑に掘り込まれている。第 27 号竪穴建物跡、第 57・65・85・91 号土坑とも重複するが、新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北東部が後世の擾乱で削平されていることから、東西径は 3.13 m、南北径は 6.8 m しか確認できなかった。楕円形と推定され、南北軸方向は N - 25° - E である。壁は高さ 10 ~ 20 cm で、外傾している。

床 斜面の傾斜に沿って、北側に向かって下がっている。硬化面は確認できなかった。

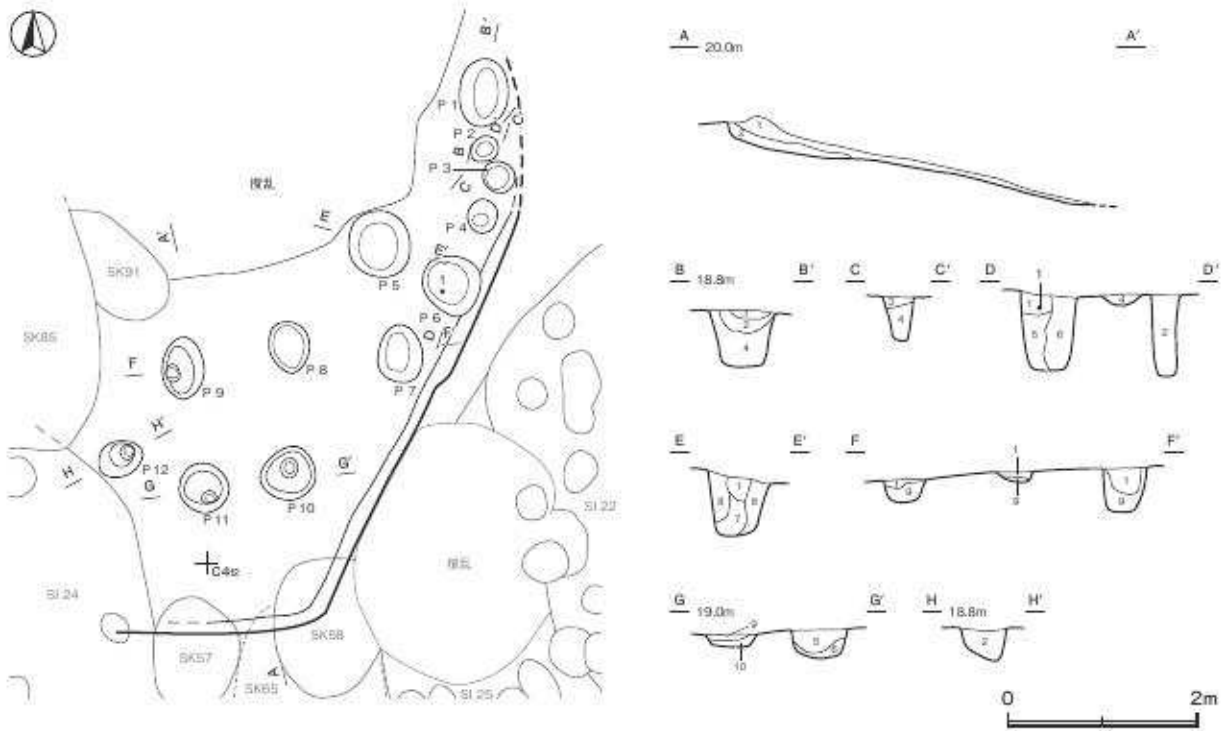
ピット 12 か所。P 1・P 5・P 10・P 12 は、位置と深さから支柱穴の可能性がある。

ピット土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 明 褐 色	ロームブロック多量
2 暗 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒 色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐 色	ロームブロック多量
4 黄 褐 色	ロームブロック多量	9 明 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ	59	48	88	12	69	85	48	13	24	32	18	34



第148図 第29号竪穴建物跡実測図

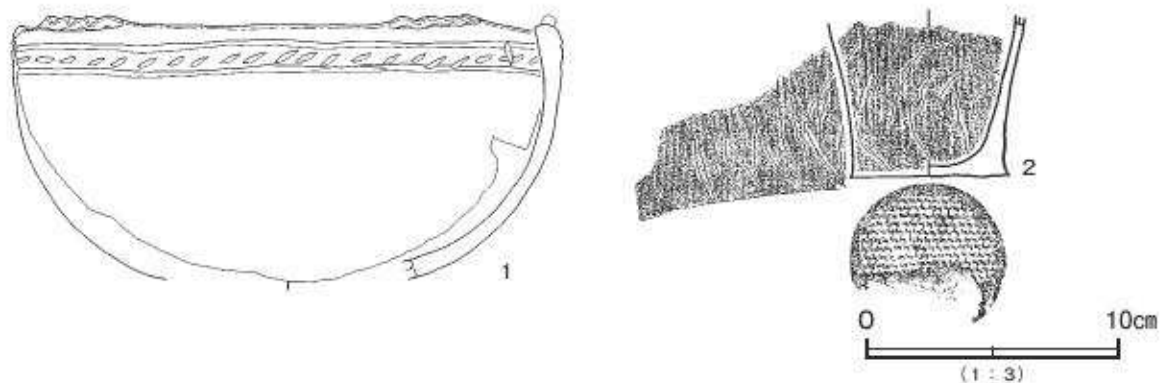
覆土 2層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片196点(231kg)、土製品1点(土器片円盤)、石器2点(磨製石斧、石皿類)のほか、粘土塊1点、発泡土器1点、石核3点(チャート)、剥片5点(チャート4、黒曜石1)、獣骨片などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも少量でかつ小破片であり、時間的なまとまりを捉えることができない。P6の覆土中から安行3c式の浅鉢が出土しているが、覆土上層からの出土であることなどから、本跡の帰属とするより、重複する第24号竪穴建物跡に伴うものとしたほうが適当である。

所見 時期は、出土遺物からは判断しかねるが、遺構の形状から、中期と考えられる。



第149図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 149 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(21.1)	(10.4)	—	灰・緑・黒・粘土	灰黄褐色	普通	外面沈線間刻突文、内面磨き	P 6	30% PL35
2	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	6.2	灰石・石灰・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面磨き 底部網代痕	P 7	30%

第 34 号竪穴建物跡 (第 150 ~ 152 図 PL11)

位置 調査 A 区東部の C 7a1 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層下で確認した。第 59 号竪穴建物に掘り込まれている。第 47 A・47 B・53 号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土遺物から、第 47 A・47 B・53 号建物跡に掘り込まれていると推測される。

規模と形状 長径 4.52 m、短径 3.44 m の楕円形で、長径方向は N - 2° - W である。壁は高さ 10 ~ 20 cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦であるが、南壁沿いが一段下がっている。硬化面は確認できなかった。

ピット 9 か所。壁際の P 1・P 3・P 4 が、位置と深さから支柱穴の可能性がある。ピットの覆土は暗褐色土が主体で、単一層のものが多く、P 8 は柱が抜き取られた後、埋め戻されたと考えられる。

P 8 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	100	20	32	66	18	32	17	41	11

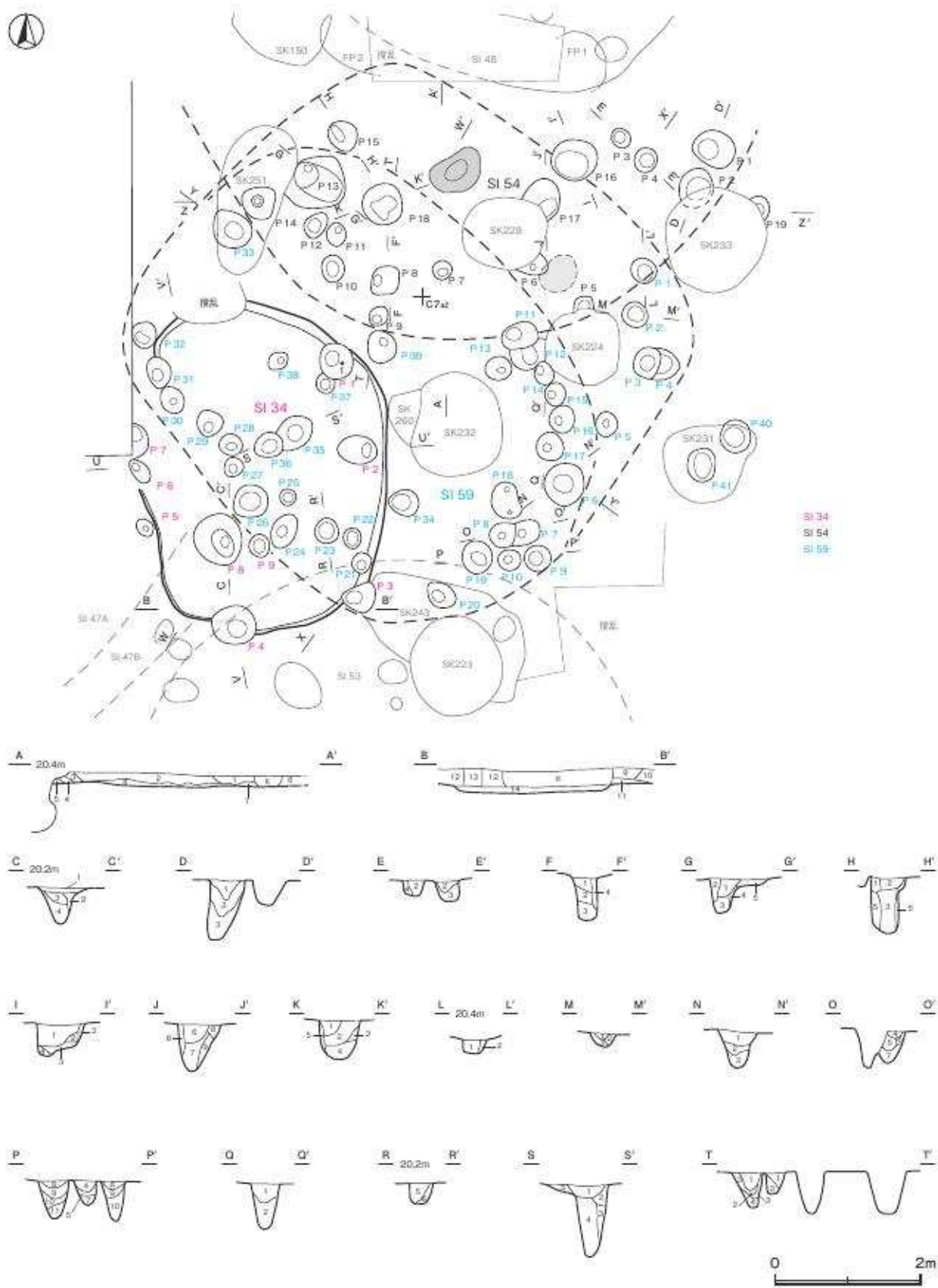
覆土 6 層に分層できる。暗褐色土が主体で、第 9 層には焼土粒子がやや多く含まれ、第 11・12 層には骨粉が含まれていることから、埋め戻されている。本跡を有段建物と考えると、第 9 ~ 13 層が有段上位の覆土、第 14 層が有段下位の覆土の可能性はある。

第 34・59 号竪穴建物跡土層解説

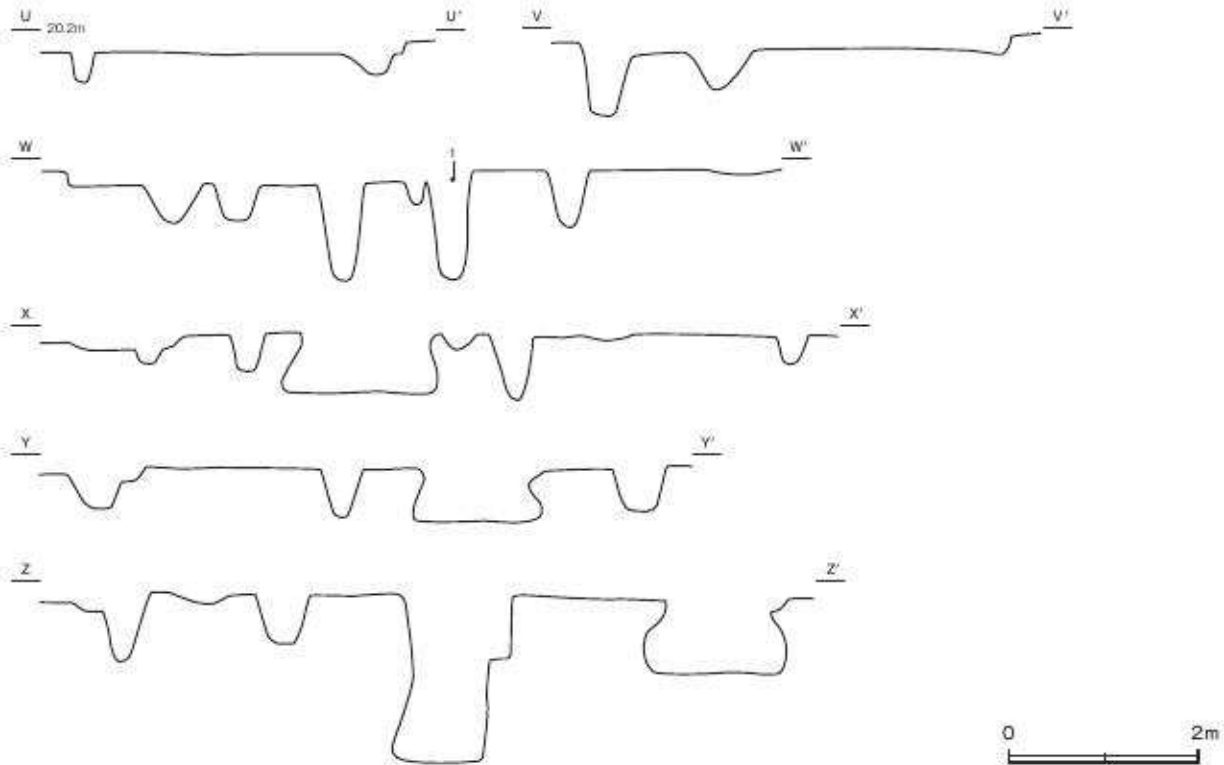
- | | | | |
|--------|---------------------------------------|---------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 (第 59 号建物跡覆土) | 10 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 (第 34 号建物跡覆土) |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (第 59 号建物跡覆土) | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉微量 (第 34 号建物跡覆土) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 (第 59 号建物跡覆土) | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 (第 34 号建物跡覆土) |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 (第 59 号建物跡覆土) | 13 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (第 34 号建物跡覆土) |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 (第 59 号建物跡覆土) | 14 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (第 34 号建物跡覆土) |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 (第 59 号建物跡覆土) | | |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子中量 (第 59 号建物跡覆土) | | |
| 8 褐色 | ロームブロック中量 (第 59 号建物跡覆土) | | |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 (第 34 号建物跡覆土) | | |

遺物出土状況 縄文土器片 673 点 (11.55kg)、土製品 3 点 (土器片円盤 1、耳飾り 2)、石器 2 点 (磨製石斧、磨石類) のほか、剥片 6 点 (チャート 4、黒曜石 1、頁岩 1)、獣骨類 9.06 g が出土している。土器は中期前葉から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 1 群 (阿玉台式) 25.5%、第 4 群 (堀之内式) 23.9%、第 2 群 (加曾利 E 式) 20.1% である。なかでも阿玉台式後半から加曾利 E I 式の土器群が多く出土している。獣骨類は被熱している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期前半の阿玉台 III 式から後半の加曾利 E I 式期と考えられる。掘方の形状や大きさ、支柱穴が壁際に寄っていること、炬が確認できないことなどから、当期に特徴的な有段建物の下段部分と考えることができる。



第150図 第34・54・59号竪穴建物跡実測図(1)



第 151 図 第 34・54・59 号竪穴建物跡実測図 (2)

第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 152 図)

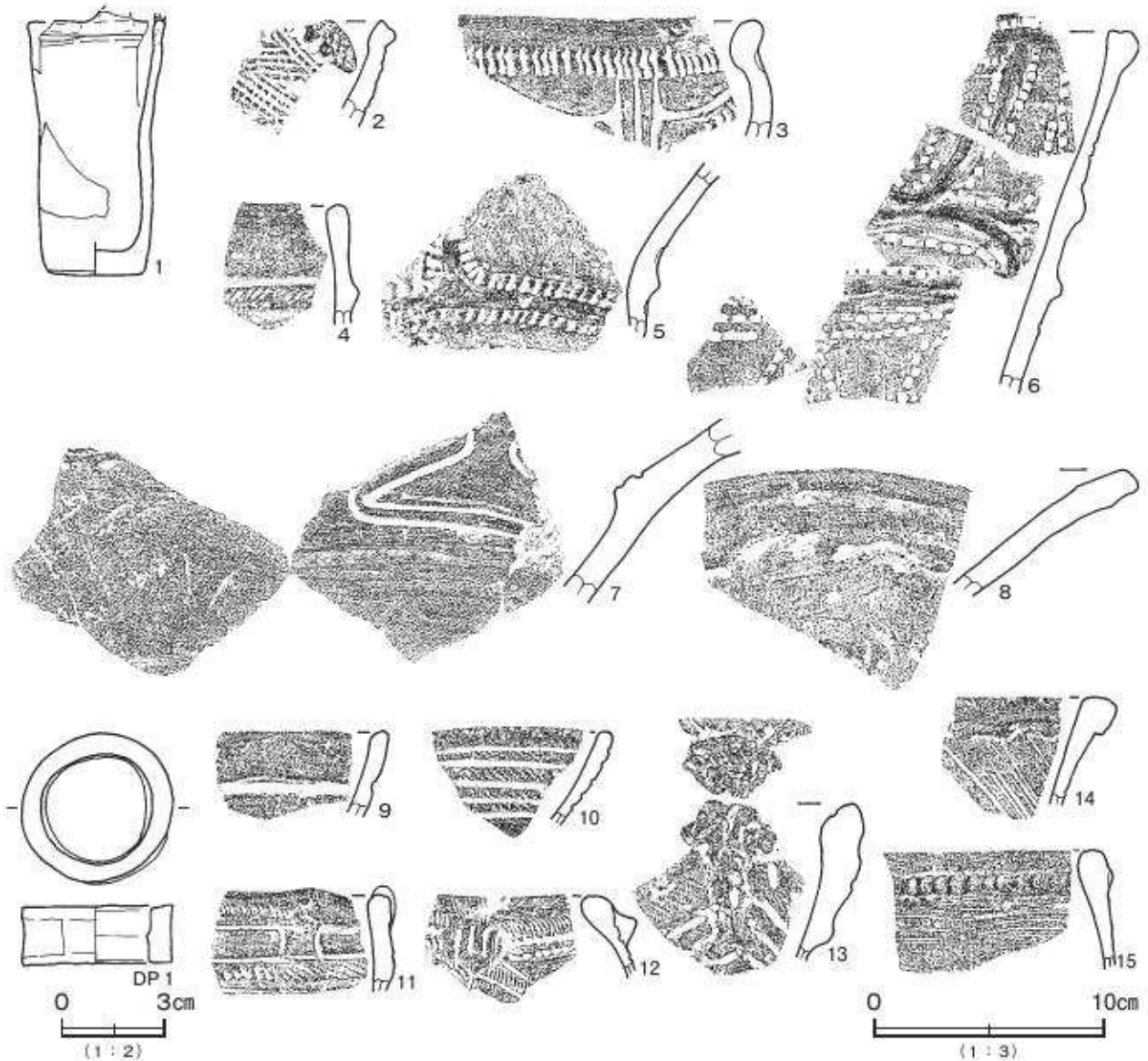
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	4.4	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部ナデ	床面	40%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	外周結節浮線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面爪形文・三叉文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面隆起帯上LR縄文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯輪角押文 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黒褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→削み→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
12	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	外周筋付→隆起帯輪沈線→削み 内面口縁磨き 断面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→縁線貼付 内面ナデ	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→縁線貼付 内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	耳飾り	径4.5	-	1.8	25.2	長石・石英・赤色粒子	橙	環状 外・内面ナデ	覆土中	II 1類 PL42

第 54 号竪穴建物跡 (第 150・151・153 図)

位置 調査A区東部のB 7j2区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層下で確認した。本跡の範囲内には、第 48・59 号竪穴建物跡、第 150・224・228・233・251 号土坑が位置しているが、堆積状況からの新旧関係は捉えられなかった。出土土器から見ると、第 48 号竪穴建物跡は中期前半、第 59 号建物跡は後期中葉から後葉、第 233 号土坑は中期後半、第 150・224・228 号土坑は後期後葉、第 251 号土坑は近世の土坑であることから、本跡が第 48 号竪穴建物跡、第 233 号土



第152図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図

坑を掘り込み、第59号建物、第150・224・228・251号土坑に掘り込まれていると推測できる。

規模と形状 炉跡を中心に径6m前後の範囲に、円形に巡っているビット列が確認できたため建物跡を想定したが、壁は確認できず、規模・形状とも不明とせざるを得ない。第48号竪穴建物跡のP9・P11・P15～P17・P19は、本跡に帰属するビットの可能性もある。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 長径78cm、短径50cmの地床炉で、深さ8cmほどで浅く掘りくぼめられている。炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。位置から本跡の帰属としたが、重複と残存状況からは、第59号建物跡に帰属する可能性もある。

ビット 19か所。P1・P2・P5・P8～P12・P14が炉跡を中心に円形に巡るように位置し、壁柱穴の可能性はあるが、径・位置ともやや不規則である。P16・P18は径がやや大きく深さもあり、支柱穴の可能性もある。

P 2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

P 3・P 4・P 13・P 15・P 17土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量（1より明）
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック中量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量

P 8土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

P 16土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

P 18土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ	38	41	25	31	41	175	16	60	32	25	27	21	53	66	82	33	70	57	19

遺物出土状況 縄文土器片 460 点 (7.544kg)、石器 3 点 (磨石類、砥石、礫器) のほか、剥片 4 点 (黒曜石 3、チャート 1) が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 4 群 (堀之内式) 24.6%、第 3 群 (称名寺式) 21.5% である。P 6 付近に径 60cm、厚さ約 10cm の焼土が堆積している。

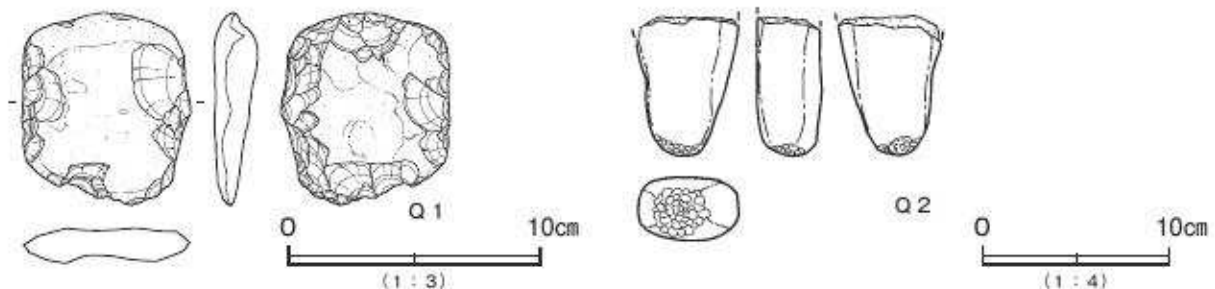
所見 時期は、出土土器や形状から、後期初頭から前葉と考えられる。

第 59 号竪穴建物跡 (第 150・151・154 図 PL11)

位置 調査 A 区東部の C 7a1 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層下で確認した。第 34 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。本跡の範囲内には第 53・54 号建物跡、第 224・228・231・232・243・251・260 号土坑が位置しているが、堆積状況から新旧関係は捉えられなかった。出土土器から見ると、第 53・54 号建物跡は後期初頭、第 231・232 号土坑は中期前半から後半、第 251 号土坑は近世であることから、本跡は第 53・54 号建物跡、第 231・232 号土坑を掘り込み、第 251 号土坑に掘り込まれていると推測される。

規模と形状 調査時は第 34 号竪穴建物跡、および第 14 号ピット群としたが、第 34 号竪穴建物跡の壁を掘り込むように径が 30～40cm のピットが方形に巡っていること、また覆土の堆積状況などから、第 34 号竪穴建



第 153 図 第 54・59 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)

物跡とは別の建物跡を想定した。P 1～P 10・P 19～P 32の壁柱穴の位置から、南北軸 6.3 m、東西軸 6.4 m の方形で、南北軸方向は N-45°-E である。また P 11～P 18 が弧状に巡っていることから、南北軸 4.5 m の D 字形の平面形も推定できる。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 41か所。P 11・P 34・P 35 と、第 54 号堅穴建物跡の P 8 が、位置と形状、深さから主柱穴の可能性がある。出入口ピットは確認できなかった。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

P 2・P 6・P 7・P 9・P 10・P 19 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量

P 17 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

P 23・P 35 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 藍暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

P 39・第 54 号建物跡 P 9 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

ピット深度表

(cm)

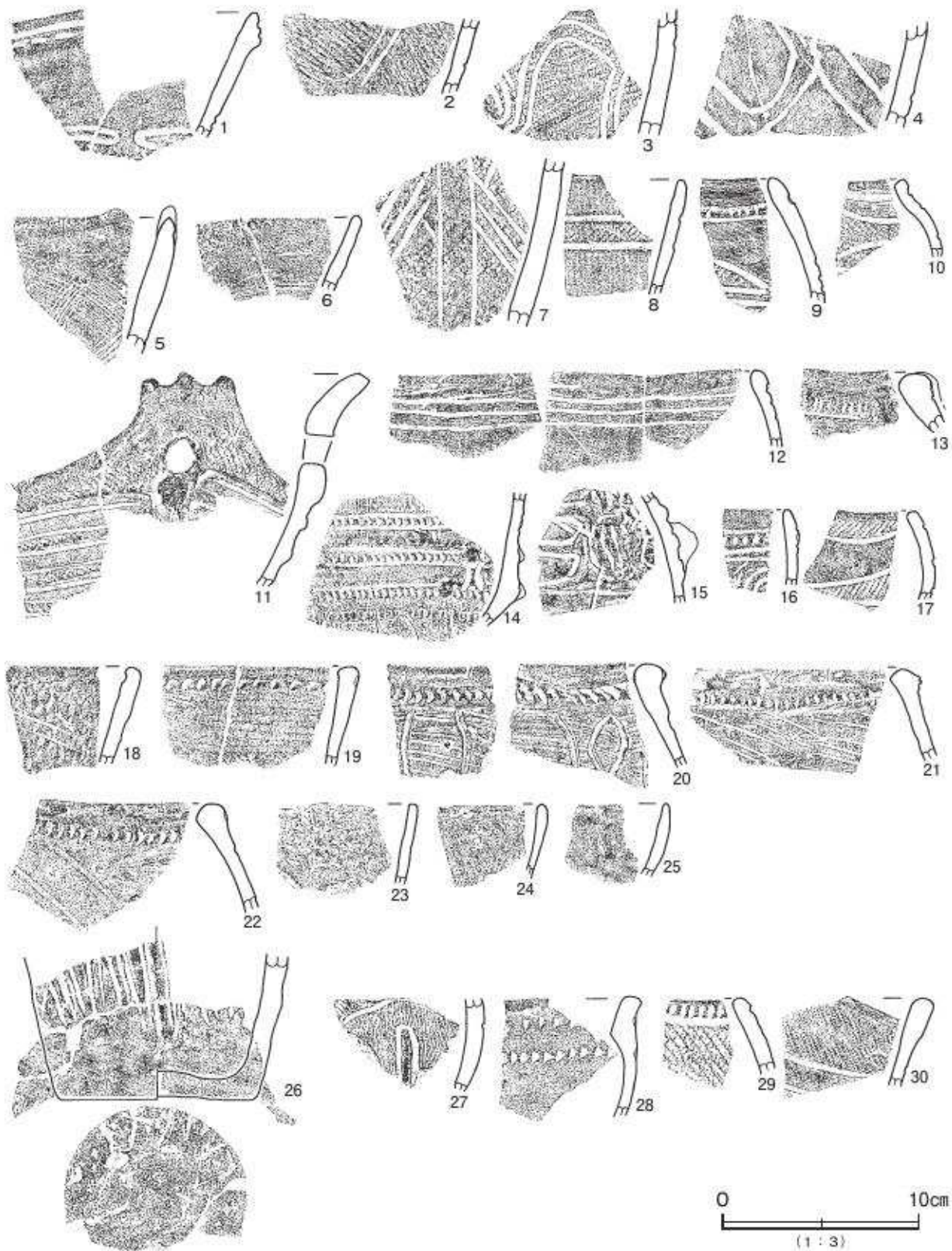
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	20	22	32	25	40	57	48	53	84	36	74	20	17	38	36	65	62	19	54	(50)	(23)	(21)	(36)	(57)	(20)
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41									
深さ	(44)	(32)	(51)	(62)	(51)	(50)	15	35	38	(110)	(22)	(29)	(46)	52	(83)	(52)									

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

所見 本跡を含む第 54 号建物跡から出土している土器群は第 3・4 群が主体であるが、第 5 群（加曾利 B 式）が 12.3%、第 7 群（後期安行式）が 14.6% ほど出土している。時期は、これらの土器や遺構の形状から、後期中葉から後葉と考えられる。

第 54・59 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 153・154 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	にぶい黄褐色	普通	口縁部沈線文・外面丁字文・内面ナデ	SI54-P13	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→無彫 R 縄文・内面磨き	SI54 覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面 RL 縄文→沈線・内面磨き	SI54-P7	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面無文部・内面磨き	SI54-P7	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面磨削状工具による条線・内面磨き	SI54 覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面磨削状工具による条線・内面ナデ	SI54 覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線・内面ナデ	SI54 覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・内面磨き	SI54 覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・内面磨き	SI54 覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き・内面磨き	SI54 覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯器沈線→RL 縄文→無文部磨き・内面磨き	SI54 覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外・内面ナデ	SI54 覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨削付→沈線→割み・内面ナデ	SI54 覆土中	
14	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→磨削付→隆起帯上刻み→無文部磨き・内面磨き	SI54 覆土中	
15	縄文土器	洋口	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	灰褐色	普通	外面隆起帯器沈線→RL 縄文→磨き・内面ナデ	SI54 覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	外面頸部入組文・内面ナデ	SI54 覆土中	



第154図 第54・59号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	SI54 覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明黄褐色	普通	外面地縄文→竹管文 内面磨き	SI54 覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘り土	明赤褐色	普通	外面条線→刷み 内面磨き	SI54 覆土中	

第54・59号竪穴建物跡出土遺物観察表（第153・154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・雲母・赤鉄子	にぶい褐色	普通	外面紅線貼付→条線→区画文・内面ナデ	SI54 覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面紅線貼付→条線・内面ナデ	SI54 覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤鉄子	にぶい褐色	普通	外面条線・内面ナデ	SI54 覆土中	
23	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面割離・内面ナデ	SI54 覆土中	口C1類
24	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面削り	SI54 覆土中	口C1類
25	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	外面削り・内面ナデ	SI54 覆土中	口B類
26	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面半軟竹管による沈線文・内面ナデ	SI59-P39	内面灰 10%
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面沈線→条線文・内面磨き	SI59-P35	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面角理文・内面磨き	SI59-P26	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明赤褐色	普通	外面沈線→RL補文・内面ナデ	SI59-P26	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	暗褐色	普通	外面沈線→RL補文→無文部磨き・内面ナデ	SI59-P39	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	摩器	7.7	6.7	1.8	92.1	火山礫凝灰岩	下・左右縁は両面からの剥離	SI54 覆土中	
Q 2	磨石類	(7.2)	(5.3)	3.4	(184.3)	輝石安山岩	自然礫の下縁部に敲打痕	SI54 覆土中	4e類

第35A～E号竪穴建物跡（第155～164図 PL 9・10・12）

位置 調査A区中央部のC 6 b8区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第18・39号建物跡、第180号土坑を掘り込み、第20・41・47号竪穴建物、第28・105～107・116・179号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第32号竪穴建物跡、第108～111・125・128・199・200・275号土坑が位置しているが、新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 弧状に連なる小ピット群や出入口ピット、複数の炉跡、および覆土の堆積状況から、少なくとも5棟以上の建物跡が推定できる。C 6 c8付近の弧状の段差を壁とし、P 44～P 50を出入口ピット、P 7～P 16・P 26～P 36などを壁柱穴とする第35 A号建物跡は、出入口部を含めた南北径は6.5 m、東西径は約6.5 mの円形で、出入口ピットから推定できる主軸方向はN-45°-Eである。壁は高さ8～10 cmで、外傾している。P 107～P 118を出入口部とし、炉6を炉跡とする第35 B号建物跡は、西側が第2～4号溝に掘り込まれているため、また調査除外部分があるため規模や形状は不明であるが、炉と出入口ピットから推定できる主軸方位はN-97°-Wである。第35 A・B号建物跡の上位にある炉2を炉跡とし、P 18～P 22を出入口ピットとする第35 C号建物跡は、第35 A号建物跡と位置や壁柱穴をほぼ同じくし、径7 mほどの円形と推定でき、炉跡と出入口ピットから推定できる主軸方向はN-0°である。第35 A～35 C号建物跡の東に位置する炉7を炉跡とし、P 135・P 136、第47号建物跡のP 17～P 19を出入口ピットとする第35 D号建物跡は、炉と出入口ピットなどから、径7 mほどの円形で、主軸方向はN-101°-Wと推定できる。第35 A～C号建物跡の北側に位置し、炉1・4・5などを炉跡とする第35 E号建物跡は、P 82・P 83・P 87～P 89の出入口ピットの西側の段差を壁の一部とし、P 125・P 127～P 130、および第47号建物跡の帰属としたP 67・P 68・P 86・P 87などを壁柱穴とすると、東西径は約7.0 m、出入口部を含めた南北径は約5.0 mの楕円形で、主軸方向はN-15°-Eである。このほかにもP 64～P 68、P 71～P 79、P 93～P 98の出入口ピット状のピット群や炉3などがあり、ほかに複数の建物跡が重複しているものと考えられる。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 本跡の範囲内に7か所確認できる。炉1は第35 E号建物跡の南に位置し、重複のため長径は60 cm、短径は50 cmしか確認できなかった。深さ3～5 cmの浅くくぼんだ地床炉で、覆土は赤褐色土で、焼土粒子が多く含まれている。炉2はP 113～P 121の上面で確認できた。長径120 cm、短径90 cm、深さ40 cmの地床炉で、中層から下層に多量の灰が含まれている。炉3は第35 D号建物跡の南西部に位置するもので、建物跡の帰属

は明確ではないが、長径 54cm、短径 44cm、深さ 14cm の地床炉である。炉 4 は第 180 号土坑の上面で確認できたもので、長径は 80cm で、短径は 36cm しか確認できなかった。深さ 22cm の地床炉で、底面は被熱で赤変硬化している。炉 5 は P 65 に掘り込まれているため、東西径は 56cm で、南北径は 20cm しか確認できなかった。深さ 18cm の地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。炉 6 は第 35 B 号建物跡、あるいは第 35 C 号建物跡に伴うと考えられる炉で、P 50・P 51 に掘り込まれている。長径 90cm、短径 72cm、深さ 5cm の楕円形の地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。炉 7 は第 35 D 号建物跡に伴うもので、長径 74cm、短径 62cm、深さ 34cm の地床炉である。火床面の赤変硬化は確認できなかった。

炉 1 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子・骨粉微量

炉 2 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量
- 3 褐灰色 灰多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 赤褐色 焼土粒子極多量
- 5 橙褐色 焼土ブロック多量、灰中量、炭化粒子・骨粉少量、ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

炉 3 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

炉 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

炉 5 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

炉 6 土層解説

- 1 にみど褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量

炉 7 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 第 35 A～E 号建物跡で合わせて 158 か所。第 35 A 号建物跡及び第 35 C 号建物跡は、ほぼ同位置にあると考えられ、個々の判別が困難である。上述したほかに P 52・P 54～P 56・P 61～P 63、第 47 号建物跡の P 22・P 23 などが壁柱穴となる可能性がある。また、P 1～P 6・P 127・P 128 や、第 41 号堅穴建物跡の出入口ピットとした P 59～P 63 など本跡の壁柱穴となる可能性もあり、複数回の立て替えが推測される。深さのあるピットは多数あるが、位置的に P 82・P 91・P 92・P 102・P 105・P 119～P 121・P 123・P 125 などが支柱穴の可能性もある。第 35 B 号建物跡は、P 38～P 40、P 71～P 73・P 75 などを壁柱穴とするものと考えられるが、他にも P 25・P 26 などが考えられる。第 35 D 号建物跡は、第 47 号建物跡の P 15・P 16・P 48～P 50 と、ほかに第 20 号建物跡の帰属とした P 2・P 5・P 6・P 13・P 47～P 49 などの弧状に巡っているピット群が壁柱穴に相当する可能性がある。第 35 E 号建物跡は、上述したほかに P 78・P 131・P 132・P 160・P 161、第 39 号建物跡の帰属とした P 11・P 12、第 47 号建物跡の P 29・P 77・P 78・P 87～P 94、第 41 号堅穴建物跡の帰属とした P 8・P 11・P 27 などが壁柱穴となる可能性がある。北部及び東部の壁柱穴がまばらであるのは、重複により掘削を受けたためと考えられる。支柱穴は不明瞭であるが、P 66・P 67・P 133、第 47 号建物跡の帰属とした P 24 などが、位置や深さから支柱穴となる可能性がある。

P 48 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

P 64・P 67 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P 65 土層解説

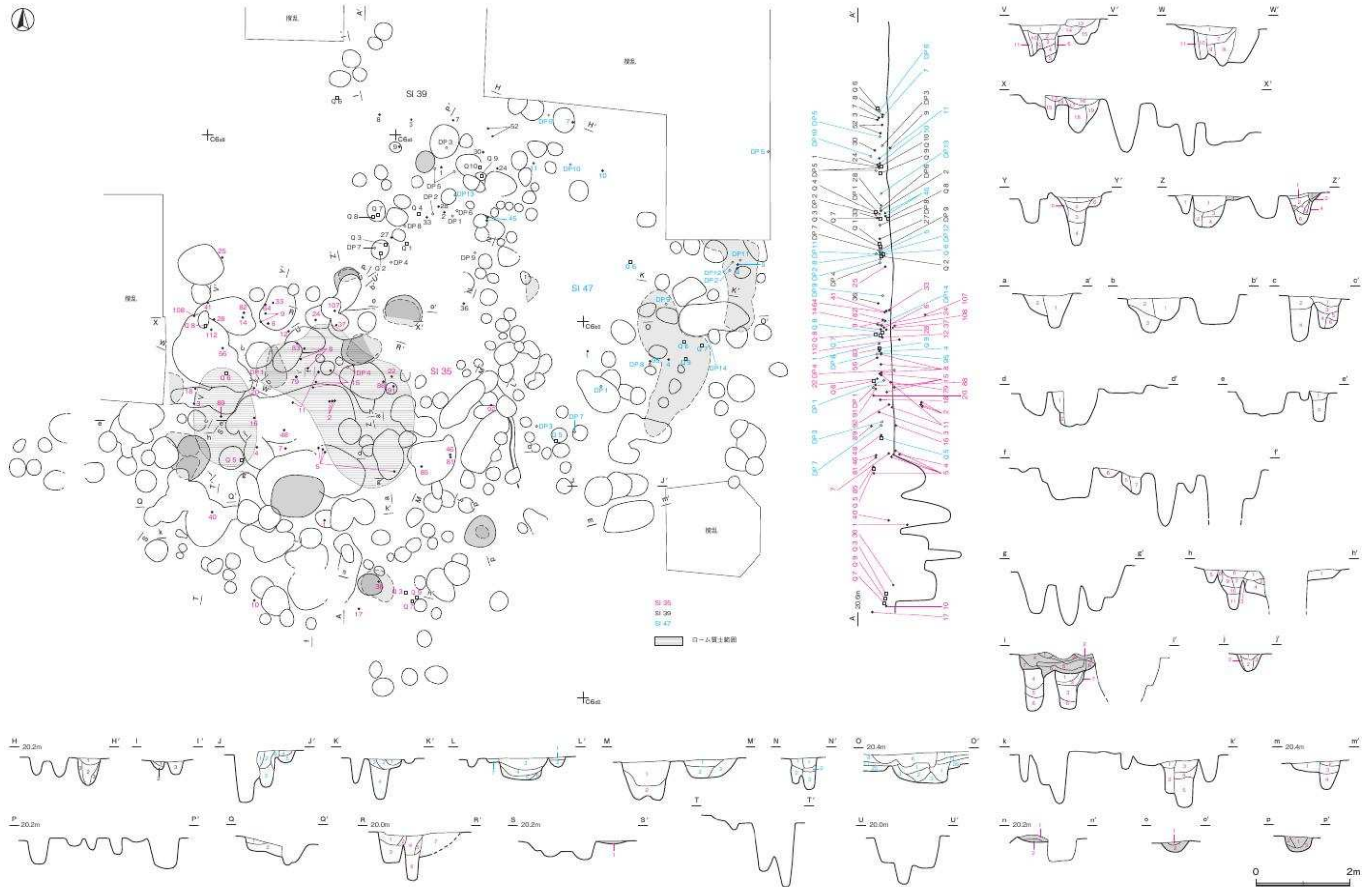
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 82・P 83 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量



第 155 图 第 35・39・47 号竖穴建物跡实测图 (1)



第156图 第35·39·47号竖穴建物跡夹测图(2)

P 72・P 73・P 75・P 77～P 79 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ロームブロック、炭化物、骨粉少量
 2 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子中量、炭化粒子、骨粉少量
 3 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 4 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 5 暗褐色 ロームブロック少量
 6 褐色 ローム粒子多量
 7 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 8 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 10 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 13 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 14 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子微量
 15 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 17 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 18 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 19 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

P 74・P 103 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子少量
 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量（3より暗）
 5 黒褐色 ロームブロック多量
 6 黒褐色 ローム粒子少量

P 81 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量

P 88・P 89 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック、炭化粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子少量
 3 極暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 4 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

P 93・P 94 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子、炭化粒子中量、焼土粒子少量、骨粉微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量

P 95 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子少量

P 97・P 98 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量

P 105 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量

P 106 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子多量

P 107・P 109・P 111 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子少量、骨粉微量
 2 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 3 褐色 ローム粒子多量
 4 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量、骨粉微量
 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 6 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子少量
 7 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 8 褐色 ローム粒子中量
 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 10 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 11 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

P 119・P 120 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 2 極暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量
 4 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 5 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
 6 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 122・P 123 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子、骨粉微量
 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 135・P 136 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
 4 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	21	4	19	23	17	43	42	44	28	33	66	31	27	23	37	16	23	37	108	56	60	26	10	14	9
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	37	30	17	19	41	18	11	13	48	60	19	83	63	60	26	85	83	25	135	101	19	92	27	26	31
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	23	22	33	16	37	18	-	46	107	50	21	32	21	59	68	110	110	94	欠	欠	72	103	117	80	87
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	86	15	38	80	48	57	81	47	28	53	13	19	80	52	27	78	116	77	73	99	65	20	40	13	14
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
深さ	21	72	133	17	90	40	34	94	50	60	101	55	84	43	69	48	70	35	112	131	109	48	85	-	23
番号	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
深さ	49	6	37	8	7	17	19	-	欠	60	22	55	40	20	97	49	36	17	30	29	42	49	32	20	50
番号	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161														
深さ	35	86	26	33	47	29	57	92	20	71	79														

覆土 第35 A～E号建物跡で合わせて31層に分層できる。第1～11層は第35 C号建物跡の覆土、第12～24層は第35 A号建物跡あるいは第35 B号建物跡の覆土である。第25層は第2号遺物包含層の一部である可能性がある。第26～28層は第35 D号建物跡の覆土、第29～31層は第35 E号建物跡の覆土である。第3・5～7層は、ローム粒子が多量に含まれている黄褐色土で、上層に堆積する第2号遺物包含層に類似する。第4・18層は焼土粒子が多く含まれている層で、第35 C号建物跡はローム粒子が多く含まれている黄褐色土と焼土粒子が多く含まれている赤褐色土で埋め戻されている。第35 A・B号建物跡の床面近くには焼土粒子が多く含まれている層が広く堆積しており、埋め戻されている。第35 D・E号建物跡は、ローム粒子がやや多く含まれている第26・28・30層で、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	17 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	18 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	19 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	20 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい橙色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	21 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黄褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	22 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	23 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	25 褐色	ローム粒子中量(第2号遺物包含層)
11 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
12 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	27 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	28 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
14 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	29 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	30 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
		31 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

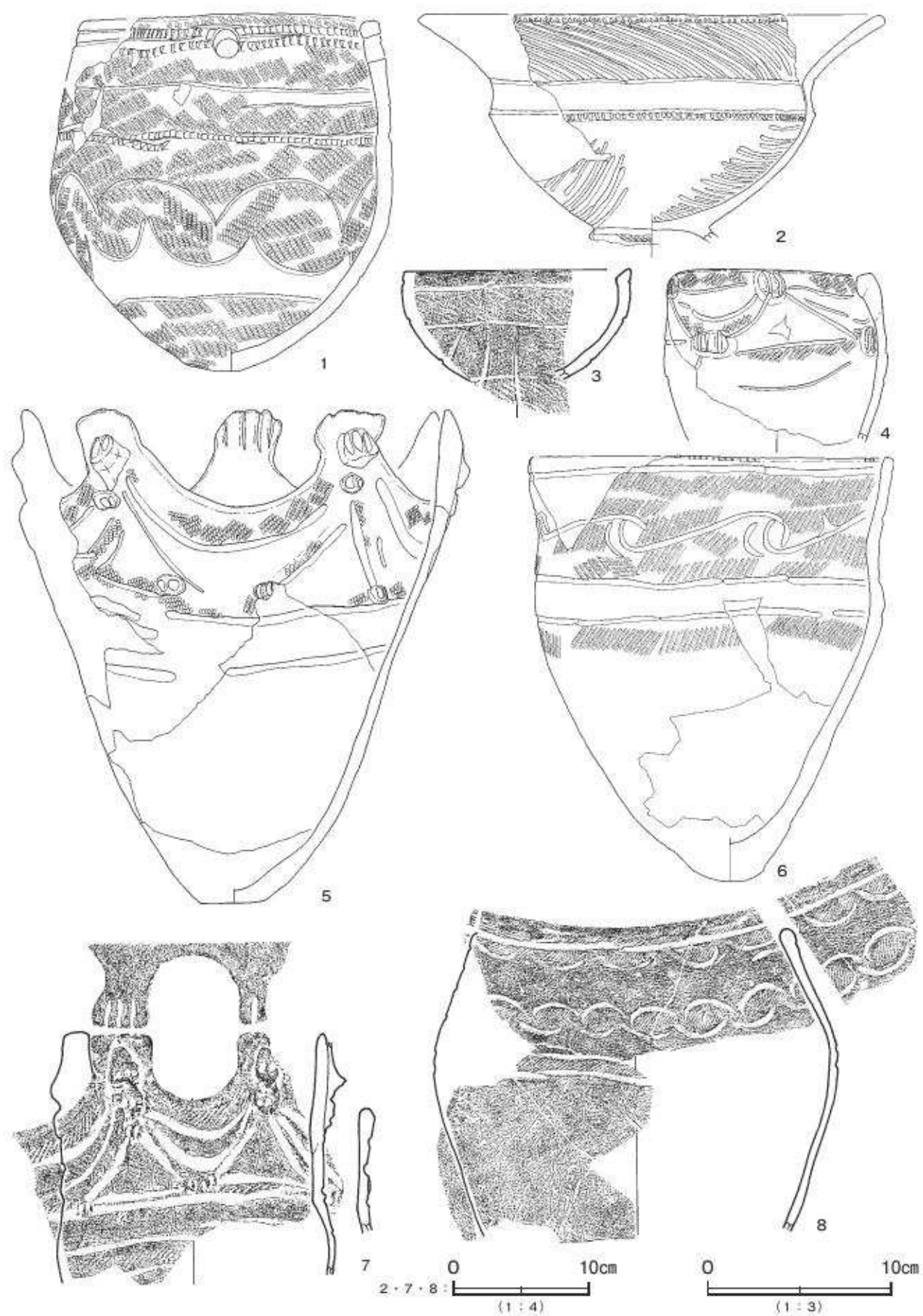
遺物出土状況 縄文土器片7,132点(104.77kg)、土製品15点(土器片円盤3、耳飾り5、土版1、土偶3、貝輪状3)、石器・石製品29点(石鏃1、石錐1、石錘1、打製石斧2、石皿類5、磨石類13、砥石3、石棒・石剣類2、玉類1)のほか、発泡体8点、焼成粘土塊2点、石核2点(チャート、頁岩)、剥片33点(チャート19、黒曜石14)、獣骨片32.93gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群の晩期前葉～中葉(24.3%)、第5群の後期中葉(17.3%)、第4群の後期前葉(15.5%)、第7群の後期後葉(14.7%)のものである。遺物は覆土上層から多く出土しているが、5・16・32・36・DP4は床面から出土している。2はP110と第179号土坑から出土したものが接合している。P12・P39・P50・P51・P65・P73・P78・P82・P84・P85・P91・P111・P114・P120からは、後期中葉以前の土器が出土している。また、第20号建物跡のP2・P6・P12、第47号建物跡のP15・P48・P49なども、後期中葉以前の土器が出土しているピットである。Q6は覆土上層から横位で出土している。

所見 覆土の堆積状況から、第35 D号建物跡、第35 E号建物跡が最も古く、第35 B号建物跡、第35 A号建物跡、第35 C号建物跡の順に構築されていると考えられる。第35 D号建物跡、第35 E号建物跡の新旧関係は不明である。時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、第35 A号建物跡が晩期前葉の安行3 a式期、第35 B号建物跡が後期後葉の安行2式から晩期前葉の安行3 a式期、第35 C号建物跡が晩期前葉の安行3 b式期に比定できる。第35 D号建物跡は、第20号建物跡との重複関係から後期後葉以降、また壁柱穴が弧状に巡っており、後期中葉以前の遺物を出土するピットがやや多くみられることから、後期前葉から中葉と考えられる。第35 E号建物跡は、形状から後期中葉から後葉と推測できる。また当区域に位置する建物跡との新旧関係を再度確認すると、堆積状況や遺構の残存状況などから、第35 E号建物跡を第41号建物、第47 B号建物が掘り込み、第35 D号建物跡を第47 B号建物が掘り込んでいる。第39号建物跡は第35 E号建物に掘り込まれている様子が確認できる。第35 C号建物跡の覆土中には、ローム粒子が多く含まれている

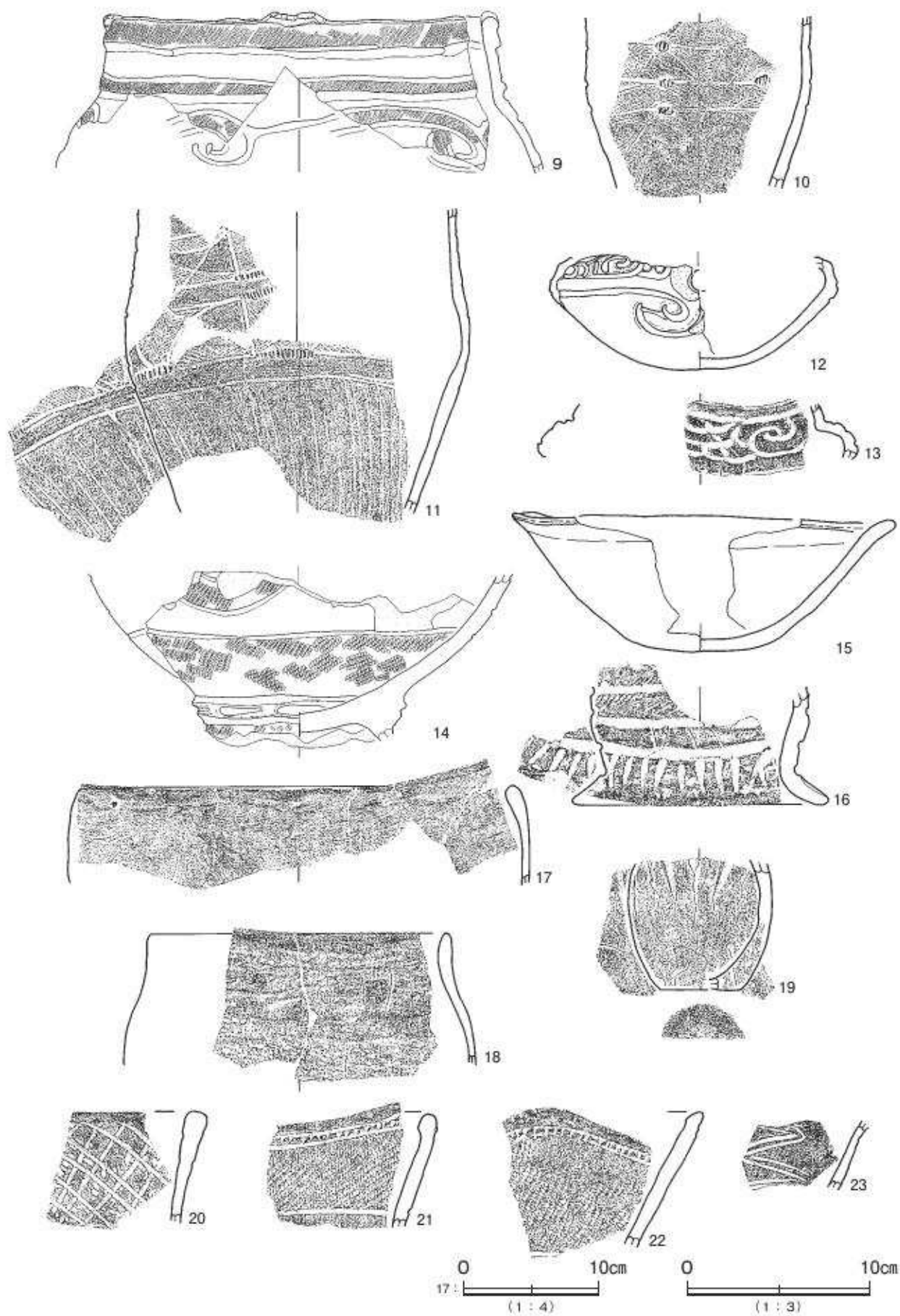
黄褐色土が面的に広く確認できる点が特徴的で、焼土ブロックが多く含まれている層がブロック状に見られることなどから、建物の廃絶時の整地行為が推測される。またこの上部には黄褐色土が主体の第2号遺物包含層が形成されていることから、遺物包含層の形成過程を伺うことができる。

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表(第157～164図)

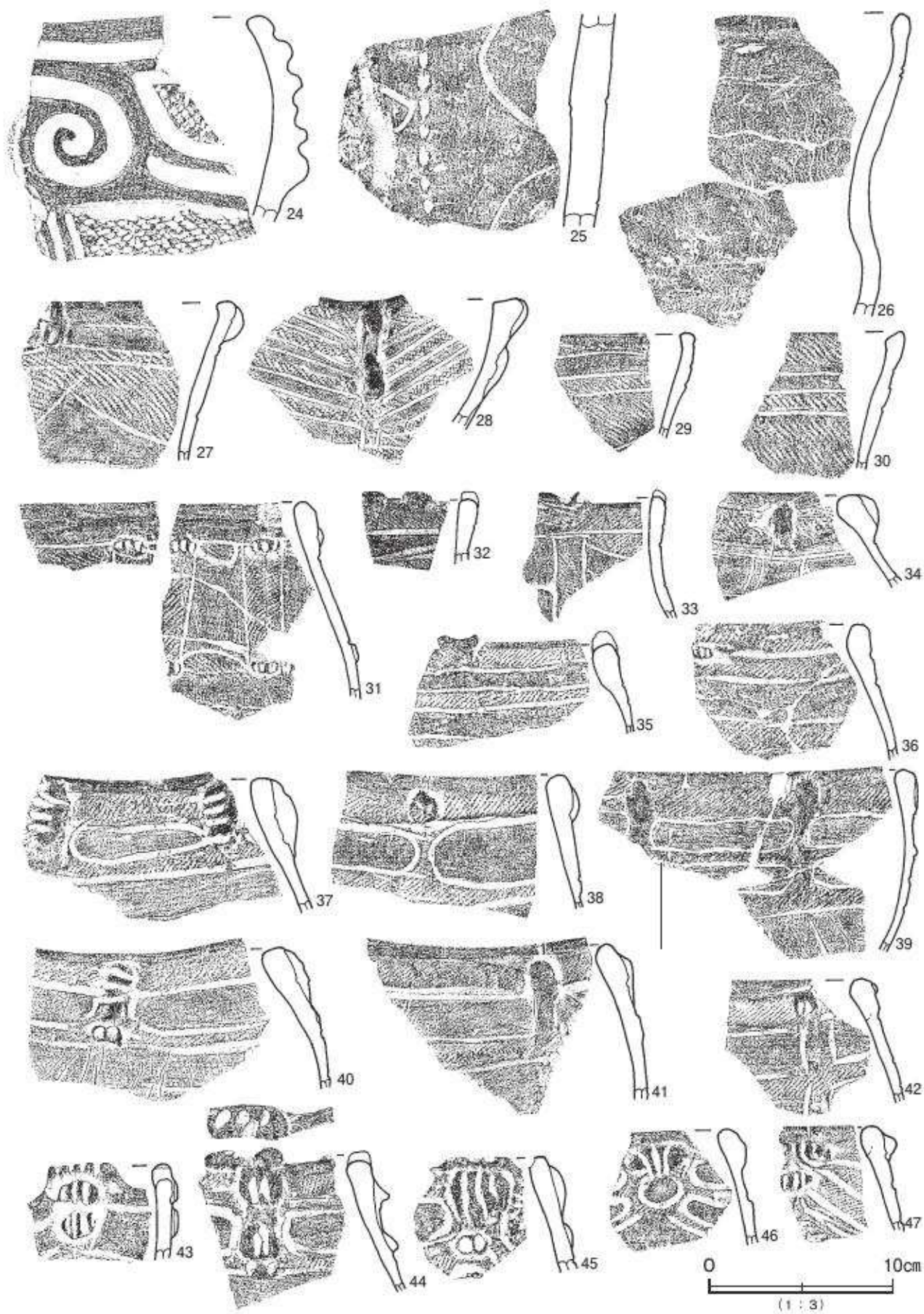
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	15.6	19.6	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 胴部・底部削り 内面ナデ	P 122	80%
2	縄文土器	台付鉢	[33.1]	(16.9)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	外面磨き 胴部削り→条線 胴部RL縄文 内面磨き	P 110	60% PL29
3	縄文土器	浅鉢	[12.4]	(5.9)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中層	40%
4	縄文土器	深鉢	10.7	(9.4)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 胴部削り 内面ナデ	P 112	40%
5	縄文土器	深鉢	[22.2]	26.8	3.5	長石・石英	暗褐	普通	5単位 外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	床面	50% PL29
6	縄文土器	深鉢	19.2	23.2	3.9	長石・石英・赤褐色	褐灰	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文磨き 内面磨き 胴部削り	覆土中層	70% PL29
7	縄文土器	深鉢	[17.8]	(13.0)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	5単位 外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	30%
8	縄文土器	深鉢	22.0	(21.9)	—	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土中層	60% PL29
9	縄文土器	深鉢	20.5	(8.8)	—	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄	普通	4単位 外面沈線→無筋L縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	10% PL30
10	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文磨き 内面ナデ	覆土中層	10%
11	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文磨き 内面磨き	覆土下層	20%
12	縄文土器	注口	—	(6.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面手曲状文 磨き 内面ナデ	覆土中層	30% PL35
13	縄文土器	注口	—	(2.9)	—	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面磨き 磨き 内面ナデ	覆土下層	5%
14	縄文土器	台付鉢	—	(9.2)	—	長石・石英・赤褐色	灰白	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 胴部L縄文 内面磨き	覆土上層	20%
15	縄文土器	浅鉢	20.7	7.7	—	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外・内面磨き	覆土下層	20% PL35
16	縄文土器	台付鉢	—	(6.4)	[13.5]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨きナデ 内面ナデ	床面	10%
17	縄文土器	深鉢	[30.8]	(7.1)	—	長石・石英・赤褐色	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	10%
18	縄文土器	深鉢	[15.8]	(7.2)	—	長石・石英	黒褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	20%
19	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	[4.4]	長石・石英	にぶい黄	普通	外面削り 内面指張ナデ	P 81	20%
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	明赤褐	普通	外面磨き→格子目文 内面磨き	覆土中層	—
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	杯2	—
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	橙	普通	口縁部外面削り→LR縄文 内面磨き	覆土中層	—
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	外面手曲状沈線文 内面磨き	杯2	—
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面RL縄文→沈線→沈線磨き 内面磨き	覆土上層	—
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面一葉の刺突文 内面ナデ	覆土下層	—
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	橙	普通	外面磨き状工具による波状磨き 内面ナデ	覆土下層	—
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外面磨き帯線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	杯2	—
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外面磨き帯線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	—
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	—
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	黄橙	普通	外面磨き帯線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	杯2	—
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き付 無文磨き 内面磨き	覆土下層	—
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	褐灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	杯2	—
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	床面	—
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→RL縄文 内面ナデ	覆土下層	—
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土上層	—
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	床面	—
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	床面	—
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	—
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	黄橙	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	杯2	—
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	明赤褐	普通	外面磨き帯線→磨き付→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	—
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土下層	—
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰褐	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中	—
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土下層	—
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい赤褐	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土上層	—
45	縄文土器	注口	—	—	—	長石・赤色粒子	橙	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土上層	—
46	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英・赤褐色	明赤褐	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨きナデ 内面ナデ	覆土上層	—
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土下層	—
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	明赤褐	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中層	—
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→RL縄文→無文磨きナデ 内面ナデ	覆土下層	—
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面磨き帯線→無筋L縄文→無文磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土上層	—
52	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
53	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土下層	—
54	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	灰黄褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
55	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
57	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	—
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土中	—
59	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤褐色	にぶい黄	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土下層	—



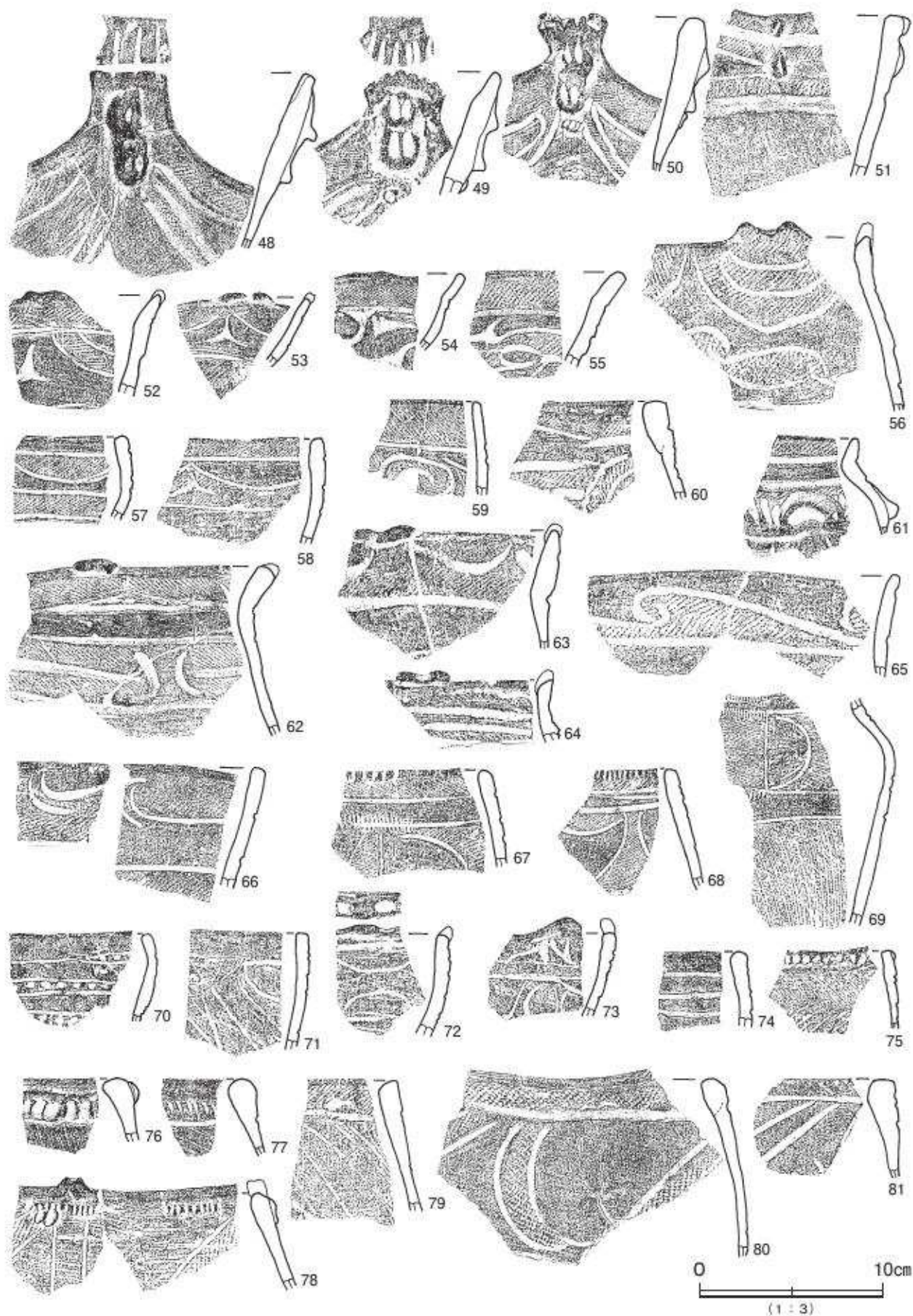
第 157 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



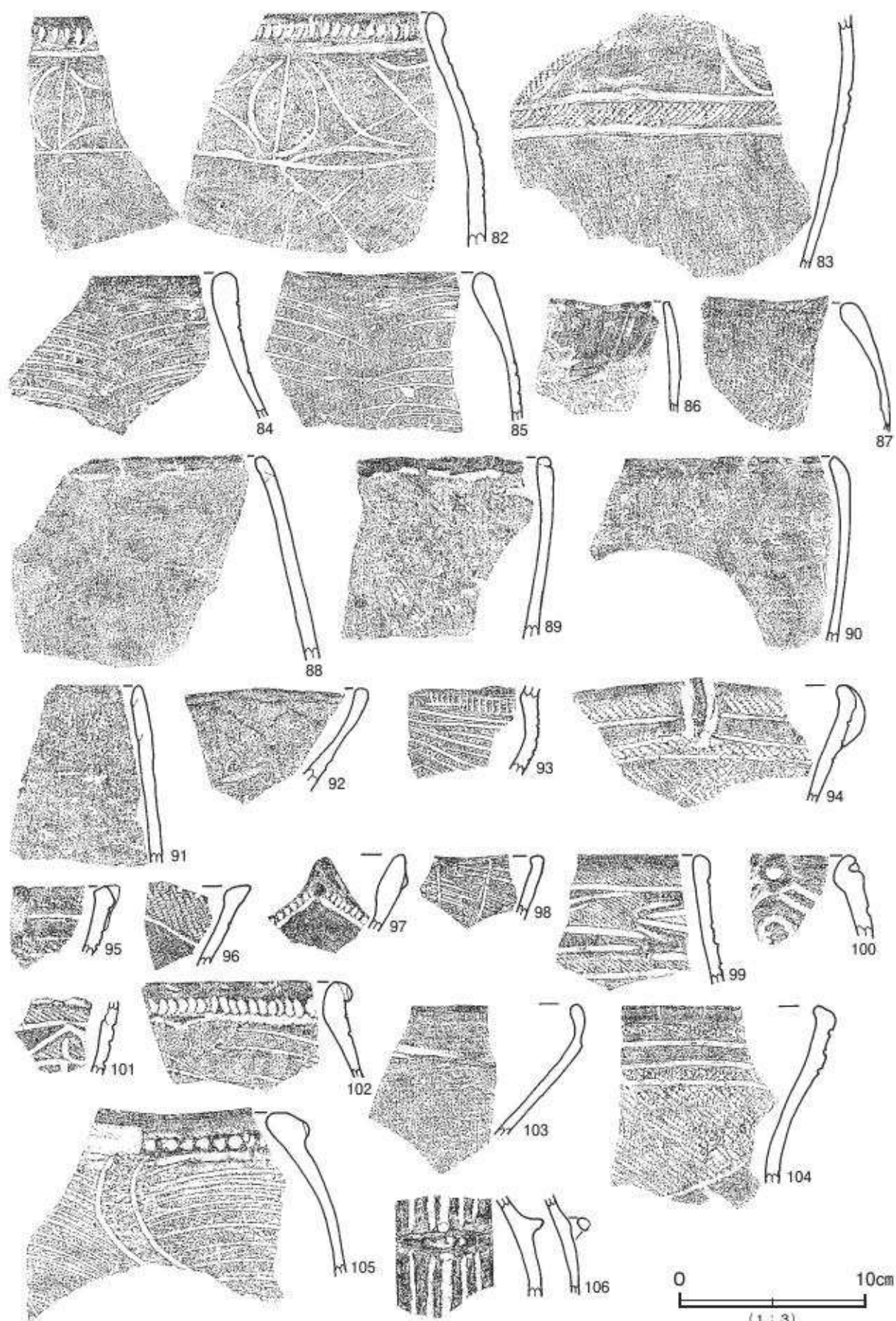
第 158 図 第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



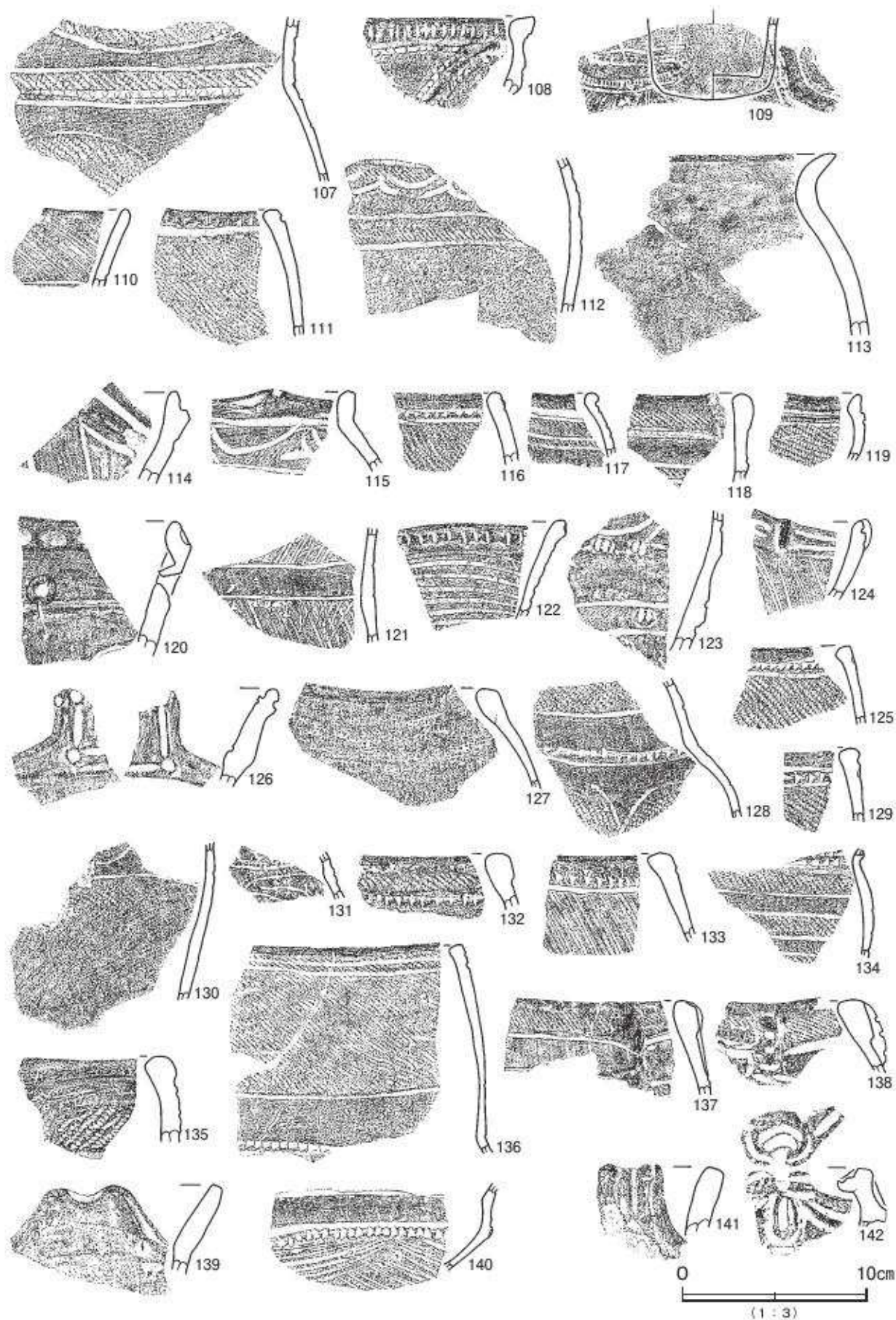
第 159 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



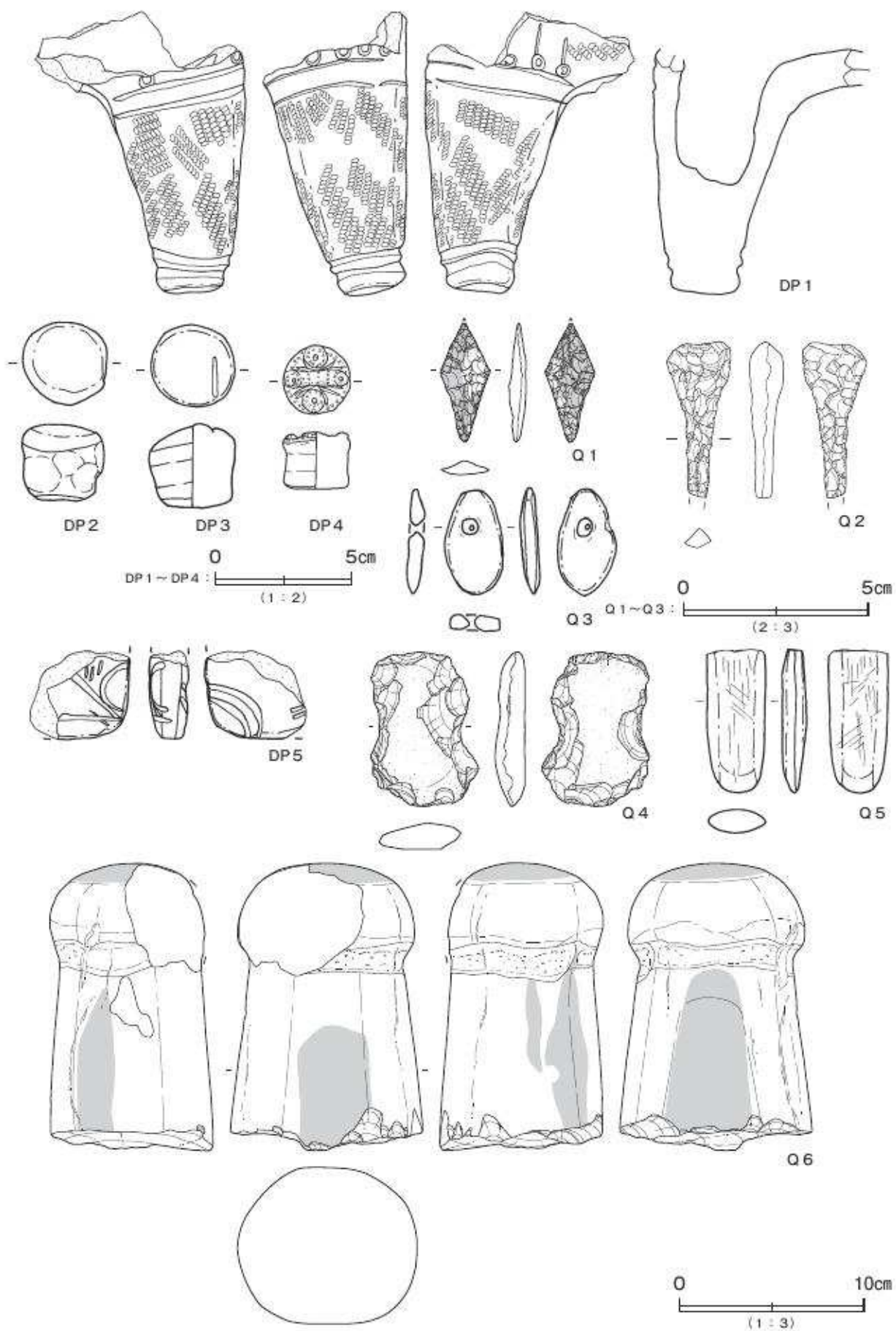
第 160 図 第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



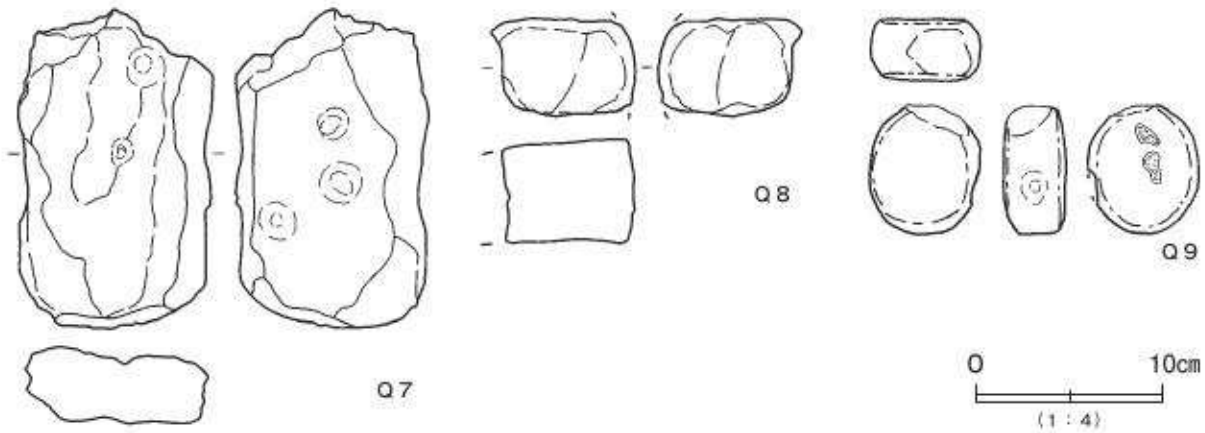
第 161 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (5)



第 162 図 第 35 号豎穴建物跡出土遺物実測図 (6)



第 163 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (7)



第164図 第35号竪穴建物跡出土遺物実測図(8)

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表(第157～164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	橙	普通	外面隆起帯縁沈線→無文部磨き→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄橙	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
70	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線周縁突文 内面ナデ	覆土下層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面棒状文 内面ナデ	覆土下層	
72	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面変形状区間文。内面磨き	覆土下層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	外面沈線文 内面削り	覆土下層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面に縦線文 内面ナデ	覆土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土下層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面条線→縦線貼付 沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	外面沈線→LR縄文→条線 内面ナデ	覆土下層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角質石屑	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	如2	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面条線→頸部区間文→沈線周磨き 内面ナデ	覆土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面頸部区間文 内面ナデ	覆土中層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土上層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
86	縄文土器	梨塼	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 割離 内面ナデ	如3	口B類
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	外面に焦
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
92	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石	黄 橙	普通	外面削り 内面磨き	床面	
93	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	胴部外面斜線文→削み 内面磨き	P 12	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面隆起帯縁沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 26	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面隆起帯縁沈線→RL縄文 内面磨き	P 30	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 33	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・赤褐	普通	外・内面磨き	P 33	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面条線 内面磨き	P 33	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 42	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	口縁部外面凹点文 内面磨き	P 50	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 62・P 79	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・褐	普通	外面条線 縦線貼付 内面ナデ	P 62・P 79	
103	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	胴部外面削り 内面磨き	P 64・P 67	

第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 157 ~ 164 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 64・P 67	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面条線→組紐貼付→頸部区画文 内面ナデ	P 66	
106	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	紐掛け突起部 内面ナデ	P 64・P 67	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 64	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面隆起帯際に一糸の角押文 内面磨き	P 77	
109	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	5.2	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆起帯際 2列の爪形文 内面ナデ	P 77	5%
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	暗赤褐色	普通	外面区画沈線→条線 内面磨き	P 77	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	P 77	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 77	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁部外面ナデ 頸部磨き 内面ナデ	P 77	
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	P 73	
115	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 73	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	P 74	
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	赤褐色	普通	外面隆起帯際沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 74	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	赤褐色	普通	外面隆起帯際沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 74	
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	P 74	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	口縁部外面四点文 内面ナデ	P 74	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	灰褐色	普通	外面条線→沈線→頸部磨き 内面磨き	P 74	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	赤褐色	普通	外面組紐貼付→条線 内面磨き	P 74	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯際沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 80	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面条線 内面磨き	P 83	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	P 92	
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	突起部 内面磨き	P 85	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	赤褐色	普通	外面前り 内面ナデ	P 89	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 89	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	P 92	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 89	
131	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	頸部外面爪線文 内面ナデ	P 96	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面隆起帯際斜み→RL 縄文 内面ナデ	P 42	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	褐色	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	P 102	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 105	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	外面LR 縄文→隆起帯際なぞり 内面磨き	P 106	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	灰褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 103	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	黄褐色	普通	外面組紐貼付→隆起帯際沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 104	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・赤褐色	赤褐色	普通	外面隆起帯際沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 123	
139	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	波状口縁 外・内面ナデ	P 111	
140	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→条線→刻み→無文部磨き 内面磨き	P 111	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	波頂部 外・内面ナデ	覆土下層	
142	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯際沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	P 123	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(10.1)	(7.6)	(5.2)	(157.3)	長石・石英・赤色砂子	橙	中空 RL 縄文	覆土上層	54番 二次焼成
DP 2	耳飾り	径 3.0	-	2.8	27.6	長石・石英	黒褐色	白型 指環ナデによる整形	P 64・P 67	I 2類
DP 3	耳飾り	径 3.1	-	3.1	28.3	長石・石英	浅黄褐色	白型 ナデ整形	覆土下層	I 2類
DP 4	耳飾り	径 2.5	-	2.1	13.3	長石・石英	赤褐色	白型 細かい利突文充填	床面	11番 彩形 PL4
DP 5	土 版	(4.8)	(5.5)	2.2	(57.2)	長石・石英	赤褐色	表裏面爪線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏃	(3.24)	1.36	0.48	(1.3)	チャート	有茎 表裏面に光沢あり 擦痕。	覆土中	PL47
Q 2	石 鏃	(4.24)	1.76	0.96	(4.57)	チャート	先端部欠損	P 92	PL47
Q 3	玉 類	2.9	1.6	0.5	3.6	蛇紋岩	磨瑯整形 片面穿孔	覆土中層	PL46
Q 4	打製石斧	8.40	5.85	1.63	90.5	フレイライト	分銅型 上端部に擦痕あり	覆土下層	PL45
Q 5	砥 石	(7.8)	3.2	1.3	(33.2)	砂 岩	扁平型 表裏 2面使用	覆土上層	4類
Q 6	石 棒	15.6	10.5	8.9	2412.3	緑色片岩	大形 頂部・側面に磨痕	覆土上層	核熱 PL48
Q 7	石皿類	(16.5)	(10.2)	3.9	(100.7)	黒雲母片岩	表裏面に磨痕・凹痕 表面・割れ口に煤付着	覆土中層	2類
Q 8	石皿類	(5.0)	(7.6)	5.4	(353.1)	黒雲母花崗岩	表裏面使用 裏面に煤付着	覆土上層	1類
Q 9	磨石類	6.7	5.9	3.2	181.9	安山岩	表裏・側面に磨痕 裏面・一側面に凹痕	覆土中層	2c類

第 39 号竪穴建物跡 (第 155・156・165～168 図 PL10・12)

位置 調査A区中央部のB 6j8区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第5号土坑を掘り込み、第35 E号建物、第41号竪穴建物、第47A・B号建物、第7号地下式坑に掘り込まれている。第171号土坑とも重複しているが、新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 第41号竪穴建物跡の東部に小ピット列と炉跡が確認できたことから、建物跡を想定した。壁は確認できなかったが、ピットの配置から東西軸は5.1 mで、南北軸は北部が調査区域外に延びるため3.8 mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 南北径48cm、東西径42cmで、5 cmほど掘りくぼめられた地床炉である。

ピット 17か所。当区域では多くのピットが確認されているが、ピットの形状や配置からP 1～P 17を本跡の壁柱穴と判断した。このほかにも第41号竪穴建物跡のP 10・P 11・P 54や、第47号建物跡の帰属としたピットも本跡に伴う可能性がある。主柱穴及び出入口ピットと考えられるものは確認できなかった。ピットはローム粒子がやや多く含まれている暗褐色土を覆土とするものが多い。

P 1 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

P 14・P 15 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	55	51	81	8	51	21	23	33	9	39	19	34	27	21	31	18	29

覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

土層解説

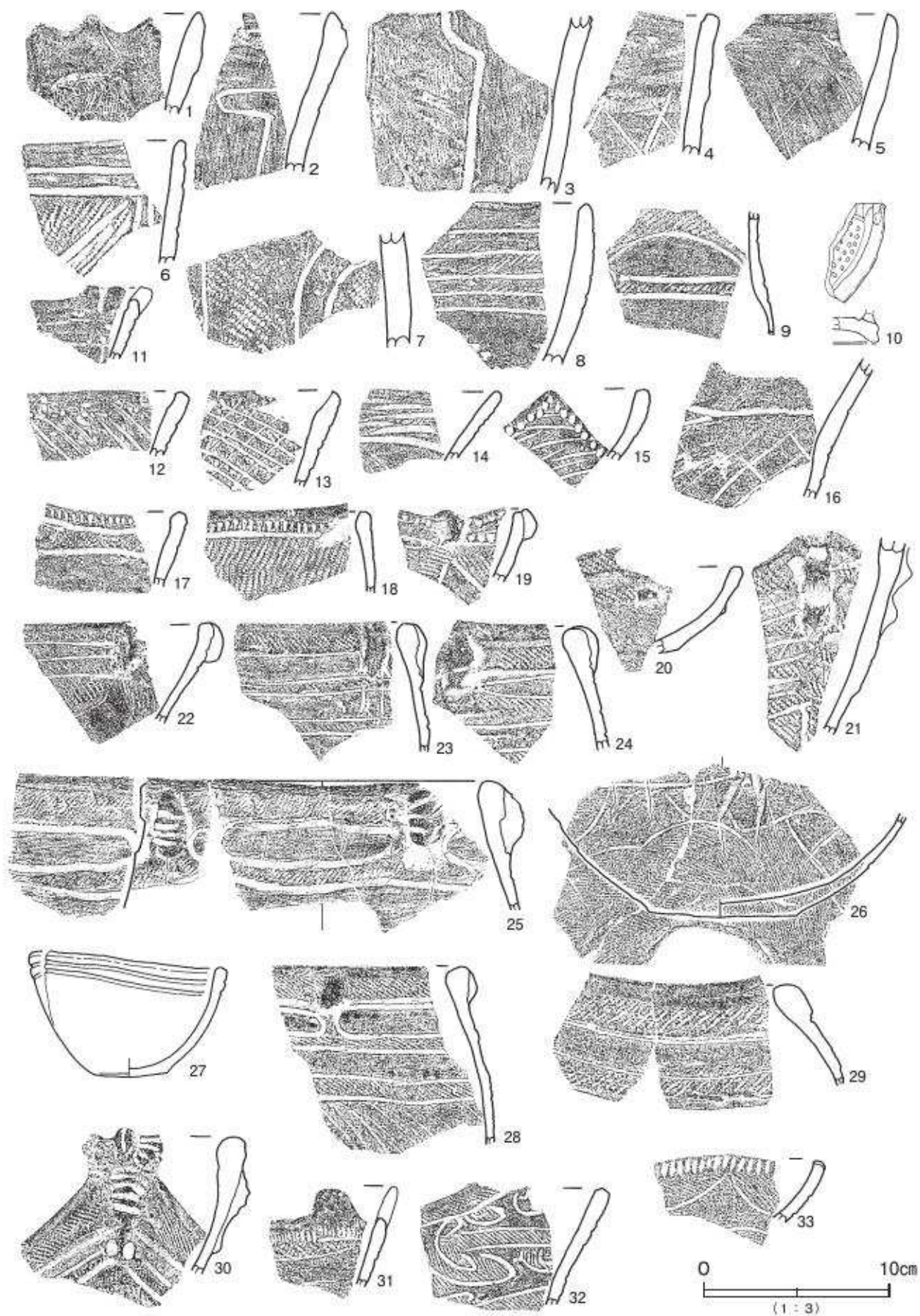
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1,234点(24.89kg)、土製品11点(耳飾り8、土偶3)、石器16点(石錘2、磨製石斧1、打製石斧1、砥石1、磨石類3、石皿類4、磙器2、石棒・石剣類2)のほか、発泡体1点、剥片7点(黒曜石5、チャート2)、獣骨片13.47 gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群の後期後葉(26.7%)、第3群の後期初頭(21.7%)、第4群の後期前葉(21.7%)のものである。遺物は覆土下層から多く出土しているが、重複する第47号建物跡に帰属するものが多いと考えられる。

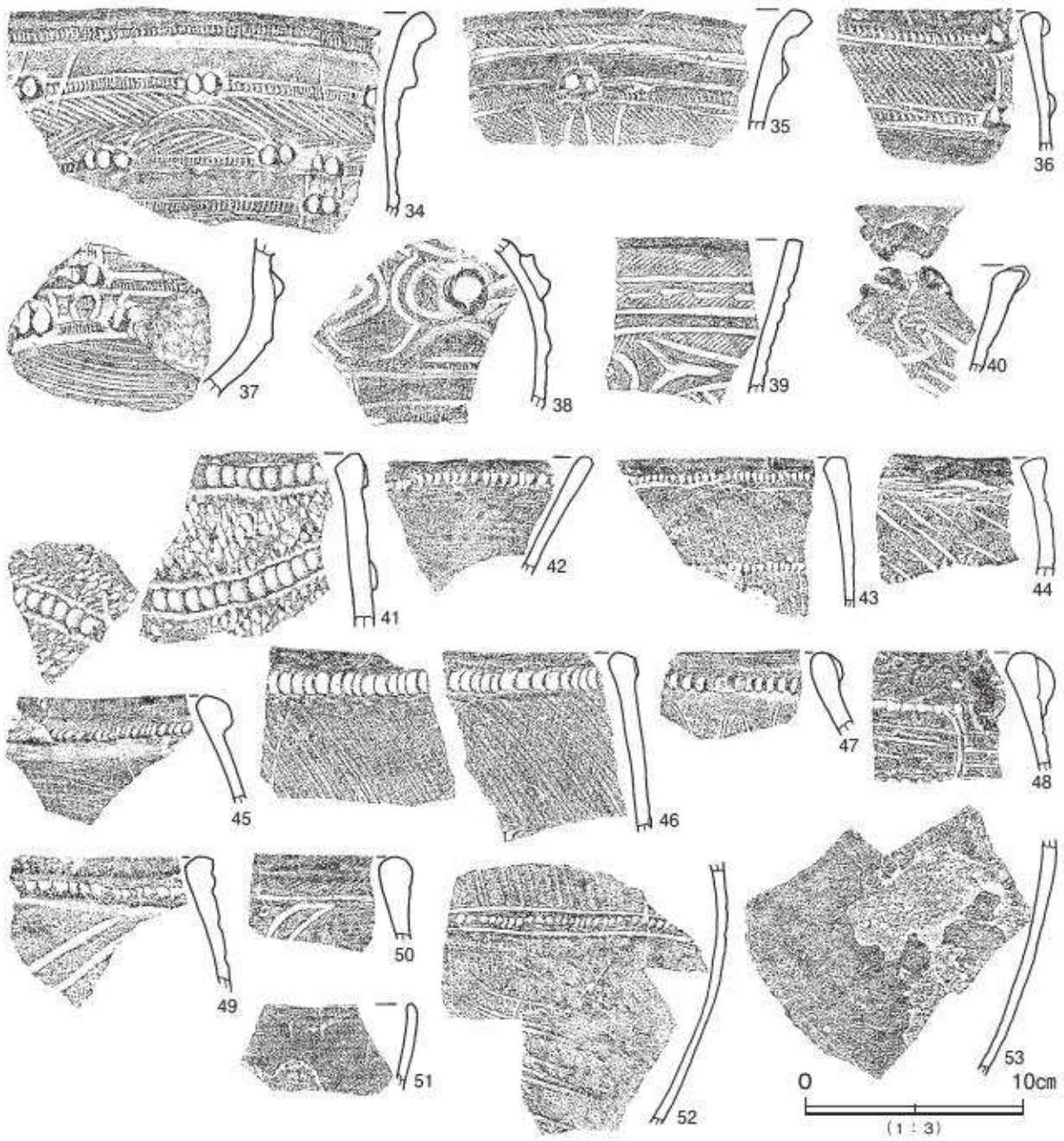
所見 時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、後期初頭から前葉と考えられる。

第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 165～168 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面指筒状工具による条線 内面磨き	覆土下層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	粘土・純砂・陶砂	黄橙	普通	外面J字文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面J字文 特殊状工具による斜突文充填 内面ナデ	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・純砂・陶砂	橙	普通	口縁部外面磨き 内面粗い磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・純砂・陶砂	褐灰	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	外面LR縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・純砂・陶砂	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線→沈線間磨き 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	P 132	
10	縄文土器	蓋	-	(1.6)	-	長石・石英	橙	普通	外面斜突文充填 内面磨き	覆土上層	5%
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	



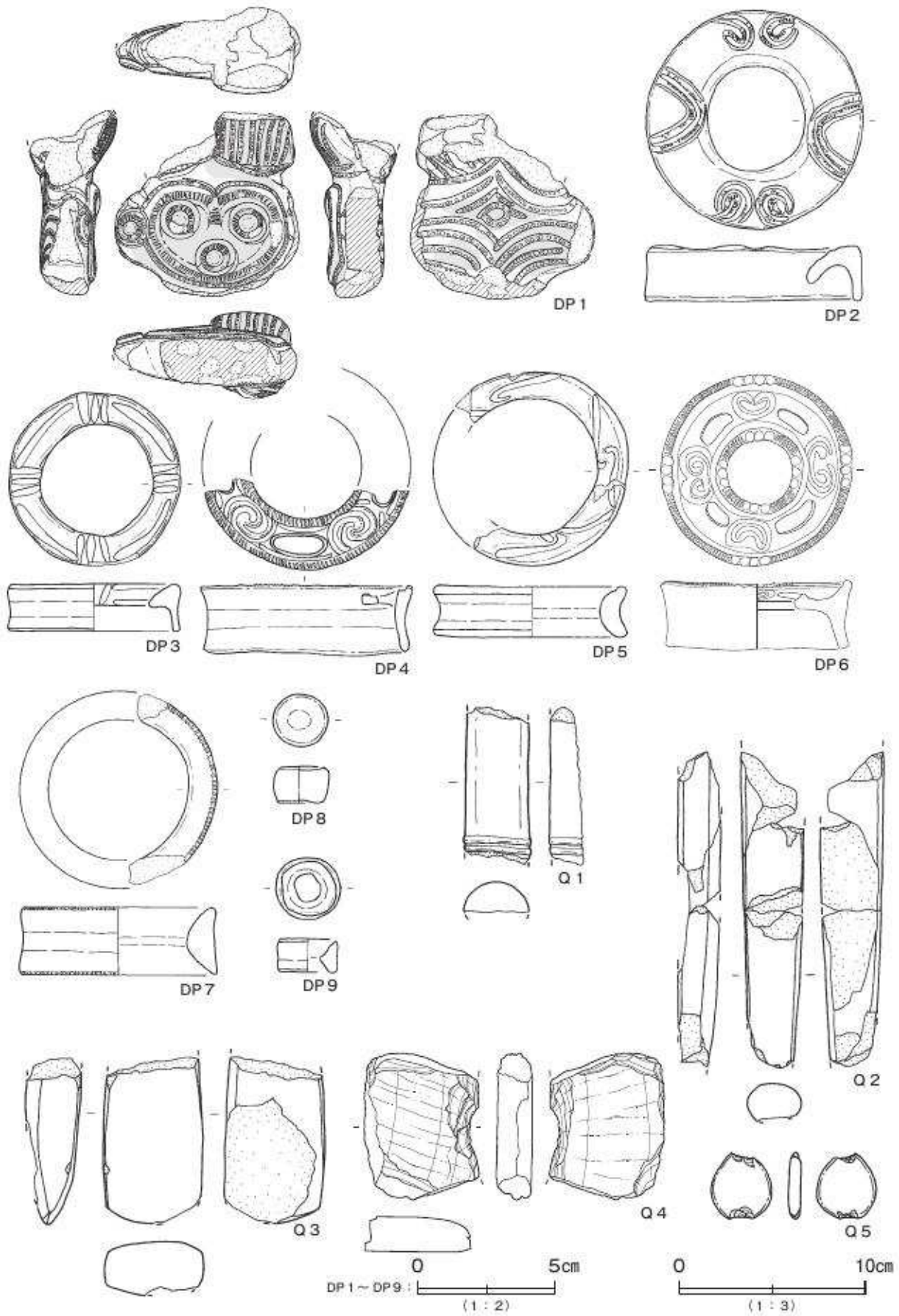
第 165 图 第 39 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



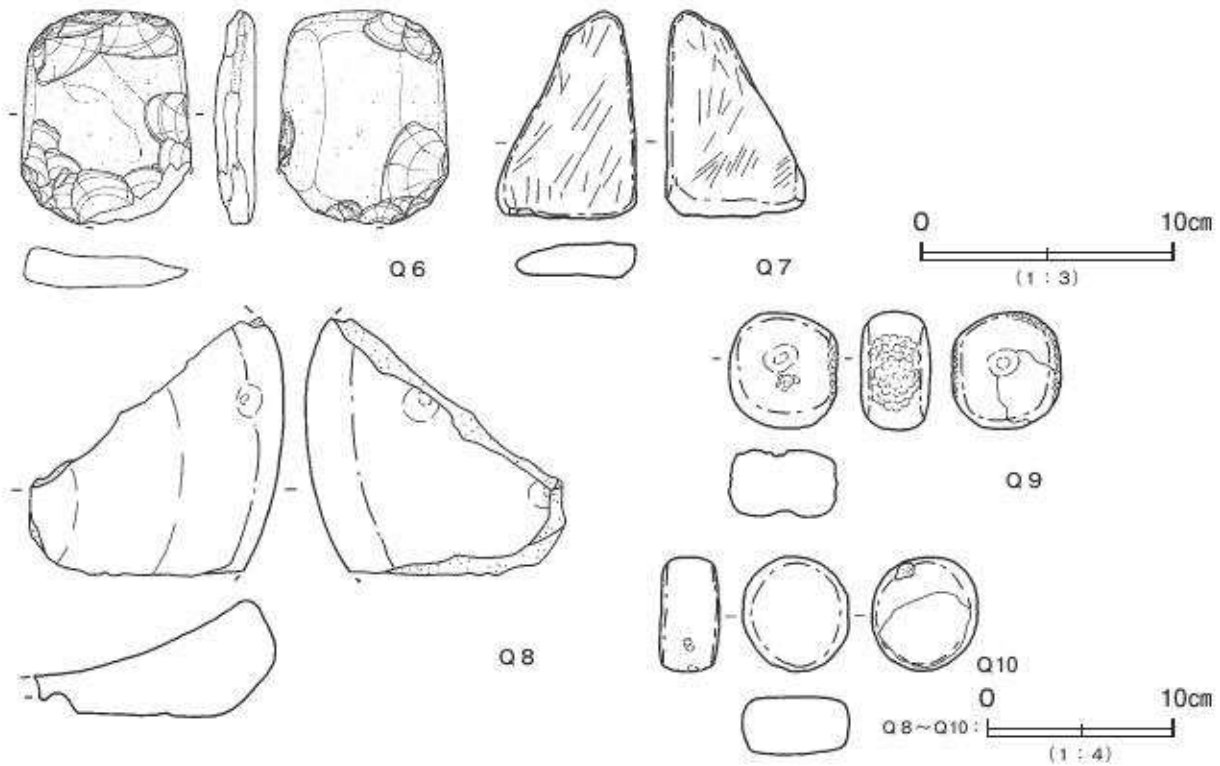
第 166 図 第 39 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 39 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 165 ~ 168 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐	普通	外面LR縄文→糸線 内面ナデ 口縁部凹線	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面RL縄文→糸線→口唇部刻み 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	頸部磨き 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・砂子・砂子	暗赤灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・砂子・砂子	橙	普通	外面沈線→LR縄文・刻み 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	橙	普通	外面沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	橙	普通	外面隆起線凹線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	



第 167 图 第 39 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



第168図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第39号竪穴建物跡出土遺物観察表(第165~168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	[19.6]	(7.0)	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
26	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	7.9	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	20%
27	縄文土器	鉢	[9.6]	6.7	4.0	長石・石英	褐色	普通	外・内面磨き	覆土中層	40% PL.35
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き・割部条線 内面磨き	覆土中層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	黒褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文・割み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	台付鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→割み・条線→磨貼付 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文・割み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文・割み→磨貼付 内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	台付鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→割み→磨貼付 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→割み→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい黄褐色	普通	外面条線→口縁部割み 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	灰褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい褐色	普通	外面頸部条線 口縁部隆起帯磨り出し状 内面ナデ	覆土上層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい黄褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	灰赤褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	明赤褐色	普通	口縁部外面縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	灰黄褐色	普通	外面頸部条線→頸部区画文 内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面磨り出し状 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘質・粘質	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 頸部条線 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土上層	口C1類
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	覆土下層	
53	縄文土器	製塩	-	-	-	粘土・粘質・粘質	暗赤褐色	普通	外面磨き 割線 内面ナデ	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 罎	(6.6)	(6.6)	3.1	(87.7)	長石・石英	にぶい黄褐色	ミミズク 右側面一部欠損部摩耗	覆土中層	Ⅲ期 Ⅱ形 PL49
DP 2	耳飾り	径7.8	—	2.0	67.7	長石・石英・角閃石類	橙	上面磨き 沈線間に細かい刻み 側面ナデ	覆土中層	Ⅲ期 PL42
DP 3	耳飾り	径6.2	—	1.7	34.5	長石・石英	明 褐	上面・側面磨き	覆土下層	Ⅱ 2期 PL42
DP 4	耳飾り	径(7.4)	—	2.5	(18.3)	長石・石英	褐 灰	風線入組文 周縁部に細かい刻み 側面磨き	覆土下層	Ⅲ期
DP 5	耳飾り	径7.0	—	1.8	(27.9)	長石・石英	明赤褐色	ステッキ状入組文 外面磨き	覆土下層	Ⅳ 1期 PL42
DP 6	耳飾り	径6.9	—	2.5	53.8	長石・石英	橙	周縁部に細かい刻み	覆土中層	PL42
DP 7	耳飾り	径(7.0)	—	2.4	(19.0)	長石・石英・雲母	橙	外・内面磨き 上下端部に細かい刻み	覆土中層	Ⅳ 1期
DP 8	耳飾り	径1.9	—	1.3	5.4	長石・石英	褐 灰	白型 ナデ整形	覆土中層	Ⅰ 2期
DP 9	耳飾り	径2.2	—	1.2	5.8	長石・石英	黒 褐	外・内面磨き	覆土中層	Ⅱ 2期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃・石鏃	(8.6)	(3.7)	(1.8)	(85.5)	角閃石片岩	石鏃 下端部に微隆起帯	覆土中層	
Q 2	石鏃・石鏃	(17.0)	3.3	2.3	(147.5)	角閃石片岩	石鏃 研磨整形	覆土中層	
Q 3	磨製石斧	(8.9)	5.4	3.1	(196.5)	斑レイ岩	定角式 研磨整形	覆土中層	
Q 4	打製石斧	(7.9)	(6.2)	2.0	(138.4)	燧石片岩	分銅形	覆土上層	
Q 5	石鏃	3.4	3.2	0.7	11.8	安山岩	長軸端部に打ち欠き	覆土上層	3期
Q 6	礫 器	8.5	6.8	1.6	113.6	輝石安山岩	スクレイパー状 長軸端部に両面割離	覆土中層	
Q 7	砥 石	8.2	5.6	1.8	82.0	砂 岩	使用面2面	覆土中層	2期
Q 8	石皿類	(13.4)	(13.4)	(5.7)	(85.6)	安山岩	表面磨り面 表裏面に凹痕	床面	2期 PL48
Q 9	磨石類	6.0	5.7	3.6	220.6	輝石安山岩	表裏・側面に磨り痕 両側面に凹痕	覆土下層	Ⅱ期 集付者
Q 10	磨石類	6.0	5.5	3.1	178.5	安山岩	表裏・側面に磨り痕	覆土下層	Ⅱ期 集付者

第 47 A・B 号竪穴建物跡 (第 155・156・169～175 図 PL10)

位置 調査A区中央部のC 6a9区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第35・39号建物跡、第180号土坑を掘り込み、第7号地下式坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第171・178・246・264・265・271・276号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。第34号竪穴建物跡とも重複しており、出土遺物から本跡が掘り込んでいると推測される。

規模と形状 方形に広がる焼土跡や出入口ピット、列状に並ぶ小ピットなどから、建物跡を想定した。P 51～P 56を出入口ピットとし、P 1～P 5・P 8～P 11・P 44・P 45、P 66～P 83の円形に巡っている小ピットを壁柱穴とする第47 A号建物跡と、P 58～P 65を出入口ピットとし、P 12・P 13・P 20・P 21・P 24～P 31・P 97～P 108の方形に巡っている小ピット列を壁柱穴とする第47 B号建物跡の、少なくとも2棟が確認できる。また、P 32～P 45の、2重の弧状に巡っているピット列が確認できること、第7号地下式坑の北側に約10cmの壁状の段差が確認できることなどから、さらにいくつかの建物跡が重複していることが想定される。第47 A号建物跡は、北部が土坑との重複や攪乱のため不明瞭であるが、出入口ピットを含めた南北径は約6.0m、東西径は7.0mと推定できる。出入口ピットから推定できる主軸方向はN-28°-Eである。第47 B号建物跡は、出入口ピットを含めた南北軸8.0m、東西軸9.0mの方形で、主軸方向はN-31°-Eである。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 112か所。第47 A号建物跡は壁柱穴が巡っている建物跡である。第47 B号建物跡は、壁柱穴がまばらであるが、P 35・P 48・P 79・P 84のほか、第35 E号建物跡の帰属としたP 133などが、位置と形状、深さなどから支柱穴に相当するものと考えられる。

P 7土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量

P 17・P 18土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 懸 暗 褐 色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量・焼土粒子少量・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐 色 ローム粒子多量

P 35 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 3 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P 62 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 58・P 59 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子中量
 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

P 72・P 74 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	28	12	12	33	49	15	42	27	10	36	25	43	11	44	138	50	28	79	114	39	34	32	17	61	5
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	14	16	25	32	64	22	52	60	8	107	56	20	25	17	63	68	20	59	28	19	40	20	107	120	23
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	23	31	11	42	15	23	11	20	45	63	18	40	25	22	89	14	11	15	42	37	27	54	31	72	25
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	23	19	28	114	71	84	39	40	156	41	18	76	9	5	16	24	8	22	21	36	22	7	6	41	24
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112													
深さ	34	6	7	18	21	88	19	31	24	94	105	95													

覆土 第47 A・B号建物跡で23層に分層できる。第1～17層が第47 B号建物跡の覆土、第25～30層が第47 A号建物跡の覆土である。いずれもローム粒子や焼土粒子、骨粉などがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。特に第10・15・16・26層は、焼土粒子が多量に含まれている層である。第18～24層はP 48の覆土である。また第1・5層は層中に平坦な面を形成することから、別の1棟の覆土の可能性もある。

土層解説

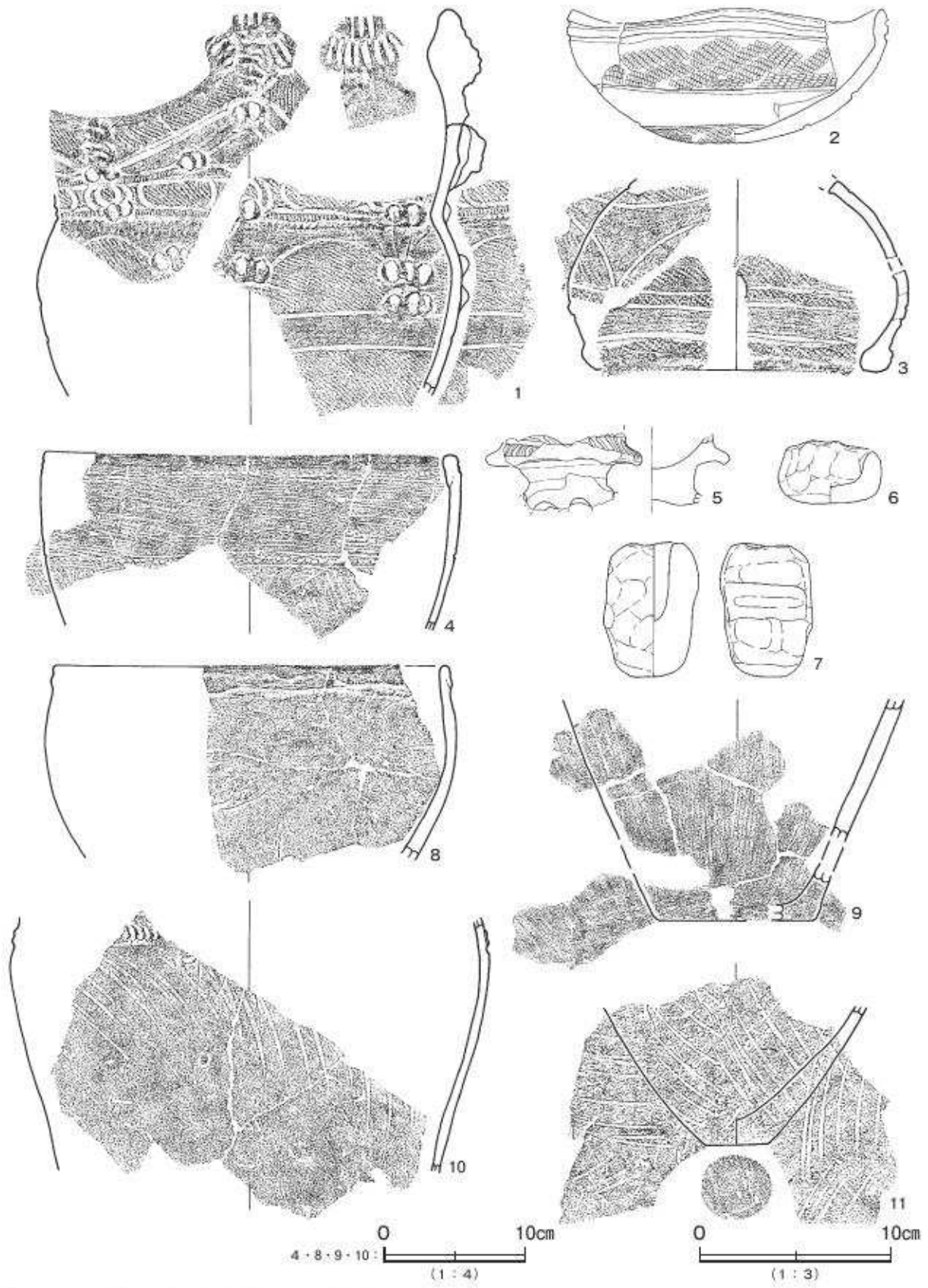
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨片少量
 9 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
 11 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
 12 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 13 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化物微量
 14 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
 15 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
 17 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 18 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 19 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 20 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
 21 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 22 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 23 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 24 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
 25 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 26 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
 27 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 28 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 29 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 30 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片 6,889点 (104.92kg)、土製品 30点 (土錘2、土器片円盤8、耳飾り9、土偶5、有孔円盤1、貝輪状5)、石器・石製品 29点 (石錘5、磨製石斧2、石皿類2、磨石類12、砥石4、礫器1、加工痕のある剥片1、玉類1、石棒・石剣類1)のほか、発泡体3点、焼成粘土塊3点、軽石1点、石核3点(チャート)、剥片15点(チャート9、黒曜石6)、獣骨片 17.75 gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第5群の後期中葉(27.8%)、第7群の後期後葉(25.3%)、第4群の後期前葉(20.2%)のものである。遺物は覆土下層から多く出土している。P 5・P 10・P 15・P 19・P 31・P 34・P 39・P 48・P 52・P 55・P 75・P 93からは、主に後期中葉以前の土器が出土している。また、第47 B号建物跡の東壁際の床面上からは、層厚10cm前後の焼土層が面的に堆積している。これらの焼土層はローム粒子を含んでいる縮まりのないもので、被熱による硬化等もほとんど見られなかった。

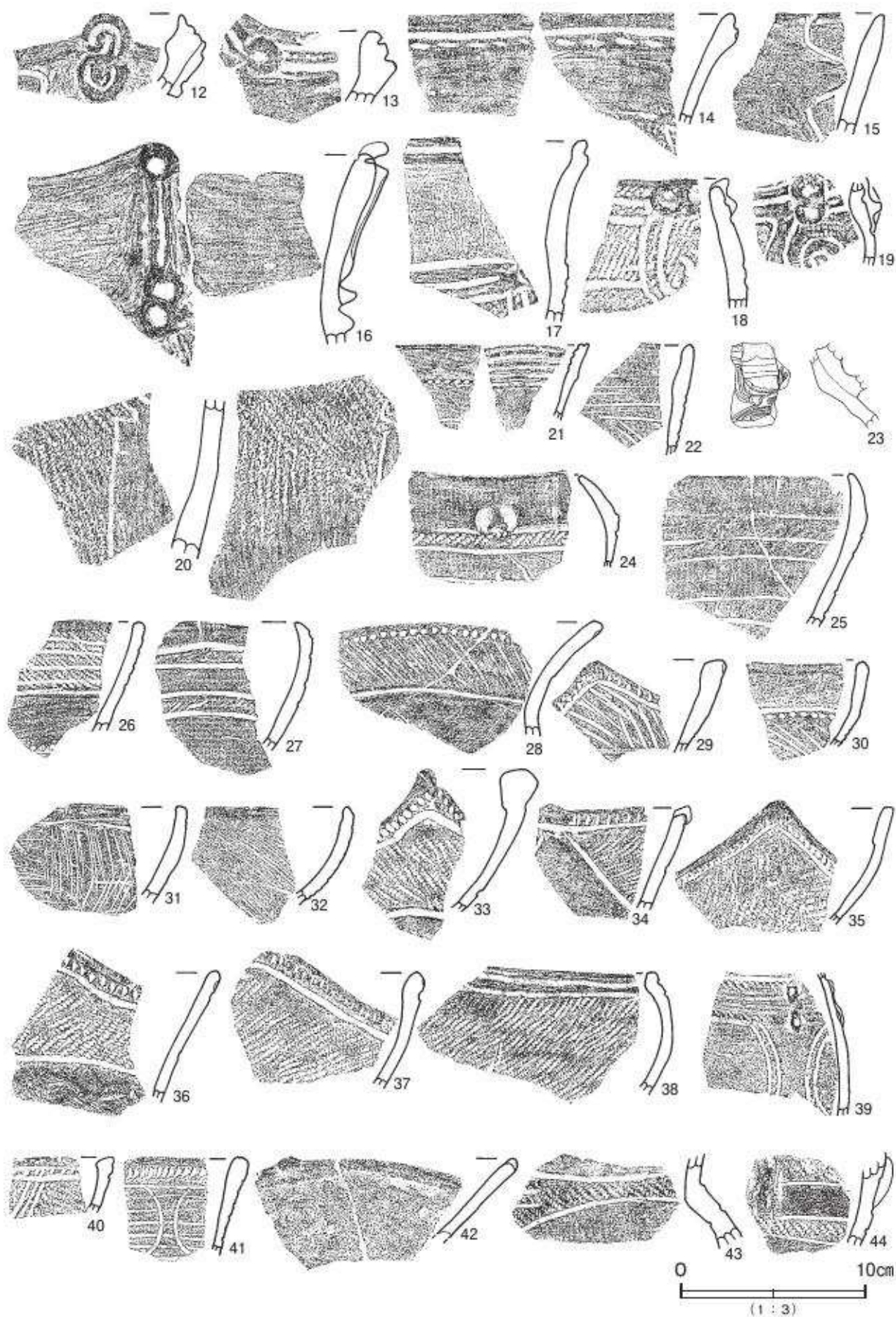
所見 時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、第47A号建物跡が後期前葉の堀之内1式期、第47B号建物跡が後期後葉の安行1式から2式期と考えられる。第47B号建物跡は焼失家屋で、床面近くで見られた焼土層は、上屋根材や壁材に由来するものと考えられる。

第47号壁穴建物跡出土遺物観察表（第169～175図）

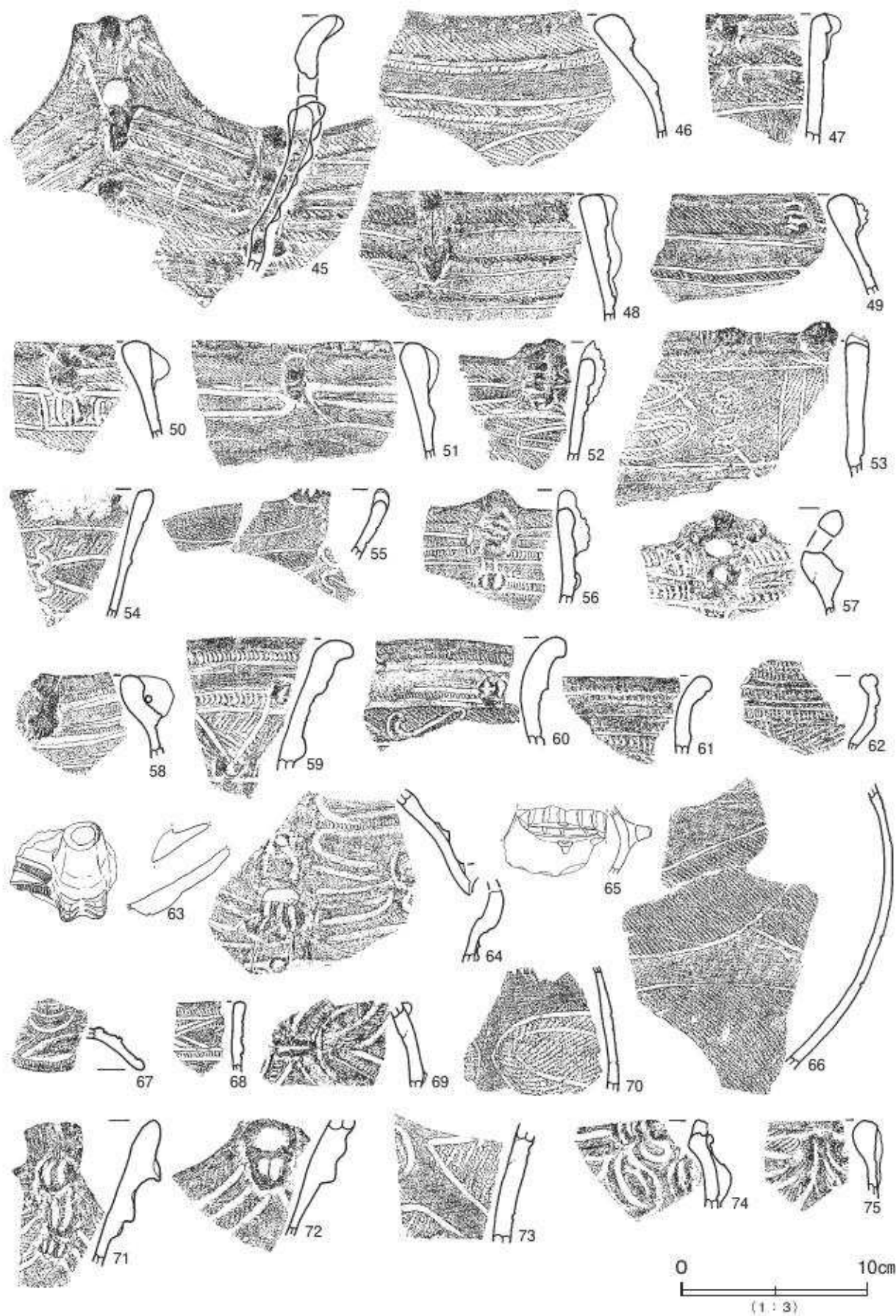
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.2]	[20.0]	-	長石・石英・黒・粘り	黒 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	10%
2	縄文土器	浅鉢	[15.4]	6.9	-	長石・石英・黒色粘り	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	30%
3	縄文土器	台付鉢	-	(10.0)	[14.6]	長石・石英・赤色粘り	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	10%
4	縄文土器	深鉢	[28.4]	(12.0)	-	長石・石英・黒母	灰黄褐	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中層	10% PL37
5	縄文土器	異形台付	-	(4.0)	-	長石・石英・黒色粘り	橙	普通	透かし孔3カ所 内面ナデ	覆土中層	20%
6	縄文土器	ミニチャア	4.1	3.3	3.7	長石・石英	橙	普通	外・内面指頭ナデ	覆土下層	100%
7	縄文土器	ミニチャア	5.0	7.0	1.5	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面指頭ナデ 裏面大きく凹む	覆土下層	100%
8	縄文土器	深鉢	[26.6]	(13.1)	-	長石・黒・粘り・粘り	浅黄橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	10%
9	縄文土器	深鉢	-	(15.2)	[10.5]	長石・黒・粘り・粘り	橙	普通	外面磨き 内面ナデ	床面	30%
10	縄文土器	深鉢	-	(17.4)	-	長石・石英・黒母	灰黄褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中層	5%
11	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	3.5	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ 底部削り	覆土中層	10%
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘り	橙	普通	口縁部外面湾文帯輪沈線文 内面磨き	P 19	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面削り沈線文 内面磨き	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘り	明赤褐	普通	口縁部外面C字伏貼付文 内面磨き	床面	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→沈線 頸部磨き 内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	にぶい黄橙	普通	外面RL縄文→沈線→沈線磨き 内面ナデ	床面	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 19	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	橙	普通	外面半截竹管状工具による三角文 内面ナデ	覆土下層	
23	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面磨き 石神型	覆土下層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	暗 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	暗 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	黒 褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→条線→口縁部削み 内面磨き	覆土中層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面矢羽状沈線→沈線→削み 内面磨き	P 18	
30	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	暗 褐	普通	口縁部外面ナデ 頸部斜線文 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	褐 灰	普通	外面条線→沈線 内面磨き	床面	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい黄橙	普通	外面掘削状工具による条線 内面粗い磨き	覆土下層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→口縁部削み・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部削み 内面磨き	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	灰 褐	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部削み 内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	暗 褐	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部削み 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	暗赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	灰黄褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面RL縄文→削み 内面磨き	P 55	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	黒 褐	普通	外面頸部条線文→区画文 内面磨き	覆土上層	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	褐 灰	普通	外・内面ナデ	覆土下層	二次焼成
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	暗赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	褐	普通	外面削り付→長形帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 79	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	PL37
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	褐	普通	外面隆起帯輪沈線・削み→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	明赤褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	明赤褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	灰黄褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	明赤褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	灰 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→低縄文 頸部RL縄文→沈線文 内面磨き	覆土上層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒・粘り・粘り	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	PL37
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	褐 灰	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部削み 内面磨き	覆土上層	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒母	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→低縄文・削み→頸部削み・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→削み→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→削み→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
59	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→削み 内面磨き	覆土上層	



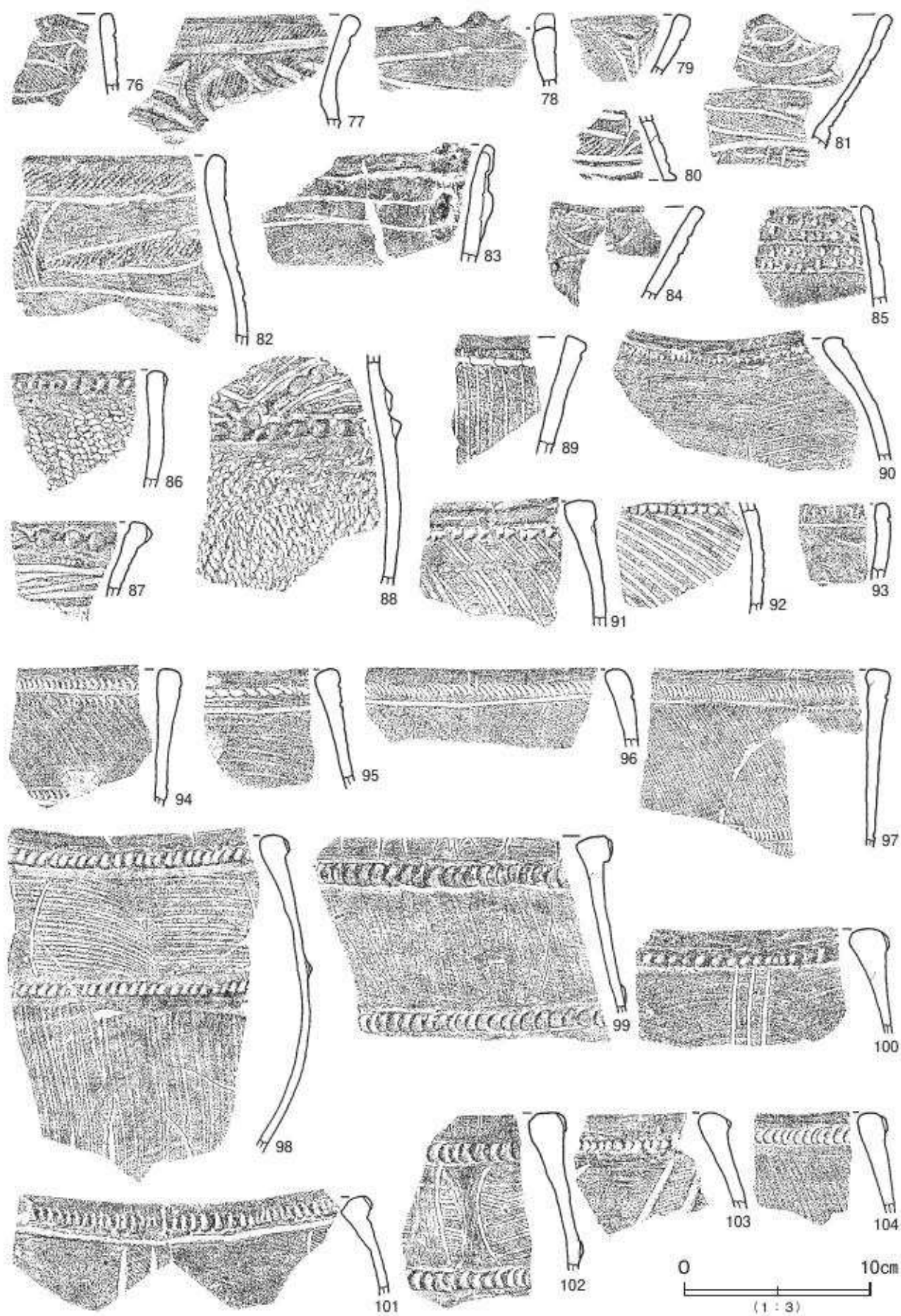
第 169 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



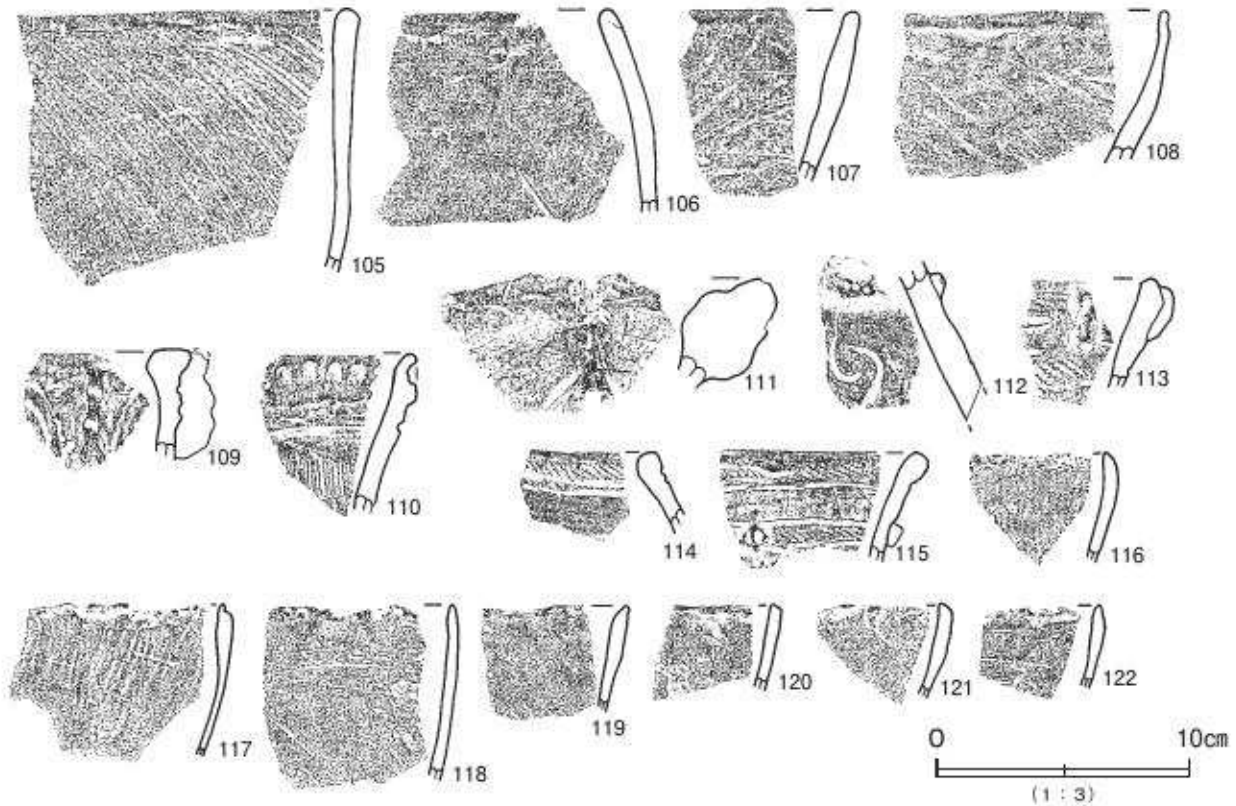
第170图 第47号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 171 図 第 47 号豎穴建物跡出土遺物実測図 (3)



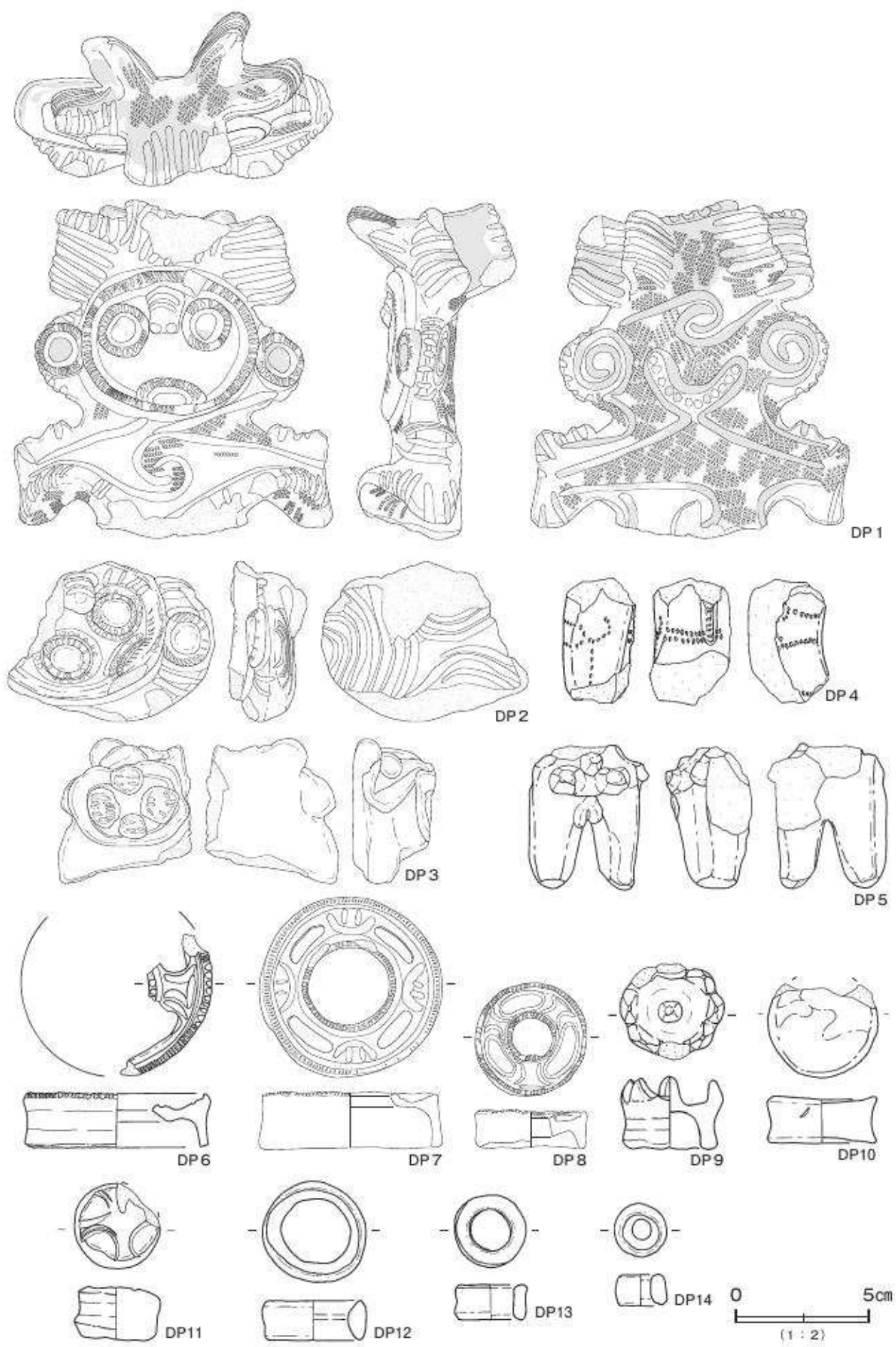
第 172 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



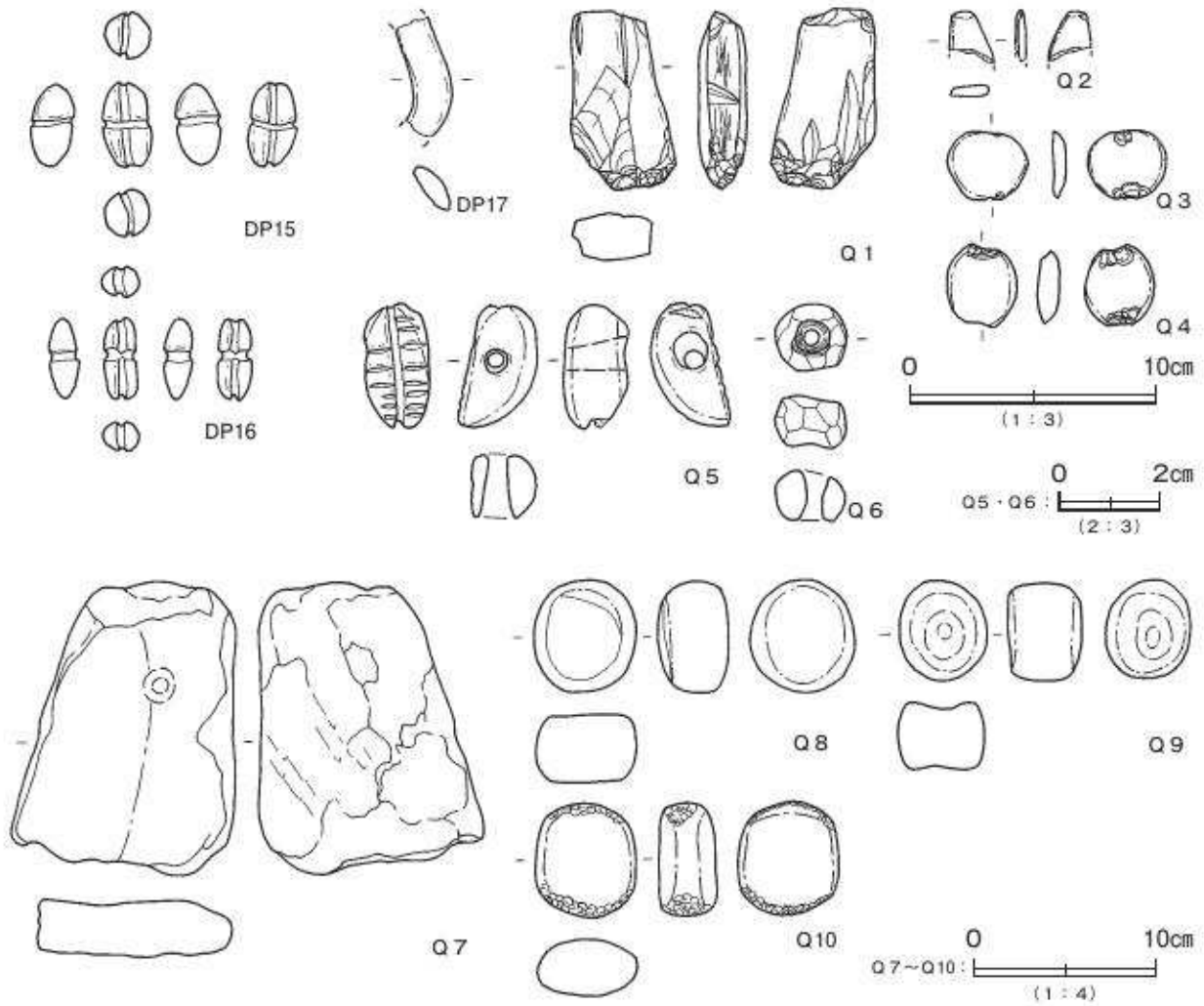
第173図 第47号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

第47号竪穴建物跡出土遺物観察表(第169~175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯筋沈線→粗點付→筋入→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
61	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→筋入→無文部磨き 内面磨き	P. 52	
62	縄文土器	黄彩台付	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面口径部刻み 内面ナデ	覆土下層	
63	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	橙	普通	外面隆起帯筋上刻み 内面ナデ	覆土下層	
64	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面ナデ	P. 95・P. 106	
65	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	縁架け突起部分 内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
67	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→筋入→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面頸部区画文→L線部付点線縄文 内面ナデ	覆土下層	
69	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線間刻み 無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 72・P. 110	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒曜	赤褐色	普通	外面口径部に沈線文 内面磨き	覆土下層	
75	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面ナデ	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 95・P. 106	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・雲母・砂子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
80	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
81	縄文土器	鉢	-	-	-	粘土・石英・雲母・砂子	褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・雲母・砂子	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
84	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面弧線文 内面ナデ	覆土下層	赤彩。
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい橙	普通	L線部外面細かい刺突文充填 内面磨き	覆土下層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土上層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面RL縄文→粗線貼付 内面磨き	P. 19	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・雲母・砂子	黄灰	普通	外面LR縄文→粗線貼付→沈線文 内面ナデ	P. 95・P. 106	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面弧線→L線部角状の刻み 内面ナデ	覆土下層	



第 174 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (6)



第175図 第47号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第47号竪穴建物跡出土遺物観察表(第169~179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	にぶい褐	普通	外面条線→口縁部刻み 内面粗い磨き	覆土下層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	にぶい赤褐	普通	外面条線→口縁部刻み 内面ナデ	覆土下層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面条線→斜み 内面磨き	P.19	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面付点結線文 内面ナデ	P.35	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点結線文 内面磨き	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	にぶい褐	普通	外面条線→付点結線文 内面磨き	覆土中層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→付点結線文 内面磨き	覆土中	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	外面条線→付点結線文 内面磨き	P.72・P.110	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土下層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土上層	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土下層	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	明赤褐	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文→沈線磨き 内面磨き	覆土上層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土下層	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	P.81	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・石英・雲母・絶好	橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面無筋L縄文→条線 内面磨き	覆土下層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁突起部 外面半数竹管状工具による砥線文 内面ナデ	P.24	
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面櫛歯状工具による刺突文 内面磨き	P.24	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁突起部 内面磨き	覆土中	

第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 169 ~ 179 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面LR線文 内面磨き	P 58	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面磨き帯縁沈線→RL線文→無文部磨き 内面磨き	P 58	
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL線文→無文部磨き 内面磨き	P 59	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面磨き帯縁沈線→磨き付・RL線文→無文部磨き 内面磨き	P 59	
116	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	P 58	口B類
117	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中	口B類
118	縄文土器	製塩	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口B類
119	縄文土器	製塩	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土中	口C2類
120	縄文土器	製塩	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土上層	口C2類
121	縄文土器	製塩	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口B類
122	縄文土器	製塩	-	-	-	胎土 粘土・粘石	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口B類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	12.6	11.6	6.4	(421.4)	灰石・石英・赤色粒子	黒 褐	ミミズク ステッキ扶入組文 赤彩	覆土下層	3e類 PL40
DP 2	土 偶	5.9	7.7	2.9	(95.5)	灰石・石英・角閃石類	明 褐	ミミズク	覆土中層	3a類 PL40
DP 3	土 偶	5.4	5.0	3.1	(59.5)	灰石・石英・赤色粒子	灰 白	ミミズク 手づくね状	覆土中層	3e類 PL40
DP 4	土 偶	(4.6)	(3.0)	2.7	(38.7)	灰石・石英・赤色粒子	橙	山形土偶胴部 細かい利突文 表面に隆起帯	覆土上層	2c類
DP 5	土 偶	(5.3)	(4.5)	(3.2)	(60.6)	長石・石英・雲母	にぶい褐	山形土偶胴部	覆土中層	2c類 PL40
DP 6	耳飾り	径7.0	-	2.0	(11.7)	長石・石英	橙	透かし孔あり 磨き整形	覆土中層	Ⅲ類
DP 7	耳飾り	径6.8	-	2.2	32.4	灰石・石英・角閃石類	橙	透かし孔4か所 中央1か所 周縁部削み	覆土中層	Ⅲ類 PL42
DP 8	耳飾り	径4.2	-	1.5	13.6	長石・石英	橙	周縁部細かい削み	覆土中層	Ⅲ類 PL42
DP 9	耳飾り	径3.8	-	2.7	22.0	長石・石英・雲母	明赤褐	内側を大きく抉る ナデ整形	覆土中層	I 3類 PL42
DP10	耳飾り	径4.0	-	1.8	(27.7)	灰石・石英・赤色粒子	橙	白型 ナデ整形 上面に環付着	覆土上層	I 2類
DP11	耳飾り	径3.2	-	2.0	(24.2)	長石・石英	明赤褐	白型 弧線文 ナデ整形	覆土上層	I 2類
DP12	耳飾り	径3.7	-	1.5	11.3	灰石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	環状 ナデ整形	覆土下層	II 1類 PL42
DP13	耳飾り	径2.7	-	1.3	6.9	長石・石英	明赤褐	環状 ナデ整形	覆土下層	II 1類 PL42
DP14	耳飾り	径1.9	-	1.2	3.7	長石・石英	橙	環状 ナデ整形	覆土中層	II 1類
DP15	土 錘	3.4	1.9	1.9	11.7	長石・石英	にぶい褐	有溝	覆土下層	PL44
DP16	土 錘	3.3	1.4	1.2	5.5	長石・石英	橙	有溝	覆土下層	PL44
DP17	貝輪状	(4.8)	(2.1)	1.8	(12.4)	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ整形	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(7.3)	(4.2)	2.0	(94.2)	頁 岩	定角式 表裏面・側面に弧面状の溝あり	覆土下層	PL45
Q 2	磨製石斧	(2.1)	(1.9)	0.4	(1.9)	頁 岩	小形定角式 研磨整形	覆土下層	
Q 3	石 錘	2.8	3.2	0.6	7.4	輝石安山岩	長軸の上下端を打ち欠き	P 93	3類
Q 4	石 錘	3.8	2.9	1.0	10.8	安山岩	長軸の上下端を打ち欠き	覆土中	3類
Q 5	玉 類	2.5	1.6	1.3	8.9	霏 翠	短玉状 タカラガイ模倣。片面穿孔	覆土中層	PL46
Q 6	玉 類	径1.35	-	1.1	2.8	滑 石	小玉 研磨による面取り 片面穿孔	覆土下層	PL46
Q 7	磨石類	(15.7)	(12.1)	3.1	(94.7)	黒雲母片岩	表面に磨面と凹溝	覆土中層	2類
Q 8	磨石類	6.0	5.4	3.7	180.6	安山岩	表裏・側面に磨面	覆土中層	1c類
Q 9	磨石類	5.3	5.1	4.0	131.5	安山岩	表裏・側面に磨面	覆土中層	1c類
Q 10	磨石類	6.0	5.3	6.0	164.4	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 上下端に最打痕	覆土下層	2d類 PL48

第 40 号竪穴建物跡(第 176 図)

位置 調査A区東部のC7d2区、標高20mほどの台地上に位置している。

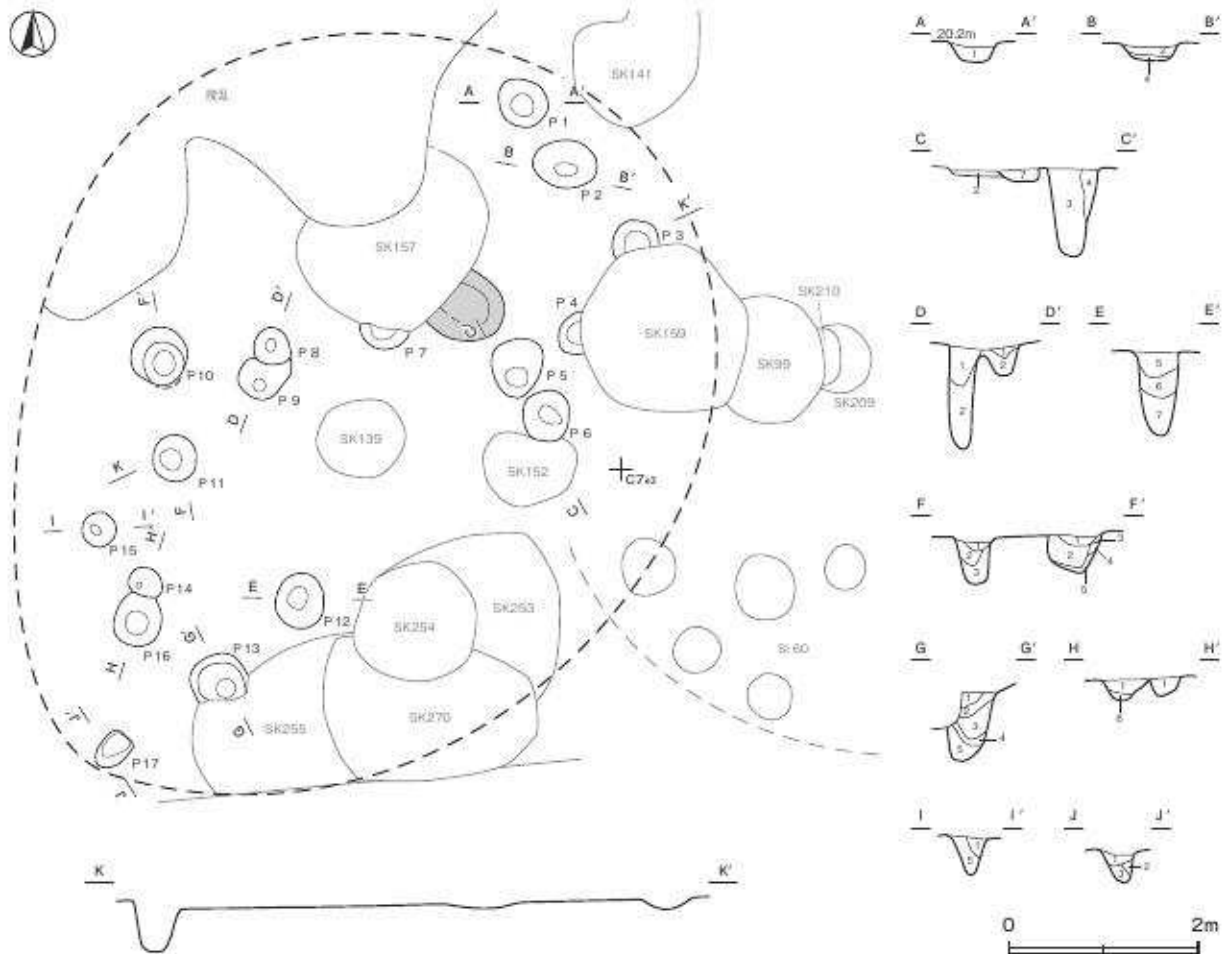
重複関係 第157号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第60号建物跡、第139・141・152・159・253～255・270号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係を捉えることはできなかった。

規模と形状 炉とピットの位置から、南北径8.6m、東西径7.1mの楕円形と推定できる。

床 ほば平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 中央やや北側に位置している。第157号土坑に掘り込まれているため、南北径は78cmで、東西径は60cmしか確認できなかった。深さは約5cmで、浅く掘りくぼめられている。

ピット 17か所。P1～P3・P6・P10～P12が弧状に巡っている壁柱穴である。P5・P9は、位置や深さから主柱穴の可能性がある。



第176図 第40号竪穴建物跡実測図

P1・P2・P5・P6・P8・P9・P12・P14～P16土層

解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P10土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

P11土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

P13土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

P17土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	22	20	16	19	94	18	30	32	110	37	55	91	87	28	55	35	26

遺物出土状況 P11から第3群土器が1点、P12から後期中葉から後葉の土器片が14点出土している。

所見 ビット内から後期の土器が多く出土していること、壁柱穴が巡る柱穴配置であることなどから、後期初頭から前葉と考えられる。ただし主柱穴的なビットも存在することから、中期あるいは後期中葉以降の可能性もある。

第41A・B号竪穴建物跡（第177～183図 PL12・13）

位置 調査A区中央部のC6a8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第35E・39号竪穴建物跡を掘り込んでいる。本跡より上層で第115・118～121号土坑が確認されている。

規模と形状 東部と南部に出入口ピットが確認できることから、東部を出入口部とする1棟を第41A号建物跡、南部を出入口部とするものを第41B号建物跡とする。第41A号建物跡は、南北軸4.28m、出入口ピットを含めた東西軸は、西部が攪乱のため5.6mしか確認できなかった。平面形は出入口側が広がるD字形で、炉と出入口ピットを結んだ主軸方向はN-127°-Wである。第41B号建物跡は、出入口ピットを含めた南北軸は5.54mで、東西軸は西部が攪乱のため4.4mしか確認できなかった。平面形は出入口側が広がるD字形で、炉と出入口ピットを結んだ主軸方向はN-22°-Wである。壁は高さ22～52cmで、外傾している。

床 ほは平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 2か所。炉1は、西壁際に位置している。径60cmの石囲炉で、西側の石のみ遺存している。深さ32cmで、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。位置や床面からやや上位で確認できたことなどから、本跡より新規の遺構に伴う可能性がある。炉2は、中央やや南寄りに位置している。径90cm、深さ12cmの地床炉で、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土粒子多量、灰少量、ローム粒子・炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰微量
- 2 淡赤褐色 焼土粒子多量、灰・骨粉中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 橙褐色 焼土粒子多量、灰少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 63か所。P1～P3は、位置と深さから主柱穴の可能性はある。P4は深さがないものの、位置から主柱穴の可能性はある。P10～P52は、位置と形状から壁柱穴である。P53～P55は第41A号建物跡、P56～P63は第41B号建物跡の出入口ピットである。いずれも壁外に帯状に張り出している。P49・P50も深さがあり、東壁及び出入口ピットに接して掘り込まれていることから、出入口部に関連するピットの可能性はある。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・灰微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

P10・P50土層解説

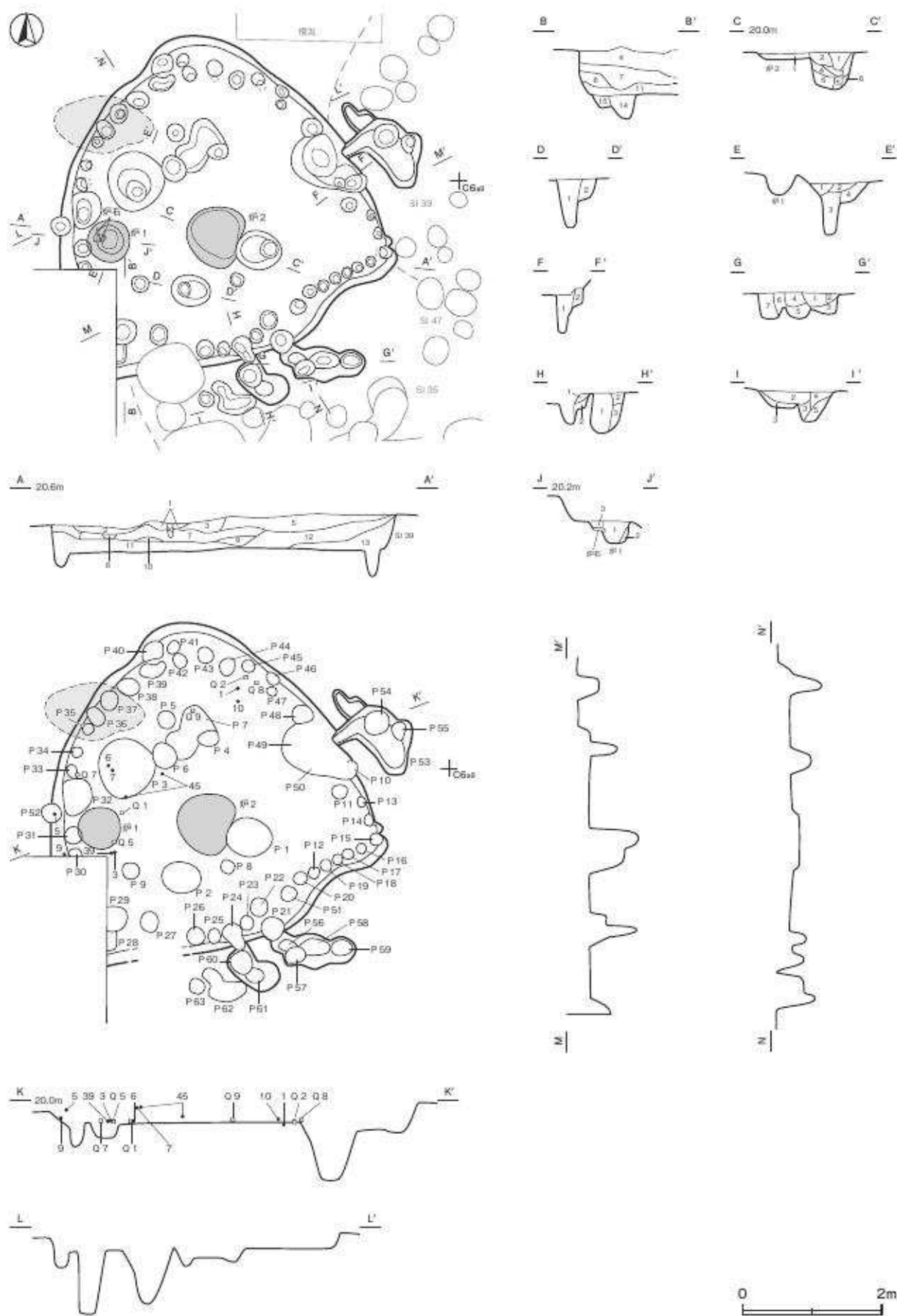
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P57～P59土層解説

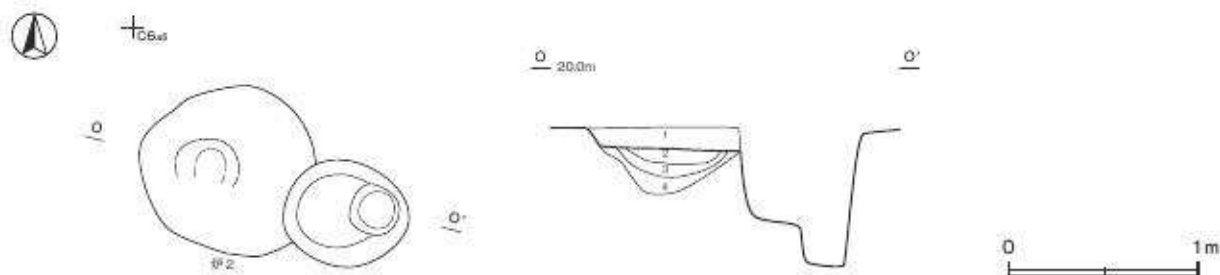
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

P24・P60～P62土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量



第177图 第41号竖穴建物跡実測图(1)



第178図 第41号竪穴建物跡実測図(2)

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	71	69	81	20	22	27	6	52	17	39	38	28	25	25	43	34	21	33	22	12	12	22	19	25	27
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	57	26	14	31	11	33	91	39	29	21	33	29	41	45	22	25	48	45	54	39	16	14	41	81	51
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63												
深さ	41	20	33	130	34	39	48	36	32	58	46	27	15												

覆土 13層に分層できる。上層及び中層に焼土がブロック状に堆積している。また黒褐色土が主体の層とロームブロックが多く含まれる層が互層をなすように堆積していることから、埋め戻されている。第14・15層はP.28・P.29の覆土である。

土層解説

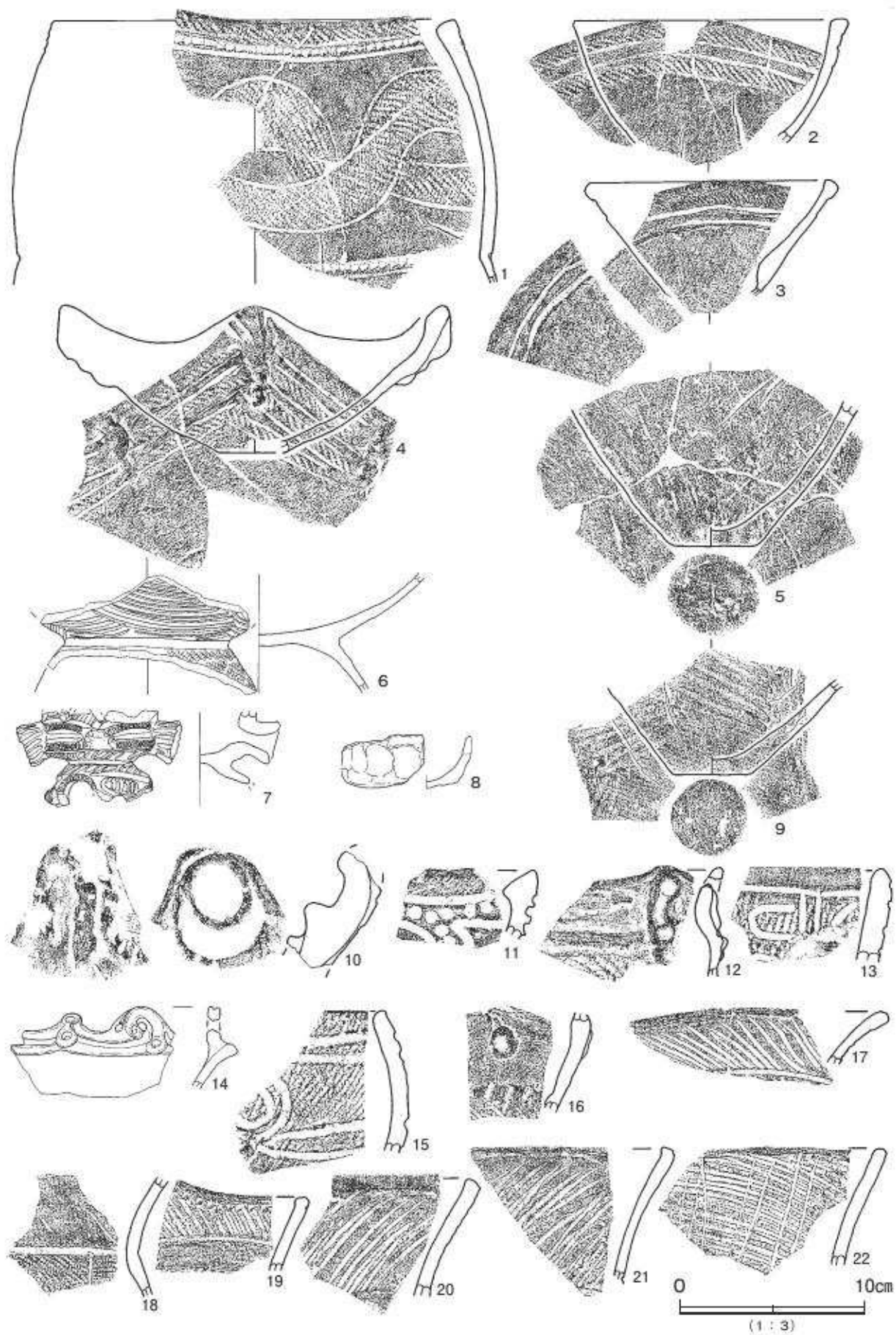
1 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	9 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	10 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4 黒褐色	炭化粒子・骨粉中量、ローム粒子・焼土粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	15 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量		

遺物出土状況 縄文土器片 5,320点 (89.64kg)、土製品4点 (土器片円盤1、土偶3)、石器・石製品40点 (石鏃2、磨製石斧2、石皿類9、磨石類13、砥石5、石錘2、石剣・石棒類2、独鈷石1、加工痕のある剥片4)のほか、発泡体2、焼成粘土塊1、石核6点 (黒曜石3、チャート3)、剥片31点 (黒曜石27、チャート4)、獣骨片などが出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて、多量に出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群 (安行1・2式) 29.9%である。特に曾谷式から安行1式が多く確認できる。

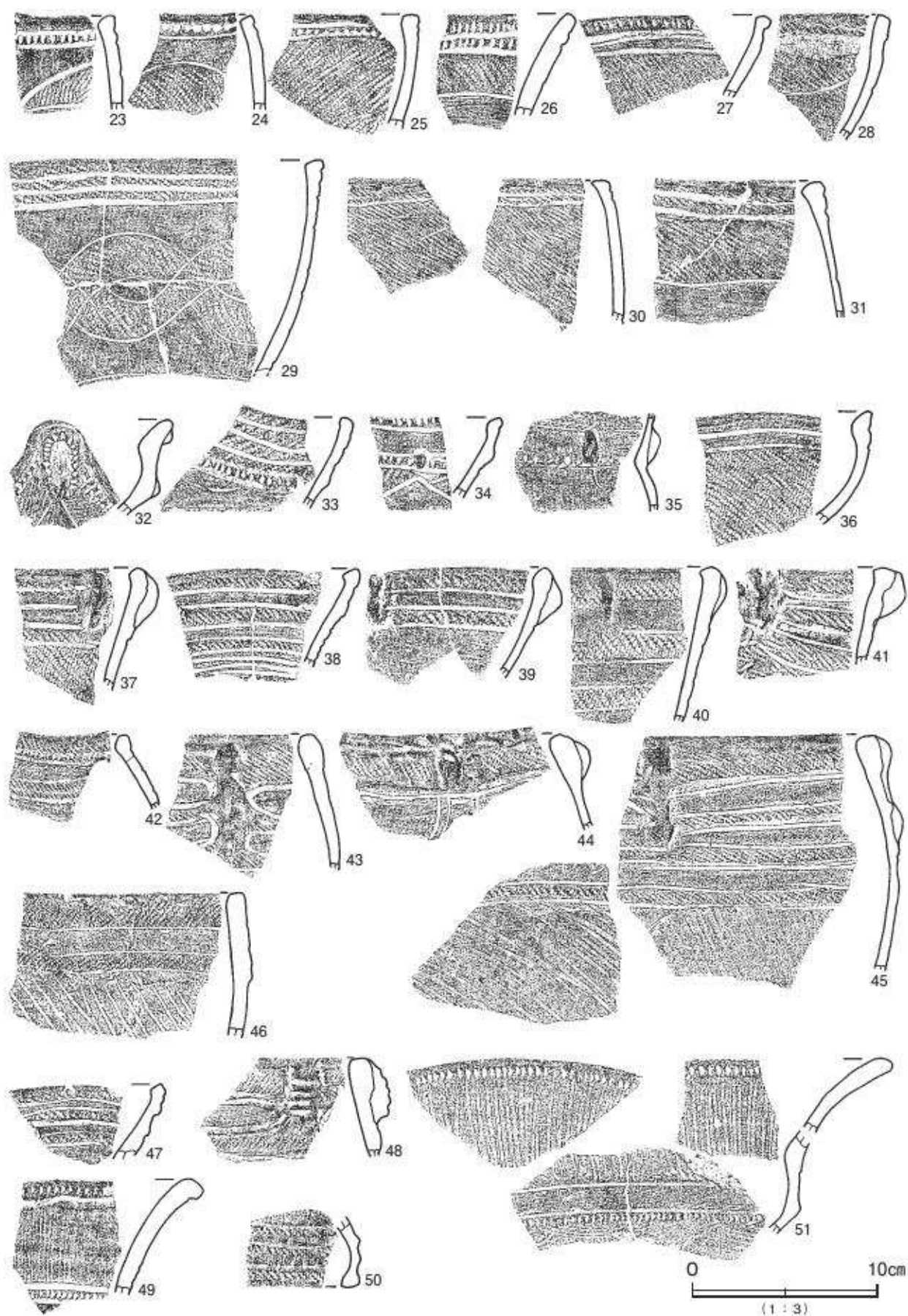
所見 出入口部が2か所確認できることから、2回以上の建て替えが推測されるが、主柱穴や炉跡が複数確認できないことから、上屋や屋内施設はそのままで、出入口部のみを東部から南部へ作り替えたものと推測できる。時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。炉1に伴う床面やビット等は判断できなかったが、P.4やP.5、建物の掘り込みと重複するP.21やP.60、それらと並ぶP.62・P.63などが該当するとすれば、径約6mの円形の建物跡を想定することも可能である。

第41号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第179～183図)

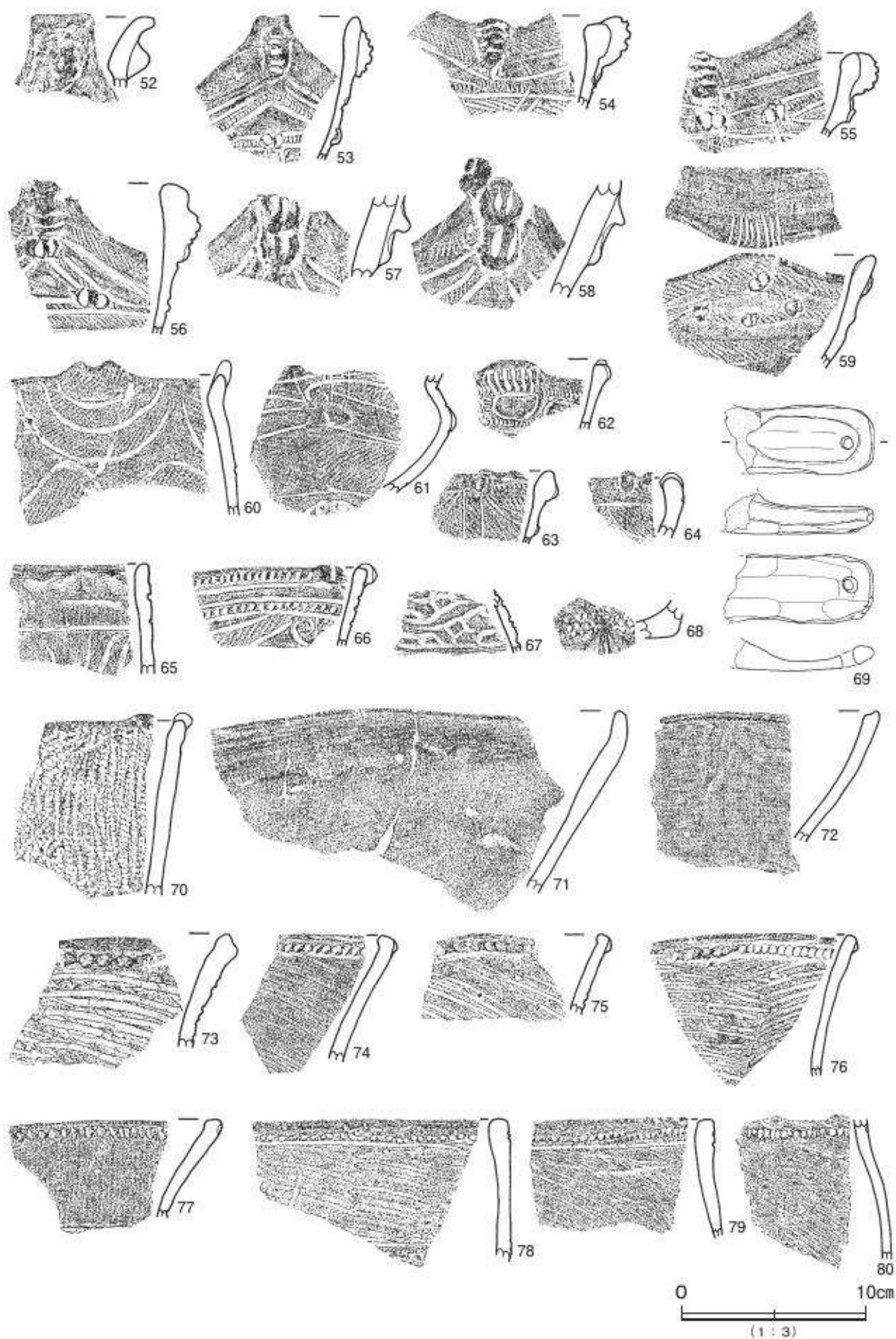
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.6]	(14.2)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	床面	10%
2	縄文土器	浅鉢	[14.7]	(6.6)	-	長石・石英	黒褐	普通	外面降帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	20%
3	縄文土器	鉢	[13.0]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面降帯臨沈線→無筋R縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	10%
4	縄文土器	浅鉢	[20.6]	(7.9)	[3.6]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面降帯臨沈線→RL縄文→磨き 刷部削り 内面磨き	覆土下層	10% PL37



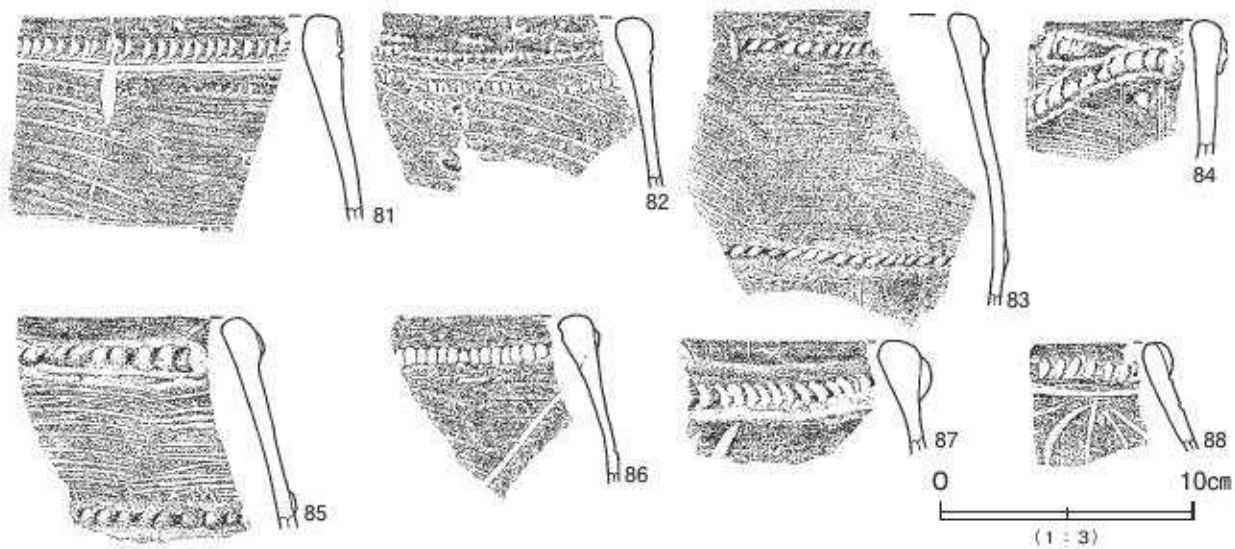
第 179 図 第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 180 图 第 41 号竖穴建物跡出土遺物实测图 (2)



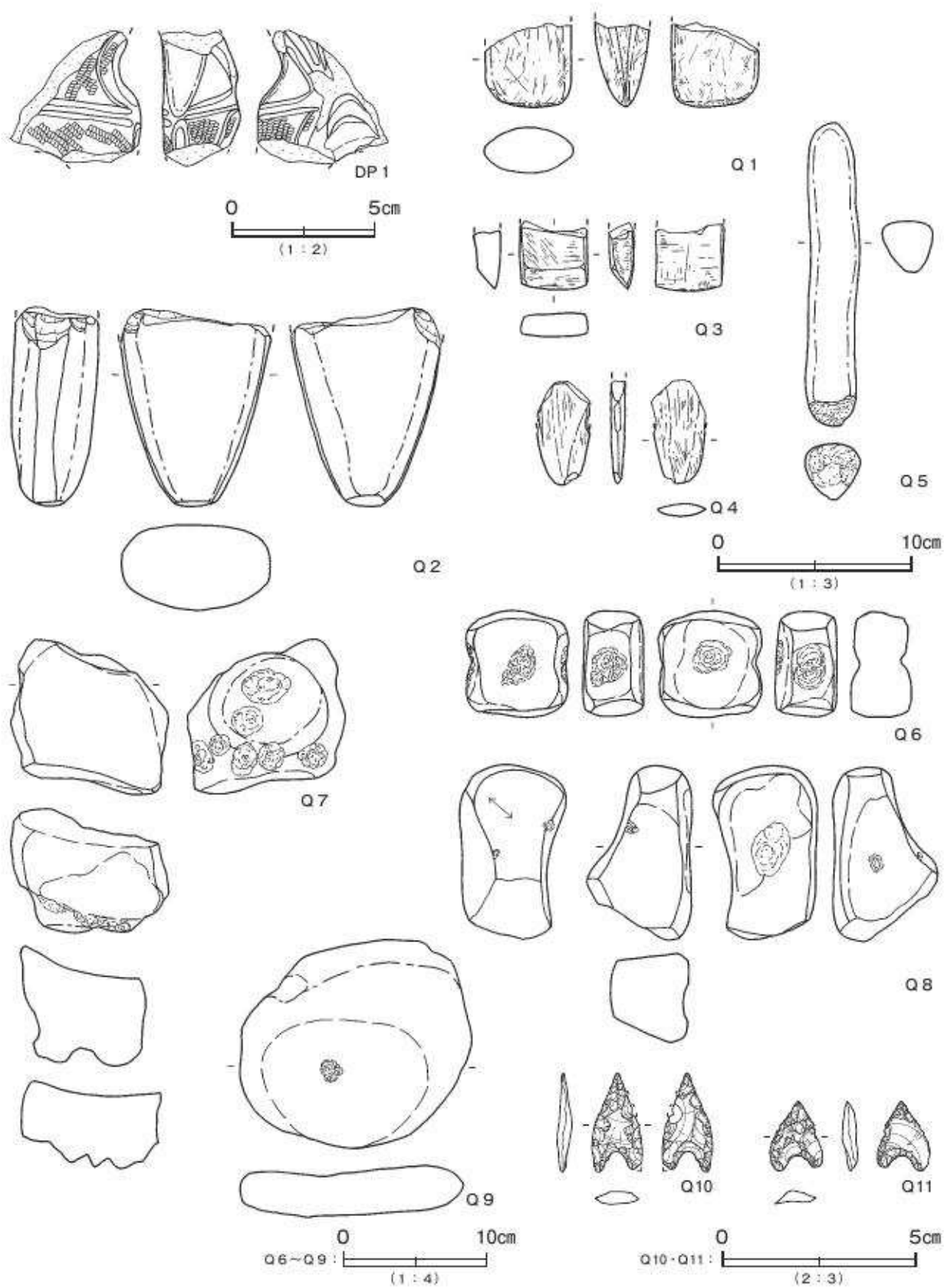
第181图 第41号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第 182 図 第 41 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 41 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 179 ~ 183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	4.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面・底部ナデ	覆土上層	内面に煤 10%
6	縄文土器	台付鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線 脚部 RL 縄文 内面鉢部磨き 脚部ナデ	覆土下層	10%
7	縄文土器	異形台付	-	(5.1)	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→隆帯土刻み 内面ナデ	覆土上層	70%
8	縄文土器	ミニチュア	3.4	2.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面指頭による整形	覆土中	60%
9	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	4.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面条線 内面ナデ 底部削り	覆土中層	10%
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆起帯貼付 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面 LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面磨き 脚部無第 R 縄文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口唇部に窩文連結沈線文 外・内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面斜線条線 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面斜線文→頸部磨き 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面粗い磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→口縁部刻み 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 褐	普通	外面条線→頸部磨き 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面斜格子目文 内面磨き	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面凹線・沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	PL37
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面 LR 縄文→沈線・刻み→磨き付→磨き 内面ナデ	覆土上層	
36	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	褐 灰	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・黒・粘り子	にぶい赤褐	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面隆帯際沈線→RL 縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	



第 183 図 第 41 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (5)

第 41 号竈穴建物跡出土遺物観察表 (第 179 ~ 183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 胴部条線 内面ナデ	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→条線 内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面隆帯臨沈線→LR縄文→磨き 内面ナデ 口縁部磨き	覆土上層	
49	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面条線→沈線→口縁部刻み 内面磨き	覆土下層	
50	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面条線→沈線→頸部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面刻み 内面磨き	覆土中	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆帯臨沈線→磨き付→RL縄文・刻み→磨き 内面ナデ	覆土下層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文・刻み→磨き 内面磨き	覆土中	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面隆帯臨沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面隆帯臨沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面凹線→RL縄文 内面ナデ	覆土下層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
62	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→隆帯上刻み→磨き 内面ナデ	覆土下層	
63	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
64	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	明 褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土下層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL37
67	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面羊歯状文 磨き 内面ナデ	覆土上層	
68	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面下端部細い刺突文 内面磨き	覆土下層	
69	縄文土器	手燗	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	覆土下層	
72	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面地縄文→紐線貼付→条線 内面磨き	伊2	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	口縁部外面刻み 内面磨き	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面条線→付点縄線文 内面磨き	覆土下層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面条線→付点縄線文 内面磨き	覆土下層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面条線→頸部刻み 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面条線→付点縄線文 内面ナデ	覆土下層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→付点縄線文 内面ナデ	覆土中	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ 一部磨き	覆土下層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土下層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP-1	土 罫	(47)	(45)	27	(408)	長石・石英	橙	ミニズク胴部 沈線→RL縄文	覆土上層	3c類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(44)	4.5	2.9	(730)	蛇紋岩	定角式 刃部再加工	覆土下層	2b類
Q 2	磨製石	(103)	7.7	4.5	(4719)	輝石安山岩	全面研磨加工 右側縁下部段打調整	床面	
Q 3	磨製石斧	(35)	3.5	1.3	(279)	緑色岩	定角式 刃部一部対こぼれ	覆土下層	2b類 PL46
Q 4	石 錐	(53)	(28)	0.7	(155)	粘板岩	石割。表面面研磨加工	竈柱穴内	1c類 被熱
Q 5	磨石類	15.7	2.9	2.9	1732	ホルンフェルス	下端部に敲行痕	覆土下層	3f類
Q 6	磨石類	7.2	7.0	4.15	2006	多孔質安山岩	表裏・両側面に研磨・凹痕	覆土下層	2d類
Q 7	石皿類	(105)	(10.7)	8.3	(686)	安山岩	表面磨り面 裏面凹痕 側面の一部にも磨り面あり	覆土下層	2b類
Q 8	石皿類	11.8	7.1	7.1	447.7	安山岩	表裏・側面に磨り面 裏面・側面に凹痕	覆土下層	2a類
Q 9	石皿類	15.7	14.2	3.6	1069.9	火山礫	表面に磨り面 凹痕	覆土下層	2a類
Q 10	石 鏝	256	1.32	0.39	(0.9)	安山岩	凹基	覆土下層	PL47
Q 11	石 鏝	1.81	1.39	0.41	0.6	黒曜石	凹基	覆土下層	PL47

第42号竖穴建物跡（第184・185図）

位置 調査A区北西部のB6h2区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。第43号竖穴建物、第138号土坑に掘り込まれている。第36号竖穴建物とも重複しており、出土遺物から本跡を掘り込んでいると推測される。

規模と形状 西部は第43号竖穴建物に掘り込まれ、東部は攪乱のため、またB6h1ラインから北は第2号遺物包含層を調査したのみであることから、東西径は5.2m、南北径は2.0mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定され、壁は高さ5～10cmで、外傾している。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 18か所。P5・P6・P13～P16は、位置と深さから支柱穴となる可能性がある。そのほかのピットは、南部に位置する第36号竖穴建物跡等に帰属する可能性がある。P1・P7・P10・P18は、壁際にまばらに位置している。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	17	13	12	37	42	33	11	8	83	45	20	28	39	37	40	34	18	22

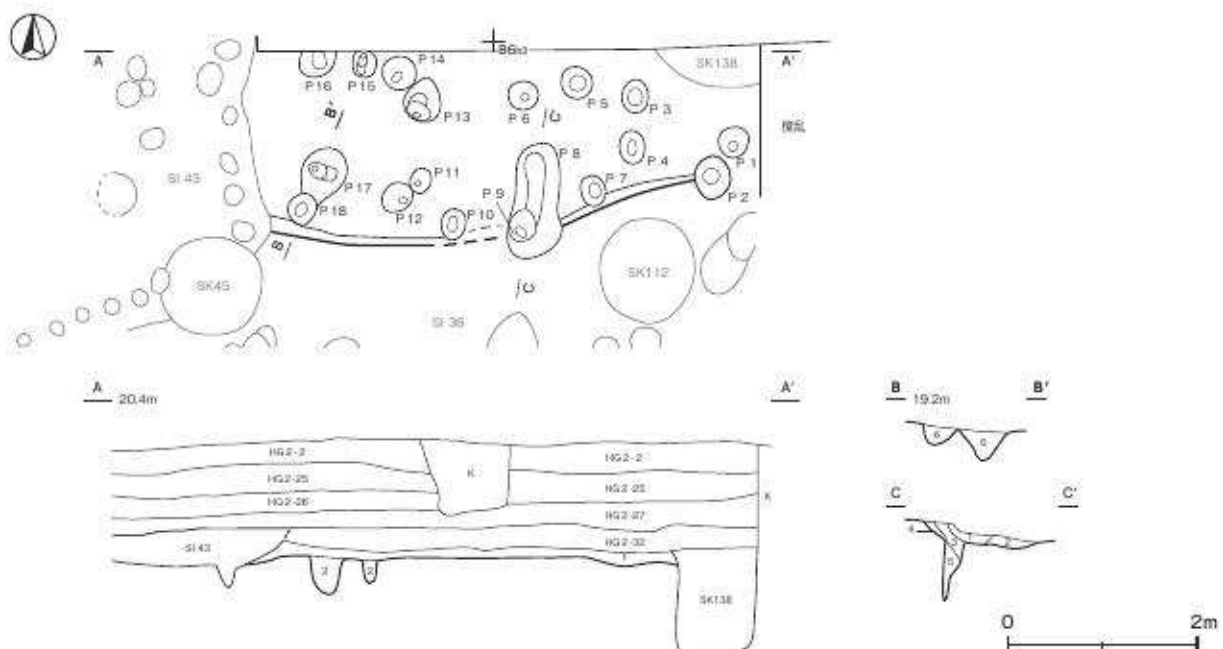
覆土 単一層。ローム粒子が多量に含まれる層で、自然堆積である。第2層はP15・P16の覆土である。

土層解説

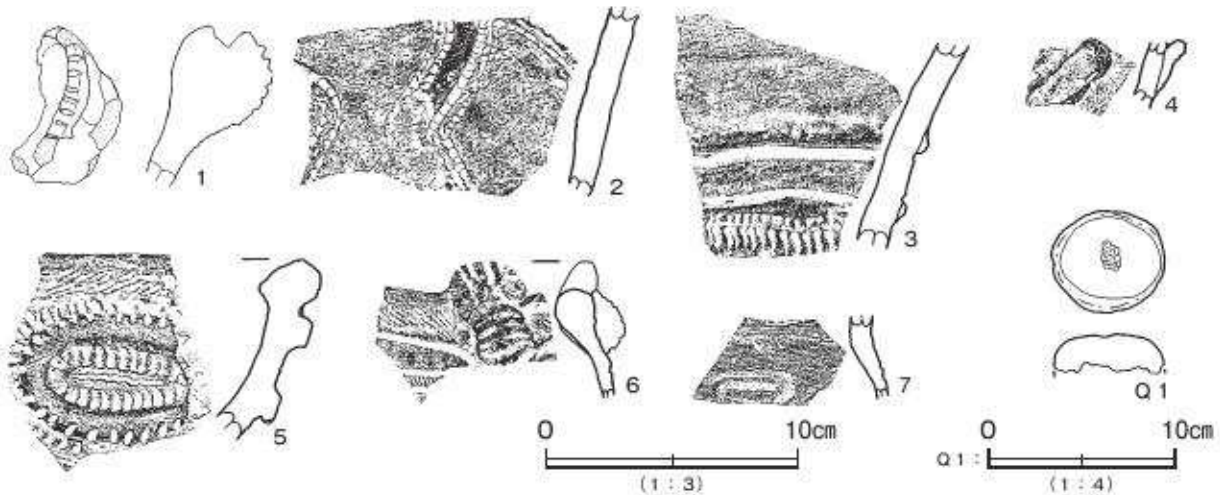
- 1 褐色
- ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色
- ローム粒子中量、炭化粒子微量 (P15・P16覆土)

遺物出土状況 縄文土器片120点(2.13kg)、石器2点(磨石類)が、出土している。土器は中期前葉から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第1群(阿玉台式)25.7%、第2群(加曾利E式)22.8%である。

所見 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅱから阿玉台Ⅲ式期と考えられる。



第184図 第42号竖穴建物跡実測図



第185図 第42号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42号竪穴建物跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	RG・GR・斜・絶好	橙	普通	外面波頂部から隆起帯垂下 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	RG・GR・斜・絶好	灰・褐	普通	外面隆起帯縁2列の角押文 磨き 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	外面隆起帯臨爪形文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	RG・GR・斜・絶好	黒・褐	普通	外面帯状隆起帯貼付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	RG・GR・斜・絶好	橙	普通	口縁部外面無節L織文 内面ナデ 一部磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	灰・褐	普通	外面隆起帯沈線→RL織文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子 にふい粉	普通	普通	外面「日」字状沈線文 内面磨き	P 4	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石類	5.9	5.3	(3.1)	(9.8)	角閃石ダイオサイト	裏面欠損 表面に磨り面・凹痕	覆土中	2c類 被熱

第43号竪穴建物跡（第186～188図 PL13）

位置 調査A区北西部のB 6h2区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第42号竪穴建物跡を掘り込み、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外で、またB 6h1ラインから北は、壁際に巡っている焼土を確認したのみであることから、東西軸は2.8m、南北軸は5.2mしか確認できなかった。隅丸方形と推測され、南北軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ9～23cmで、外傾している。

床 北部に向かって傾斜している。硬化面は確認できなかった。

ピット 18か所。P 1は、位置と深さから主柱穴と考えられる。P 2～P 13は、位置と形状から壁柱穴である。

P 14～P 16は、位置的に第42号竪穴建物跡に帰属する可能性がある。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	105	30	24	22	19	16	43	16	19	13	32	28	41	15	37	31	18	17

覆土 第2・16・18・24・26・27層の24層に分層できる。本跡の上層には第2号遺物包含層が堆積しているが、斜面部に位置しているため遺物包含層と覆土の区別が不明瞭である。第2・7・10・11層は、斜面上部から流れ込むように堆積しており、第2号遺物包含層の一部が廃棄後窪地となっていた本跡に流れ込んだものと考えられる。特に第2・4・6層は、竪穴建物の範囲を超えて堆積しており、遺構の立ち上がりを明瞭に捉えることができなかつた。第8・9層は骨粉や遺物を多量に含有している黒褐色土で、第1・8・20・41号竪穴建物跡の上層に堆積していた黒褐色土に類似しており、本跡の覆土となる可能性が高い。第9層の下にはロームブロックが多く含まれている第19・22層が堆積しており、埋め戻されている。また壁際の床面上には、焼土ブロックが帯状に10cm前後の層厚で堆積しており、部分的に板状の炭化材が残存している。第25・28層はP2・P15の覆土、第17・29層は第42号竪穴建物跡の覆土である。

土層解説

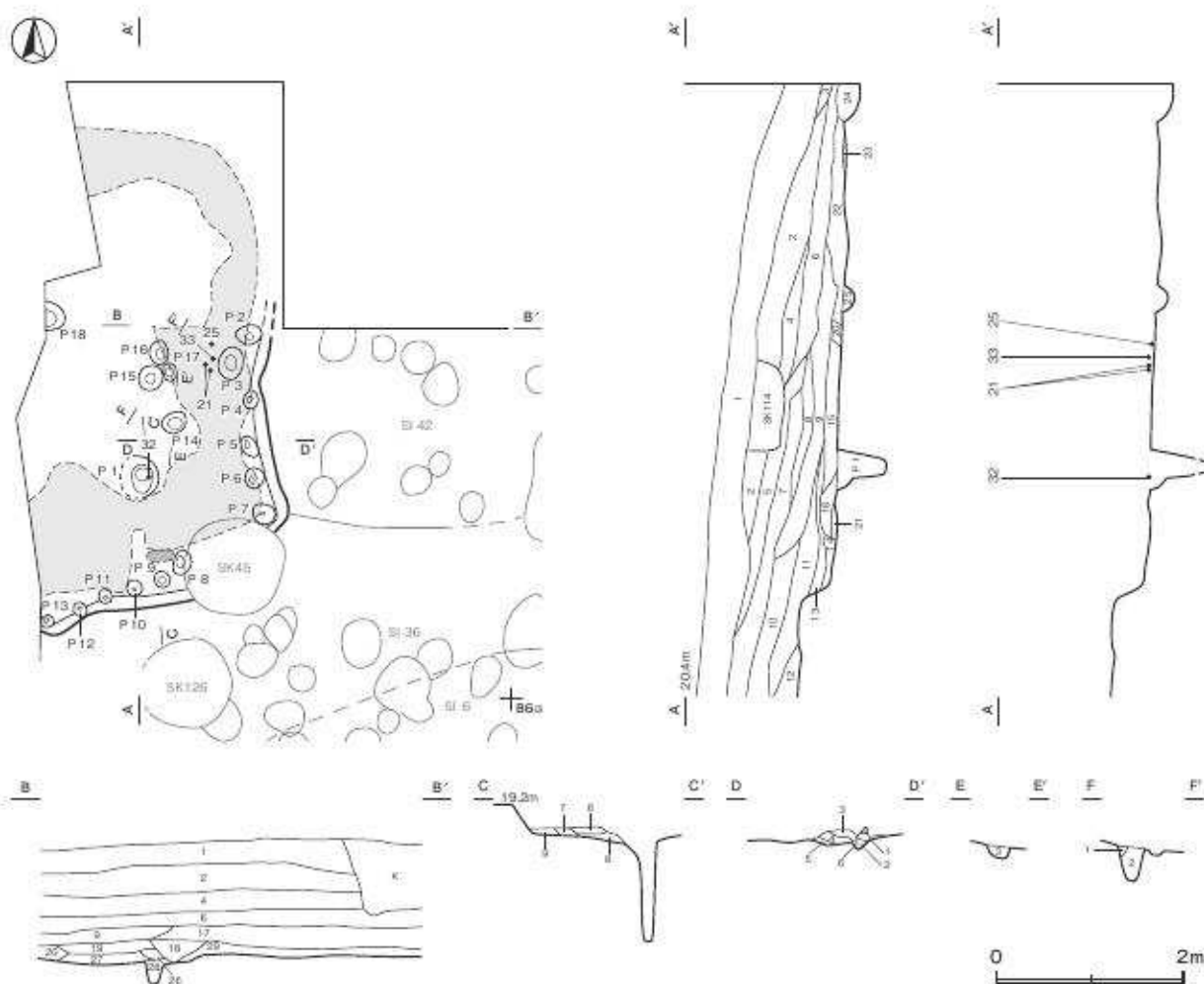
1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 (表土層)	17 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、 骨粉微量(第42号竪穴建物跡覆土)
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子 微量	19 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量
4 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	20 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
5 明褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	21 明褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	22 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉微量
7 黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・骨粉少量	23 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	24 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、骨粉少量	25 極暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 (ピット覆土)
10 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	26 極暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子・骨粉少量
11 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	27 暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量
12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	28 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(ピット 覆土)
13 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量	29 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微 量(第42号竪穴建物跡覆土)
14 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量		
15 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量		
16 明赤褐色	焼土ブロック多量、灰中量、炭化粒子少量、ローム 粒子微量		

焼土層土層解説 (C-C', D-D')

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 赤褐色	焼土ブロック多量、灰中量、ローム粒子・炭化粒 子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 黒色	炭化材多量、ロームブロック・焼土粒子少量
3 極暗赤褐色	焼土ブロック・灰中量、ローム粒子微量	8 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
4 淡赤褐色	焼土粒子多量、灰中量、炭化粒子少量、ローム粒 子微量	9 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片904点(12.44kg)、土製品2点(土偶、貝輪状)、石器6点(打製石斧2、石皿類2、磨石類2)のほか、焼成粘土塊4点、剥片1点(チャート)、獣骨片が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群(安行1・2式)29.9%である。32はP1の直上から、33は焼土中から出土している。

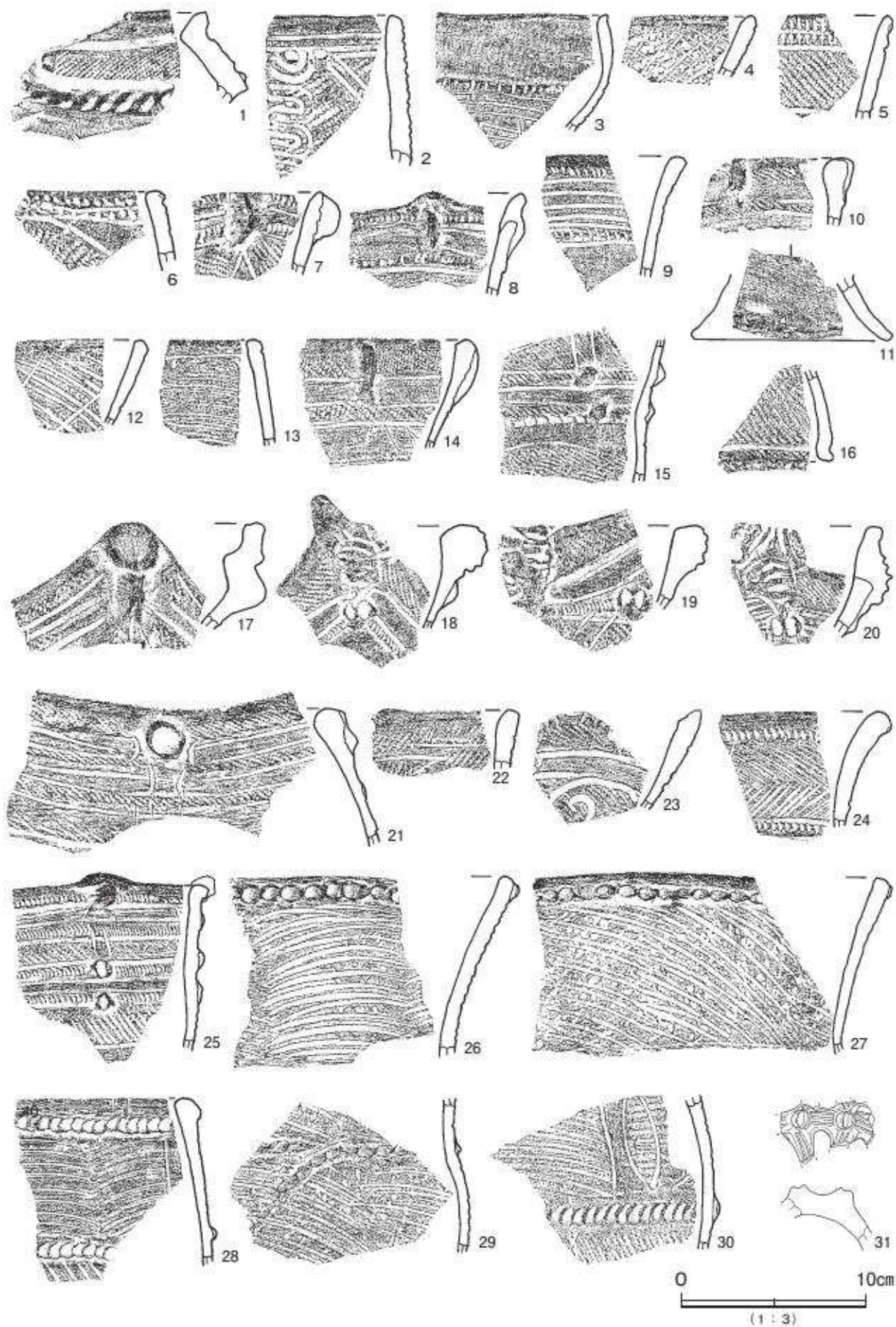
所見 時期は、出土土器と形状から後期後葉の安行2式期と考えられる。焼土層が壁際に巡る例は、本跡以外に第6・15号竪穴建物跡でも見られ、また関東地方の当該期の竪穴建物跡にも共通して確認できる。本跡の壁際の焼土層は、層厚があるものの被熱により硬化したような痕跡はなく、また床面全体に平滑に分布することもないことから、当該期の関東地方の竪穴建物跡に見られる「焼土敷・灰敷き」の床面を有するものとは考えにくい。焼土層下部の床面が、被熱により激しく赤変硬化した部分があること、また、壁内側の壁柱穴沿いに板状の炭化材が確認できたこと、P5で炭化材の一部が直立するように出土したことなどから、本跡は焼失建物跡で、壁際の焼土層は土屋根など建物構築材の一部と考えられる。



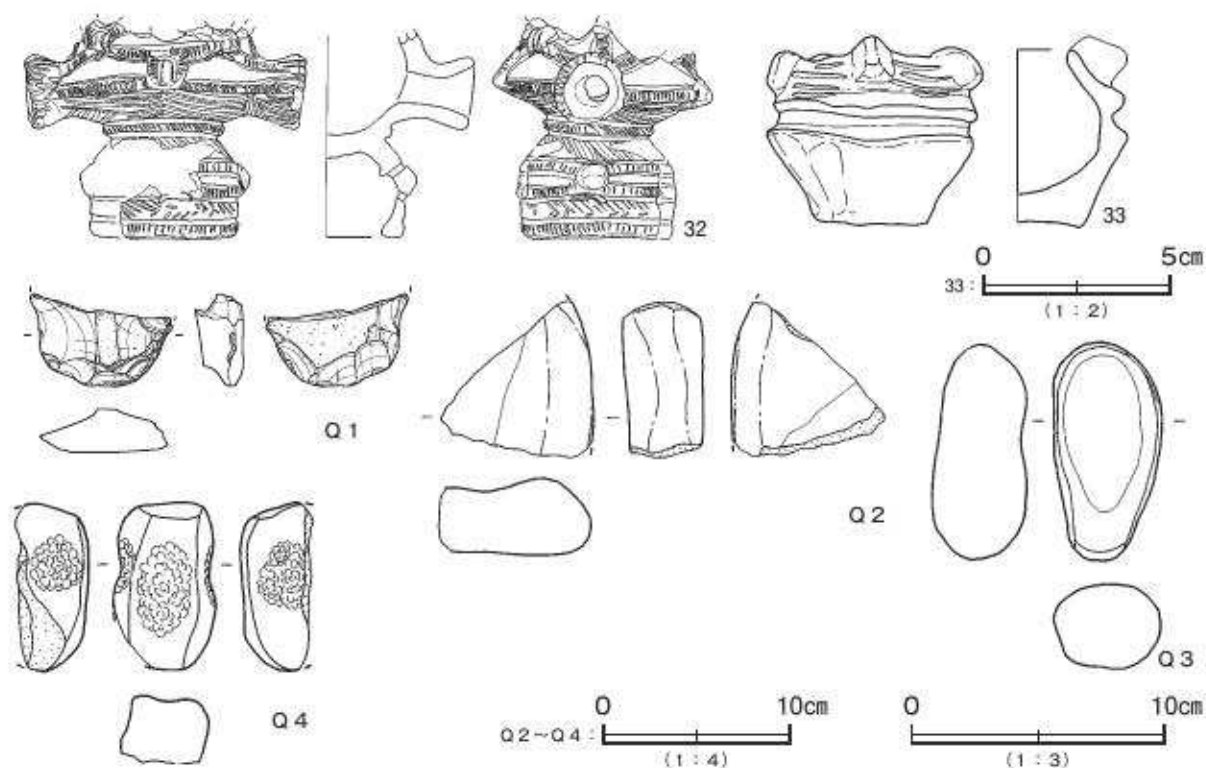
第186図 第43号竖穴建物跡実測図

第43号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第187・188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	黄・橙	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	暗赤褐	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤紫	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	暗赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰・褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐・灰	普通	外面隆帯幅沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	褐・灰	普通	胴部外面削り 内面磨き	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面凹線→RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	台付鉢	-	(38)	[10.8]	長石・石英・黒色粒子	黒・褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	黒・褐	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	暗赤灰	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒・褐	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	暗赤褐	普通	外面RL縄文 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	灰・赤	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	褐・灰	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	灰・褐	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文、刻み 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	明赤褐	普通	外面隆帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	PL37
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
23	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	灰・褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	土器門盤。
24	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・緑・粘り・艶好	橙	普通	外面条線→沈線→刻み 内面磨き	覆土上層	



第 187 図 第 43 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 188 図 第 43 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 187・188 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	にぶい黄褐色	普通	外面頸部条線→沈線→隆帯上刻み 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面LR 縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤灰子	橙	普通	外面LR 縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	黒	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	暗赤褐色	普通	外面LR 縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付→区画文内磨き 内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	香炉型	-	-	-	長石・石英	褐色 灰	普通	天井部 外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	黄彩台付	-	(8.8)	(5.6)	長石・石英・黒緑	橙	普通	外面隆帯上刻み 内面ナデ	覆土下層	被熱 80% PL30
33	縄文土器	小形	3.4	5.0	2.8	長石・石英・黒色灰子	にぶい褐色	普通	外面頸部底磨に近いナデ 内面ナデ	覆土下層	90% PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打製石斧	(3.8)	(5.7)	1.9	(31.5)	安山岩	分銅形	黄土中	被熱
Q 2	石皿型	(8.0)	(8.0)	4.2	(279.7)	砂岩	表表面使用による磨り面	黄土中	1a 類 被熱
Q 3	磨石類	11.2	5.6	4.9	69.4	高純岩	表面に磨り面 背に中央部が光沢のある磨り面	覆土下層	1a 類 被熱
Q 4	磨石類	8.7	5.3	(3.7)	(138.2)	安山岩	表・両側面に凹痕	覆土下層	2b 類

第 44 号竪穴建物跡 (第 189・190 図 PL11)

位置 調査A区北部のB 6 h8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層の I - 2 層下で確認した。第 198 号土坑、第 4 号溝、第 6 号ピット群に掘り込まれている。第 15・56・57 号建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土土器からは、いずれも本跡を掘り込んでいると推測される。

規模と形状 北部が調査区域外で、北西部が攪乱や第 4 号溝に掘り込まれていることから、南北径は 6.3 m、東西径は約 2 m しか確認できなかった。楕円形と推定され、南北軸方向は N - 35° - E である。壁は高さ 27

～40cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。壁際を除いて踏み固められている。

ピット 10か所。P1～P3は、位置と深さから主柱穴である。P6～P9は、壁際に疎らに位置する小ピットである。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子極微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
深さ	70	84	57	12	15	14	21	28	47	19

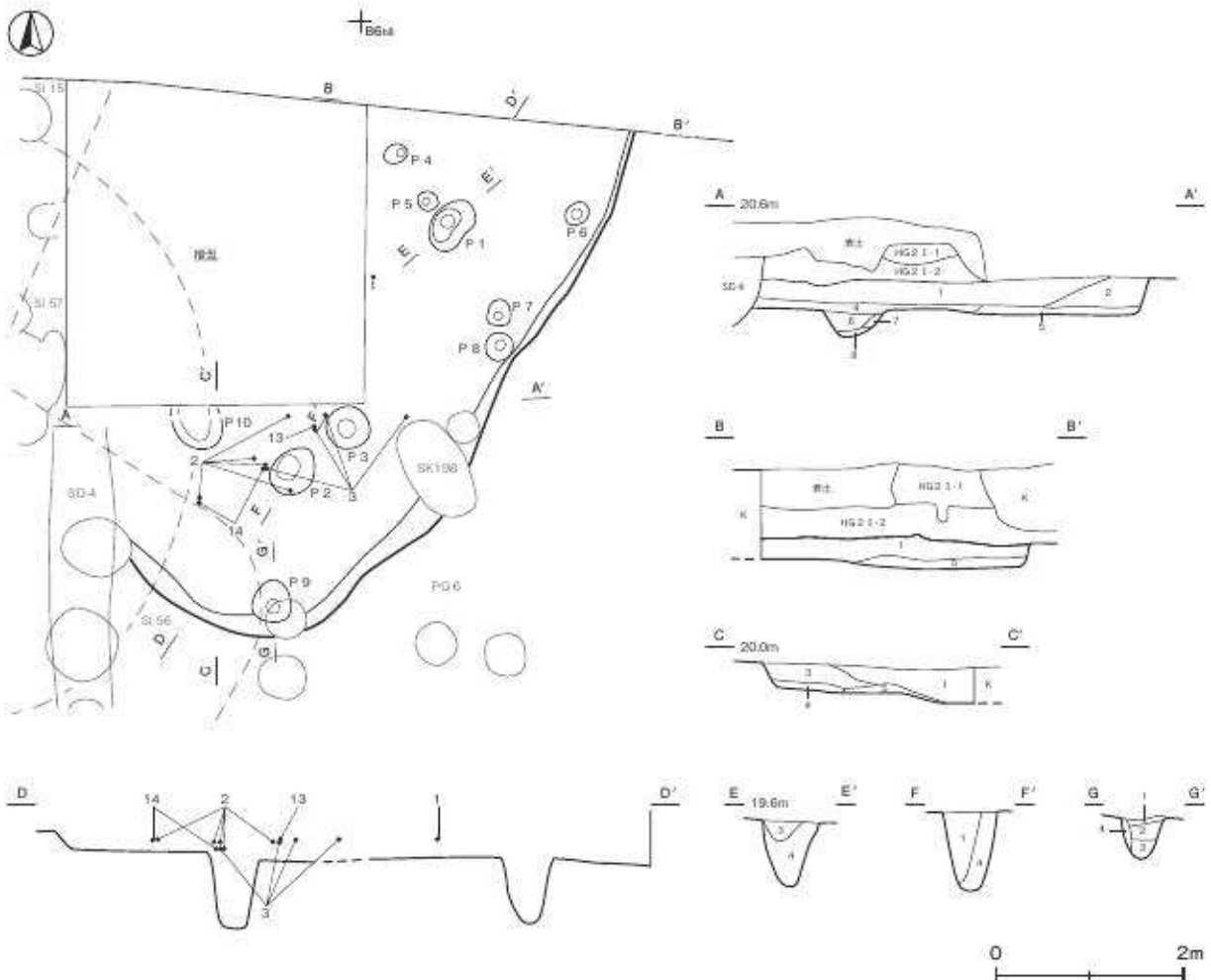
覆土 5層に分層できる。ローム粒子が含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

第6～8層はP10の覆土である。

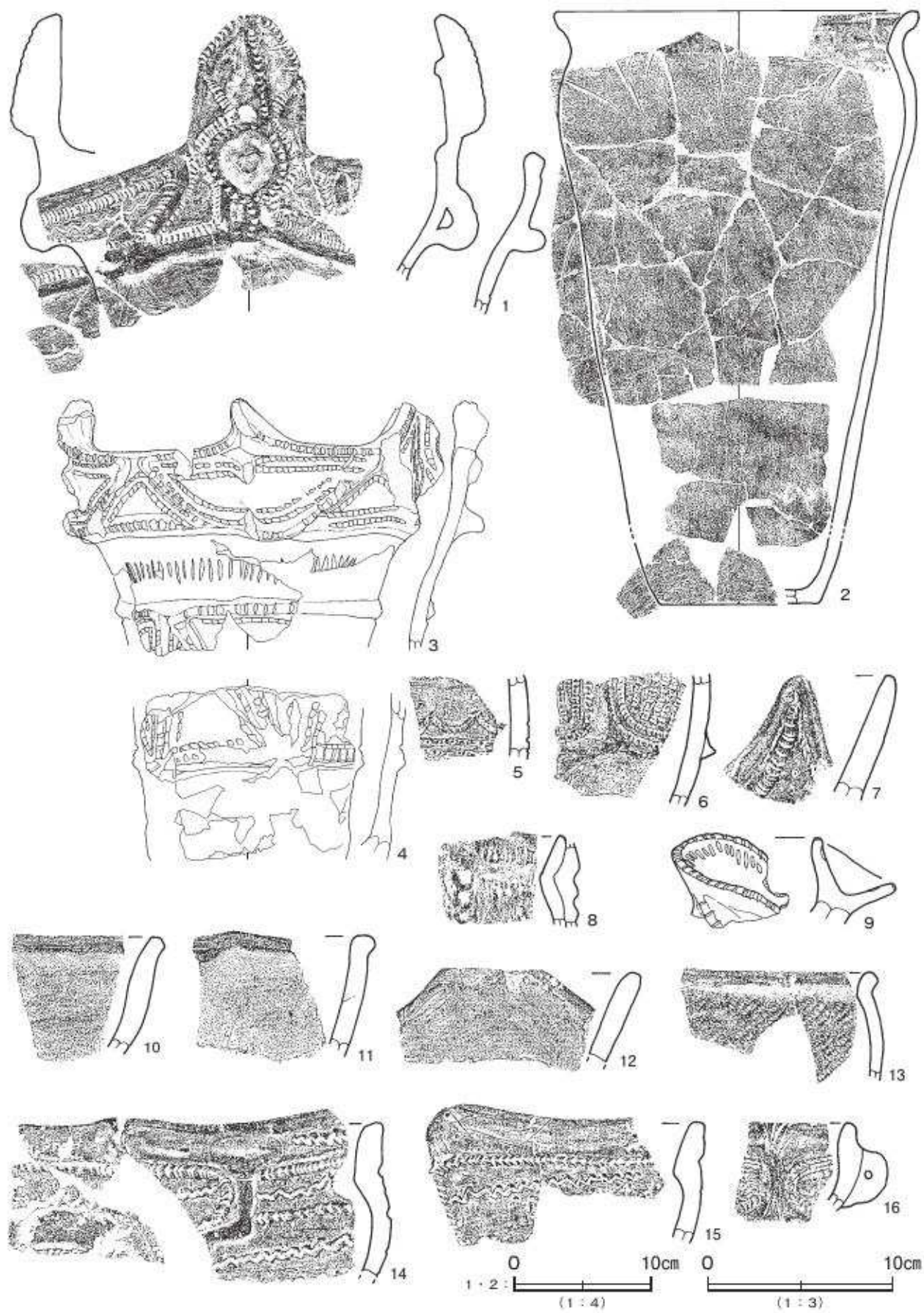
土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片369点(7.125kg)、石器・石製品3点(磨石類、石錘、石棒・石剣類)のほか、剥片6点(黒曜石)が、出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となる



第189図 第44号竪穴建物跡実測図



第190图 第44号竖穴建物跡出土遺物実測図

のは第1群（阿玉台Ⅲ式）79.5%で、なかでも阿玉台Ⅲ式が多く出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅲ式期と考えられる。

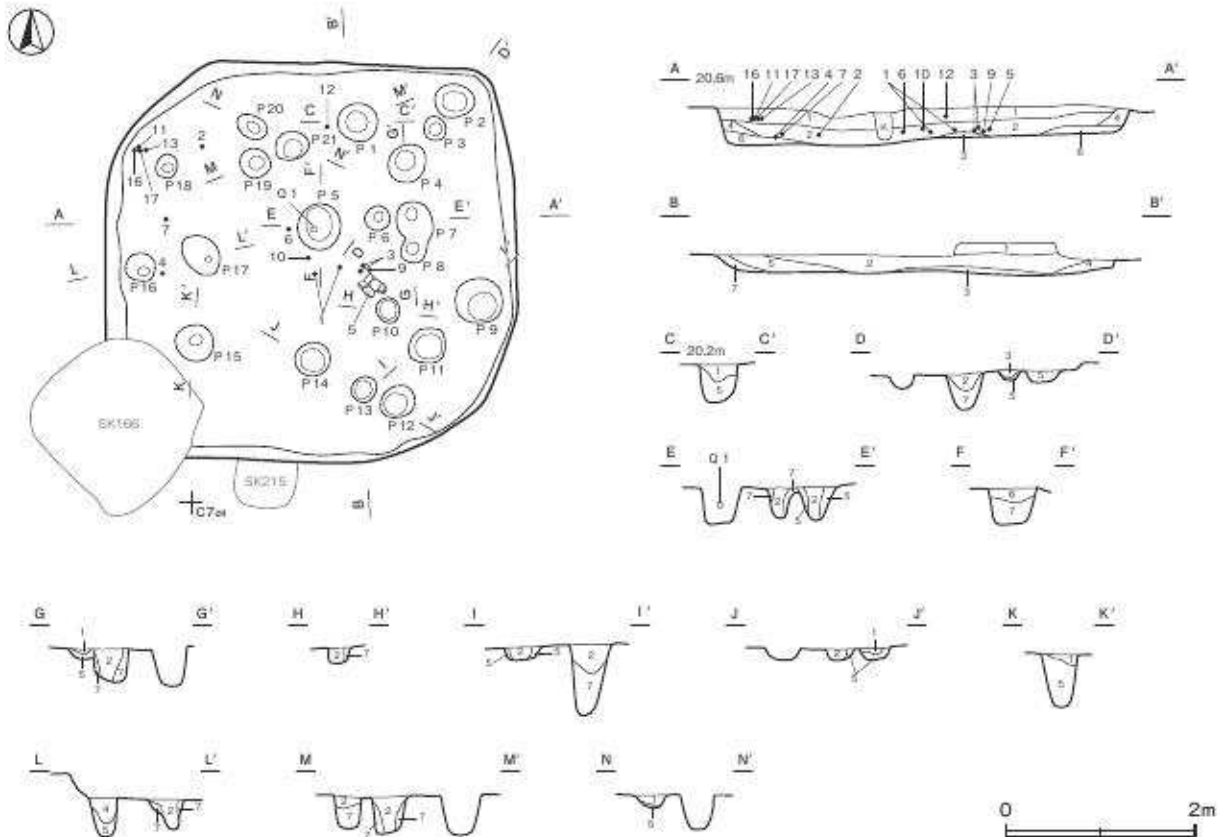
第44号竪穴建物跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	27.8	21.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯鬚爪形文 内面ナデ	覆土中層	10%
2	縄文土器	深鉢	26.0	42.2	11.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中層	20%
3	縄文土器	深鉢	18.3	14.4	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面隆起帯鬚2列の角押文 内面磨き	覆土中層	4と同一50%
4	縄文土器	深鉢	-	18.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯鬚2列の角押文 内面磨き	覆土中層	3と同一10%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい赤褐	普通	外面1列の角押文 内面ナデ	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい褐	普通	外面隆起帯鬚2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面肥厚・爪形文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい赤褐	普通	外面爪形文 内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい赤褐	普通	外面口唇部・隆起帯上に爪形文 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
11	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面RL模文 内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面隆起帯鬚爪形文 内面磨き	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面隆起帯鬚三角文 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・蛇紋石	にぶい褐	普通	外面隆起帯鬚爪形文 内面磨き	覆土中層	

第45号竪穴建物跡（第191～193図 PL14）

位置 調査A区南東部のC7c4区、標高20.5mほどの台地上に位置している。

重複関係 第166・215号土坑と重複しているが、堆積状況から新旧関係は確認できなかった。出土遺物から、第166号土坑が本跡を掘り込んでいると推測できる。



第191図 第45号竪穴建物跡実測図

規模と形状 東西軸 4.36 m, 南北軸 4.24 m の隅丸方形で, 南北軸方向は N-0° である。壁は高さ 11~39cm で, 外傾している。

床 ほば平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 21 か所。P 1・P 4・P 7・P 9・P 15・P 16・P 19・P 21 は, 位置と深さから主柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 黒色	炭化粒子中量, 焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量		

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	41	18	12	39	36	30	37	12	131	22	15	16	13	12	56	37	29	17	36	16	37

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層がレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 縄文土器片 431 点 (9.18kg), 土製品 1 点 (貝輪状), 石器 12 点 (磨製石斧 1, 打製石斧 1, 磨石類 7, 礫器 3) のほか, 焼成粘土塊 1 点, 剥片 4 点 (チャート 2, 瑪瑙 1, 安山岩 1) が, 出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが, 主体となるのは第 1 群 (阿玉台式) 52.7% で, なかでも阿玉台Ⅱ式から阿玉台Ⅲ式が多く出土している。

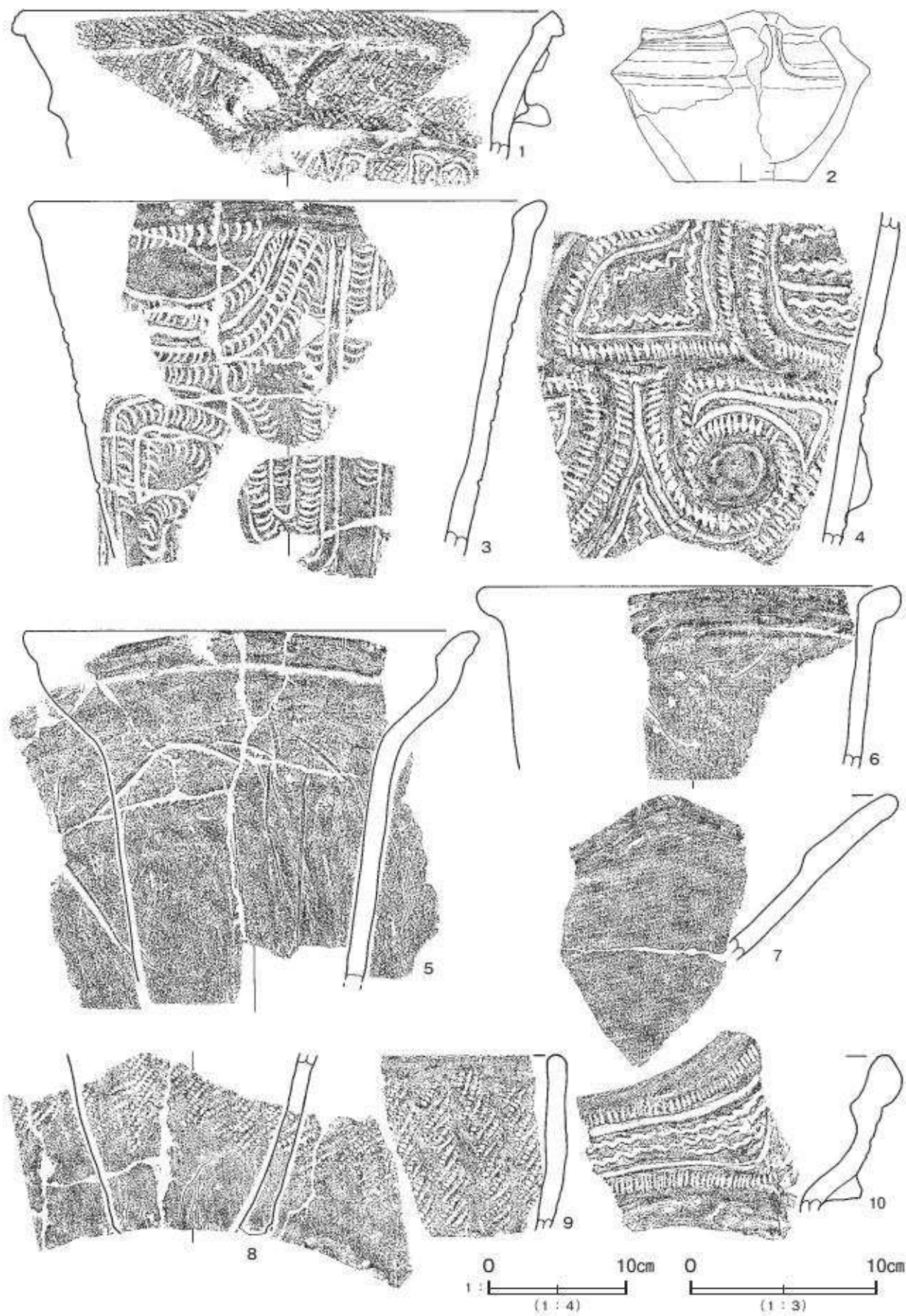
所見 時期は, 出土土器から中期前半の阿玉台Ⅲ式期と考えられる。

第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 192・193 図)

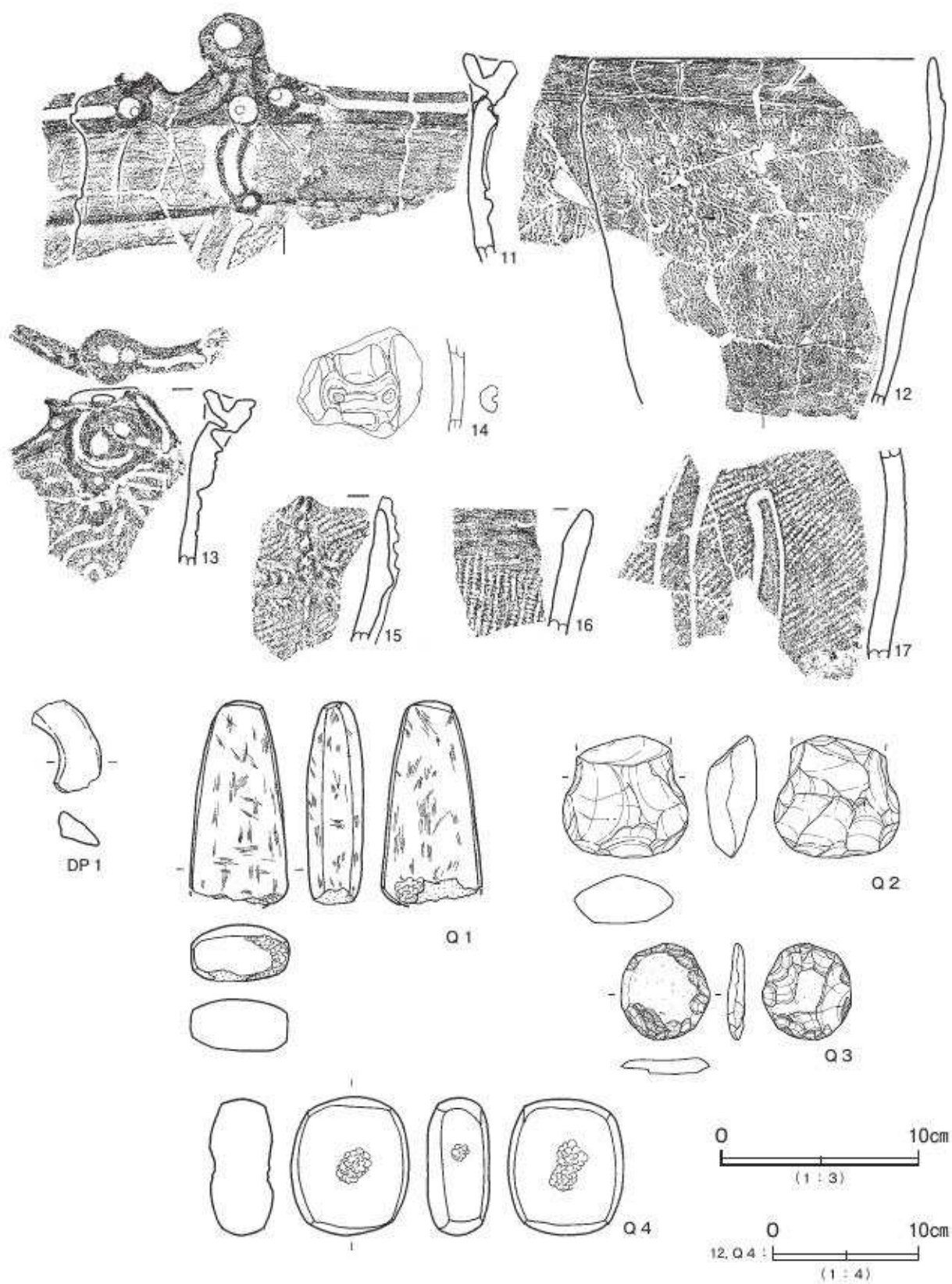
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[37.5]	(10.4)	—	灰石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面 RL 縄文→半裁竹管文 内面磨き	覆土下層	10% PL37
2	縄文土器	鉢	[10.1]	(8.4)	(7.0)	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面橋状把手 1 か所 内面磨き	覆土下層	30% PL30
3	縄文土器	深鉢	[27.2]	(19.0)	—	長石・石英・雲母・赤銅	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯幅沈線間に爪形文 内面磨き	覆土下層	20%
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面ナデ	覆土下層	PL37
5	縄文土器	深鉢	[24.4]	(18.8)	—	灰石・石英・赤銅・赤色粒子	灰・褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	15%
6	縄文土器	深鉢	[22.2]	(9.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	10%
7	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	—	長石・石英・雲母・赤銅	明赤褐色	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土下層	20%
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	灰・褐色	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤銅・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	[20.2]	(16.1)	—	灰石・石英・赤銅・赤色粒子	褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線→沈線間磨き 内面ナデ	覆土上層	10%
12	縄文土器	深鉢	[22.4]	(23.0)	—	灰石・石英・赤銅・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面橋状工具による蛇行文 内面ナデ	覆土上層	20% PL37
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	灰石・石英・赤銅・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面口縁→沈線 口縁部に雲文通線沈線文とC字状筋付文 内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	蓋	—	—	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤銅	にぶい褐色	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	灰・褐色	普通	外面 LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線→沈線間磨き 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	貝輪状	(4.7)	(3.4)	1.7	16.2	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	外・内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(10.3)	5.0	2.8	(298)	花崗斑岩	定角式 刃部欠損後敲打痕	覆土下層	
Q 2	打製石斧	(6.2)	(6.4)	2.6	(112)	ホルンフェルス	分銅形	覆土中	磨成
Q 3	礫器	4.9	4.5	0.9	20.3	安山岩	全周縁剥離	覆土上層	被熱 PL45
Q 4	磨石類	9.1	7.7	4.1	84.1	輝石安山岩	表裏面磨 表裏・右側面凹痕	覆土中	2d 類



第 192 図 第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 193 图 第 45 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

第 46 号竪穴建物跡 (第 194・195 図 PL11・14)

位置 調査A区北部のB 619区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の第Ⅱ層中で確認した。第4号土坑を掘り込み、第168号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部と東部が調査区域外になるため、東西径は1.8m、南北径は3.0mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。壁は高さ8～10cmで、外傾している。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 北部と東部が調査区域外になるため、東西径は62cm、南北径は60cmしか確認できなかった。深さ26cmの地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 3 橙 色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量
2 黒褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 4か所。壁際に廻るように位置している。

ピット土層解説

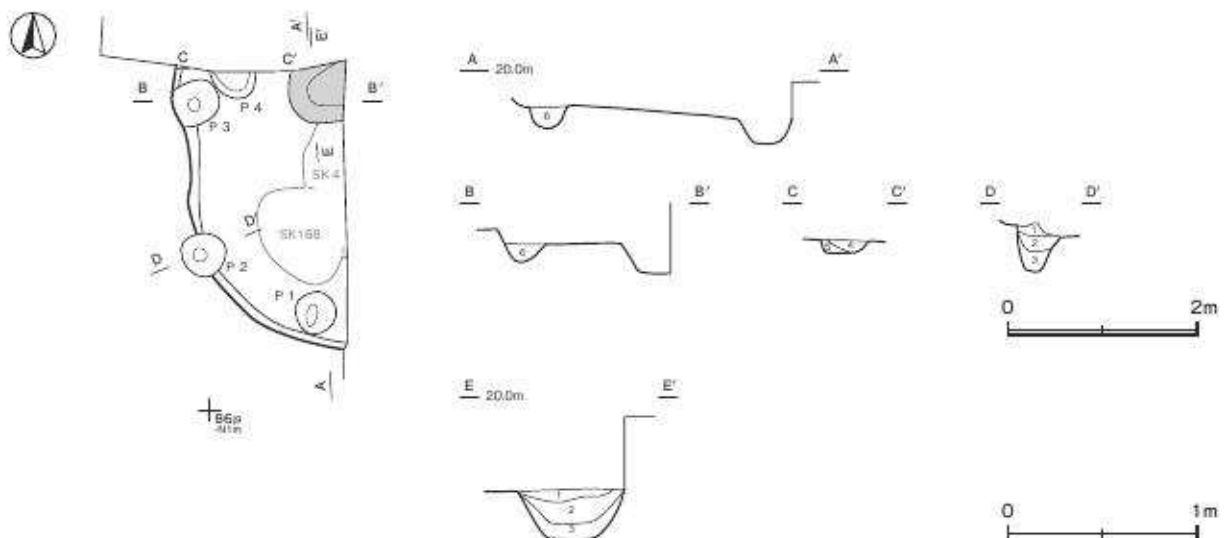
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子少量 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4
深さ	25	51	32	16

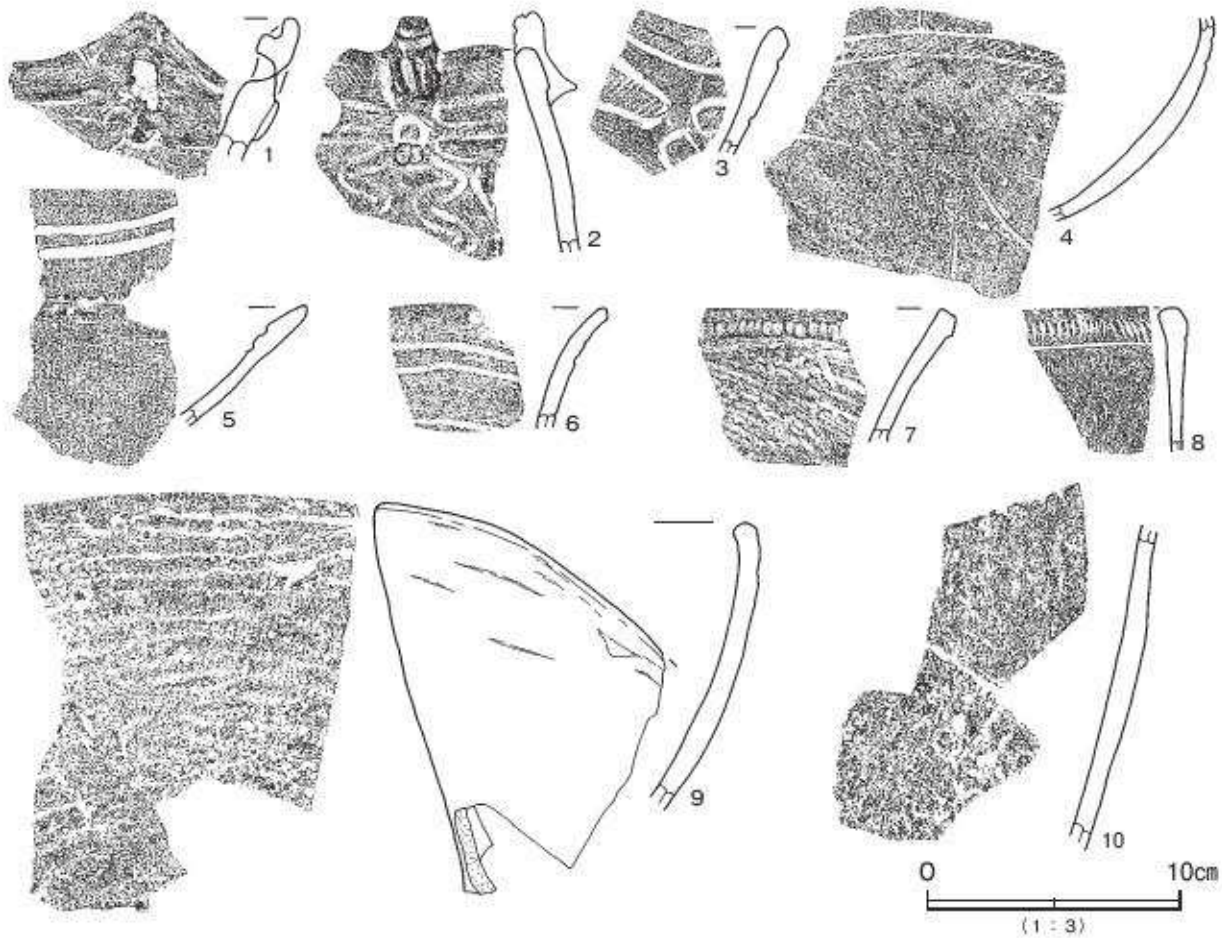
覆土 本跡の上には第2号遺物包含層のⅡ-1～Ⅱ-3層が堆積しているが、斜面部に位置しているため遺物包含層と本跡の覆土の区別が不明瞭である。Ⅱ-1～Ⅱ-3層は斜面上部から流れ込むように堆積しており、第2号遺物包含層の一部が廃棄後窪地となっていた本跡に流れ込んだものと考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片244点(3.585kg)、剥片1点(チャート)のほか、発泡化した土器片2点が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群(晩期安行式)29.2%、第7群(後期安行式)21.9%、第4群(堀之内式)14.6%である。



第 194 図 第 46 号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器と形状から後期前葉の堀之内1式期と考えられる。第7群や第8群の土器は、重複している第168号土坑に伴うものと考えられる。



第195図 第46号竪穴建物跡出土遺物実測図

第46号竪穴建物跡出土遺物観察表（第195図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外面隆起帯貼付 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯上・髷割み 口縁部RL縄文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無節L縄文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	波状口縁 波頂部刻み 外・内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	磨減のため調整不明瞭	覆土中	二次焼成
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐	普通	外面地縄文→柔線 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面柔線→付点縦線文 内面ナデ	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	発泡化 輪積み痕明瞭 歪み著しい	覆土下層	二次焼成
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	発泡化 輪積み痕明瞭 歪み著しい 内面磨き	覆土中	二次焼成

第48号竪穴建物跡（第196～198図 PL11・14）

位置 調査A区東部のB7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。第54号建物、第147・160・162・164・181・272号土坑、第1・2号炉に掘り込まれている。

規模と形状 東西径 5.48 m, 南北径 5.16 m の円形である。壁は高さ 15～25cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、中央部付近が踏み固められている。

ピット 28 か所。P 4・P 7・P 12・P 13・P 18・P 24・P 26 は、位置と深さから支柱穴の可能性がある。

壁際の P 6・P 8 は深さがあり、上屋を支える補助柱穴的な役割を有したものと考えられる。

ピット土層解説

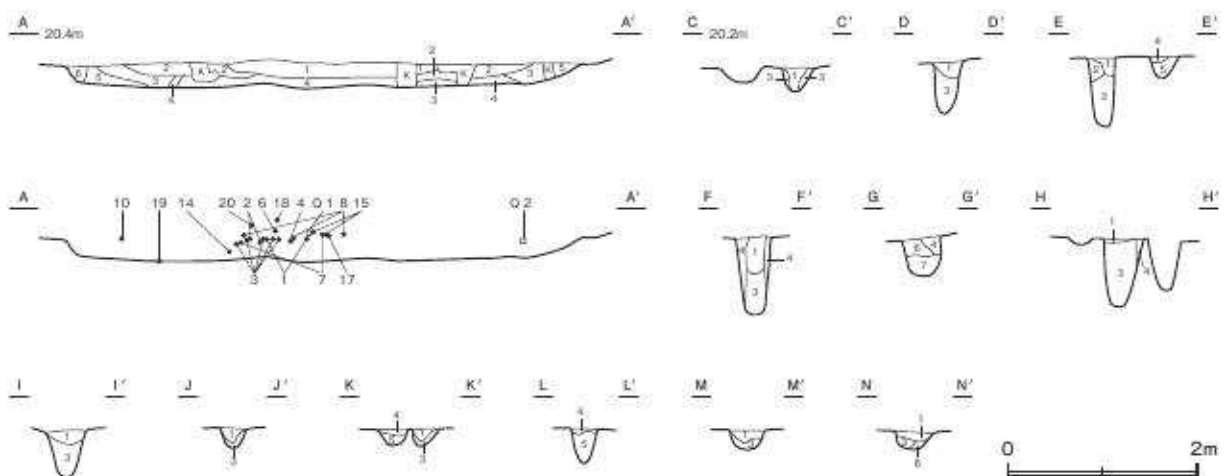
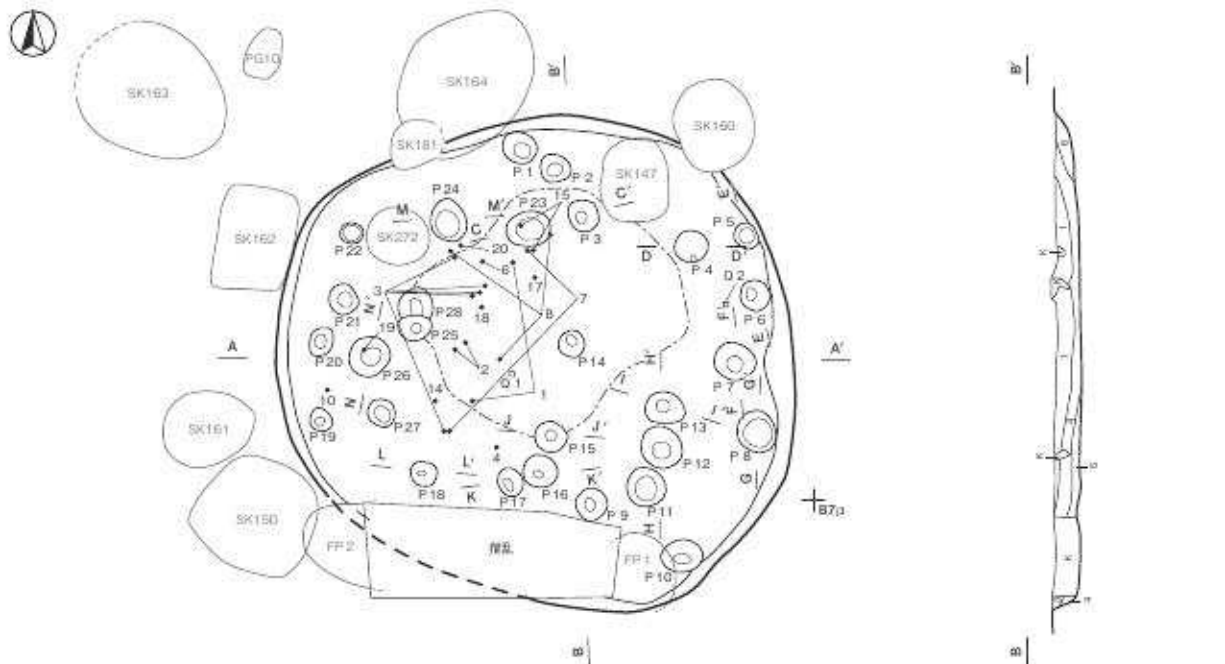
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット深度表

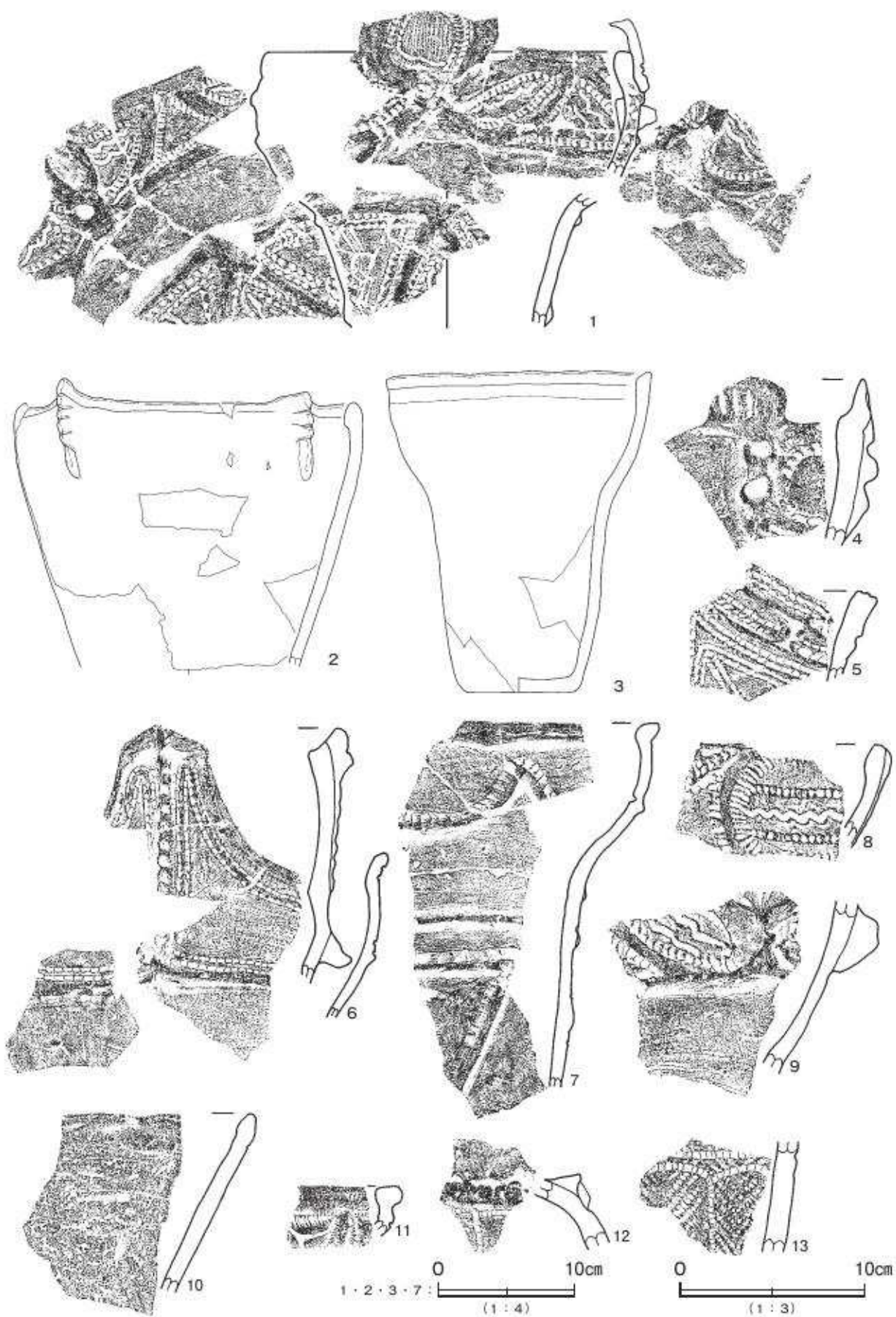
(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
深さ	13	20	26	67	23	79	83	50	32	28	16	75	55	20	21	22	19	38	13	15	13	19	14	22	21	23	7	17

覆土 6層に分層できる。黒褐色土が主体の層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第 196 図 第 48 号竪穴建物跡実測図



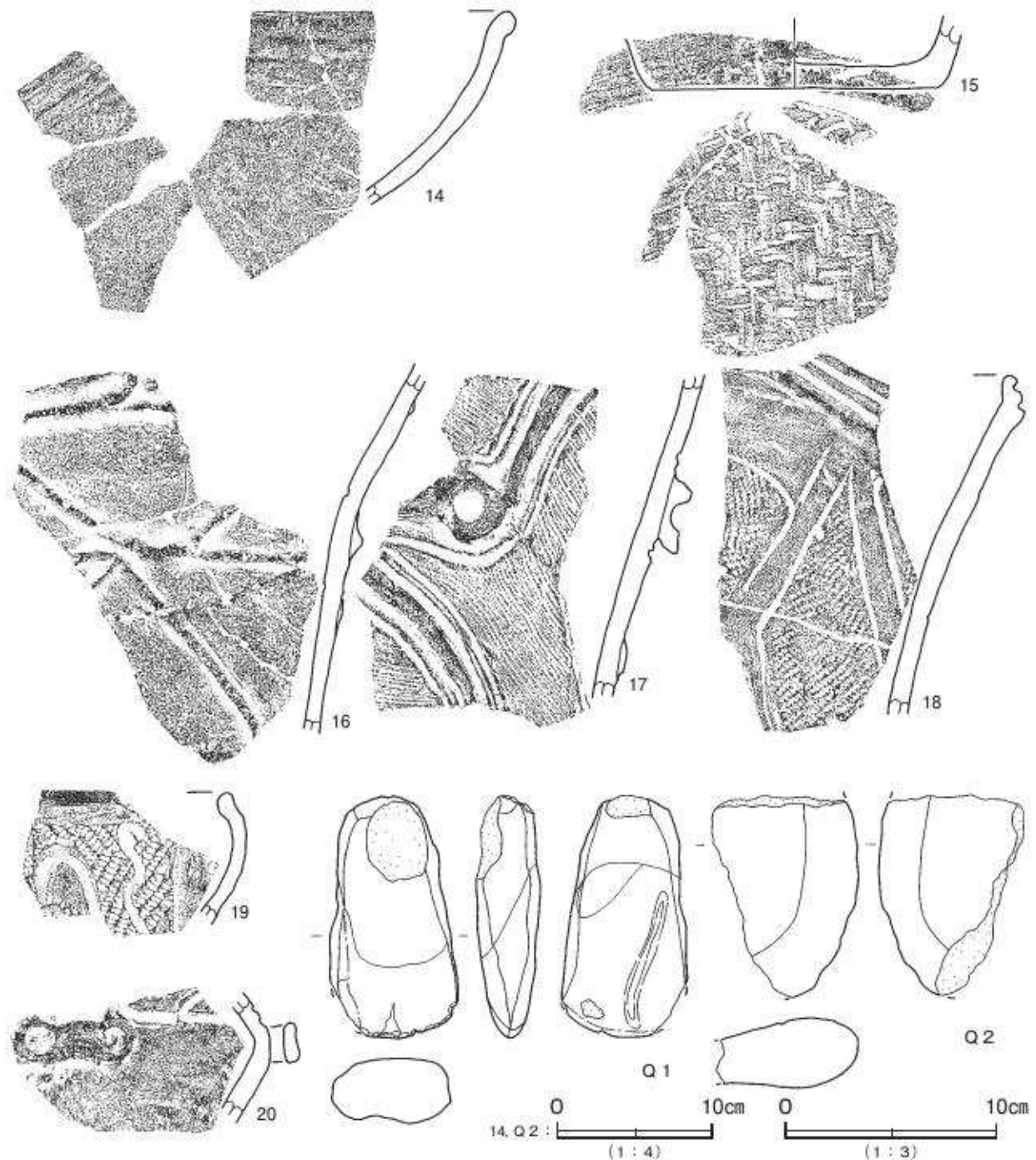
第 197 图 第 48 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 908 点 (13.911kg)、土製品 1 点 (土器片円盤)、石器 8 点 (磨製石斧 1、石皿類 1、磨石類 6) のほか、剥片 25 点 (黒曜石 20、チャート 3、頁岩 1、安山岩 1) が、出土している。遺物は、中央付近の覆土上層から多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 1 群 (阿玉台式) 81.1% で、そのうちの多くが阿玉台Ⅱ式と阿玉台Ⅲ式である。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期前半の阿玉台Ⅱ式から阿玉台Ⅲ式期と考えられる。



第 198 図 第 48 号竪穴建物跡出土遺物 (2)

第 48 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 197・198 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.6]	(19.7)	—	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	外面隆起帯輪爪形文 胴部磨き 内面磨き	覆土上層	30%
2	縄文土器	深鉢	[23.6]	(20.8)	—	長石・石英・赤色粒子	におい赤褐色	普通	耳状の突起2カ所 内面磨き	覆土上層	40% PL31
3	縄文土器	深鉢	18.9	23.1	[8.3]	長石・石英・黒・艶粒子	におい赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	80% PL31
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒・艶粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒・艶粒子	灰 褐	普通	外面隆起帯輪2列の角押文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒・艶粒子	におい赤褐色	普通	外面隆起帯輪2列の角押文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・艶粒子	灰 褐	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・艶粒子	灰 褐	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	外面割線
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	におい黄褐色	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐	普通	外・内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	外面 RL・LRの羽状縄文→有節沈線 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外・内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	[13.6]	黒・赤・艶粒子・艶粒子	黒 灰	普通	外面磨き 内面ナデ 底部割代痕	覆土上層	10%
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・艶粒子	暗 褐	普通	外面隆起帯による三角形区画文 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯器沈線→輪状工具による条線 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	におい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒 褐	普通	外面 RL縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英	におい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	11.5	6.0	3.1	(29.9)	輝石角閃石安山岩	定角式 裏面に研磨痕	覆土上層	
Q 2	石皿形	[12.6]	[9.2]	4.5	[62.0]	安山岩	表面に磨痕	覆土上層	1型

第 49 号竖穴建物跡 (第 199 図 PL11)

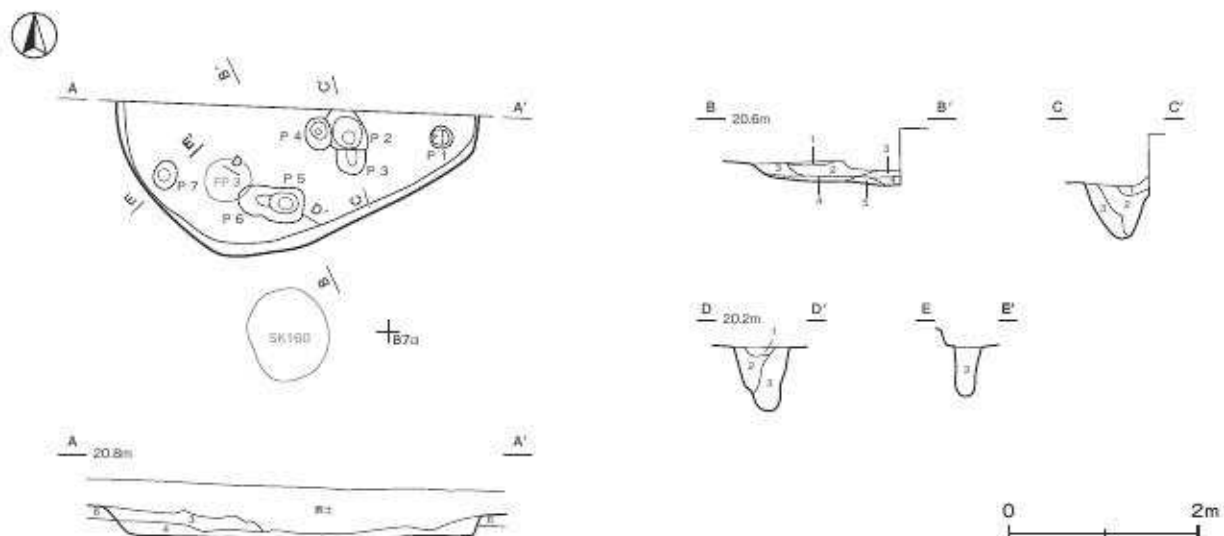
位置 調査A区北東部のB7h2区、標高20.5mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第3号炉に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外となるため、南北径は1.6m、東西径は3.9mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定されるが、炉・出入口ピットとも確認できないことから、主軸方向は不明である。壁は、確認面からの深さは18cmであるが、土層断面図で確認できる壁の高さは19～28cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P2～P7は、位置と深さから主柱穴と考えられる。



第 199 図 第 49 号竖穴建物跡実測図

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7
深さ	19	54	54	53	68	43	52

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや骨粉が少量含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第6層は、ローム漸移層に近い層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量
5 黄褐色 ロームブロック多量
6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 48点 (0.46kg)、石器 1点 (軽石製品) が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが、いずれも数点ずつ出土している。

所見 時期は、形状から中期と考えられる。

第51号竪穴建物跡 (第200・201図 PL14)

位置 調査A区東部のC7a3区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の第II層下で確認した。第217号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東部が覆乱で壊されているため、南北径は4.68mで、東西径は4.8mしか確認できなかった。内側が長方形に一段下がる有段建物で、上段の平面形は楕円形と推定され、有段部分の掘方から推定できる主軸方向はN-0°である。壁は高さ10~26cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、中央部が硬化している。

ピット 25か所。P1・P3~P8は、位置と形状から支柱穴である。P4~P7が重複していることから、立て替えの可能性がある。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 黒暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
4 黒暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 黒暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
7 暗褐色 ローム粒子少量
8 黒暗褐色 ローム粒子少量
9 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
10 明褐色 ロームブロック中量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	88	30	76	109	31	29	26	68	30	27	28	54	18	26	69	32	97	26	12	43	43	40	12	15	38

覆土 7層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

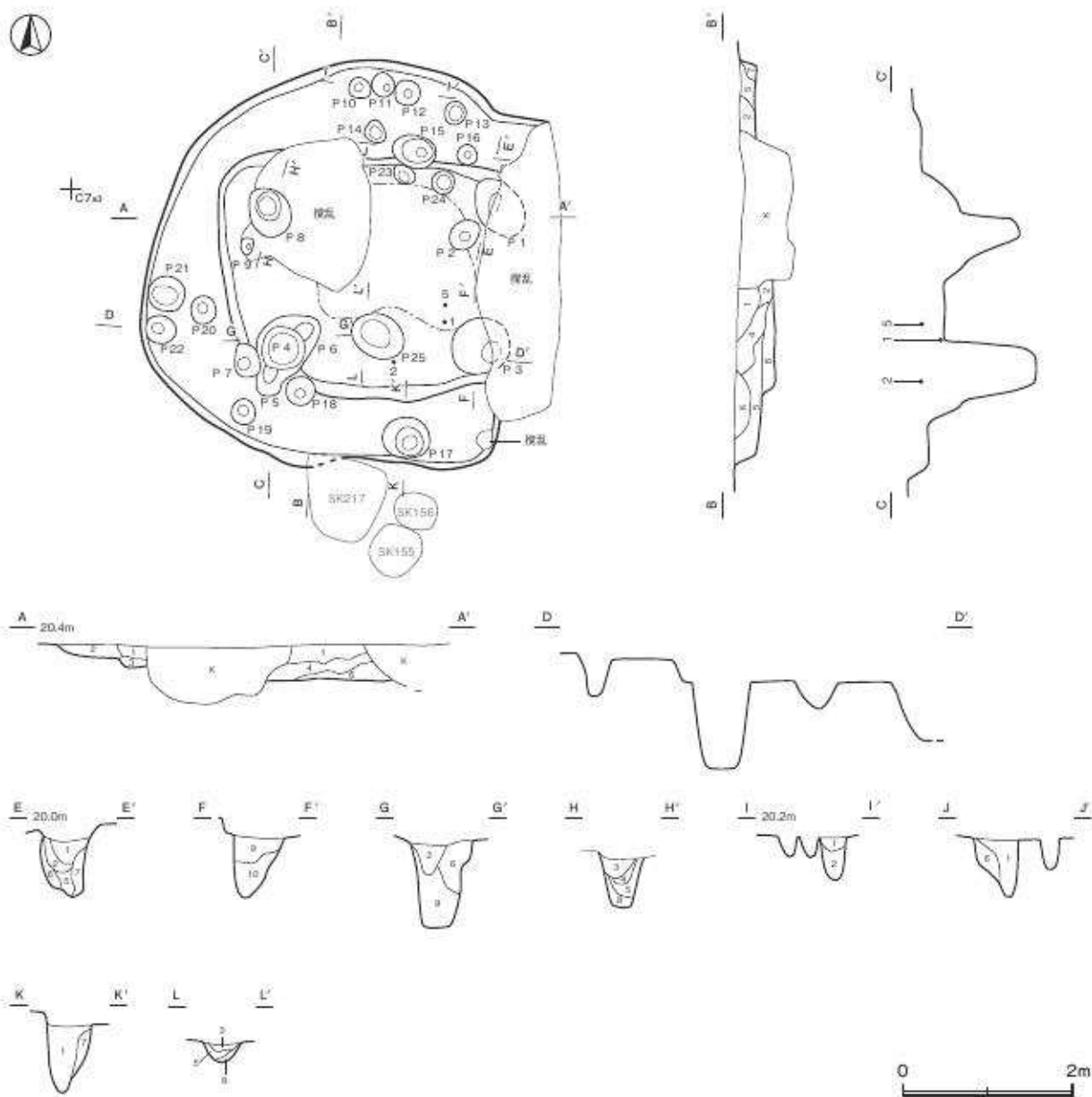
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色 ロームブロック少量
5 褐色 ローム粒子少量
6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 明褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 494点 (8.073kg)、石器 4点 (礫器1、砥石2、加工痕のある剥片1)のほか、剥片 3点 (チャート2、安山岩1) が出土している。遺物は、中央付近の有段部上面から多く出土している。土

器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群（加曾利E式）30.4%、第3群（称名寺式）21.0%で、そのうち加曾利E I式が特に多く出土している。

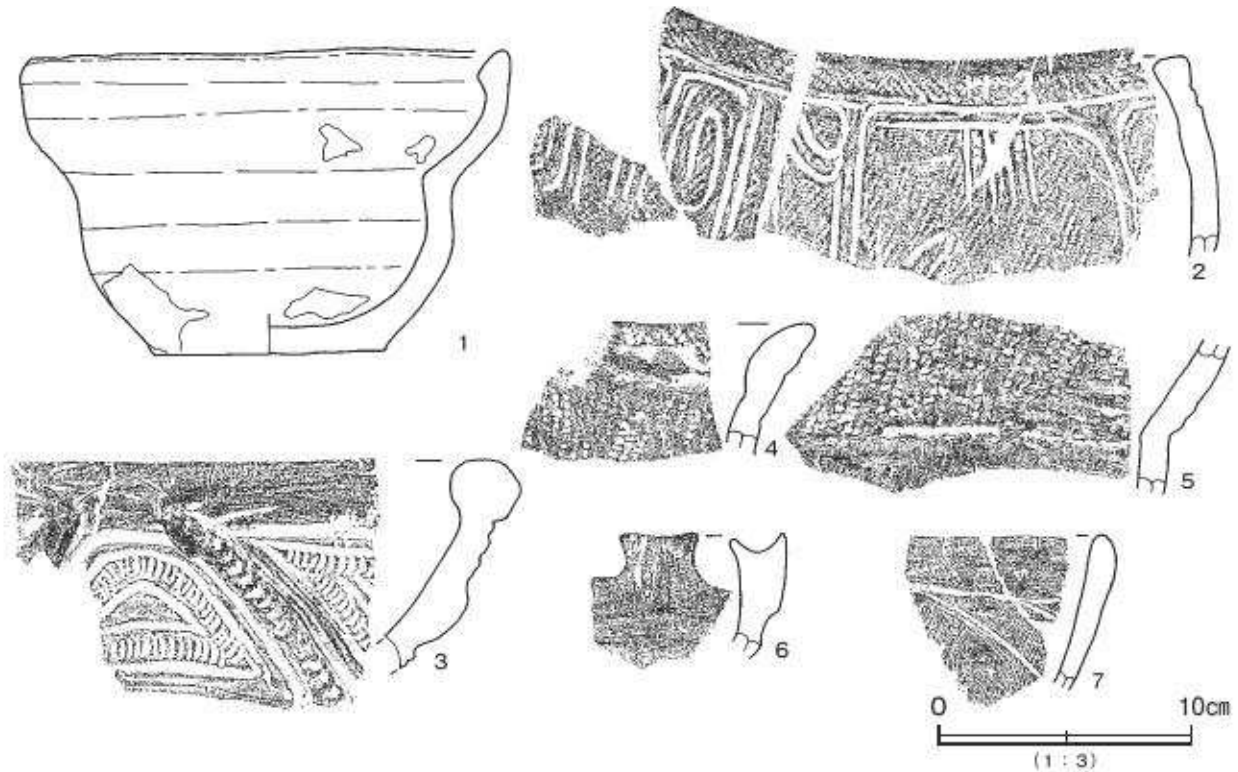
所見 時期は、出土土器と遺構の形状から、中期前半の阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期から後半の加曾利E I式期と考えられる。



第200図 第51号竪穴建物跡実測図

第51号竪穴建物跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	18.8	12.1	9.2	長石・石英	灰褐色	普通	外・内面磨き	床面	10% PL30
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面十字	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・霏微	明赤褐色	普通	外面隆起帯輪爪形文 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・霏微	にぶい橙	普通	外面微隆起文 内面磨き	P 5	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面櫛歯状工具による条線→沈線 内面磨き	P 4	



第201図 第51号竪穴建物跡出土遺物実測図

第53号竪穴建物跡（第202～204図 PL14・15）

位置 調査A区東部のC7b1区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。P6が第247号土坑を掘り込んでいる。本跡の範囲内には、ほかにも第34・59号竪穴建物跡、第223・243・244・261号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は不明である。出土遺物が第34号竪穴建物跡は中期前半、第59号建物跡は後期中葉から後葉であることから、本跡は第34号竪穴建物跡を掘り込み、第59号建物跡に掘り込まれていると推測される。

規模と形状 焼土跡とその周囲にピットが確認できたことから、建物跡を想定して調査を進めたが、壁は確認できず、また柱穴の配置も不規則なことから、明瞭な平面形を捉えることができなかった。およそ東西径6.5m、南北径6.5mの範囲に、円形にピットが巡っているように推測できる。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 東西120cm、南北80cmの不整なL字形で、焼土の厚さは6～12cmである。床面から10cmほど浮いた状態で確認できた。明瞭な火床面は見られなかったが、焼土の赤変硬化が著しく、骨粉なども含まれていることから、炉跡と考えられる。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 橙 色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 4 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| | 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 37か所。P2・P7・P16・P27・P31・P35～P37を壁柱穴とする大形の1棟と、P3・P7・P16・P20・P23・P24・P32を壁柱穴とするやや小形の1棟が推定できる。そのほかP4・P17など径や深さのあるものが存在すること、また炉跡の下からP14が確認されていることなどから、別遺構の重複も考えられる。

P 6 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

P 4・P 22・P 23・P 24・P 27 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

P 16 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

P 31 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P 17 土層解説

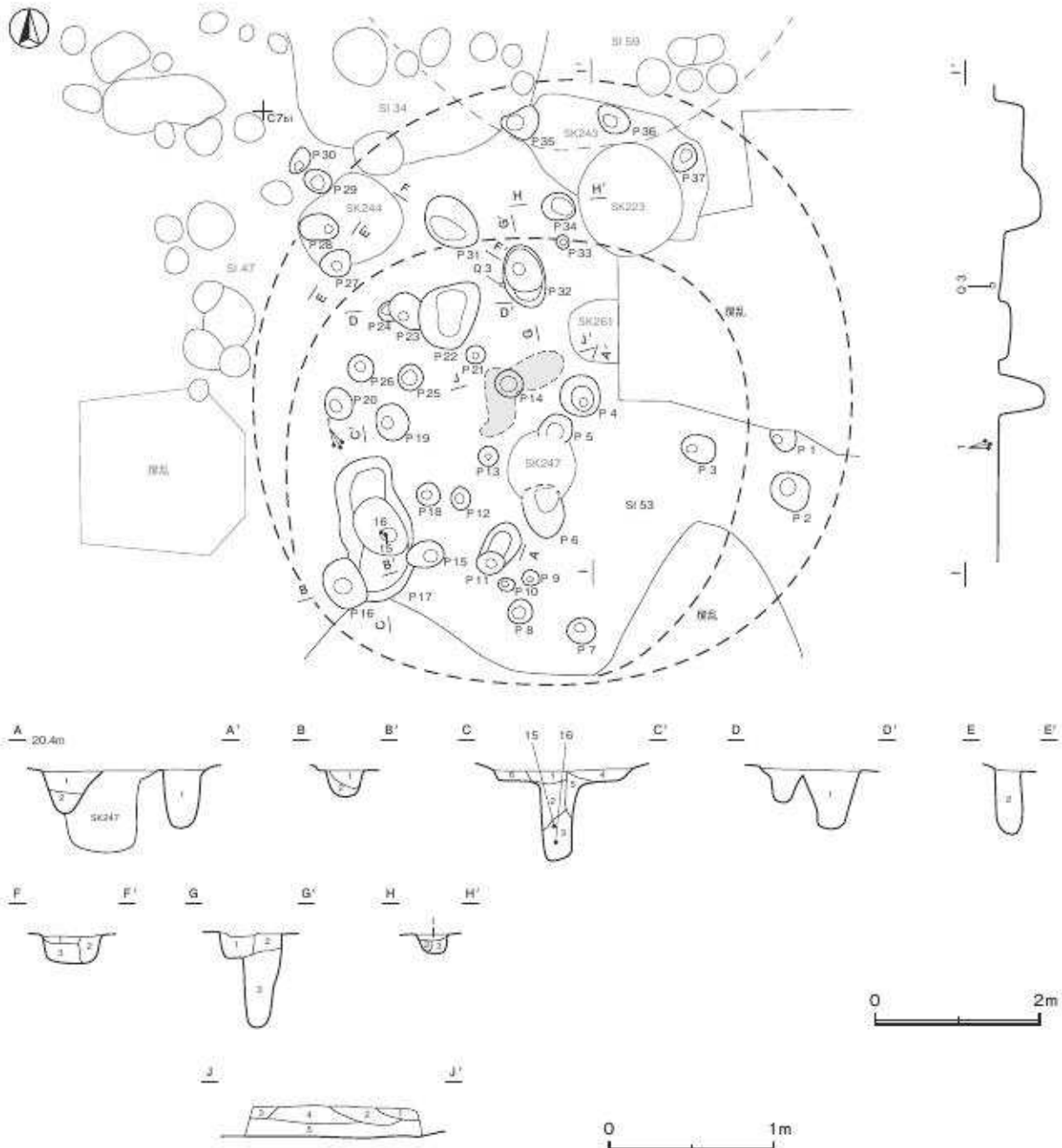
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・骨粉少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

P 32 土層解説

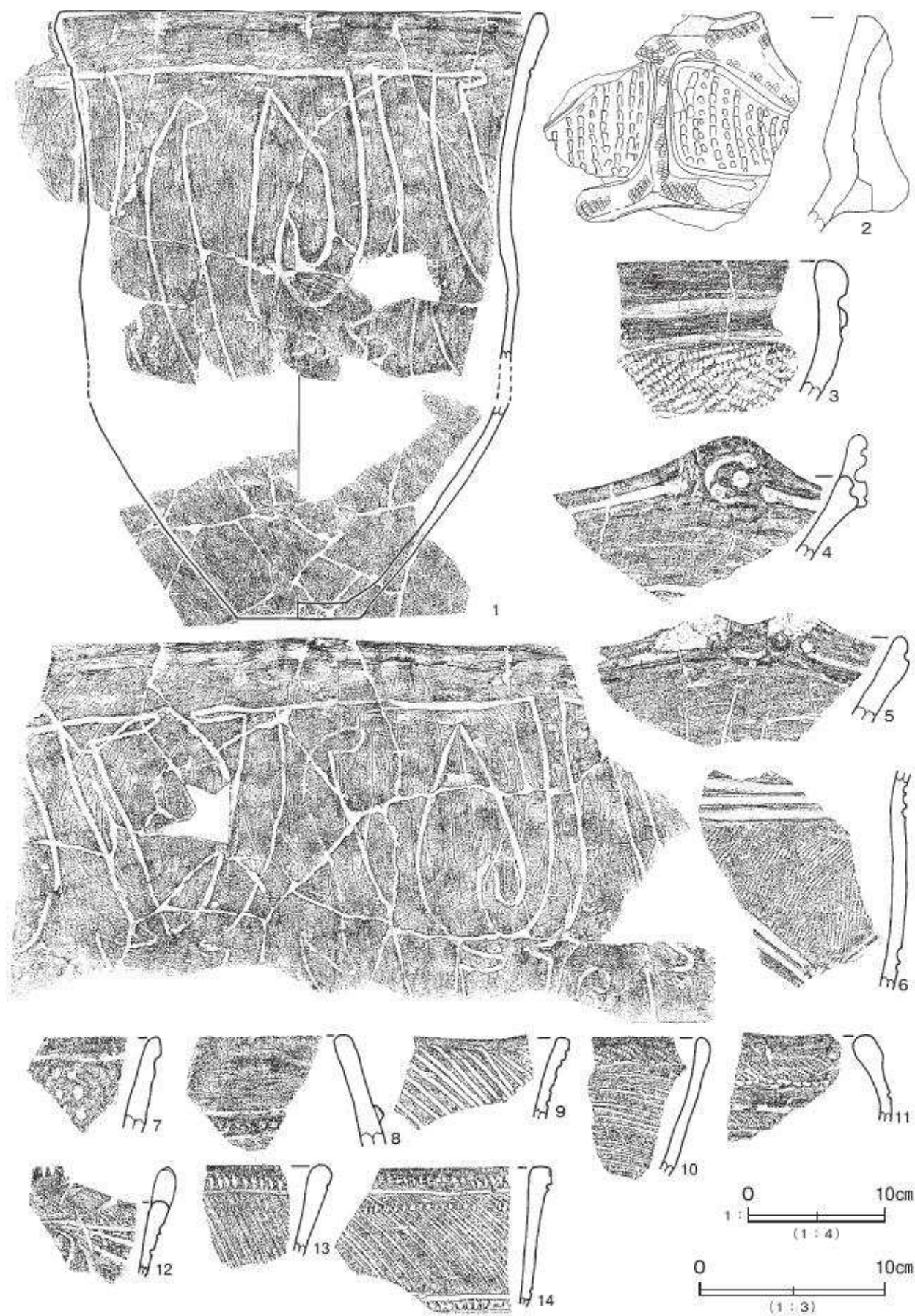
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

P 34 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量



第 202 図 第 53 号竪穴建物跡実測図



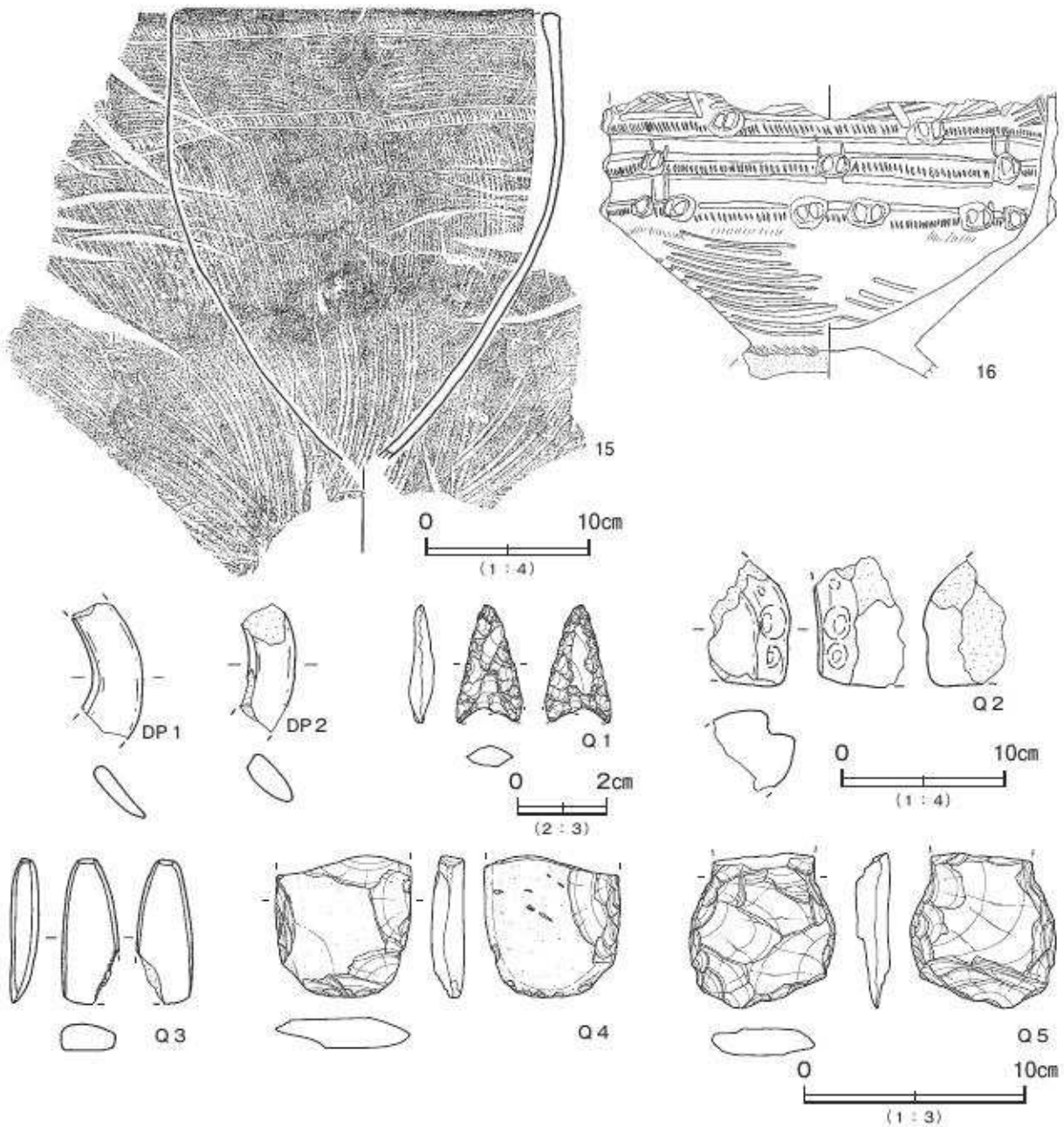
第 203 図 第 53 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	33	118	54	85	35	55	100	23	20	24	22	23	41	47	-	39	110	30	83	60	78	70	40	12	21
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37													
深さ	40	85	43	18	17	41	121	23	25	32	50	32													

遺物出土状況 縄文土器片 745 点 (13,484kg)、土製品 3 点 (土器片円盤 1、貝輪状 2)、石器 9 点 (石鏃 1、磨製石斧 1、打製石斧 2、磨石類 1、石皿類 3、砥石 1) のほか、剥片 3 点 (黒曜石、チャート、安山岩) が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 3 群 (称名寺式) 27.6%、第 4 群 (堀之内式) 21.6% である。そのうち 1・4・5 のように称名寺 2 式が特にまとまって出土し



第 204 図 第 53 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

ている。P 17 の覆土下層から、後期後葉の深鉢と台付鉢各 1 点が出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、後期初頭の称名寺 2 式期から前葉の堀之内 1 式期と考えられる。炉跡の確認位置からすると、本来の床面は、約 20cm 上位の標高 19.9 m 付近の可能性はある。完形に近い後期後葉の土器が出土している P 17 は、重複する別遺構の可能性はある。

第 53 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 203・204 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[34.4]	[43.2]	8.2	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面不整な J 字文 基文部・内面磨き	覆土下層	50% PL31
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯上 RL 縄文 内面磨き	P 7	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き	P 27	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外面縄文連結沈線文 内面磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面縄文連結沈線文 内面磨き	P 3	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面ナデ	P 13	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面ハの字状斜突文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面口縁部・内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→RL 縄文 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯脇沈線→RL 縄文→筋文部磨き 内面ナデ	P 3	
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面条線→付点粗線文 内面ナデ	P 6	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→付点粗線文 内面ナデ一部磨き	P 6	
15	縄文土器	深鉢	[21.8]	[26.7]	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外面条線→付点粗線文 内面ナデ	P 17	40% PL31
16	縄文土器	台付鉢	-	[13.0]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯縁→隆起帯脇沈線→筋文 縁部 RL 縄文 内面磨き	P 17	80% PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	貝輪状	(6.2)	(2.8)	2.4	(20.3)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	外・内面ナデ	覆土上層	PL44
DP 2	貝輪状	(5.7)	(2.5)	2.2	(21.7)	長石・石英・雲母	橙	外・内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	2.70	1.51	0.58	(1.7)	チャート	凹基	覆土上層	
Q 2	石鏃類	(7.8)	(5.1)	(5.2)	(12.4)	安山岩	表面に凹基	P 4	2 類
Q 3	野梨石斧	6.5	(2.5)	1.3	3.45	蛇紋岩	小形定角式 刃部一部欠損	覆土下層	PL46
Q 4	打撃石斧	(6.5)	(6.2)	1.5	(7.95)	輝石安山岩	楔形	P 3	
Q 5	打撃石斧	(7.1)	(6.7)	1.6	(7.76)	ホルンフェルス	分銅形	覆土下層	

第 60 号竪穴建物跡(第 205 図)

位置 調査 A 区南東部の C 7 e3 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 208 号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第 40 号建物跡、第 99・159・209・210 号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 炉とピットから、径 7 m 前後の円形または楕円形と推定できる。

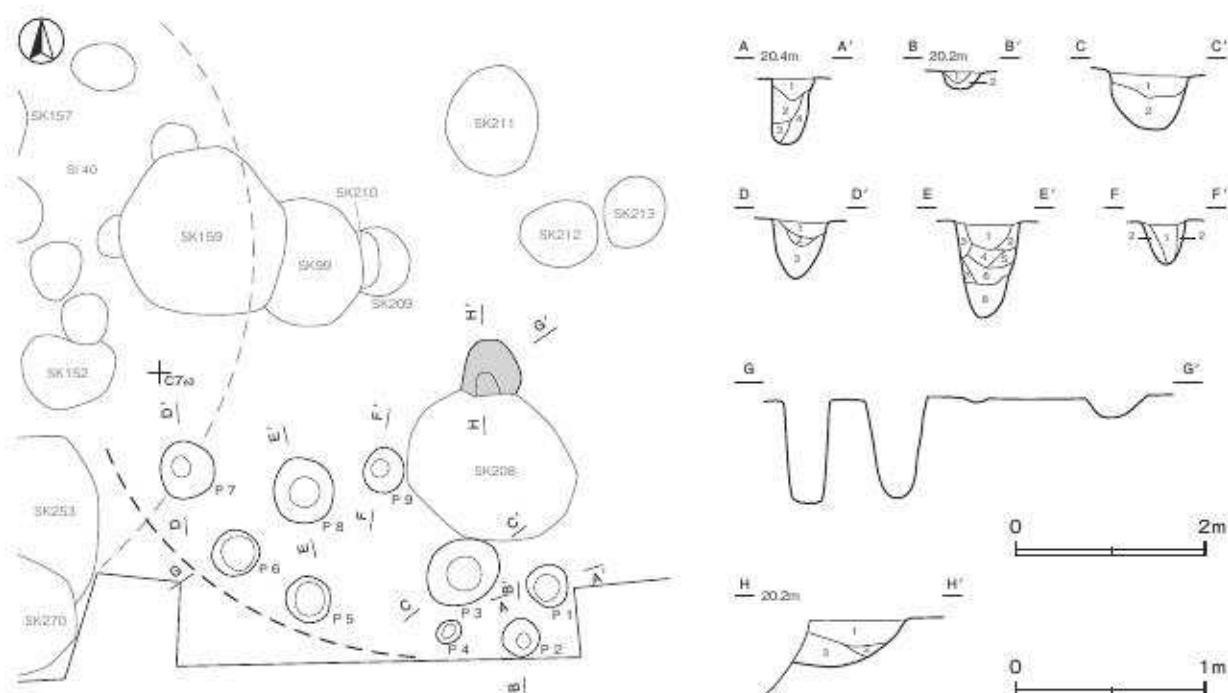
床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 第 208 号土坑に掘り込まれているため、東西径は 62cm で、南北径は 58cm しか確認できなかった。深さ約 22cm の、浅く掘りくぼめられた地床炉である。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量

ピット 9 か所。P 2・P 4～P 7 が弧状に巡る壁柱穴である。また P 1・P 3・P 8 は、位置や深さから主柱穴の可能性はある。



第205図 第60号竪穴建物跡実測図

P1土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

P3土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

P7・P9土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

P8土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 骨粉微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	60	18	52	12	27	108	65	103	47

所見 覆土を捉えられなかったことから時期を明確にすることができないが、本跡の周辺で後期初頭から前葉の土器がやや多く出土していること、柱穴配置が壁柱穴構造であることなどから、時期は後期初頭から前葉と考えられる。ただし主柱穴的なビットも存在していることから、中期あるいは後期中葉以降の可能性もある。

表2 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
				長軸×短軸(m)			柱礎	出入口	ピット	炉						
1	C 6c3	N-0°	不整隅丸方形	5.72 × (4.80)	50-75	平坦	5	-	29	地床炉	自然	縄文土器 15521, 土製品 86, 石器・石製品 131, 焼成粘土塊 12, 発泡体 1, 石核 24, 割片 168, 獣骨類	安行 3c-3d 式	SI4・7・55, SK24・26・46, HG2-II → 本跡 → SD1		
2	B 6b5	-	[円形-楕円形]	(4.0 × 3.8)	20	傾斜	3	-	11	-	自然	縄文土器 817, 石器 4, 割片 5	中期前半	HG2 → 本跡 → SI37/SD1		
3A	B 6j5	N-13°-W	隅丸長方形	[8.3 × 6.6]	7-32	平坦	5	4	48	-	人為	縄文土器 1159, 土製品 6, 石器・石製品 7, 石核 1, 割片 10	安行 1-2 式	本跡 → HG2-I, UP1SD1, SI5・6・9・37, SK30 との新旧不明		
3B	B 6j5	N-28°-W	不整楕円形	[8.3 × 7.8]	-	平坦					人為					
4	C 6b2	N-2°-W	不整方形	(5.82) × 5.02	25-30 (40-70)	平坦	5	-	35	地床炉	自然	縄文土器 8320, 土製品 28, 石器・石製品 70, 焼成粘土塊 6, 発泡体 2, 石核 19, 割片 29, 鹿角	安行 3b-3c 式	SI5・7・19・55 → 本跡 → SI11・HG2-I		
5A	B 6j3	N-0°	隅丸方形	[7.5 × 6.8]	-	平坦	7	2	63	-	人為	縄文土器 5972, 土製品 17, 石器・石製品 53, 焼成粘土塊 3, 発泡体 8, 石核 6, 割片 16, 獣骨類	安行 1-3c 式	SI19 → 本跡 → SI4, SI3・55, SK29 との新旧不明		
5B	B 6j3	N-27°-W	隅丸方形	[7.7 × 6.8]	-	平坦					人為					
6	B 6i2	N-17°-W	隅丸方形	5.90 × [5.7]	24-48	平坦	4	-	34	地床炉	人為	縄文土器 25272, 土製品 33, 石器・石製品 72, 焼成粘土塊 8, 発泡体 2, 石核 14, 割片 93, 獣骨類	安行 2 式	SI36, SK40・136・137 → 本跡 → SK34, SI3SK127 との新旧不明		
7A	C 6c4	N-38°-E	楕円形	[8.2 × 8.0]	10-25	やや傾斜 やや傾斜	8	6	47	-	人為	縄文土器 2019, 土製品 4, 石器・石製品 11, 焼成粘土塊 2, 石核 7, 割片 7	晩期前葉-中葉	SK24 → 本跡 → SI11-4-55, SD1, HG2-I, SI12, SK18・26 との新旧不明		
7B	C 6c4	N-24°-E	円形	[7.6 × 7.5]	20						人為					
8A	C 6a6	N-23°-E	円形	[6.8 × 6.5]	21	平坦	9	3	72	-	人為	縄文土器 2920, 土製品 5, 石器・石製品 10, 骨角製品 3, 割片 12, 鹿骨類, 貝類	筒形式-安行 1 式	SI13・SK33 → 本跡 → SK1・6・8・39, SD2・3, HG2-I, SI9SK143 との新旧不明		
8B	C 6a6	N-23°-E	円形	[6.8 × 5.8]	-	平坦					人為					
8C	C 6a6	-	不整円形	4.0 × (3.9)	5-10	平坦					人為					
9A	B 6j5	N-14°-E	[円形-楕円形]	[6.6 × 6.3]	-	平坦	5	2	49	-	人為	縄文土器 2369, 土製品 1, 石器・石製品 12, 石核 2, 割片 11, 獣骨類	後期中葉-安行 1 式	本跡 → SI3・8・13, SK1-2SD1, HG2-I		
9B	B 6j5	N-14°-E	[円形-楕円形]	[6.6 × 6.1]	-	平坦					人為					
11	C 6e6	N-3°-W	[隅丸長方形]	4.88 × (3.8)	9-26 (50-58)	平坦	5	-	13	地床炉	自然	縄文土器 2360, 土製品 8, 石器・石製品 7, 石核 3, 割片 17	安行 3b-3c 式	HG2-II → 本跡 → SK21・22, PG3 との新旧不明		
12A	C 6e6	N-31°-E	長方形	[8.0 × 6.5]	-	平坦	5	4	80	-	人為	縄文土器 1308, 土製品 4, 石器・石製品 12, 焼成粘土塊 1, 石核 5, 割片 10, 獣骨類	後期後葉	本跡 → SD2-4, SI7・32, SK18・19, PG3 との新旧不明		
12B	C 6e6	N-35°-E	円形	[6.0 × 6.0]	-	平坦					人為					
13	B 6j6	N-17°-E	[円形-隅丸方形]	[7.6 × 7.5]	-	平坦	10	4	77	-	人為	縄文土器 6076, 土製品 12, 石器・石製品 26, 焼成粘土塊 2, 発泡体 1, 石核 4, 割片 25, 獣骨類	筒形式-安行 2 式	SI9・SK33 → 本跡 → SI8SK1・2・6 → 8SD2-4UP1, SK39・143 との新旧不明		
14	C 6e4	-	[円形]	(5.8 × 5.7)	10-22	平坦	7	2	27	地床炉	人為	縄文土器 968, 土製品 5, 石器・石製品 7, 焼成粘土塊 1	前溝式	SK38 → 本跡 → SD1, PG2 との新旧不明		
15	B 6b6	N-12°-E	[隅丸長方形]	[5.5 × 4.5]	-	平坦	5	-	75	地床炉	人為	縄文土器 2114, 土製品 7, 石器・石製品 13, 石核 1, 割片 10	安行 2 式-3a 式	SI66-58, SK131・135 → 本跡 → SD2-3, HG2-I		
16	C 6e7	N-69°-E	不整楕円形	(6.5 × 4.7)	10-20	平坦	5	-	27	-	自然	縄文土器 379, 石器・石製品 6, 石核 1, 割片 1	中期前半-後半	SK129 → 本跡 → UP4, SD4, HG2, SI31・32, SK102・122・269・274 との新旧不明, SK199 → 本跡 → SI32SK105・109・111, SI20・35, SK103・104・106・108・110・125・128・200・275 との新旧不明		
18	C 6e8	N-5°-E	[円形]	[6.0 × 6.0]	-	平坦	-	-	-	地床炉	人為	縄文土器 1795, 土製品 4, 石器・石製品 23, 石核 3, 割片 8	後期-晩期			
19	B 6j2	N-30°-W	[円形-隅丸方形]	7.7 × (4.8)	20	平坦	2	2	31	地床炉	人為	縄文土器 1311, 土製品 5, 石器・石製品 5, 焼成粘土塊 2, 割片 6	後期前葉-後葉	HG2-II → 本跡 → SI4・5, SK29, HG2-I, SI55 との新旧不明		
20	C 6e0	N-18°-W	楕円形	5.42 × 5.12	26-48	平坦	7	1	53	石壁炉	人為	縄文土器 5520, 土製品 15, 石器・石製品 39, 石核 2, 割片 7	筒形式-安行 1 式	SK204 → 本跡 → SK130・HG2, SI18・35 との新旧不明		
22A	C 4e3	-	楕円形	[7.5 × 6.4]	18 [40]	平坦	6	-	-	-	-	縄文土器 21530, 土製品 62, 石器・石製品 105, 骨角製品 2, 焼成粘土塊 66, 発泡体 8, 石核 24, 割片 134, 獣骨類	晩期中葉	SI23・25・28・30, HG1 → 本跡 → SK54・56, UP3, SE1, SK80 との新旧不明		
22B	C 4e3	-	[円形-隅丸方形]	[7.0 × 6.5]	20 (50-80)	平坦	5	-	135	地床炉	-					
22C	C 4e3	N-36°-W	楕円形	[9.1 × 6.7]	50	平坦	7	-	-	地床炉	自然					
23	C 4i5	-	[楕円形-隅丸方形]	(8.0 × 7.5)	50	平坦	4	-	17	-	人為	縄文土器 3873, 土製品 5, 石器・石製品 22, 焼成粘土塊 1, 石核 8, 割片 18	安行 3b-3c 式	SI28・30・HG1 → 本跡 → SI22UP3, SE1, SK51・52・61, SI25 との新旧不明		
24	C 4i1	N-56°-W	楕円形	[7.0 × 5.1]	110	平坦	-	-	9	地床炉	人為	縄文土器 3637, 土製品 10, 石器・石製品 22, 焼成粘土塊 1, 石核 4, 割片 26	加賀利 E II-E 皿式	SI27・29 → 本跡 → SK57・HG1, SK63・64・85 との新旧不明		
25	C 4i2	-	不整円形	[9.5 × 9.0]	25-30	平坦	10	-	26	-	自然	縄文土器 3081, 土製品 6, 石器・石製品 17, 焼成粘土塊 1, 発泡体 1, 石核 6, 割片 23, 獣骨類	前溝式	SI30 → 本跡 → SI22, SK54, SI23 との新旧不明		
27	C 4i1	N-85°-W	楕円形	(7.3 × 3.7)	15-30	傾斜	-	-	8	-	人為	縄文土器 1291, 石器 9, 発泡体 1, 割片 6	加賀利 E II-E 皿式	SK92 → 本跡 → SI24, SK57・81, HG1, SI29 との新旧不明		
28	C 4e5	N-65°-E	[方形-楕円形]	(4.9 × 2.9)	6-10	凹凸	2	-	11	-	自然	縄文土器 388, 土製品 1, 石器 2, 発泡体 1, 割片 2	中期後半-後期中葉	本跡 → SI22・23, HG1		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)			階数	出入口	ピット	竈					
29	C 4e2	N-25°-E	[楕円形]	(6.8×3.13)	10-20	傾斜	4	-	12	-	人為	縄文土器 196, 土製品 1, 石器 2, 埴土器 1, 石核 3, 剥片 5, 粘土塊 1	中期	本跡→SI24,SK58,HG1,SI27,SK57-65,85-91との新旧不明	
30	C 4g3	-	[円形-楕円形]	(6.0×1.3)	22	凹凸	2	-	13	-	自然	縄文土器 118, 石器 2	縄文	本跡→SI22-23,SK54,SK89との新旧不明	
31A	C 6e9	N-3°-E	円形	[5.4×5.2]	-	平坦	-	6	-	-	-	縄文土器 545, 土製品 1, 石器・石製品 5, 石核 1	後期前葉-後葉	本跡→HG2,UP6,SI16,SK123-144との新旧不明	
31B	C 6e9	-	[円形-楕円形]	[6.0×6.0]	10	平坦	-	-	-	-	-	-	中期前葉-後期前葉	-	
32A	C 6e7	-	[円形]	[7.0×7.0]	-	平坦	-	-	-	23	地床甲	-	後期前葉-中葉	本跡→UP4,SD2-4,SI12-16,35,SK41-42-107-110-111-269との新旧不明	
32B	C 6e7	-	[円形]	[7.0×7.0]	-	平坦	-	-	-	-	地床甲	-	後期前葉-中葉	-	
34	C 7a1	N-2°-W	楕円形	4.52×3.44	10-20	平坦	3	-	9	-	人為	縄文土器 673, 土製品 3, 石器 2, 剥片 6, 獣骨類	阿玉台Ⅱ-加賀利E1式	本跡→SI47-53,59,HG2	
35A	C 618	N-45°-E	円形	[6.5×6.5]	8-10	平坦	10	7	-	-	人為	-	安行3a式	本跡→SI18-39,SK180,HG2→本跡→SI20-41-47,SK28-105-107-116-179,SI32,SK108-111-125-128-199-200-275との新旧不明	
35B	C 618	N-97°-W	-	-	-	平坦	-	12	-	-	地床甲	縄文土器 7132, 土製品 15, 石器・石製品 29, 埴土器 8, 焼成粘土塊 2, 石核 2, 剥片 33, 獣骨類	安行2-3a式	-	
35C	C 618	N-0°	[円形]	[7.0×7.0]	-	平坦	10	5	158	-	地床甲	人為	安行3b式	-	
35D	C 618	N-30°-W	[円形]	[7.0×7.0]	-	平坦	-	3	-	-	地床甲2	人為	後期前葉-後葉	-	
35E	C 618	N-15°-E	楕円形	[7.0×5.0]	-	平坦	4	5	-	-	地床甲3	人為	後期中葉-後葉	-	
36	B 612	N-117°-W	楕円形	[8.0×6.9]	10-16	平坦	6	5	58	-	地床甲2	人為	縄文土器 3767, 土製品 9, 石器・石製品 29, 焼成粘土塊 3, 石核 2, 剥片 8, 獣骨類	安行1式	SI42,HG2→本跡→SI6-43,SK34-40-45-112,SK126-127-136-137との新旧不明
37	B 614	-	[円形]	7.0×(3.0)	-	平坦	2	-	26	-	-	縄文土器 151, 土製品 2, 石器 1	筒形式-安行1式	SI2,SK113→本跡→SD1,SI3との新旧不明	
39	B 618	-	[円形-楕円形]	(5.1×3.8)	-	平坦	-	-	17	-	地床甲	自然	縄文土器 1234, 土製品 11, 石器 16, 埴土器 1, 剥片 7, 獣骨類	後期初頭-前葉	SK5→本跡→SI35E-41-47A-B,UP7,SK171との新旧不明
40	C 7d2	-	[楕円形]	[8.6×7.1]	-	平坦	2	-	17	-	地床甲	-	縄文土器 15	後期初頭-前葉	本跡→SK157,SI60,SK139-141-152-159-253-255-270との新旧不明
41A	C 6a8	N-117°-W	D字形	(5.6)×4.28	22-52	平坦	4	3	63	-	地床甲	人為	縄文土器 5320, 土製品 4, 石器・石製品 40, 埴土器 2, 焼成粘土塊 1, 石核 6, 剥片 31	筒形式-安行1式	SI35E-39→本跡→SK115-118-121
41B	C 6a8	N-22°-W	D字形	5.54×(4.4)	-	平坦	-	8	-	-	石階甲	人為	-	-	-
42	B 612	-	[円形-楕円形]	5.2×(2.0)	5-10	平坦	6	-	18	-	自然	縄文土器 120, 石器 2	阿玉台Ⅱ-Ⅲ式	本跡→SI36-45,SK138,HG2	
43	B 612	N-13°-W	[隅丸方形]	(5.2×2.8)	9-23	傾斜	1	-	18	-	人為	縄文土器 904, 土製品 2, 石器 6, 焼成粘土塊 4, 剥片 1, 獣骨類	安行2式	SI42→本跡→SK45	
44	B 618	N-35°-E	[楕円形]	(6.3×2.0)	27-40	平坦	3	-	10	-	自然	縄文土器 360, 石器・石製品 3, 剥片 6	阿玉台Ⅱ式	本跡→SI15-56,57,SK198,SD4,PG6,HG2	
45	C 7e4	N-0°	[隅丸方形]	4.36×4.24	11-39	平坦	8	-	21	-	自然	縄文土器 431, 土製品 1, 石器 12, 焼成粘土塊 1, 剥片 4	阿玉台Ⅱ式	本跡→SK166,SK215との新旧不明	
46	B 619	-	[円形-楕円形]	(3.0×1.8)	8-10	平坦	-	-	4	-	地床甲	自然	縄文土器 244, 埴土器 2, 剥片 1	堀之内1式	SK4→本跡→SK168
47A	C 6a9	N-28°-E	[楕円形]	[6.0×7.0]	-	平坦	-	6	112	-	人為	縄文土器 6889, 土製品 30, 石器・石製品 29, 埴土器 3, 焼成粘土塊 3, 石核 1, 石核 3, 剥片 15, 獣骨類	堀之内1-2式	SI4-36D-35E-39,SK180→本跡→UP7,SK171-178-246-264-266-271-276との新旧不明	
47B	C 6a9	N-31°-E	方形	[8.0×9.0]	-	平坦	5	8	-	-	人為	-	安行1-2式	-	
48	B 712	-	円形	5.48×5.16	15-25	平坦	7	-	28	-	自然	縄文土器 968, 土製品 1, 石器 8, 剥片 25	阿玉台Ⅱ-Ⅲ式	本跡→SI54,SK147-160-162-164-181-272,HG2,FP1-2	
49	B 712	-	[円形-楕円形]	(3.9×1.6)	18	平坦	6	-	7	-	自然	縄文土器 48, 石器 1	中期	本跡→FP3	
51	C 7a3	N-0°	[楕円形]	(4.8)×4.68	10-26	平坦	8	-	25	-	自然	縄文土器 494, 石器 7, 剥片 3	阿玉台Ⅱ-加賀利E1式	本跡→HG2-II,SK217との新旧不明	
53	C 7b1	-	[円形]	[6.5×6.5]	-	平坦	-	-	37	-	地床甲	縄文土器 745, 土製品 3, 石器 9, 剥片 3	称名寺2式-堀之内1式	SI34,SK247→本跡→SI59,HG2,SK223-243-244-261との新旧不明	
54	B 712	-	-	-	-	平坦	2	-	19	-	地床甲	縄文土器 460, 石器 3, 剥片 4	後期初頭-前葉	SI48,SK233→本跡→SI59,SK160-224-228-251,HG2	
55	C 613	-	円形	[7.7×7.0]	-	平坦	8	-	41	-	-	-	後期後葉	本跡→SI1-4,HG2-1,SI5-7-19,SK36-37との新旧不明	
56	B 616	N-28°-E	方形	[5.5×5.0]	-	平坦	4	4	-	-	人為	-	安行2式	SI44-57-58→本跡→SI15,SD2-4,HG2,SK32との新旧不明	
57	B 616	N-14°-E	円形	[6.4×6.2]	-	平坦	6	4	-	-	-	-	安行1式	SI44→本跡→SI15-56,SD2-4,HG2-1,SI58,SK32-131-135との新旧不明	
58	B 616	N-24°-E	円形	[6.4×6.2]	-	平坦	-	6	-	-	人為	-	称名寺2-堀之内1式	本跡→SI13-15-56,SD2-3,UP1,HG2-1,SI37-57,SK31-32との新旧不明	
59	C 7a1	N-45°-E	[方形-D字形]	[6.4×6.3] [6.4×4.5]	-	平坦	4	-	39	-	-	-	後期中葉-後葉	SI31-53-54,SK231-232→本跡→SK251,HG2,SK224-228-243-260との新旧不明	
60	C 7e3	-	[円形-楕円形]	(7.0×7.0)	-	平坦	3	-	9	-	地床甲	-	後期初頭-前葉	本跡→SK208,SI40,SK99,159,209,210との新旧不明	

(2) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 193 基を確認した。形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑 23 基については、文章と実測図、遺物観察表で解説する。その他の土坑 170 基については、実測図、土層解説、観察表を掲載する。

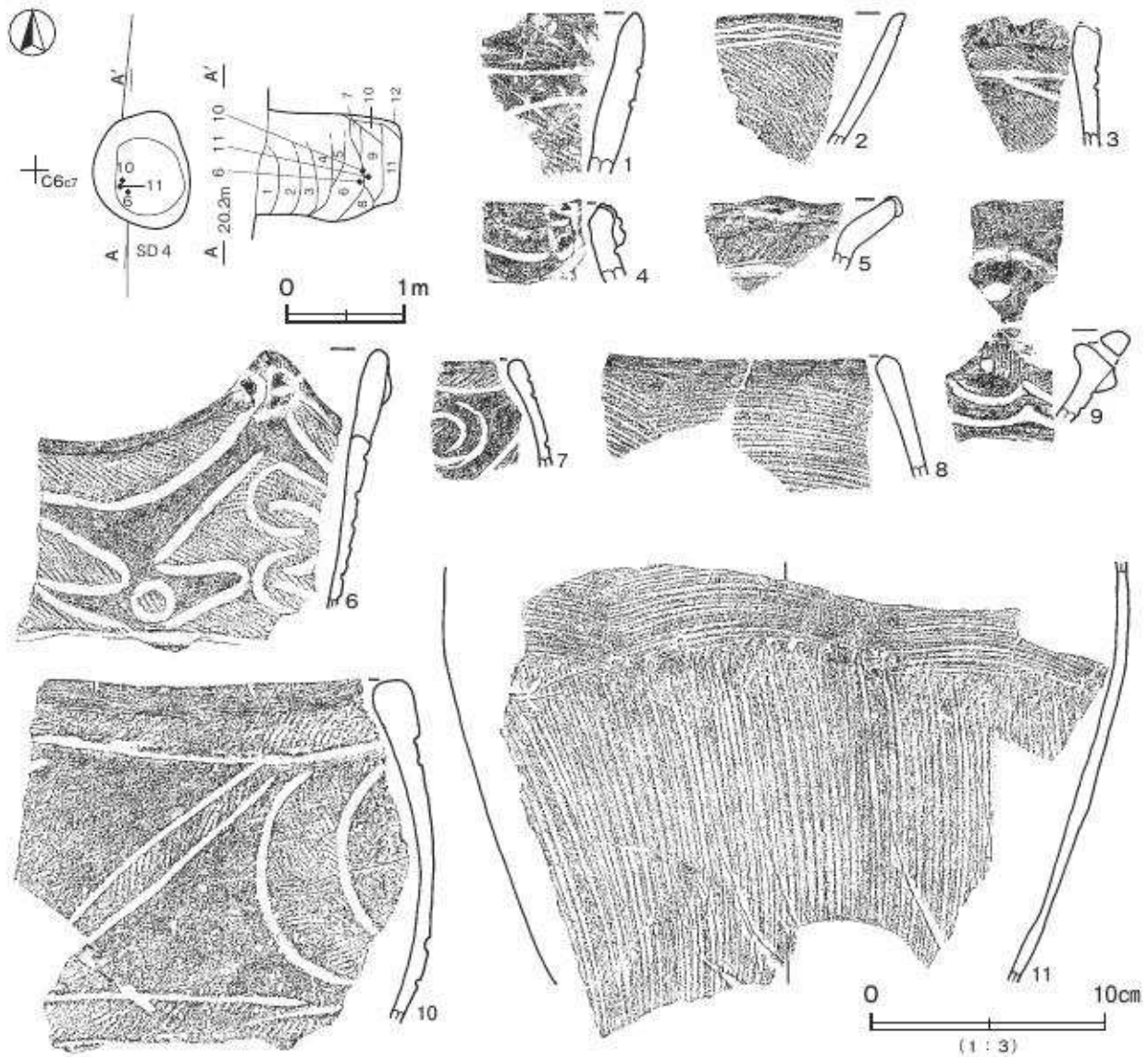
第 28 号土坑 (第 206 図 PL15)

位置 調査A区中央部のC6c7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第32号建物跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。第35号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.02m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは122cmである。壁は直立している。

覆土 12層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている黒褐色土が主体で、第5～8・11層は、破砕貝や灰が含まれている。また第9層は、ローム粒子が多く含まれているにぶい褐色土で、これらが互層をなすよう



第 206 図 第 28 号土坑・出土遺物実測図

に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・貝細片微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・灰少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 9 にぶい褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・貝細片微量 | 11 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子・貝細片微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・貝細片少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 138 点 (2.52kg) のほか、剥片 2 点 (黒曜石)、貝類、骨片などが出土している。また製塩土器片が 1 点出土している。土器は中期後半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群 (晩期前葉) のものである。覆土下層の第 9 層上面から、6・10・11 がまとまってが出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、破砕貝や骨片などが出土していることから、機能停止後、廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

第 28 号土坑出土遺物観察表 (第 206 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	覆土中	内面赤彩
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	灰	普通	口縁部小波状 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・黒色粒子	暗赤褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	11 と同一
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	オリーブ黒	普通	縁・流状口縁 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	(18.0)	-	灰石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	8 と同一 20%

第 34 号土坑 (第 207 図 PL16)

位置 調査 A 区北西部の B 6j2 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 6・36 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.12 m、短径 1.00 m の楕円形で、長径方向は N-4°-E である。底面はほぼ平坦で、深さは 182cm である。壁は直立している。

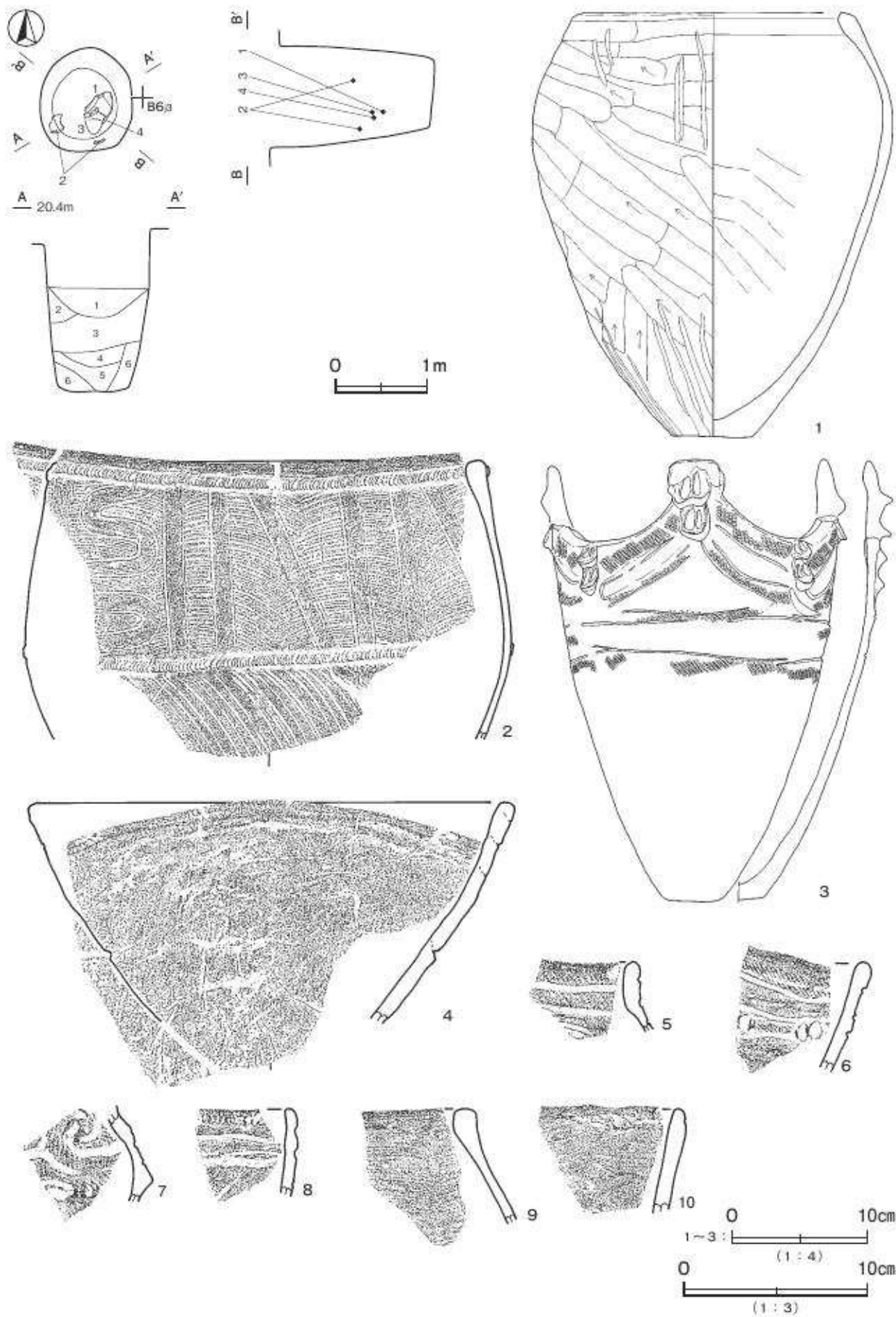
覆土 6 層に分層できる。第 4・6 層は骨粉が含まれている黒褐色土で、その上面から完形の土器が出土している。第 1～3 層はローム粒子が多く含まれている極暗褐色土で、土器が遺棄されたあと埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉・砂粒少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 250 点 (3.21kg) が出土している。また製塩土器片が 1 点出土している。土器は後期前葉から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群 (晩期前葉) のものである。覆土中層の第 4 層上面から、1 が斜位で、それに覆いかぶさるように 3 が逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、下層から骨粉などが出土していることから、機能停止後、廃棄土坑として利用されたものと考えられる。また中層から完形に近い深鉢 2 個体が重なるように出土していることから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



第 207 図 第 34 号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表（第207図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[18.6]	30.8	5.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面刷り後下半部磨き・内面ナデ	覆土中層	内面度60% PL32
2	縄文土器	深鉢	[31.8]	(20.0)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面条線→頸部刻劃文・磨き→経線附付・内面ナデ	覆土中層	30% PL38
3	縄文土器	深鉢	19.7	32.1	4.2	長石・石英	橙	普通	4半反・外面隆起管線沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土中層	90% PL32
4	縄文土器	鉢	[25.7]	(12.0)	-	蛭石・黒色粒子・細礫	にぶい黄褐色	普通	外面刷り・内面磨き	覆土中層	30%
5	縄文土器	広口壺	-	-	-	石英・黒色粒子・細礫	橙	普通	外面沈線→RL縄文・内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	洗状口部・外面隆起管線沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	覆土下層	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部ナデ・内面ナデ	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	口部外部刻み・内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線・内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面刷り・内面ナデ	覆土下層	

第45号土坑（第208図 PL16）

位置 調査A区北西部のB6h2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第43号竪穴建物跡を掘り込んでいる。本跡の上位には、第1号遺物集中地点が位置している。

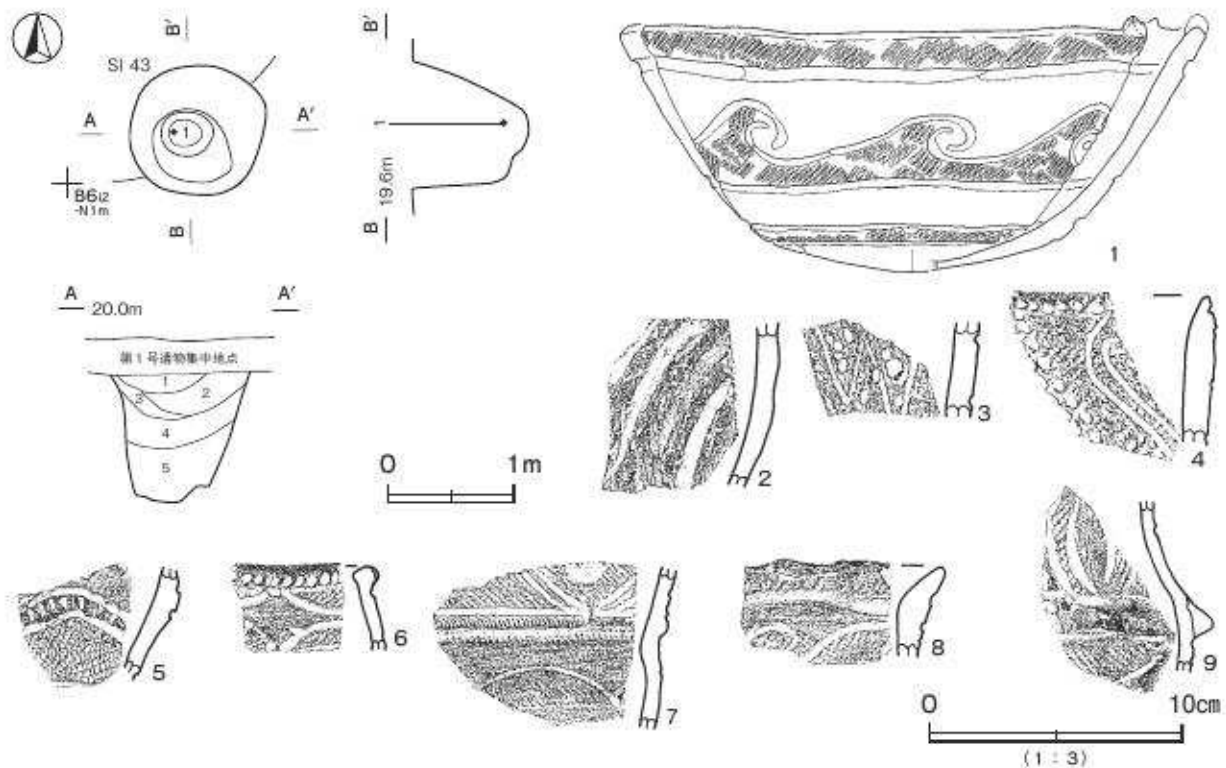
規模と形状 長径1.12m、短径1.06mの円形である。底面は北部がピット状に下がっており、深さは92cmで、ピット底面までの深さは102cmである。壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。第1層は骨粉が含まれている黒褐色土で、第1～3層は第4・5層が堆積後、土坑状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片251点(4.42kg)、石器4点(磨石類)のほか、剥片2点(チャート)が出土している。



第208図 第45号土坑・出土遺物実測図

土器は中期後半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7・8群（後期後葉～晩期前葉）である。底面から、1が斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3b式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から完形に近い鉢が出土していることから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。

第45号土坑出土遺物観察表（第208図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	浅鉢	[22.5]	10.1	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部突起1か所 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	30%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯文 外・内面磨き	覆土中	外面赤彩
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面斜突文 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部外面RL縄文→沈線 胴部沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	小波状口縁 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒・赤色粒子	灰褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	

第105号土坑（第209・210図 PL17・18）

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第18・35号建物跡と重複するが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.66m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは161cmである。壁は長径方向が確認面下30～70cmのところ段を有し、以下は直立している。

覆土 3層に分層できる。第1層は第2・3層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片408点（9.49kg）、土製品2点（耳飾り、土偶）、石器1点（石皿類）、木製品1点（櫛）のほか、剥片5点（チャート）、貝類、骨片等が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群（晩期前葉）のものである。第1・2層から多くの土器が出土している。第2層の下位で7が正位で出土している。6は覆土中層から、20・22は覆土上層から出土している。またW1・W2の漆塗りの櫛は同一個体で、底面付近から出土している。

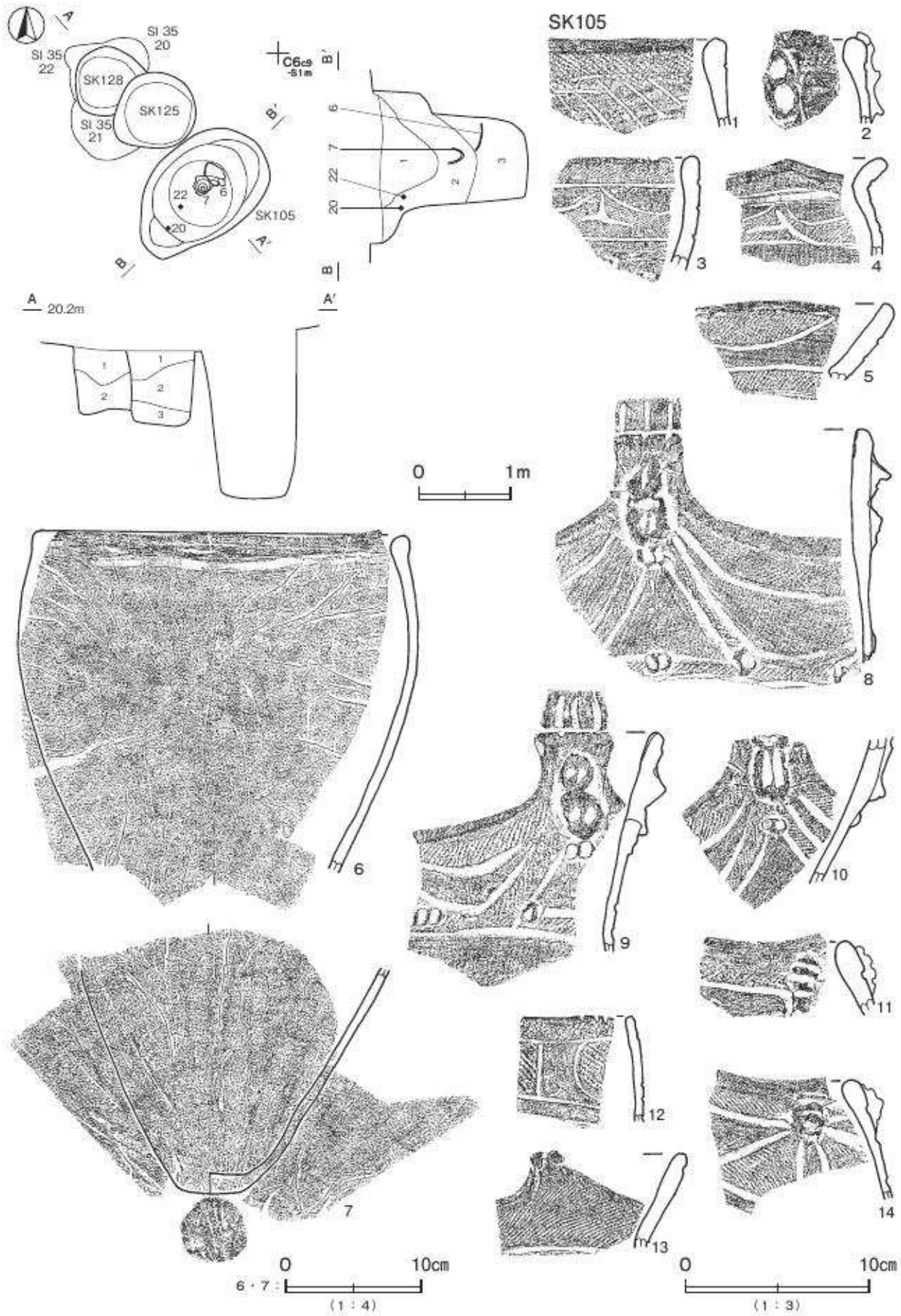
所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3a式から安行3b式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、覆土中位から正位で深鉢の底部が出土していることや覆土が再堆積しているようにも捉えられることなどから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。

第125号土坑（第209・210図）

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第128号土坑を掘り込んでいる。第18・35号建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.95m、短径0.85mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは83cmである。壁は直立している。



第 209 图 第 105 · 125 · 128 号土坑 · 第 105 号土坑出土遗物实测图

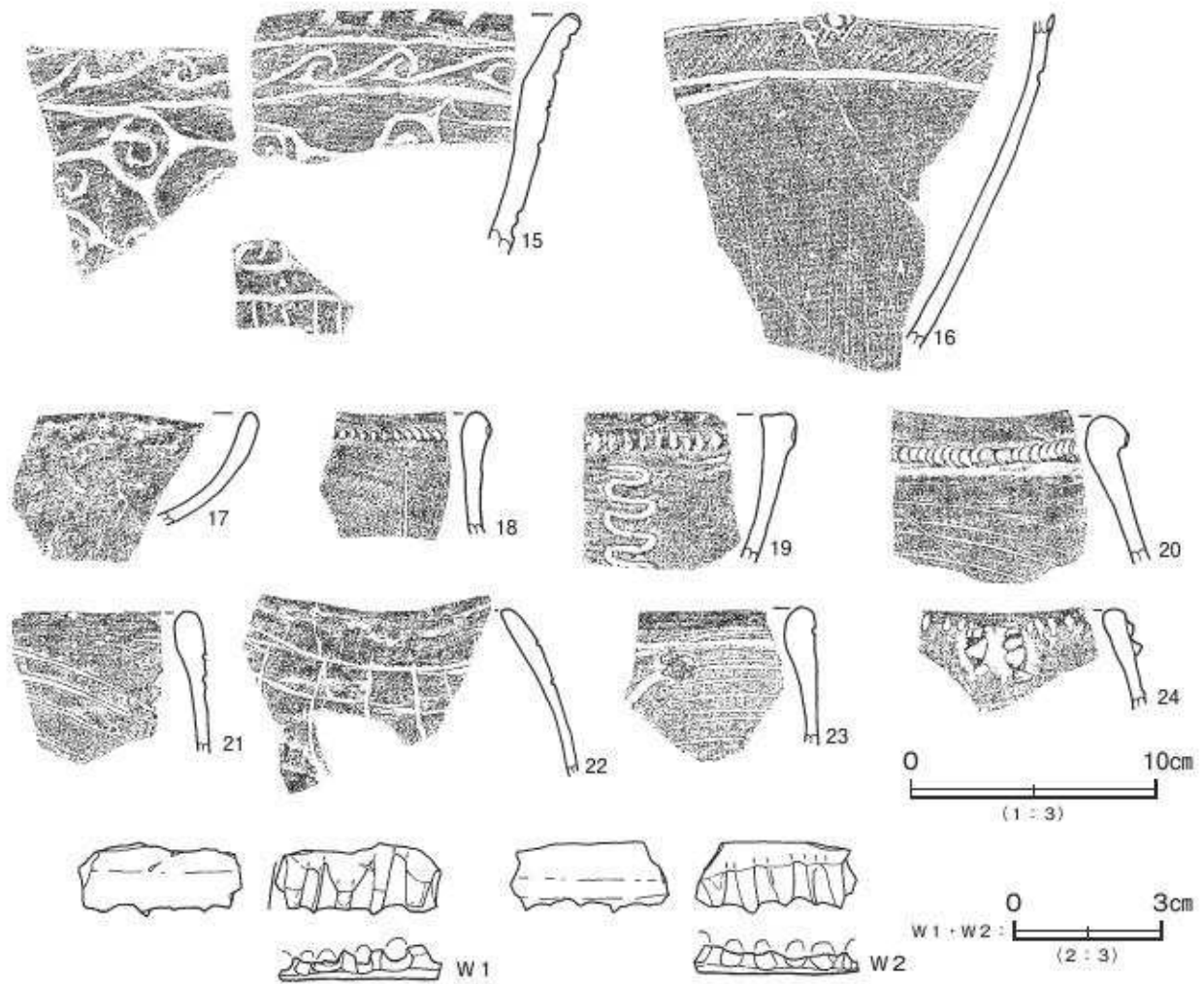
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

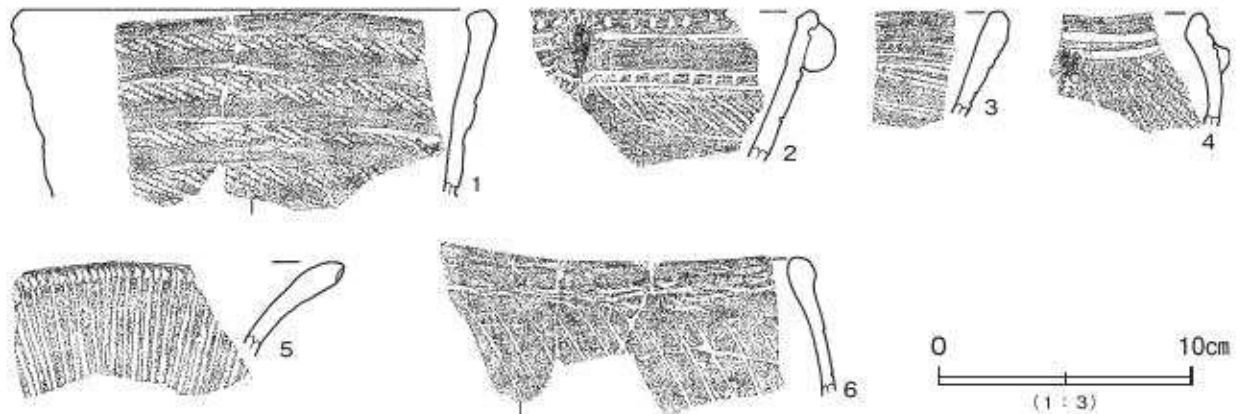
- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 127点 (1.60kg) のほか、剥片2点 (チャート、黒曜石) が出土している。また製塩土器片1点が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、後期後葉の曾谷式



SK125



第210図 第105・125号土坑出土遺物実測図

から安行1式が主体で、安行2式以降は確認できない。

所見 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、位置や深さなどから第35A号建物跡の出入口ピットの可能性も考えられる。

第128号土坑（第209図）

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第125号土坑に掘り込まれている。第18・35号建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 東部を第125号土坑に掘り込まれているため、南北径は0.75mで、東西径は0.75mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、深さは66cmである。壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 灰暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物がないことから詳細な時期は判断できないが、遺構の重複関係から、縄文時代後期以降と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、位置や深さなどから第35A号建物跡の出入口ピットの可能性も考えられる。

第105号土坑出土遺物観察表（第209・210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面条線→横位沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯藍沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上-中層	
4	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上-中層	
6	縄文土器	深鉢	[26.6]	[24.3]	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外面肥厚 外面削り 内面磨き	覆土中層	内面底 10% PL38
7	縄文土器	深鉢	-	[16.2]	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	内面底 10%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰 燧石・燧石 純灰	黒褐色	普通	外面隆起帯藍沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL38
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯藍沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上-中層	PL38
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	明褐色	普通	外面隆起帯藍沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上-中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口唇部削み 内面磨き	覆土上-中層	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	底面	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口縁部肥厚 内面ナデ	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 燧石・燧石 純灰	灰褐色	普通	口唇部外面削み 三叉状入組文 内面磨き	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文 胴部段位の磨き 内面ナデ	覆土中層	
17	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	二次焼成
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面肥厚削付 沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	口縁部外面肥厚帯下層に削み 外・内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面紅線貼付 内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナデ	底面	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面格子目。外面無文部・内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→頸部区画文 磨貼付。内面磨き	底面	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面付点縦線文 外・内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W1	甕	(15)	(3.4)	(0.7)	(1.70)	木胎	外面黒漆塗布。内面黄表跡明瞭	底面付近	W2と同-PL48
W2	甕	(15)	(3.3)	(0.6)	(1.54)	木胎	外面黒漆塗布。内面黄表跡明瞭	底面付近	W1と同-PL48

第 125 号土坑出土遺物観察表 (第 210 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[18.3]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯上 RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	10%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→口縁部・沈線周刻み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	

第 106 号土坑 (第 211 図 PL18)

位置 調査A区中央部のC 6 c8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 108 号土坑を掘り込んでいる。第 18・35 号建物跡とも重複するが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 0.98 m、短径 0.76 m の楕円形で、長径方向は N - 80° - W である。底面はほぼ平坦で、深さは 51cm である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。第 2 層は炭化粒子が含まれている極暗褐色土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 85 点 (1.02kg) が出土している。また製塩土器片 1 点が出土している。1 は覆土中層の第 2 層上面から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期中葉の大洞 C 1 式期と考えられる。断面が逆台形状で、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性はある。

第 106 号土坑出土遺物観察表 (第 211 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	台付鉢	[26.8]	(16.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	40% PL34
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	

第 107 号土坑 (第 211 図 PL18)

位置 調査A区中央部のC 6 c8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 18・35 号建物跡、第 108・110 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東部が第 108 号土坑と重複しているため、短径は 0.76 m で、長径は 0.77 m しか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向は N - 73° - E である。底面は皿状で、深さは 69cm である。壁は直立している。

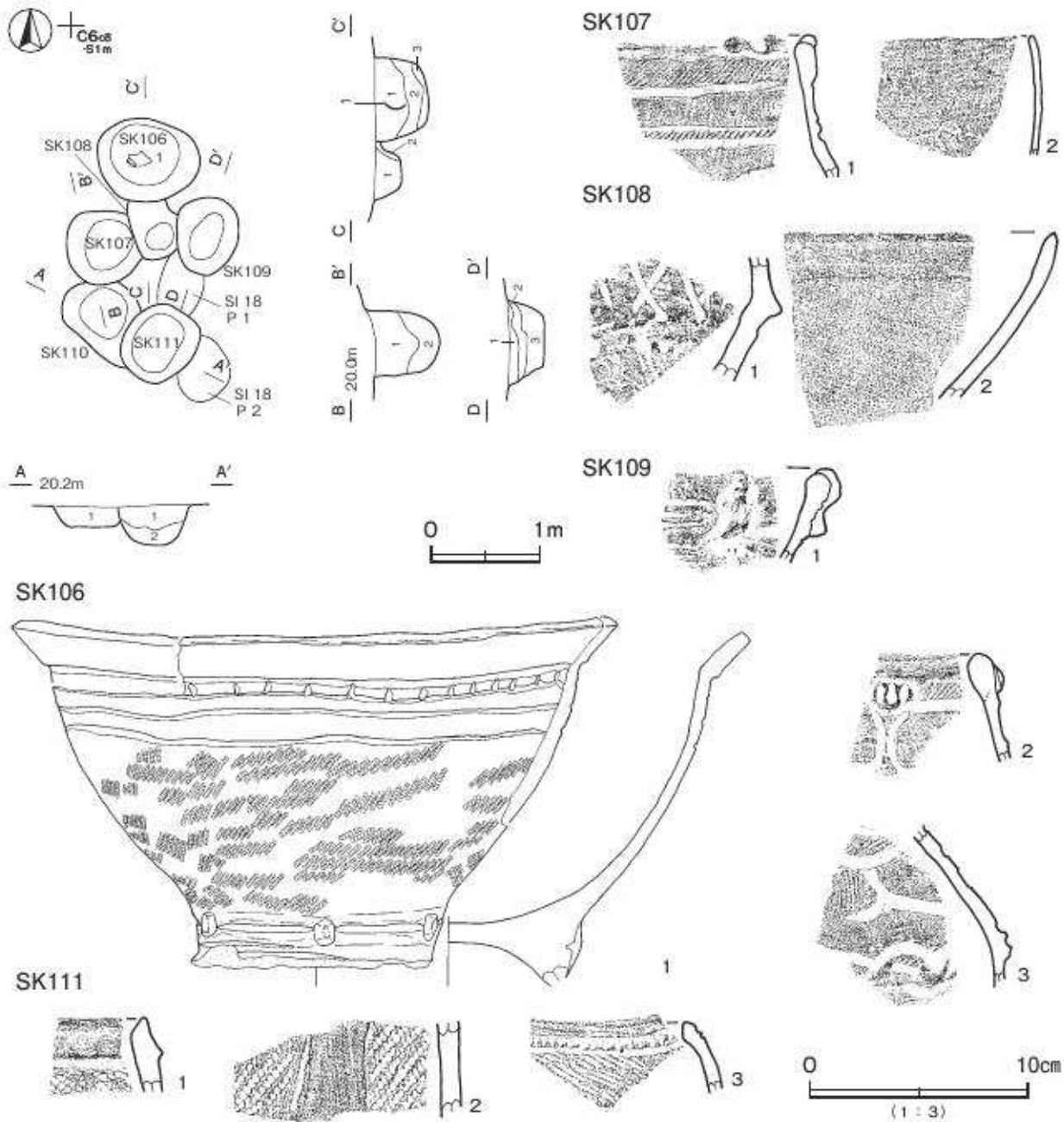
覆土 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (0.65kg) が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉から中葉と考えられるが、小片かつ少量のため断定できない。ピット状であることから、第 18 号建物跡あるいは第 35 号建物跡の柱穴の可能性はある。



第211図 第106～111号土坑、第106～109・111号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表（第211図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯隆起線→LS縄文→横文部磨き 内面磨き	覆土中層	
2	縄文土器	釜端	-	-	-	灰緑・緑褐色	橙	普通	外面磨り 口縁部未調整 内面ナデ	覆土中	口B類

第108号土坑（第211図 PL18）

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第106号土坑に掘り込まれている。第18・35号建物跡、第107・109号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北部と東部、西部が重複のため、長径は0.54 m、短径は0.36 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは30cmである。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片42点(0.53kg)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器では後期前葉から中葉がやや多いものの、いずれも小片でかつ少量のため、時期は断定できない。ピット状の土坑であることから、第18号建物跡あるいは第35号建物跡の柱穴の可能性はある。

第108号土坑出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・透輝	にがい黄褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面閉り・内面磨き	覆土中	

第109号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第18号建物跡のP1を掘り込んでいる。第35号建物跡、第108号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.70 m、短径0.62 mの楕円形で、長径方向はN-28°-Eである。底面は平坦で、深さは34cmである。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片34点(0.28kg)が覆土中から出土している。

所見 時期は、時期比定が可能な遺物が少量のため断定できない。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑などの可能性はある。

第109号土坑出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面隆起帯鋸沈線→LR縄文・内面ナデ	覆土中	

第110号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第111号土坑に掘り込まれている。第18・35号建物跡、第107号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北部と東部が重複のため、短径は0.61 mで、長径は0.83 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-55°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは22cmである。壁は外傾している。

覆土 単一層。堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片9点(0.12kg)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器がいずれも小片でかつ少量のため断定できないが、中期後半から後期中葉の土器が数点ずつ確認できる。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑などの可能性があるが断定できない。

第111号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第18号建物跡のP1・P2、第110号土坑を掘り込んでいる。第35号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.72m、短径0.56mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は平坦で、深さは36cmである。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片41点(0.52kg)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、時期比定が可能な遺物が少量のため断定できないが、中期後半から後期前葉の土器が数点ずつ出土している。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑、あるいは第18号建物跡や第35号建物跡の柱穴の可能性はある。

第111号土坑出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面RL縄文→登起帯貼付 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面沈線→RL縄文・口縁部割み 内面磨き	覆土中	

第122号土坑(第212図 PL18)

位置 調査A区南部のC6d8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第16号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.75m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。底面は平坦で、深さは45cmである。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。炭化粒子が含まれていることや遺物の出土状況から、埋め戻されている。

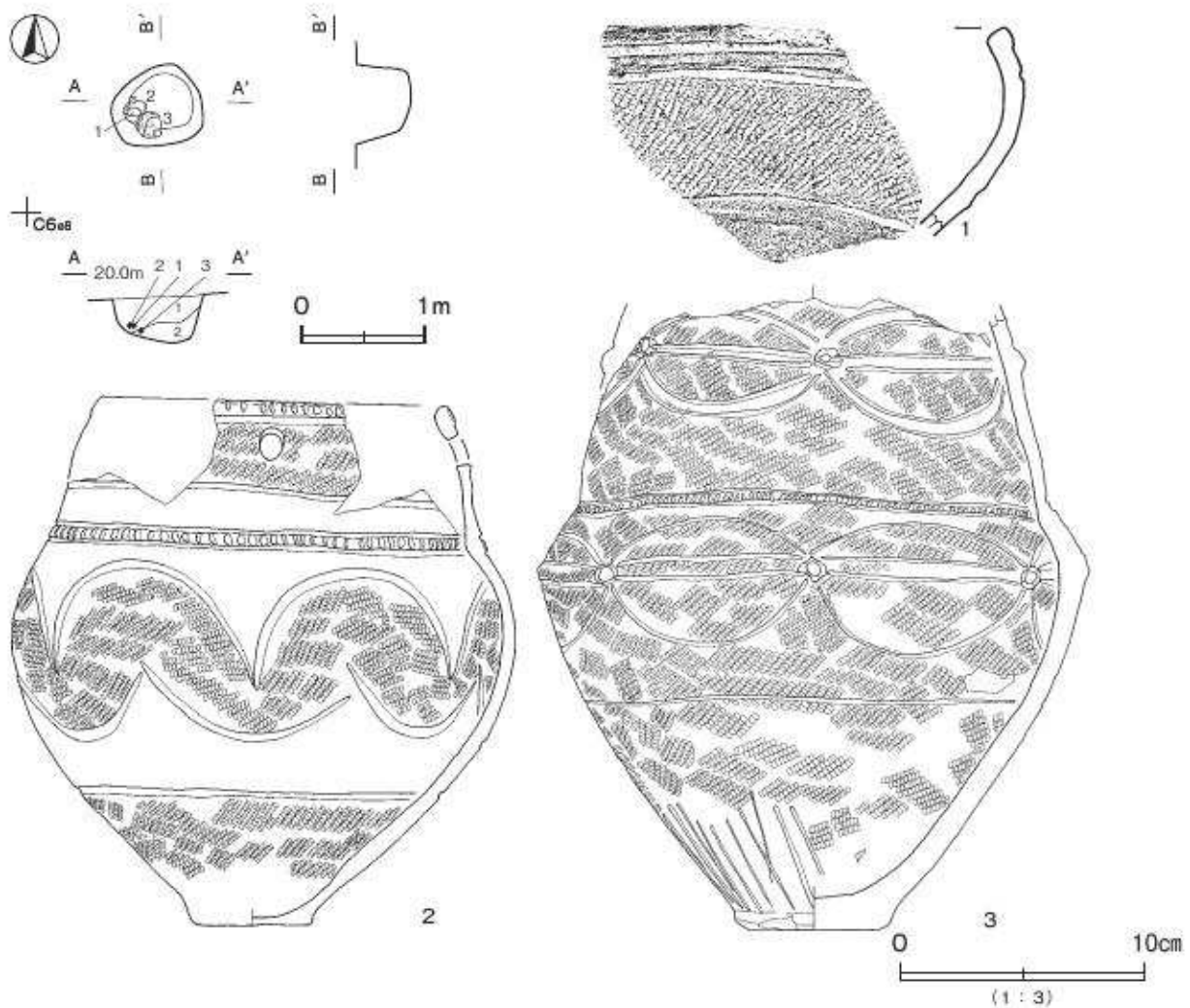
土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片12点(3.18kg)が出土している。2は正位で底面から、3は2に覆い重なるように逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式期と考えられる。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性はある。



第 212 図 第 122 号土坑・出土遺物実測図

第 122 号土坑出土遺物観察表 (第 212 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	底面	
2	縄文土器	深鉢	[14.0]	21.2	4.6	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→撫文部磨き 内面磨き	底面	60% PL34
3	縄文土器	深鉢	-	(25.5)	5.4	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→沈線間磨き 内面磨き	底面	80% PL32

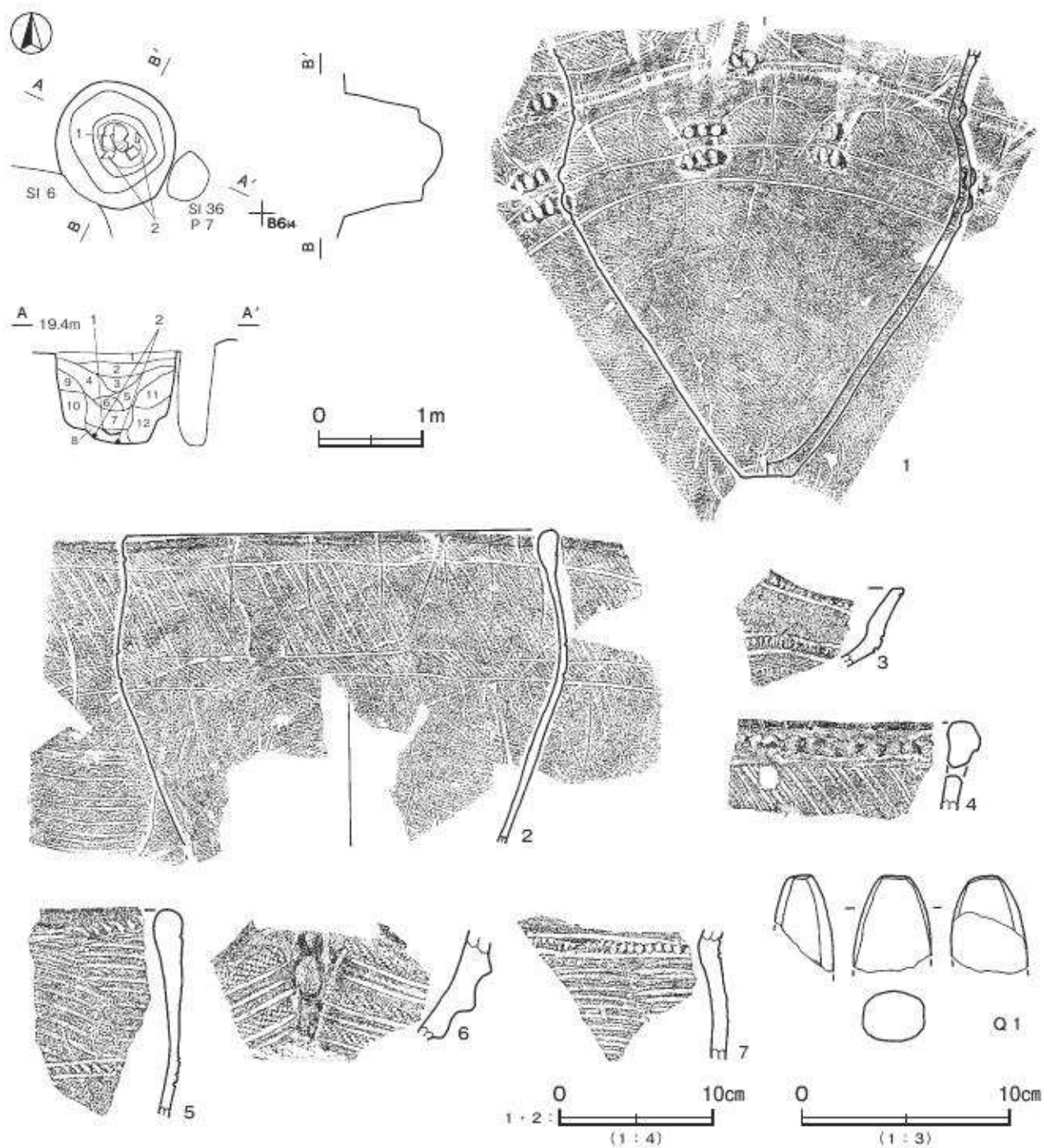
第 127 号土坑 (第 213 図 PL19)

位置 調査A区北西部のB 6h3区、標高 19 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 36 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 6 号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東西径 1.16 m、南北径 1.24 m の円形である。底面は中央部がピット状に 1 段下がっている。深さは 86cm で、壁は直立している。

覆土 12 層に分層できる。第 1～4・6・7 層には骨粉が含まれている。第 1～8 層は第 9～12 層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。



第213図 第127号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子少量・焼土粒子・骨粉微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量・炭化物少量・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 骨粉中量・ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 247点 (3.69kg)、石器 1点 (磨製石斧) が出土している。1は底面のピット状に下がる部分から、内面を上に向けて出土している。2は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から大形の土器片が出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。

第127号土坑出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(27.2)	3.3	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→刻み・RL縄文→粘貼付・磨き 内面磨き	底面	40%
2	縄文土器	深鉢	[26.8]	(19.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→横位沈線→RL縄文 内面ナデ	底面	30% PL32
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	胴部外面条線 胴部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色・黒質	明赤褐色	普通	外面条線→横線貼付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色・黒質	灰褐色	普通	外面条線→付点紐縄文 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色・黒質	橙	普通	外面隆起帯状沈線→RL縄文→筋文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤質	にぶい橙	普通	胴部外面条線 胴部磨き 内面磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨製石斧	(4.7)	3.8	2.4	(48.7)	頁岩	定角式	覆土中	

第163号土坑（第214図 PL21）

位置 調査A区北部のB7h1区、標高20mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.66m、短径1.36mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。底面は皿状で、深さは65cmである。壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。ローム粒子が含まれている黒褐色土主体の層が、不整合に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量 |

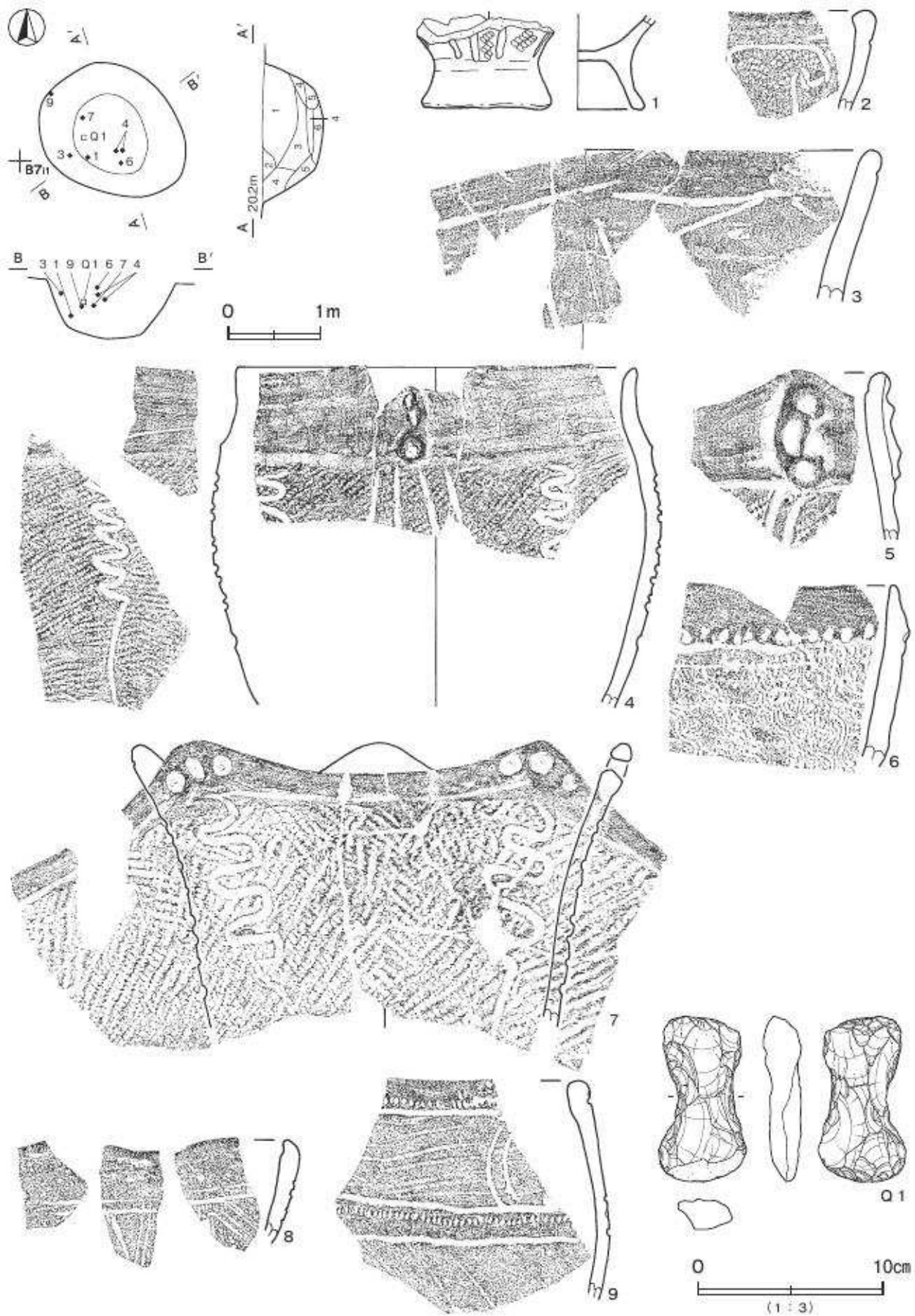
遺物出土状況 縄文土器片259点(4.78kg)、石器2点(打製石斧、砥石)のほか、石核2点(チャート)が出土している。土器は第3群(称名寺式)と第4群(堀之内式)が主体で、覆土上層から多く出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉の堀之内1式期と考えられる。断面が逆台形状で、埋め戻されていることから墓坑などの可能性がある。

第163号土坑出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	台付鉢	-	(5.1)	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	外面RL縄文→垂下沈線→沈線磨き 内面ナデ	覆土下層	10%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色・黒質	褐色	普通	外面J字文・LR縄文 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面J字文。無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	[21.4]	(18.5)	-	長石・石英・赤質	橙	普通	外面RL縄文→懸垂文 内面磨き	覆土上層	10%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色・黒質	褐色	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面筒筒状工具の条線文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	[26.8]	(15.2)	-	長石・石英・赤色・黒質	にぶい橙	普通	外面RL縄文→懸垂文 部分的にLR縄文で羽状構成 内面磨き	覆土中層	25%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面地縄文→竹筒状工具による沈線文 内面ナデ	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤質・黒質	明褐色	普通	外面条線→付点紐縄文 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	打製石斧	9.0	4.8	2.1	81.2	ホルンフェルス	分銅形	覆土中層	



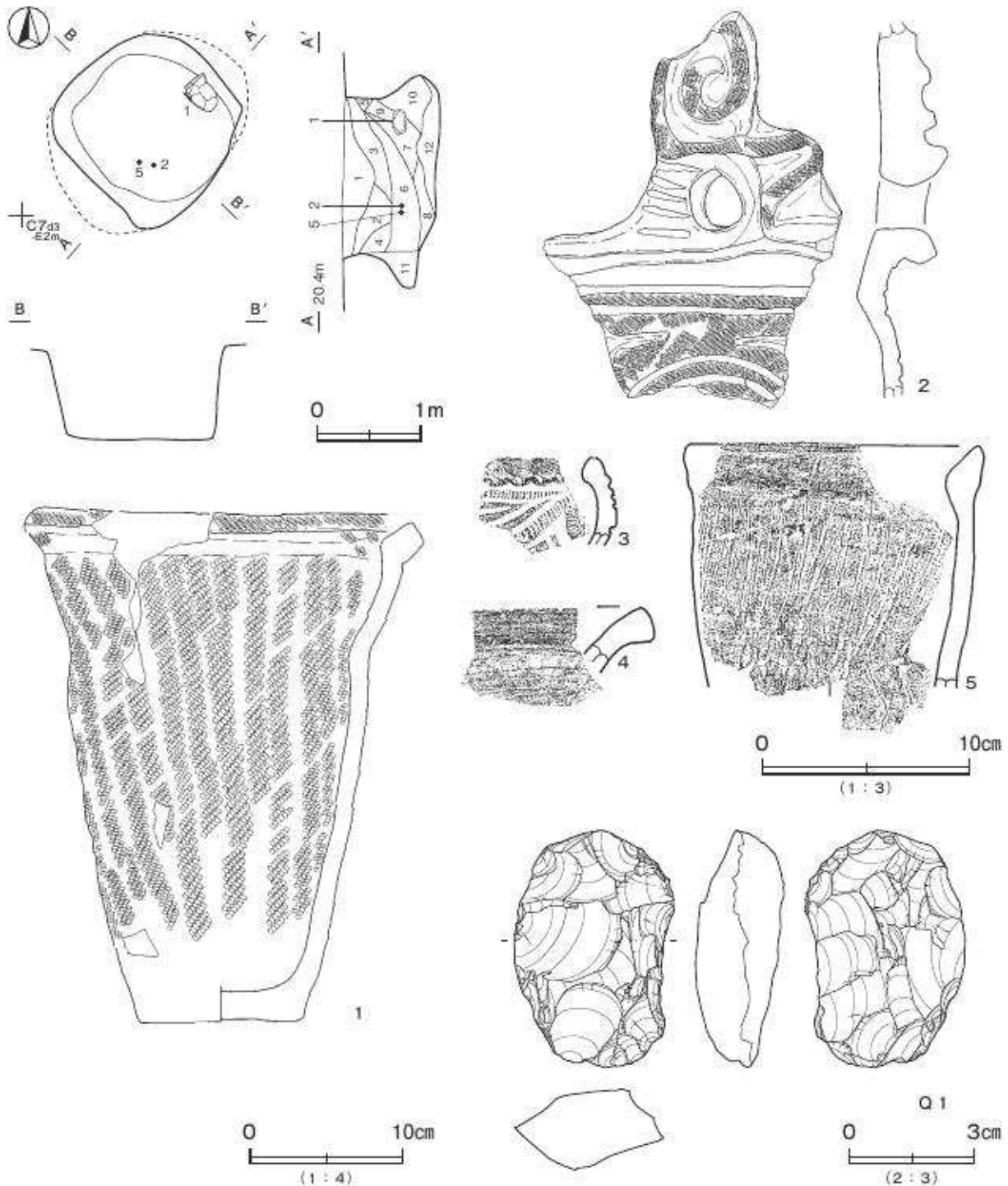
第 214 图 第 163 号土坑·出土遗物实测图

第 166 号土坑 (第 215 図 PL21)

位置 調査A区南東部のC7c3区, 標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 45 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は東西径 1.64 m, 南北径 1.58 m の隅丸方形である。底面は径 1.50 m ほどの円形で, ほぼ平坦であるが, 南側の一部が 20cm ほど高くなっている。確認面からの深さは 92cm である。壁は内彎し袋状を呈しており, 最大径は長径 2.22 m, 短径 1.66 m である。



第 215 図 第 166 号土坑・出土遺物実測図

覆土 12層に分層できる。ロームブロックが含まれている褐色土を主体とした層が、互層をなすように堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック中量	10 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 明褐色	ロームブロック多量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 50点 (1.90kg)、石器 1点 (石鏃未成品) が出土している。1 はほぼ完形の深鉢で、覆土中層から横位で、2・5は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅳ式期と考えられる。いわゆる袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。

第 166 号土坑出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	装成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	235	333	103	灰・石・矽・粘粒子	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き 底部網代直	覆土中層	80% PL33
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石・矽・粘粒子	灰黄褐色	普通	外面0段3条のRL縄文 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯上に爪形文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	[13.7]	[11.7]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石鏃	5.74	3.38	2.15	436	頁岩	未成品	覆土上層	

第 4 号土坑 (第 216 図 PL15)

位置 調査A区北部のB 6 i9区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 46 号堅穴建物、第 168 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が攪乱のため、開口部は南北径 1.78 m で、東西径は 0.92 m しか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。底面の南北径は 1.28 m で、東西径は 0.72 m しか確認できなかった。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは 90cm である。壁は内彎し、袋状を呈している。

覆土 4層に分層できる。第 4 層はローム粒子がやや多く含まれている極暗褐色土が凸状に堆積している第一次堆積土である。第 1 層は第 2・3 層が堆積後、ビット状に掘り込まれているような堆積状況を示しており、また焼土ブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4 極暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 大部分を確認トレンチで掘削したため、本跡の遺物を断定することができない。

所見 時期は、遺構の形状と重複関係から中期と推定される。いわゆる袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。

第 168 号土坑 (第 216 図 PL15・21)

位置 調査A区北部のB 6 i9区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

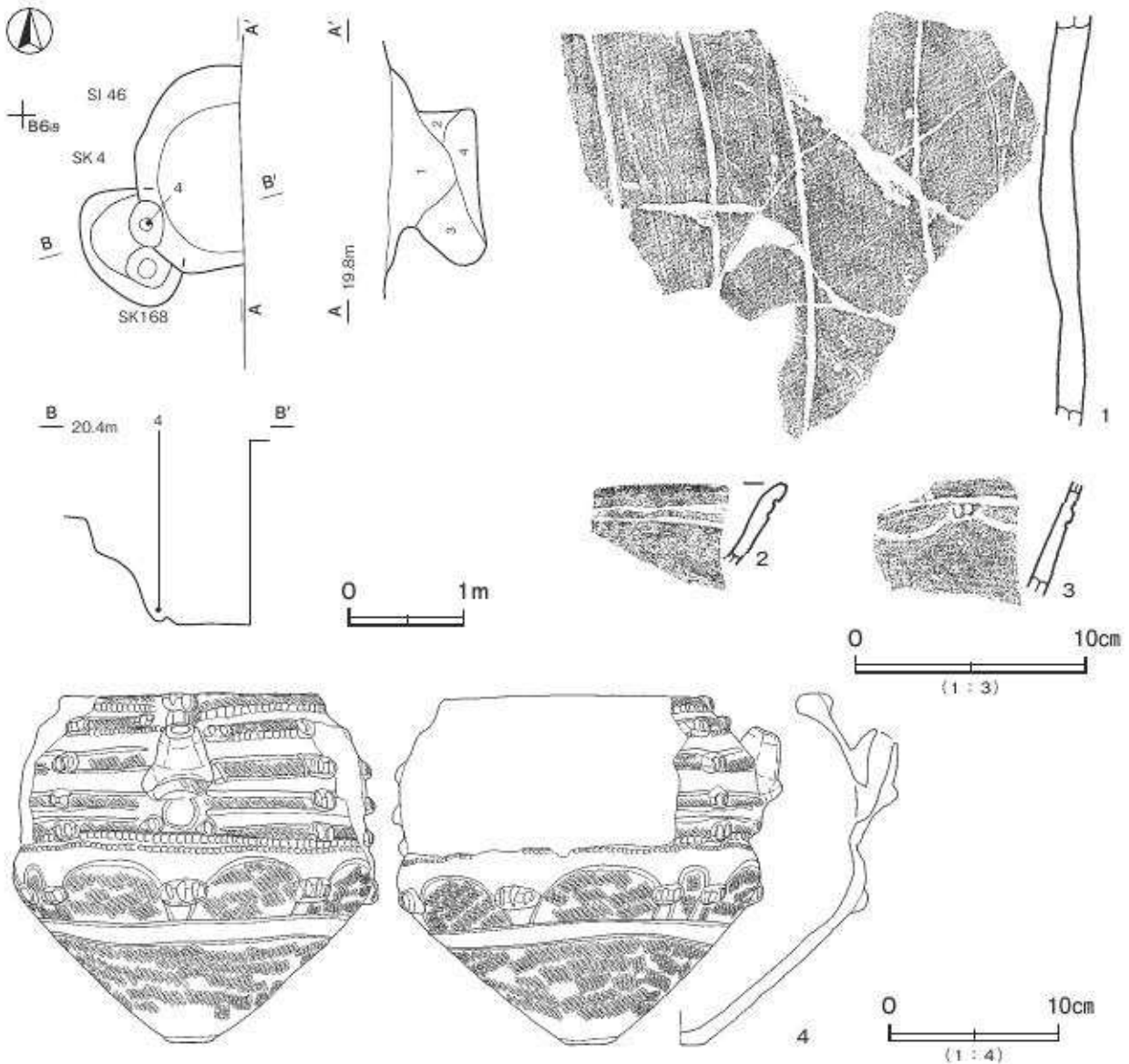
重複関係 第 46 号堅穴建物跡、第 4 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が重複のため、長径は 1.09 m で、短径は 0.80 m しか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。底面は中央部に向かって下がっており、中央および南壁際にビットを有する。確認面からの

深さは38cmで、中央部のピットの底面までの深さは90cmである。壁は外傾している。

遺物出土状況 縄文土器片78点(1.08kg)が出土している。4はほぼ完形の注口土器で、中央部のピット底面から、2つに破砕した大形の破片が内面を上に向けて重なるように出土している。

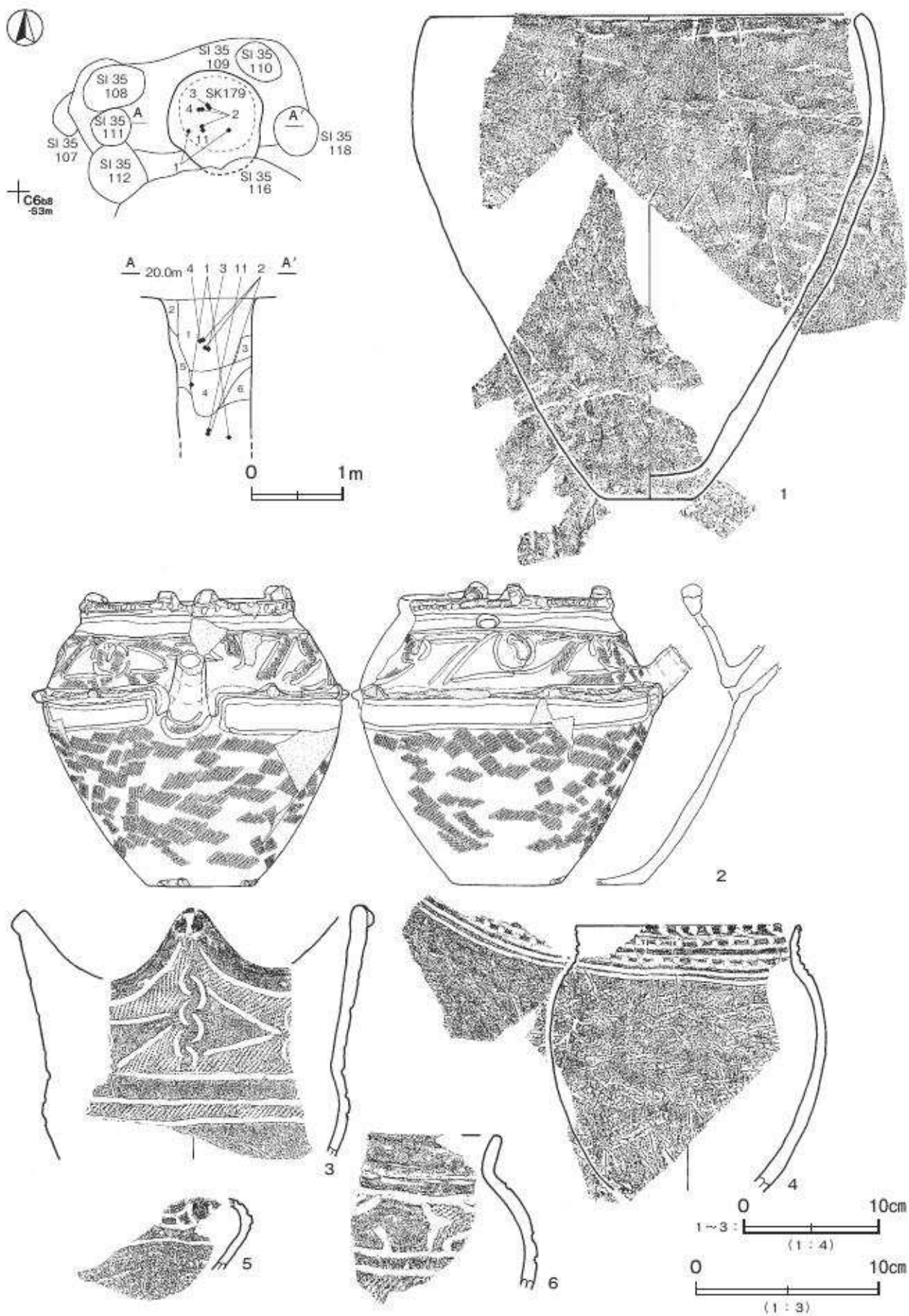
所見 時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。第45・127号土坑のように円筒状で中央部にピットを有する土坑に類似すること、および完形に近い注口土器が正位で出土していることなどから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。



第216図 第4・168号土坑・第168号土坑出土遺物実測図

第168号土坑出土遺物観察表(第216図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・石英・燧石・鉄屑	にぶい濁	普通	外面丁字文。無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・燧石・鉄屑	橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石・鉄屑	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	注口	15.0	20.2	2.8	粘土・石英・燧石・鉄屑	灰赤	普通	外面器起帯縄文→RL縄文 底部擦れ痕 内面磨き	底面	80% PL32



第217图 第179号土坑·出土遺物実測図

第 179 号土坑 (第 217・218 図 PL22)

位置 調査A区中央部のC 6 b8区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 35 号建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が重複のため、東西径は 1.00 mで、南北径は 1.15 mしか確認できなかった。楕円形と推定される。安全対策のため、確認面下 180cmまでしか調査することができなかった。壁は直立している。

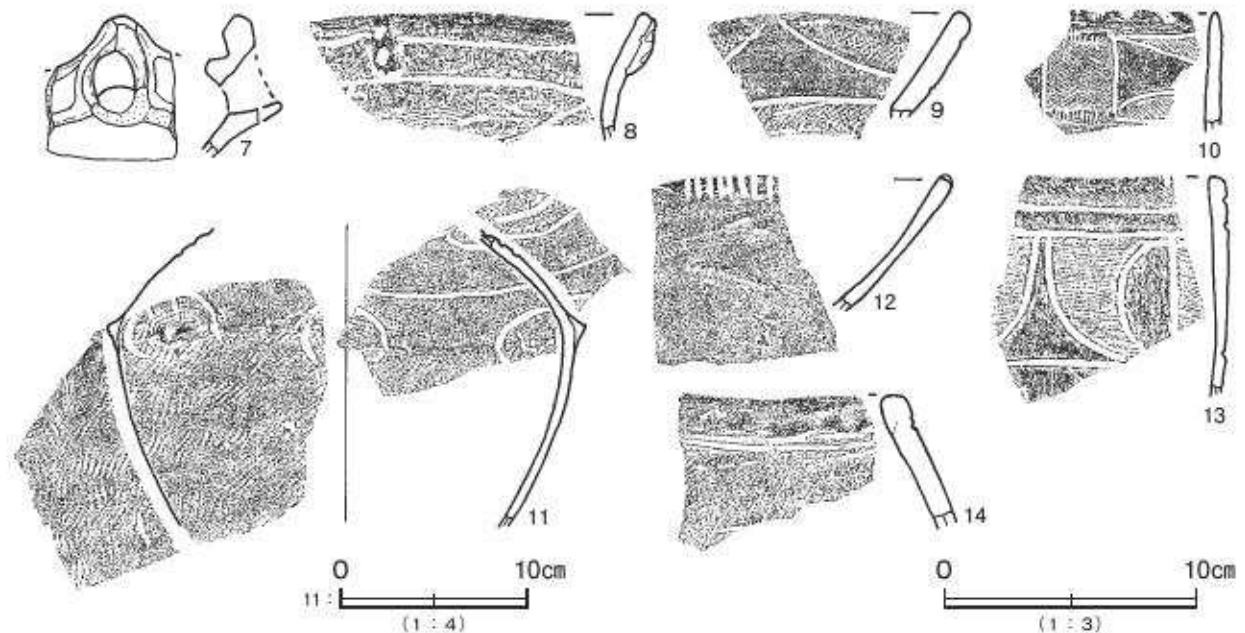
覆土 7層に分層できる。第 1・4層は第 2・3・5～7層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量、骨粉微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片 278 点 (5.00kg)、土製品 2 点 (土器片円盤)のほか、焼成粘土塊 1 点が出土している。また製塩土器片が 1 点出土している。1～4・11は、ピット状に掘り込まれた覆土から出土している。2は覆土下層と上層から、割れた口縁部片の内面を上にもなるように出土している。1は覆土下層と覆土上層の破片が接合している。3・4は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、下層から大形の土器片が出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



第 218 図 第 179 号土坑出土遺物実測図

第 179 号土坑出土遺物観察表 (第 217・218 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[31.0]	34.9	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面削り 胴部ナデ 内面ナデ	覆土上-下層	80%
2	縄文土器	注口	15.2	21.9	7.8	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面隆起帯上縁→LR縄文→無文部磨き 底部に厚2小所 内面ナデ	覆土上-下層	80% PL32
3	縄文土器	深鉢	[24.2]	[17.9]	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口部内面磨き 胴部ナデ	覆土上層	20% PL38
4	縄文土器	深鉢	[12.2]	[14.5]	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面胴部LR縄文 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土上層	外面僅 30% PL38
5	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英	灰黄褐	普通	外面羊歯状文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	壺	—	—	—	長石・石英	暗 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	PL38
7	縄文土器	注口	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→燃糸文R 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→細密沈線文光沢→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	壺	—	(15.7)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部外面LR縄文→沈線 胴部LR縄文 内面ナデ	覆土下層	5%
12	縄文土器	浅鉢	—	—	—	長石・石英	明赤褐	普通	外面削り 口唇部刻み 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→細密沈線文光沢→無文部磨き 内面磨き	覆土中	外・内面集付着
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線 口縁部肥厚 内面ナデ	覆土中	

第 232 号土坑 (第 219 図 PL23)

位置 調査A区中央部のC 7 a2区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 59 号建物跡、第 260 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物からは、第 59 号建物に掘り込まれていると判断できる。

規模と形状 開口部は長径 1.45 m、短径 1.20 m の楕円形で、長径方向は N - 3° - E である。底面は長径 1.80 m、短径 1.55 m の楕円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは 84cm で、壁は内彎し袋状を呈している。

覆土 8 層に分層できる。不整合な堆積状況から埋め戻されている。第 1 - 4 層は第 260 号土坑の覆土の可能性もある。

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量	5 暗 褐 色	ロームブロック微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量・焼土粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック中量
3 暗 褐 色	ロームブロック少量	7 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量	8 褐 色	ロームブロック少量

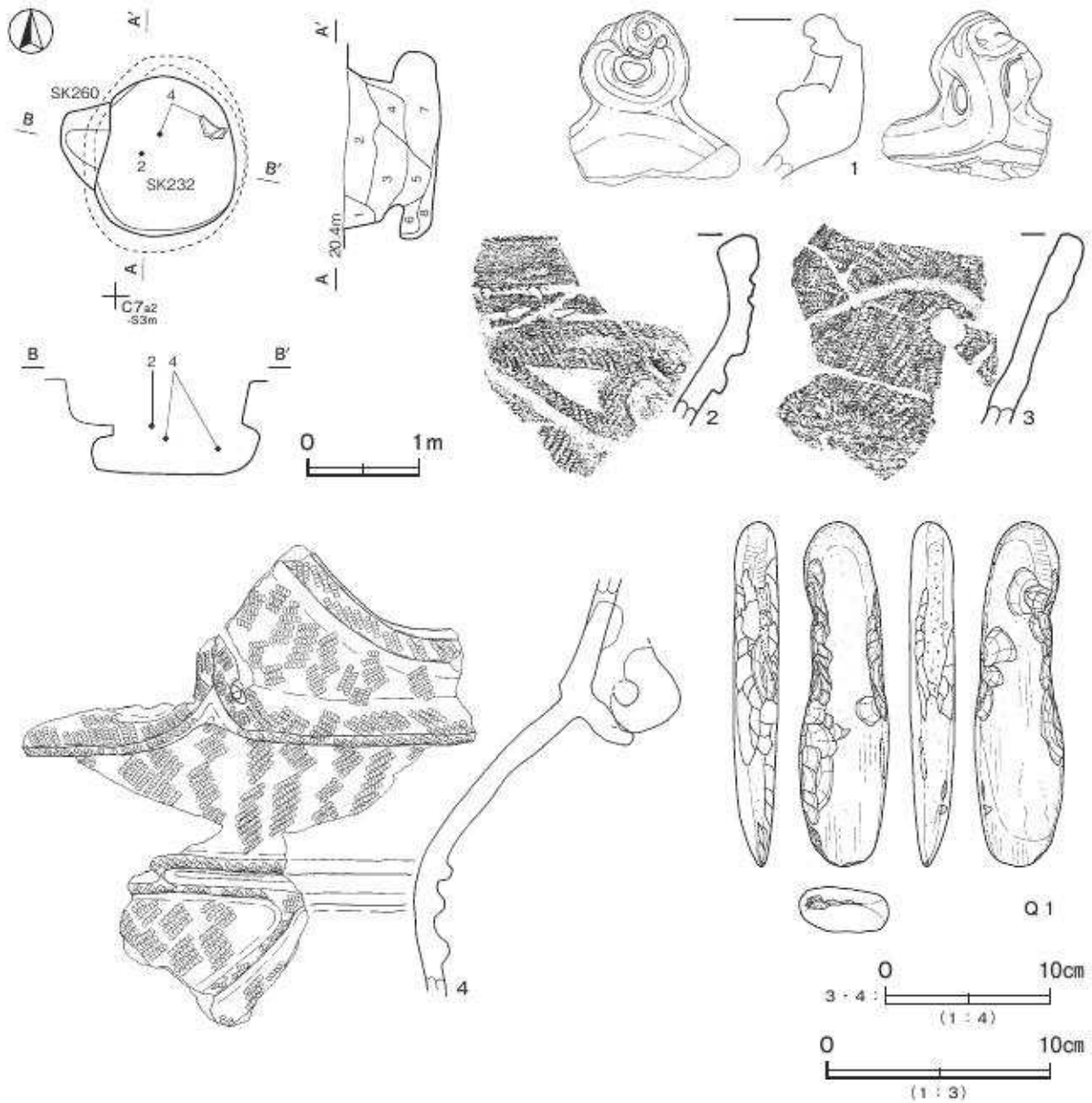
遺物出土状況 縄文土器片 81 点 (1.72kg)、石器 1 点 (磨製石斧) のほか、石核 1 点 (頁岩)、剥片 1 点 (瑪瑙) が出土している。4 は大形の破片で、土坑状に掘り込まれた覆土中層から逆位で出土している。3 は 4 と同一個体である。

所見 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅳ式期と考えられる。いわゆる袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。

第 232 号土坑出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面丁字文。内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面隆起帯上 RL縄文・内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 RL縄文 内面磨き	覆土中	4 と同一
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 RL縄文 内面磨き	覆土中層	3 と同一

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q1	磨製石斧	15.5	4.0	2.1	187.8	ホルンフェルス	部分磨製石斧 両側面に割線痕	覆土中	



第 219 図 第 232・260 号土坑・第 232 号土坑出土遺物実測図

第 260 号土坑 (第 219 図)

位置 調査A区中央部のC7a1区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第34・59号建物跡、第232号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 重複のため、東西径は0.42m、南北径は0.79mしか確認できなかった。円形と推定され、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは38cmで、壁は外傾している。

所見 時期は、出土土器がないため判断できない。形状から、第59号建物跡のピットの可能性もある。

第233号土坑 (第220図 PL23・24)

位置 調査A区東部のB7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第54号建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。出土土器からは、本跡が第54号建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は東西径1.37m、南北径1.42mの円形である。底面は東西径1.60m、南北径1.70mの円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは80cmで、壁は内彎し袋状を呈している。

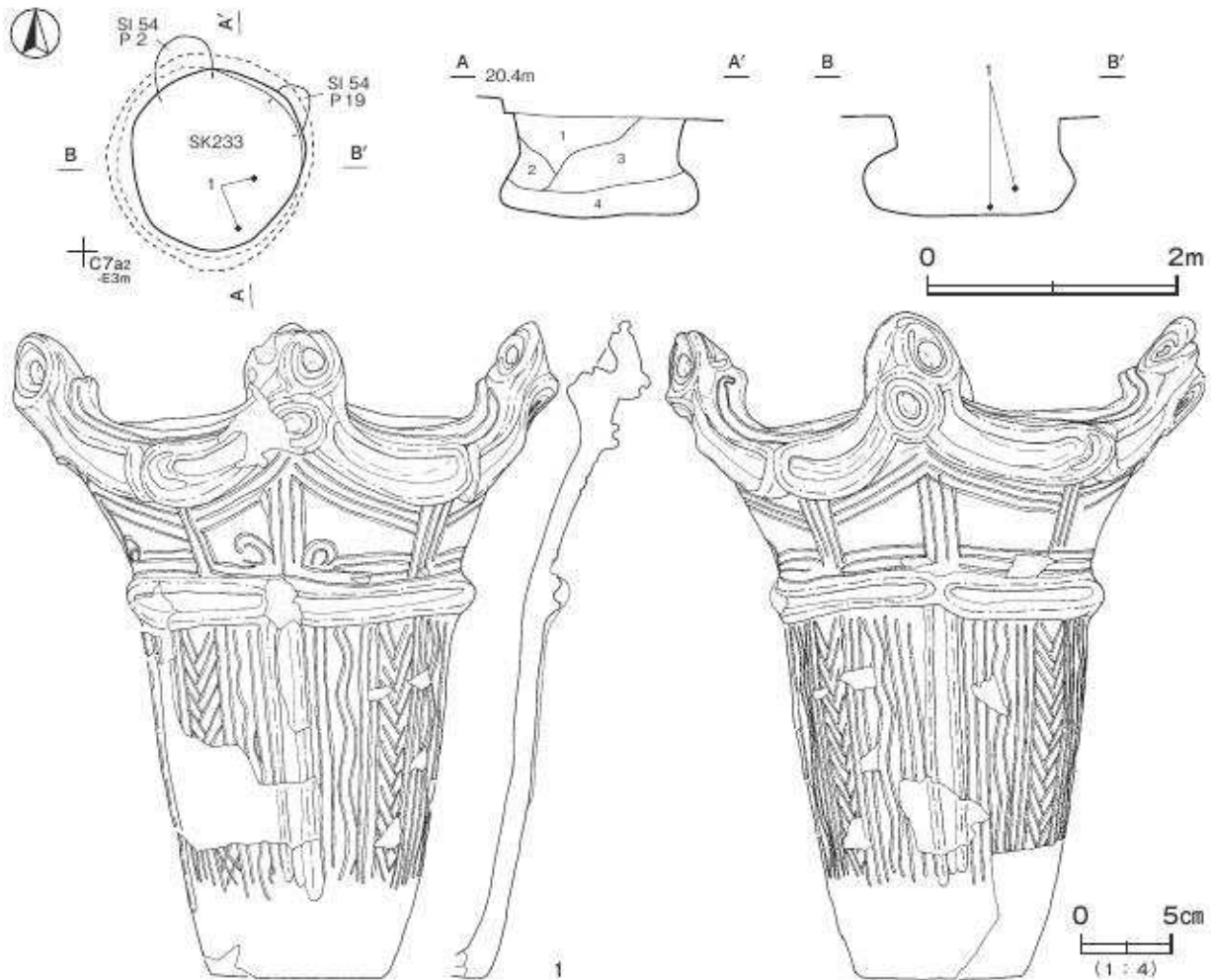
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれている褐色土を主体とした層が、不整合に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片36点(4.28kg)が出土している。1はほぼ完形の深鉢で、底部がやや離れた位置から出土した。底面から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E1式期と考えられる。袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。



第220図 第233号土坑・出土遺物実測図

第233号土坑出土遺物観察表(第220図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	26.7	35.2	[9.0]	紅・黄・灰・黒・粘	明赤褐	普通	外国産土器内に竹管状工具による沈線文を施す 内面ナデ	底面	内面残 90% PL23

第 272 号土坑 (第 221 図 PL17)

位置 調査A区北部のB7il区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西径0.68m、南北径0.62mの円形である。底面は平坦で、深さは62cmである。壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。第1・2層は第3層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

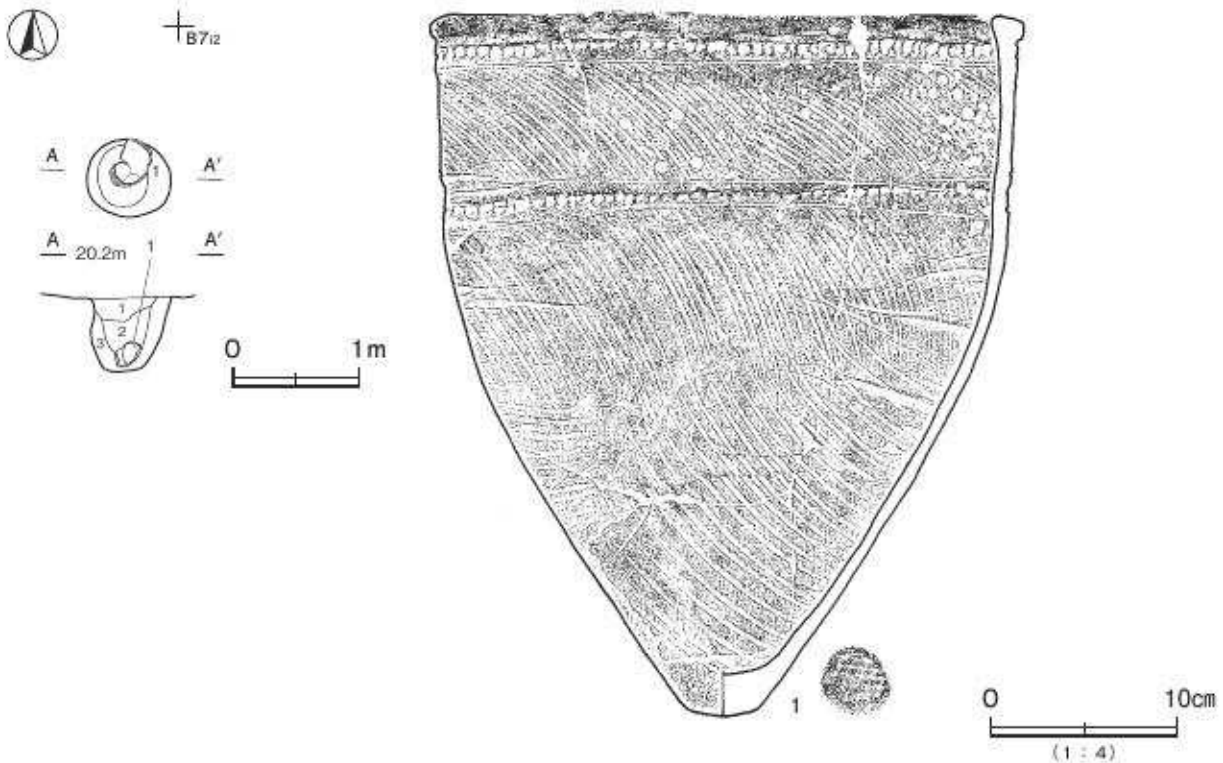
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量

3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 1は底面付近から正位で出土している。

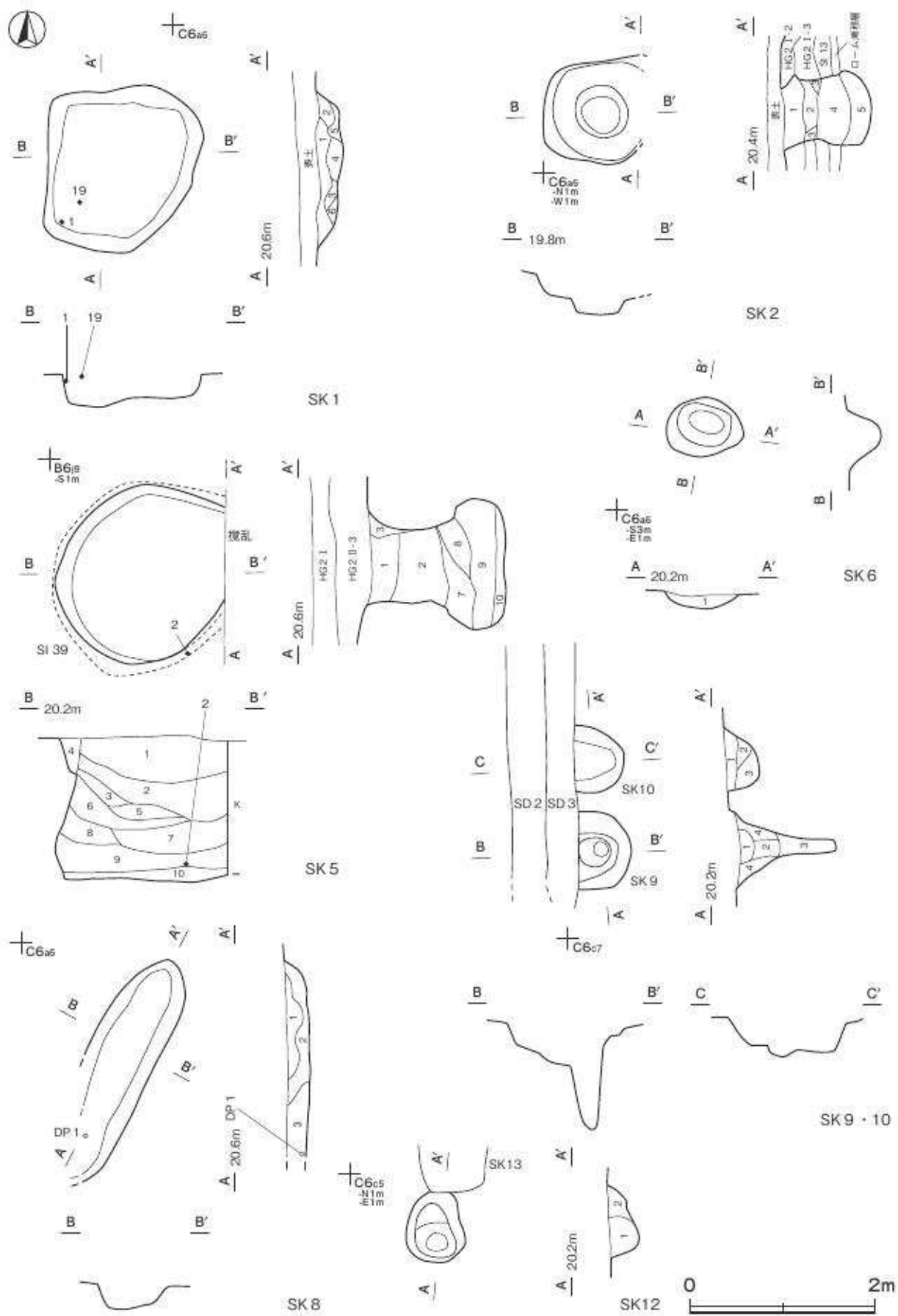
所見 時期は、出土土器から後期後葉の安行1式期と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から完形に近い深鉢が正位で出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



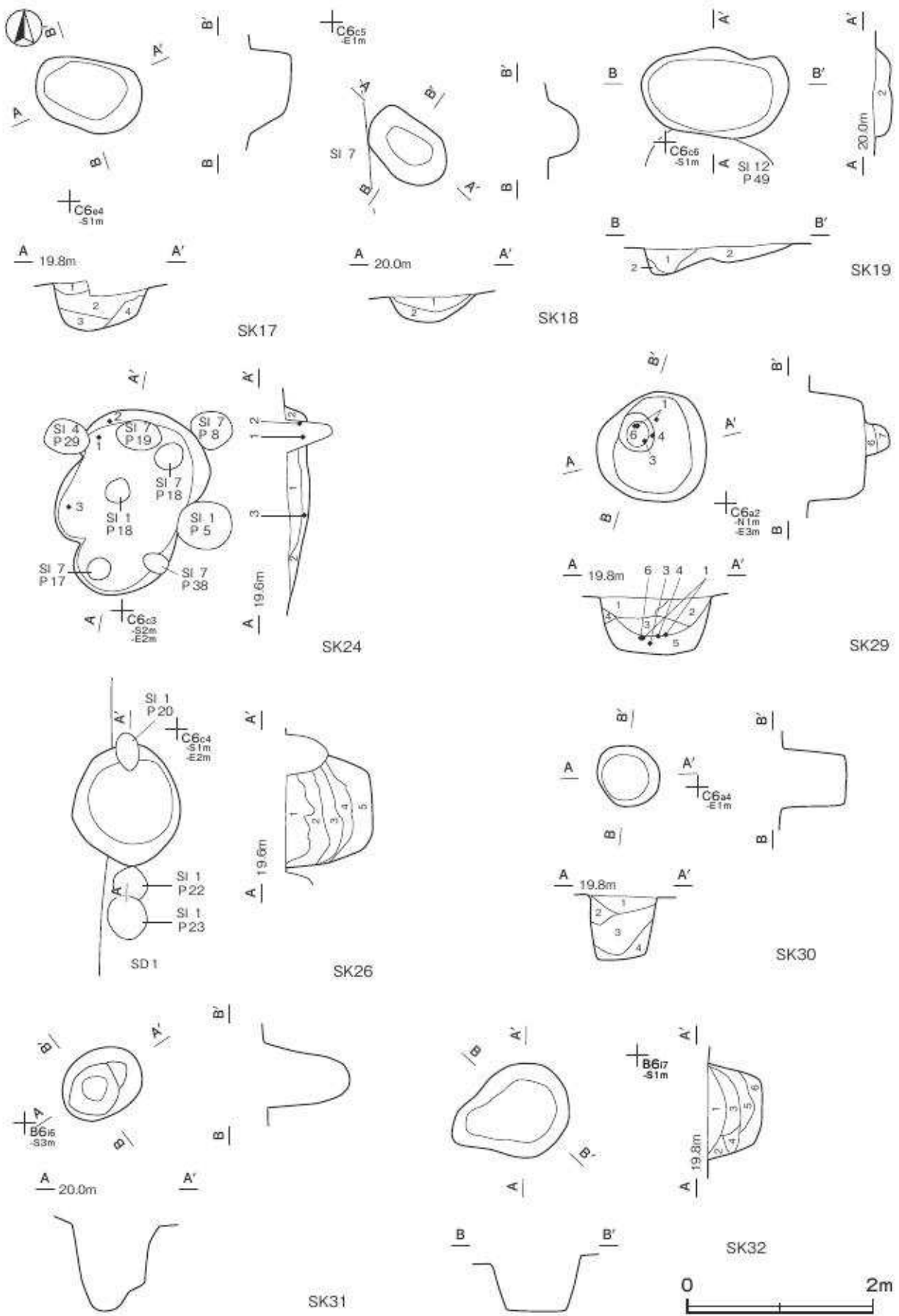
第 221 図 第 272 号土坑・出土遺物実測図

第 272 号土坑出土遺物観察表 (第 221 図)

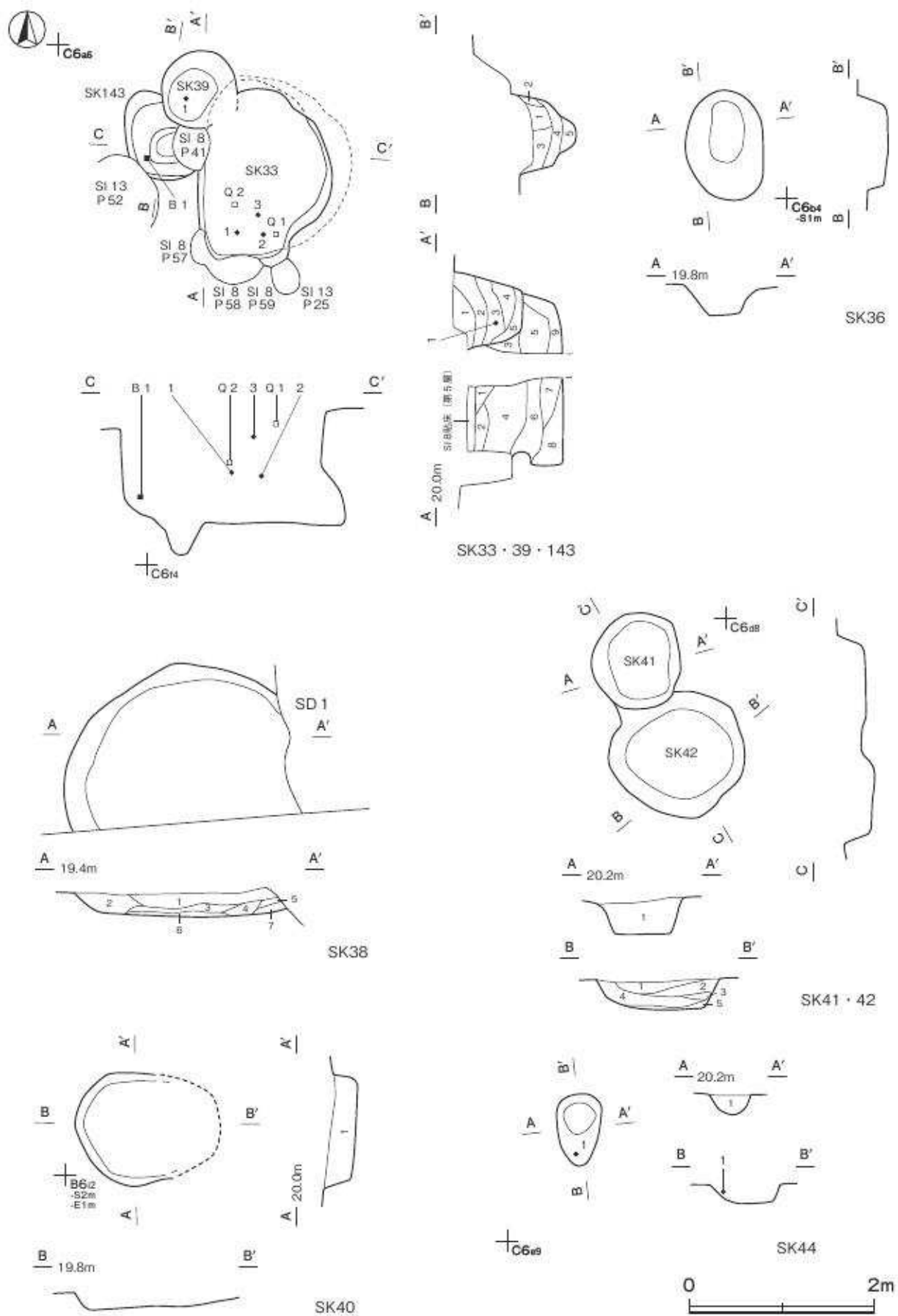
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[28.7]	36.5	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面条線→付点短線文 内面磨き 底部割代直	底面	60% PL31



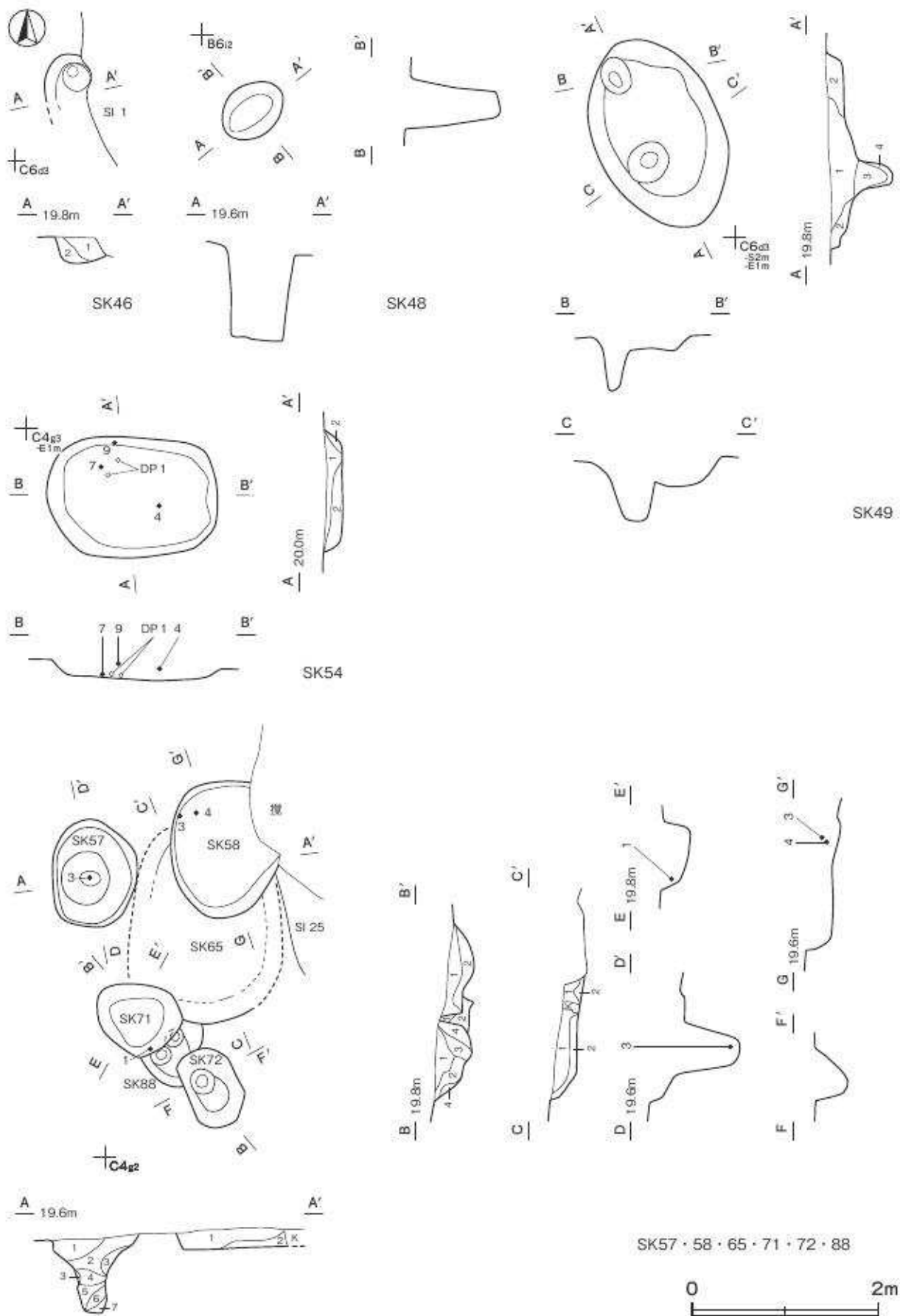
第 222 図 縄文時代の土坑実測図 (1)



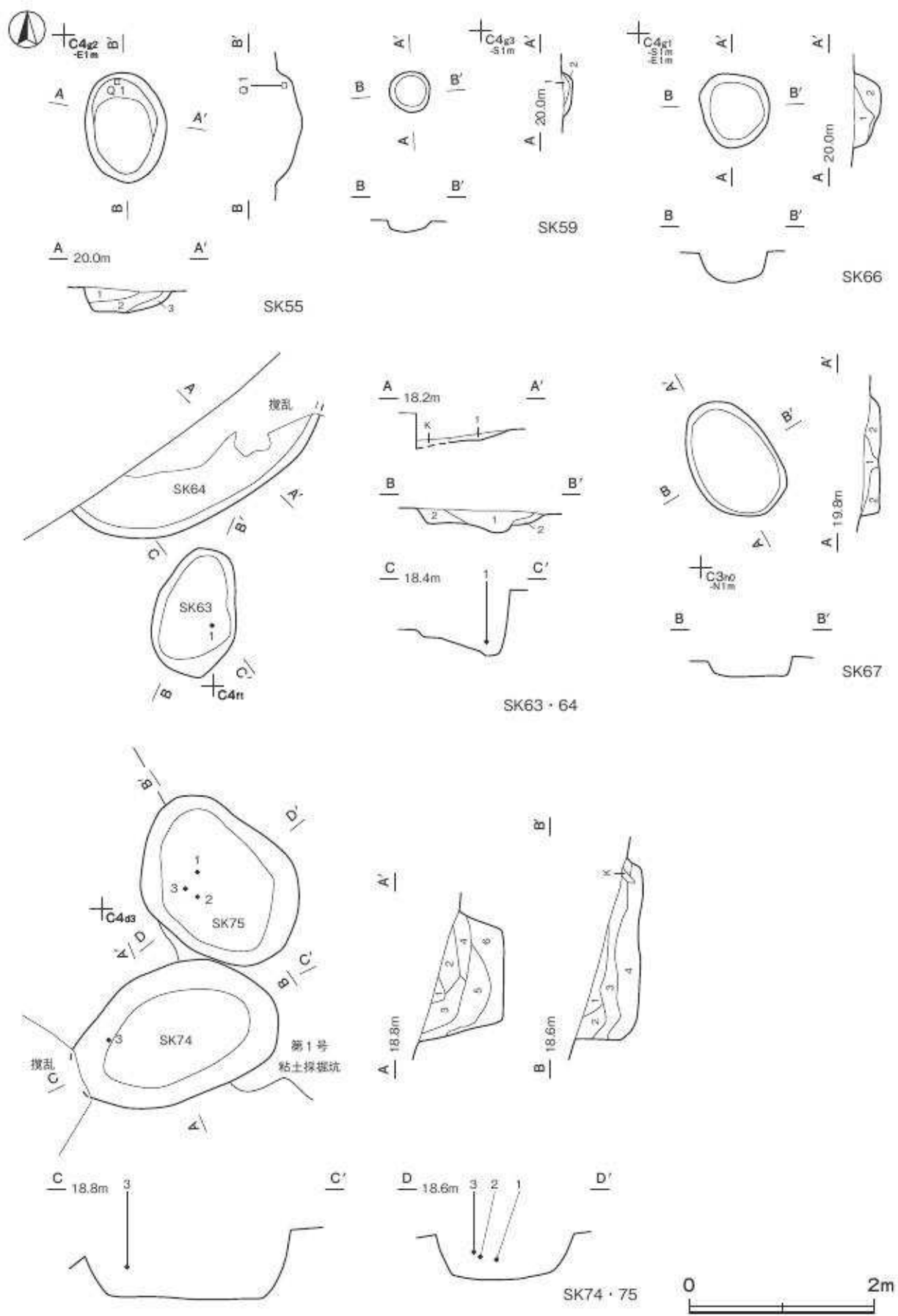
第 223 図 縄文時代の土坑実測図 (2)



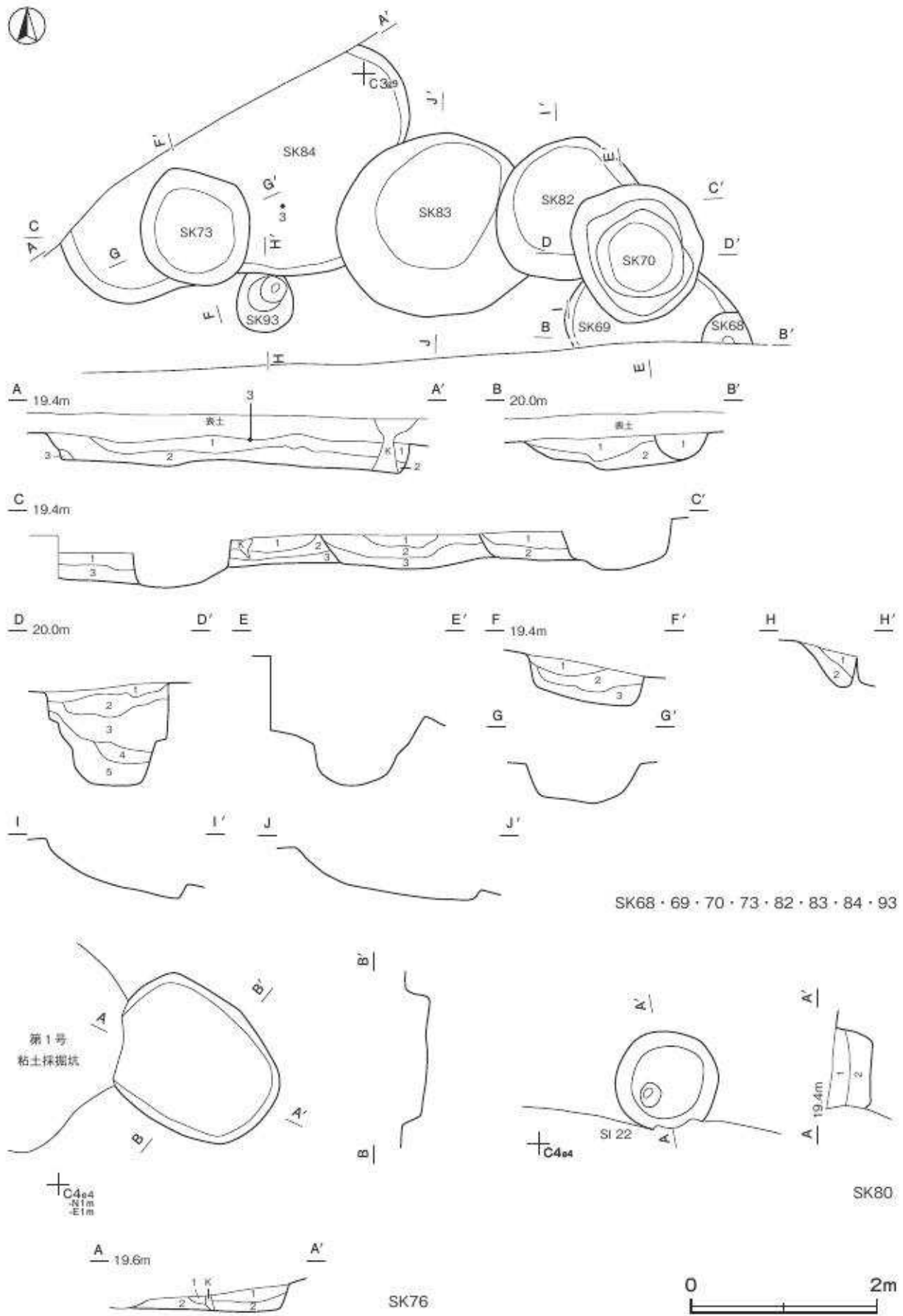
第 224 図 縄文時代の土坑実測図 (3)



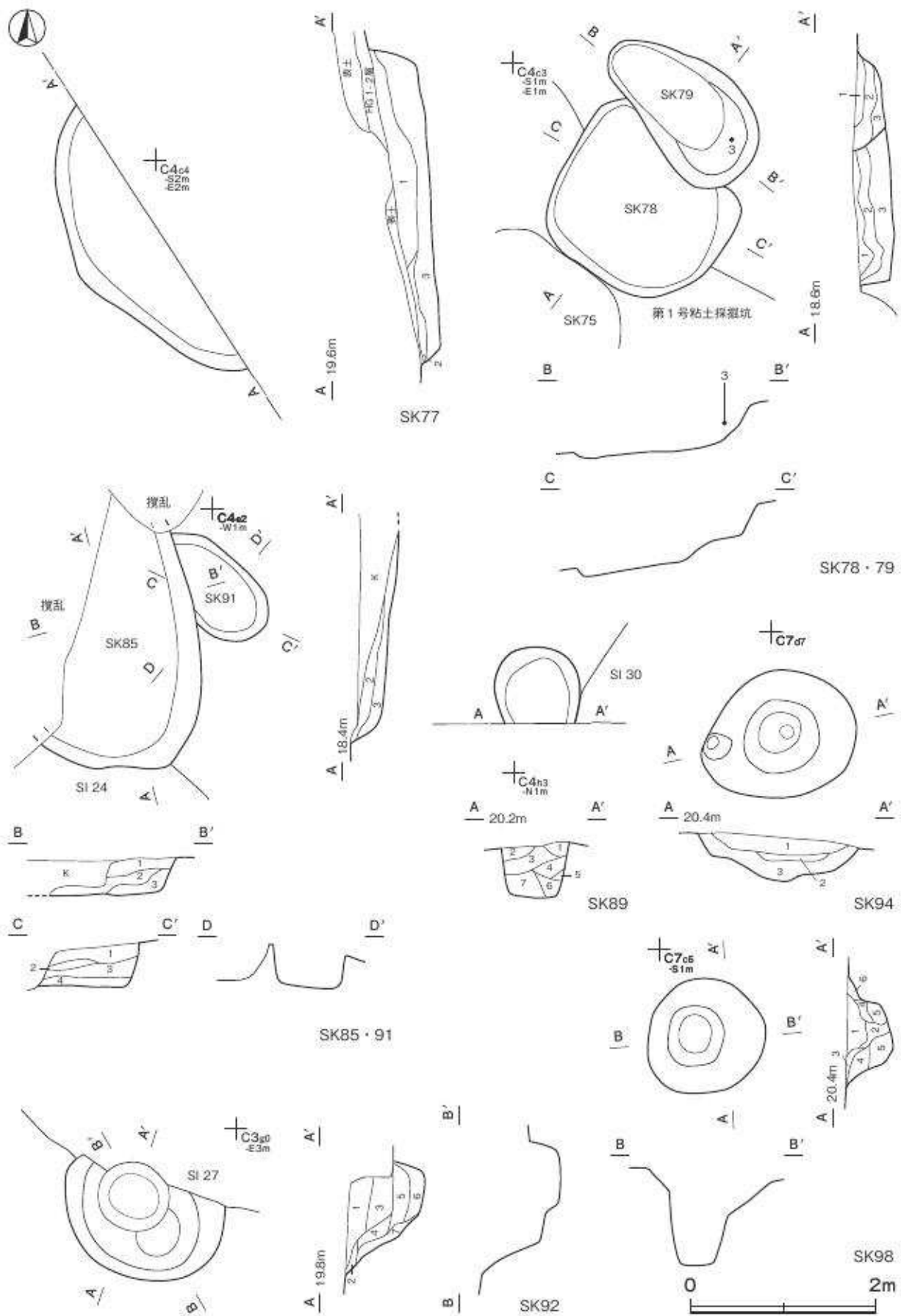
第 225 図 縄文時代の土坑実測図 (4)



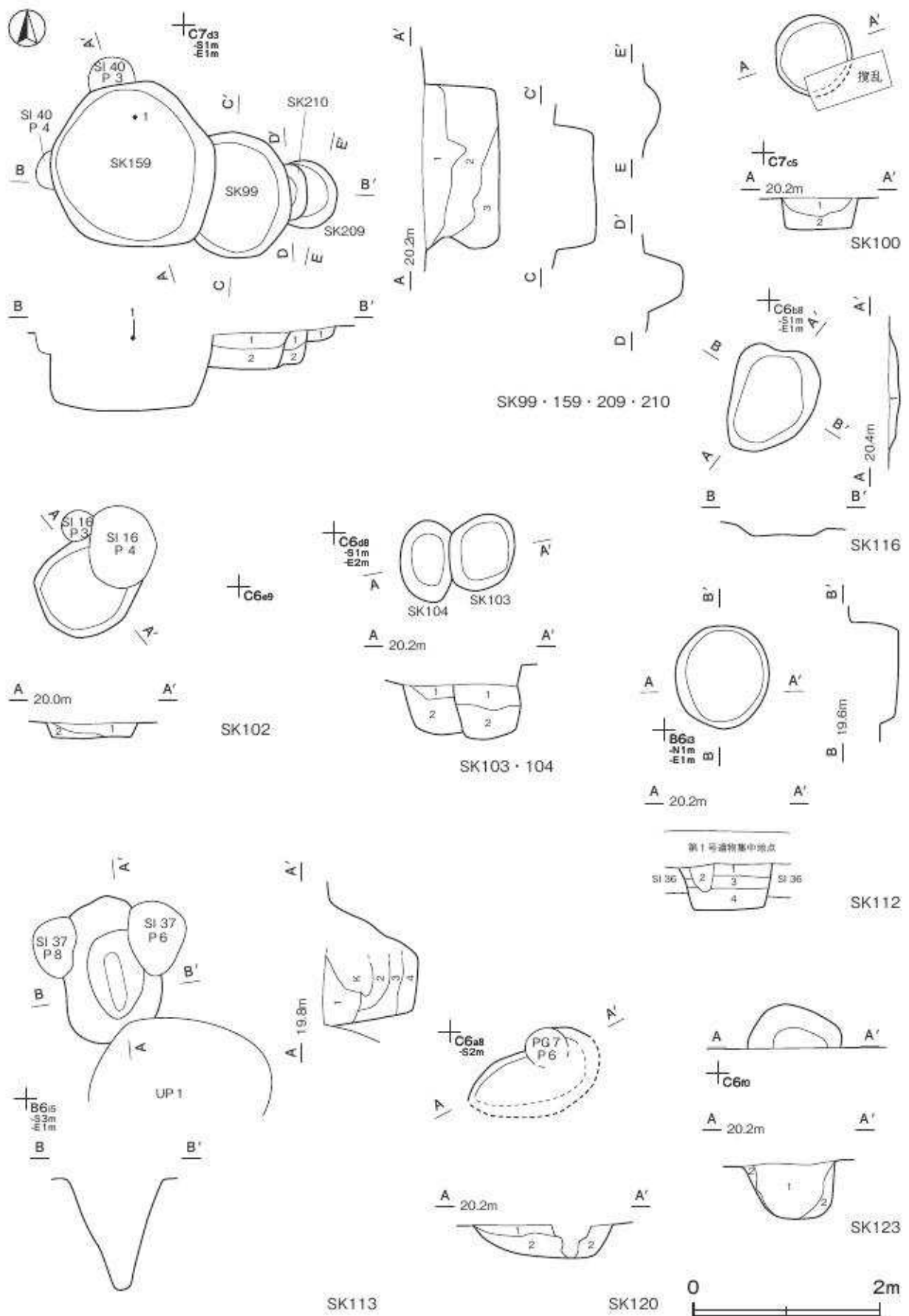
第226図 縄文時代の土坑実測図(5)



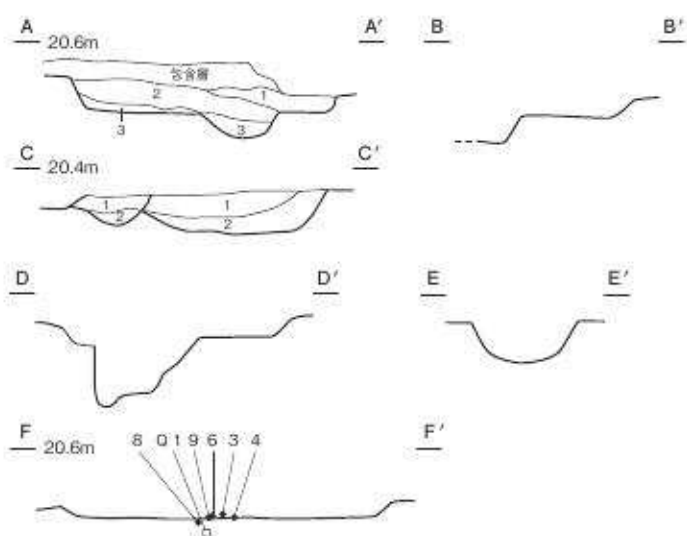
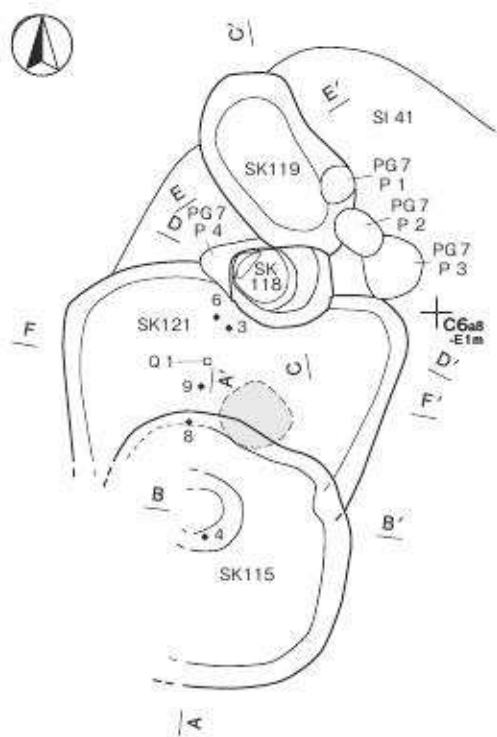
第227図 縄文時代の土坑実測図(6)



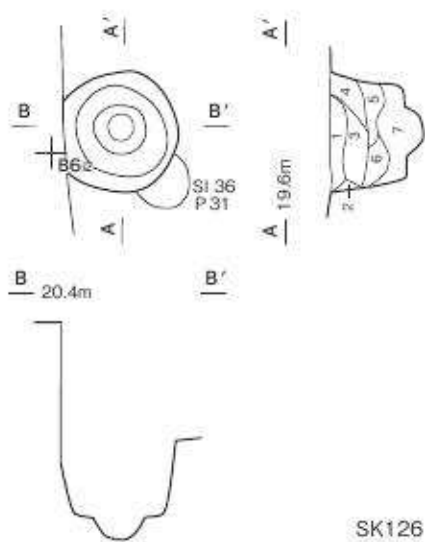
第 228 図 縄文時代の土坑実測図 (7)



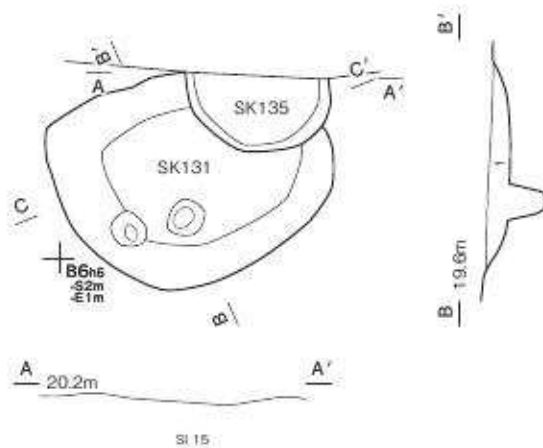
第 229 図 縄文時代の土坑実測図 (8)



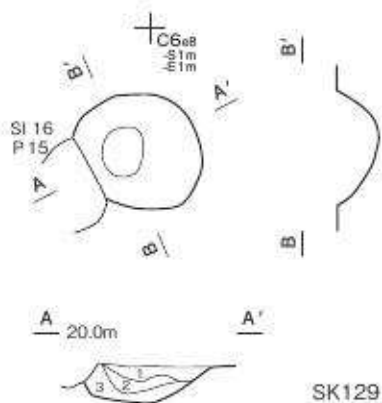
SK115・118・119・121



SK126



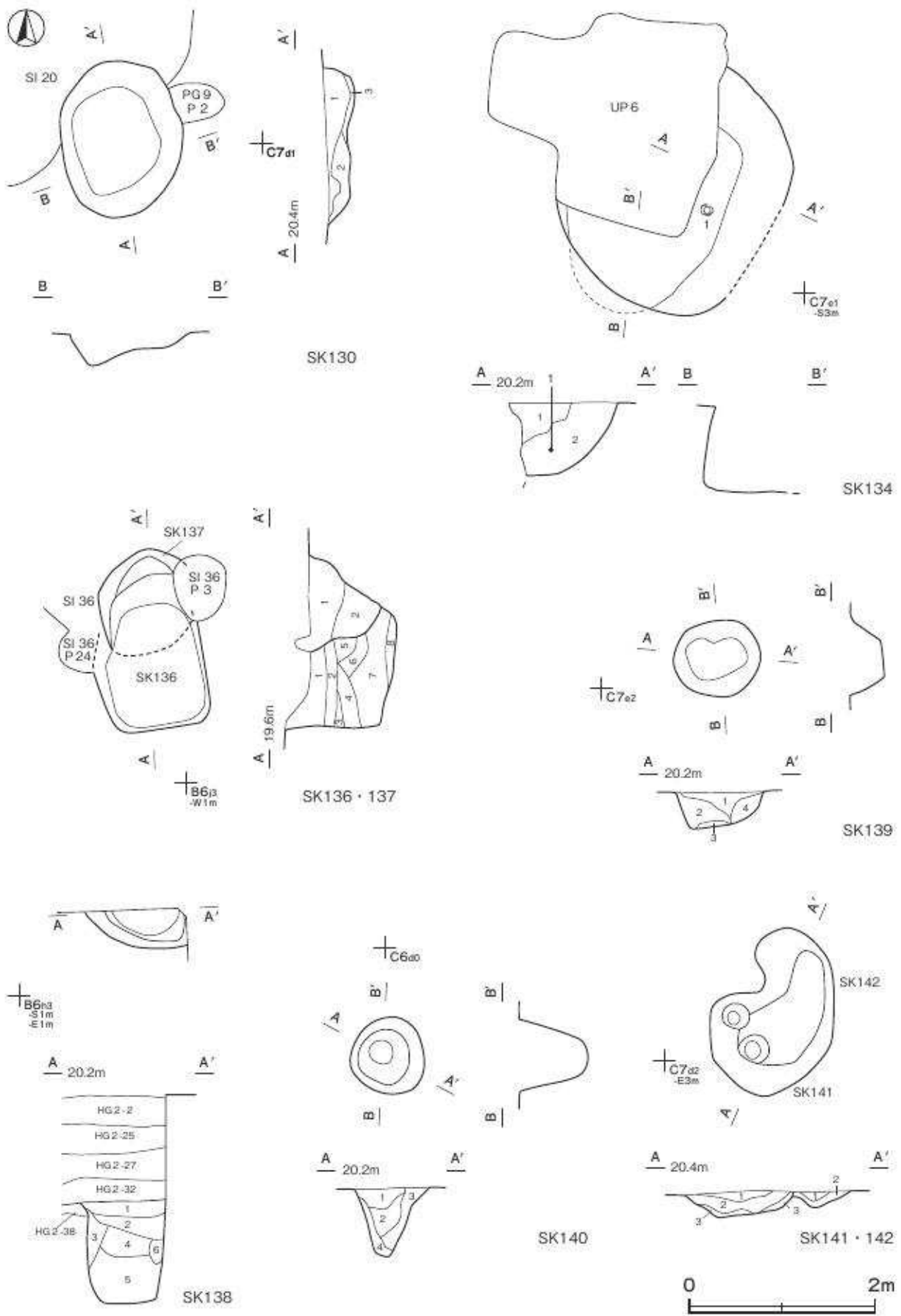
SK131・135



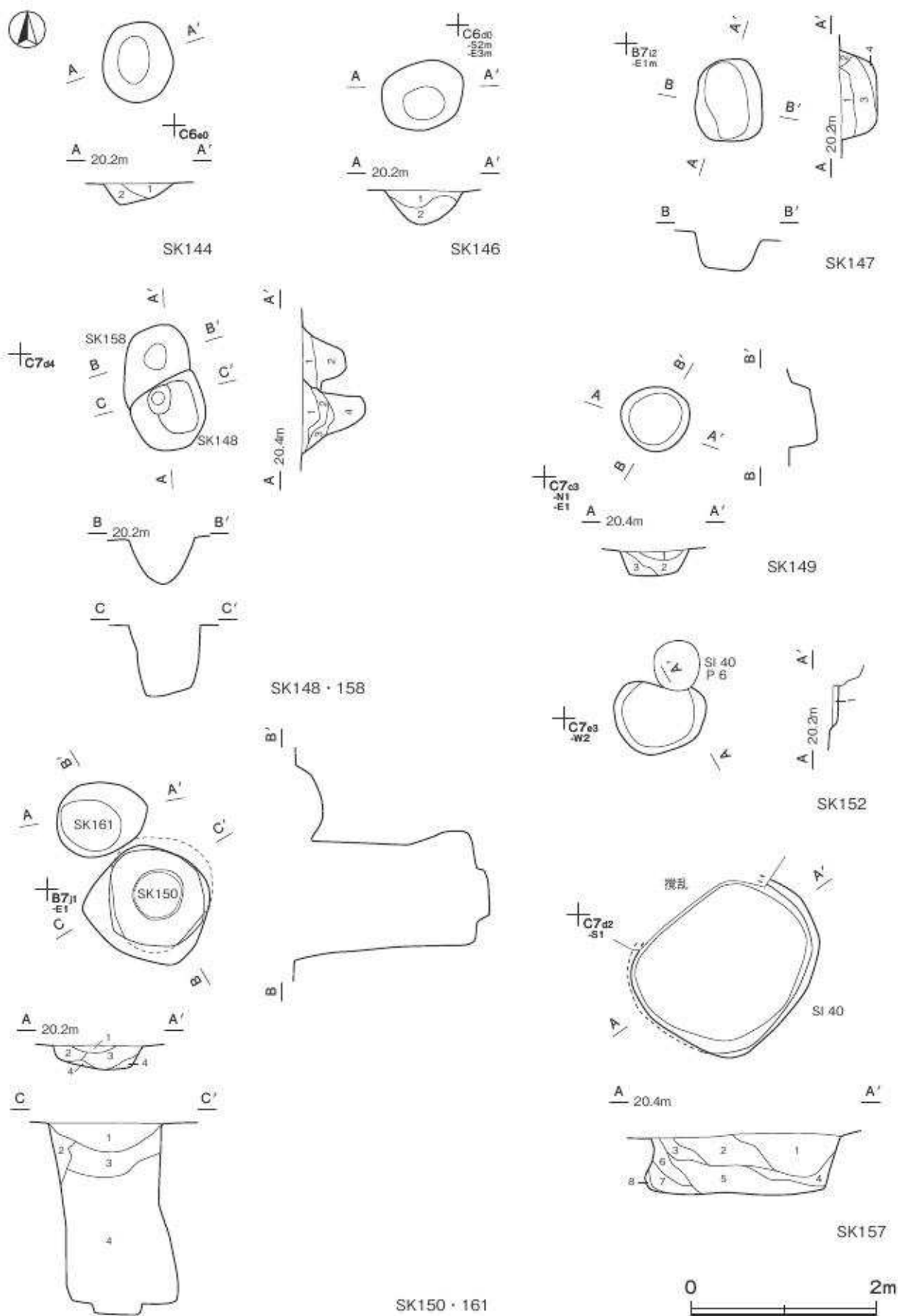
SK129



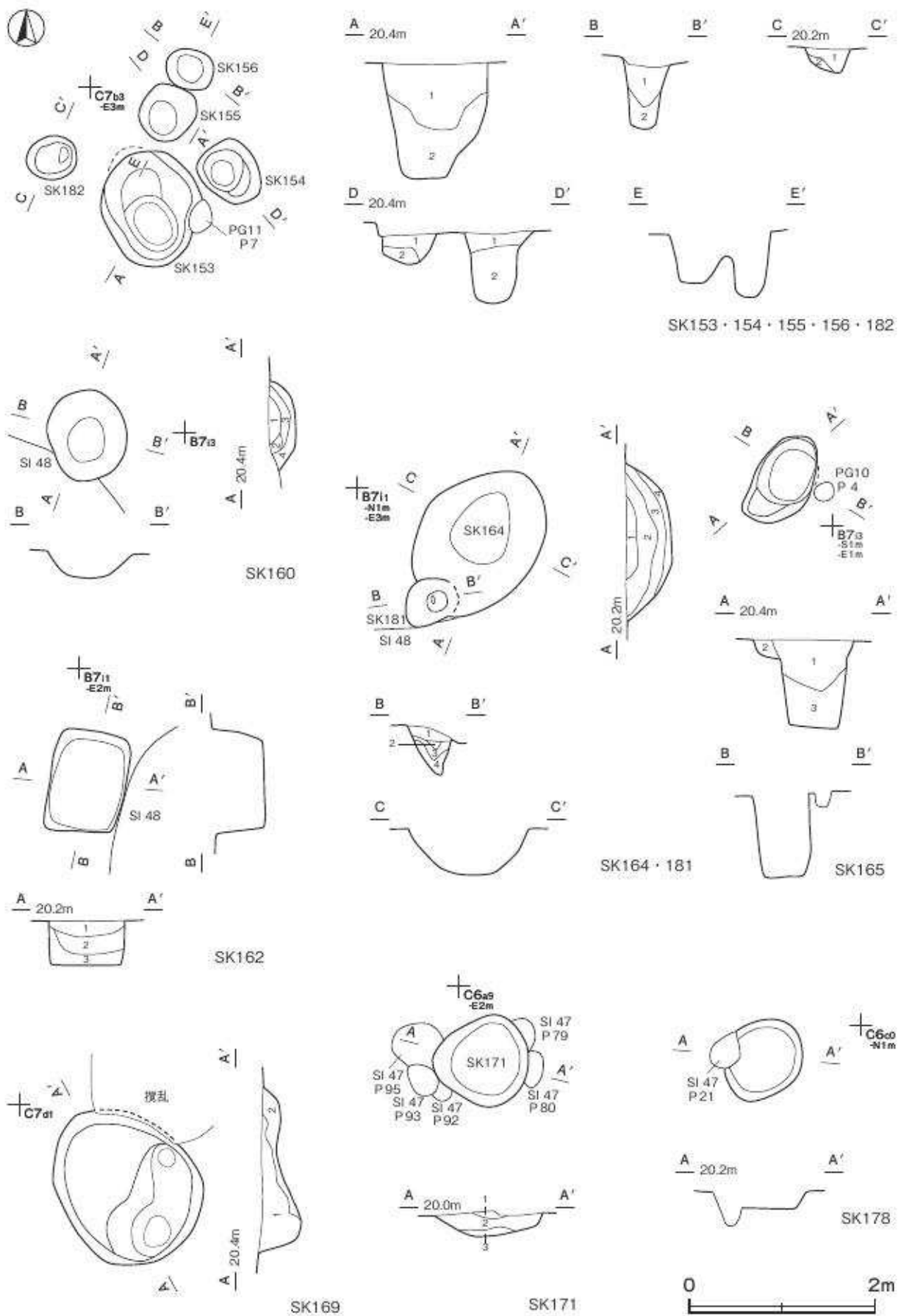
第 230 図 縄文時代の土坑実測図 (9)



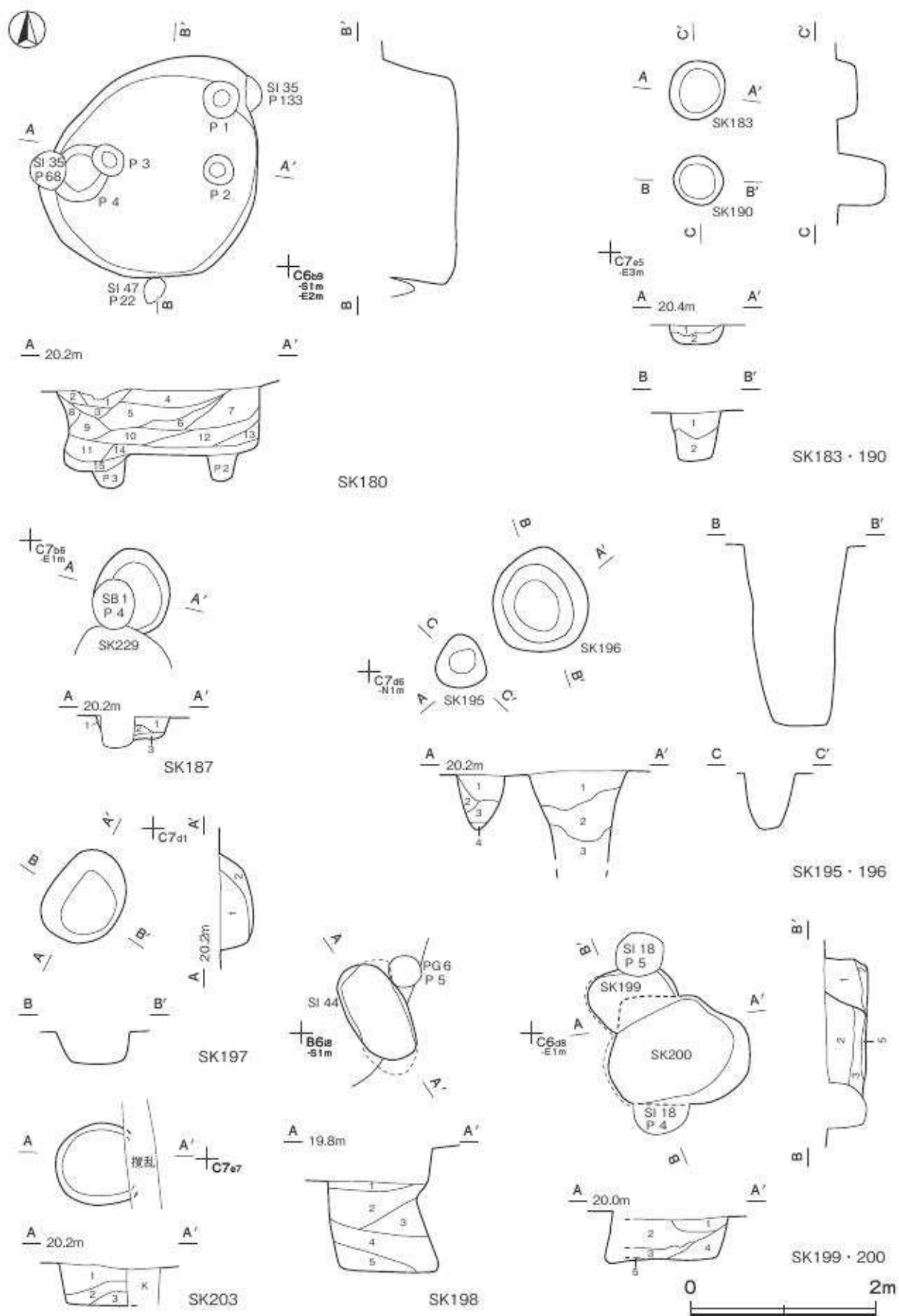
第 231 図 縄文時代の土坑実測図 (10)



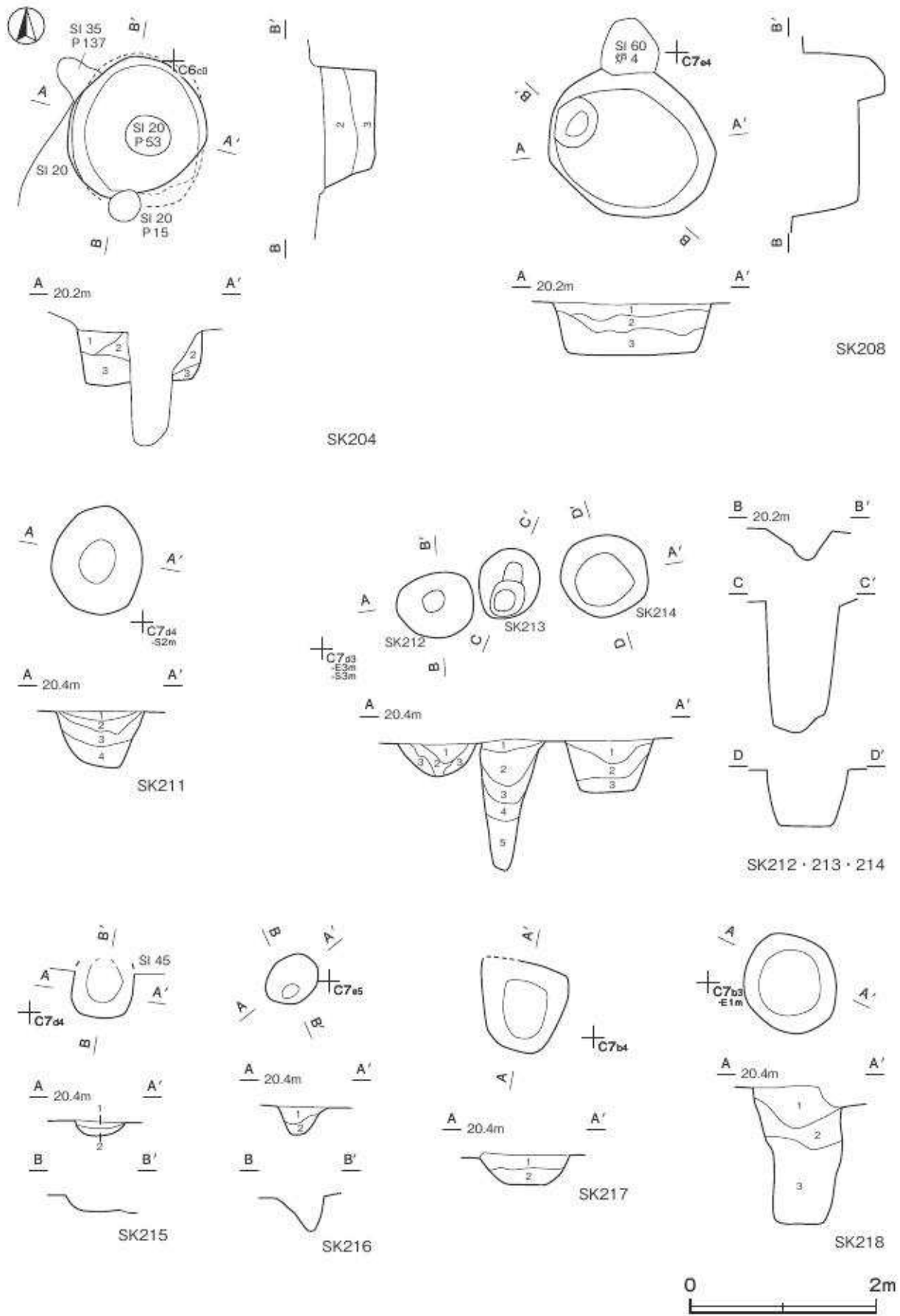
第 232 図 縄文時代の土坑実測図 (11)



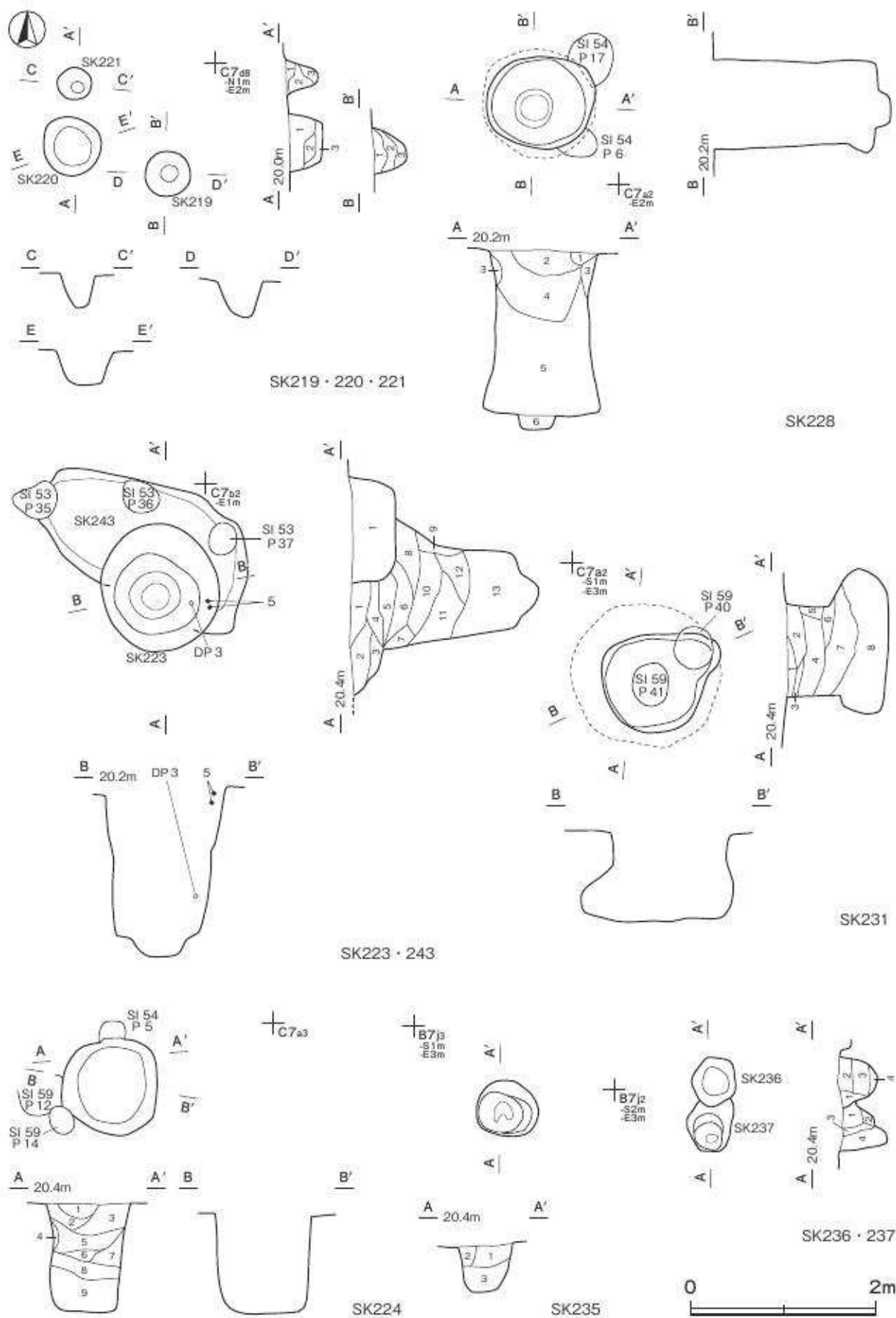
第 233 図 縄文時代の土坑実測図 (12)



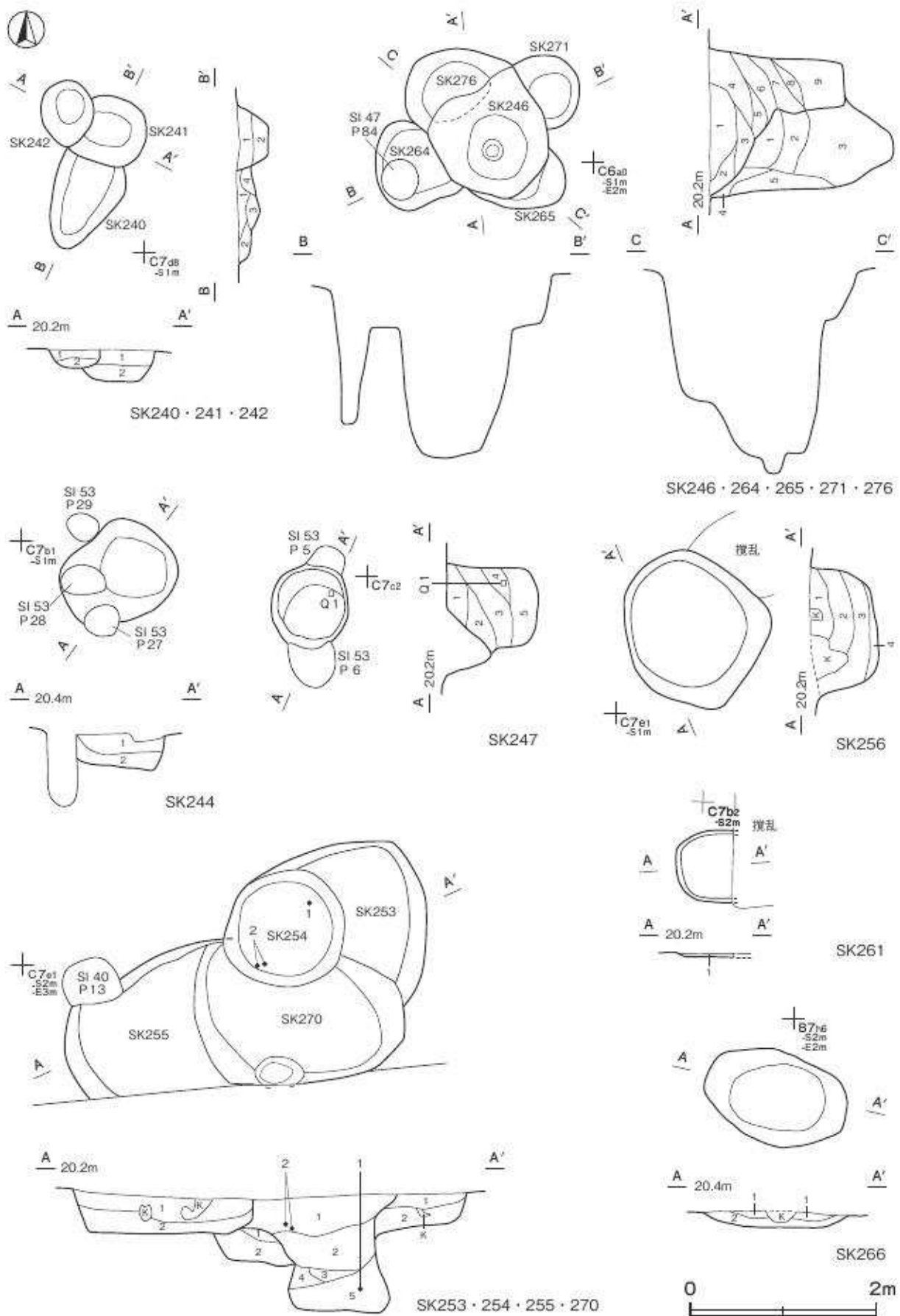
第 234 図 縄文時代の土坑実測図 (13)



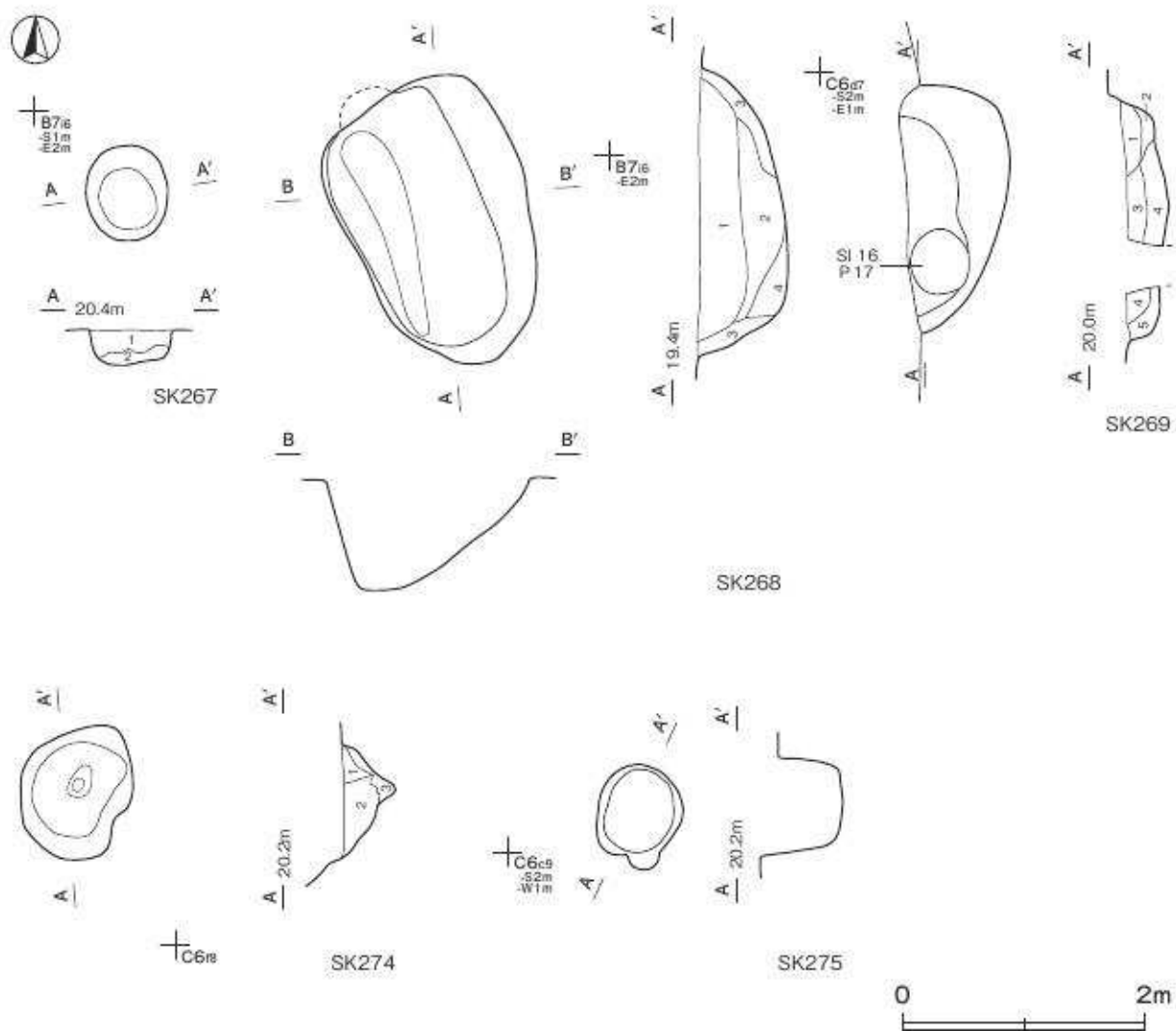
第 235 図 縄文時代の土坑実測図 (14)



第 236 図 縄文時代の土坑実測図 (15)



第 237 図 縄文時代の土坑実測図 (16)



第 238 図 縄文時代の土坑実測図 (a7)

第 1 号土坑 土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量

第 2 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 6 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 8 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量

第 5 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化材微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第 9 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 10 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第12号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第17号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第18号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第19号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第24号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土ブロック、骨粉少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第26号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

第29号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック、炭化物・骨片少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量

第30号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第32号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

第33号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、骨粉少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、骨粉微量
- 9 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

第40号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第41号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第38号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量

第39号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、炭化物・焼土粒子・骨粉少量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化物、骨粉少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量

第42号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量（4よりしまり強）
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

第44号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

第46号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第49号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第54号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

第55号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第57号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量

第58号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第59号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第63号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、白色粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第98号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第99号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第100号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第102号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第103号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第104号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第112号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子、骨粉少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子、骨粉微量

第113号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第115号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子少量、骨粉微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量

第116号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

第118号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第119号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量

第120号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量

第123号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第129号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第126号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物、焼土粒子、骨粉少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第130号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第131号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量

第134号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

第135号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック、炭化粒子少量、骨粉微量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック、焼土ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 8 明褐色 ロームブロック多量

第136号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黄褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 明褐色 ロームブロック多量
- 7 明褐色 ローム粒子多量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量

第137号土坑 土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第138号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第139号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第140号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック、骨粉微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

第141号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 142 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第 143 号土坑 土層解説

- 1 灰 褐 色 貝細片・骨粉多量, 炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・骨粉少量, 焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 144 号土坑 土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 146 号土坑 土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 147 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 148 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 149 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 黒 褐 色 炭化物中量, ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量

第 150 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 152 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 153 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 154 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 155 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 156 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 158 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 159 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 157 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐 色 ローム粒子多量

第 160 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 161 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 黄 褐色 ロームブロック多量

第 162 号土坑 土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 164 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (1より暗)
- 3 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 165 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

第 169 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 171 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 181 号土坑 土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 明 褐 色 ロームブロック多量

第 182 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 183 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 187 号土坑 土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 190 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第180号土坑 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量（S1 35 炉4 覆土）
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量（S1 35 炉4 覆土）
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量（S1 35 炉4 覆土）
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 9 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 11 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量（7より明）
- 13 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第195号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第196号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第197号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第198号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

第199号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第200号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第203号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第204号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第208号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第209号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第210号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第211号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第212号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第213号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第214号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第215号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第216号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第217号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第218号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子微量

第219号土坑 土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第220号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第221号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量

第228号土坑 土層解説

- 1 褐色 焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土ブロック少量
- 6 黒色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 223 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 11 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック少量
- 13 極暗褐色 ロームブロック中量

第 224 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 灰黄褐色 締まり・粘性やや強
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 にごり褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量

第 231 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量

第 235 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 236 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第 237 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第 240 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第 241 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

第 242 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 243 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第 244 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 246 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

第 247 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・貝片少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 貝片中量、ロームブロック少量

第 253 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量

第 254 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 にごり褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第 255 号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子少量

第 256 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第 261 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 266 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 267 号土坑 土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 268 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

第 269 号土坑 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 にごり褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 270 号土坑 土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第274号土坑 土層解説

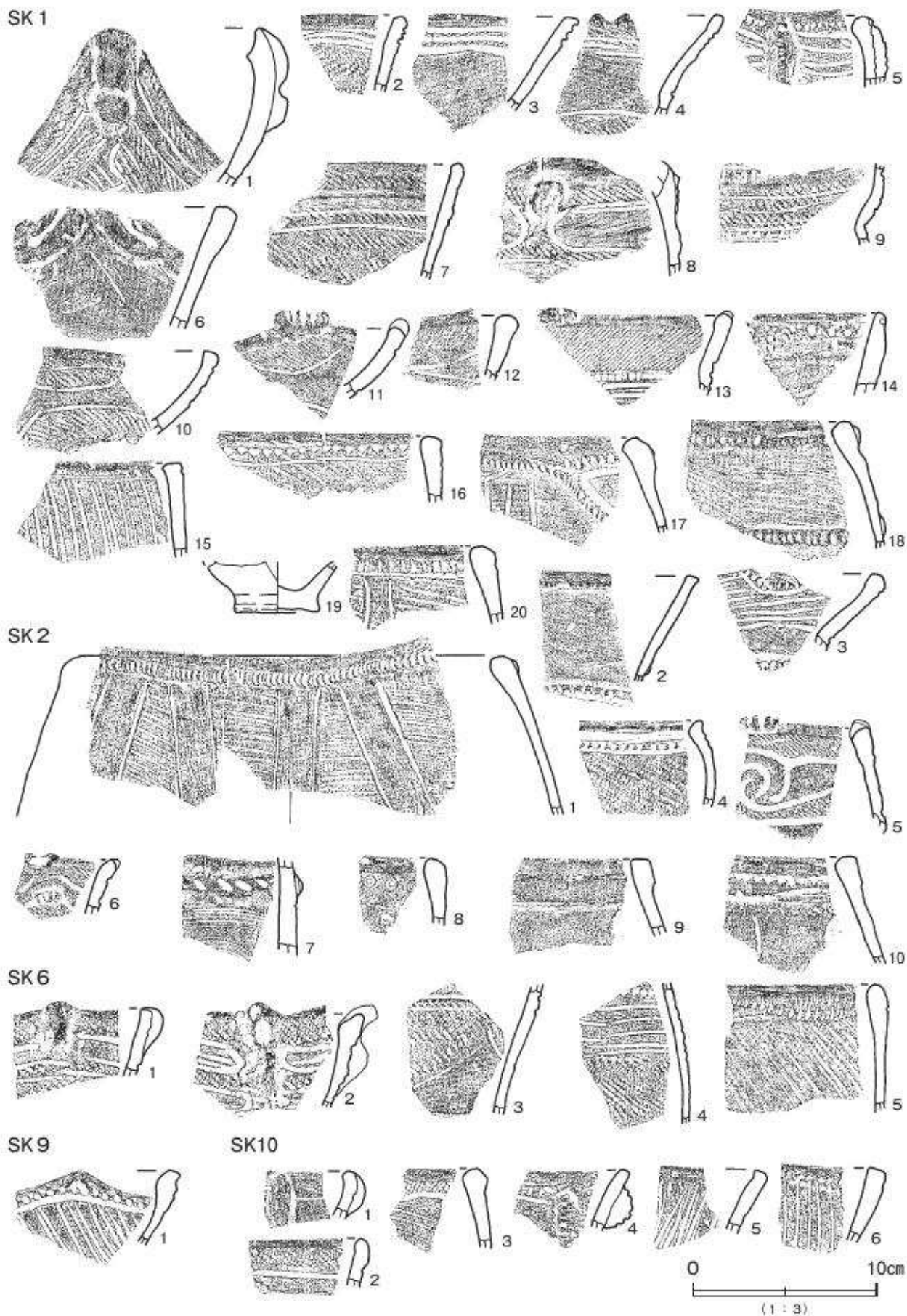
- 1 黒褐色 炭化粒子少量
 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第276号土坑 土層解説

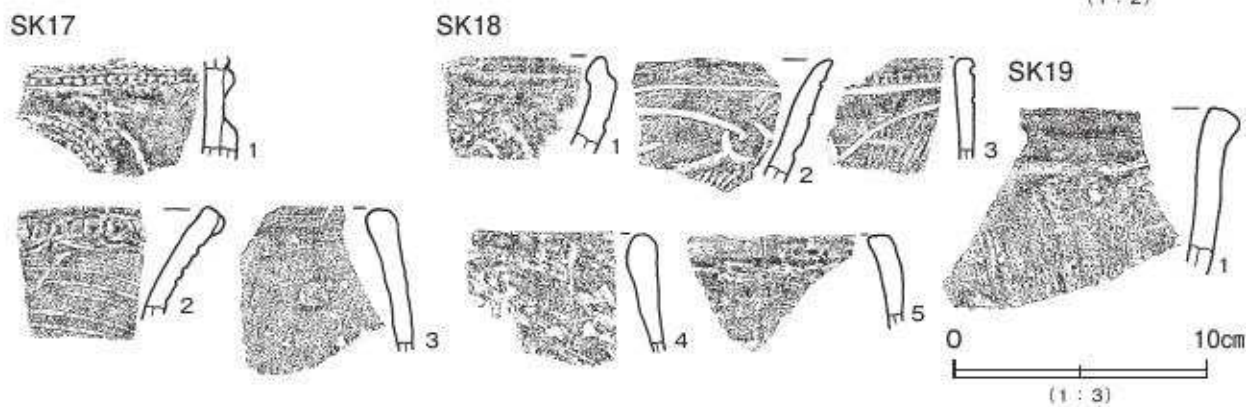
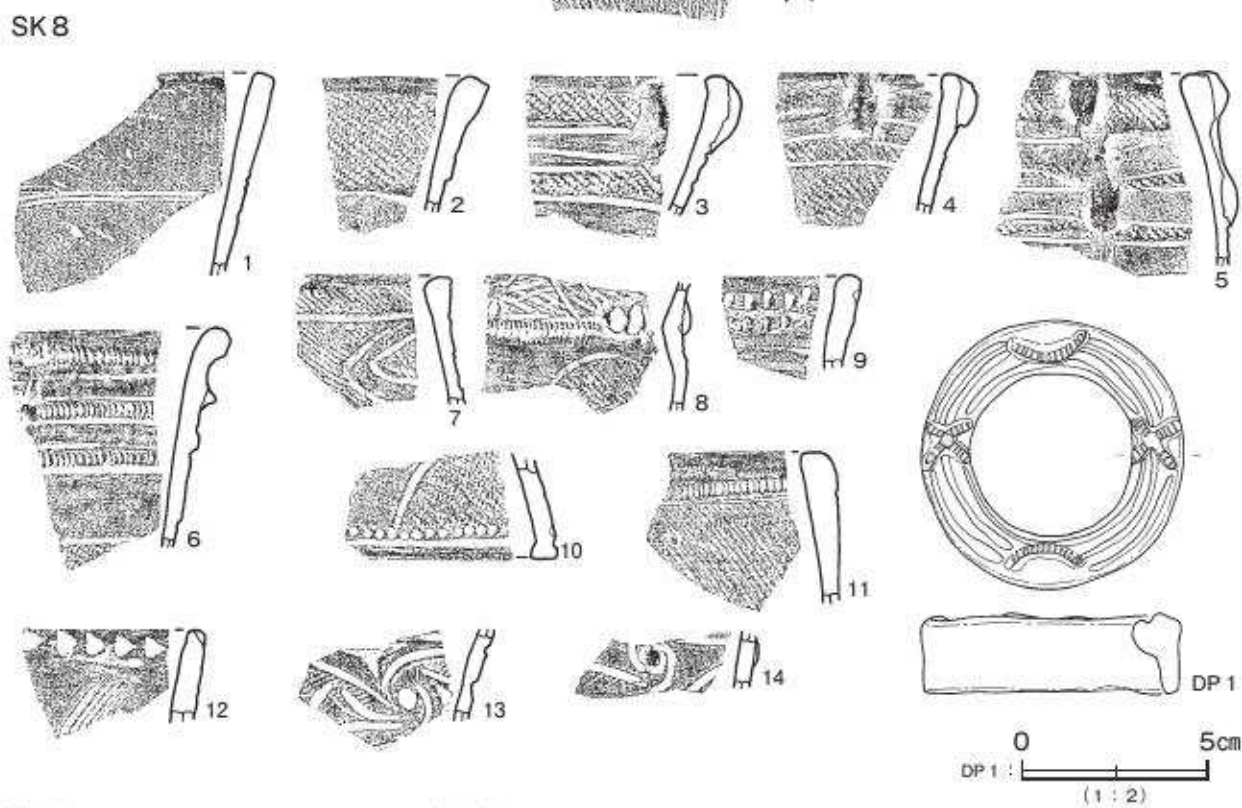
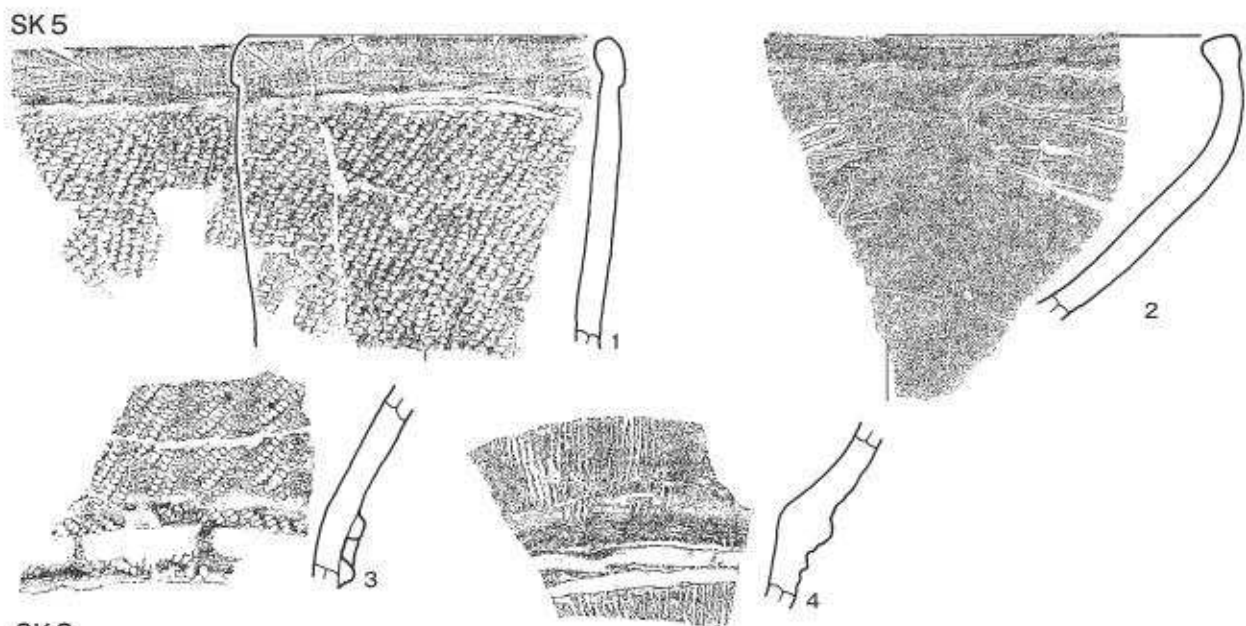
- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
 3 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 5 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
 6 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 8 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子、貝細片少量
 9 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子中量、焼土粒子少量

土坑出土遺物観察表 (第239～260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK1-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→粘貼付→沈線→口縁部磨き 内面磨き	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面口縁部LR縄文 内面ナデ	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面割り 刺突文 内面ナデ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→口縁部横線 内面ナデ	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面条線→付点線線文 内面ナデ	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	(28)	4.6	長石・石英	灰黄褐色	普通	外・内面磨き 底部割り	覆土中層	10%
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線線文 内面粗い磨き	覆土中層	
SK2-1	縄文土器	深鉢	[23.0]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→粗線貼付→区画文開磨き 内面粗い磨き	覆土中	5%
2	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→斜線文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線RL縄文・口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部ナデ 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面に竹管による刺突文 内面ナデ	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面割り 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面厚 内面ナデ	覆土中	
SK5-1	縄文土器	深鉢	[14.4]	(12.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土中	20%
2	縄文土器	浅鉢	[27.4]	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	にぶい黄褐色	普通	外面筋条文R 内面磨き	覆土中	
SK6-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・砥・解凍・純珪	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→付点線線文 内面ナデ	覆土下層	
SK8-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面半炭竹管による沈線文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁部厚 外面RL縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	古什鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 断面沈線L→RL縄文 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→沈線開磨き 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→沈線開磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面条線→口縁部刺突文 内面磨き	覆土中	

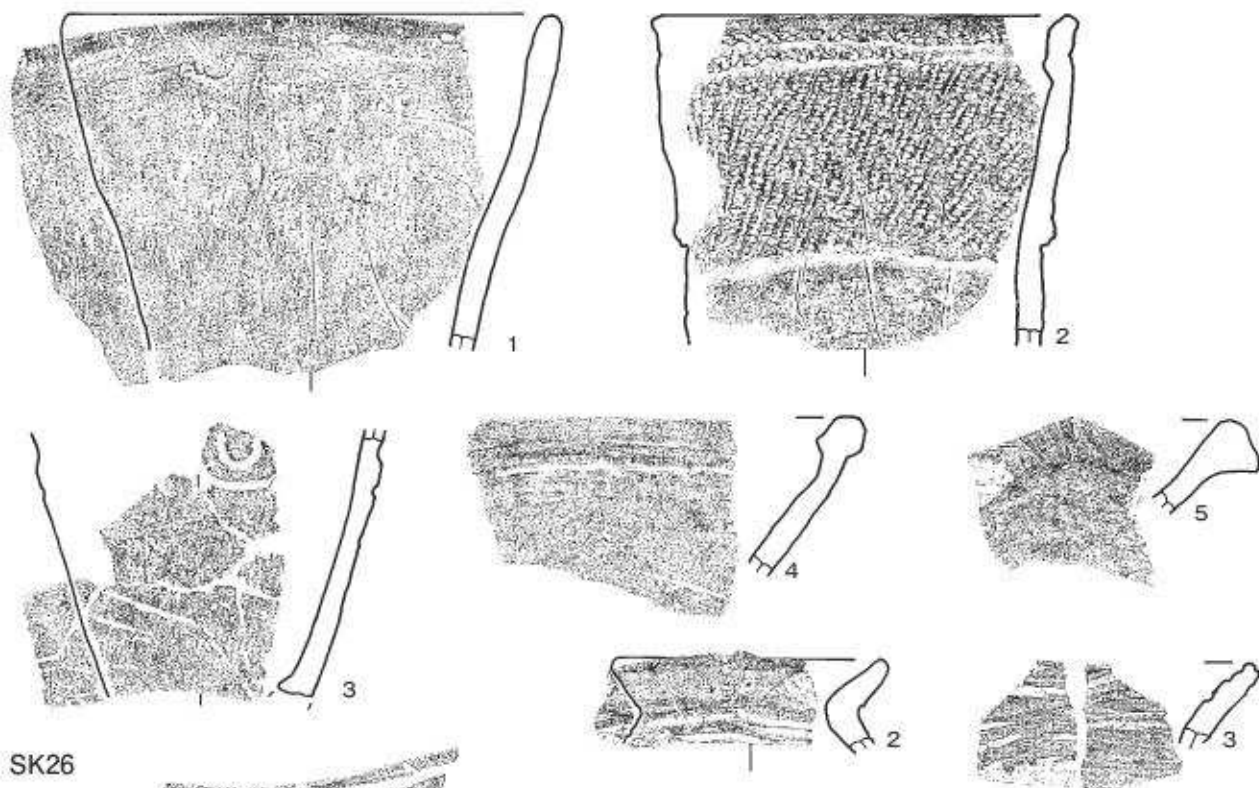


第 239 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (1)

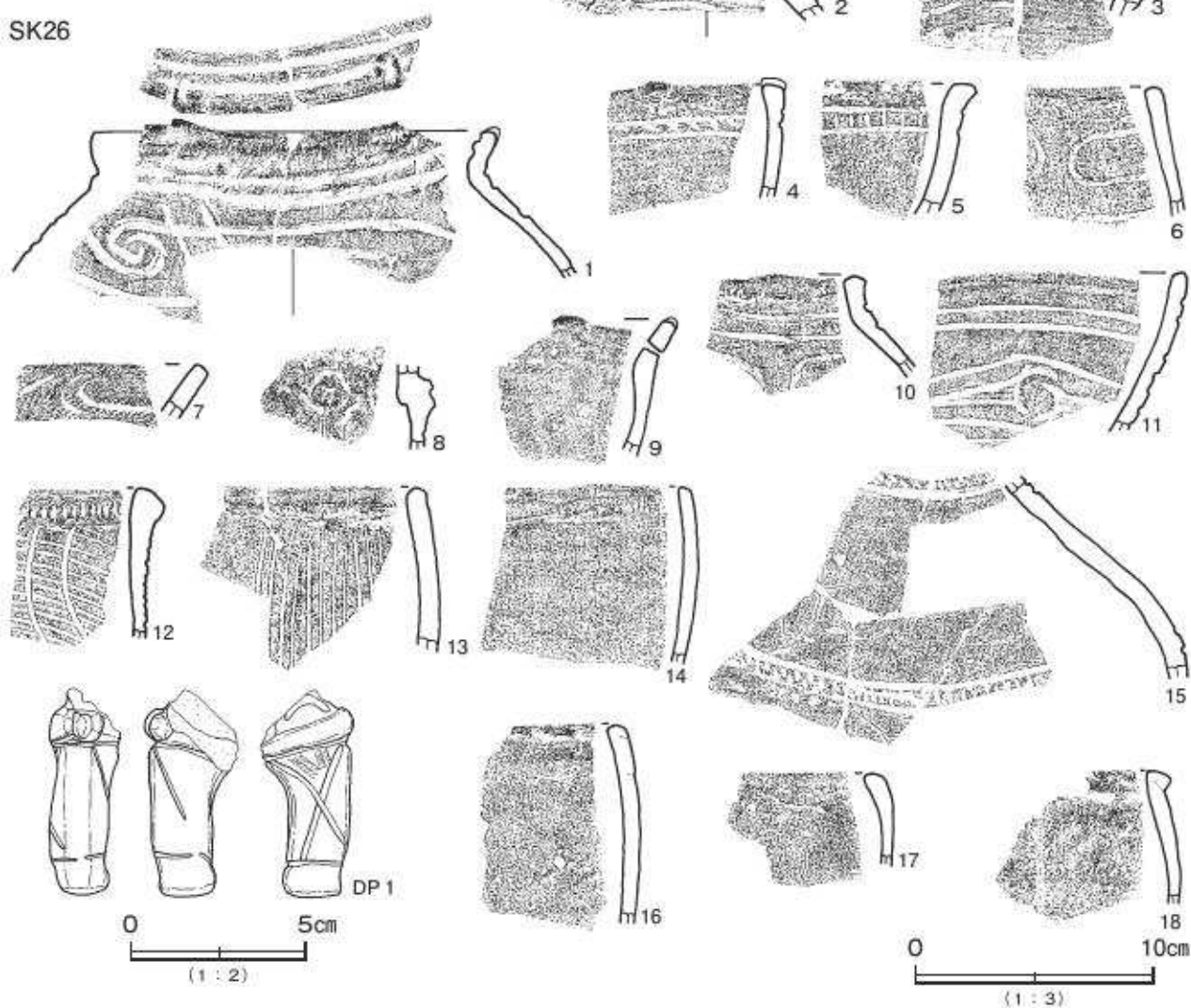


第 240 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (2)

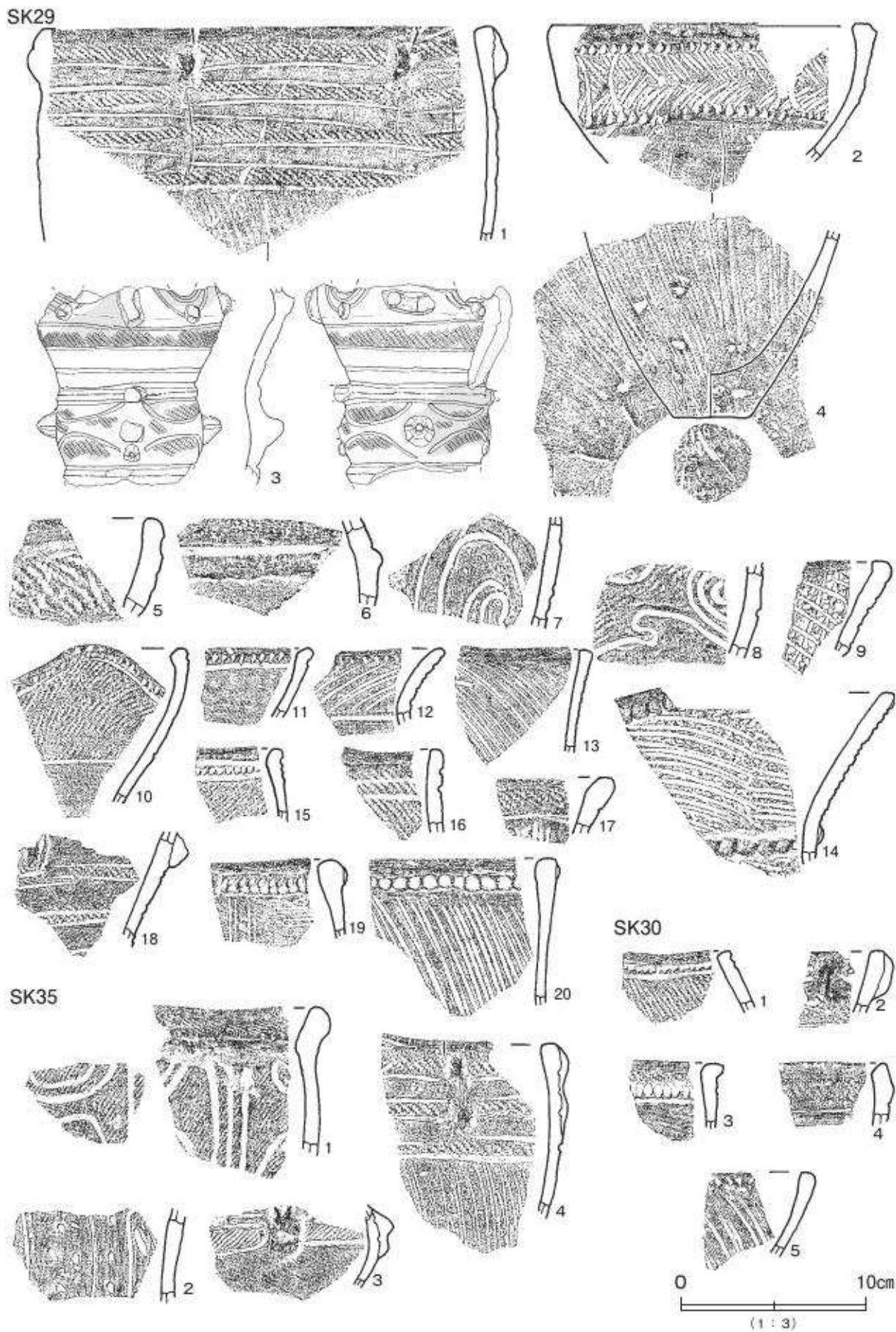
SK24



SK26

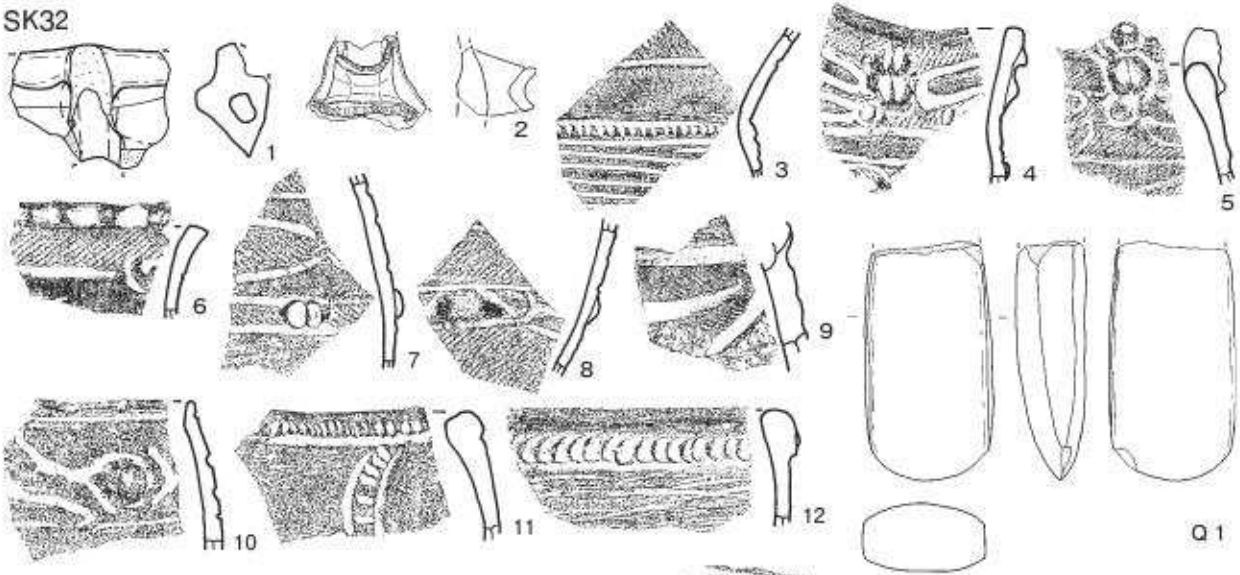


第 241 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (3)

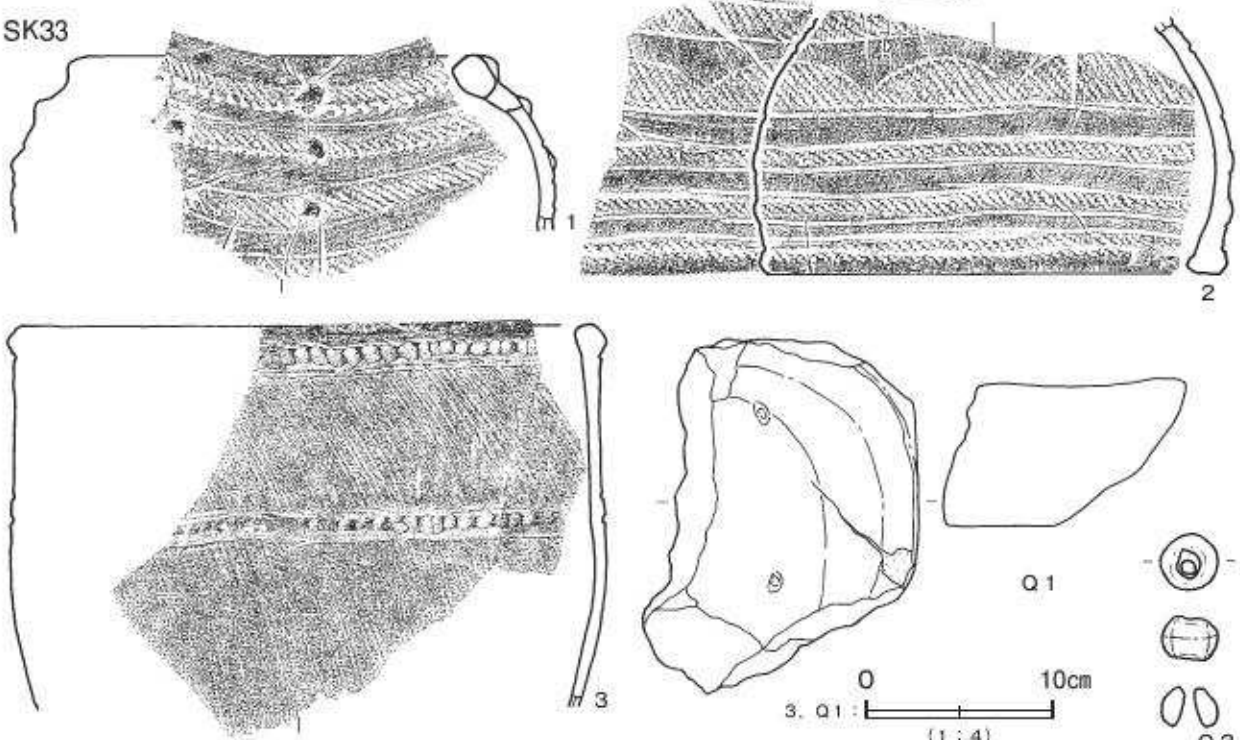


第 242 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (4)

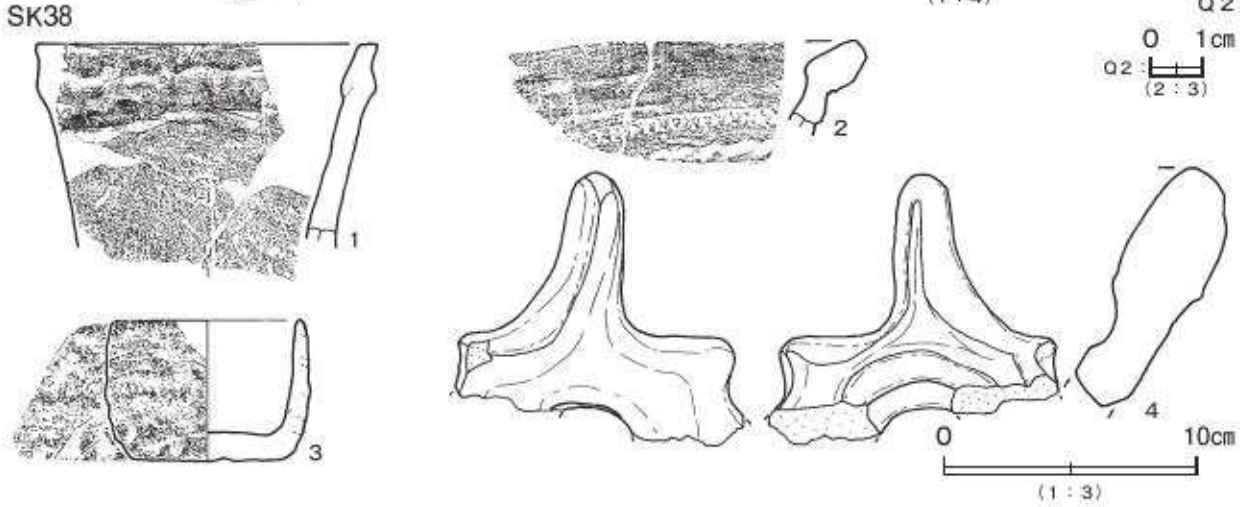
SK32



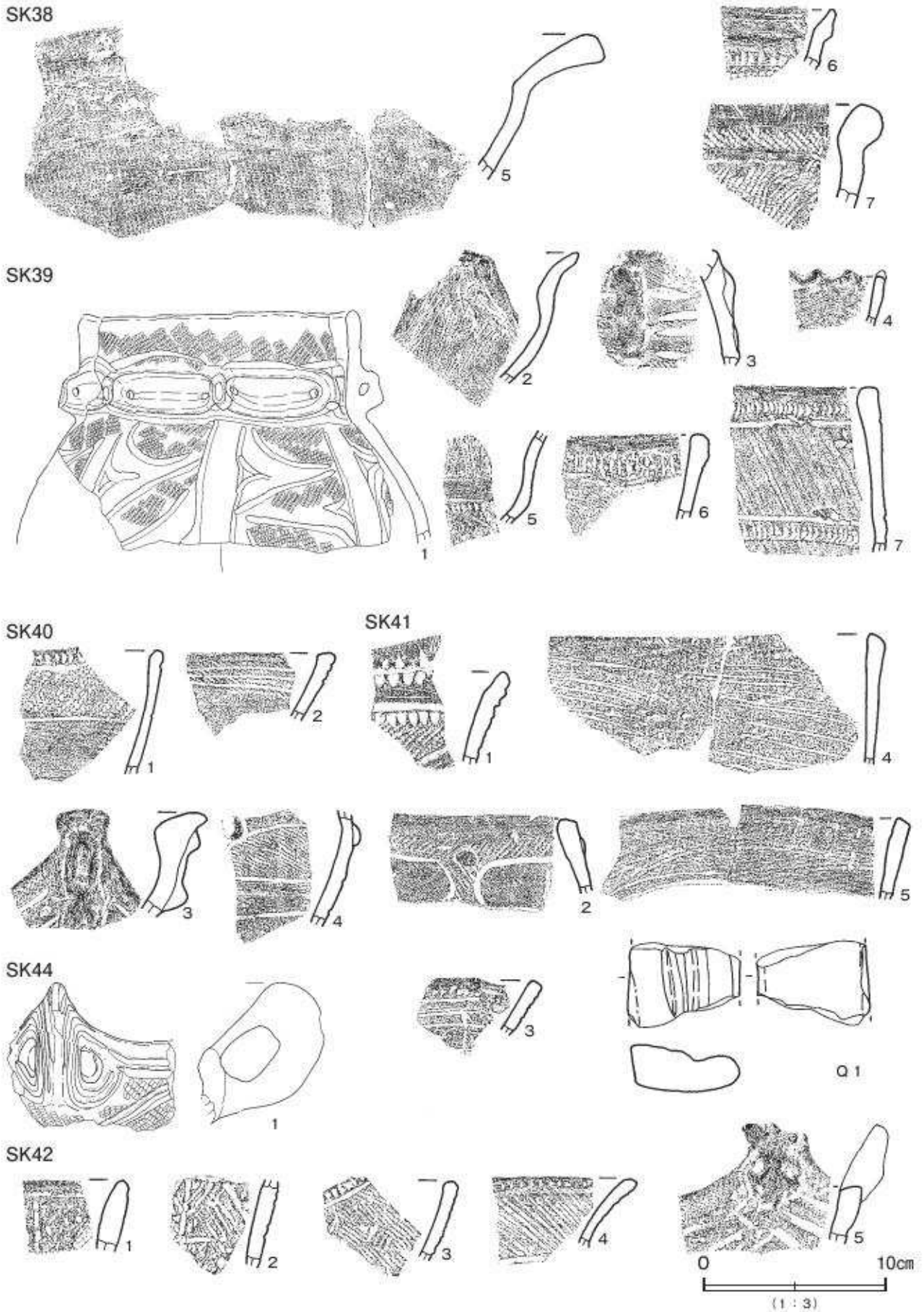
SK33



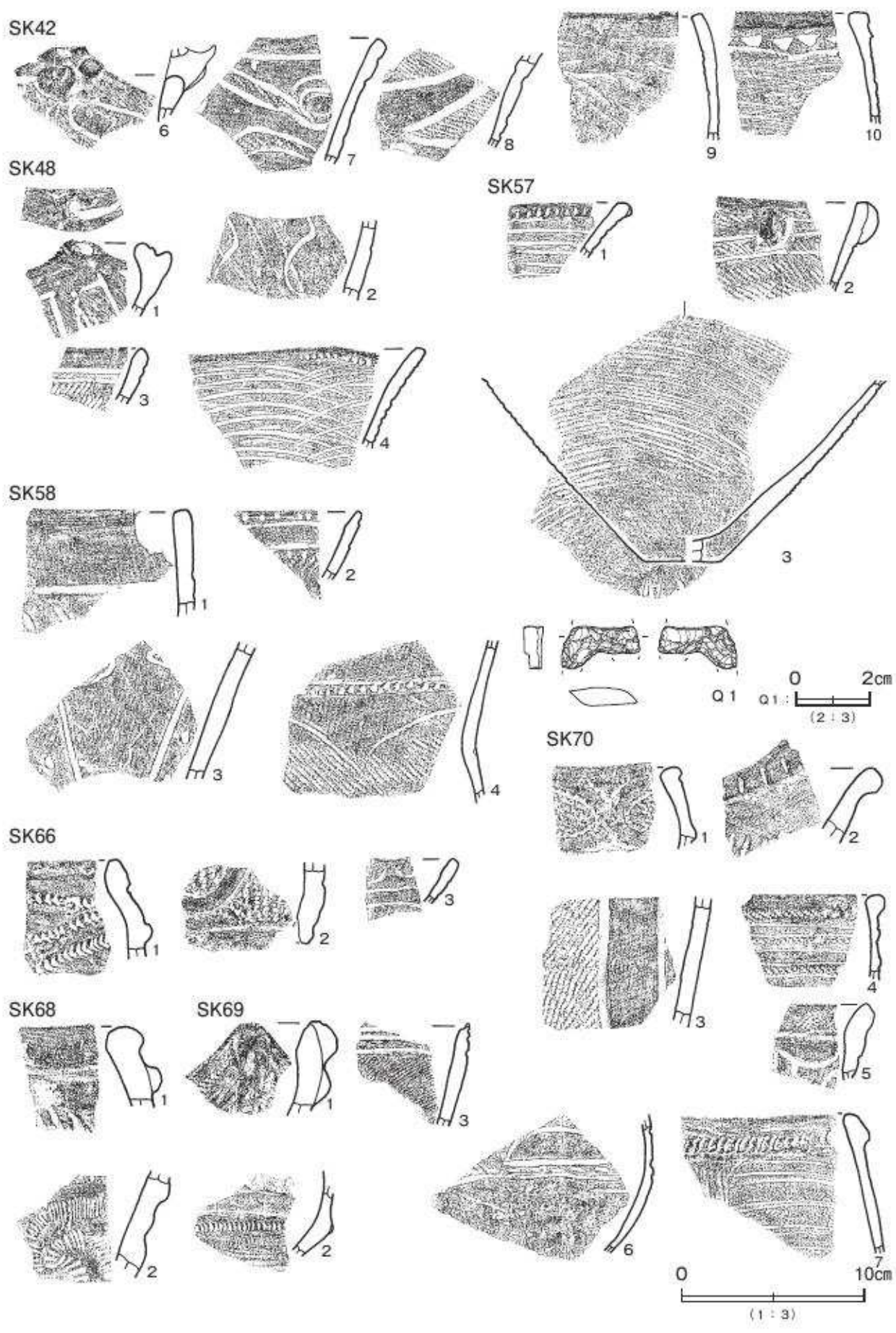
SK38



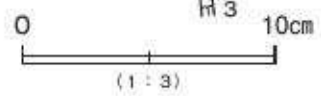
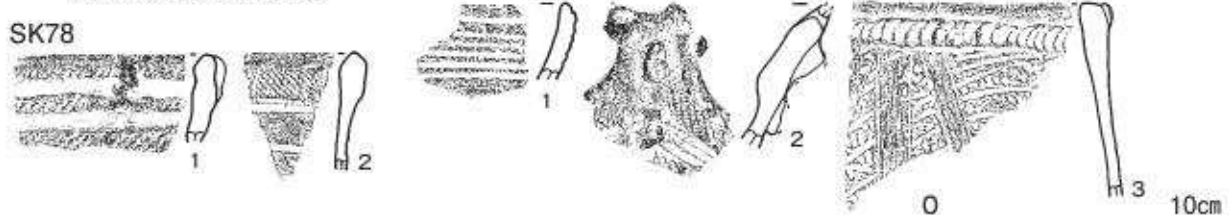
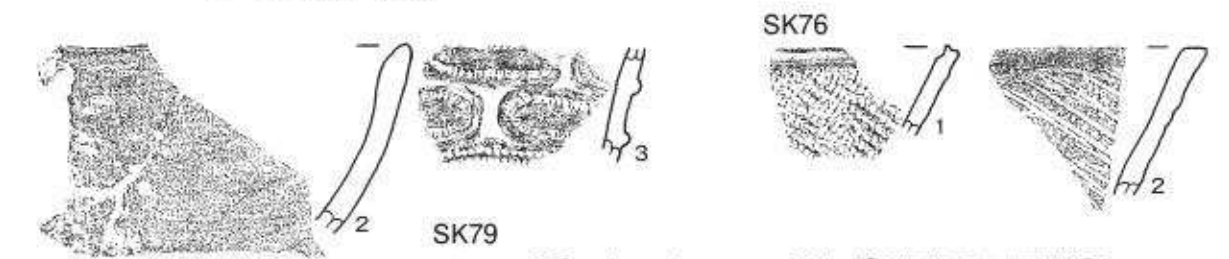
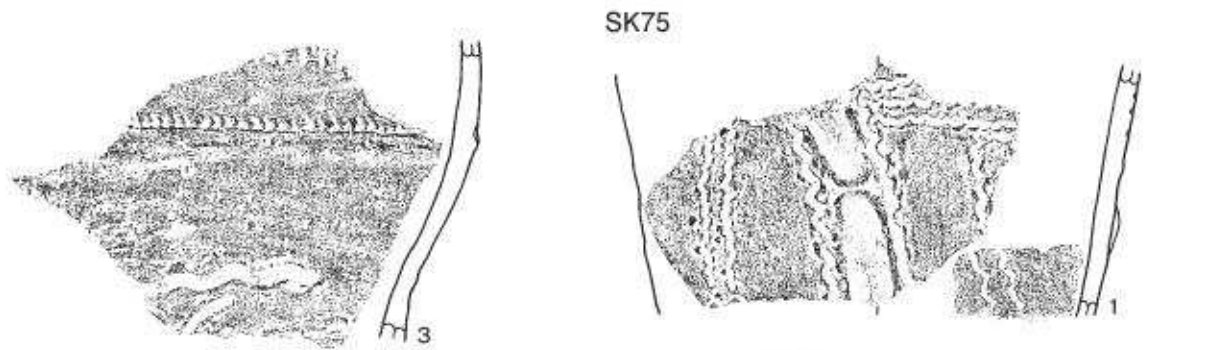
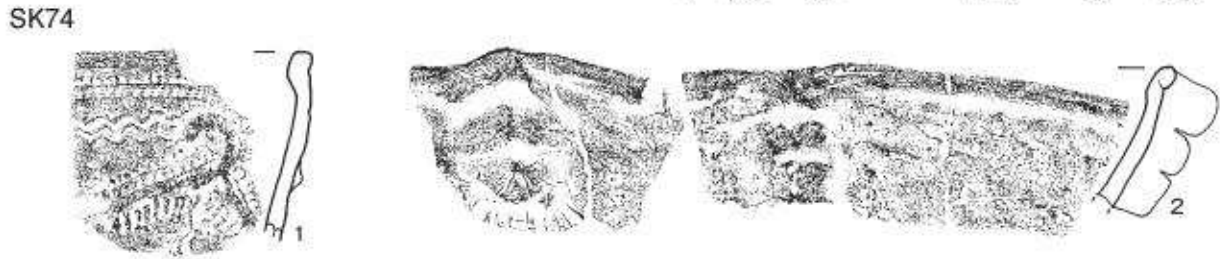
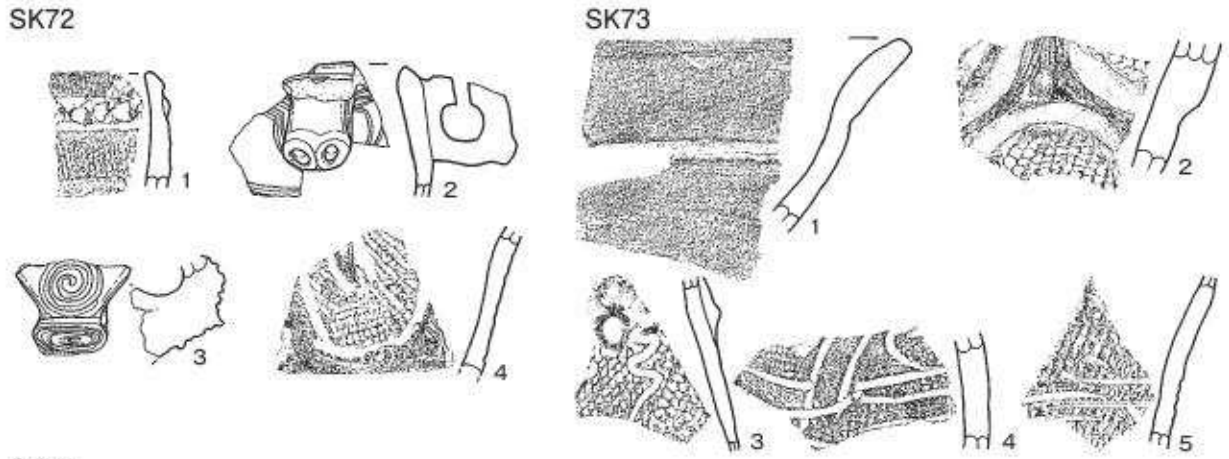
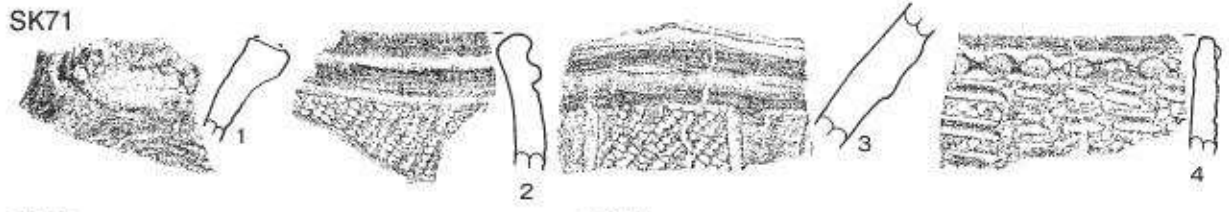
第 243 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (5)



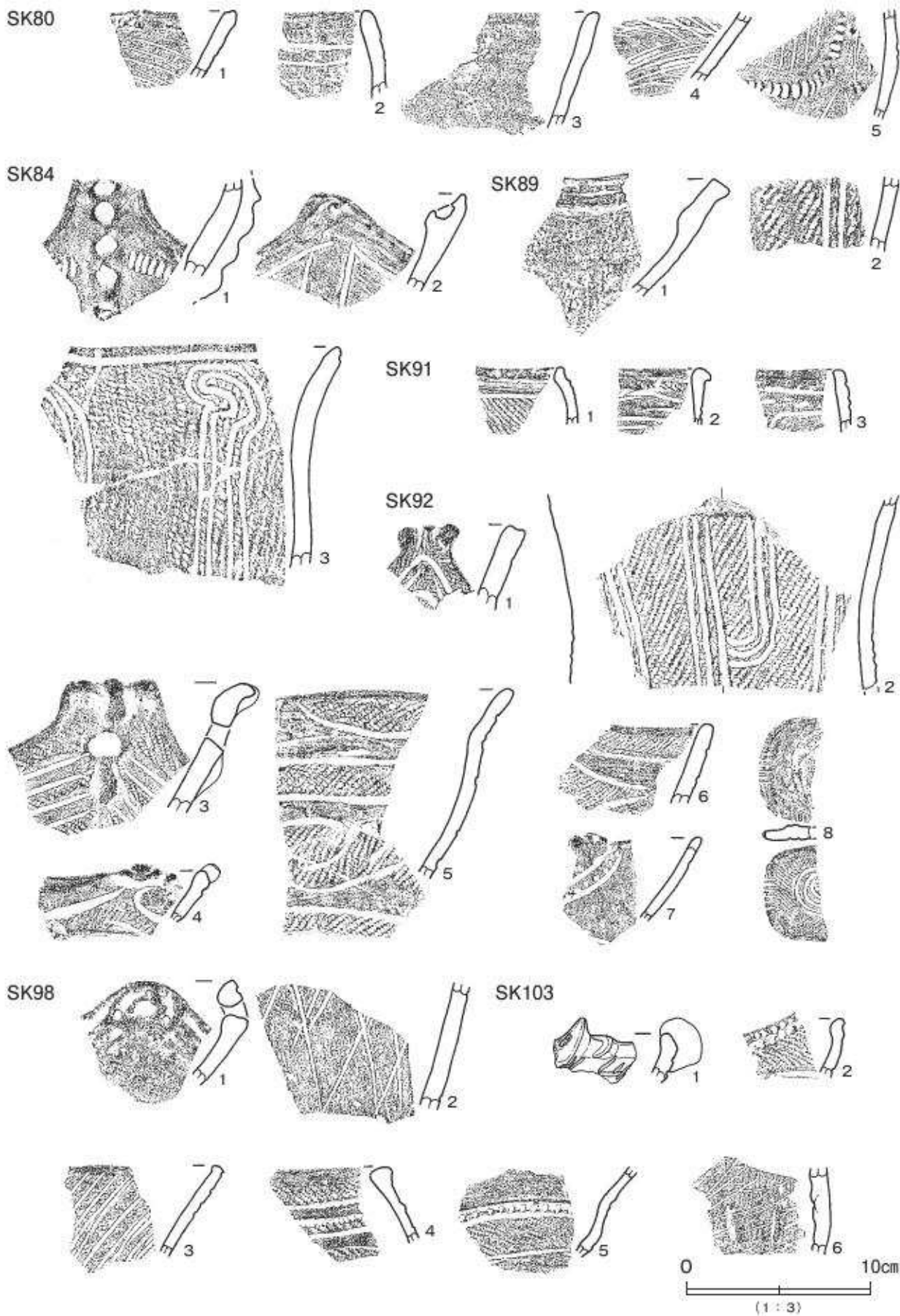
第 244 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (6)



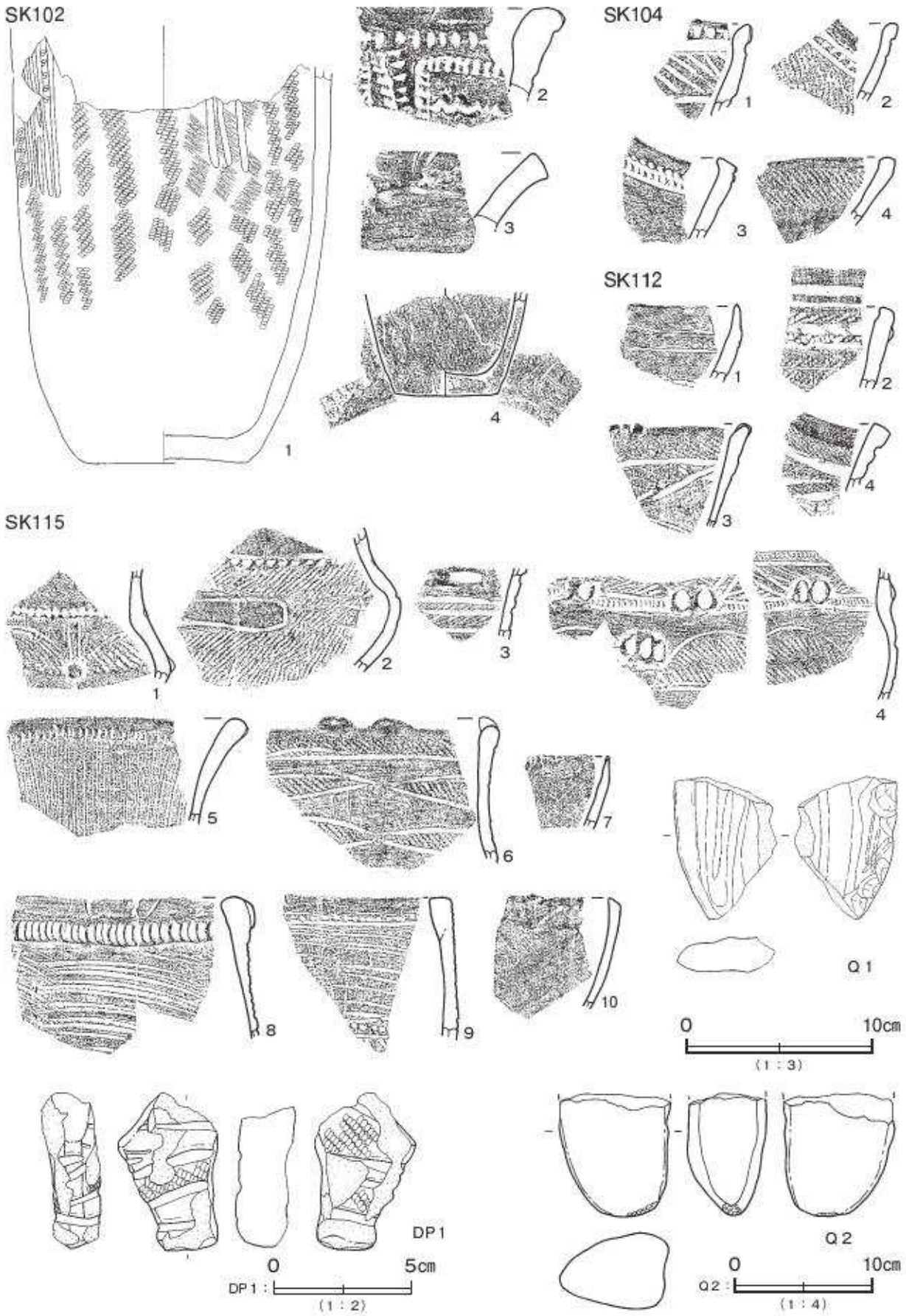
第 245 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (7)



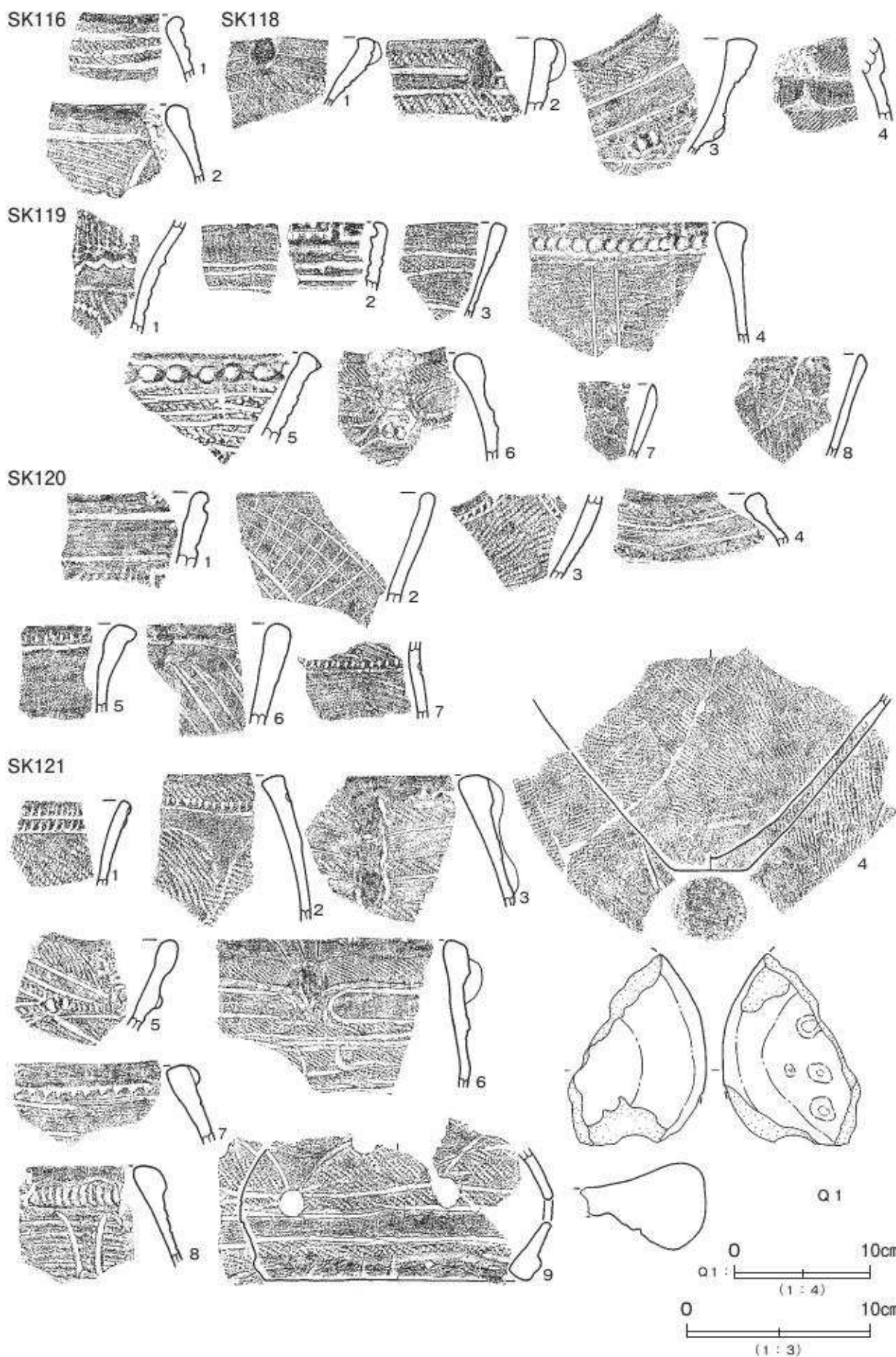
第 247 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (9)



第 248 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (10)

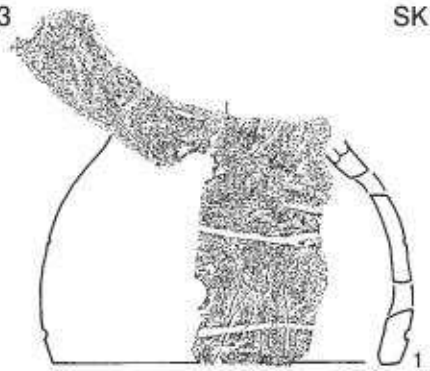


第 249 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (11)

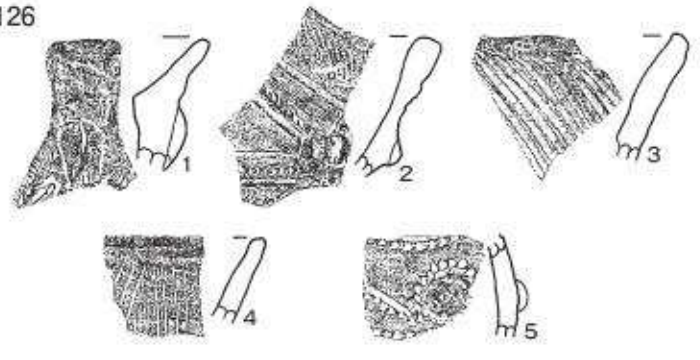


第 250 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (12)

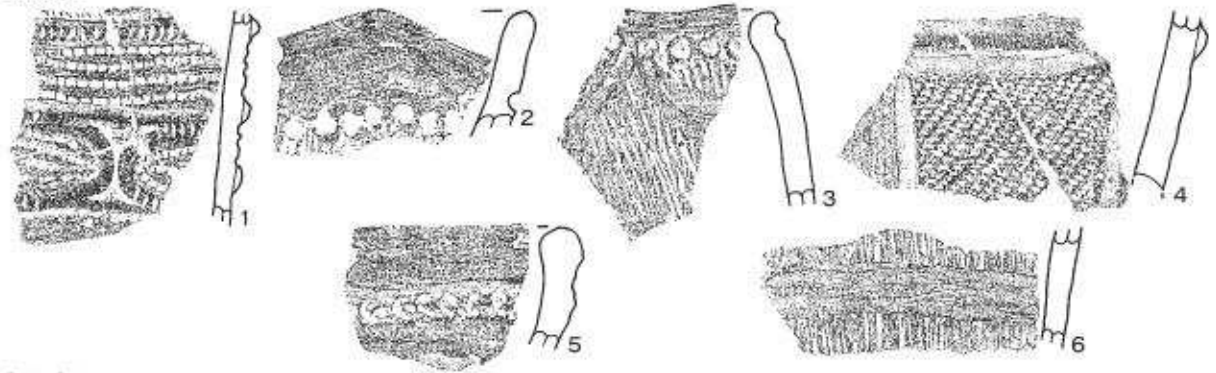
SK123



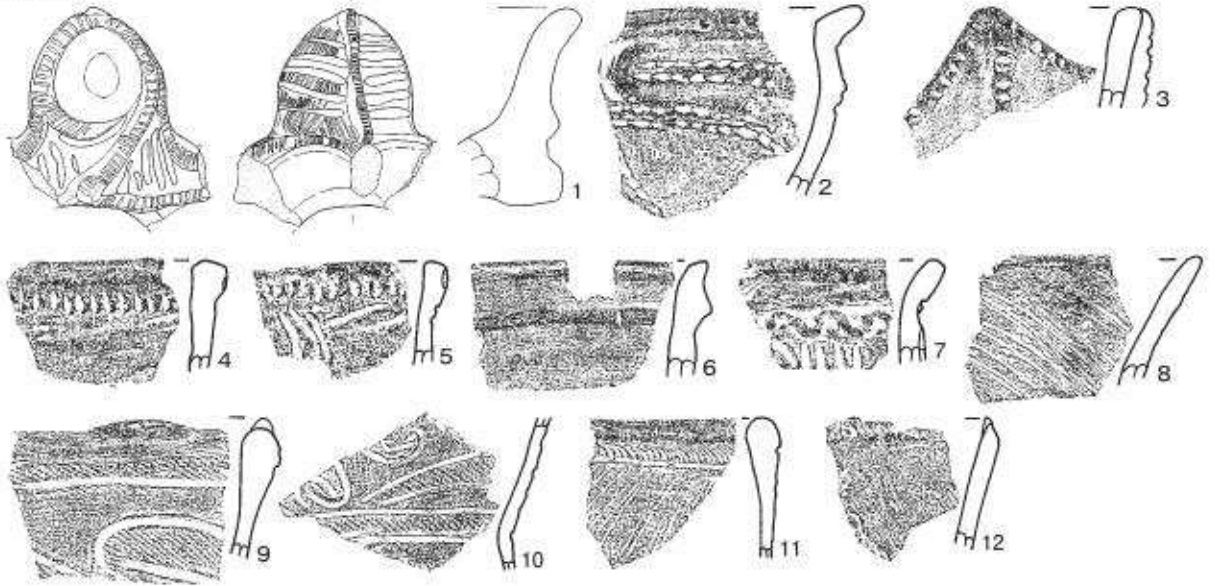
SK126



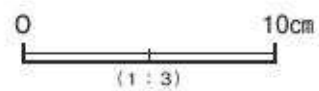
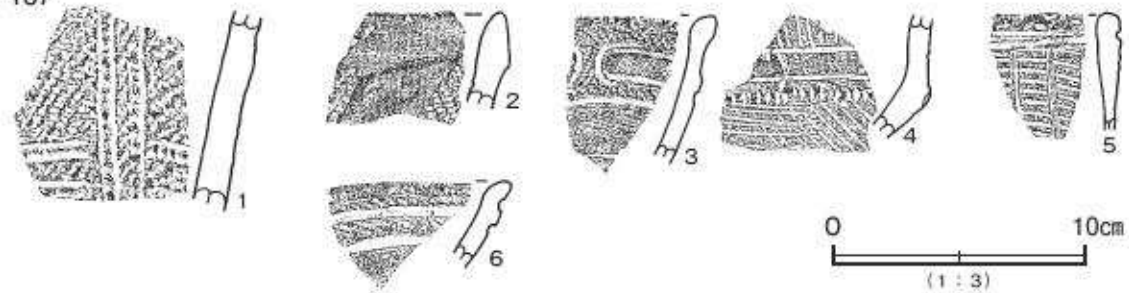
SK129



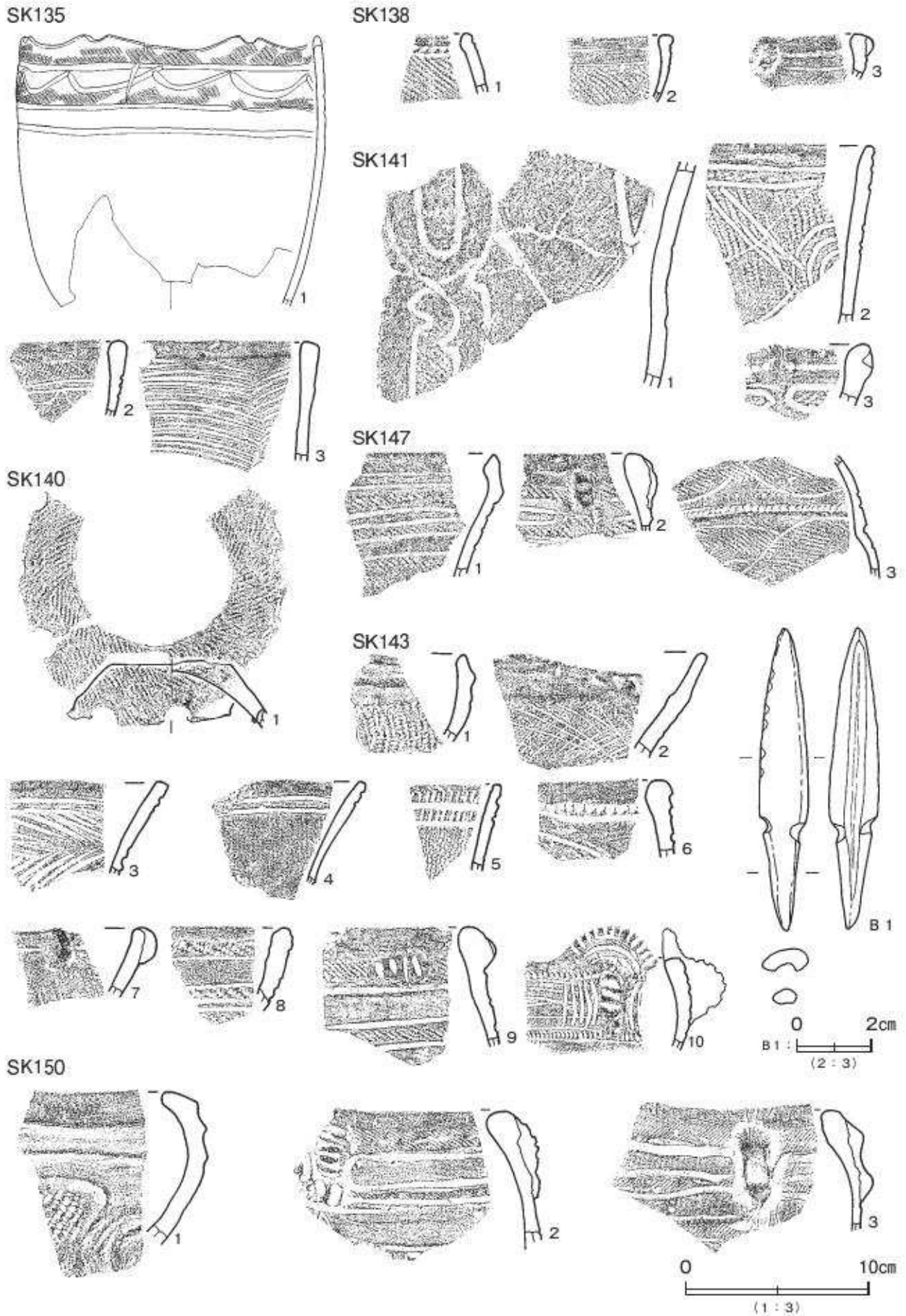
SK134



SK136・137

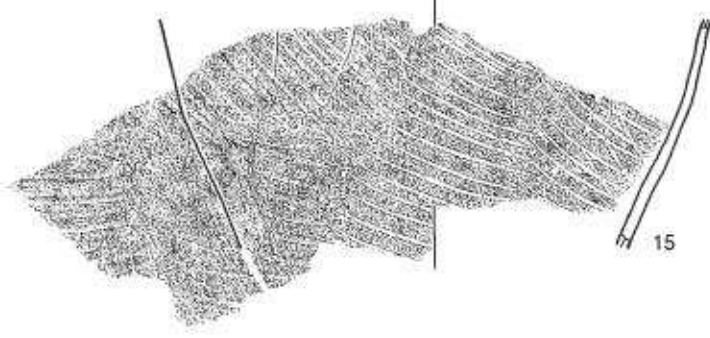
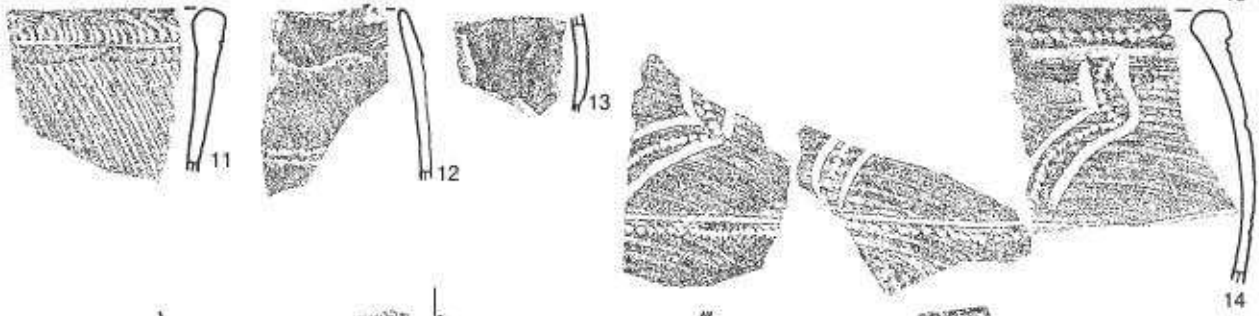
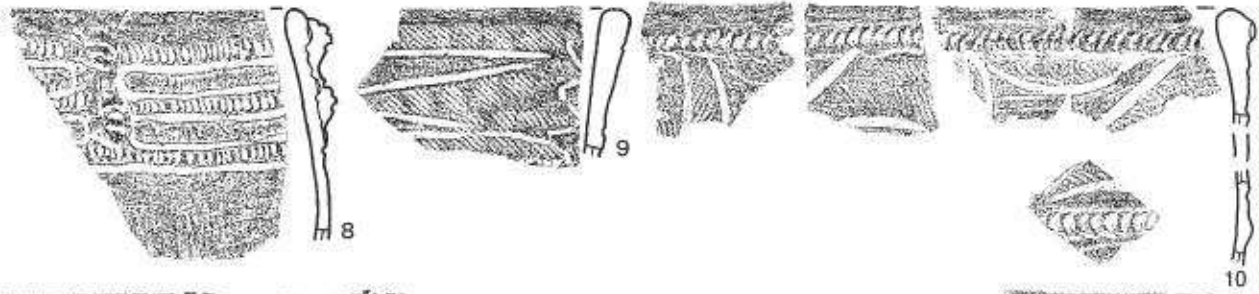
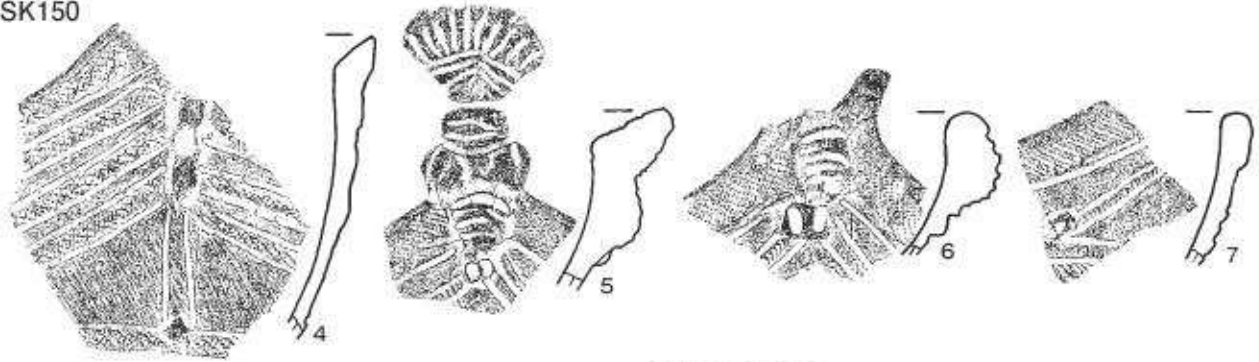


第251図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(3)

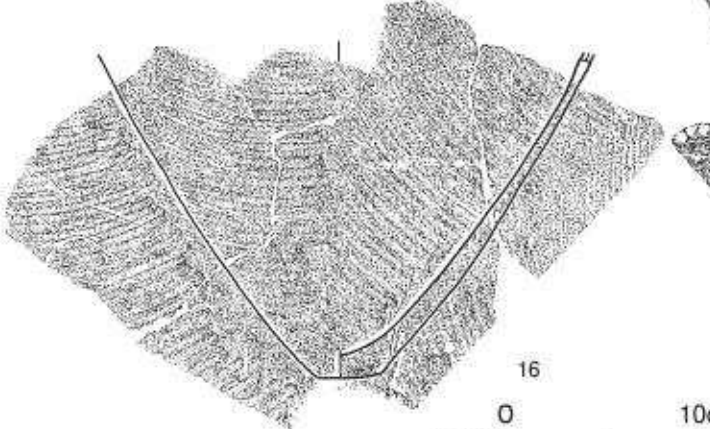
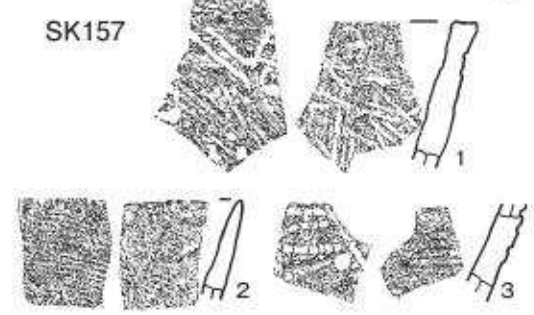


第 252 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (14)

SK150



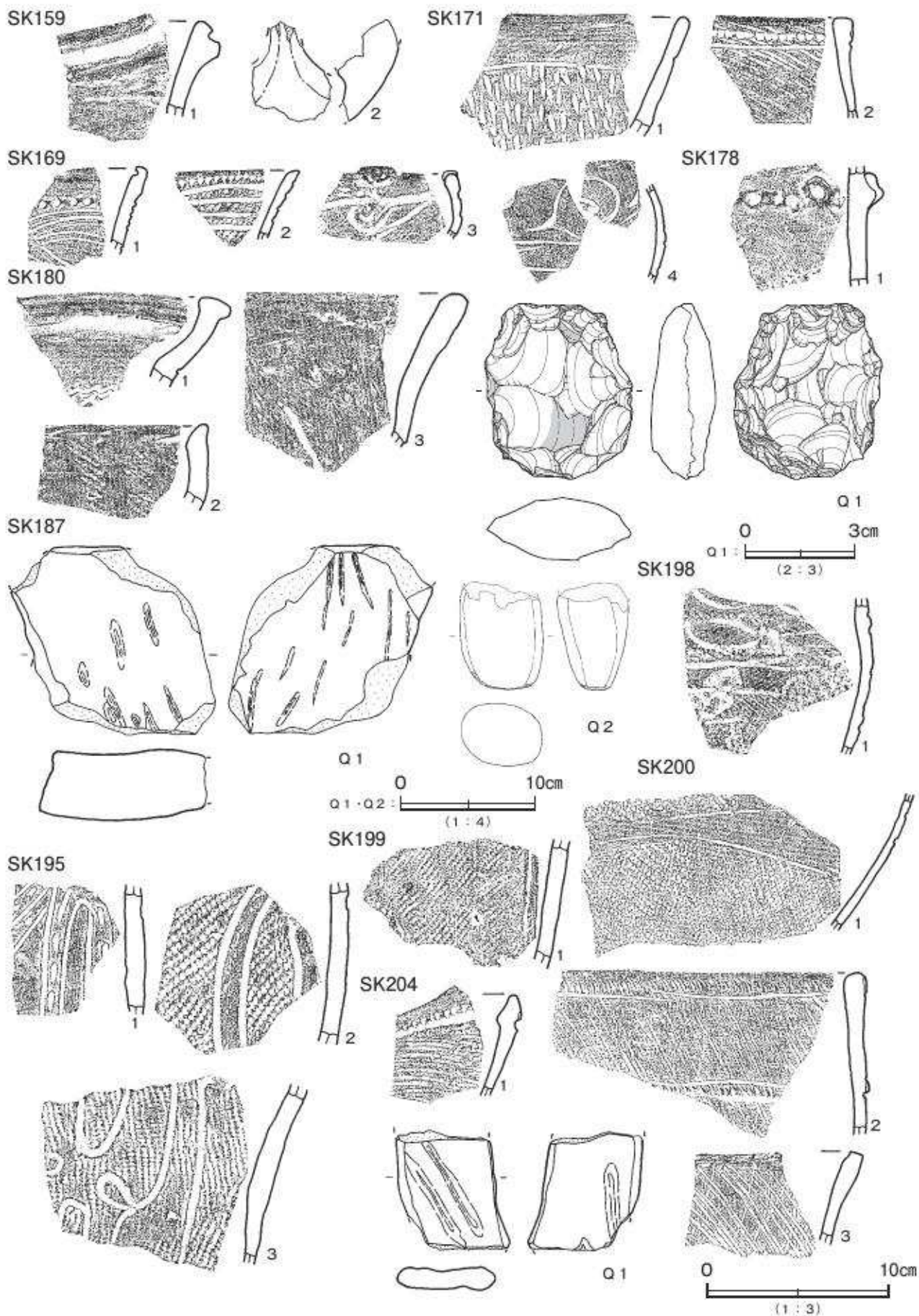
SK157



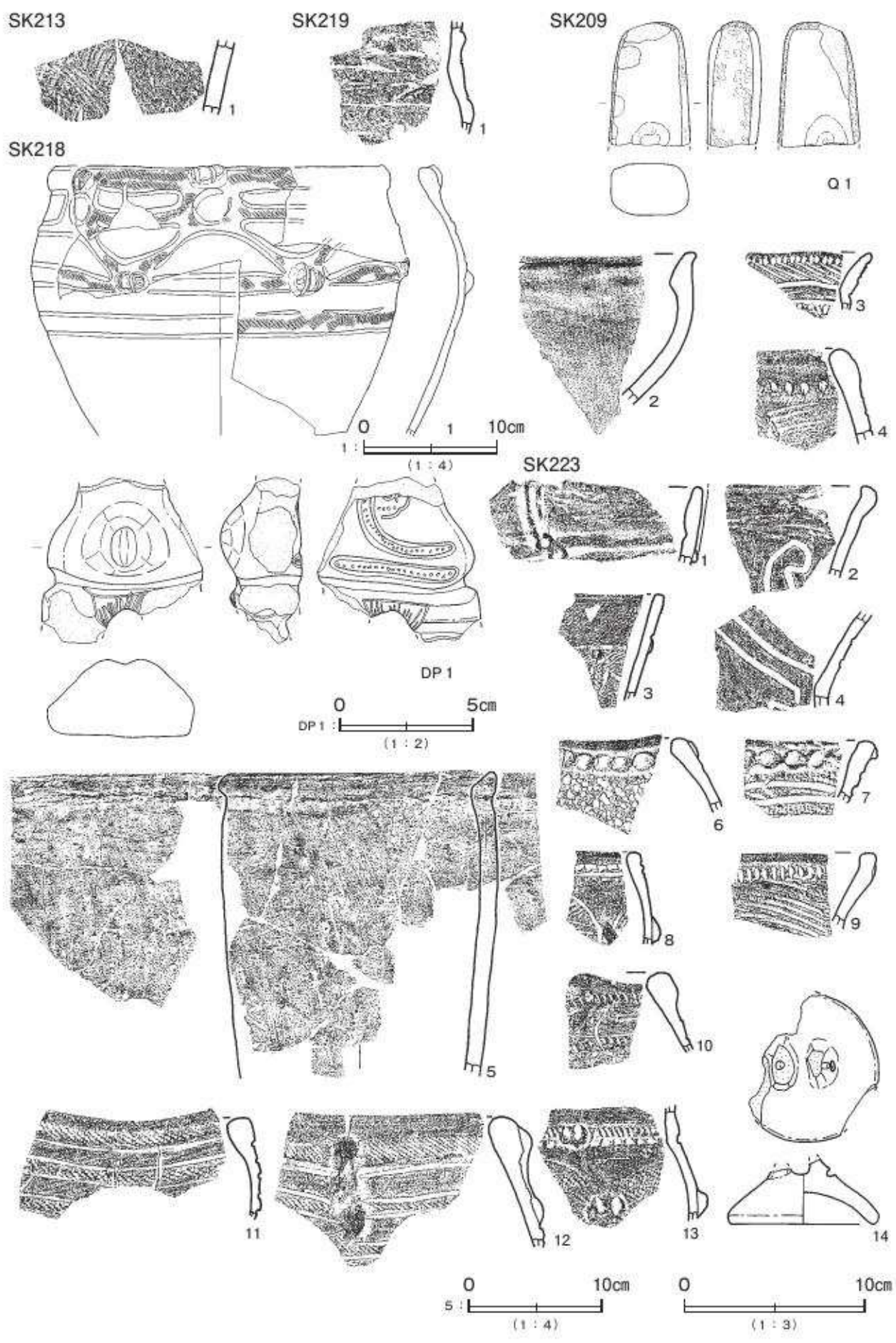
0 10cm
15・16 : (1 : 4)

0 10cm
(1 : 3)

第 253 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (15)

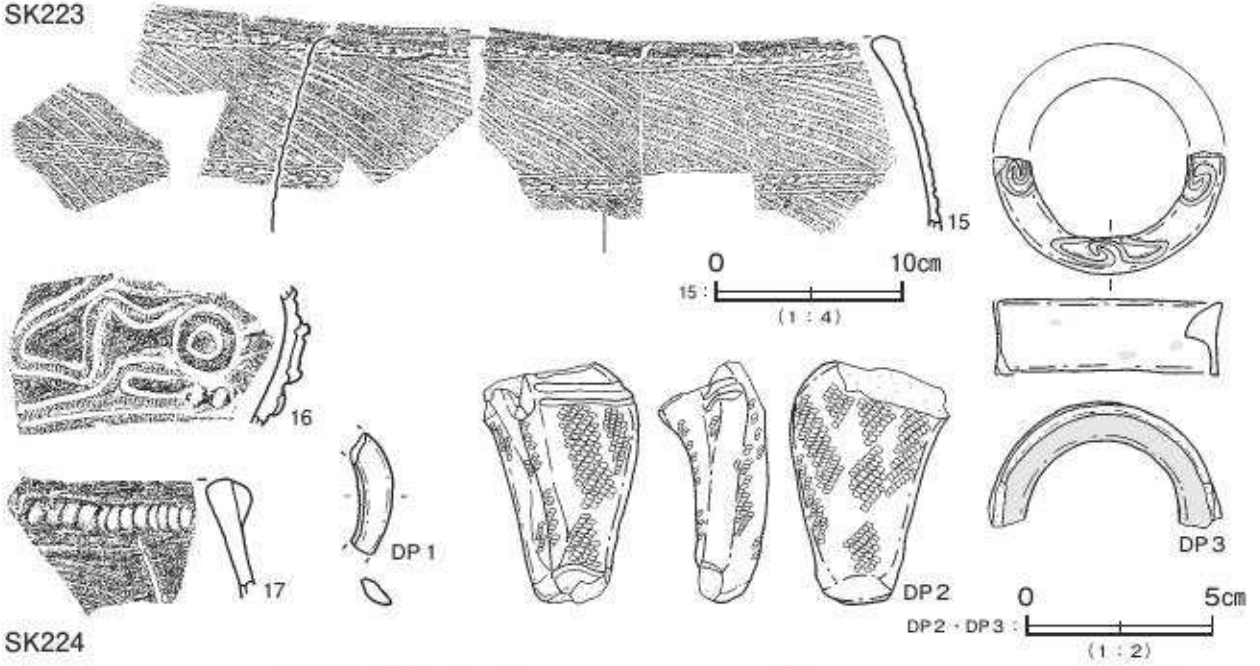


第 254 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (16)

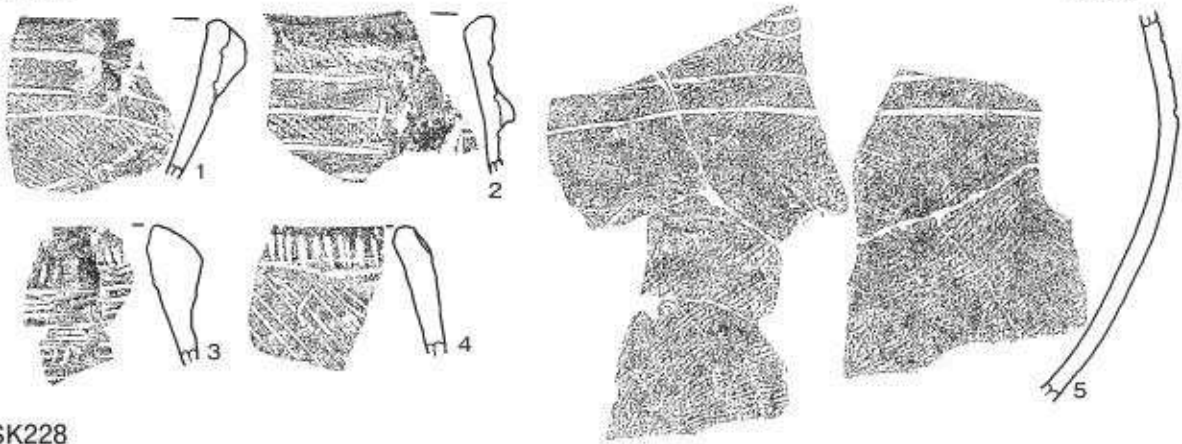


第255図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(17)

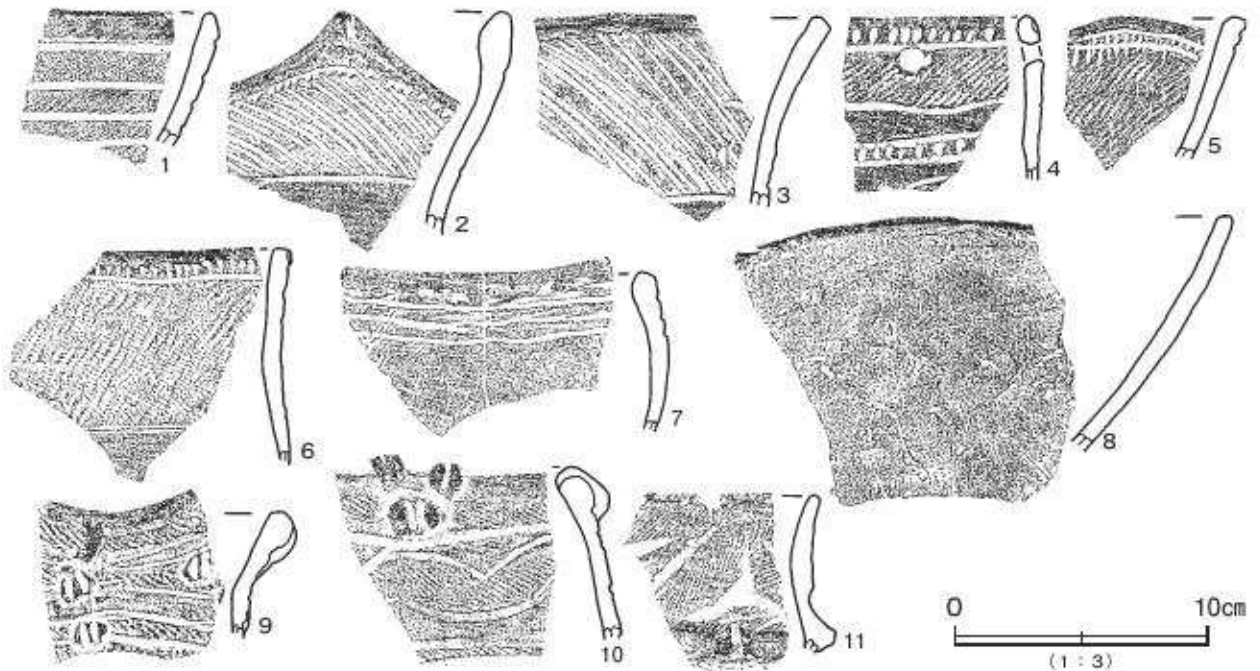
SK223



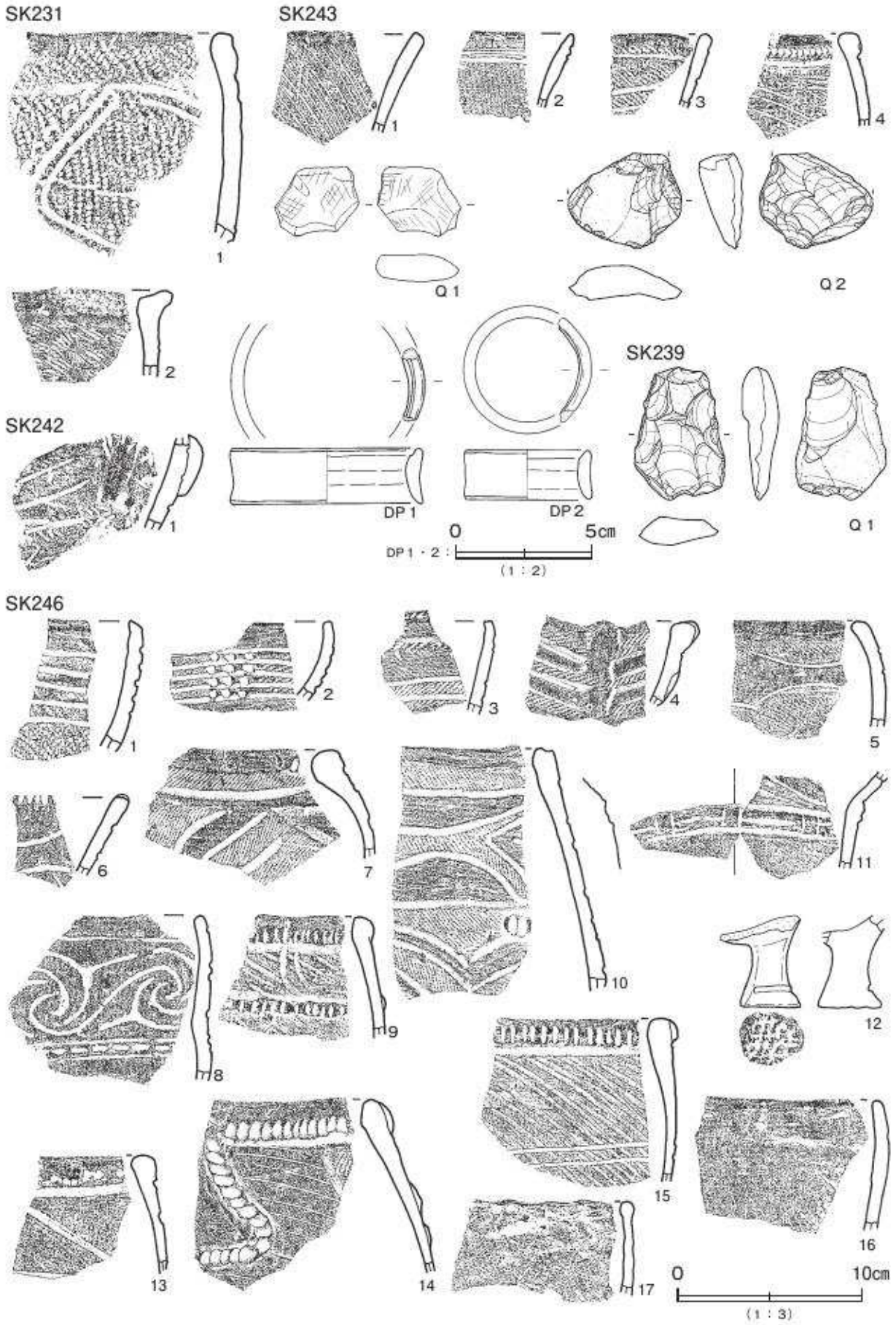
SK224



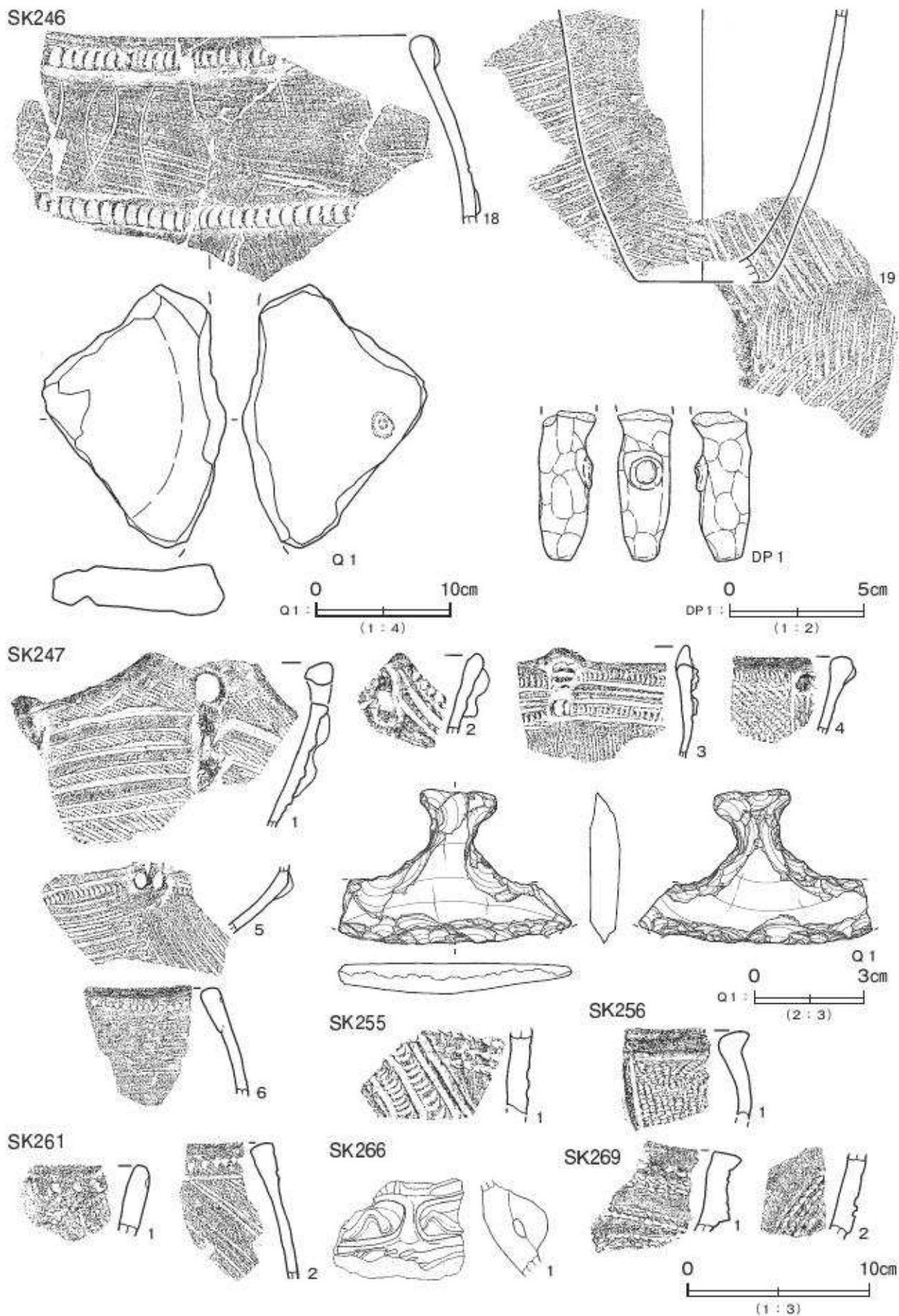
SK228



第 256 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (18)

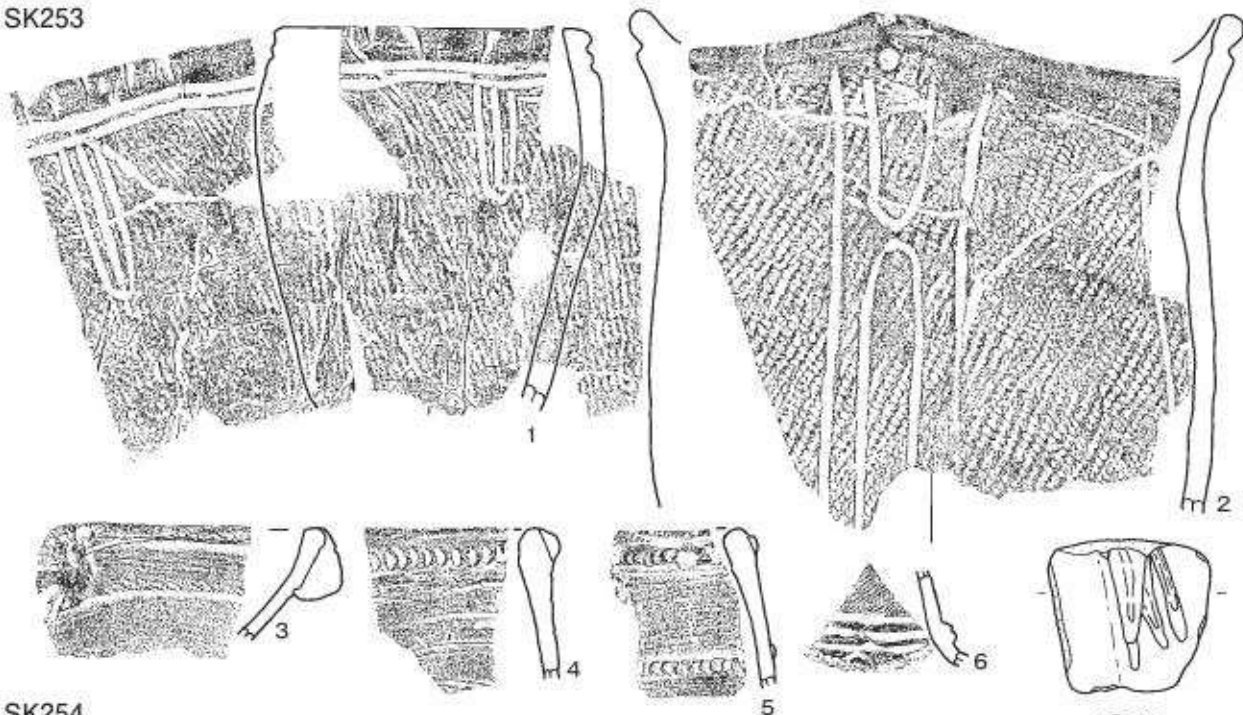


第 257 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (19)

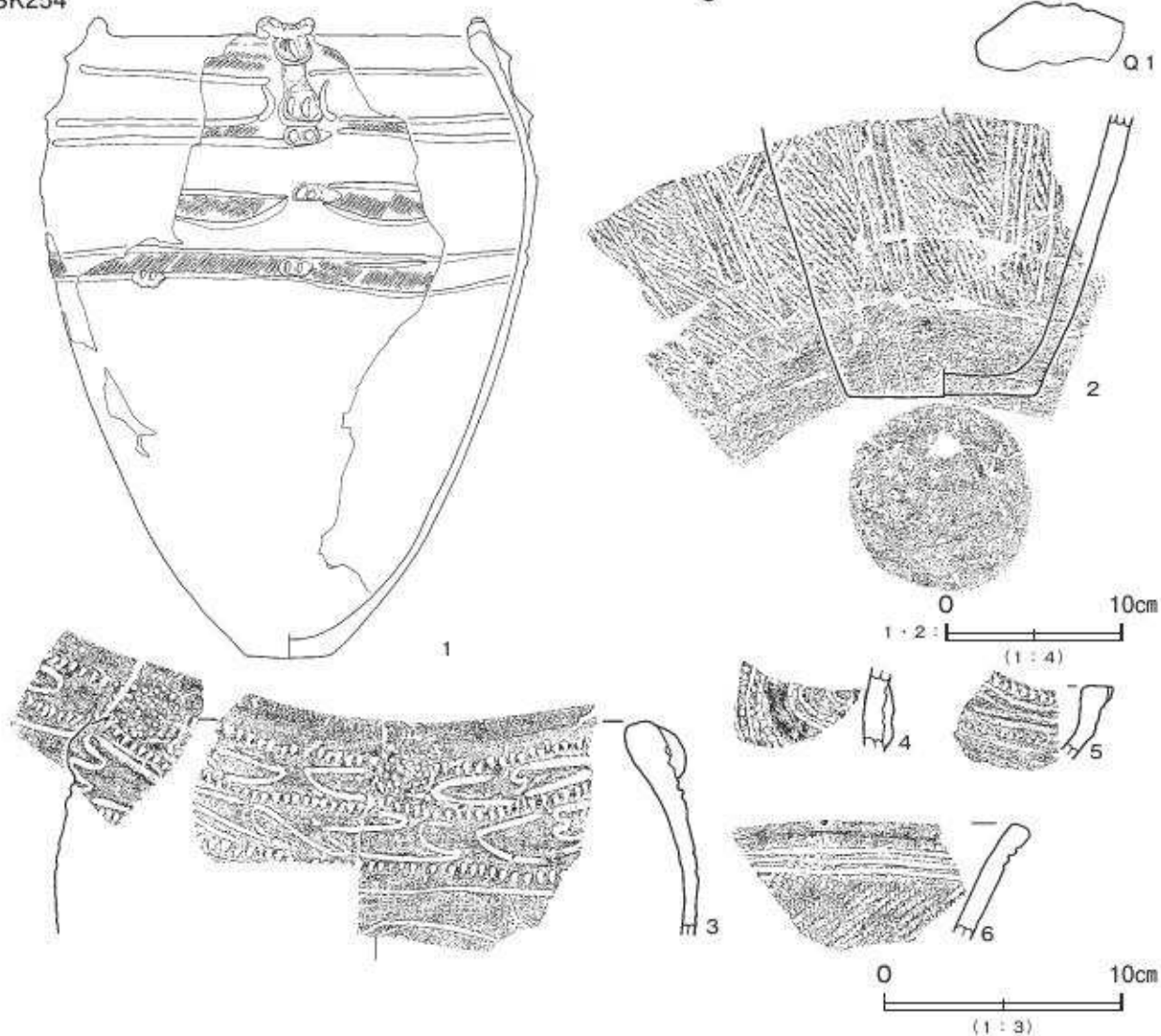


第 258 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (20)

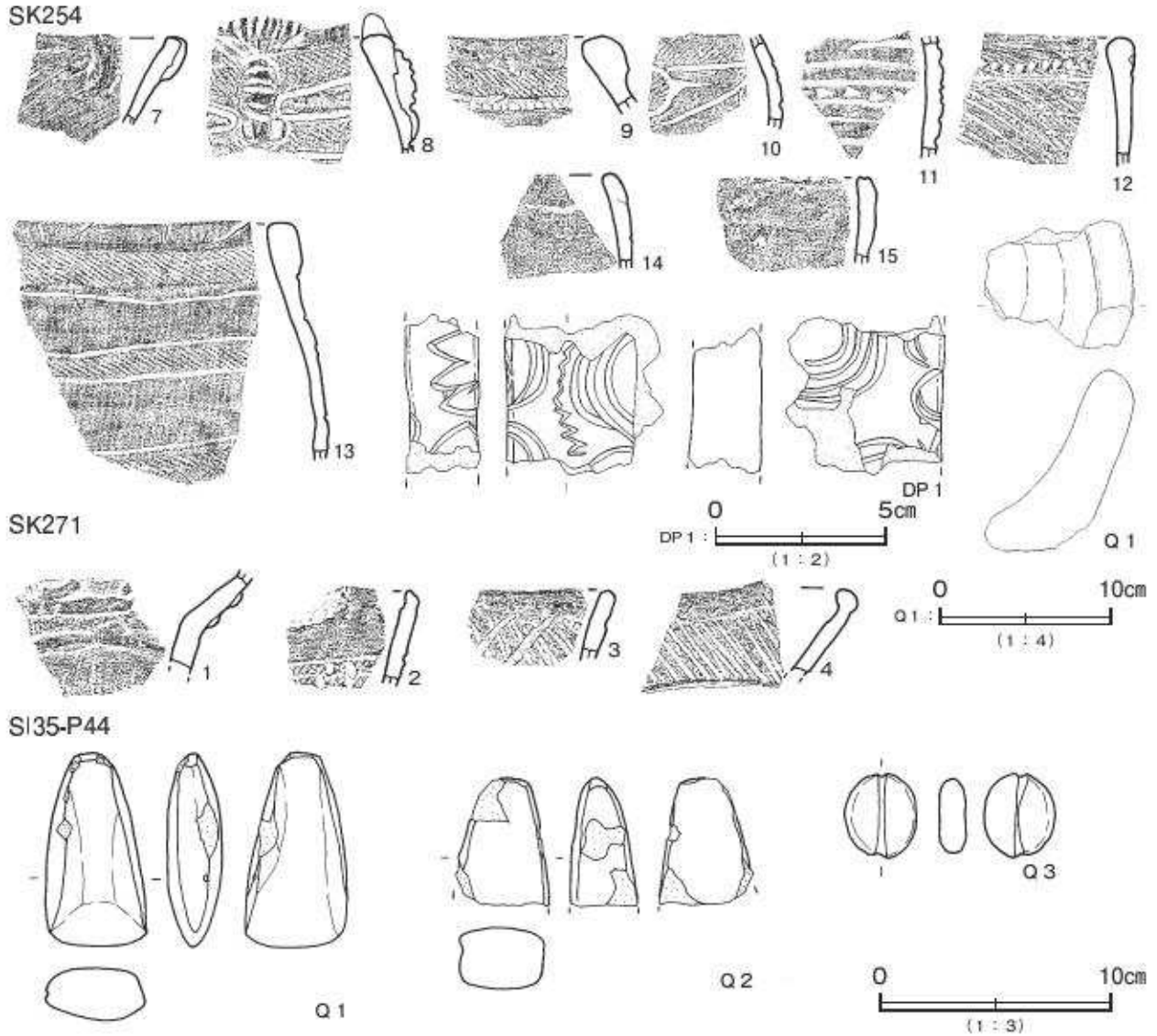
SK253



SK254



第 259 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(2)



第 260 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (2)

土坑出土遺物観察表 (第 239 ~ 260 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK8-10	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→刺み→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面条線→付点結線文 内面粗い磨き	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面櫛齒状工具による条線 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK 9-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→沈線→口縁部刺突 内面磨き	覆土中	
SK10-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面磨→隆起帯限沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯限沈線RL縄文→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面RL縄文→口縁部沈線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部外面刺突文・瘤貼付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面地縄文→条線 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面条線→口縁部刺突 内面磨き	覆土中	
SK17-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯限2列の角押文・内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
SK18-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK18-3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・砥・副・粘土	明褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
SK19-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面縦位の磨き 内面ナデ	覆土中	
SK24-1	縄文土器	深鉢	[19.2]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	20%
2	縄文土器	深鉢	[16.0]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面RL縄文・内面ナデ	覆土下層	10%
3	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面地縄文。→沈線文 内面粗い磨き	底面	10%
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
SK26-1	縄文土器	広口壺	[16.8]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面ステッキ状入組文 口縁部内面沈線文	覆土下層	10%
2	縄文土器	広口壺	[10.4]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	覆土上層	10%
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙褐色	普通	外面菱形状入組文。内面沈線文	覆土上層	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒炭	橙褐色	普通	外面沈線間斜突文 内面ナデ	覆土下層	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎・砥・副・粘土	橙褐色	普通	外面沈線間斜突文 内面磨き	覆土中層	台付鉢脚部。
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面無文部粗い磨き 杵状文 内面磨き	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外・内面ナデ 外面磨き貼付	覆土上層	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面無文部ナデ 杵状文 内面ナデ	覆土中層	
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面入組三叉文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部副文様 内面ナデ	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面半裁竹管状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線間斜突文 内面ナデ	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	二次焼成
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	二次焼成・脱灰化
SK29-1	縄文土器	深鉢	[24.4]	(11.7)	-	胎・砥・副・粘土	橙褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 頸部条線 内面ナデ	覆土中層	20%
2	縄文土器	浅鉢	[17.8]	(7.4)	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	口縁部外面矢羽状沈線文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	5% PL37
3	縄文土器	壺	-	(10.8)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	赤帯 70% PL34
4	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙褐色	普通	外面条線 底面副代痕	覆土中層	20%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面RL縄文→凹線 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面丁字文 刺突文充填 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面無節L縄文→沈線文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面地縄文→格子目文 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
12	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面頸部沈線→斜線文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面地縄文→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・砥・副・粘土	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎・砥・副・粘土	橙褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
SK30-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙褐色	普通	外面沈線→RL縄文→口縁部刻み・磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面条線 口唇部刻み 内面磨き	覆土中	
SK32-1	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	注口部 外・内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	普通	紐架け把手部 外・内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙褐色	普通	外面沈線→無節R縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面三叉状入組文 内面ナデ	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙褐色	普通	外面副文様帯系文様 内面ナデ	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
SK33-1	縄文土器	深鉢	[15.4]	(7.0)	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	49% 接縁孔上
2	縄文土器	台付鉢	-	(10.1)	[18.0]	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	20%
3	縄文土器	深鉢	[30.2]	(20.2)	-	胎・砥・副・粘土	暗赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK35-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	SK33に帰属
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面無文部磨き 内面ナデ	覆土中	SK33に帰属
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	SK33に帰属
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	黒褐色	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	SK33に帰属
SK38-1	縄文土器	深鉢	[13.3]	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面口縁部折頭十字 胴部削り 内面ナデ	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面隆起帯鬚爪形文 内面磨き	覆土上層	
3	縄文土器	鉢	[7.2]	5.6	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面折頭十字 輪積み痕跡 内面ナデ	覆土下層	40%
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	明赤褐色	普通	波頂部突起 内面磨き	底面	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外面隆起帯鬚爪形文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土上層	
SK39-1	縄文土器	壺	[13.5]	[13.1]	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土中層	30% PL37
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文 輪割磨 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	土器片内蔵。
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	小波状・外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面頭部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面条線→口縁部削み 口縁部厚肉 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面条線→付点組線文 内面ナデ	覆土中	
SK40-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK41-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	橙	普通	口縁部外面付点組線文 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
SK42-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無節L縄文→懸垂文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面地縄文→集合沈線文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐色	普通	外面条線→頭部横位沈線 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外面条線 口縁部削り出し状 内面磨き	覆土中	
SK44-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯貼付 内面磨き	覆土下層	
SK48-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面削れたJ字文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤	普通	外面口縁部一部削み 内面磨き	覆土中	
SK54-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面菱形状区画文 無文部ナデ 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	外面S字状入組文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面LR縄文→沈線文 胴部磨き 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	にぶい・赤褐色	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→基部L縄文→無文部磨き 内面ナデ	底面	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面粗線貼付→条線→頸部副文様 内面ナデ	覆土上層	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
SK57-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面口唇部粗線貼付 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	[10.0]	[4.0]	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面条線 下半部、底部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
SK58-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	口縁部外面無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面胴部LR縄文→刻み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面J字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
SK63-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面隆起帯による区画文 内面磨き	覆土下層	
SK64-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線間刻文 内面磨き	覆土中	
SK66-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・蛇紋石	赤褐色	普通	外面隆起帯鬚三角文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯貼付→隆起帯鬚沈線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	外面三叉文 内面ナデ	覆土中	
SK68-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面隆起帯区画内に沈線文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面隆起帯爪形文 内面磨き	覆土中	
SK69-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯鬚沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK69-2	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→磨き 内面沈線文 磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土中	
SK70-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面隆起帯幅角押文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面隆起帯上に爪形文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面 RL 縄文→沈線間磨り消し 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填→磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
SK71-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波状口縁 外面 LR 縄文 内面磨き	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面 LR 縄文→口縁隆起帯貼付 沈線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面 RL 縄文→沈線間磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面赤縄文→紐線添付→半截竹管文 内面磨き	覆土中	
SK72-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨赤文 R 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	把手部 外面磨き	覆土中	
3	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	把手部 外面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK73-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面 RL 縄文→隆起帯貼付→隆起帯幅なぞり 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面 LR 縄文→壺垂文 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→半截竹管状工具による沈線文 内面磨き	覆土中	
SK74-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面に耳状の突起 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土中層	
SK75-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面転行沈線文 内面磨き	覆土中層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯幅角押文 内面ナデ	覆土中層	
SK76-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文 内面磨き 口縁部凹線	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
SK78-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面無節 L 縄文→凹線 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK79-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横帯文 内面ナデ	覆土中	二次焼成
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面 LR 縄文→条線→紐線貼付→頸部区画文磨き 内面磨き	覆土中層	
SK80-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面欠羽状沈線文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
SK84-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面波頂部に隆起帯垂下 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→壺垂文 内面ナデ	覆土上層	
SK89-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面0段3条の RL 縄文→垂下沈線 内面磨き	覆土中	
SK91-1	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK92-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	(104)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文→垂下沈線 内面磨き	覆土上層	S%
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線間斜突文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	手燵	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	表面ナデ 口唇部に刻み 裏面沈線→LR 縄文	覆土中	
SK98-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面高文帯給沈線文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面格子目文 内面ナデ	覆土中	
SK103-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外・内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 褐	普通	外面隆起帯幅沈線・刻み→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面斜線文 内面ナデ	覆土中	
SK102-1	縄文土器	深鉢	-	(209)	8.2	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文→垂下沈線 一段無節 L 縄文 内面ナデ 底面ナデ	底面	50%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤 褐	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK102-4	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	5.6	長石・石英・角閃石類	褐	普通	外・内面磨き	底面	30%
SK104-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→条線→磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい、橙	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面RL縄文 内面ナデ	覆土中	
SK112-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	暗赤褐	普通	外面LR縄文→沈線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面RL縄文→沈線→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK115-1	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい、褐	普通	外面沈線→隆起帯筋上刻み・RL縄文→条線貼付→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	黒 褐	普通	外面条線→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい、褐	普通	外面磨り 口縁部未調整 内面ナデ	覆土中	口B類
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明 褐	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい、褐	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい、赤褐	普通	外面磨り 口縁部外そぎ状にへう切り 内面ナデ	覆土中	口C1類
SK116-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面条線貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	にぶい、褐	普通	外面条線→口縁部区画沈線→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
SK118-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、赤褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK119-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、橙	普通	外面隆起帯筋三角文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、黄褐	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面地縄文→紐線貼付・沈線文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、赤褐	普通	外面隆起帯筋刻み→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面磨り 口縁部未調整 内面ナデ	覆土中	口B類
8	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、橙	普通	外面磨り 口縁部未調整 内面ナデ	覆土中	口B類
SK120-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、橙	普通	外面沈線→LR縄文充填 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面格子目文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	橙	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	黒 褐	普通	外面隆起帯筋沈線→筋A・RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	にぶい、褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、赤褐	普通	外面条線→頸部刻み 内面磨き	覆土中	
SK121-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	底面	
4	縄文土器	深鉢	-	(9.6)	3.9	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	にぶい、赤褐	普通	外面RL縄文 下半部磨き 内面ナデ 底面磨き 器縁部接合	底面	10%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、褐	普通	外面隆起帯筋沈線→筋A・RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	明 褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面肥厚 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面磨き	底面	
9	縄文土器	台付鉢	-	(7.1)	[14.2]	長石・石英・雲母	にぶい、褐	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	底面	10%
SK123-1	縄文土器	台付鉢	-	(8.8)	[13.6]	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	
SK126-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	黒 褐	普通	外面隆起帯筋上刻み 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	にぶい、橙	普通	外面隆起帯筋沈線→筋A・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面磨り 口縁部未調整による条線 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	壺	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	赤 褐	普通	外面沈線部に刺突文 無文部ナデ 内面ナデ	覆土中	
SK129-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	明赤褐	普通	外面角押文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	橙	普通	外面条線→凹線による縦線文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→沈線間磨き 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	橙	普通	外面凹線部に竹管文 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→頸部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK134-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい、褐	普通	外面隆起帯筋上刻み 凹線内沈線状 丸形部が沈線と横線を結合した刻み	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 褐	普通	外面隆起帯筋、口縁部区画内に2列の斜交文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、黄褐	普通	外面隆起帯筋上刻み 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄・銅・鉛粒子	にぶい、黄褐	普通	外面肥厚した口縁部に爪形文 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい、褐	普通	外面肥厚した口縁部に刻み 頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面交互刺突文 口縁部区画内沈線充填 内面磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK1348	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→沈線磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→沈線磨き 内面磨き	覆土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土中	
12	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外・内面磨き 口縁部未調整	覆土中	口B類
SK1351	縄文土器	深鉢	16.2	(14.8)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 胴部磨り 内面ナデ	覆土上層	30% PL34
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
SK1361	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	外面RL縄文→竹管による爪形文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文充填 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中	赤彩
4	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面彫部条線→刻み 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面条線→口縁部区画沈線→区画文 内面ナデ	覆土中	
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
SK1381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
SK1401	縄文土器	台付鉢	-	(37)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文 透かし孔8か所 内面ナデ	覆土中	10%
SK1411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面LR縄文→懸垂文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面RL縄文→沈線文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	覆土中	
SK1431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯筋なぞり 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面横位沈線→矢羽状沈線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外・内面磨き 口唇部に細かな刻み	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋上刻み 内面磨き	覆土中	
SK1471	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中	
SK1501	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	外面RL縄文→隆起帯筋なぞり 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	外面彫部片→隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面彫部片→隆起帯筋沈線→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中	保付着
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	橙	普通	外面彫部条線→隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→刻み→無文磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→刻み→無文磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面彫部片→隆起帯筋沈線→刻み→無文磨き 胴部磨り 内面ナデ	覆土下層	外面保付着
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線→紐紐貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土中	
12	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り 筒縁 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中	口B類
13	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→付点結線文→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・黒色粒子	灰褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	5%
16	縄文土器	深鉢	-	(16.9)	2.6	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線 内面・底部ナデ	覆土中	25%
SK1571	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	外・内面条痕文 口唇部条帯圧痕文	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	褐色	普通	外・内面条痕文	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	外面押引文 内面条痕文	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	外面押引文 内面条痕文	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外・内面条痕文	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面ナデ 内面条痕文	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面条痕文	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	外・内面条痕文	覆土中	
SK1591	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部に沈線文 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
SK1691	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面半杖竹管状工具による沈線文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 口唇部刻み8か所 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
SK1711	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	覆土中	
SK1781	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面ナデ	覆土中	
SK1801	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外面波状沈線文 内面磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK180-2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
SK195-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	黒 灰	普通	外面J字文。無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面LR縄文→懸垂文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐色	普通	外面RL縄文→懸垂文 内面磨き	覆土中	
SK198-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK199-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面RL縄文→懸垂文磨き 内面磨き	覆土中	
SK200-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK204-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面条線→沈線→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土中	
SK213-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	外・内面条表支	覆土中	
SK218-1	縄文土器	深鉢	[240]	(19.9)	-	珪・鉄・銅・粘結	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	30% PL33
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・角閃石類	にぶい黒	普通	外・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面口縁部斜線文→沈線・刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
SK219-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK223-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面J字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	19.3	(22.1)	-	珪・鉄・銅・粘結	赤 黒	普通	外面口縁部磨き 胴部磨り 内面ナデ	覆土上層	40% PL33
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面LR縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面RL縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→口縁部刻み 内面ナデ	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	赤彩
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	鉢	7.8	(3.6)	-	長石・石英	橙	普通	外・内面磨き	覆土中	60% PL35
15	縄文土器	深鉢	[27.6]	(10.5)	-	珪・鉄・銅・粘結	にぶい黒	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中	10%
16	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→紐線貼付→胴部区画文 内面磨き	覆土中	
SK224-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面付点紐線文 磨貼付 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明 黒	普通	外面付点紐線文 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土中	
SK228-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面斜線文→口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面条線→沈線→磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→LR縄文→刻み 焼成前穿孔 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・粘結	にぶい黒	普通	外面沈線→LR縄文→刻み 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部刻み・無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒	普通	口縁部横帯文 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	覆土中	
SK231-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文→竹管状工具による沈線文・刺突文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 黒	普通	外面無節L縄文 内面ナデ	覆土中	
SK242-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK243-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面磨き 口唇部刻み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	普通	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面条線 口縁部刻み出し状に肥厚 内面磨き	覆土中	
SK246-1	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土下層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 口唇部刻み 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面口縁部刻み 内面磨き	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	黒 黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面S字状入組文 内面磨き	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	橙	普通	外面条線→胴部区画文→紐線貼付 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・銅・粘結	黒 黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK246-12	縄文土器	脚付鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面磨き 内面ナデ 脚底部網代敷	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面頸部区画文 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	(15.0)	(7.8)	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	10%
SK247-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	波状口縁 外面波頂部に突起 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→隆起帯上刻み 内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL縄文→低位区画沈線磨き→彫み・瘤貼付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線→刻み・瘤貼付 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面条線→口縁部刻突文 内面磨き	覆土中	
SK253-1	縄文土器	深鉢	12.4	(15.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面無筋 R 縄文→沈線 内面ナデ	覆土中	70% PL33
2	縄文土器	深鉢	[24.5]	(19.7)	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面LR縄文→彫垂文 内面磨き	覆土上層	20%
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色 灰	普通	外面隆起帯上RL縄文 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面紐線貼付→条線 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	褐色 灰	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
SK254-1	縄文土器	深鉢	[21.2]	36.0	4.6	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→LR縄文→無文部磨き 側部磨り 内面ナデ	覆土下層	煤 40% PL32
2	縄文土器	深鉢	-	(15.5)	10.4	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面LR縄文→手執竹管状口縁の彫垂文 内面磨き 底部網代敷→ナデ	覆土上層	内面煤 30%
3	縄文土器	深鉢	[22.4]	(9.1)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面彫垂状の沈線文 内面ナデ	覆土上層	10%
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯幅 2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部文様帯上刻み 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面瘤貼付→条線 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色 灰	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅刻み→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	
10	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土底面	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	製塩土器。
SK255-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面爪形文・三角文 内面磨き	覆土中	
SK256-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面RL縄文→手執竹管文による沈線文 内面磨き	覆土中	
SK261-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面に刻突文 LR縄文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土中	
SK266-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒褐色	普通	外面隆起帯による波状文 内面ナデ	覆土中	
SK269-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面 2列の角押文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯幅 2列の角押文 内面ナデ	覆土中	
SK271-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面然染文 R →隆起帯貼付 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面斜格子目文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色 灰	普通	外面斜線文→沈線文 内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特 徴	出土位置	備考
SK8-DP1	耳飾り	径 7.1	-	2.1	54.6	長石・石英・雲母	黒褐色	滑車型 外面ナデ整形	底面	N2類 PL42
SK26-DP1	土 偶	(5.8)	(2.7)	(2.0)	(24.7)	長石・石英	にぶい黄褐色	山形土偶脚部 裏面に無筋L縄文	覆土下層	2d類
SK54-DP1	土 偶	(11.1)	(8.3)	(4.6)	(197.1)	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	中空土偶脚部 RL縄文筋文	覆土下層	5a類 PL40
DP2	土 偶	(6.4)	(8.7)	(1.4)	(80.0)	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	中空土偶脚部 RL縄文 ギタン状の貼付文	覆土中	5c類 DP1と同一
SK115-DP1	土 偶	(5.6)	(2.1)	(3.6)	(35.6)	長石・石英・赤色粒子	褐色 灰	ミニズク土偶脚部 RL縄文	覆土中	3d類
SK238-DP1	土 偶	(6.1)	(6.0)	3.0	(82.7)	長石・石英・赤色粒子	褐色	山形土偶脚部	覆土中	2c類
SK223-DP1	貝輪状	(5.8)	1.4	1.0	(6.0)	長石・石英	褐色	ナデ整形	覆土中	
DP2	土 偶	(6.4)	4.2	2.8	(46.4)	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	ミニズク土偶脚部 沈線→RL縄文	覆土中	3d類
DP3	耳飾り	径 6.0	-	1.9	(15.5)	長石・石英	黒褐色	入組紐線文 磨き調整 赤彩	覆土下層	N2類 PL42
SK233-DP1	耳飾り	径(7.0)	-	2.0	(3.6)	長石・石英	褐色 灰	環状 磨き整形	覆土中	V類
DP2	耳飾り	径(4.6)	-	1.8	(4.0)	長石・石英	暗赤褐色	環状 磨き整形	覆土中	V類
SK266-DP1	土 偶	(5.4)	2.1	2.0	(23.8)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	山形土偶脚部 ナデ整形	覆土上層	2d類
SK254-DP1	土 版	(4.6)	(4.6)	(2.2)	(49.3)	長石・石英	にぶい黄褐色	直線筋筋文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
SK143-B1	骨 簾	8.3	1.3	0.6	5.89	シカ中手骨	両側面に挟りを入れて基部加工。一側面に別縁	覆土下層	PL48

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
SK32-Q1	磨製石斧	(9.5)	(5.0)	(2.7)	(229.7)	閃緑岩	定角式 頭部欠損	覆土中	
SK33-Q1	石皿類	(18.4)	(14.4)	(7.7)	(204.0)	黒雲母花崗岩	表裏面に磨り痕、凹痕	覆土上層	2類
Q2	玉類	径 1.1	-	0.9	1.5	緑色岩	小玉 片面穿孔	覆土中層	PL46
SK41-Q1	砥石	(4.6)	(6.3)	(2.6)	(85.9)	砂岩	表面に2条の有溝研磨痕	覆土中	1類 PL48
SK56-Q1	石鏃	(1.49)	1.64	0.54	(0.8)	黒曜石	平基	底面	
SK57-Q1	石鏃	(1.18)	(2.16)	0.54	(1.2)	黒曜石	凹基	覆土中	
SK115-Q1	砥石	(7.6)	(5.5)	1.9	(93.5)	砂岩	表面に1条の有溝研磨痕	覆土中	1類
Q2	磨石類	(8.6)	7.9	5.5	(99.0)	大山礫凝灰岩	自然礫の先端部に敲打痕	覆土中	4a類
SK121-Q1	石皿類	(13.7)	(9.9)	6.1	(587.8)	安山岩	表裏面磨り面 裏面に凹痕	底面	2類
SK180-Q1	石鏃	4.85	4.08	1.79	34.7	凝灰岩	未成品 表面に擦痕あり	覆土中	
SK187-Q1	石皿類	(13.7)	(15.0)	5.3	(451.8)	黒雲母花崗岩	表面に磨り面と薄状の研磨痕 裏面に薄状の研磨痕	覆土中	3類
Q2	磨石類	(7.8)	6.1	5.3	(374.5)	輝石安山岩	周囲に磨り面 下部部に敲打痕	覆土中	2a類
SK204-Q1	砥石	(6.6)	(6.3)	(1.3)	(61.9)	砂岩	表面に2条の有溝研磨痕	覆土中	1類
SK209-Q1	磨石類	(6.9)	4.5	(3.0)	(148.9)	砂岩	表裏面に凹状の敲打痕 周縁敲打痕	覆土中	3b類
SK239-Q1	打製石斧	7.25	4.95	2.02	64.7	頁岩	撥形 未成品の可能性あり	覆土中	SI54-P 2層区
SK243-Q1	砥石	3.7	4.6	1.5	2.90	砂岩	表裏面擦痕	覆土中	4類
Q2	打製石斧	(5.2)	6.2	2.4	(68.4)	頁岩	分銅形 2/3を欠損	覆土中	
SK246-Q1	石皿類	(19.1)	(13.3)	3.7	(1062.9)	黒雲母片岩	表裏面磨り面 裏面に凹状の敲打痕	覆土中	2類
SK247-Q1	石匙	4.3	(6.5)	0.7	(18.1)	ガラス質安山岩	両面割離による刃部加工	覆土中層	
SK253-Q1	砥石	(6.2)	(6.5)	(2.9)	(152.5)	砂岩	表面に数条の有溝研磨痕 裏面剥離	覆土中	1類
SK254-Q1	石皿類	(7.4)	(8.5)	(10.4)	(501.0)	黒雲母花崗岩	表裏面に磨り面	覆土中	1類
SI5-P4-Q1	磨製石斧	8.3	4.3	2.4	126.8	蛇紋岩	定角式	覆土中	2a類 PL46
Q2	磨製石斧	(5.5)	(4.0)	3.0	(97.7)	ドレライト	定角式 刃部欠損	覆土中	
Q3	石鏃	3.6	3.1	1.1	21.8	輝石デイスサイト	有溝	覆土中	1類

表3 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径(m) (袋状：開口部径最大径)	深さ(cm)						
1	C 6 a5	-	不整円形	1.72 × 1.68	28	凹凸	外傾	人為	縄文土器 606 (10.4kg)、土器片 円盤1、砥石1、石核4 (チャート)	後期後葉- 晩期前葉	HG2-1、SI13 → 本跡
2	B 6 j5	-	[楕円形]	1.10 × (1.00)	105	有段	直立	自然	縄文土器 411 (334kg)、石核1 (黒 曜石)、割片2 (チャート・黒曜石)	安行1式	HG2-1、SI13 → 本跡
4	B 6 j9	-	[円形・楕円形]	1.28 × (0.72)	90	平坦	内傾	人為	-	中期	本跡 → SI46、SK168
5	B 6 j9	N-40°-E	楕円形	2.05 × 1.74 2.25 × 1.98	156	平坦	内傾	自然	縄文土器 118 (334kg)、磨石類 1	阿玉台IV式	本跡 → SI39、HG2
6	C 6 a6	N-83°-W	楕円形	0.82 × 0.70	38	皿状	外傾	自然	縄文土器 29 (306kg)、土器片 円盤1、磨石類1、焼成粘土塊1、 割片4 (黒曜石)	安行1式	SK33 → SI8-13、HG2- 1 → 本跡
8	C 6 a6	N-27°-E	[楕円形]	(2.58) × 0.74	28	平坦	外傾	人為	縄文土器 404 (602kg) 耳部1、 土器1、打製石斧1、磨石類1、 砥石1、石核7 (チャート3、 黒曜石4)、割片3 (チャート)	安行1式- 安行2式	SI8-13、SK33-39、 143、HG2-1 → 本跡
9	C 6 b7	-	[円形・楕円形]	0.84 × (0.56)	117	皿状	外傾	自然	縄文土器 20 (0.22kg)	後期前葉- 中葉	本跡 → SD3
10	C 6 b7	-	[円形・楕円形]	0.68 × (0.52)	40	平坦	外傾	人為	縄文土器 71 (1.07kg)、耳飾1	後期後葉	本跡 → SD3
12	C 6 b5	N-10°-E	楕円形	0.80 × 0.64	35	凹凸	外傾	人為	縄文土器 20 (0.26kg)	縄文	本跡 → SK13
17	C 6 d4	N-75°-W	楕円形	1.16 × 0.76	42	平坦	外傾	人為	縄文土器 25 (0.18kg)、磨石類1、 砥石1	中期-後期	
18	C 6 c5	N-49°-W	楕円形	0.98 × 0.64	38	皿状	緩斜	自然	縄文土器 58 (0.91kg)、磨石類1、 割片1 (チャート)	晩期前葉	SI7との新旧不明
19	C 6 c6	N-88°-W	楕円形	1.60 × 0.98	28	皿状	外傾	自然	縄文土器 7 (0.13kg)	中期後半- 後期前葉	本跡 → SI12-32
24	C 6 c3	N-16°-E	不整楕円形	2.08 × 1.46	28	皿状	緩斜	人為	縄文土器 44 (0.73kg)、焼成粘土 塊1	阿玉台IV式	本跡 → SI1-4・7・55
26	C 6 c4	N-7°-W	楕円形	1.32 × 1.16	96	平坦	外傾	人為	縄文土器 68 (9.32kg)、土器片 土器片円盤2、砥石1、割片1 (チャート)	安行3c式	本跡 → SI1、SD1 SI7との新旧不明
28	C 6 c7	N-2°-W	楕円形	1.02 × 0.84	122	平坦	直立	人為	縄文土器 138 (2.52kg)、割片2 (黒 曜石)、貝類・骨片、焼成土器1	安行3b式	SI32 → 本跡 → SI4 SI35との新旧不明
29	B 6 j2	-	円形	1.22 × 1.18	66	平坦	直立	人為	縄文土器 164 (2.53kg)、焼成粘 土塊1	安行1式	小ピット1 SI19 → 本跡 → SI5
30	B 6 j4	N-46°-W	楕円形	0.74 × 0.64	70	平坦	直立	人為	縄文土器 54 (0.67kg)	後期中葉- 後葉	ピット状 SI3との新旧不明
31	B 6 k6	N-56°-E	楕円形	0.94 × 0.72	91	皿状	直立	-	縄文土器 10 (0.19kg)	縄文	SI58との新旧不明
32	B 6 k6	N-69°-E	楕円形	1.30 × 1.02	62	平坦	外傾	人為	縄文土器 338 (4.36kg)、磨製石 斧1、磨石類1、割片1 (黒曜石)、 骨片	安行3a式	SI56-58との新旧不明
33	C 6 a6	N-4°-E	楕円形	1.88 × 1.44 1.92 × 1.66	123	平坦	直立 内傾	人為	縄文土器 242 (3.91kg)、貝殻状1、 焼成粘土塊1、石皿類1、土器1、 割片1 (黒曜石)、骨片	阿玉台IV式	本跡 → SI8 → SK6・39 SK143との新旧不明 南部で円筒形土坑と重複
34	B 6 j2	N-4°-E	楕円形	1.12 × 1.00	182	平坦	直立	人為	縄文土器 250 (3.21kg)、製塩土 器1	安行3b式	SI6・36 → 本跡
36	C 6 b3	N-2°-W	楕円形	1.16 × 0.84	34	平坦	外傾	-	-	-	SI55床面で確認

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	時 期	備 考
				長径×短径 (m) (袋状：開口部径 最大径)	深さ (cm)						
38	C 6 f4	-	[円形・楕円形]	(2.58 × 1.72)	26	皿状	緩斜	人為	縄文土器 82 (1.58kg)、磨石類 2、RF1、骨片 1 (黒曜石)	阿玉台Ⅰ-Ⅳ式	SI14 状態で確認 本跡→SI14
39	C 6 a6	-	[円形]	0.86 × (0.80)	76	平皿	外傾	人為	縄文土器 256 (394kg)	安行 3 a 式	SK33・143 → SI8 → 本跡
40	B 6 i2	N-88°-E	[楕円形]	(0.85) × 1.22	25	平皿	外傾	自然	縄文土器 207 (2.93kg)、製塩土器 1	後期中葉-後葉	本跡→SI6 SI36との新旧不明
41	C 6 d7	-	円形	1.00 × 0.95	35	平皿	外傾	自然	縄文土器 63 (1.57kg)、磨石類 1、砥石 1	後期後葉-晩期前葉	SI32、SK42との新旧不明
42	C 6 d7	-	円形	1.42 × 1.35	32	平皿	外傾	人為	縄文土器 85 (1.24kg)	後期後葉-晩期前葉	SI32、SK41との新旧不明
44	C 6 d9	N-4°-E	楕円形	0.78 × 0.48	20	平皿	外傾	自然	縄文土器 6 (0.94kg)	加曾利 E 1 式	
45	B 6 b2	-	円形	1.12 × 1.06	92	平皿	直立	人為	縄文土器 251 (4.42kg)、磨石類 4、割片 2 (チャート)	安行 3 b 式	小ビット 1 SI43 → 本跡 → 第 1 号 遺 物 集 中 地 点
46	C 6 c3	N-16°-W	[楕円形]	(0.44 × 0.40)	28	平皿	外傾	自然	縄文土器 4 (0.08kg)、石皿類 1	晩期	SI11 との新旧不明
48	B 6 i2	N-45°-E	楕円形	0.74 × 0.54	98	平皿	直立	-	縄文土器 18 (0.49kg)	称名寺式 曾谷式	
49	C 6 d3	N-23°-W	楕円形	2.21 × 1.38	30	平皿	外傾	自然	縄文土器 54 (0.48kg)、RF1、骨片 1 (チャート)	晩期	小ビット 2
54	C 4 g3	N-89°-W	楕円形	1.84 × 1.30	20	平皿	緩斜	自然	縄文土器 219 (2.79kg)、土偶 1、土鏡 1	晩期中葉	SI25・30 → 本跡
55	C 4 g2	N-5°-W	楕円形	1.19 × 0.89	27	皿状	外傾	人為	縄文土器 41 (0.48kg)、石鏡 1、磨石類 1	後期前葉-中葉	
57	C 4 f1	N-3°-E	楕円形	1.14 × 0.90	45	皿状	直立	人為	縄文土器 209 (2.62kg)、石鏡 1、磨石類 1、砥石類 1、石皿類 1、砥石 1、袋状鉢 1	後期中葉-後葉	小ビット 1 SI24・27 → 本跡 SI29 との新旧不明
58	C 4 i2	N-5°-W	[楕円形]	1.47 × (1.12)	24	平皿	外傾	人為	縄文土器 182 (2.31kg)、磨石類 1、割片 2 (チャート)	後期前葉-中葉	SI29 → 本跡 SK65 との新旧不明
59	C 4 g2	-	円形	0.45 × 0.42	13	皿状	緩斜	人為	縄文土器 4 (0.06kg)	縄文	
63	C 3 e0	N-10°-E	楕円形	1.38 × 0.93	72	傾斜	外傾 緩斜	人為	縄文土器 11 (0.22kg)	中期	SI24 との新旧不明
64	C 4 e1	-	[楕円形]	(2.70 × 0.96)	8	傾斜	緩斜	人為	縄文土器 18 (0.23kg)	縄文	SI24 との新旧不明
65	C 4 f2	N-4°-E	[楕円形]	[2.18 × 1.65]	24	平皿	緩斜	人為	縄文土器 32 (0.69kg)、割片 1 (チャート)	中期-後期	SI29、SK58・71・72・88 などの新旧不明
66	C 4 g1	-	円形	0.82 × 0.75	34	皿状	外傾	人為	縄文土器 24、割片 1 (チャート)	中期-後期 前葉	
67	C 3 g0	N-28°-W	楕円形	1.34 × 0.90	20	平皿	外傾	人為	縄文土器 47 (0.93kg)	中期-後期 前葉	
68	C 3 g9	-	[円形]	(0.54 × 0.32)	28	皿状	外傾	人為	縄文土器 63 (1.17kg)	中期後半	SK69 → 本跡
69	C 3 g9	N-40°-W	[楕円形]	(1.00 × 1.64)	36	凹凸	緩斜	人為	縄文土器 74 (0.83kg)、耳環 1	後期後葉	本跡→SK68 SK70 などの新旧不明
70	C 3 g9	-	円形	1.48 × 1.38	110	平皿	直立	人為	縄文土器 344 (6.07kg)、土偶 1、石鏡 1、磨石類 1、砥石 2、袋状粘土塊 1、割片 1 (チャート)、骨片	後期-晩期	SK82 → 本跡 SK69 などの新旧不明
71	C 4 f2	N-55°-W	楕円形	0.90 × 0.76	34	皿状	緩斜	人為	縄文土器 73 (1.03kg)	中期-後期 前葉	SK88 → 本跡 SK65 などの新旧不明
72	C 4 f2	N-32°-W	楕円形	0.86 × 0.56	36	皿状	緩斜	人為	縄文土器 31 (0.49kg)、石鏡 1、砥石 1	中期-後期 前葉	SK88 → 本跡
73	C 3 g8	-	円形	1.33 × 1.22	55	皿状	外傾	人為	縄文土器 18 (1.46kg)、土器片円盤 1、磨石類 1	中期後半-後期前葉	SK84 → 本跡
74	C 4 d3	N-69°-E	[楕円形]	(2.23) × 1.40	90	平皿	外傾	人為	縄文土器 40 (1.52kg)	阿玉台Ⅱ-Ⅲ式	本跡→第 1 号 粘 土 採 掘 坑
75	C 4 c3	N-30°-W	楕円形	1.99 × 1.54	60	平皿	外傾	人為	縄文土器 39 (0.84kg)、磁器 1、石鏡 1 (チャート)	阿玉台 1 b-Ⅱ 式	本跡→第 1 号 粘 土 採 掘 坑
76	C 4 d4	N-52°-W	楕円形	1.94 × 1.52	28	平皿	外傾	人為	縄文土器 35 (0.53kg)	後期前葉-中葉	本跡→第 1 号 粘 土 採 掘 坑
77	C 4 e4	N-32°-W	[楕円形]	3.38 × (0.96)	44	傾斜	外傾	人為	縄文土器 12 (0.54kg)	中期-後期	本跡→HGI
78	C 4 e5	-	[不整四角形]	1.92 × (1.75)	77	傾斜 凹凸	外傾	人為	縄文土器 83 (1.03kg)、石鏡 1 (チャート)、割片 1 (チャート)	中期-後期	本跡→SK79 → 第 1 号 粘 土 採 掘 坑
79	C 4 c3	N-45°-W	楕円形	1.94 × 1.09	62	傾斜	緩斜	人為	縄文土器 88 (1.33kg)、磨石類 2、割片 1 (チャート)	後期後葉	SK78 → 本跡
80	C 4 d4	-	円形	(1.10) × 1.10	43	平皿	外傾	人為	縄文土器 26 (1.29kg)、石鏡 1 (チャート)、割片 1 (チャート)	後期中葉	SI22 などの新旧不明
82	C 3 g9	-	[円形]	1.60 × (1.40)	62	傾斜	外傾 緩斜	人為	縄文土器 4 (0.31kg)	中期	SK83 → 本跡 → SK70
83	C 3 g9	N-85°-E	[楕円形]	(1.76) × 1.94	54	傾斜	外傾 緩斜	人為	縄文土器 57 (0.70kg)、割片 4 (チャート)、骨片	中期後半-後期中葉	SK84 → 本跡 → SK82
84	C 3 g8	N-57°-E	[不整楕円形]	4.04 × (2.00)	33	平皿	外傾	人為	縄文土器 84 (1.82kg)、磨石類 1、磁器 1、骨片	中期前半-後期前葉	本跡→SK73・83 SK93 などの新旧不明
85	C 4 e1	N-8°-W	[楕円形]	(3.20 × 1.52)	39	平皿	外傾	人為	縄文土器 104 (1.13kg)、棒状 1、磁器 1、RF1	中期前半-後期前葉	SK91 → 本跡、SI24 などの新旧不明
88	C 4 f2	N-32°-E	[楕円形]	(0.70 × 0.50)	32	平皿	緩斜	人為	縄文土器 4 (0.54kg)、骨片	縄文	小ビット 2 本跡→SK71・72 SK65 などの新旧不明
89	C 4 g3	N-15°-W	[楕円形]	(0.80) × 0.92	60	平皿	直立	人為	縄文土器 19 (0.16kg)	中期	SI30 などの新旧不明
91	C 4 e1	N-43°-W	[楕円形]	(1.45) × 0.76	44	平皿	外傾	人為	縄文土器 45 (0.56kg)、骨片	後期	本跡→SK85
92	C 3 g0	N-42°-W	[楕円形]	1.82 × (1.20)	84	有段	外傾	人為	縄文土器 623 (10.21kg)、磨石類 3、石皿類 3、砥石 1、石鏡 4 (チャート 3・黒曜石 1)、割片 3 (チャート 2・黒曜石 1)	中期後半 後期後葉-晩期前葉	本跡→SI27
93	C 3 g8	N-0°	[楕円形]	(0.68) × 0.62	46	皿状	直立 緩斜	人為	縄文土器 20 (0.25kg)、割片 1 (チャート)	中期後半-後期前葉	SK84 などの新旧不明
94	C 7 d7	N-88°-E	楕円形	1.70 × 1.37	47	皿状	緩斜	人為	縄文土器 37 (0.38kg)、骨片	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	露土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m) (袋状：開口部径 最大径)	深さ (cm)						
98	C 7 c6	-	円形	1.28 × 1.25	104	平垣	外傾	人為	縄文土器 44 (0.65kg)	後期前葉	
99	C 7 d3	N-18°-W	[楕円形]	1.36 × (0.84)	38	平垣	外傾	人為	縄文土器 12 (0.32kg)	後期前葉	SK210 → 本跡 → SK159 S160 との新旧不明
100	C 7 b5	-	[円形]	(0.88) × 0.86	34	平垣	直立	自然	縄文土器 8 (0.13kg)	中期後半- 後期初葉	
102	C 6 e8	N-42°-E	[楕円形]	(0.72) × 1.00	15	平垣	外傾	人為	縄文土器 38 (0.9kg)、砥石 1、 焼成粘土塊 1	加曾利 E 1 式	S116 との新旧不明
103	C 6 d8	N-25°-E	楕円形	0.88 × 0.68	76	平垣	外傾	人為	縄文土器 32 (0.44kg)	後期中葉- 後葉	SK104 → 本跡 S118 との新旧不明
104	C 6 d8	N-2°-W	[楕円形]	0.87 × (0.55)	70	平垣	外傾	人為	縄文土器 20 (0.78kg)	後期中葉- 後葉	本跡 → SK103 S118 との新旧不明
105	C 6 e8	N-46°-E	楕円形	1.66 × 1.06	161	平垣	直立	人為	縄文土器 408 (9.49kg)、土偶 1、 耳飾 1、石皿類 1、飾 1、羽片 5 (チャート)、貝類、骨片	安行 3 a- 安行 3 b 式	S118・35 との新旧不明
106	C 6 e8	N-80°-W	楕円形	0.98 × 0.76	51	平垣	外傾	人為	縄文土器 85 (1.02kg)	大洲 C 1 式	SK108 → 本跡 S118・35 との新旧不明
107	C 6 e8	N-73°-E	[楕円形]	(0.77) × 0.76	69	皿状	直立	自然	縄文土器 15 (0.65kg)	廣期前葉- 中葉	S118・35、SK108・110 との 新旧不明
108	C 6 e8	N-20°-W	[楕円形]	(0.54 × 0.36)	30	平垣	外傾	自然	縄文土器 42 (0.53kg)	後期前葉- 中葉	本跡 → SK106 S118・35、SK107・109 との 新旧不明
109	C 6 e8	N-28°-E	楕円形	0.70 × 0.62	34	平垣	外傾	人為	縄文土器 34 (0.28kg)	縄文	S118 → 本跡 S135、SK108 との新旧不明
110	C 6 e8	N-55°-W	[楕円形]	(0.83) × 0.61	22	平垣	外傾	自然	縄文土器 9 (0.12kg)	縄文	本跡 → SK111 S118・35、SK107 との新旧不明
111	C 6 e8	N-38°-E	楕円形	0.72 × 0.56	36	平垣	外傾	自然	縄文土器 41 (0.52kg)	縄文	S118、SK110 → 本跡 S135 との新旧不明
112	B 6 b3	N-11°-W	楕円形	1.12 × 1.00	50	平垣	外傾	人為	縄文土器 166 (2.66kg)、磨製石 斧 1、製塩土器 3	後期	S136 → 本跡 → 第 1 号遺物 集中地点
113	B 6 b5	N-5°-W	楕円形	1.56 × 1.06	118	平垣	外傾 直立	自然	縄文土器 7 (0.06kg)、磨石類 1	早期弥生文系	陥し穴。本跡 → SI37、LUP1
115	C 6 a7	-	[円形]	2.14 × (2.04)	26	平垣	外傾	人為	縄文土器 306 (4.79kg)、土偶 1、 土鏃 1、貝輪状 1、磨石類 1、 石皿類 2、砥石 1、発泡体 1、 骨片	安行 1- 安行 2 式	小ピット 1 S141 → 本跡 → SK121、 HG2
116	C 6 b8	N-38°-E	不整楕円形	1.26 × 0.96	14	凹凸	緩斜	人為	縄文土器 16 (0.17kg)	後期後葉	SI35 → 本跡
118	B 6 j7	N-88°-E	不整円形	0.80 × 0.80	70	右段	外傾	自然	縄文土器 216 (2.74kg)、羽片 2 (チャート、頁岩)、製塩土器 1	後期	SH1 → SK119 → 本跡 → SK121、PG7
119	B 6 j7	N-32°-W	楕円形	1.65 × 0.88	34	皿状	外傾	人為	縄文土器 278 (5.39kg)、羽片 4 (チャート 2、黒曜石 2)	後期	SI41 → 本跡 → SK118、PG7
120	C 6 a8	N-62°-E	[楕円形]	1.48 × (0.30)	34	皿状	外傾	自然	縄文土器 35 (1.12kg)	後期	SI41 → 本跡 → PG7
121	C 6 a7	N-1°-W	[不整隅丸方形]	(1.60) × 2.70	14	平垣	緩斜	-	縄文土器 638 (10.15kg)、土偶 1、 貝輪状 1、土器片多数 1、石皿 類 1、砥石 1、羽片 6 (チャート 3・黒曜石 3)、骨片	曾谷- 安行 1 式	SI41、SK115・118 → 本跡
122	C 6 d8	N-45°-E	楕円形	0.75 × 0.63	45	平垣	外傾	人為	縄文土器 12 (3.18kg)	曾谷式	SI16 → 本跡
123	C 6 e0	-	[円形]	1.00 × (0.46)	58	平垣	外傾	自然	縄文土器 67 (0.87kg)、礫器 1	後期	SI31B との新旧不明
125	C 6 e8	N-58°-E	楕円形	0.95 × 0.85	83	平垣	直立	人為	縄文土器 127 (1.60kg)、羽片 2 (チャート・黒曜石)	曾谷- 安行 1 式	SK128 → 本跡 S118・35 との新旧不明
126	B 6 b2	-	[円形]	(0.96) × 0.96	60	平垣	直立	人為	縄文土器 191 (2.72kg)、石皿類 1	後期後葉	小ピット 1 SI36 との新旧不明
127	B 6 b3	-	円形	1.24 × 1.16	86	平垣	直立	人為	縄文土器 247 (3.69kg)、磨製石 斧 1	安行 2 式	小ピット 1 SI36 → 本跡 S15 との新旧不明
128	C 6 e8	-	[円形・楕円形]	(0.75) × 0.75	66	平垣	直立	人為	-	縄文	本跡 → SK125 S118・35 との新旧不明
129	C 6 e8	N-57°-W	円形	1.00 × 1.00	34	皿状	緩斜	人為	縄文土器 17 (0.75kg)	加曾利 E Ⅱ 式	本跡 → SI16
130	C 6 e0	N-8°-W	楕円形	1.69 × 1.33	34	凹凸	外傾 緩斜	人為	縄文土器 26 (0.29kg)、磨石類 3、 羽片 1 (チャート)	後期	SI20 → 本跡 PG9 との新旧不明
131	B 6 b6	N-72°-E	楕円形	2.16 × 1.64	22	皿状	緩斜	人為	縄文土器 5 (0.01kg)	縄文	小ピット 2 本跡 → SI15・SK135
134	C 6 e0	N-20°-E	[楕円形]	2.68 × (2.10)	96	平垣	緩斜 内傾	自然	縄文土器 433 (5.66kg)、石核 2 (チャート・石英)	阿比古 I-Ⅱ 式 後期後葉	本跡 → UP6
135	B 6 b6	-	[円形]	1.16 × (0.68)	107	平垣	直立	人為	縄文土器 67 (1.19kg)	安行 3 b 式	SK131 → 本跡 → SI15
136	B 6 i2	N-10°-E	[隅丸長方形]	(1.65) × 1.28	120	平垣	直立	人為	(SK136・137 合わせて) 縄文土 器 78 (2.06kg)、石剣 1、三角石器 1	後期後葉	本跡 → SK137 → SI6 SI36 との新旧不明
137	B 6 i2	N-2°-E	[楕円形]	1.04 × (0.82)	100	皿状	外傾	人為	-	後期後葉	SK136 → 本跡 → SI6 SI36 との新旧不明
138	B 6 b3	-	[円形]	(1.08 × 0.41)	110	平垣	直立	人為	縄文土器 24 (0.29kg)、土器片多 数 1	縄文	SI42 → 本跡 → HG2
139	C 7 d2	-	円形	0.92 × 0.88	38	平垣	外傾	人為	縄文土器 4 (0.19kg)	中期後半- 後期前葉	SI40 との新旧不明
140	C 6 d0	-	円形	0.84 × 0.80	76	皿状	外傾	人為	縄文土器 37 (0.50kg)、磨石類 1	後期後葉	
141	C 7 e2	N-72°-E	[不整楕円形]	1.40 × 1.15	30	皿状	緩斜	自然	縄文土器 96 (1.45kg)、石皿類 1	堀之内 1 式	ピット 2 SK142 → 本跡
142	C 7 e2	N-23°-W	[不整楕円形]	(0.60) × 0.72	20	皿状	緩斜	自然	縄文土器 2 (0.02kg)	中期後半	本跡 → SK141
143	C 6 a6	N-30°-W	[楕円形]	1.06 × (0.60)	95	皿状	外傾	人為	縄文土器 166 (2.31kg)、骨鏃 1	後期後葉	小ピット 1 SK33 → 本跡 → SI8 → SK39
144	C 6 d9	N-20°-E	楕円形	0.86 × 0.76	22	平垣 緩斜	緩斜	人為	縄文土器 3 (0.03kg)	縄文	SI31 との新旧不明
146	C 6 d0	N-57°-E	楕円形	0.92 × 0.74	36	皿状	外傾	人為	縄文土器 6 (0.06kg)	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m) (袋状：開口部径 最大径)	深さ (cm)						
147	B 7 i2	N-6°-W	楕円形	0.88 × 0.72	42	平埧	外傾	人為	縄文土器 97 (1.42kg), 剥片 2 (チャート・黒曜石)	後期	SI48 → 本跡
148	C 7 d4	-	不整円形	0.90 × 0.80	76	平埧	直立	自然	-	縄文	SK158 → 本跡
149	C 7 b3	-	円形	0.72 × 0.70	30	平埧	外傾	人為	縄文土器 9 (0.16kg)	縄文	
150	B 7 i1	-	隅丸方形	1.26 × 1.22	195	平埧	直立	人為	縄文土器 137 (8.86kg), 磨石類 1, 砥石 2 (チャート), 製塩土器 1	安行 2 式	ビット 1
152	C 7 e2	N-63°-E	楕円形	0.98 × 0.80	12	平埧	外傾	自然	縄文土器 7 (0.17kg)	縄文	SI40 → 本跡
153	C 7 b3	N-27°-W	楕円形	1.32 × 1.06	121	平埧	直立	人為	縄文土器 158 (2.82kg), 石皿類 1	後期前葉	PG11 との新旧不明
154	C 7 b4	N-42°-W	楕円形	0.72 × 0.68	78	平埧	直立	自然	縄文土器 8 (0.14kg)	縄文	
155	C 7 b3	N-40°-E	楕円形	0.62 × 0.56	32	皿状	外傾	自然	縄文土器 8 (0.18kg), 貝輪状 1, 発泡体 1	縄文	
156	C 7 a4	N-51°-W	楕円形	0.52 × 0.44	80	平埧	直立	人為	縄文土器 5 (0.06kg)	縄文	
157	C 7 d2	N-46°-E	[楕円形]	2.00 × (1.60)	70	平埧	外傾 内埋	人為	縄文土器 43 (0.55kg)	後期	SI40 部 → 本跡
158	C 7 d4	N-27°-E	[楕円形]	(0.86) × 0.68	50	皿状	外傾	自然	-	縄文	本跡 → SK148
159	C 7 d3	-	円形	1.78 × 1.76	80	平埧	内傾 外傾	人為	縄文土器 27 (0.72kg)	後期前葉	SK99 → 本跡 SI40・60 との新旧不明
160	B 7 i2	-	円形	0.96 × 0.88	30	平埧	緩斜	自然	縄文土器 3 (0.08kg)	縄文	SI48 → 本跡
161	B 7 i1	N-81°-E	楕円形	0.98 × 0.80	26	平埧	外傾	人為	縄文土器 3 (0.06kg)	縄文	
162	B 7 i1	N-11°-E	隅丸長方形	1.08 × 0.82	56	平埧	直立	人為	縄文土器 28 (0.47kg)	縄文	SI48 → 本跡
163	B 7 h1	N-58°-W	楕円形	1.66 × 1.36	65	皿状	外傾	人為	縄文土器 259 (4.78kg), 打製石斧 1, 砥石 1, 石核 2 (チャート)	堀之内 1 式	
164	B 7 h2	N-19°-E	[楕円形]	(1.68) × 1.28	48	皿状	緩斜	自然	縄文土器 21 (0.34kg)	称名寺 2 式	SI48 → 本跡 → SK181
165	B 7 i3	N-34°-E	楕円形	1.08 × 0.64	92	平埧	直立	人為	縄文土器 13 (0.22kg)	中期	
166	C 7 e3	-	隅丸方形	1.64 × 1.58 2.22 × 1.66	92	平埧	内埋	人為	縄文土器 50 (1.90kg), 石盤 1	阿玉台 IV 式	SI45 → 本跡
168	B 6 i9	-	[円形・楕円形]	1.09 × (0.80)	38	平埧	外傾	-	縄文土器 78 (1.08kg)	安行 2 式	ビット 2 SI46・SK4 → 本跡
169	C 7 d1	N-29°-W	楕円形	1.80 × 1.44	42	凹凸	緩斜	人為	縄文土器 194 (2.75kg), 磨石類 1, 砥石 1, 石剣 1	後期 - 前期 前葉	
171	C 6 a9	-	円形	0.96 × 0.96	27	皿状	緩斜	人為	縄文土器 7 (0.06kg)	後期	SI47 との新旧不明
178	C 6 b9	N-57°-E	楕円形	0.90 × 0.80	20	平埧	外傾	-	縄文土器 9 (0.17kg)	中期後半 - 後期前葉	SI47 との新旧不明
179	C 6 b8	-	[楕円形]	(1.15) × 1.00	(180)	-	直立	人為	縄文土器 278 (5.00kg), 土器片 円盤 2, 焼成粘土塊 1	安行 3 式	SI35 → 本跡
180	C 6 b9	N-35°-E	楕円形	2.61 × 2.18	80	平埧	直立	人為	縄文土器 216 (3.12kg), 石皿類 1, 砥石 1, RFL 剥片 2 (黒曜石), 焼成粘土塊 3	中期後半 - 後期前葉	ビット 4 本跡 → SI35・47
181	B 7 i1	N-37°-E	楕円形	0.66 × 0.48	52	皿状	直立	自然	縄文土器 1 (0.02kg)	縄文	SI48, SK164 → 本跡
182	C 7 b3	N-72°-E	楕円形	0.54 × 0.48	29	皿状	外傾	人為	-	縄文	PG11 との新旧不明
183	C 7 d5	N-1°-W	楕円形	0.66 × 0.58	22	平埧	外傾	人為	縄文土器 10 (0.09kg)	縄文	
187	C 7 b6	N-8°-W	楕円形	(0.94) × 0.82	22	平埧	外傾	人為	縄文土器 48 (0.56kg), 磨石類 1, 砥石 1, 剥片 2 (黒曜石)	後期前葉	本跡 → SB1, SK229
190	C 7 d5	-	円形	0.56 × 0.56	54	平埧	直立	人為	縄文土器 13 (0.15kg)	縄文	
195	C 7 e6	-	円形	0.58 × 0.56	60	皿状	直立	人為	(SK195・196 が現在) 縄文土器 66 (1.22kg), 磨石類 1, 石皿類 1	称名寺 2 式	
196	C 7 e6	N-9°-E	楕円形	1.19 × 1.02	198	平埧	直立	人為	-	称名寺 2 式	
197	C 6 d0	N-28°-E	楕円形	1.06 × 0.78	36	平埧	外傾	自然	-	縄文	
198	B 6 i8	N-27°-W	楕円形	1.11 × 0.63 1.28 × 0.63	138	平埧	内埋	人為	縄文土器 33 (0.50kg)	縄文	SI44 → 本跡
199	C 6 e8	N-75°-E	楕円形	0.95 × (0.60)	49	平埧	外傾	人為	(SK199・200 が現在) 縄文土器 15 (0.48kg), 土器片円盤 1, 硯 器 1	中期	本跡 → SI18, SK200
200	C 6 d8	N-81°-E	楕円形	1.55 × 1.18	42	平埧	直立	人為	-	後期	SK199 → 本跡 SI18 との新旧不明
203	C 7 e6	N-85°-E	[楕円形]	(0.74) × 0.88	45	平埧	直立	人為	-	縄文	
204	C 6 e9	-	円形	1.47 × 1.47	60	平埧	直立 内埋	人為	縄文土器 43 (0.63kg), 土器片円 盤 1, 磨石類 1, 砥石 1	後期	本跡 → SI20
208	C 7 e3	N-54°-W	楕円形	1.82 × 1.52	75	平埧	外傾	人為	縄文土器 17 (0.22kg)	縄文	小ビット 1 SI60 → 本跡
209	C 7 d3	-	[円形]	0.72 × (0.32)	18	平埧	緩斜	人為	磨石類 1	縄文	本跡 → SK210 SI60 との新旧不明
210	C 7 d3	-	[円形]	0.60 × (0.18)	35	平埧	外傾	人為	-	縄文	SK209 → 本跡 → SK99 SI60 との新旧不明
211	C 7 d3	N-9°-E	楕円形	1.10 × 0.96	66	平埧	外傾	自然	縄文土器 5 (0.07kg)	縄文	
212	C 7 d4	N-84°-E	楕円形	0.84 × 0.71	35	皿状	緩斜	自然	縄文土器 4 (0.05kg)	縄文	
213	C 7 d4	N-36°-E	楕円形	0.78 × 0.65	142	皿状	直立	自然	縄文土器 1	早期桑原文系	
214	C 7 d4	-	円形	0.94 × 0.87	60	平埧	外傾	自然	縄文土器 4 (0.05kg)	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	露土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m) (袋状：開口部径 最大径)	高さ (cm)						
215	C 7 c4	-	[隅丸方形]	(0.62) × 0.66	18	平垣	外傾	自然	縄文土器 1 (0.03kg)	後期	SI45 との新田不明
216	C 7 d4	N-49°-E	楕円形	0.64 × 0.48	38	皿状	外傾	自然	縄文土器 6 (0.12kg)	後期	
217	C 7 a3	-	[隅丸方形]	0.97 × 0.90	33	平垣	緩斜	人為	縄文土器 12 (0.19kg)	後期	SI51 との新田不明
218	C 7 a3	N-31°-W	楕円形	1.12 × 0.98	148	平垣	直立	自然	縄文土器 422 (673kg)、土器 1、 土器片内盤 2、砥石 2、磨石 1、 割片 3 (チャート)、焼成粘土塊 1	安行 3 a 式	
219	C 7 d8	-	円形	0.48 × 0.48	38	皿状	外傾	人為	縄文土器 7 (0.15kg)	後期	
220	C 7 e8	-	円形	0.66 × 0.64	38	皿状	外傾	人為	縄文土器 6 (0.07kg)	縄文	
221	C 7 e8	-	円形	0.36 × 0.36	36	平垣	外傾	人為	縄文土器 4 (0.05kg)	後期	
223	C 7 b2	-	円形	1.38 × 1.26	182	平垣	直立	人為	縄文土器 542 (944kg)、土器 1、 耳輪 1、貝輪状 1、磨石類 3、 石皿類 1、砥石 2、磨石 1 層に 完形土器、土層に焼土層	安行 1 式 安行 2 式	ビット 1 本跡 → SK243 SI53 との新田不明
224	C 7 a2	-	円形	1.06 × 1.01	115	平垣	直立	人為	縄文土器 118 (5.15kg)、土器片 内盤 2、打製石斧 1、石核 1、 (チャート)、割片 11 (黒曜石)	後期後葉	SI59 との新田不明
228	B 7 j2	N-60°-E	楕円形	1.22 × 1.00 1.23 × 1.20	175	平垣	直立	人為	縄文土器 347 (7.28kg)、土器片 内盤 1、磨石類 1	後期中葉 - 晩期前葉	ビット 1 SI54 → 本跡 SI59 との新田不明
231	C 7 a2	N-62°-E	楕円形	1.32 × 1.08 1.60 × 1.59	108	平垣	内傾	自然	縄文土器 55 (1.24kg)	阿玉台 IV 式	本跡 → SI59
232	C 7 a2	N-3°-E	楕円形	1.45 × 1.20 1.80 × 1.55	84	平垣	内傾	人為	縄文土器 81 (1.72kg)、磨製石斧 1、 石核 1 (頁岩)、割片 1 (燧石)	阿玉台 IV 式	本跡 → SI59 SK260 との新田不明
233	B 7 j2	-	円形	1.42 × 1.37 1.70 × 1.60	80	平垣	内傾	人為	縄文土器 36 (4.28kg)	加曾利 E 1 式	本跡 → SI54
235	B 7 j4	-	円形	0.65 × 0.60	50	有段	外傾	人為	縄文土器 2 (0.06kg)	縄文	
236	B 7 j3	-	円形	0.51 × 0.47	42	皿状	外傾	人為	縄文土器 1 (0.02kg)	縄文	SK237 → 本跡
237	B 7 j3	N-7°-E	[楕円形]	(0.60) × 0.47	53	有段	直立	人為	縄文土器 4 (0.05kg)	縄文	本跡 → SK236
240	C 7 d7	N-21°-E	[楕円形]	(1.04) × 0.76	24	凹凸	外傾	人為	縄文土器 15 (0.28kg)	縄文	本跡 → SK241
241	C 7 c7	-	[円形]	0.74 × (0.65)	32	平垣	外傾	人為	縄文土器 3 (0.03kg)、砥石 1、 RF1	縄文	SK240 → 本跡 → SK242
242	C 7 c7	N-3°-E	楕円形	0.74 × 0.58	20	皿状	外傾	人為	縄文土器 1	後期	SK241 → 本跡
243	C 7 b2	N-70°-W	[不整楕円形]	(2.40 × 1.18)	47	平垣	直立	自然	縄文土器 86 (1.24kg)、耳輪 2、 打製石斧 1、磨石類 1、砥石 1	後期後葉	SK223 → 本跡 SI53 との新田不明
244	C 7 b1	N-47°-E	楕円形	1.26 × 1.00	37	平垣	外傾	自然	縄文土器 3 (0.18kg)	加曾利 E 1 式	本跡 → SI53
246	B 6 j0	-	[円形]	[1.42 × 1.32]	200	平垣	直立	人為	縄文土器 780 (13.28kg)、土器 1、 杯状 1、貝輪状 1、土器片内盤 3、 磨製石斧 1、磨石類 1、石皿類 1、 石核 3 (チャート 2・燧石 1)、 焼成土 1	後期後葉 - 晩期前葉	ビット 1 SK265 → 本跡 → SK276 SI47SK264・271 との新 田不明
247	C 7 c1	N-7°-E	[楕円形]	(0.90) × 0.83	99	平垣	直立	人為	縄文土器 108 (2.79kg)、割片 1 (黒 曜石)、貝輪片	後期後葉	本跡 → SI53
253	C 7 e2	N-24°-E	[楕円形]	(1.30) × 2.10	34	平垣	外傾	自然	縄文土器 125 (2.29kg)、磨石類 2、 砥石 1、磨石土器 1	堀之内 1 式	本跡 → SK254 SI40SK270 との新田不明
254	C 7 e2	-	円形	(1.62 × 1.22)	122	平垣	直立	人為	縄文土器 212 (8.70kg)、土版 1、 土器片内盤 1、磨石類 5、石皿 類 1	安行 3 a 式 安行 3 b 式	SK253・270 → 本跡 → SK255 SI40 との新田不明
255	C 7 e2	N-65°-E	[楕円形]	(1.94 × 1.52)	41	平垣	外傾	自然	縄文土器 14 (0.16kg)	後期 - 晩期	SK270 → SK254 → 本跡 SI40 との新田不明
256	C 7 e1	N-9°-W	不整楕円形	1.74 × 1.52	76	平垣	外傾	人為	縄文土器 43 (0.74kg)、磨石類 1	阿玉台 IV - 加曾利 E 1 式	
260	C 7 a1	-	[円形]	(0.79 × 0.42)	38	平垣	外傾	-	-	縄文	SI31・59SK232 との新田 不明
261	C 7 b2	-	[隅丸方形]	0.78 × (0.62)	5	平垣	外傾	自然	縄文土器 11 (0.13kg)	縄文	SI53 との新田不明
264	C 6 a9	N-78°-E	[楕円形]	(0.70) × 0.97	52	平垣	外傾	-	縄文土器 3 (0.13kg)	後期	SI47SK246・276 との新 田不明
265	C 6 a0	N-57°-W	[楕円形]	(0.80) × 0.70	46	平垣	外傾	-	-	縄文	本跡 → SK246 SI47 との新田不明
266	B 7 h6	N-76°-W	楕円形	1.54 × 1.02	20	平垣	緩斜	人為	縄文土器 9 (0.30kg)	加曾利 E 1 式	
267	B 7 h6	N-5°-W	楕円形	0.78 × 0.68	28	平垣	外傾	自然	縄文土器 1 (0.02kg)	中期前半	
268	B 7 h6	N-23°-W	楕円形	2.34 × 1.53	93	皿状	外傾	自然	縄文土器 26 (0.41kg)	縄文	陥し穴
269	C 6 d7	N-10°-E	[楕円形]	(2.02 × 0.95)	38	凹凸	緩斜	人為	縄文土器 13 (0.26kg)	加曾利 E 1 式	本跡 → SI16
270	C 7 e2	N-70°-W	[楕円形]	2.32 × (1.55)	66	平垣	外傾	自然	-	縄文	本跡 → SK254 → SK255 SI40SK253 との新田不明
271	C 6 a0	-	[円形]	0.84 × (0.52)	51	平垣	外傾	-	縄文土器 40 (0.65kg)	中期 - 後期	SI47SK246・276 との新田不明
272	B 7 i1	-	円形	0.68 × 0.62	62	平垣	直立	人為	縄文土器 1	安行 1 式	SI48 → 本跡
274	C 6 e7	N-28°-E	不整楕円形	1.17 × 0.92	44	凹凸	緩斜	人為	-	縄文	SI16 との新田不明
275	C 6 e9	N-20°-E	楕円形	0.78 × 0.68	65	平垣	直立	-	-	縄文	SI35 との新田不明
276	C 6 a0	N-36°-W	楕円形	1.80 × 1.15	143	平垣	直立	人為	-	縄文	SK246 → 本跡 SI47SK264・265・271 と の新田不明

(3) 炉跡

第1号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7j2区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 西部が攪乱のため、平面形は東西径65cm、南北径76cmしか確認できなかった。円形と推測でき、深さ12cmの地床炉で、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 明赤褐色 焼土粒子多量、炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1点が出土している。

所見 南部にピット等があるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

第2号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7j1区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 東部が攪乱のため、平面形は東西径65cm、南北径90cmしか確認できなかった。楕円形と推測でき、深さ12cmの地床炉で、炉底面の赤変硬化は確認できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、剥片1点(黒曜石)のほか、骨片が少量出土している。

所見 南部にピットがあるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

第3号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7h2区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 長径50cm、短径50cmの円形の地床炉である。深さは14cmで、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

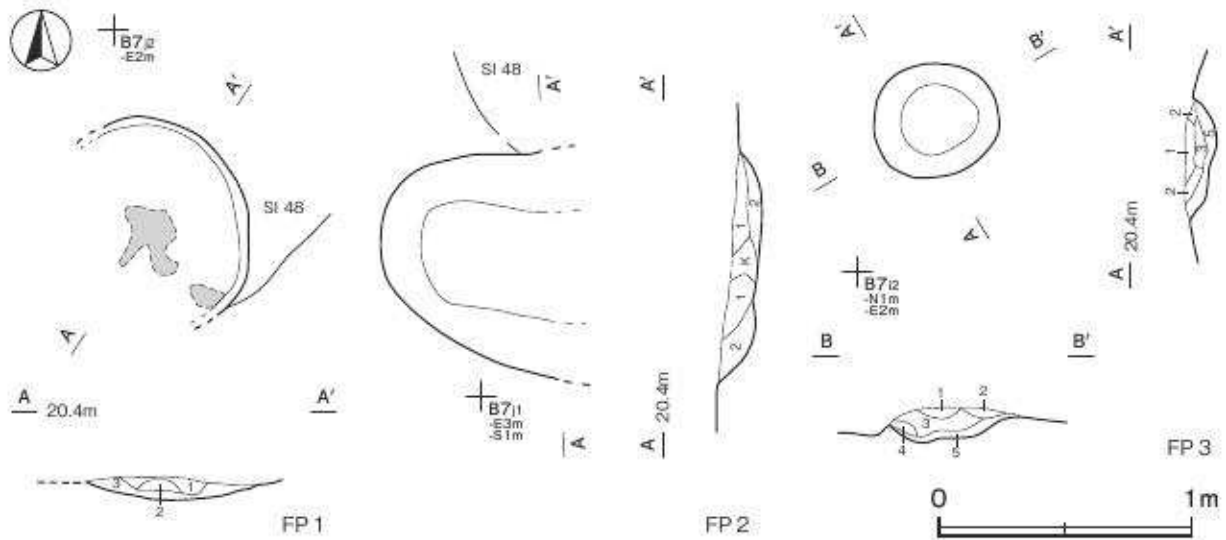
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 3 に染み褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 4 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片3点が出土している。

所見 東部にピットがあるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

表4 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B7j2	-	[円形]	0.76×0.65	12	皿状	緩斜	自然	縄文土器片1	SI48→本跡
2	B7j1	-	[楕円形]	0.90×0.65	12	皿状	緩斜	自然	縄文土器片3、剥片1(黒曜石)	SI48→本跡
3	B7h2	-	円形	0.50×0.50	14	皿状	緩斜	自然	縄文土器片3	SI49→本跡



第261図 第1～3号炉跡実測図

(4) ビット群

覆土と出土遺物から、縄文時代に帰属するものとしたが、それ以降の時期の可能性もある。

第2号ビット群 (第262図)

位置 調査A区南西部のC 6 d3～C 6 f3区、標高20mほどの台地平坦部の東西2.0m、南北7.0mの範囲から、ビット5か所を確認した。

重複関係 第14号竪穴建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径38～95cm、短径35～66cmの円形または楕円形で、深さは23～87cmである。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片20点、剥片1点(チャート)が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第2号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6 d3	楕円形	95	60	68
2	C 6 e3	円形	68	66	30
3	C 6 f3	楕円形	67	57	24
4	C 6 d3	円形	38	35	87
5	C 6 d3	円形	38	35	23

第3号ビット群 (第262図)

位置 調査A区南西部のC 6 d5～C 6 f5区、標高20mほどの台地平坦部の東西6.0m、南北7.0mの範囲から、ビット13か所を確認した。

重複関係 第11号竪穴建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径30～88cm、短径20～80cmの円形または楕円形で、深さは19～68cmである。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

ビット P 9～P 13は出入口ビット状である。

P 9土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P 10～P 12土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 47 点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 3 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 6 e5	円形	30	28	56	6	C 6 e5	楕円形	48	38	19	10	C 6 d5	円形	50	50	66
2	C 6 e5	円形	37	34	43	7	C 6 d5	楕円形	47	38	48	11	C 6 d5	楕円形	30	29	50
3	C 6 e5	不整形円形	40	38	19	8	C 6 e6	楕円形	45	34	26	12	C 6 d5	楕円形	60	48	48
4	C 6 e5	円形	52	51	21	9	C 6 d5	不整形楕円形	88	80	68	13	C 6 d5	楕円形	34	30	41
5	C 6 e5	楕円形	68	48	37												

第 5 号ビット群 (第 262 図)

位置 調査 A 区南西部の C 6 e2 ~ C 6 e2 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 3.0 m、南北 6.0 m の範囲から、ビット 7 か所を確認した。

規模と形状 平面形は長径 34 ~ 88cm、短径 14 ~ 62cm の円形または楕円形で、深さは 5 ~ 115cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 30 点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 5 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6 d2	楕円形	46	(32)	57
2	C 6 e2	不整形楕円形	88	62	115
3	C 6 e2	楕円形	42	36	63
4	C 6 e2	円形	34	32	38
5	C 6 d2	楕円形	(15)	14	5
6	C 6 e2	楕円形	68	61	24
7	C 6 d2	楕円形	37	30	27

第 6 号ビット群 (第 262 図)

位置 調査 A 区北部の B 6 i7 ~ B 6 i8 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 3.0 m、南北 3.5 m の範囲から、ビット 5 か所を確認した。

重複関係 第 44 号竪穴建物跡と重複しており、これらより上位の第 2 号遺物包含層中で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は長径 36 ~ 52cm、短径 36 ~ 50cm の円形で、深さは 7 ~ 66cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 28 点、土器片円盤 1 点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 6 号ビット群ビット計測表

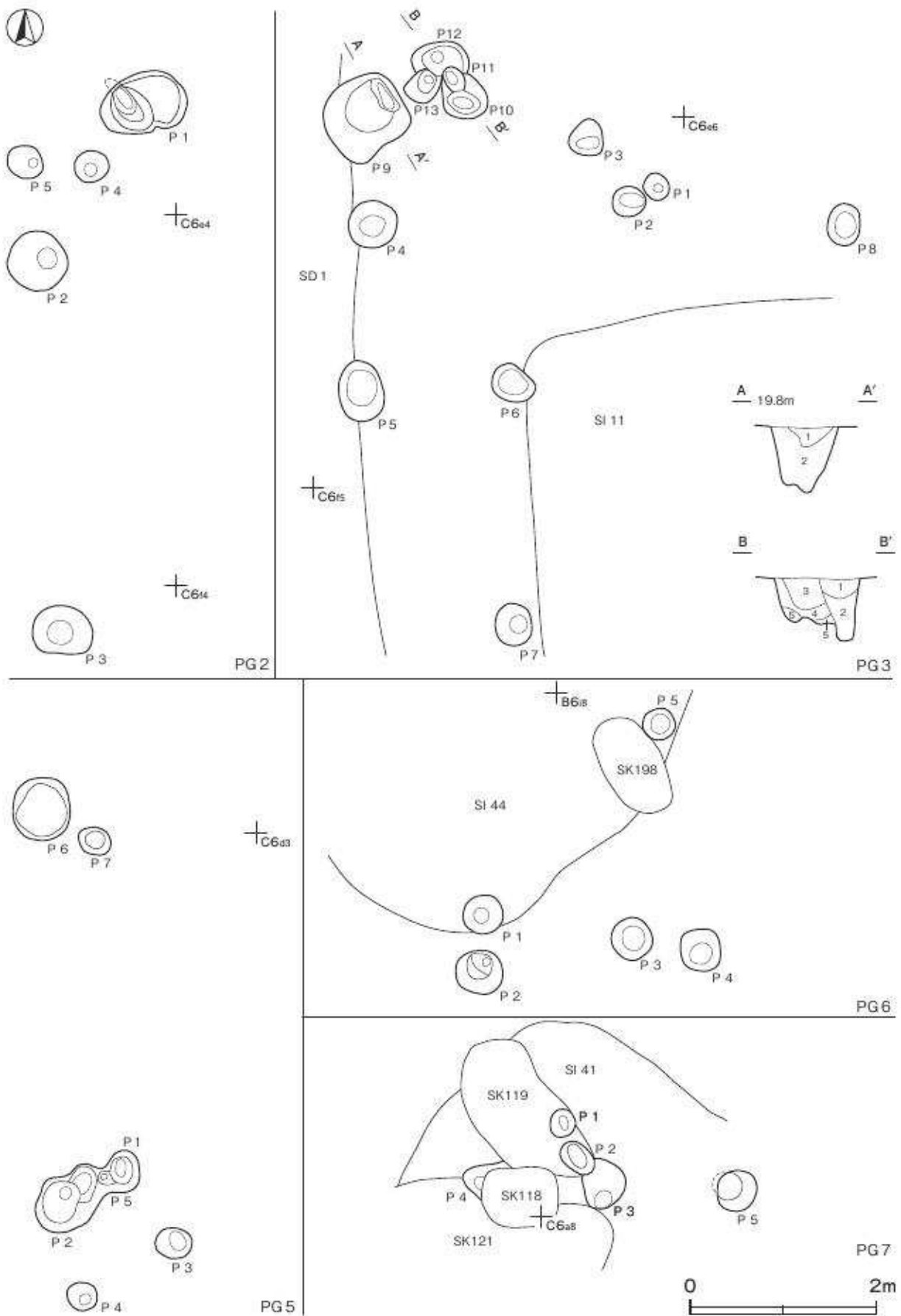
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6 i7	円形	44	43	11
2	B 6 i7	円形	52	50	66
3	B 6 i8	円形	48	45	7
4	B 6 i8	円形	48	46	27
5	B 6 i8	円形	36	36	11

第 7 号ビット群 (第 262 図)

位置 調査 A 区中央部の B 6 j7 ~ B 6 j8 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 4.0 m、南北 2.0 m の範囲から、ビット 5 か所を確認した。

重複関係 第 41 号竪穴建物跡と重複しており、これらより上位の第 2 号遺物包含層中で確認できたことから、本跡が新しい。第 118・119・121 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径 32 ~ 48cm、短径 27 ~ 46cm の円形または楕円形で、深さは 18 ~ 120cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。



第 262 図 第 2・3・5～7号ピット群実測図

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 124 点、土製品 2 点（土偶、土器片円盤）、石器 1 点（磨石類）のほか、剥片 2 点（チャート、黒曜石）が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 8 号ビット群（第 263 図）

位置 調査 A 区北部の B 6 i8 ~ B 6 j9 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 4.5 m、南北 6.5 m の範囲から、ビット 20 か所を確認した。

規模と形状 平面形は長径 30 ~ 80cm、短径 27 ~ 69cm の円形または楕円形で、深さは 14 ~ 81cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 98 点、磨製石斧 1 点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 8 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 6 i9	楕円形	40	30	37	8	B 6 i8	楕円形	40	36	14	15	B 6 j8	円形	30	27	22
2	B 6 i9	円形	68	63	81	9	B 6 i8	楕円形	37	28	14	16	B 6 j9	[楕円形]	(58)	49	69
3	B 6 i8	[円形]	46	(42)	28	10	B 6 i8	楕円形	80	69	27	17	B 6 j9	円形	43	42	31
4	B 6 i8	楕円形	43	37	22	11	B 6 i8	[円形]	62	(33)	20	18	B 6 j8	円形	38	37	30
5	B 6 i8	円形	54	52	41	12	B 6 i8	楕円形	32	27	18	19	B 6 i8	[円形・楕円形]	42	(20)	-
6	B 6 i8	円形	47	46	56	13	B 6 j9	[円形・楕円形]	56	(17)	-	20	B 6 j9	[円形]	38	(36)	62
7	B 6 i8	円形	44	43	46	14	B 6 j8	楕円形	66	43	18						

第 9 号ビット群（第 263 図）

位置 調査 A 区中央部の C 6 c0 ~ C 6 d0 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 2.0 m、南北 3.5 m の範囲から、ビット 3 か所を確認した。

重複関係 第 130 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径 48 ~ 60cm、短径 40 ~ 46cm の円形または楕円形で、深さは 26 ~ 76cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

所見 時期と性格は不明である。

第 10 号ビット群（第 263 図）

位置 調査 A 区北東部の B 7 h1 ~ B 7 i3 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 8.0 m、南北 3.0 m の範囲から、ビット 4 か所を確認した。

規模と形状 平面形は長径 22 ~ 56cm、短径 20 ~ 38cm の円形または楕円形で、深さは 24 ~ 44cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ビット内から縄文土器片 11 点、磨石類 1 点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第 7 号ビット群ビット計測表

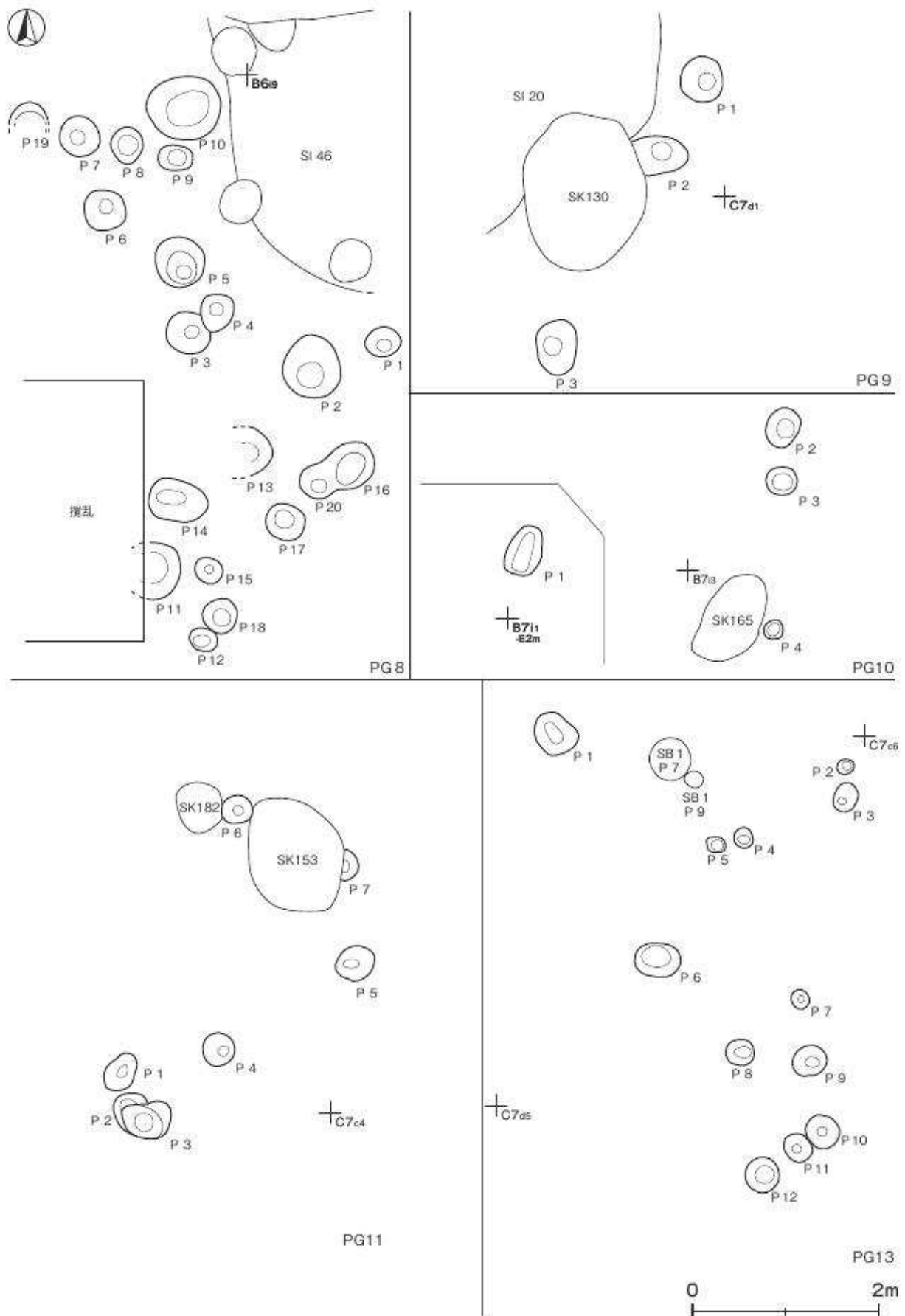
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6 j8	楕円形	32	27	42
2	B 6 j8	楕円形	42	30	52
3	B 6 j8	[楕円形]	(40)	46	54
4	B 6 j7	[不整楕円形]	48	(34)	18
5	B 6 j8	円形	47	46	120

第 9 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6 c0	円形	48	46	76
2	C 6 c0	[楕円形]	(55)	40	48
3	C 6 d0	楕円形	60	42	26

第 10 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 7 h1	楕円形	56	38	24
2	B 7 h3	楕円形	42	36	44
3	B 7 h3	円形	32	32	42
4	B 7 i3	円形	22	20	28



第 263 図 第 8 ～ 11 ・ 13 号ピット群実測図

第11号ピット群 (第263図)

位置 調査A区東部のC7b3～C7c3区、標高20mほどの台地平坦部の東西3.0m、南北4.0mの範囲から、ピット7か所を確認した。

重複関係 第153・182号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径32～52cm、短径30～42cmの円形または楕円形で、深さは21～60cmである。ピットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ピット内から縄文土器片20点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第11号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C7b3	楕円形	44	32	57
2	C7b3	[円形]	40	(39)	21
3	C7c3	不整形	52	42	60
4	C7b3	円形	36	36	36
5	C7b4	楕円形	46	36	23
6	C7b3	円形	32	30	21
7	C7b4	[楕円形]	32	(24)	24

第13号ピット群 (第263図)

位置 調査A区東部のC7c5～C7d5区、標高20mほどの台地平坦部の東西3.5m、南北5.5mの範囲から、ピット12か所を確認した。

規模と形状 平面形は長径18～50cm、短径16～40cmの円形または楕円形で、深さは7～45cmである。ピットの分布状況から、建物跡は想定できない。

遺物出土状況 ピット内から縄文土器片46点が出土している。

所見 時期と性格は不明である。

第13号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C7c5	楕円形	48	40	24	5	C7c5	楕円形	21	18	7	9	C7c5	楕円形	38	32	32
2	C7c5	楕円形	18	16	15	6	C7c5	楕円形	50	38	20	10	C7d5	楕円形	38	34	45
3	C7c5	楕円形	32	25	21	7	C7c5	円形	22	20	23	11	C7d5	楕円形	32	28	28
4	C7c5	円形	22	21	20	8	C7c5	円形	30	28	22	12	C7d5	円形	40	38	12

表5 縄文時代ピット群一覧表

番号	位置	規模		ピット数	主な出土遺物	備考
		東西	南北			
2	C6d3～C6d3	2.0	7.0	5	縄文土器片20、割片1(チャート)	SI14との新旧不明
3	C6d5～C6d5	6.0	7.0	13	縄文土器片47	SI11との新旧不明
5	C6e2～C6e2	3.0	6.0	7	縄文土器片30	
6	B6f7～B6d8	3.0	3.5	5	縄文土器片28、土器片円盤1	SI44→本跡
7	B6f7～B6f8	4.0	2.0	5	縄文土器片124、土器1、土器片円盤1、磨石類1、割片2(チャート・黒曜石)	SI41→本跡 SK118・119・121との新旧不明
8	B6f8～B6f9	4.5	6.5	20	縄文土器片98、磨製石斧1	
9	C6e0～C6d0	2.0	3.5	3	-	SK130との新旧不明
10	B7h1～B7f3	8.0	3.0	4	縄文土器片11、磨石類1	
11	C7b3～C7c3	3.0	4.0	7	縄文土器片20	SK153・182との新旧不明
13	C7c5～C7d5	3.5	5.5	12	縄文土器片46	

(5) 遺物包含層

今回の調査で、縄文時代の遺物包含層を2か所確認した。B区で確認できたものを第1号遺物包含層、A区で確認できたものを第2号遺物包含層としたが、A区とB区の間は現代の土取りにより掘削されているため便宜的に2つに分けただけで、本来的には一連のものであると考えられる。また第1号遺物包含層は斜面部に近い位置にあること、中世以降の遺構に掘り込まれている部分が多いことなどから、残存状況が良好ではない。そこでここでは主に第2号遺物包含層について取り上げ、第1号遺物包含層については、第2号遺物包含層について詳述する中で、特筆されるべき点を記述することとしたい。

第2号遺物包含層 (第264～318図 PL24・25)

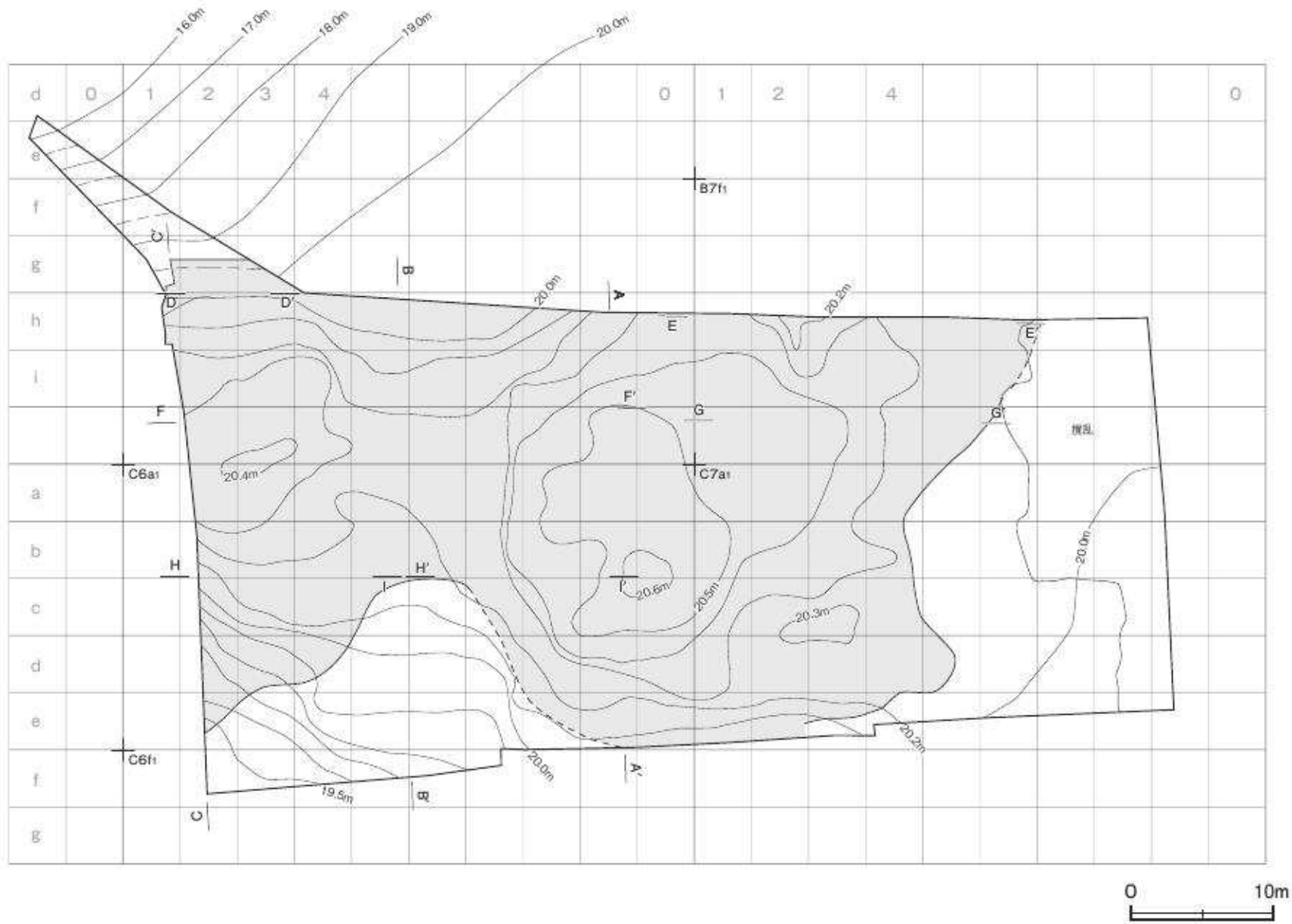
位置 調査A区のはほぼ全体のB6g2～C7e3区、標高20mほどの台地平坦部から斜面部にかけて分布している。

確認状況と重複関係 表土除去を行う前から多量の縄文土器が散布する状況が確認できたため、遺物包含層の範囲と層厚を把握するため、調査区内に確認トレンチを設定し掘り下げを行った。その結果、調査区のはほぼ全体で遺物包含層が確認でき、南側の台地平坦部では約10cm、北側の斜面部では厚いところで約140cmの層厚を確認した。各遺構との新旧関係はすべてにおいて捉えられたわけではないが、大まかには第1層を掘り込む遺構、第2層を掘り込む遺構、第2層下で確認できる遺構があり、新旧関係については、それぞれの遺構の解説の中で記述している。遺物包含層中の遺構は第2層上面で確認できるものが多く、黒褐色土が主体の第1層を掘り下げ、暗褐色土が主体の第2層上面になると遺物の分布が集中する地点が確認できるようになり、その部分を精査しながら掘り進めると、建物跡などの遺構が把握できるという状況であった。

包含層の広がりと**堆積状況** 北部と西部が調査区域外に延びているため、東西61.4m、南北33.0mしか確認できなかった。表土除去後の遺物包含層の上面の等高線図(第264図)を確認すると、C6b9～C6b0区付近を頂点にB6i8～B7j3区、及びC6d0区付近が楕円形状に20～30cmほど高くなっている様子が確認できる。またC6a3区付近を中心としたB6i3～C6b3区付近も、楕円形状に10～20cmほど高くなっている。遺物包含層は、等高線の高まりに合致するように分布している。

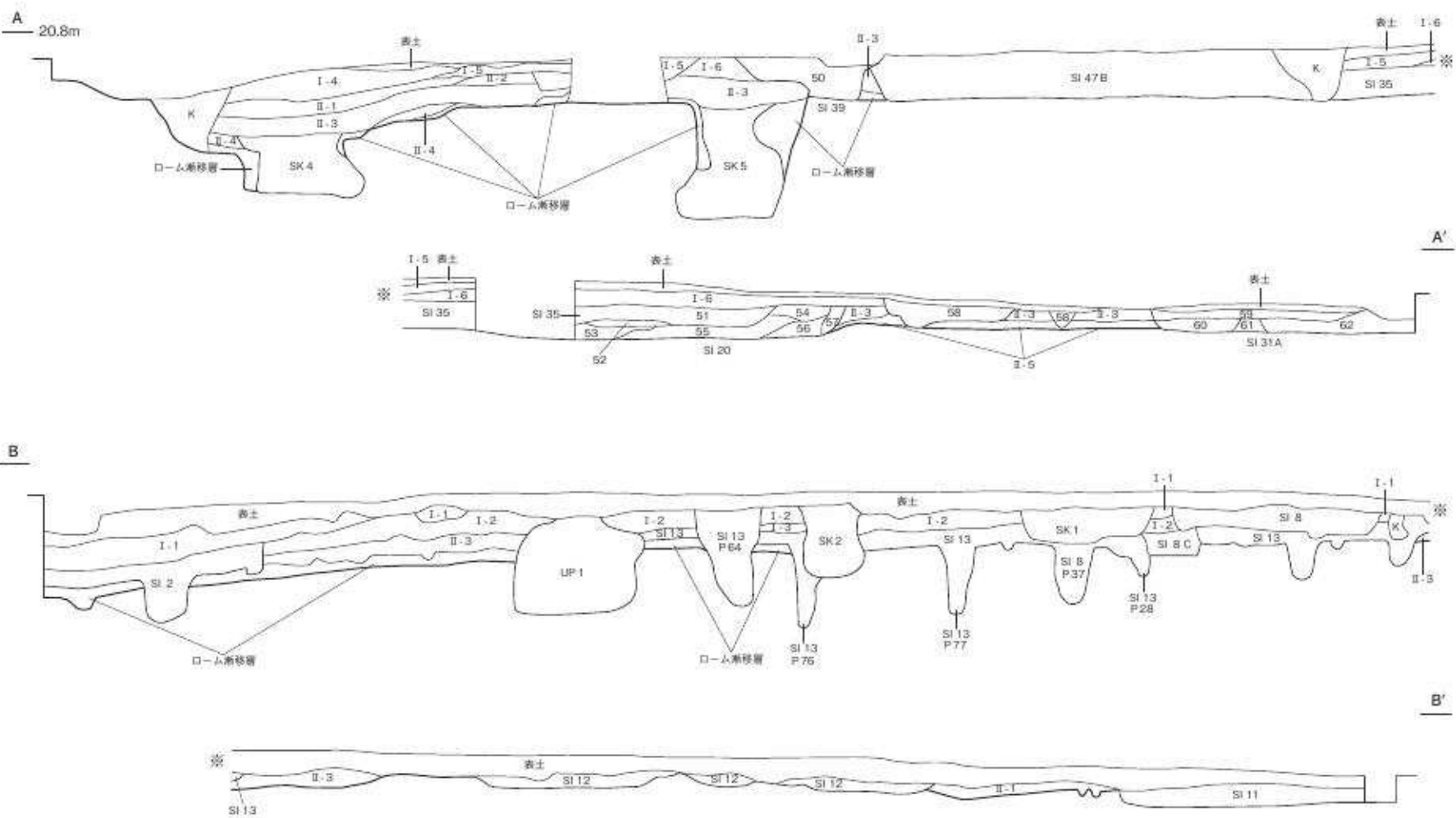
堆積層は15層に分層できる。遺物包含層は、色調や含有物の特徴から大きく2つに分けることができる。黒色土あるいは黒褐色土を主体とするI層は、層厚10～40cmで、特に中央部から北部を中心に分布している。I層は9層に細分でき、I-1～3層は特に多量の遺物が含まれている。竪穴建物跡などの遺構の多くは、I層を掘り下げた段階で確認できた。II層はローム粒子がやや多く含まれている暗褐色土を主体とする層で、遺物包含層の分布範囲の全体で確認できる。層厚は20～60cmで、北部の斜面部ほど厚くなる傾向がある。II層は6層に細分できる。いずれもローム粒子や、少量の焼土粒子・炭化粒子のほかに、多量の縄文土器や土製品、石器などが含まれている。後期後半期以降の遺構の多くはII層を掘り込んでいる様子が確認できるが、II層は遺構の覆土とも類似しており、判断が困難な部分がある。ゆえに確認できたほかにも、遺構となるものが存在する可能性がある。II-6層は、特にローム粒子が多く含まれており、ローム質土とも言える層である。第35号建物跡の上位付近に限定して確認できた。

調査区西壁に設定したC-C'ラインは、調査区南部から北部の斜面部まで、北壁に設定したD-D'、E-E'ラインは、調査区西部から中央部まで通して堆積状況を確認した部分で、1m以上の層厚で堆積が確認できたこともあり、別に通し番号で土層を観察した。第1～4層がI層に対応する。C-C'ラインでは、B6h2・B6i2付近の第2層の下位がほぼ平坦で、以下のII層相当の一群との間が、不整合面をなしている。断面上



第264图 第2号遺物包含層上面等高线图

0 2m



第265図 第2号遺物包含層実測図(1)

で第2層下面からピットなどの多くの遺構の掘り込みが確認できることから、II層堆積後の一定期間に、整地行為や施設の構築などの生活面が形成された可能性がある。第2層下のII層相当層では、ローム粒子がやや多く含まれている暗褐色土を主体とした層と、黒褐色土を主体とした層が、互層をなすように堆積している様子が確認できた。この範囲には後期後葉の安行2式期の第43号建物跡が位置しており、建物跡の覆土との判別は困難で、建物跡を埋めるように斜面上位から流れ込むように堆積している様子が確認できた。なお第25・30～40層は、第42・43号建物跡の覆土として前述しているが、包含層との判別がしがたく特に斜面部では分層することが困難であった。南部は遺物包含層が薄く、部分的にはローム漸移層がなく、ローム面上に直接遺物包含層のII層や表土層が堆積している。第51・52層は第35D号竪穴建物跡の覆土、第53～57層は第20号竪穴建物跡の覆土、第59～62層は第31A号竪穴建物跡の覆土、第63～73層は第6号竪穴建物跡の覆土、第93・94層は第32号竪穴建物跡の覆土である。第7～15・19・20・39・40・46・47・74～92層は、平面では捉えられなかったが遺物包含層を掘り込んでいる遺構の堆積土である。

土層解説

表土	黒褐色	色	上層10cmが締まり弱。下層は旧表土。	16	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
1-1	黒褐色	色	土器片多量、焼土粒子・炭化粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(遺構覆土)
1-2	暗褐色	色	土器片多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量	18	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量(ピット覆土)
1-3	黒褐色	色	土器片多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	19	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(ピット覆土)
1-4	黒色		ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量(この周辺のみ分布)	20	暗褐色	ピット覆土
1-5	黒褐色	色	ローム粒子微量	21	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
1-6	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	22	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(遺構覆土)
1-7	黒色		ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	23	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
1-8	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子少量	24	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
1-9	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	25	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
II-1	暗褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量(ローム質土)	25	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
II-2	暗褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量(ローム質土 II-1よりしまり弱)	26	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
II-3	暗褐色	色	土器片多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	27	暗褐色	土器片多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
II-4	暗赤褐色	色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	27	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
II-5	暗褐色	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	28	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
II-6	褐色		ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量(ローム質土)	29	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック・骨粉少量
1	暗褐色	色	ローム粒子・白色粒子少量(表土層)	30	黒褐色	土器片多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、骨粉少量
2	極暗褐色		ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(1-1対応)	31	黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・骨粉少量
3	黒色		炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量	32	暗褐色	土器片多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(1-4対応)	33	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	34	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量
6	極暗褐色		ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	35	極暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子・骨粉少量
7	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ピット覆土)	36	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量少量
8	極暗褐色		ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ピット覆土)	37	暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量
9	暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ピット覆土)	38	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量(ローム漸移層に類似)
10	黒褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(ピット覆土)	38	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(41より暗)
11	暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ピット覆土)	39	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量(ピット覆土)	40	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量(ピット覆土)
13	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ピット覆土)	41	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
14	暗褐色	色	ロームブロック中量、焼土粒子少量(ピット覆土)	42	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
15	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ピット覆土)	43	赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
				44	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
				45	黒色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
				46	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ピット覆土)
				47	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量(ピット覆土)
				48	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
				49	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
				50	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(SF39覆土)

土層解説

51	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI35 覆土)	71	黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量 (SI6 覆土)
52	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 (SI35 覆土)	72	暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 (SI6 覆土)
53	極暗褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	73	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI6 覆土)
54	暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	74	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (ピット覆土)
55	黒褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 (SI20 覆土)	75	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (ピット覆土)
56	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	76	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (ピット覆土)
57	暗褐色	ロームブロック少量 (SI20 覆土)	77	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (土坑覆土)
58	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量 (遺構覆土)	78	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (土坑覆土)
59	黒褐色	ローム粒子ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	79	極暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量 (土坑覆土)
60	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	80	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量 (土坑覆土)
61	暗褐色	ロームブロック少量 (SI31A 覆土)	81	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量 (土坑覆土)
62	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	82	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (土坑覆土)
63	黒褐色	土器片多量, ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量, 炭化粒子微量 (SI6 覆土)	83	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI12 ピット覆土)
64	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 (SI6 覆土)	84	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI12 ピット覆土)
65	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・骨粉微量 (SI6 覆土)	85	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 (SI12 ピット覆土)
66	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・骨粉微量 (SI6 覆土)	86	暗褐色	ローム粒子中量 (SI12 ピット覆土)
67	暗褐色	ロームブロック少量 (SI6 覆土)	87	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (SI12 ピット覆土)
68	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 (SI6 覆土)	88	暗褐色	ロームブロック少量 (SI12 ピット覆土)
69	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 (SI6 覆土)	89	暗褐色	ロームブロック少量 (SI12 ピット覆土)
70	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 (SI6 覆土)	90	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI12 ピット覆土)
			91	極暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量 (SI12 ピット覆土)
			92	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 (SI12 ピット覆土)
			93	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI32 覆土)
			94	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (SI32 覆土)

遺物出土状況と出土遺物 本包含層からは、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。調査は4m四方のグリッドを単位に、上位から約15cmの任意層位毎に1x, 2x…として掘り下げを行い、遺物を取り上げた。以下の集計表に、対応層位と集計結果を示す。遺物包含層中の遺物は多量に出土するものの、完形土器や大形の破片が集中して、あるいは意図的に遺棄されるように出土するところは、B6h2・h3, i2・i3区の第1号遺物集中地点のみであった。なお、整理の関係上、土器は地点を限定して掲載することとした。

(ア) 縄文土器

当遺跡出土の縄文土器については、すべての土器について以下のように分類し、集計した。

第1群 中期前半の土器

1類：阿玉台I b式 2類：阿玉台II式 3類：阿玉台III式 4類：阿玉台IV式

第2群 中期後半の土器

1類：加曾利E I式 2類：加曾利E II式 3類：加曾利E III式 4類：加曾利E IV式

第3群 称名寺式と加曾利E式系の土器 1類：加曾利E式系 2類：称名寺1式 3類：称名寺2式

第4群 堀之内式 1類：堀之内1式 2類：堀之内2式 3類：称名寺式から堀之内式に伴う素文土器

第5群 加曾利B式

1類：加曾利B 1式 2類：加曾利B 2式 3類：加曾利B 3式 4類：いわゆる粗製土器

5類：細別型式が不明な土器 a：帯縄文系 b：斜線文系 c：格子目文系 d：磨消縄文

第6群 曾谷式 1類：帯縄文系(曾谷式系) 2類：高井東式系 3類：条線文系

第7群 後期安行式 1類：安行1式 2類：安行2式

3類：細別型式判断が困難なもの a：隆起帯縄文 b：条線文系の台付鉢 c：帯縄文系の台付鉢

第8群 晩期安行式 1類：安行3a式 2類：安行3b式 3類：安行3c式 4類：安行3d式

5類：棒状文施文の一群 a：縄文 b：無文 6類：無文 7類：刺突文 8類：沈線文

第9群 姥山Ⅱ・Ⅲ式 1類：Ⅱ式 2類：Ⅲ式 3類：細密沈線文系

第10群 前浦式 1類：1式 2類：2式

第11群 後期の異系統土器群

第12群 晩期の異系統土器群

第13群 粗製土器 1類：地縄文 2類：無文 3類：紐線文系 4類：付点紐線文系

5類：条線文系 6類：付帯口縁系

第14群 時期が不明確な体部破片

1類：後期中葉から晩期にかけての体部破片 a：磨消縄文 b：沈線文 c：刺突文

2類：上記以外の細別型式不明の体部破片 3類：底部破片 4類：製塩土器

縄文土器は、第1号遺物包含層から29,541点(478.1kg)、第2号遺物包含層から168,629点(2,787.5kg)が出土している。地点によって層厚が異なること、時期によって土器個体の大きさが異なることなどから、単純な数の比較では不十分であるが、大まかな傾向を把握し、遺物包含層の形成過程を考える一助としたい。第Ⅰ・Ⅱ層とも、各時期の土器が一定量存在し、プライマリーな層としては捉えられなかった。第Ⅰ層では第1群(中期前半)から第8群(晩期)までが出土しているが、主体となるのは第7群(後期後葉)から第8群1・2類である。特にC6a2・a3・b2・b3、C6b8～b0、c9・c0区など、等高線図上で高まりがみられる部分は、第8群1・2類(晩期前葉)が多く出土している傾向がある。またB6j2・j5区やB7h1・j1区では第8群3・4類(晩期中葉)が比較的まとまって出土しており、平面的には確認できなかったが、当期の遺構が存在した可能性や、本跡の最終段階の廃棄ブロックと捉えることもできる。第Ⅱ層は、多くが遺構に掘り込まれていたために捉えることが困難であったが、第1群から第8群までが出土し、主体となるのは第4群(堀之内式)、第5群(加曾利B式)、第7群である。第8群は少ない。斜面部ではあるが、比較的層厚がある部分を層位的に掘り下げができたB6g2・g3区付近を見ると、下層に行くほど第3群(称名寺式)や第4群が増加する傾向がある。調査区南部のC6d6・e5～e7、f2～f6区では、遺物包含層は確認できず、表土直下で後期中葉の遺構が確認できた。この部分の表土は、いわゆる腐植土層というよりも遺物を多く含んでいる黒褐色土で、第Ⅰ層に類似する層であった。土器は第1群から第8群までが出土しているが、第8群が多い傾向にある。一方、やや高まりのみられるC7d3・e3区付近では、第8群はほとんど確認できず、第1群から第4群、特に第3・4群が主体である。

(イ) 土製品

a 土偶 土偶は第1号遺物包含層から6点、第2号遺物包含層から90点出土している。完形のものはなく、一か所に集中するような出土状況は確認できなかった。形態と文様の特徴から、次のように分類し集計した。遺構の時期に比例するように、ミミズク土偶が多く出土している。また中空土偶も出土しているが、全体が捉えられるものはない。第1号遺物包含層のDP1は、遮光器土偶の頭部である。

1類：筒型 2類：山形 3類：ミミズク 4類：板状 5類：中空 6類：X字状 7類：その他

a：頭部 b：腕部 c：胴部 d：脚部 e：頭～胴部 f：胴～脚部 g：完形

表6 遺物包含層出土土偶集計表

(点)

2 類						3 類						4 類						5 類						6 類						7 類											
a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f						
3	12	1	13	0	2	19	4	3	8	6	2	0	1	4	0	0	1	0	3	6	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0

b 耳飾り 耳飾りは第1号遺物包含層から6点、第2号遺物包含層から63点出土している。完形で出土しているものも一定量あるが、一か所に集中したり対で出土するような状況は確認できなかった。設楽博己氏の分類案¹⁾を参考に、形態から次のように分類し集計した。DP102はⅢ類の透かし彫りが施されるもののブリッジ部分である。

I類 白型 1：耳栓タイプ 2：断面鼓状 3：断面臼状で内側が大きく削り込まれるもの

II類 環状で断面が厚手のもの 1：断面直線状 2：断面三角形

III類 環状で文様施文面がブリッジ状に内側にせり出すもの

IV類 環状で断面が薄手のもの 1：断面三角形

2：文様施文面が張り出すもの

V類 環状で断面に稜を持たないもの

表7 遺物包含層出土耳飾り集計表 (点)

I-1	I-2	I-3	II-1	II-2	III	IV-1	IV-2	V
3	1	5	3	5	13	5	9	25

c 土版・有孔円盤 土版は第1号遺物包含層から3点、第2号遺物包含層から12点出土している。有孔円盤は第1号遺物包含層から2点、第2号遺物包含層から4点出土している。土版は形態や文様から晩期中葉のものと考えられる。有孔円盤も遺構内から出土したものは、晩期中葉に伴うものが多い。

d 土錘・土器片錘 土錘は第2号遺物包含層から5点、土器片錘は第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から3点と、いずれも少量である。土錘は有溝で、中央部に穿孔のあるものもある。

e 土器片円盤 第1号遺物包含層から24点、第2号遺物包含層から241点出土しているが、今回は紙数の関係上図示できなかった。よって計測結果を記すことで傾向を示すこととしたい。土器片円盤は主に深鉢の体部片を円形あるいは楕円形に周縁を打ち欠き、研磨して製作されているが、研磨が著しいものは少なく、一部を研磨する程度のもが多かった。大きさでは最小が長径2.2cm、最大が長径7.8cmで、3.1cm～5.0cmのものが68.8%と半数以上を占める。また重量では最小が3.6g、最大が54.3gで、10.1g～20gまでのものが46.9%と約半数を占めている。

表8 土器片円盤計測表 (大きさ・重量)

(点)

大きさ (cm)	2.2-3.0	3.1-4.0	4.1-5.0	5.1-6.0	6.1-7.0	7.1-	重量 (g)	-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-
点数	8	82	94	52	17	3	点数	1	45	60	60	34	28	14	13	6	3	1

f その他の土製品 土製垂飾品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から3点、貝輪状土製品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から19点、棒状土製品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から5点、匙形土製品が第2号遺物包含層から3点、サメの歯形土製品が第1号遺物包含層から1点出土している。サメの歯形はホオジロザメあるいはその化石を模倣した可能性がある²⁾。そのほか発泡体としたものが第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から13点出土している(概要写真参照)。これは、焼成した粘土塊状の個体の表面が気泡状で、あたかも高温で発泡したかのように見えるものである。軽石にも似る部分があるが岩石ではなく、肉眼観察ではあるが窯壁の内部に付着する物質に似る部分があるとの指摘をいただいた³⁾。同様のものは第6号建物跡や第22号建物跡の覆土中からも出土している。また焼成粘土塊は、第1号遺物包含層から63点、第2号遺物包含層から21点出土して

いる。第1号遺物包含層から出土したものは、ほとんどが第22号建物跡の周囲から出土している。紐状、粘土板状、塊状のものなどがあるが、土器や土製品の製作工程の推測されるものは確認できなかった(概要写真参照)。第2号遺物包含層 DP71 は不明土製品としたが、形状から木蓋模倣の蓋の可能性はある。

(ウ) 石器・石製品

- a 剥片石器および石核・剥片類 剥片石器は全体的に少なく、石材はチャート素材とするものが圧倒的である。石鏃は、第1号遺物包含層から4点、第2号遺物包含層から25点出土している。そのうちチャート製が23点、黒曜石製が3点、頁岩製が1点である。石錐は第1号遺物包含層から3点、第2号遺物包含層から2点出土しており、第2号遺物包含層のQ2は黒曜石製であるが、それ以外はチャート製である。そのほか加工痕のある剥片8点と安山岩製の尖頭器1点が出土している。尖頭器は木葉形の端部で、おそらく遺物包含層が形成される前の、縄文時代草創期段階のものが混入したものである。石核や剥片類は、第1号遺物包含層で石核40点(チャート36、黒曜石4)、剥片205点(チャート134、黒曜石70、瑪瑙1)、第2号遺物包含層で石核146点(チャート120、黒曜石24、頁岩1、瑪瑙1)、剥片710点(チャート454、黒曜石240、瑪瑙9、頁岩7)出土している。石核は径が2~3cm程度の残核が多いようである。なお黒曜石の産地同定の結果、和田・諏訪産、高原山産のほか、神津島産も確認できた(付章参照)。
- b 磨製石斧 第1号遺物包含層で11点、第2号遺物包含層で44点出土している。定角式がほとんどで、Q46~Q50など敲打痕を残す未成品もある。Q43は緑色岩製で、側縁部に擦り切り痕が見られる。Q32~Q36・Q41~Q44は小形の定角式で、Q32・Q42は蛇紋岩製である。
- c 打製石斧 第1号遺物包含層で10点、第2号遺物包含層で23点出土している。当遺跡全体で見ても、打製石斧の出土率はほかの石器に比較すると低調である。形態はほぼすべて分銅形を呈するものである。
- d 磨石類 磨石、敲石は、一つの石器で複数の使用痕を有し、複合的に使用されるものが多いようである。よってこれらの石器を一つの類にまとめ、以下のように分類して集計した。全体では第1号遺物包含層で51点、第2号遺物包含層で395点出土している。

1類：磨石 2類：磨石+敲石 3類：敲石 4類：自然礫の上下・周縁部のみを研磨

a：柱状円・楕円形 b：柱状方形 c：扁平円形 d：扁平方形 e：その他

表9 磨石類分類集計表

(点)

分類	1類					2類					3類					4類					分類不可
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	
個数	98	8	32	12	10	15	10	33	15	0	6	0	0	0	24	7	0	5	0	15	156

- e 石皿類 石皿についても、磨石類と同様に、窪み石や砥石と複合的に使用痕が見られるものであることから、以下のように分類して集計した。第1号遺物包含層で15点、第2号遺物包含層で79点出土している。当遺跡全体で見ても、石皿類の出土率は磨石類に比較すると低調である。

表10 石皿類分類集計表 (点)

分類	1類	2類	3類	4類	分類不可
点数	26	18	9	1	40

1類：石皿 2類：石皿+窪み石 3類：石皿+砥面 4類：窪み石

- f 石錘 石錘は、第1号遺物包含層で7点、第2号遺物包含層で47点出土している。長軸方向に溝を巡らせる有溝(1類)は4点、長軸方向の上下に切り目を入れるもの(2類)は8点、長軸および短軸方向に剥離による紐架け部を有するもの(3類)は42点である。

- g 砥石 砥石は、第1号遺物包含層で16点、第2号遺物包含層で148点出土している。砂岩製で、被熱しているものが多い。形状と研磨痕から以下に分類し集計した。貝輪や骨角器、玉類を研磨するとされ

る1類が21点見られる。また扁平な4類が比較的安定的に組成している点の特徴的である。

1類：筋砥石 2類：板状 3類：棒状 4類：扁平

分類	1類	2類	3類	4類	分類不可
点数	21	78	15	33	17

h 石棒・石剣類 第1号遺物包含層では石棒8点、石剣4点、第2号遺物包含層では石棒45点、石剣24点が出土している。石棒は後期以降に主体となるいわゆる小形石棒で、中期に盛行する大形石棒は、第2号遺物包含層で2点確認されたのみである。すべて破片での出土で、頭部が確認できたものは5点のみである。このうちQ 133は東北系土器群との関係が指摘されている「成興野型」⁴⁾で、Q 143・Q 145などはこのタイプの端部の可能性がある。Q 135は緑色片岩製で龟头状の頭部を有する「高井東型」で、被熱を受けている。このほかQ 134・Q 139・Q 143・Q 145等、41点に被熱痕が確認できた。

i その他の石器・石製品 第1号遺物包含層からは、礫器1点、垂飾品1点、軽石製品4点、第2号遺物包含層からは、礫器59点、垂飾品5点、独鈷石2点、軽石製品5点が出土している。垂飾品のうちQ 151は翡翠で、穿孔途中の未成品である。Q 157も成形途中で未穿孔の滑石片である。礫器は扁平な安山岩の周縁部を片面或いは両方向から剥離して刃部を作出しているもので、当遺跡では比較的多く確認できた器種の一つである。また特筆すべきものとして、第2号遺物包含層から出土した礫に、アスファルトが付着しているものが確認できた。数点の礫がアスファルトによって融着した状態のもので、これについては付章を参考されたい。Q 3の石鎌基部にも、アスファルトと考えられる黒色付着物が確認されている。

所見 遺物包含層は、出土遺物から、主に後期後葉から晩期前葉にかけて形成されたものと考えられる。I層は出土土器や遺構の重複関係から後期後葉以降で、晩期が中心となる地点もある。B 6i3・j3区では安行2式の第6号建物跡がI-2層を掘り込んでいること、C 6b8・b9区付近では晩期安行3a式から安行3b式期の第35号建物跡の上位にI-6層が堆積していることなど、同じI層でも地点により時期に違いがあり、I層が長期にわたって形成されたことが伺える。II層は後期後葉までが主体で、遺構覆土と類似し覆土との判別が困難な部分もある。各グリッドや層位を概観すると、主体となる時期が明確な地点や層位があったり、下層ほど古い時期の土器の出土が増加するという傾向はあるものの、それぞれ各分類群を一定量含有しており、堆積層の時期の判断が困難である。また、出土状態でも完形土器や大形破片の残存率は低く、破片での出土が圧倒的である。包含層の層厚や分布をみると、第4・5・19・55号建物跡や第35・39・47号建物跡など、多重複の建物跡が位置する部分に厚く堆積しているようで、表土除去後の包含層上面の等高線図でも周辺より高くなっている様子が伺えた。第35号建物跡の上位に分布するII-6層はローム質土で、建物の廃棄後、ローム粒子が多く含まれている土で整地されているようにも見える。また西壁や北壁の堆積状況からは、第43号建物跡を埋めるようにローム粒子が多く含まれている暗褐色土や黒褐色土が廃棄され、斜面部を整地するように上面に平坦面が作出されている様子が伺える。遺構の確認は、I層中で確認しえたものもあるが、多くは遺物が多く出土するI層を包含層として掘削したあとの、暗褐色土のII層上面で、遺物のまとまりや破片の大きさ、焼土の分布などから、おおよその遺構の範囲が確認できる状態であった。よってこのII層中ないしII層上面が、後期後葉段階の旧表土と捉えることができ、少なくとも第II層の一部は遺構の構築・廃棄・整地行為の繰り返しによって生成された可能性がある。I層及びII層中には後期中葉までの土器片が一定量出土しているが、この間の遺構はほとんど確認できなかった。後期前葉から中葉期の遺物量からすると、後期後葉以前に集落としての土地利用があったと考えられ、II層の一部は調査の不備から確認しえなかった後期後葉以前の遺構覆土の可能性もある。しかしII層中から完形土器や大形破片も含め、後期中葉以前の土器のまとまりや遺構が主体的に確認できないことから、II層自体がプライマリーな層ではないことが考えられ、後期後葉以前に遺構の痕

跡をとどめないほどの大きな土地改変行為が行われている可能性も考えられる。

註

- 1) 設楽博己「土製耳飾」『縄文文化の研究』9 雄山閣 1995年3月
- 2) ひたちなか市埋蔵文化財センターの鈴木素行氏にご教示いただいた。
- 3) (株) バレオ・ラボの藤根久氏にご教示いただいた。
- 4) 後藤信祐「刀剣形石製品」『縄文時代の考古学』11 同成社 2007年9月

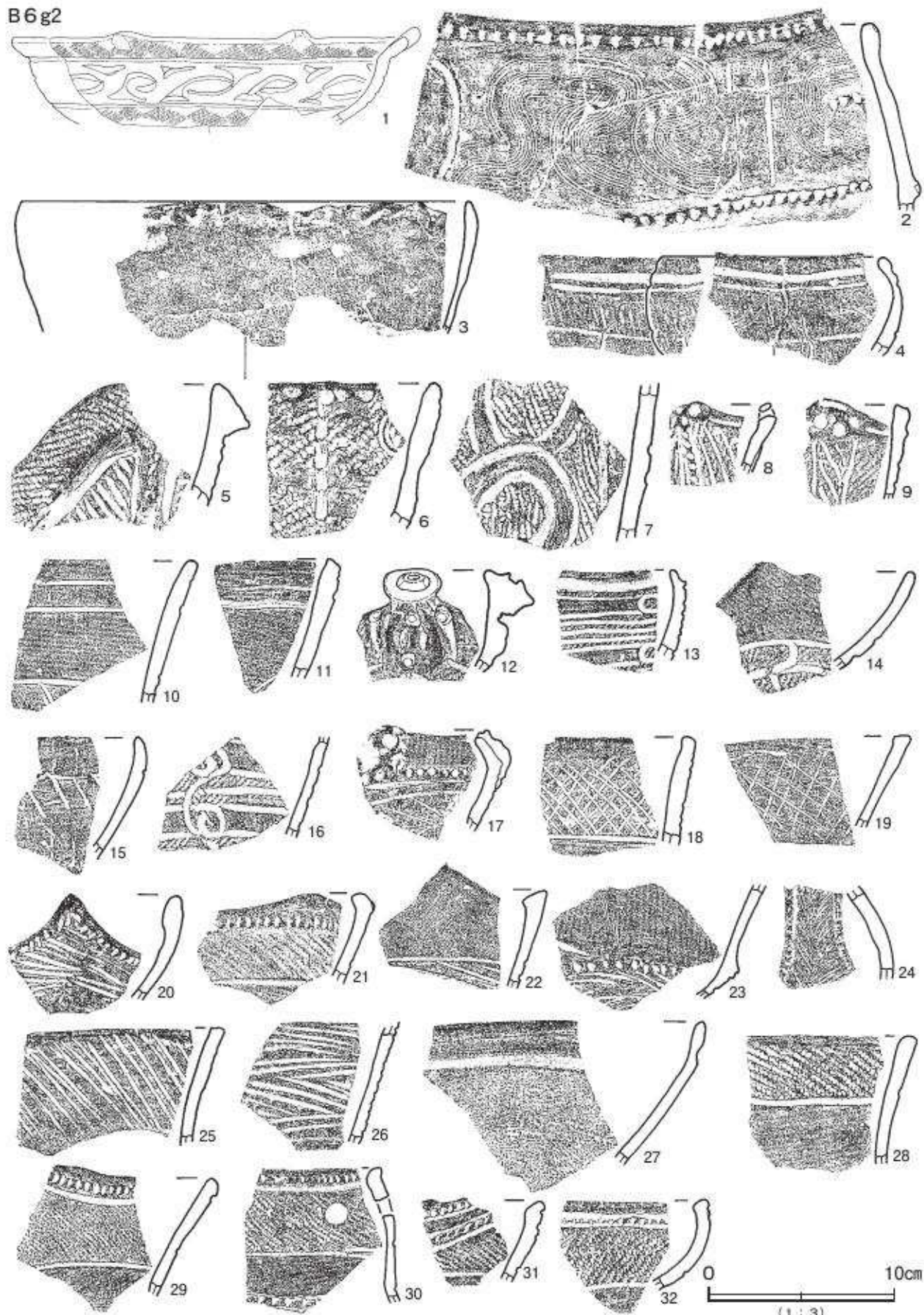
第2号遺物包含層出土遺物観察表(第267～318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	浅鉢	[21.2]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	30% PL38
2	縄文土器	深鉢	[37.8]	(10.1)	-	長石・石英・角閃石類	明赤褐	普通	外面ナデ 磨削状工具による区画文 内面ナデ	5x・6x(27層)	5%
3	縄文土器	製塩	[24.2]	(7.1)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面削り 胴縁 口縁部未調整 内面削り	6x (27層)	口B類 5%
4	縄文土器	浅鉢	[12.1]	(5.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面磨減のため調整未確認	3x (25層)	30%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯上0段3条のRL縄文 内面磨き	5x (26層)	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面斜突文→LR縄文 内面磨き	5x (26層)	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→沈線磨き 内面磨き	27層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	4x (26層)	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面無節L縄文→懸垂文 内面磨き	5x (26層)	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	5x (26層)	
12	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面C字状貼付文 内面磨き	27層	
13	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面沈線→LR縄文→口縁部磨き 内面磨き	2x (2層)	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面斜線文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
17	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰褐	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	3x (25層)	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面格子目文→横位沈線→頸部磨き 内面磨き	4x (26層)	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	外面格子目文 内面磨き	6x (27層)	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外面削み→斜線文 内面磨き	1x (2層)	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	口縁部外面沈線→垂線文→突文→頸部磨き 内面磨き	26層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	5x (26層)	
23	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	6x (27層)	
24	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	把手部 外面矢羽状沈線文 内面ナデ	3x (25層)	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	橙	普通	外面条線→頸部磨き 内面磨き	4x (26層)	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	3x (25層)	
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面割部削り 内面磨き	3x (25層)	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	26層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	5x (26層)	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	5x (26層)	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐	普通	頸部外面磨き 内面磨き	27層	
34	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	2x (2層)	
35	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	5x (26層)	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文・肩先→無文部磨き 内面ナデ	5x (26層)	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	27層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	赤褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	6x (27層)	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	5x (26層)	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい橙	普通	外面沈線→無節R縄文 内面ナデ	27層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい橙	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1x (2層)	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文 内面ナデ	6x (27層)	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文・磨削付→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面隆起帯臨沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	26層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	25層	
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	25x (2層)	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐	普通	外面隆起帯臨沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2層	
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	6x (27層)	
52	縄文土器	壺	-	(3.2)	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐	普通	外面沈線間に斜突文充填 無文部ナデ 内面ナデ	25層	赤彩 10%
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面臨線文 内面ナデ	4x (26層)	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面沈線→無節R縄文 内面ナデ	27層	

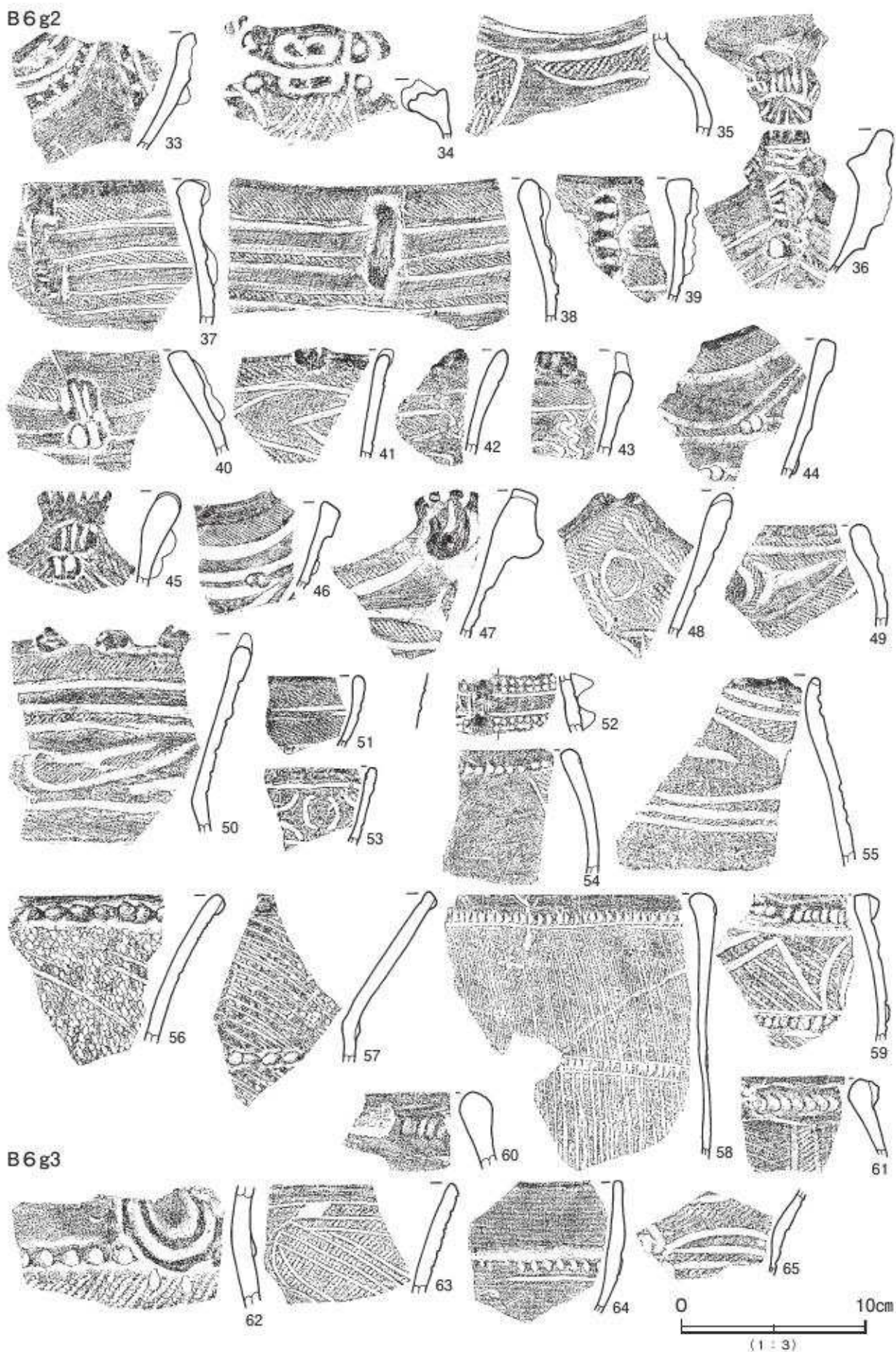
表 12-1-7 第 2 号遺物包含層出土土器集計表 (7)

地点・層位/分類	数量 (kg)	1												2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				早稲	約数	調査計 (点)	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		1-2	3-4	5-6	7-8	9-10	11-12	13-14	15-16	17-18	19-20	21-22	23-24	25-26	27-28	29-30	31-32	33-34	35-36	37-38	39-40	41-42	43-44	45-46	47-48	49-50	51-52	53-54	55-56	57-58	59-60	61-62	63-64	65-66	67-68	69-70	71-72	73-74	75-76	77-78	79-80	81-82	83-84	85-86	87-88	89-90	91-92	93-94	95-96	97-98	99-100	101-102	103-104	105-106	107-108	109-110	111-112	113-114	115-116	117-118	119-120	121-122	123-124	125-126	127-128					129-130	131-132	133-134	135-136	137-138	139-140	141-142	143-144	145-146	147-148	149-150	151-152	153-154	155-156	157-158	159-160	161-162	163-164	165-166	167-168	169-170	171-172	173-174	175-176	177-178	179-180	181-182	183-184	185-186	187-188	189-190	191-192	193-194	195-196	197-198	199-200	201-202	203-204	205-206	207-208	209-210	211-212	213-214	215-216	217-218	219-220	221-222	223-224	225-226	227-228	229-230	231-232	233-234	235-236	237-238	239-240	241-242	243-244	245-246	247-248	249-250	251-252	253-254	255-256	257-258	259-260	261-262	263-264	265-266	267-268	269-270	271-272	273-274	275-276	277-278	279-280	281-282	283-284	285-286	287-288	289-290	291-292	293-294	295-296	297-298	299-300	301-302	303-304	305-306	307-308	309-310	311-312	313-314	315-316	317-318	319-320	321-322	323-324	325-326	327-328	329-330	331-332	333-334	335-336	337-338	339-340	341-342	343-344	345-346	347-348	349-350	351-352	353-354	355-356	357-358	359-360	361-362	363-364	365-366	367-368	369-370	371-372	373-374	375-376	377-378	379-380	381-382	383-384	385-386	387-388	389-390	391-392	393-394	395-396	397-398	399-400	401-402	403-404	405-406	407-408	409-410	411-412	413-414	415-416	417-418	419-420	421-422	423-424	425-426	427-428	429-430	431-432	433-434	435-436	437-438	439-440	441-442	443-444	445-446	447-448	449-450	451-452	453-454	455-456	457-458	459-460	461-462	463-464	465-466	467-468	469-470	471-472	473-474	475-476	477-478	479-480	481-482	483-484	485-486	487-488	489-490	491-492	493-494	495-496	497-498	499-500	501-502	503-504	505-506	507-508	509-510	511-512	513-514	515-516	517-518	519-520	521-522	523-524	525-526	527-528	529-530	531-532	533-534	535-536	537-538	539-540	541-542	543-544	545-546	547-548	549-550	551-552	553-554	555-556	557-558	559-560	561-562	563-564	565-566	567-568	569-570	571-572	573-574	575-576	577-578	579-580	581-582	583-584	585-586	587-588	589-590	591-592	593-594	595-596	597-598	599-600	601-602	603-604	605-606	607-608	609-610	611-612	613-614	615-616	617-618	619-620	621-622	623-624	625-626	627-628	629-630	631-632	633-634	635-636	637-638	639-640	641-642	643-644	645-646	647-648	649-650	651-652	653-654	655-656	657-658	659-660	661-662	663-664	665-666	667-668	669-670	671-672	673-674	675-676	677-678	679-680	681-682	683-684	685-686	687-688	689-690	691-692	693-694	695-696	697-698	699-700	701-702	703-704	705-706	707-708	709-710	711-712	713-714	715-716	717-718	719-720	721-722	723-724	725-726	727-728	729-730	731-732	733-734	735-736	737-738	739-740	741-742	743-744	745-746	747-748	749-750	751-752	753-754	755-756	757-758	759-760	761-762	763-764	765-766	767-768	769-770	771-772	773-774	775-776	777-778	779-780	781-782	783-784	785-786	787-788	789-790	791-792	793-794	795-796	797-798	799-800	801-802	803-804	805-806	807-808	809-810	811-812	813-814	815-816	817-818	819-820	821-822	823-824	825-826	827-828	829-830	831-832	833-834	835-836	837-838	839-840	841-842	843-844	845-846	847-848	849-850	851-852	853-854	855-856	857-858	859-860	861-862	863-864	865-866	867-868	869-870	871-872	873-874	875-876	877-878	879-880	881-882	883-884	885-886	887-888	889-890	891-892	893-894	895-896	897-898	899-900	901-902	903-904	905-906	907-908	909-910	911-912	913-914	915-916	917-918	919-920	921-922	923-924	925-926	927-928	929-930	931-932	933-934	935-936	937-938	939-940	941-942	943-944	945-946	947-948	949-950	951-952	953-954	955-956	957-958	959-960	961-962	963-964	965-966	967-968	969-970	971-972	973-974	975-976	977-978	979-980	981-982	983-984	985-986	987-988	989-990	991-992	993-994	995-996	997-998	999-1000	1001-1002	1003-1004	1005-1006	1007-1008	1009-1010	1011-1012	1013-1014	1015-1016	1017-1018	1019-1020	1021-1022	1023-1024	1025-1026	1027-1028	1029-1030	1031-1032	1033-1034	1035-1036	1037-1038	1039-1040	1041-1042	1043-1044	1045-1046	1047-1048	1049-1050	1051-1052	1053-1054	1055-1056	1057-1058	1059-1060	1061-1062	1063-1064	1065-1066	1067-1068	1069-1070	1071-1072	1073-1074	1075-1076	1077-1078	1079-1080	1081-1082	1083-1084	1085-1086	1087-1088	1089-1090	1091-1092	1093-1094	1095-1096	1097-1098	1099-1100	1101-1102	1103-1104	1105-1106	1107-1108	1109-1110	1111-1112	1113-1114	1115-1116	1117-1118	1119-1120	1121-1122	1123-1124	1125-1126	1127-1128	1129-1130	1131-1132	1133-1134	1135-1136	1137-1138	1139-1140	1141-1142	1143-1144	1145-1146	1147-1148	1149-1150	1151-1152	1153-1154	1155-1156	1157-1158	1159-1160	1161-1162	1163-1164	1165-1166	1167-1168	1169-1170	1171-1172	1173-1174	1175-1176	1177-1178	1179-1180	1181-1182	1183-1184	1185-1186	1187-1188	1189-1190	1191-1192	1193-1194	1195-1196	1197-1198	1199-1200	1201-1202	1203-1204	1205-1206	1207-1208	1209-1210	1211-1212	1213-1214	1215-1216	1217-1218	1219-1220	1221-1222	1223-1224	1225-1226	1227-1228	1229-1230	1231-1232	1233-1234	1235-1236	1237-1238	1239-1240	1241-1242	1243-1244	1245-1246	1247-1248	1249-1250	1251-1252	1253-1254	1255-1256	1257-1258	1259-1260	1261-1262	1263-1264	1265-1266	1267-1268	1269-1270	1271-1272	1273-1274	1275-1276	1277-1278	1279-1280	1281-1282	1283-1284	1285-1286	1287-1288	1289-1290	1291-1292	1293-1294	1295-1296	1297-1298	1299-1300	1301-1302	1303-1304	1305-1306	1307-1308	1309-1310	1311-1312	1313-1314	1315-1316	1317-1318	1319-1320	1321-1322	1323-1324	1325-1326	1327-1328	1329-1330	1331-1332	1333-1334	1335-1336	1337-1338	1339-1340	1341-1342	1343-1344	1345-1346	1347-1348	1349-1350	1351-1352	1353-1354	1355-1356	1357-1358	1359-1360	1361-1362	1363-1364	1365-1366	1367-1368	1369-1370	1371-1372	1373-1374	1375-1376	1377-1378	1379-1380	1381-1382	1383-1384	1385-1386	1387-1388	1389-1390	1391-1392	1393-1394	1395-1396	1397-1398	1399-1400	1401-1402	1403-1404	1405-1406	1407-1408	1409-1410	1411-1412	1413-1414	1415-1416	1417-1418	1419-1420	1421-1422	1423-1424	1425-1426	1427-1428	1429-1430	1431-1432	1433-1434	1435-1436	1437-1438	1439-1440	1441-1442	1443-1444	1445-1446	1447-1448	1449-1450	1451-1452	1453-1454	1455-1456	1457-1458	1459-1460	1461-1462	1463-1464	1465-1466	1467-1468	1469-1470	1471-1472	1473-1474	1475-1476	1477-1478	1479-1480	1481-1482	1483-1484	1485-1486	1487-1488	1489-1490	1491-1492	1493-1494	1495-1496	1497-1498	1499-1500	1501-1502	1503-1504	1505-1506	1507-1508	1509-1510	1511-1512	1513-1514	1515-1516	1517-1518	1519-1520	1521-1522	1523-1524	1525-1526	1527-1528	1529-1530	1531-1532	1533-1534	1535-1536	1537-1538	1539-1540	1541-1542	1543-1544	1545-1546	1547-1548	1549-1550	1551-1552	1553-1554	1555-1556	1557-1558	1559-1560	1561-1562	1563-1564	1565-1566	1567-1568	1569-1570	1571-1572	1573-1574	1575-1576	1577-1578	1579-1580	1581-1582	1583-1584	1585-1586	1587-1588	1589-1590	1591-1592	1593-1594	1595-1596	1597-1598	1599-1600	1601-1602	1603-1604	1605-1606	1607-1608	1609-1610	1611-1612	1613-1614	1615-1616	1617-1618	1619-1620	1621-1622	1623-1624	1625-1626	1627-1628	1629-1630	1631-1632	1633-1634	1635-1636	1637-1638	1639-1640	1641-1642	1643-1644	1645-1646	1647-1648	1649-1650	1651-1652	1653-1654	1655-1656	1657-1658	1659-1660	1661-1662	1663-1664	1665-1666	1667-1668	1669-1670	1671-1672	1673-1674	1675-1676	1677-1678	1679-1680	1681-1682	1683-1684	1685-1686	1687-1688	1689-1690	1691-1692	1693-1694	1695-1696	1697-1698	1699-1700	1701-1702	1703-1704	1705-1706	1707-1708	1709-1710	1711-1712	1713-1714	1715-1716	1717-1718	1719-1720	1721-1722	1723-1724	1725-1726	1727-1728	1729-1730	1731-1732	1733-1734	1735-1736	1737-1738	1739-1740	1741-1742	1743-1744	1745-1746	1747-1748	1749-1750	1751-1752	1753-1754	1755-1756	1757-1758	1759-1760	1761-1762	1763-1764	1765-1766	1767-1768	1769-1770	1771-1772	1773-1774	1775-1776	1777-1778	1779-1780	1781-1782	1783-1784	1785-1786	1787-1788	1789-1790	1791-1792	1793-1794	1795-1796	1797-1798	1799-1800	1801-1802	1803-1804	1805-1806	1807-1808	1809-1810	1811-1812	1813-1814	1815-1816	1817-1818	1819-1820	1821-1822	1823-1824	1825-1826	1827-1828	1829-1830	1831-1832	1833-1834	1835-1836	1837-1838	1839-1840	1841-1842	1843-1844	1845-1846	1847-1848	1849-1850	1851-1852	1853-1854	1855-1856	1857-1858	1859-1860	1861-1862	1863-1864	1865-1866

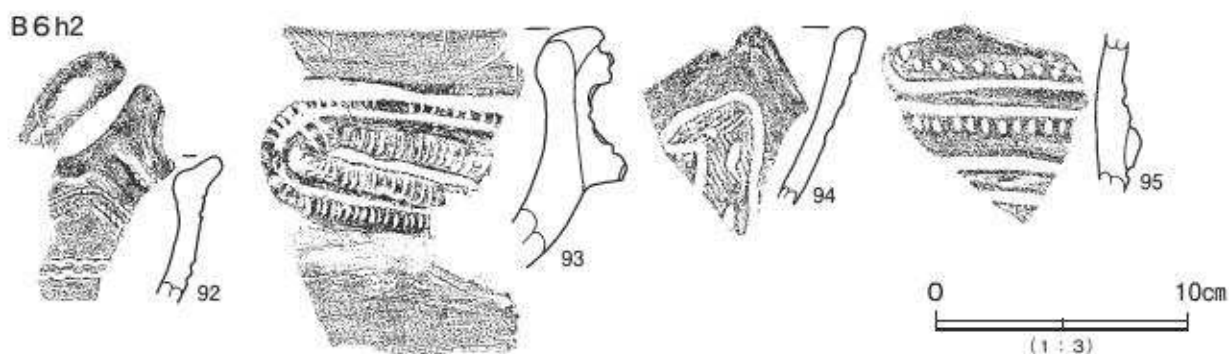
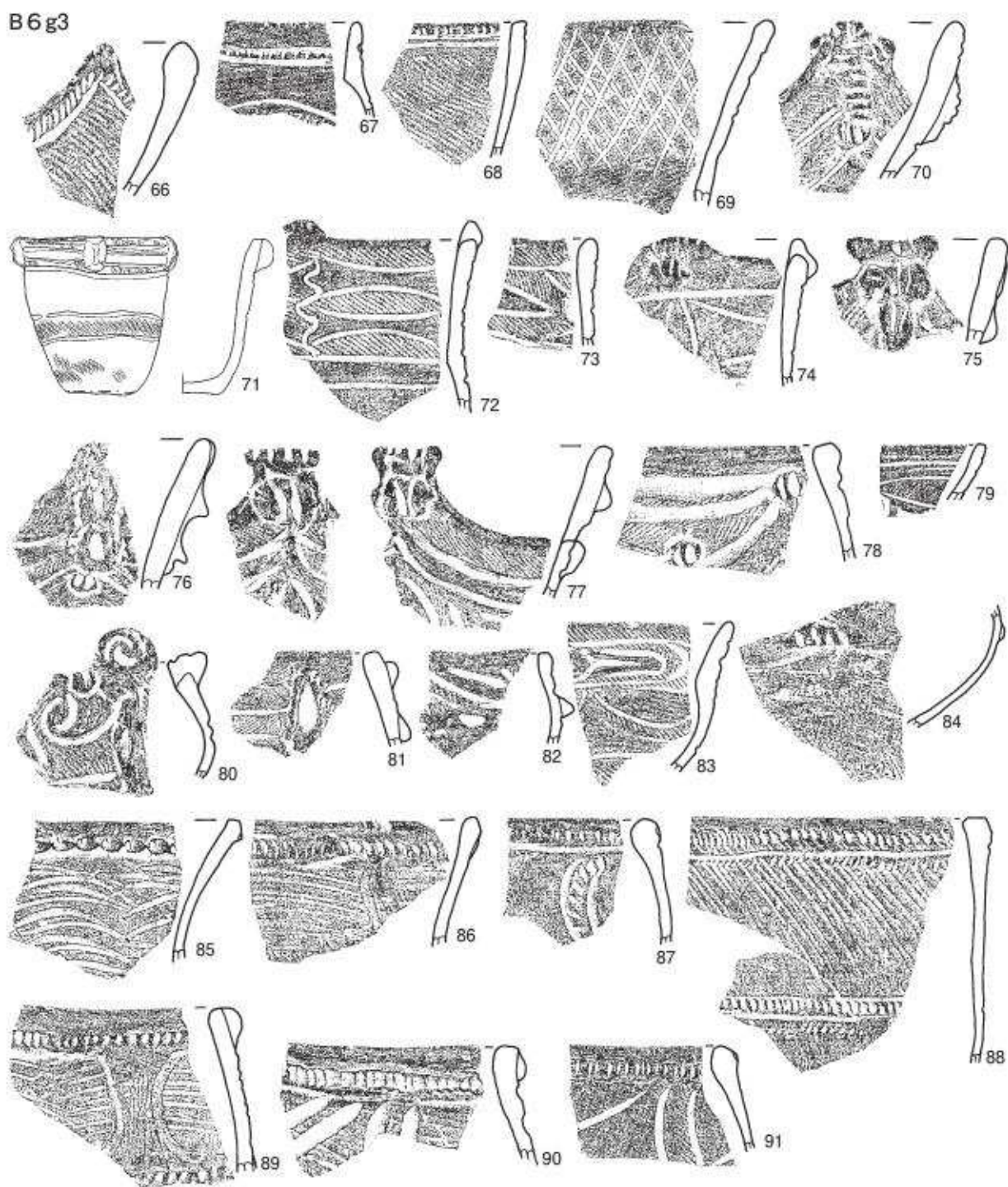
B6g2



第 267 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)

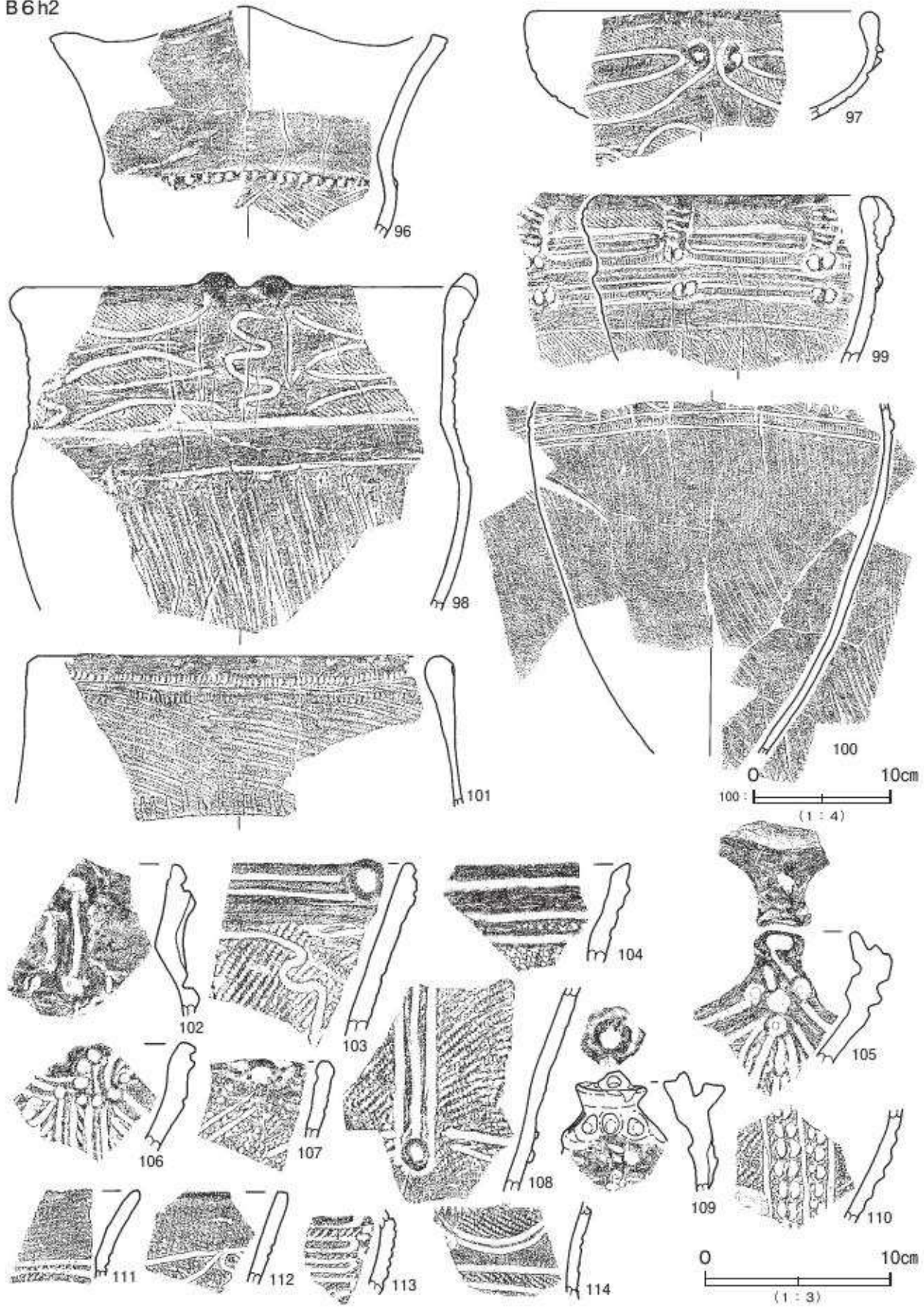


第 268 图 第 2 号遗物包含層出土遺物実測図 (2)



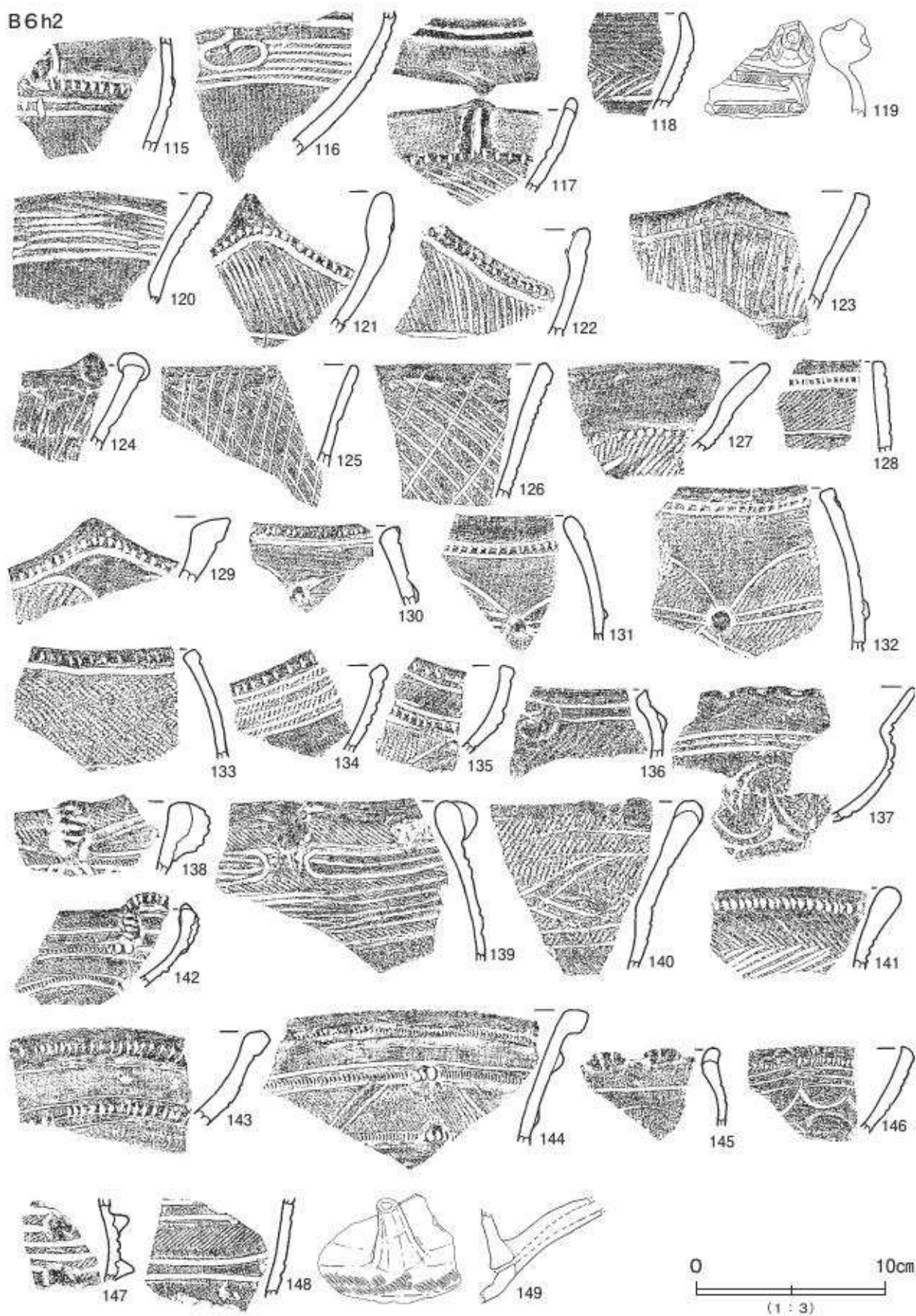
第 269 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)

B6h2



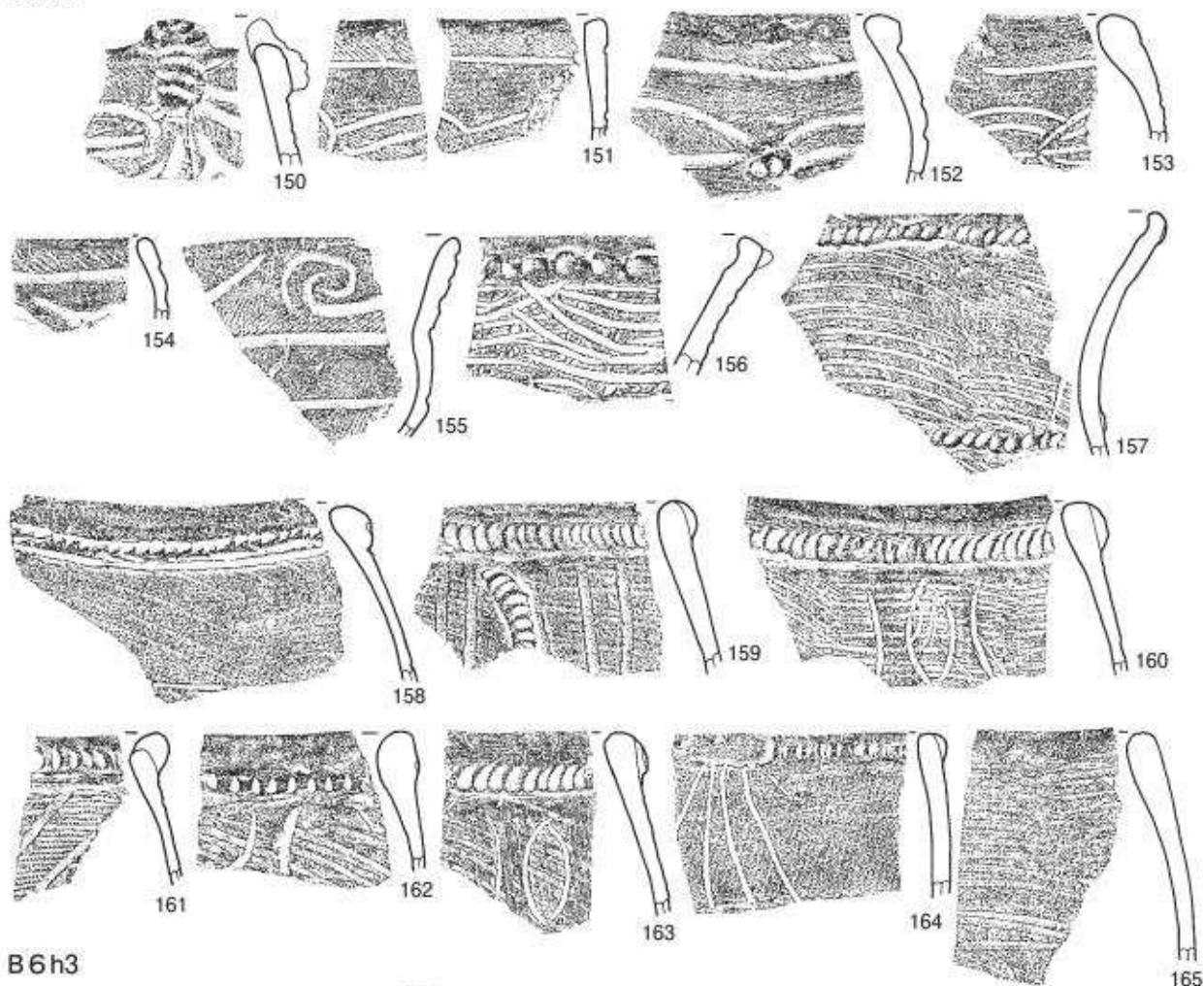
第270图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(4)

B6h2

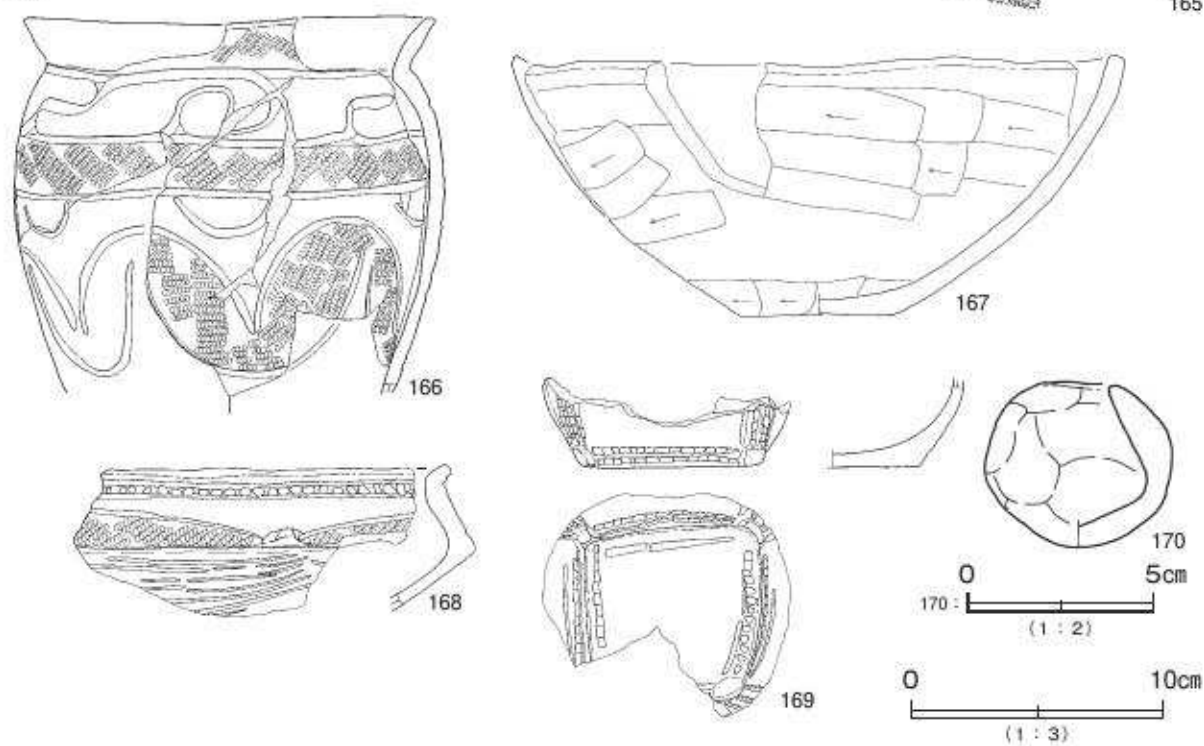


第271図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(5)

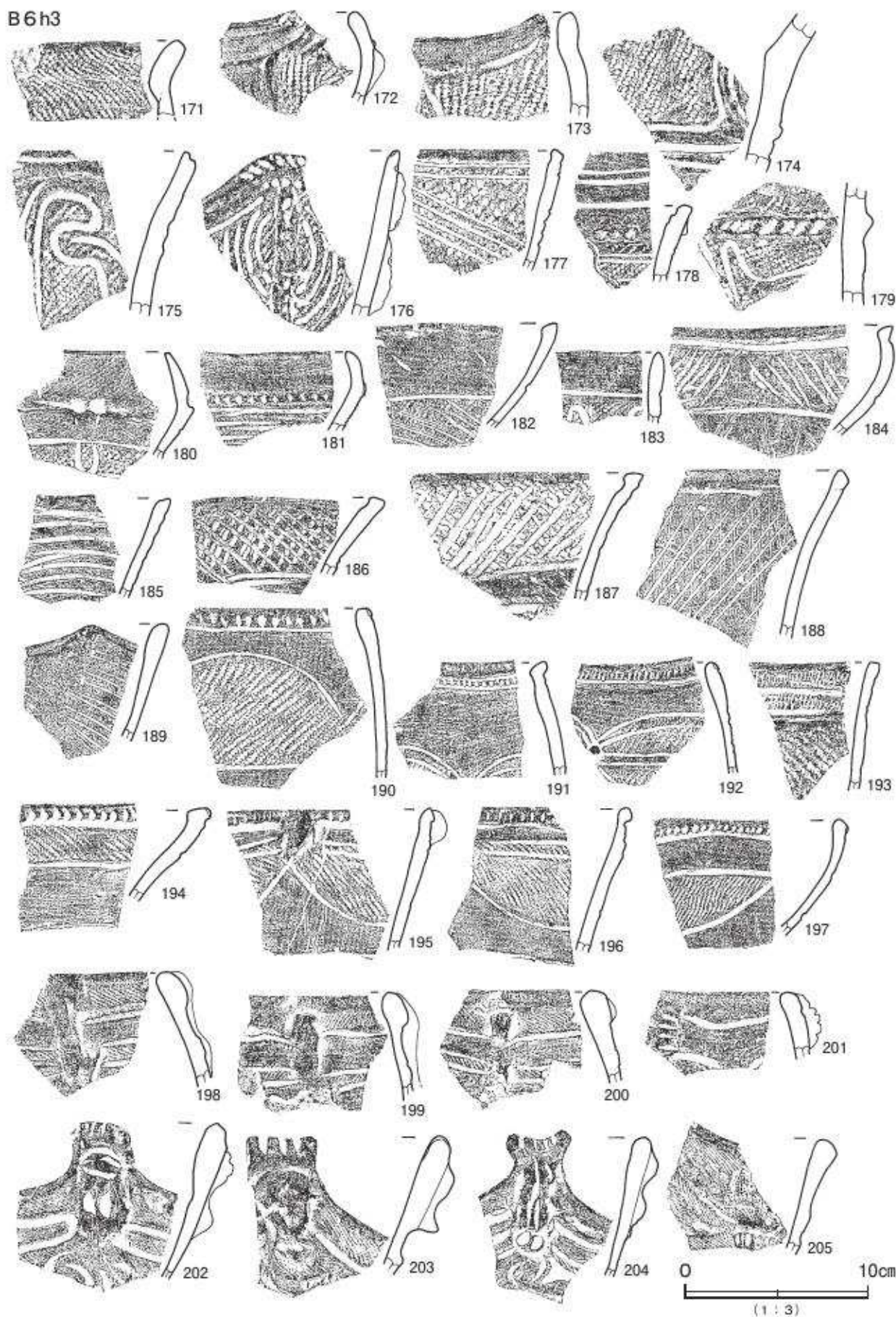
B6h2



B6h3

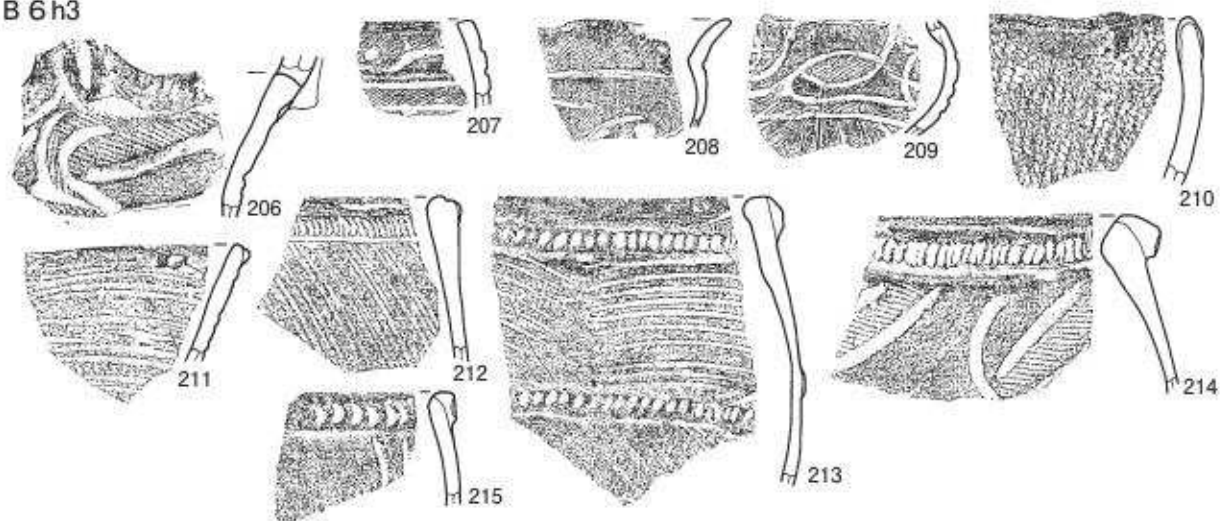


第 272 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图(6)

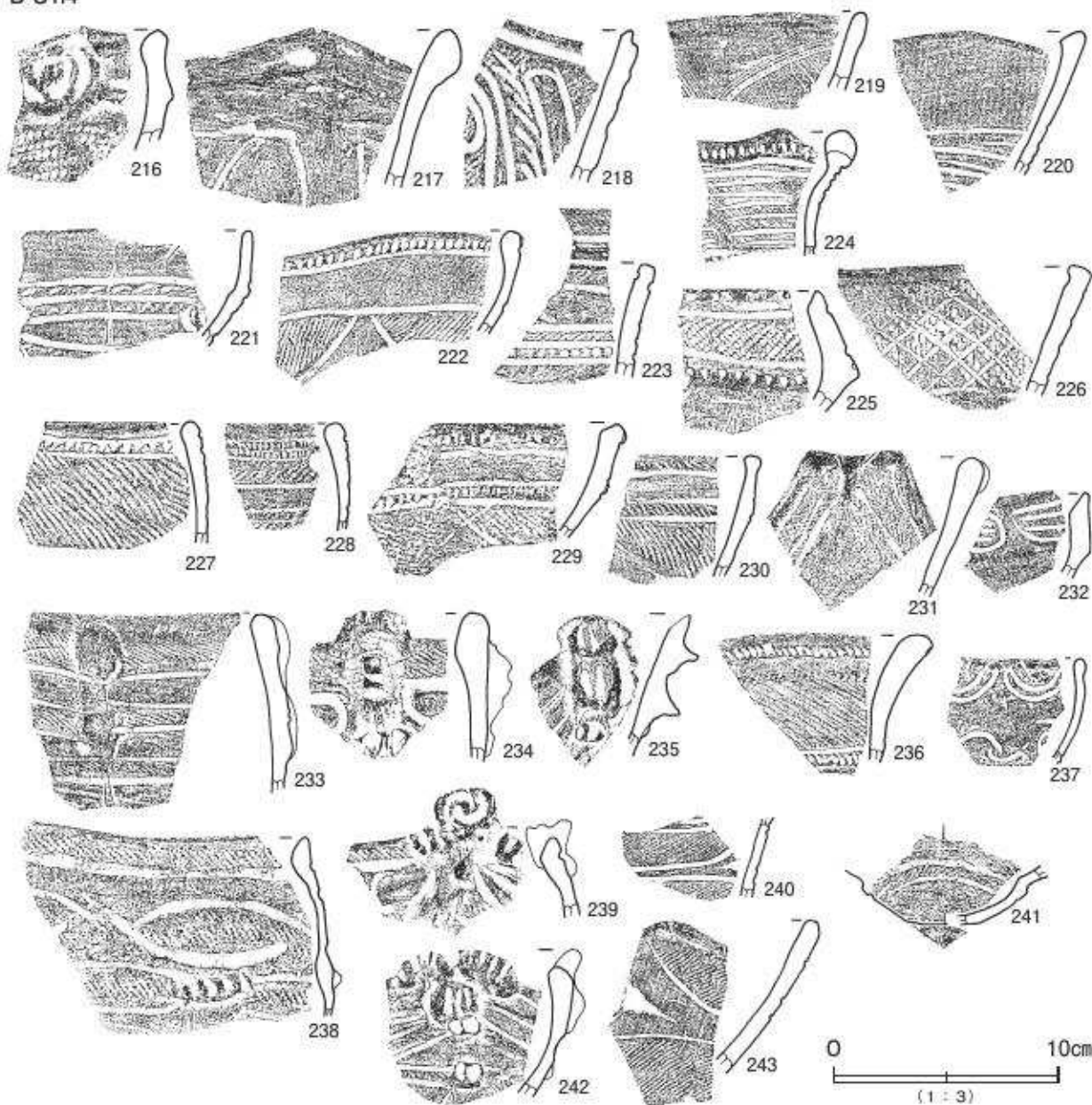


第 273 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (7)

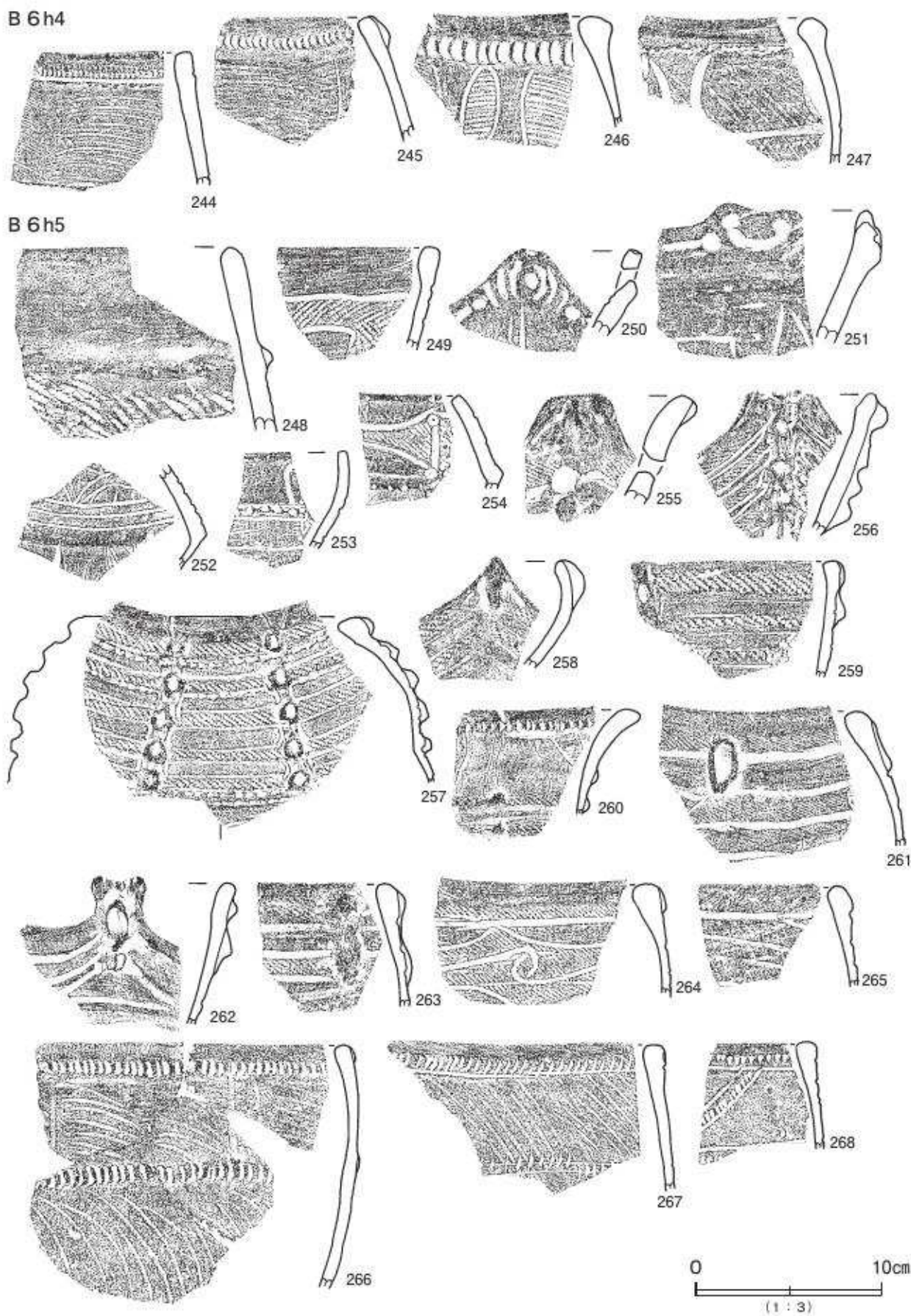
B 6h3



B 6h4

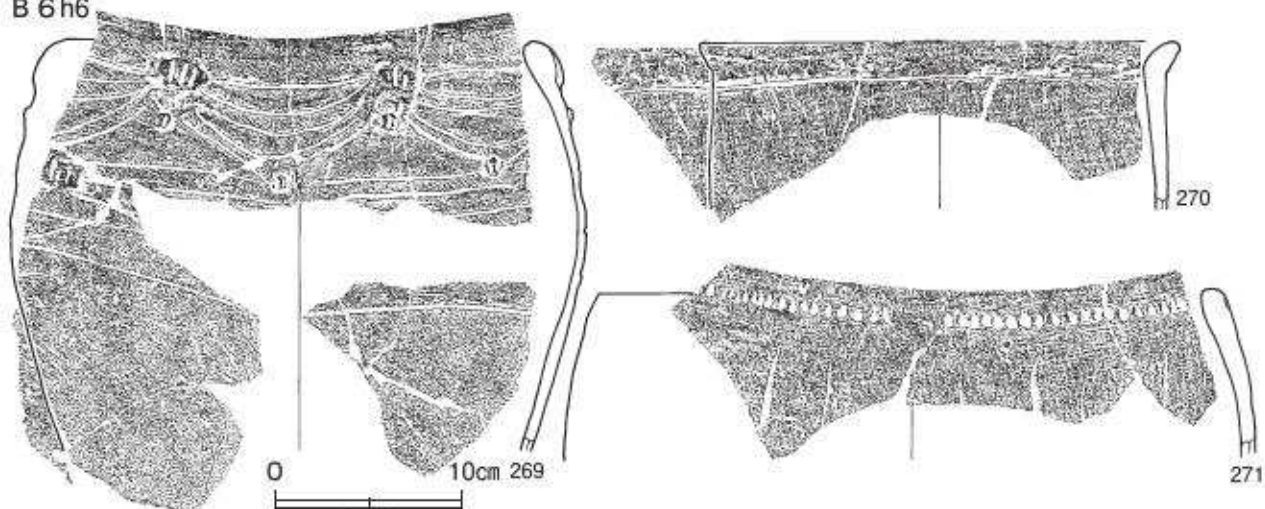


第 274 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (8)

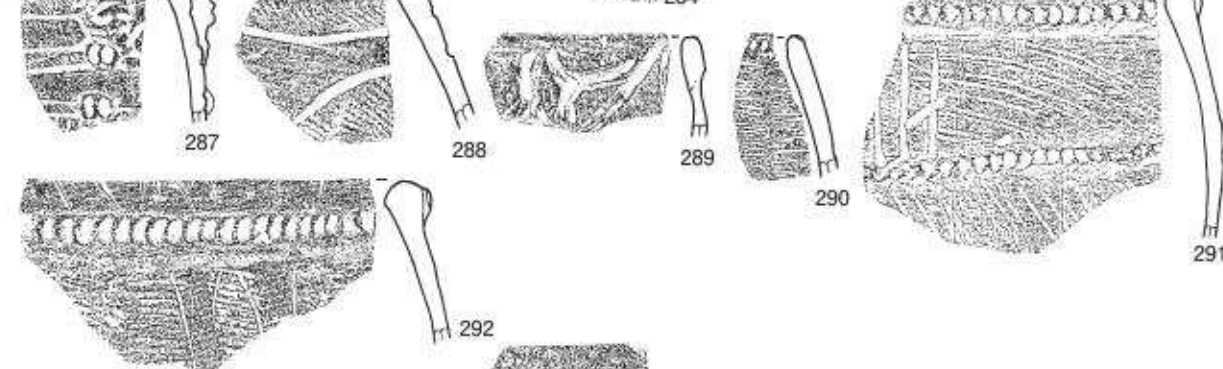
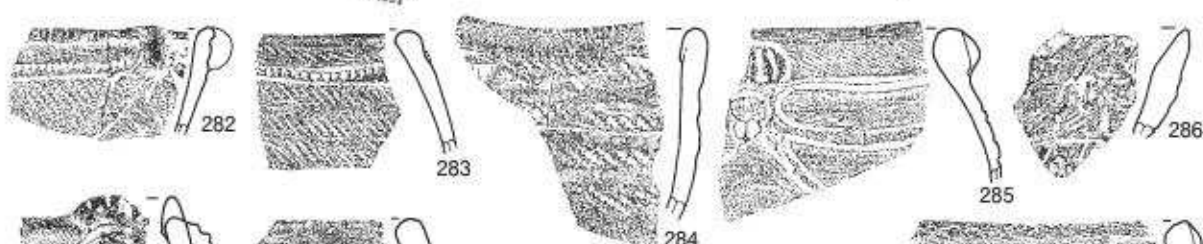
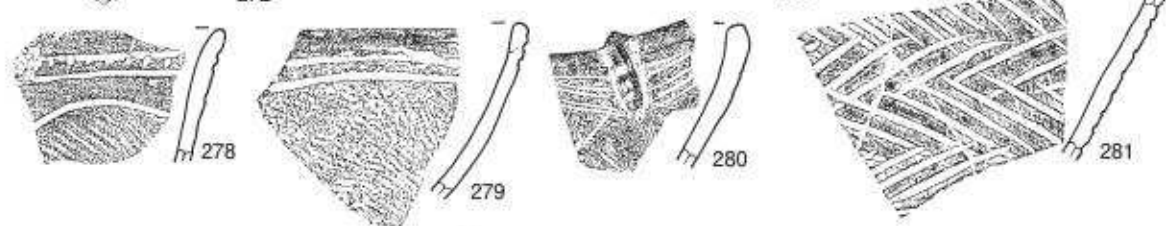
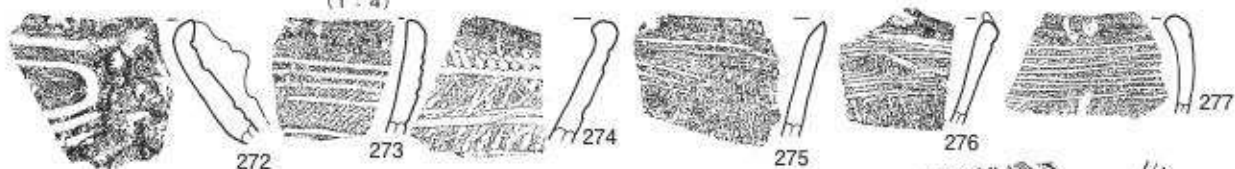


第 275 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (9)

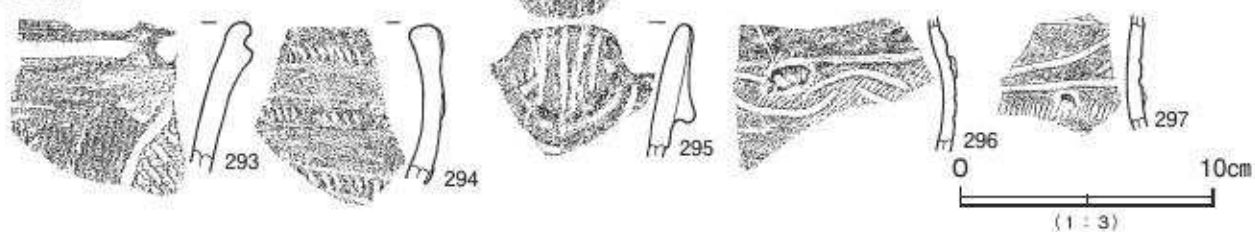
B 6h6



(1 : 4)

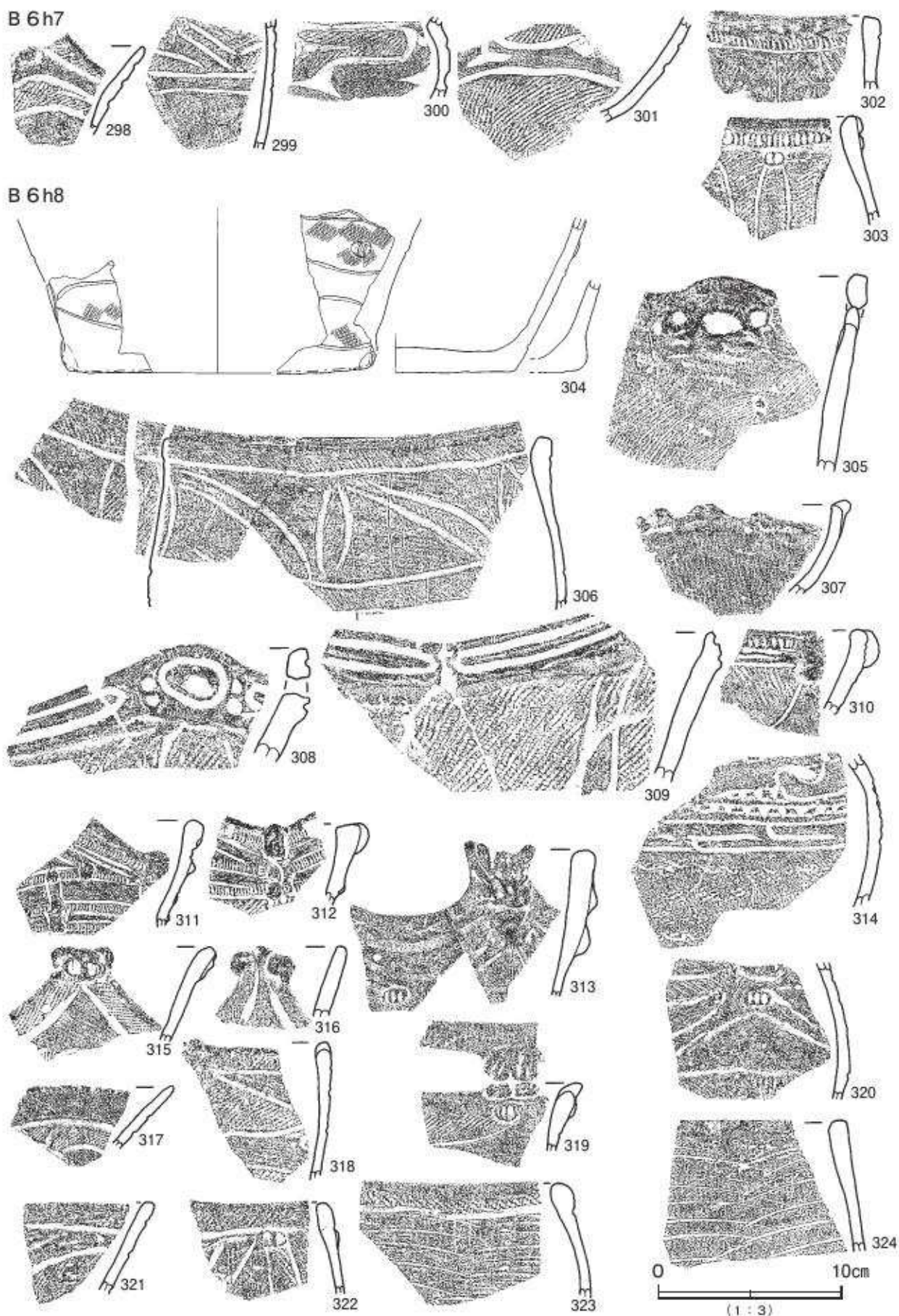


B 6h7



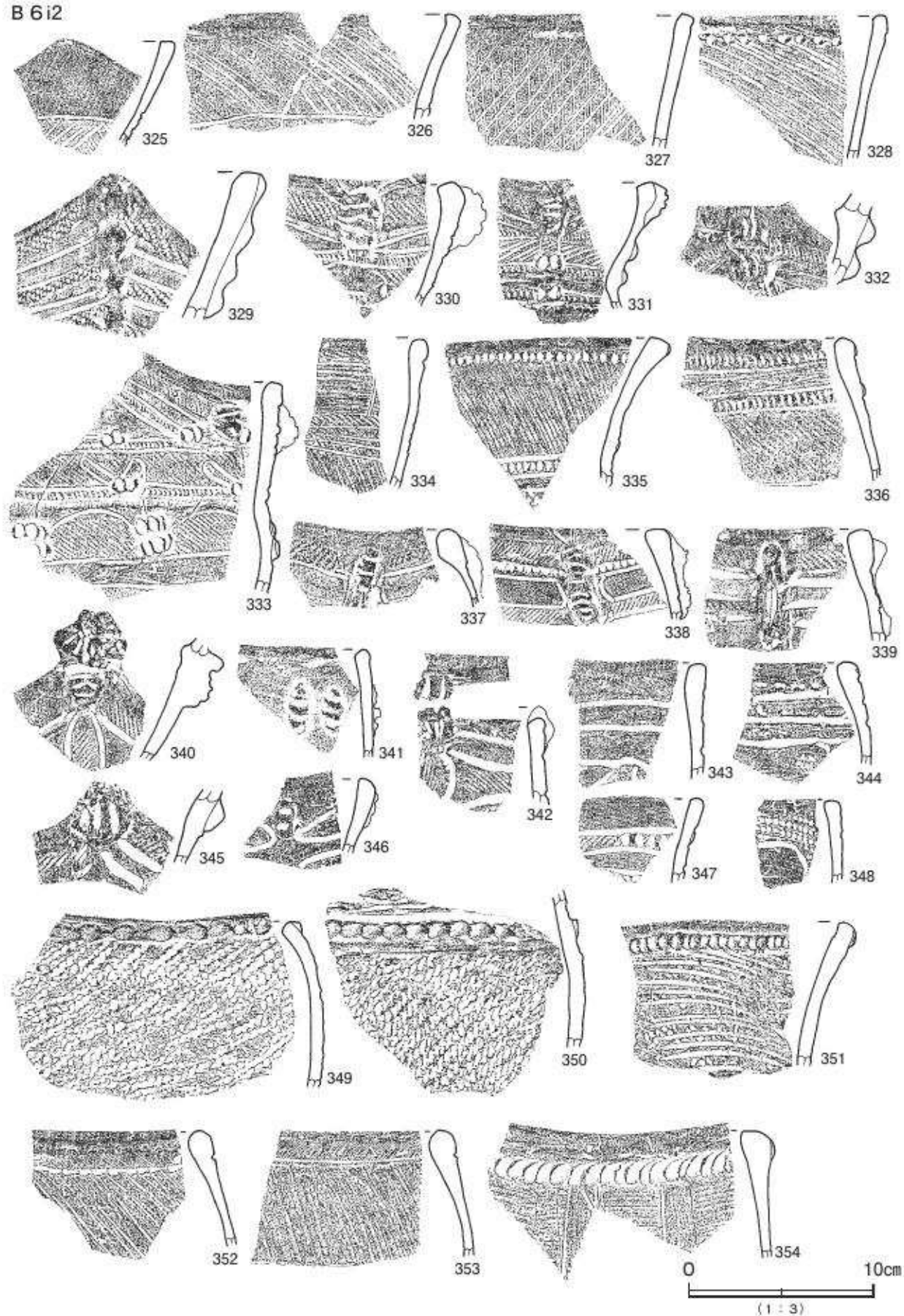
(1 : 3)

第 276 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (10)



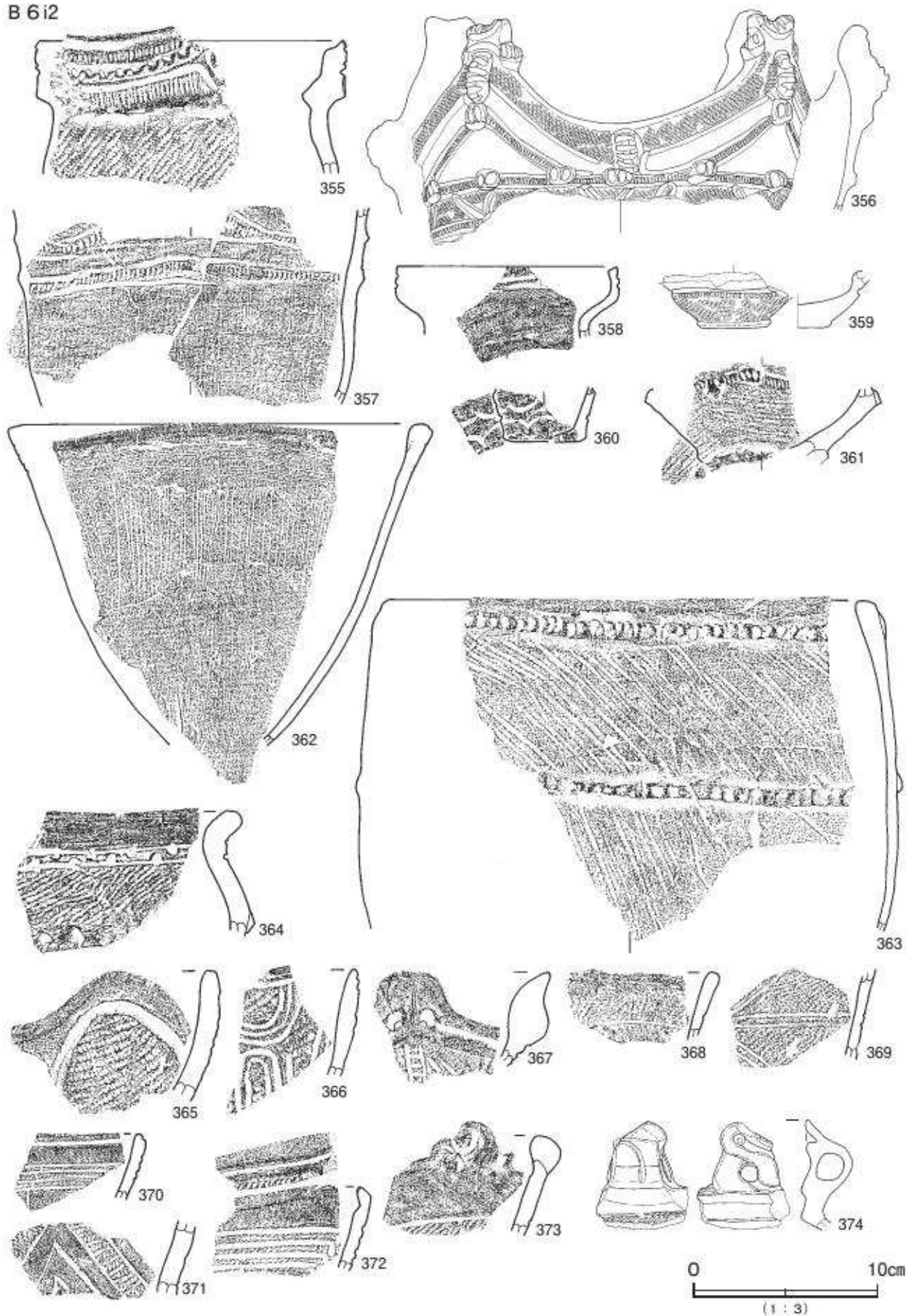
第 277 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)

B 6i2

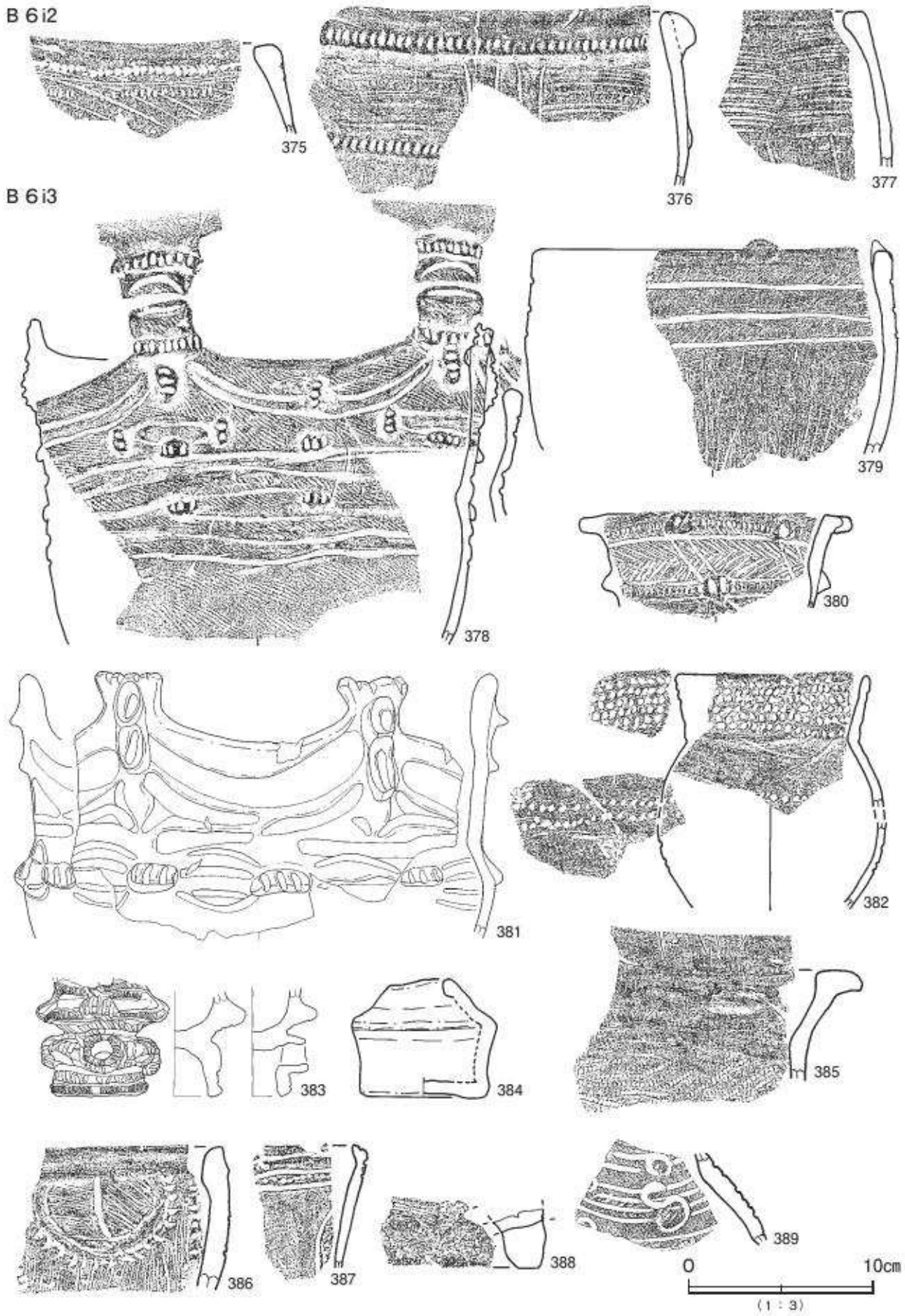


第 278 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (12)

B 6 i 2

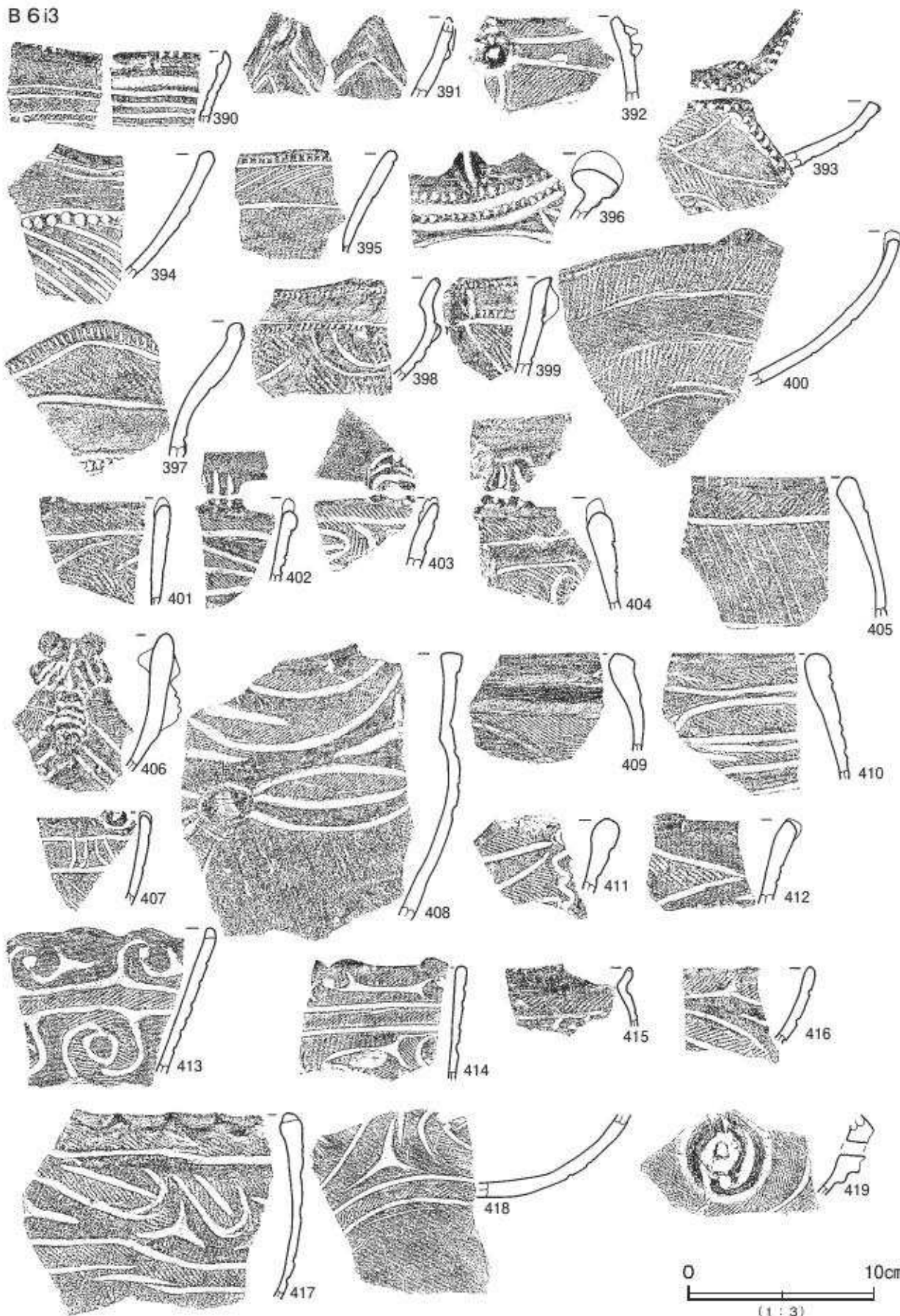


第 279 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (13)

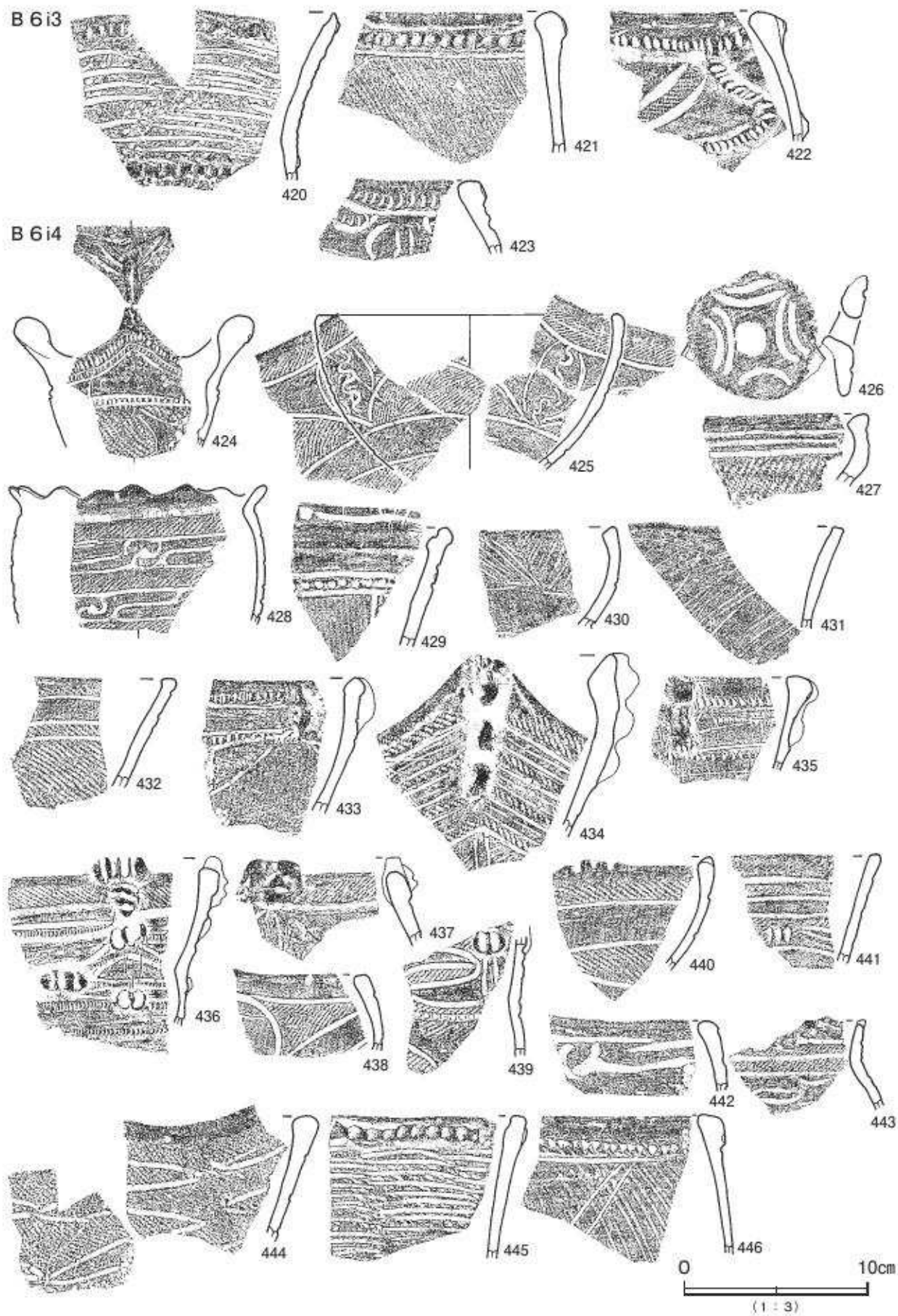


第 280 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (14)

B 6 i3

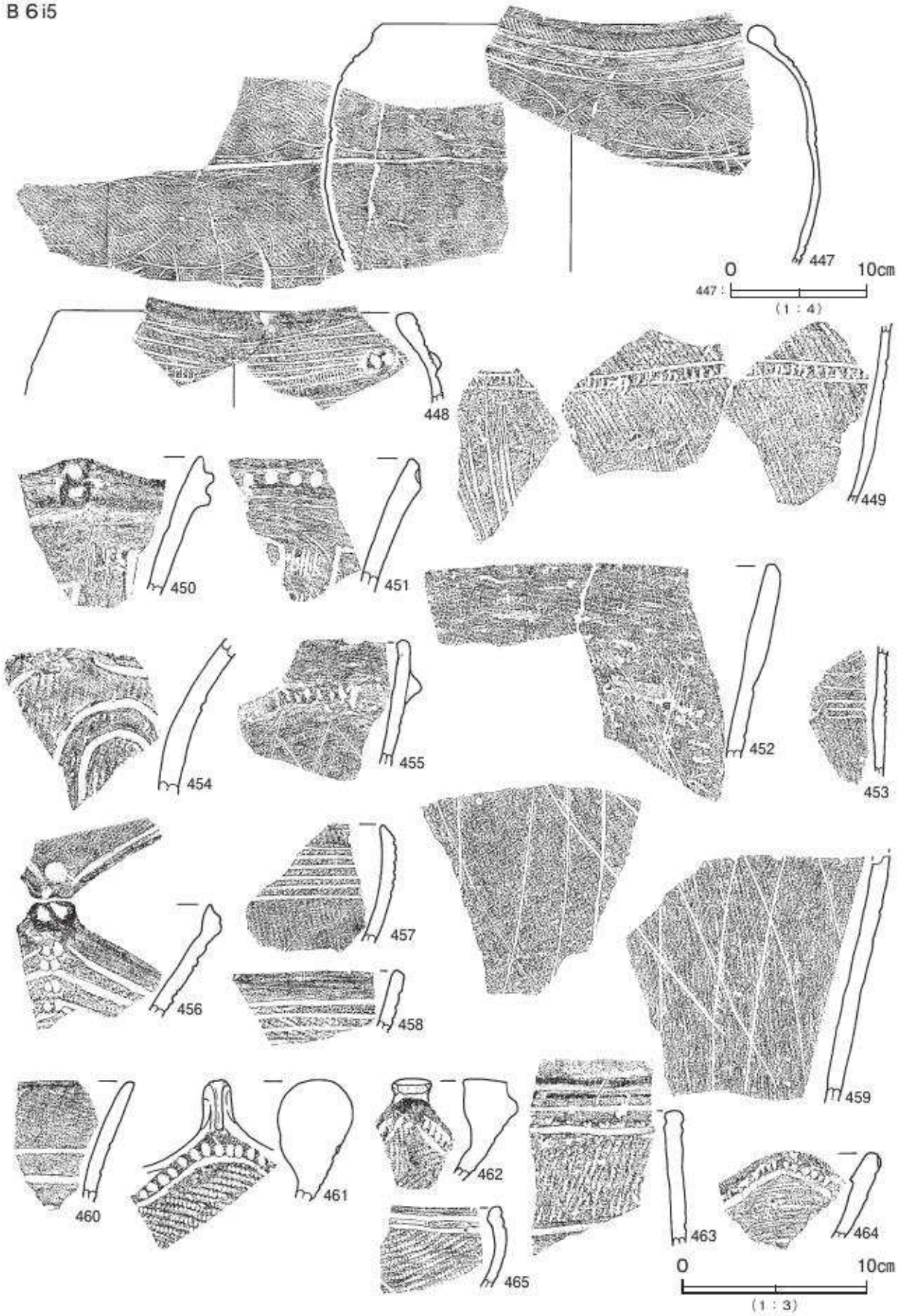


第 281 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (15)



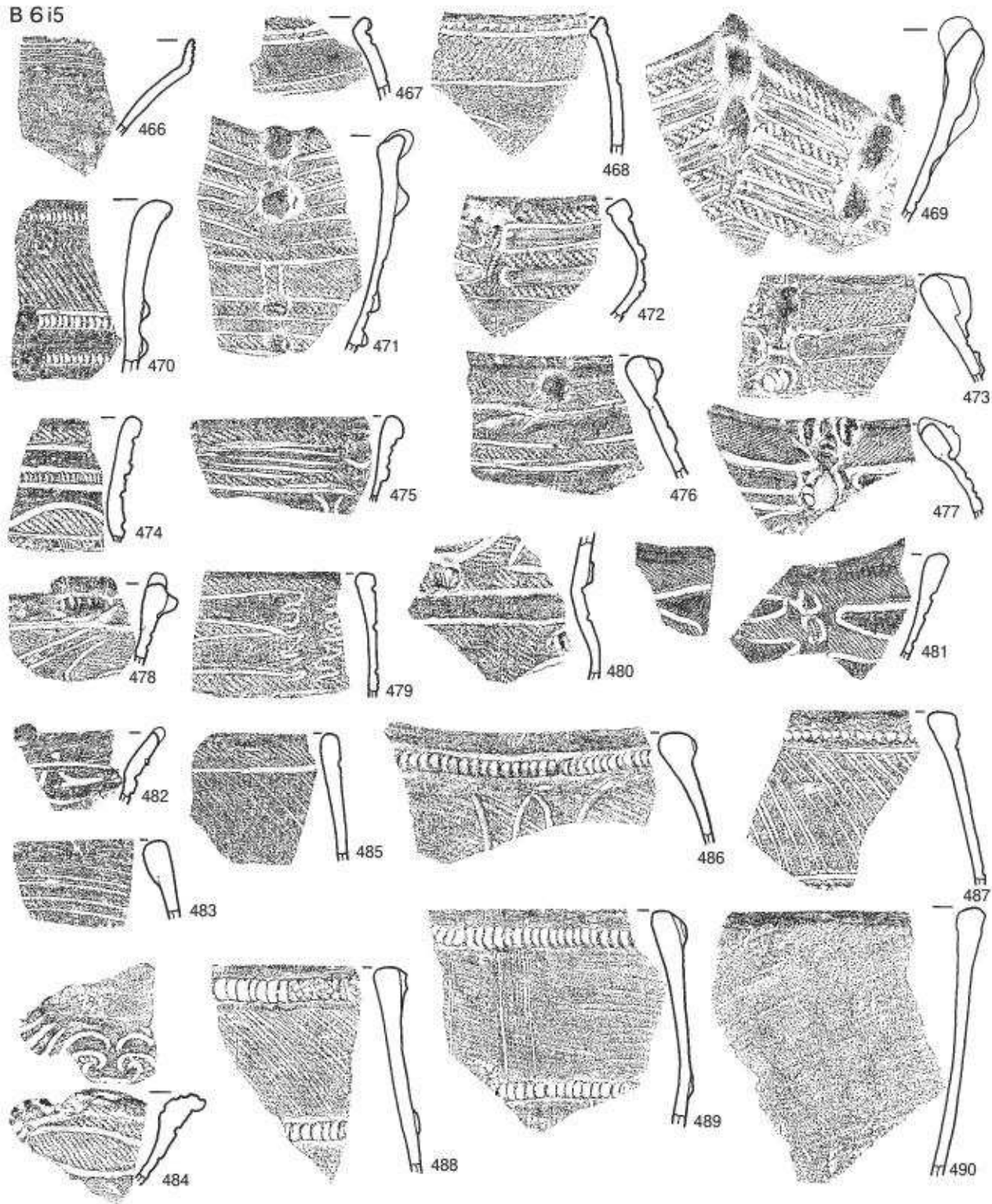
第 282 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (16)

B 6i5

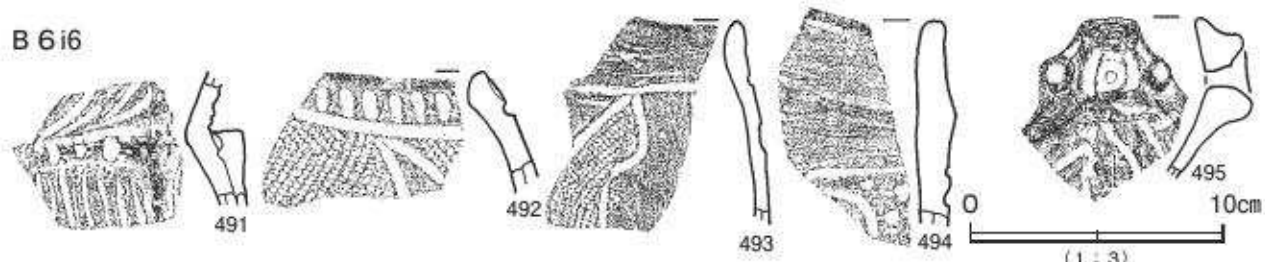


第 283 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (17)

B 6 i 5

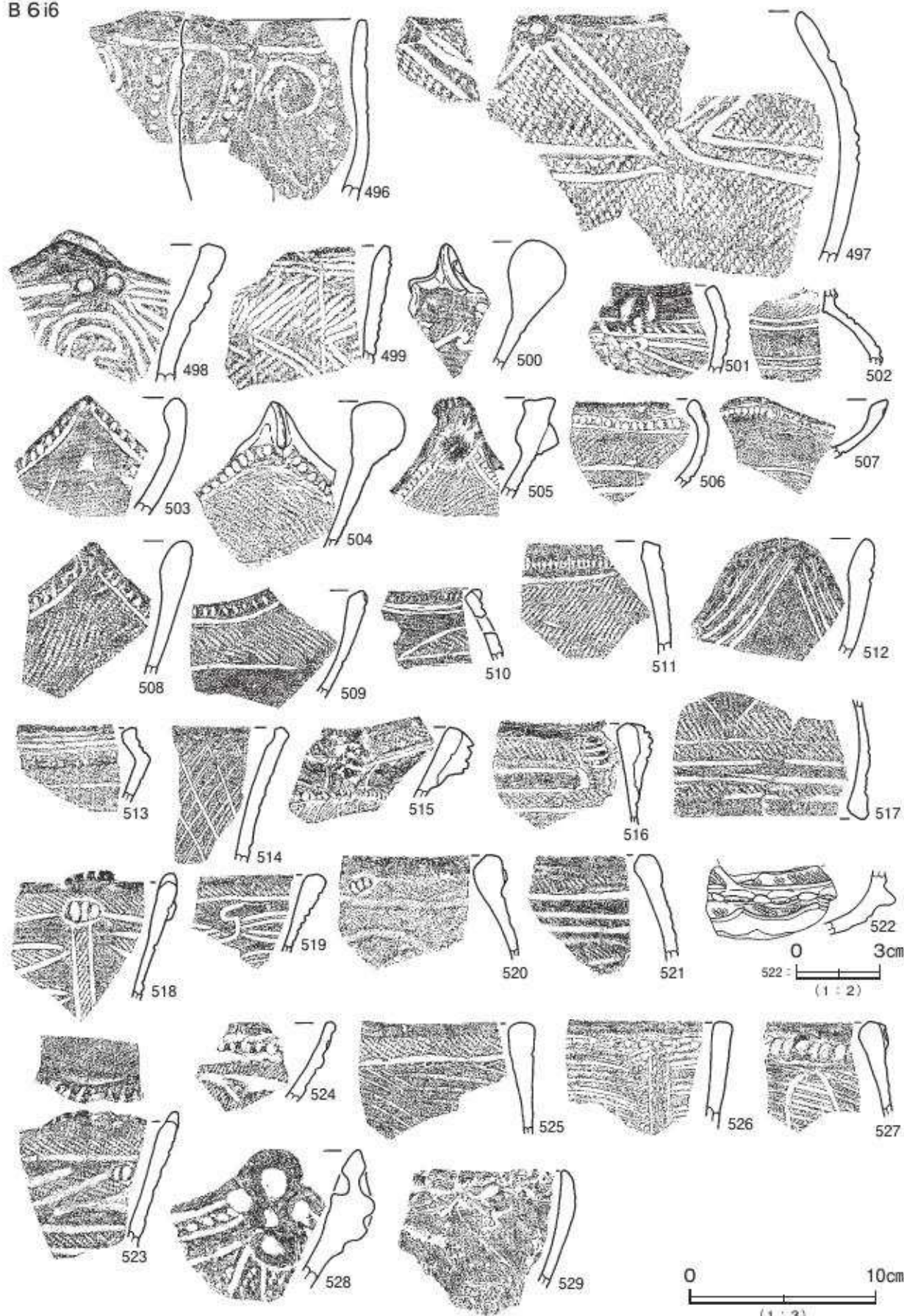


B 6 i 6



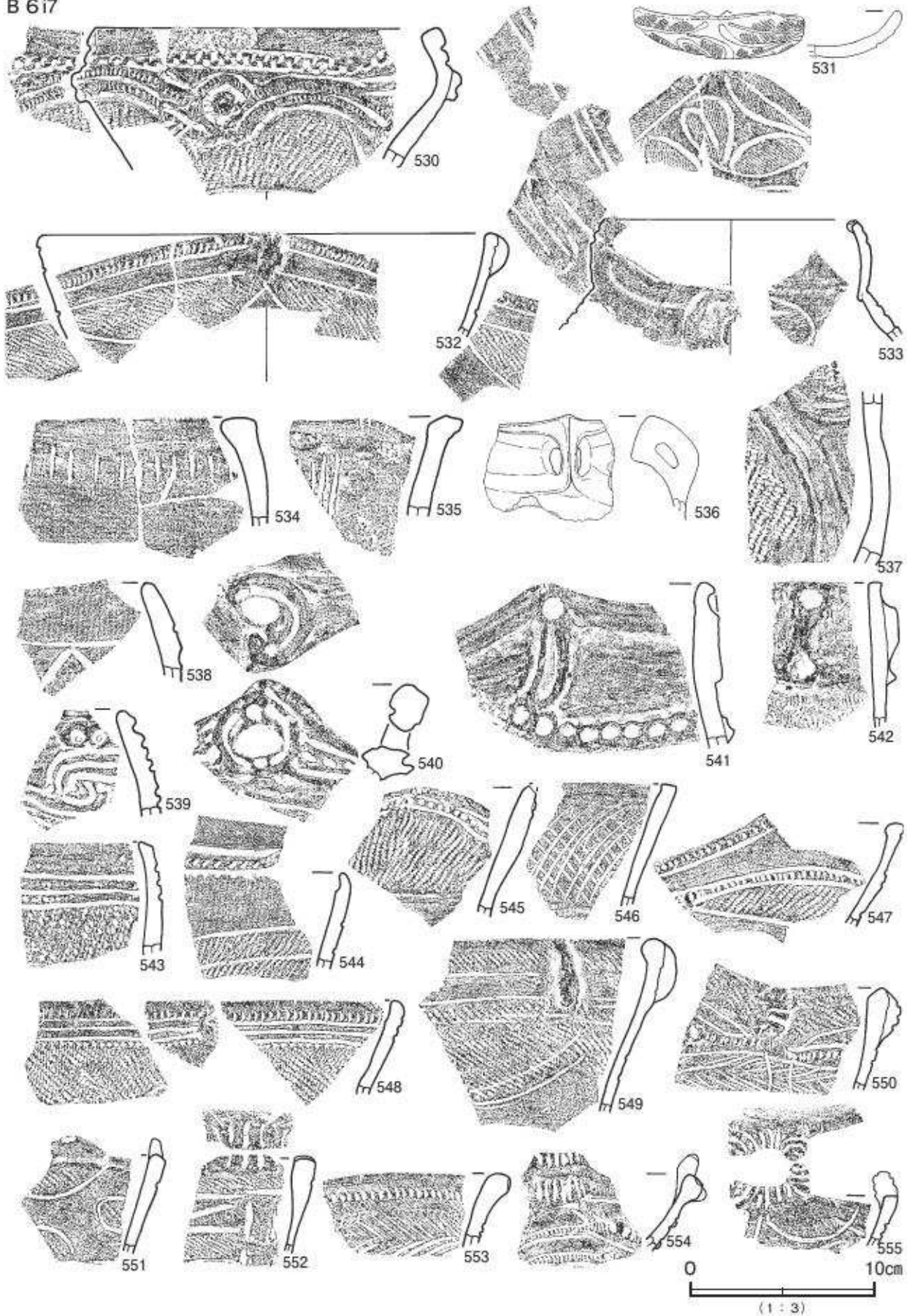
第 284 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (18)

B 6 i6



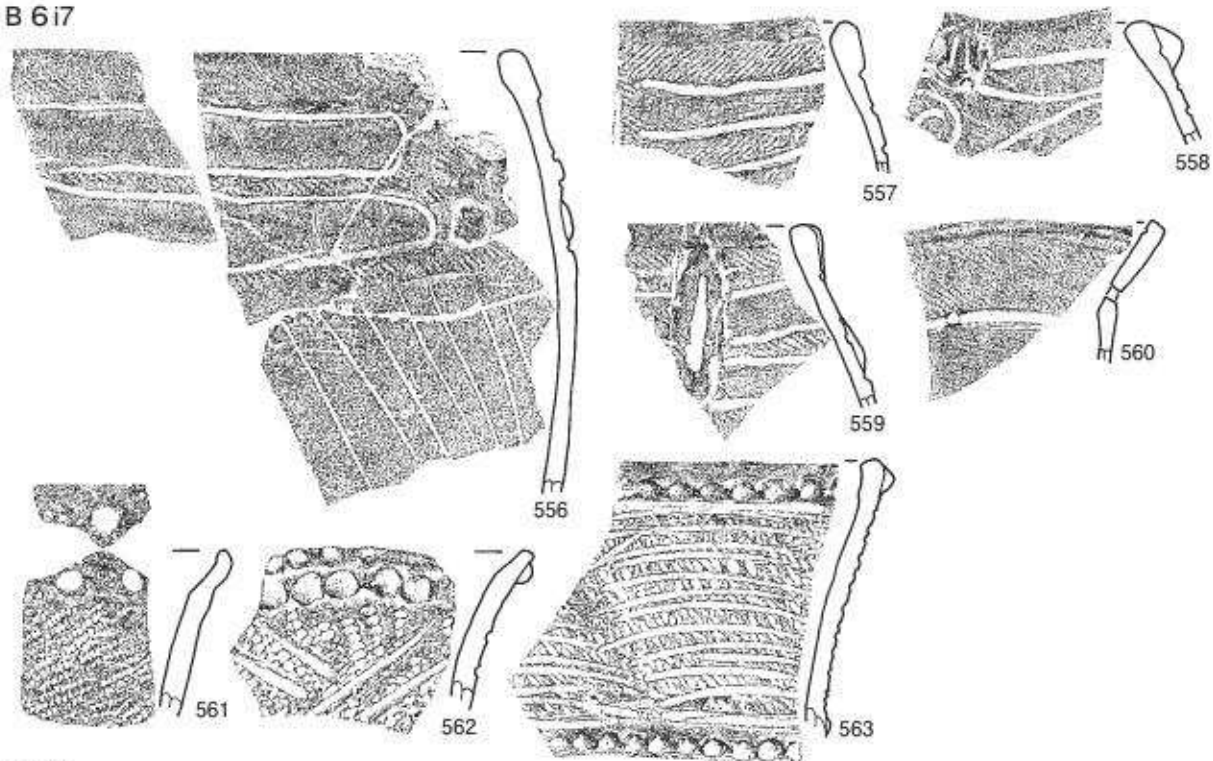
第 285 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (19)

B 617

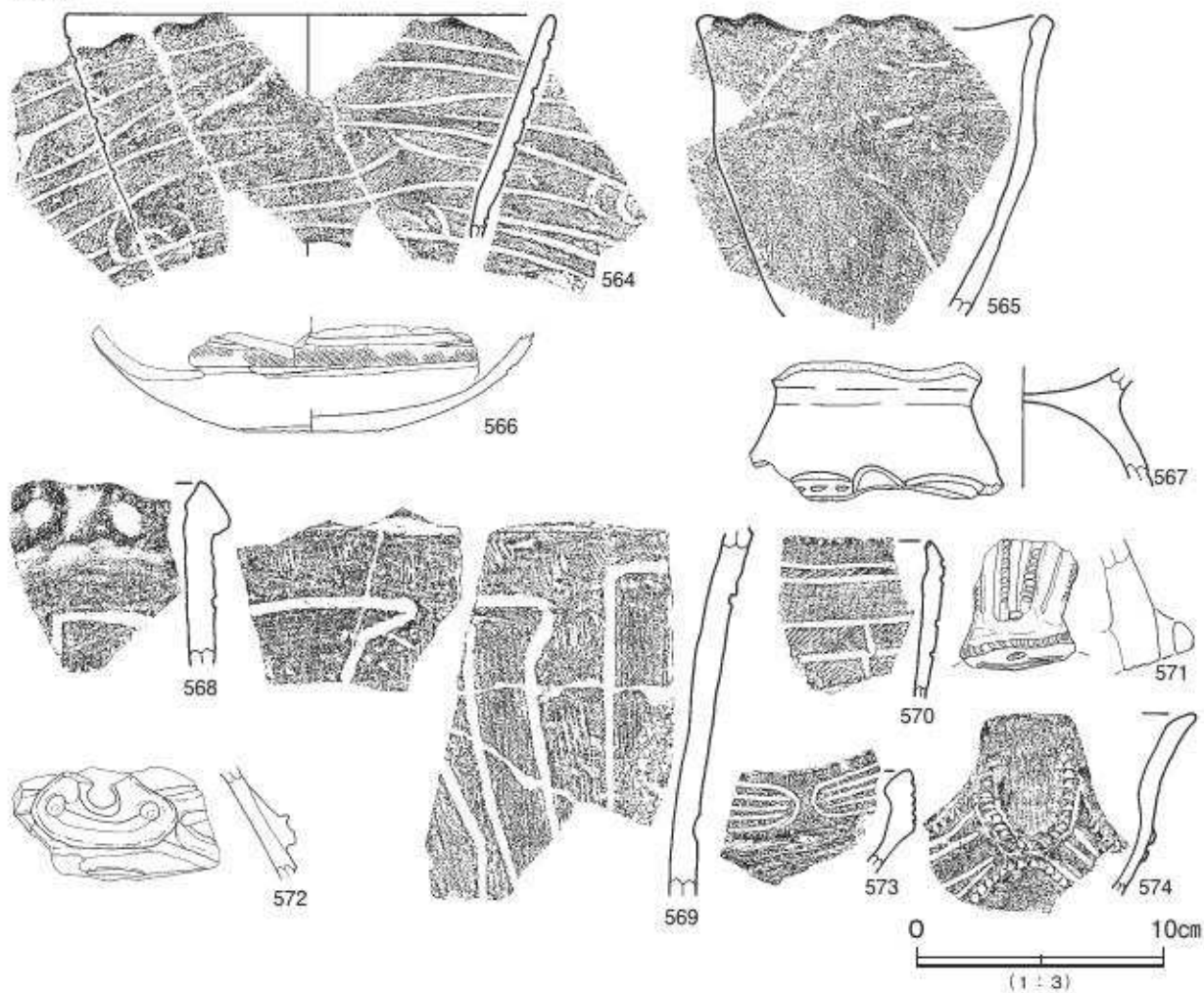


第 286 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (20)

B 6 i7

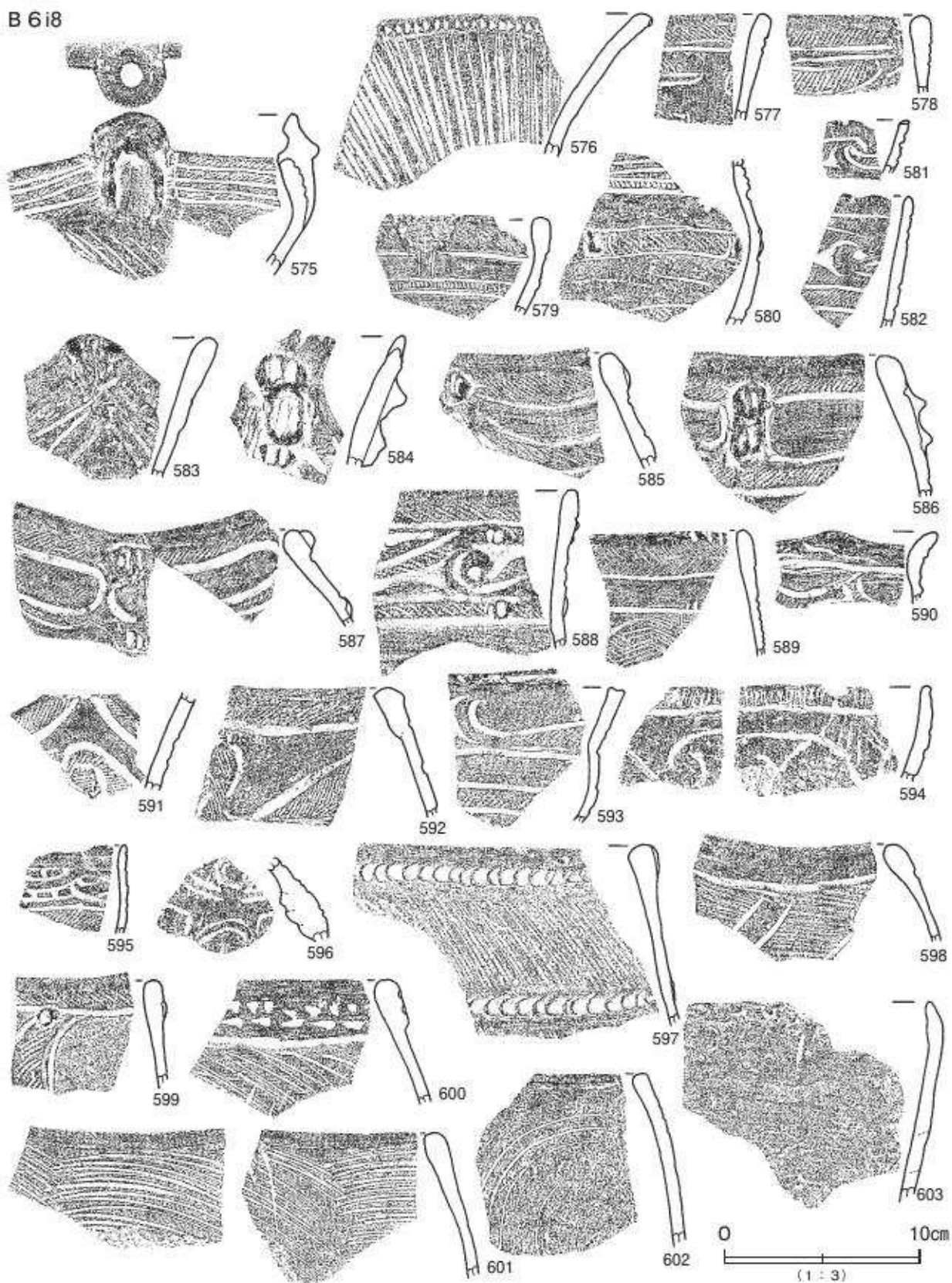


B 6 i8



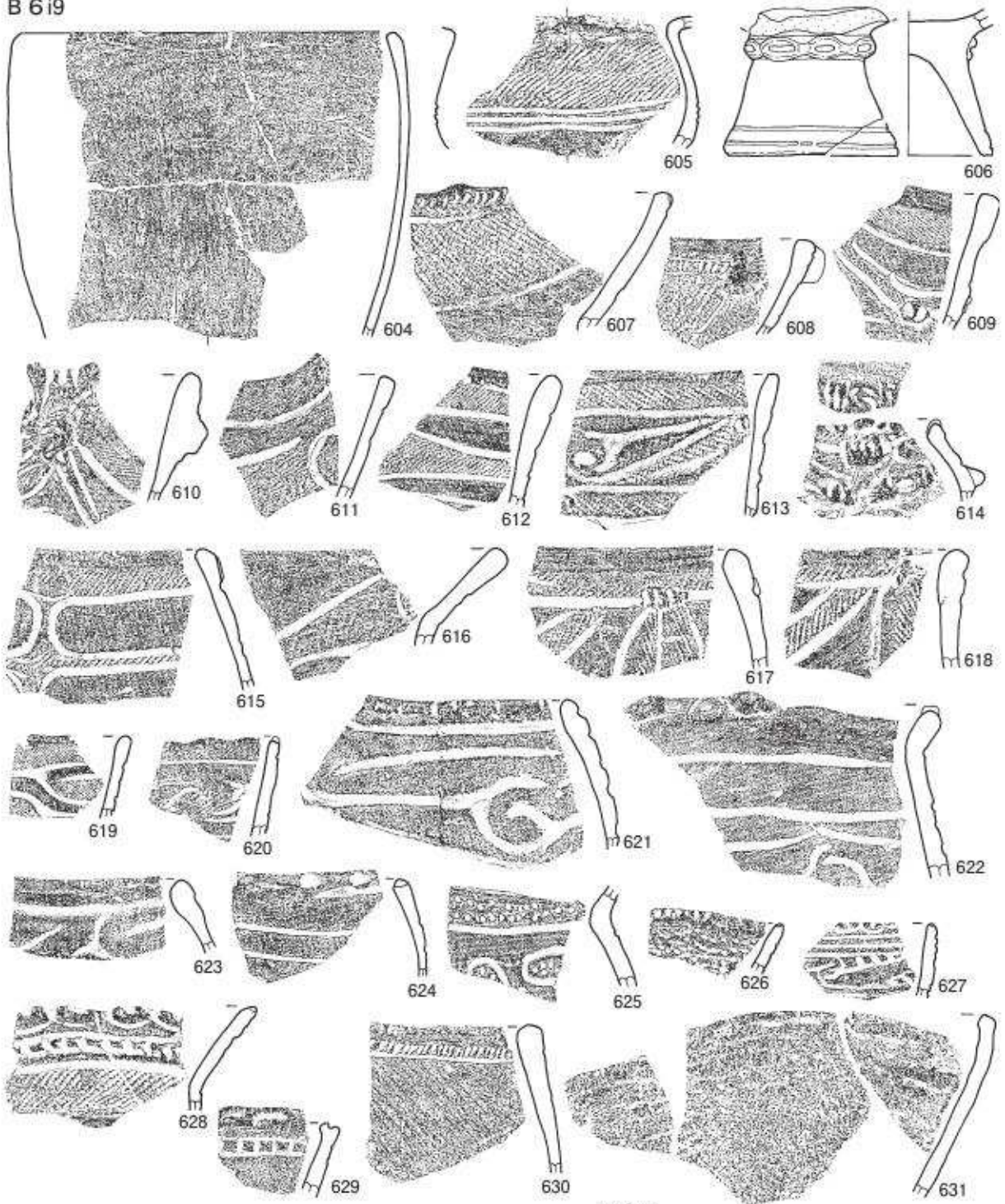
第 287 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

B 6 i 8

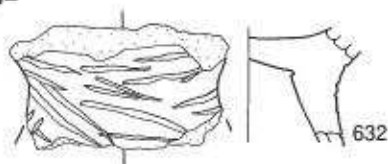


第 288 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 ②

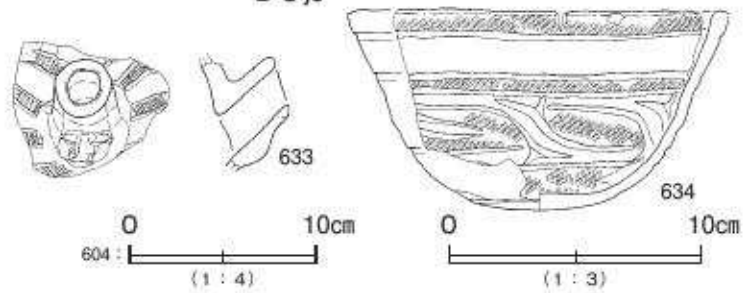
B 6 i9



B 6 j2

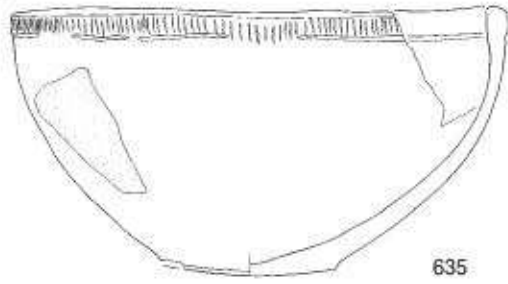


B 6 j5

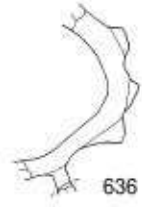
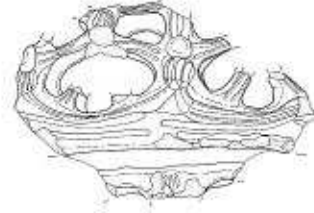


第 289 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 23

B 6j4

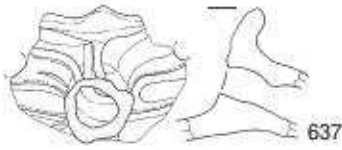


635

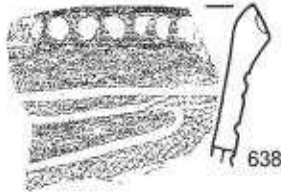


636

B 6j6



637



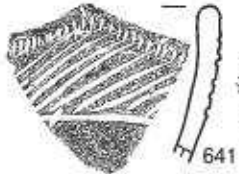
638



639



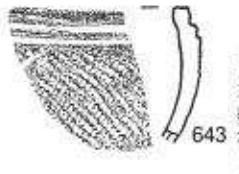
640



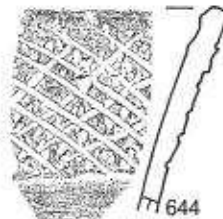
641



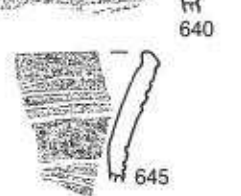
642



643



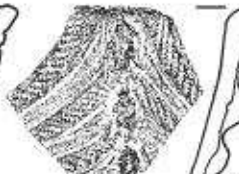
644



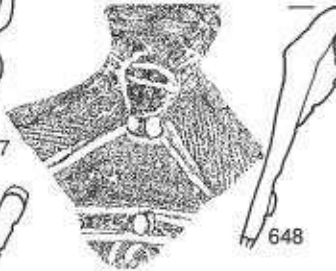
645



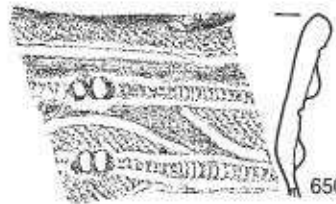
646



647



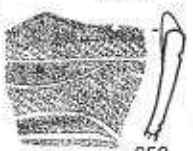
648



650



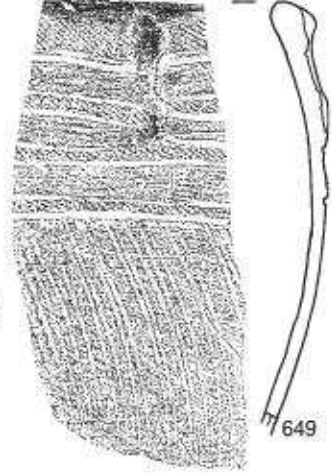
651



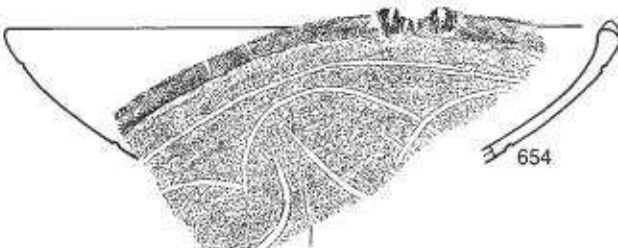
652



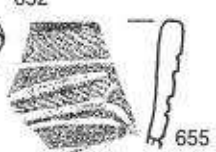
653



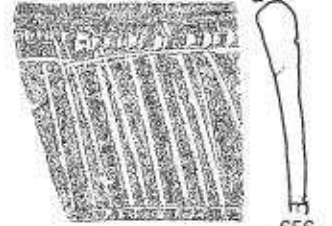
649



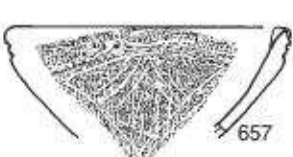
654



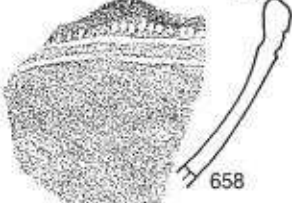
655



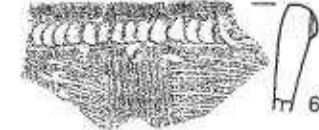
656



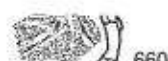
657



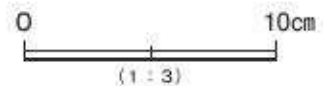
658



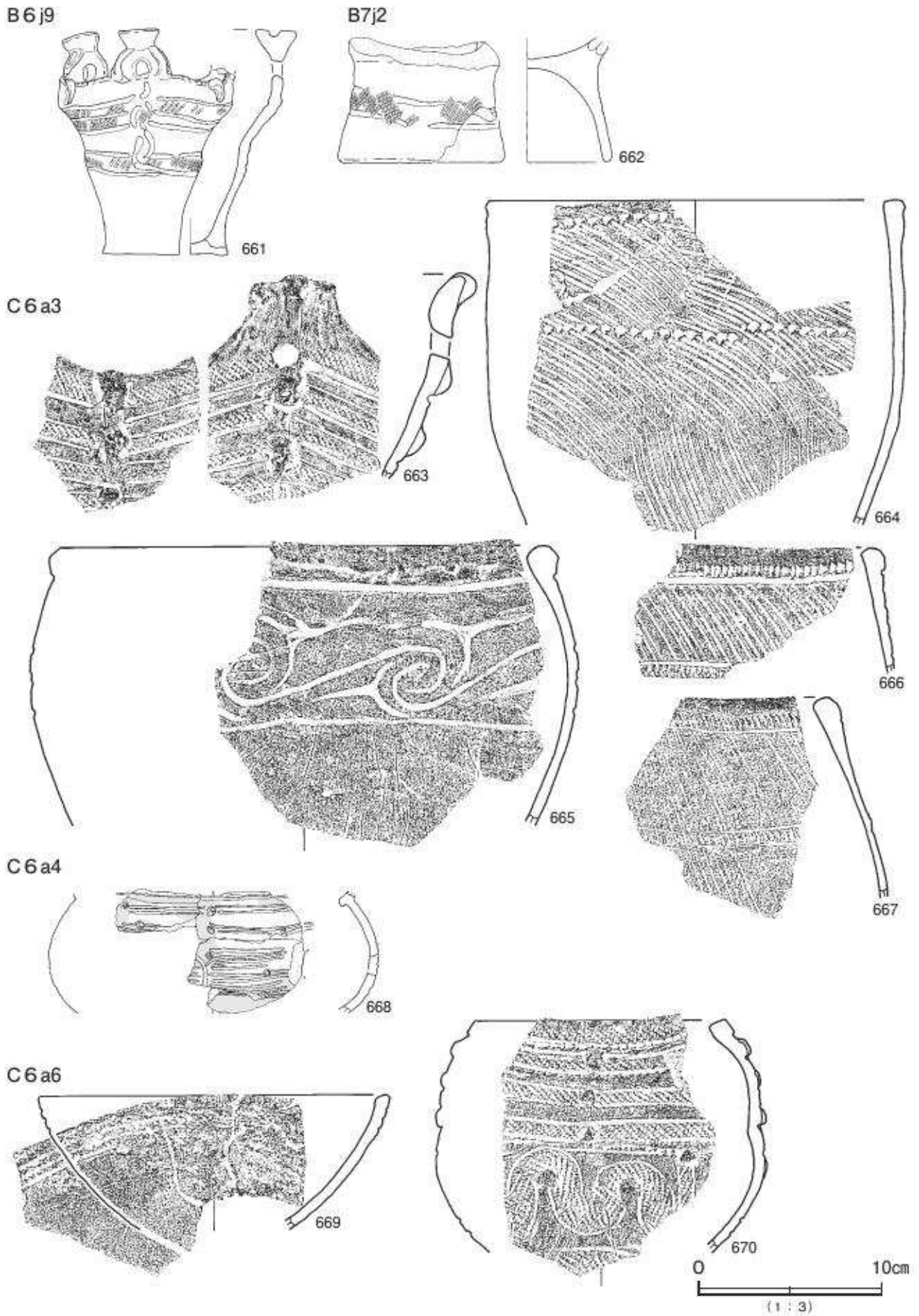
659



660

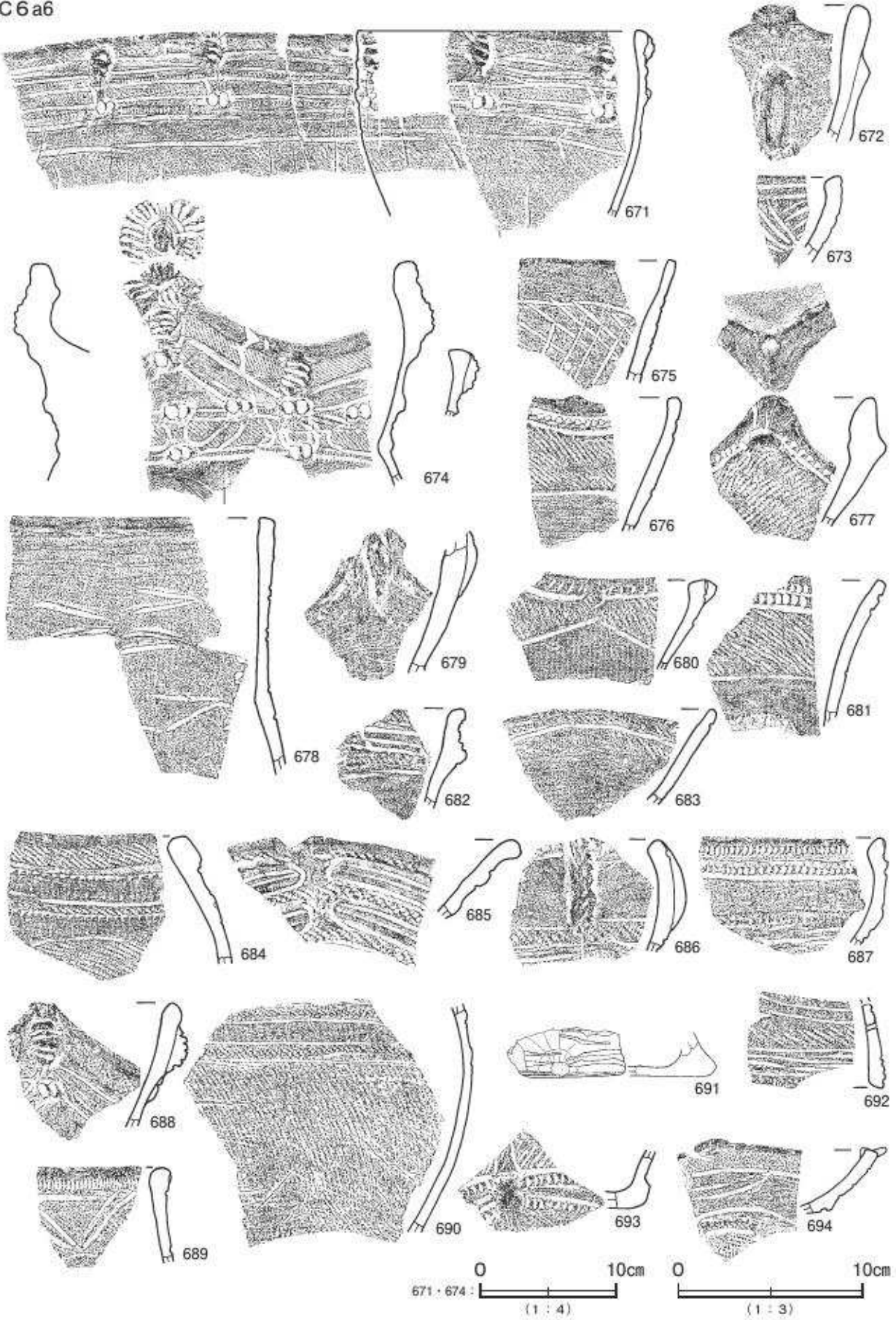


第 290 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (24)

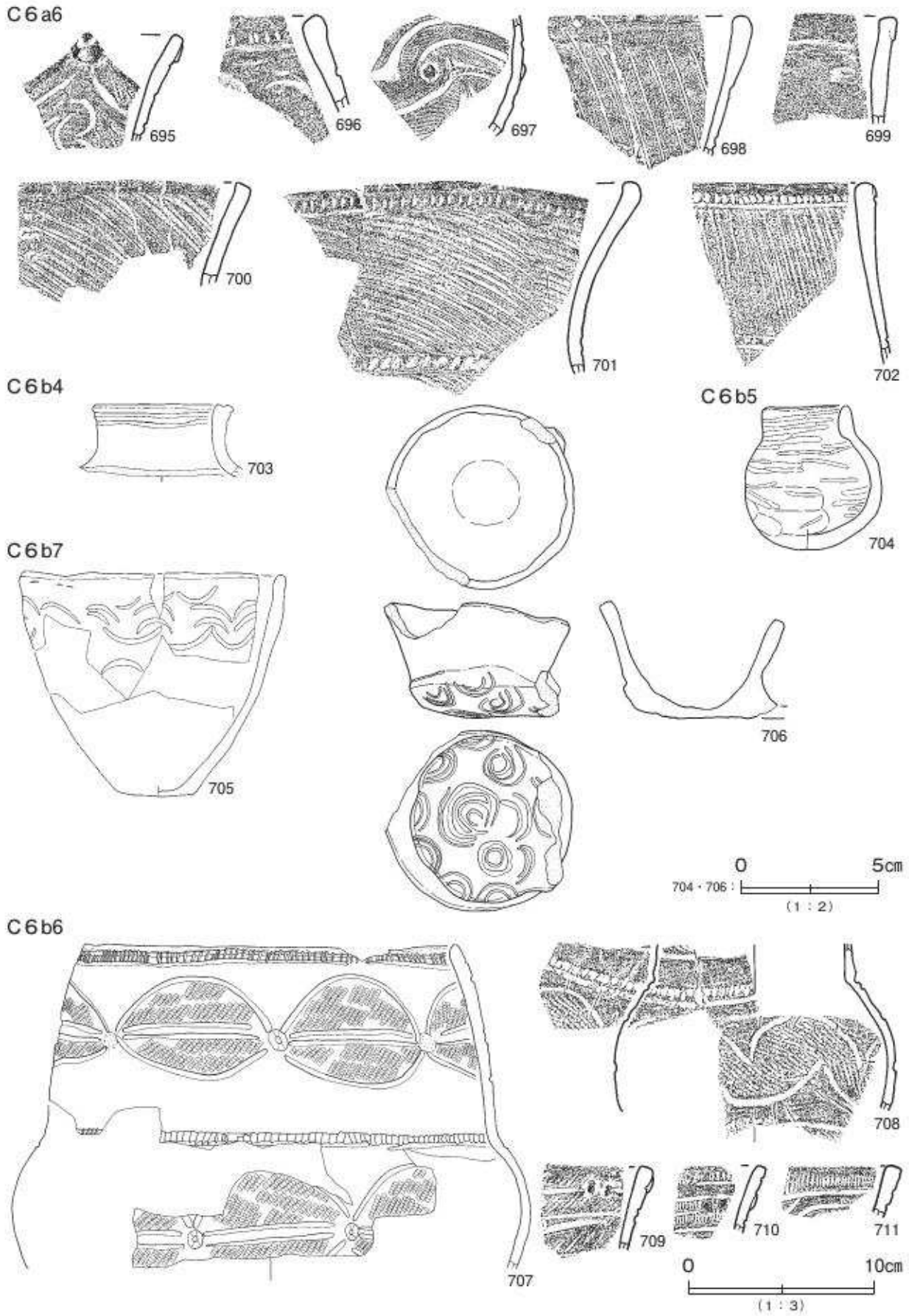


第 291 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

C6a6

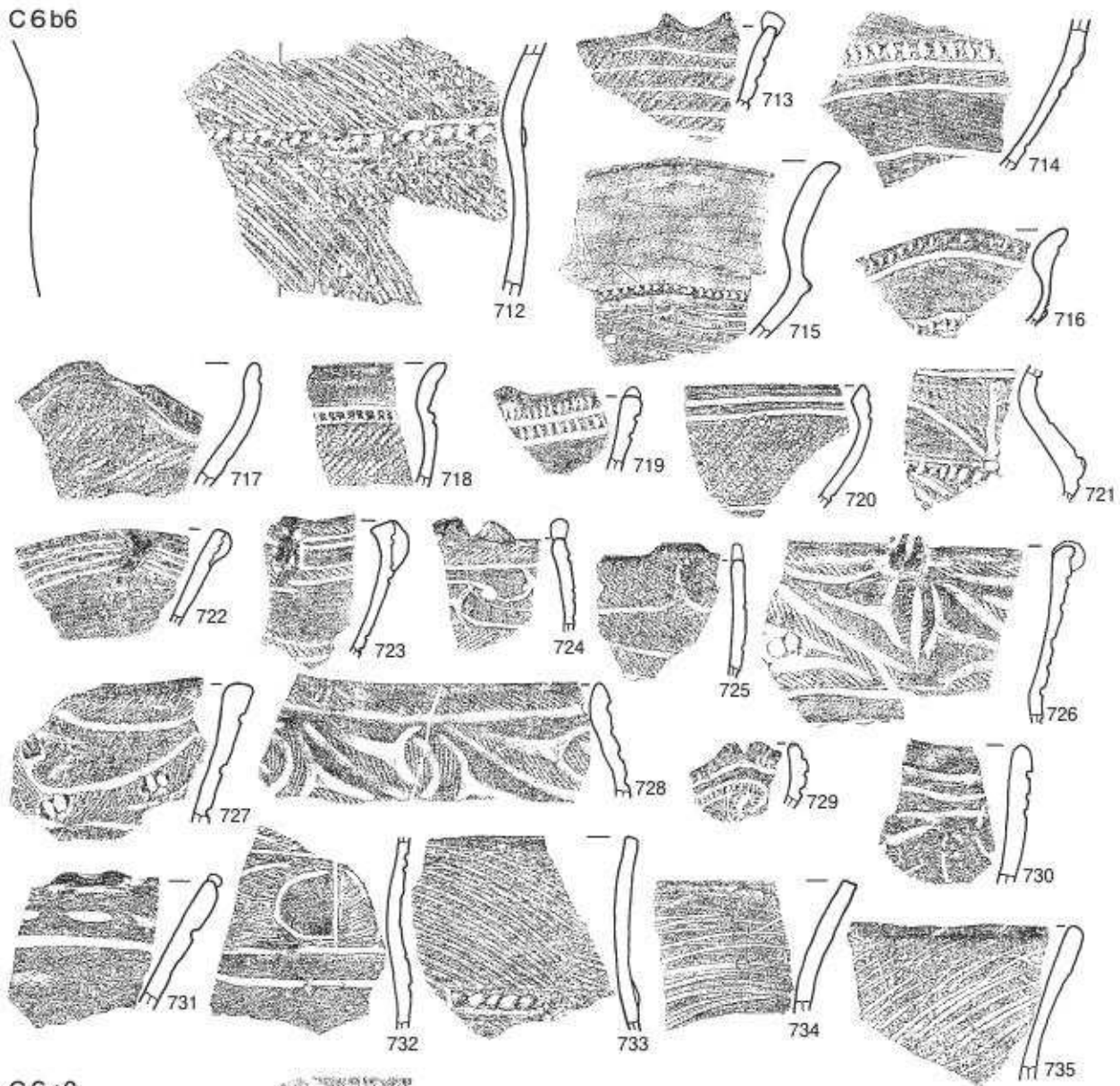


第 292 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 06

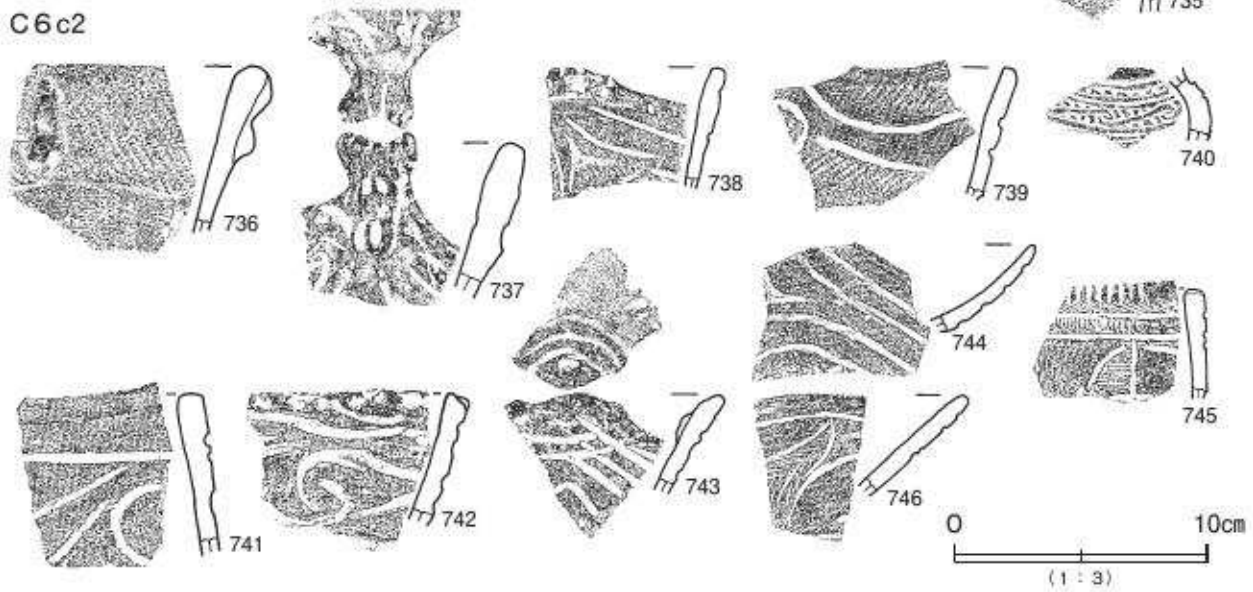


第 293 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (27)

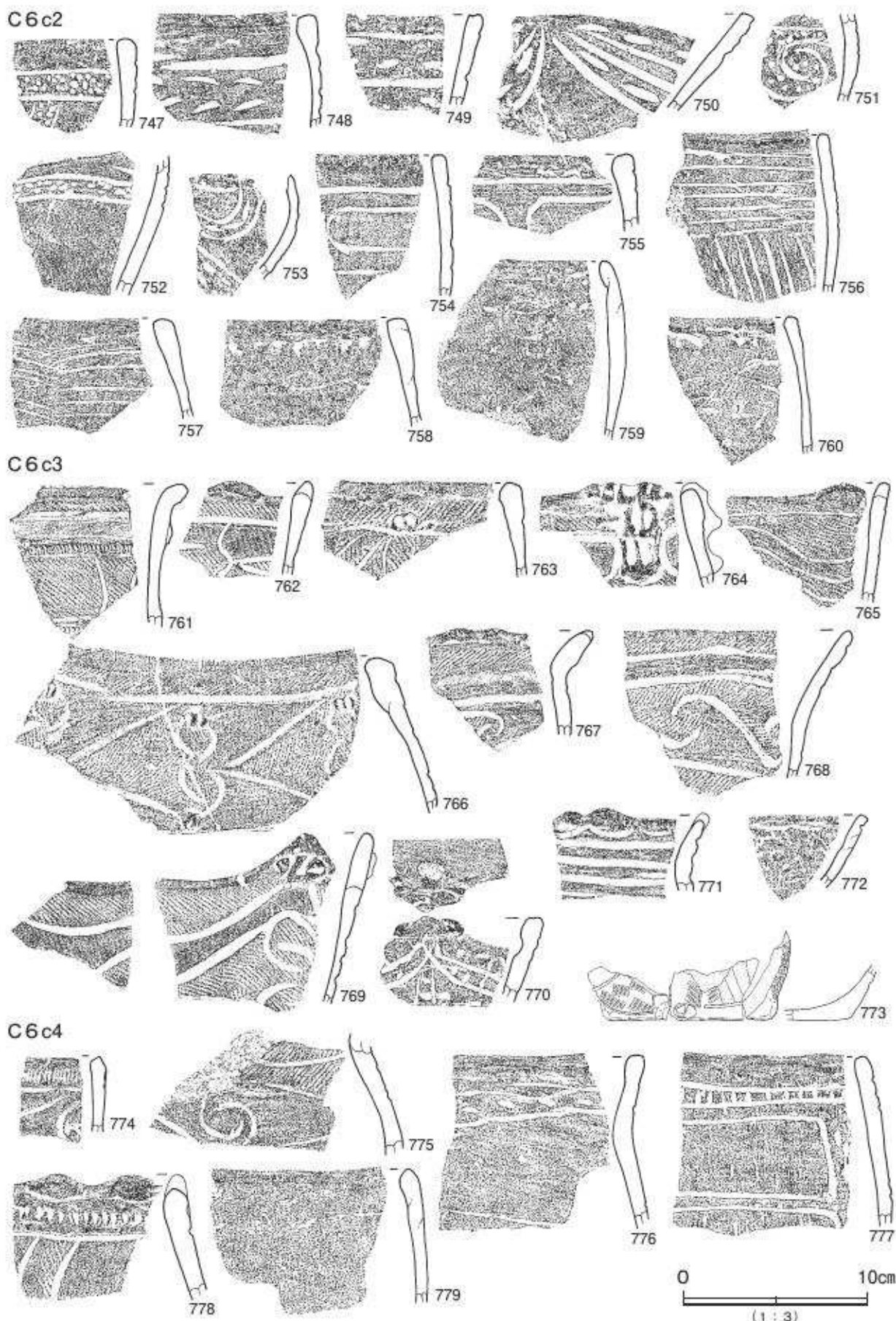
C6b6



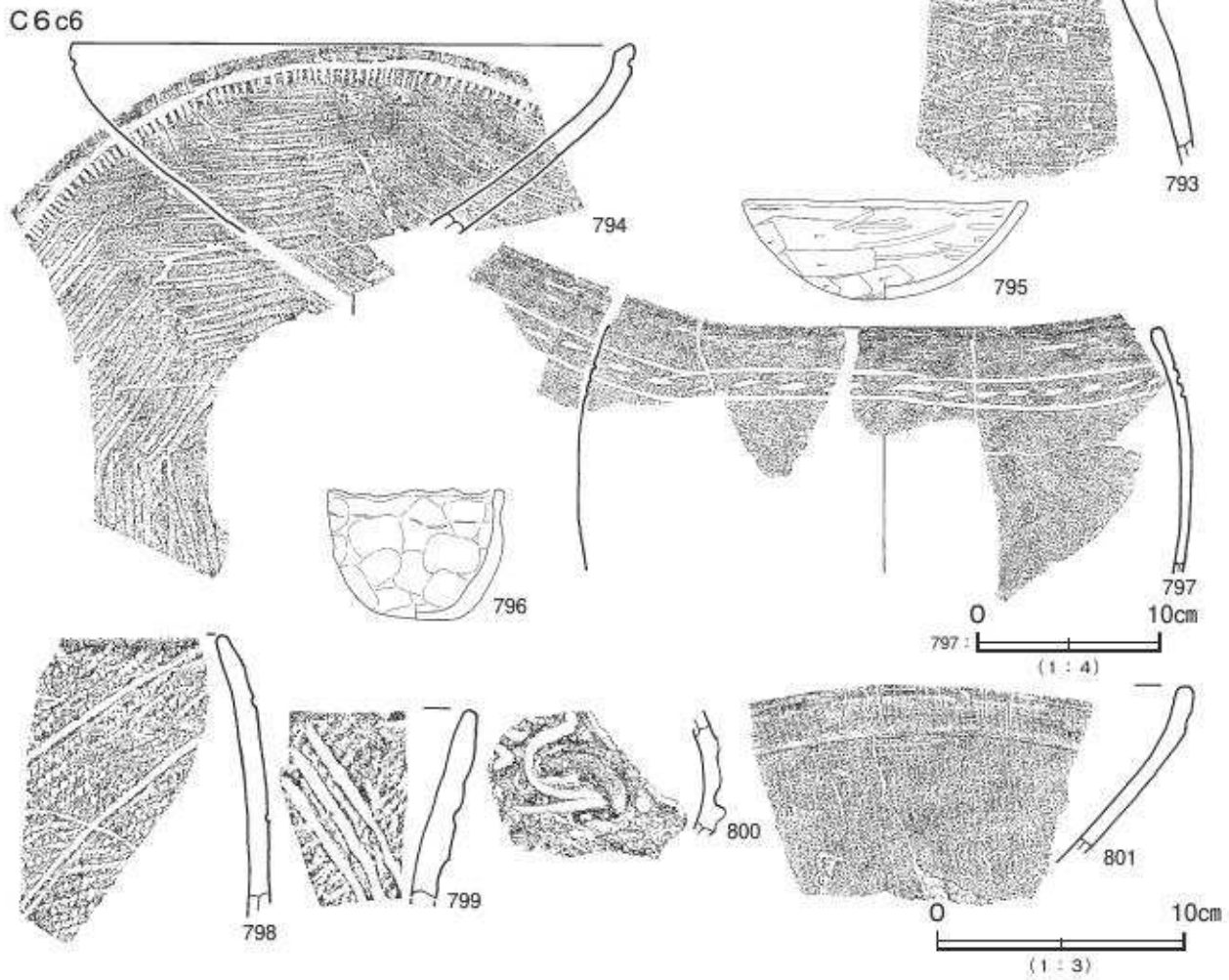
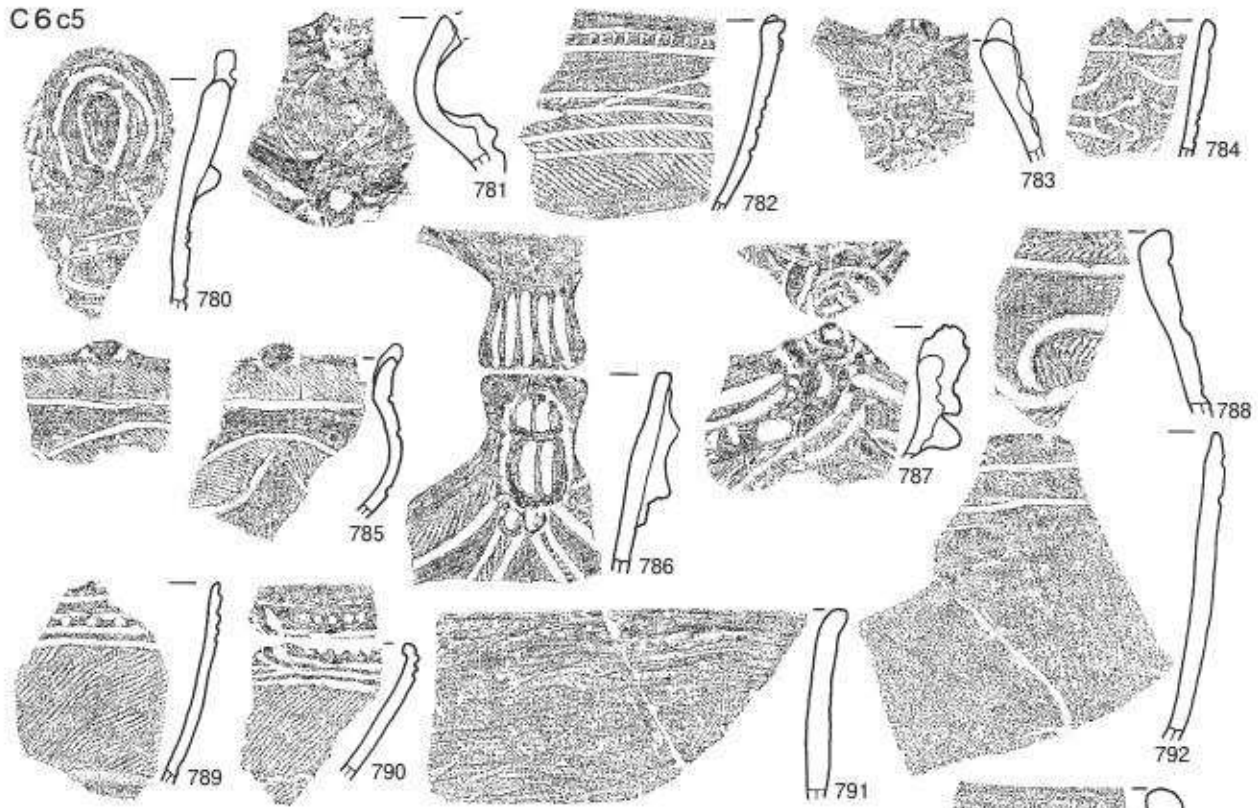
C6c2



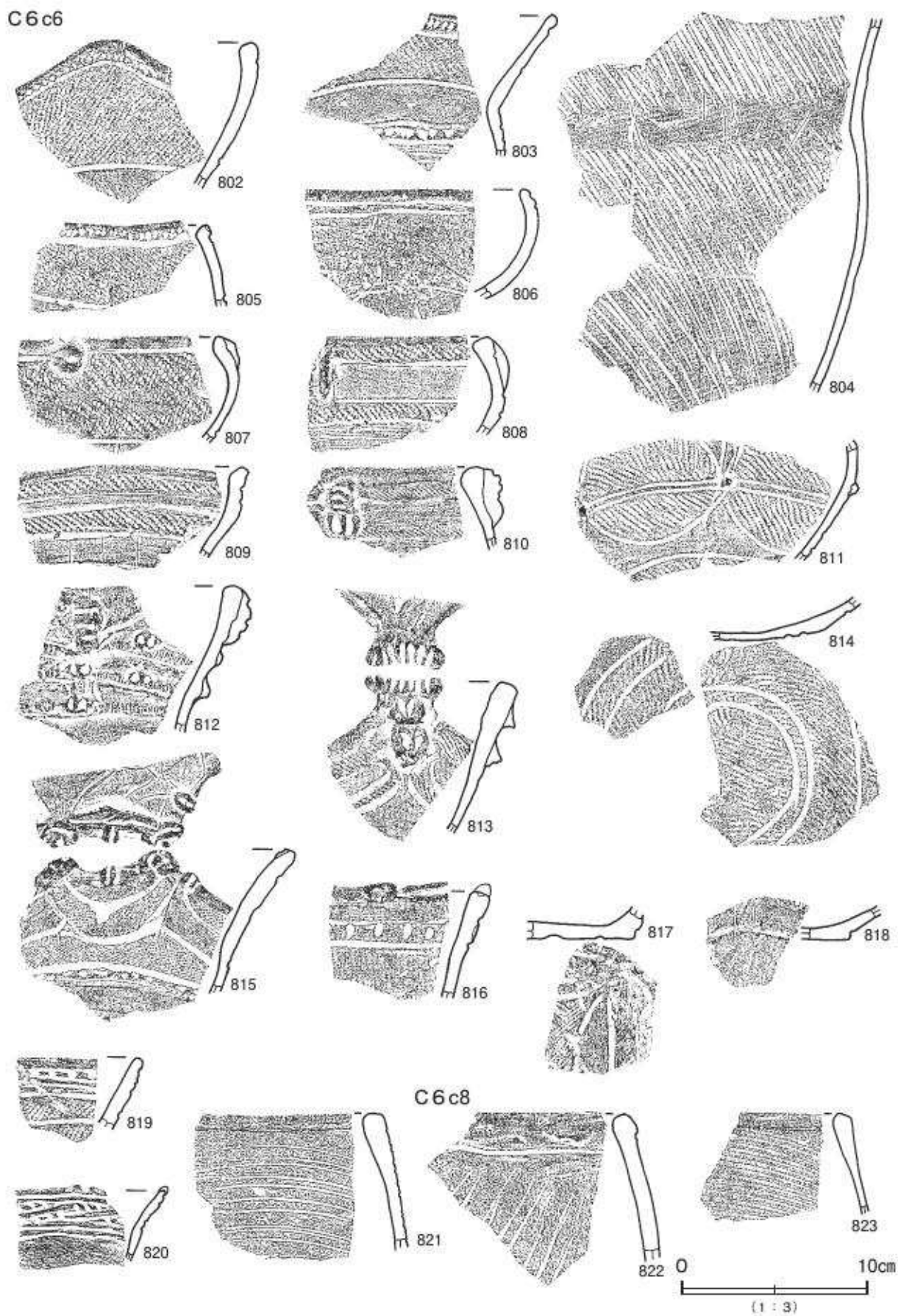
第 294 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图 ②8



第 295 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (29)

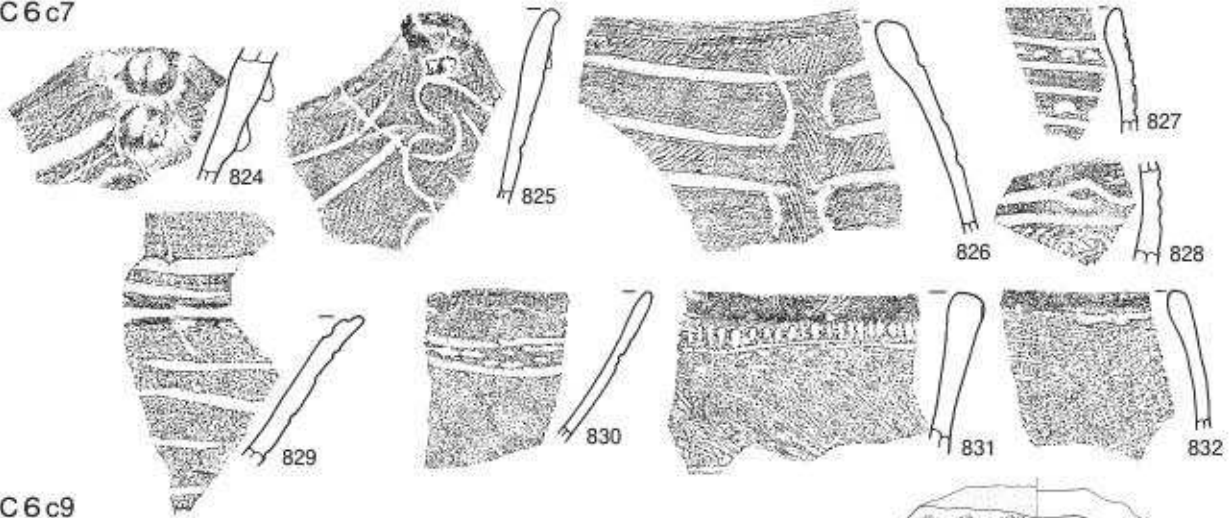


第296图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(30)

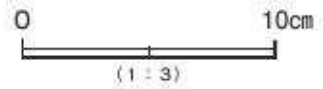
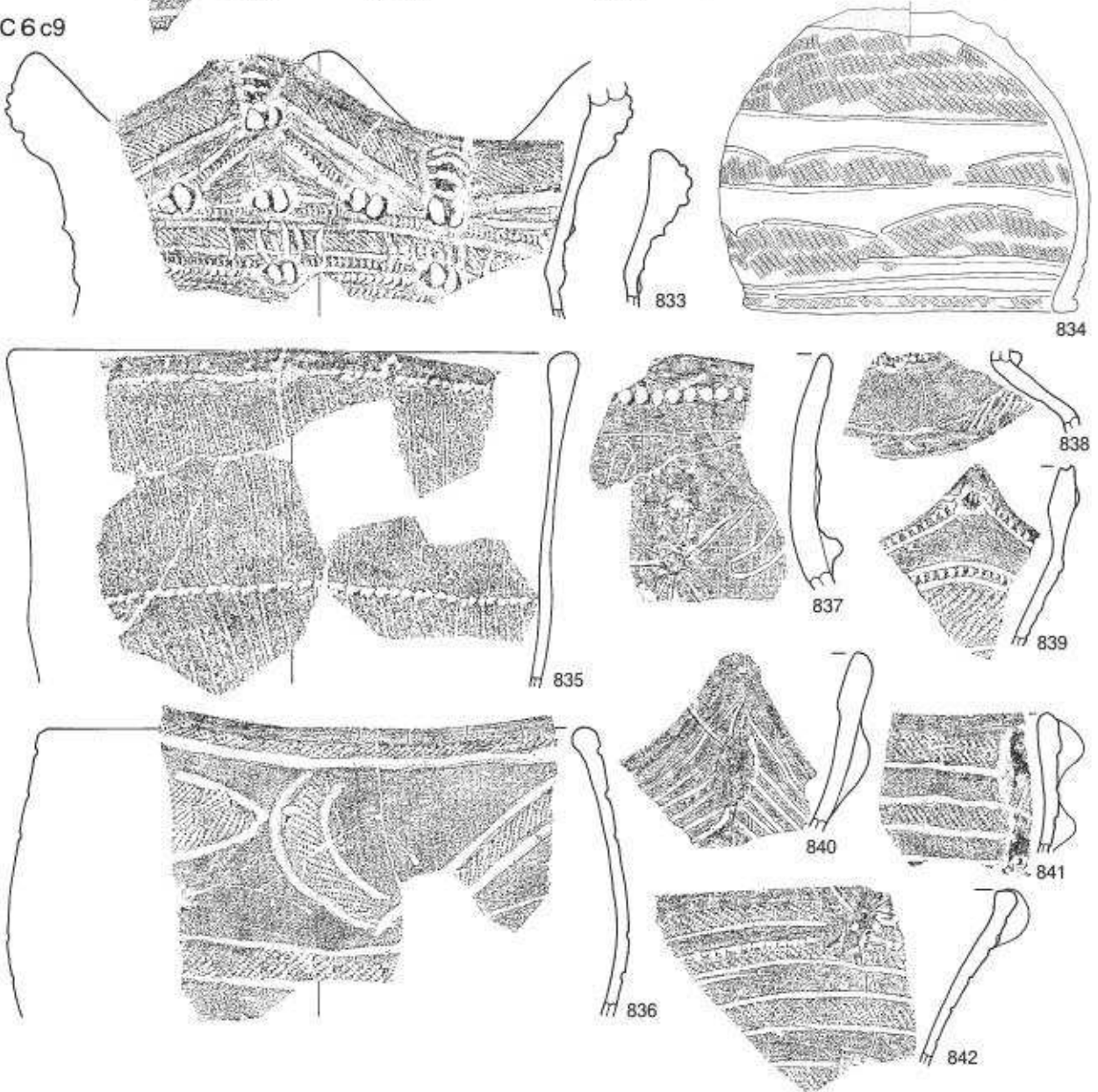


第 297 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)

C6c7

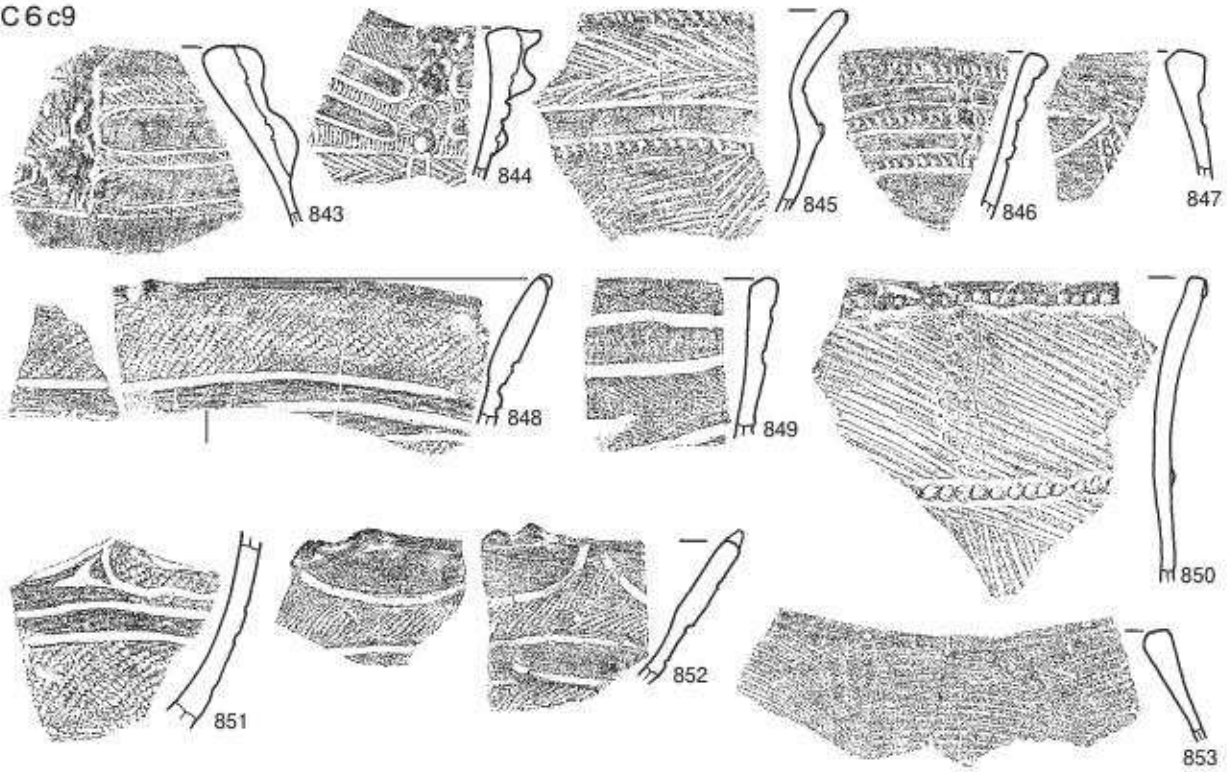


C6c9

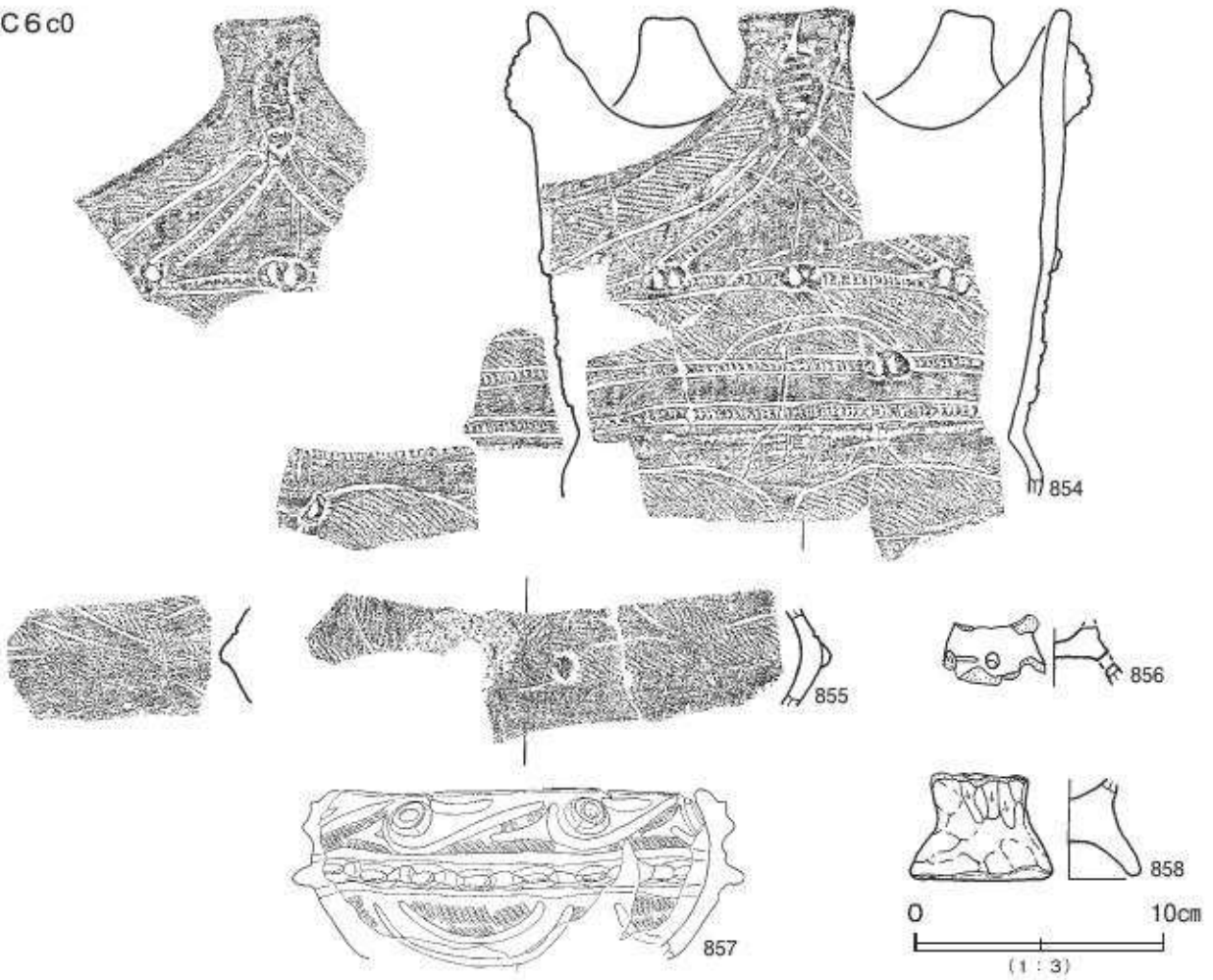


第 298 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (32)

C6c9

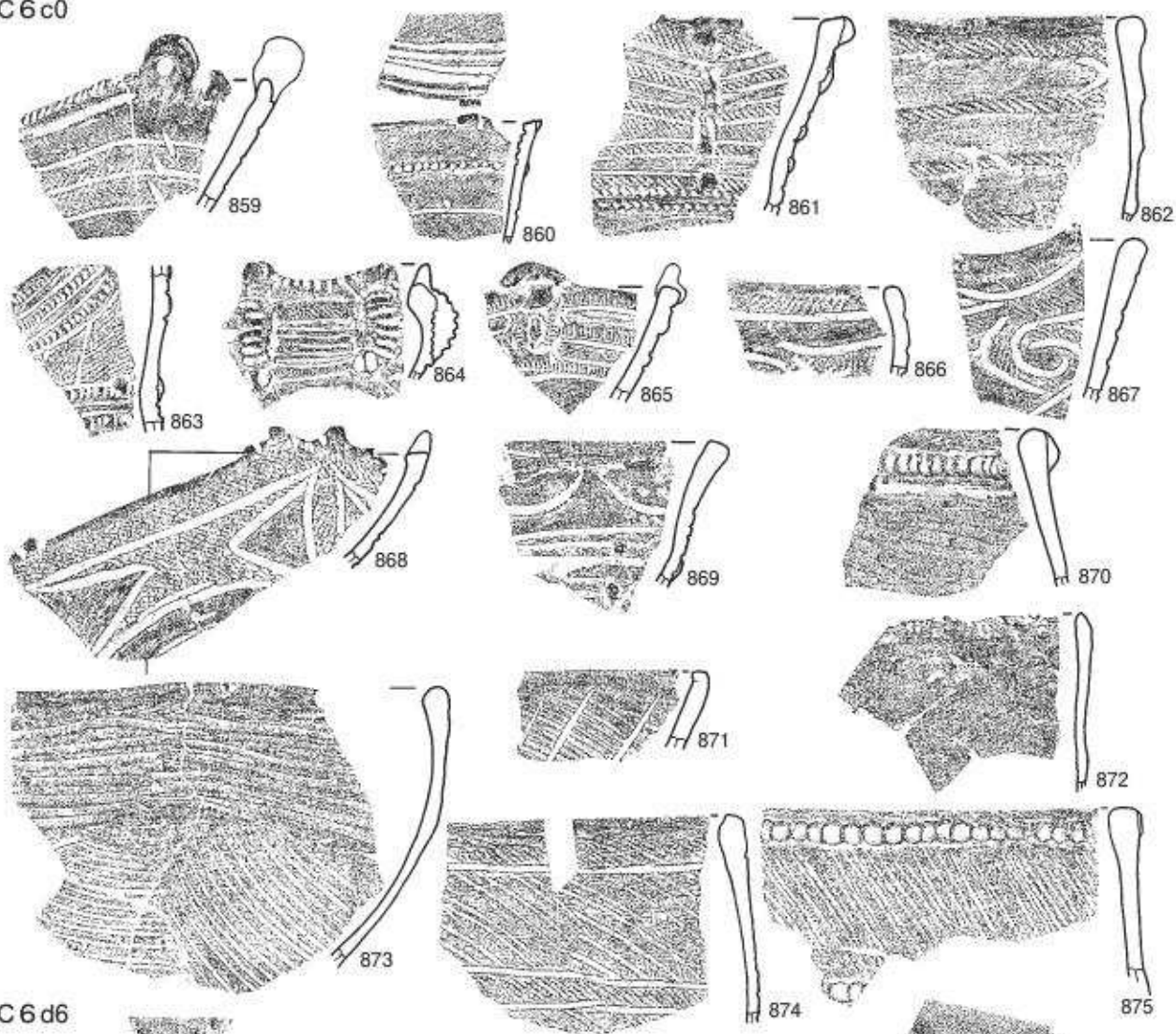


C6c0

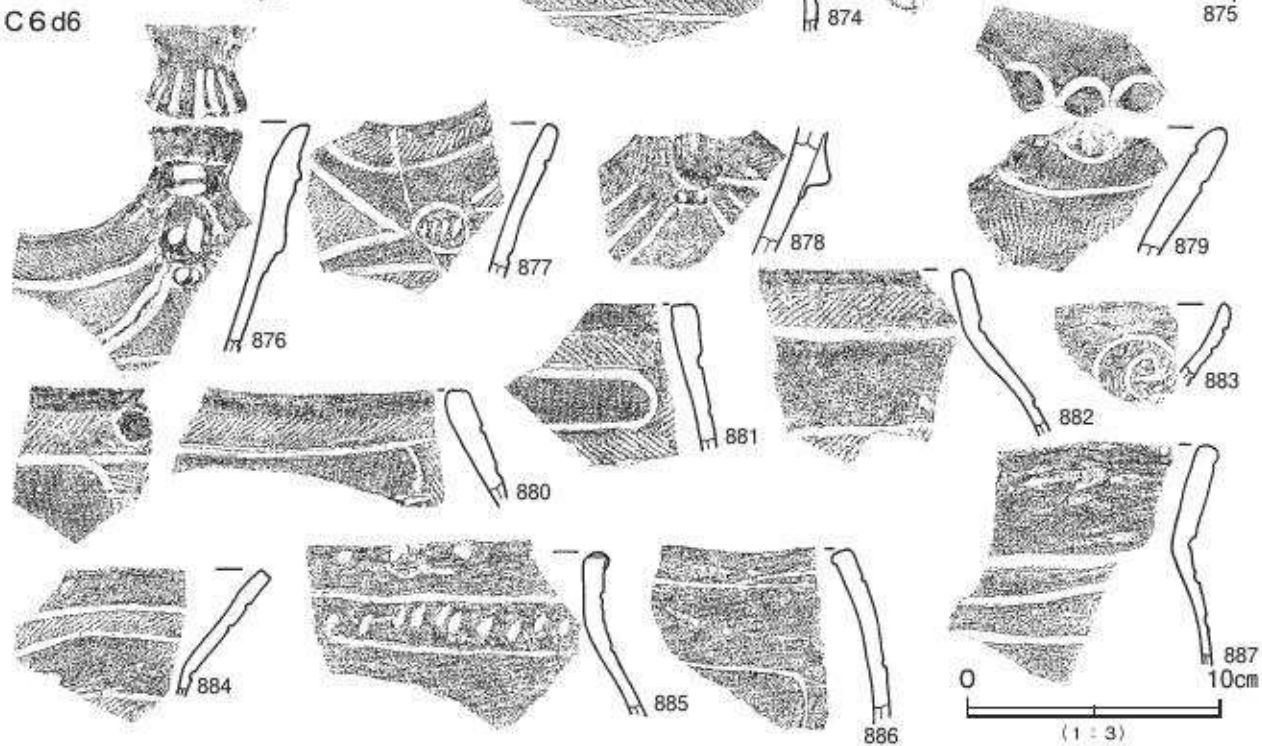


第299図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)

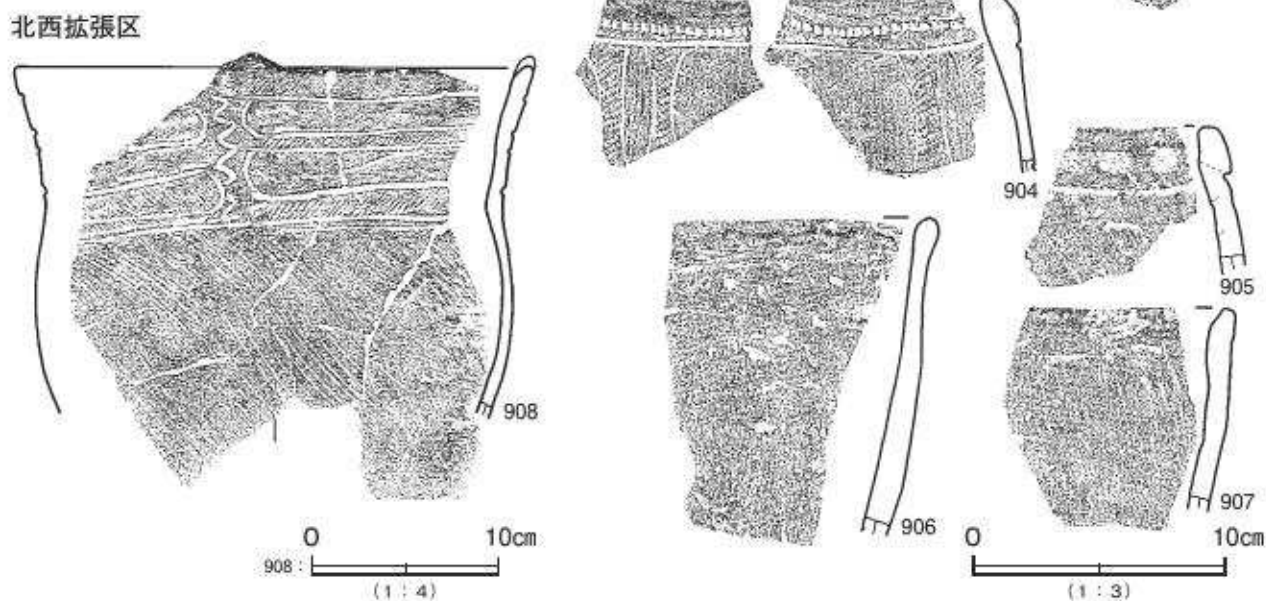
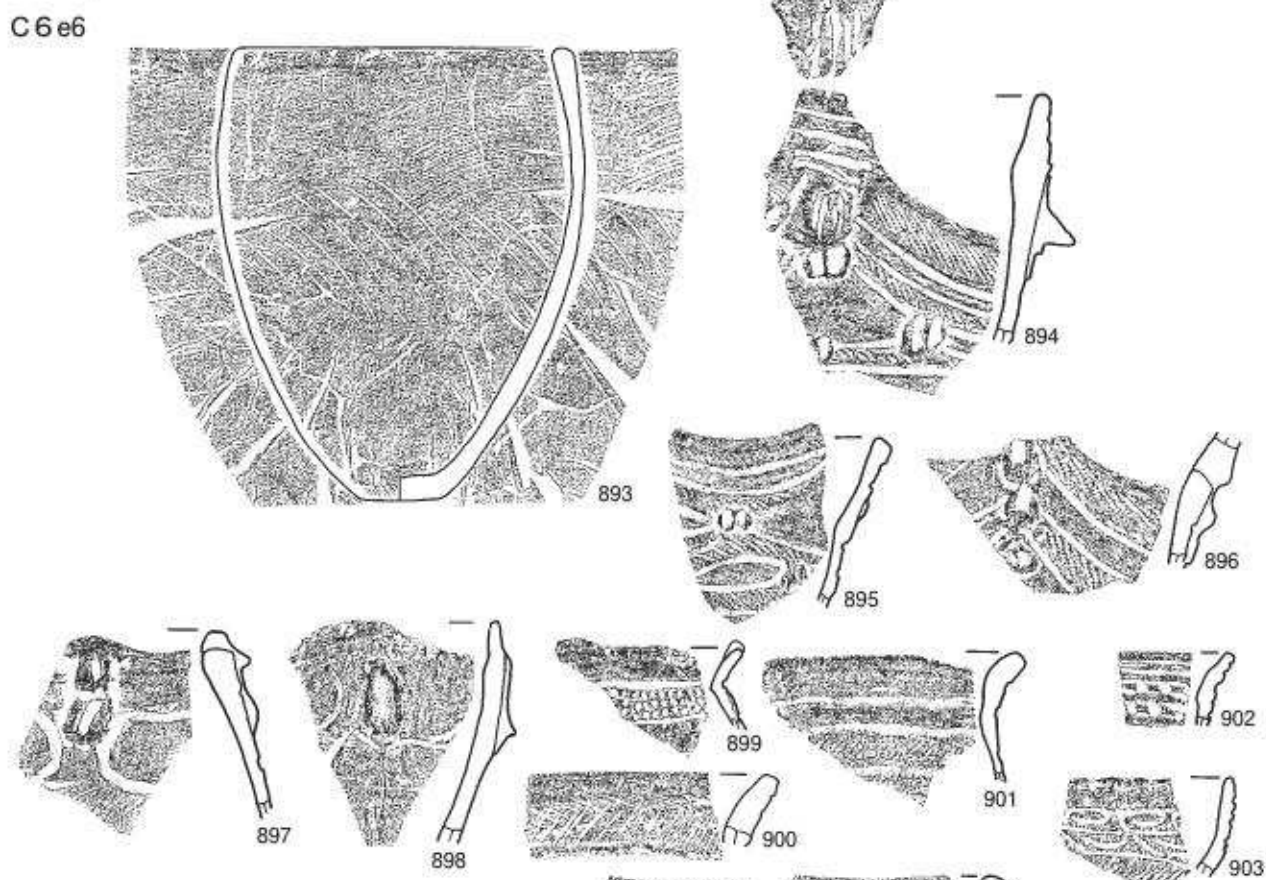
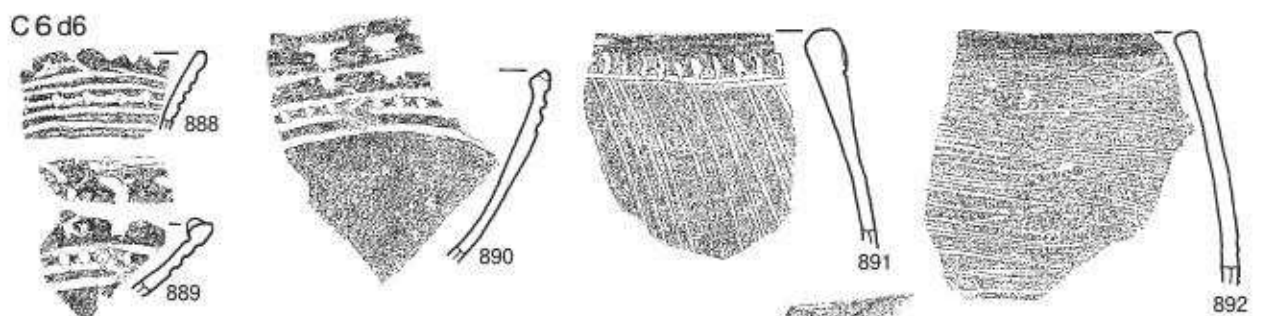
C6c0



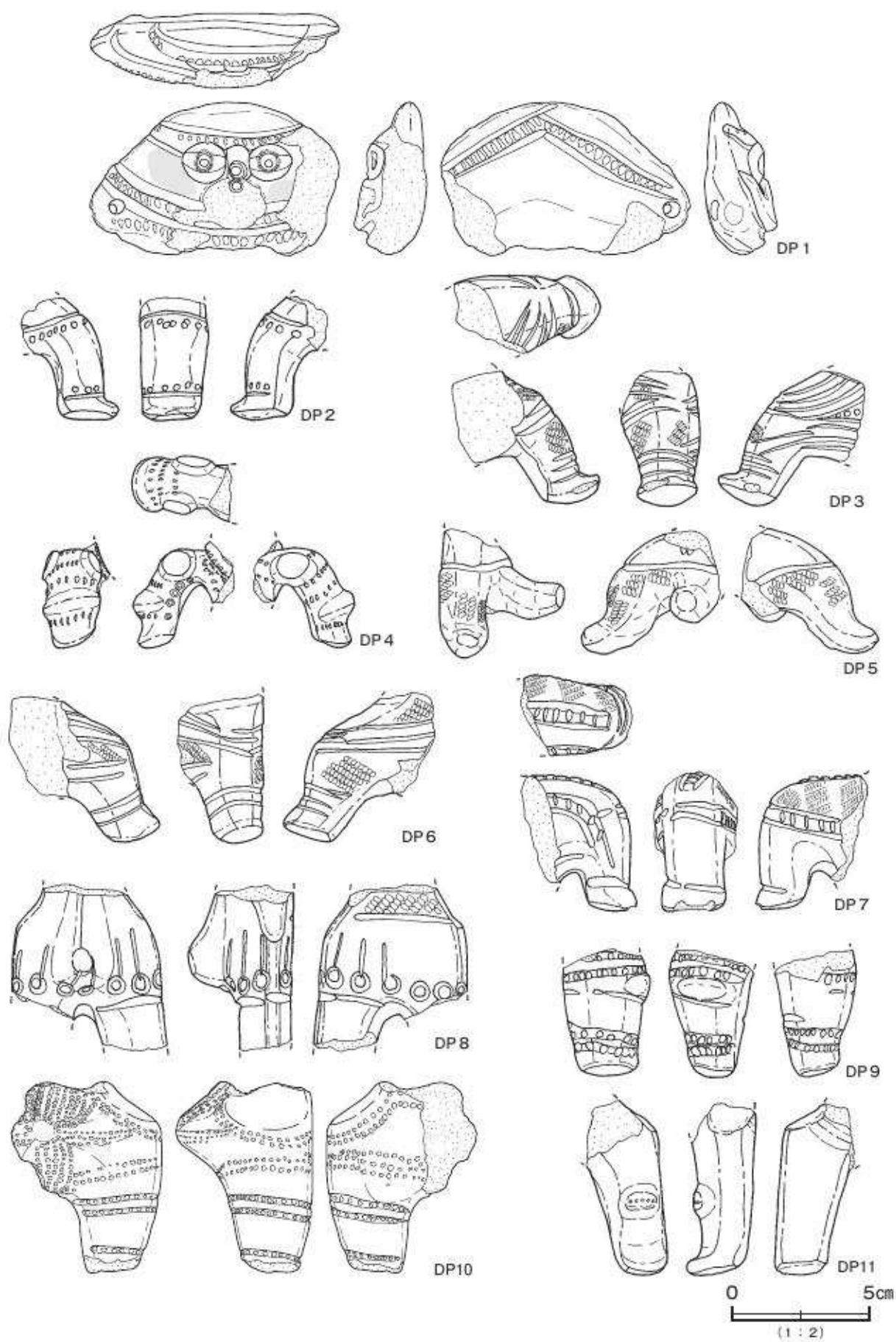
C6d6



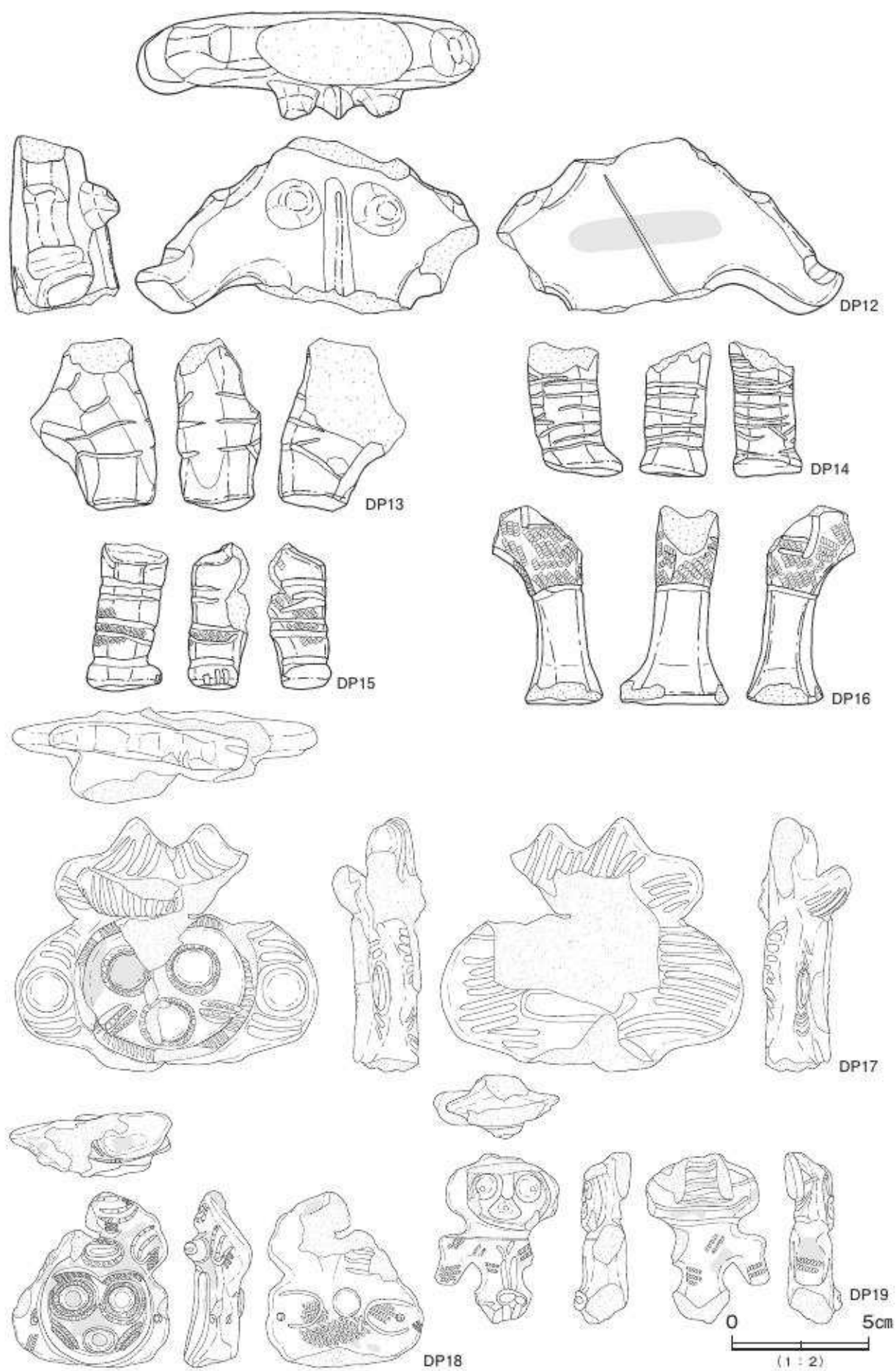
第300图 第2号遺物包含層出土遺物実測图(34)



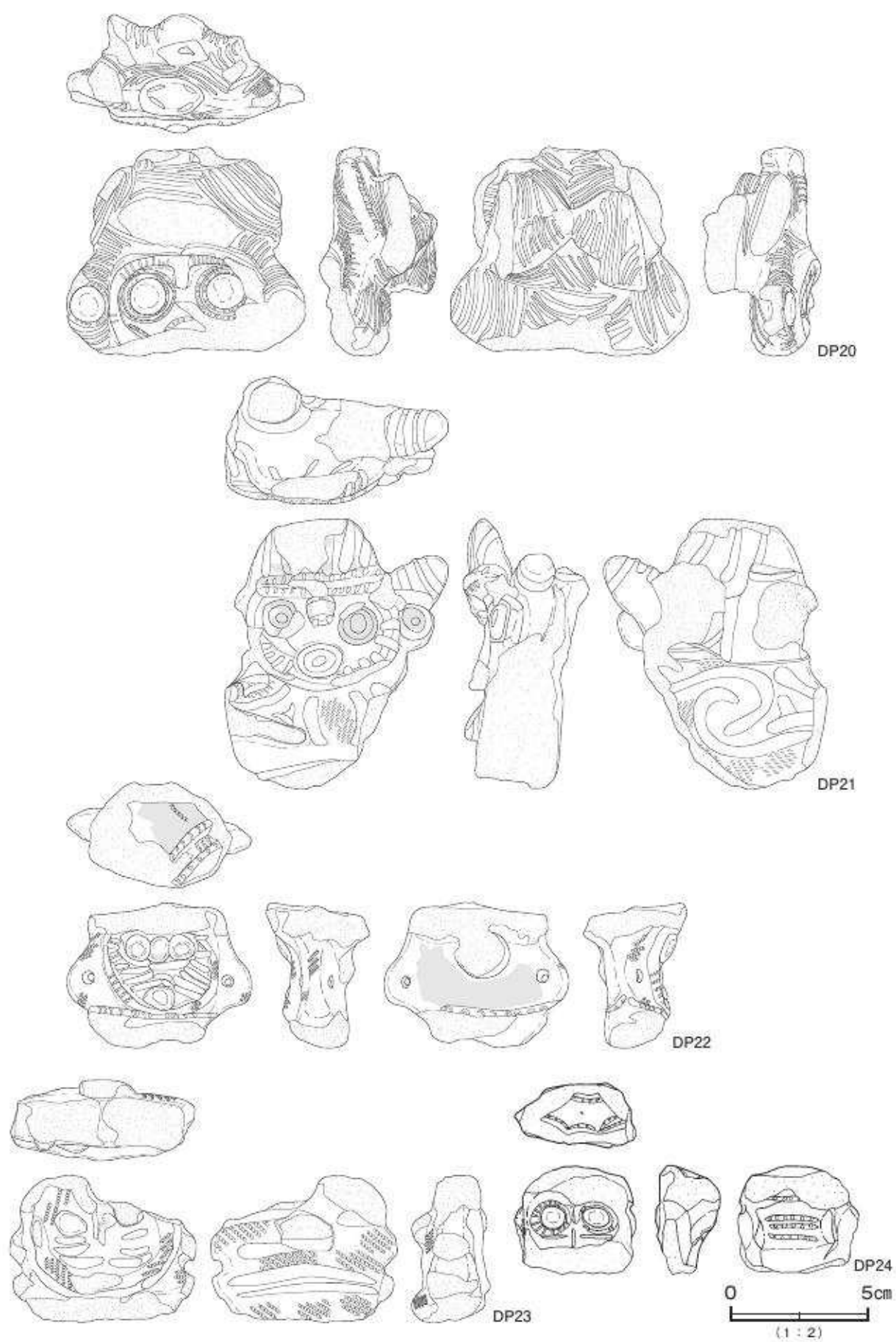
第 301 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)



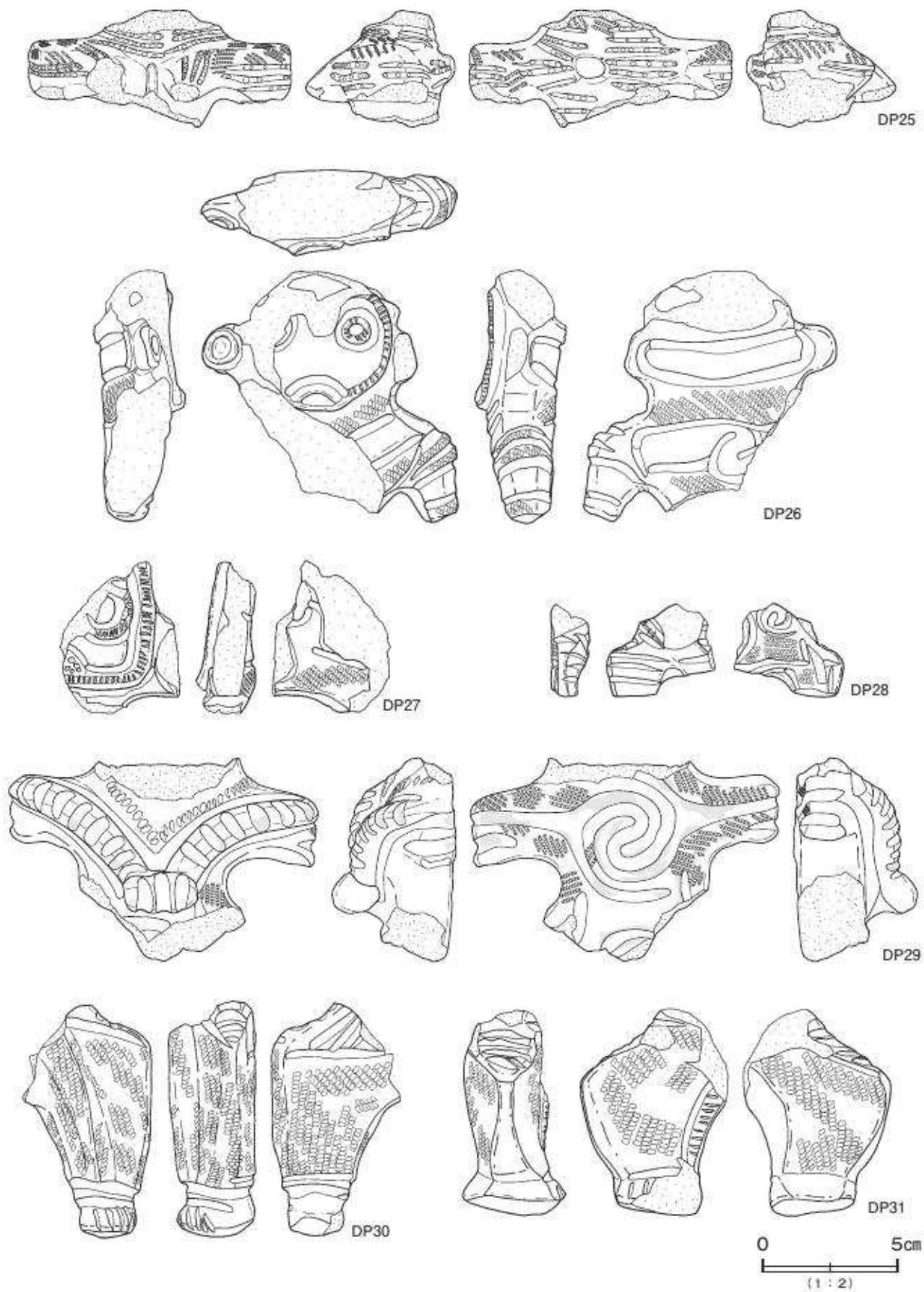
第 302 图 第 2 号遗物包含層出土遺物実測図 (36)



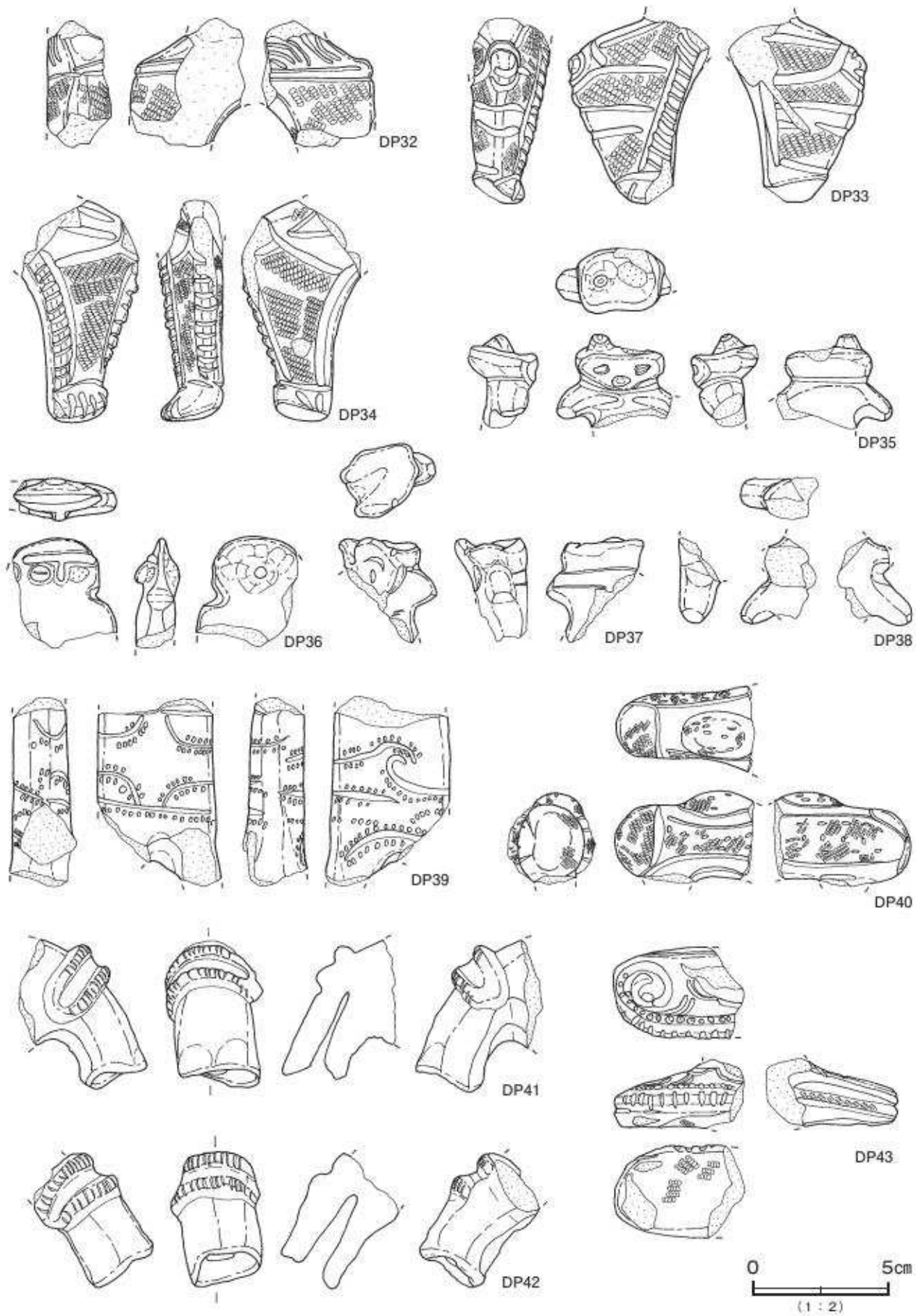
第 303 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (37)



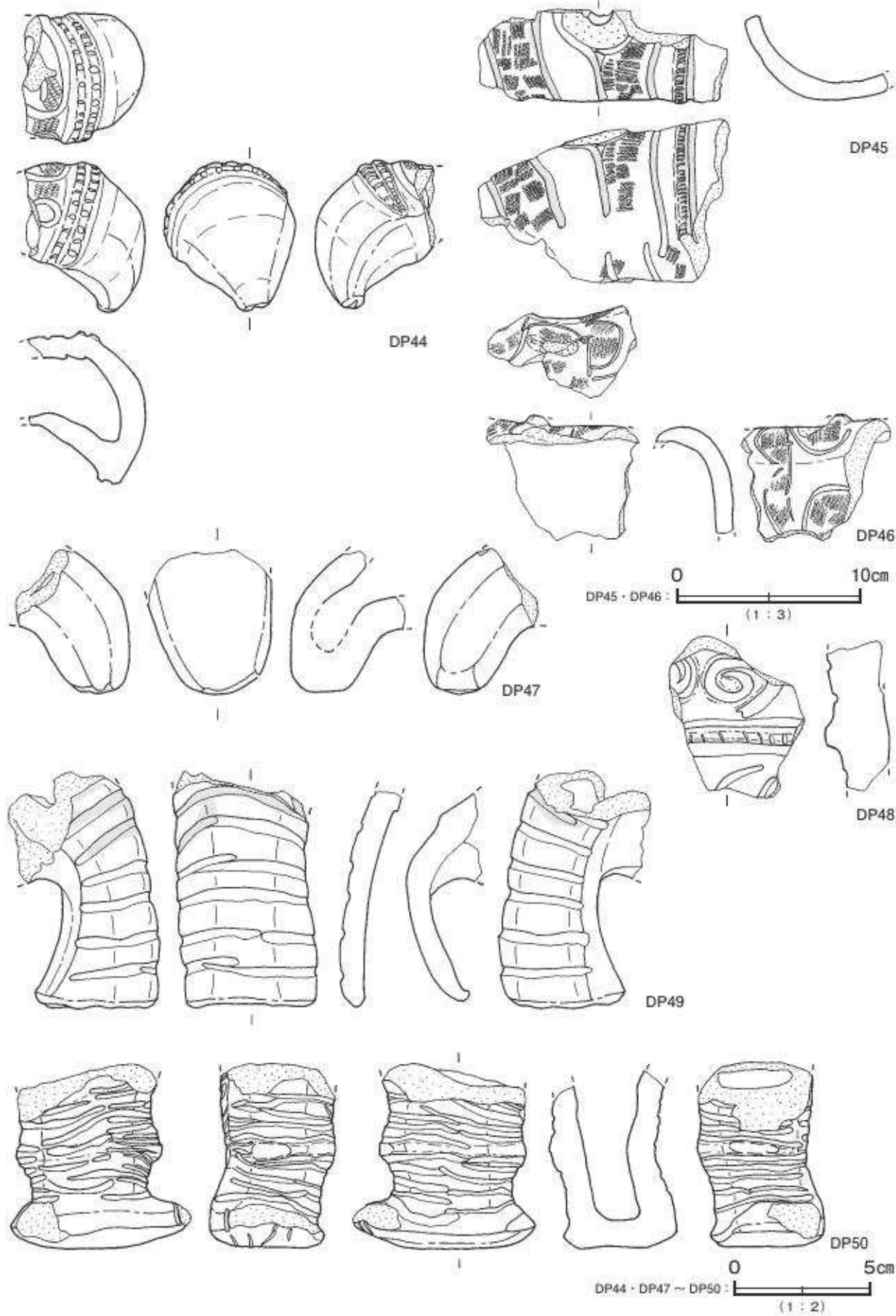
第304图 第2号遗物包含层出土遗物实测图(38)



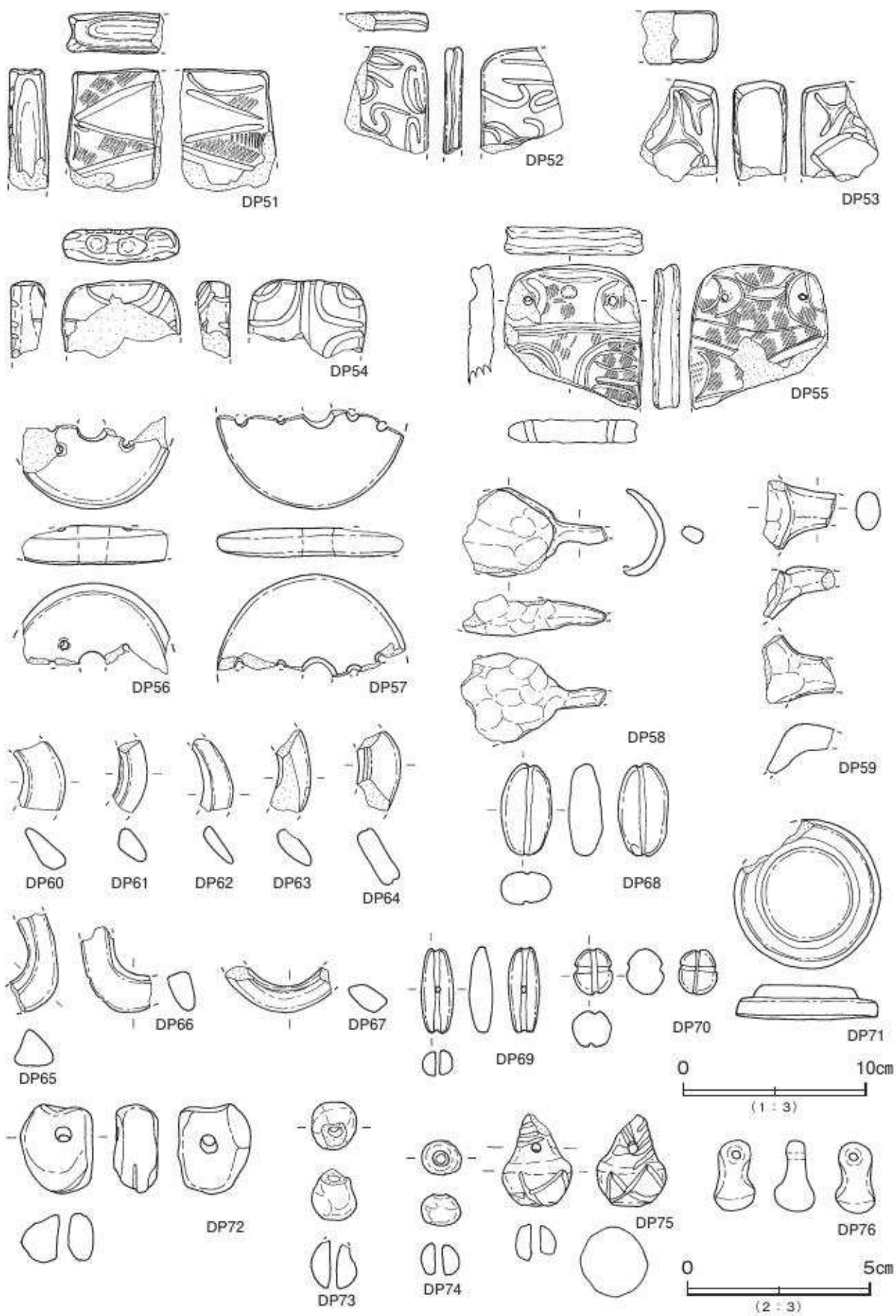
第 305 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (39)



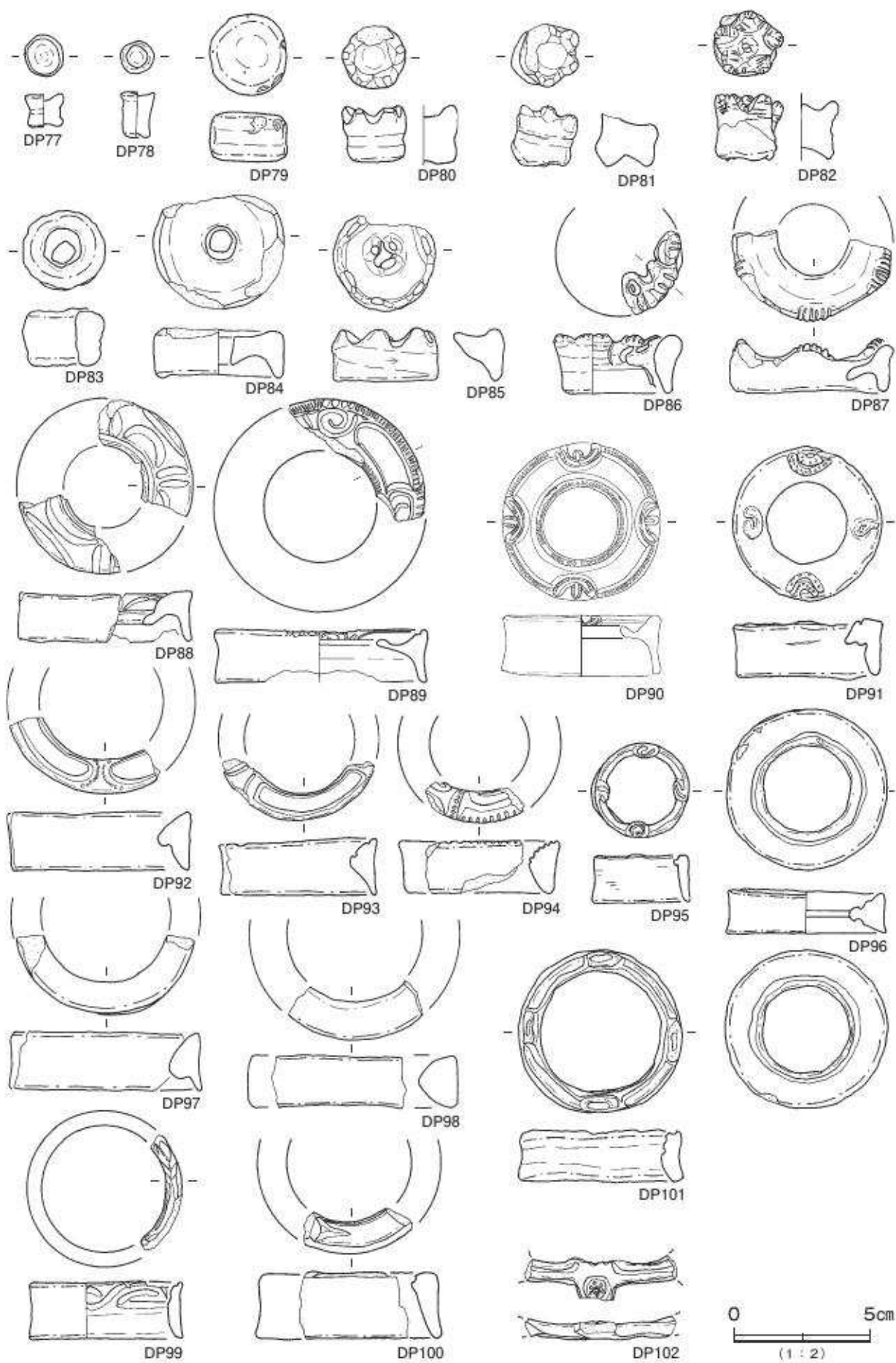
第 306 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (40)



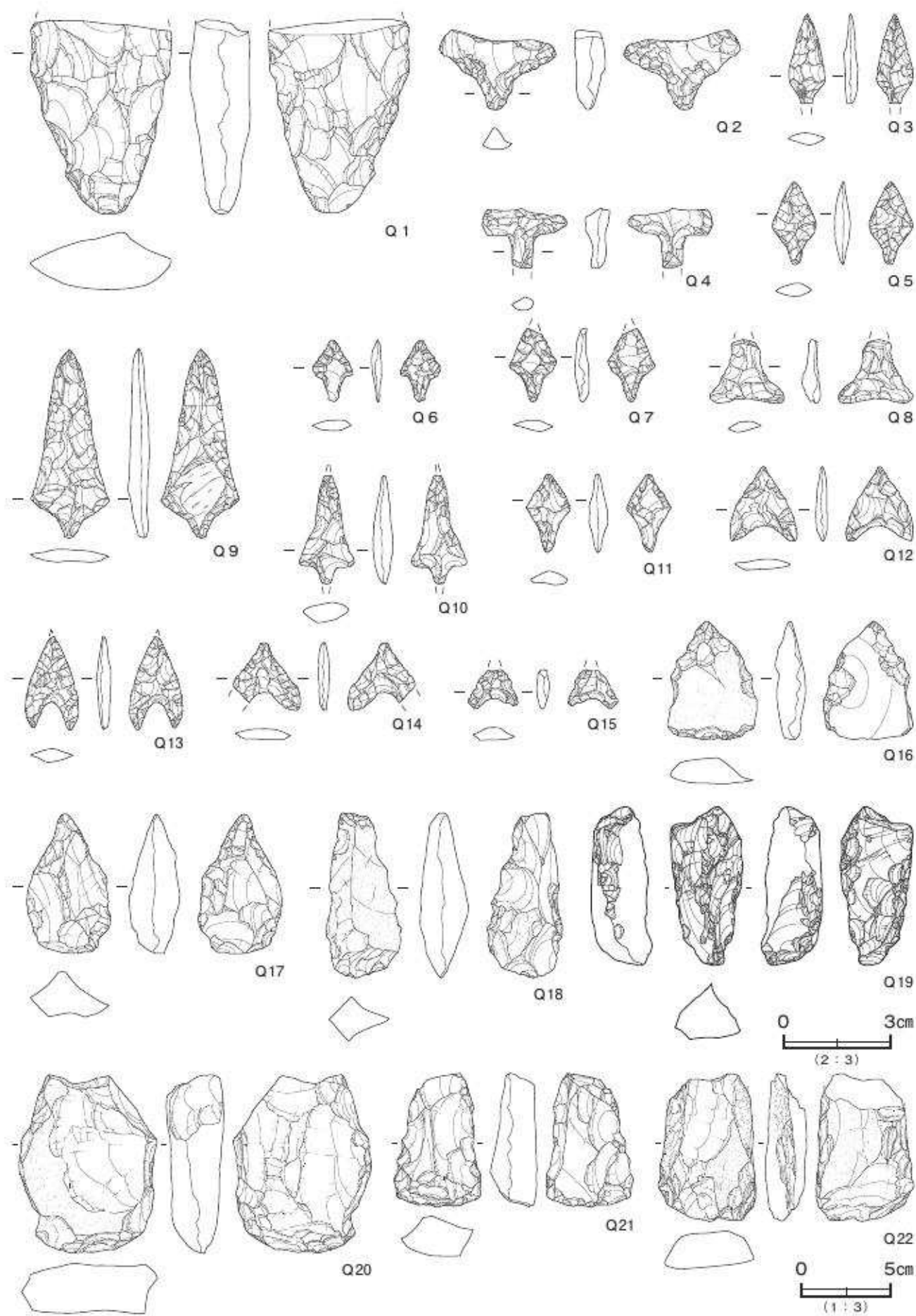
第 307 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (4)



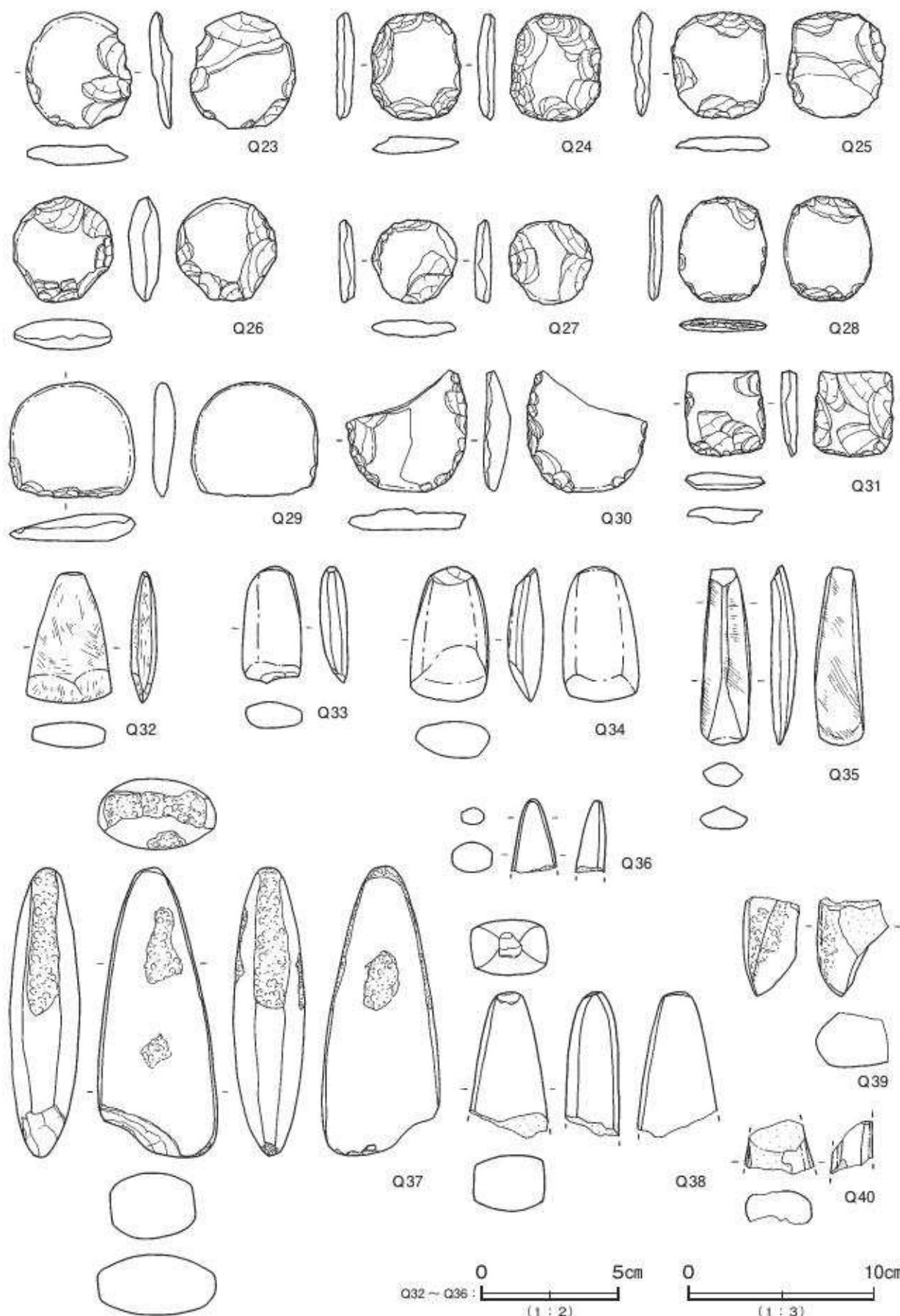
第 308 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (42)



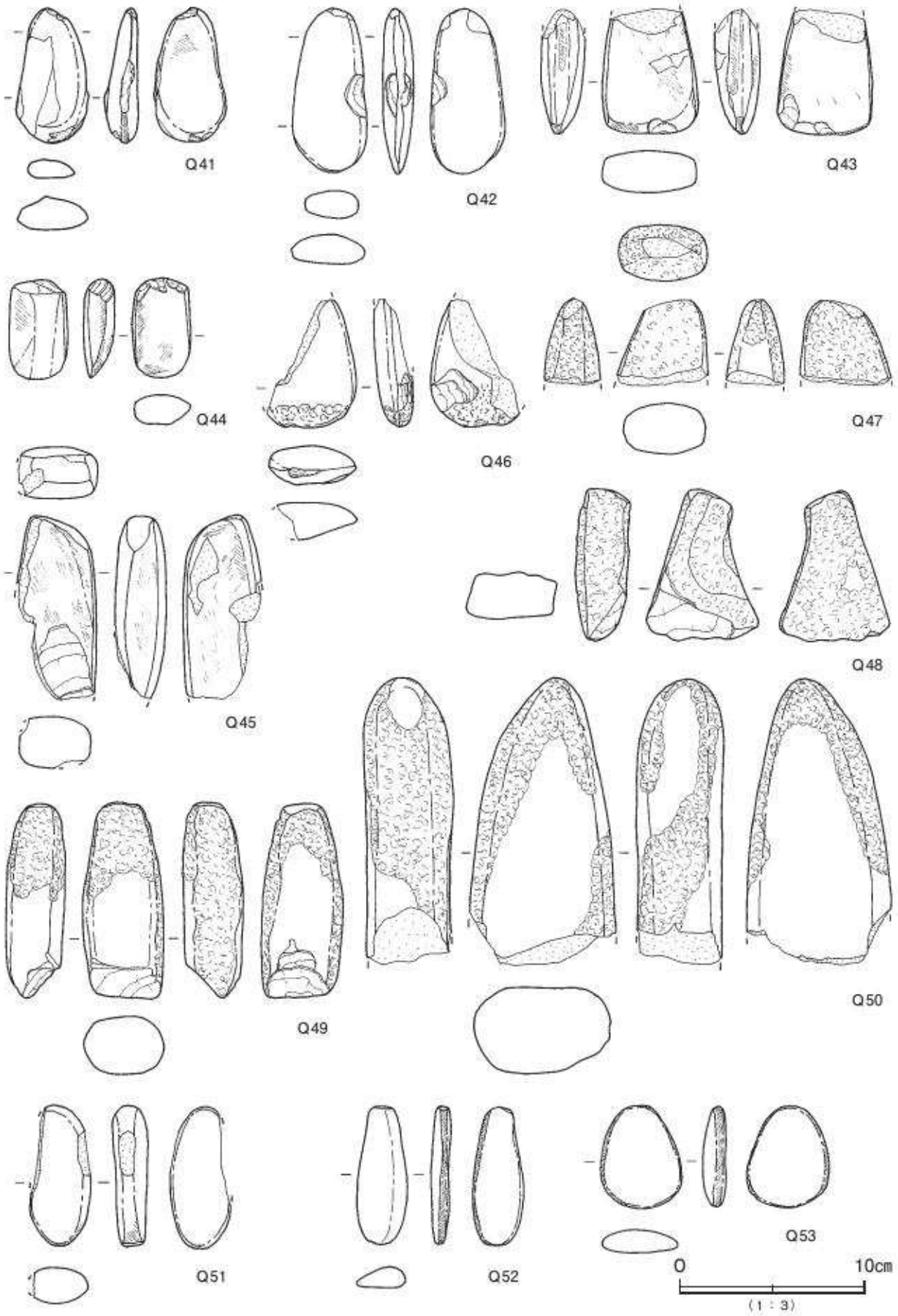
第 309 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (43)



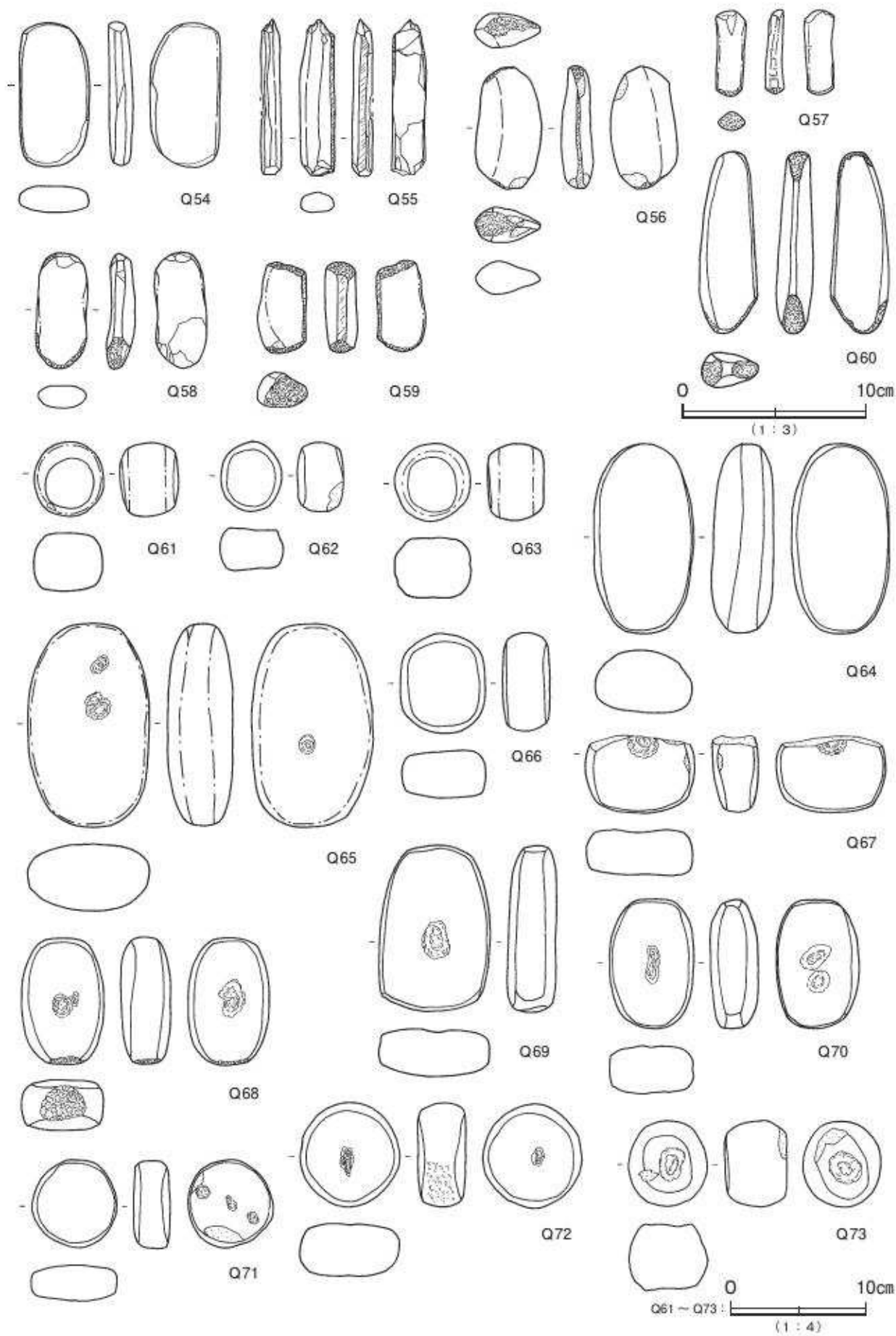
第 310 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (44)



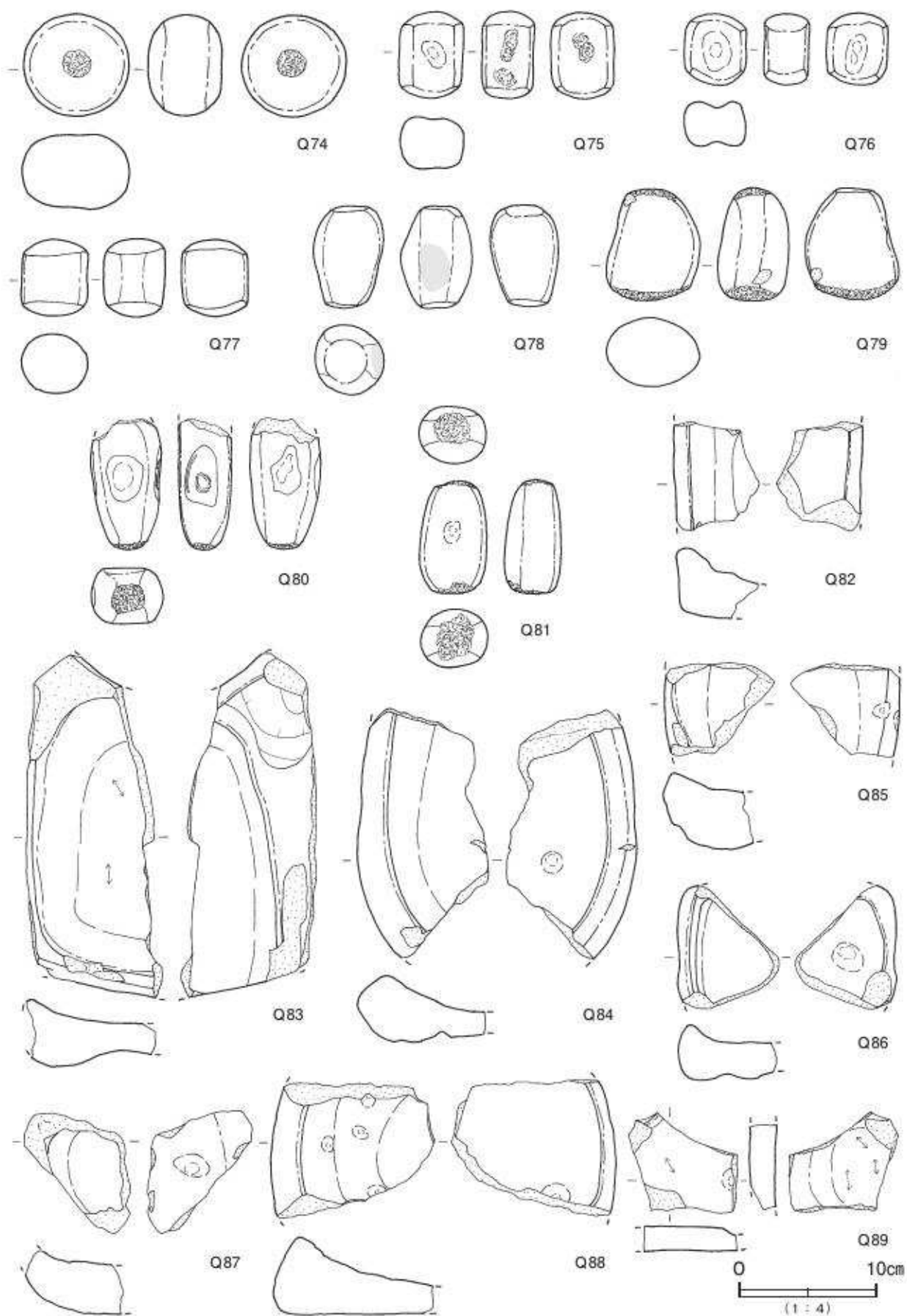
第 311 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (45)



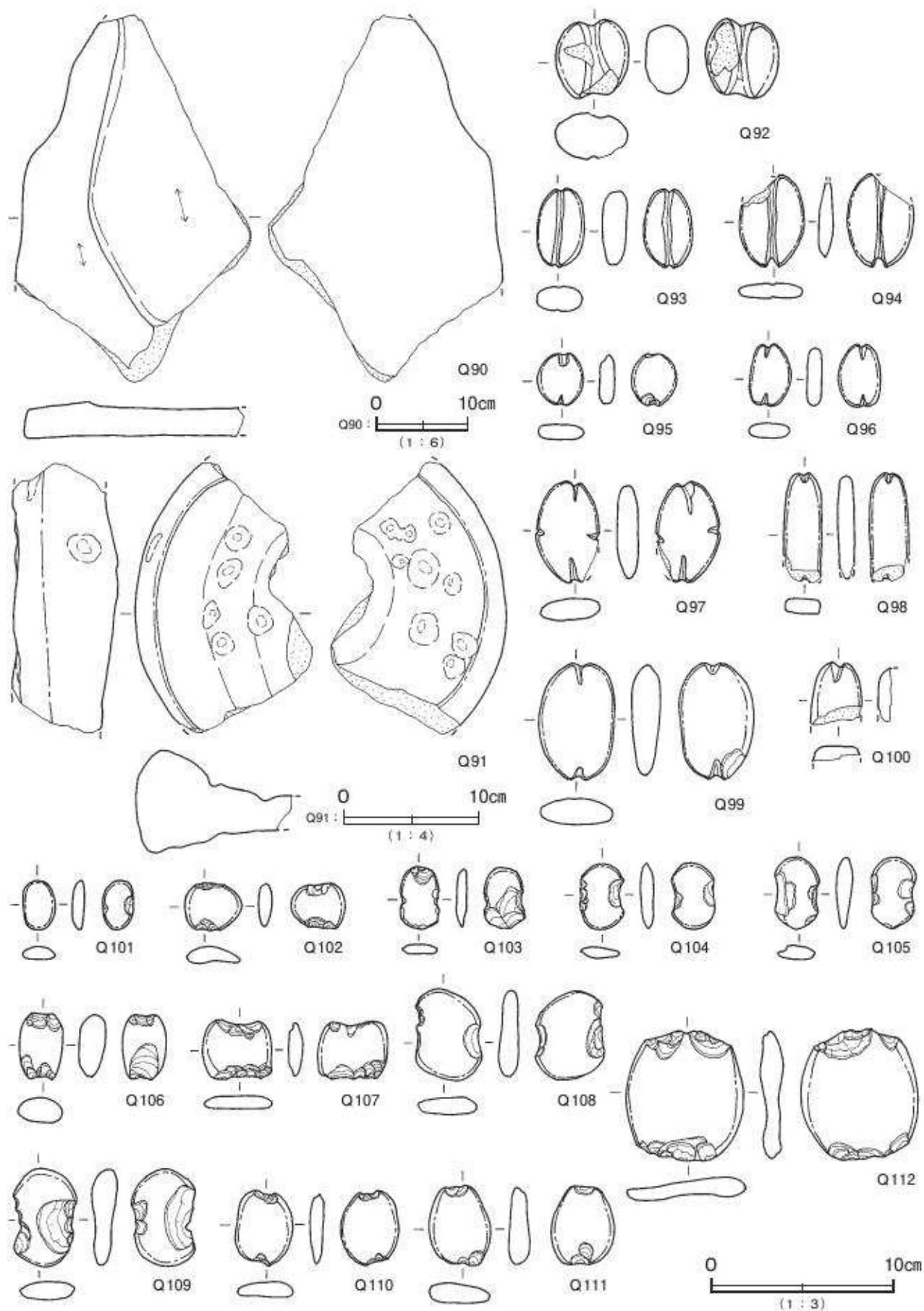
第 312 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (46)



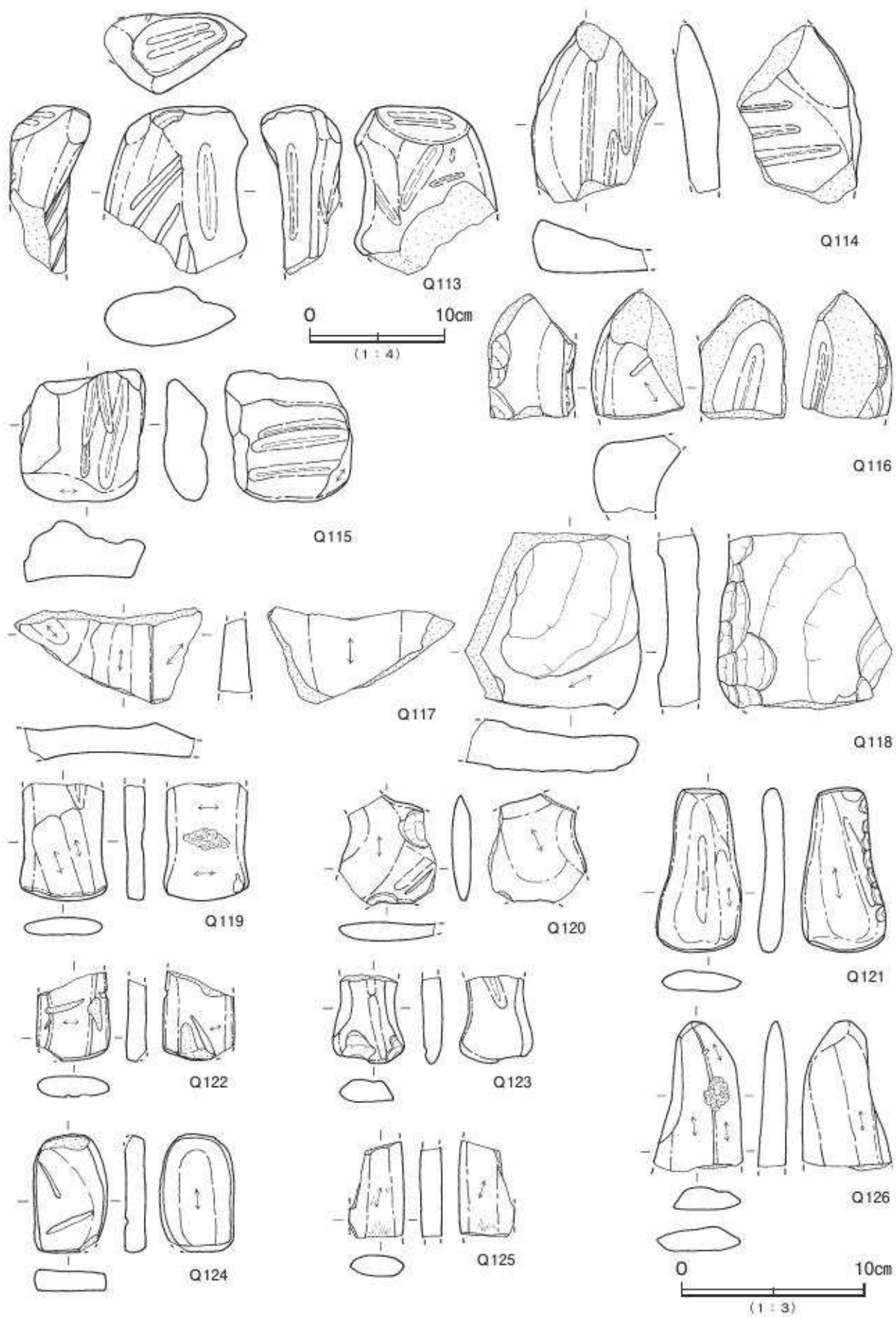
第 313 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (47)



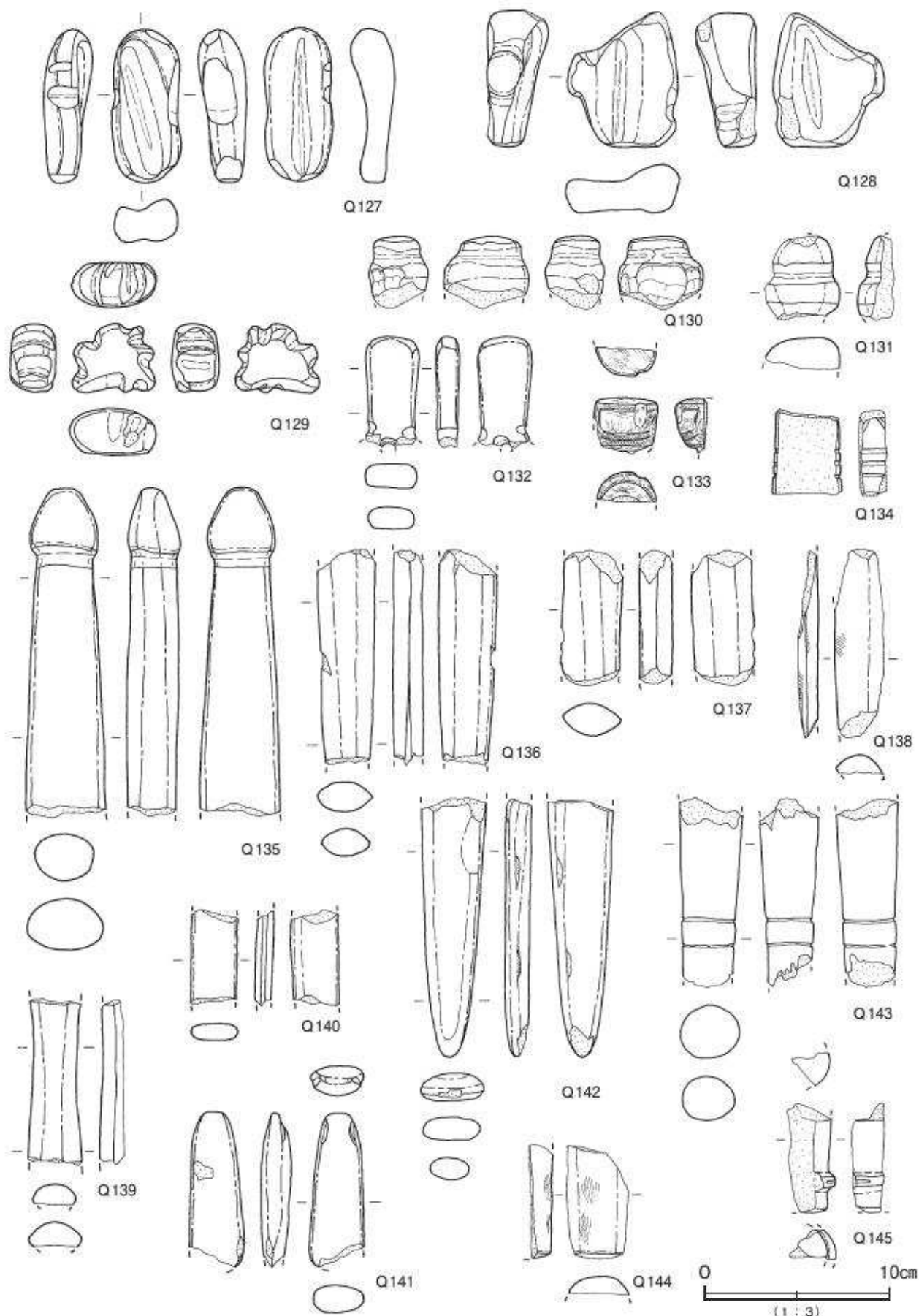
第 314 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (48)



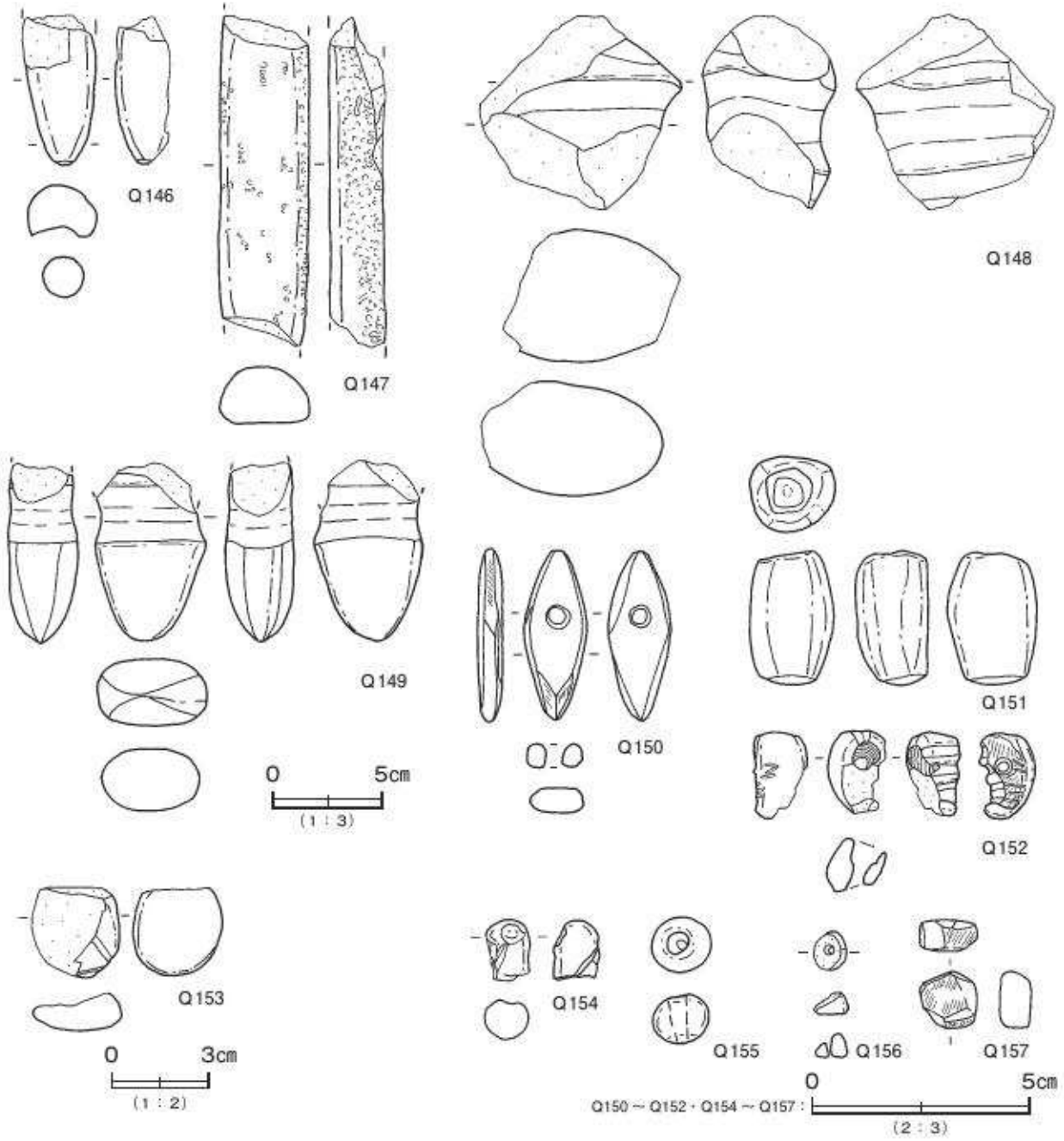
第 315 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (49)



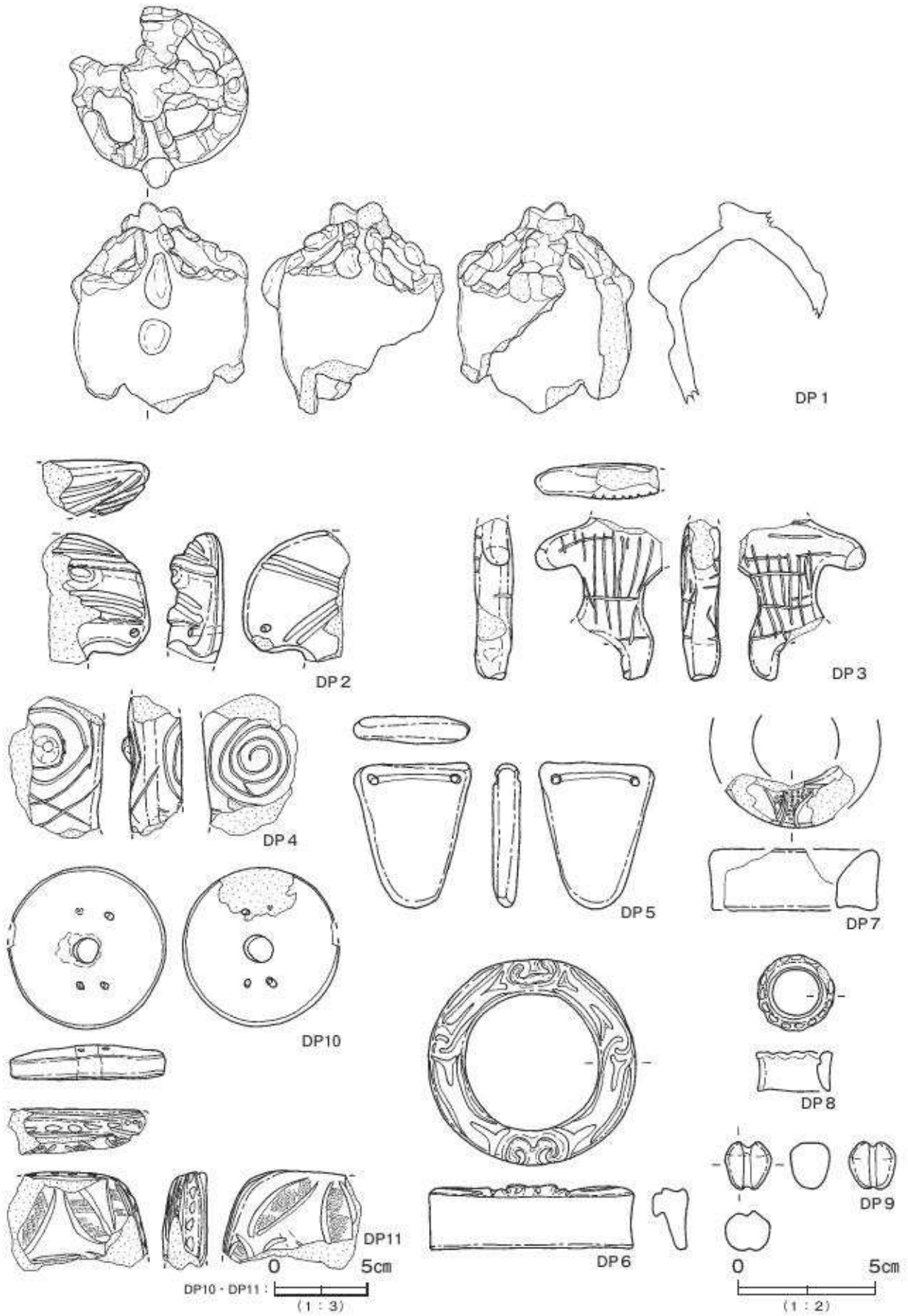
第 316 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 50



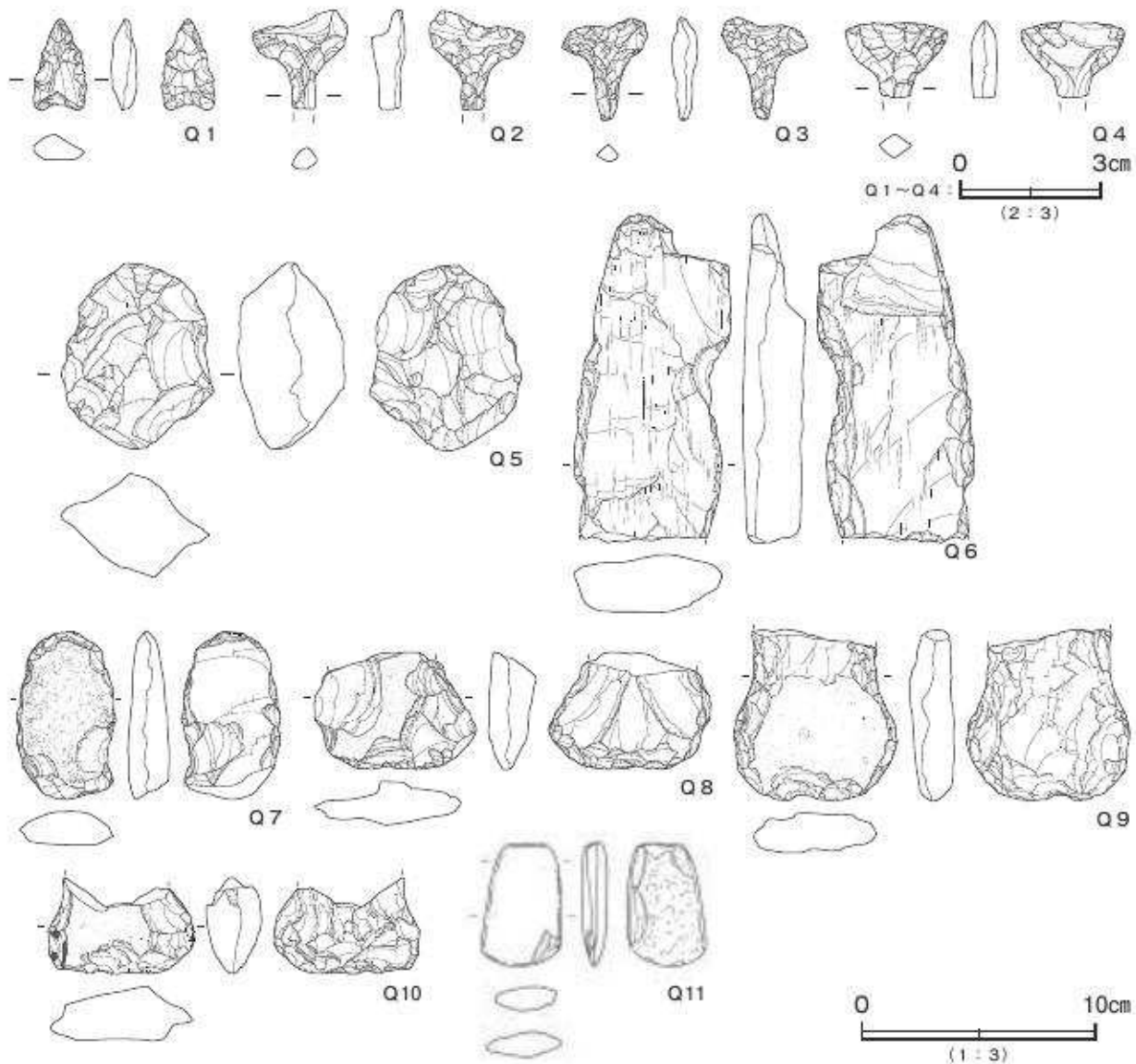
第 317 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (5)



第318图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(52)



第 319 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 320 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第267～318図) ※出土位置の数値は、出土標高を表す。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面沈線→燃糸文L→無文部磨き 内面ナデ	1x (2層)	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→組線貼付→竹管による沈線 内面磨き	3x (25層)	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい橙	普通	外面RL縄文→条線→組線貼付 内面磨き	6x (27層)	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点組線文 内面磨き	5x (26層)	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面条線→組線貼付→頸部区画文 内面ナデ	6x (27層)	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面条線→組線貼付 内面ナデ	2x (2層)	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面条線→組線貼付→頸部区画文RL縄文 内面ナデ	4x (26層)	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面LR縄文→組線貼付 内面磨き	3x (25層)	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文→集合沈線文 内面磨き	3x (25層)	
64	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面磨き	3x (25層)	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	27層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	27層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	25層	
69	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面格子目文→頸部磨き 内面磨き	25層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面磨起帯環沈線→RL縄文 内面ナデ	27層	
71	縄文土器	小型深鉢	7.2	7.5	3.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	18.542 38層	100% PL34
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	27層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	25層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	2層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨起帯上LR縄文 内面ナデ	3x	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面磨起帯環沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2x	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面磨起帯環沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	25層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	橙	普通	外面沈線→無節L縄文 内面ナデ	3x	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	27層	
80	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	2x	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面磨起帯環沈線→無節L縄文 内面ナデ	5x	
82	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	2x	
83	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	5x	
84	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面磨起帯環沈線→無節L縄文 内面ナデ	5x	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→組線貼付 内面磨き	25層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐	普通	外面条線→組線貼付→頸部区画文 内面磨き	4x	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面付点組線文 頸部副文様條文 内面ナデ	25層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面条線→付点組線文 内面磨き	27層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面条線→組線貼付→頸部区画文磨き 内面ナデ	25層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面条線→組線貼付→頸部区画文 内面ナデ	5x	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面組線貼付→頸部区画文→無文部磨き 内面ナデ	2x	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面磨起帯環2列の押引文 内面ナデ	SI43。	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面磨起帯上爪形文 頸部磨き 内面磨き	SI43。	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→刺突文 内面磨き	II層6x	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨起帯上LR縄文 内面磨き	SI43。	
96	縄文土器	深鉢	[20.0]	[11.0]	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面口頸部磨き 内面磨き	19.380 27層	50%
97	縄文土器	浅鉢	[18.4]	[5.9]	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	19.818 25層	5%
98	縄文土器	深鉢	[23.6]	[18.1]	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 頸部条線 内面磨き	19.334 27層	30%
99	縄文土器	深鉢	[14.3]	[9.1]	-	長石・石英	黒褐	普通	外面磨起帯環沈線→磨起付→RL縄文・無節L→無文部磨き 内面磨き	19.336 27層	10%
100	縄文土器	深鉢	-	[25.0]	-	長石・石英・黒色粘土	灰黄褐	普通	外面条線→付点組線文→頸部区画文 内面ナデ	19.860 25層	20%
101	縄文土器	深鉢	[21.8]	[8.1]	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→付点組線文 内面ナデ	19.940 II層7x	5%
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面ナデ	II層6x	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→蛇行沈線文 内面磨き	3x	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	2x	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明赤褐	普通	外面LR縄文→燃糸文 内面磨き	20.040 2層	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面地縄文→集合沈線文 内面磨き	1x	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文→半截竹管文 内面磨き	3x	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面RL縄文→沈線文 内面ナデ	II層6x	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい赤褐	普通	外面磨起帯環 外・内面磨き	2層	
110	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	3x	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→RL縄文 口縁部磨き 内面磨き	19.940 II層7x	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→沈線 内面磨き	II層5x	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→無節L縄文 内面磨き	II層6x	
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	19.940 II層7x	
115	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面磨起帯環 内面磨き	3x	
116	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文 頸部磨き 内面磨き	SI43。	
117	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	II層5x	
118	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面頸部磨き 内面磨き	2x	
119	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層5x	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面沈線→斜線文 内面ナデ	2x	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面条線→横位沈線→無文部磨き 内面磨き	II層6x	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面条線→横位沈線 内面磨き	1x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面縦位沈線→横位沈線 内面磨き	2 x	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面斜線文 内面磨き	3 x	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面斜格子目文 内面磨き	3 x	
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい褐色	普通	外面斜格子目文 内面磨き	3 x	
127	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面口縁部沈線→LR 縄文→頸部磨き 内面磨き	19340 II層7 x	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面無文部磨き 口唇部刻み 内面磨き	2 x	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
132	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	暗赤褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	SI43 x	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	II層6 x	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
136	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
137	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文 内面磨き	2 x	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯部沈線→RL 縄文・黒色→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	灰黄褐色	普通	外面隆起帯部沈線→RL 縄文 頸部条線 内面磨き	19340 II層7 x	
140	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 頸部条線 内面ナデ	19340 II層7 x	
141	縄文土器	白付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面矢羽状沈線文→口唇部刻み 内面磨き	3 x	
142	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面隆起帯部沈線→RL 縄文・黒色→無文部磨き 内面磨き	II層7 x	
143	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい褐色	普通	外面隆起帯上刻み 内面磨き	II層5 x	
144	縄文土器	白付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面条線→隆起帯部沈線→頸部付→黒色→無文部磨き 内面磨き	19299 II層7 x	
145	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
146	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面弦線文 内面ナデ	19340 II層7 x	
147	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→窟貼付→LR 縄文 内面ナデ	2 x	赤彩
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	1 x	
149	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色 灰	普通	外面 RL 縄文 無文部磨き 内面ナデ	II層5 x	
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面隆起帯部沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	灰黄褐色	普通	外面沈線→隆起帯上無部L 縄文→窟貼付→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
154	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
155	縄文土器	鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	3 x	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面 LR 縄文→紐線貼付→沈線文 内面磨き	3 x	
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面地縄文→条線→紐線貼付 口縁部内面凹線	II層5 x	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面条線→付点線文 口縁部削り出し状 内面ナデ	19340 II層7 x	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付→区画文間 内面磨き	3 x	
160	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	灰褐色	普通	外面条線→紐線貼付→区画文間磨き 内面磨き	19422 32層	
161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	3 x	
162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面ナデ	1 x	
163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文間磨き 内面磨き	2 x	
164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面紐線貼付→頸部刻文様 内面ナデ	2 x	
165	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナデ	1 x	
166	縄文土器	深鉢	[16.0]	[14.9]	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	20% PL33
167	縄文土器	浅鉢	[23.7]	10.3	6.0	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面ナデ 底部削り	II層6 x	40%
168	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	灰黄褐色	普通	外面頸部沈線→LR 縄文→無文部磨き 頸部条線 内面磨き	2 x	
169	縄文土器	角底	-	(3.5)	7.0	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面コーナー部・下部部2列の刺突列 内面磨き	19466 II層5 x	10%
170	縄文土器	ニチャフ	1.8	4.4	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	19588 32層	100%
171	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい褐色	普通	外面 RL 縄文 内面磨き	33層	
172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 縄文充填 内面磨き	II層6 x	
173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 RL 縄文→沈線文 内面磨き	2 x	
174	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	褐色	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	33層	
175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面無部L 縄文→懸垂文 内面磨き	2 x	
176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 縄文→集合沈線 口唇部に刻み 内面磨き	1 x	
177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→半截竹管文 内面磨き	II層6 x	
178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面 LR 縄文→紐線貼付→半截竹管文 内面磨き	1 x	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→紐線貼付→沈線文 内面ナデ	1 x	
180	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	25層	
181	縄文土器	鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	にぶい赤褐色	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	2 x	
182	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→斜線文 内面磨き	2 x	
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線→口縁部磨き 内面磨き	33層	
184	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	19436 32層	
185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面条線 内面磨き	2 x	
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面斜格子目文→横位沈線→頸部磨き 内面磨き	3 x	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状物質	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→横位沈線→斜線文→頸部磨き 内面磨き	19457 32層	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面斜格子目文→頸部磨き 内面磨き	II層6 x	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナデ	2 x	
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土 粗砂 焼酎	灰褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	II層6 x	
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	外面RL縄文→横位沈線文→口縁部刻み 内面磨き	19.505 32層	
194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面磨き	2 x	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	33層	
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層6 x	
197	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2層	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面低線文 内面ナデ	2 x	
202	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→無節R縄文→無文部磨き 内面ナデ	2層	
203	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色 灰	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層6 x	
205	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	6 x	
206	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色 灰	普通	外面褶貼付→沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
208	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
209	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰 褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文 突起1か所 内面磨き	1 x	
211	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	II層6 x	
212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	II層6 x	
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	25層	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	にぶい褐色	普通	口縁部縦線貼付 外面沈線→RL縄文→無文部磨き	3 x	
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ 頸部に副文様帯	2 x	
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文 内面磨き	II層2 x	
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面波頂部に斜交文 無文部磨き 内面磨き	II層2 x	
218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面LR縄文→沈線磨き 内面磨き	II層3 x	
219	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面歯櫛状工具による条線文 内面磨き	II層3 x	
220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐色	普通	口縁部外面磨き 内面磨減	II層1 x	
221	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色 灰	普通	外面沈線→無節L縄文→無文部磨き 内面磨き	II層2 x	
222	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	II層2 x	
223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	1 x	
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面RL縄文→横位沈線文 内面磨き	2 x	
225	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	1 x	
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面RL縄文→格子目文 頸部無文 内面ナデ	II層1 x	
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	II層2 x	
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	2 x	
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き→口縁部刻み 内面ナデ	1 x	
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層3 x	
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面粗い磨き	II層2 x	
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	口縁部外面に幹状文 内面ナデ	II層1 x	
233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層1 x	
234	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	明赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層3 x	
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→無節L縄文 内面磨き	3 x	
236	縄文土器	台付鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	灰 赤	普通	外面条線→区画沈線→刻み 内面磨き	II層3 x	
237	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面低線文 内面ナデ	II層2 x	
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
239	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
241	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	II層2 x	赤彩 20%
242	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層2 x	
243	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
244	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	にぶい褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	II層1 x	
245	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 磁 解 凍 結 晶	褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文磨き 内面磨き	II層3 x	
246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文磨き 内面磨き	II層2 x	
247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	2 x	
248	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面無節R縄文 内面磨き	19.704 2層	
249	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
250	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面高文連続沈線文	1 x	
251	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面高文連続沈線文 無文部磨き 内面磨き	2 x	
252	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面割部ナデ 内面磨き	1 x	
253	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	1 x	
254	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無節R縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
255	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	19.600 25層	
256	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
257	縄文土器	注口	[148]	(8.9)	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→褶貼付→RL縄文 内面ナデ	19.676 25層	20%
258	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	19.786 25層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
259	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→肩貼付→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
260	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
261	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
262	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	黒褐色	普通	外面口頸部隆起帯による三角区刷文 内面磨き	2 x	
263	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
264	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
265	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文・条線 内面ナデ	1 x	
266	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区刷文 内面ナデ	2 x	
267	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	2 x	
268	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい黄褐色	普通	外面付点縦線文 内面ナデ	2 x	
269	縄文土器	深鉢	[24.3]	[21.5]	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 肩削り 内面ナデ	1 x	40% PL38
270	縄文土器	深鉢	[18.6]	[6.7]	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面削り 内面ナデ	1 x	脚部、5%
271	縄文土器	深鉢	[24.0]	[6.6]	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面削り 内面ナデ	1 x	5%
272	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部磨き 内面ナデ	J-1層	
273	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	2 x	
274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線→横位沈線 内面磨き	2 x	
275	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	褐色	普通	外面櫛歯状工具による条線文 内面ナデ	J-1層	
276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面半杖竹管状工具による条線 内面ナデ	J-1層	
277	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面横帯文 脚部磨き 内面磨き	2 x	
278	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
279	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	1層1 x	二次焼成
280	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文 内面ナデ	1層1 x	
281	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	J-2層	
282	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1層1 x	
283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	J-1層	
284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面凹線→LR縄文 内面ナデ	2 x	
285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	普通	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1層1 x	
286	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	突起部 外面LR縄文 内面ナデ	2 x	
287	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1層1 x	
288	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
289	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面人組三叉文 内面ナデ	1 x	
290	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線 口縁部刻み 内面ナデ	1 x	
291	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい赤褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区刷文 内面ナデ	1層1 x	
292	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区刷文磨き 内面ナデ	2 x	
293	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1層1 x	
294	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋上刻み	2 x	
295	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	橙	普通	外、内面ナデ	2 x	
296	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面ナデ	1 x	
297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面刻み 無文部磨き 内面磨き	2 x	
298	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
300	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
301	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面→付点縦線文 内面ナデ	2 x	
303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文 頸部条線→内面→LR縄文 内面磨き	1 x	
304	縄文土器	角底	-	(8.9)	[13.0]	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面LR縄文 内面磨き	20050 1 x	10%
305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雜鉄	にぶい褐色	普通	外面櫛歯状工具による条線 内面ナデ	II層3 x	
306	縄文土器	深鉢	[20.5]	(9.5)	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.922 49層	10%
307	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面山形突起 内面磨き	2 x	
308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→懸垂文→沈線頭磨り消し 内面磨き	II層3 x	309と同一
309	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→懸垂文→沈線頭磨り消し 内面磨き	II層3 x	308と同一 10%
310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	2 x	
312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	2 x	
313	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外、内面とも磨成のため調整未確認	1 x	
314	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	半筒状文 外面沈線→LR縄文 内面磨成	20013 49層	
315	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
316	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面細密沈線文 内面磨成	1 x	
317	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
318	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
319	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
320	縄文土器	注口	-	-	-	灰・黒・黒褐色・純灰	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ 磨成	1 x	
321	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
322	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁部外面条線→LR縄文→横位沈線 内面ナデ	2 x	
324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	20018 49層	
325	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	1 x	
326	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面条線→頸部沈線文 内面ナデ	1 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい橙	普通	外面斜格子目文 内面磨き	2 x	
328	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	19382 II層7 x	
329	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	灰 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層5 x	
330	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	灰 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面ナデ	19709 6層	
331	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面条線→隆起帯輪沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面磨き	19835 6層	
332	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→無文部磨き 内面磨き	19941 5層	
333	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 内面ナデ	19963 5層	
334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線→隆起帯輪沈線→RL縄文 内面ナデ	II層4 x	
335	縄文土器	古付鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	褐 灰	普通	外面条線→沈線間刻み 内面磨き	19382 II層7 x	
336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→口縁部・沈線間刻み 内面ナデ	II層6 x	
337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面磨き→隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面磨き	1 x	
340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面2箇一對の筋貼付 内面ナデ	2 x	
342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
343	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面入組文 RL縄文施文。内面ナデ	2 x	
344	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	2 x	
345	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面ナデ	2 x	
346	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	オリーブ黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	2 x	
347	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
348	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	1 x	
349	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	明赤褐	普通	外面LR縄文→細線貼付 内面磨き	20118 2層	
350	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→細線貼付→頸部沈線文 内面磨き	20147 2層	
351	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文→条線→細線貼付 内面磨き	2 x	
352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	II層4 x	
353	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面条線→口縁部沈線→無筋L縄文 内面ナデ	19781 6層	
354	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線→細線貼付→頸部区間文 内面ナデ	2層5 x	
355	縄文土器	深鉢	[16.6]	(7.3)	-	長石・石英	褐	普通	外面胴部RL縄文 内面磨き	19846 6層	5%
356	縄文土器	深鉢	[25.3]	(12.5)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き 4単位 内面磨き	19910 5層	50% PL38
357	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	新・黒・燧石・粘石	黒 褐	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→無文部磨き 明筋付 内面磨き	2 x	10%
358	縄文土器	壺	[11.8]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	5%
359	縄文土器	壺	-	(3.0)	3.6	長石・石英・角閃石類	褐 灰	普通	外面LR縄文 内面ナデ	II層5 x	40%
360	縄文土器	鉢	-	(3.0)	[3.8]	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面区線文 内面ナデ	1 x	20%
361	縄文土器	古付鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面条線→隆起帯上刻み→筋貼付 内面磨き	II層5 x	5%
362	縄文土器	深鉢	[21.8]	(17.4)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面縦线条線→口縁部横線文 内面ナデ	2層	20%
363	縄文土器	深鉢	[26.0]	(18.0)	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→細線貼付 内面磨き	19961 5層	20%
364	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面無筋L縄文→隆起帯貼付 内面磨き	II層4 x	
365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面RL縄文→沈線文 内面磨き	2 x	
366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面無筋L縄文→懸垂文 内面磨き	1 x	
367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面懸垂文 内面ナデ	2 x	
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 透かし孔1か所 内面磨き	2 x	赤彩
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
370	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
374	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	突起部 外・内面磨き	1 x	
375	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	19785 6層	
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石・粘石	にぶい褐	普通	外面条線→細線貼付→頸部区間文 内面磨き	20125 2層	
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	にぶい褐	普通	外面口縁部条線→胴部条線 内面ナデ	1 x	
378	縄文土器	深鉢	[23.8]	(17.7)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	5単位 外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	20083 2層	B65と接合10%
379	縄文土器	深鉢	[18.4]	(11.6)	-	長石・石英・粘石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 胴部条線 内面ナデ	20175 2層	25%
380	縄文土器	古付鉢	[12.0]	(5.9)	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面矢羽状沈線→隆起帯輪沈線→区間文→刻み 内面ナデ	20117 2層	10%
381	縄文土器	深鉢	[25.0]	(14.4)	-	新・黒・燧石・粘石	にぶい褐	普通	5単位 凹線による三角形区間文 内面ナデ	20034 2層	10% PL38
382	縄文土器	大口壺	[10.0]	(7.1)	-	長石・石英・角閃石類	褐 灰	普通	口縁部外面・胴部に刺突列 無文部磨き 内面ナデ	1-2層	10%
383	縄文土器	異形古付	-	(6.4)	4.3	長石・石英・赤色粘土	明赤褐	普通	受部ナデ	20174 2層	80%
384	縄文土器	壺	3.2	6.4	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ	20180 2層	99%
385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	20155 2層	
386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯輪爪彩文 内面磨き	1 x	
387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線間に細かい刺突列 内面磨き	1 x	
388	縄文土器	器台	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	1 x	
389	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面指頭ナデ	1 x	
390	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・黒・燧石・粘石	黒 褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
391	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	波頂部にノの字状突起 内面磨き	2 x	
392	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
393	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 口縁部に刻み 内面磨き	2 x	
394	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	2 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面斜線文→口縁部刻み 内面磨き	2 x	
396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	20.075 2層	
397	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
398	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
400	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
403	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
404	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→沈線→LR 縄文 内面ナデ	1 x	
406	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯縁沈線→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
407	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面副文様系 内面ナデ	2 x	
408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 胴部削り 内面ナデ	20.106 2層	
409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文→凹線文 内面ナデ	2 x	
410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
412	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
413	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
414	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
415	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→横筋 L 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
416	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
417	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 胴部削り 内面ナデ	20.151 2層	
418	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	20.023 2層	
419	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ 東北系	19.969 2層	
420	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面 LR 縄文→条線→横筋貼付 内面磨き 口縁部凹線	1 - 2層	
421	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線→横筋貼付 内面ナデ	19.485 II-1層	
422	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面隆起帯縁沈線→胴部区画文→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
423	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面副文様帯系 内面ナデ	1 x	
424	縄文土器	深鉢	[11.7]	(7.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	5%
425	縄文土器	鉢	[16.0]	(8.5)	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	10%
426	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	突起部 外・内面磨き	II層	
427	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面 LR 縄文 内面磨き	II層	
428	縄文土器	深鉢	[13.8]	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	x	5%
429	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外・内面磨き 内面口縁部に沈線文	II層	
430	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面交互斜線文 胴部磨き 内面磨き	2 x	
431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線 内面ナデ	3 x	
432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	II層	
433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層	
434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯縁沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	20.133 I-2層	
435	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯上刻み 無文部磨き 内面ナデ	II層	
436	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面隆起帯縁沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	20.134 I-2層	
437	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面隆起帯縁沈線→LR 縄文 内面ナデ	2 x	
438	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
439	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
440	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	浅黄橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き 東北系	1 x	
442	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面入組三叉文 外・内面削り	1 x	
443	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	浅黄橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
444	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	2 x x	
445	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面 LR 縄文→条線→横筋貼付 内面磨き	1 x	
446	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線→付点紅線文→胴部区画文 内面ナデ	2 x	
447	縄文土器	深鉢	[27.0]	(17.1)	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面隆起帯縁沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	20.083 I-2層	15%
448	縄文土器	深鉢	[18.8]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面横位沈線→刻み→瘤貼付 内面磨き	1 x	5%
449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線→付点紅線文 内面ナデ	20.136 I-2層	
450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部に8の字状貼付文 外・内面磨き	II層 2 x	
451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	1 x	
452	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面輪廓状工具による条線文 口縁部磨き 内面磨き	II層 1 x	
453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 3 x	
454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無筋 L 縄文→沈線文 内面ナデ	II層 2 x	
455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面口縁部磨き 内面ナデ	II層 1 x	
456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き 口縁部に沈線文	II層 2 x	
457	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 3 x	
458	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→横筋 R 縄文→無文部磨き 内面磨き	II層	
459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面格子目文 内面ナデ	II層 1 x	
460	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	横帯文。外面無文部磨き 内面磨き	II層 2 x	
461	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→口縁部刻み 内面磨き	2 x	
462	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→口縁部刻み 内面磨き	II層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
463	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	灰黄褐色	普通	外面無節L縄文→L線沈線→無文部磨き 内面磨き L線部凹溝	2 x	
464	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面条線→L線部沈線・刷み 内面ナデ	II層 3 x	
465	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	L線部横位沈線文 刷部ナデ 内面ナデ	1 x	
467	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
468	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 2 x	
469	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面磨き	1991 II-1層	
470	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面条線→隆起帯上刻み→磨貼付 内面ナデ	II層 2 x	
471	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
472	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
473	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→L線部LR縄文・刷部RL縄文 内面ナデ	1998 II-1層	
474	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文・刷み→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
475	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面ナデ	1 x	
476	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	灰 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2003 I-2層	
477	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
478	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	2 x	
479	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1998 I-2層	
480	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層 2 x	
481	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 2 x	
482	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面ステッキ文+三叉文 内面ナデ	1 x	
483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面条線 内面ナデ	2 x	
484	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き L線部に凹溝文	1 x	
485	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→沈線→RL縄文 内面ナデ	1 x	
486	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文 内面ナデ	II層 3 x	
487	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・褐色	普通	外面条線→付点縦線文 L線部肥厚 内面ナデ	2 x	
488	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	2 x	
489	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文 内面ナデ	2013 I-2層	
490	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面削り 内面ナデ	2013 I-2層	
491	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面縦位沈線文 内面ナデ	2 x	
492	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→RL・LRの羽状縄文 内面磨き	2 x	
493	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
494	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・橙	普通	外面L線部無文部磨き 内面ナデ	II層 1 x	
495	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	L線部外面C字状貼付文 内面磨き	2 x	
496	縄文土器	深鉢	[99]	[97]	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面無文部ナデ 内面磨き	1 x	3%
497	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面LR縄文→沈線文 内面ナデ	2001 I-2層	
498	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・黄褐色	普通	外面地縄文。内面磨き	II層 1 x	
499	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→沈線文 内面ナデ	2 x	
500	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
501	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面L線部磨き 内面磨き	1 x	
502	縄文土器	壺	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
503	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・褐色	普通	外・内面磨き	2 x	
504	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	1層 1 x	
505	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	I-2層	
506	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
507	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面刷部斜線文 無文部磨き 内面磨き	2 x	
508	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	黒 褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
509	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
510	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
511	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	2 x	
512	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐色	普通	波状L線 内面磨き	I-2層	
513	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→無節L縄文。内面ナデ	2 x	
514	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面斜格子目文 内面ナデ	I-2層	
515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文・刷み→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
517	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	磨部 外面隆起帯輪沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
518	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	角底。外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
519	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	1層	
520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	2 x	
521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縄文 内面磨き	1層	
522	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 透かし孔2か所 内面磨き	x	赤彩
523	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	1 x	
524	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き 大刻式器	2 x	
525	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・橙	普通	外面条線→沈線→RL縄文 内面ナデ	1層	
526	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・緑・黒・粘り	にぶい・橙	普通	外面条線→L線部斜交文 頸部区画文磨き 内面磨き	I-2層	
527	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・褐色	普通	外面条線→縦線貼付→頸部区画文 内面磨き	2001 I-2層	
528	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・黄褐色	普通	外面LR縄文→磨部文→沈線磨き 内面磨き	4 x	
529	縄文土器	壺型	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面削り L線部未調整 内面ナデ	x	LB型
530	縄文土器	深鉢	[18.2]	[7.9]	-	灰・緑・黒・粘り	灰 褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	II層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
531	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
532	縄文土器	深鉢	[24.2]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面磨き付→沈線→口縁部刻み・RL縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	5%
533	縄文土器	注口	[14.0]	(6.2)	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	1 x	5%
534	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・黒・赤粘土	にぶい褐色	普通	口縁部外面に爪形文・内面磨き	II層	
535	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ	II層	
536	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	突起部・外・内面磨き	1986 II層6 x	
537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面 RL 縄文→隆起部貼付・内面磨き	2 x	
538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	褐色	普通	外面沈線→RL縄文・内面ナデ	2 x	
539	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明赤褐色	普通	外・内面磨き	2 x	
540	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	褐色	普通	口縁部C字状貼付文・沈線間刻文・内面磨き	II層	
541	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	褐色	普通	口縁部無文帯にC字状貼付文・内面磨き	1986 II層6 x	
542	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面櫛歯状工具による条線・内面ナデ	20127 II層5 x	
543	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	灰褐色	普通	外面 LR 縄文→沈線文・内面ナデ	1 x	
544	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
545	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	
546	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面格子目文→頸部磨き・内面磨き	1 x	
547	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文・刻み→無文部磨き・内面磨き	x	
548	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	明赤褐色	普通	外面沈線→口縁部刻み・刺突文→RL縄文・内面ナデ	20127 II層5 x	
549	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	x	
550	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き・内面ナデ	1 x	
551	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	1-5層	
552	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
553	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	灰黄褐色	普通	外面矢羽状沈線→口縁部刻み・内面磨き	1 x	
554	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面磨き付→隆起部帯沈線→刻み→無文部磨き・内面磨き	1 x	
555	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	灰黄褐色	普通	外面弧線文・内面磨き	1 x	
556	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	20127 II層5 x	
557	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起部帯沈線→LR縄文→無文部磨き・条線・内面ナデ	1 x	
558	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	1 x	
559	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	にぶい褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	1 x	
560	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	灰褐色	普通	外面口縁部 RL 縄文・頸部磨き・内面磨き	1-5層	
561	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	外面 LR 縄文・内面ナデ	1 x	
562	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	褐色	普通	外面 RL 縄文→斜線文・縦線貼付・内面磨き	1 x	
563	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面 LR 縄文→縦線貼付→条線・内面磨き	2 x	
564	縄文土器	深鉢	[19.4]	(9.1)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	10% PL38
565	縄文土器	深鉢	[13.4]	(12.2)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面口縁部ナデ・頸部磨き・内面磨き	20110 II-1層	10%
566	縄文土器	浅鉢	-	(4.0)	5.5	灰・磁・鉄灰・砂	灰褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	20152 II-1層	40%
567	縄文土器	台付鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・黒色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面磨き・内面ナデ	20165 II-1層	10%
568	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	口縁部外面に高文連続沈線文・内面ナデ	2 x	
569	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面丁字文・櫛歯状工具による刺突文充填・内面ナデ	2 x	
570	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・口唇部刻み・内面磨き	2 x	
571	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	紐架け突起部・鉢部斜線文・内面ナデ	2 x	
572	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	橋状突起部・内面磨き	II層5 x	
573	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	普通	口縁部文様帯に爪形文・外面無文部磨き・内面ナデ	2 x	
574	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部隆起部上刻み・内面磨き	2 x	
575	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部無節L縄文→横位沈線・頸部条線・内面磨き	2 x	
576	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	外面条線→口縁部刻み・内面磨き	20198 II-1層	
577	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	
578	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	2 x	
579	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文・刻み→無文部磨き・内面磨き	2 x	
580	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	2 x	
581	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
582	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
583	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起部帯上 RL 縄文・内面ナデ	1 x	
584	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	
585	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起部帯沈線→RL縄文→無文部磨き・内面ナデ	2 x	
586	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起部帯沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
587	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起部帯沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
588	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き・内面磨き	1 x	
589	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→縦密沈線文充填・内面磨き	2 x	
590	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文・内面ナデ	2 x	
591	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	
592	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面ナデ	1 x	
593	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き・内面磨き	2 x	
594	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面S字状入組文・無節R縄文・内面ナデ	II層5 x	
595	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	半櫛歯文・外面頸部 LR 縄文・内面磨き	1 x	
596	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面ナデ・内面輪積み夜明瞭	2 x	
597	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・磁・鉄灰・砂	灰褐色	普通	外面条線→縦線貼付・内面ナデ	20166 II-1層	
598	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→頸部区画文・口縁部磨き・内面ナデ	1 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
599	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	2 x	
600	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部付帯口縁状の肥厚 頸部条線 内面磨き	1 x	
601	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	1 x	
602	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい褐色	普通	外面櫛歯状工具の条線 内面ナデ	Ⅱ層 5 x	
603	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外・内面ナデ	1 x	
604	縄文土器	深鉢	[23.4]	(19.3)	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	20.234 Ⅱ層	20%
605	縄文土器	壺	-	(6.5)	-	珪石・燧石・粘石	褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	x	10%
606	縄文土器	台付鉢	-	(7.2)	[7.8]	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	2 x	10%
607	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	x	
608	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	褐色	普通	外面沈線間刻み→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
609	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
610	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
611	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	20.234 Ⅱ層	
612	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	x	
613	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	20.109 Ⅱ層 5 x	
614	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
615	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→帯筋付LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
616	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面S字状人組文 内面ナデ	20.234 Ⅱ層	
617	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→帯筋付無文部磨き 内面ナデ	2 x	
618	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	20.109 Ⅱ層 5 x	
619	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層 5 x	
620	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・凝礫	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層 5 x	
621	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明褐色	普通	外面三又状人組文 内面ナデ	20.109 Ⅱ層 5 x	
622	縄文土器	広口壺	-	-	-	珪石・燧石・粘石	明褐色	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	20.109 Ⅱ層 5 x	
623	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外・内面磨減のため調整不明瞭	Ⅱ層 5 x	
624	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面磨き 口唇部に押印文 内面ナデ	Ⅱ層 5 x	
625	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面細かい刺突文充填 無文部磨き 内面磨き	1 x	
626	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面細かい刺突文 口唇部刻み 内面ナデ	1 x	
627	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面羊歯状文 内面磨減のため調整不明瞭	2 x	
628	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	x	
629	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨減のため調整不明瞭 口唇部マガサ状刺突文	2 x	
630	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	にぶい褐色	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	1 x	
631	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	外・内面ナデ	x	
632	縄文土器	台付鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面斜線文 内面ナデ	x	5%
633	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→刻み→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
634	縄文土器	鉢	[14.0]	7.9	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	20.059 2層	40%
635	縄文土器	鉢	19.0	10.8	6.9	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面付点線文 内面磨き	20.186 1-2層	80%
636	縄文土器	香炉型	-	(7.8)	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	20.264 1-2層	30% 保 PL34
637	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面微隆起帯による文様 内面ナデ	20.030 1-2層	
638	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
639	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→沈線文 内面磨き	1-2層	
640	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→沈線間磨り消し 内面磨き	1-2層	
641	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面斜線文→口縁部刻み 無文部磨き 内面磨き	2 x	
642	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
643	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	1 x	
644	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面RL縄文→格子目文 内面磨き	1 x	
645	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色 灰	普通	外面無文部磨き 内面磨き 口縁部に凹線	1 x	
646	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
647	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
648	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文 内面磨き	1 x	
649	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	20.065 1-2層	
650	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→刻み→無文部磨き 内面磨き	20.035 1-2層	
651	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
652	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
653	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
654	縄文土器	浅鉢	[23.5]	(5.6)	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面互連弧文 内面磨き	1-2層	20%
655	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面ナデ	20.046 1 x	
656	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	2 x	
657	縄文土器	浅鉢	[11.3]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面口縁部付点線文 胴部に弧線文 内面磨き	2 x	内面煤 20%
658	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外・内面磨き	20.195 1-2層	
659	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面条線→縦線付付→頸部区画文磨き 内面ナデ	1 x	
660	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰・赤	普通	外面微隆起線文 内面ナデ	1 x	外面赤彩
661	縄文土器	深鉢	9.0	12.3	4.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	3単位 外面沈線→L縄文→無文部磨き 内面磨き 底縁部凹線→ナデ	20.115 1-2層	95% PL34
662	縄文土器	台付鉢	-	(6.8)	[9.1]	珪石・燧石・粘石	褐色	普通	外面沈線→LR縄文 無文部ナデ 内面ナデ	20.225 1-2層	20%
663	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・燧石・粘石	褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	20.171 1-2層	
664	縄文土器	深鉢	[22.4]	(17.8)	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	20.006 1-2層	20%
665	縄文土器	深鉢	[26.6]	(15.2)	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面S字状人組文 内面ナデ	20.033 1-2層	10%
666	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐色	普通	外面条線→付点線文 口縁部磨り出し状に肥厚 内面ナデ	20.113 1-2層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
667	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点絛線文	20112 I-2層	
668	縄文土器	注口	-	(65)	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	外面磨き 内面ナデ	II層	赤彩 20% PL38
669	縄文土器	浅鉢	[190]	(73)	-	長石・石英・針状磁骨	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 胴縁 内面磨き	2 x	10%
670	縄文土器	深鉢	[136]	(127)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯磨沈線・刻み→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	20%
671	縄文土器	深鉢	200	(133)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面 RL 縄文 内面ナデ	19427 I-2層	40%
672	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面波頂部下に縦長の瘤貼付 内面ナデ	1 x	
673	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面斜線文 内面磨き	1 x	
674	縄文土器	深鉢	[268]	(155)	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文・刻み→無文部磨き 内面磨き	1 x	20%
675	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面格子目文 口縁部磨き 内面磨き	1 x	
676	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
677	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	2 x	
678	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状磁骨	にぶい赤褐	普通	口縁部凹線 内面磨き	19457 I-2層	
679	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	波頂部に突起貼付 外面条線 内面ナデ	1 x	
680	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→口縁部刻み→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
681	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面沈線→無節 R 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
682	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	x	
683	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
684	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面隆起帯磨沈線・刻み→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
685	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
686	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 胴部条線 内面磨き	1 x	
687	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	暗赤灰	普通	外面口縁部隆起帯上刻み 胴部条線 内面磨き	1 x	
688	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文 内面ナデ	20109 I-2層	
689	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面 RL 縄文→胴部区間文 内面磨き	1 x	
690	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
691	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外・内面磨き 底部刮り	1 x	
692	縄文土器	古付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 透かし孔2か所 内面ナデ	1 x	外面赤彩
693	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面隆起帯上刻み 内面磨き	2 x	
694	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 底部 RL 縄文 内面磨き	2 x	
695	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面頸部弧線文 内面ナデ	1 x	
697	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→無節 R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面条線 内面磨き	1 x	
699	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	付帯口縁 外・内面ナデ	1 x	
700	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面条線 内面磨き	2 x	
701	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→付点絛線文 内面磨き	2 x	
702	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点絛線文 内面磨き	19467 I-8層	
703	縄文土器	壺	7.0	(38)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面磨き 口唇部に沈線 内面ナデ	19534 II層	10%
704	縄文土器	ミナメア	2.7	5.2	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面磨き 内面ナデ	19426 I-8層	100% PL34
705	縄文土器	深鉢	[136]	12.1	3.9	長石・石英	橙	普通	外面弧線文 磨き 内面ナデ	20051 x	40%
706	縄文土器	手鐲	5.8	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面弧線文 内面ナデ	20128 I-8層	90%
707	縄文土器	深鉢	[198]	(174)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	30%
708	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	x	20%
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→瘤貼付・無文部磨き 内面磨き	1 x	
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刻み→瘤貼付→無文部磨き 内面磨き	1 x	
711	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	口縁部外面に縦かい刻み 内面磨き	1 x	
712	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面地縄文→条線→縦線貼付 内面磨き	20166 I-2層	10%
713	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面 LR 縄文→横位沈線文 内面磨き	20109 I-2層	
714	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部磨き 内面磨き	x	
715	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤褐	普通	外面口縁部磨き 胴部条線 内面磨き	19439 I-2層	
716	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐	普通	外・内面磨き	x	
717	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文 口縁部刻み 内面磨き	2 x	
718	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面胴部 LR 縄文 内面磨き	x	
719	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面磨き	2 x	
720	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	x	
721	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 胴部条線 内面ナデ	x	
722	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部横帯文とノの字状筋 内面磨き	2 x	外面赤彩
723	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面隆起帯磨沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
724	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
725	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	1 x	
726	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	x	
727	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
728	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
729	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面口縁部刻み 内面磨き	1 x	
730	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面ナデ	x	
731	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	口唇部にB突起 外・内面磨き	1 x	
732	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→縦帯沈線文充填 内面ナデ	x	
733	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	19439 I-2層	
734	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	2 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
735	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 褐	普通	外面条線→頸部磨き 内面ナデ	.x	
736	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	明 褐	普通	外面磨削付→口縁部 RL 縄文 内面磨き	1 x	
737	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→磨き 内面ナデ	3 x	
738	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 口縁部突起 内面ナデ	1 x	
739	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
740	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面羊歯状文 内面ナデ	2 x	
741	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい褐	普通	外・内面磨き	1 x	
742	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面入組風線文 内面磨き 口唇部押圧文	2 x	
743	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ 口縁部に鉢巻状の貼付文	3 x	
744	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面風線文と波頂部に三文文 内面磨き	II 層	
745	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填 内面ナデ	2 x	
746	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填 内面磨き	2 x	
747	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	沈線間に細かい刺突文 外・内面ナデ	1	
748	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい橙	普通	外面無文部ナデ 内面ナデ 沈線間刺突文	.x	
749	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	沈線間刺突文 外・内面ナデ	1 x	
750	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・細礫	にぶい黄褐	普通	沈線間刺突文 外面無文部磨き 内面磨き	1 x	
751	縄文土器	壺	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい黄褐	普通	沈線間刺突文 外面無文部磨き 内面磨き	3 x	
752	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	沈線間刺突文 外・内面ナデ	.x	
753	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	沈線間刺突文 外面無文部ナデ 内面磨き	1 x	
754	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい橙	普通	脊状文 外・内面ナデ	.x	
755	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	脊状文 外面削り 内面磨き	1 x	
756	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面条線 内面ナデ	II 層	
757	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線 内面ナデ	3 x	
758	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ	.x	
759	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明 褐	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	.x	
760	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	1 x	
761	縄文土器	古付鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文・削み→対位文 内面磨き	2 x	
762	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
763	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→糊貼付 内面ナデ	2 x	
764	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
765	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面 RL 縄文→沈線文→沈線間磨り消し 内面ナデ	2 x	
766	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
767	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
768	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	2 x	
769	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
770	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面磨き 口縁部四角文	2 x	
771	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外・内面ナデ	2 x	
772	縄文土器	浅鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	橙	普通	外・内面ナデ	2 x	
773	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	2 x	
774	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	入組風線文。外面ナデ 内面磨き	.x	
775	縄文土器	広口壺	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	にぶい黄褐	普通	外面沈線→無節 L 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.534 II - 5 層	
776	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	胴部に幹状文 外・内面磨き	19.531 II - 5 層	
777	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	幹状文 外・内面ナデ	19.534 II - 5 層	
778	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.531 II - 5 層	
779	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	19.531 II - 5 層	
780	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部突起 外面沈線間刺突文 内面磨き	19.828 I - 8 層	
781	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面口縁部磨き 鬚文連結沈線文 内面磨き	.x	
782	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面胴部 RL 縄文→横位沈線 内面磨き	2 x	
783	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面隆起帯幅沈線・削み→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	20.050 I - 8 層	
784	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	2 x	
785	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.842 II 層	
786	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.944 II 層	
787	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面口縁部 LR 縄文。内面磨き	2 x	
788	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.997 II 層	
789	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	.x	
790	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面 LR 縄文 内面磨き	1 x	
791	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面磨き 内面ナデ	19.996 II 層	
792	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面磨き	2 x	
793	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線 内面ナデ	19.948 II 層	
794	縄文土器	古付鉢	[226]	[7.7]	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面条線→口縁部削み 内面磨き	I 層	30%
795	縄文土器	浅鉢	[112]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面削り 一部粗い磨き 内面ナデ一部磨き	19.868 II 層	70%
796	縄文土器	手捏	6.7	5.2	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面指頭ナデ 内面ナデ	19.847 II 層	100%
797	縄文土器	深鉢	[29.3]	[12.9]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	1 x	20%
798	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面 LR 縄文→沈線文 内面磨き	1 x	
799	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面 LR 縄文→沈線文 内面磨き	1 x	
800	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	胴部 外面 C 字状貼付文が剝離 内面ナデ	1 x	
801	縄文土器	浅鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	褐 灰	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	I 層	
802	縄文土器	深鉢	-	-	-	新 珪 結晶 鈣質	橙	普通	外面口縁部削み・LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	I 層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
803	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
804	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→顔部磨き 内面磨き	1層	
805	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
806	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	二次焼成
807	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	x	
808	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
809	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
810	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋上 RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1層	
811	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
812	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・黒み→顔部付 内面ナデ	1層	
813	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
814	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	外面沈線→無面L縄文 内面磨き	19,899 2 x	
815	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 1線部に赤褐色 内面磨き	19,899 Ⅱ層	
816	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線周刺突文 内面磨き	1 x	
817	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1層	
818	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	1層	
819	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面二溝間の裁痕 沈線→LR縄文 内面磨き	2 x	
820	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面半肉状文 内面磨き	1 x	外面赤彩
821	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい橙	普通	外面条線 内面磨き	19,846 Ⅱ層	
822	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面条線 口縁部厚 内面ナデ	20,236 Ⅱ層	
823	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	20,245 Ⅱ層	
824	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯筋凹線→LR縄文 内面ナデ	1 x	
825	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 1線部に赤褐色 内面磨き	1 x	
826	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
827	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線周刺突文 内面磨き	1 x	
828	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面LR縄文 内面磨き 東北系。	x	
829	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	1 x	
830	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線周刺突文 内面ナデ	x	二次焼成
831	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	橙	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	1 x	
832	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	1 x	
833	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・黒み→無文部磨き 内面磨き	2 x	5%
834	縄文土器	台付鉢	-	(13.7)	14.9	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ層 2 x	20%
835	縄文土器	深鉢	[24.0]	[14.8]	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい赤褐色	普通	外面条線→付点結線文 内面ナデ	1 x	20%
836	縄文土器	深鉢	[24.4]	[13.0]	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	2 x	10%
837	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 黒	普通	外面胴部に把手。 内面磨き	1 x	
838	縄文土器	壺	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい黄褐色	普通	外面横位沈線→斜線文 内面ナデ	1 x	
839	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線周刺突文→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層	
840	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面口縁部に多重沈線文 内面磨き	3 x	
841	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	x	
842	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
843	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3 x	
844	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・黒み→無文部磨き 内面磨き	1 x	
845	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線文充填 口縁部・胴部に刻み 内面磨き	2 x	
846	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色 灰	普通	外面隆起帯筋上刻み 内面磨き	3 x	
847	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 口縁部厚 内面ナデ	Ⅱ層	
848	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	851と同一。
849	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
850	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	1 x	
851	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	848と同一。
852	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
853	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	Ⅱ層	
854	縄文土器	深鉢	[21.5]	[19.5]	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・黒み→無文部磨き 内面磨き	20,352 2 x	20%
855	縄文土器	注口	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層	10%
856	縄文土器	台付鉢	-	(2.9)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	脚部 外・内面ナデ 透かし孔3か所	2 x	10%
857	縄文土器	鉢	[14.8]	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	20,394 1層	20%
858	縄文土器	台付鉢	-	(4.0)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面指頭によるナデ 内面ナデ	20,382 1層	50%
859	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	横帯文 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
860	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外・内面磨き 内面口縁部に沈線文	1 x	
861	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	20,325 1層	
862	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	にぶい褐色	普通	外面隆起帯筋上 RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	20,365 1層	
863	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→RL縄文・黒み→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
864	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	灰黄褐色	普通	外面隆起帯筋上 RL縄文・黒み→無文部磨き 内面磨き	1 x	
865	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯筋上刻み 無文部磨き 内面磨き	1 x	
866	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
867	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
868	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 黒	普通	外面 RL縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層	
869	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き 東北系。	Ⅱ層	
870	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・黒・黒緑・粘肝	明 黒	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	20,483 1層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
871	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 内面磨き	2 x	
872	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	外面倒り 口縁部未調整 内面ナデ	20.442 1層	口B類
873	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面条線 内面ナデ	20.431 1層	
874	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	外面条線→RL 縄文→横位沈線 内面ナデ	II層	
875	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・紫紺・純灰	にぶい・赤褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	20.304 1層	
876	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
877	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	褐 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	19.851 II層	
878	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯幅沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
879	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	19.899 II層	
880	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・橙	普通	杵状文 外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
881	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	赤 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.852 II層	
882	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
883	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面細かい刺突文充填 内面磨き	1 x	
884	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・褐	普通	外面沈線→無筋L 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
885	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・紫紺・純灰	にぶい・黄褐	普通	外面沈線間刺突文 無文部磨き 内面磨き	1 x	
886	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	杵状文 外面磨き 内面ナデ	1 x	
887	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面磨き	1 x	
888	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・黄褐	普通	外・内面磨き 口唇部刻み 二溝間の裁痕	1 x	
889	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐	普通	外・内面磨き 口唇部に三叉形入り込み文 二溝間の裁痕	1 x	
890	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面磨き 口唇部に三叉状刻み 二溝間の裁痕	19.892 II層	
891	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・紫紺・純灰	明赤褐	普通	外面条線→付点線縄文 内面磨き	19.762 II層	
892	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線 内面ナデ	1 x	
893	縄文土器	深鉢	126	180	30	長石・石英	にぶい・褐	普通	外面条線 内面ナデ	19.620 II層	90% PL33
894	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・紫紺・純灰	灰黄褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
895	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
896	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面貼付→沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	II層	
897	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文・磨貼付→無文部磨き 内面磨き	1 x	
898	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面波頂部下に栞形筋 内面ナデ	1 x	
899	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面細かい刺突充填 無文部磨き 内面磨き	1 x	
900	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面細密沈線文 内面磨き	1 x	
901	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	19.650 II層	
902	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面羊歯状文 内面磨き	1 x	
903	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤 褐	普通	外面沈線→無筋L 縄文 内面ナデ	19.665 II層	
904	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層	
905	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい・褐	普通	口縁部外面指頭ナデ 胴部刷り 内面ナデ	1 x	
906	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	外・内面磨き	19.680 II層	
907	縄文土器	深鉢	-	-	-	新・緑・紫紺・純灰	褐 灰	普通	外面磨き 内面ナデ	19.725 II層	
908	縄文土器	深鉢	[27.2]	[19.2]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面沈線→LR 縄文 胴部条線 内面ナデ	26層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.5)	(9.0)	(2.6)	(83.6)	長石・石英・赤色粒子	黒	山形胴部 赤彩	B7h1 1 x	2a 類 PL41
DP 2	土 偶	(4.5)	(3.5)	(2.6)	(27.6)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	山形胴部 磨き調整	b616 1 - 1	2b 類
DP 3	土 偶	(4.7)	(5.3)	(2.8)	(45.8)	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	山形胴部 LR 縄文 赤彩	B6a3 25層	2b 類
DP 4	土 偶	(3.9)	(3.6)	(2.4)	(18.4)	長石・石英	灰 褐	山形胴部 竹管による刺突文	C6a5 1 - 2	2b 類
DP 5	土 偶	(5.0)	(4.5)	(4.4)	(36.9)	長石・石英	にぶい・黄褐	山形胴部 胴部 RL 縄文	B6h 11 - 1	2c 類
DP 6	土 偶	(5.4)	(5.4)	(3.0)	(46.4)	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	山形胴部 RL 縄文	B6a 1x	2b 類
DP 7	土 偶	(4.9)	(4.1)	(3.0)	(48.4)	新・緑・紫紺・純灰	黒 褐	山形胴部 無筋L 縄文	C6a 2層	2b 類
DP 8	土 偶	(6.0)	(5.6)	(3.7)	(84.2)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	山形胴部 胴部 背面にLR 縄文	B6h5 2層	2f 類
DP 9	土 偶	(4.6)	3.1	(3.0)	(37.7)	長石・石英	黒 褐	山形胴部 赤彩	B6g2 32層	2d 類
DP 10	土 偶	(6.9)	(5.4)	4.9	(123.4)	長石・石英・雲母	暗 褐	ミミズク胴部 胴部 刺突文	B6d2 32層	2f 類
DP 11	土 偶	(6.2)	(2.9)	2.5	(37.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	山形胴部 磨き調整 赤彩	B6d2 1x	2d 類
DP 12	土 偶	(6.3)	(12.3)	(3.8)	(231.2)	新・緑・紫紺・純灰	明赤褐	山形胴部 ナデ調整 背面に帯状の赤彩	C6d0 II層	2c 類 PL41
DP 13	土 偶	(6.2)	(4.6)	3.1	(61.6)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	板状 胴部 ナデ調整	B69 1x	4d 類
DP 14	土 偶	(4.9)	(2.6)	3.5	(34.0)	新・緑・紫紺・純灰	にぶい・橙	山形胴部	C6a8 1層	2d 類
DP 15	土 偶	(5.3)	(2.3)	3.0	(29.1)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	山形胴部 沈線→RL 縄文	B6h4 25層	2d 類
DP 16	土 偶	(7.2)	(4.0)	(4.0)	(56.4)	長石・石英	灰黄褐	ハート形胴部 RL 縄文捺文	B6h2 2層	7d 類
DP 17	土 偶	(9.1)	10.9	(3.4)	(181.2)	長石・石英・雲母	褐	ミミズク胴部 赤彩	B6h8 II層5x	3a 類 PL41
DP 18	土 偶	(6.3)	(5.7)	2.5	(57.5)	長石・石英・雲母	黒 褐	ミミズク胴部 赤彩	C6a8 II - 1	3a 類
DP 19	土 偶	(6.1)	(4.5)	(2.0)	(34.3)	長石・石英・雲母	黒 褐	ミミズク胴部 胴部 赤彩	B6d2 II層	3e 類 PL41
DP 20	土 偶	(7.5)	8.6	4.2	(181.7)	長石・石英・雲母	明 褐	ミミズク胴部	C6e0 x	3a 類 PL41
DP 21	土 偶	(9.7)	(8.1)	4.6	(210.9)	長石・石英	黒 褐	ミミズク胴部 胴部 入組文 赤彩	B6i3 2層	3e 類 PL41
DP 22	土 偶	(5.3)	6.2	(3.8)	(102.4)	長石・石英・雲母	褐	ミミズク胴部 赤彩	C699 II - 3	3a 類
DP 23	土 偶	(5.3)	(6.2)	(2.9)	(94.4)	長石・石英・雲母	褐	ミミズク胴部	B6j8 1 - 5	3a 類
DP 24	土 偶	(3.9)	(4.4)	2.3	(33.4)	長石・石英	明赤褐	ミミズク胴部 沈線内刺突文	B6j6 1 - 2	3a 類
DP 25	土 偶	(4.3)	9.2	(5.5)	(146.9)	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	ミミズク胴部 RL 縄文	C6a9 II - 1	3c 類
DP 26	土 偶	(9.1)	(9.3)	3.3	(162.2)	長石・石英	褐 灰	ミミズク胴部 胴部 RL 縄文 赤彩	C6a3 1層	3e 類
DP 27	土 偶	(5.5)	(4.4)	(2.2)	(35.3)	長石・石英	にぶい・黄褐	ミミズク胴部 RL 縄文 扁平・板状	C6b3 1x	3a 類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP28	土 偶	(3.4)	(4.0)	1.5	(14.2)	長石・石英	にぶい赤褐	ミミズク刷-脚部 背面にRL縄文・赤彩	B6g2 2層	3f類
DP29	土 偶	(7.5)	11.3	4.5	(209.9)	灰-硝子-黒-赤硝子	暗 褐	ミミズク脚部 入組三叉文 赤彩	B6g2 3層	3c類 PL41
DP30	土 偶	(8.5)	(4.7)	3.1	(86.2)	長石・石英	灰 褐	ミミズク脚部 RL縄文	B6j8 II-1	3d類
DP31	土 偶	(7.5)	(5.3)	3.7	(114.3)	長石・石英	灰 褐	ミミズク脚部 RL縄文	C6c0 2x	3d類
DP32	土 偶	(4.7)	(4.1)	2.4	(38.1)	長石・石英・赤色硝子	灰 褐	ミミズク刷-脚部 RL縄文	C6a2 2x	3f類
DP33	土 偶	(6.8)	(5.1)	2.9	(61.8)	長石・石英・赤色硝子	明赤褐	ミミズク脚部 RL縄文	C6e0 II層	3d類
DP34	土 偶	(8.1)	(4.3)	2.4	(59.7)	長石・石英・黒色硝子	灰 褐	ミミズク脚部 LR縄文	x	3d類
DP35	土 偶	(3.5)	(4.2)	2.5	(18.1)	長石・石英	灰 褐	ミミズク刷-脚部 ナデ調整	B6j6 I層 1x	3e類 PL41
DP36	土 偶	(4.0)	(3.7)	1.6	(14.4)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	板状力 頭-胴部 ナデ調整	B6h6 1x	4e類 PL41
DP37	土 偶	(3.9)	(3.6)	2.6	(18.6)	長石・石英	にぶい赤褐	板状頭-脚部 ナデ調整	C6a3 2x	4e類
DP38	土 偶	(3.1)	(2.8)	(1.6)	(6.9)	長石・石英	浅黄橙	板状頭-脚部 ナデ調整	B6h5 2x	4e類
DP39	土 偶	(6.9)	(4.6)	2.3	(68.7)	硝子-硝子-黒硝子	にぶい黄褐	板状脚部 入組文-細かい刺突文	C6b8 II層	4c類
DP40	土 偶	(3.4)	(5.1)	(3.1)	(45.1)	長石・石英	にぶい橙	板状脚部 LR縄文 無文部磨き	B69 II層 6x	4b類
DP41	土 偶	(5.4)	(4.6)	3.6	(54.5)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	中空腕部 ナデ調整	B6h8 1x	5b類IIと同一
DP42	土 偶	(4.9)	(4.3)	(3.3)	(39.8)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	中空腕部 ナデ調整	B6h8 1x	5b類IIと同一
DP43	土 偶	(2.5)	(4.8)	3.4	(33.4)	長石・石英	橙	中空脚部 肩部・背面にRL縄文	C6b2 1x	5b類
DP44	土 偶	(5.4)	(4.4)	4.7	(66.8)	長石・石英	にぶい黄橙	中空腕部 透光器型 LR縄文	C6c6 II-3	5b類 PL40
DP45	土 偶	(5.1)	(13.6)	(8.8)	(197.5)	長石・石英	灰 褐	中空脚部 赤赤文L 身彩土製品の可能性あり 赤彩	B6g2 32層	5b類
DP46	土 偶	(6.8)	(8.3)	(5.0)	(81.3)	硝子-硝子-黒硝子	灰黄褐	中空脚部 無筋L縄文	C6a3 x	5b類
DP47	土 偶	(5.3)	(4.2)	4.4	(77.4)	長石・石英	にぶい黄橙	中空腕部 粗い磨き調整	C6d3 2層	5b類
DP48	土 偶	(5.9)	(4.9)	(2.4)	(43.2)	長石・石英・赤色硝子	橙	中空腕部 透光器型 外面ナデ調整	C7b2 2x	5d類
DP49	土 偶	(8.6)	(5.5)	5.2	(48.7)	長石・石英	にぶい橙	中空脚部 横位沈線文 ナデ調整 赤彩	B6h3 2層	5d類
DP50	土 偶	(6.7)	(4.6)	(6.5)	(155.6)	硝子-硝子-黒硝子	にぶい黄	中空脚部 横位沈線文 ナデ調整	B6j3 2層	5d類 PL41
DP51	土 版	(6.7)	(5.3)	2.2	(108.5)	長石・石英	褐 灰	上面沈線-横位L赤文-赤文磨き 一部細密沈線L赤文 上部凹眼	C6a2 1x	
DP52	土 版	(5.8)	(4.5)	1.0	(32.4)	長石・石英・赤色硝子	にぶい黄	入組文 顔面に沈線文	C6c2 II層	
DP53	土 版	(5.5)	(4.2)	(2.9)	(76.5)	長石・石英・赤色硝子	灰黄褐	表表面三叉文	C6c9 2x	
DP54	土 版	(4.3)	6.5	1.9	(55.2)	長石・石英	にぶい赤褐	縦線文 上部部に押圧文	B6j2 2x	
DP55	土 版	(8.0)	7.6	1.5	(97.5)	長石・石英	にぶい黄	縦線文 無筋L縄文 上部に2か所の貫通孔	C6i4 II層	PL43
DP56	有孔円盤	径[9.2]	-	2.1	(81.9)	長石・石英・角閃石類	褐 灰	中央部と3か所に貫通孔 ナデ整形	C6f3 II層	
DP57	有孔円盤	径[10.5]	-	1.7	(94.9)	長石・石英	にぶい赤褐	中央部と4か所に貫通孔 ナデ整形	x	
DP58	匙 形	(8.0)	(4.9)	2.3	(27.2)	長石・石英・赤色硝子	灰 褐	表表面指頭によるナデ整形	C6a2 1x	PL44
DP59	匙 形	(4.1)	(3.8)	(2.9)	(21.5)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	表表面指頭によるナデ整形	C6b2 2x	PL44
DP60	貝輪状	(3.9)	(2.8)	2.2	(14.4)	長石・石英	褐 灰	表表面磨き調整	B6j5 2x	
DP61	貝輪状	(4.0)	(1.9)	1.9	(11.3)	長石・石英	にぶい黄	ナデ調整	B6h3 2x	
DP62	貝輪状	(4.0)	(2.3)	2.0	(8.1)	長石・石英	橙	表表面ナデ調整	C7d2 1x	
DP63	貝輪状	(4.6)	(2.2)	2.0	(12.3)	長石・石英・赤色硝子	橙	表表面ナデ調整	B6g2 32層	
DP64	貝輪状	(4.4)	(2.4)	3.1	(18.8)	長石・石英	にぶい橙	上下端部に沈線文 ナデ調整	B7j2 1x	
DP65	貝輪状	(5.3)	(2.6)	2.1	(20.5)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	表表面ナデ調整	C6a9 2x	PL44
DP66	貝輪状	(4.6)	(3.9)	1.4	(16.9)	長石・石英・赤色硝子	灰 褐	表表面ナデ調整	B6h2 33層	PL44
DP67	貝輪状	(2.5)	(5.9)	2.1	(17.0)	長石・石英	にぶい橙	表表面ナデ調整	C6b3 1x	
DP68	土 鉢	5.1	2.8	1.8	29.1	長石・石英	灰 褐	右溝 ナデ調整	C6a3 1層	
DP69	土 鉢	4.2	4.7	1.3	11.0	長石・石英	褐 灰	右溝 中央部に貫通孔 ナデ調整	b6j2 2x	
DP70	土 鉢	2.5	2.1	1.9	9.5	長石・石英	にぶい橙	右溝 十字に渡る ナデ調整	C6e0 II層	PL44
DP71	円盤状	径 8.1	-	1.9	(115.5)	長石・石英・雲母	にぶい黄	ナデ整形 上下で磨き	C6e9 II層	
DP72	垂飾品	2.5	2.0	1.3	4.1	長石・石英	にぶい黄	ナデ整形	C6d8 2x	PL44
DP73	垂飾品	径 1.3	-	1.4	2.0	長石・石英	にぶい赤褐	小玉状 ナデ整形	B7j3 I-4	
DP74	垂飾品	径 1.1	-	0.9	0.8	長石・石英	浅黄橙	小玉状 ナデ整形	B6g2 32層	
DP75	垂飾品	2.5	1.9	1.9	(6.5)	長石・石英	灰 褐	縦線状 沈線による格子目文	B6h3 2層	PL44
DP76	垂飾品	1.9	1.1	1.1	1.8	長石・石英	灰 褐	縦線状 ナデ整形	B6j7 II層 6x	
DP77	耳飾り	径 1.5	-	1.2	2.4	長石・石英	橙	耳栓 ナデ調整	B6j7 II-3	I-1
DP78	耳飾り	径 1.2	-	1.7	2.0	長石・石英	にぶい黄	耳栓 ナデ調整	B6k5 II層 1x	I-1
DP79	耳飾り	径 2.8	-	1.8	(14.4)	長石・石英・赤色硝子	橙	白型 ナデ調整	B7j1 2x	I-2
DP80	耳飾り	径 2.4	-	2.1	(10.0)	長石・石英	明赤褐	白型 ナデ調整	C6a3 3x	I-3 PL42
DP81	耳飾り	径 2.3	-	2.2	(10.4)	長石・石英	にぶい黄褐	白型 顔面ナデ調整	C6a3 2層	I-3 PL42
DP82	耳飾り	径 2.6	-	2.4	13.0	長石・石英	にぶい赤褐	白型 細かい刻みによる筋文 顔面ナデ調整	B6i5 I-2	I-3
DP83	耳飾り	径 3.0	-	2.1	15.1	長石・石英	明赤褐	環状 ナデ調整	C6a0 I-6	II-1
DP84	耳飾り	径 4.8	-	1.9	(27.7)	長石・石英・角閃石類	灰黄褐	滑車型 磨き調整	B6g2 4層	II
DP85	耳飾り	径 3.7	-	1.9	(16.4)	長石・石英・赤色硝子	褐 灰	滑車型 顔面削り	B6j8 I-5	II
DP86	耳飾り	径[4.6]	-	2.1	(6.8)	長石・石英	灰黄褐	滑車型 ナデ調整	C6c0 2x	II
DP87	耳飾り	径[5.8]	-	2.0	(15.1)	長石・石英	橙	滑車型 周縁部に磨き ナデ調整	C6e0 II層	II
DP88	耳飾り	径[6.3]	-	1.8	(23.0)	長石・石英	褐 灰	滑車型 縦線文 表表面磨き	C6a8 1x	II
DP89	耳飾り	径[7.6]	-	1.9	(13.9)	長石・石英・角閃石類	橙	滑車型 表面磨き調整 内面ナデ調整	B6i6 2x	II
DP90	耳飾り	径 5.8	-	2.2	33.9	長石・石英	明 褐	滑車型 細かい刻み	B6j6 II-3	II PL42
DP91	耳飾り	径 5.4	-	2.1	(34.1)	長石・石英・角閃石類	橙	滑車型 ナデ調整	B6h3 2層	II PL42
DP92	耳飾り	径[6.8]	-	2.1	(15.0)	長石・石英・赤色硝子	にぶい橙	滑車型 表面磨き 裏面ナデ	B6i2 II層 5x	IV-2
DP93	耳飾り	径[5.8]	-	2.1	(13.3)	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	滑車型 磨き調整	B6i4 II層 2x	IV-2
DP94	耳飾り	径[5.8]	-	1.9	(6.2)	長石・石英	黒 褐	滑車型 三叉文 磨き調整	C6i0 2x	IV-2
DP95	耳飾り	径 3.4	-	1.7	9.4	長石・石英	明赤褐	滑車型 磨き調整	B6h2 2層	V PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 96	耳飾り	径5.8	-	1.7	(32.4)	長石・石英・赤色粘土	明赤褐	滑車型 表裏面沈線文・磨き	B6g II-3	IV-1 PL42
DP 97	耳飾り	径[6.9]	-	2.1	(19.9)	長石・石英	灰青褐	滑車型 全面黒漆塗布。	B6g3 4x	IV-2
DP 98	耳飾り	径[7.6]	-	1.9	(16.6)	長石・石英	にぶい赤褐	滑車型 表裏面磨き	C6c2 2x	IV-2
DP 99	耳飾り	径[5.6]	-	2.0	(5.8)	長石・石英	黒褐	滑車型 入組文 磨き調整	C7c1 1x	V
DP100	耳飾り	径[6.8]	-	2.4	(9.8)	長石・石英	にぶい橙	滑車型 三又文 表面磨き 裏面ナデ	B6d2 2x	V
DP101	耳飾り	径6.0	-	1.9	31.1	長石・石英・赤色粘土	黒褐	滑車型 三又文 磨き調整	C7b1 x	V PL42
DP102	耳飾り	(5.5)	(1.6)	(0.7)	(4.3)	長石・石英	灰褐	透かし彫り形のブリッジ部分。中央部に細い貫通孔。	C7b2 II層	Ⅲ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	尖頭器	(5.48)	4.01	1.71	(34.8)	安山岩	上部欠損	C6e6 1x	PL47
Q 2	石鏃	2.27	3.34	0.89	4.1	黒曜石	横長羽片の2個縁を剥離	C6b0 1x	
Q 3	石鏃	(2.54)	1.05	0.42	0.8	チャート	有茎 基部に付着物	B6j9 II層	PL47
Q 4	石鏃	(1.71)	2.40	0.72	(1.6)	チャート	下部欠損	B6i2 2x	PL47
Q 5	石鏃	2.36	1.26	0.46	0.9	瑪瑙	有茎	C6b2 2x	
Q 6	石鏃	1.75	1.16	0.30	0.4	黒曜石	有茎 表面に古い剥離あり	C6c5 2x	PL47
Q 7	石鏃	(2.09)	1.35	0.43	(0.8)	チャート	有茎 先端部欠損	C6c7 1x	
Q 8	石鏃	(1.81)	2.12	0.53	(1.2)	チャート	平基 先端部欠損	B6i3 1x	
Q 9	石鏃	5.4	2.2	0.6	4.4	チャート	大形 有茎	C6a3 3x	PL47
Q 10	石鏃	(3.08)	1.58	0.59	(1.6)	チャート	有茎	B6i2 2x	PL47
Q 11	石鏃	2.23	1.27	0.56	1.0	チャート	有茎	B6h5 1x	
Q 12	石鏃	2.12	1.91	0.34	1.0	チャート	凹基	C6a4 2x	
Q 13	石鏃	(2.68)	1.53	0.42	(1.1)	チャート	凹基 先端部欠損	C6a8 1x	PL47
Q 14	石鏃	1.93	(1.91)	0.33	(0.8)	チャート	凹基 下部欠損	B6g2 6層	
Q 15	石鏃	(1.23)	1.44	0.38	(0.4)	黒曜石	凹基 先端部欠損	C7b2 II層	
Q 16	石鏃	3.36	0.54	0.88	7.3	チャート	未成品	C6e8 2x	
Q 17	石鏃	3.95	2.39	1.46	11.5	チャート	未成品	B6i8 1x	PL47
Q 18	石鏃	4.69	2.17	1.39	10.3	チャート	未成品	C6e8 2x	
Q 19	R F	44.9	20.5	17.3	134	黒曜石	704の壺の中から出土	C6b5 I-1	PL47
Q 20	打製石斧	10.2	7.8	3.3	330.5	ホルンフェルス	分銅形	B6h 2x	
Q 21	打製石斧	7.7	5.0	2.7	95.1	ホルンフェルス	撥形	C6e9 1x	
Q 22	打製石斧	(8.4)	5.5	2.4	(137.5)	頁岩	未成品 撥形。	C7c4 1x	
Q 23	鏃器	6.3	5.6	1.3	42.9	輝石安山岩	自然礫の周縁を剥離	B6g2 2x	
Q 24	鏃器	5.8	4.8	0.9	38.1	輝石安山岩	自然礫の周縁を剥離	B6g2 3x	PL45
Q 25	鏃器	5.8	5.4	1.2	34.4	溶結凝灰岩	自然礫の周縁を剥離	B6i9 2x	
Q 26	鏃器	5.7	5.4	1.7	61.8	角閃石輝石安山岩	自然礫の周縁を剥離	B6i3 1x	
Q 27	鏃器	4.5	4.6	0.9	21.4	輝石安山岩	自然礫の周縁を剥離	B6j3 3x	
Q 28	鏃器	5.7	4.7	0.6	24.4	輝石安山岩	自然礫の周縁を剥離	B6j8 1x	PL45
Q 29	鏃器	6.2	6.8	1.5	83.1	安山岩	自然礫の一個縁を剥離	B7i1 2x	
Q 30	鏃器	(6.5)	6.5	1.4	(51.2)	安山岩	自然礫の周縁を剥離	C6b4 x	
Q 31	鏃器	4.5	4.3	0.9	25.4	安山岩	自然礫の周縁を剥離 下部部に使用痕。	C6c5 2x	成熟
Q 32	磨製石斧	4.7	3.0	0.9	21.6	蛇紋岩	小形定角式	C6e6 II-3	PL46
Q 33	磨製石斧	4.2	2.2	1.0	12.5	輝石安山岩	小形定角式 刃部に剥離痕	C6c3 2x	成熟
Q 34	磨製石斧	4.9	2.8	1.3	24.2	ホルンフェルス	小形定角式 基部に剥離痕	B6g2 26層	
Q 35	磨製石斧	6.5	1.8	0.9	16.7	粘板岩	小形定角式 正面中央部の稜が明瞭	C7c4 II層	PL46
Q 36	磨製石斧	(2.7)	(1.6)	(1.1)	(5.2)	緑色岩	小形定角式 基部の断面が丸みを帯びる	C6c7 II-3	
Q 37	磨製石斧	15.7	6.4	3.9	509.6	砂岩	定角式 刃部欠損 表裏面の一部・側面部に敲打痕	C6e6 II-3	成熟
Q 38	磨製石斧	(7.8)	(4.2)	3.0	(152.0)	輝緑岩	定角式 刃部欠損	B6i3 1x	
Q 39	磨製石斧	(5.4)	(3.9)	(3.1)	(86.4)	輝緑岩	定角式 側面部に敲打痕	B6h5 1x	
Q 40	磨製石斧	(2.9)	(3.7)	(2.3)	(26.8)	蛇紋岩	定角式 基部・刃部欠損	C6a4 2x	
Q 41	磨製石斧	7.2	3.9	1.7	68.2	緑色岩	楕圓形 刃部に磨り痕	B6i7 1x	
Q 42	磨製石斧	8.9	4.0	1.7	99.3	蛇紋岩	定角式 楕圓形	C6d7 1x	
Q 43	磨製石斧	(6.8)	5.2	2.5	(152.2)	緑色岩	定角式 基部欠損 側面に磨り切り痕 刃部に研磨痕	C7b3 1x	PL46
Q 44	磨製石斧	(5.4)	3.1	1.7	(47.3)	緑色片岩	定角式 基部欠損後研磨 再利用。	C6c2 2x	
Q 45	磨製石斧	(10.0)	(4.4)	(2.8)	(25.1)	輝緑岩	定角式 刃部欠損	x	
Q 46	磨製石斧	(7.0)	(4.8)	(2.2)	(60.4)	輝石安山岩	基部欠損 自然礫の下部のみ敲打・研磨して刃部作出	C6a4 2x	
Q 47	磨製石斧	(4.7)	(4.9)	(3.1)	(104.0)	フレライト	定角式未成品 敲打成形 下部欠損	C6a8 1x	
Q 48	磨製石斧	8.2	6.1	2.9	172.0	緑色岩	未成品 剥離成形→敲打成形	C6a3 2層	
Q 49	磨製石斧	10.7	4.5	3.3	265.1	緑色片岩	定角式未成品 敲打成形 刃部欠損	C6c0 2x	PL46
Q 50	磨製石斧	(15.6)	(7.8)	4.8	(909.1)	斑レイ岩	未成品 敲打成形	C6a3 2x	PL46
Q 51	磨石類	7.6	3.3	2.0	(69.6)	輝緑岩	自然礫の下部部に磨り痕	B6j9 II層	1e類
Q 52	磨石類	7.5	2.8	1.1	29.8	ホルンフェルス	自然礫の側縁部に磨り痕	C6c2 2x	1e類
Q 53	磨石類	5.5	4.4	1.2	45.2	安山岩	自然礫の側縁部に磨り痕	C6c3 x	1e類
Q 54	磨石類	7.9	3.8	1.9	70.2	砂岩	自然礫の上下・一個縁部に磨り痕	C6b9 1x	1e類
Q 55	磨石類	(8.5)	1.8	1.1	(26.7)	粘板岩	自然礫の側縁部に磨り痕	C6d5 2x	1e類
Q 56	磨石類	6.7	3.7	1.8	(53.8)	砂岩	自然礫の上下端部に敲打痕 一個縁に磨り痕	B6j9 1x	2e類
Q 57	磨石類	4.6	1.7	1.1	11.5	千枚岩	表裏・側縁に磨り痕 下部部に敲打痕	C6c6 1x	2a類
Q 58	磨石類	6.4	2.9	1.5	33.7	頁岩	自然礫の上下端部に敲打痕	B6h2 2x	3e類
Q 59	磨石類	5.0	2.7	1.8	(34.5)	輝石ダイサイト	自然礫の上下端部に敲打痕 一個縁に磨り痕	C6b7 II層2x	2e類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 60	磨石類	9.9	3.2	2.0	87.8	ドレライト	自然礫の上下端部に敲打痕	C6b9 1層 1x	3e類
Q 61	磨石類	5.4	5.0	4.2	165.4	角閃石輝石アイサイト	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	B6j2 2x	1c類
Q 62	磨石類	5.0	4.5	3.2	89.5	輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	B6h3 2x	1c類
Q 63	磨石類	5.6	5.4	4.1	187.0	多孔質安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6e9 1x	1c類
Q 64	磨石類	13.7	7.1	4.6	735.2	角閃石輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6a9 2x	1a類 煤付着
Q 65	磨石類	14.6	8.8	4.9	790.1	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B6j6 4層	2a類 煤付着
Q 66	磨石類	7.2	6.0	23.5	277.1	輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6e9 1x	1d類 煤付着
Q 67	磨石類	15.6	7.9	3.5	255.5	珉レイ岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6c6 1層	2d類
Q 68	磨石類	9.1	5.9	3.6	363.0	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面 下端部に敲打痕	B6i8 2x	2d類
Q 69	磨石類	12.0	8.2	3.1	608.8	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C7c3 Ⅱ層	2d類 煤付着
Q 70	磨石類	9.2	6.0	3.5	295.9	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B6i4 Ⅱ層	2d類
Q 71	磨石類	6.3	6.2	2.6	153.3	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6a3 2x	2c類 煤付着
Q 72	磨石類	7.6	7.2	3.4	307.1	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6d4 Ⅱ層	2c類
Q 73	磨石類	6.3	5.7	4.5	219.5	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C6b5 Ⅱ層	2c類
Q 74	磨石類	7.8	7.1	5.4	424.7	角閃石輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B6i4 Ⅰ-2	2a類
Q 75	磨石類	6.2	4.6	3.8	192.5	角閃石輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 3面に凹痕	B6i5 Ⅱ層 2x	2d類
Q 76	磨石類	5.1	4.3	3.3	122.4	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 表裏面に凹痕	B6g2 6x	2d類
Q 77	磨石類	5.4	4.7	4.3	189.7	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面	B6i8 Ⅰ-2	1a類
Q 78	磨石類	7.2	5.0	5.0	267.4	砂岩	表裏・側面に磨り面 一部に赤色顔料付着。	C7b1 1x	1a類 煤付着
Q 79	磨石類	8.0	6.7	5.0	365.4	角閃石輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 上下端部に敲打痕	B7i2 1x	2a類
Q 80	磨石類	19.4	5.1	3.9	283.4	輝石アイサイト	表裏・側面に磨り面 表裏面・下端部に敲打痕	C6c3 1x	2a類
Q 81	磨石類	8.1	4.8	4.1	223.5	凝灰岩	自然礫の両端・表面に敲打痕	B6i4 Ⅰ-2	3e類
Q 82	石皿類	17.8	6.1	5.0	197.0	安山岩	有縁 使用面一面	x	被熱 1b類
Q 83	石皿類	24.7	9.9	4.9	1130.7	砂岩	表裏面に磨り痕 砥面状に研磨	B6j6 Ⅰ-2	被熱 1b類
Q 84	石皿類	17.7	9.4	4.8	722.1	安山岩	表裏面に磨り痕 裏面に凹痕	B7j4 1x	2b類 PL48
Q 85	石皿類	16.0	7.8	5.3	288.9	安山岩	表面磨り面 裏面・側面に凹痕	C6h3 2x	2b類
Q 86	石皿類	18.6	7.2	3.8	232.1	安山岩	表面磨り面 裏面に凹痕	B6b6 1層	2b類
Q 87	石皿類	18.5	7.5	4.7	174.7	安山岩	表面磨り面 裏面に凹痕	c6e9 2x	2b類
Q 88	石皿類	19.7	11.7	5.6	434.1	安山岩	表裏面に磨り面・凹痕	B6i9 Ⅱ層 6x	2b類
Q 89	石皿類	17.1	7.8	1.9	146.8	砂岩	表裏面砥面状に研磨 裏面に敲痕	B6i8 2x	3b類
Q 90	石皿類	40.8	25.8	4.1	4945.0	安山岩	表裏面に磨り面	B6i6 4x	被熱 1b類 煤付着
Q 91	石皿類	19.5	12.8	7.3	1157.8	安山岩	表裏面に磨り面・敲打痕 縁縁部に凹痕	B6i4 Ⅰ-2	2b類
Q 92	石 鉢	4.3	4.0	2.4	54.6	角閃石輝石アイサイト	長軸方向に有溝	C6e5 x	1類
Q 93	石 鉢	4.4	2.6	1.5	19.7	安山岩	長軸方向に有溝	B6i3 1x	1類
Q 94	石 鉢	15.1	3.5	0.7	119.0	千枚岩	長軸方向に有溝	C6i8 x	1類
Q 95	石 鉢	2.9	2.5	0.8	9.8	安山岩	長軸方向上下端部に切目	C6d0 Ⅱ層	2類
Q 96	石 鉢	3.4	2.3	0.8	11.0	輝石安山岩	長軸方向上下端部に切目	C6e2 2x	2類
Q 97	石 鉢	5.5	3.5	1.2	30.7	ホルンフェルス	長軸・短軸方向に切目	B6j2 1x	2類
Q 98	石 鉢	6.0	2.1	0.9	20.8	頁岩	長軸上下端部に切目	C6a3 1x	2類
Q 99	石 鉢	6.4	4.1	1.6	51.5	ドレライト	長軸上下端部に切目	B6i7 Ⅱ層 5x	2類
Q 100	石 鉢	13.5	2.8	0.8	130.2	凝灰片岩	長軸上端部に切目	B6g2 3x	2類
Q 101	石 鉢	2.7	1.8	0.7	4.3	無炭素質安山岩	短軸側に打ち欠き痕 一方向からの割離のみ	C6e9 2x	3類
Q 102	石 鉢	2.5	3.0	0.8	8.3	角閃石輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B6h2 Ⅱ層	3類
Q 103	石 鉢	3.3	2.2	0.6	5.3	安山岩	長軸上端・短軸側に打ち欠き痕 長軸下端部割離	B6g2 2x	3類
Q 104	石 鉢	3.6	2.4	0.8	8.2	輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B6h3 3x	3類
Q 105	石 鉢	3.9	2.5	0.9	10.1	頁岩	短軸側に打ち欠き痕	C6a8 Ⅱ層 3x	3類
Q 106	石 鉢	3.7	2.4	1.5	17.9	安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B6h5 2x	3類
Q 107	石 鉢	3.2	3.8	0.7	13.7	安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B6h3 2x	3類
Q 108	石 鉢	4.9	3.6	1.2	24.0	輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B6g2 2層	3類
Q 109	石 鉢	5.3	3.5	1.3	29.6	角閃石輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	C6h8 2x	3類
Q 110	石 鉢	4.1	3.2	0.8	14.4	砂岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B6h3 2x	3類
Q 111	石 鉢	4.5	3.5	1.1	21.5	輝石安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B6h7 2x	3類
Q 112	石 鉢	7.1	6.5	1.3	72.1	溶結凝灰岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B6h6 2x	3類
Q 113	砥石	12.2	10.4	5.9	548.5	砂岩	表裏・上・一側縁に筋状の研磨痕	B6j6 Ⅰ-2	被熱 1b類 PL48
Q 114	砥石	19.8	7.0	2.9	180.3	砂岩	表裏面に砥面 筋状の研磨痕	C6a0 1x	被熱 2b類
Q 115	砥石	7.3	6.9	2.5	123.5	安山岩	表裏面・下端部に砥面 表裏面筋状の研磨痕	B6j8 1x	被熱 2b類
Q 116	砥石	6.9	5.0	4.7	182.3	砂岩	表裏・側面砥面	C6e5 1x	被熱 2b類
Q 117	砥石	15.3	10.3	2.1	102.6	砂岩	表裏面に砥面	B6g2 2層	被熱 2b類
Q 118	砥石	19.7	9.6	2.9	299.6	砂岩	表面の一部に研磨痕	C6c2 21層	2b類
Q 119	砥石	16.4	4.8	1.1	151.9	砂岩	表裏面・下端部に砥面	B6h6 1x	被熱 4b類
Q 120	砥石	16.0	5.3	1.1	135.8	砂岩	表裏面に砥面	B6i7 2x	被熱 4b類
Q 121	砥石	9.0	4.7	1.4	54.8	砂岩	表裏面・下端部に砥面 表裏面筋状の研磨痕 左側面に一方向からの割離痕	B6j3 1x	被熱 4b類 PL48
Q 122	砥石	14.9	3.9	1.1	131.8	砂岩	表裏面・下端部に砥面	B6j3 x	被熱 4b類
Q 123	砥石	14.9	4.0	1.2	124.7	砂岩	表裏面に砥面 筋状の研磨痕	B6j6 1x	被熱 4b類
Q 124	砥石	6.4	4.0	1.2	50.5	砂岩	表裏・側面砥面	C6f2 2x	被熱 4a類
Q 125	砥石	15.3	3.0	1.2	124.2	砂岩	表裏面に砥面	x	被熱 4b類
Q 126	砥石	18.2	4.9	1.5	153.0	砂岩	表裏面に砥面 表面に凹痕	C6a9 1x	4b類
Q 127	砥石	8.4	3.8	2.7	100.7	砂岩	表裏・側面に砥面 筋状の研磨痕	C6e5 2x	被熱 1a類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 128	砥石	7.3	6.0	3.3	(131.3)	砂岩	表裏・側面に砥面 筋状の研磨痕	C6e5 1x	被熱 1a類
Q 129	砥石	3.8	4.6	2.5	(53.8)	砂岩	全面が砥面 筋状の研磨痕	B63 2x	1a類 PL48
Q 130	石棒	(3.9)	4.5	3.1	(45.1)	砂岩	幅広い沈線による柄頭文様	B64 2層	
Q 131	石棒	(4.6)	(4.1)	(2.1)	(47.4)	緑色片岩	幅広い沈線による柄頭文様	B66 1x	
Q 132	石剣	(6.0)	2.9	1.4	(46.0)	緑色片岩	扁平な頭部 沈線文と貫通孔を有する	B69 2x	PL45
Q 133	石棒	(2.9)	(3.3)	(1.8)	(22.2)	粘板岩	円柱状の柄頭 成例野型。	C618 II層2x	
Q 134	石棒	(4.7)	(3.8)	(1.5)	(43.4)	泥岩	並行沈線文 X字文。	C6e8 2層3x	被熱
Q 135	石剣	(17.9)	(4.4)	(3.0)	(362.5)	緑色片岩	亀頭状の柄頭 高井東型	C7c3 II層	被熱 PL45
Q 136	石剣	(11.7)	3.2	1.6	(113.2)	緑色片岩	研磨整形	C6d6 1x	
Q 137	石剣	(7.3)	3.4	1.9	(78.1)	緑色片岩	研磨整形	C6a2 2x	
Q 138	石剣	(10.2)	(2.7)	(1.1)	(37.7)	粘板岩	研磨整形	C6f3 II層	
Q 139	石剣	(9.0)	3.0	1.4	(61.8)	緑色片岩	研磨整形	B67 I - 2	被熱
Q 140	石剣	(5.2)	2.6	1.0	(23.6)	緑色粘板岩	研磨整形	B6g2 6a	
Q 141	磨製石斧	(8.4)	3.0	1.6	(63.2)	角閃石片岩	定角式 刃部欠損	C6d8 1x	
Q 142	石剣	(14.1)	3.5	1.4	(121.8)	緑色片岩	研磨整形	C6b7 II層	
Q 143	石棒	(10.3)	3.5	3.3	(141.3)	粘板岩	端部が有段 成例野型。	C6a4 I - 2	被熱 PL45
Q 144	石棒	(6.1)	(3.2)	(1.1)	(35.1)	粘板岩	研磨整形	C6a4 2x	被熱
Q 145	石棒	(6.0)	(2.6)	(1.8)	(26.0)	粘板岩	端部に突帯 成例野型。	C6b9 1x	被熱
Q 146	石棒	(6.9)	3.4	(2.5)	(63.8)	泥岩	研磨整形	C7b1 2x	被熱
Q 147	石剣	(15.3)	4.2	(2.6)	(285.4)	ホルンフェルス	表面に敲打痕 未成品。	B62 2層	
Q 148	独鈷石	(9.0)	(9.3)	6.2	(61.6)	斑レイ岩	研磨整形	B63 2x	PL45
Q 149	独鈷石	(8.2)	5.1	3.2	(26.4)	斑レイ岩	研磨整形	C6b2 2x	表裏黒 PL45
Q 150	垂飾品	4.0	1.5	0.6	5.1	角閃石片岩	研磨整形	C7c2 1x	PL46
Q 151	垂飾品	3.1	2.0	1.7	21.3	翡翠	穿孔未貫通 未成品	B72 II層	PL46
Q 152	垂飾品	2.0	1.3	1.2	(3.2)	蛇紋岩	勾玉状 腹部に4条の沈線文 片面穿孔	C6b0 I層	PL46
Q 153	板別帳	2.7	2.7	(1.1)	(9.7)	黒曜品質安山岩	表面に格子目状の沈線文	B66 1x	
Q 154	垂飾品	(1.4)	1.0	1.1	(2.1)	玉髓	勾玉状 穿孔未貫通 未成品	B6b3 25層	
Q 155	垂飾品	径1.3	-	1.1	2.0	蛇紋岩	小玉状 研磨整形 片面穿孔	B6h2 26層	PL46
Q 156	垂飾品	径0.9	-	(0.6)	(0.5)	蛇紋岩	白玉状 研磨整形 片面穿孔	C7c1 1x	PL46
Q 157	垂飾品	径1.4	-	0.7	2.3	滑石	表裏・周縁研磨整形 未穿孔 未成品	B6g2 32層	PL46

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第319・320図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(7.6)	6.4	6.5	(94.8)	長石・石英・赤色粘土	黒 褐	中空 遮光器形 頭部	C4e5 1x	5a類 PL41
DP 2	土 偶	(4.7)	(3.9)	2.0	(33.0)	長石・石英	にぶい黄褐	山形頭部 沈線文施文	C4c3 1x	2a類
DP 3	土 偶	(5.8)	4.5	1.4	(23.5)	長石・石英・赤色粘土	橙	板状 胴部格子目文	C4e4 1x	4f類
DP 4	土 偶	(5.0)	(3.4)	2.2	(31.4)	長石・石英	にぶい橙	板状 胴部 渦巻文	C4e1 1x	4b類
DP 5	サマの筒形	5.3	4.2	1.0	23.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	ホオジロサメの歯模倣	C4c3 1x	PL44
DP 6	耳飾り	径7.4	-	2.3	67.5	長石・石英・雲母	黒 褐	滑車型 入組三叉文施文 ミガキ成形	x	IV 2類 PL42
DP 7	耳飾り	径(6.2)	-	2.2	(15.8)	長石・石英	にぶい褐	三叉文間に細かい刺突文充填 側面ナデ 表面磨き	C4f4 1x	II 1類
DP 8	耳飾り	径2.8	-	1.5	6.2	長石・石英・角閃石部	明赤褐	環状 刺突文	C3g0 1x	IV 3類 PL42
DP 9	土 鐘	1.8	1.7	1.4	3.7	長石・石英	にぶい橙	有溝 ナデ調整	C4e1 1x	
DP 10	有孔円盤	径8.6	-	1.9	(126.4)	長石・石英	褐 灰	表裏面ナデ 中央・3か所に貫通孔 1か所未貫通	C4e4 1x	
DP 11	土 版	(5.3)	(7.4)	2.4	(103.0)	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	沈線→無筋 L 縄文→無文部磨き 側面に刺突文	C4e5 1x	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 錐	1.97	1.17	0.57	1.06	黒曜石	凹基	C3g8 1x	
Q 2	石 錐	(2.14)	2.07	0.74	(1.79)	チャート	先端部欠損	C4g131x	PL47
Q 3	石 錐	2.22	1.87	0.57	1.32	チャート	T字形	C4f4 1x	PL47
Q 4	石 錐	(1.73)	2.21	0.57	(1.67)	チャート	先端部欠損	C4f4 1x	
Q 5	石 錐	4.00	3.31	2.32	27.04	チャート	未成品	C4c3 1x	
Q 6	打製石斧	(14.2)	6.8	2.7	(329.9)	紅麻石片岩	分銅形	C4d5 1x	
Q 7	打製石斧	7.2	4.3	1.8	75.6	ホルンフェルス	未成品	C3g0 1x	
Q 8	打製石斧	(5.2)	7.1	2.1	(63.4)	輝石安山岩	分銅形	C4e1 1x	
Q 9	打製石斧	(7.4)	7.0	2.0	(122.0)	輝石安山岩	分銅形	C4d2 1x	
Q 10	打製石斧	(4.2)	6.3	2.4	(57.0)	輝石安山岩	分銅形	C4f1 1x	
Q 11	磨製石斧	5.2	3.3	1.1	27.5	ホルンフェルス	小形定角式 表面敲打後研磨整形 表面敲打のみ	C4f2 1x	

(6) 遺物集中地点

第1号遺物集中地点 (第42・43・321～324図 PL25)

位置 調査A区北西部のB6h2・h3区、標高20mほどの台地上から台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の第I層下層から第II層上面で確認した。第6号竪穴建物、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号遺物包含層中で、復元可能な個体を含めた大形土器片などの遺物が多量に出土する地点を確認した。当初竪穴建物跡の存在を考え第10号竪穴建物跡としたが、床面と考えられる位置で硬化面や炉跡、ピットなどが確認できなかったことから、遺物集中地点とした。遺物が集中する範囲は、東西約6m、南北約4.5mで、層厚は20～40cmである。

覆土 10層に分層できる。各層ともロームブロックやローム粒子、骨粉、遺物が多量に含まれている。なお本跡付近に位置する第2号遺物包含層については、当地点で個別に発番した。概ね第II層に相当するものと考えられるが、第5・6層は遺物が多量に含まれている。またローム粒子や骨粉が含まれている層も多く、第1～6層、第22～25層は不整合な堆積状況を示していることから、建物跡などの遺構の覆土が攪乱された可能性もある。第19～21層はローム層に近い土である。

土層解説

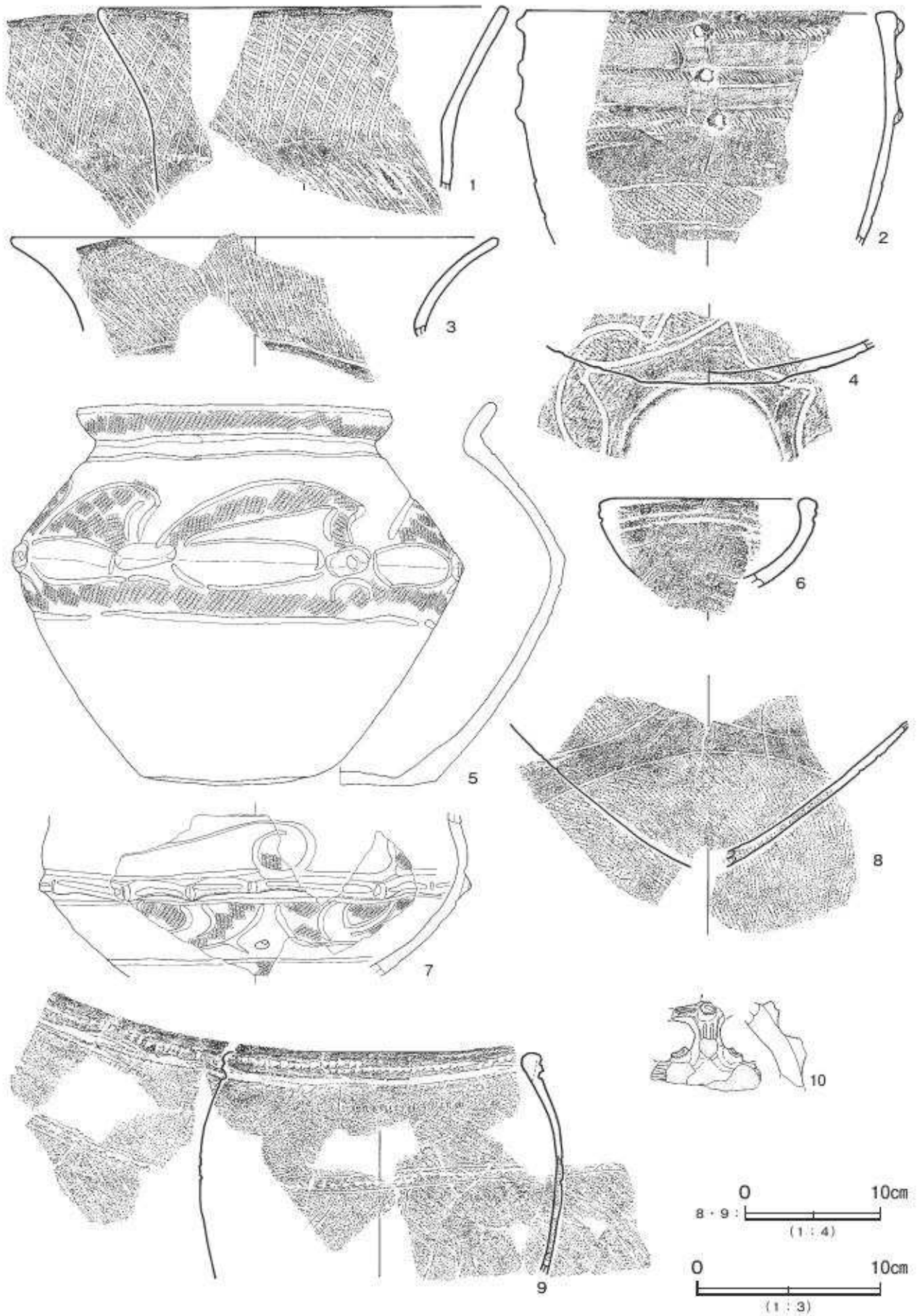
1 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量	7 黒色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量、骨粉微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
		9 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
		10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量

土層解説 (HG2)

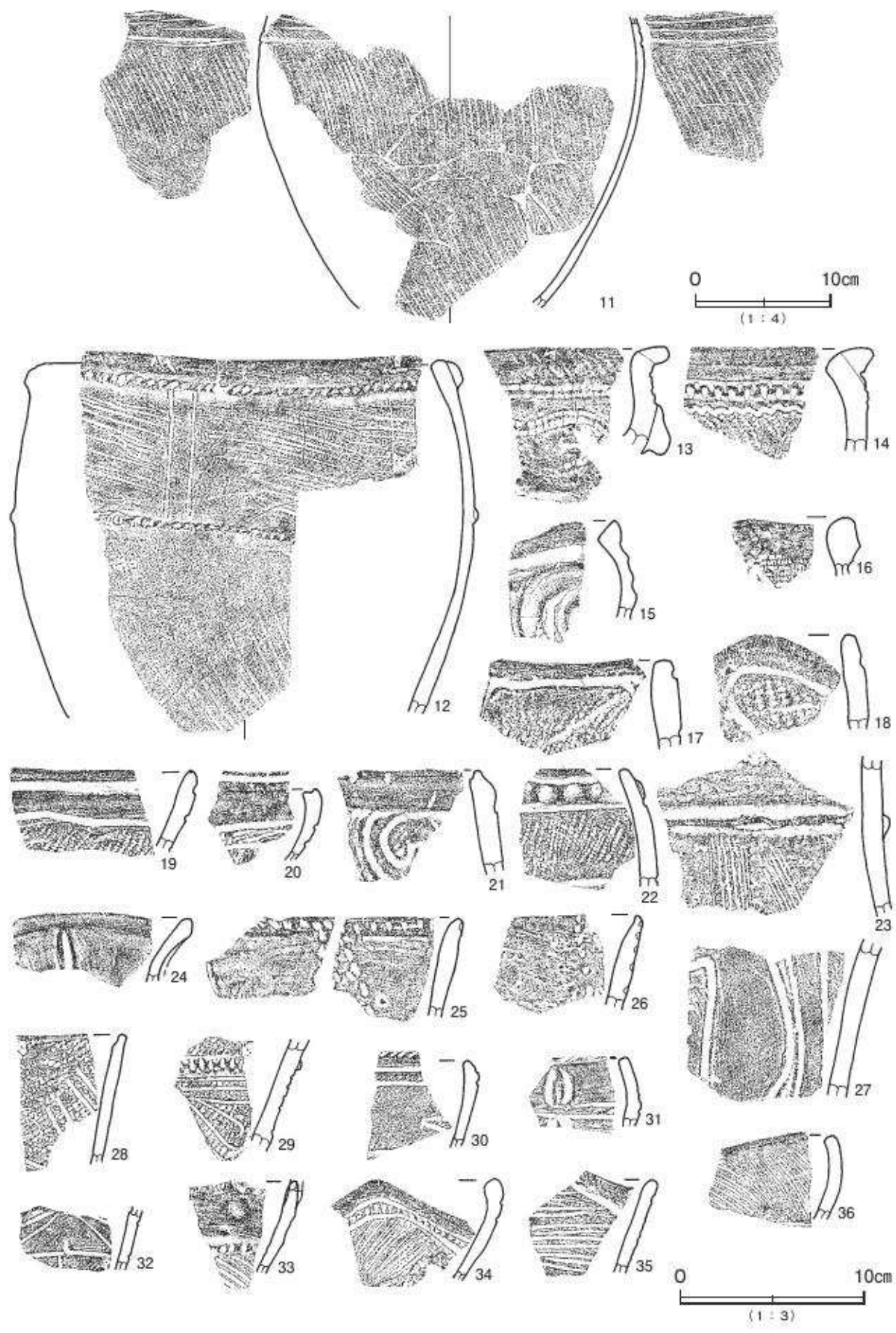
1 暗褐色	ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ロームブロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	16 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	17 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子・骨粉少量	18 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	19 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	20 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、骨粉微量	21 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	22 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	23 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量	24 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	25 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量		

遺物出土状況 縄文土器片5,242点(88.41kg)、土製品17点(土器片円盤9、耳飾り2、土偶6)、石器・石製品17点(磨製石斧2、打製石斧3、石皿類5、磨石類1、石錘3、砥石1、礫器1、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、石核3点(チャート2、瑪瑙1)、剥片15点(チャート9、黒曜石6)が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが見られるが、主体となるのは第5群(加曾利B式)29.2%、第7群(安行1・2式)25.5%で、特に安行1式が多く出土している。また晩期前葉までのものが比較的まとまって確認でき、ほぼ完形の5は安行3b式の広口壺である。

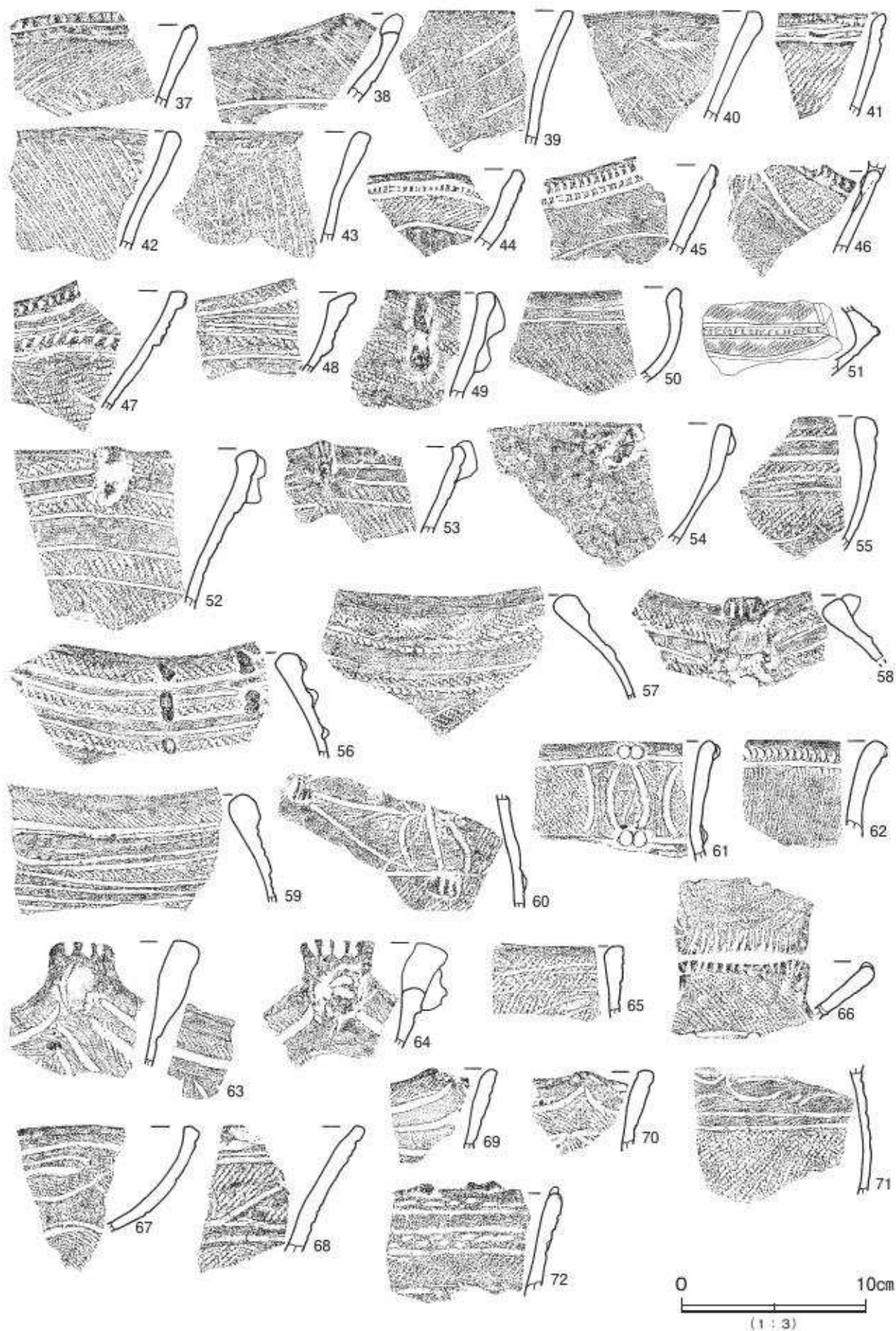
所見 時期は、出土遺物から後期後葉の安行1式期と考えられる。復元可能な個体や大形破片が多いものの、意図的な配置などは確認できなかった。床面や施設は確認できなかったが、本来は竪穴建物跡の一部で、廃棄後の整地などによって壁や床面等が不明瞭になったものと考えられる。晩期前葉の遺物は、建物廃棄後の整地の際に混入したか、整地後に廃棄されたものと考えられる。当遺構が位置する付近の第2号遺物包含層は、色調や含有物、堆積状況など、遺構の覆土に近い様相を呈していることから、本跡以外にもさらにいくつかの建物跡が存在した可能性がある。



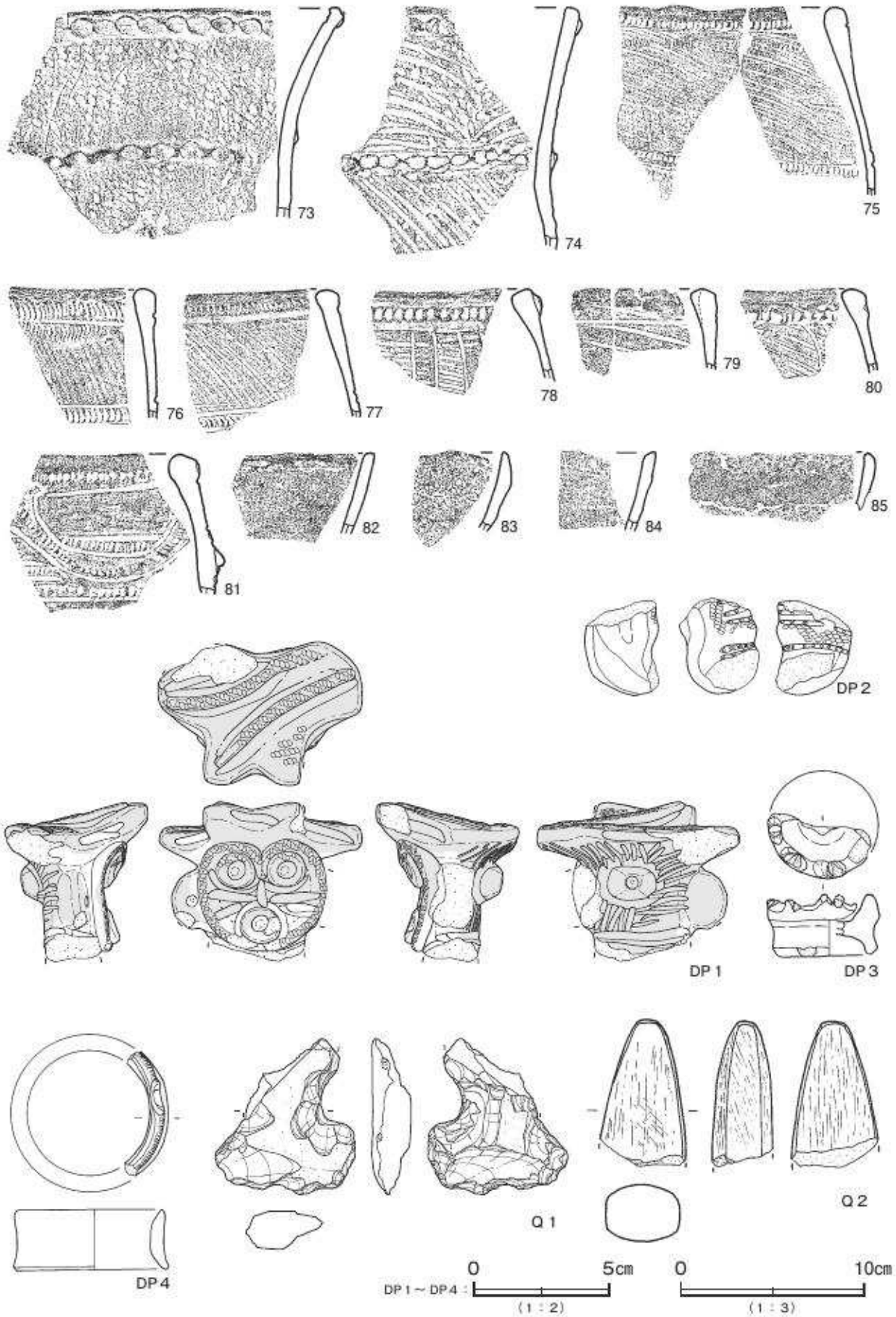
第 321 図 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (1)



第 322 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (2)



第 323 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (3)



第 324 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物实测图 (4)

第1号遺物集中地点出土遺物観察表(第321~324図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.6]	(10.0)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面口頸部斜格子目文 胴部条線 内面磨き	覆土下層	20%
2	縄文土器	深鉢	[19.8]	(12.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→筋貼付 沈線→RL縹文 内面ナデ	覆土上層	30%
3	縄文土器	台付鉢	[26.4]	(5.4)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→条線→頸部磨き 内面磨き	覆土上層	10%
4	縄文土器	浅鉢	-	(2.5)	8.0	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	40%
5	縄文土器	広口壺	[17.0]	20.8	10.4	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面口縁部磨き 胴部ナデ	覆土下層	60% PL31
6	縄文土器	浅鉢	[11.9]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外・内面磨き	覆土上層	20%
7	縄文土器	鉢	-	(8.9)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	20%
8	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	30%
9	縄文土器	深鉢	[21.0]	(16.1)	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点縹文 口縁部磨き出し状に肥厚 内面ナデ	覆土中	30% PL31
10	縄文土器	香炉型	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	天井部 ナデ整形	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	(20.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縹文→条線 内面磨き	覆土下層	20%
12	縄文土器	深鉢	[22.4]	(19.0)	-	珪石・鉄質・粘土	橙	普通	外面条線→経線貼付→胴部区間文 内面ナデ	覆土下層	5%
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面隆起帯上 RL縹文 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・鉄質・粘土	黒褐	普通	外面 RL縹文→波状文 内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面隆起帯輪文 内面ナデ	覆土上層	僅付着
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面 LR縹文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縹文 内面ナデ	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→無筋LR縹文→無文部磨き 口唇部沈線 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面 RL縹文→懸垂文 内面磨き	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面磨面伏工具による条線文 内面ナデ	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面C字状貼付文 外・内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面口縁部、胴部に刺突文 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面刺突文 ナデ 内面磨き	覆土中	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面磨面伏工具による条線文充填 内面ナデ	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縹文→手摺竹管による沈線文 内面ナデ 口縁部凹線	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面 LR縹文→経線文→沈線文 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 口唇部刻み 内面磨き	覆土中	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面口唇部に刻み 内面磨き	覆土中	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面胴部斜線文 口縁部に筋貼付 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→刻み→斜線文 補修孔 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面口頸部斜線文 内面磨き	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面矢羽伏沈線文 口唇部押圧文 内面ナデ	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→斜線文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 格子目状 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→LR縹文・口縁部刻み 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・鉄質・粘土	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→RL縹文・口唇部刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	二次焼成
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縹文・口唇部刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面 RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪石・鉄質・粘土	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面口縁部凹線 磨き	覆土中	
54	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面ナデ 口縁部突起1か所	覆土上層	
55	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい褐	普通	外面隆起帯輪沈線→LR縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	内面赤彩
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
58	縄文土器	注口	-	-	-	珪石・鉄質・粘土	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯輪沈線→刻み→RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面隆起帯輪沈線→RL縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐	普通	外面沈線→RL縹文→砥線文磨き 内面磨き	覆土中	
62	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面条線→口縁部沈線→刻み 内面磨き	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・組織	橙	普通	外面沈線→LR縹文 内面ナデ	覆土下層	
66	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→RL縹文 内面ナデ	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・赤・粘り・粘り	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄橙	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土上層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面RL縄文→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→付点紐線文 内面ナデ	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→付点紐線文 内面磨き	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・粘り・粘り	にぶい赤褐	普通	外面条線→紐線貼付→頸部区画文 内面ナデ	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→口縁部沈線文 内面ナデ	覆土中	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→付点紐線文→頸部区画文 内面ナデ	覆土中	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・赤・粘り・粘り	暗赤灰	普通	外面隆起帯貼付→沈線文→刻み 内面ナデ	覆土上層	
82	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 口縁部ヘラ切り 内面ナデ	覆土上層	IC1類
83	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 口縁部未調整 内面ナデ	覆土上層	ICB類
84	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 口縁部打ち削ぎ状 内面ナデ	覆土上層	IC2類
85	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面削り口縁部未調整 内面ナデ	覆土上層	ICB類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.8)	(7.4)	5.2	(116.6)	灰・赤・粘り・粘り	黒 褐	ミミズク頭部 RL縄文	覆土上層	3a類 赤彩 PL40
DP 2	土 偶	(3.4)	(2.9)	2.8	(25.2)	長石・石英	灰 褐	山形腕部 LR縄文→沈線内刻突文	覆土中	2b類
DP 3	耳飾り	径[4.0]	-	2.2	(10.6)	長石・石英	にぶい赤褐	円盤 隆起状の突起	覆土下層	I 3類
DP 4	耳飾り	径[5.8]	-	2.1	(7.5)	長石・石英	黒 褐	環状 口唇部に細かい刻み	覆土上層	V類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打製石斧	(8.5)	7.7	2.2	(102.9)	無燻品質安山岩	分銅形 上端部欠損	覆土中	
Q 2	磨製石斧	(8.0)	(4.6)	3.3	(162.7)	ドレライト	定角式 刃部欠損 研磨整形	覆土中	

2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、地下式坑6基、土坑11基、堀跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(I) 地下式坑

第1号地下式坑（第325図 PL25）

位置 調査A区北西部のB 6i5区、標高20mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第3・13・58号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は2.78mで、軸方向はN-5°-Eである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き0.78m、横幅0.98mの半円形である。降口は外傾し、確認面から0.60mで壁は外傾し、昇降部は50度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.24mである。

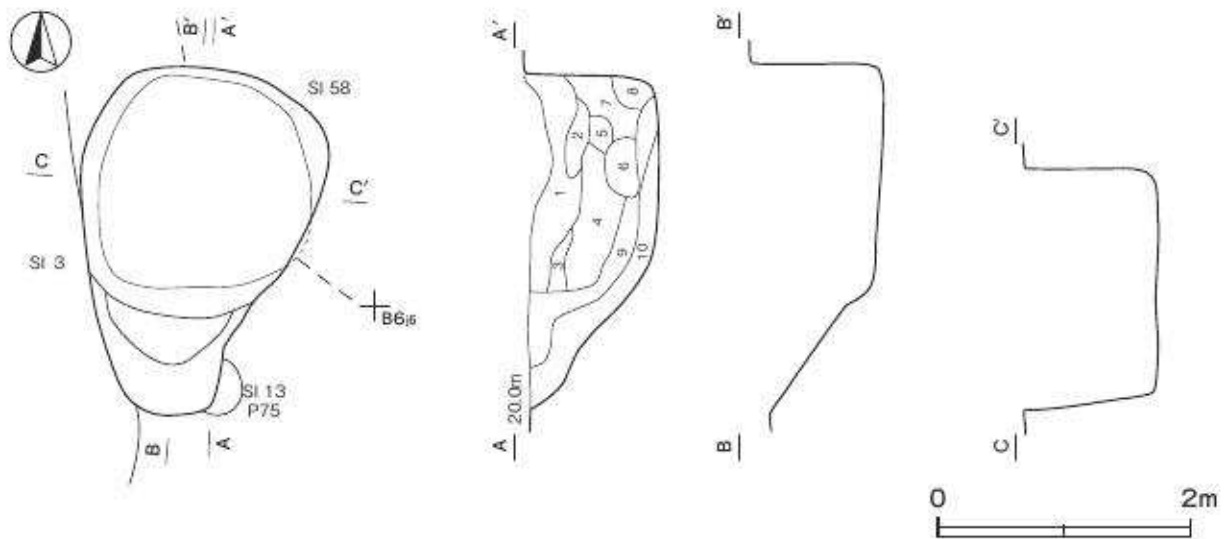
主室 奥行き1.68m、横幅1.68mの隅丸方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは0.98mで、ローム層を掘り込んでいる。壁は直立している。

覆土 10層に分層できる。第1～3・7・8層は、各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は第10層で、天井部の崩落土は、第4～6・9層である。

土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐 色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、炭化粒子微量
2	褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子少量	7	黒 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、焼土粒子微量	9	暗 褐 色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、炭化粒子微量
5	暗 褐 色	ロームブロック主体(天井部崩落土)	10	黒 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第325図 第1号地下式坑実測図

第2号地下式坑 (第326・327図 PL26)

位置 調査A区南西部のC 6 e3区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・16号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は4.06mで、軸方向はN-2°-Wである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き1.60m、横幅2.86mの半円形である。降口は外傾し、確認面から0.80mで、壁はほぼ直立する。昇降部は31度の傾斜で、主室の底面に到達する。なお、底面まで2.50m以上あることから、底面までの掘り込みは断念した。

主室 奥行き2.50m、横幅3.32mの楕円形である。深さは2.50m以上あることから、崩落の危険性があり、安全のため底面は確認できなかった。壁は高さ2.30mまで内彎し、それより上位は外傾している。

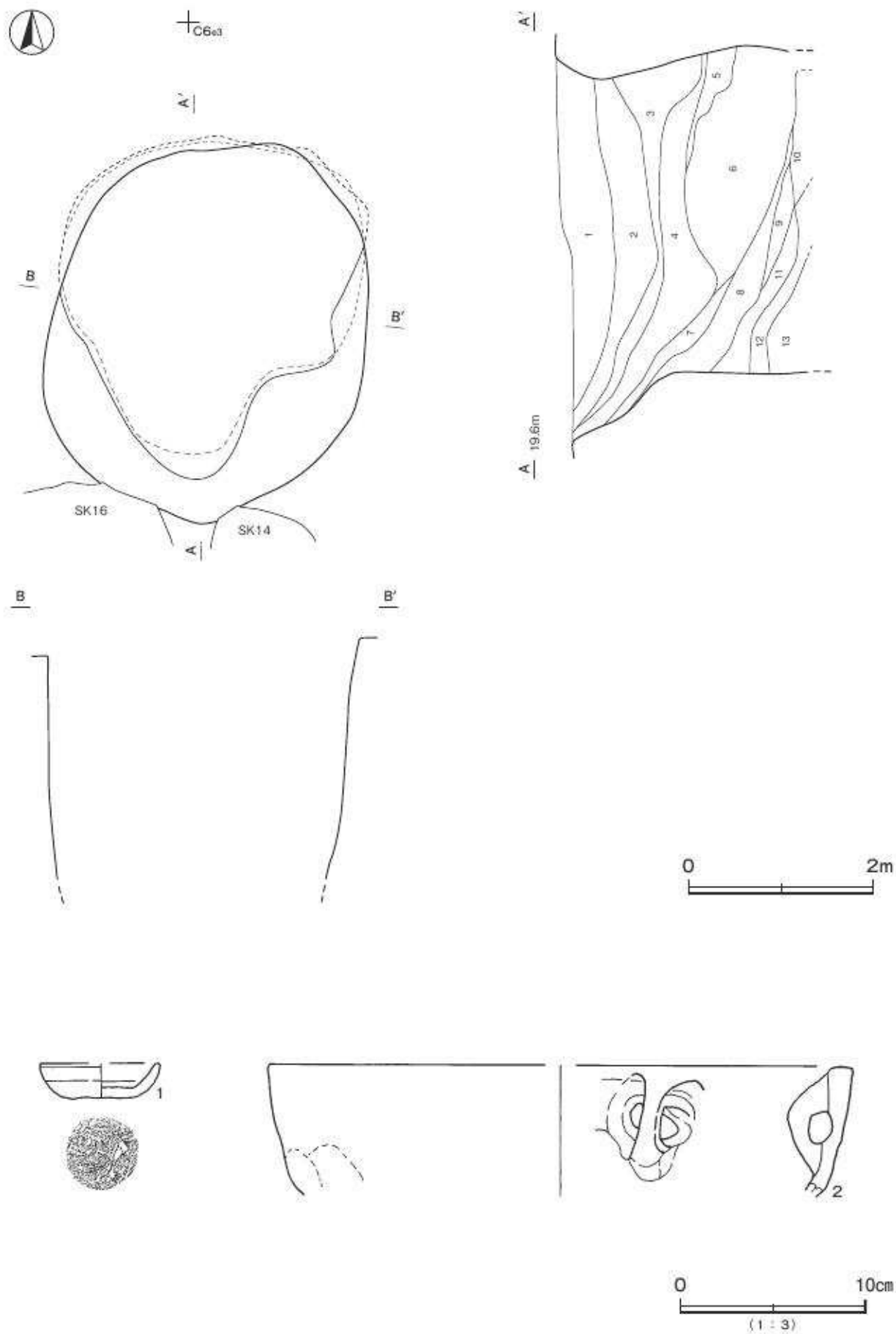
覆土 13層に分層できる。第1～5、7～13層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。なお、竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は確認できなかった。天井部の崩落土は第6層である。

土層解説

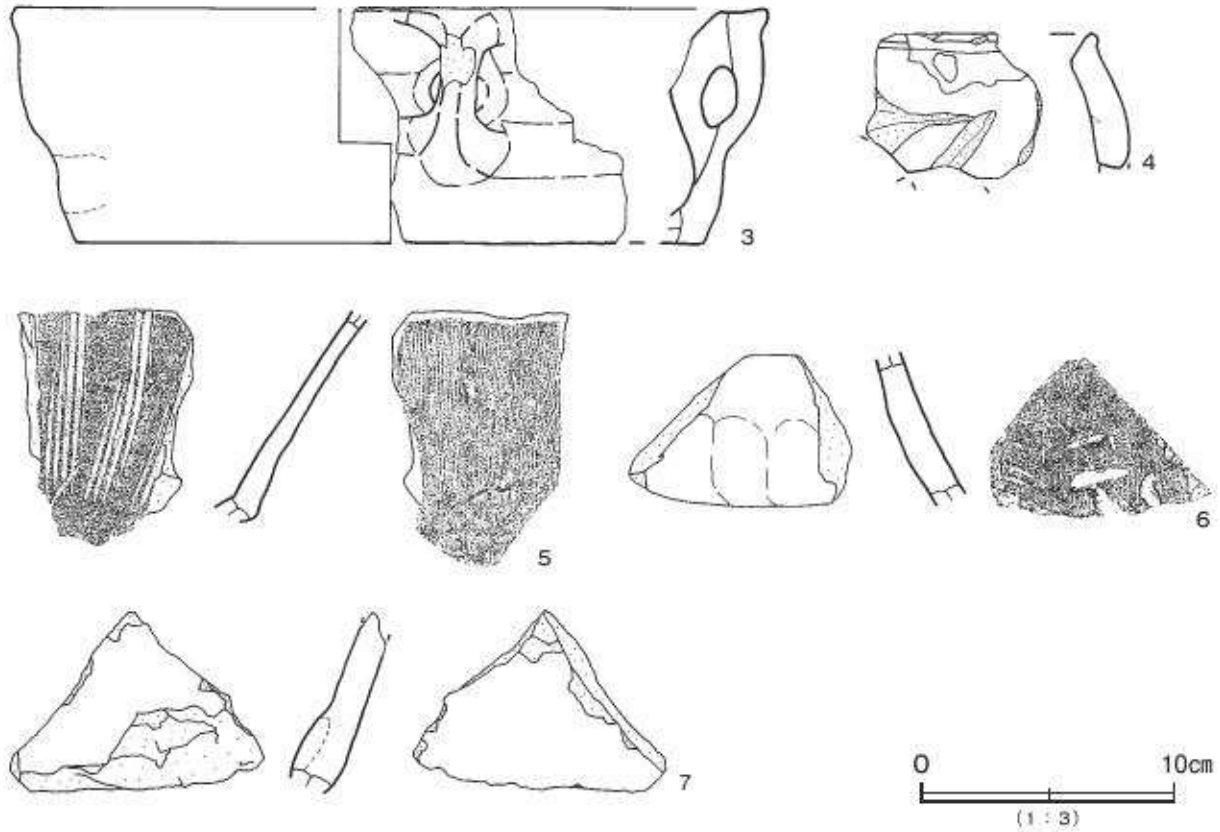
1	褐色	ロームブロック少量、炭土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量
2	褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量	11	褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量
5	暗褐色	ロームブロック多量	12	褐色	ロームブロック多量(粘性・締まり強)
6	褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)	13	褐色	ロームブロック多量(粘性弱、締まり強)
7	褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量			

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿1、内耳鍋2、揺鉢1、火鉢1)、瓦質土器片2点(甕)、陶器2点(甕)が覆土から出土している。1・5は南東部の覆土下層、2は北東部の覆土下層、3は北西部の覆土下層、4・6・7は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第 326 図 第 2 号地下式坑・出土遺物実測図



第327図 第2号地下式坑出土遺物実測図

第2号地下式坑出土遺物観察表(第326・327図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	[6.6]	1.9	3.5	長石	橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	50%
2	土師質土器	内耳網	[32.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内黄	普通	耳部断り付け後外・内面ヘラナデ 外面下端指頭によるナデ	覆土下層	20% PL35 外面煤付着
3	土師質土器	内耳網	[30.0]	(9.3)	[25.0]	長石・石英・雲母	外黒装 内黄	普通	耳部断り付け後外・内面ヘラナデ	覆土下層	10% PL35 外面煤付着
4	土師質土器	火鉢	-	(5.5)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ 外面に刃物で引いた須路あり。磁石転用。	覆土中	外面に煤付着 5%
5	土師質土器	掃帚	-	(8.4)	-	長石・雲母	外黒装 内黄	普通	外面縦位の刷毛目 内面4本単位の掃目	覆土下層	5%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸高	産地	出土位置	備考
6	陶器	甕	-	(5.5)	-	長石・にぶい黄橙	外面横位のヘラナデ 内面指頭によるナデ	自然軸	渥美	覆土中	5%
7	陶器	甕	-	(7.2)	-	長石・灰	外・内面 ロクロナデ	自然軸	渥美	覆土中	5%

第3号地下式坑(第328・329図 PL10)

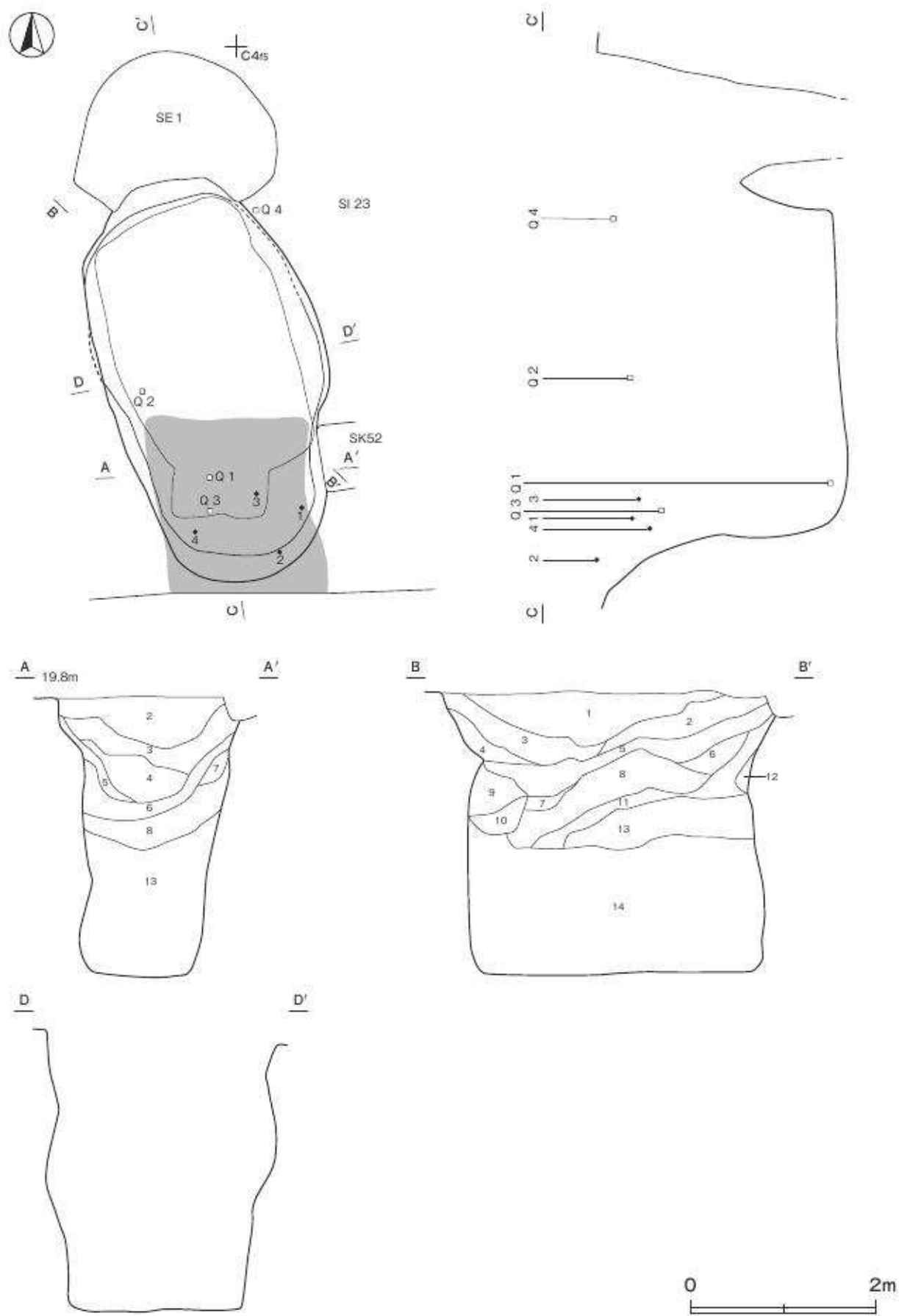
位置 調査B区南東部のC4f4区、標高19mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第22・23号堅穴建物跡を掘り込み、第1号井戸跡、第52号土坑に掘り込まれている。

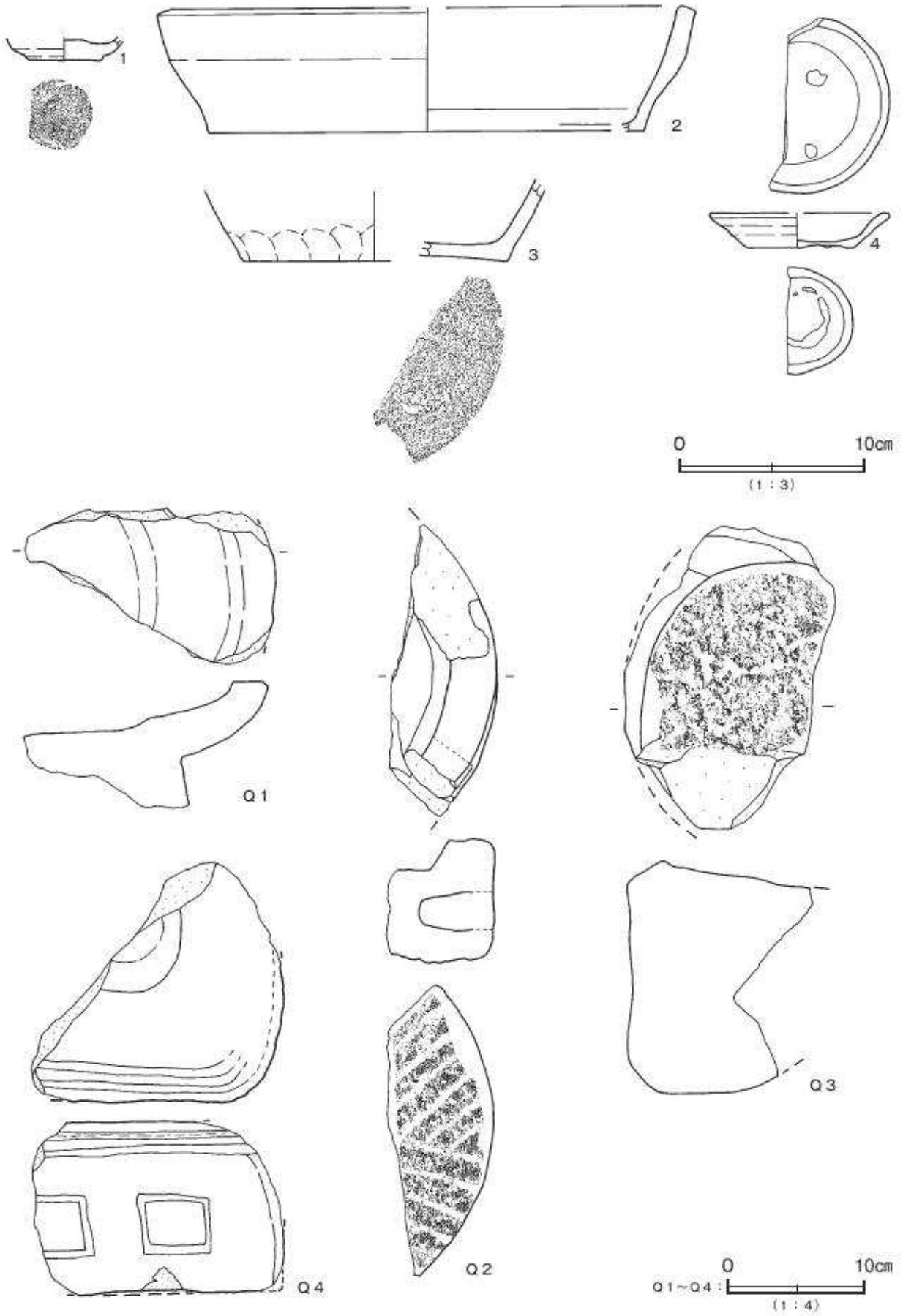
軸長・軸方向 軸長は4.42mで、軸方向はN-8°-Wである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き1.20m、横幅1.88mの半円形である。降口は外傾し、確認面から1.20mで壁はほぼ直立し、昇降部は45度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部の底面はほぼ平坦である。

主室 奥行き2.85m、横幅1.92mの隅丸長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは3.05mで、ローム層下の白色粘土層を掘り込んでいる。壁は高さ2.22mまで内傾し、それより上位は外傾している。



第 328 图 第 3 号地下式坑实测图



第 329 図 第 3 号地下式坑出土遺物実測図

覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。また堅坑部は、上層に灰白色粘土を主体とした埋土を用いて入口を塞いでいる。天井部崩落土は第14層である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、粘性・締まり弱	8 灰白色	灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰白色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量	9 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック中量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量	12 明褐色	ロームブロック多量
6 黒褐色	ロームブロック少量、粘性・締まり強	13 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量	14 黄褐色	ロームブロック主体（天井部崩落土）、黒褐色土混入

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿、内耳鍋）、瓦質土器片1点（鉢）、陶器片1点（小皿）、石器3点（石臼2、茶臼1）、石製品1点（石塔）が、全域に散在して覆土上層と下層から出土している。Q1は堅坑部の覆土下層、1～4・Q3は堅坑部の覆土上層、Q2・Q4は主室部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第3号地下式坑出土遺物観察表（第329図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師質土器	小皿	-	(13)	3.8	長石・雲母	灰白	普通	底部ロクロ回転糸切り後ナデ消し 俗稱白カワラケ京都産。	堅坑覆土上層	10%	
2	土師質土器	内耳鍋	[27.4]	6.8	[23.6]	長石・石英・雲母	外黒内橙	普通	外・内面横ナデ	堅坑覆土上層	外面保付着5%	
3	瓦質土器	鉢	-	(4.4)	[14.4]	長石・石英・雲母	外黒内橙	普通	外・内面横ナデ 下端指頭によるナデ	堅坑覆土上層	10%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴		軸葉	産地	出土位置	備考
4	陶器	小皿	[9.7]	1.9	[5.6]	緻密・橙	外・内面ロクロナデ 縦 全面種掛け	見込みトントン	鉄軸	瀬戸・美濃	堅坑覆土上層	45% 16C後半
番号	器種	長さ・径	幅・高さ	厚さ	重量(kg)	材質	特徴			出土位置	備考	
Q1	茶臼	(11.2)	(18.0)	9.2	(0.99)	安山岩	下臼	使用面摩擦		堅坑覆土下層	使用面に葉付着	
Q2	石臼	(21.0)	(7.7)	9.1	(1.91)	安山岩	上臼	6本単位の罫目 使用面摩擦 側面に挽木穴		主室覆土上層		
Q3	石臼	(22.0)	(15.3)	17.0	(6.40)	凝灰岩	下臼	使用面摩擦 摩擦著しく罫目の単位不明		堅坑覆土上層		
Q4	宝篋印塔	(17.5)	(18.1)	(12.8)	(4.62)	安山岩	基礎部格状隅（方形区画）2区 風化著しい			主室覆土上層		

第4号地下式坑（第330図 PL26）

位置 調査A区南部のC6e7区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

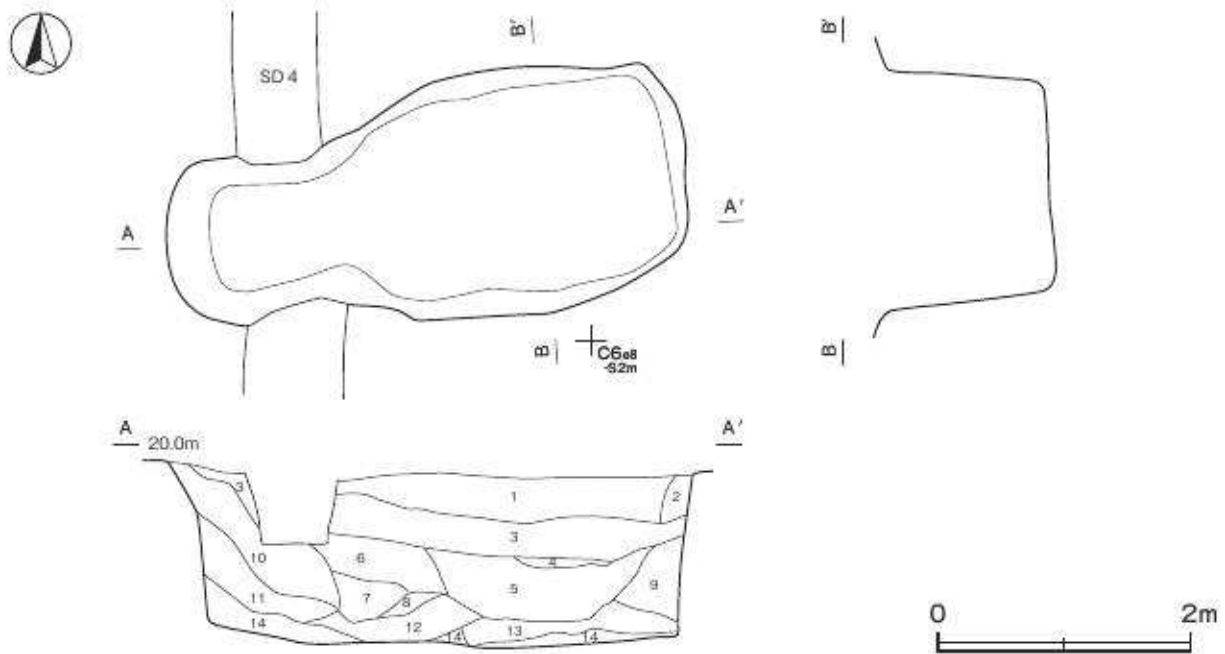
重複関係 第16号堅穴建物跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は4.20mで、軸方向はN-81°-Eである。

堅坑 主室の西側に位置し、奥行き1.40m、横幅1.32mの隅丸方形である。降口は外傾し、確認面から0.40mで壁はほぼ直立し、昇降部は60度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.20mである。

主室 奥行き2.50m、横幅1.65mの隅丸長方形である。底面は平坦で、底面までの深さは1.39mである。壁は直立している。

覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、天井部崩落後に堅坑から主室に至るまで埋め戻している。天井部崩落土は第4・5・7～9・12～14層である。



第330図 第4号地下式坑実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)
2	褐色	ロームブロック多量	9	褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)
3	黒褐色	ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック・焼土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)	11	暗褐色	ロームブロック・白色粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック微量(天井部崩落土)	12	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、白色粒子微量(天井部崩落土)
6	暗褐色	ロームブロック中量、白色粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量(天井部崩落土)
7	黒褐色	ロームブロック中量、白色粒子微量(天井部崩落土)	14	褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。

第6号地下式坑(第331図 PL26)

位置 調査A区南部のC6e0区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31号竪穴建物跡、第134号土坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は2.50mで、軸方向はN-73°-Wである。

竪坑 主室の西側に位置し、奥行き0.92m、横幅1.02mの隅丸長方形である。降口は外傾し、確認面から1.27mで壁はほぼ直立し、昇降部は底面と段差がなくほぼ平坦である。

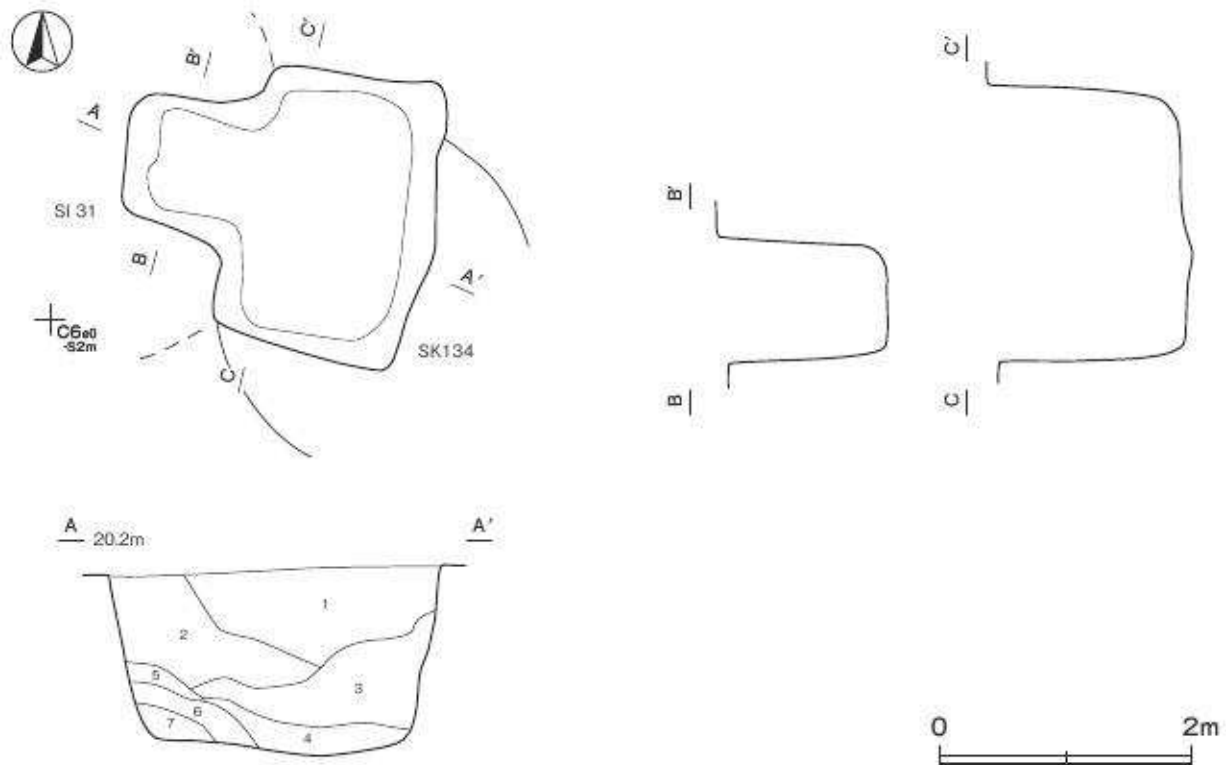
主室 奥行き1.16m、横幅1.98mの隅丸長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは1.54mで、ローム層下の白色粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾している。

覆土 7層に分層できる。第7層は竪坑内壁の崩落土で、第5・6層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3・4層は天井部の崩落土で、第1・2層は、含有物の少ない周囲からの流れこんだ状況から自然堆積土である。

土層解説

1	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3	極暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック多量
4	極暗褐色	ロームブロック多量			

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第331図 第6号地下式坑実測図

第7号地下式坑（第332図 PL26）

位置 調査A区中央部のC 6 a9区、標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第39・47号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は2.44 mで、軸方向はN - 22° - Eである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き1.08 m、横幅1.20 mの隅丸長方形である。降口は外傾し、確認面から0.56 mである。昇降部は60度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.40 mである。

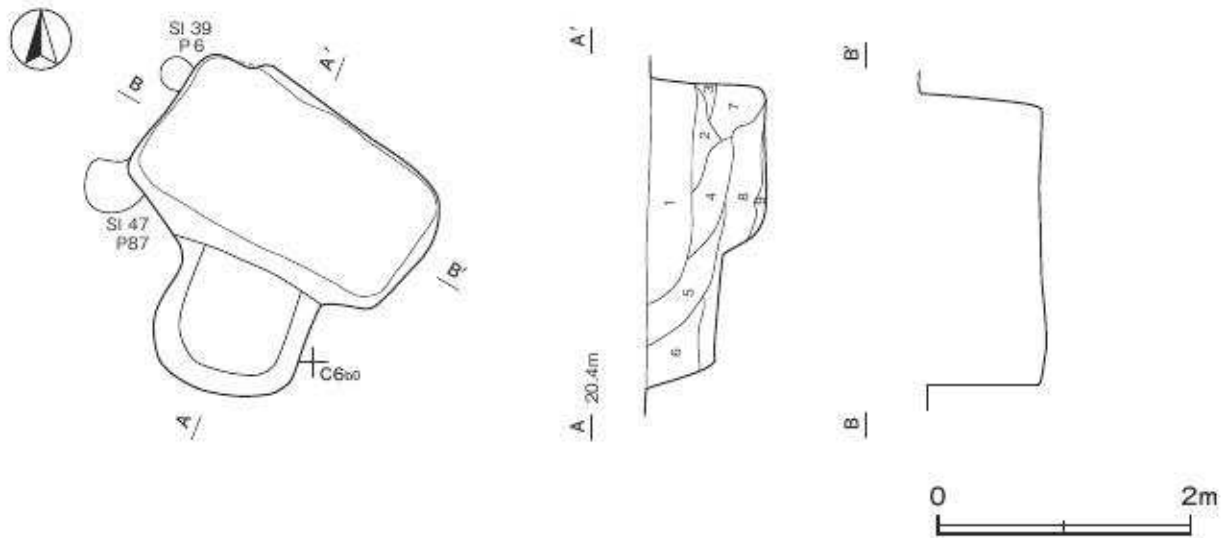
主室 奥行き1.20 m、横幅2.20 mの隅丸長方形である。底面は平坦で、底面までの深さは0.91 mである。壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。なお、竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土や天井部崩落土は確認できなかった。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・白色粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

所見 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 332 図 第 7 号地下式坑実測図

表 13 室町時代地下式坑一覧表

番号	位置	軸方向	平面形		軸長 (m)	竖坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			竖坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)			
1	B 6i5	N-5°-E	半円形	隅丸方形	2.78	0.78	0.98	0.60	1.68	1.68	0.98	自然 人為	-	S I 3・13・15・58 → 本跡
2	C 6e3	N-2°-W	半円形	楕円形	4.06	1.60	2.86	0.80	2.50	3.32	(2.50)	人為	土師質土器、陶器	本跡 → SK 14・16
3	C 4f4	N-8°-W	半円形	隅丸長方形	4.42	1.20	1.88	1.20	2.85	1.92	3.05	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、石器、石製品	S I 22・23 → 本跡 → SE 1, SK 52
4	C 6e7	N-81°-E	隅丸方形	隅丸長方形	4.20	1.40	1.32	0.40	2.50	1.65	1.39	人為	-	S I 16 → 本跡 → SD 4
6	C 6e0	N-73°-W	隅丸長方形	隅丸長方形	2.50	0.92	1.02	1.27	1.16	1.98	1.54	自然 人為	-	S I 31, SK 134 → 本跡
7	C 6a9	N-22°-E	隅丸長方形	隅丸長方形	2.44	1.08	1.20	0.56	1.20	2.20	0.91	人為	-	S I 39・47 → 本跡

(2) 土坑

土坑は、11基確認した。以下、特徴的な遺構について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記述する。

第 21 号土坑 (第 333 図)

位置 調査A区南西部のC 6i6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号竖穴建物跡、第22号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、東西径は2.08mで、南北径は0.83mしか確認できなかった。

平面形は円形または楕円形と推測でき、北部が東西0.55m、南北0.60mほど溝状に延びている。深さは137cmで、底面はほぼ平坦である。壁は中位まで直立し、上位で外傾している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量(表土) | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | |

所見 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の位置と形状から室町時代と考えられる。

第22号土坑（第333図）

位置 調査A区南西部のC 6f5区、標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号竪穴建物跡を掘り込み、第21号土坑に掘り込まれている。

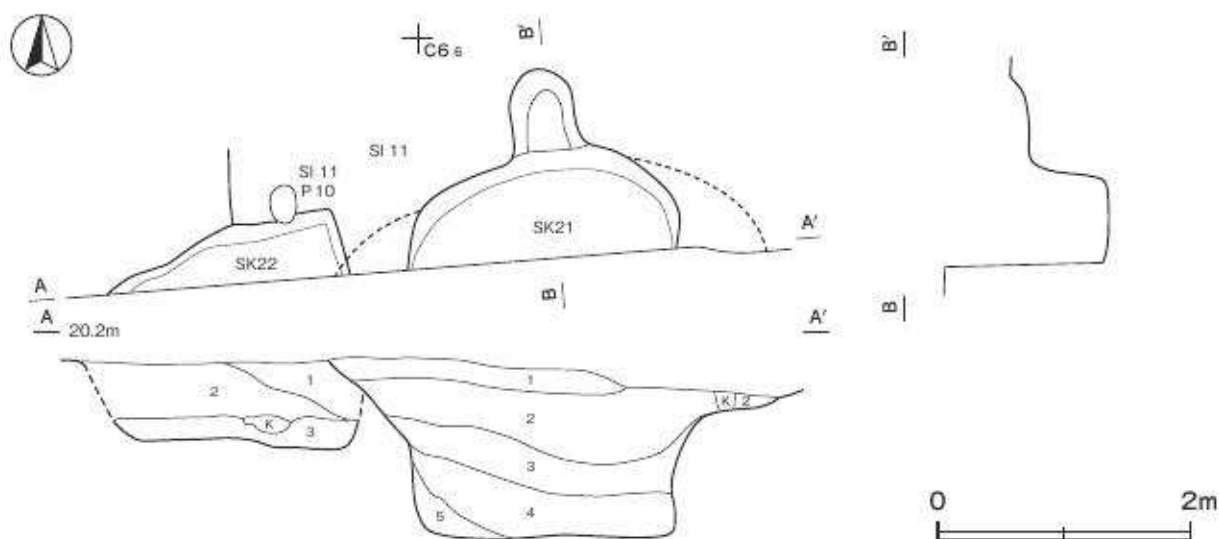
規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、東西軸は1.95 mで、南北軸は0.62 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測でき、東西軸方向はN-73°-Eである。深さは70cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

所見 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の位置と形状から室町時代と考えられる。



第333図 第21・22号土坑実測図

第81号土坑（第334図）

位置 調査B区北西部のC 3f9区、標高18 mほどの台地斜面部に位置している。

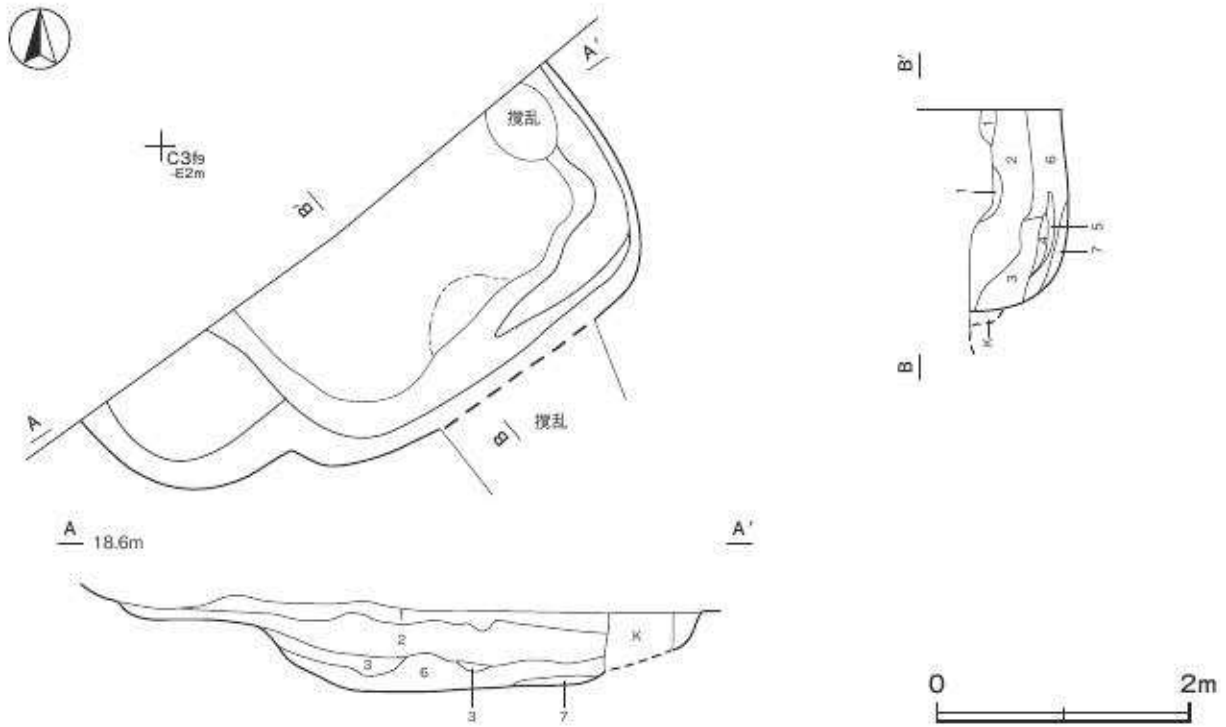
規模と形状 北西側は調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は4.86 mで、北西・南東軸は1.73 mしか確認できなかった。平面形は凸形と推定できる。北東・南西軸方向はN-52°-Eである。深さは64cmで、底面はほぼ平坦である。遺構は、ローム層下の灰白色粘土層まで掘り込まれている。壁は外傾し、南東コーナー部の壁下は、溝状に掘り込まれている。南西壁際には、北東・南西軸1.35 m、北西・南東軸1.15 m、深さ0.12 mの出入口施設状の張り出し部が付設されている。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

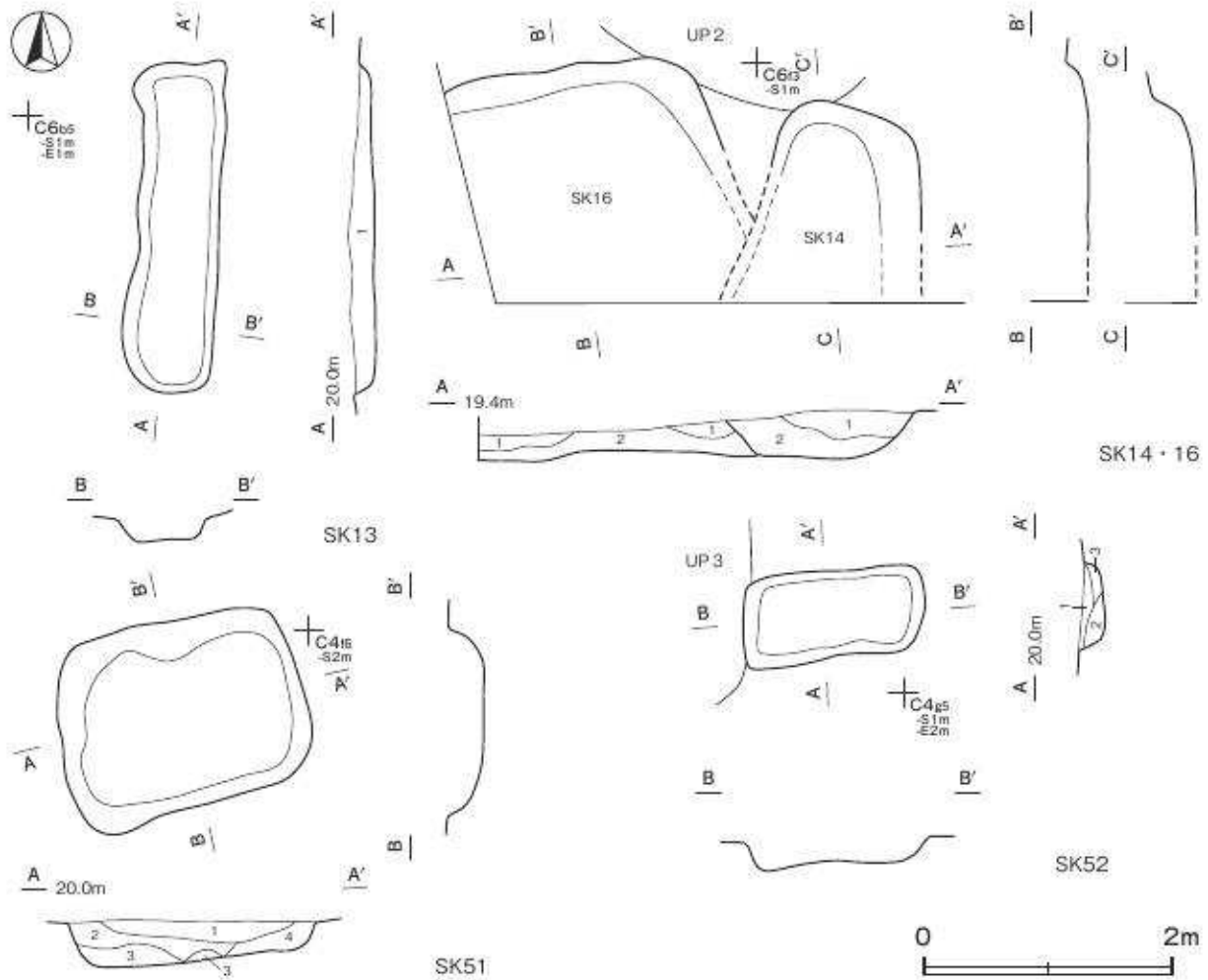
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 5 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量 |
| 4 黒色 | ロームブロック多量 | | |

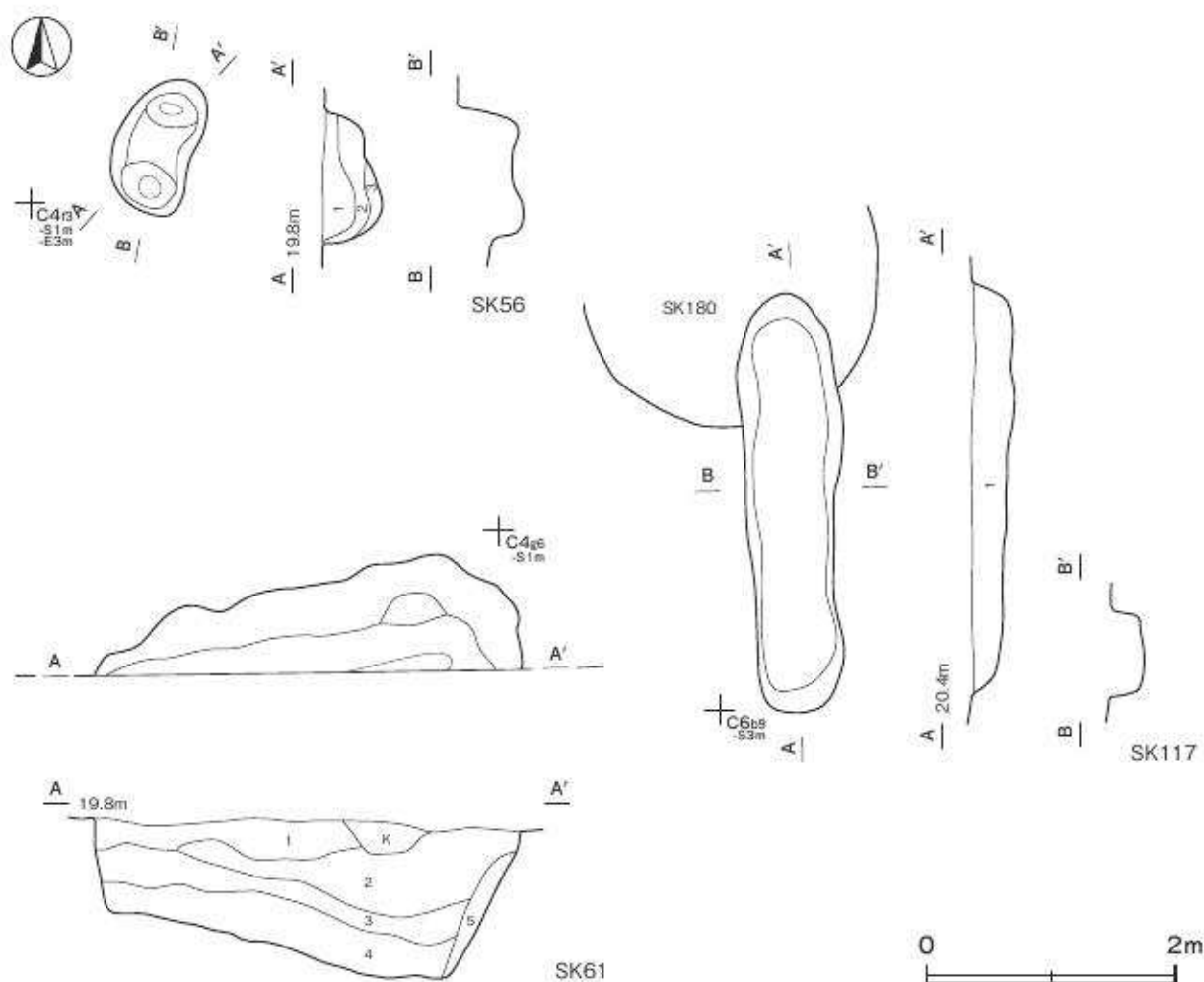
所見 北西部は調査区域外へ延びているが、形状から方形竪穴の可能性はある。出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第 334 図 第 81 号土坑実測図



第 335 図 室町時代土坑実測図 (1)



第336図 室町時代土坑実測図(2)

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第14号土坑土層解説

- 1 明黄褐色 明黄褐色粘土ブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック・明黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

第16号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 明黄褐色粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第51号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第56号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第117号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量

表 14 室町時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ・幅×包囲・幅 (m)	深さ (cm)					
13	C 6 b5	N-6°-E	隅丸長方形	2.68 × 0.78	19	外傾	平坦	人為	-	S I 9, S K 12 → 本跡
14	C 6 c3	N-17°-E	[楕円形]	(1.60) × [1.30]	38	外傾	平坦	人為	-	U P 2, S K 16 → 本跡
16	C 6 c2	-	[隅丸方形・隅丸長方形]	(2.14 × 1.90)	18	外傾	平坦	人為	-	U P 2 → 本跡 → S K 14
21	C 6 c6	-	[円形・楕円形]	2.08 × (0.83)	137	外傾	平坦	自然	-	S I 11, S K 22 → 本跡
22	C 6 c5	N-73°-E	[方形・長方形]	(1.95 × 0.62)	70	外傾	平坦	自然	-	S I 11 → 本跡 → S K 21
51	C 4 c5	N-77°-E	隅丸長方形	1.99 × 1.48	36	外傾	平坦	人為	陶器	S I 23 → 本跡
52	C 4 g5	N-81°-E	隅丸長方形	1.48 × 0.69	18	外傾	平坦	人為	-	S I 23 → U P 3 → 本跡
56	C 4 c3	N-17°-E	楕円形	1.12 × 0.61	49	外傾	凸凹	人為	-	S I 22 → 本跡
61	C 4 g5	N-80°-E	[楕円形]	(3.42 × 0.90)	120	直立外傾	凸凹	人為	-	
81	C 3 c9	N-52°-E	[凸形]	4.86 × (1.73)	64	外傾	平坦	人為	-	方形竅穴。
117	C 6 b9	N-1°-W	隅丸長方形	3.39 × 0.82	28	外傾	平坦	人為	-	S I 35-47, S K 180 → 本跡

(3) 堀跡

第1号堀跡 (第337～339図 PL26)

位置 調査A区西部のB 6 h4～C 6 f4区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1～3・7・9・14・37号竅穴建物跡、第26・38号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 6 f4区から北方向(N-1°-W)に直線状に伸び、B 6 h4区で調査区域外の北側へ延びている。南方向も調査区域外へ延びているため、確認できた長さは33.80mで、上幅2.72～3.17m、下幅0.30～0.60mである。深さは2.11～2.49mで、北部から南部に向かって0.38mほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

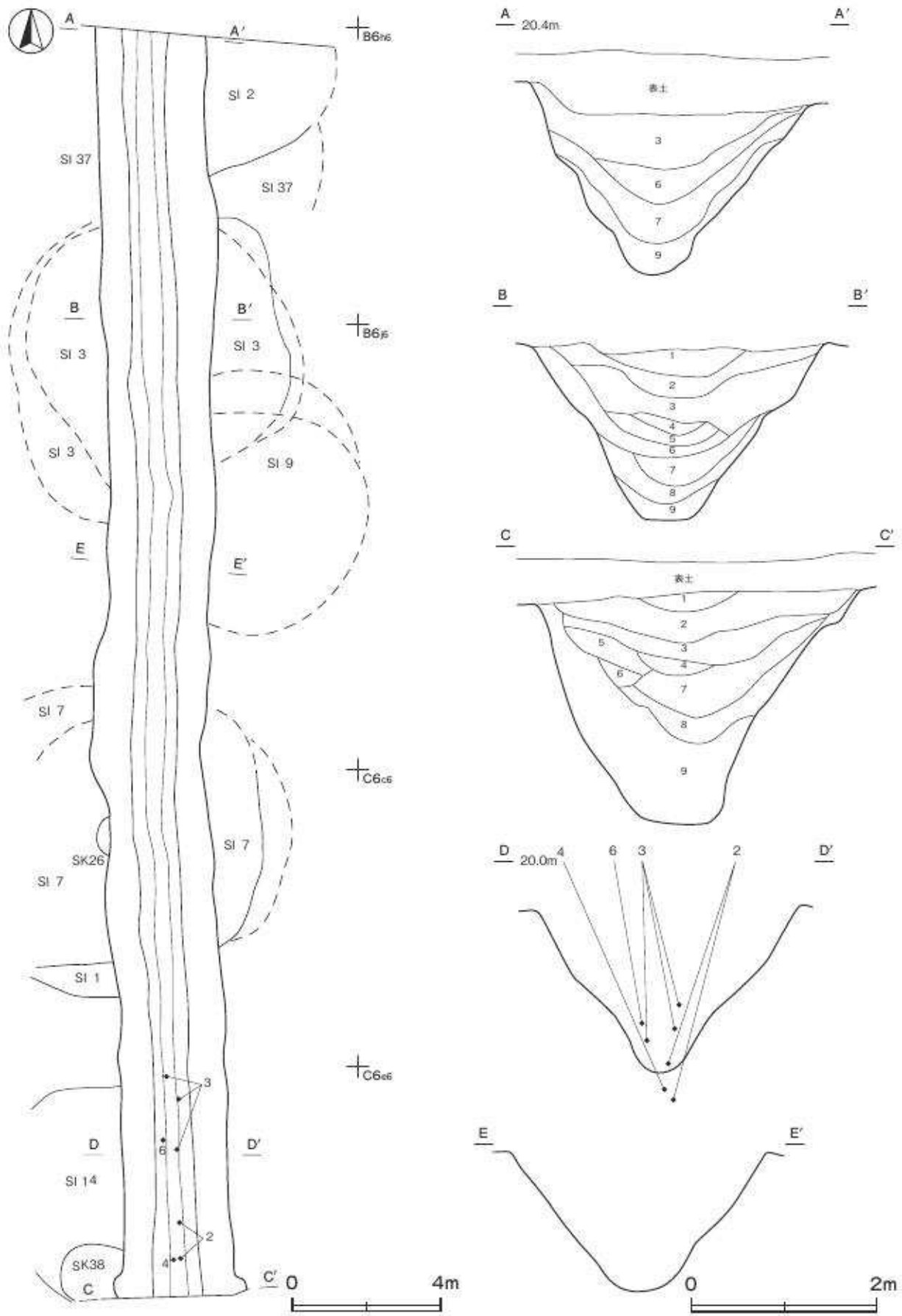
覆土 9層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが多く含まれている。第1～3層と第4層、第6層と第7層、第8層と第9層の間が不整合であり、数回の掘り返しがある可能性がある。

土層解説

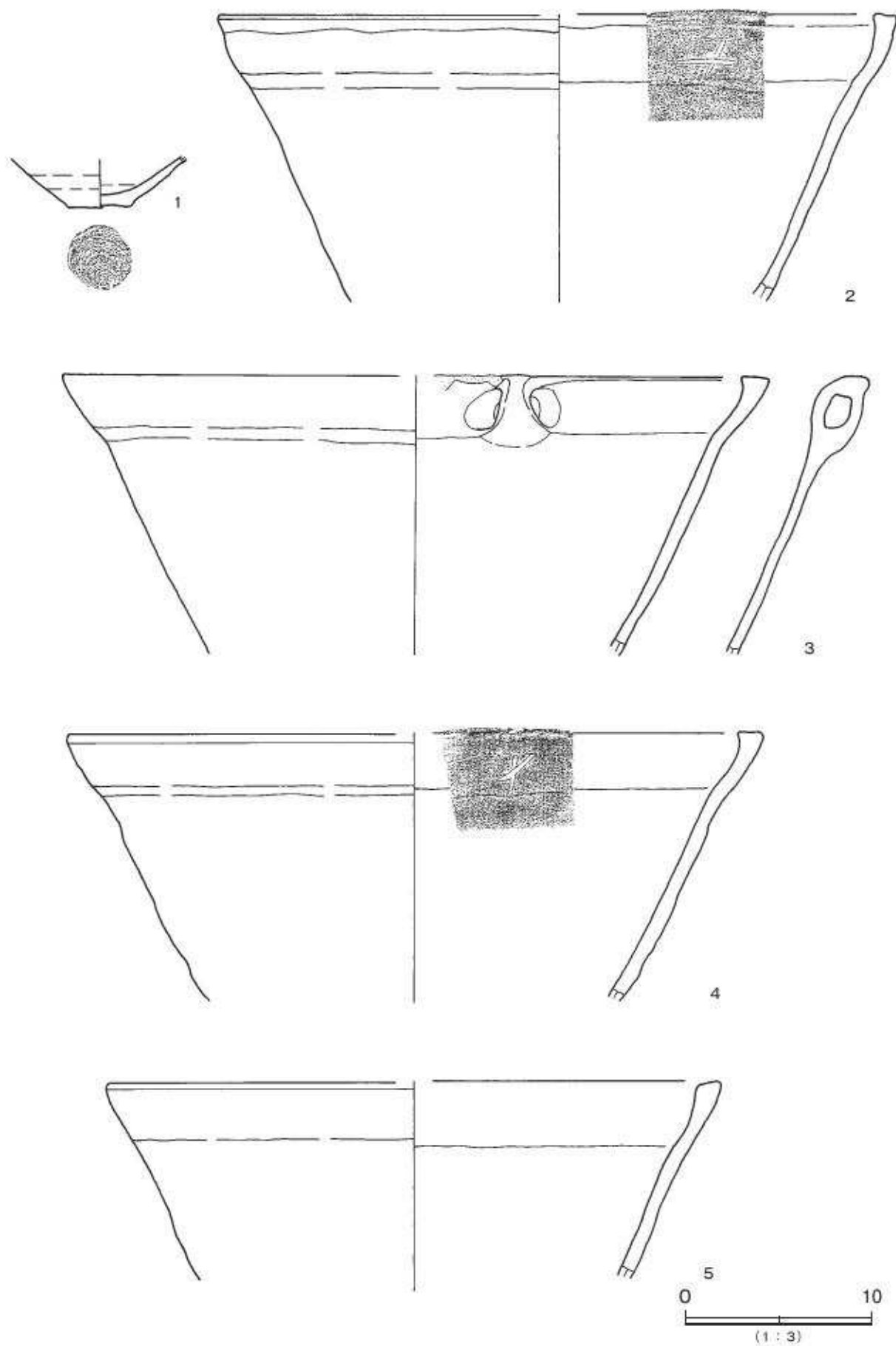
1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片7点(小皿1、内耳鍋6)、陶器片5点(天目茶碗1、筒形香炉1、瓶子2、甕1)が、覆土上層と下層から出土している。2・4はC 6 f4区の覆土第9層、1はB 6 j4区、3・6はC 6 e4区、8はC 6 b4区、9はC 6 c4区の覆土第8層からそれぞれ出土している。5はC 6 e4区の覆土第2層から第3層にかけてのものと、C 6 f4区の覆土第8層からそれぞれ出土したものが接合している。11はB 6 i4区の覆土第3層、7・10・12は覆土中からそれぞれ出土している。

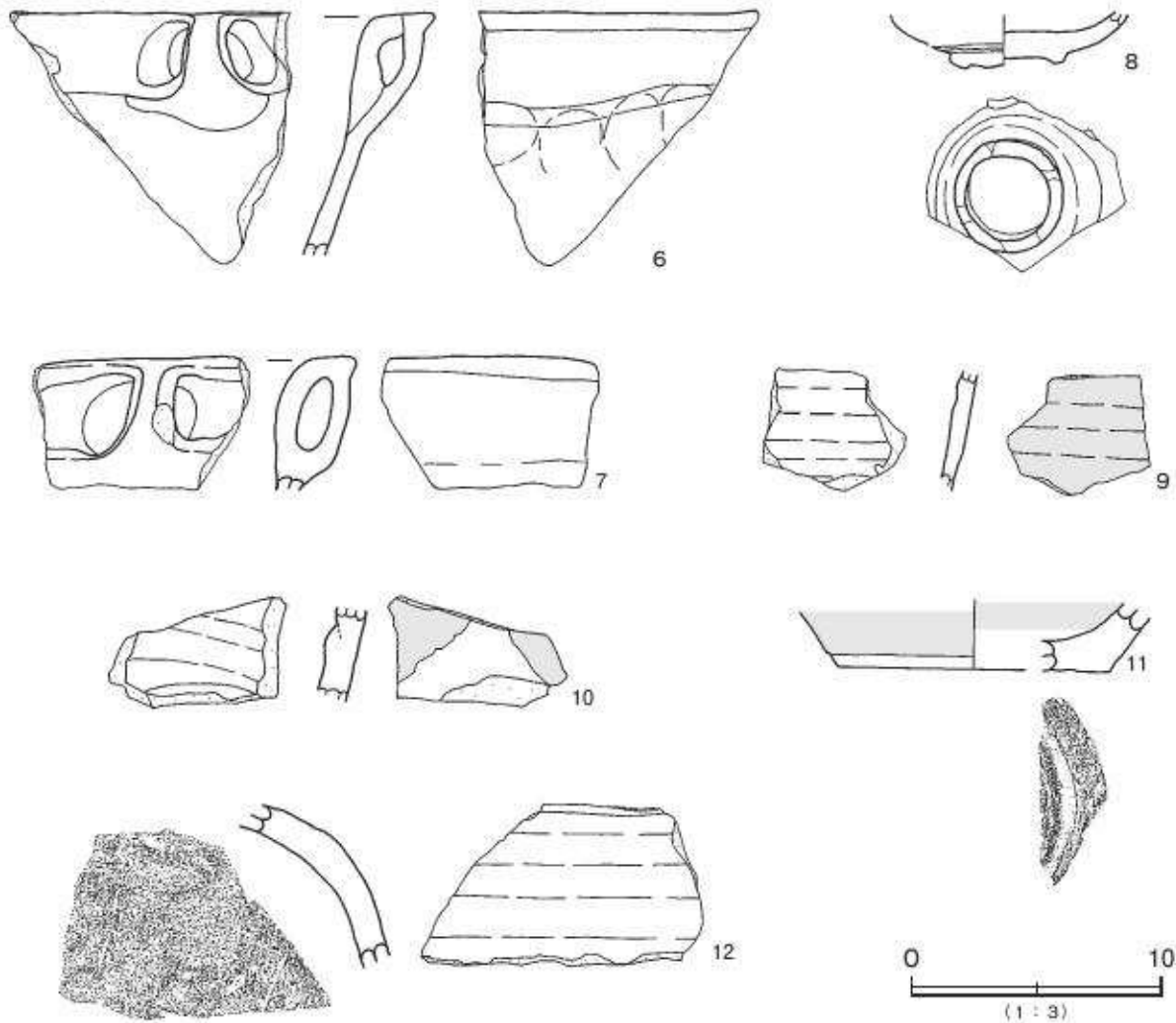
所見 時期は、出土土器から16世紀前半には築造され、17世紀初頭には廃絶したものと考えられる。性格は、台地を分断していることから、館に伴う防御施設と考えられる。



第 337 图 第 1 号堀跡实测图



第 338 図 第 1 号掘跡出土遺物実測図 (1)



第339図 第1号堀跡出土遺物実測図(2)

第1号堀跡出土遺物観察表(第338・339図)

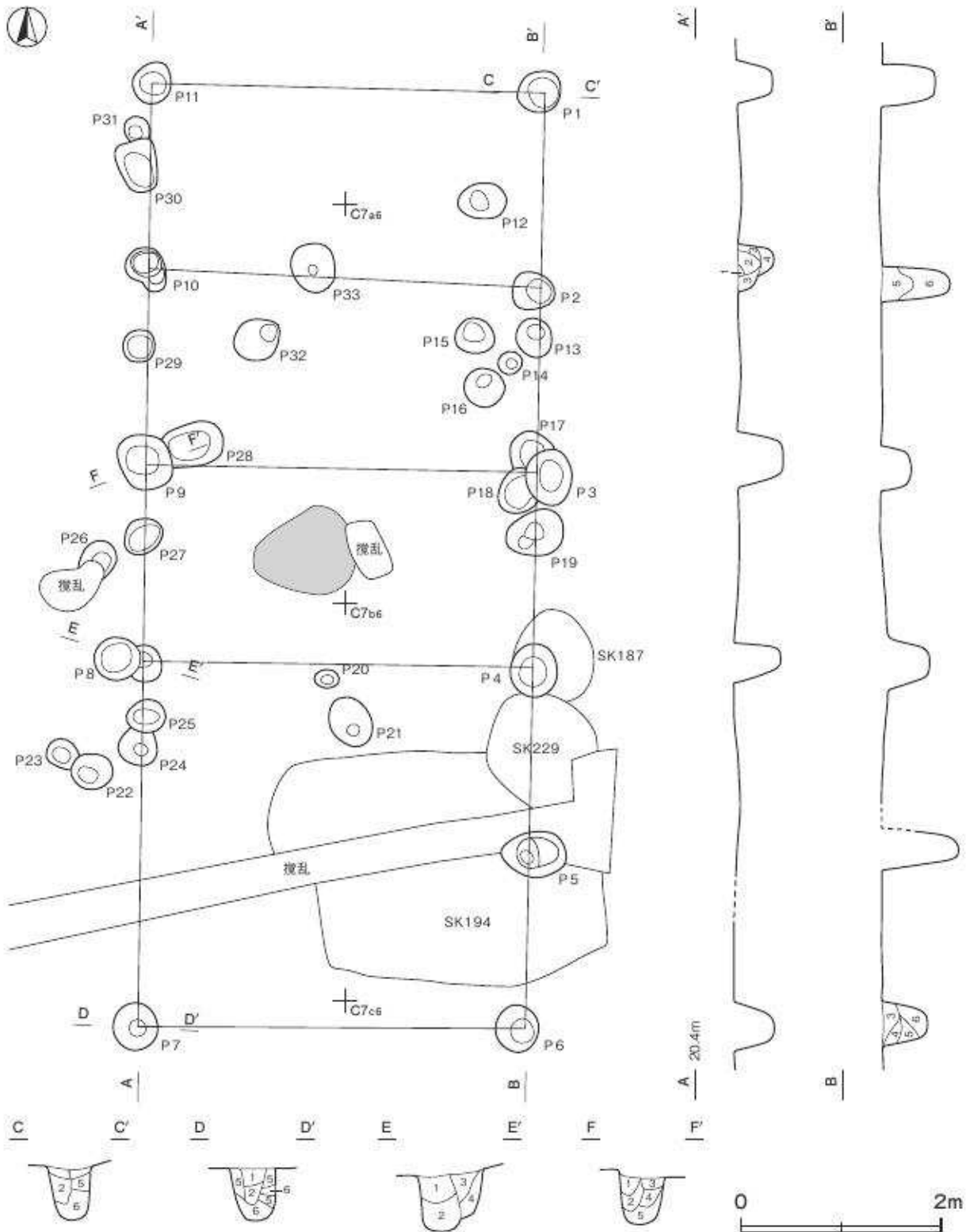
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	-	(27)	3.5	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土第8層	30%
2	土師質土器	内耳鍋	[36.4]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内いぞろ	普通	外・内面ヘラナデ 口縁部内面十字の刻書	覆土第9層	外面煤付着 20%
3	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内橙	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ	覆土第9層	外面煤付着 30%
4	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内橙	普通	外・内面ヘラナデ 口縁部内面十字の刻書	覆土第9層	外面煤付着 20%
5	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内いぞろ	普通	外・内面ヘラナデ	覆土第2・ 3・8層	外面煤付着 10%
6	土師質土器	内耳鍋	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内いぞろ	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ	覆土第7層	外面煤付着 10%
7	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	外黒装 内いぞろ	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ 体部外面 指図によるナデ	覆土中	外面煤付着 5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
8	陶器	天目茶碗	-	(23)	4.2	緻密・いぶいぞろ	白灰目 ロクロナデ 削り出し高台 高台部に研磨痕あり 砥石転用。	白濁釉	瀬戸・美濃	覆土第7層	10%
9	陶器	筒形香炉	-	(4.8)	-	緻密・いぶいぞろ	ロクロナデ	灰釉	瀬戸・美濃	覆土第7層	5%
10	陶器	瓶子	-	(4.4)	-	長石・褐灰	ロクロナデ 外面縦掛け体部下露露 体	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	5%
11	陶器	瓶子	-	(1.7)	[11.0]	長石・黒色粒子 褐灰	ロクロナデ 外・内面縦掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土第3層	5%
12	陶器	壺	-	(6.4)	-	長石・石英	ロクロナデ 梳締	自然釉	常滑	覆土中	5%

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、粘土貼土坑2基、土坑5基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡



第340図 第1号掘立柱建物跡夾測図

第1号掘立柱建物跡 (第340図 PL25)

位置 調査A区東部のC7a5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第187・194・229号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 桁行5間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-0°の南北棟である。規模は桁行9.30m、梁行3.90mで、面積は36.27㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から1.9m(6尺)、1.8m(6尺)、1.9m(6尺)、1.8m(6尺)、1.8m(6尺)で、梁行は3.9m(13尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

囲炉裏跡 遺構のほぼ中央部に位置している地床炉である。東部を後世の攪乱坑に掘り込まれているため、短径は90cmで、長径は98cmしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。火床部は、火熱を受け赤変硬化している。地面を掘り込んでいる地床炉と想定できるが、遺構確認面からは、掘り込みは確認できなかった。

柱穴 11か所。平面形は円形ないし、楕円形で長径は58～98cmで、短径は48～72cmである。深さは30～77cmで、掘方の断面はU字状または箱堀状である。堆積状況から、第1・2層は柱抜き取り後の覆土で、第3～6層は埋土である。P12～P33は、径20～50cm、深さ15～59cmで、軸線上にあるP13・P19・P24・P25・P27・P29～P32などは、本跡の補助柱穴となる可能性がある。

P1・P6土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック多量

P2・P7～P10土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

所見 出土土器がないため、詳細な時期が不明であるが、18世紀前半の土坑を掘り込んでいることから、18世紀前半以降の江戸時代と考えられる。性格は、形状や規模から母屋と考えられる。

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第341図 PL10)

位置 調査B区東部のC4f4区、標高20mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第22号堅穴建物跡、第3号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.10m、短径1.98mの円形で、確認面からの深さ1.98mまでは漏斗状で、それより下部は、径0.82mの円筒状に掘り込まれている。安全のため、確認面から深さ2.70mほど掘り下げた段階で以下の調査を断念した。

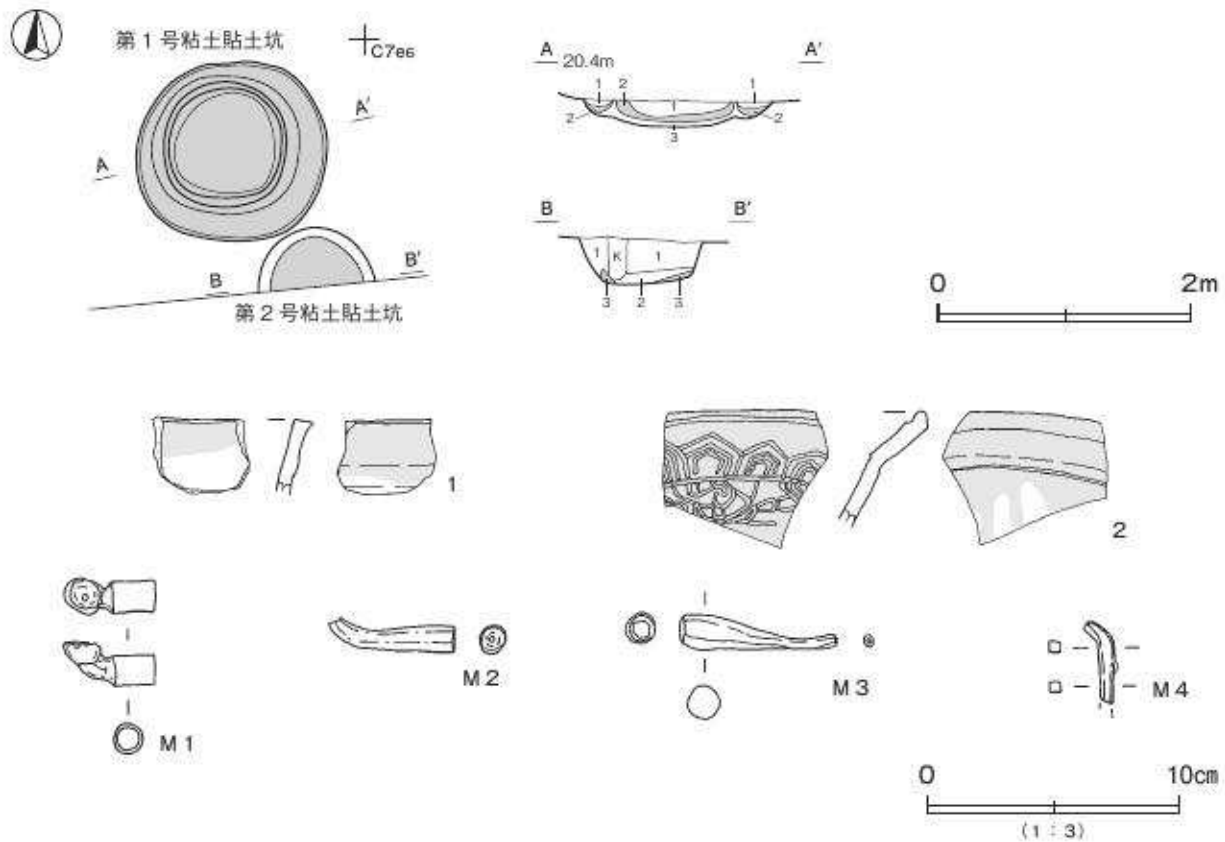
覆土 確認できた覆土は、8層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック中量 | 7 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(焜炉)が、覆土第2層と第5層から出土している。1は覆土第2層と第5層から出土している破片が接合したものである。2は覆土第5層から出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半と考えられる。



第342図 第1・2号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第1号粘土貼土坑出土遺物観察表（第342図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	-	(3.0)	-	緻密・灰白	軸葉掛け分け	白高箱 緑軸	瀬戸・美濃	覆土中	5% 18 C前半
2	陶器	大鉢	-	(4.6)	-	緻密・黄灰	外面絵唐津指頭文 内面三鳥手象嵌	鉄軸	肥前唐津系	覆土中	5% 18 C前半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管	(3.6)	1.8	1.5	(7.19)	銅	煙首部 鍛造→伸ばした金属板を丸め鉤付け	覆土中	古泉編年V期
M2	煙管	(5.0)	(1.3)	1.0	(5.80)	銅	首部煙首欠損 鍛造→伸ばした金属板を丸め鉤付け	覆土中	古泉編年V期
M3	煙管	(6.3)	1.3	1.4	(8.27)	銅	吸口部 鍛造→伸ばした金属板を丸め鉤付け	覆土中	古泉編年V期
M4	釘	(3.3)	1.5	0.4	(1.88)	鉄	傍折釘先端部欠損 鍛造	覆土中	

第2号粘土貼土坑（第342図）

位置 調査A区南東部のC7e5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 調査区域外の南側へ延びているため、長径0.96m、短径は0.48mしか確認できなかったが、ほぼ円形と推測できる。深さは35cmで、底面は平坦である。掘方の底面と壁面に厚さ6～10cmの粘土を貼り付けている。

覆土 確認できた覆土は、2層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 灰白色 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量
 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

所見 遺物の出土は見られなかったが、第1号粘土貼土坑と形状が似ていることからほぼ同時期で、18世紀前半には廃絶したものと考えられる。性格は粘土貼りの土坑であることから、水甕や水桶を据え置くための基礎部分と考えられる。

表 15 江戸時代粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径・短径・壁厚 (m)	深さ (cm)					
1	C7e5	-	円形	1.50 × 1.44	18 粘土厚 4-13	外傾	皿状	人為	土層質土器、陶器、磁器、青銅製品	SK 202 → 本跡
2	C7e5	-	[円形]	0.96 × 0.48	35 粘土厚 6-10	外傾	平坦	人為	-	

(4) 土坑

土坑は、5基確認した。以下、特徴的な遺構について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記述する。

第194号土坑 (第343図 PL22)

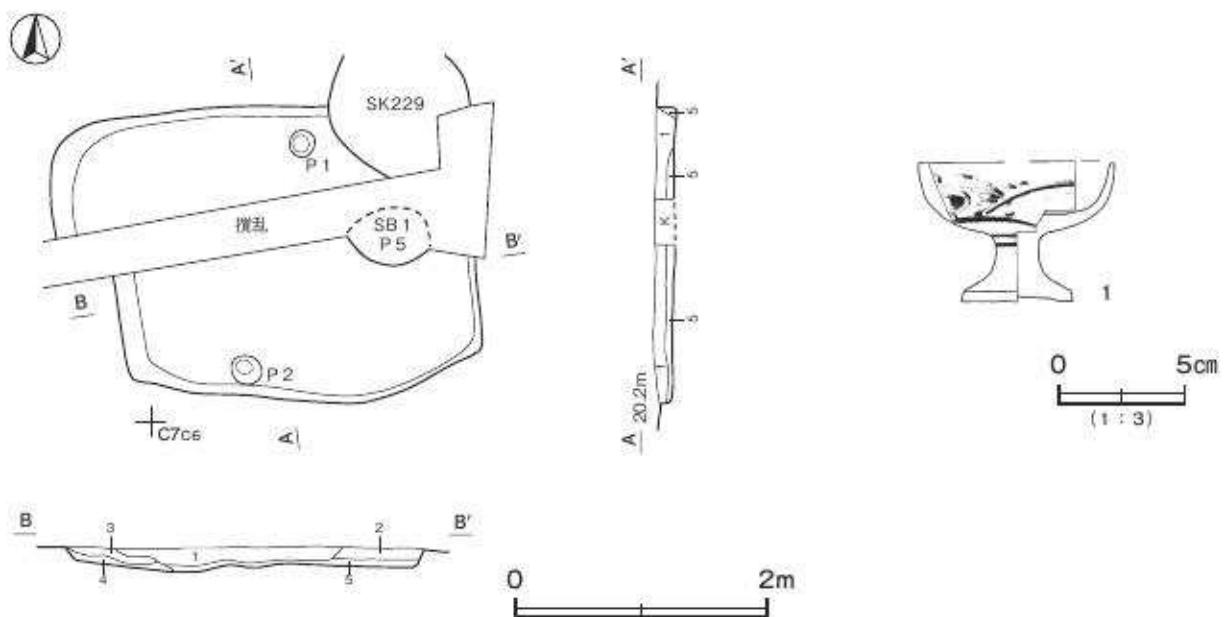
位置 調査A区東部のC7b6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物、第229号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.24m、短軸2.32mの不整長方形で、長軸方向はN-85°-Eである。深さは20cmで、底面はほぼ平坦である。壁は南及び北が直立し、東及び西は外傾している。

ピット 2か所。P1は北壁際に位置している。径20cmの円形で、深さは17cmである。P2は南壁際に位置している。径22cmの円形で、深さは21cmである。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。



第343図 第194号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 染付磁器片1点（仏飯器）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土磁器から18世紀前半と考えられる。性格は、覆土の状況や仏飯器が出土していることから墓坑とも考えられるが、形状が不整形であることと、掘立柱建物に掘り込まれていることからゴミ穴で、ピットは仕切り板を支える杭穴の可能性はある。

第194号土坑出土遺物観察表（第343図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	染付磁器	仏飯器	[7.8]	5.4	4.4	精緻・灰白	筆描 体部外面草花文 下端隠線文 脚部外面二重隠線文	透明釉	肥前	覆土中	20% 18 C 前半 PL35

第202号土坑（第344図）

位置 調査A区南東部のC7d5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第248～250号土坑を掘り込み、第192・193号土坑、第1号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.78m、短径2.48mの楕円形で、長径方向はN-88°-Eである。深さは26cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

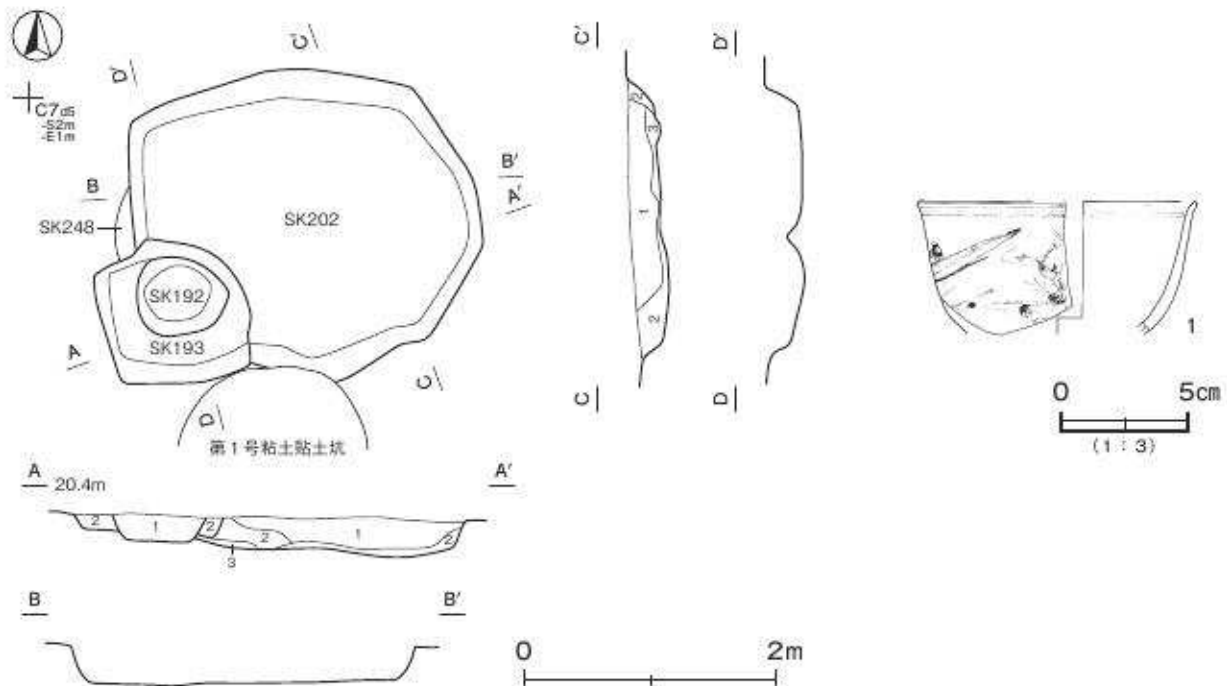
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 染付磁器片1点（碗）が、覆土中から出土している。

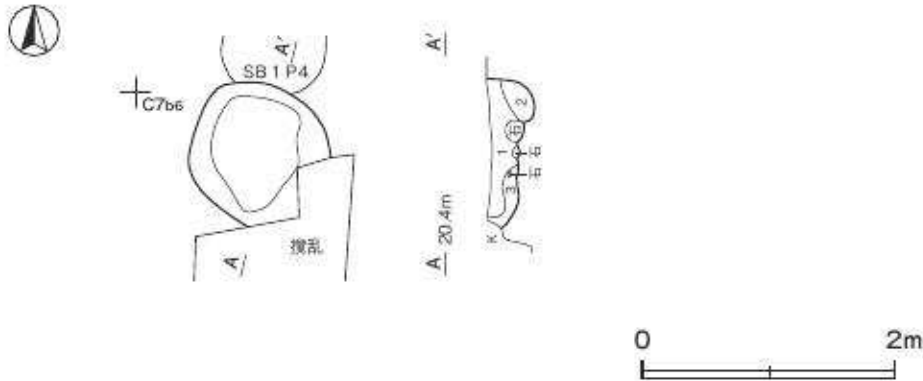
所見 時期は、出土磁器から18世紀前半と考えられる。性格は、覆土の状況や形状からゴミ穴の可能性はある。



第344図 第192・193・202号土坑・第202号土坑出土遺物実測図

第202号土坑出土遺物観察表(第344図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	染付磁器	碗	[10.8]	(5.1)	—	筋線・灰白	単線・口縁部外・内面二重線文 外部外面折り枝竹文	透明釉	肥前	覆土中	10% 18 C前半



第345図 江戸時代の土坑実測図

第192・193号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第229号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

表16 江戸時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径・短径・幅 (m)	深さ (cm)					
192	C7d5	—	円形	0.72 × 0.68	24	外傾	平坦	人為	—	S K 202・248 → S K 193 → 本跡
193	C7d5	N-80°-E	不整形	1.19 × 1.18	12	外傾	平坦	人為	—	S K 202・248 → 本跡 → S K 192
194	C7b6	N-85°-E	不整形長方形	3.24 × 2.32	20	直立 外傾	ほぼ平坦	人為	磁器	本跡 → SB 1, S K 229
202	C7d5	N-88°-E	楕円形	2.78 × 2.48	26	外傾	ほぼ平坦	人為	磁器	S K 248 - 250 → 本跡 → 第1号粘 土坑土坑, S K 192 - 193
229	C7b6	—	[円形]	1.12 × 1.08	35	ほぼ直立	凹凸	人為	—	S K 191 → 本跡 → SB 1 P 4

4 その他の遺構と遺物

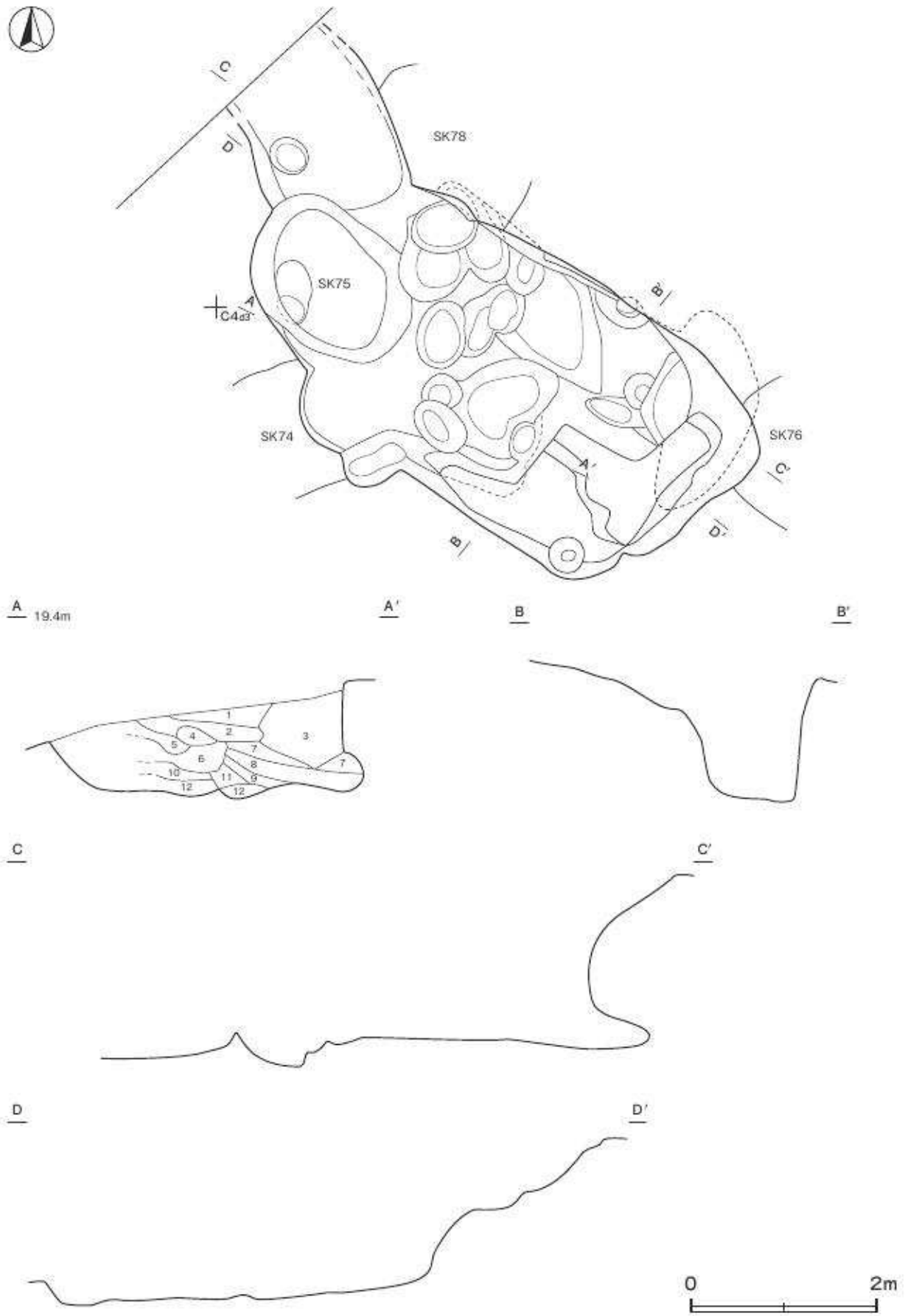
今回の調査で時期が明らかでない粘土採掘坑1基、土坑4基、溝跡3条を確認した。また、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、第248～250号土坑は、江戸時代の第202号土坑に掘り込まれていることから、18世紀前半以前である。

(1) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑(第346図 PL26)

位置 調査B区北東部のC4c3～C4d4区、標高17～19mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第74～76・78号土坑を掘り込んでいる。



第346图 第1号粘土探掘坑实测图

規模と形状 北西部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは6.40mで、幅2.92mの不整長方形である。北西部の台地斜面の崖下から、南東方向(N-128°-E)へ向かって、ローム層下の常総粘土層に相当する灰白色粘土層を楕円形の土坑状に連続して掘り込んでいる。深さは142~201cmで、底面は凸凹である。壁は確認面からの深さ1.10mで外傾し、それより下位は70cmほどでほぼ直立し、それ以下は内彎している。

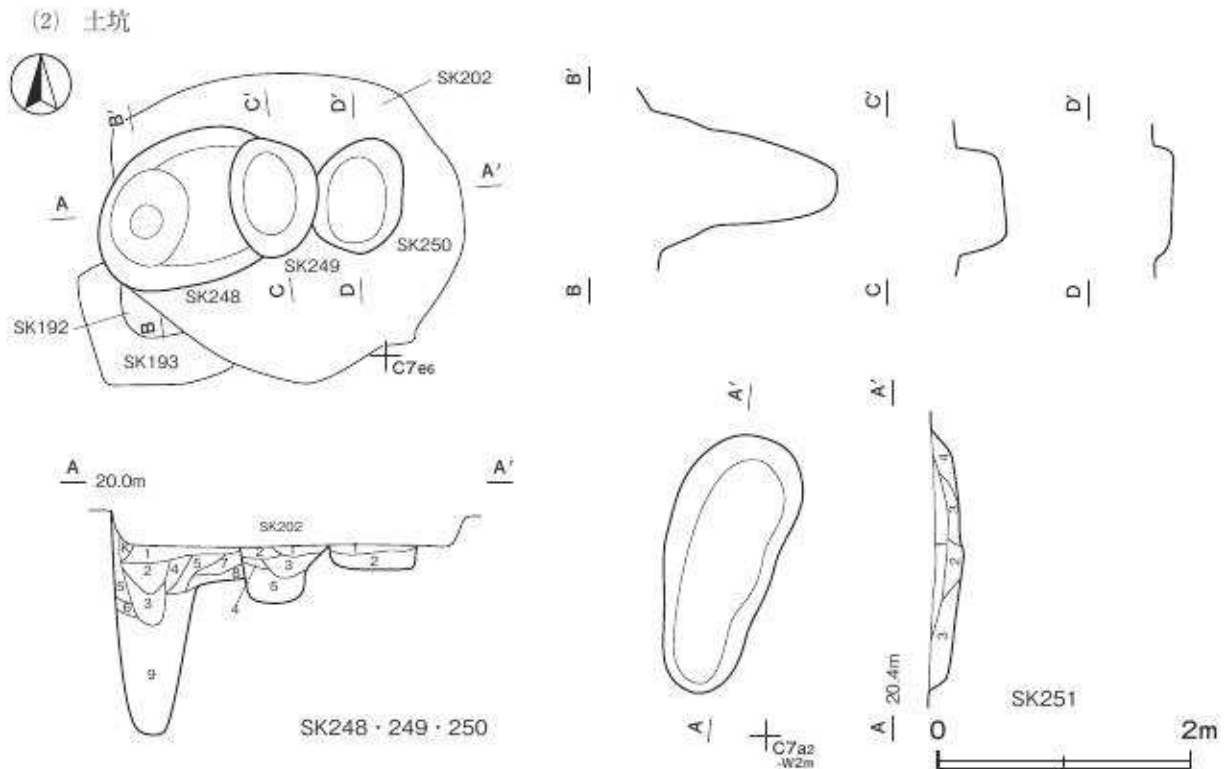
覆土 12層に分層できる。第1・2・4~10・12層は、ロームブロックや灰白色粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第3・11層は地山の崩落土である。

土層解説

1 明褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 黄褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黄褐色	ローム主体(地山崩落土)	9 黒褐色	灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
4 明褐色	ロームブロック多量	10 黄褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 黄褐色	3層と同じ ローム主体(地山崩落土)
6 黄褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック・灰黄褐色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1,158点(深鉢)、剥片6点(チャート5、黒曜石1)、自然礫24点が覆土中から出土している。

所見 縄文土器片が覆土中から多量に出土しているが、細片が多く、異なる時期の土器片が混在していることから平坦部に位置する竪穴建物跡や土坑からの混入と考えられ、時期は不明である。



第347図 その他の土坑実測図

第248号土坑土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量		

第 249 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第 250 号土坑土層解説

- 1 灰白色 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量

第 251 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

表 17 その他の土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径・幅×短径・幅 (m)	深さ (cm)					
248	C 7 d5	N-70°-E	[楕円形]	1.09 × 1.17	(32) ビット部 112	外傾	平坦	人為	-	本跡→S K 192・193・202・249
249	C 7 d5	N-10°-W	[楕円形]	0.98 × 0.72	(48)	外傾	平坦	人為	-	S K 248+250→本跡→S K 202
250	C 7 d5	N-8°-E	[楕円形]	0.98 × (0.68)	(22)	直立	平坦	人為	-	本跡→S K 202・249
251	B 7 j1	N-18°-E	[楕円形]	2.09 × 0.90	21	外傾	ほぼ平坦	人為	-	S 1 54・59 どの新旧不明

(3) 溝跡

第 2 号溝跡 (第 348 図 PL26)

位置 調査 A 区西部の B 6 h6 ~ C 6 f6 区、標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8・12・13・15・32・56 ~ 58 号竪穴建物跡、第 32 号土坑を掘り込み、第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端部と北端部が、調査区域外に延びている為、長さは 32.90 m しか確認できなかった。B 6 h6 区から南方向 (N-3°-E) に直線状に延びている。規模は上幅 0.58 ~ 0.90 m、下幅 0.23 ~ 0.44 m である。深さは 18 ~ 30cm で北部から南部に向かって 12cm ほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第 1 号堀跡と並行して走行していることから、伴うものと考えられる。性格は、堀と当遺構の間に 15m ほどの空間があり、その形状から土塁が存在していたことが推測でき、その土塁に伴う排水施設の可能性がある。

第 3 号溝跡 (第 348 図 PL26)

位置 調査 A 区西部の B 6 h6 ~ C 6 f6 区、標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

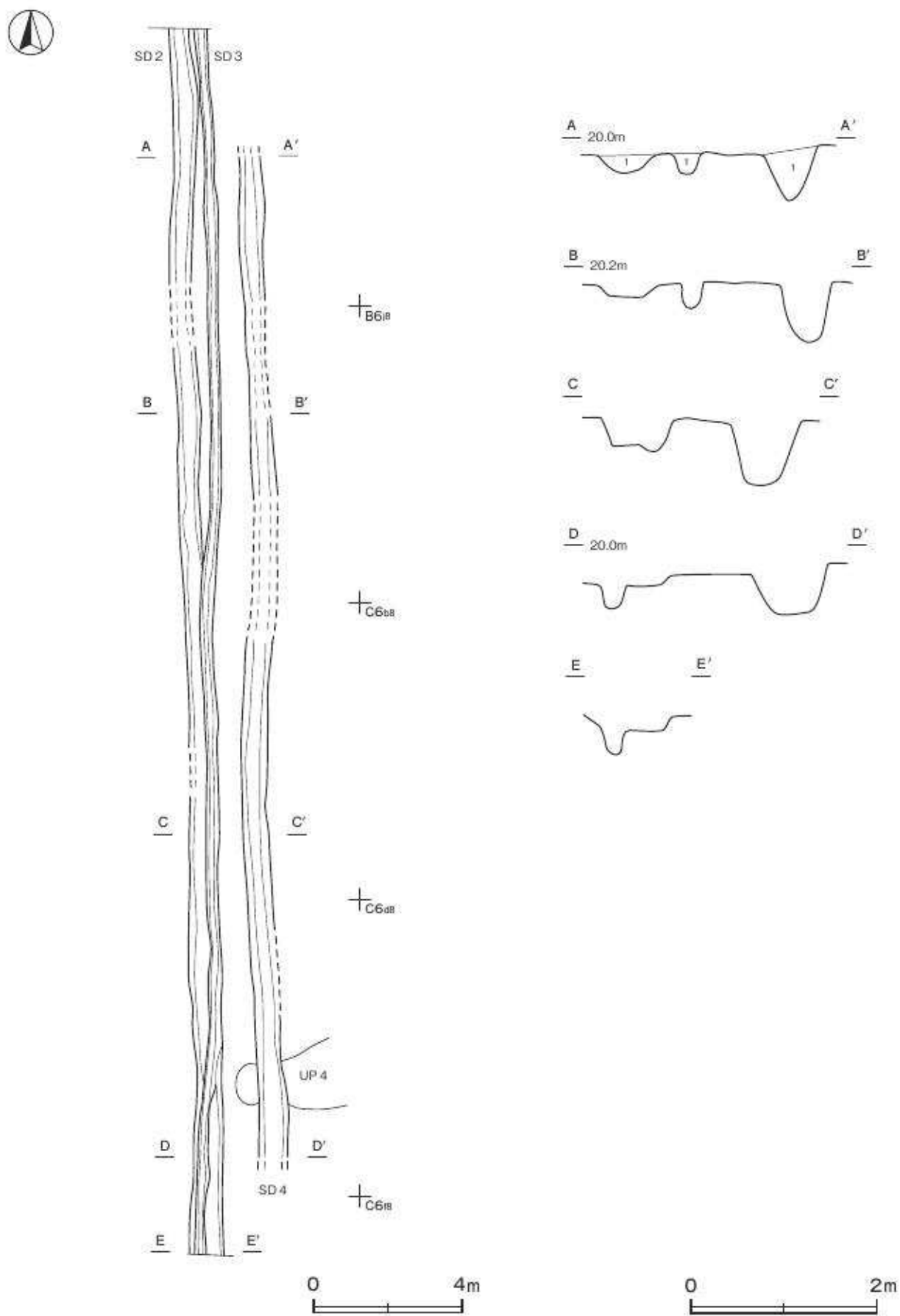
重複関係 第 8・12・13・15・32・56・57 号竪穴建物跡、第 9・10 号土坑、第 2 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南端部と北端部が、調査区域外に延びている為、長さは 32.90 m しか確認できなかった。B 6 h6 区から南方向 (N-4°-E) にやや蛇行しながら延びている。規模は上幅 0.28 ~ 0.32 m、下幅 0.16 ~ 0.18 m である。深さは 26 ~ 32cm で、北部から南部に向かって 6cm ほど深くなっている。断面形は U 字状で、底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量



第 348 図 第 2～4 号溝跡実測図

所見 遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第2号溝跡と同様に、第1号堀跡と並行していることから、伴うものと考えられる。付随する土塁に伴う排水施設の可能性があり、土塁等の拡張に伴い、第2号溝跡の後の作り替えの溝と考えられる。

第4号溝跡 (第348図 PL26)

位置 調査A区西部のB 6 i7～C 6 e7区、標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・13・16・32・35 B・44・56・57号竪穴建物跡、第4号地下式坑、第28・269号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南端部と北端部が、後世の削平を受け掘り込みが消滅しているため、長さは26.70 mしか確認できなかった。B 6 i7区から南方向(N-4°-E)にはほぼ直線状に延びている。規模は上幅0.58～0.80 m、下幅0.20～0.50 mである。深さは55～65 cmで、北部から南部に向かって10 cmほど深くなっている。断面形は北部がU字状で、南部にかけて逆台形になっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

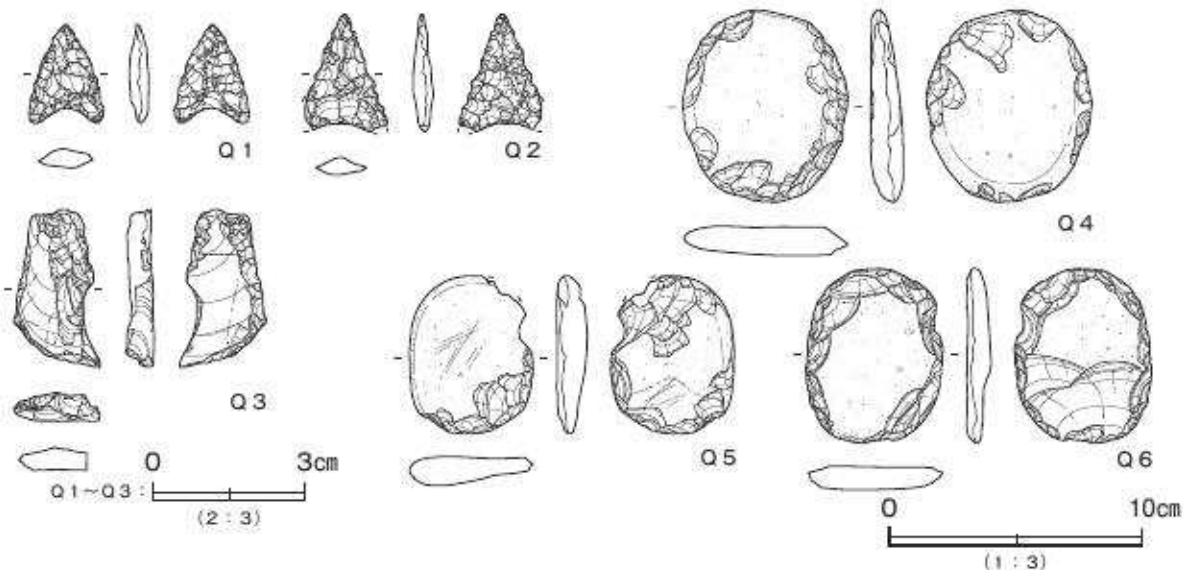
- 1 暗褐色 ロームブロック多量

所見 遺物が出土がしていないため、詳細な時期は不明であるが、第2・3号溝跡同様、第1号堀跡と並行していることから、伴うものと考えられる。付随する土塁に伴う排水施設の可能性がある。

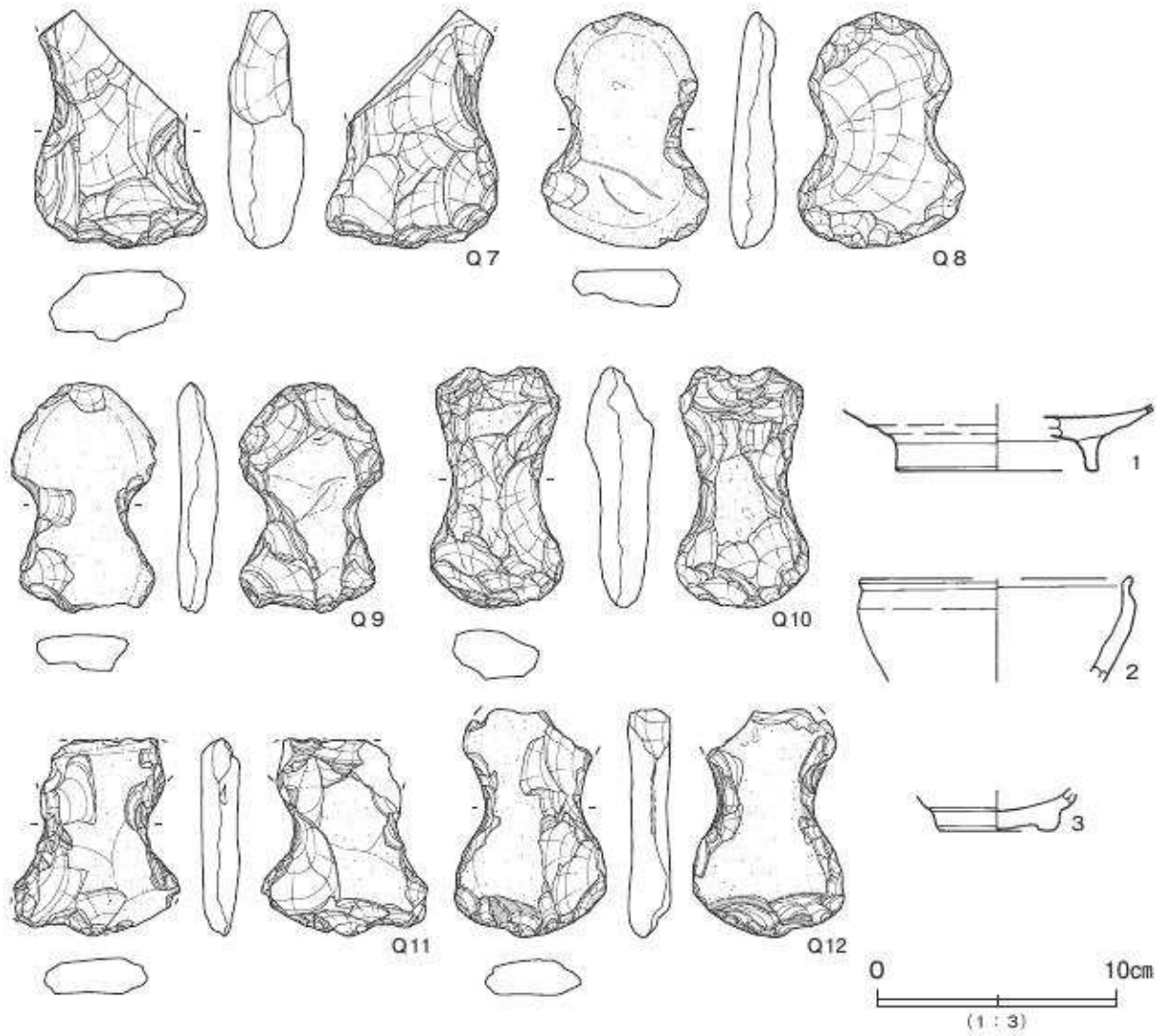
表18 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
2	B 6 i6～C 6 e6	N-3°-E	直線	(32.90)	0.58～0.90	0.23～0.44	18～30	逆台形	外傾	人為	-	S18・12・13・15・32・35・56・58・SK32→本跡→SD 3
3	B 6 i6～C 6 e6	N-4°-E	やや曲線	(32.90)	0.28～0.32	0.16～0.18	26～32	U字状	外傾	人為	-	S18・12・13・15・32・35・56・57・SK 9・10・SD 2→本跡
4	B 6 i7～C 6 e7	N-4°-E	直線	(26.70)	0.58～0.80	0.20～0.50	55～65	U字状逆台形	外傾	人為	-	S112・13・16・32・35B・44・56・57・UP 4・SK28・269→本跡

(4) 遺構外出土遺物



第349図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 350 図 遺構外出土遺物実測図 (2)

遺構外出土遺物観察表 (第 350 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏃	1.97	1.49	0.39	1.0	チャート	四基	表土	
Q 2	石 鏃	2.34	(1.64)	0.41	(1.1)	チャート	四基	表土	
Q 3	R F	3.14	1.72	0.57	3.3	チャート	石鏃未成品。	表土	
Q 4	礫 器	7.66	6.57	1.31	86.0	安山岩	自然礫の周縁を剥離 表裏面に擦痕	表土	二次焼成
Q 5	礫 器	6.28	4.93	1.23	(41.4)	ホルンフェルス	自然礫の周縁を剥離	SD 1	
Q 6	礫 器	6.96	5.46	1.00	43.9	安山岩	自然礫の周縁部を剥離	表土	
Q 7	打製石斧	(9.98)	7.21	3.17	(221.5)	安山岩	分銅形	SD 1	
Q 8	打製石斧	9.85	7.00	1.94	148.5	安山岩	分銅形	表採	
Q 9	打製石斧	9.65	6.05	1.67	104.5	安山岩	分銅形	表採	二次焼成
Q 10	打製石斧	10.09	5.57	2.85	148.0	安山岩	分銅形	UP 4	
Q 11	打製石斧	8.29	(6.93)	1.61	(103.1)	ホルンフェルス	分銅形	SD 1	
Q 12	打製石斧	(9.56)	6.36	1.80	(131.0)	砂 岩	分銅形	UP 6	二次焼成

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付埴	-	(27)	(8.2)	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	ロクロナデ 付け高台	S K 187	新治窯 10%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	支 柱 の 特 徴	袖 葉	産 地	出土位置	備考
2	陶 器	天目茶碗	(11.4)	(4.2)	-	磁密・にぶい黄緑	ロクロ成形 外・内面施袖	鉄袖	瀬戸・美濃	S K 241	5%
3	陶 器	天目茶碗	-	(1.7)	4.8	磁密・灰白	ロクロ成形 削り出し高台・底部露体	鉄袖	瀬戸・美濃	S K 187	10%

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査では、縄文時代、室町時代、江戸時代の遺構を確認した。ここではそれぞれの時代の遺構と遺物について概観し、まとめとしたい。

2 縄文時代

今回確認した縄文時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、炉跡 3 か所、ピット群 10 か所、遺物包含層 2 か所、遺物集中地点 1 か所である。時期は中期前半の阿玉台Ⅱ式から晩期中葉の安行 3 d 式期までで、特に竪穴建物跡と土坑については比較的まとまった数が確認できたことから、以下でその形状や出土位置等を確認し、周辺地域の様相と対比しながら当遺跡の特徴を明らかにしたい。また遺物包含層は集落研究の上で課題の多い遺構であり、今回の調査成果をまとめることで、遺物包含層の遺跡における在り方を検討する一助としたい。

(1) 竪穴建物跡について

今回の調査では、中期前半の阿玉台Ⅱ式期から晩期中葉の安行 3 d 式期までの建物跡が確認できた。中期前半から後半の竪穴建物跡は 12 棟確認できたが、遺物包含層が厚く分布する調査 A 区中央部から西部では、後期以降の遺構との重複が著しく、形状が部分的にしか捉えられていないものも多い。形状は円形あるいは楕円形で、平面形と同心円状に配置される主柱穴と、補助柱穴的な小ピットが不規則に確認できる。第 51 号竪穴建物跡は加曾利 E Ⅰ式期の有段建物跡である。楕円形の平面形で、下段は長方形に掘り込まれている。主柱穴は下段のコーナー部に位置し、炉は確認できない。第 34 号竪穴建物跡は、長径約 4 m の楕円形であるが、主柱穴が壁際に寄っており、あるいは有段建物の下段部分のみを捉えたのかもわからない。当期の竪穴建物跡は、まばらではあるが A 区および B 区全体に分布している。

後期初頭から晩期前葉の建物跡は、調査 A 区の全体と B 区の西部から中央部にかけて多く確認できたが、いくつかの事例を除いて、重複が著しいため壁が確認できず、出入口ピットと壁柱穴、炉跡の配置から形状を把握したものが多く。まずは壁の確認できた事例から、当該期の建物跡を確認してみたい。第 20 号竪穴建物跡、第 41 号竪穴建物跡は、曾谷式期から安行 1 式期のもので、出入口部側が広がる D 字型の平面形で、規模が 4 m 前後とやや小形である。外に張り出す出入口ピットを有し、壁際に径が 20 ～ 30 cm 前後の小ピットが巡っている。第 20 号竪穴建物跡は主柱穴が 3 か所で、いずれも重複していることから、立て替えが想定される。出入口部は南壁側にあり、炉跡は石囲炉である。第 41 号竪穴建物跡は、ハの字あるいは T 字状に張り出す出入口部が、南壁及び東壁の 2 か所で確認できることから、建て替えが想定できる。主柱穴は炉を挟んで 3 か所にあり、第 20 号竪穴建物跡と共通する。

安行 2 式期の第 6 号竪穴建物跡は、壁が確認できたわけではないが、確認面で長方形に焼土が分布する範囲を掘り下げたところ、ピットと炉跡が確認でき、建物跡が把握できた。出入口部は捉えられなかったが、壁柱穴が壁際に巡り、灰を多量に有する炉跡が確認できた。主柱穴は他の遺構との重複のため一部しか確認できなかったが、おそらく 4 か所である。このように焼土跡が方形に巡っている建物跡は、ほかにも第 15 号竪穴建物跡、第 43 号竪穴建物跡があり、いずれも安行 2 式期と考えられる。第 15 号竪穴建物跡は炉跡が 3 か所確認されたが、出入口ピットと壁柱穴の配置、及び主柱穴もはっきりとらえられな

った。第43号竪穴建物跡は調査A区の北西端部に位置するため、南東部の一部しか確認できなかったが、北部を一部拡張し、焼土が方形に巡っていることを確認した。方形の掘方と壁際に巡っている壁柱穴のほか、主柱穴が1か所確認されている。焼土は主柱穴と壁柱穴の間を帯状に巡るように確認され、厚さは5～15cmで、床面に接して堆積している。P5からは炭化した材の一部が出土している。第6号竪穴建物跡からも、焼土跡の外側に沿うように炭化物層が確認でき、これは第43号竪穴建物跡の例から考えると壁柱穴に関わる施設が炭化したものと考えられる。

第1・4・11・14・22号竪穴建物跡はいずれも晩期中葉のもので、第22号竪穴建物跡は調査B区の台地平坦面から斜面部にかけて、それ以外は調査A区の緩やかに南に下がる南西部に位置している。第1・4号竪穴建物跡は重複が著しく、特に第1号竪穴建物跡は東側を中世の堀に掘り込まれている。いずれも不整な方形で、第4号竪穴建物跡は南側に張り出す出入口部を有する。壁際にはまばらに壁柱穴が巡っており、主柱穴は5～6か所が方形の平面形に倣うように方形に配置される。出土土器から第1号竪穴建物跡が新しく、安行3d式に並行する土器群も出土している。第11号竪穴建物跡は、南部が調査区域外に延びるため、方形の掘方の一部が確認できたのみである。主柱穴は4か所で、壁柱穴は壁際に疎らに位置している。時期は出土土器から安行3c式期である。

第14号建物跡は重複のため、西部の約2分の1しか確認できなかったが、円形の平面形で、主柱穴が炉跡を囲むように6～7か所確認できる。壁柱穴は壁からやや内側に入るが、疎らに巡っている。出土した土器は多くはないが、安行3d式や前浦式を主体としている。第22号竪穴建物跡は、少なくとも3棟以上が重複しているもので、円形或いは楕円形の平面形である。やや密に壁際に巡っている壁柱穴と多数確認できた炉跡が特徴的で、主柱穴は5～6か所が同心円状に巡っている。時期は安行3d式期である。

以上、後期後葉以降の壁が確認できた建物跡について概観した。曾谷式から安行1式期では、平面形がD字形で壁柱穴が密に巡っているものが2棟確認できた。主柱穴は3か所である点が特徴的である。安行2式期は方形或いは長方形の平面形で、焼土の堆積を伴っている。晩期中葉では円形の平面形と方形の平面形の2種類が確認できた。方形の平面形は壁柱穴があまり密ではなく、主柱穴は平面形にならって方形に4～6か所が配置される。円形の平面形は、壁柱穴と同心円状の主柱穴の配置が特徴的である。

竪穴建物跡は平面形と柱穴の配置から「型」を捉え、その変化の方向性を確認することで、周辺地域との関係性や集落の特性を導き出すことが可能である。筆者は以前、県内及び周辺地域の当該期の竪穴建物跡を集成し、その特徴と変化の方向性を示したことがある¹⁾。それによると本県の後期前葉から後期中葉期は、円形の平面形で壁柱穴構造であり、加曾利B2式期あたりから主柱穴が出現する。本県域の竪穴建物跡は、千葉県域をはじめとする東関東地域の建物形態とほぼ同様の変化をたどるが、曾谷式期から安行1式期には、方形の平面形を基調とした千葉県や埼玉県事例と異なり、円形の平面形が基調となることを確認した。これは前段階の形態を踏襲したものとも捉えられるが、栃木県域や東北地方などの建物跡と類似する部分があり、これらの「北関東的な」建物跡との関係性を考えた。当遺跡においても同様の様相が確認できる。安行2式期から晩期前葉にかけては円形と方形が混在するようであり、方形の平面形は東～西関東地域的な在り方で、当遺跡でも方形が主体となる。またこの時期は、焼土を有する建物跡が千葉県域や埼玉県域で多く確認でき、壁際に巡っているものだけではなく、床面に焼土や灰を貼床するものも見られる。当遺跡の焼土跡では、床面直上に分布するものの、硬化した貼床状の平坦面は見られなかった。また壁柱穴が炭化した例や焼土脇に位置する帯状の炭化物層は、壁柱穴に関連する施設を想定させるとともに、これらの建物跡が焼失建物跡で、焼土は土屋根等の建物跡に関連する施設の一部であることを推測

させる。晩期中葉にも「汎関東的」な方形と「北関東的」な円形基調の建物跡が見られる。特に当地域において、安行3c式から安行3d式期の様相は不明瞭であったことから、当遺跡でこれらの例が確認できたことは重要である。また円形基調の建物跡では、前浦式が比較的多く出土し、「前浦式」の建物形態と捉えることができる。

(2) 土坑について

土坑は193基を確認した。重複が著しいため、すべてについては困難であるが、平面形及び断面形状が明らかなものについて次の4つに分類した。

第1類：平面形が楕円形で、土坑の断面形がV字状に近い形状のもの

第2類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が袋状を呈するもの

第3類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が深い円筒状を呈するもの

第4類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が逆台形状を呈するもの

第1類は第133・268号土坑が該当する。平面形は不整な楕円形で、いずれも深さが1m前後とやや浅いが、陥し穴の可能性はある。第2類はいわゆる袋状土坑で、第4・159・166・180・232・233号土坑などが該当する。時期は中期前半の阿玉台Ⅲ式から後半の加曾利EⅠ式段階で、完形や完形に近い土器が出土している。第3類は第2・26・28・34・39・45・105・126・127・135・138・150・163・168・179・196・218・223・224・228・246・247・254・272号土坑などが該当する。径が1～1.5m前後、深さは1.2～2.0m前後で、底面は平坦のものもあるが、中央部がピット状に下がっているものもある。時期は後期後葉から晩期前葉のものが多い。覆土は第28・34号土坑のように、下層に貝片や骨片が多量に含まれている層が堆積しているものがあり、土坑の機能停止後、廃棄土坑として利用されているようである。第34号土坑では、貝類を含む層の上面が不整合面で、その位置から完形に近い2つの個体が、口を合わせて組み合うように出土している。第45・127・168号土坑は、底面がピット状に下がった部分から、完形に近い土器が出土している。特に第127号土坑では、覆土が再度ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示している。他にも不整合な堆積状況を示すものや、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示すものがあり、その面から完形に近い個体や大形破片が出土するものがある。第179・272号土坑も覆土が再度掘り込まれたような堆積状況で、その底部近く、あるいは覆土中から完形に近い個体が出土している。これらはその埋設状態から墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。これらの遺構が確認できる位置はある特定の範囲に集中するようなことはなく、建物跡と混在し、居住域で確認されている。このような大形土坑は、県内ではつくばみらい市前田村遺跡、境町本田遺跡、つくば市上境旭台貝塚、土浦市上高津貝塚、小松貝塚、日立市大近平遺跡など、当該期の拠点的な遺跡であれば数の多寡はあるが出土する傾向がある。県内に留まらず、千葉県域や埼玉県域など関東地域で比較的普遍的に確認できる。これらの遺構については、鈴木正博氏は埼玉県大宮市馬場小室山遺跡の例を挙げ、時間差のある遺物が比較的高い完形率で含まれていることなどから「多世代土器群多埋設深堀大土坑」と称し、数世代にわたって土坑が意識され、土器を含む遺物が埋納される土坑で「取納施設埋設型」の「ムロ」して墓坑の可能性を含む埋納遺構と捉えている²³。

第4類のうち第122号土坑は、第34号土坑と同様に、深鉢2個体が合わせ口になるように、一方が正位で、もう一方が逆位で出土している。第3群と同様に何らかの埋納遺構の可能性はある。第106号土坑は、覆土中層から台付鉢の鉢部が斜位で確認できた。第8号土坑は、長径が大きい楕円形で、耳飾りが1点出土している。これらについては、土坑の形状や、完形率の高い土器と土製品が組み合う遺物の出土状況が

ら、栃木県小山市乙女不動原北浦遺跡の例²⁾のように、墓坑の可能性も考えられる。遺物の出土はないが、形状から第119号土坑も同様の性格の可能性はある。これらも特に出土位置の偏在等は確認できない。また第54号土坑では、中空土偶の顔面部と胴部の一部が、底面付近から出土している。本遺構はほぼ同時期の第22号堅穴建物跡を掘り込んでおり、晩期中葉の建物と土偶の廃棄についての何らかの関係性を示唆しているものとも考えられる。

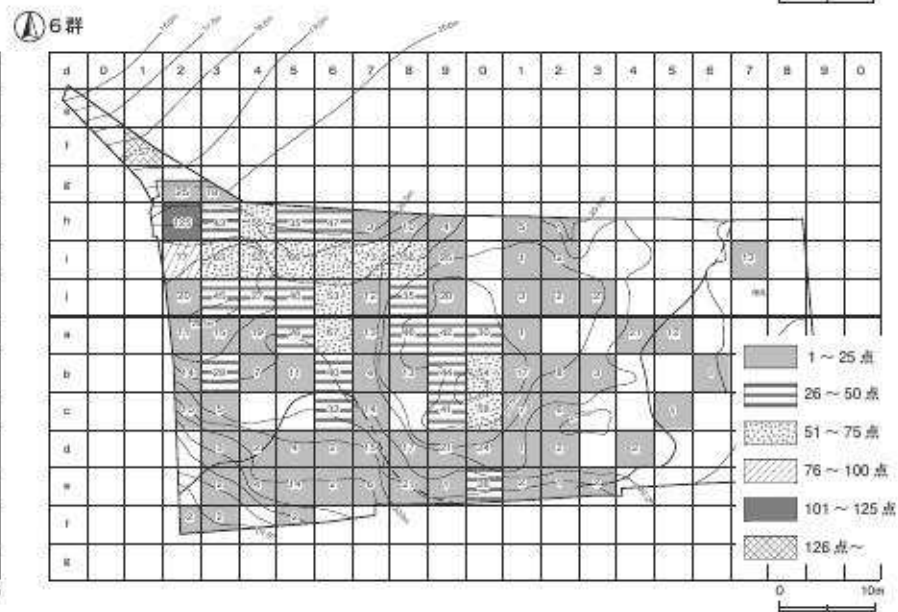
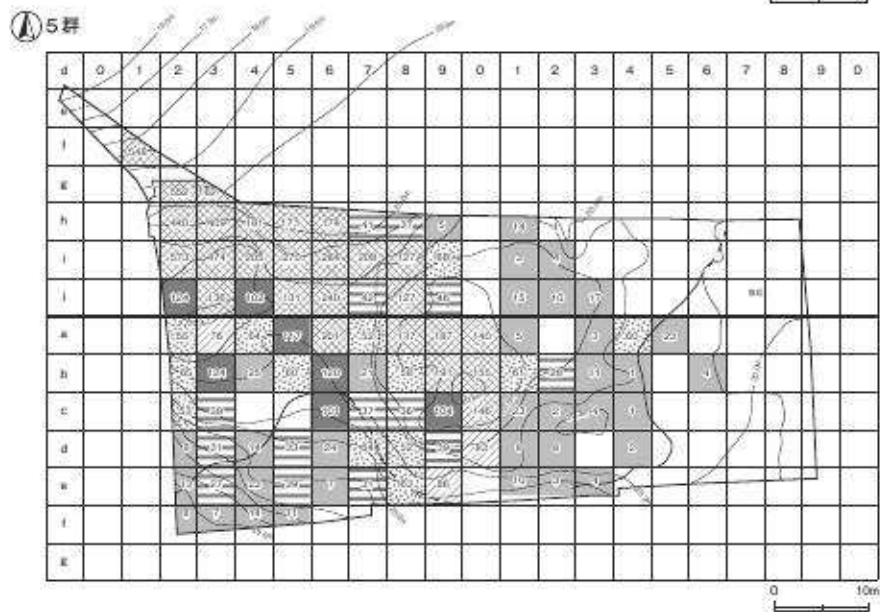
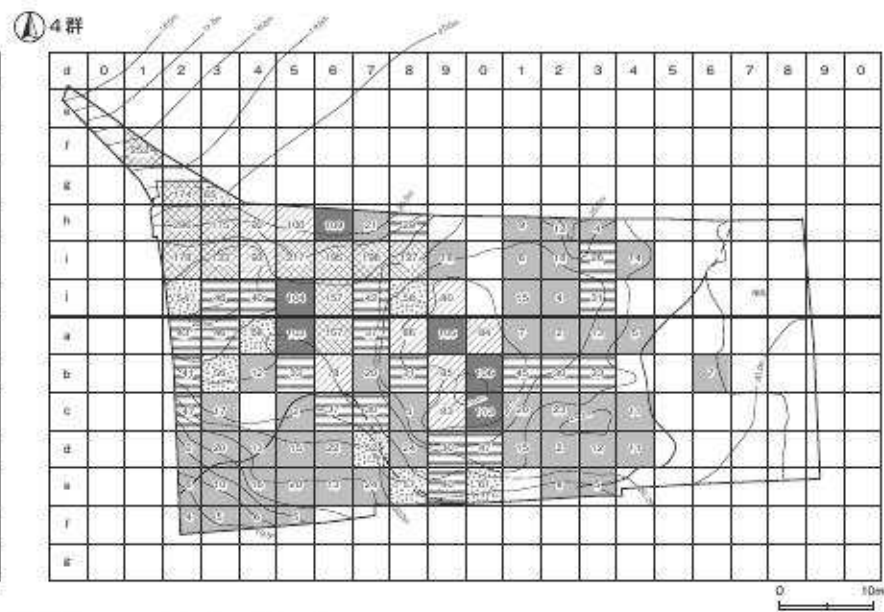
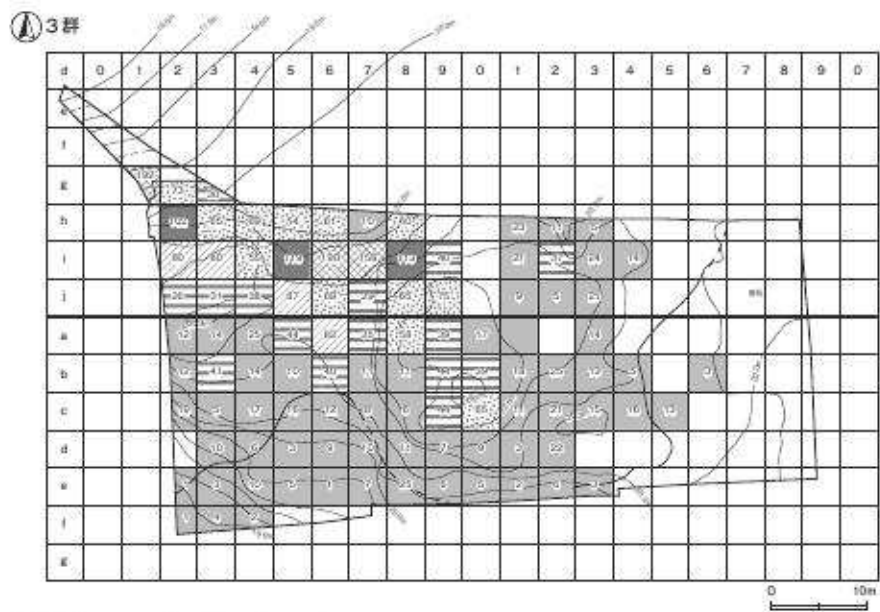
(3) 遺物包含層について

今回の調査で、調査A・B区からそれぞれ遺物包含層が確認できた。調査区の関係上、それぞれに別名の遺構名を付したが、本来的には一連のものとする。また調査B区の第1号遺物包含層は斜面部のため堆積土の流出が著しく、表土層及びローム面までの堆積が薄い。また斜面部は中世以降の掘削が著しいため、今回の報告では調査A区にある第2号遺物包含層について詳述することで、当遺跡の遺物包含層の生成過程について整理することとした。

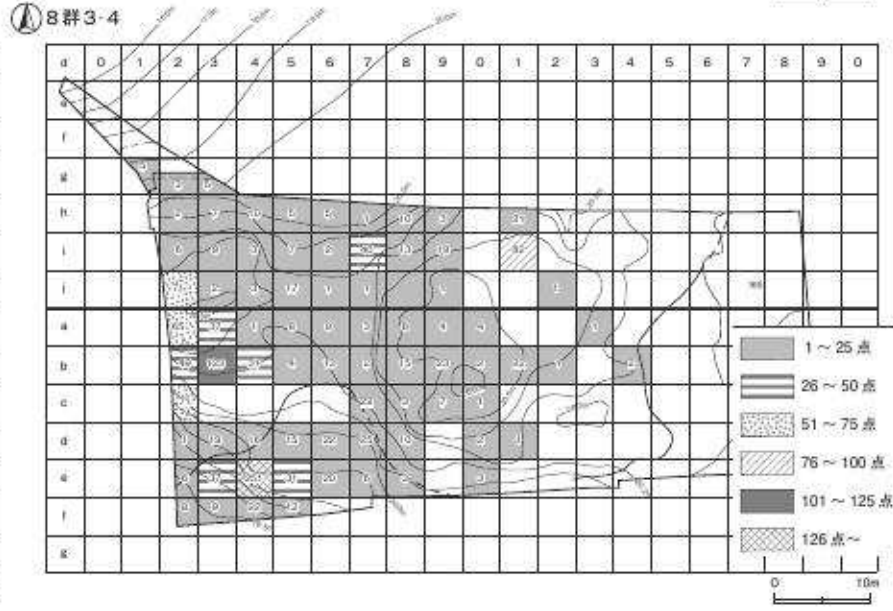
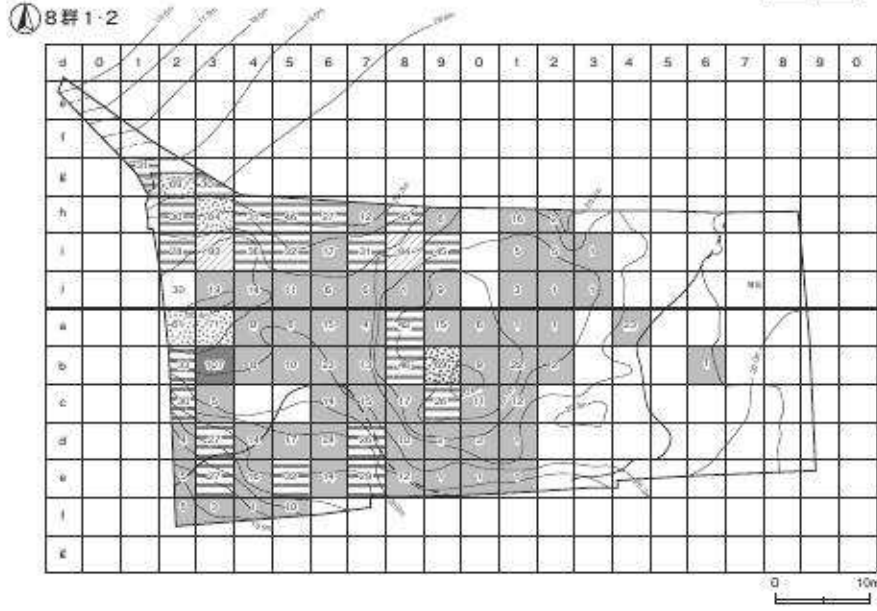
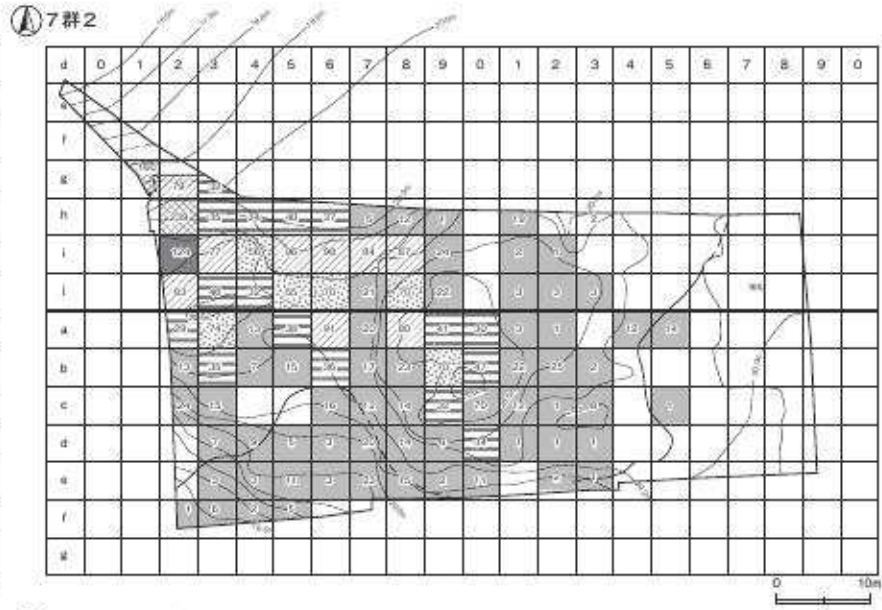
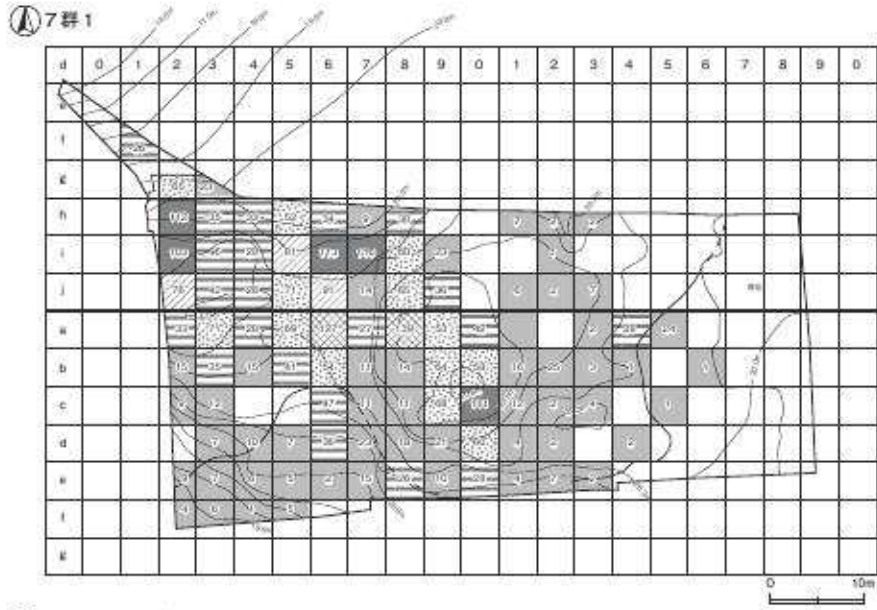
第2号遺物包含層は、調査A区の西部からほぼ中央部付近までが分布の中心で、それより東部では堆積層が薄くなり遺物も少なくなる傾向にある。表土除去後の遺物包含層上面の等高線図(10cmコンタ)を見ると、わずかな差ではあるが、3か所の高まりを捉えることができた。遺物包含層は、その高まり部分を頂部に北部と南西部に向かって緩やかに傾斜している。遺物包含層は、主に堆積層の色調などから大きく2層に分層でき、さらに含有物や堆積状況から細分した。第I層は黒褐色土を主体とする層で、多量の遺物が含まれている。台地平坦部では20～50cmの層厚であるが、東部では確認できない。この層の上部、及び層中では遺構は確認できるものの顕著ではなく、多くの遺構は第I層調査後の第II層上面で確認できた。第II層は暗褐色土を主体とするもので、ローム粒子が多く含まれている層もあり、第I層と明確に区別できた。第2層の上面を精査すると、覆土の違いや遺物の集中状況などから建物跡等の範囲が捉えられたため、その部分に遺構名を付し掘り下げを行った。土層断面図を見ると、II層上面及びII層中で多くの遺構が重複している様子が捉えられる。また第II層は遺構覆土にも類似する部分があり、他にも確認することができなかった多くの遺構が存在したものと考えられる。確認できた建物跡からは、複数回の建て替え(第8・22号建物跡など)や、場所をずらして再構築している様子(第15・35号建物跡など)も見られる。第35号建物跡では、上面にローム粒子の多く含まれている黄褐色土層の堆積が見られ、建物廃絶時にローム質土で埋め戻し、整地している可能性がある。これらのことから当遺跡の遺物包含層のうち、少なくとも第II層は、比較的短期間の中で建物の構築、廃棄、一部整地行為を繰り返すうちに生成したものと考えられる。遺物包含層の上面で確認できた等高線の高まり部分が、特に遺構の多重化する地点であることも、これを証左すると考える。

このように、最終段階の遺構の覆土がある程度捉えることが可能であったこと、安行2式期の建物跡では覆土中の焼土層の分布が捉えられることなどから、遺物包含層は必ずしもプライマリーとは言いがたいが、包含層II層の形成時及びそれ以降に大きな土地改変などを伴っていないかのようにも見える。ただし第15・43号建物跡では、遺構覆土と包含層の区別がはっきりせず、建物の壁も確認することが困難であった。また第43号建物跡上の遺物包含層では、断面図C-C'ラインに表れているように、斜面部にもかかわらず堆積層の上面が不整合で平坦面が作出している点などからは、斜面部を埋め戻し、台地の平坦面を拡大するような整地行為が行われているとも解釈することができる。また調査区南部のC6d5・d6、e5・e6区付近では、ローム層上面に漸移層がなく、ローム面上に直接表土層が堆積している(B-B'ラインなど)。この表土層は、上層は締まりのない腐植土層と化しているが、下層は締まりがある黒褐色土で遺

第351图 第2号遺物包含層出土土器分布图(1)



第352図 第2号遺物包含層出土土器分布図(2)



物を多量に含んでおり、Ⅰ層に近い部分がある。この付近にはローム面を掘り込んで晩期中葉の遺構が確認できることから、南部では晩期中葉以前にローム面上の削平が行われた可能性も考えられる。

遺物包含層から出土する遺物は多量で、中期前半から晩期中葉までが見られるが、主体となるのは遺構が盛行する後期後葉から晩期前葉である。第351・352図は、遺構解説中の表12をグリッドごとに集計して図化したものである。層厚の違いや遺物の大きさの違いなどから、本来的には破片数での比較は適切ではないが、大まかな傾向を示すことはできると考える。集計表と分布図を見ると、下層のⅡ層や東部に分布するⅡ層ほど古い時期のものが多く、晩期はほとんど含まれないなどの傾向がある。しかし、各層とも複数時期の遺物が含まれており、また地点によっても量の差異があり、単純に層の時期を決定することは困難である。これについては一つには分層の問題があり、さらに細かく分層が可能であったこと、遺物の取り上げについても任意層位ではなく、堆積層位毎に記録するべきであったなどの調査上の反省点があるが、それ以上に遺構の多重複によって遺物が攪拌され、各層、各地点の時期や廃棄単位を捉えることが困難であると考えられる。全体の分布をみると、調査区中央部から台地斜面部にかけて特に出土量が多く、緩やかに傾斜する南西部では少ない傾向がある。また遺構が多重複する地点（高まりの部分）では、それぞれの時期がのものが多量に出土しているが、特に安行2式から晩期安行式前半の土器が多く出土する傾向があり、各遺構の比定される時期とも合致している。

晩期中葉の第8群3・4類については、調査区南西部付近にややまとまって見られる。またB7il区で突出して多く出土しており、確認できなかった遺構が存在した可能性や、晩期中葉の廃棄ブロックの存在が示唆される。

また、第3群から第5群など、遺構の主体となる時期以前の土器が一定量存在することも注意される点である。型式の時間幅の差異などもあるが、第6群以降と同じような分布をしており、特に第5群は北西斜面部で多く出土している。時期比定できなかったピットや土坑、あるいは時期比定したものの中にも、後期初頭から中葉期の遺構が存在している可能性がある。また後期後葉以降の遺構の重複によって捉えきれなかった遺構が数多く存在すると考えられるが、遺物包含層の堆積層からは、中期を除いた後期中葉以前の遺物包含層や遺構覆土を捉えることはできなかった。このことから、後期後半以前に台地上の大規模な整地や土地の改変行為があったことも考えられる。

(4) 出土遺物について

今回の調査では、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。各遺構から出土した遺物の個数と分類については、各遺構の中で記述している。ここでは特徴的な遺物や当遺跡の特徴を表すと考えられる遺物について記述する。また当遺跡では、台地上の集落跡にもかかわらず、遺構の覆土中から獣骨類や貝類が出土している。種が同定可能な獣骨類ではシカ・イノシシが多く、これについてつくば市土境旭台貝塚など、周辺地域の当該期の様相と一致する。また貝類や魚骨類については淡水産が主体である。これらについては付章の中で詳述する。

縄文土器では、今回の調査で、特に晩期前葉から中葉の姥山Ⅱ・Ⅲ式の出土が期待された。これは当遺跡の土器が姥山Ⅱ式の標識的な土器として鈴木公雄氏によって取り上げられ、型式設定に大きく寄与した経緯があり、今回の調査では姥山Ⅱ・Ⅲ式の型式内容を補完し、かつ時間的位置付けや型式内組成をさらに精査できるものと考えられた。しかし調査の結果、姥山Ⅱ・Ⅲ式、及びそれに伴うと考えられる細密沈線文系の土器群は、出土した晩期土器群全体の中でも約10%に過ぎず、全体が把握できる完形個体や、時期細分や型式組成がわかるような一括出土の土器群も確認できなかった。これは姥山式期の

遺構の分布範囲が今回の調査区よりさらに南西部にあることが予想されることから十分な資料が得られなかったものと考えるが、一方で姥山Ⅱ式の型式としての在り方が、晩期前葉の安行3b式の中にあつて、そのみで地域の土器組成を構成するものではなく、安行3b式と補完的な関係性の上で成り立っている型式の可能性を考慮することができるかもしれない。姥山Ⅲ式を含む晩期中葉期では、第1・11・14・22号竪穴建物跡出土土器に見ることができたが、前段階同様完形個体が少なく、また遺跡の性格上、一括性に乏しく、当該期の土器様相を部分的にしか確認できなかった。当地域の晩期中葉の土器様相については不明瞭な部分が多く、いわゆる「安行3c式」が主体と考えるが、大宮台地で見られるような典型的な文様構成のものは少ない。例えば安行3c式は沈線間に刺突文が充填されるモチーフで文様が構成されるが、いわゆる副文様帯系の深鉢はほとんど見られず、姥山Ⅲ式系の菱形構成の文様を描くものが多い。姥山Ⅲ式については、安行3c式の一部との型式的な差異が不明瞭な部分もあり、その型式内容や型式の存在自体についても、整理しなければならないと考えている。安行3d式についても、第1号竪穴建物跡出土の4・97・98のように大宮台地で見られるような入組三叉文系の文様も見られるが、2や92など、いわゆる「縄文のない前浦式」といわれるような土器群が一定量存在する点は、当遺跡の特徴といえる。また前浦式も一定量存在しており、第1号竪穴建物跡の104・105のように前浦式の文様を、刺突文を充填する安行3d式の施文手法で描くものなどが見られる。このように複数型式が共存して一つの地域の土器組成を完成させる状況は、北関東地域の当該期の特徴の一つと考えられるが、今回の資料ではその内容について深めることはできなかった。周辺地域の土器群を合わせて検討し、今後の課題としたい。

製塩土器は、非常に薄手で、二次焼成により器面の剥落等が確認できる無文土器である。霞ヶ浦周辺の遺跡から多量に出土することなどから、製塩に特化した土器と捉えられ、縄文時代後半期の社会組織を考察しうる遺物として、研究が深化している。当遺跡では遺構内から277点、第2号遺物包含層から4,864点出土しており、内陸部に立地する遺跡としては比較的多く出土しているといえる。製塩土器は主に口縁部の形態に時期差などの製作上の特徴が表れることから、口縁部破片を中心に分類し特徴を把握することとした。分類と遺構ごとの個数については以下の通りである。

口縁部A類：口縁部がナデあるいは磨きにより調整されるもので、断面が丸みをおびているもの。無文粗製土器の口縁部に類似する。

口縁部B類：口縁部の調整が見られず、尖唇状や不整なもの。

口縁部C類：口唇部がヘラ切りにより平坦にカットされるもの。口唇部が外傾するものをC1類、内傾するものをC2類とする。

	A	B	C1	C2	時期
S I 1		5		2	安行3c-3d式
S I 2	1			1	中期中葉
S I 3		1		1	安行1-2式
S I 4		4	2	8	安行3b-3c式
S I 5		3	1	1	安行1-3c式
S I 6	6	30	7	10	安行2式
S I 7				1	晩期前葉-中葉
S I 9		1			安行1式
S I 11	1	1	1	4	安行3b-3c式
S I 13		4	2	1	曾谷式-安行2式
S I 15		1		1	安行2式
S I 16		1			中期中葉-後期前葉
S I 18		6		1	後期-晩期
S I 20	1	5			曾谷式-安行1式
S I 22	2	6	2	3	晩期中葉
S I 24		2		1	加曾科EⅡ-EⅢ式
S I 25		2			前浦式
S I 32				1	後期前葉-後葉
S I 35		3		4	後期前半-晩期前葉
S I 39		1	2	1	後期後葉
S I 41	4	1	1	1	曾谷式-安行1式
S I 47	2	8			類之内1式/安行1-2式
HG 2	30	188	22	34	

表19 築地遺跡から出土した製塩土器（点数）

中期前半及び後期前葉の第2・16号竪穴建物跡から出土したものは、重複による混入の可能性が高い。晩期の第4・11号竪穴建物跡で打ち削ぎ状にへら切りするC2類が多いものの、各遺構とも圧倒的にB類が多く、時期による形態差が捉えられない。よって当遺跡においては、口縁部形態の差異は時期差ではなく、B類を中心としたバリエーションと捉えられる。また底部では木葉痕のものもあるが、多くは削りのままの小さい底部で、その比率は1：2ほどであった。

このほか、ほとんど触れることができなかった土器群に、遺構外から出土した縄文時代早期後半の条痕文系土器群がある。第2号遺物包含層からは997点出土しており、鴨ガ島台式から茅山下層式に比定できるものが多い。特に第2号遺物包含層のC6d4区やC6d8～C6d0区、C6e8・e9区などの調査区南部では、ややまとまって出土している。これらのことから、早期後半に比定できる遺構の存在も考えられたが、明らかにすることはできなかった。今回の整理では、土器のほとんどについて図化することができなかったが、これらの土器群についても、今後何らかの形で公表していきたいと考えている。

今回の調査で出土した土製品、石器・石製品については、以下の表のとおりである。当遺跡で特筆されるのは、竪穴建物跡及び土坑から出土した骨角製品であり、台地上の集落遺跡であるにもかかわらず、良好な状態で確認できた。第8号竪穴建物跡の覆土中からは2点の栓状製品が確認できた。材質は鹿角製で、B2には赤彩が見られる。B3は鹿角製の簪である。これらは建物跡の時期から、後期後葉曾谷式から安行1式期に比定できる。第143号土坑から出土した骨鏃は、長軸8.3cmの大型のもので、ヤスの可能性もある。シカ中手骨製で、時期は後期後葉である。第22号竪穴建物跡からは、2点の骨角製品が出土した。B1は上下端部が欠損しているが、おそらく二等辺三角形の垂飾品で、上部には貫通孔がみられる。鹿角製で、裏面は素材の面を残したままで、内面にはI字文を基調とした文様が描かれている。内面には彩色が施されているようにも見えるがはっきりしなかった。B2は鹿角製の棒状製品で、裏面は素材の面を残し、表面にはI字文を組み合わせた文様が描かれている。文様の彫刻部が黒色を呈していることから、彩色されていた可能性がある。形状から簪と考えられるが、B1・B2とも類例を確認することができなかった。また第105号土坑からは、櫛の破片が2点確認されている。木質部はなく、漆塗布部分のみが遺存している。この2点は接合しないが、同一個体と考えられる。覆土下層から出土したもので、他の不要物とともに廃棄されたものと考えられる。

	土器片 (点) (kg)	土鉢	土器片類	耳筒	土罎	土版	有孔円盤	動物形	棒状	匙形	目輪状	サメの歯形	土製垂飾品	土器片円盤	焼成粘土塊	発泡体	石錐	石鏃	石匙	磨製石斧	打製石斧	石皿類	磨石類	石鉢	砥石	石製垂飾品	鎌	石剣石槍	独鈷石	硬石製骨品
遺構内 (S1)	151,108 2730.1	14	1	59	89	30	26	2	5	5	31		1	142	121	42	7	21	1	74	29	96	404	34	102	8	28	81	1	13
遺構内 (S,K)	17,082 296.72	1		7	11	2			2		6			20	9	4		4	1	6	4	18	51		25	1	5	2		
遺構内 (その他)	431 21.498				1									2						1		3								
HG1	29,541 478.1		1	6	6	3	2		1		1	1	1	24	63	1	3	4		11	10	15	51	7	16	1	1	12		4
HG2	168,629 2787.5	5	3	63	90	12	4		5	3	19		3	241	21	13	2	25		44	23	79	395	47	148	5	59	69	2	5
合計	366,791 6313.92	20	5	135	197	47	32	2	13	8	57	1	5	429	214	60	14	52	2	136	66	207	904	88	291	15	96	164	3	22

表20 築地遺跡出土の縄文土器・土製品・石器・石製品集計表(点数)

(2) 築地遺跡の調査略史と集落形態についての予察

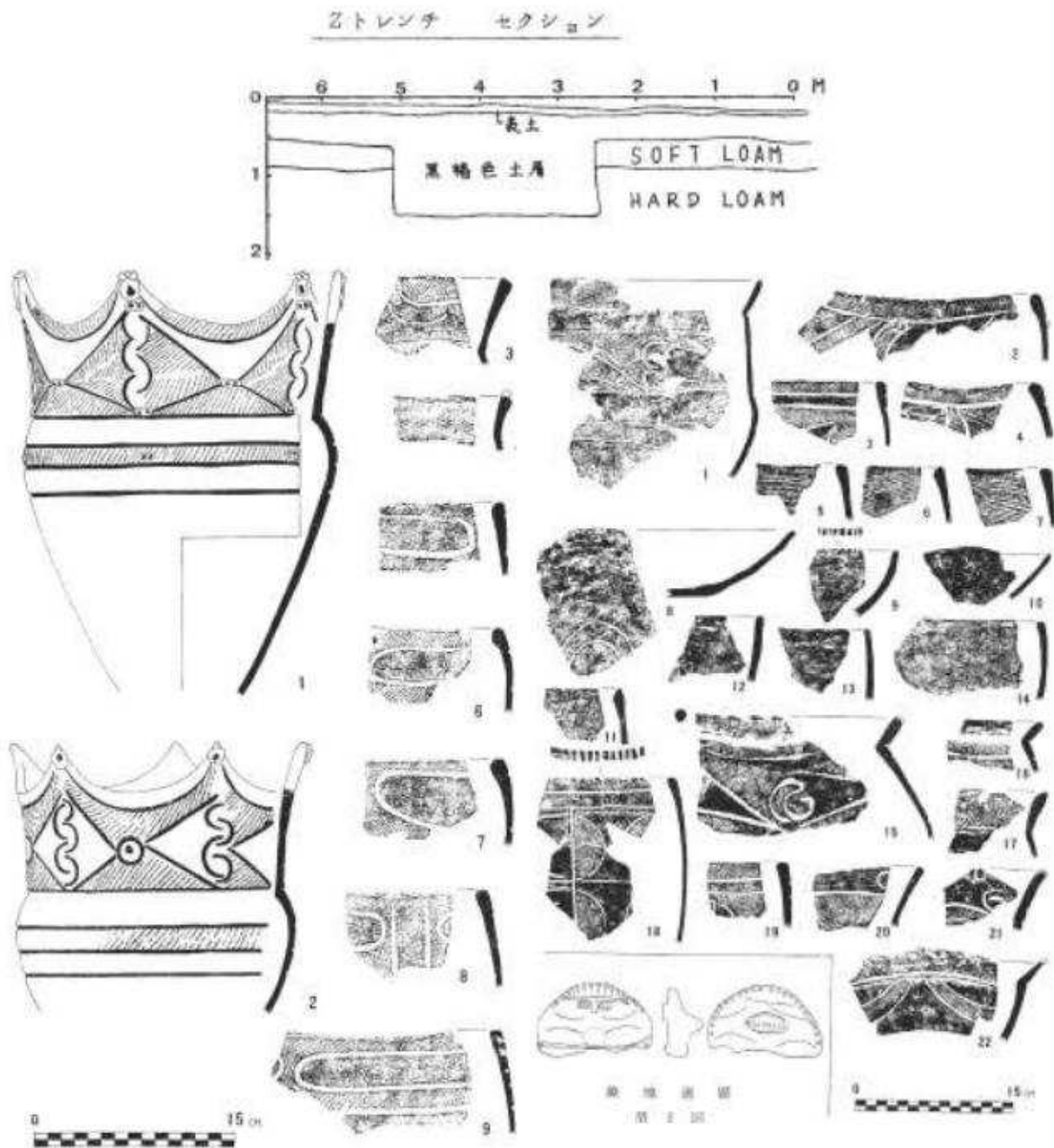
当遺跡は、歴史的環境でもふれたように、縄文土器や貝類が散布するところとして古くから知られていた。戦前には大山史前学研究所が発掘調査を行っているが、縄文土器の研究上でも特に注目されるのは、昭和38年に清水潤三氏のもと慶應義塾高校が行った発掘調査及び報告である⁴⁾。A・Y・Zの3か所のトレンチ調査で、そのうちのZトレンチからは、晩期前葉を中心に良好な資料が出土し、「姥山Ⅱ式」の設定に寄与している。調査報告を精読すると、Aトレンチは斜面の中腹に設けられた1m×12mの東西トレンチで、ローム面まで浅く、耕作による攪乱が著しかったようである。土器は小破片で、加曾利B式から安行1・2式が中心に出土した。Zトレンチは、Aトレンチの東北50mの位置に設定された東西2m、南北3mの調査区で、一部竹藪にかかるが、深さ約1mの黒褐色土を覆土とする掘り込みが確認できたようである。焼土やピットも確認できていることから、姥山Ⅱ式期の竪穴建物跡の一部を調査したものと考えられる。その西隣を東西2m、南北3mほど拡張した部分にかけて、径2.5mの隅丸長方形状で、深さが150cm以上のピットが確認されている。黒褐色土を覆土としており、形状から円筒形土坑と考えられる。またZトレンチから西北50mの地点に設定された東西4m、南北2mのYトレンチからは加曾利B式を主体とした淡水貝の貝層を伴う包含層が確認されている。貝層はタニシ、アカニシ、オオノガイを含んだ混土貝層で、山形土偶の頭部も出土している。これについては、斜面貝層ではなく、恐らく建物内に廃棄されたいわゆる「住居内貝層」と考えられる。以上の慶應義塾高校調査区の位置について、報告には調査地点の詳細な位置の記述はなく、今回の調査区との関係は不明である⁵⁾。

以上の過去の調査から読み取れる内容と今回の調査成果を踏まえ、築地遺跡の集落形態について概観してみたい。調査A区では中期前半から晩期中葉の建物跡が確認できた。中期の遺構は、調査区東部で多く確認できたが、土器は全体から出土していること、西部にも第2・42号建物跡や第4・5号土坑が位置することなどから、後期以降の遺構に掘り込まれて確認できなくなっているものの、本来は台地全体に位置していたと考えられる。調査B区も同様である。中期の遺構の重複はほとんどなく、台地全体に広く展開している。このような在り方は、谷を挟んで北西部の台地上にある天王原遺跡⁶⁾と同様であり、関係性が示唆される。後期から晩期前葉期の遺構は、北側の斜面部にかかる北西部から中央部にかけて、弧状に帯状に配置しているように見える。時期による遺構の占地の違いはみられないが、緩やかに下がる南西部側に晩期中葉期の遺構が多く確認できる。第2号遺物包含層の範囲もおおよそ後期から晩期前葉期の遺構の配置と一致する。縄文後期・晩期に関東地方に見られる層厚のある遺物包含層が集落の一形態であることは、これまでの阿部芳郎氏や江原英氏⁷⁾の研究、及び多くの当該期の調査事例⁸⁾で明らかである。今回の調査でも、遺物包含層の生成の一因が、遺構の構築や廃棄の痕跡の累積であることが明らかとなった。

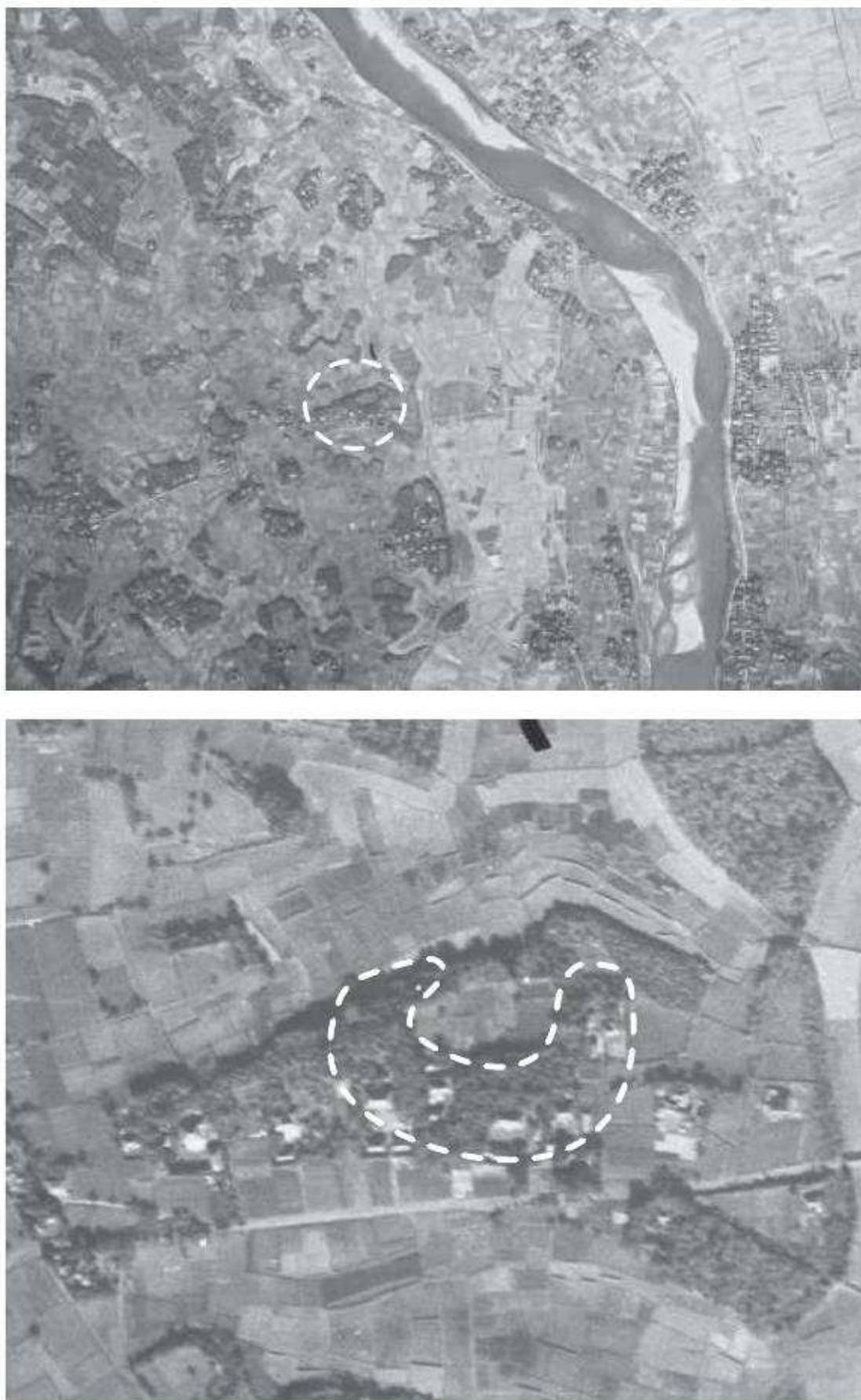
それでは、周辺の地形等を含めて、集落の全体像を推測してみたい。調査A区と調査B区の間は、後世の土取りによって削平され幅60mほどの間隔があり、標高は北側の低地部よりはやや高いものの、台地上との比高は約6mである。1947年10月に米軍が撮影した空中写真(第354図)を見てみると、築地遺跡は鬼怒川からの支谷により複雑に開析された、舌状台地状に張り出した台地の先端部に位置している。当時の地目は山林であるが、遺跡の中央部は樹木がなく開かれて耕作地となっているようである。この開けた部分がほぼ現在のA区とB区の間削平部分にあたるようで、平成20年度に作成された公共測量図を見ると、この部分には標高16mほどの支谷が入り込み、台地上から緩やかに傾斜している様子が伺える。確証は得られないが記述の内容をたどると、慶應義塾高校の調査Aトレンチは、この斜面部に、

斜面下の道路に平行するように東西に設けられたと考えられる。以上のことから調査A・B区間の削平は、平成20年以降に行われ、現在のような形状に至ったものと考えられる。

当遺跡の立地する台地は、北部と南部が支谷により開析されているため、幅約200mと幅狭い。調査区より南側では、遺跡すぐ南側の民家や畑の辺りまで、非常に多くの遺物が採集できるが、南側を東西に走る県道までいくと、遺物はほとんど確認できなくなる。遺構の位置や遺物の散布、および地形などから総合的に考えると、当遺跡は東西約150m、南北約120mの大きさで、北側から入り込む谷津を中央窪地とする環状集落である可能性がある。中央窪地部分の削平が行われているかどうかは、今回の調査では確認できなかったが、自然の窪地を利用して窪地の周辺に集落を継続的に構築していく様子が伺えよう。(江原美奈子)



第353図 慶應義塾高校の調査トレンチと出土遺物（『Archaeology』28・29より抜粋）



第 354 図 築地遺跡の集落範囲（上：遠景 下：近景 国土地理院ウェブサイトから引用・一部加筆）

3 室町時代

当時代の遺構は、地下式坑6基、土坑11基、堀1条を確認した。出土遺物は、土師質土器（小皿、内耳鍋、擂鉢、火鉢）、瓦質土器（鉢）、陶器（天目茶碗、小皿、筒形香炉、瓶子、甕）、石器（砥石、石臼）、石製品（宝篋印塔）である。

地下式坑は、調査区域の東部に位置する第1号堀跡を挟んで、西部に2基、東部に4基確認できた。形状別に分類すると、竪坑の位置が、西向きと南向きの2タイプに分かれる。西向きが第4・6号地下式坑、南向きが第1・2・3・7号地下式坑である。主室の形状は、隅丸方形と楕円形及び、隅丸長方形のものに分けられる。隅丸方形が第1号地下式坑、楕円形が第2号地下式坑、隅丸長方形が第3・4・6・7号地下式坑で、隅丸長方形のものが多い。さらに竪坑が南向きで、主室が隅丸方形と隅丸長方形、楕円形のものに分けられる。竪坑が西向きのものは、主室は隅丸長方形で、竪坑が短辺に付設される第4号地下式坑と長辺に付設される第6号地下式坑の2タイプに分かれる。

断面形は、竪坑が主室に向かってスロープ状に落ち込んでいく第1号地下式坑、竪坑と主室に差が無い無段の第2・3・4・6号地下式坑、竪坑が段差を有する第7号地下式坑に分類できる。

遺物の出土しているものは、第2・3号地下式坑で、時期は出土土器からともに16世紀後半に比定できる。そのほかの地下式坑は、遺物の出土がないため、詳細な時期は不明である。

次に性格については、これまでの地下式坑の研究では、貯蔵穴説と墓坑説がある。遺物の出土している第2・3号地下式坑は、ほぼ形状が似ており、土師質土器（小皿・内耳鍋）、石塔（宝篋印塔）の出土から、墓坑と考えられる。また、特筆すべきことは、第3号地下式坑の竪坑の入り口を粘土で閉塞していることである。閉塞された状態で検出される例は全国的にみても少ない。これについて斎藤弘氏は「竪坑の埋土を観察すると、そのほとんどが、自然埋没である。一般に地下式坑では、閉塞の後、再掘削しているとしか考えられないだろう」⁹¹と述べられているように、古墳の石室の閉塞石の例のように、盗掘等や移設の際に再度掘り返されたものと考えられる。また、埋め戻されていない覆土が自然堆積のものは、竪坑が開口されたまま放置されたものと考えられる。

閉塞された状態で検出した類例は、県内では現在のところ見られない。県外では栃木県小山市金山遺跡Ⅱ区SX-083¹⁰、群馬県前橋市大友屋敷Ⅱ遺跡D-1¹¹がある。そのほか、完形の板碑を竪坑の入り口部に横位で差し込んでいる東京都多摩市多摩ニュータウンNO513遺跡の4号地下式横穴¹²や、石で閉塞している東京都北区御殿前遺跡例¹³があるが、閉塞された状態で検出される例は全国的にみても少ない。

土坑は形状が長方形で、覆土の状況が人為堆積であることから墓坑の可能性はあるが、根拠となる遺物の出土がないことから、性格不明である。

最後に第1号堀跡と地下式坑との関係を見ていく。堀を境に西部の第2・3号地下式坑と東部の第1・4・6・7号地下式坑がある。

東部の第1・4・6・7号地下式坑は、出土遺物がないため、時期は不明であるが、第1号地下式坑は、第1号堀跡と第2号溝跡との間に位置していることから、第1号堀跡が機能している時期には、土塁の下にあったことが考えられる。また、堀と伴う可能性がある第4号溝に第4号地下式坑が掘り込まれていることから、第1・4号地下式坑は、堀構築以前の遺構と考えられる。第6・7号地下式坑については、遺構の重複や出土遺物がなく明確な時期が不明であるが、遺構の配置状況から、第1・4号地下式坑と共存していた可能性があり、第1・4号地下式坑同様、第1号堀跡の構築以前のものと考えられる。西部の第2・3号地下式坑からは、遺物が出土しており、時期は出土土器の特徴から16世紀後半に比定できる。このことから第

1号堀跡と第2・3号地下式坑は、16世紀後半に共存していた可能性がある。

4 江戸時代

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、粘土貼土坑2基、土坑5基を確認した。遺構は調査A区の東部に集中し、調査B区の南東部に井戸跡が1基確認できた。遺物は、土師質土器（焔炉）、陶器（碗・大鉢）、染付磁器（碗・仏飯器）が出土している。

掘立柱建物跡は、調査A区の東部に位置する南北棟の桁行5間、梁行1間の側柱建物が1棟確認できた。出土遺物がないため詳細な時期は不明であるが、18世紀前半の第194号土坑を掘り込んでいること、掘立柱建物は、地方でも19世紀後半には礎石建物に移行する¹⁴⁾様相から、当遺構は、18世紀前半以降から19世紀後半と考えられる。性格は、焔炉裏跡が伴うことと、規模や形状から母屋と考えられる。

井戸跡は、調査B区北東部の台地縁辺部に位置している。円筒状の素掘りの井戸である。第3号地下式坑の掘り込みを利用して掘り込んでいる。時期は、出土土器から18世紀後半と考えられ、調査A区東部に位置する土坑群よりやや時期が新しくなる。当遺構と伴う建物は、調査B区内では確認できなかった。伴う建物は調査区域外の南側に展開するものと考えられる。

土坑は、調査A区の東部に集中している。遺物の出土しているものは、第1号粘土貼土坑及び第194・202号土坑で、陶磁器が出土しており、いずれも18世紀前半に比定できる。性格は、第1号粘土貼土坑は、形状や釘などの出土から、水桶等の容器を据え置くための基礎部分と考えられる。第2号粘土貼土坑は、出土遺物がなかったが、第1号粘土貼土坑と形状が似ていることからほぼ同時期と考えられ、性格も水甕や水桶等を置いた基礎遺構と考えられる。第194・202号土坑は、覆土の状況、仏飯器等の出土から、墓坑の可能性もあるが、形状が不整形であることから性格不明である。（近江屋成陽）

5 おわりに

以上、今回の調査成果を時代ごとに概観した。築地遺跡では縄文時代早期の撚糸文期から遺物の散布が見られるが、本格的に台地上を利用し始めるのは早期後半の貝殻条痕文系土器群の時期からである。『水海道市史』によると、昭和38年の慶應義塾高校調査地点の東方、鬼怒川に面して延びる台地先端部斜面に、2か所の小貝塚が確認されている¹⁵⁾。今回の調査では、比較的多くの土器と、数基の土坑を確認したに過ぎないが、中期以降の集落により多くの遺構が破壊されたと考えることができる。中期前半以降は断続的に集落が営まれる。今回は台地上から斜面の一部を調査したに過ぎないが、地形や遺構の配置などから、中央に窪地を有する環状集落と考えた。層厚のある遺物包含層は、いわゆる「環状盛土遺構」で、建物跡などの遺構の構築・廃棄・整地行為などの反復的な土地利用の結果、多重復の遺構の確認と多量の遺物が出土する様相が捉えられたことは、これまでに多くの研究者が指摘してきたことを追認する結果となった。斜面など一部に意図的な盛土行為も認められたが、窪地部分の削平等は可能性はあるものの明らかにはできなかった。遺物は多量に出土しているが、特に何かが突出しているような様相や分布の偏在等は確認できない。また東北系の土器群も含め異系統の土器群は少量であり、他地域から搬入された遺物も、黒曜石や翡翠の垂飾品等を除けばほとんど認められない。当地域の拠点的な集落であると思われるが、後晩期という時代においては、環状盛土遺構を有する集落は、ごく一般的な集落形態であったのであろう。その中でアスファルト付着の礫や石鏃を確認できたこと、骨角製品や木製品の出土は、縄文時代後期・晩期の一般的な集落の保有形態から社会システムを考える資料として、今後注目されよう。

室町時代の遺構では堀跡と地下式坑が確認されたのみである。また江戸時代の遺構も掘立柱建物跡や土坑などが確認されたのみで、どのような土地利用が行われたのかを考察する資料に乏しい。しかし、台地の縁を縦断する深い堀跡は、現在の宅地の境界や宅地から公道に延びる私道と方角を同じくしており、また江戸時代の遺構は、農村の屋敷地を示す事例として、以後の土地利用との関連も伺えよう。

今回は調査で得られたことをまとめ、そこから推察される事柄について指摘したに過ぎない。本来ならば類例を上げて土器様相や集落景観を示すべきであったが、今回はなしえなかった。また遺物包含層の構築過程について、堆積層と出土遺物の相関関係を十分に示しえなかったことも反省点の一つである。築地遺跡から得られた成果を発展的に昇華させるための今後の課題としては、後期後半から晩期中葉の当地域の土器様相を明らかにすること、そして遺物包含層を集落遺構として捉えるための調査方法及び整理方法のさらなる整備が挙げられよう。今後の課題としたい。(江原美奈子)

註

- 1) 江原美奈子「茨城県における縄文時代後期前葉から晩期中葉の竪穴建物跡について」『研究ノート』第14号 公益財団法人茨城県教育財団 2017年6月
- 2) 鈴木正博「第3節「環堤土塚」と馬場小室山遺蹟、そして「見沼文化」への眼差し」『環状盛土遺構』研究の現段階 馬場小室山遺蹟に学ぶ市民フォーラム実行委員会 2007年
- 3) 三澤正善ほか『乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書』小山市教育委員会 1982年3月
- 4) 慶應義塾高等学校歴史研究会「茨城県水海道市大輪町築地遺跡発掘報告」『Archaeology』28・29 1965年10月
- 5) 今回の報告にあたり、慶應義塾大学の安藤広道教授、神奈川県立歴史博物館の千葉毅氏には、資料の確認・見学などを通じて、多くのご指導とご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。
- 6) 小川貴行『天王原遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第371集 2013年3月
- 7) 多くの研究があるが、代表的なものとして次の2つを挙げておきたい。
阿部芳郎「縄文時代における地域社会と遺跡形成に関する構造研究」明治大学史学地理学科考古学研究室 2007年3月
江原英「集落の分析法⑤環状盛土遺構」『縄文時代の考古学8 生活空間』同成社 2009年3月
- 8) 近年調査・報告されたものを挙げると、埼玉県大宮市氷川神社遺跡や同加須市長竹遺跡などがある。
- 9) 斎藤弘、「地下式壙と葬送儀礼」『研究紀要』第4号 財団法人 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997年3月
- 10) 岩上照明・津野仁・本田剛弘・三沢京子「金山遺跡1 -一般国道4号(新国道4号)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査-」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第135集 1993年3月
- 11) 金子正人・白石光男「大友屋敷Ⅱ遺跡」前橋市県教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987年3月
- 12) 加藤修「NO.513遺跡」『多摩ニュータウン遺跡 昭和61年度(第2分冊)』財団法人東京都埋蔵文化財センター 1989年3月
- 13) 黒沢和彦「御殿前遺跡Ⅱ」東京都北区教育委員会 1989年3月
- 14) 服部実喜「第1章 東日本の中近世掘立柱建物」浅川滋男・箱崎和久編『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告 埋もれた中近世の住まい』同成社 2001年5月
- 15) 水海道市史編さん委員会「水海道市史 上巻」水海道市 1983年3月

第4章 宮原前遺跡

第1節 調査の概要

宮原前遺跡は、常総市の東部に位置し、鬼怒川と飯沼川に挟まれた標高約16～20mの台地上に立地している。本遺跡は、平成21年度に16,216㎡を調査し、「当財団文化財調査報告」第335集として報告している。今回は平成26年度に調査した6,436㎡、平成27年度に調査した4,010㎡の計10,446㎡について報告する。調査前の現況は畑地である。

調査の結果、堅穴建物跡17棟（縄文時代3、古墳時代2、奈良時代5、平安時代7）、掘立柱建物跡5棟（室町時代2、時期不明3）、井戸跡6基（奈良時代1、平安時代2、室町時代1、江戸時代2）、陥し穴2基（縄文時代）、土坑120基（縄文時代4、奈良時代1、平安時代8、室町時代2、江戸時代3、時期不明102）、粘土貼土坑1基（室町時代）、溝跡9条（江戸時代5、時期不明4）、ピット群10か所（時期不明）、道路跡2条（江戸時代）、墓坑1基（江戸時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に20箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕・甑)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・鉢・甌・甑)、土師質土器(内耳鍋・焙烙)、陶器(碗・天目茶碗・片口鉢)、土製品(土玉・管状土錘・泥面子・羽口)、石器(石鎌・砥石)、金属製品(刀子・門・煙管・銭貨)などである。

第2節 基本層序

調査区の北東端(D1a2区)にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った(第355図)。土層は10層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、暗褐色土層である。ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚はおよそ40cmである。

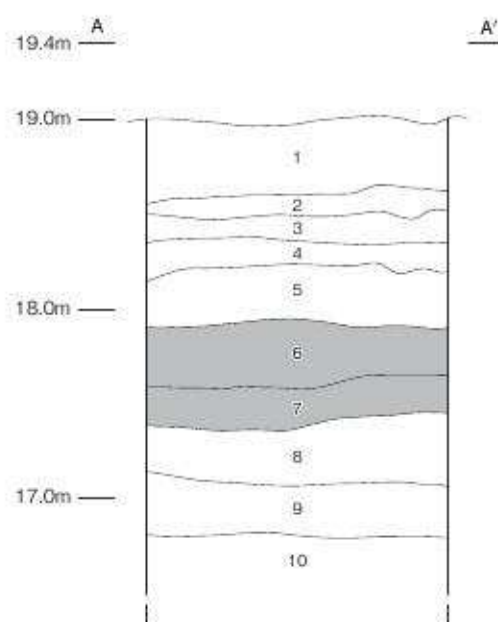
第2層は、褐色を呈するローム漸移層である。ローム粒子多量、炭化粒子・黒色粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚は10～20cmである。

第3層は、黄橙色を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚は15～20cmである。

第4層は、橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は15～20cmである。

第5層は、橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりはやや強く、層厚は20～30cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を少量、白色粒子や赤色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりはやや強く、層厚は25～30cmである。第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。



第355図 基本土層図

第7層は、明褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子・白色粒子・赤色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は20～25cmである。第Ⅱ黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第8層は、明褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は20～33cmである。

第9層は、黄橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。

第10層は、浅黄橙色を呈するハードローム層である。炭化粒子・赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強い。

下部は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は第3層の上面で確認した。



X=+8,200m
Y=+11,040m
B9a1

B10a1

B12a1

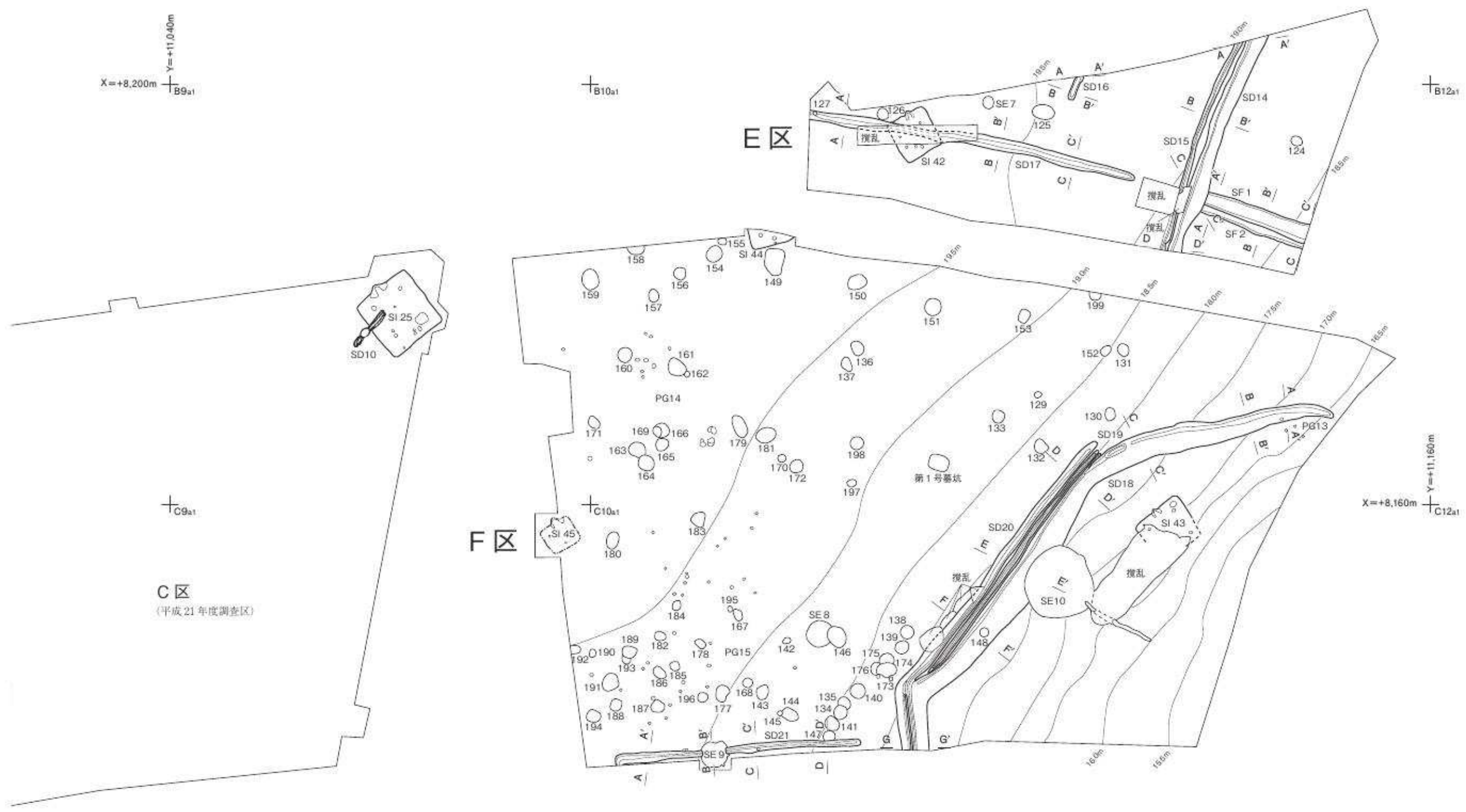
E区

F区

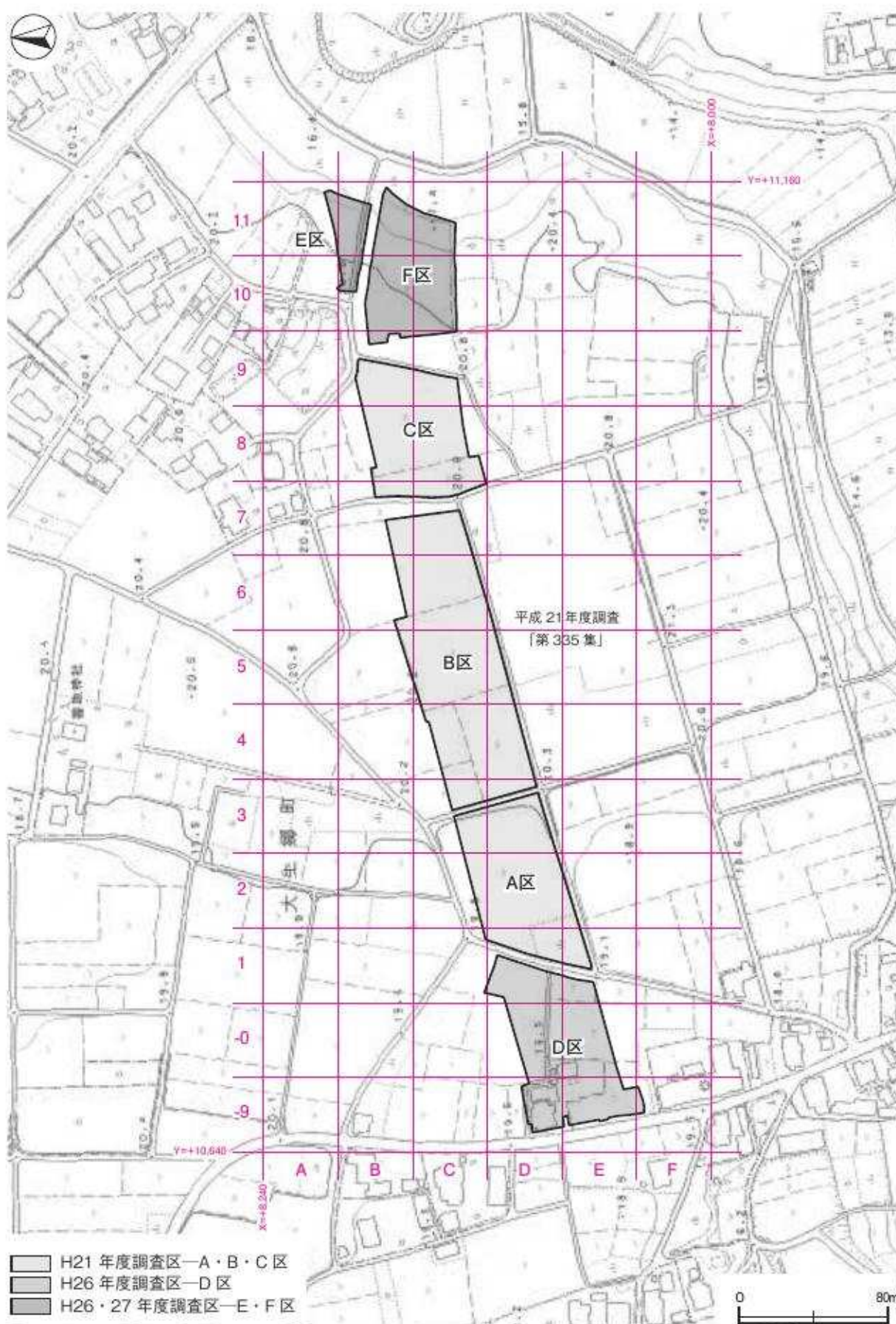
C9a1

C区
(平成21年度調査区)

X=+8,160m
Y=+11,160m
C12a1



第357図 宮原前遺跡遺構全体図 (E・F区)



第 358 図 宮原前遺跡調査区設定図（常総市都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡3棟、陥し穴2基、土坑4基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

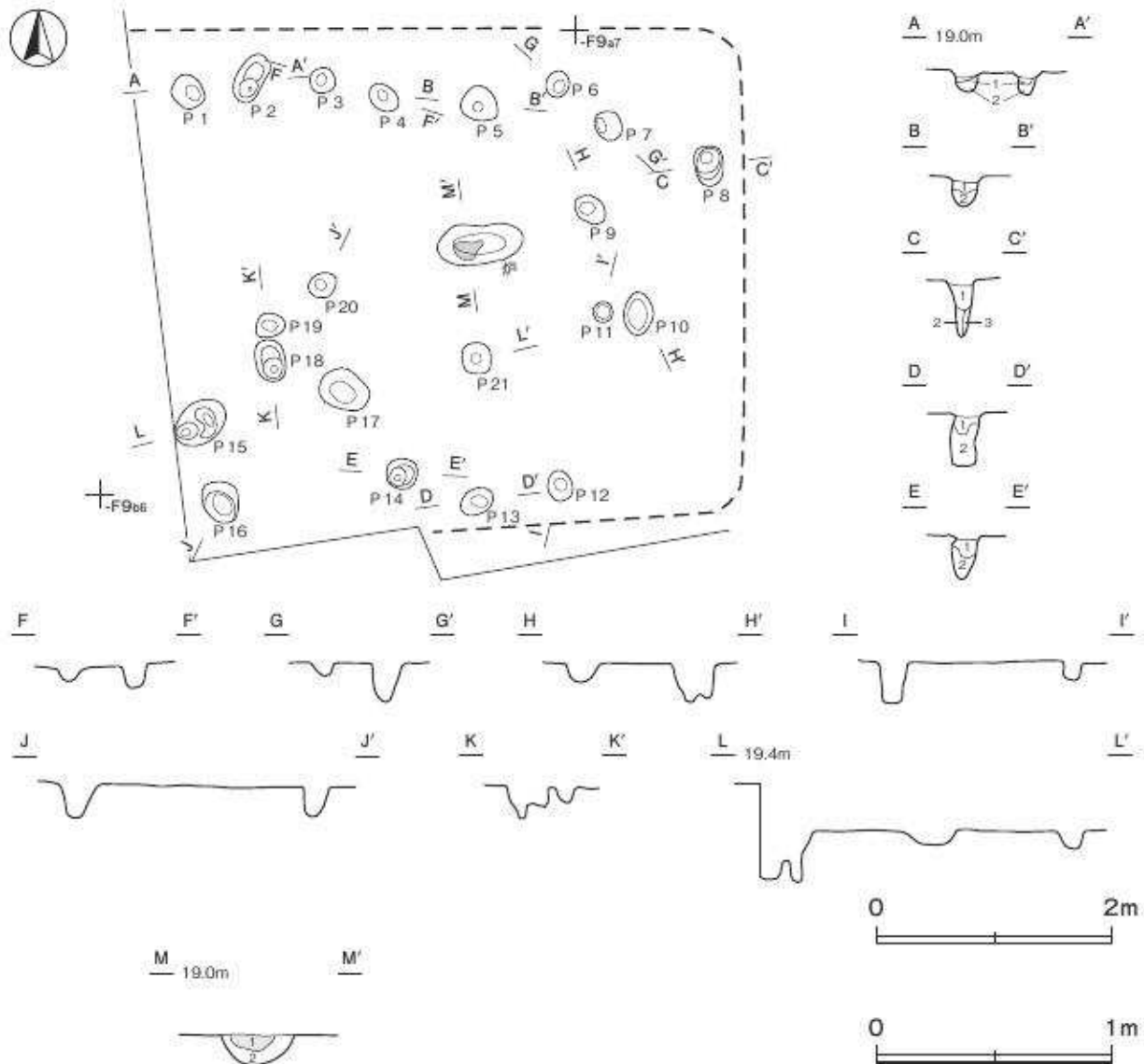
(1) 竪穴建物跡

第33号竪穴建物跡（第359図）

調査年度 平成26年度

位置 D区南西部の-F9a6区、標高19mほどの台地上に位置している。

規模と形状 炉跡とピットを確認した。覆土は削平されている。南西部が調査区域外に延びており、炉跡とピットの配置から、南北軸4.30m、東西軸5.20mしか確認できなかった。確認した柱穴の配置から隅丸長方形と推定される。



第359図 第33号竪穴建物跡実測図

床 削平されている。

炉 中央部に付設されている。残存しているのは長径 80cm、短径 35cmの不整楕円形で、深さ 12cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量

2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量

ピット 21か所。P1～P21は深さ 10～50cmで、柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (P1・P2・P5・P8・P13・P14 共通)

1 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック多量

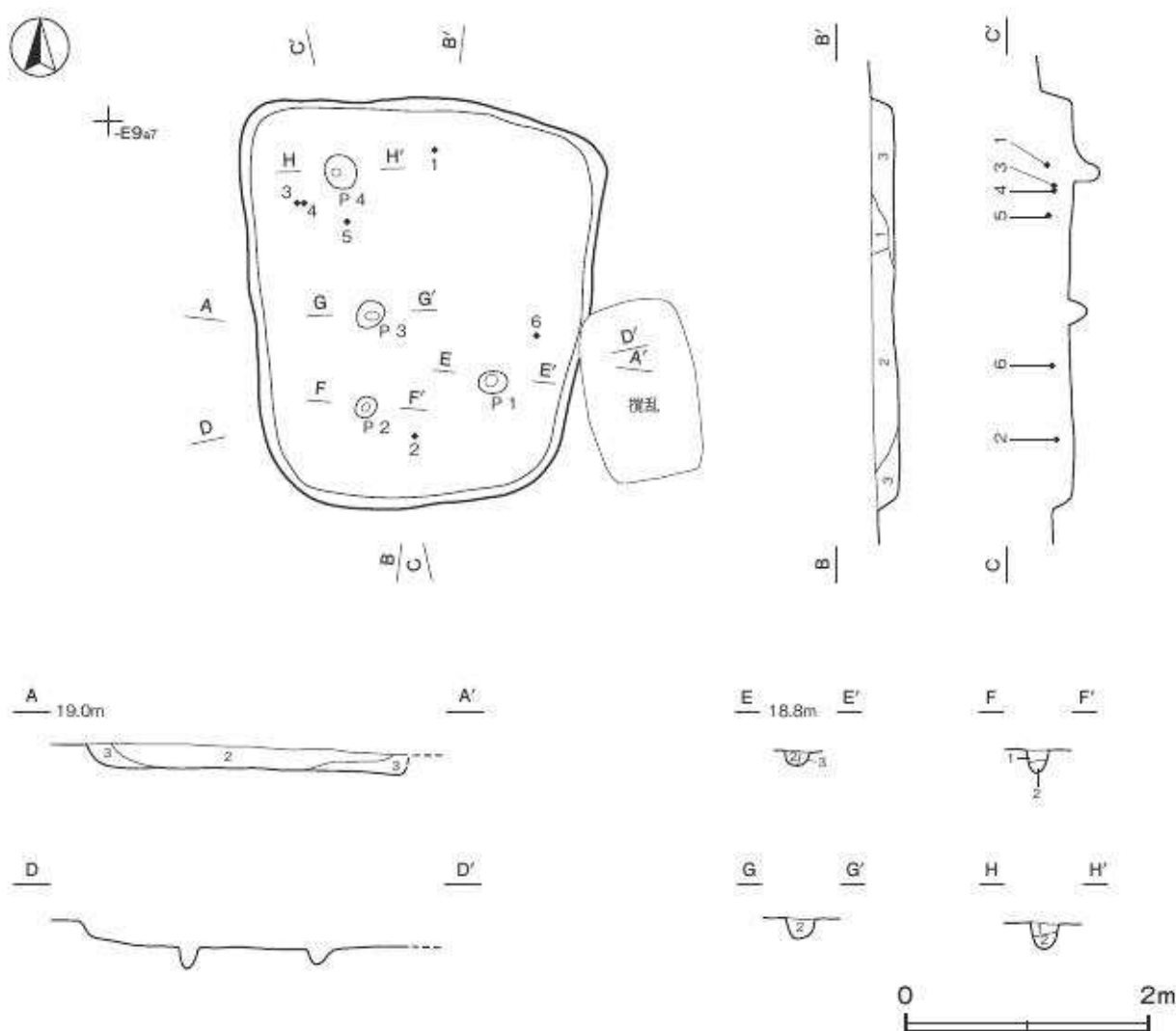
遺物出土状況 出土していない。

所見 時期を決定する遺物はないが、ピットや炉の配置から縄文時代と考えられる。

第 35 号 竪穴建物跡 (第 360・361 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区西部の-E9a7区、標高 19mほどの台地上に位置している。



第 360 図 第 35 号 竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 3.40 m、短軸 3.04 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 6° - E である。壁は高さ 20 ~ 24cm で、ほぼ直立している。

床 平坦である。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 15 ~ 20cm で、配置から支柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

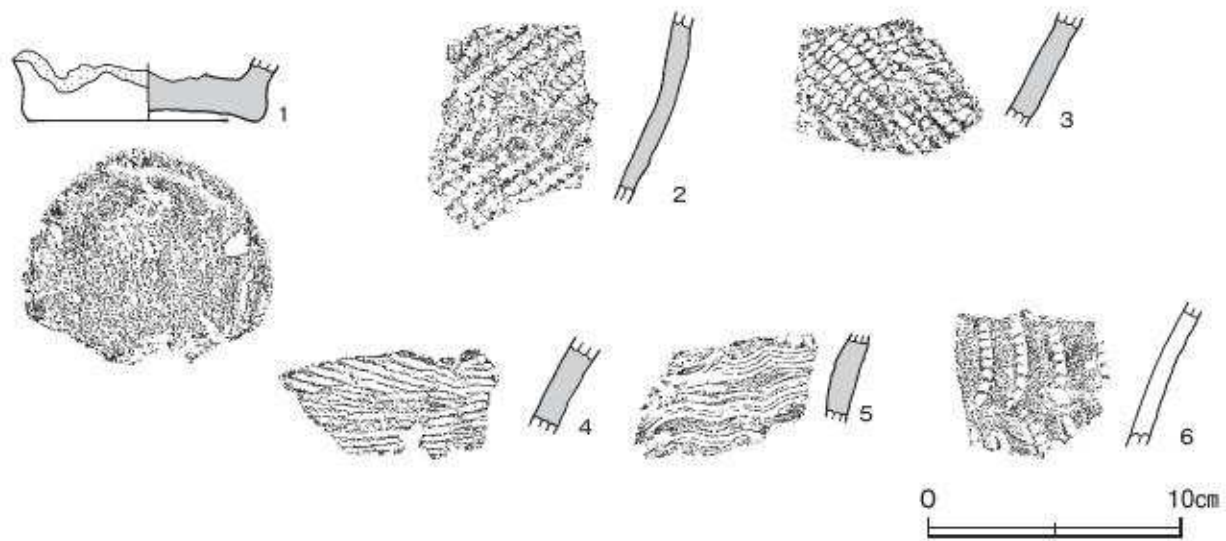
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが混入していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 60 点 (深鉢)、礫 1 点が出土している。2 は南部、6 は東部、3 ~ 5 は北西部、1 は北部のいずれも覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代前期中葉と考えられる。



第 361 図 第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 361 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(25)	9.1	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	10% PL53
2	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・礫	明水褐	普通	0段多条 LR	覆土上層	PL53
3	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・礫	橙	普通	単節縄文 RL	覆土上層	PL53
4	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	無節縄文 R	覆土上層	PL53
5	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	4条の櫛歯状工具による波状文	覆土上層	PL53
6	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	貝殻痕線文	覆土上層	PL53

第 36 号竪穴建物跡 (第 362 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D 区北西部の - D 9 f 8 区、標高 19 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 75 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 炉跡とピットが確認できたのみで、覆土は削平されている。北部が調査区域外に延びているが、

炉跡とピットの配置から、長軸 5.50 m の長方形と推定される。

床 削平されている。

炉 中央部に付設されている。残存部は一辺 45cm の楕円形で、地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック微量

2 褐色 ロームブロック多量

ピット 12 か所。配置から P1・P6・P9 は支柱穴と推定される。他のピットの性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

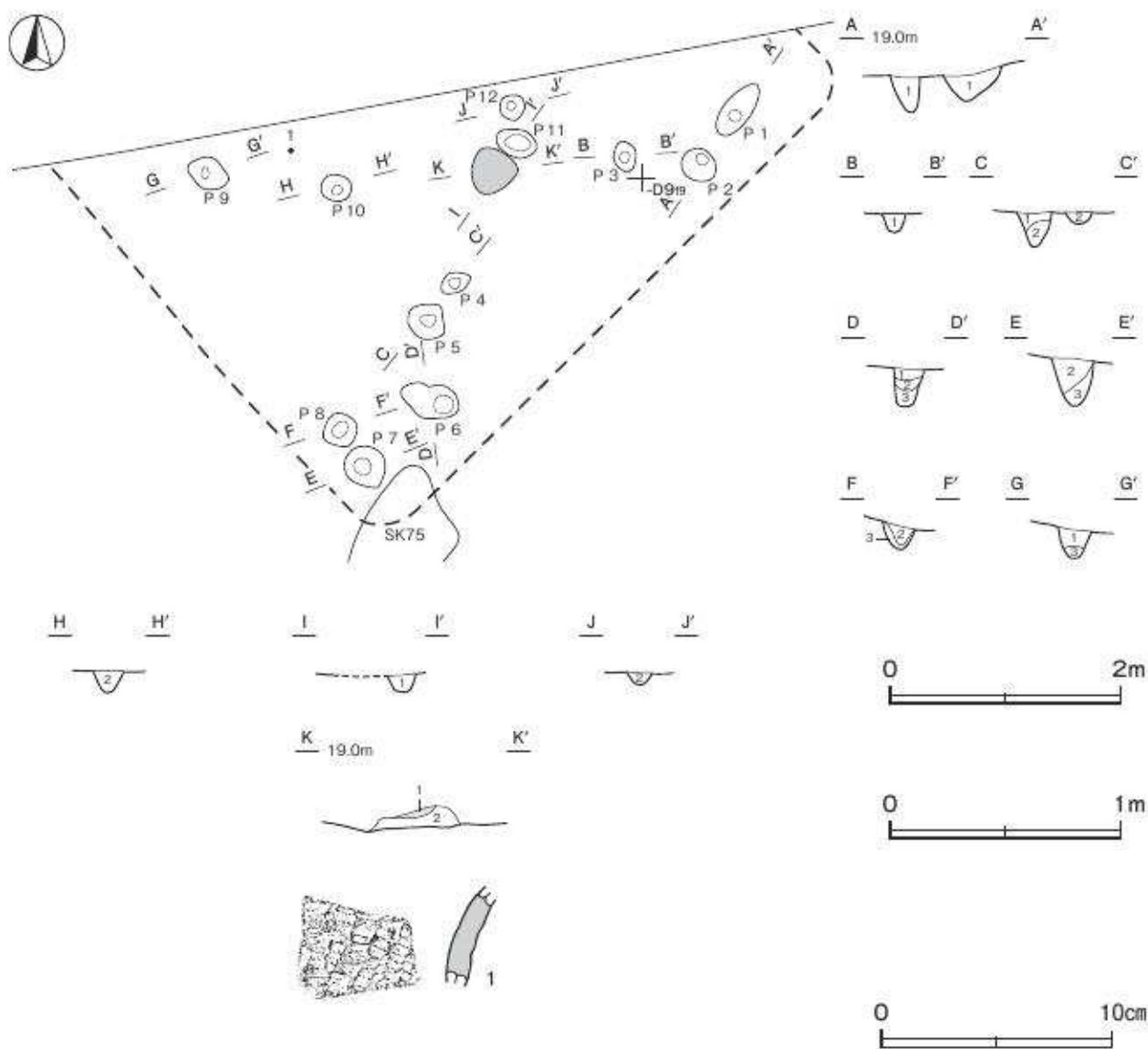
1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 確認面から縄文土器片 3 点 (深鉢)、土師器片 2 点 (甕) が出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代前期中葉と考えられる。



第 362 図 第 36 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 36 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 362 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	長石・石英・繊維	にんい色割	普通	単節 LR	確認面	PL53

表 21 縄文時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	壁高				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
33	F 9 6	—	[楕円形]	[4.30] × [5.20]	—	—	—	—	—	—	21	1	—	—	—	縄文時代	
35	E 9 7	N - 6° - E	楕円長方形	3.40 × 3.04	20 - 24	平坦	—	4	—	—	—	—	人為	縄文土器	前期中葉		
36	D 9 8	—	[長方形]	[5.50] × [4.00]	—	—	—	3	—	7	1	—	—	縄文土器	前期中葉	本跡→SK75	

(2) 陥し穴

第 3 号陥し穴 (第 363 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区北東部の D 1 f2 区、標高 18 m ほどの台地上に位置している。

重複関係 第 12 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.62 m、短径 1.42 m の楕円形で、長径方向は N - 71° - E である。深さは 81 cm で、底面は幅 45 cm と狭く平坦である。長径方向の断面形は逆台形状で、壁は外傾している。

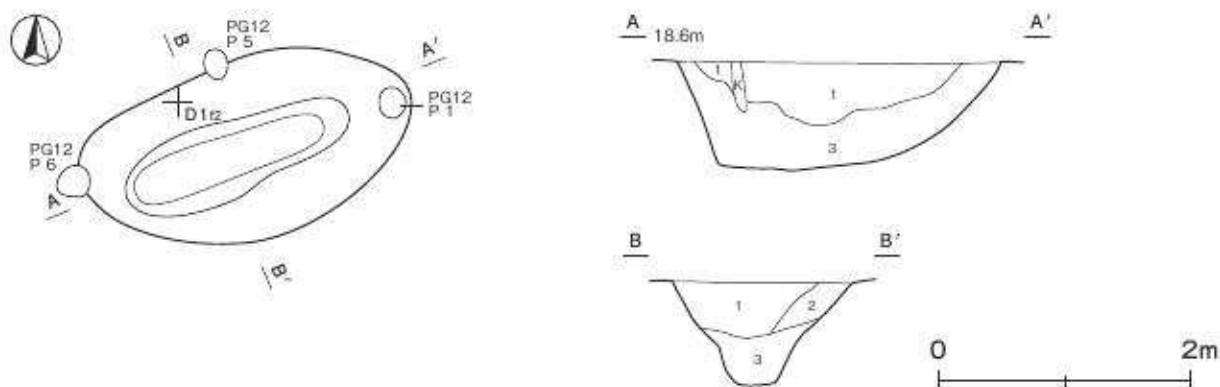
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第 363 図 第 3 号陥し穴実測図

第 4 号陥し穴 (第 364 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区南東部の - E 0 d9 区、標高 19 m ほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径 2.30 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 85° - W である。底面に 2 か所のピットを有している。深さは 80 cm で、底面は幅 30 cm と狭く、平坦である。短径方向の断面形は逆台形状で、壁は外

傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

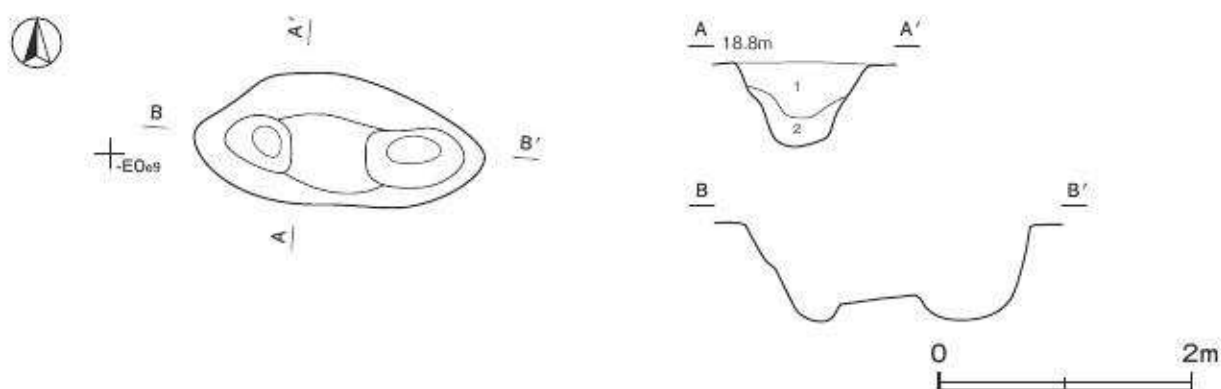
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

2 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。底面のピットは逆茂木を埋設した跡と考えられる。



第364図 第4号陥し穴実測図

表22 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	D1f2	N-71°-E	楕円形	2.62×1.42	81	平坦	外傾	人為		本跡→PG12
4	E0d9	N-85°-W	楕円形	2.30×1.08	80	平坦	外傾	人為		

(3) 土坑

第88号土坑(第365図)

調査年度 平成26年度

位置 D区西部の-E9a6区、標高19mほどの台地上に位置している。

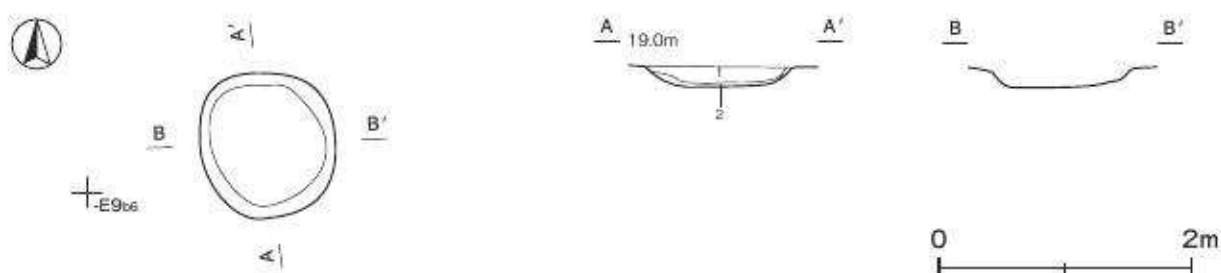
規模と形状 径1.16mの円形で、底面は平坦である。深さは11cmで、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒色 炭化物中量、ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量



第365図 第88号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から縄文時代前期中葉と考えられる。性格は不明である。

第124号土坑（第366図）

調査年度 平成26年度

位置 E区東部のB11b7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.16m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。深さは24cmで、底面は皿状である。壁は外傾している。

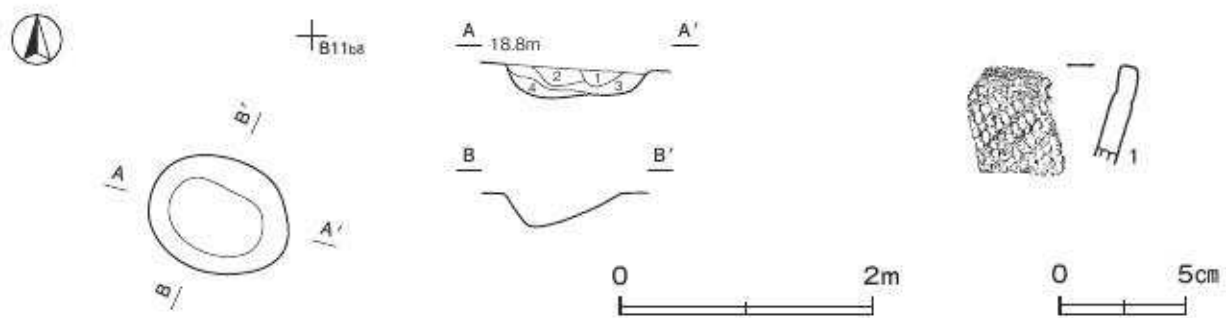
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況や各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土した土器片から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。



第366図 第124号土坑・出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表（第366図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文LR	覆土中	PL53

第150号土坑（第367図）

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB10e7区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.80m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは64cmで、断面形は漏斗状を呈している。

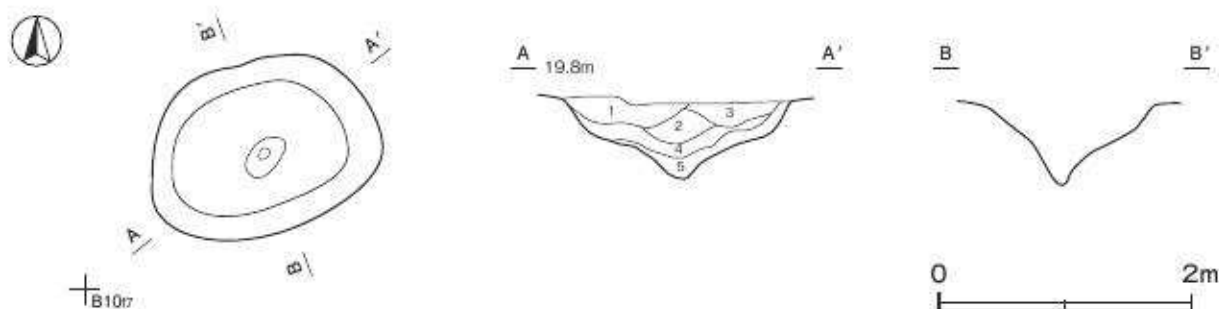
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。性格は不明である。



第367図 第150号土坑実測図

第151号土坑(第368図)

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB10f9区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.60mの円形である。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

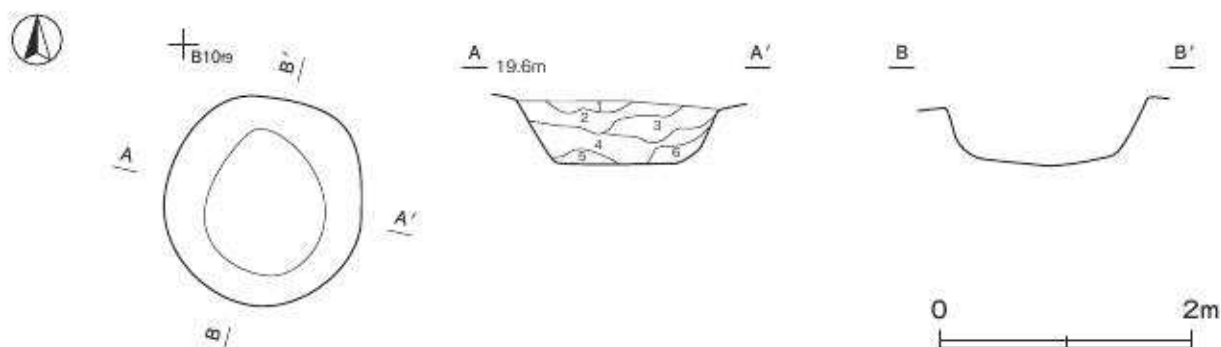
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。性格は不明である。



第368図 第151号土坑実測図

表23 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
88	E9a6	-	円形	1.16 × 1.16	11	平坦	外傾	人為	縄文土器	
124	B11b7	N-66°-W	楕円形	1.16 × 0.90	24	皿状	外傾	人為	縄文土器	
150	B10e7	N-52°-E	楕円形	1.80 × 1.40	64	V字状	外傾	人為	縄文土器	
151	B10f9	-	円形	1.60 × 1.60	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第42号竪穴建物跡（第369・370図）

調査年度 平成26年度

位置 E区西部のB10b8区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m、短軸4.02mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁は高さ34～40cmで、直立している。

床 ほほ平坦な貼床で、コーナー部を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多量に含む第7層を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が全周している。床面の南部を中心に焼土及び炭化物が出土している。中央部の床面に楕円形の焼土の広がりを確認したが、床面と同様に硬化していることから、本跡が廃棄される時点では使用されていなかったものと考えられる。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は65cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上にローム粒子や炭化粒子を含んだ第8～11層を積み上げて構築されている。火床面は床面を5cmほど掘り込み、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

竈土層解説

1 褐 色	炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 灰・褐 色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	焼土ブロック・焼土粒子微量	9 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 極暗赤褐色	焼土ブロック・焼土粒子微量	10 にぶい赤褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 赤 褐 色	焼土ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量
6 にぶい褐色	ロームブロック中量	13 黒 褐 色	炭化粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
7 暗 褐 色	焼土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量		

ピット 6か所。配置からP1～P3は主柱穴、P4は出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5・P6は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒 褐 色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	5 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック微量	7 褐 色	ロームブロック少量
4 黒 褐 色	炭化粒子少量、ロームブロック微量		

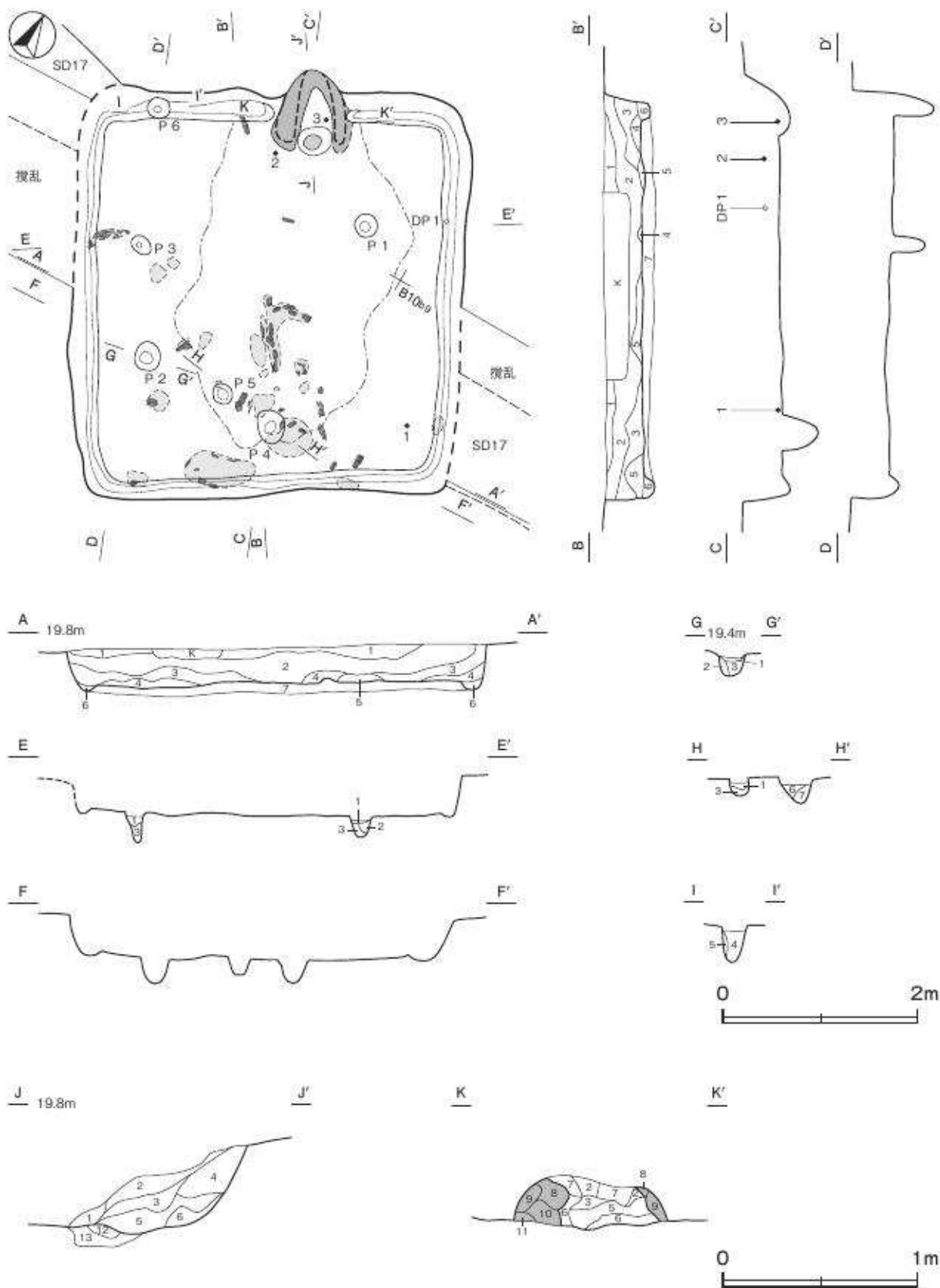
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

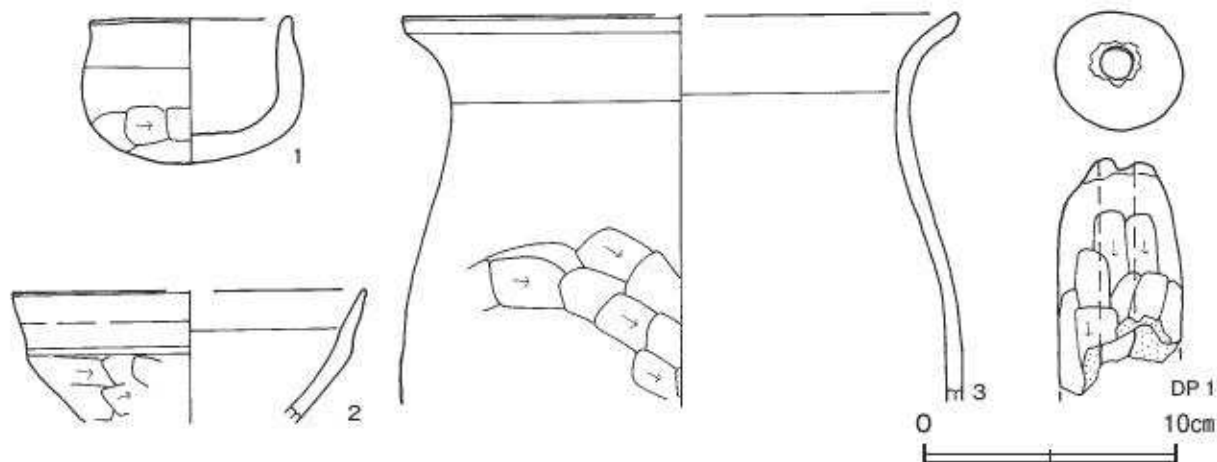
1 黒 褐 色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	5 極暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
2 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 極暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 明 褐 色	ロームブロック多量
4 黒 褐 色	炭化材少量、ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片23点（坏1、椀3、甕19）、須恵器片1点（坏）、縄文土器片10点、陶器片4点（碗）、土製品1点（羽口）が出土している。2は竈手前の覆土下層から、1は南東コーナーの床面から出土している。3は、竈の火床部に高さ調節に安定させる土を盛った上から、逆位の状態で出土している。火を受けて赤色変化していることや出土位置から支脚として利用されていたと推定される。DP1は東壁下の覆土下層から出土している。縄文土器片及び陶器片は攪乱部からの出土である。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。焼土や炭化材が多量に出土しているが、残存率の良い土器がほとんどないことから、廃絶後に建物の部材等を焼却したものと考えられる。



第369図 第42号竪穴建物跡実測図



第370図 第42号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42号竪穴建物跡出土遺物観察表（第370図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	碗	8.0	5.9	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り	床面	95% PL53
2	土師器	碗	[13.6]	(5.3)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ 外・内面黒色処理	覆土下層	20%
3	土師器	浅	[21.8]	(15.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈火床部	30% PL53

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	羽口	5.0	(9.4)	1.33	(189.7)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	外面ヘラ削り	覆土下層	

第43号竪穴建物跡（第371・372図）

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のC 11a4区、標高17mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸は5.08mで、短軸はP 2の位置から4.56mと推定される。主軸方向は竈の位置から、N-20°-Wと推定できる。遺構が南東に向けて下る斜面に位置し、南西部は削平されている。また、南部は攪乱により壊されている。確認できる壁は高さ8~12cmで、外傾している。

床 北東部はほぼ平坦な貼床で、北壁下が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第6層を10~15cm埋土して構築されている。壁が確認出来る範囲では壁下に幅15cm、深さ15cmほどの壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。削平のため本来の規模は明確でないが、確認できるのは焚き口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は44cmである。左袖部内面は火熱により赤変硬化している。袖部は地山をわずかに掘り下げ、粘土ブロックを含む第10~12層を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 極暗赤褐色 焼土粒子少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化物微量 | 9 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 褐色 粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 13 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 7 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 3か所。P 1は深さ53cm、P 2は深さ18cm、P 3は深さ36cmで、配置からいずれも支柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|-------------------|
| 1 新暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

貯蔵穴 北東コーナーに付設されている。長径70cm, 短径55cmの楕円形で、深さは35cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

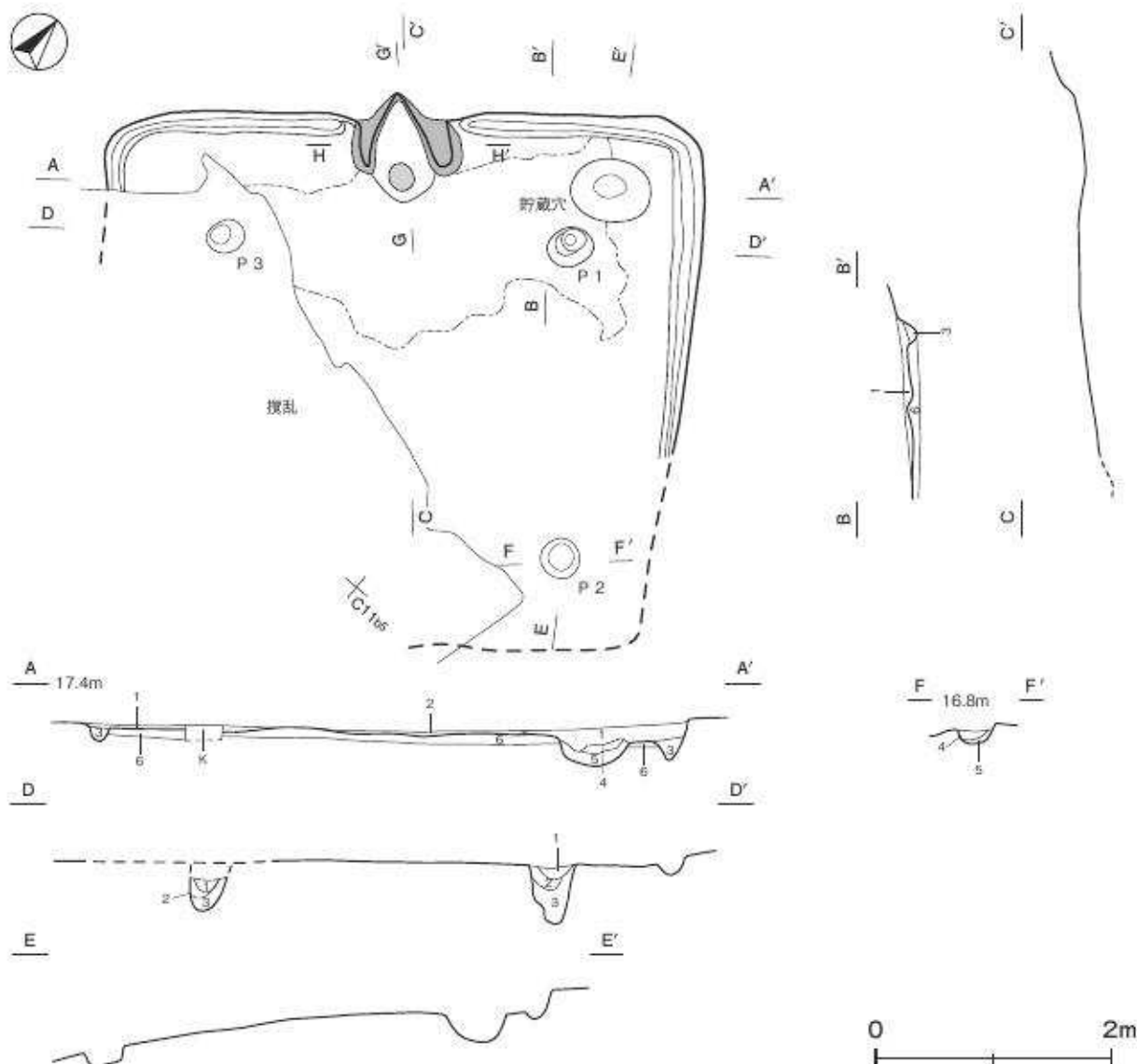
覆土 3層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。第4・5層は貯蔵穴の土層である。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

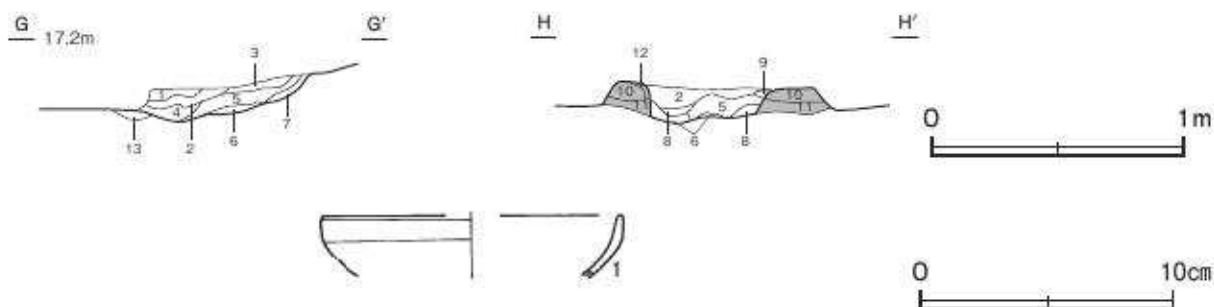
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片17点(坏4, 甕13), 須恵器片4点(坏3, 甕1)が覆土から出土している。1は覆土中から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第371図 第43号竪穴建物跡実測図



第 372 図 第 43 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	杯	[120]	(25)	-	長石・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	10%

表 24 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)					主柱穴	出入口	ピット	扉・窓	竪穴				
42	B 10b8	N-28°-W	方形	4.25 × 4.02		34-40	平坦	全周	3	1	2	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品	6世紀後半	本跡→SD7
43	C 11a4	N-20°-W	[長方形]	5.08 × [4.56]		8-12	平坦	[全周]	3	-	-	北西壁	-	自然	土師器、須恵器	7世紀前半	

3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴建物跡 5 棟、井戸跡 1 基、土坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(I) 竪穴建物跡

第 25 号竪穴建物跡 (第 373・374 図)

調査年度 西部の大半は平成 21 年度に調査し、「第 335 集」にて報告している。

床 今回調査した南東部はほぼ平坦な貼床で、壁際を除き踏み固められている。壁下には幅 15cm、深さ 10cm ほどの壁溝が巡っている。貼床は 4～9cm ほどの厚さに、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土を埋め戻して構築している。南東部の床面を中心に焼土塊や粘土塊が点在している。

竈・覆土土層 平成 21 年度調査、第 335 集参照。

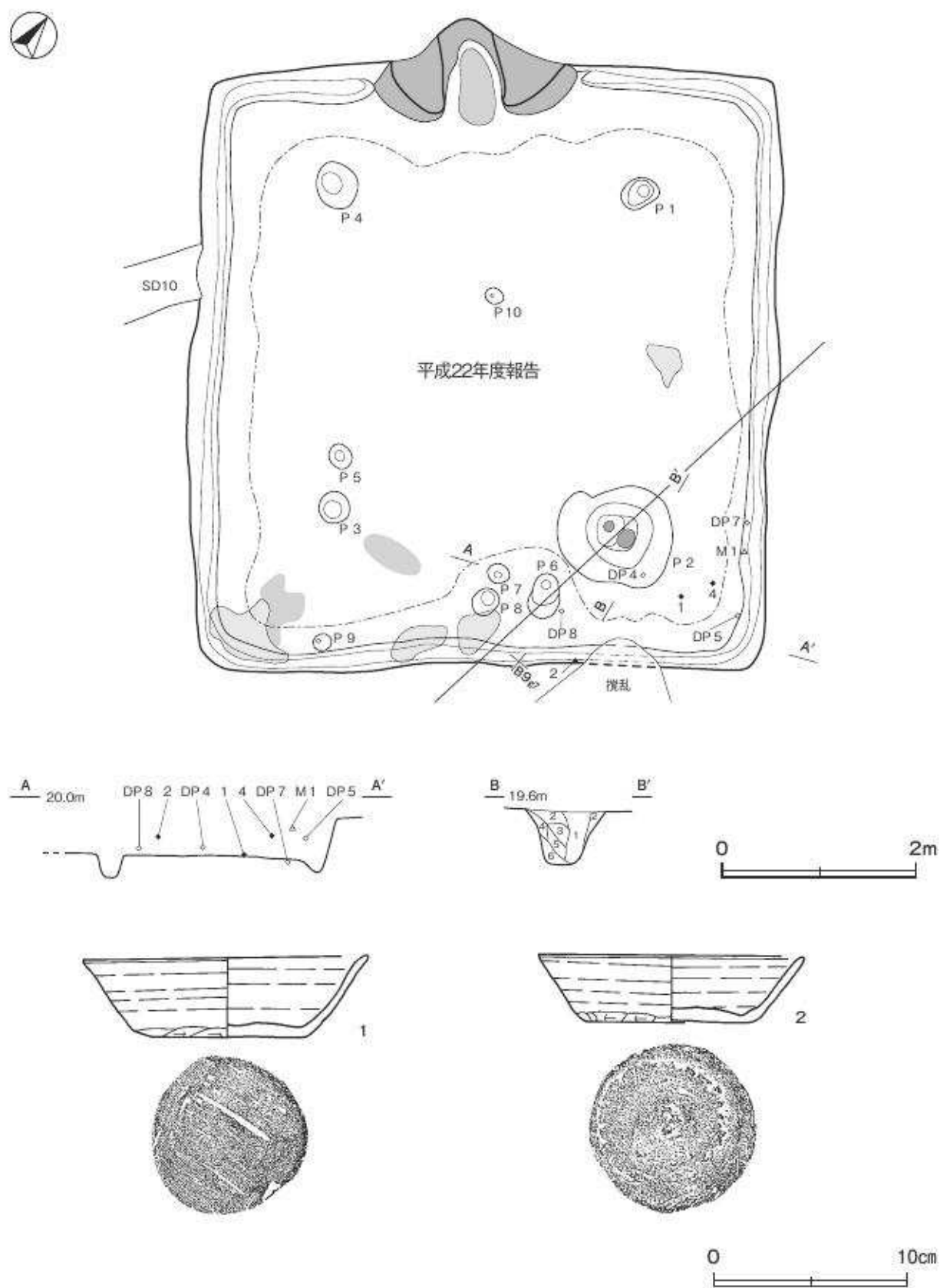
ピット 10 か所。平成 21 年度調査、第 335 集参照。P 2 は配置から主柱穴と考えられる。

P 2 土層解説

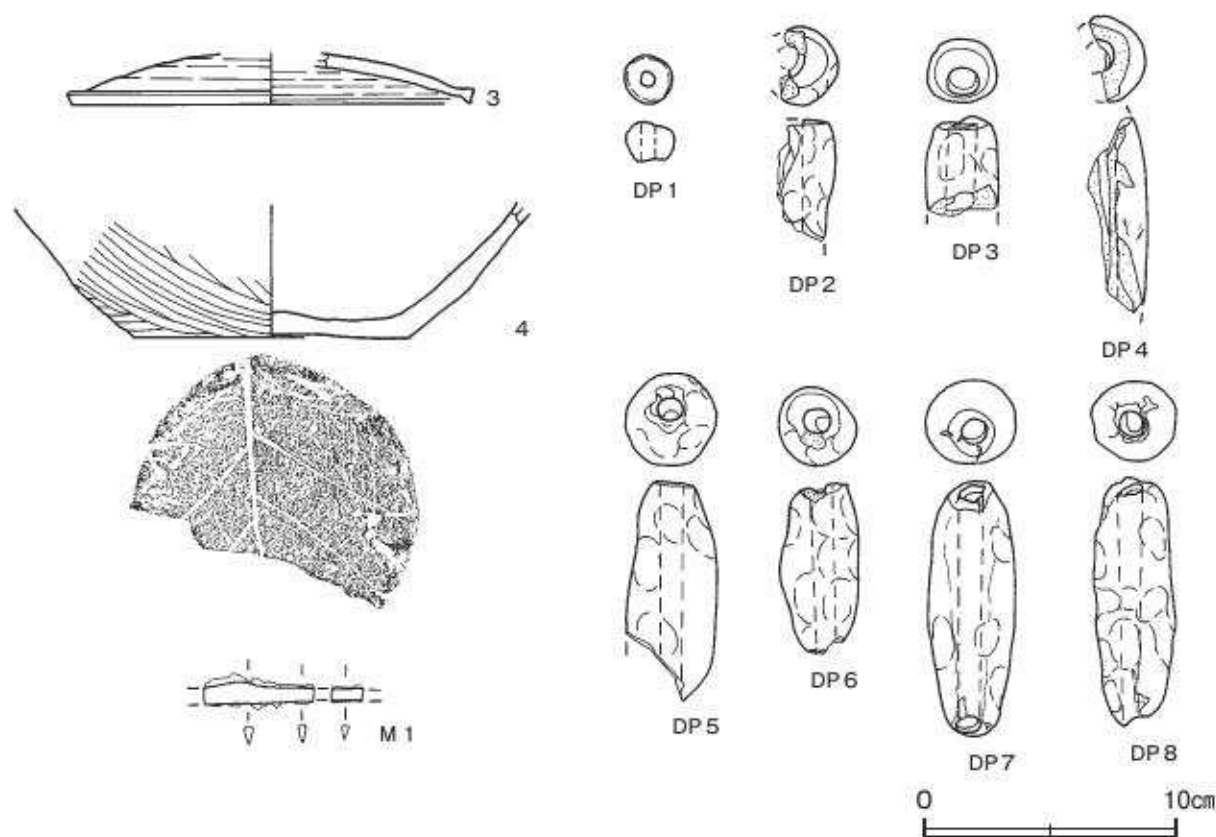
- | | | | |
|----------|---------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | 6 におい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 今回の調査からは、土師器片 126 点 (甕)、須恵器片 54 点 (杯 38、蓋 7、甕 9)、土製品 9 点 (土玉 1、管状土錘 8)、金属製品 1 点 (刀子) が出土している。平成 21 年度調査時も遺物が多く出土しているが、今回の調査でも土師器片・須恵器片が多数出土している。1 及び DP 7 は床面から出土している。2 は南壁下覆土下層から、DP 4・DP 8 はいずれも南東コーナーの覆土下層から出土している。4 及び DP 5 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 373 図 第 25 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 374 図 第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 373・374 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.6	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外・内面ナデ、体部外面下端手持りヘラ削り、底部多方向のヘラ削り	床面	70% PL54
2	須恵器	坏	13.6	3.5	8.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外・内面ナデ、体部外面下端手持りヘラ削り、底部ヘラ削り檢ナデ	覆土中層	80% PL54
3	須恵器	蓋	[16.0]	[2.0]	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
4	土師器	甕	(5.4)	11.0	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き、底部木葉痕	覆土中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	2.0	1.6	0.6	5.47	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP 2	管状土鉢	3.1	(4.8)	[1.0]	(22.77)	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	
DP 3	管状土鉢	2.8	(3.9)	1.3	(20.65)	長石	明褐	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	
DP 4	管状土鉢	3.5	(7.8)	1.3	(41.78)	長石・雲母	橙	ナデ 一部欠損	覆土下層	
DP 5	管状土鉢	3.6	(8.7)	1.0	(87.52)	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中層	PL57
DP 6	管状土鉢	3.1	6.7	1.0	(49.46)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	PL57
DP 7	管状土鉢	3.5	10.2	1.0	106.71	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕	床面	PL57
DP 8	管状土鉢	3.5	9.8	0.9	81.18	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕	覆土下層	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	[6.5]	0.5 - 1.2	0.3	(4.08)	鉄	断面三角形 両端欠損	覆土中層	

第 32 号竪穴建物跡 (第 375・376 図)

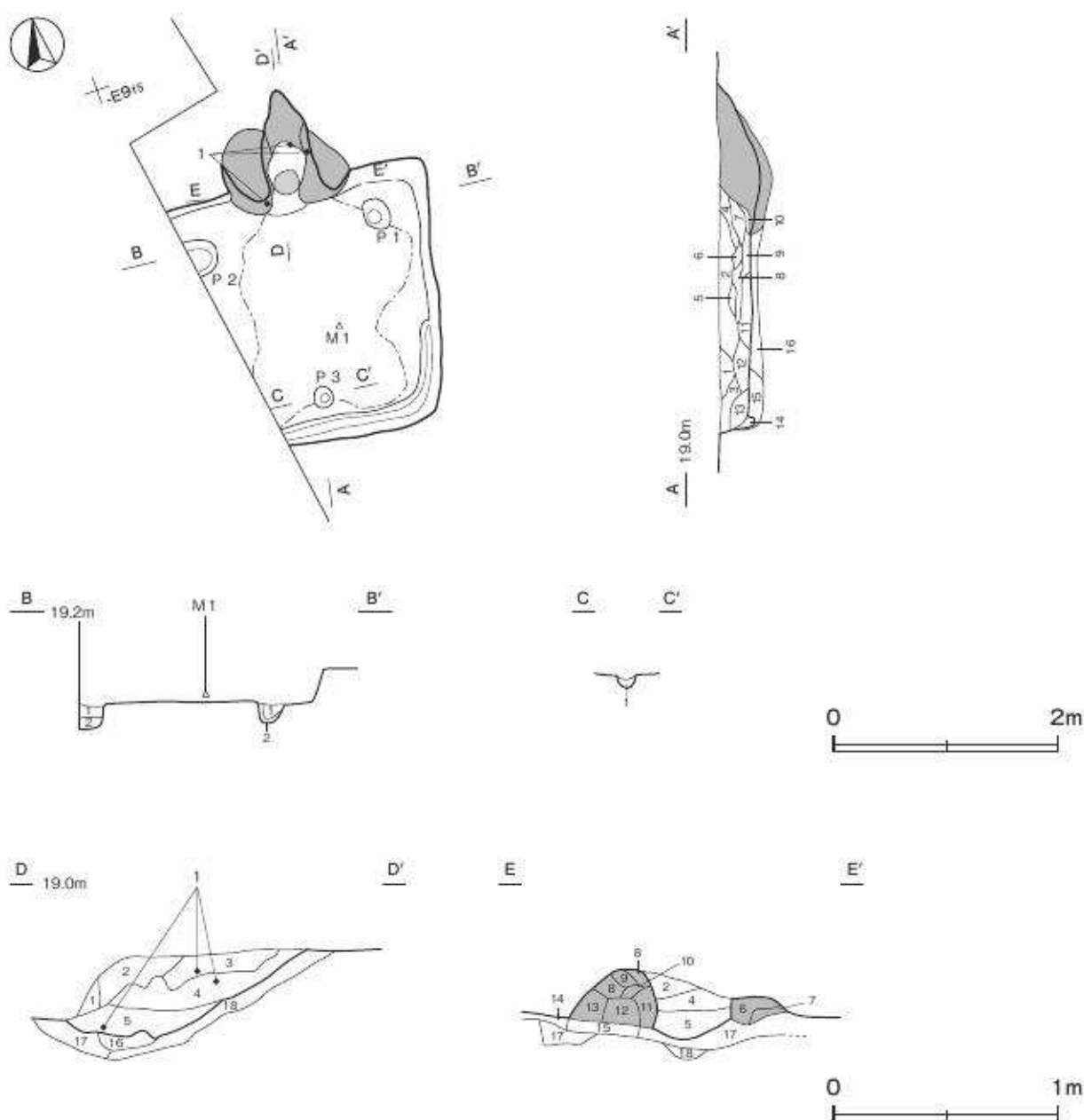
調査年度 平成 26 年度

位置 D区西部の-E 9区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、長軸は2.36mで、短軸は2.20mしか確認できなかった。主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ25~30cmで、直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、P3付近から竈前にかけての中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多く含む第15・16層を埋土して構築されている。南壁から東壁中央部まで壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は焼土ブロックや粘土ブロックを含む第6~13層で構築され、左袖部には補強材として土師器の甍片が使われている。火床面は床面を10cmほど掘り込み、ロームブロックを多量に含む第15~18層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上がっている。



第375図 第32号竪穴建物跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量 | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物・ロームブロック少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 17 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量 |
| 9 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量 | 18 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ20cmで、配置から支柱穴、P 3は深さ10cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

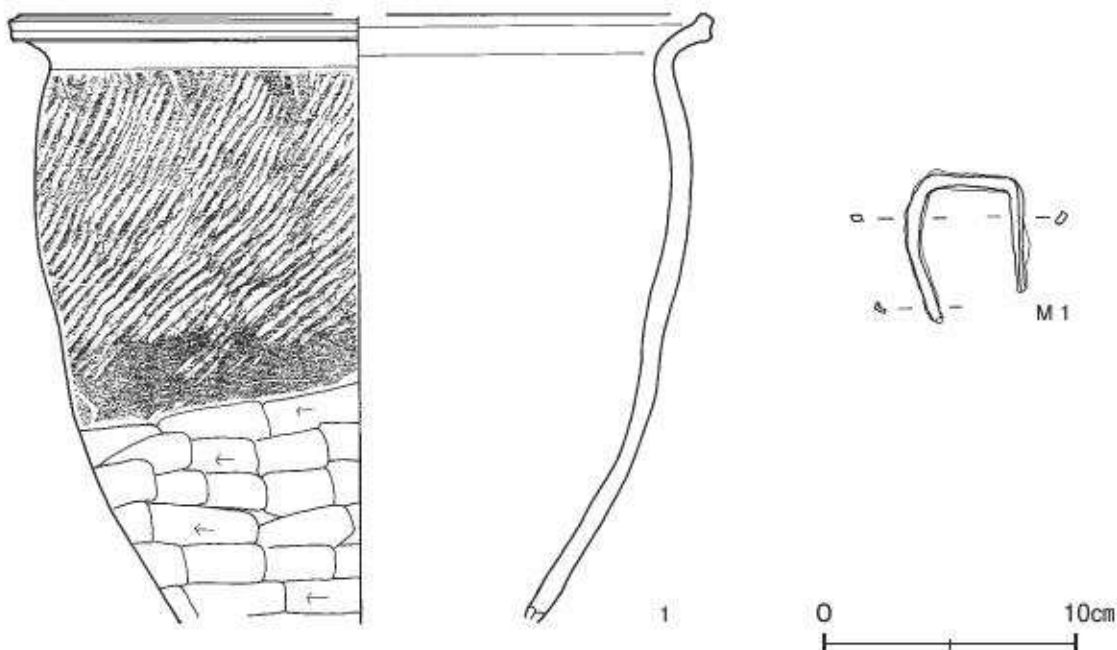
覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第15・16層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 灰褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏3, 甕7), 須恵器片4点(坏1, 甕3), 金属製品1点(門)が出土している。1は竈左袖の上部から逆位で出土しており、竈袖の補強材として使用されたものと考えられる。M 1は南東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第376図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 376 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	[27.0]	(24.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き、下位断位のヘラ削り内面ナデ	竈袖部	40% PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	門	(5.9)	(4.7)	0.5	(883)	鉄	断面長方形、端部欠損	竈土下層	PL58

第 38 号竪穴建物跡 (第 377・378 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D 区南東部の - E 0d7 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.00 m、短軸 3.88 m の方形で、主軸方向は N - 5° - W である。壁は高さ 48 ~ 58 cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、東壁下・西壁下を除き踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。壁溝が竈 1 の右袖下まで続いていることから、竈 1 は壁溝の構築後に作られたものと考えられる。

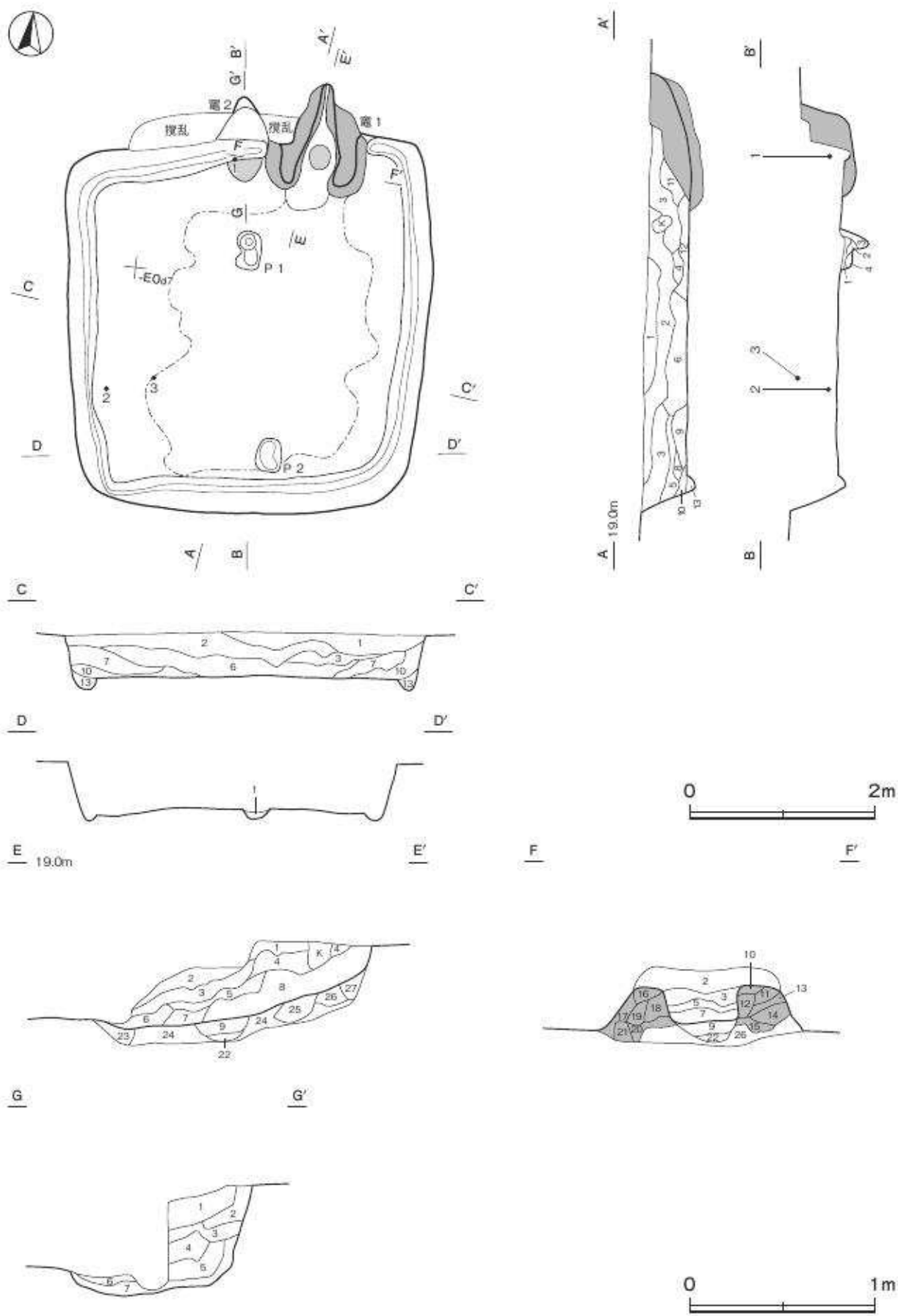
竈 竈 1 は北壁やや東寄りに付設されている。北壁中央部の竈 2 を廃絶した後に竈 1 を構築している。竈 1 の規模は焚口部から煙道部まで 140 cm で、燃焼部幅は 35 cm である。袖部は、粘土ブロック混じりの黒褐色土で構築されている。火床部は床面を 8 cm ほど掘り込み、第 9・22 ~ 27 層を埋土して構築されており、火床面は埋土した上に右袖は第 10 ~ 15 層を、左袖は第 16 ~ 21 層を積み上げて構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 80 cm 掘り込まれ、火床面から外傾している。竈 2 は北壁中央部に付設されている。土層の状況から、放棄時に、袖を外し、燃焼部に粘土粒子を含む褐色、黒褐色土を第 1 ~ 7 層に積み上げて壁を再構築している。

竈 1 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	14	灰褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	15	黒色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	16	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
4	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量	17	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
5	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量	18	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量
6	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	19	黒褐色	粘土ブロック少量
7	黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量	20	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
8	暗褐色	焼土ブロック多量・粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	21	暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック少量
9	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量	22	黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
10	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	23	黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
11	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	24	暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量
12	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量	25	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	26	黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
			27	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量

竈 2 土層解説

1	褐灰色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5	褐灰色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2	褐灰色	炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	6	重暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
3	黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
4	黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量			



第 377 图 第 38 号竖穴建物跡実測图

ピット 2か所。P1は深さ10cmで柱穴、P2は深さ10cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

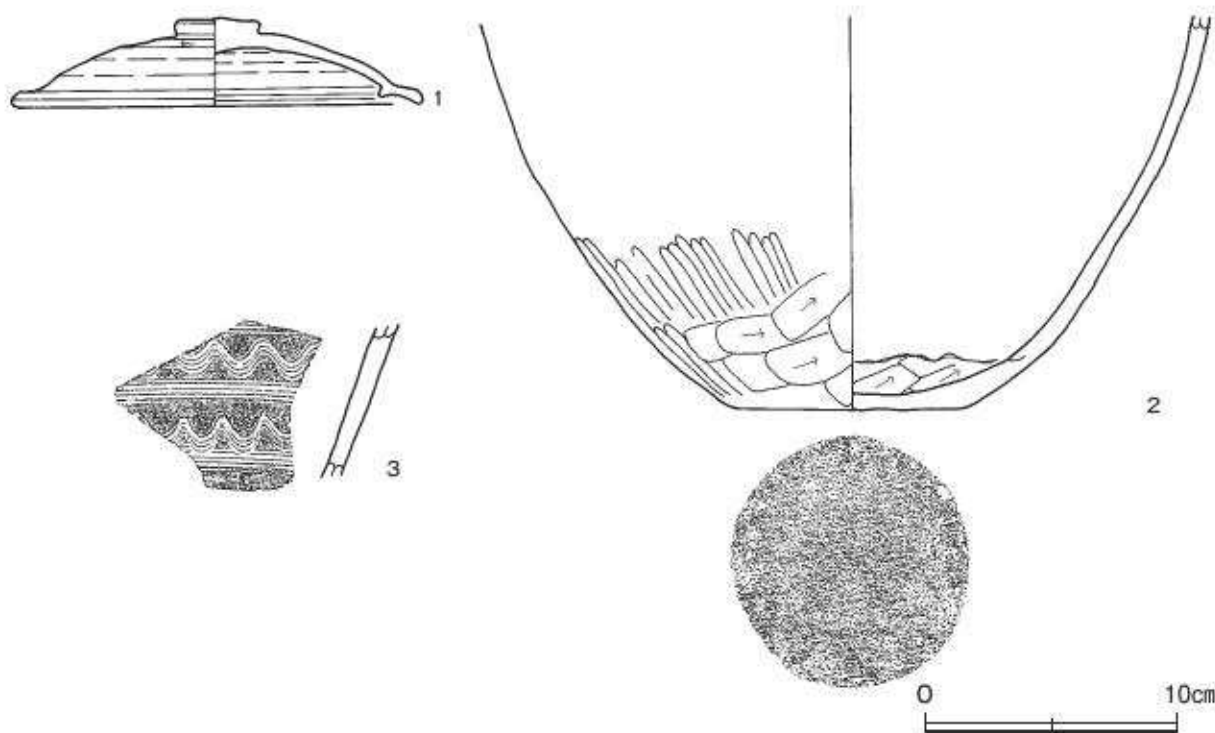
覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックや焼土・炭化粒子等が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片30点(坏3, 甕27), 須恵器片4(坏1, 蓋2, 甕1)が出土している。1はほぼ完形で、北壁際中央部の覆土下層から逆位の状態で出土している。2は南西コーナーの覆土下層から、正位の状態で出土している。3は覆土中層からの出土である。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第378図 第38号竪穴建物跡出土遺物実測図

第38号竪穴建物跡出土遺物観察表(第378図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	16.0	3.5	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	100% PL53
2	土師器	甕	-	(15.5)	9.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き 外・内面ヘラ削り	覆土下層	90% 保付着
3	須恵器	甕	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	頸部外面4条1単位の波状文と沈線	覆土中層	

第40号竪穴建物跡（第379・380図 PL51）

調査年度 平成26年度

位置 D区南東部のE1e1区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.70m、短軸5.58mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ30～44cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、南壁下から竈前にかけて中央部が踏み固められている。壁下には、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土混じりの第9～14層を積み上げて構築されている。両袖内部には切石が垂直に据え付けられ、左袖内の切石の上部はL字形に加工されている。焚口部前の床面からは同じく端部にL字形の加工部をもつ切石が出土していることから、竈の焚口部は2本の切石を柱として立て、上に切石を渡して構築されていたものと推察される。火床面は床面を8cmほど掘り込み、第8・15～19層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	11 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量	12 灰褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
4 褐灰色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量	14 明褐灰色	粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック微量
6 褐灰色	粘土ブロック多量、焼土粒子少量	16 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック少量
8 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
9 褐灰色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	19 灰褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
10 灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

ピット 12か所。配置からP1～P4は深さ42～80cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ18cm、P6は深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8～P12は深さ15～36cmで、壁柱穴と考えられる。P7は性格不明である。

P1土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

P2土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

P3土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量

P4土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量

P5土層解説

1 極暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

P6土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
--------	--------------

P7土層解説

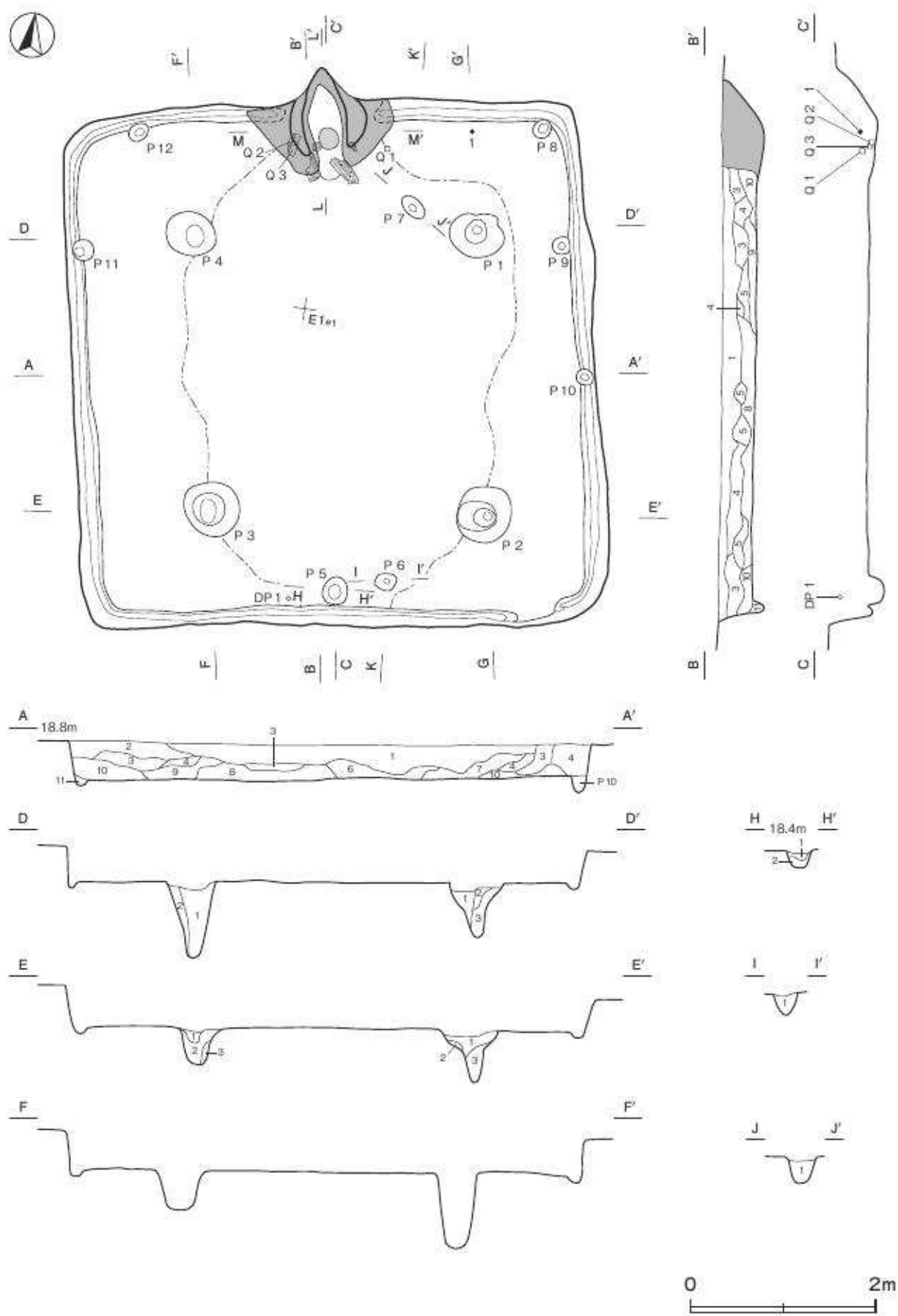
1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
-------	----------------

覆土 11層に分層できる。ロームブロックが各層に含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

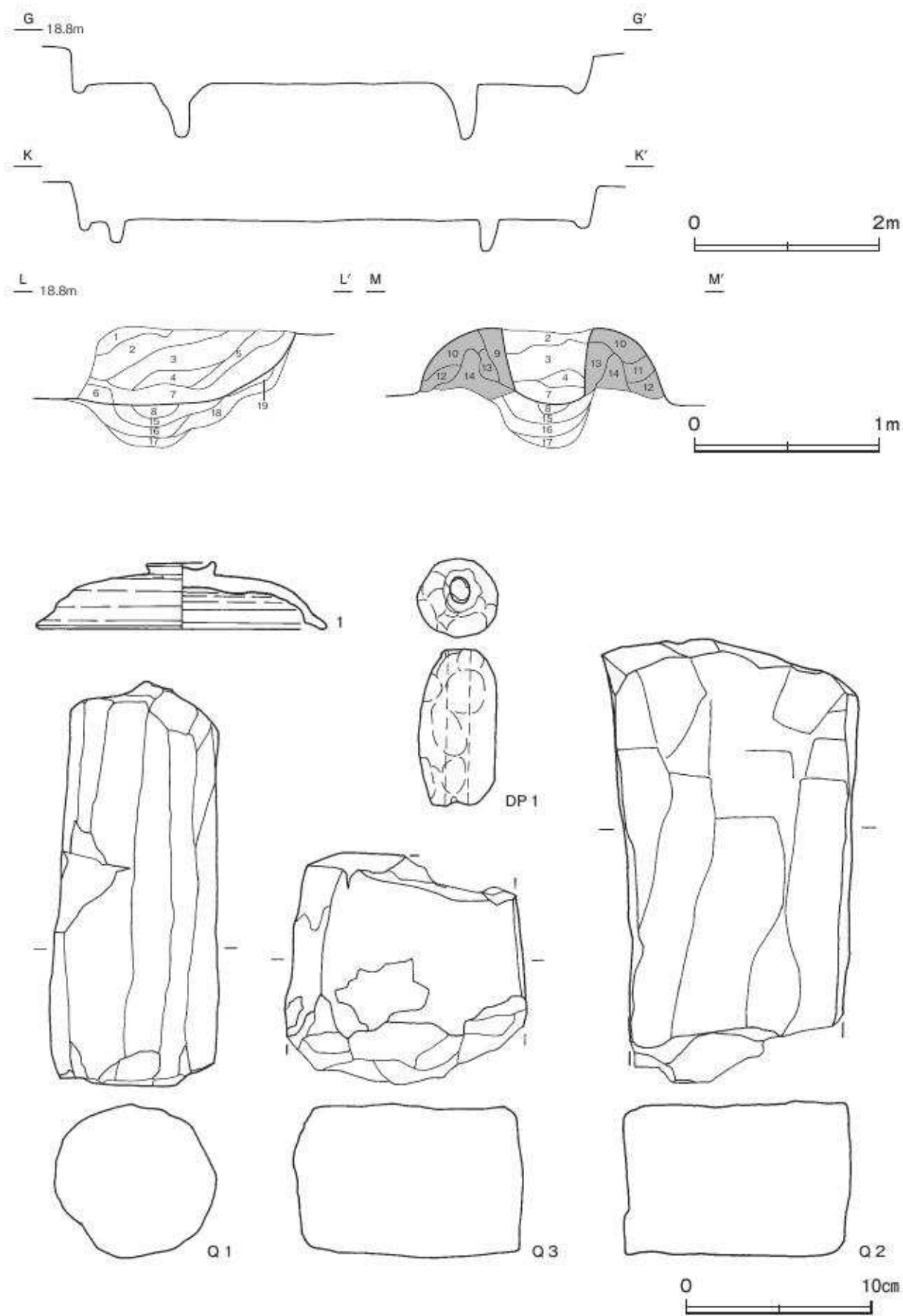
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	7 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	11 褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片62点（坏16、甕46）、須恵器片7点（坏2、蓋1、甕4）、竈の構築材の切石6点が出土している。Q1は竈右袖外側の床面から、Q2・Q3は竈袖部付近の床面から出土している。1は竈右袖東側の北壁際覆土下層から逆位の状態で出土している。DP1は南壁下の覆土中層から出土している。



第 379 図 第 40 号竪穴建物跡実測図



第 380 図 第 40 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。本跡は竈焚口を切石で構築した竪穴建物跡で、同じような構造の竈が、本跡の平成21年度調査第25号竪穴建物跡で確認されている。

第40号竪穴建物跡出土遺物観察表（第380図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	15.8	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL53

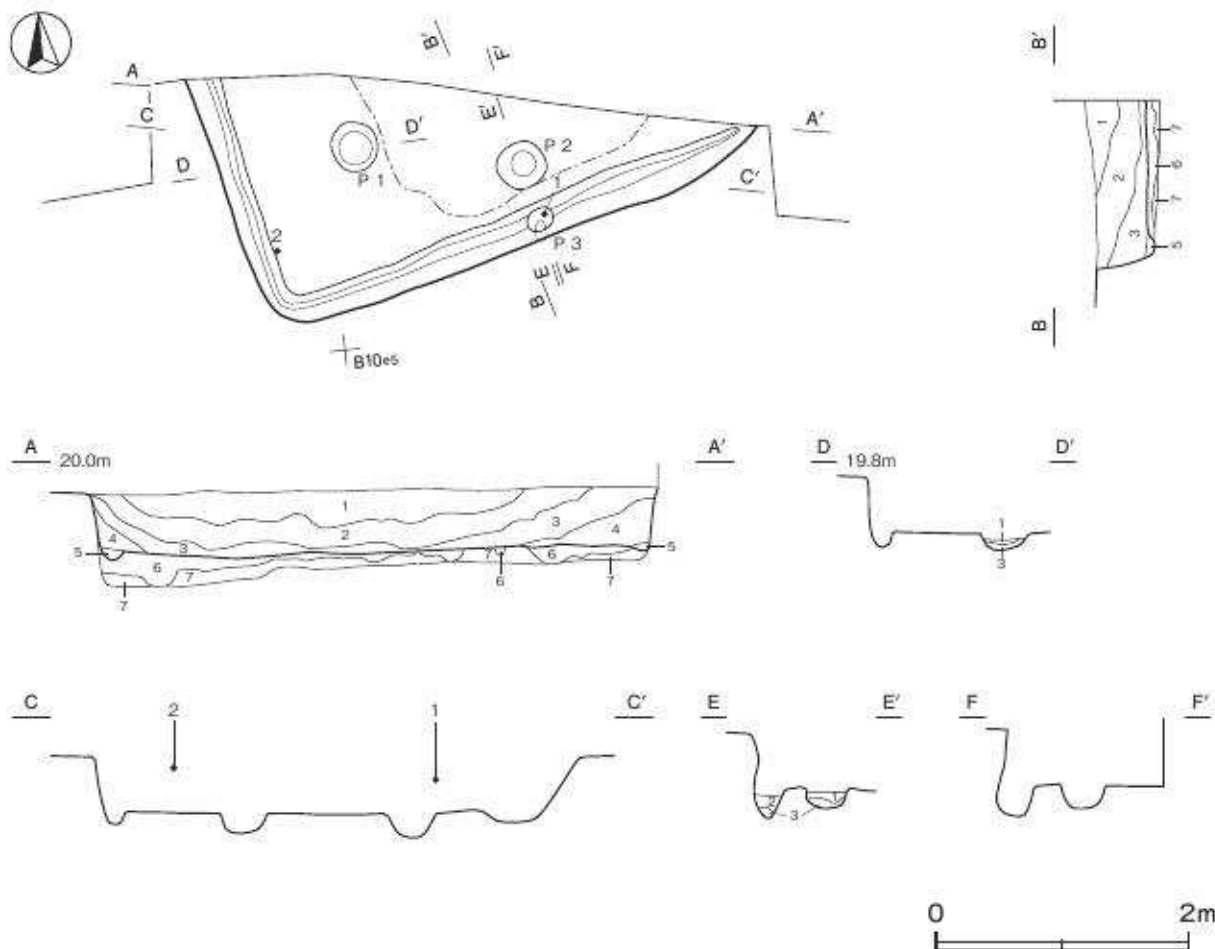
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特 徴	出土位置	備考
DP 1	管状土滴	4.3	8.4	1.4	137.63	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	21.8	9.1	8.4	(1060)	砂岩	ナデ 断面円形に加工	床面	火熟痕 PL58
Q 2	切石	(24.0)	(13.9)	(8.4)	(2518)	砂岩	断面長方形に加工 一部欠損	竈袖部	火熟痕 PL58
Q 3	切石	(12.5)	(13.2)	8.3	(968)	砂岩	断面長方形に加工 一部欠損	竈袖部	火熟痕 PL58

第44号竪穴建物跡（第381・382図）

調査年度 平成27年度

位置 F区北西部のB 10d5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。



第381図 第44号竪穴建物跡実測図

規模と形状 遺構の端部が確認されたため、調査区を部分的に北に広げて調査した。確認できたのは長軸 4.08 m、短軸 2.08 m だけである。主軸方向は N-72°-E と推定でき、壁は高さ 38～42cm で、直立している。

床 ほほ平坦な貼床で、南壁下から中央部に向かって踏み固められている。壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 3か所。配置から P1 は深さ 16cm で支柱穴、P2 は深さ 18cm、P3 は深さ 26cm で、ともに出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 にい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 5 にい黄褐色 ロームブロック中量
- 6 にい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 24 点 (坏 3、甕 21)、須恵器片 4 (坏 2、蓋 1、甕 1) が出土している。1 は覆土中層からの出土である。2 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 382 図 第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 382 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	-	(21)	[8.1]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ傾り・底部未書「□」	覆土中層	10%
2	須恵器	甕	94	30	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部外面ロクロナデ・内面ナデ	覆土上層	90% PL54

表 25 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				支柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
25	B 946	N-38°-W	方形	6.32 × 6.14	44-53	平坦	全周	4	3	3	北壁	-	人為	土師器、須恵器、土製品	8世紀中葉	本跡→SD10	
32	E 915	N-7°-E	[方形]	2.36 × (2.20)	25-30	平坦	一部	2	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、金属製品	8世紀中葉		
38	E 047	N-5°-W	方形	4.00 × 3.88	48-58	平坦	全周	-	1	1	北壁 2	-	人為	土師器、須恵器	8世紀前葉		
40	E 141	N-10°-W	方形	5.70 × 5.58	30-44	平坦	全周	4	2	6	北壁	-	人為	土師器、須恵器、切石	8世紀前葉		
44	B 1045	N-72°-E	-	(4.08) × (2.08)	38-42	平坦	全周	1	2	-	-	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後葉		

(2) 井戸跡

第9号井戸跡 (第383図)

調査年度 平成27年度

位置 F区南西部のC10f3区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径2.50mほどの円形で、深さは4.34mである。確認面から1mまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径1.2mの円筒状に掘り込まれている。

ビット 10か所。深さ25～40cmのビットが上端を回っている。上端の周辺に不規則に存在している。井戸に関わる施設に伴うビットと考えられるが、性格は不明である。

P9土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

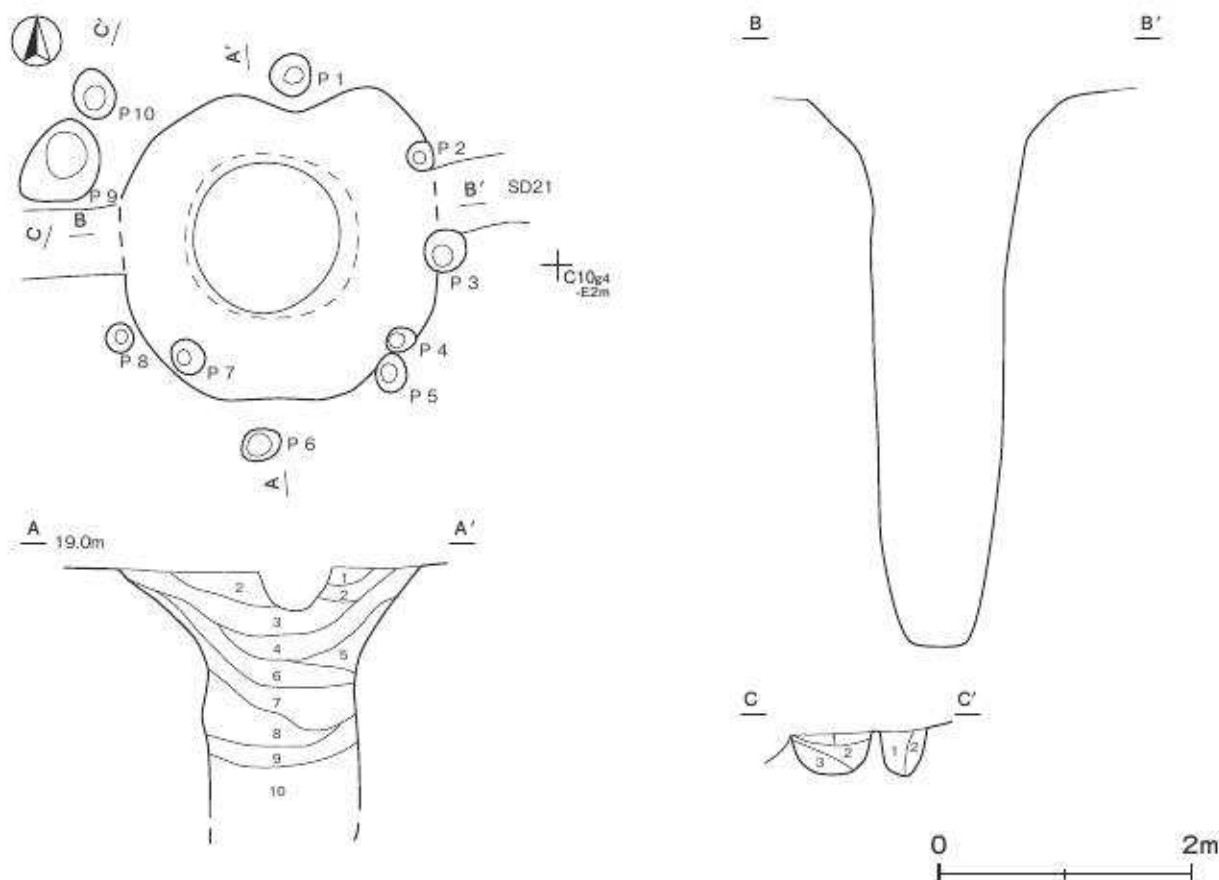
P10土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 8 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・砂粒中量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 5 黒褐色 | 砂粒中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 明褐色 | ローム粒子・炭化粒子多量、粘土粒子・砂粒微量 |



第383図 第9号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片8点(坏7, 甕1), 須恵器片2点(甕), 石器2点(砥石, 石臼), 鉄製品1点(刀子)が覆土中層から出土している。いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。

(3) 土坑

第112号土坑(第384図)

調査年度 平成26年度

位置 D区東部のD113区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.84m, 短径0.60mの楕円形で, 長径方向はN-41°-Wである。深さは35cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

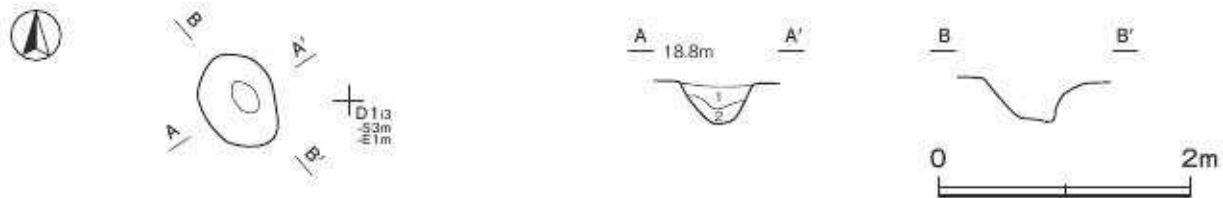
土層解説

1 黒色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が覆土中から出土している。土器は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。



第384図 第112号土坑実測図

4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は堅穴建物跡7棟, 井戸跡2基, 土坑8基を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第30号堅穴建物跡(第385～387図 PL50)

調査年度 平成26年度

位置 D区北西部の-D9h9区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.33m, 短軸3.31mの方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ32～36cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で, 出入口付近から北西部にかけて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第6・7層で埋土して構築されている。北壁下の一部を除き, 幅10～20cm, 深さ5～18cmほどの壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで97cm, 燃焼部幅は38cmである。袖部は地山をわずかに残し, 粘土粒子を少量含む黒褐色土を積み上げた第8～12層で構築されている。火床部は床面をわずかに掘り込み, ロームブロックを含む第7・13・14層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竪土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 黒色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量 | 10 黒褐色 | 粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 6 赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ15cmで配置から支柱穴、P2は深さ30cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

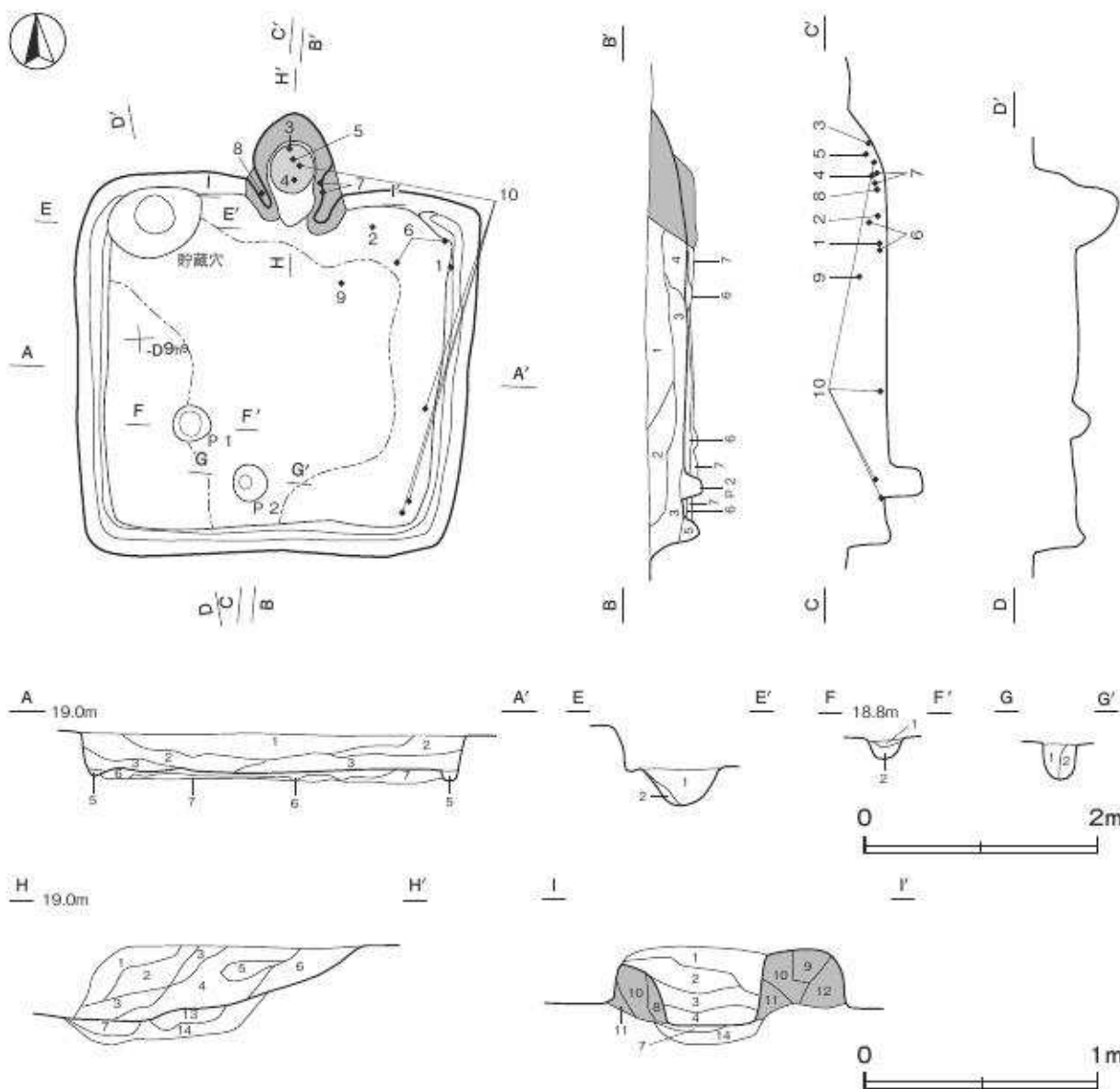
P2土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

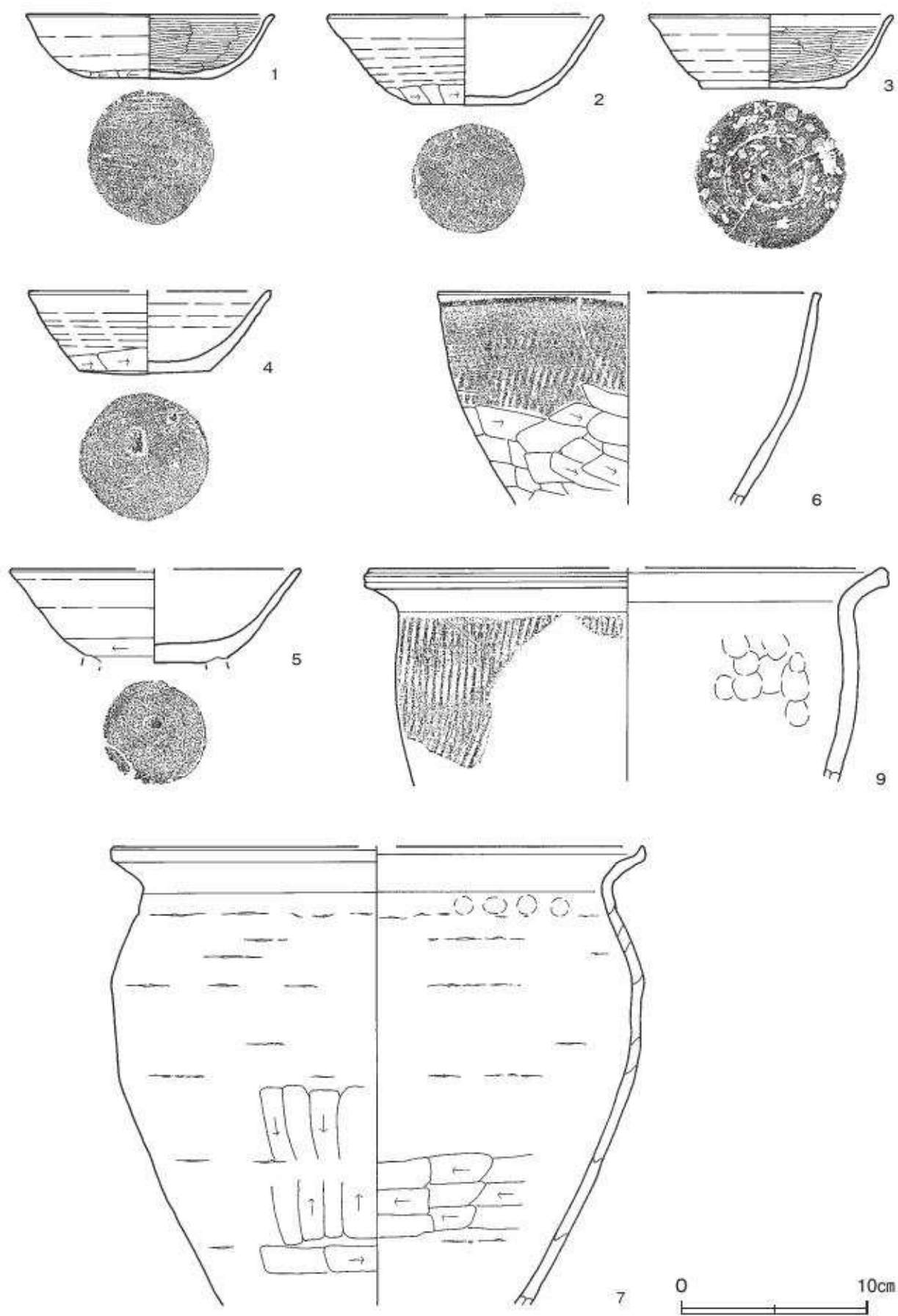
貯蔵穴 北西コーナー部に設けられている。長径87cm、短径60cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は傾斜している。各層にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

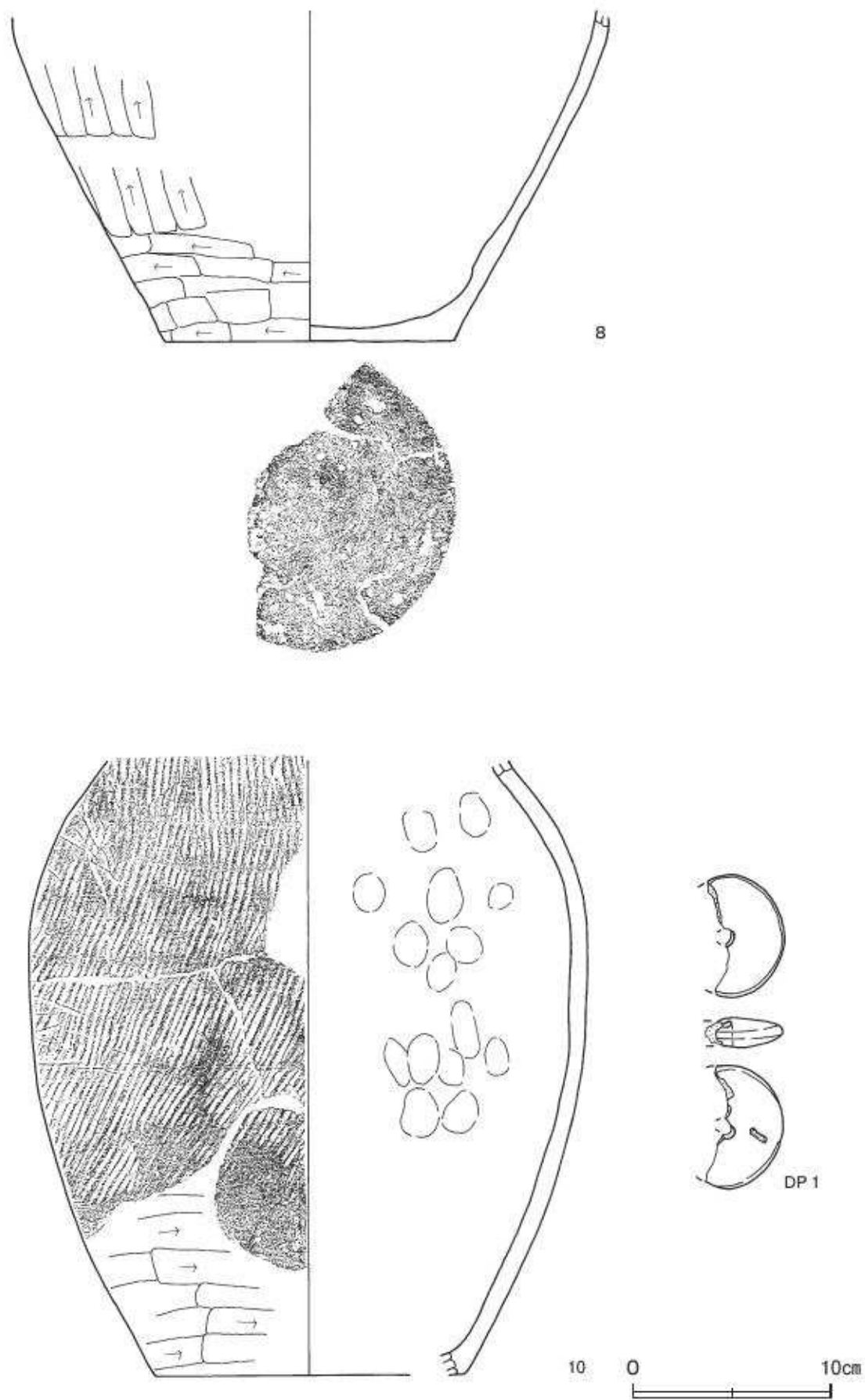
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量



第385図 第30号竪穴建物跡実測図



第 386 图 第 30 号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



第 387 図 第 30 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

覆土 5層に分層できる。各層ともブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第6・7層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 59点（坏8，高台付坏1，甕50），須恵器片9点（坏1，鉢1，甕6，甌1），縄文土器片9点（深鉢）が出土している。2は竈右袖東側の覆土下層から出土している。6は北東コーナー寄りの覆土下層から、1は東壁下の覆土下層から横位で出土している。3～5及び10の一部は竈の燃焼部中央から逆位あるいは横位で重なった状態で出土しており、火を受けていることと位置から、支脚として使用されたものと考えられる。7は竈右袖内から、8は左袖内からそれぞれ出土している。1・2・6・7は埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第30号竪穴建物跡出土遺物観察表（第386・387図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	133	35	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 上半部ナデ 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	90% PL54
2	土師器	坏	[150]	4.8	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 内外面滑直	覆土下層	50%
3	土師器	坏	131	4.0	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈火床部	50%
4	須恵器	坏	132	4.5	7.0	長石・石英	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈下層	100% PL54
5	土師器	高台付坏	[15.6]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 高台部剥落	竈下層	60%
6	須恵器	鉢	[20.7]	(11.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り 上半部位の平行叩き 内面ナデ	覆土下層	30%
7	土師器	甕	[28.6]	(24.7)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 指頭圧痕 輪積痕	竈袖部	40%
8	土師器	甕	-	(16.8)	14.6	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈袖部	20%
9	須恵器	甕	[28.0]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ 指頭圧痕	覆土中層	50%
10	須恵器	甕	-	(40.0)	[15.8]	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下層横位のヘラ削り 内面ナデ 指頭圧痕	竈下層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	紡錘車	62	1.5	(0.8)	(27.05)	長石・細礫	明褐	表面丁寧なナデ 1/2欠損	覆土中	50% PL57

第31号竪穴建物跡（第388・389図 PL50）

調査年度 平成26年度

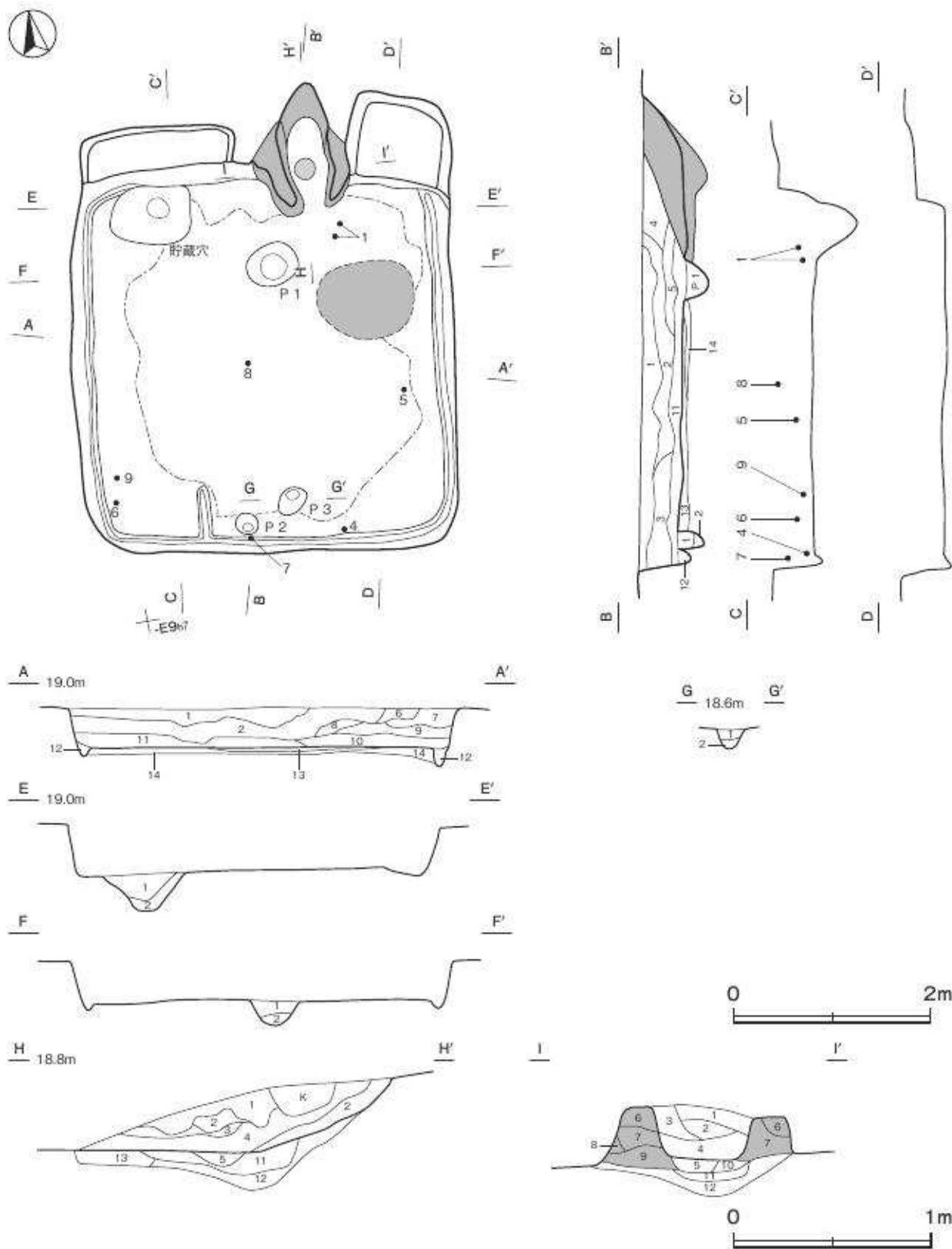
位置 D区南西部の-E9g7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.80m、短軸3.90mの長方形で、主軸方向はN-7-Eである。壁は高さ38～50cmで、ほぼ直立している。竈の左右の北壁が棚状に掘り込まれている。

床 ほぼ平坦な貼床で、コーナー部を除き踏み固められている。貼床は、粘土ブロックやロームブロックを含む第13・14層を5～10cm埋土して構築されている。北東コーナー寄りの貼床下から長径100cm、短径80cmほどの楕円形に厚さ4～5cmの粘土の塊が出土した。北壁下の一部を除き、幅10cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。南壁下や西寄りに中央部に向かい掘り込まれた幅10cm、長さ50cmの溝があり、間仕切り溝と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで130cm、燃焼部幅は40cmである。袖部は埋土の上に、粘土ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を、右袖は第6・7層、左袖は第6～9層を積み上げて構築し

ている。火床部は地山を掘り込み、ロームブロックを多量に含む第5・10～13層を埋土して構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第 388 図 第 31 号竪穴建物跡実測図

甕土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック中量・炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 赤褐色 | 粘土ブロック・焼土ブロック多量・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック多量・焼土粒子少量 |
| 5 紅褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ロームブロック多量・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量・焼土粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 褐色 | 粘土粒子多量・焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

棚状施設 甕の両側、北壁を北に掘り込んで平坦面を作り出している。規模は東側が幅 105cm、奥行 90cm の長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 32cm である。西側は幅 155cm、奥行 45cm の長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 40cm である。底面は平坦である。

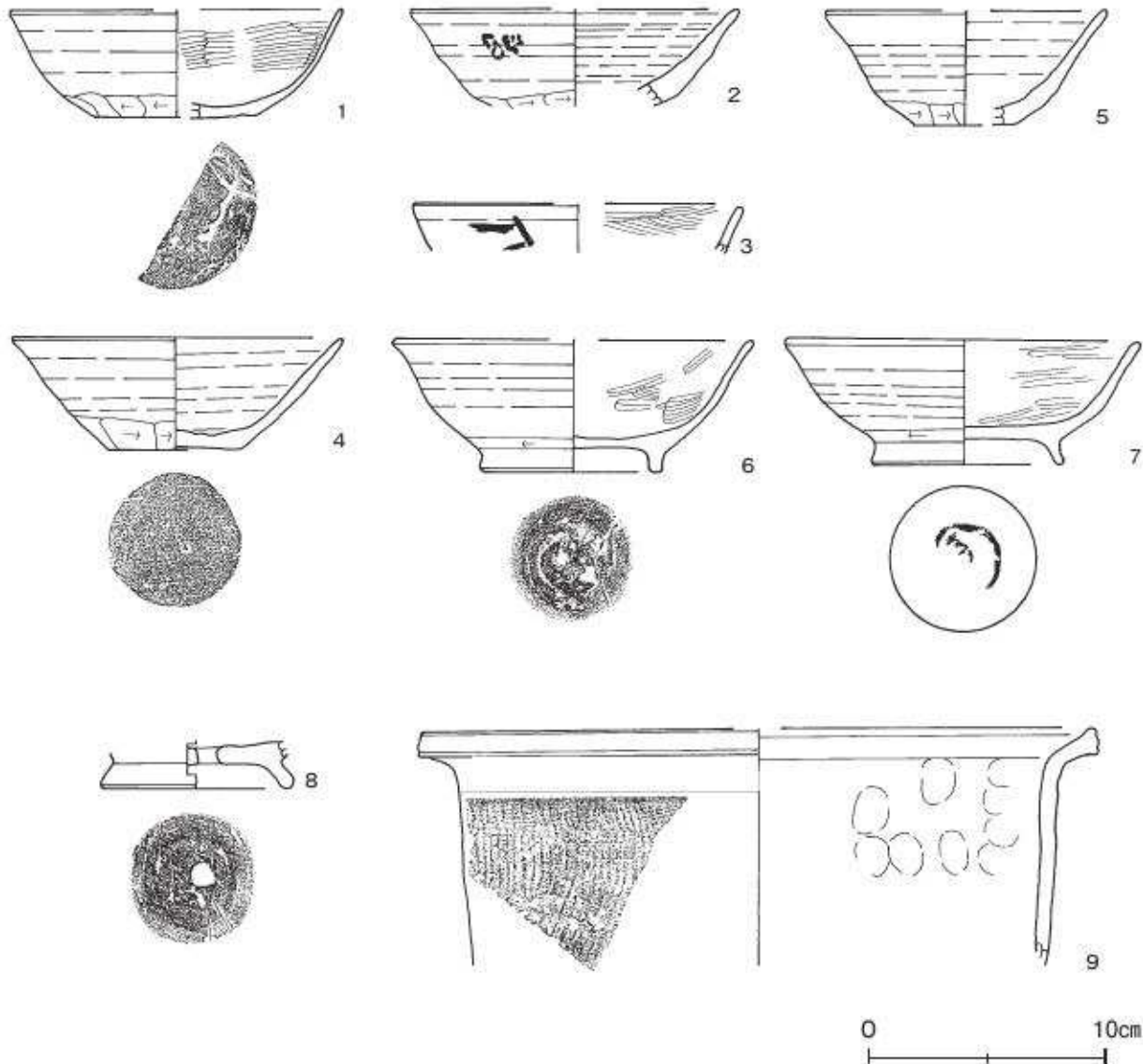
ピット 3か所。P1 は深さ 24cm で配置から支柱穴、P2 は深さ 24cm、P3 は深さ 20cm で、ともに出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

P3 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

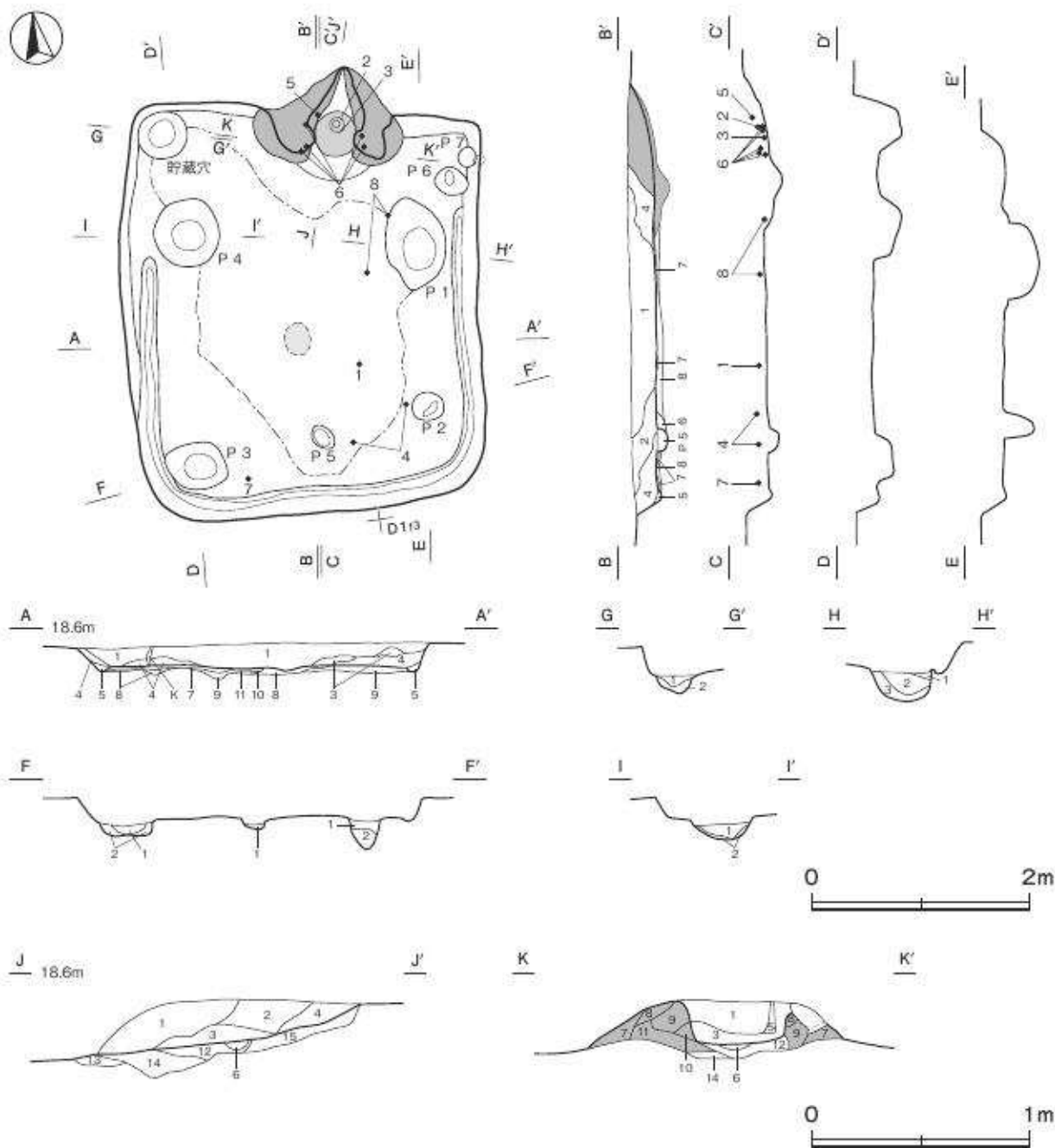


第 389 図 第 31 号竪穴建物跡出土遺物実測図

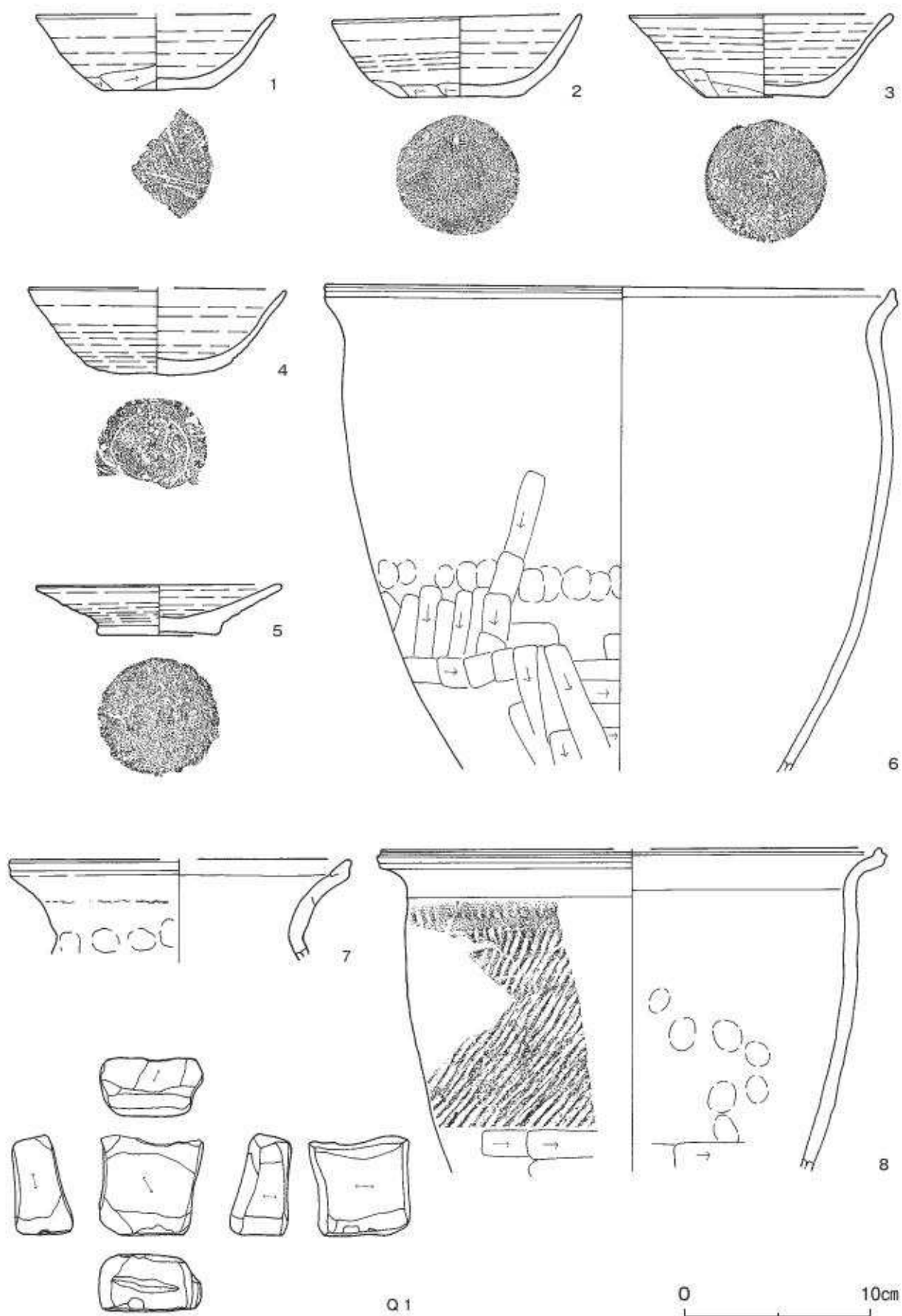
土混じりのローム土で第7～11層を積み上げて構築している。火床部は床面を30cmほど掘り下げ、ロームブロックやローム粒子を含む第6・13～15層を埋土して構築されていて、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上っている。

電土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 濃い赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 濃い赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック少量 | 11 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 15 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 粘土粒子少量 | | |



第390図 第34号竪穴建物跡実測図



第 391 図 第 34 号 竖穴建物跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P1～P4は深さ10cm～30cmで配置から支柱穴、P5は深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は不明である。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

P2土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

P3土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P5土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴 北西コーナーに設けられている。径約45cmの円形で底面は西から東に傾斜して深くなる。壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

覆土及び焼土塊 5層に分層できる。覆土にロームブロックや焼土・炭化物等を含むことから埋め戻されている。第10・11層は焼土塊の、第6～9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片147点（坏33、高台付坏4、皿1、甕109）、須恵器片35点（坏28、甕7）、砥石1点のほか、石鎌2点が出土している。8は北東部の柱穴付近の床面から、4は出入り口付近の覆土下層から、7は南壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。6は1つの個体を縦に2つに割って、甕の補強材として両袖の内面につけた状態で、火を受けて赤く焼けて出土している。3・2は甕内火床部に盛り上げた土塊の上から、ともに逆位で3の上に2が重なる状態で出土していることから、支脚として転用されている。5は3・2の西側から出土している。

所見 時期は、出土した土器から9世紀後葉と考えられる。

第34号竪穴建物跡出土遺物観察表（第391図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[128]	4.0	[6.0]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土下層	20%
2	須恵器	坏	134	4.5	6.6	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	甕火床部	90% PL54
3	須恵器	坏	141	4.5	6.5	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	甕火床部	80% PL54
4	須恵器	坏	[140]	4.7	6.0	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土下層	40% PL54
5	土師器	皿	132	2.7	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 底部一方向のヘラ削り	甕中層	60% PL55
6	土師器	甕	30.7	[26.2]	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面ヘラ削り後ナデ 指頭圧痕	甕袖部	70% PL55
7	土師器	甕	[18.3]	(5.5)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	頸部外面指頭圧痕 輪積痕	覆土下層	10%
8	須恵器	甕	[26.8]	(17.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	5.4	5.6	3.3	115.48	安山岩	両面5面 条溝1か所	覆土中	PL58

第 37 号竪穴建物跡 (第 392・393 図 PL51)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区北部の-E 0 e4区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.16 m、短軸 3.09 mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁は高さ 38 ~ 42cmで、外傾している。竈の左右は北壁が棚状に掘り込まれている。

床 ほぼ平坦な貼床で、西壁下を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第 14 ~ 16 層を 6 ~ 10cm埋土して構築されている。北壁下を除き壁溝が巡っている。北壁下やや西寄りから壁中部に向かって長さ 95cm、幅 10cm、長さ 95cm、深さ 10cmほどの溝があり、配置から間仕切り溝と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで 134cm、燃焼部幅は 25cmである。袖部は地山を掘り込んで、ロームブロック混じりの黒褐色土を右袖は第 8 ~ 10 層、左袖は第 11 ~ 13 層に積み上げて構築している。火床部は地山をわずかに掘り込み、ロームブロックを含む第 7・14 層を埋土して構築している。さらに、土を盛り上げて固め、坏を逆位で伏せ置きして支脚として用いている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 80cm掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	9 黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
4 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量
5 赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量	11 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量
6 赤褐色	焼土ブロック多量	12 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
		13 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量
		14 黒褐色	ロームブロック多量

棚状施設 竈の両側に付設されている。規模は東側が幅 98cm、奥行 40cmの長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 20cmである。西側は幅 90cm、奥行 45 の長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 20cmである。底面はともに平坦で、東側の棚には東端部にビットが 1 か所確認できる。

ビット 2 か所。P 1 は深さ 15cmで配置から主柱穴、P 2 は深さ 20cmで性格は不明である。

P 1 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量

P 2 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量

覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第 14 ~ 16 層は貼床の構築土である。

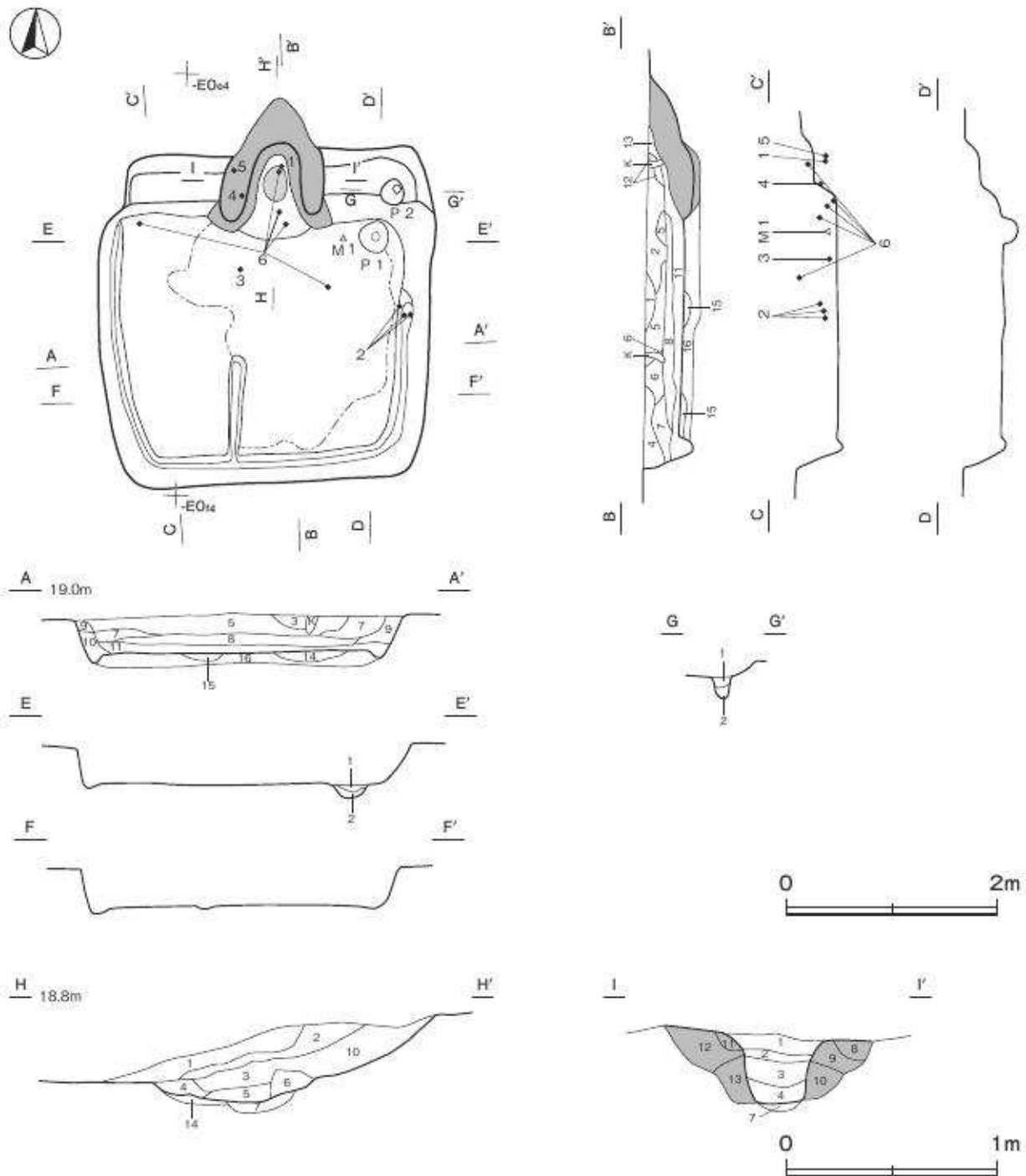
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	13 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	14 暗褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	15 褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	16 褐色	ロームブロック多量

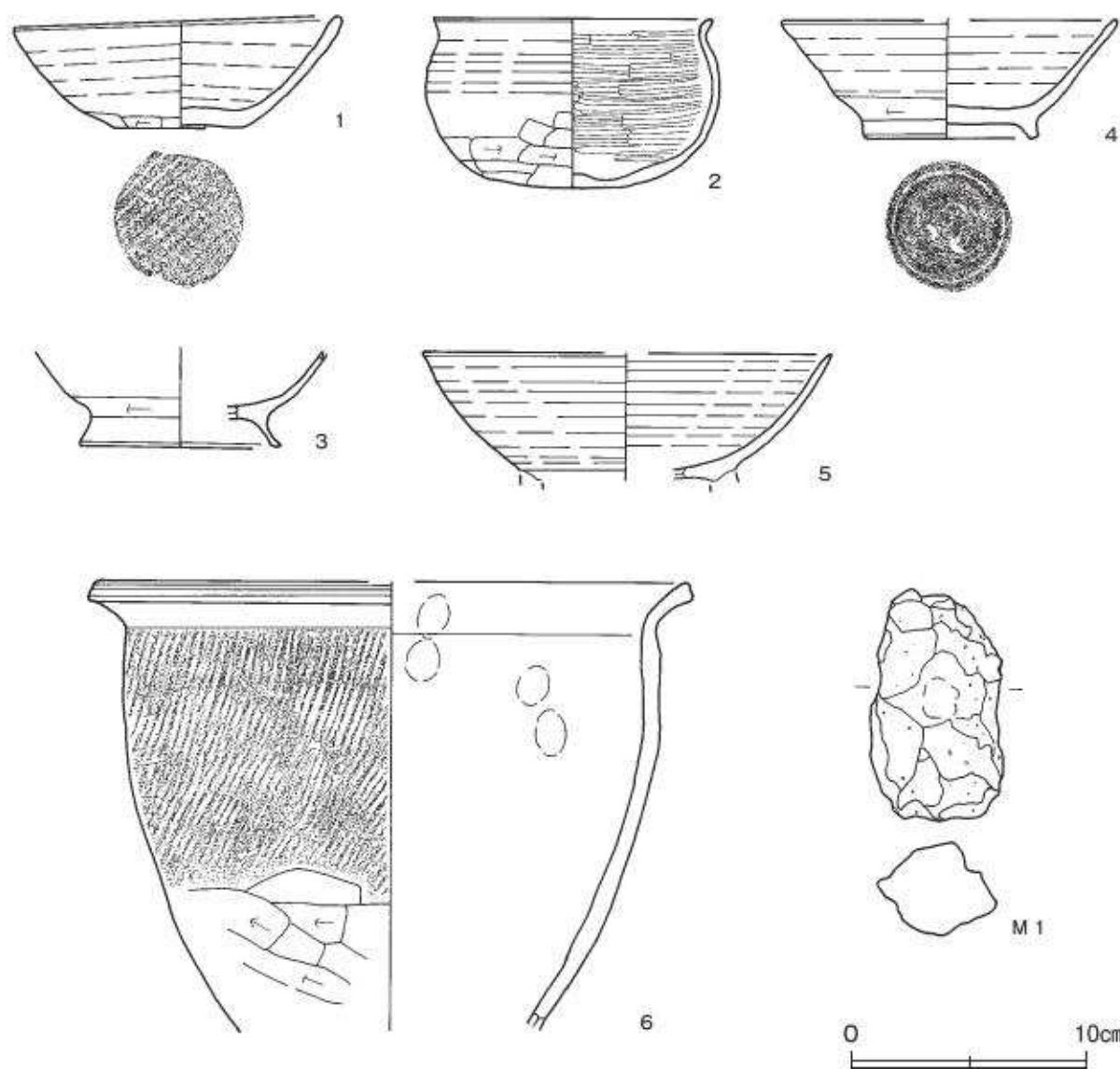
遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏 26, 高台付坏 2, 椀 3, 甕 38, 甌 1), 須恵器片 16 点 (坏 12, 高台付坏 1, 甕 3), 鉄滓 1 点が、覆土から出土している。1 は竈火床面の赤褐色土の上に逆位に置かれた状態で出土して

いる。火を受けて赤褐色に変色していることから支脚として使われていたものと考えられる。2は東壁際の覆土下層から出土した3片が接合している。5は竈左袖の中から、4は左袖上面から出土している。いずれも竈袖の補強材である。3は竈焚き口部手前の覆土下層から、6は北西コーナー覆土下層と竈焚き口部側の覆土中層から出土した破片が接合している。いずれもの埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第392図 第37号竪穴建物跡実測図



第393図 第37号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第393図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.7	4.8	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	竈穴床部	20% PL54 内外面火熱痕
2	土師器	椀	[11.8]	7.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土下層	60%
3	土師器	高台付坏	-	(4.2)	[8.4]	長石・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	10%
4	土師器	高台付坏	[14.1]	5.1	7.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	竈穴部	60% PL55
5	須恵器	高台付坏	[17.4]	(5.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 高台部欠損	竈穴部	20%
6	須恵器	甕	[25.0]	(19.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面指頭圧痕	竈中層	20% PL55

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鉄滓	9.8	5.8	3.9	243.18	鉄	磁性なし	覆土中	

第 39 号 竪穴建物跡 (第 394・395 図 PL51)

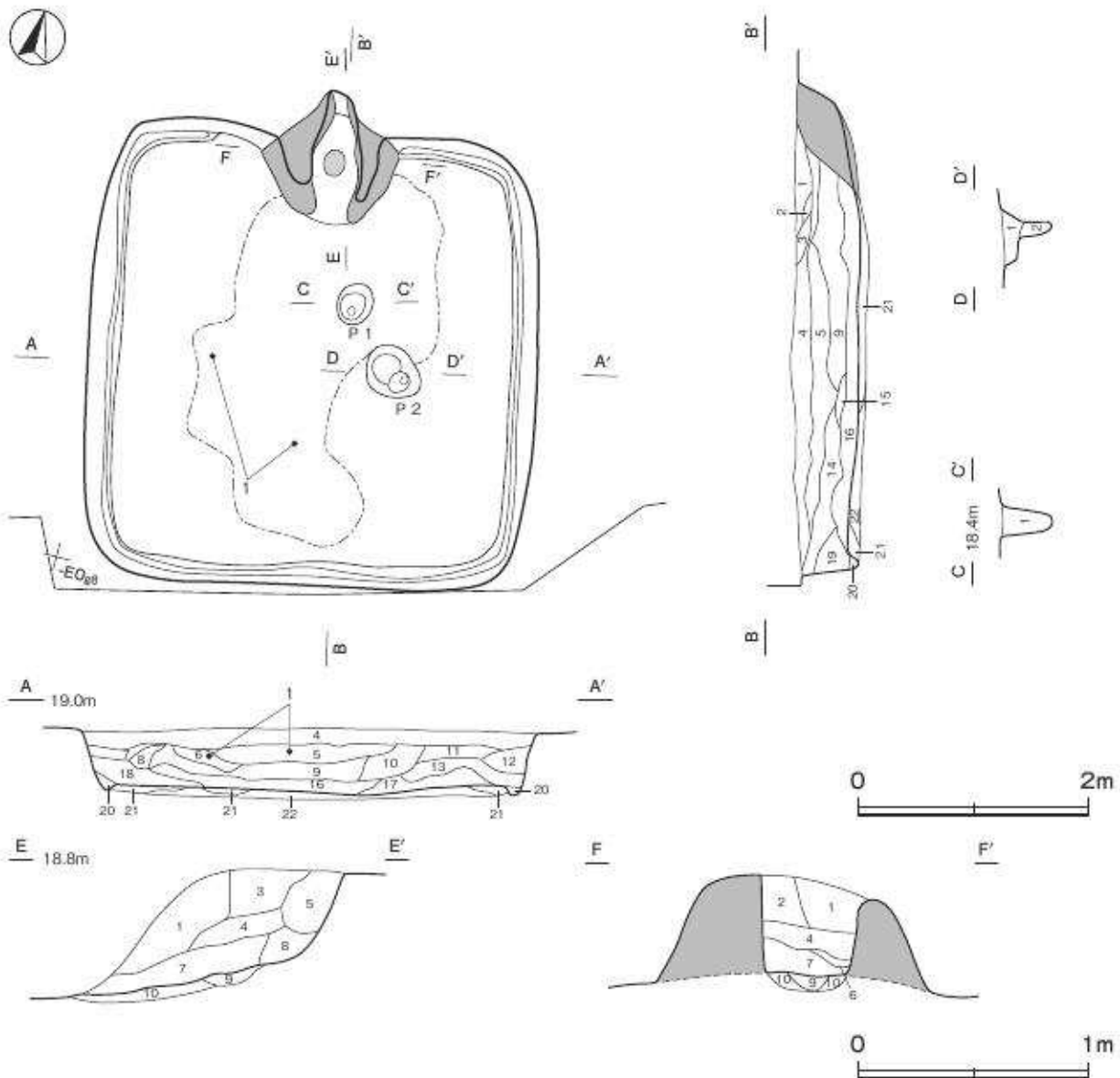
調査年度 平成 26 年度

位置 D区南東部の -E 018 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.02 m、短軸 3.94 m の方形で、主軸方向は N - 15° - W である。壁は高さ 56cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多量に含む第 21・22 層を 5cm ほど埋土して構築されている。壁下を幅 10cm、深さ 10cm ほどの壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 113cm で、燃焼部幅は 40cm である。袖部は粘土ブロックを含む黒褐色土で構築している。火床部は地山をわずかに掘り込んで、ロームブロックを含む第 9・10 層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 80cm 掘り込まれ、火床面から外傾している。



第 394 図 第 39 号 竪穴建物跡実測図

覆土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	6 におい赤褐色	焼土ブロック中量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	7 極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
5 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量

ピット 2か所。P1は深さ44cm、P2は深さ40cmでいずれも性格不明である。

P1土層解説

1 黒褐色	炭化粒子中量
-------	--------

P2土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量

覆土 20層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第21～22層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量	12 黒褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	焼土粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	16 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック多量	17 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子中量	18 暗褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ローム粒子少量	19 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック中量	20 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量	21 褐色	ロームブロック多量
11 黒褐色	ローム粒子少量	22 明褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片24点(坏2, 高台付坏1, 甕21), 須恵器片1点(甕)のほか, 土師質土器(耳付き小形壺)1点が出土している。1は中央部やや南寄りの覆土中層から出土している。2は混入と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第395図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39号竪穴建物跡出土遺物観察表(第395図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	[14.4]	(4.9)	7.4	長石・石英	におい橙	普通	口縁部・体部内外面ナデ、体部上端回転ヘク削り、底部回転ヘク削り後ナデ	覆土中層	50%
2	土師質土器	耳付き小形壺	[11.4]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	におい褐	普通	口縁部外・内面ナデ、体部外面ヘラ削り後ナデ、肩部内面指頭圧痕	覆土中	10% 外面煤付着

第41号竪穴建物跡(第396・397 PL52)

調査年度 平成26年度

位置 D区南東部のE1b2区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.18mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ18～26cmで、外傾している。

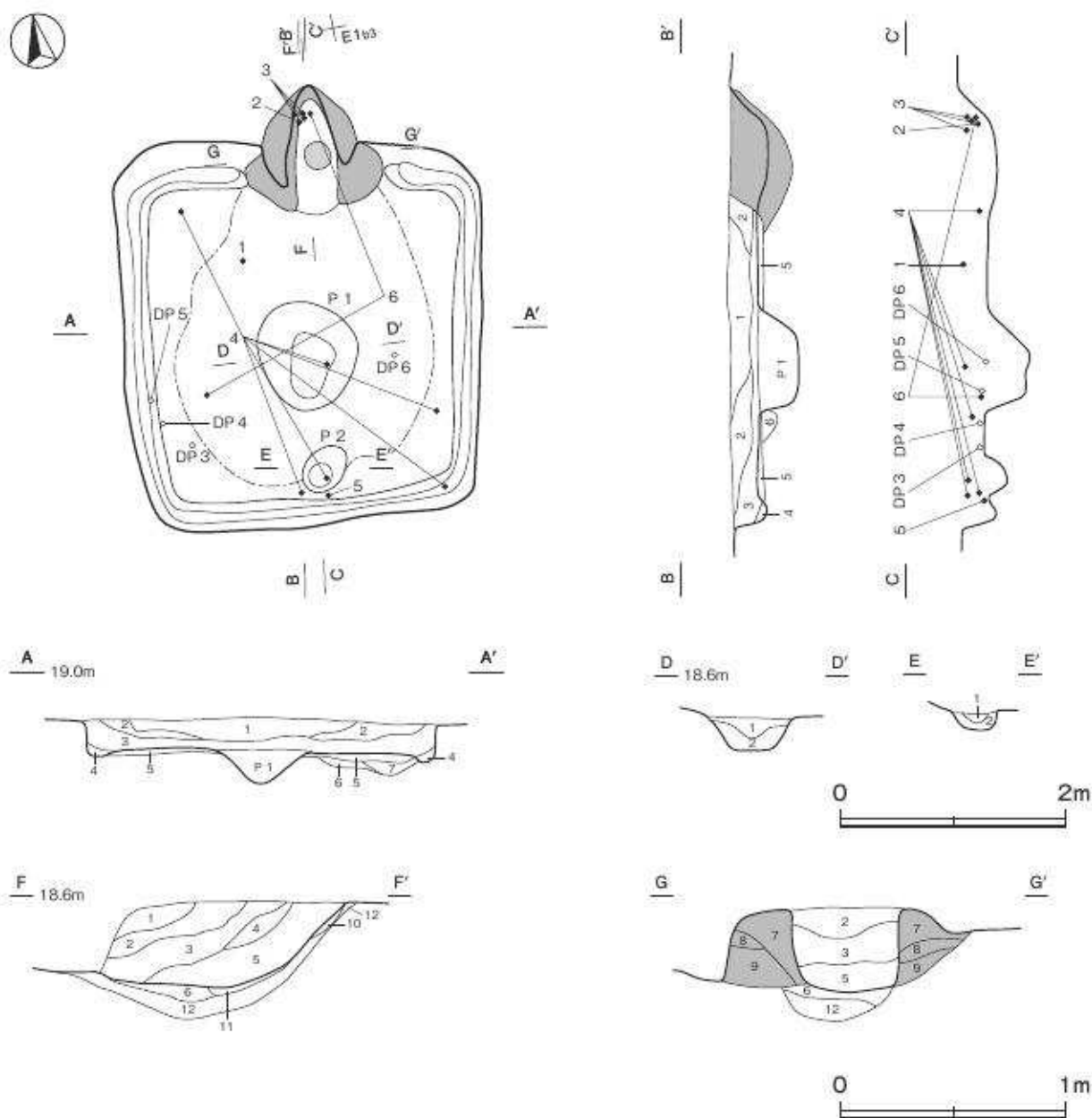
床 ほぼ平坦な貼床で、コーナー部及び壁下を除き、踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第5～7層を3～5cm埋土して構築されている。壁下を幅15cm、深さ10cmほどの壁溝がほぼ全周している。床

面中央部に長径100cm、短径90cm、深さ30cmの掘り込み（P1）が確認できる。性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmで、燃焼部幅は39cmである。袖部は、地山の上に粘土を含む第7～9層を積み上げて構築し、補強材として土師器片を利用している。火床部は地山をわずかに掘り込んで、焼土・炭化粒子混じりの黒褐色土の第6・10～12層を埋土して構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 褐灰色 | 粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 10 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 に近い赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 12 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |



第396図 第41号竪穴建物跡実測図

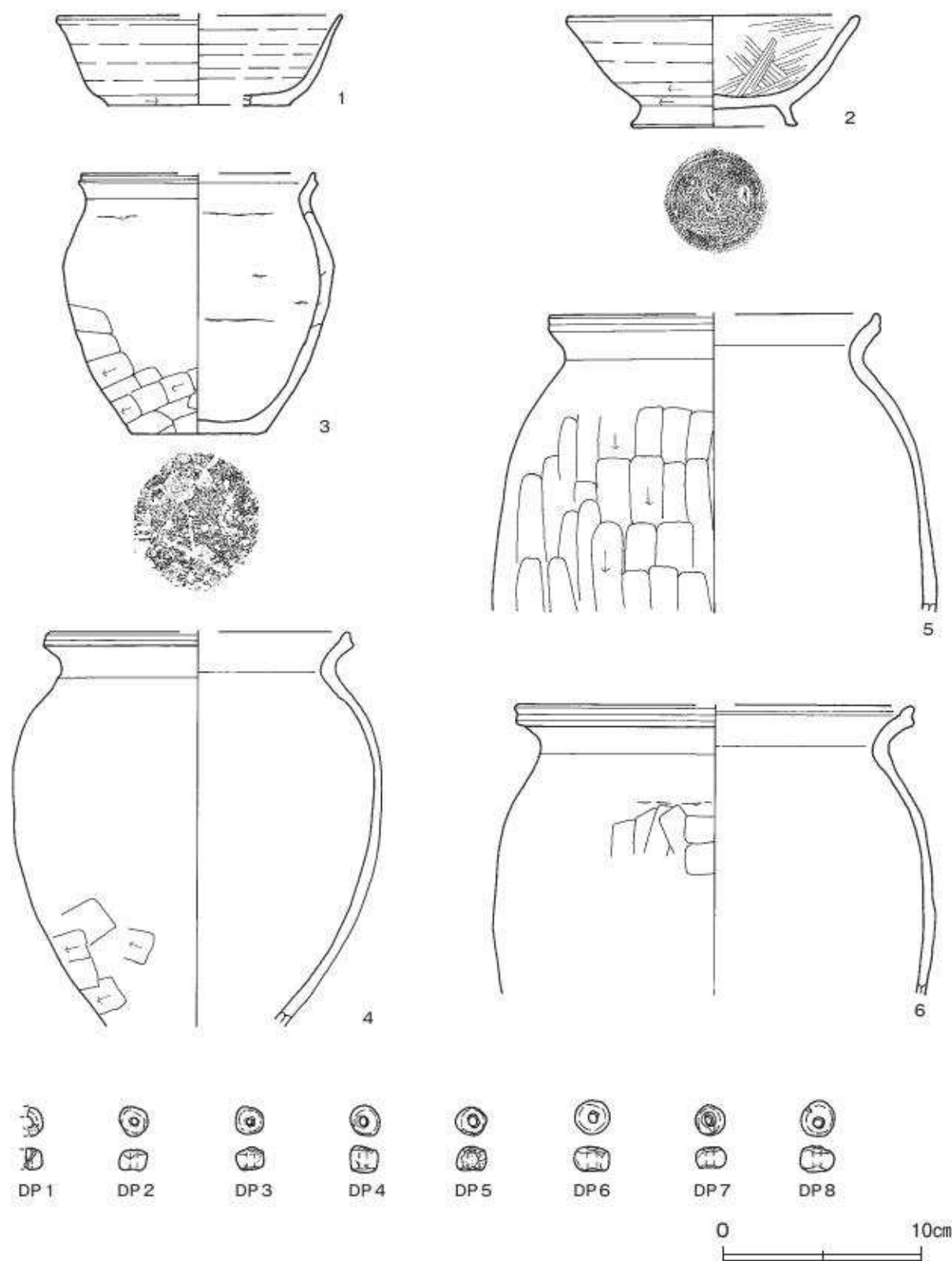
ピット 2か所。P 1は深さ30cmで配置から柱穴、P 2は深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

P 2土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量



第 397 図 第 41 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第5～7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片302点(坏16, 高台付坏3, 甕283), 須恵器片26点(坏13, 蓋1, 甕12), 土製品8点(土玉)のほか、縄文土器片60点(深鉢)が出土している。2・3・6は竈内から盛った土の上に3・6を逆位に重ね、更に2を逆位にし高台部を上に向け、かぶせた状態で出土している。土器が火を受けていることから支脚転用と見られる。5は出入り口付近の覆土下層から、1は竈左袖手前の覆土上層からそれぞれ出土している。4は中央部から南東コーナー部にかけての覆土下層から出土した4片が接合している。DP 1～DP 8の土玉は南西部コーナー付近から南東部壁下にかけて、床面の比較的硬化していない部分から出土している。縄文土器はいずれも細片で流れ込みと考えられる。1は流れ込みと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第41号竪穴建物跡出土遺物観察表(第397図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[142]	(45)	[9.1]	長石・石英・細砂	褐色	普通	口縁部・体部内外面ナデ、体部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	20%
2	土師器	高台付坏	14.6	5.6	8.1	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き	竈中層	90% 体部内面火熱痕 PL56
3	土師器	小形甕	[11.6]	13.1	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面ナデ、体部外面傾位のヘラ削り輪積痕	竈中層	40%
4	土師器	小形甕	[15.0]	(19.8)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り・内面ナデ	覆土下層	40%
5	土師器	甕	[16.6]	(15.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部から外・内面ナデ、体部外面傾位のヘラ削り	覆土下層	20%
6	土師器	甕	[19.8]	(14.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	竈中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	14	(1.1)	(0.3)	(0.85)	長石	にぶい橙	1/2欠損 ナデ 一方向からの穿孔	床面	
DP 2	土玉	15	1.2	0.4	2.01	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL57
DP 3	土玉	14	1.0	0.4	1.63	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL57
DP 4	土玉	14	1.2	0.4-0.5	2.14	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL57
DP 5	土玉	15	1.4	0.6-0.7	(2.05)	長石	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL57
DP 6	土玉	18	1.2	0.4-0.5	3.82	長石・黒色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL57
DP 7	土玉	15	1.0	0.4-0.5	2.20	長石・石英	黄褐色	ナデ 一方向からの穿孔	床面	火熱痕 PL57
DP 8	土玉	17	1.3	0.5	3.96	長石	黄褐色	ナデ 一方向からの穿孔	床面	火熱痕 PL57

第45号竪穴建物跡(第398・399図)

調査年度 平成27年度

位置 F区西部のC9a0区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.14m、短軸2.70mの長方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ28～38cmで、ほぼ直立している。

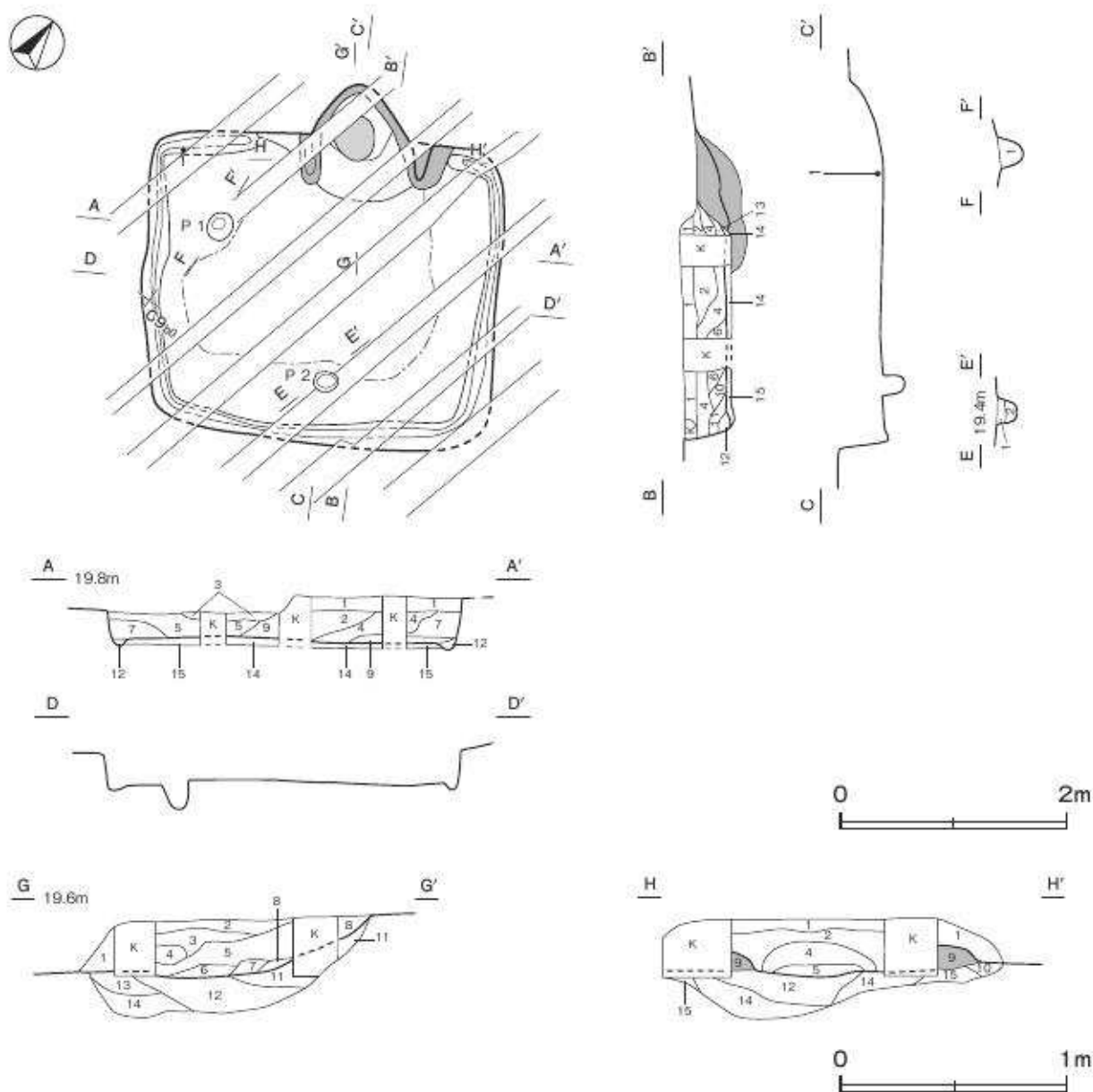
床 ほぼ平坦な貼床で、コーナー付近及び壁下を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第14・15層を埋土して構築されている。壁下には幅10cm、深さ5cmほどの壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。トレンチにより一部壊されているが、焚き口部から煙道部まで95cm、燃

焼部幅は70cmである。袖部は地山の上に粘土粒子を多量に含む第9層を積んで構築している。左袖内面は火熱による赤変硬化が認められる。右袖内面は攪乱により崩落している。火床部は地山を40cmほど掘り下げて、ロームブロックを含む第10～15層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ、表面は強く赤変硬化し、火床面から緩やかに外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|----------|---------------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量 | 9 にぶい橙色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒 褐 色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 11 橙 色 | 焼土粒子多量、ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 4 明褐灰色 | 粘土ブロック多量 | 12 褐 色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 13 褐 色 | ローム粒子多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック多量、焼土粒子中量 | 14 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 7 明褐灰色 | 粘土ブロック多量 | 15 暗 褐 色 | ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子極微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 | | |



第 398 図 第 45 号竈穴建物跡実測図

ピット 2か所。P 1は深さ28cm、P 2は深さ20cmで、配置からP 1は柱穴、P 2は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 1土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

P 2土層解説

1 褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第14・15層は貼床の構築土である。

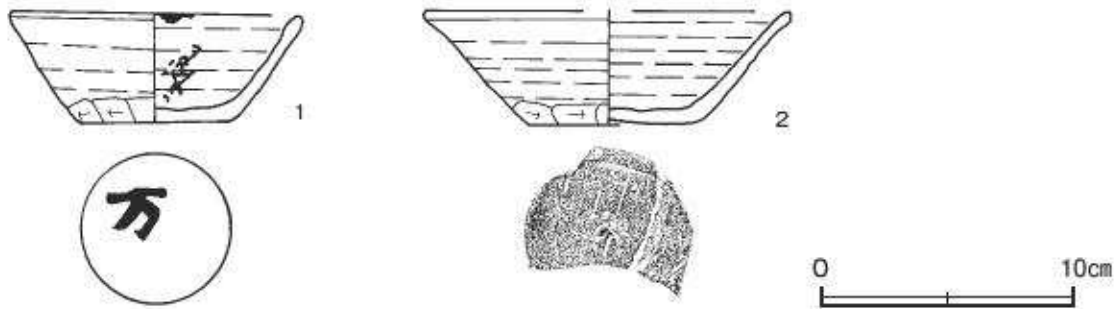
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 灰褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 褐色 ロームブロック多量
5 褐色 ロームブロック中量
6 暗褐色 ロームブロック中量
7 灰褐色 ロームブロック多量
8 黒褐色 ロームブロック微量

9 明褐色 ロームブロック多量
10 褐色 ロームブロック微量
11 暗褐色 ロームブロック多量
12 黒褐色 ロームブロック中量
13 褐灰色 ロームブロック中量
14 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
15 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片12点(坏2, 甕10)、須恵器片11点(坏5, 甕6)のほか、縄文土器片60点(深鉢)が覆土から出土している。1は北西コーナー付近の壁溝上、覆土下層から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第399図 第45号竪穴建物跡出土遺物実測図

第45号竪穴建物跡出土遺物観察表(第399図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	11.6	4.4	6.0	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部から体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持らへら削り 底部墨書「万」	覆土下層	80%
2	須恵器	坏	[14.4]	4.5	6.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部から体部外・内面ロクロナデ 体部上端手持らへら削り 底部一方向のへら削り	覆土中	40%

表26 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)				柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
30	D 9 b9	N-5°-E	方形	3.33 × 3.31	32-36	平坦	全周	1	1	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	9世紀中葉		
31	E 9 g7	N-7°-E	長方形	4.80 × 3.90	38-50	平坦	全周	1	2	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	9世紀後葉	欄状施設あり	
34	D 1 e2	N-5°-E	長方形	3.84 × 3.30	10-20	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	1	人為	土師器、須恵器、磁石、石鏡	9世紀後葉		
37	E 0 e1	N-3°-W	方形	3.16 × 3.09	38-42	平坦	ほぼ全周	1	-	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器、鉄滓	9世紀後葉	欄状施設あり	
39	E 0 e8	N-15°-W	方形	4.02 × 3.94	56	平坦	全周	-	-	2	-	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後葉		
41	E 1 h2	N-7°-E	方形	3.48 × 3.18	18-26	平坦	ほぼ全周	-	1	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器、製品	9世紀後葉		
45	C 9 a0	N-36°-W	長方形	3.14 × 2.70	28-38	平坦	全周	1	1	-	-	-	人為	土師器、須恵器	9世紀中葉		

(2) 井戸跡

第6号井戸跡 (第400図)

調査年度 平成26年度

位置 D区中央部の-D0j8区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径1.50mほどの円形である。ほぼ円筒形に掘り込まれ、深さ2mほど掘り下げた段階で、湧水と崩落の危険があるためそれより下部の調査を断念した。

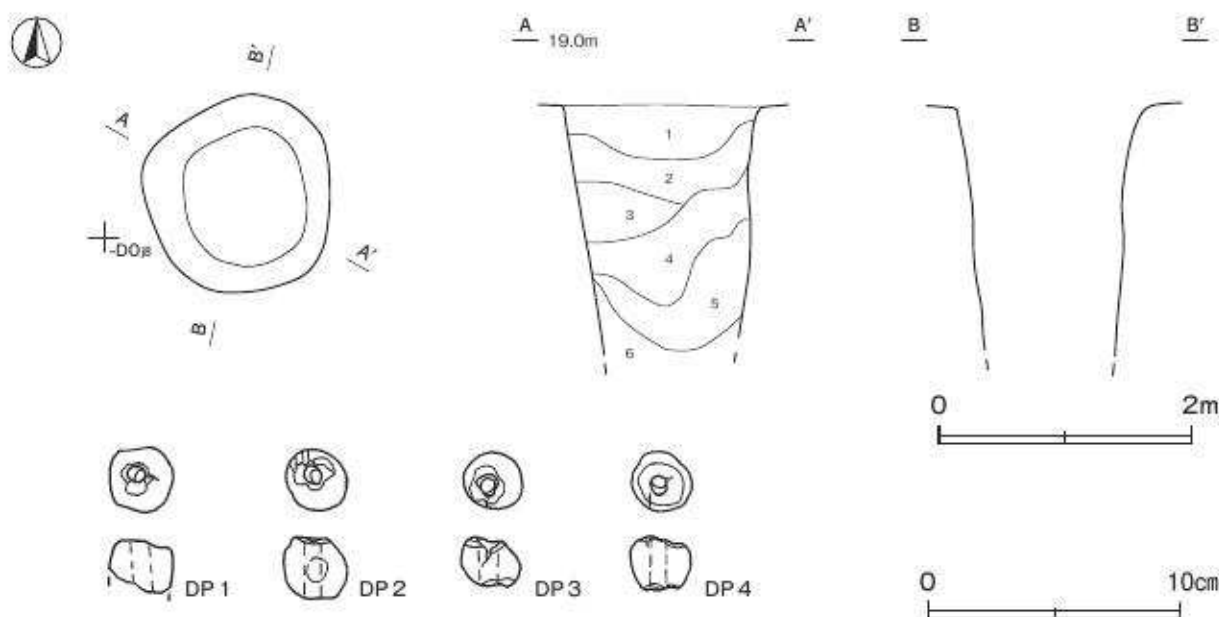
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、須恵器片5点(甕)、土製品4点(土玉)が、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第400図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

第6号井戸跡出土遺物観察表 (第400図)

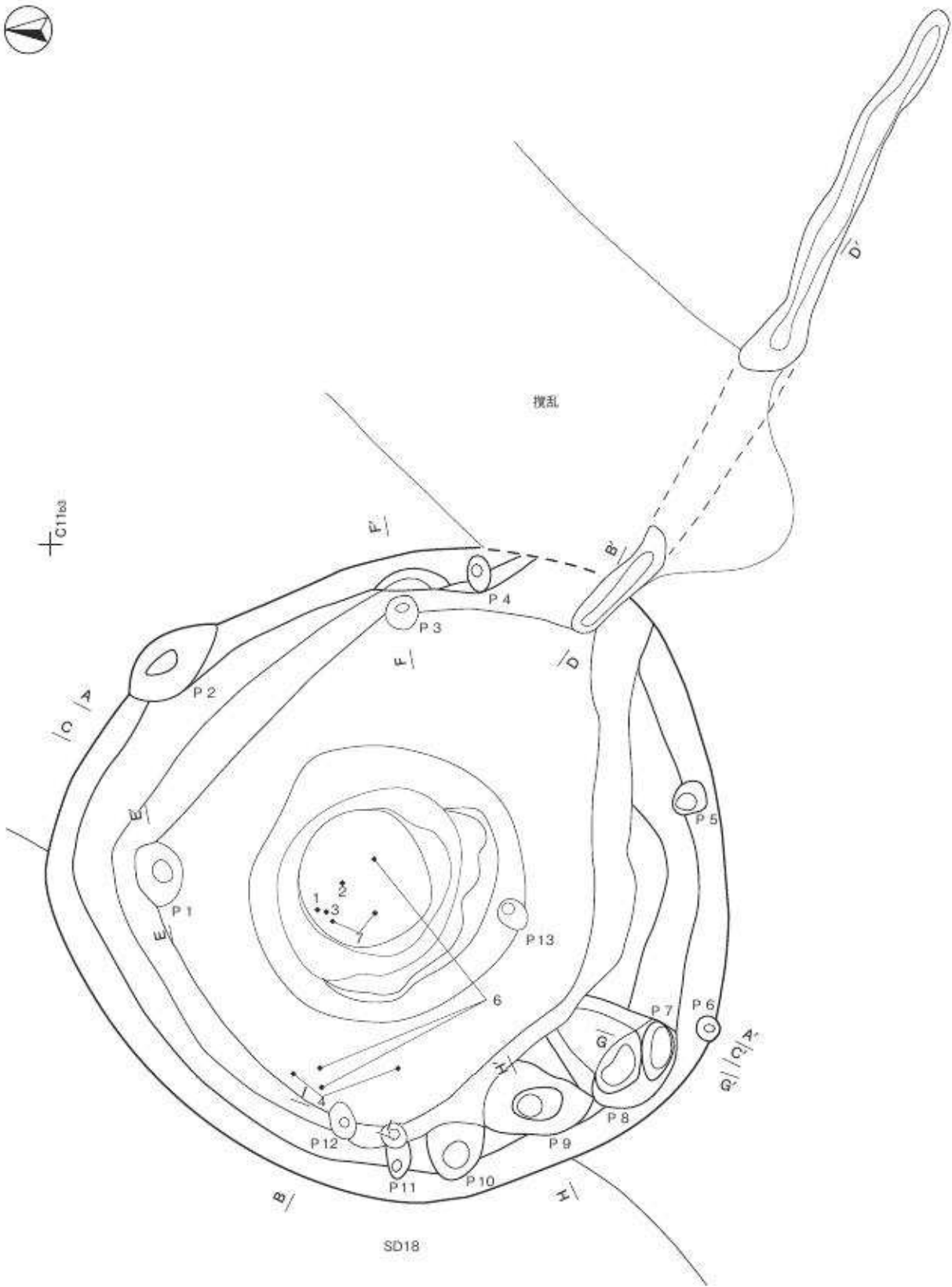
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	25	(2.1)	07-08	9.02	長石	にぶい橙	1/2欠損 ナテ 一方向からの穿孔	覆土中	PL57
DP 2	土玉	25	2.5	07-08	10.81	長石	にぶい橙	ナテ 一方向からの穿孔	覆土中	PL57
DP 3	土玉	23	2.0	07-08	7.55	長石	にぶい橙	ナテ 一方向からの穿孔	覆土中	PL57
DP 4	土玉	24	2.0	06	9.08	長石	にぶい橙	ナテ 一方向からの穿孔	覆土中	PL57

第10号井戸跡 (第401～403図 PL52)

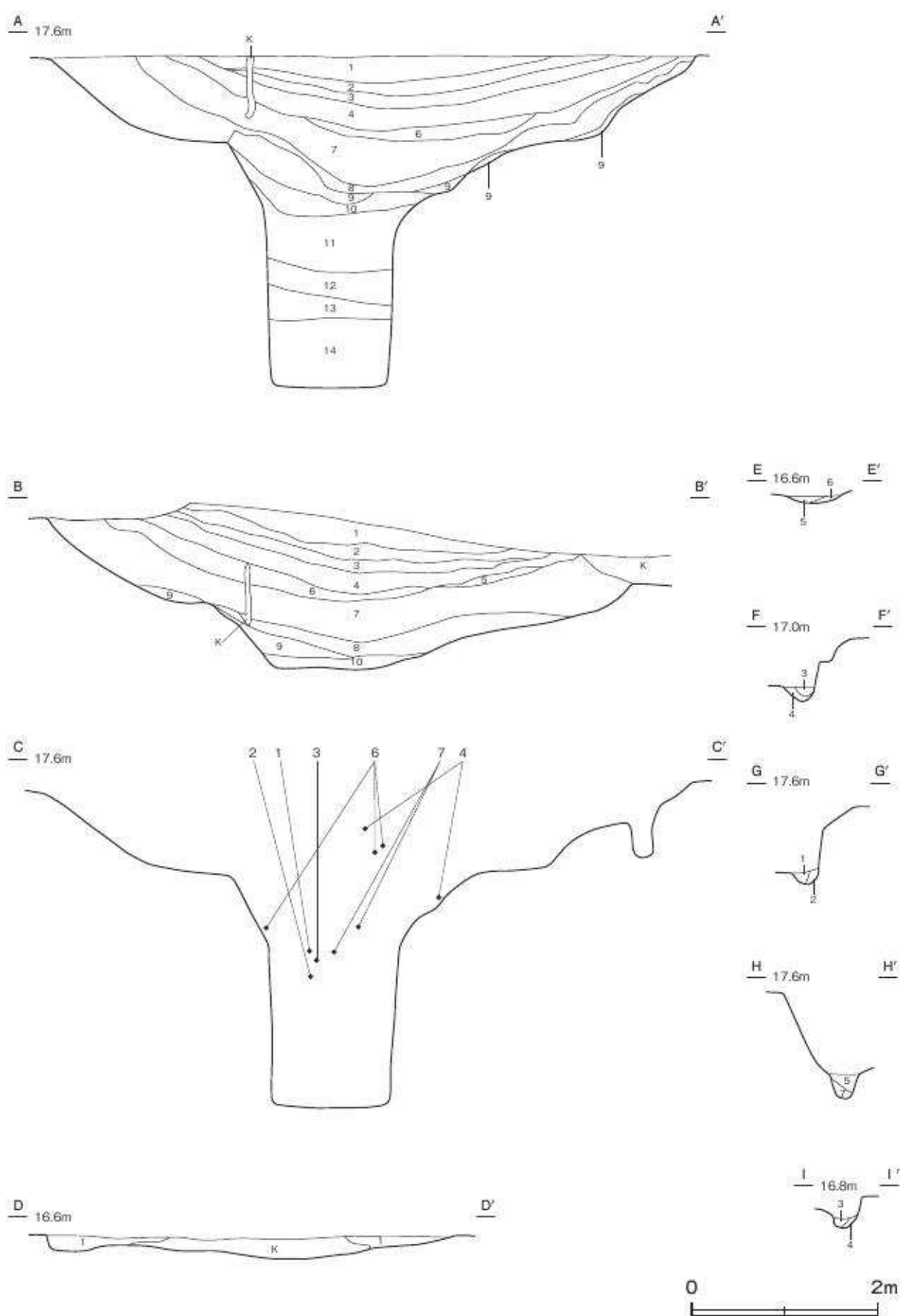
調査年度 平成27年度

位置 F区南東部のC11b2区、標高17mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。



第 401 図 第 10 号井戸跡実測図(1)



第 402 図 第 10 号井戸跡実測図(2)

規模と形状 径 6.80 m ほどの円形で、深さは 3.52 m である。確認面から 1 m までは漏斗状で、それより下位は径 1.35 m の円筒状である。幅 40cm、深さ 10cm ほどの溝が南東部に確認できる。本跡に伴う溝と思われるが、性格は不明である。

ピット 13 か所。肩部の平坦面に径 30 ~ 40cm の円形で、深さ 20 ~ 40cm のピットが不規則に巡っている。井戸に関わる施設に伴うピットと考えられるが、性格は不明である。

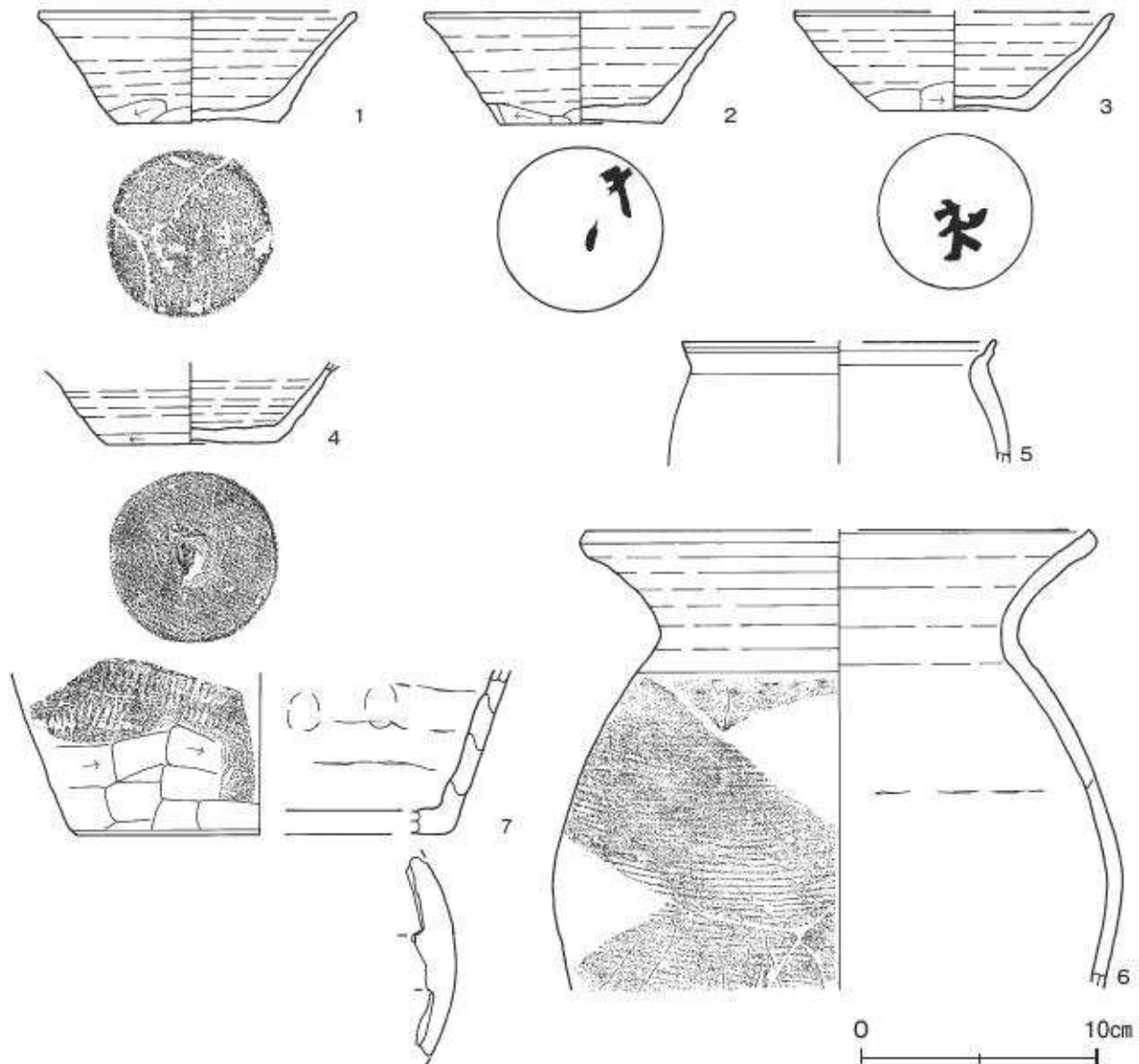
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・鉄分微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子、鉄分少量 | 7 灰白色 粘土ブロック多量、鉄分少量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子・鉄分少量 | |

覆土 14 層に分層できる。第 8 ~ 10 層はロームブロックが混入していることから埋め戻されている。他の層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒色 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒色 炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |



第 403 図 第 10 号井戸跡出土遺物実測図

- | | | | | | |
|----|--------|-------------------------|----|------|--------------|
| 9 | にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック少量 | 12 | 浅黄褐色 | 粘土粒子・鉄分多量 |
| 10 | 黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量 | 13 | 灰白色 | 粘土粒子多量 |
| 11 | にぶい褐色 | 砂粒多量, 炭化粒子・粘土粒子中量 | 14 | 明青灰色 | 砂粒多量, 粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器 56 点 (坏 18, 甕 38), 須恵器 91 点 (坏 34, 高台付皿 1, 甕 56), 鉄滓 1 点, 粘土塊 1 点が出土している。4 は壁に接して覆土中層から, 1~3・7 は壁際の覆土中層から, 6 は覆土上層・中層から出土した破片が接合している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。

第 10 号井戸跡出土遺物観察表 (第 403 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.5	4.8	6.8	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土中層	90% PL54
2	須恵器	坏	13.1	4.7	7.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ 底部墨書「茂」	覆土中層	80% PL55
3	須恵器	坏	[13.6]	4.2	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ヘラ削り 底部墨書「ネ」	覆土中層	40%
4	須恵器	坏	-	(3.4)	7.4	長石・白色粒子	灰	良好	体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中層	50%
5	土師器	甕	[13.4]	(5.2)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	10%
6	須恵器	甕	[21.4]	(19.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面横位の平行叩き輪横痕	覆土中層	20%
7	須恵器	瓶	-	(6.9)	[15.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き, 下端ヘラ削り 内面ヘラ削り後ナデ 指頭庄痕 輪横痕	覆土中層	10%

表 27 平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6	D 9f8	-	円形	1.50 × 1.50	(200)	不明	円筒形	人為	土師器, 須恵器, 土製品	
10	C 11b2	-	円形	6.80 × 6.70	352	不明	漏斗状	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	本跡→SD18

(3) 土坑

第 75 号土坑 (第 404 図)

調査年度 平成 26 年度

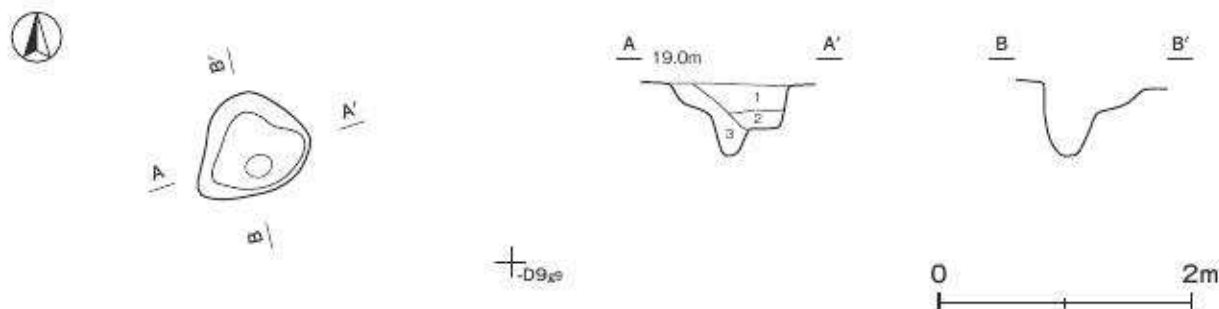
位置 D 区北西部の D 9f8 区, 標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.95 m, 短径 0.85 m の不整楕円形で, 長径方向は N-60°-E である。深さは 53 cm で, 底面は U 字状である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------|---|----|-----------|
| 1 | 黒色 | ロームブロック微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | | | |



第 404 図 第 75 号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土しているが、細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。

第90号土坑 (第405図)

調査年度 平成26年度

位置 D区中央部の-D04区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.45mの不整楕円形で、長径方向はN-62°-Wである。底面は2か所のピット状に掘り込まれており、深さは50cmと45cmである。壁は外傾している。

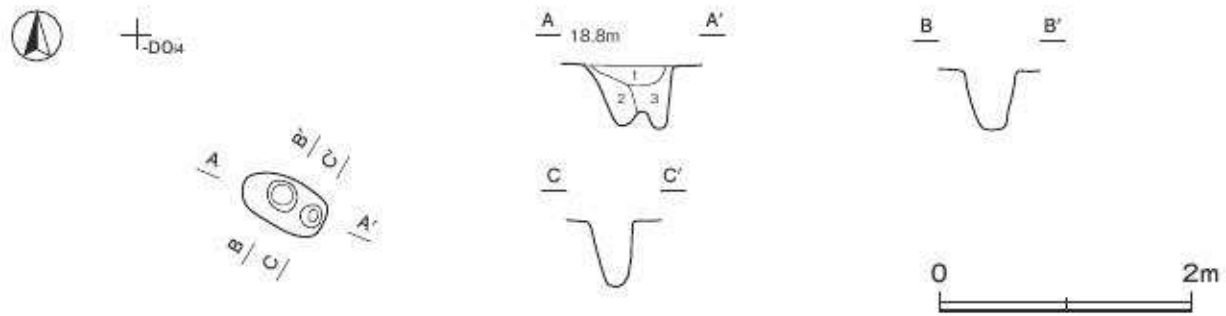
覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況やロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片3点(甕)が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



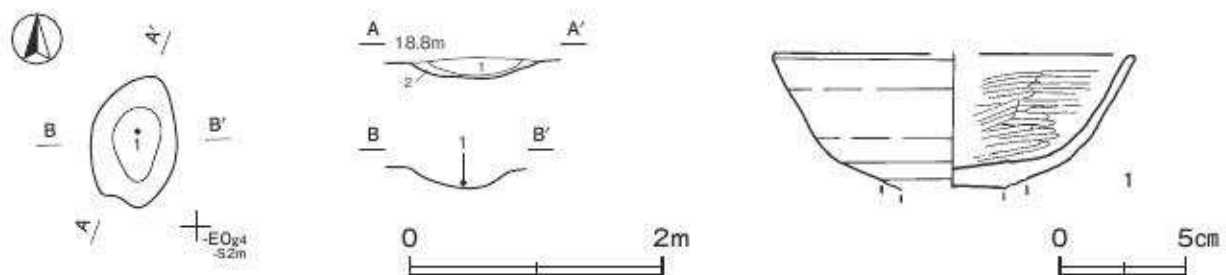
第405図 第90号土坑実測図

第93号土坑 (第406図)

調査年度 平成26年度

位置 D区南部の-E03区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.00m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは15cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。



第406図 第93号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

1 無暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器1点（高台付杯）が覆土下層から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第93号土坑出土遺物観察表（第406図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付杯	[14.2]	(5.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ナデ 内面ヘラ磨き 下縁回転ヘラ削 り 黒色処理	覆土下層	10%

第104号土坑（第407図）

調査年度 平成26年度

位置 D区北部のD0E3区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径約1.20mの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

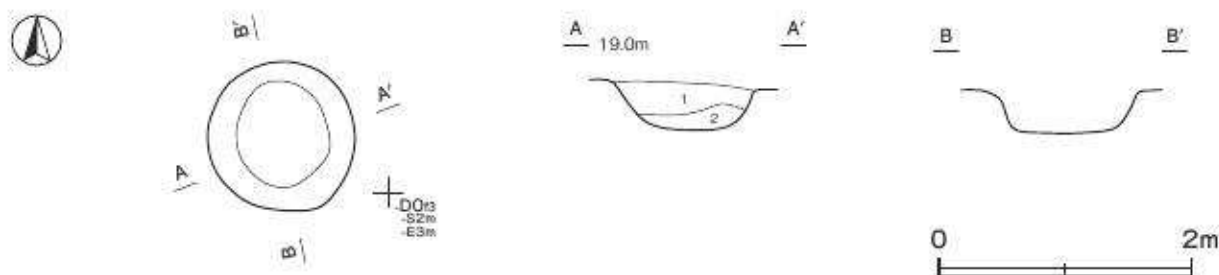
土層解説

1 無暗褐色 炭化物少量、ロームブロック微量

2 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 須恵器片1点（坏）が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。そのほか縄文土器片1点（深鉢）が覆土中から出土している。須恵器坏は埋土と共に投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第407図 第104号土坑実測図

第118号土坑（第408図）

調査年度 平成26年度

位置 D区北東部のD1c4区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第117号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径約1.20m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは27cmで、底面はほぼ平坦で、西側に向かって緩やかに傾斜している。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

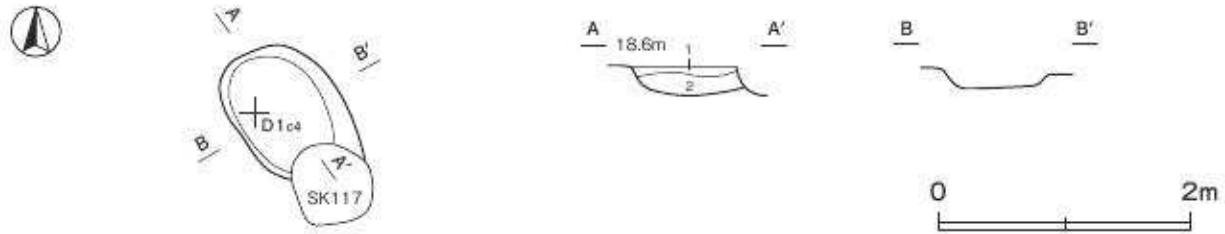
土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片7点(坏1, 甕6), 須恵器片3点(甕)が覆土中から出土しているが, 細片のため図示できなかった。いずれも埋まる過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第408図 第118号土坑実測図

第133号土坑 (第409図)

調査年度 平成27年度

位置 F区中央部のB10h0区, 標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径約1.30mの円形で, 深さは40cmである。底面は東に向かって緩やかに傾斜して深くなっている。東壁は急角度で, 西壁は緩やかな傾斜で, 北壁・南壁は外傾している。

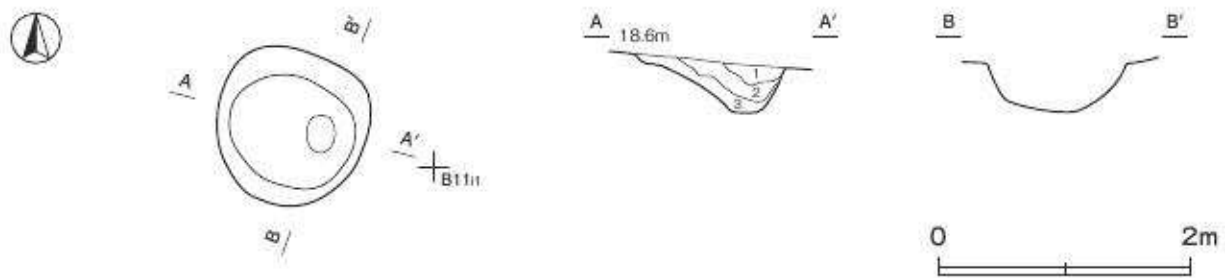
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点(甕)が覆土中から出土しているが, 細片のため図示できなかった。いずれも埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第409図 第133号土坑実測図

第136号土坑 (第410図)

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB10g7区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m, 短径1.10mの不整楕円形で, 長径方向はN-40°-Wである。深さは45cmで, 底面は皿状である。壁は外傾している。

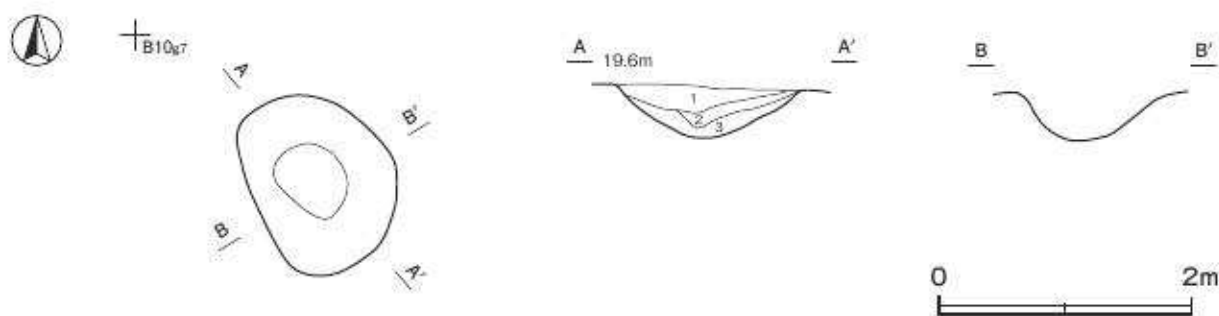
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、須恵器片1点(甕)が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。いずれも埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第410図 第136号土坑実測図

第153号土坑(第411図)

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB11fl区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.20m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-34°-Eである。深さは40cmで、底部は東から西に緩やかに傾斜している。底面は皿状で、壁は外傾している。

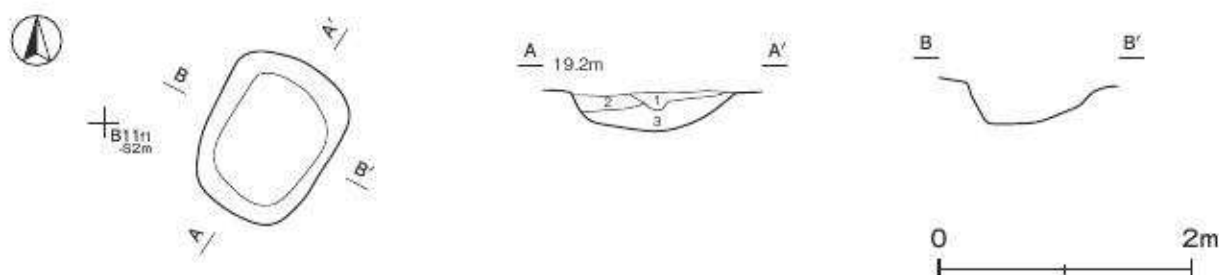
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片2点(甕)が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。いずれも埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第411図 第153号土坑実測図

表28 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
75	D-938	N-60°-E	不整楕円形	0.95 × 0.85	53	U字状	外傾	人為	土師器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
90	D 014	N-62°-W	不整楕円形	0.75 × 0.45	45-50	U字状	外傾	人為	土師器	
93	E 0g3	N-20°-E	楕円形	1.00 × 0.75	15	皿状	傾斜	自然	土師器	
104	D 0f3	-	円形	1.20 × 1.20	30	平坦	外傾	人為	須恵器	
118	D 1e4	N-38°-W	楕円形	[1.20] × 0.84	27	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	本跡→SK117
133	B 10h0	-	円形	1.30 × 1.30	40	皿状	傾斜	人為	土師器	
136	B 10g7	N-40°-W	不整楕円形	1.50 × 1.10	45	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	
153	B 11f1	N-34°-E	隅丸長方形	1.20 × 1.00	40	皿状	傾斜	人為	土師器	

5 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は整穴建物跡 8 棟、井戸跡 1 基、土坑 8 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第 12 号掘立柱建物跡 (第 412・413 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区中央部の-D 0j2区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 86 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 5 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向が N-86°-E の東西棟である。規模は桁行 10.2 m、梁行 4.7 m で、面積は 47.94 m² である。柱間寸法は、桁行が 1.8 ~ 2.5 m、梁行は 4.6 ~ 4.7 m である。柱筋は桁行・梁行ともにほぼ揃っている。

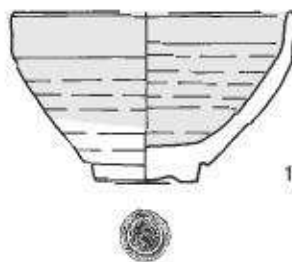
柱穴 12 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 46 ~ 70 cm、短径 44 ~ 60 cm である。深さは 40 ~ 65 cm で、掘方の壁は直立または外傾している。第 1 ~ 3 層は柱抜き取り後の堆積土、第 4 ~ 6 層は埋土と考えられる。P 1 ~ P 4・P 6・P 7・P 9・P 10・P 12 では底面から柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は 10 ~ 18 cm と推定される。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

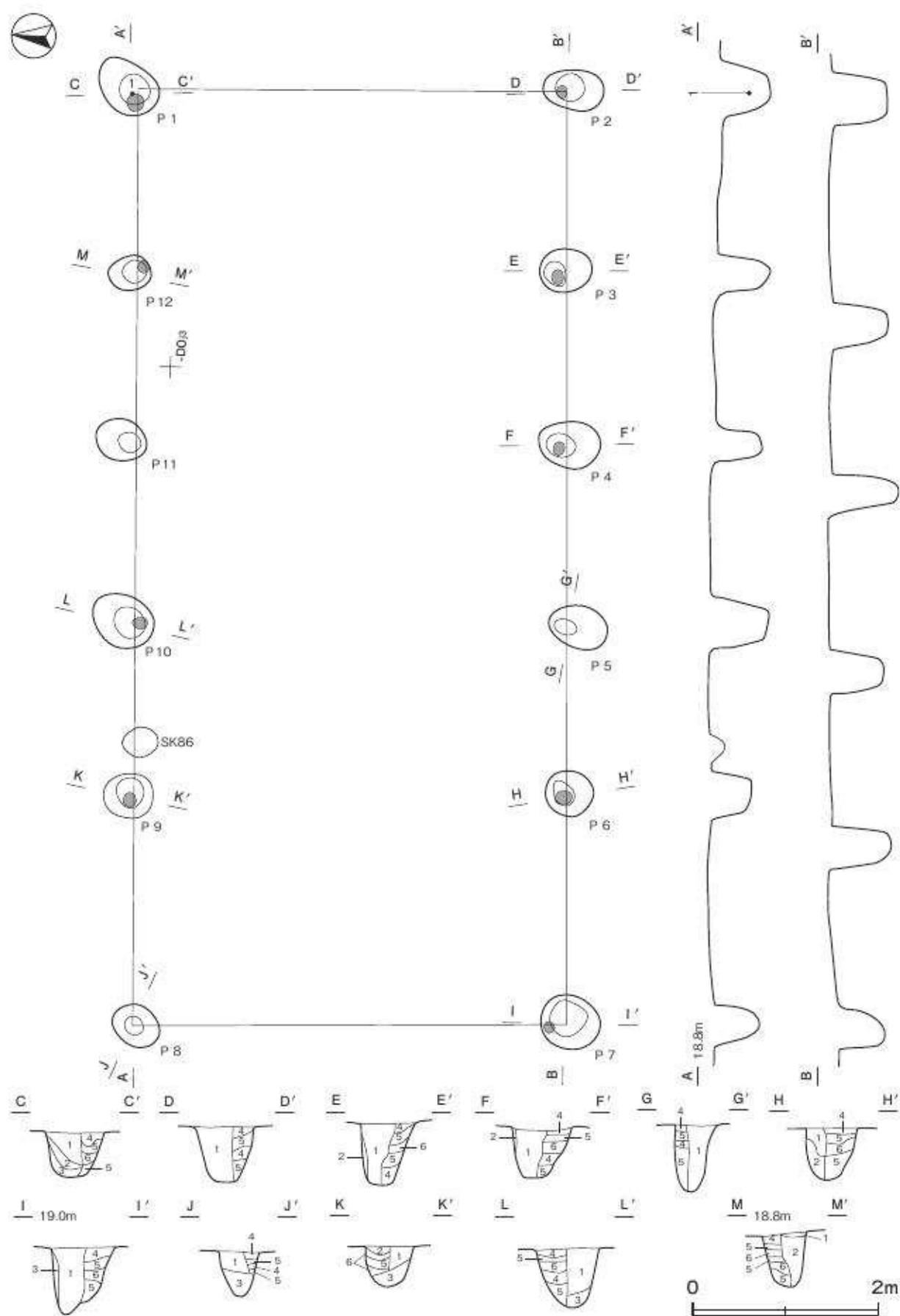
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 須恵器片 6 点 (甕)、陶器 1 点 (碗) が出土している。1 は P 1 内の覆土中層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第 412 図 第 12 号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第 413 図 第 12 号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第412図)

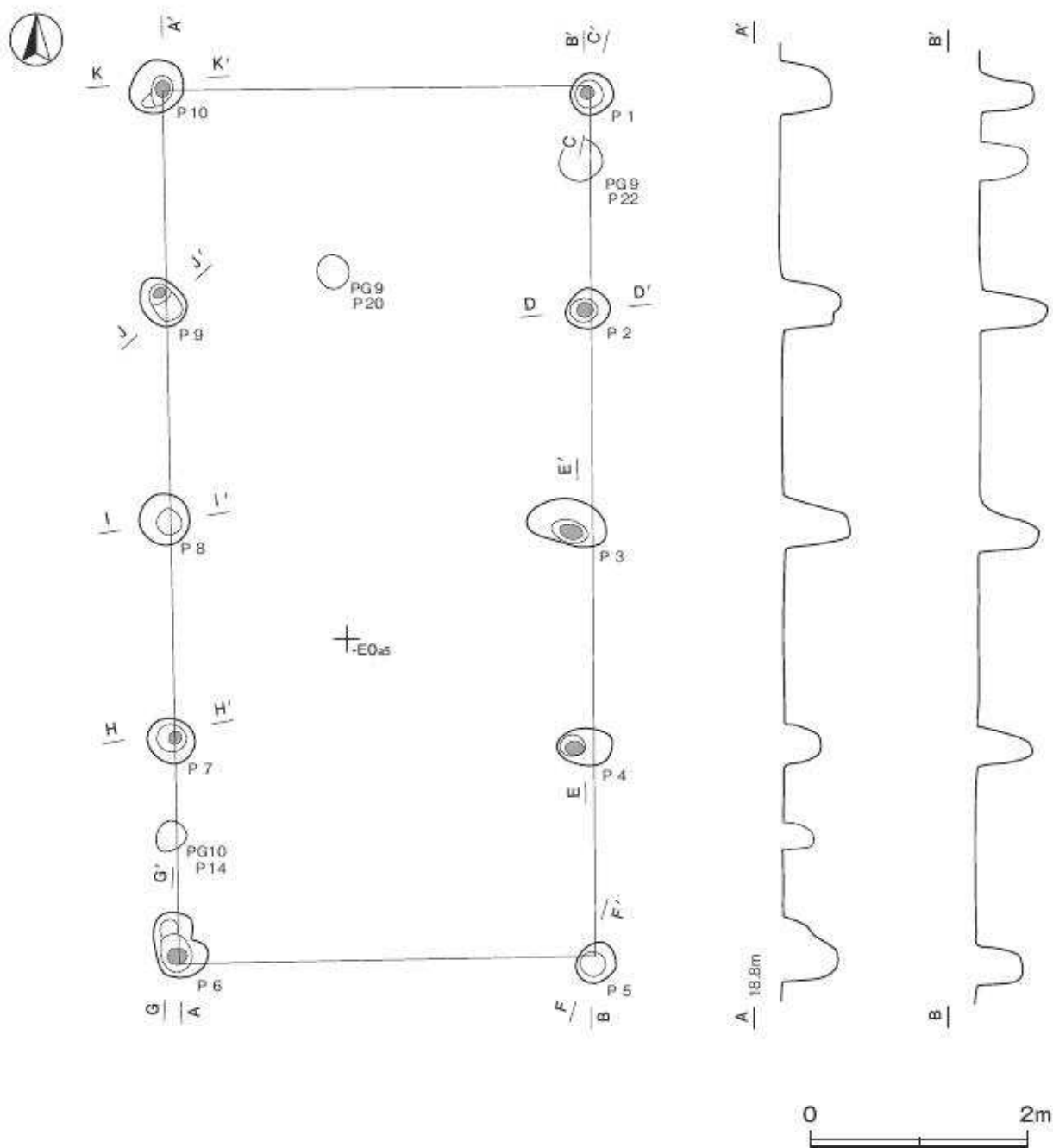
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	種類	産地	出土位置	備考
1	陶器	天目茶碗	[11]	67	40	緻密 灰白	刷り出し輪高台 腹から高台部露胎	鉄袖	瀬戸	覆土中層	80% PL56

第13号掘立柱建物跡(第414・415図)

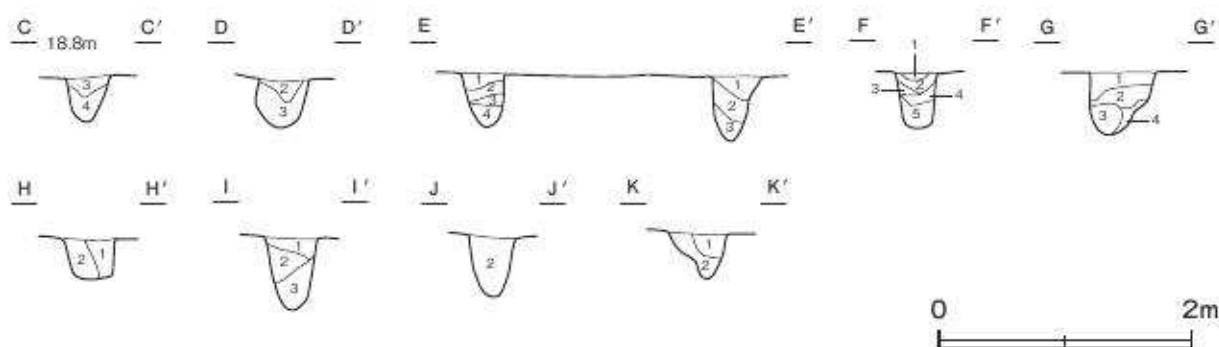
調査年度 平成26年度

位置 D区中央部の-D05区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・10号ピット群に掘り込まれている。



第414図 第13号掘立柱建物跡実測図(1)



第 415 図 第 13 号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 桁行 4 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向が $N-1^{\circ}-W$ の南北棟である。規模は桁行 8.0 m、梁行 3.9 m で、面積は 31.20 m^2 である。柱間寸法は、桁行が 1.9 ~ 2.1 m、梁行は 3.7 ~ 3.9 m である。柱筋は桁行・梁行ともにはほぼ揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 38 ~ 75 cm、短径 34 ~ 48 cm である。深さは 35 ~ 60 cm で、壁は直立または外傾している。第 1・2 層は柱抜き取り後の堆積土、第 3 ~ 5 層は埋土である。柱のあたりは P 5・P 8 を除く底面で確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は 14 ~ 20 cm と推定できる。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、確定できる遺物は無いが、室町時代と考えられる東西棟の第 12 号掘立柱建物跡に隣接し、軸線が直交し、北辺が揃うことから、同時代と考えられる。

表 29 室町時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (m^2)	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
12	-D 0 2	$N-86^{\circ}-E$	5×1	10.2×4.7	47.94	1.8~2.5	4.6~4.7	側柱	12	円形・楕円形	40~65	須恵器、陶器	室町時代	本跡→SK86
13	-D 0 5	$N-1^{\circ}-W$	4×1	8.0×3.9	31.20	1.9~2.1	3.7~3.9	側柱	10	円形・楕円形	35~60		室町時代	本跡→PG9・10

(2) 井戸跡

第 5 号井戸跡 (第 416 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D 区中央部の -D 0 f 7 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径 1.30 m ほどの円形で、上部が若干漏斗状を呈し、中位以下は径約 0.9 m の円筒形である。深さ 1.9 m ほど掘り下げた段階で、湧水と崩落の危険があるためそれより下部の調査を断念した。

覆土 9 層に分層できる。不規則な堆積状況やロームブロックが混入していることから埋め戻されている。

土層解説

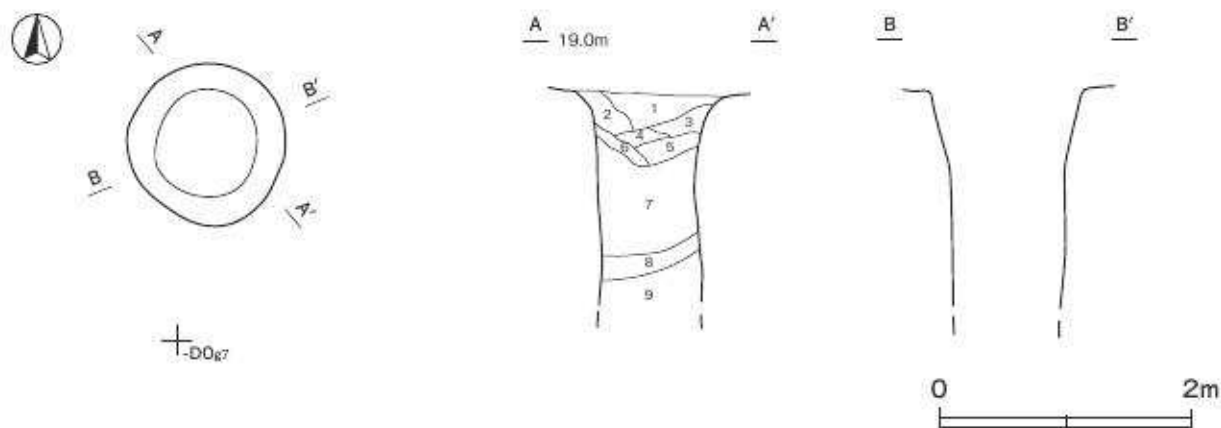
- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 4 灰褐色 粘土ブロック多量 |

- 5 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 6 明褐色 粘土ブロック多量
- 7 黒色 ロームブロック少量

- 8 黒色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)、土師器片16点(甕)、須恵器2点(坏、甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第416図 第5号井戸跡実測図

(3) 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑 (第417図)

調査年度 平成26年度

位置 D区南部の-E0e6区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.2mの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。底面から壁の下部にかけて、白色粘土が5cmほどの厚さで貼り付けられている。

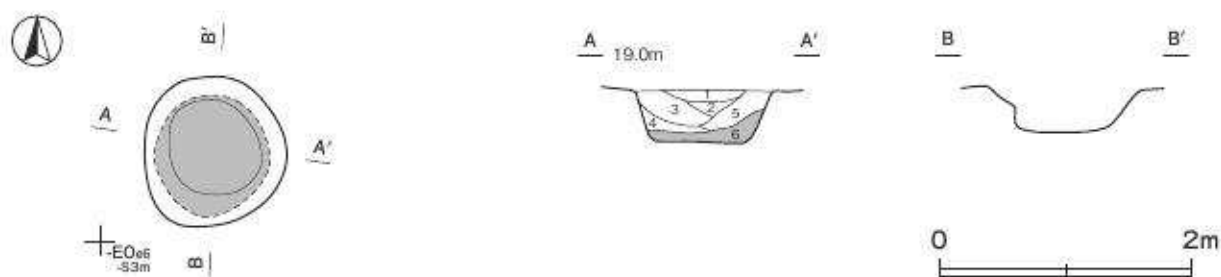
覆土 6層に分層できる。ロームや粘土のブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 5 におい褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 6 明褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)、土師器片2点(甕)、須恵器片2点(甕)、粘土塊1点が出土している。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や形状から室町時代と考えられる。性格は不明である。



第417図 第1号粘土貼土坑実測図

(4) 土坑

第 80 号土坑 (第 418 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区南部の-E 0 f5区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.30 m、短軸 1.12 mの隅丸方形で、長軸方向はN-5°-Wである。深さは10cmである。

底面は皿状で、壁は緩やかに傾斜している。

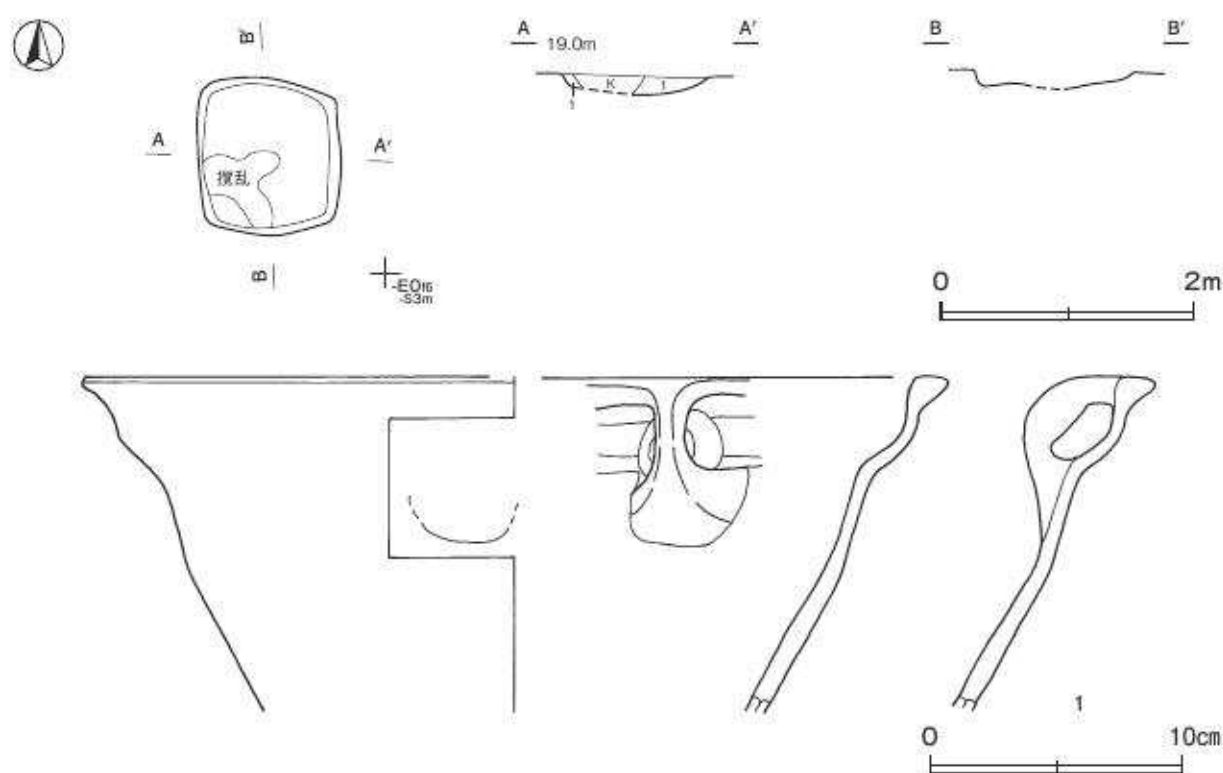
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1点 (内耳鍋) が出土している。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。性格は不明である。



第 418 図 第 80 号土坑・出土遺物実測図

第 80 号土坑出土遺物観察表 (第 418 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(13.3)	-	長石・石英	灰褐色	普通	3耳 口縁部外・内面植ナデ・外面焼付着	覆土中	30%

第 92 号土坑 (第 419 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区中央部の-D 0 h5区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.62 m, 短径 0.86 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 80° - W である。深さは 28cm である。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

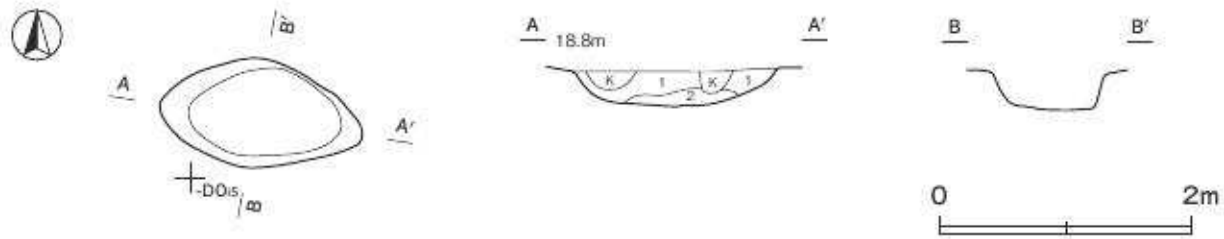
土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 2 点 (内耳鍋) が出土しているが, 細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から室町時代と考えられる。



第 419 図 第 92 号土坑実測図

表 30 室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
80	E 045	N - 5° - W	隅丸方形	1.30 × 1.12	30	皿状	外傾	人為	土師質土器	
92	D 045	N - 80° - W	不整楕円形	1.62 × 0.86	28	平坦	外傾	人為	土師質土器	

6 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は井戸 2 基, 墓坑 1 基, 土坑 3 基, 溝跡 5 条, 道路跡 2 条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第 7 号井戸跡 (第 420 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 E 区北部の B 10a0 区, 標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 確認面は長径 1.20 m, 短径 1.05 m の楕円形である。長径方向は N - 20° - W である。確認面から 80cm までは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は径 85cm の円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 170cm ほど掘り下げた段階で, 崩落が想定されたため, 以下の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。第 1層は含有物の状況から自然堆積である。第 2～4層はロームブロック等の混入状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒色 ローム粒子微量

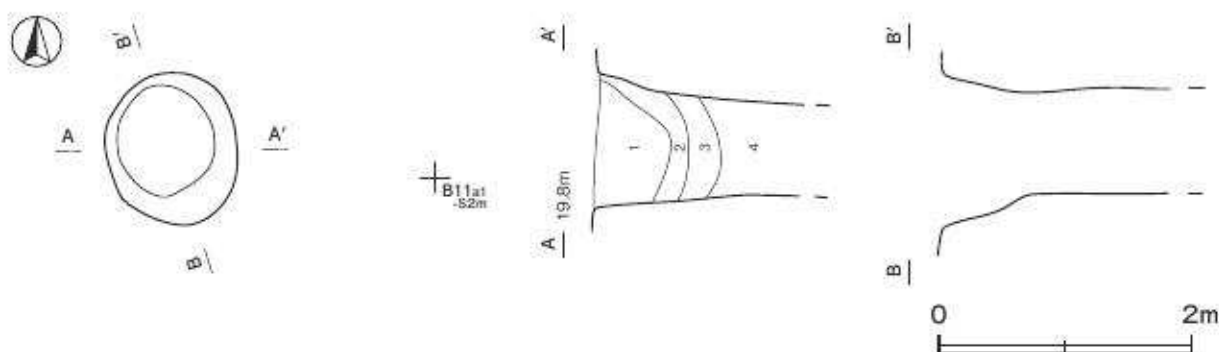
3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

2 にぶい褐色 砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 土師質土器片1点(焙烙), 陶器片3点(碗, 播鉢, 甕)が出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 第8号井戸跡とほぼ同時期の江戸時代(17世紀前半)と考えられる。



第420図 第7号井戸跡実測図

第8号井戸跡 (第421・422図)

調査年度 平成27年度

位置 F区南部のC10d6区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第146号土坑に掘り込まれている。

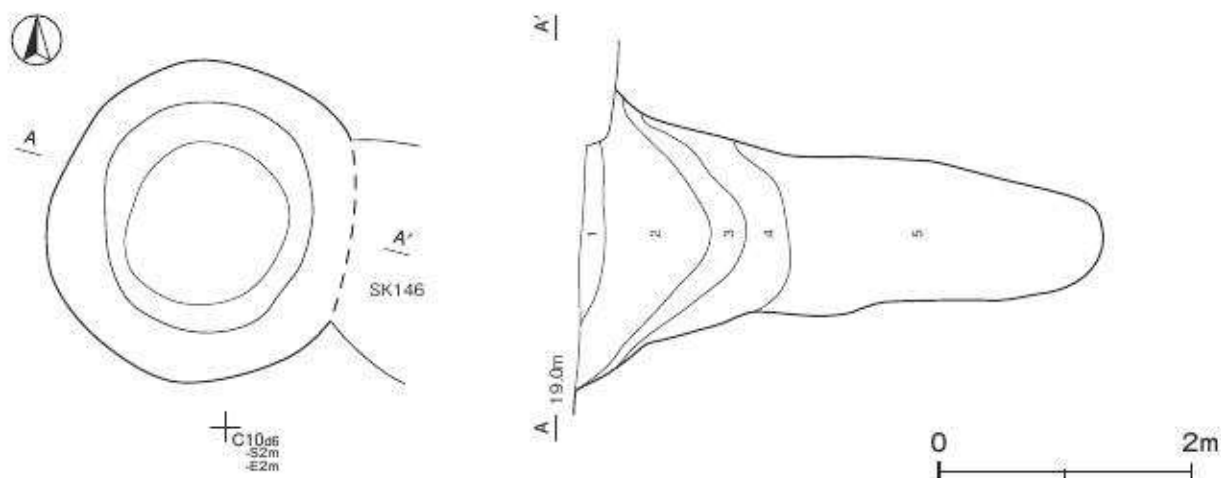
規模と形状 径2.70mの円形で, 深さは4.16mある。確認面から深さ145cmまでは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は径135cmの円筒状に掘り込まれている。

覆土 5層に分層できる。第1層はロームブロックが含まれることから粘土を含む土で埋め戻されている。第2～5層は, 均質な土がレンズ状に流れ込んでいることから, 自然堆積である。

土層解説

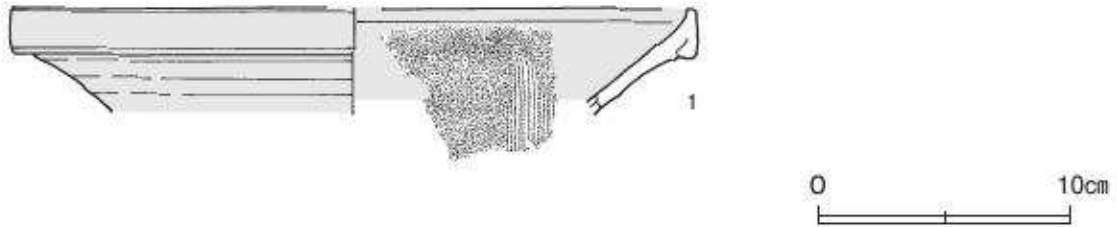
- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 灰黄褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 濃い黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 陶器片1点(播鉢)のほか, 土師器片10点(坏3, 甕7), 須恵器片7点(坏1, 蓋1, 甕5), 碟4点が覆土中層から出土している。1は覆土中からの出土である。土師器や須恵器は混入と考えられる。



第421図 第8号井戸跡実測図

所見 時期は、出土土器から江戸時代（17世紀前半）と考えられる。



第422図 第8号井戸跡出土遺物実測図

第8号井戸跡出土遺物観察表（第422図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢鉢	[27.0]	(4.3)	—	緻密・橙	内面疎に10本単位の揃り目	鉄軸	瀬戸	覆土中	5%

表31 江戸時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7	B 10a0	N-20°-W	楕円形	1.20 × 1.05	(170)	漏斗状	不明	人為	土師器、土師質土器、陶器	
8	C 10d6	—	円形	2.70 × 2.70	(416)	漏斗状	不明	自然	土師器、須恵器、陶器	本跡→SK146

(2) 墓坑

第1号墓坑（第423図）

調査年度 平成27年度

位置 F区中央部のB 10j9区、標高19mほどの台地上の緩やかな傾斜地に位置している。

規模と形状 長軸0.95m、短軸0.75mの隅丸長方形で、長軸方向はN-70°-Wである。確認面からの深さは15cmほどである。底面は凹凸がある。壁は緩やかに外傾している。

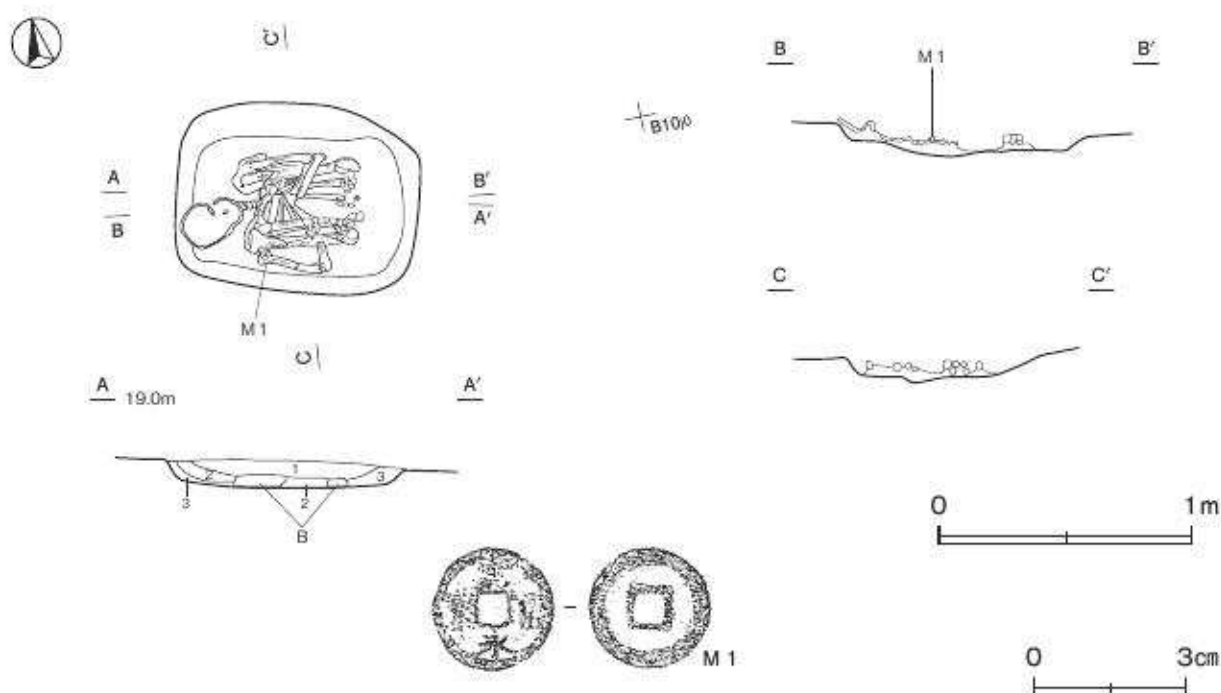
覆土 第3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 人骨と銭貨が出土している。遺骸は顔が下方を向き、上から肋骨、胸骨、腕、足の順で折り重なっている。座位屈葬状態で棺に収められ、埋葬された被葬者が時間の経過とともに前に倒れた状態になったものと考えられる。銭貨は副葬品で、摩耗が激しいが、「永」が読み取れることから「寛永通寶」とみられる。人骨は腐朽が進んでいて明確ではないが、大腿骨や上腕骨が太くしっかりしていることから性別は男性と思われる。年齢は、親知らずが萌出し、虫歯になった後に菌茎に埋まっていること、右下の小白菌と大白菌はすべて抜け落ち菌茎に閉塞していること、下顎の前歯や犬歯の摩耗が著しいこと、菌の遺存状態や頭骨の縫合状態から熟年程度と思われる。詳細は付章6「宮原前遺跡の出土人骨について」を参照されたい。

所見 時期は、埋葬形態や副葬品から江戸時代と考えられる。



第 423 図 第 1 号墓坑・出土遺物実測図

第 1 号墓坑出土遺物観察表 (第 423 図)

番号	種別	銭名	径	口径	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
M 1	銭貨	寛永通寶	24	06	303	銅	不明	無背	覆土中	PL58

(3) 土坑

第 129 号土坑 (第 424 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 F区中央部の B 11h1 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

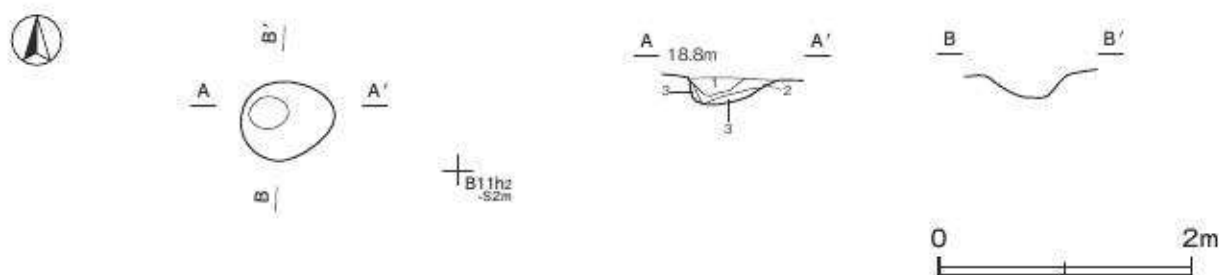
規模と形状 長径 0.75 m、短径 0.60 m の楕円形で、長径方向は N - 88° - E である。深さは 20cm である。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量



第 424 図 第 129 号土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(焙烙)、陶器3点(碗)のほか土師器片4点(甕)、須恵器片1点(甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。

第147号土坑(第425図)

調査年度 平成27年度

位置 F区南部のC10f6区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部が、第21号溝に掘り込まれているが、径1.10mほどの円形である。深さは40cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

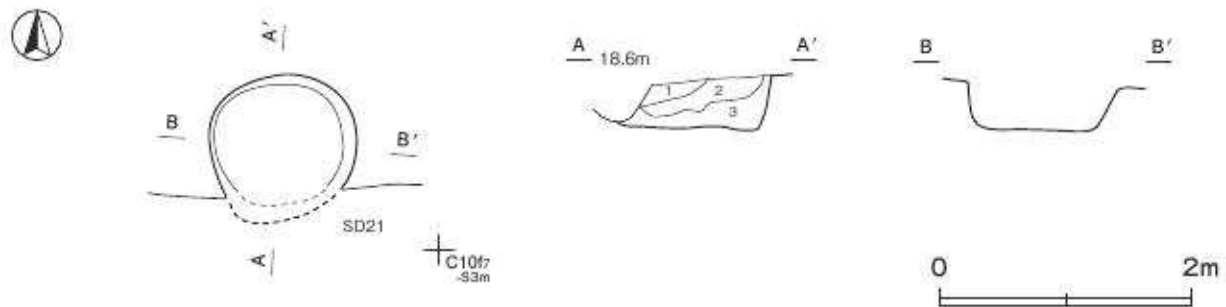
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)のほか、土師器片3点(甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第425図 第147号土坑実測図

第149号土坑(第426図)

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB10e5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.52m、短径1.78mの不整楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。深さは68cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

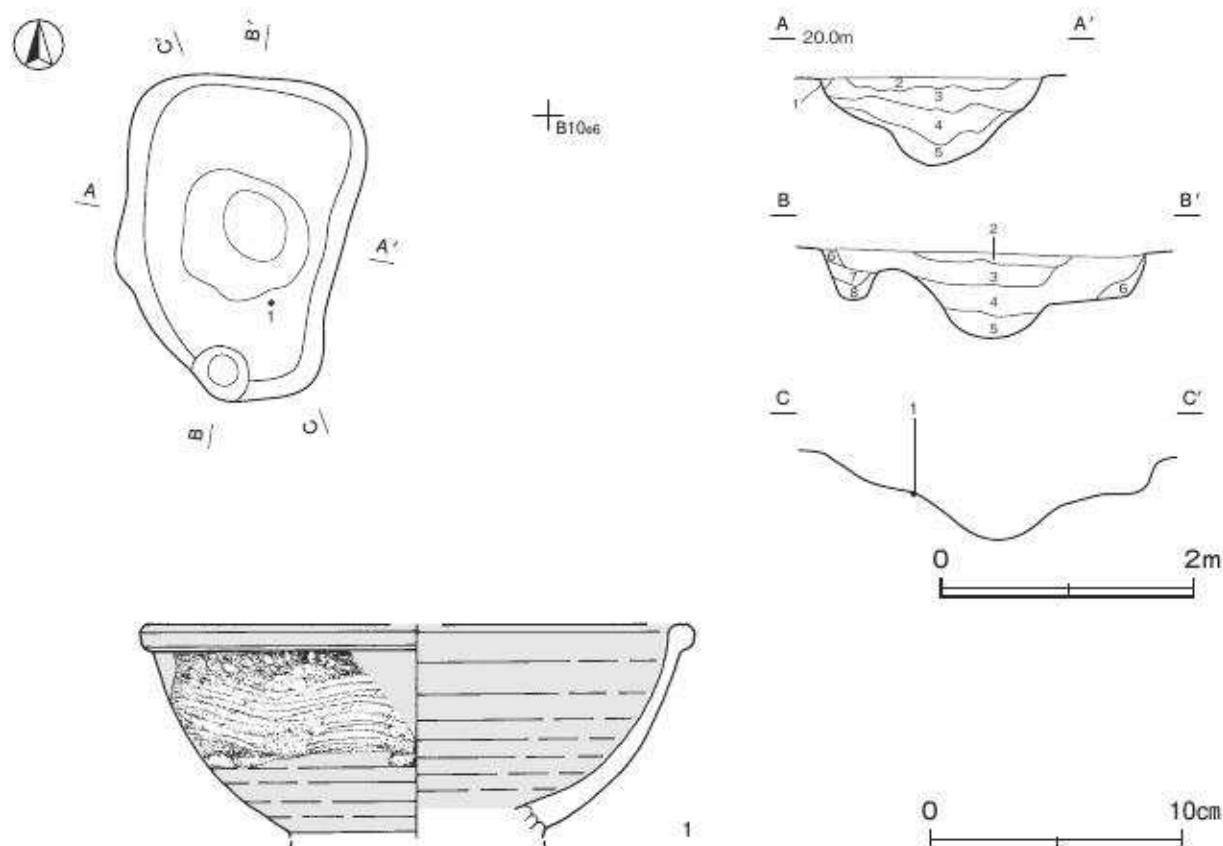
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)のほか、土師器片3点(甕)が出土している。1は覆土中層の壁に接して出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第 426 図 第 149 号土坑・出土遺物実測図

第 149 号土坑出土遺物観察表 (第 426 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	[21.5]	(8.4)	-	粗密に白い赤褐色	褐色の雲地に鉄線を施しその上に横位に刷毛で直線や波状の線を描く	鉄軸	肥前	覆土中層	

表 32 江戸時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
129	B 11h1	N - 88° - E	楕円形	0.75 × 0.60	20	緩斜	皿状	人為	土師器、須恵器、土師質土器、陶器	
147	C 1066	-	円形	1.10 × [1.10]	40	直立	平坦	人為	土師器、陶器	本跡→SD21
149	B 10e5	N - 7° - E	不整形円形	2.52 × 1.78	68	外傾	皿状	人為	土師器、陶器	

(4) 溝跡

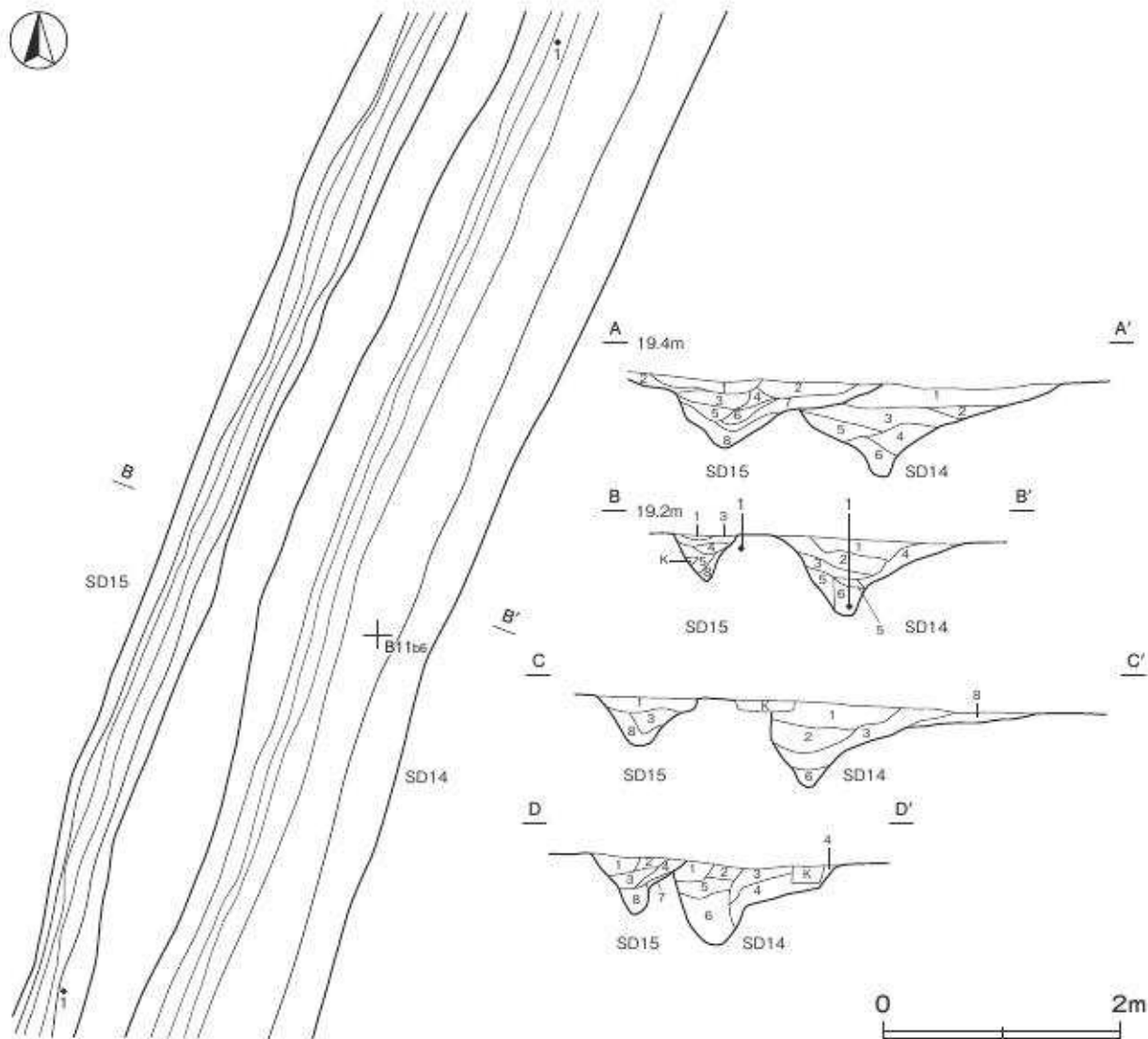
第 14 号溝跡 (第 427・428 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 E 区東部の A 11i6 ~ B 11d4 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号道路跡を掘り込み、第 15 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 A 11i6 区から南方向 (N - 160° - W) に直線的に延びて、B 11d4 区で調査区外へ延びている。確認できた長さは 23.6 m で、上幅 1.24 ~ 1.80 m、下幅 0.36 ~ 0.52 m で、深さは 65 ~ 80 cm である。断面形は V 字状である。



第427図 第14・15号溝跡実測図

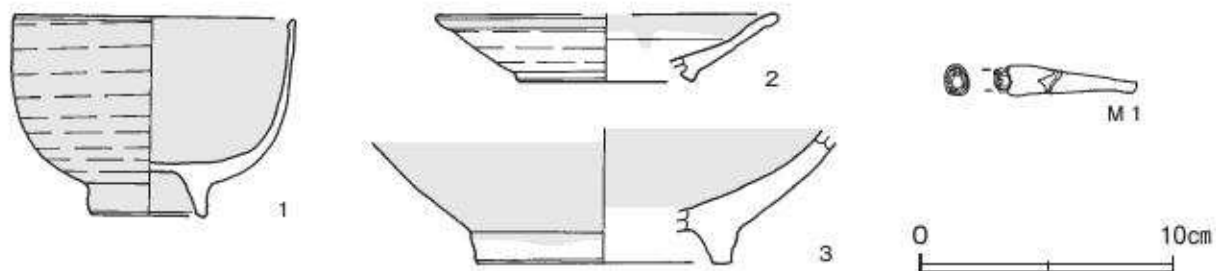
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量 | 4 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(焙烙)、陶器片5点(碗1, 皿1, 鉢1, 瓶2), 磁器片3点(碗), 金属製品1点(煙管)のほか、縄文土器片2点(深鉢), 土師器片22点(甕), 須恵器片22点(坏1, 蓋2, 瓶1, 甕18)が出土している。1は覆土下層から出土している。2・3, M1はいずれも覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第428図 第14号溝跡出土遺物実測図

第 14 号溝跡出土遺物観察表 (第 428 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	11.5	7.9	4.7	緻密 浅黄橙	呉器手焼。外・内面施釉。全体に貫入。底部内面トナシ痕	灰釉	肥前IV期	覆土下層	85% PL56
2	陶器	皿	[13.2]	2.7	[7.0]	緻密 浅黄橙	輪秀皿。口縁部外・内面施釉。底部内面施釉。高台部欠損	灰釉	瀬戸・美濃 遠房II-III期	覆土中	15%
3	陶器	鉢	-	(5.3)	(10.0)	長石 明赤褐	外・内面施釉。内面刷毛目	外：鉄粗 内：白泥	肥前	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	標管	(5.1)	1.1	1.0	(3.81)	銅	吸口部 羅字遺存	覆土中	PL58

第 15 号溝跡 (第 427 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 E 区東部の A 11i6 ~ B 11d4 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 14 号溝跡及び第 1 号道路跡を掘り込んでいる。第 14 号溝が埋め戻されたあと、本溝跡が構築されている。

規模と形状 A 11i6 区から南方向 (N - 160° - W) に直線的に延びて、B 11d4 区で調査区外へと続いている。確認できた長さは 21.16 m で、上幅 0.40 ~ 0.72 m、下幅 0.21 ~ 0.40 m で、深さは 40 ~ 55 cm である。断面形は V 字状である。

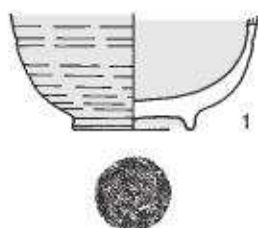
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片 8 点 (碗 5、鉢 2、掃鉢 1) のほか、須恵器片 3 点 (甕) が出土している。1 は覆土中層の壁際から出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代 (17 世紀後半) と考えられる。性格は不明である。



第 429 図 第 15 号溝跡出土遺物実測図

第 15 号溝跡出土遺物観察表 (第 429 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(4.5)	4.7	緻密 褐色	腰縮湯呑 内面貫入	外：鉄粗 内：灰粗	瀬戸・美濃 遠房V期	覆土中層	30%

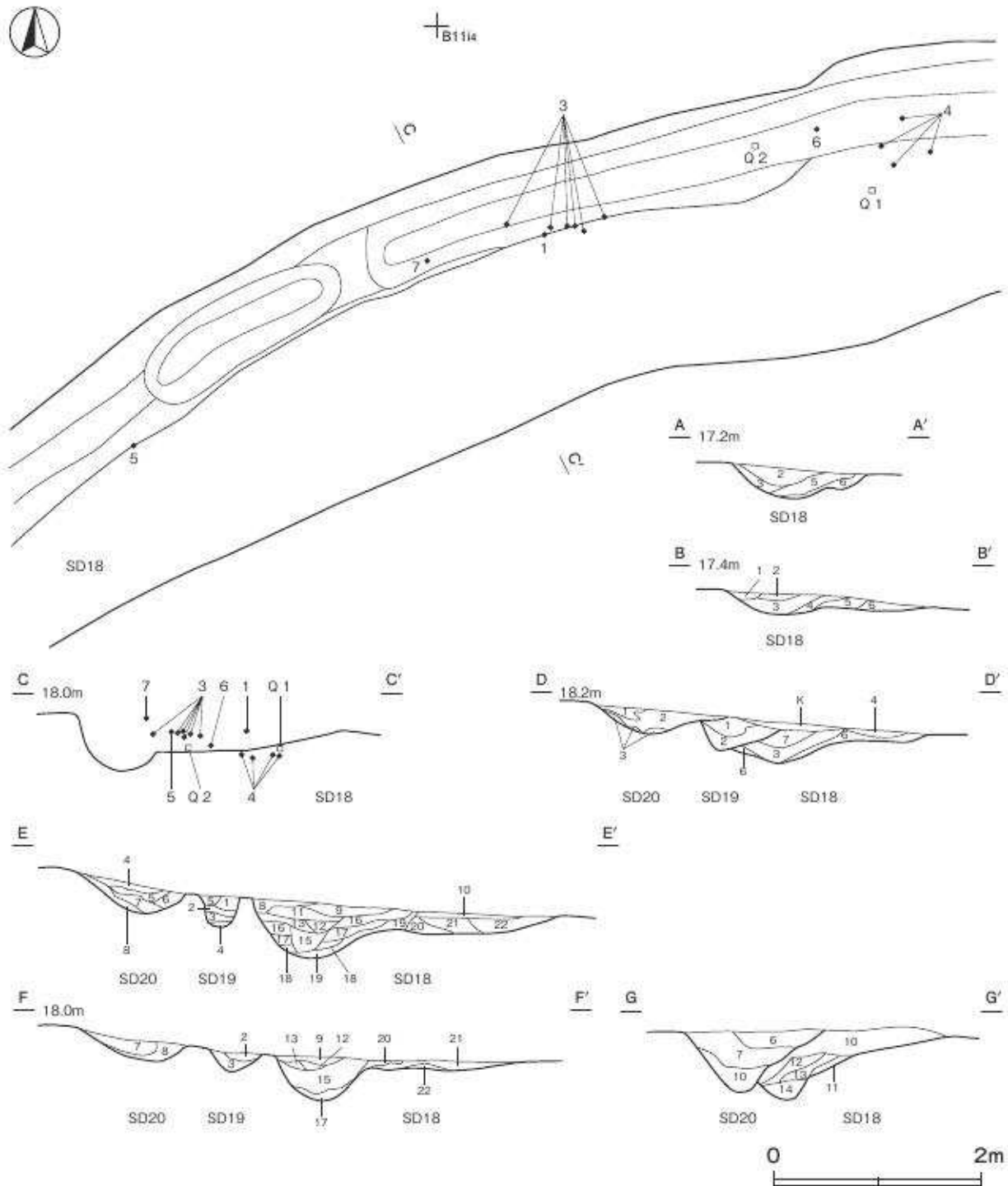
第 18 号溝跡 (第 430 ~ 432 図)

調査年度 平成 27 年度

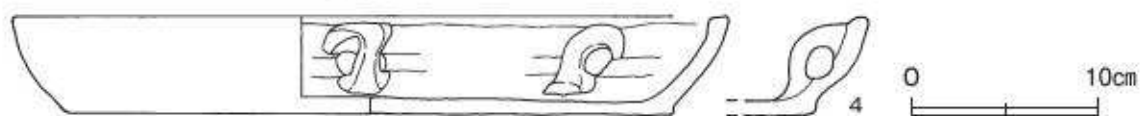
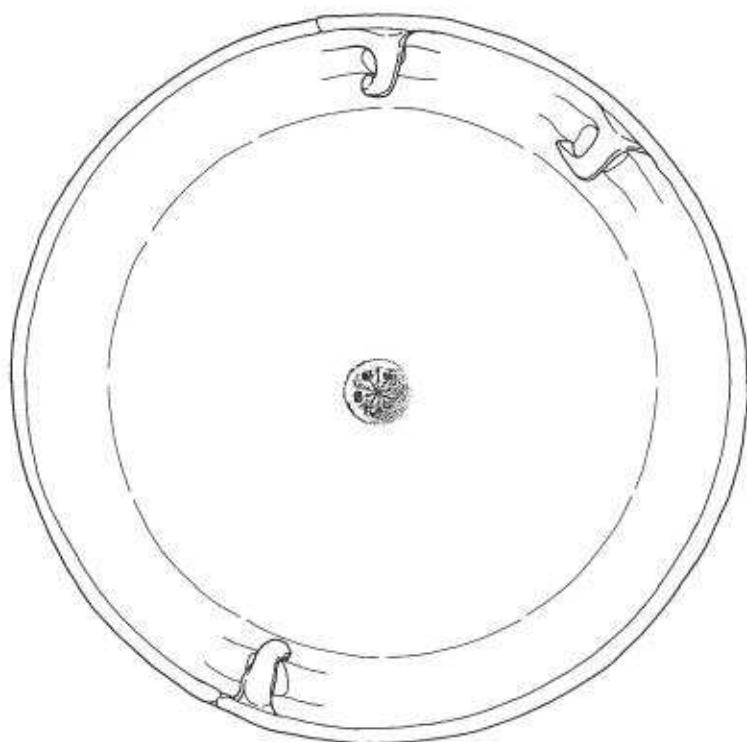
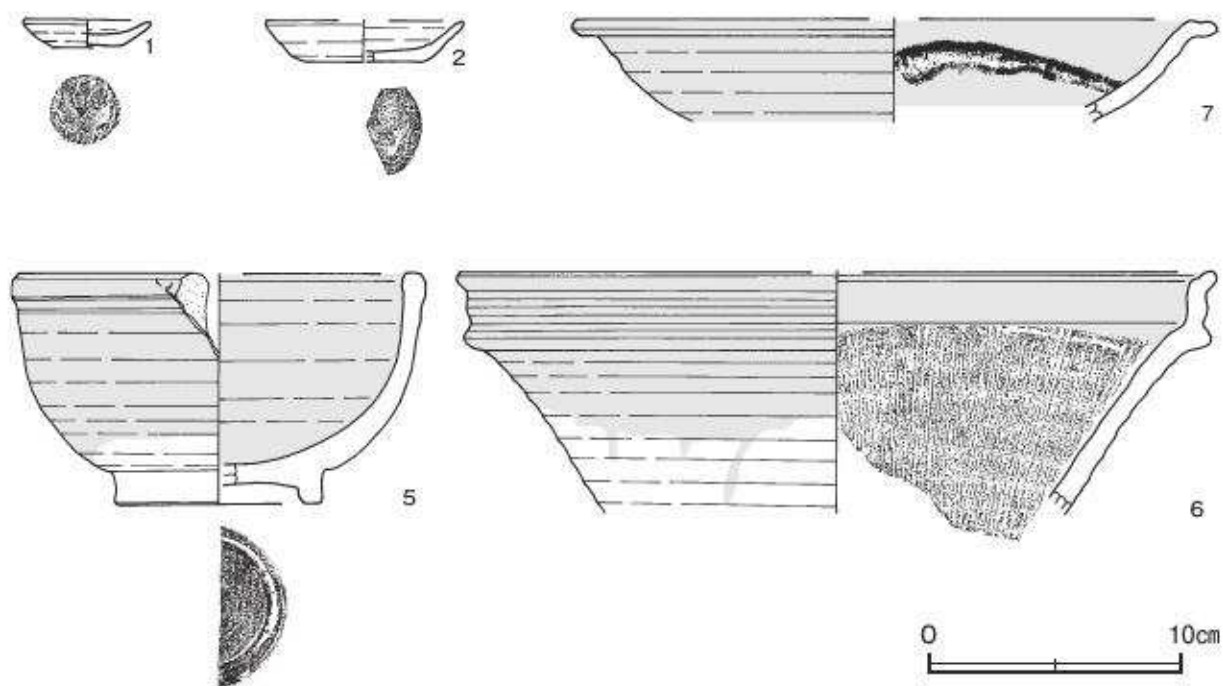
位置 F区東部のB 11h8 ~ C 10f8区、標高18 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号井戸、第148号土坑、第19・20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 11h8区から西方向(N - 103° - W)に直線的に延び、B 11j3区で南西方向(N - 145° - W)に屈曲して直線的に延びている。さらに、C 10e8区で屈曲して南下(N - 172° - E)し、C 10f8区で調査区外へと続いている。確認できた長さは55.28 m、上幅0.64 ~ 2.92 m、下幅0.20 ~ 0.96 mで、深さは20 ~ 65 cmである。断面形は浅いU字状である。



第430図 第18・19・20号溝跡実測図



第 431 図 第 18 号溝跡出土遺物実測図(1)

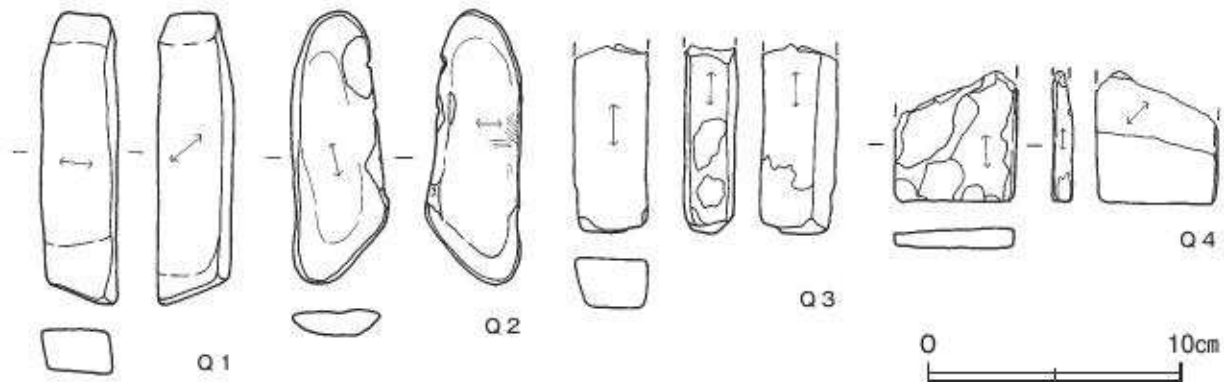
覆土 22層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-----------|---------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・白色粘土ブロック微量 | 13 におい黄褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 14 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 7 黄褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 18 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック、粘土粒子少量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量 | 20 暗褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック微量 | 21 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 におい黄褐色 | ロームブロック中量 | 22 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片71点（焙烙65、小皿3、甕3）、陶器片11点（碗6、瓶2、播鉢1、仏飯器2）、磁器片19点（碗14、瓶2、皿3）、石器5点（砥石）のほか、縄文土器片1点（深鉢）、土師器片37点（碗13、甕24）、須恵器片12点（坏3、蓋2、甕7）が覆土中から出土している。1・3・5は、覆土中層から出土している。6・Q1・Q2は覆土下層から、4は床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第432図 第18号溝跡出土遺物実測図(2)

第18号溝跡出土遺物観察表（第431・432図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	5.0	1.1	2.5	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部回転糸切り	覆土中層	90% PL56
2	土師質土器	小皿	[7.6]	[1.6]	[4.6]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部切り摩し接ナデ	覆土中	40%
3	土師質土器	焙烙	36.8	5.4	29.3	長石・石英・雲母	におい褐色	普通	外・内面ナデ 外面煤付着 輪飾孔2穴	覆土中層	90% PL56
4	土師質土器	焙烙	38.2	5.2	31.8	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外・内面ナデ 外面煤付着 底部内面印花紋	床面	95% PL56

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
5	陶器	片口鉢	[16.0]	[9.2]	[8.0]	長石・灰黄	内面底部トナシ模	長石釉	瀬戸・美濃系 尾形IV期	覆土中層	40% PL56
6	陶器	播鉢	[30.0]	[9.6]	-	長石・石英・雲母 明赤褐色	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面了本単位の櫛目	鉄釉	丹波	覆土下層	10%
7	陶器	皿	[25.0]	[4.1]	-	磁器 におい黄褐色	口縁部から体部外・内面施釉 口縁部銅緑釉の流し掛け	緑釉	瀬戸・美濃系 尾形II-III期	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	115	3.0	25	127.26	凝灰岩	砥面2面	覆土下層	PL58
Q2	砥石	108	3.8	10	59.82	頁岩	砥面2面	覆土下層	PL58
Q3	砥石	(7.4)	2.9	20	(80.54)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	
Q4	砥石	(5.2)	(4.8)	(0.8)	(26.09)	頁岩	砥面4面	覆土中	

第19号溝跡 (第430・433図)

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のB11i3～C10f8区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号溝跡を掘り込み、第148号土坑、第20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B11i3区から西方向(N-145°-W)にC10e8区まで直線的に延びている。確認できた長さは27.28mで、上幅0.20～0.56m、下幅0.10～0.20mで、深さは18～30cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

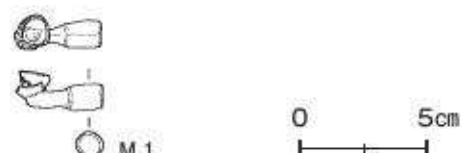
- | | | | |
|----------|------------------|--------|------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 黒 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 陶器片2点(碗、掃鉢)、金属製品1点(煙管)

のほか、土師器片3点(甕)、須恵器片5点(甕)が出土している。

M1は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第433図 第19号溝跡出土遺物実測図

第19号溝跡出土遺物観察表 (第433図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管	(34)	(1.6)	(1.7)	(361)	銅	雁首部 真鍮線	覆土中	PL58

第20号溝跡 (第430・434図)

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のB11i3～C10f8区、標高18mほどの台地上の緩やかな傾斜部に位置している。

重複関係 第18・19号溝跡を掘り込んでいます。

規模と形状 B11i3区から南西方向(N-145°-W)に直線的に延び、C10e8区で屈曲して直線的に南下(N-172°-E)し、C10f8区で調査区外へと続いている。確認できた長さは35.60mで、上幅0.64～1.32m、下幅約0.16～0.28mで、深さは18～58cmである。断面形は浅いU字状である。

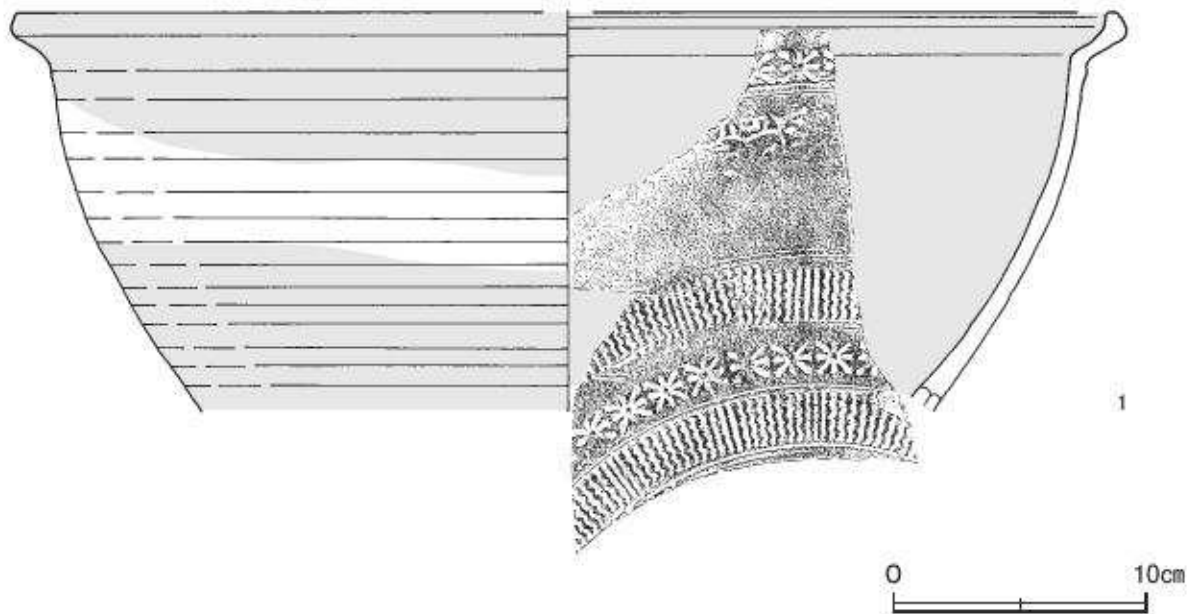
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 黒 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黄 褐色 | ロームブロック多量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 陶器片1点（鉢）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第 434 図 第 20 号溝跡出土遺物実測図

第 20 号溝跡出土遺物観察表（第 434 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	[25.0]	(15.8)	-	長石・赤色粒子 明褐色	三馬子 褐色の素地に彫彫りや印花文印刷 →その上に白化新土施す→乾燥後拭き取る	鉄釉	肥前IV期	覆土中	10%

表 33 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	現 横				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
14	A 116 - B 11d4	N - 160° - W	直線状	(23.60)	1.24 - 1.80	0.36 - 0.52	65 - 80	V字状	外傾	人為	土師質土器、陶器、磁器、 金属製品	SF1 → 本跡 → SD15
15	A 116 - B 11d4	N - 160° - W	直線状	(21.16)	0.40 - 0.72	0.21 - 0.40	40 - 55	V字状	外傾	人為	陶器	SF1, SD14 → 本跡
18	B 11d8 - C 108	N - 172° - E N - 145° - W N - 103° - W	L字状	(55.28)	0.64 - 2.92	0.20 - 0.96	20 - 65	浅い U字状	外傾	人為	土師質土器、陶器、磁器	本跡 → SE10, SK148, SD19 - 20
19	B 11d3 - C 108	N - 145° - W	直線状	(27.28)	0.20 - 0.56	0.10 - 0.20	18 - 30	浅い U字状	外傾	人為	陶器、金属製品	SD18 → 本跡 → SK148, SD20
20	B 11d3 - C 108	N - 172° - E N - 145° - W	L字状	(35.60)	0.64 - 1.32	0.16 - 0.28	18 - 58	浅い U字状	外傾	人為	陶器	SD18・19 → 本跡

(5) 道路跡

第 1 号道路跡（第 435 図）

調査年度 平成 26 年度

位置 E 区南東部の B 11d8 区から、B 11c5 区にかけて確認した。標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 14・15 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 11d8 区から北西方向 (N - 72° - W) に直線的に延びて、B 11c5 区で第 14 号溝に掘り込まれたところで途絶えている。確認できた長さは 10.08 m で、幅は 1.35 ~ 1.58 m である。全長に渡って幅 0.30 ~ 0.50 m の硬化面が確認できる。

覆土 4層に分層できる。第1・2層は遺構廃絶後の堆積土である。第2層の下面が硬化し、路面を成している。第3・4層は修復痕である。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 3 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)のほか、土師器片1点(甕)、須恵器片1点(坏)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

所見 本跡を掘り込んでいる第14・15号溝の時期が江戸時代と考えられるので、本跡も江戸時代まで使用されていたものと考えられる。

第2号道路跡 (第435図)

調査年度 平成26年度

位置 E区南東部のB11d7区から、B11d5区にかけて確認した。標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B11d7区から北西方向(N-72°-W)に直線的に延びて、B11d5区で第14・15号溝に掘り込まれたところで途絶えている。確認できた長さは10.20mで、幅は0.70~1.40mである。全長に渡って幅0.25~0.40mの硬化面が確認できる。

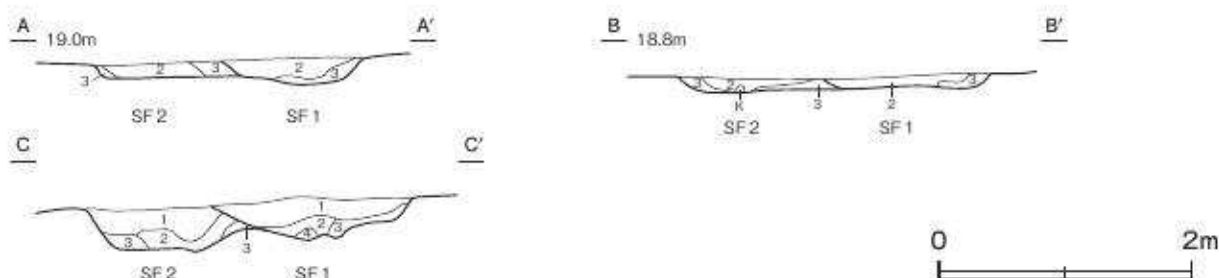
覆土 3層に分層できる。第1~3層は遺構廃絶後の堆積土である。第2層の下面が硬化していることから、道路面である。第2号道路跡を埋め戻して、第1号道路跡を構築している。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量 | 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)のほか、土師器片1点(坏)、須恵器片1点(甕)、が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

所見 本跡を掘り込んでいる第14・15号溝の時期が江戸時代と考えられるので、本跡も江戸時代まで使用されていたものと考えられる。



第435図 第1・2号道路跡実測図

表34 江戸時代道路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	B11d8-B11d5	N-72°-W	直線	(10.08)	1.35-1.58	1.00-1.30	10-20	浅いU字状	織斜	自然	土師器、須恵器、陶器	本跡→SD14・15
2	B11d7-B11d5	N-72°-W	直線	(10.20)	0.70-1.20	0.65-1.05	10-20	浅いU字状	織斜	人為	土師器、須恵器、陶器	本跡→SD14・15

7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、伴う遺物が出土していないことから、時期が明らかでない遺構及び遺物について記述する。遺構は掘立柱建物跡3棟、土坑102基、溝跡4条、ピット群10か所を確認した。

(1) 掘立柱建物跡

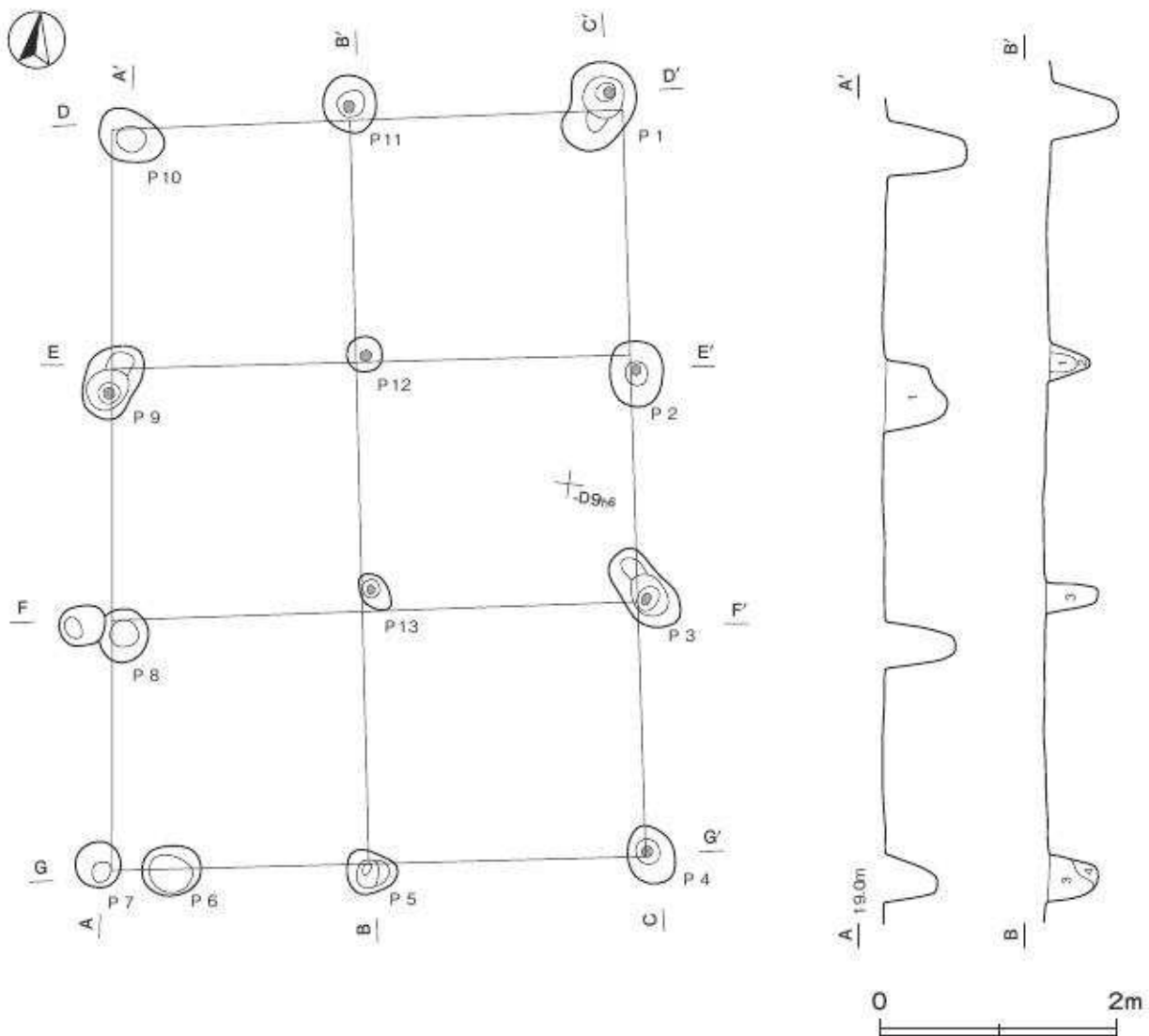
第11号掘立柱建物跡 (第436・437図)

調査年度 平成26年度

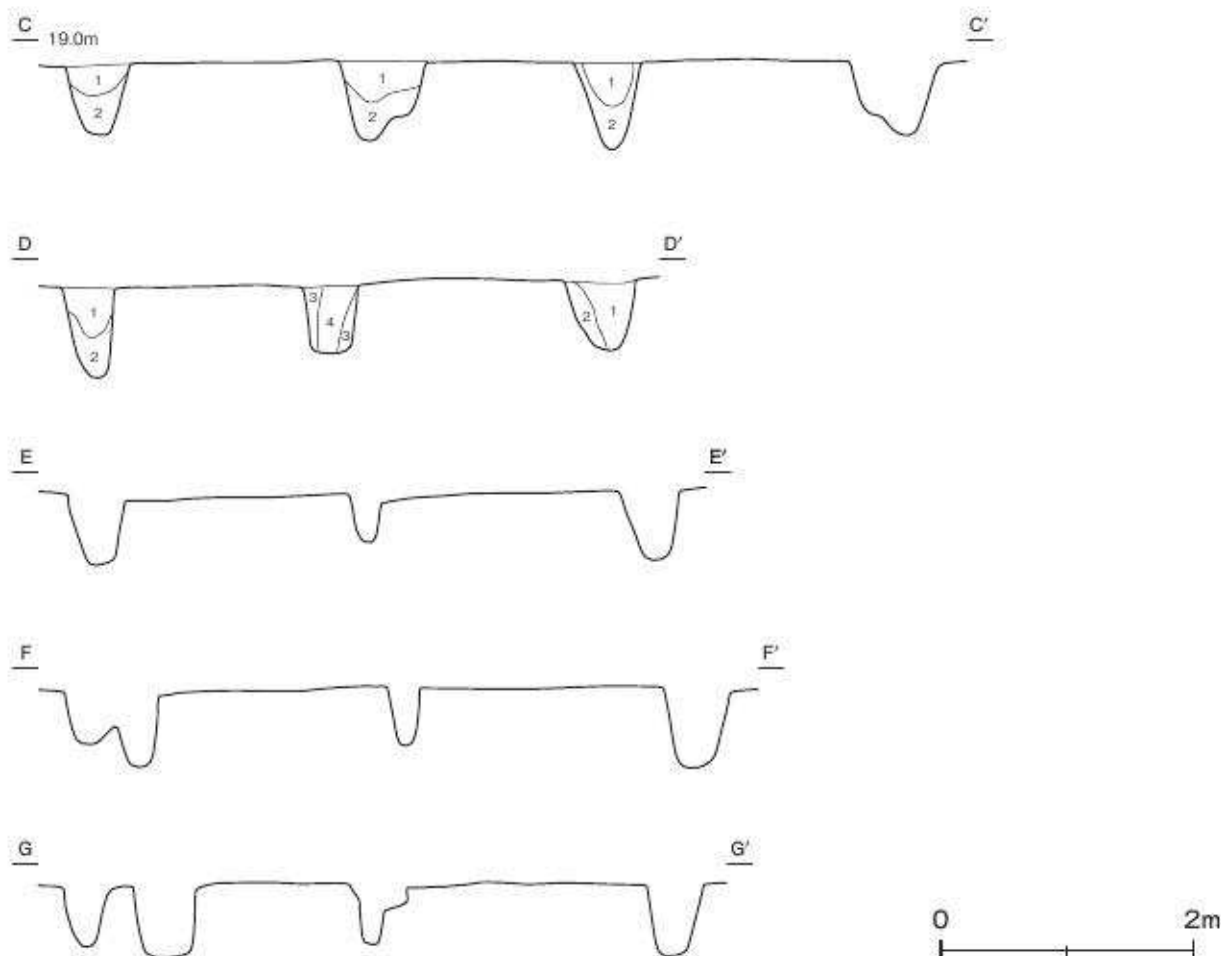
位置 D区北西部の-D 9h5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-9°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.30m、梁行4.60mで、面積は28.98m²である。柱間寸法は、桁行が2.00m、梁行が2.35mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、長径33~78cm、短径は28~58cmである。深さは35~70cmで、掘り方の壁は直立または外傾している。第1~4層は柱抜き取り後の堆積土である。P1~P4・P9・P11~P13で柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から柱の直径は8~12cmと推定できる。



第436図 第11号掘立柱建物跡実測図(1)



第 437 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒暗褐色 ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。

第 14 号掘立柱建物跡 (第 438 図)

調査年度 平成 26 年度

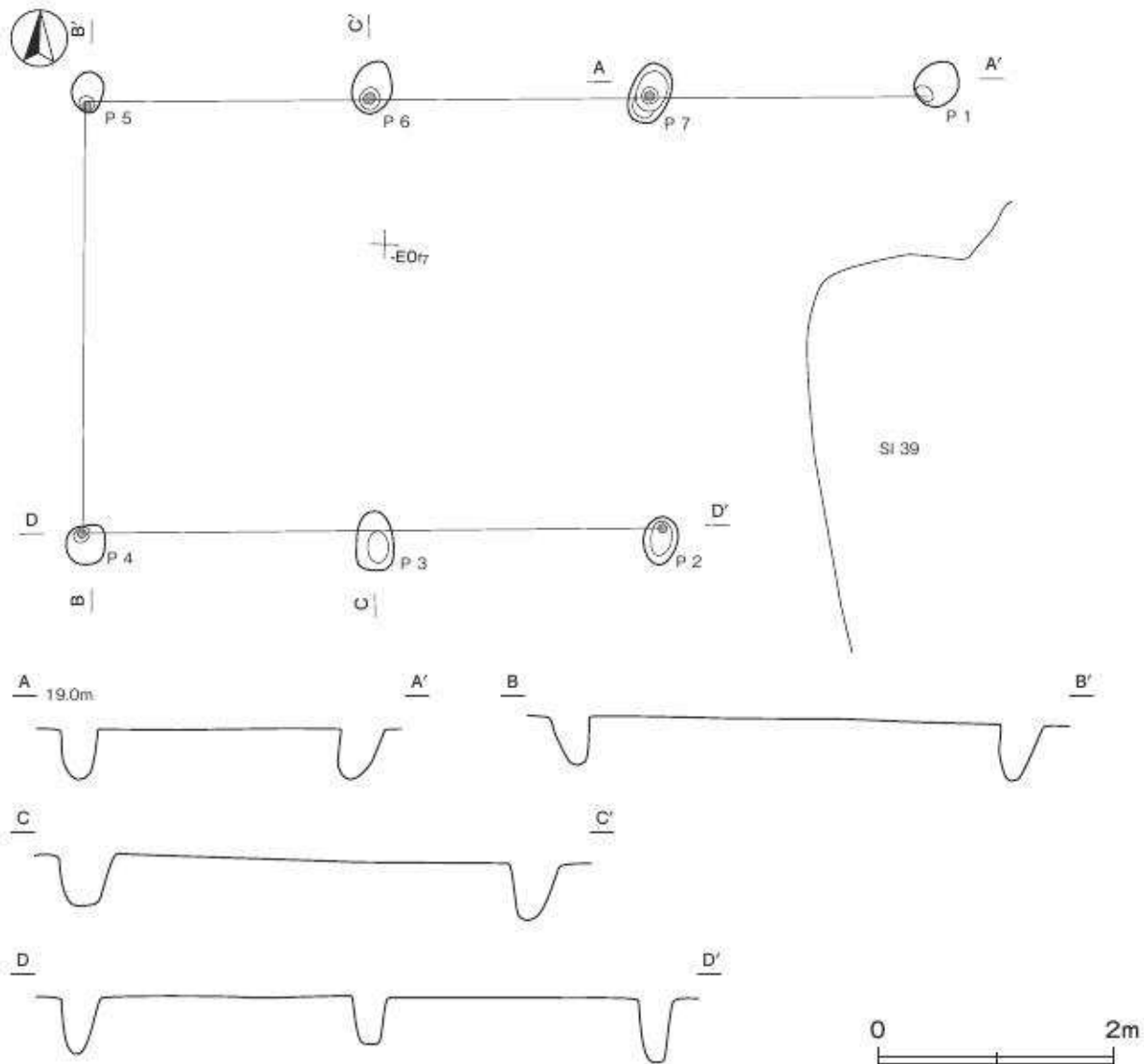
位置 D区南部の - E 0f7 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東端を第 39 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向 $N - 87^\circ - E$ の東西棟である。規模は、桁行 7.15 m、梁行 3.65 m で、面積は約 26.10 m² である。柱間寸法は、桁行が 2.35 m ~ 2.50 m、梁行が 3.65 ~ 3.70 m である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7 か所。平面形は円形・方形または楕円形で、長径・長軸は 36 ~ 53 cm、短径・短軸は 30 ~ 36 cm である。深さは 40 ~ 51 cm で、掘り方の壁は直立または外傾している。P 2・P 4・P 5 ~ P 7 の底面で柱のあたりを確認した。柱のあたりから柱の直径は 12 ~ 18 cm と推定できる。

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。



第 438 図 第 14 号掘立柱建物跡実測図

第 15 号掘立柱建物跡 (第 439 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区北部の-D 064 区、標高 18 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向 $N - 7^{\circ} - W$ の南北棟である。規模は、桁行 7.40 m、梁行 3.90 m で、面積は 28.86 m^2 である。柱間寸法は、桁行が 2.35 m ~ 2.50 m、梁行が 3.80 ~ 3.90 m である。柱筋はほぼ揃っている。

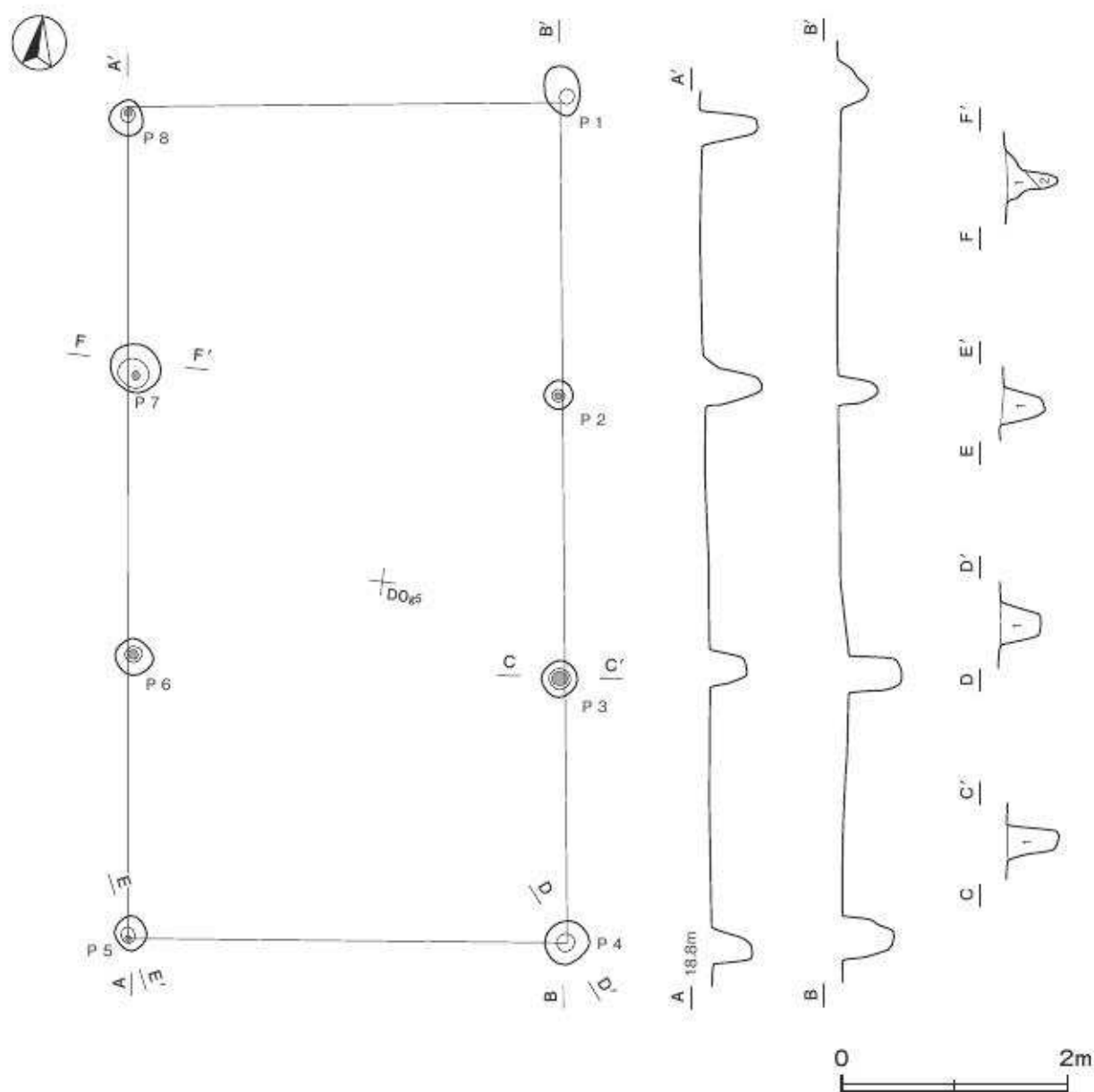
柱穴 8 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 28 ~ 46 cm、短径 28 ~ 44 cm である。深さは 26 ~ 50 cm で、掘り方の壁は直立または外傾している。P 2・P 3・P 5 ~ P 8 の底面で柱のあたりを確認した。柱のあたりから柱の直径は 12 ~ 16 cm と推定できる。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色、炭化穀子少量、ローム粒子微量

2 黒褐色、ローム粒子・炭化穀子少量

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。



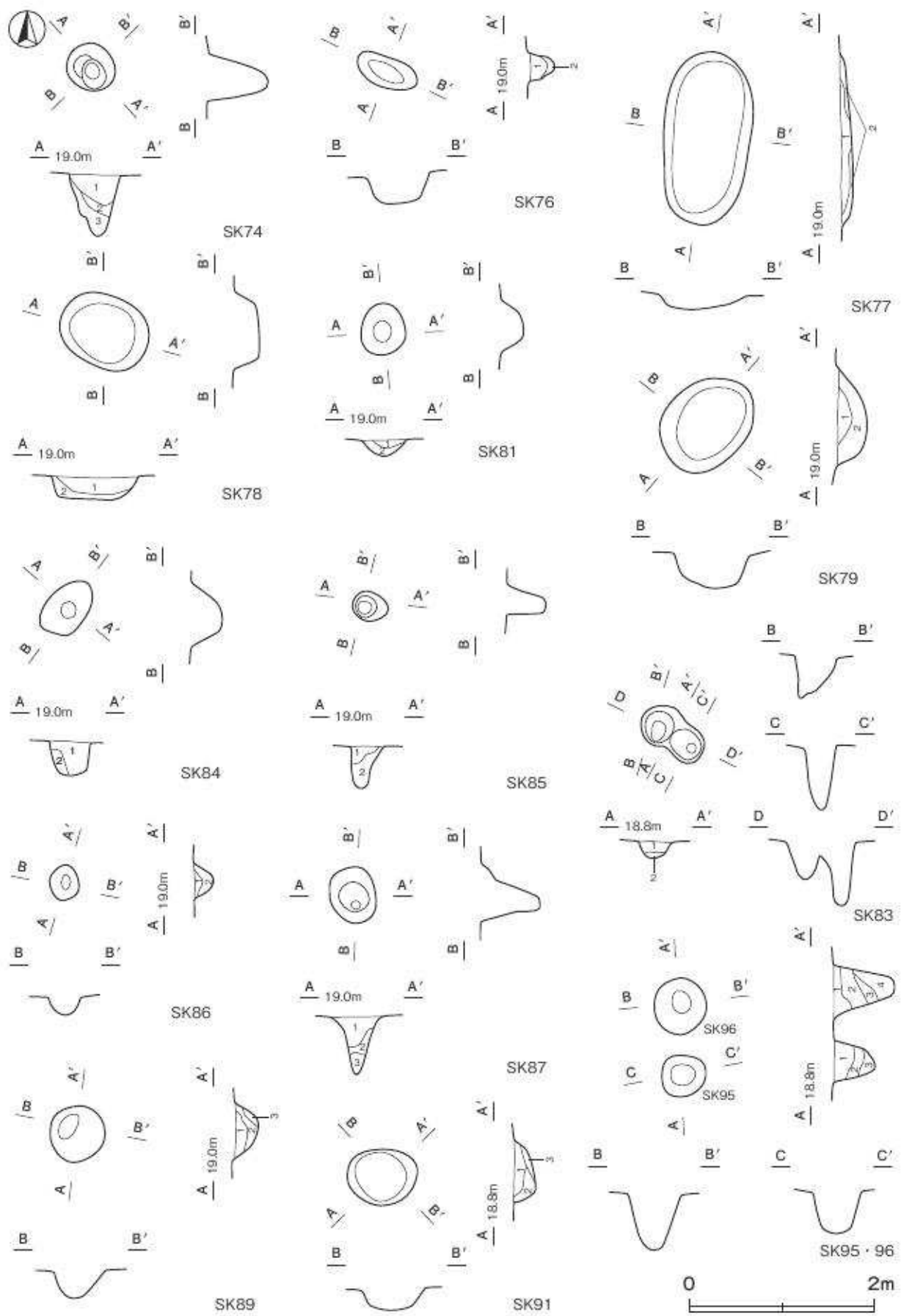
第 439 図 第 15 号掘立柱建物跡実測図

表 35 掘立柱建物跡一覧表

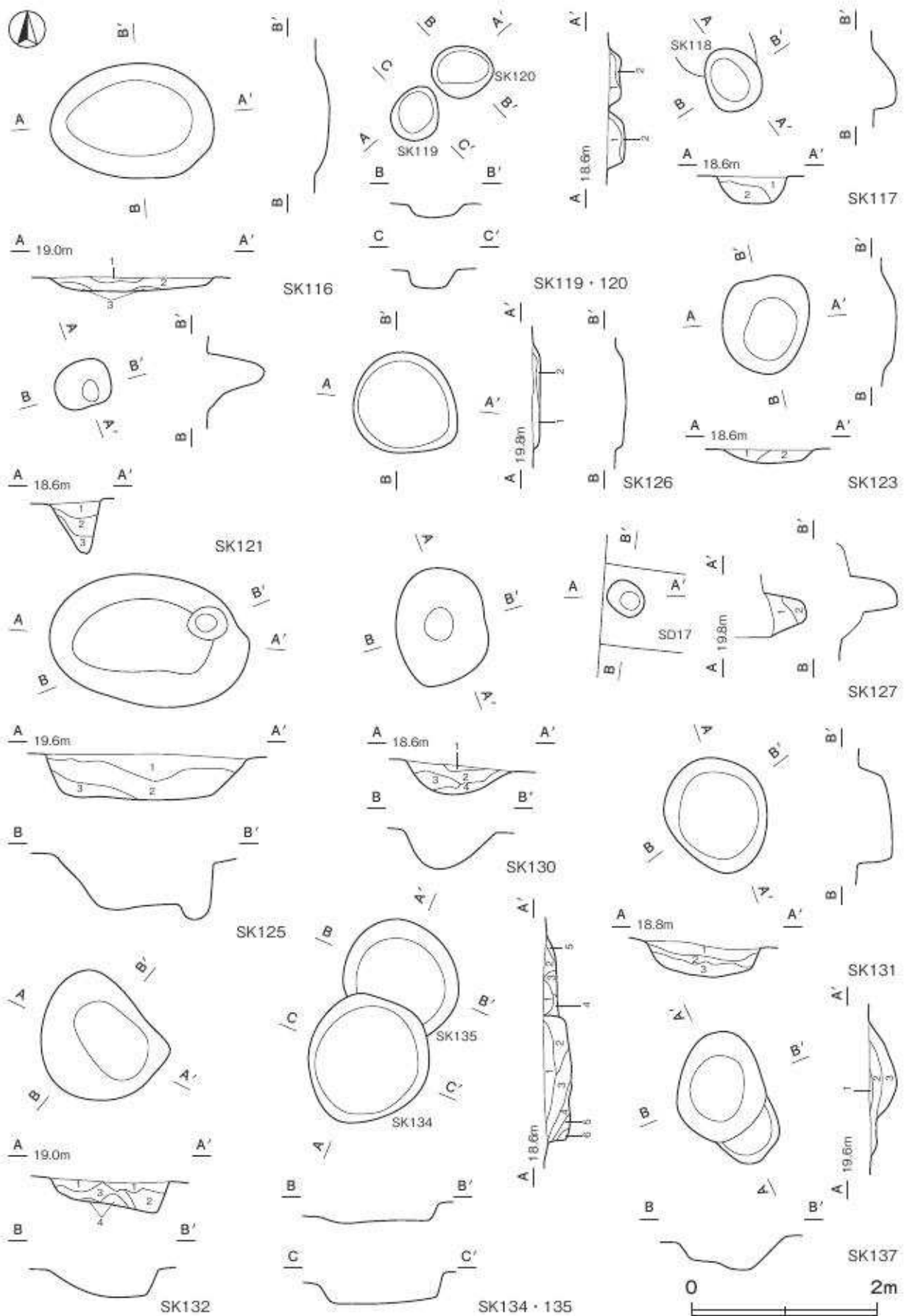
番号	位置	桁行方向	柱間数	規模		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴				主な出土遺物	時 期	備 考
				桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
11	-D965	N-9°-W	3×2	6.30×4.60	28.98	200-215	200-235	竪柱	13	円形・楕円形	35-70		不明		
14	-E007	N-87°-E	3×1	(7.15)×(3.65)	(26.10)	235-250	365-370	竪柱	7	円形・楕円形	40-51		不明	本跡→SI39	
15	-D004	N-7°-W	3×1	7.40×3.90	28.86	235-250	380-390	竪柱	8	円形・楕円形	26-50		不明		

(2) 土坑 (第 440～447 図)

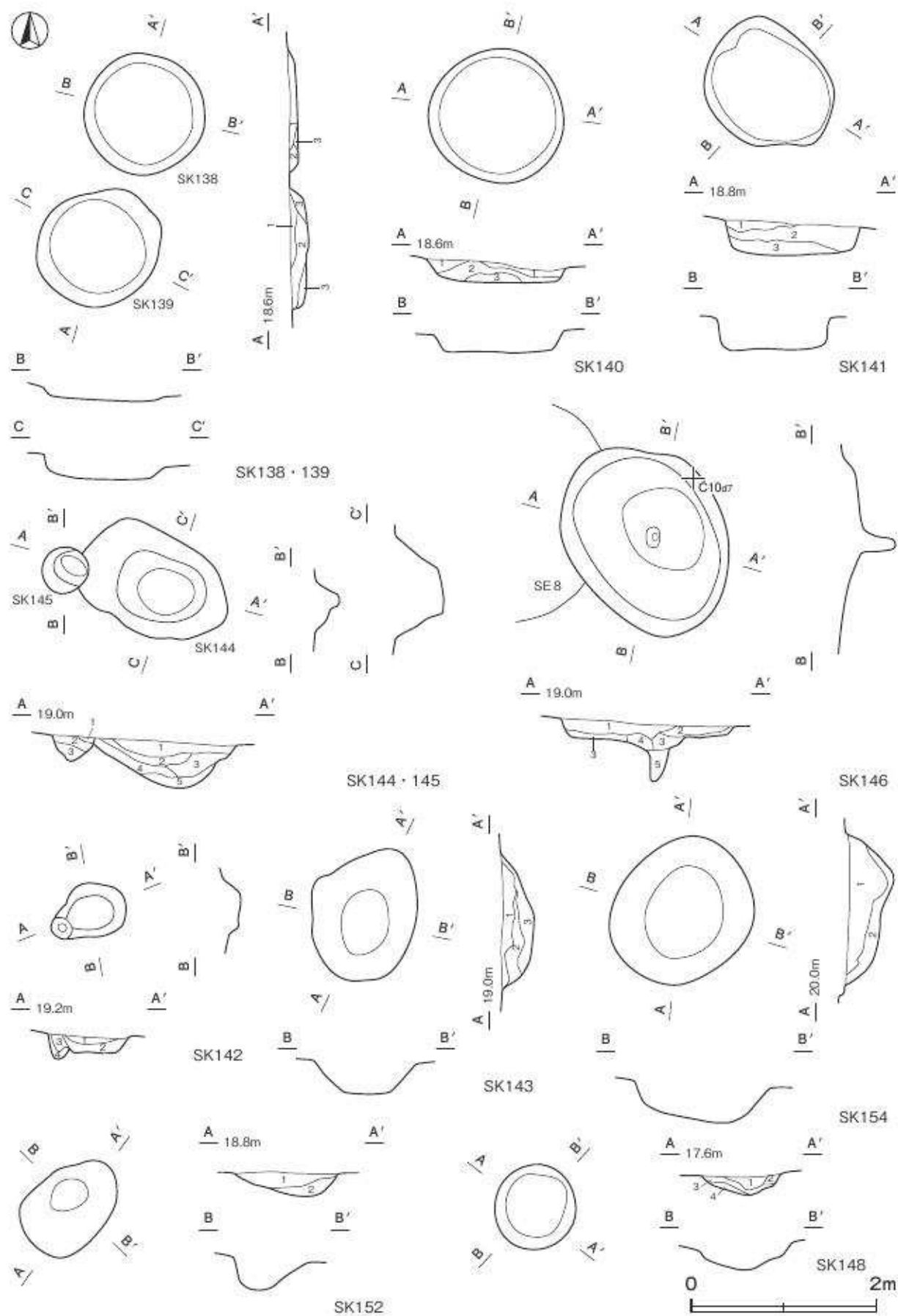
今回の調査で性格や時期がともに不明な土坑 102 基が確認されている。これらの土坑については規模と形状について実測図 (第 440～447 図) と土層解説、一覧表を記載する。



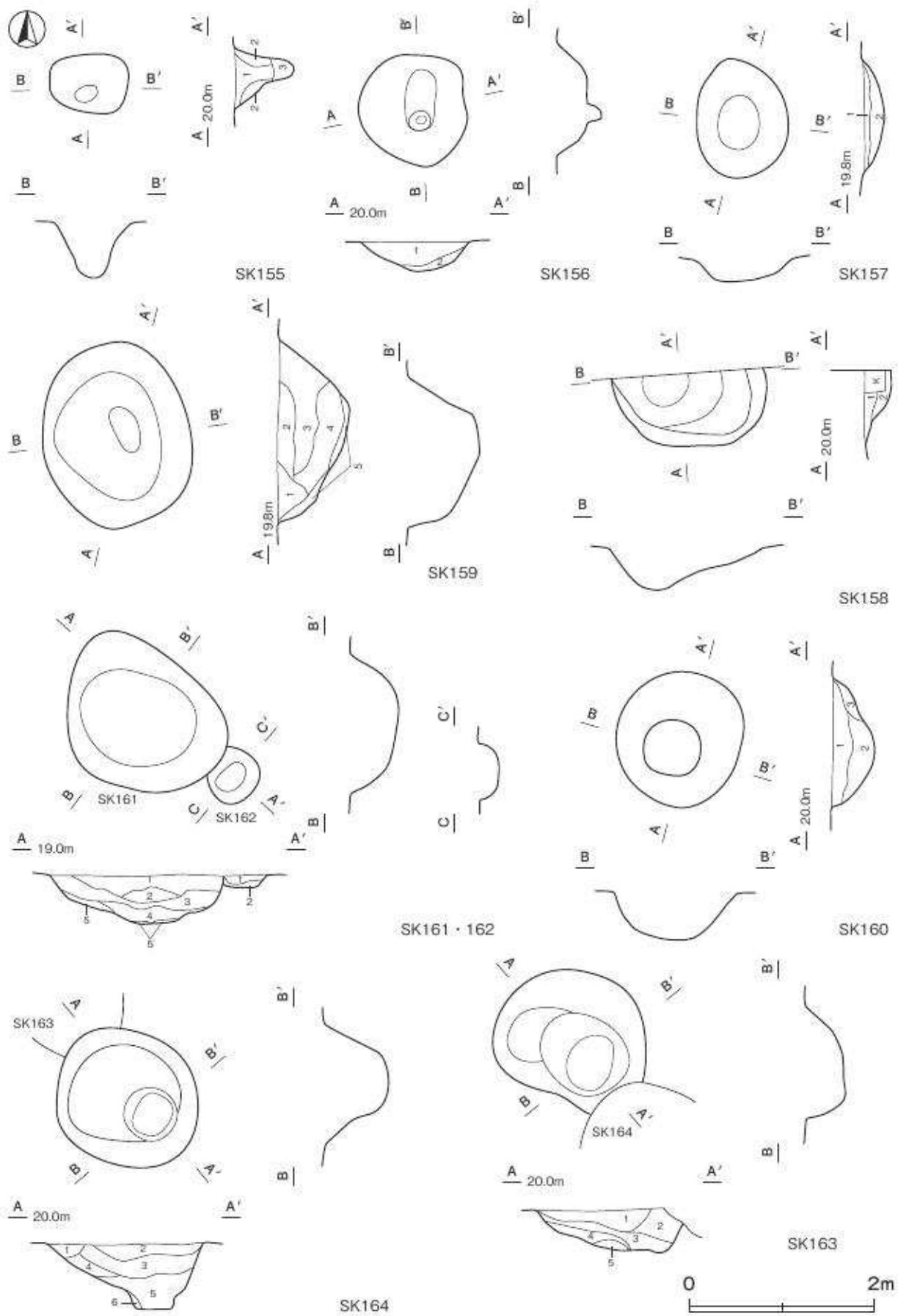
第 440 図 その他の土坑実測図(1)



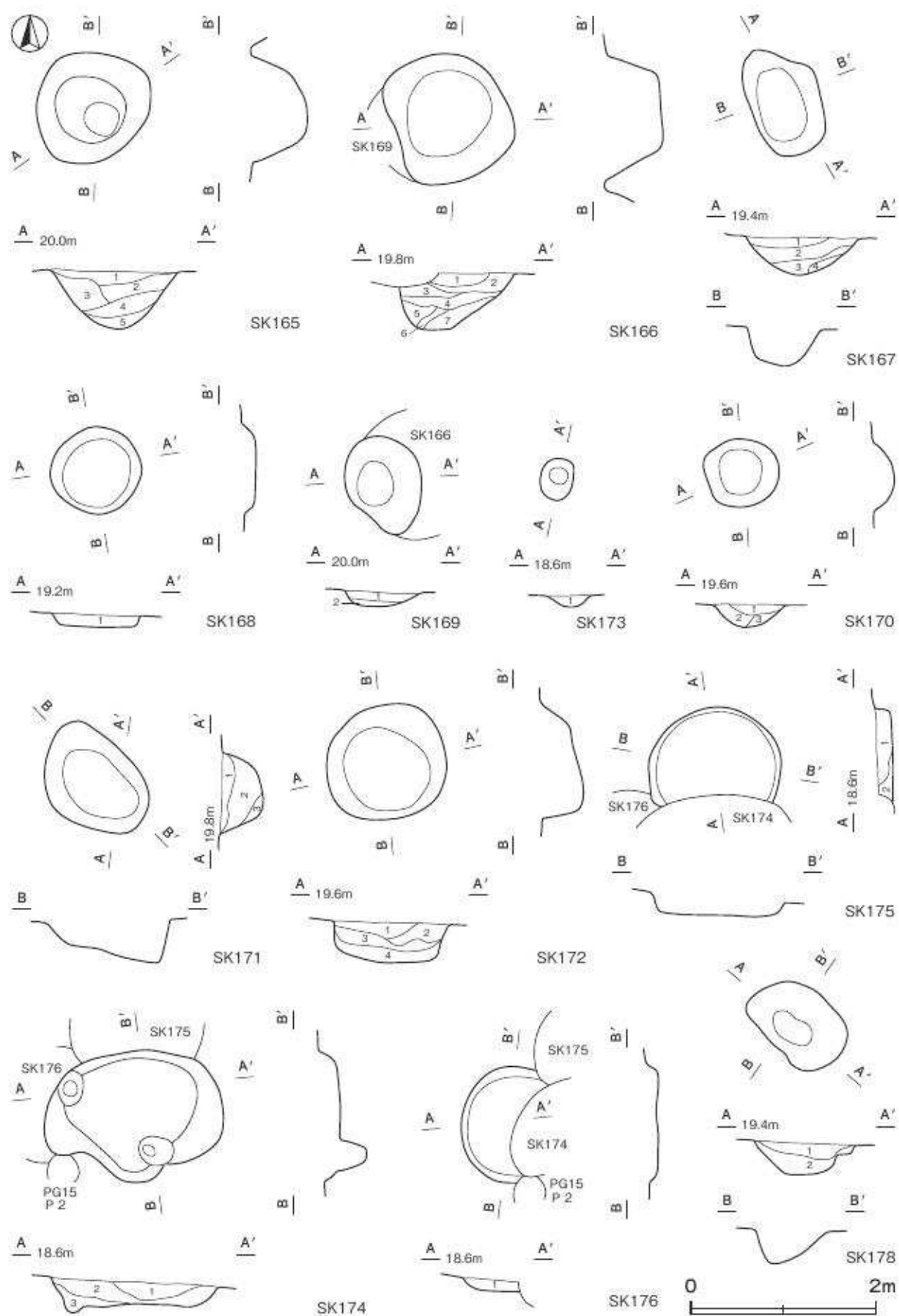
第 442 図 その他の土坑実測図(3)



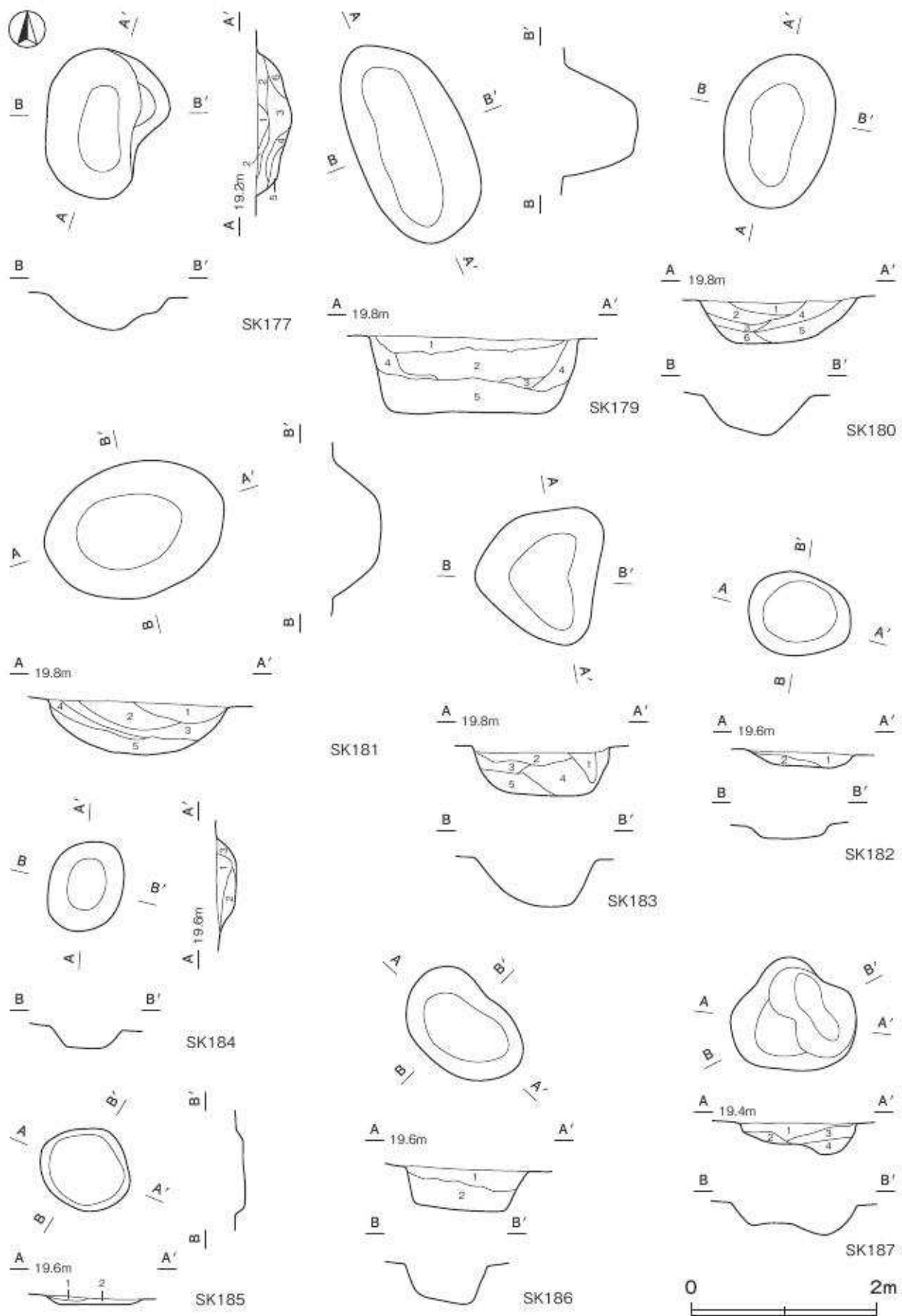
第 443 図 その他の土坑実測図(4)



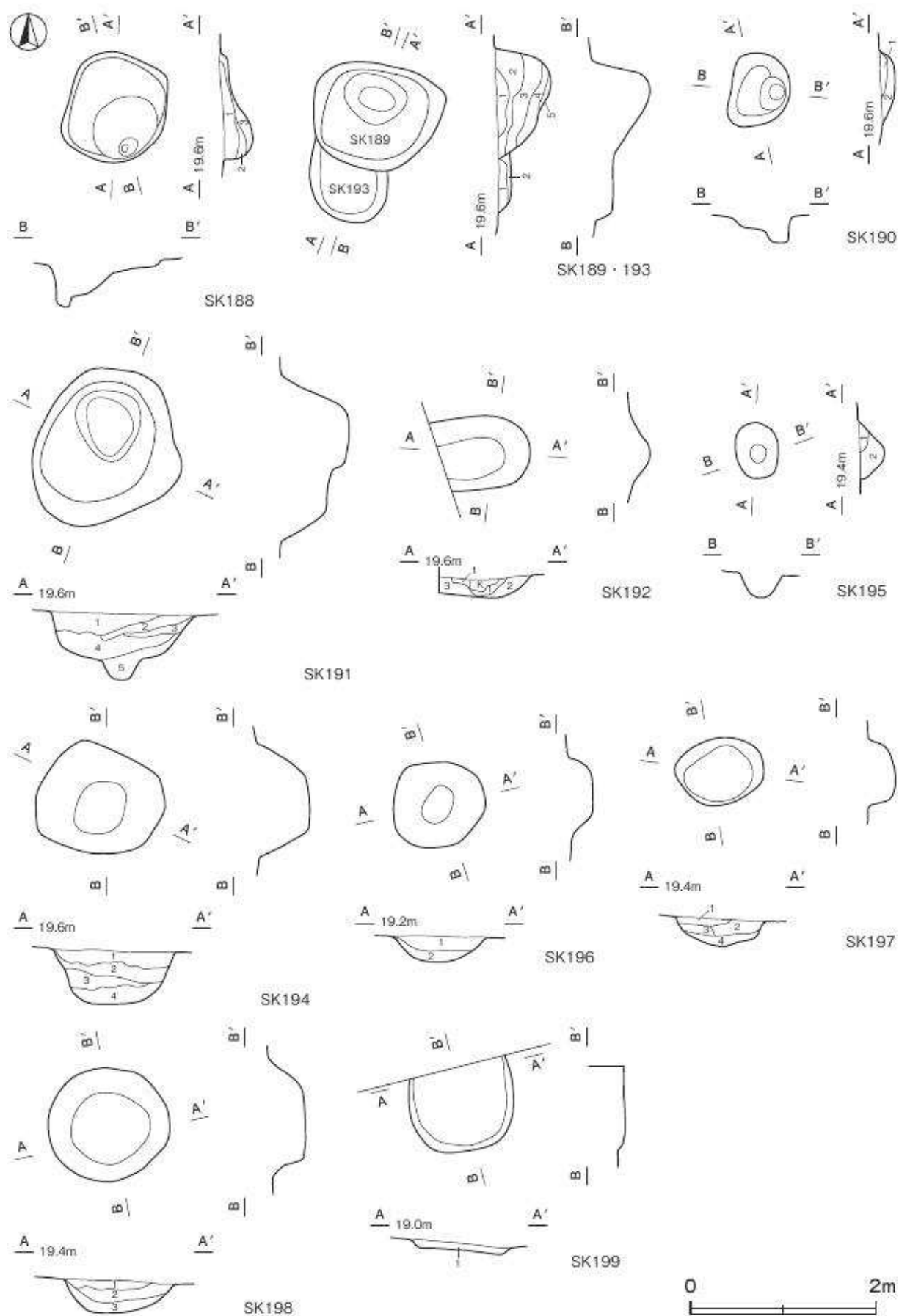
第 444 図 その他の土坑実測図(5)



第 445 図 その他の土坑実測図(6)



第 446 図 その他の土坑実測図(7)



第 447 図 その他の土坑実測図(8)

第74号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第76号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第77号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第78号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第79号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第81号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第83号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第84号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第85号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第86号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 貝少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第87号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第89号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第91号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子少量

第95号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第96号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第98号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第99号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第100号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第101号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第102号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第103号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第105号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第106号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第107号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第108号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量

第109号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第110号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第111号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第113号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第115号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量

第116号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第117号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第119号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第120号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第121号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第123号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第125号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第126号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第127号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量

第130号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第131号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第132号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第134号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第135号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

第137号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第138号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第139号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

第140号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第141号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化物少量

第142号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第143号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第144号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第145号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第146号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第148号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

第152号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

第154号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第155号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第156号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第157号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第158号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第159号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第160号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第161号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第162号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第163号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第164号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量

第165号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

第166号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 5 明褐色 ロームブロック多量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック多量

第167号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第168号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第169号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ロームブロック多量

第170号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第171号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第172号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黄橙色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 橙色 ロームブロック多量

第173号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第174号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量

第175号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第176号土坑 土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック多量

第177号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒色 ロームブロック少量

第178号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第179号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子多量

第180号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

第181号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 橙色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック多量

第182号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

第183号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

第184号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第185号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック多量

第186号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第187号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第188号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック多量

第189号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 稜色 ローム粒子多量

第190号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

第191号土坑 土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量

- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

第192号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第193号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第194号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量

第195号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

第196号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第197号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第198号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第199号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

表36 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
74	D 9b8	N-50°-W	楕円形	0.56 × 0.50	66	U字状	ほぼ直立	自然		
76	E 9j7	N-60°-W	楕円形	0.70 × 0.30	30	平坦	外傾	人為		
77	D 9j8	N-8°-E	楕円形	1.85 × 0.93	20	平坦	緩斜	自然		
78	D 9j8	N-74°-W	楕円形	0.98 × 0.76	26	平坦	外傾	人為		
79	D 9b6	N-37°-E	楕円形	1.12 × 0.84	38	平坦	外傾	自然		
81	D 9g5	-	円形	0.54 × 0.48	24	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器	
83	D 0i1	N-65°-W	楕円形	0.75 × 0.45	70	U字状	ほぼ直立	人為		
84	D 0b2	N-35°-E	楕円形	0.68 × 0.44	34	皿状	緩斜	人為		
85	D 0b2	N-76°-W	楕円形	0.40 × 0.30	44	U字状	直立 外傾	人為		
86	D 0i2	N-18°-E	楕円形	0.40 × 0.34	20	皿状	外傾	人為	土師器・貝	
87	E 9b5	N-27°-W	楕円形	0.60 × 0.40	63	U字状	ほぼ直立 外傾	人為		
89	E 9e7	-	円形	0.58 × 0.58	26	平坦	外傾 緩斜	自然		
91	D 0b4	N-88°-W	楕円形	0.76 × 0.62	24	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	高さ (cm)					
95	E 0a4	-	円形	0.46 × 0.46	44	U字状	ほぼ直立	人為		
96	D 0j4	-	円形	0.60 × 0.58	60	U字状	ほぼ直立	人為		
98	D 0h8	N-65°-W	楕円形	1.18 × 1.00	28	平坦	外傾	人為		
99	D 0j7	-	円形	0.74 × 0.72	24	平坦	直立	人為		
100	D 0e9	N-50°-W	楕円形	0.68 × 0.60	18	平坦	緩斜	自然		
101	D 1j2	N-64°-W	楕円形	1.70 × 0.84	30	平坦	外傾 緩斜	人為		
102	E 9e9	N-78°-E	方形	1.82 × 1.76	12	平坦	緩斜	人為		
103	D 0h0	N-84°-E	長方形	0.78 × 0.64	24	平坦	外傾	人為		
105	D 1d3	-	円形	0.68 × 0.62	30	皿状	外傾	人為		
106	D 0f2	N-76°-E	[楕円形]	0.70 × (0.36)	26	平坦	緩斜	人為		SK107 → 本跡
107	D 0f2	N-1°-E	楕円形	0.68 × 0.48	20	平坦	外傾	人為		本跡 → SK106
108	D 0f1	-	円形	0.30 × 0.30	52	U字状	ほぼ直立	自然		
109	D 1i4	N-20°-E	楕円形	1.00 × 0.88	30	皿状	緩斜	自然		
110	D 1j4	N-72°-W	[楕円形]	0.90 × (0.78)	20	平坦	緩斜	人為		
111	D 1j4	N-43°-W	楕円形	0.65 × 0.60	20	皿状	直立 外傾	人為		
113	D 1h3	N-78°-W	楕円形	0.48 × 0.40	58	U字状	ほぼ直立 直立	自然		
115	E 0d7	-	円形	1.10 × 1.08	28	平坦	緩斜	自然		
116	E 0e6	N-85°-E	楕円形	1.76 × 1.22	16	平坦	緩斜	人為		
117	D 1c4	N-32°-W	楕円形	0.72 × 0.64	12	平坦	外傾 緩斜	人為		SK118 → 本跡
119	D 1d4	N-30°-E	楕円形	0.60 × 0.50	20	平坦	緩斜	自然		本跡 → SK117
120	D 1d5	N-82°-E	楕円形	0.68 × 0.52	14	皿状	外傾 緩斜	自然		
121	D 1c2	N-72°-E	楕円形	0.60 × 0.50	50	U字状	ほぼ直立	自然		
123	D 0j7	-	円形	1.02 × 0.96	16	平坦	緩斜	人為		
125	B 11a1	N-86°-W	楕円形	2.20 × 1.40	56	平坦	直立 緩斜	自然		
126	B 10a8	N-55°-W	楕円形	1.18 × 1.08	14	平坦	外傾 緩斜	自然		
127	B 10a6	N-47°-W	楕円形	0.44 × 0.34	48	U字状	ほぼ直立 直立	人為		本跡 → SD17
130	B 11h3	-	円形	1.20 × 1.98	40	皿状	外傾	人為		
131	B 11g3	N-26°-W	楕円形	1.28 × 1.08	38	平坦	ほぼ直立	人為		
132	B 11i1	N-50°-W	楕円形	1.36 × 1.18	31	平坦	外傾 緩斜	人為		
134	C 10e6	N-22°-E	楕円形	1.44 × 1.30	26	平坦	直立 外傾	人為		SK135 → 本跡
135	C 10e7	N-67°-W	[楕円形]	1.30 × (0.70)	16	平坦	外傾 緩斜	自然		本跡 → SK134
137	B 10g7	N-24°-W	楕円形	1.46 × 0.98	32	皿状	外傾 緩斜	人為		
138	C 10e8	-	円形	1.30 × 1.30	8	平坦	外傾 緩斜	人為		
139	C 10d8	N-48°-E	楕円形	1.32 × 1.22	20	平坦	ほぼ直立 緩斜	人為		
140	C 10e7	-	円形	1.50 × 1.48	21	平坦	外傾	人為		
141	C 10f6	N-60°-W	楕円形	1.48 × 1.21	36	平坦	ほぼ直立 直立	人為		
142	C 10d5	N-63°-E	楕円形	0.88 × 0.60	16	平坦	外傾 緩斜	人為		
143	C 10e5	N-24°-E	楕円形	1.50 × 1.20	30	皿状	緩斜	人為		
144	C 10f5	N-62°-W	楕円形	1.68 × 1.10	52	平坦	外傾	人為		
145	C 10e5	-	円形	0.50 × 0.50	26	皿状	外傾 緩斜	人為		
146	C 10d7	N-31°-W	楕円形	2.14 × 1.90	24	皿状	外傾	人為		
148	C 10d0	-	円形	0.92 × 0.90	26	皿状	外傾 緩斜	人為		本跡 → SD18
152	B 11g3	N-41°-E	楕円形	1.15 × 0.85	34	皿状	外傾 緩斜	人為		
154	B 10e3	N-45°-E	楕円形	1.66 × 1.38	38	皿状	外傾 緩斜	人為		
155	B 10d4	N-88°-E	楕円形	0.72 × 0.64	58	皿状	外傾	人為		
156	B 10e3	-	円形	1.20 × 1.18	32	平坦	外傾 緩斜	人為		
157	B 10f2	N-10°-W	楕円形	1.30 × 0.98	20	皿状	緩斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
158	B 10d2	N-86°-E	[楕円形]	1.65 × (0.78)	48	皿状	緩斜	人為		
159	B 10e1	N-7°-E	楕円形	2.00 × 1.60	78	皿状	外傾緩斜	人為		
160	B 10g1	-	円形	1.44 × 1.32	52	皿状	外傾	人為		
161	B 10g2	N-50°-W	楕円形	1.90 × 1.52	50	皿状	外傾	人為		
162	B 10g2	-	[円形]	0.58 × (0.48)	22	平坦	外傾	自然		
163	B 10i2	N-50°-E	[楕円形]	1.50 × (1.42)	38	平坦	外傾緩斜	人為		本跡→SK164
164	B 10j2	-	円形	1.50 × 1.46	68	平坦	外傾	人為		SK163→本跡
165	B 10i2	N-50°-E	楕円形	1.36 × 1.14	60	皿状	直立外傾	人為		
166	B 10i2	N-67°-W	方形	1.50 × 1.46	74	平坦	外傾	人為		本跡→SK169
167	C 10e4	N-30°-W	楕円形	1.24 × 0.78	42	皿状	直立外傾	人為		
168	C 10e4	-	円形	1.00 × 0.94	16	平坦	外傾緩斜	人為		
169	B 10i2	N-23°-W	[楕円形]	1.12 × (0.82)	16	平坦	外傾緩斜	人為		本跡→SK166
170	B 10i5	-	円形	0.80 × 0.76	24	皿状	外傾	人為		
171	B 10i1	N-44°-W	楕円形	1.30 × 0.82	48	皿状	直立外傾	人為		
172	B 10i5	N-42°-E	楕円形	1.38 × 1.24	38	皿状	直立外傾	人為		
173	C 10e8	N-13°-E	楕円形	0.46 × 0.36	12	皿状	緩斜	人為		
174	C 10d8	N-80°-E	不整形円形	1.96 × 1.40	22	平坦	外傾	人為		SK175-176, PG15P2→本跡
175	C 10d8	N-58°-E	[楕円形]	1.49 × (0.95)	20	平坦	外傾	人為		SK176→本跡→SK174
176	C 10d7	N-7°-E	[楕円形]	1.26 × (0.58)	14	平坦	外傾緩斜	人為		本跡→SK174, SK175→PG15P2
177	C 10e4	N-15°-E	楕円形	1.59 × 1.26	36	皿状	緩斜	人為		
178	C 10d3	N-52°-W	楕円形	1.10 × 0.72	34	皿状	直立緩斜	人為		
179	B 10i4	N-26°-W	楕円形	2.26 × 1.20	78	平坦	外傾	人為		
180	C 10e1	N-12°-E	楕円形	1.70 × 1.14	44	平坦	外傾緩斜	人為		
181	B 10i5	N-72°-E	楕円形	2.00 × 1.44	54	平坦	外傾	人為		
182	C 10d2	N-59°-W	楕円形	1.16 × 0.90	14	平坦	外傾	人為		
183	C 10e3	N-38°-E	不整形	1.46 × 1.41	48	平坦	外傾緩斜	人為		
184	C 10e3	N-37°-E	楕円形	1.10 × 0.80	20	平坦	外傾	人為		
185	C 10e3	N-68°-W	楕円形	1.04 × 0.90	12	平坦	外傾	人為		
186	C 10e2	N-51°-W	楕円形	1.42 × 0.92	42	平坦	外傾	人為		
187	C 10e2	-	不整形	1.36 × 1.28	36	平坦	外傾	人為		
188	C 10e1	N-63°-E	楕円形	1.30 × 1.18	44	段状	直立外傾	人為		
189	C 10d1	N-76°-E	楕円形	1.48 × 1.20	60	皿状	直立緩斜	人為		SK193→本跡
190	C 10e1	N-35°-E	楕円形	0.84 × 0.66	28	段状	直立外傾	人為		
191	C 10d1	N-20°-E	楕円形	1.80 × 1.56	74	段状	外傾	人為		
192	C 9e0	N-84°-E	[楕円形]	(1.00) × 0.74	20	皿状	緩斜	人為		
193	C 10e1	N-32°-W	[楕円形]	0.85 × (0.55)	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK189
194	C 10f1	N-64°-W	楕円形	1.50 × 1.14	56	平坦	外傾	人為		
195	C 10e3	-	円形	0.52 × 0.49	24	平坦	外傾	人為		
196	C 10e3	-	円形	1.06 × 0.98	22	平坦	外傾	人為		
197	B 10j7	N-83°-W	楕円形	0.98 × 0.76	30	皿状	外傾	人為		
198	B 10j7	-	円形	1.30 × 1.22	36	平坦	外傾	人為		
199	B 11j3	-	[円形]	1.14 × (0.92)	10	平坦	外傾	人為		

(3) 溝跡 (第448図)

その他の溝跡4条については、土層断面図と土層解説を掲載する。

第13号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第16号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

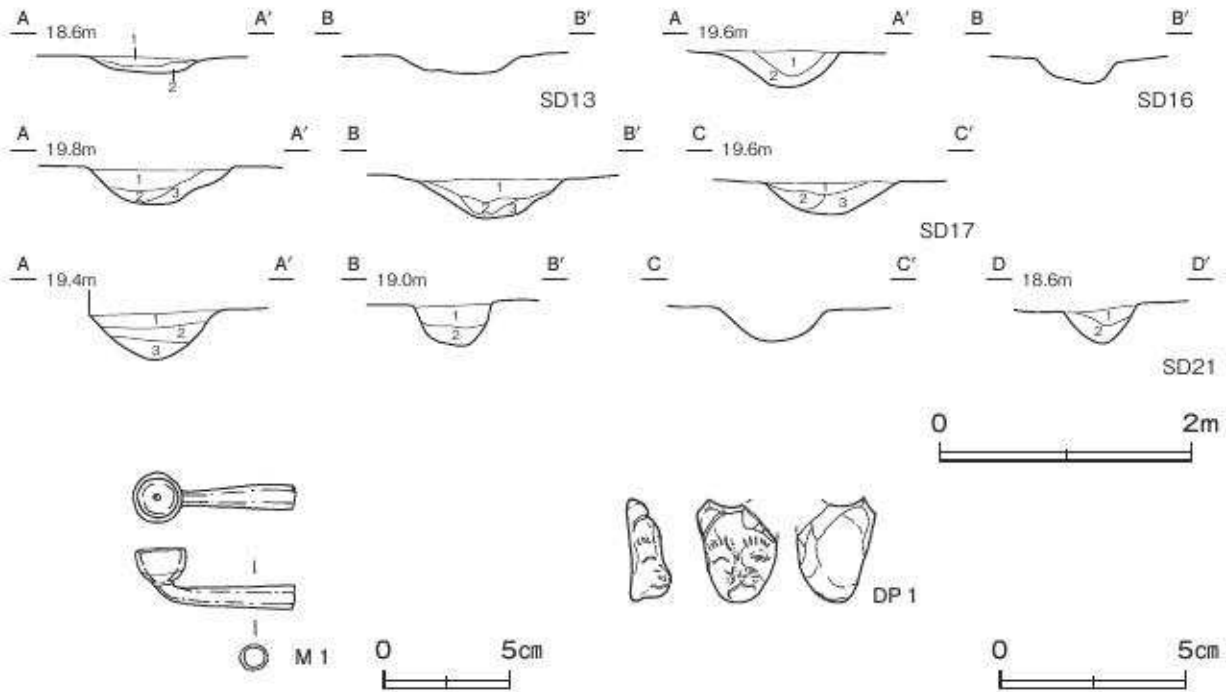
第17号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量

第21号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第448図 第13・16・17・21号溝跡・出土遺物実測図

第17号溝跡出土遺物観察表 (第448図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管	6.4	2.0	2.4	10.71	銅	継首部 膨張し部直線的	覆土中	PL58

第21号溝跡出土遺物観察表 (第448図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	泥面子	(27)	(20)	1.1	(3.77)	長石	にぶい黄褐色	顔部 右目を閉じている	覆土中	PL57

表37 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	胎土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
13	D-1c1-D1a5	N-72°-E	直線状	(14.60)	0.64-1.04	0.21-0.64	12-18	皿状	縦斜	自然		
16	B11a2-A112	N-31°-E	直線状	(2.60)	0.60-0.70	0.30-0.36	28-30	皿状	縦斜	自然		
17	B10a6-B11c3	N-76°-W	直線状	(31.60)	0.80-1.20	0.36-0.44	24-32	皿状	縦斜	自然	金属製品(煙管)	
21	C10g1-C10f7	N-88°-E	直線状	(23.00)	0.50-0.80	0.08-0.38	28-40	皿状	縦斜	自然	土製品(泥面子)	

(3) ビット群 (第 449 図)

今回の調査で、ビット群 10 か所を確認した。いずれも建物跡を想定できるような配置ではない。時期は不明である。ここではビット群ごとに計測表を掲載する。なお、各ビット群の平面図は第 356・357 図に掲載する。

表 38 第 6 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-F 9 a7	円形	16	16	10	6	-F 9 a7	楕円形	30	25	46	11	-E 9 j6	楕円形	30	20	17
2	-F 9 a7	楕円形	19	17	20	7	-E 9 j7	楕円形	30	25	22	12	-E 9 j6	円形	26	25	22
3	-F 9 a7	楕円形	21	17	19	8	-E 9 j6	円形	25	23	16	13	-E 9 j7	楕円形	41	28	15
4	-F 9 a7	楕円形	39	25	17	9	-E 9 j6	楕円形	32	19	23	14	-E 9 j7	円形	27	26	14
5	-F 9 a7	楕円形	31	24	12	10	-E 9 j6	楕円形	30	23	24	15	-E 9 j7	楕円形	30	25	9

表 39 第 7 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-D 9 g7	円形	37	35	43	10	-D 9 g8	円形	31	30	50	19	-D 9 h4	楕円形	58	34	57
2	-D 9 g7	円形	42	40	68	11	-D 9 g8	楕円形	48	39	34	20	-D 9 h4	円形	40	38	63
3	-D 9 g4	楕円形	50	35	40	12	-D 9 h7	楕円形	45	40	37	21	-E 9 a0	楕円形	40	30	42
4	-D 9 g4	楕円形	47	37	30	13	-D 9 e0	円形	25	24	38	22	-D 9 j0	円形	34	28	33
5	-D 9 g4	円形	33	31	24	14	-D 9 e0	円形	30	30	51	23	-D 9 j0	楕円形	30	30	37
6	-D 9 g4	円形	35	34	58	15	-D 9 d9	楕円形	39	35	50	24	-D 9 j0	円形	31	30	34
7	-D 9 f7	楕円形	35	29	39	16	-D 9 d9	楕円形	35	29	49	25	-D 9 j0	円形	35	33	43
8	-D 9 g3	楕円形	53	40	24	17	-D 9 i5	円形	33	30	45	26	-D 9 h0	楕円形	35	30	57
9	-D 9 g3	楕円形	51	35	38	18	-D 9 h4	円形	26	26	45	27	-D 0 h1	楕円形	48	28	67

表 40 第 8 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-E 9 d6	円形	78	74	54	15	-E 9 b5	円形	27	27	44	29	-E 9 g9	楕円形	35	30	33
2	-E 9 d7	楕円形	47	34	30	16	-E 9 b5	楕円形	58	50	67	30	-E 0 f1	円形	39	38	56
3	-E 9 d7	楕円形	26	20	16	17	-E 9 b5	円形	35	33	71	31	-E 0 g1	円形	53	50	27
4	-E 9 d7	円形	23	22	21	18	-E 9 b5	楕円形	34	29	43	32	-E 0 f2	円形	30	29	32
5	-E 9 e7	楕円形	48	37	55	19	-E 9 b5	楕円形	32	25	48	33	-E 0 f2	楕円形	30	23	38
6	-E 9 e7	楕円形	30	25	45	20	-E 9 b5	円形	37	35	64	34	-E 0 c1	楕円形	40	31	34
7	-E 9 e8	楕円形	37	32	39	21	-E 9 e8	楕円形	34	30	33	35	-E 0 b2	円形	29	30	37
8	-E 9 e6	楕円形	50	43	24	22	-E 9 b0	円形	36	37	30	36	-E 0 b2	楕円形	35	26	39
9	-E 9 e5	楕円形	48	31	63	23	-E 9 d0	楕円形	30	27	34	37	-E 0 b1	楕円形	34	26	39
10	-E 9 e5	楕円形	57	50	49	24	-E 9 d0	楕円形	47	28	29	38	-E 0 b1	円形	29	27	45
11	-E 9 e5	楕円形	67	50	46	25	-E 0 e1	楕円形	38	30	46	39	-E 0 a1	楕円形	26	23	27
12	-E 9 b7	円形	30	29	36	26	-E 9 f8	楕円形	112	81	57	40	-E 0 b2	円形	30	28	55
13	-E 9 a6	楕円形	40	34	65	27	-E 9 b0	円形	35	34	37						
14	-E 9 a6	円形	35	34	45	28	-E 9 b0	円形	35	34	28						

表 41 第 9 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-D 0 i1	楕円形	47	28	37	9	-D 0 i3	方形	25	34	35	17	-D 0 i4	楕円形	48	42	50
2	-D 0 i2	円形	34	30	25	10	-D 0 i3	楕円形	34	34	27	20	-D 0 j4	楕円形	34	30	38
3	-D 0 h1	方形	35	32	48	11	-D 0 h2	楕円形	34	34	30	21	-D 0 i5	円形	46	44	55
4	-D 0 i4	楕円形	30	27	57	12	-D 0 h2	楕円形	54	54	30	22	-D 0 i5	円形	38	40	46
5	-E 0 a2	円形	34	34	54	13	-D 0 h2	円形	25	24	56	25	-D 0 h4	楕円形	38	34	70
6	-E 0 a1	円形	38	35	44	14	-D 0 h2	楕円形	38	34	34	27	-D 0 i4	楕円形	44	34	65
7	-E 0 a2	長方形	32	25	40	15	-D 0 h2	楕円形	42	28	60	29	-D 0 g5	楕円形	47	44	52
8	-D 0 j2	楕円形	48	30	30	16	-D 0 h3	楕円形	38	30	84	32	-D 0 i5	円形	35	33	62

表 42 第 10 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E 043	楕円形	28	25	45	9	E 0b4	楕円形	35	30	54	22	E 0e5	楕円形	24	20	44
2	E 044	楕円形	31	27	39	11	E 0a5	楕円形	37	32	27	23	E 0e4	楕円形	50	37	56
3	E 0c5	円形	30	29	54	13	E 0a5	楕円形	35	31	60	24	E 0b5	円形	44	40	42
4	E 0c3	円形	38	36	42	18	E 0a4	楕円形	29	25	28	25	E 0d4	円形	22	21	35
5	E 0d4	円形	26	25	61	16	E 0e4	円形	29	28	65	26	E 0d6	円形	25	25	46
6	E 0c5	円形	29	27	39	17	E 0b3	楕円形	31	26	39	27	E 0f6	円形	33	32	72
7	E 0c5	楕円形	28	25	35	20	E 0d5	円形	27	26	38	28	E 0g6	楕円形	54	48	45
8	E 0b4	楕円形	26	23	48	21	E 0e5	円形	31	30	32						

表 43 第 11 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 0b9	楕円形	34	25	39	4	D 0b9	楕円形	25	21	30	7	D 0d0	円形	34	32	54
2	D 0b9	円形	28	26	57	5	D 0b9	円形	24	25	53	8	D 0b9	円形	35	34	51
3	D 0b9	楕円形	34	24	31	6	D 0j9	楕円形	38	27	52	9	D 0g9	円形	35	34	49

表 44 第 12 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 1d2	円形	25	23	56	10	D 1d2	楕円形	30	25	25	19	D 1g5	円形	36	34	56
2	D 1f1	楕円形	28	23	51	11	D 1d2	楕円形	43	30	32	20	D 1h4	円形	42	40	53
3	D 1f1	楕円形	24	20	12	12	D 1d2	楕円形	37	32	38	21	D 1g4	楕円形	30	26	46
4	E 1j1	楕円形	22	20	32	13	D 1c3	長方形	40	34	63	22	D 1g5	円形	31	29	35
5	E 1j2	楕円形	25	21	25	14	D 1e4	楕円形	42	32	38	23	D 1j4	楕円形	37	28	50
6	D 1f1	楕円形	26	23	50	15	D 1e4	楕円形	51	46	47	24	D 1g3	円形	26	25	60
7	D 1d1	円形	23	22	30	16	D 1c5	円形	38	36	57	25	D 1e5	円形	30	29	42
8	D 1d1	楕円形	35	28	40	17	D 1d5	楕円形	37	24	34	26	D 1e5	楕円形	28	21	62
9	D 1d2	楕円形	35	28	43	18	D 1d5	円形	38	35	54	27	D 1d5	円形	30	30	47

表 45 第 13 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 11i7	円形	20	20	35	3	B 11i7	楕円形	26	18	23
2	B 11i7	楕円形	19	16	16	4	B 11h7	円形	30	28	20

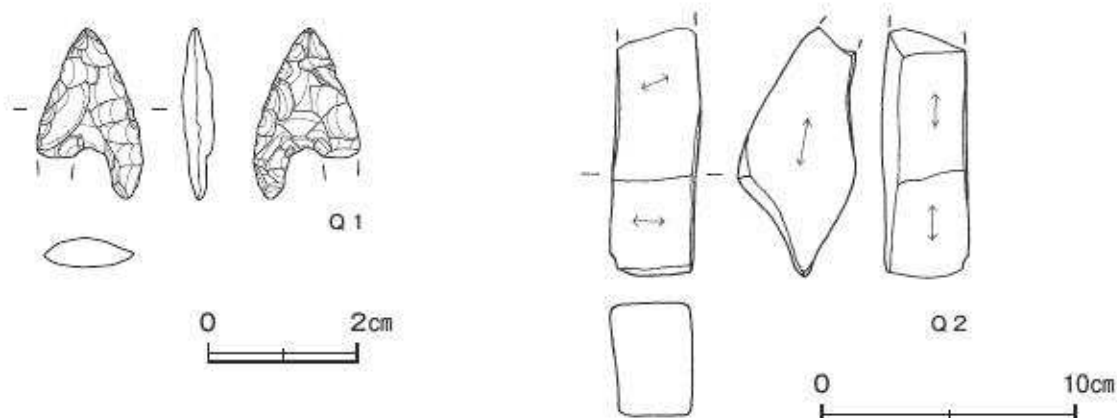
表 46 第 14 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 10i3	楕円形	73	47	32	6	B 10g2	楕円形	65	48	15	11	B 10g2	楕円形	55	40	15
2	B 10i3	[楕円形]	35	28	15	7	B 10g2	円形	52	45	42	12	B 10g2	円形	25	25	33
3	B 10i3	円形	35	33	43	8	B 10g2	円形	32	30	10	13	B 10g2	楕円形	40	30	56
4	B 10i3	[楕円形]	46	32	12	9	B 9g0	楕円形	40	25	44	14	B 10f2	方形	24	23	10
5	B 10i3	楕円形	30	26	36	10	B 10i1	楕円形	62	42	14	15	B 10g2	楕円形	50	25	4

表 47 第 15 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 10f4	楕円形	56	38	52	7	C 10h3	楕円形	30	27	56	13	C 10c3	円形	35	33	45
2	C 10e7	楕円形	34	25	20	8	C 10e4	円形	19	18	15	14	C 10b2	楕円形	33	30	22
3	C 10c4	楕円形	25	20	20	9	C 10e4	円形	25	23	26	15	C 10a2	楕円形	35	27	19
4	C 10b4	円形	24	24	88	10	C 10b3	円形	20	20	20	16	C 10e2	楕円形	30	25	10
5	C 10c5	楕円形	48	26	30	11	C 10b3	楕円形	30	27	37	17	C 10d3	円形	24	23	14
6	C 10b4	楕円形	25	19	13	12	C 10b3	楕円形	48	28	23	18	C 10d3	楕円形	38	34	16

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長さ	幅	高さ				長さ	幅	高さ				長さ	幅	高さ
19	C 10e3	楕円形	30	27	35	25	C 10b2	楕円形	37	32	30	31	C 10a4	楕円形	25	22	10
20	C 10d3	円形	28	28	27	26	C 10b2	円形	33	32	10	32	C 10a4	楕円形	30	30	10
21	C 10e3	円形	25	23	30	27	C 10d2	円形	26	23	43	33	C 10d3	楕円形	31	25	15
22	C 10e3	楕円形	31	23	41	28	C 10e2	円形	43	40	14	34	C 10d3	[楕円形]	[24]	17	3
23	C 10e2	楕円形	45	33	27	29	C 10e1	円形	40	38	30						
24	C 10f2	楕円形	30	23	27	30	C 10e1	楕円形	30	25	8						



第 449 図 第 9 号ピット群出土遺物実測図

第 9 号ピット群出土遺物観察表 (第 449 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	(2.26)	(1.42)	0.44	(0.84)	安山岩	凹基無茎鏃、端部欠損	P20	PL57
Q 2	砥石	(9.3)	(3.5)	(4.7)	(179.6)	凝灰岩	砥面 6 面	P-6	PL58

(3) 遺構外出土遺物 (第 450 図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、実測図と観察表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表 (第 450 図)

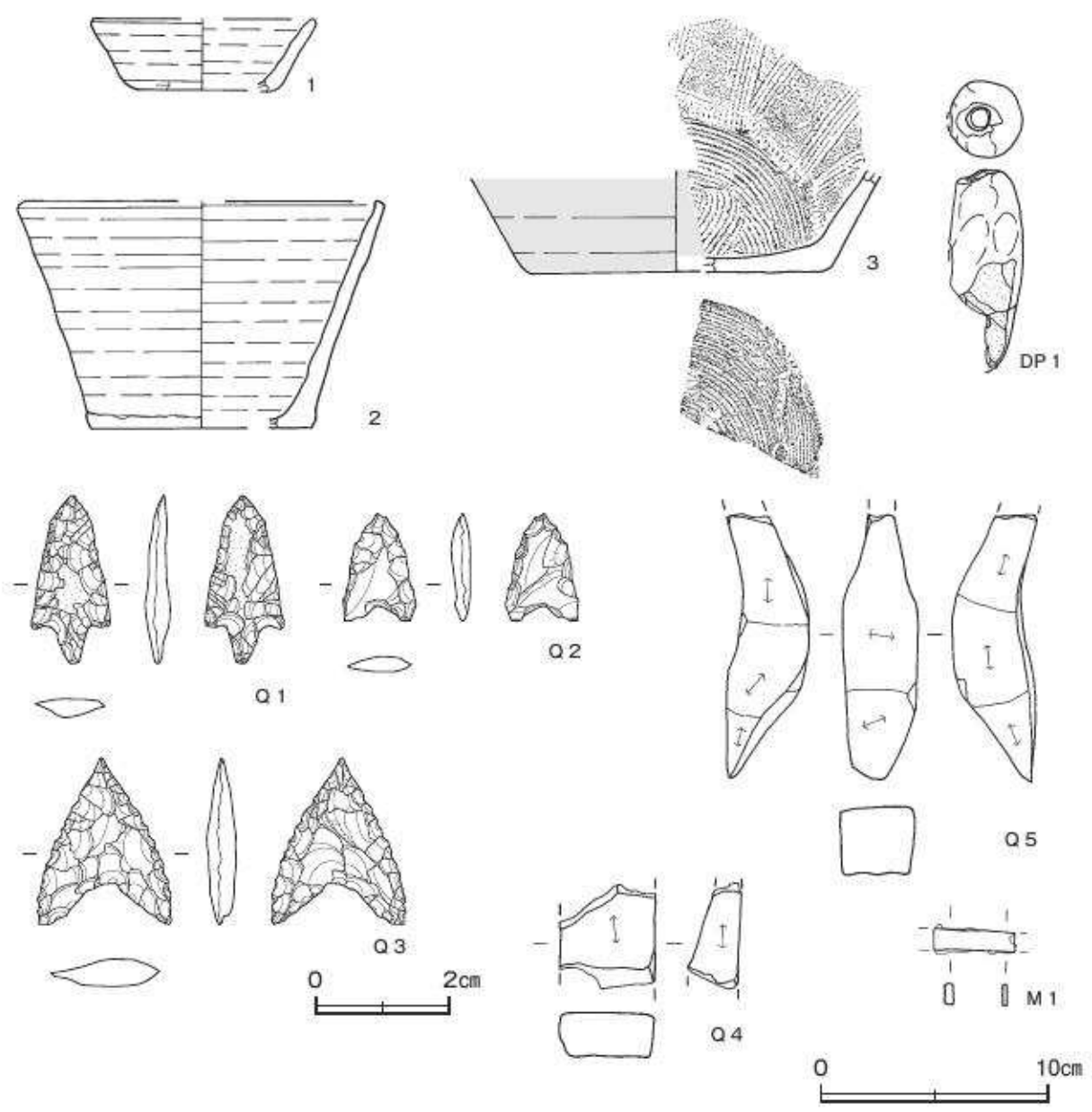
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[9.8]	.31	[6.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	表土	10% 新治産

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸径	産域	出土位置	備考
2	陶器	鉢	[15.6]	(10.0)	[9.8]	長石・石英・赤色粒子、明赤褐	体部外面下端回転ヘラ削り、内面口クロナデ	-	不明	表土	30%
3	陶器	擂鉢	-	(4.5)	[13.0]	長石・石英に白い粉	17条1単位の摺り目	鉄軸	瀬戸・美濃	表土	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	管状土鏝	(3.3)	(8.8)	0.9-1.0	(64.51)	長石・石英・赤色粒子	橙	外面に指頭痕、一部欠損	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	2.49	1.18	0.39	0.80	瑪瑙	凹基有茎鏃、両面押圧剥離	表土	PL57
Q 2	石鏃	1.61	1.10	0.30	0.47	安山岩	凹基無茎鏃、両面押圧剥離	表土	PL57
Q 3	石鏃	2.48	2.00	0.46	1.33	安山岩	凹基無茎鏃、両面押圧剥離	表土	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	(4.7)	(4.3)	(2.3)	(52.4)	凝灰岩	研面2面	表土	
Q5	砥石	11.8	3.4	3.7	169.28	凝灰岩	研面8面	表土	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(3.5)	(1.0)	0.2-0.4	(6.33)	鉄	茎部片 断面長方形	表土	



第450図 遺構外出土遺物実測図

第4節 ま と め

1 はじめに

当遺跡は、平成 21 年度に発掘調査を実施し、その成果は平成 22 年度に「茨城県教育財団文化財調査報告」第 335 集として報告している^リ。今回の調査で、新たに縄文時代の竪穴建物跡 3 棟、陥し穴 2 基、土坑 4 基、古墳時代の竪穴建物跡 2 棟、奈良時代の竪穴建物跡 5 棟、井戸跡 1 基、土坑 1 基、平安時代の竪穴建物跡 7 棟、井戸跡 2 基、土坑 8 基、室町時代の掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、粘土貼土坑 1 基、土坑 2 基、江戸時代の井戸跡 2 基、墓坑 1 基、土坑 3 基、溝跡 5 条、道路跡 2 条を確認し、土師器や須恵器、土師質土器、陶磁器、石器、石製品、土製品、金属製品などが出土している。前回の調査と同様に、本跡が縄文時代から江戸時代までの複合遺跡であることが確認された。ここでは、前回の報告文に今回の調査結果を付け加える形で集落の様相を概観し、特徴的な遺構について触れてまとめとしたい。

2 集落の様相について

前回報告分と合わせると、縄文時代の竪穴建物跡 3 棟、陥し穴 4 基、土坑 4 基、古墳時代の竪穴建物跡 2 棟、奈良時代の竪穴建物跡 24 棟、掘立柱建物跡 3 棟、連結竪穴遺構 1 基、井戸跡 1 基、土坑 7 基、平安時代の竪穴建物跡 17 棟、掘立柱建物跡 5 棟、井戸跡 2 基、土坑 11 基、室町時代の掘立柱建物跡 4 棟、方形竪穴遺構 1 基、井戸跡 2 基、土坑 3 基、江戸時代の井戸跡 2 基、墓坑 1 基、土坑 3 基、溝跡 5 条、道路跡 2 条、時期不明掘立柱建物跡 3 棟、井戸跡 3 基、土坑 147 基、溝跡 16 条、ピット群 15 か所である。

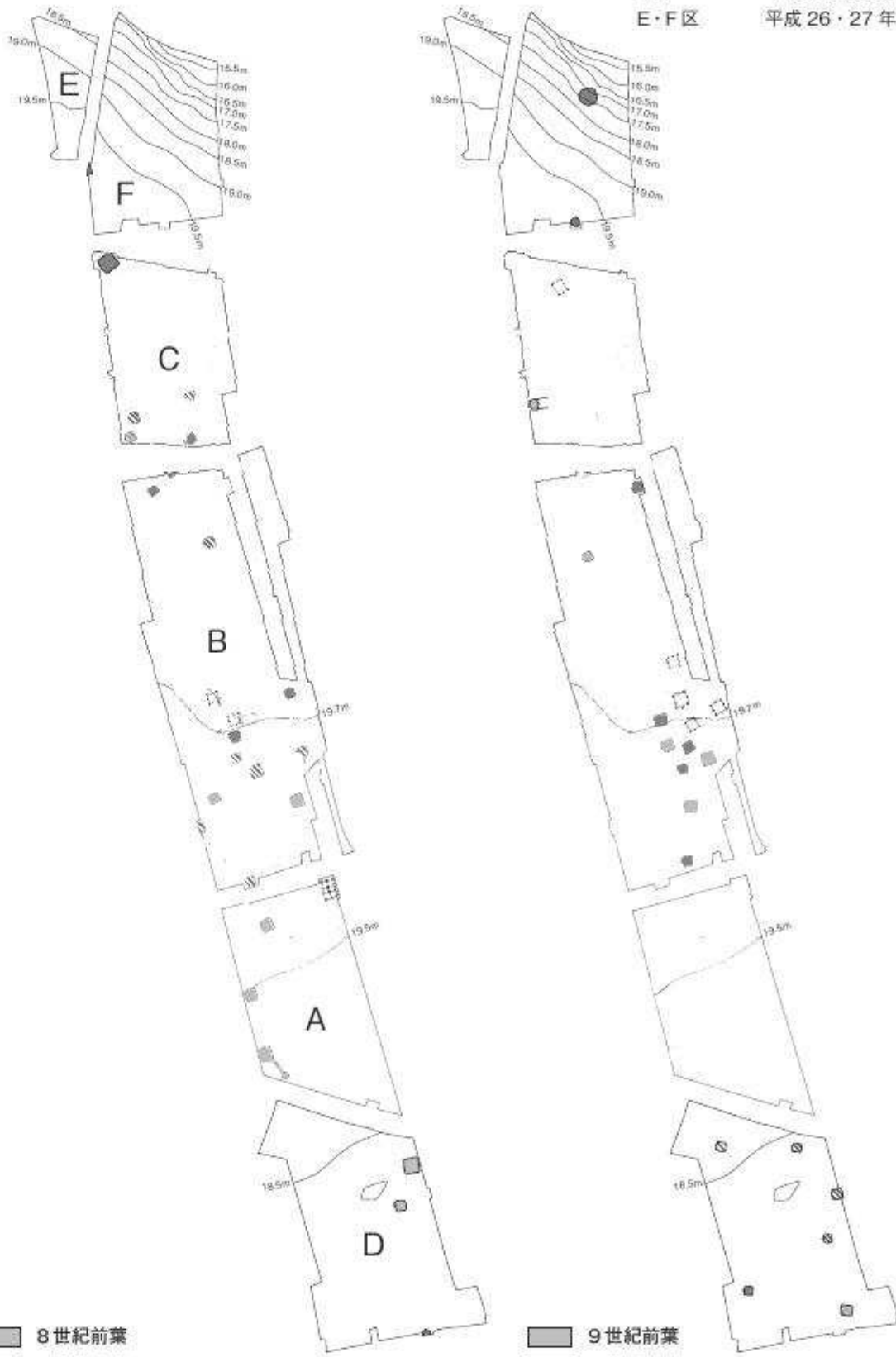
縄文時代の竪穴建物跡 3 棟は調査区西端の台地端部に位置している。表面採集の遺物として石鏃などが出土し、周辺で陥し穴が確認されていることから、集落の端部で、狩場として利用されていたものと考えられる。

古墳時代の竪穴建物跡は 2 棟と少なく、一時的なものか、集落の端部と考えられる。

奈良・平安時代の集落変遷図を第 451 図に示した。また、調査区と遺跡の範囲及び谷部や低地のわかる地形図を第 452 図に示した。調査区の中央部に竪穴建物跡が集まっており、ここは周辺に比べて標高が高い場所である(第 451 図)。遺構の重複も少ないことから、遺跡の中心部分から少し離れた場所と考えられる。また、竪穴建物の配置を見ると、奈良時代の竪穴建物跡が東西方向に広がっているのに対して、平安時代の竪穴建物跡は南北方向に広がっている。当時の竪穴建物跡の様相は、調査区を東から見ると、奈良時代の竪穴建物跡が緩やかな傾斜地に傾斜を利用して段々に、平安時代の竪穴建物跡は同じ高さに広がってまばらに建てられている。また、調査区の西部は、中央部に比べてわずかに標高は低くなるものの、調査区の中でも平坦な場所である。ここには奈良・平安時代の竪穴建物跡が散在する。西部の標高は 18～19 m で、それを取り巻くように標高 12～14 m の谷が入り込んでいて、水田耕作に利用されたことが想像される。ここには掘立柱建物跡が集中して確認され、倉庫として最適な立地となっている。総柱の掘立柱建物跡が 1 棟確認され、墨書土器も出土していることから、管理者の存在とともに台地端部に倉庫群が広がっていたものと考えられる。調査区の東部は東に向かって急傾斜で低くなっていて、標高 12～14 m の谷が入り込んでいる。その谷の東側は再び標高 20 m ほどの台地になっていることから、この谷もまた、水田耕作に適した地形であると考えられる。



A・B・C区 平成 21 年度調査区
 D区 平成 26 年度調査区
 E・F区 平成 26・27 年度調査区

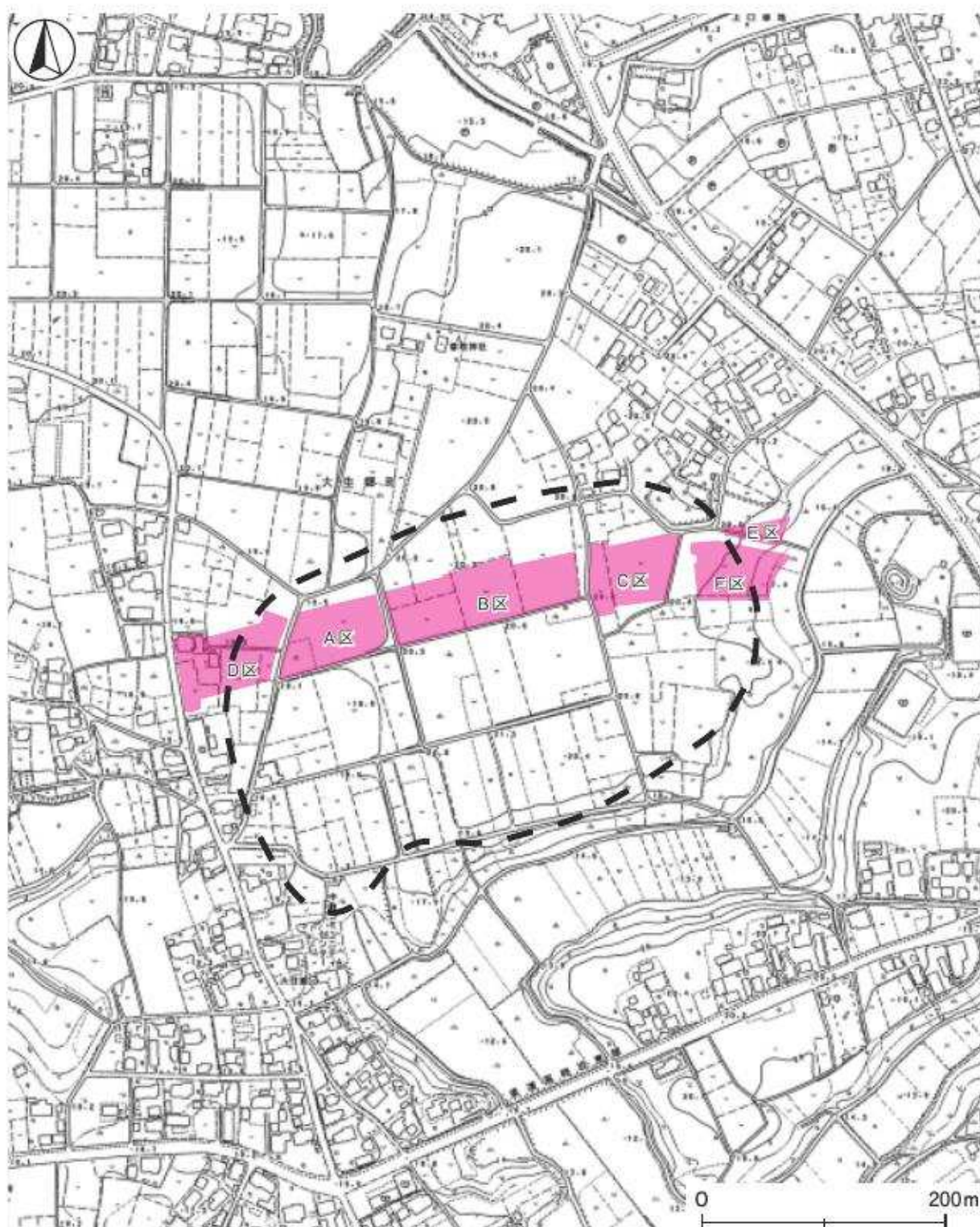


- 8 世紀前葉
- 8 世紀中葉
- 8 世紀後葉

- 9 世紀前葉
- 9 世紀中葉
- 9 世紀後葉



第 451 図 宮原前遺跡集落変遷図



第 452 図 宮原前遺跡範囲と地形図

以上のことから、奈良・平安時代の集落は、鬼怒川と飯沼川に挟まれた、標高 20 m ほどの台地上の集落の北端に位置し、東、西、南に比較的広い水田をもち、総柱建物の第 1 号掘立柱建物跡を中央にして、台地平坦部に住居を構え、端部に倉庫群を整えていたと特徴づけることができる。

3 特徴的な遺構について

前回報告分と合わせると、井戸跡は全部で10基確認された。その中で、調査区東端の標高17mほどの台地斜面部に位置している第10号井戸跡は、他の井戸跡と規模、形状や出土遺物に違いが認められる。確認面は径6.20mほどの円形で、断面形は漏斗状を呈している。そして漏斗の上半部と下半部の基部に平坦面を有し、そこに13か所のピットが巡っている。さらに、南東部には溝が掘られていて、台地東に入り込んでいる谷に向かって延びている。溝は井戸との位置関係から、排水のための掘り込みと考えられる。また、覆土中から、9世紀中葉に比定できる「ネ」と記された須恵器坏の墨書土器がほぼ完形で出土している。「祝」の一部と考えられることから、第10号井戸跡を中心に墨書土器を完形で投げ込む祭事が行われたと考えられる。同じような例が、つくば市島名熊の山遺跡の第204号井戸跡でも報告されている³⁾。

4 おわりに

宮原前遺跡は、第451図・452図からもわかるように、明らかにできたことは全体のごく一部にすぎない。しかし、標高20mの平坦面の範囲から、集落は南北に広がっていたことが想定される。

註

- 1) 齋藤和浩「宮原前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」【茨城県教育財団文化財調査報告】第335集 2011年3月
- 2) 清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」【茨城県教育財団文化財調査報告】第380集 2013年3月

付 章 1

築地遺跡出土石器・石製品の岩石肉眼鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

茨城県常総市の築地遺跡は、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地縁辺部に位置する。発掘調査によって縄文時代中期から晩期の集落跡および室町時代の遺構が確認されている。本分析調査では縄文時代の遺構内および包含層から出土した石器・石製品について岩石肉眼鑑定を実施し、利用された岩石の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

2 試料

鑑定の対象とした試料は、遺構内出土が 201 点、遺物包含層出土が 114 点の計 315 点である。

遺構内出土は、礫器 8 点、石皿類 26 点、石錘 27 点、磨石類 52 点、打製石斧 17 点、磨製石斧 41 点、砥石 4 点、独鈷石 1 点、石棒・石剣類 17 点、玉類 8 点の計 201 点、遺物包含層は、石鏃 2 点、石鏃未成品 1 点、尖頭器 1 点、礫器 10 点、石錘 21 点、磨石類 34 点、打製石斧 7 点、磨製石斧 18 点、砥石 1 点、独鈷石 2 点、線刻礫 1 点、石棒類 8 点、石剣 1 点、玉類 7 点、の計 114 点である。

器種別に見ると、石錘、磨石類、打製石斧、磨製石斧、石棒類が中心であり、それぞれ番号が付されている。各石器・石製品の詳細は岩石肉眼鑑定結果とともに、表 1 および表 2 に示す。

3 分析方法

岩石肉眼鑑定は野外用ルーペを用いて石製品表面の鉱物や組織の観察を行い、五十嵐（2006）の分類基準に基づき肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には岩石薄片作成観察、蛍光 X 線分析、X 線回折分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

4 分析結果

鑑定結果は各遺構の遺物観察表に示した。表 1 に遺構内出土の器種別石質組成を、表 2 に遺物包含層の器種別石質組成を示した。第四紀もしくは新第三紀としたものは、岩相から第四紀や新第三紀の地質由来と判断できるものを示している。

遺構内出土の石器・石製品は、深成岩類として角閃石黒雲母花崗岩 3 点、黒雲母花崗岩 5 点、閃緑岩 1 点、細粒はんれい岩 1 点、はんれい岩 1 点、半深成岩類として、閃緑斑岩 1 点、ドレライト 8 点、花崗斑岩 2 点、火山岩類として、流紋岩 2 点、角閃石デイサイト 1 点、角閃石デイサイト（第四紀）1 点、輝石デイサイト 2 点、輝石デイサイト（第四紀）1 点、輝石角閃石安山岩 1 点、輝石安山岩 13 点、輝石安山岩（新第三紀）8 点、輝石安山岩（第四紀）28 点、安山岩 8 点、安山岩（新第三紀）5 点、安山岩（第四紀）3 点、角閃石輝石

安山岩2点、角閃石輝石安山岩（第四紀）1点、多孔質安山岩（第四紀）2点、多孔質輝石安山岩（第四紀）3点、緻密質安山岩1点、緻密質輝石安山岩1点、無斑晶質安山岩2点、スコリア質安山岩1点、玄武岩2点、火山砕屑岩類として、結晶質凝灰岩2点、火山礫凝灰岩3点、凝灰岩（新第三紀）1点、凝灰質砂岩（新第三紀）1点、堆積岩類として、砂岩10点、砂岩（新第三紀）2点、砂質頁岩1点、頁岩8点、變成岩類として、堇青石ホルンフェルス1点、ホルンフェルス6点、千枚岩2点、砂質片岩1点、黒雲母片岩5点、角閃石片岩6点、緑色片岩8点、緑色片岩（三波川帯）1点、角閃岩4点、變質岩類として、輝緑岩2点、變質凝灰岩1点、緑色岩10点、蛇紋岩12点、風化蛇紋岩1点、鉱物として滑石1点、ネフライト1点、翡翠1点、に鑑定された。

遺物包含層の石器・石製品は、深成岩類として、はんれい岩4点、半深成岩類として、ドレライト3点、火山岩類として、流紋岩（新第三紀）1点、角閃石デイサイト1点、角閃石輝石デイサイト（第四紀）2点、輝石デイサイト2点、角閃石輝石安山岩2点、角閃石輝石安山岩（新第三紀）1点、角閃石輝石安山岩（第四紀）6点、無斑晶質安山岩（第四紀）2点、多孔質輝石安山岩（第四紀）1点、輝石安山岩5点、輝石安山岩（新第三紀）4点、輝石安山岩（第四紀）13点、安山岩6点、安山岩（第四紀）3点、火山砕屑岩類として、溶結凝灰岩3点、凝灰岩2点、堆積岩類として、砂岩6点、頁岩5点、泥質チャート1点、變成岩類として、堇青石ホルンフェルス1点、ホルンフェルス6点、粘板岩3点、千枚岩2点、泥質片岩1点、角閃石片岩2点、緑色粘板岩1点、緑色片岩7点、變質岩類として、緑色岩4点、輝緑岩3点、蛇紋岩7点、鉱物として、玉髓2点、滑石1点、翡翠1点、に鑑定された。

5 考察

築地遺跡周辺の地質について、日本の地質『関東地方』編集委員会編（1986）、須藤ほか（1991）、山元ほか（2000）、吉岡ほか（2001）に基づき述べる。築地遺跡が立地するのは鬼怒川右岸の台地縁部上であり、今回の出土した石器・石製品には、鬼怒川水系の地質に由来する礫が使用されていると考えられる。

鬼怒川流域には、白亜系～古第三紀、新第三紀、第四紀火山などの地質が分布している。上流域では、前期白亜紀-古第三紀にかけて活動した珪長質火砕岩類が分布する。後期白亜紀末から古第三紀前半の珪長質火成岩類は、中禅寺湖周辺から南東部の栃木県塩谷町周辺に分布する奥日光流紋岩類と各地に分布する花崗岩、花崗閃緑岩、花崗斑岩および花崗閃緑斑岩などの貫入岩からなる。奥日光流紋岩類は膨大な流紋岩-デイサイト溶結火砕流堆積物からなり、流紋岩溶岩、礫岩および砂岩を伴っている。このほか、花崗岩や花崗閃緑岩からなる沢入型花崗岩が分布している。足尾山地には中・古生層の年代を示す足尾帯が分布し、足尾帯を構成する地質は足尾層群であり、堅硬な頁岩、砂岩、チャートなどの堆積岩類を主要岩相とし、石灰岩や緑色岩類を伴う。また、花崗岩類の貫入によって泥岩を源岩とするホルンフェルスが生じている。

また、鬼怒川左岸に位置する筑波山周辺にはジュラ紀の砂岩、泥岩、チャートなどから構成される八溝層群、後期白亜紀-前期新第三紀の花崗岩、はんれい岩が分布する。花崗岩の貫入に伴って、八溝層群にホルンフェルスが生じている。

新第三紀の地質としては下部中新統が認められ、栃木県塩谷町周辺から宇都宮市周辺に分布する。珪長質の溶岩・火砕岩を主体とし、少量の玄武岩-安山岩火砕岩と非火山性の礫岩、砂岩および泥岩を伴っている。第四紀火山は、鬼怒川流域に女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群のほか、高原山が分布している。これらの火山は、玄武岩-安山岩-デイサイト溶岩・火砕岩を構成物としている。他方、群馬県下では、赤城火山や武尊山の活動が知られている。赤城火山は、輝石安山岩およびデイサイトからなり、武尊山は前期更

表1 遺構内出土石製品器種別石質組成

	礫器	石皿 類	石鉢	磨石 類	砥石	打製 石斧	磨製 石斧	燧石	石棒 類	玉類	玉	合計
深成岩類												
角閃石黒雲母花崗岩		2		1								3
黒雲母花崗岩		5										5
閃緑岩						1						1
細粒はんれい岩				1								1
はんれい岩						1						1
半深成岩類												
花崗斑岩							2					2
閃緑斑岩						1						1
ドレライト						1	7					8
火山岩類												
流紋岩				2								2
角閃石デイサイト		1										1
角閃石デイサイト(第四紀)				1								1
輝石デイサイト			1	1								2
輝石デイサイト(第四紀)			1									1
輝石角閃石安山岩							1					1
輝石安山岩		1	4	7		1						13
輝石安山岩(新第三紀)	1	1		3		2	1					8
輝石安山岩(第四紀)	2	4	3	18				1				28
安山岩	2		4	1		1						8
安山岩(新第三紀)	1		2			1	1					5
安山岩(第四紀)				2		1						3
角閃石輝石安山岩				1		1						2
角閃石輝石安山岩(第四紀)			1									1
多孔質安山岩(第四紀)				2								2
多孔質輝石安山岩(第四紀)				3								3
緻密質輝石安山岩	1											1
緻密質安山岩						1						1
無珪晶質安山岩(第四紀)						1						1
無珪晶質安山岩			1									1
スコリア質安山岩		1										1
玄武岩							2					2
火山砕屑岩類												
結晶質凝灰岩		2										2
火山礫凝灰岩	1	1		1								3
凝灰岩(新第三紀)				1								1
凝灰質砂岩(新第三紀)		1										1
堆積岩類												
砂岩			3	5	2							10
砂岩(新第三紀)		1			1							2
砂質頁岩			1									1
頁岩			2			2	4					8
変成岩類												
重晶石ホルンフェルス						1						1
ホルンフェルス				2		3	1					6
千枚岩									2			2
砂質片岩						1						1
黒雲母片岩		5										5
角閃石片岩							1		5			6
緑色片岩					1				7			8
緑色片岩(三渡川帯)									1			1
角閃岩							2		2			4
変質岩類												
輝緑岩				1			1					2
変質凝灰岩										1		1
緑色岩		1	3				5		1			10
風化蛇紋岩							1					1
蛇紋岩							9			3		12
鉱物												
滑石										1		1
キフライト											1	1
翡翠										1		1
合計	8	26	27	52	4	17	41	1	17	7	1	201

表2 遺物包含層出土石製品器種別石質組成

	石鏃	石鏃 未成 品	尖頭 器	礫器	打製 石斧	磨製 石斧	磨石 類	石錘	砥石	独結 石	線刻 礫	石 刺?	石棒 類	玉類	合計
深成岩類															
はんれい岩						1	1			2					4
半深成岩類															
ドレライト					1	1	1								3
火山岩類															
流紋岩(新第三紀)			1												1
角閃石ダイサイト							1								1
角閃石輝石ダイサイト(第四紀)							1	1							2
輝石ダイサイト								2							2
角閃石輝石安山岩					1		1								2
角閃石輝石安山岩(新第三紀)								1							1
角閃石輝石安山岩(第四紀)				1			4	1							6
無斑基質安山岩(第四紀)								1			1				2
多孔質輝石安山岩(第四紀)								1							1
輝石安山岩				2		1	1	1							5
輝石安山岩(新第三紀)						1	1	2							4
輝石安山岩(第四紀)				2			10	1							13
安山岩				3	1			2							6
安山岩(第四紀)							1	2							3
火山砕屑岩類															
溶結凝灰岩				2				1							3
凝灰岩								1	1						2
堆積岩類															
砂岩						1	3	1	1						6
頁岩	1				1		1	2							5
泥質チャート		1													1
変成岩類															
葉青石ホルンフェルス						1									1
ホルンフェルス					3		1	1					1		6
粘板岩					1	1	1								3
千枚岩								1	1						2
泥質片岩									1						1
角閃石片岩													1	1	2
緑色粘板岩													1		1
緑色片岩							1				1	4			6
緑色片岩(三波川帯)												1			1
変質岩類															
輝緑岩						2	1								3
緑色岩						4									4
蛇紋岩						4								3	7
鉱物															
玉類	1													1	2
滑石														1	1
翡翠														1	1
合計	2	1	1	10	7	18	34	21	1	2	1	1	8	7	114

新世の安山岩溶岩・火砕岩からなる。

上述の築地遺跡周辺の地質概要に基づき、本分析調査で鑑定された石材について述べる。

深成岩類の角閃石黒雲母花崗岩、黒雲母花崗岩、閃緑岩、はんれい岩は、石皿類、磨石類、磨製石斧などに使用されている。筑波山周辺に分布する筑波花崗岩、稲田花崗岩、はんれい岩類に由来すると考えられる。

半深成岩類の花崗斑岩、閃緑斑岩、ドレライトは、打製石斧、磨製石斧に使用されており、上記の深成岩類と同様の地質に由来すると考えられる。第45号竪穴建物跡Q1の磨製石斧に使用されている花崗斑岩は、奥日光流紋岩類を構成する珪長質火山岩類に由来する可能性が指摘される。

火山岩類の流紋岩は、奥日光流紋岩類に由来すると考えられるほか、新第三紀の地質に由来すると考えられる。ダイサイト、輝石安山岩を主体とする安山岩類は、礫器、石皿類、石錘、磨石類、打製石斧、磨製石斧などに使用されている。女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群のほか、高原山、赤城山などの第四紀火山の噴出物に由来するものと、新第三紀の地質に由来するものが混在している。新第三紀の地質に由来するものは、基質が緑色を帯びる。

無斑晶質安山岩、無斑晶緻密質安山岩は、森嶋ほか(2006)によれば、鬼怒川、姿川、田川などの栃木県下の河川の河床礫や露頭する礫層から発見されている。このような河床礫や礫層中の礫を利用した可能性が指摘できる。

火山砕屑岩類の凝灰岩類は、磔器、石皿類、石錘、磨石類などに使用されており、新第三紀の地質に由来するものと、奥日光流紋岩類に由来する堅硬緻密質のものが認められる。奥日光流紋岩類に由来する岩石は溶結組織を示し、石英や長石類の鉱物片に富み、基質は脱ガラス化している岩相を示す。

堆積岩類の砂岩、頁岩は、足尾層群や八溝層群に由来すると考えられる。新第三紀の岩相を示す砂岩類は、鬼怒川水系に分布する新第三系に由来すると考えられる。

変成岩類のホルンフェルス、粘板岩、黒雲母片岩、角閃石片岩、緑色片岩などは、石皿類、打製石斧、磨石類、石棒などに使用されている。粘板岩は、泥岩や頁岩の熱変成により生じている岩石で、足尾山地や八溝山地に分布する頁岩に伴って分布する岩石である。緑色片岩や黒雲母片岩は、茨城県高貫地域に分布する日立変成岩や、荒川上流域の埼玉県秩父郡長瀨に分布する三波川変成岩類に由来すると考えられる。角閃石片岩は、角閃石斑晶が定向配列を示す岩相を示し、茨城県高貫地域に分布する日立変成岩類に由来すると考えられる。

変質岩類の輝緑岩、緑色岩、蛇紋岩は、石錘、磨製石斧、玉類などに使用されている。輝緑岩は、ドレライトが変質して生じた岩石で、ドレライトと同様の産地が推定される。緑色岩は、軟質岩のため、下流域では礫として採取することは困難である。そのため、原産地の付近で採取され持ち込まれたと考えるのが自然である。埼玉県長瀨地区、茨城県常陸太田市に分布するため、これらの地域から搬入された可能性が高い。蛇紋岩は緑色を帯びており、蛇紋岩の源岩となるかんらん石の組織の残存が観察される。緑色岩と同様の産地が推定される。

鉱物の玉髄は石鏝に使用されている。一般的には花崗岩や流紋岩などの細脈や晶洞部に充填して生じる鉱物であり、産地の特定は困難である。ネフライト、滑石、ヒスイは、玉類や玉に使用されている。滑石は、蛇紋岩が変質して生じた岩石で、蛇紋岩の産地からの移入が推測される。本遺跡周辺の産地としては、埼玉県長瀨地区、茨城県常陸太田市が挙げられる。ネフライトは、アクチノ閃石・透閃石を主成分鉱物とする鉱物であり、緑色片岩などに伴って産するため、緑色片岩と同様の産地が推定される。翡翠は、新潟県糸魚川市姫川や青海川の流域に多産する。本遺跡周辺には分布しないため、これらの産地から本遺跡に持ち込まれたと判断できる。

引用文献

五十嵐俊雄, 2006, 考古資料の岩石学, バリノ・サーヴェイ株式会社, 194p

森嶋秀一・布川嘉英・竹下欣宏, 2006, 栃木県域における黒色安山岩の産地に関する諸問題, 栃木県立博物館研究紀要・人文-23, 29-52

日本の地質「関東地方」編集委員会編, 1986, 日本の地質3 関東地方, 共立出版株式会社, 335p

須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男, 1991, 20万分の1地質図幅「宇都宮」, 地質調査所

山元孝広・滝沢文教・高橋 浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久, 2000, 20万分の1地質図幅「日光」, 産業技術総合研究所地質調査総合研究センター

吉岡敏和・滝沢文教・高橋雅紀・宮崎一博・坂野靖行・柳沢幸夫・高橋 浩・久保和也・関 陽児・駒澤正夫・広島俊男, 2001, 20万分の1地質図幅「水戸」, 産業技術総合研究所地質調査総合研究センター

図版1 岩石



1. SI004 Q3 磨製石斧 ドレライト



2. SI006 Q6 磨製石斧 蛇紋岩



3. SI005 Q4 打製石斧 ホルンフェルス



4. C6d8 3 石棒類 角閃石片岩



5. SI004 Q2 磨製石斧 蛇紋岩



6. SI047 Q5 玉類 翡翠

付 章 2

築地遺跡出土黒曜石の産地同定

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

常総市大輪町字築地に所在する築地遺跡から出土した縄文時代後期～晩期の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2 試料と方法

築地遺跡内で黒曜石製の素材・製品の出土は少なく、遺構内出土の製品類は10数点程度である。そのうち、確実に出土位置や時期が把握できる石器を中心に、分析対象試料が選択された。また、石核や剥片も少なく、分析には時期の明らかなもの、見た目で含有物に違いがありそうなものが選択された。分析対象試料は、黒曜石製の石鏃6点、加工痕のある剥片1点、石核5点の、計12点である(表1)。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検



第1図 黒曜石産地分布図(東日本)

表1 分析対象となる黒曜石製石器

分析No.	出土遺構	物敷番号	器種	法量 (mm, g)				時 期	備考
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	S I 31 2区1x	Q 3	石鏃	16.7	12.9	3.6	0.7	縄文時代後期初頃～前葉/後期中葉～後葉	2軒重複
2	S I 36	Q 1	石鏃	20.6	13.0	5.1	1.3	縄文時代後期後葉安行1式	
3	S I 41 1区2x	Q 11	石鏃	18.1	13.9	4.1	0.6	縄文時代後期後葉磐谷～安行1式	
4	S K 55	Q 1	石鏃	14.9	16.4	4.6	0.8	縄文時代後期前葉～中葉	詳細不明
5	S K 57 x 4	Q 1	石鏃	11.8	21.6	5.4	1.2	縄文時代後期中葉～後葉	
6	S I 6	Q 1	石鏃	17.0	14.0	3.0	0.7	縄文時代後期後葉安行2式	
7	H G 2	Q 19	加工痕のある剥片	44.9	20.5	17.3	13.4	縄文時代後期後葉～晩期前葉主体	
8	S I 4	掲載外	石核	22.1	18.5	13.5	7.5	縄文時代後期前葉～中葉安行3b～3c式	
9	S K 2 x	掲載外	石核	36.5	26.5	18.5	17.7	縄文時代後期後葉安行1式	
10	S I 41	掲載外	石核	29.5	22.0	21.5	17.6	縄文時代後期後葉磐谷～安行1式	
11	S I 41 2x	掲載外	石核	18.5	41.5	14.0	17.6	縄文時代後期後葉磐谷～安行1式	
12	S I 20 2区2x	掲載外	石核	21.0	29.5	18.5	13.4	縄文時代後期後葉磐谷～安行1式	

出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径 8 mm、電圧 50kV、電流 1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光 X 線分析による X 線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999 など)。本方法では、まず各試料を蛍光 X 線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps : count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb 分率 = $Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) Sr 分率 = $Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

次に、これらの指標値を用いた 2 つの判別図(横軸 Rb 分率 - 縦軸 Mn 強度 \times 100 / Fe 強度の判別図と横軸 Sr 分率 - 縦軸 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合は、 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を削って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表 2 に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図 1 に各原石の採取地の分布図を示す。

3 分析結果

表 3 に石器の測定値および算出した指標値を、図 2 と図 3 には黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、3 点が甘湯沢群(栃木県、高原山エリア)、1 点が西餅屋群と鷹山群と小深沢群の重複域(ともに長野県、和田エリア)、3 点が星ヶ台群(長野県、諏訪エリア)、4 点が恩馳島群(東京都、神津島エリア)の範囲にプロットされた。分析 No.10 は、図 2 では甘湯沢群の範囲にプロットされ、図 3 では甘湯沢群の下方にあたる位置にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月,

表 2 東日本黒曜石産地の判別群

産地	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白糠	白糠 1	赤石山山頂 (43)、八号沢遺跡 (15)	
		白糠 2	7 の沢川支流 (2)、坂原遺跡 (59)、土舞石沢遺跡、下河床 (11)、アツサイの滝遺跡 (10)	
	赤井川	赤井川	山崎・土木川 (24)	
	土土崎	土土崎	土舞三敷 (4)、タツシヨベツ川右岸 (42)、タツシヨベツ川左岸 (10)、十三ノ沢 (20)	
	釧路	釧路山	釧路山 (5)	
		西山	西山 (3)	
	豊浦	豊浦	豊浦 (10)	
	旭川	旭川	友文台 (8)、赤新台 (4)	
	名寄	名寄	忍野谷川 (11)	
	秋田	秋田	秋田 1	中山 (6)
			秋田 2	
			秋田 3	
	雄勝	雄勝	社名遺川河床 (2)	
	牛田	牛田	牛田谷川河床 (10)	
	新潟	新潟 1	ケンマツツ川河床 (8)	
		新潟 2		
	新潟	新潟	鏡路市宮ノキ一帯 (8)、河原川右岸 (2)、河原川左岸 (6)	
	青森	木造	木造	高森島海岸 (15)、鶴ヶ枝 (10)
		深淵	八森山	四崎 (2)、八森山公園 (8)
		青森	青森	大田内川 (6)
秋田		男界	星ヶ台 (20)、星ヶ台遺跡 (2)	
岩手	北上川	北上川 1	北上川 (6)、森城 (2)	
		北上川 2		
		北上川 3		
宮城	宮城	湯ノ新	湯ノ新 (10)	
	色麻	色麻	色麻 (8)	
	仙台	仙台 1	土蔵 (1)	
		仙台 2		
	塩竈	塩竈	塩竈 (3)	
山形	山形	月山	月山遺跡 (2)、大蔵沢 (10)	
	鶴川	鶴川	たらのき代 (19)	
新潟	新潟	飯山	飯山遺跡 (10)	
	新潟	金津	金津 (7)	
新潟	高原山	甘湯沢	甘湯沢 (2)	
	七尋沢	七尋沢 (3)、宮川 (3)、長持沢 (2)		
長野	和田	西餅屋	西餅屋 (1)、西餅屋 (2)	
		鷹山	鷹山 (1)、鷹山 (2)	
		小深沢	小深沢 (2)	
		土屋橋 1	土屋橋 (1)	
		土屋橋 2	土屋橋 (1)	
		古野	古野 (1)	
		アツサイ	アツサイ (2)	
		秋ヶ沢	秋ヶ沢 (2)	
		高松沢	高松沢 (1)	
		諏訪	星ヶ台	星ヶ台 (20)、星ヶ台 (2)
		妙高	妙高	妙高 (2)、妙高 (2)、美草峠 (2)
		神奈川	神津島	神津島
神津島	神津島 (2)			
静岡	大城	大城	大城 (2)	
		大城	大城 (2)	
東京	神津島	神津島	神津島 (2)	
		神津島	神津島 (2)	
高松	高松	高松	高松 (2)	
		高松	高松 (2)	

表3 測定値および産地推定結果

分析 No.	K 濃度	Mn 濃度	Fe 濃度	Rb 濃度	Sr 濃度	Y 濃度	Zr 濃度	Rb 比率	Mn/100	Sr 比率	log K	判別群	エリア	分析 No.
	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm		ppm					
1	289.1	114.4	1163.7	757.7	287.7	374.7	734.7	35.10	10.34	13.37	0.58	豊+台	諏訪	1
2	271.7	119.3	1498.1	392.6	484.3	397.2	761.7	35.18	7.96	24.89	0.74	豊島	神津島	2
3	137.4	82.4	1061.7	252.3	339.4	193.7	518.4	19.67	7.77	27.14	0.83	豊島	神津島	3
4	294.7	117.9	1125.3	725.9	273.7	362.8	694.4	35.28	10.47	13.30	0.58	豊+台	諏訪	4
5	161.8	80.8	1023.4	271.4	339.6	210.7	529.4	20.22	7.89	24.64	0.79	豊島	神津島	5
6	165.3	53.0	448.5	303.1	30.3	207.1	262.1	50.17	11.82	3.04	0.63	西尾尾 or 鷹山 or 小磯沢	和田	6
7	233.2	121.1	1515.9	383.8	495.3	308.4	772.6	19.58	7.99	25.27	0.81	豊島	神津島	7
8	210.6	110.8	3612.8	524.4	620.8	400.9	1265.2	18.65	3.07	22.08	1.23	甘湯沢	高原山	8
9	179.9	72.1	659.7	456.7	181.7	242.8	470.3	33.79	10.93	13.44	0.56	豊+台	諏訪	9
10	427.3	166.1	3282.2	613.6	685.0	417.8	1373.8	19.41	3.25	22.02	0.88	甘湯沢?	高原山?	10
11	154.5	71.8	2129.5	401.4	499.5	311.9	931.1	18.72	3.37	21.30	1.14	甘湯沢	高原山	11
12	289.1	113.5	3570.0	610.0	712.9	456.1	1415.8	19.89	3.19	22.31	1.16	甘湯沢	高原山	12

1999), 甘湯沢群である可能性が高い。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

表4に器種別の、表5に時期および器種別の黒曜石の産地を示す。

今回選択した石器では、石核は、高原山産が5点中4点を占め、残り1点は諏訪産であった。一方、石鎌は6点のうち神津島産が3点、諏訪産が2点、和田産が1点であった。加工痕のある剥片1点は、神津島産であった。

4 おわりに

築地遺跡より出土した縄文時代後期～晩期の黒曜石製石器12点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、4点が高原山エリア、1点が和田エリア、3点が諏訪エリア、4点が神津島エリア産の黒曜石と推定された。

表4 器種別の黒曜石産地

器種	高原山	和田	諏訪	神津島	計
石鎌		1	2	3	6
加工痕のある剥片				1	1
石核	4		1		5
計	4	1	3	4	12

表5 時期・器種別の黒曜石産地

時期	器種	高原山	和田	諏訪	神津島	計
後期前葉 /後期中葉～後葉	石鎌			1		1
	小計	0	0	1	0	1
後期前葉 管谷式	石鎌				1	1
	小計	0	0	0	1	1
後期前葉 管谷～安行1式	石鎌				1	1
	石核	3				3
	小計	3	0	0	1	4
後期前葉 安行1式	石鎌				1	1
	小計	0	0	1	1	2
後期前葉 安行2式	石鎌		1			1
	小計	0	1	0	0	1
後期前葉～ 晩期前葉主体	加工痕のある剥片				1	1
	小計	0	0	0	1	1
晩期前葉～中葉 安行3a～3c式	石核	1				1
	小計	1	0	0	0	1
不明	石鎌			1		1
	小計	0	0	1	0	1
計		4	1	3	4	12

引用文献

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2-上和田城山遺跡篇一」: 172-179, 大和市教育委員会

付 章 3

築地遺跡出土アスファルト付着礫塊

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地 754-1 ほかに所在する縄文時代と室町時代の遺跡である。遺跡は、常総市の中央部、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地縁辺部に立地する。調査では、黒色物が付着した礫の集合塊が出土し、この黒色付着物がアスファルトである可能性が考えられた。ここでは、この黒色付着物の材質について検討した。

2 試料と方法

分析試料は、礫塊に付着した黒色物 1 点である (表 1、図版 1)。分析は、赤外分光分析とアスファルトを判定するクロロホルム溶融試験を行った。

分析No	試料	調査区	遺構名	層位	時期	特徴	備考
1	礫塊の黒色付着物	C 6e5 区	第 2 号遺物包含層	2 x (第 1 層)	後期後半～ 晩期前半	光沢のない黒色 断面光沢あり	砂粒物含む 破 重量 53.36 g

試料は、礫表面に付着する黒色物から手術用メスを用いて小片を採取した。小片の一部を厚さ 1 mm 程度に裁断した臭化カリウム (KBr) 結晶板に押しつぶし、油圧プレス器を用いて約 7 トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計 (日本分光 (株) 製 FT/IR-410, IRT-30-16) を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定し、天然アスファルトの吸収スペクトルと比較した。

クロロホルム溶融試験 (高妻ほか, 2011) は、クロロホルム (chloroform: 純正一級, 純正化学株式会社製, CHCl₃) を用いた。方法は、採取した小片を蒸発皿に入れ、クロロホルム試薬を数滴加え、30 分程度放置した。

3 結果及び考察

以下に、クロロホルム溶融試験と赤外分光分析の結果について述べる。赤外吸収スペクトル図 (図版 1-4) は、縦軸が透過率 (%R)、横軸が波数 (Wavenumber (cm⁻¹); カイザー) を示す。なお、スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は天然アスファルトの主な赤外吸収位置 (表 2) を示す。

[分析 No. 1 (礫塊の黒色付着物)]

黒色物は、礫塊のほぼ全体に付着し砂粒物を含む。表面は光沢がないが、破断面には光沢がある。構成する礫は、最大 17mm 程度の亜角礫～亜円礫である (図版 1-1a～2b)。

表 1 天然アスファルトの赤外吸収位置とその強度

吸収No.	天然アスファルト (新潟市鎌倉新田)		
	位置	強度	成分
1	3428.81	95.216	OH 基
2	3046.98	93.274	
3	2950.55	78.901	メチル基 (CH ₃) または メチレン基 (CH ₂)
4	2923.56	74.875	
5	2863.77	84.925	
6	1691.27	97.445	カルボニル基 (C=O)
7	1602.56	89.497	
8	1452.14	82.347	δ CH ₂ 基
9	1376.93	88.265	δ sCH ₃ 基
10	1033.66	96.933	S=O 基または C-O 基
11	873.60	94.069	芳香族または多核芳香 族の δ CH
12	811.88	94.382	
13	748.25	92.843	

小片のクロロホルム溶融試験では、クロロホルムを滴下した瞬間に溶融した（図版1-3a・3b）。

赤外分光分析では、ヒドロキシル基（OH；吸収No. 1）やメチル基またはメチレン基（CH₃またはCH₂；吸収No. 2～4）の吸収が確認された。また、カルボニル基（吸収No. 6）、 δ CH₂基（吸収No. 8）や δ sCH₃基（吸収No. 9）などの天然アスファルトを特徴づける吸収が確認された。なお、芳香族または多核芳香族の δ CH（吸収No.11～13）の吸収は明瞭ではなかった（図版-4）。

以上のクロロホルム溶融試験と赤外分光分析の結果から、この黒色付着物はアスファルトと同定される。このアスファルトは、礫間を埋めて接着剤として礫塊を形成していると考えられる。

引用文献

高妻洋成・赤田昌倫・本多貴之「漆関連遺物の調査」『漆下遺跡 第4分冊 自然科学分析・まとめ編』pp112-120 秋田県教育委員会 2011年

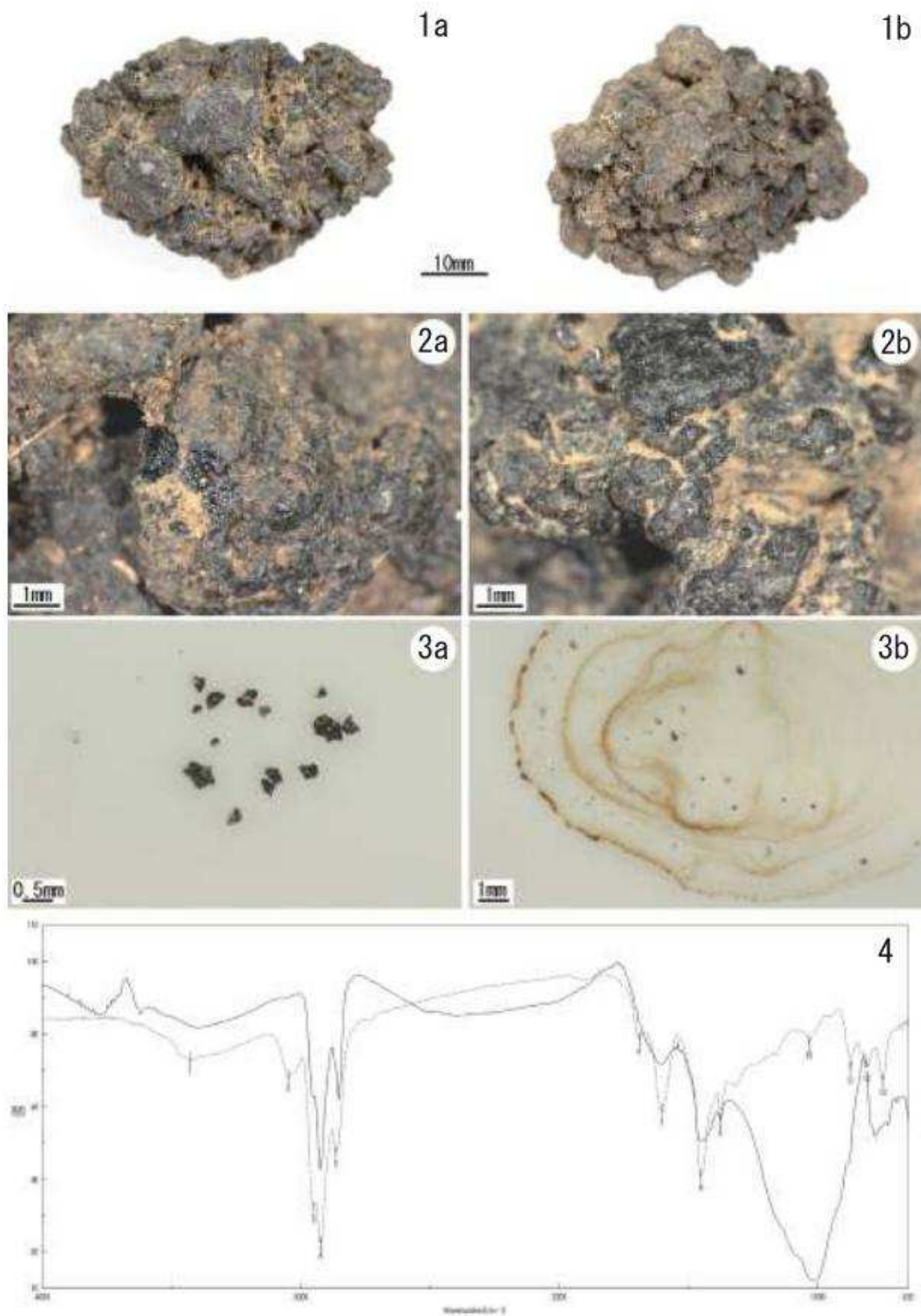


図1 黒色付着礫塊とクロロホルム溶融試験および赤外分光スペクトル図

1a・1b. 黒色付着礫塊 2a・2b. 同拡大写真 3a・3b. クロロホルム溶融試験の前後 4. 赤外分光スペクトル図 (実線: 黒色付着物, 点線と数字: 天然アスファルトとその吸収位置)

付 章 4

築地遺跡出土土器の胎土分析

藤根 久 米田恭子 (パレオ・ラボ)

1 はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われることが多い。しかし例えば胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、その砂粒物が示す地域がいずれであるかを推定するのは容易ではない。

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村, 2001)。また、粘土自体に珪藻化石やプラント・オパール、放散虫化石が混在している場合があり、材料として使用した粘土が生成された時の環境を示す。

一方、混和材としての砂粒物は、このような粘土層からの粘土採取の際に、粘土層の上下層や周辺に分布する砂層などから採取したと予想される。東海地域では、弥生時代後期の赤彩されたパレススタイル土器が知られているが、パレススタイル土器のうち3分の1程度は、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている(藤根, 1998; 車崎ほか, 1996)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について、微化石やテフラなどの鉱物を含めての検討が必要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴について調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地 754-1 ほかにも所在する、縄文時代および室町時代の遺跡である。遺跡は、常総市の中央部、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地縁辺部に立地する。発掘調査では、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、粘土採掘坑、土坑などが検出された。ここでは、縄文時代後晩期の深鉢や壺、製塩土器について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成等の特徴を調べ、土器の胎土材料について検討した。

2 試料と方法

試料は、築地遺跡から出土した深鉢 8 点、浅鉢 1 点、壺 4 点、注口 1 点、製塩土器 2 点、粘土塊 1 点の、合計 17 点である(表 1)。

試料は、薄片を作るために、まず岩石カッターを用いて整形し、恒温乾燥機により乾燥させた。次に、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行い、スライドガラスに接着した。薄片作製面は、平滑にしてエポキシ系樹脂で固化処理を行い、精密岩石薄片作製機およびガラス板を用いて研磨した。その後、厚さ 0.1mm 程度に切断した後、さらに研磨して、厚さ 0.02mm 前後の薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれる微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など)、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について、観察と記載を行った。なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

〔放散虫化石〕放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムま

表1 築地遺跡の土器試料とその詳細

分析№	出土地点	種類/器種	土器型式	備考	薄片作製時の切断面の特徴
1	HG2-1515	深鉢	竇付土器第3段階		にぶい黄褐色 (10YR 5/4)
2	HG2-178	壺	竇付土器第3段階	第2段階の可能性あり	黄褐色 (10YR 5/6)
3	HG2-379	深鉢	竇付土器第4段階		黒色 (10YR 1.7/1)
4	HG2-1511/1516	深鉢	竇付土器第4段階	晩期初期の可能性あり	褐色 (10YR 4/6)
5	HG2-1356	壺	大河B 2式	安行 3a 式の様相が見られる	黄褐色 (10YR 5/6)
6	HG2-54	壺	大河B C 式		黒褐色 (10YR 2/2)
7	HG2-1151	壺	大河B 2 式	安行 3a 式の様相が見られる	黒褐色 (10YR 2/2)
8	HG2-381	浅鉢	大河C 1 式	安行 3a 式の様相が見られる	黒色 (10YR 2/1)
9	HG2-1516	注口	安行 2 式		にぶい黄褐色 (10YR 5/4)
10	HG2-57	深鉢	焼山Ⅱ式		褐色 (10YR 4/4)
11	HG2-1827	深鉢	安行 3 c 式		黒褐色 (2.5Y 3/2) ~ 黄褐色 (2.5Y 5/6)
12	HG2-1511/1516	深鉢	粗製 付点粗線文系		明褐色 (7.5Y 5/6)
13	HG2-1397	深鉢	粗製 粗線文系		黄褐色 (10YR 5/8)
14	HG2-1125	深鉢	粗製 条線文系		黄褐色 (10YR 5/8)
15	S16-23	製塩 深鉢		安行 2 式期の住居跡から出土	明褐色 (7.5Y 4/6)
16	S16-163	製塩 深鉢		安行 2 式期の住居跡から出土	黒色 (10YR 1.7/1) ~ 黄褐色 (10YR 4/6)
17	粘土採掘坑	粘土塊		遺跡内の粘土採掘坑から採取した粘土塊	明褐色 (10YR 5/6)、部分的に赤色

たは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

〔珪藻化石〕珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉(1988)や安藤(1990)は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石(海水種、淡水種)を分類した。

〔骨針化石〕海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

〔植物珪酸体化石〕主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50 μm 前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

〔孢子化石〕孢子は、直径約10～30 μm 程度の珪酸質の球状粒子である。孢子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

〔石英・長石類〕石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

〔長石類〕長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

〔雲母類〕一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

〔輝石類〕主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホル

ンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

〔角閃石類〕主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

〔ガラス質〕透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル・ウォール型；記載ではバブル型と略す）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

〔片理複合石英類〕石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩などと考えられる。

〔砂岩質・泥岩質〕石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

〔複合石英類〕複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01mm未満の粒子を微細、0.01～0.05mmの粒子を小型、0.05～0.10mmの粒子を中型、0.10mm以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

〔斑晶質・完晶質〕斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において結晶度が高い岩石片である。

〔流紋岩質〕石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり主に流理構造を示す岩石である。

〔凝灰岩質〕ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

〔不明粒子〕下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3 結果および考察

以下に、土器薄片の偏光顕微鏡観察による結果を述べる。粒子組成は、微化石類や岩石片、鉱物を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1mm前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表2における不等号は、量比の概略を示す。また、表3の記号は、●は極めて多い、◎は非常に多い、○は多い、△は検出、空欄は未検出を示す。

3.1. 微化石類による粘土材料の分類

土器薄片の全面を観察した結果、微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石）が検出された。微化石類の大きさは、放散虫化石が数100 μ m、珪藻化石が10～数100 μ m、骨針化石が10～100 μ m前後である（植物珪酸体化石は10～50 μ m前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μ m以下、シルトが約3.9～625 μ m、砂が625 μ m～2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土材料中に含まれていたと考えられ、植物珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源（粘土層の堆積環境）を知るのに有効な指標になると思われる。植物珪酸体化石については、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類の

ように粘土の起源を必ずしも指標しないと思われる。

今回の試料の土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 海成粘土、b) 淡水成粘土、c) 水成粘土、d) その他粘土、の4種類に分類された(表3)。海水種珪藻化石と淡水種珪藻化石の両方が含まれている場合は、淡水種を優先した。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

a) 海成粘土(注口1試料)

この土器胎土中には、放散虫化石が含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部である骨針化石も多く含まれていた。

b) 淡水成粘土(深鉢2試料、浅鉢1試料、壺2試料)

これらの土器胎土中には、淡水種の珪藻化石が特徴的に含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部

表2 胎土中の微化石と砂粒物の特徴

No.	種類/器種	粒度	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒物成分・鉱物組成
1	深鉢	120 μm - 600 μm	1.04mm	骨針化石(1)、植物性微体化石、胞子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、複合石英類(小型)、斜長石(双晶・集帯)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、珩晶質、凝灰岩質、珩晶質、複合石英類(大型)、斜方輝石、ジルコン、火山ガラス(バブル型)、流紋岩質
2	壺	170 μm - 700 μm	1.19mm	骨針化石(2)、植物性微体化石、胞子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)珩晶質、凝灰岩質、複合石英類(大型)、流紋岩質、角閃石類
3	深鉢	200 μm - 570 μm	1.42mm	珪藻化石(淡水種 <i>Melosira undulata</i> , <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、流紋岩質、複合石英類(中型)、複合石英類(大型)カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶・集帯)、複合石英類(小型)、角閃石類、珩晶質、完晶質、砂岩質、雲母類、ジルコン
4	深鉢	120 μm - 430 μm	0.96mm	植物性微体化石、植物細胞片	石英・長石類、複合石英類(微細)凝灰岩質、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(中型)、流紋岩質、珩晶質、角閃石類、複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型)、斜方輝石、ジルコン、単斜輝石、雲母類
5	壺	130 μm - 460 μm	0.67mm	植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、凝灰岩質、複合石英類(大型)、複合石英類(中型)、流紋岩質、斜方輝石、角閃石類、ジルコン、火山ガラス(バブル型)
6	壺	150 μm - 550 μm	0.88mm	珪藻化石(近次海地付着生形態種群 <i>Emotia prostrata</i> , <i>s. hiberna</i> , 淡水種 <i>Pinnularia</i> 属多産, <i>Emotia</i> 属, <i>Cybelia</i> 属, <i>Diploneis</i> 属, <i>Aulacoseira</i> 属、不明種多産)、骨針化石(3)、植物性微体化石多)、(コシ属)、胞子化石多)、植物細胞片	複合石英類(微細)石英・長石類、珩晶質、完晶質、カリ長石(パーサイト)、流紋岩質、凝灰岩質、複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型)、角閃石類、斜方輝石、雲母類
7	壺	180 μm - 630 μm	1.05mm	珪藻化石(淡水種 <i>Pinnularia</i> 属)、骨針化石(1)、植物性微体化石、胞子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)凝灰岩質、斜長石(双晶・集帯)、複合石英類(大型)、複合石英類(小型)、珩晶質、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、角閃石類、火山ガラス(バブル型)、流紋岩質、雲母類
8	浅鉢	180 μm - 720 μm	1.73mm	珪藻化石(淡水種 <i>Cocconeis</i> 属、 <i>Thalassiosira</i> 属、淡水種 <i>Pinnularia</i> 属, <i>Cybelia</i> 属, <i>Diploneis</i> 属, <i>Emotia</i> 属、不明種)、骨針化石(5)、植物性微体化石、胞子化石、植物細胞片	石英・長石類、火山ガラス(バブル型)複合石英類(微細)珩晶質、完晶質、複合石英類(大型)、凝灰岩質、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、流紋岩質、砂岩質、ジルコン
9	注口	180 μm - 420 μm	1.14mm	放散虫化石、骨針化石(16)、植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、角閃石類、斜長石(双晶・集帯)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(大型)、凝灰岩質、珩晶質、雲母類、斜方輝石、ジルコン
10	深鉢	130 μm - 330 μm	0.67mm	植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(中型)、凝灰岩質、斜方輝石、角閃石類、複合石英類(大型)、単斜輝石、ジルコン、雲母類
11	深鉢	250 μm - 550 μm	1.19mm	珪藻化石(淡水種 <i>Epithemia sinuata</i>)、骨針化石(11)、植物性微体化石、植物細胞片多)	石英・長石類、斜長石(双晶・集帯)、角閃石類、複合石英類(微細)凝灰岩質、カリ長石(パーサイト)、珩晶質、完晶質、斜方輝石、流紋岩質、複合石英類(大型)、単斜輝石、ジルコン
12	深鉢	160 μm - 520 μm	0.74mm	骨針化石(1)、植物性微体化石、胞子化石	石英・長石類、斜長石(双晶・集帯)、複合石英類(微細)カリ長石(パーサイト)、角閃石類、流紋岩質、複合石英類(大型)、珩晶質、凝灰岩質、斜方輝石、ジルコン
13	深鉢	250 μm - 850 μm	1.19mm	植物性微体化石、胞子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、流紋岩質、珩晶質、複合石英類(小型)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、複合石英類(大型)、斜長石(双晶)、凝灰岩質、斜方輝石、片理複合石英類、ジルコン、雲母類
14	深鉢	220 μm - 700 μm	1.13mm	骨針化石(6)、植物性微体化石、胞子化石多)	石英・長石類、複合石英類(微細)珩晶質、斜長石(双晶)、凝灰岩質、流紋岩質、複合石英類(大型)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、斜方輝石、雲母類、ジルコン
15	製塩土器 深鉢	120 μm - 600 μm	0.85mm	珪藻化石(製塩土器付着土に伴う <i>Rhopalodia musculus</i> 著集)、骨針化石(3)、植物性微体化石、胞子化石、植物細胞片	石英・長石類、複合石英類(微細)、複合石英類(小型)、カリ長石(パーサイト)斜長石(双晶・集帯)、角閃石類、複合石英類(中型)、珩晶質、凝灰岩質、完晶質、複合石英類(大型)、ジルコン、火山ガラス(バブル型)、斜方輝石
16	製塩土器 深鉢	120 μm - 400 μm	0.82mm	骨針化石(2)、植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、複合石英類(中型)、凝灰岩質、複合石英類(大型)、斜方輝石、片理複合石英類
17	粘土塊	170 μm - 480 μm	1.39mm	植物性微体化石	石英・長石類、複合石英類(微細)カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(小型)、複合石英類(中型)、流紋岩質、複合石英類(大型)斜方輝石、角閃石類、凝灰岩質、ジルコン、雲母類

である骨針化石も含まれていた。特に、分析 No. 6 の壺や分析 No. 8 の浅鉢には、多くの淡水種珪藻化石が含まれ、分析 No. 6 の壺の粘土材料は、沼沢湿地成粘土と推定される。

c) 水成粘土 (深鉢3試料, 壺1試料, 製塩土器2試料)

これらの土器胎土中には、海綿動物の骨格の一部である骨針化石あるいは不明種珪藻化石が僅かに含まれていた。なお、分析 No.15 の製塩土器胎土中の隙間には、製塩土器附着土中に見られるような完形殻 *Rhopalodia musculus* が密集して検出された。

d) その他粘土 (深鉢3点, 壺1点, 粘土塊1点)

これらの土器胎土中には、水成環境を指標する微化石類が含まれていなかった。

表3 土器胎土中の粘土および砂粒組成の特徴

分析 No.	種類/器種	粘土の特徴						砂粒の特徴							鉱物の特徴						植物珪酸体化石	その他の特徴			
		分類	放射虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明種珪藻化石	骨針化石	分類	A/a	B/b	C/c	D/d	E/e	F/f	G/g	石英	斜長石 (双晶・雲母)	カリ長石 (ペーサイト)	ジルコン	角閃石類			輝石類	雲母類	
									片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ										
1	深鉢	水成	-	-	-	△	△	Df	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	-	○		
2	壺	水成	-	-	-	△	△	Df	-	△	○	○	△	○	-	○	△	△	-	△	-	-	○		
3	深鉢	淡水成	-	-	△	△	-	Fc	-	△	○	△	△	○	-	○	△	△	△	△	-	△	△		
4	深鉢	その他	-	-	-	-	-	Fd	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	○	△	△		
5	壺	その他	-	-	-	-	-	Fc	-	△	○	-	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
6	壺	淡水成	-	-	◎	●	△	◎	Fd	-	△	○	○	△	○	△	○	△	△	-	△	△	△	◎	ヨシ属の植物珪酸体が多い
7	壺	淡水成	-	-	△	-	△	Fc	-	△	○	△	△	○	△	◎	△	△	-	△	△	△	○		
8	浅鉢	淡水成	-	△	○	○	△	Fd	-	△	○	△	△	○	◎	◎	△	△	△	△	△	△	○		
9	注口	海成	△	-	-	-	○	-	Ce	-	△	○	△	○	-	-	◎	○	○	△	○	△	△		
10	深鉢	その他	-	-	-	-	-	Ce	-	△	○	-	○	-	-	○	△	△	△	○	△	△	△	△	砂粒組成は%に異なる
11	深鉢	淡水成	-	-	△	-	△	Df	-	△	○	○	△	○	-	○	○	△	△	○	△	-	△		
12	深鉢	水成	-	-	-	-	△	Cf	-	△	○	△	△	○	-	○	◎	△	△	△	△	-	○		
13	深鉢	その他	-	-	-	-	-	Cf	△	△	○	△	△	○	-	○	△	△	△	△	○	△	△		
14	深鉢	水成	-	-	-	-	△	◎	Cf	△	△	○	△	△	○	-	○	△	△	△	△	△	△		
15	製塩 深鉢	水成	-	-	(△)	-	△	△	Cf	-	△	○	△	△	○	△	○	△	△	△	△	-	△	赤色微細粒子 (鉄酸鉱) が密に入る	
16	製塩 深鉢	水成	-	-	-	-	△	-	Cf	-	△	○	-	△	○	-	◎	○	○	△	△	△	-	○	赤色・褐色粒子 (褐鉄鉱) が多い
17	粘土塊	その他	-	-	-	-	-	Cf	-	△	○	-	△	○	-	○	△	○	△	△	△	△	△		

3.2. 砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成される鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。したがって、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を構成する鉱物は粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には、深成岩類の推定が困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒と鉱物群の特徴により、起源岩石の推定を行った (表3)。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類 (A/a)、複合石英類 (大型) が深成岩類 (B/b)、複合石英類 (微細) などが堆積岩類 (C/c)、斑晶質・完晶質が火山岩類 (D/d)、凝灰岩質や結晶度の低い火山岩が凝灰岩類 (E/e)、流紋岩質が流紋岩類 (F/f)、ガラス質がテフラ (G/g) である。

今回の試料の土器胎土中の砂粒組成は、表4の組み合わせに従って、Ce群、Cf群およびFc群、Df群お

よびFd群の、大きく3群に分類された。ただし、Fc群とCf群は同じ組成として扱った。以下に、分類された3群の砂粒物の特徴について述べる。

1) 主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCe群(深鉢1試料, 注口1試料)

これらの胎土中には、複合石英類(微細)や砂岩質などの堆積岩類、凝灰岩類が特徴的に含まれていた。深成岩類を含むが、流紋岩類は含まれていなかった。

2) 主に堆積岩類と流紋岩類からなるCf群およびFc群(深鉢4試料, 壺2試料, 製塩土器2試料, 粘土塊1試料)

これらの胎土中には、複合石英類(微細)や砂岩質などの堆積岩類、流紋岩類が含まれていた。その他には、深成岩類が含まれ、火山岩類を含む胎土もあった。

3) 主に火山岩類と流紋岩類からなるDf群およびFd群(深鉢3試料, 浅鉢1試料, 壺2試料)

これらの胎土中には、斑晶質や完晶質の火山岩類、流紋岩類からなる。なお、その他、深成岩類、堆積岩類、凝灰岩類を含む。

3.3. 土器胎土の材料の特徴

土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 海成粘土(1試料)、b) 淡水成粘土(5試料)、c) 水成粘土(6試料)、d) その他粘土(5試料)、の4種類に分類された。また、土器胎土中の砂粒組成は、1) 主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCe群(2試料)、主に堆積岩類と流紋岩類からなるCf群およびFc群(9試料)、3) 主に火山岩類と流紋岩類からなるDf群およびFd群(6試料)、の3群に分類された。

器種別に見ると、深鉢は、淡水成、水成粘土、その他粘土が用いられ、砂粒組成がCe群(1試料)、Cf群およびFc群(4試料)、Df群およびFd群(3試料)からなる。浅鉢は、淡水成粘土が用いられ、砂粒組成がFd群(1試料)である。壺は、淡水成粘土、水成粘土、その他粘土が用いられ、砂粒組成がFc群(2試料)、Df群およびFd群(2試料)である。注口は、海成粘土が用いられ、砂粒組成がCe群(1試料)である。製塩土器の2試料は、いずれも水成粘土が用いられ、砂粒組成がCf群である。粘土塊は、その他粘土であり、砂粒組成がCf群である。

築地遺跡は、結城台地南側の縁辺部に立地するが、そこには第四紀更新世後期の礫・砂および泥からなる龍ヶ崎層(図2の凡例O₂)が分布する。やや上流域の宝木段丘礫層相当層(今市扇状地礫層:南関東の武蔵野段丘礫層に対比)は、層厚約25mで、

礫は安山岩・流紋岩・石英斑岩および古期岩からなり、径10~80cmにおよぶ大小の円礫・重円礫が、砂質の膠結部で軟弱に固結している(国土庁土地局, 1998)。こうした砂礫層の特徴は、かつて鬼怒川によってもたらされた礫の特徴と考えられる。

鬼怒川の上流域の小山付近には、新第三紀中新世の主に海成の泥岩層・凝灰岩層・

表4 岩石片の起源と組み合わせ

		第1出現群						
		A	B	C	D	E	F	G
		片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片岩類	Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab	Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc	Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd	Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De	Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef	Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg
	h							

表5 土器胎土材料と器種

粘土分類	砂粒分類	深鉢	浅鉢	壺	注口	製塩土器	粘土塊	総計
海成	Ce				1			1
	Bc	1						1
	Fc	1		1				2
	Fd		1	1				2
淡水成	Cf	2				2		4
	Bc	1		1				2
水成	Ce	1						1
	Cf	1					1	2
	Fc			1				1
	Fd	1						1
合計		8	1	4	1	2	1	17

砂岩層からなるⅢ層群，同鮮新世の浅海成の泥層・砂礫層・礫岩層からなるⅡ層群，淡水成～浅海成の砂礫層・泥層などからなるⅠ層群が分布するが，石橋～真岡以南では，厚い第四系が堆積し，基盤は深い（阿久津ほか，1984；日本の地質「関東地方」編集委員会編，1988；図1）。

今回のNo.17は，粘土採掘坑の粘土塊であるが，粘土材料の分類では，d) その他粘土であり，砂粒組成は主に堆積岩類と流紋岩類からなるCf群であった。その他の砂粒としては，深成岩類や凝灰岩類を含む。No.17の粘土塊の粘土および付随する砂粒組成は，遺跡周辺で採取できる材料であるため，水成環境を指標する微化石類を含まないその他粘土で，流紋岩類を伴うCf群，Fc群，Fd群などは，比較的近接地域で採取できる材料が用いられたと考えられる。一方，No.9の注口やNo.8の浅鉢のように，放散虫化石や海水種珪藻化石を含む粘土は，海成層が分布する上流域で採取された可能性が高い。その他の土器のうち，淡水成粘土や水成粘土を用い，砂粒組成がCf群，Fc群，Fd群，Df群を示す胎

年代	地層名	層厚(m)	岩相	産地
新第三紀	野川層	214	砂礫層・砂層	野川・河原
	関東ローマ層	100	火山灰・流紋岩層	野上・大山(浅海)
	三古層	100	砂礫層・砂層	野川・河原
第四紀	Ⅲ層群	81	砂礫層・泥層を伴った砂・砂-シルト層	野川(浅海)
	Ⅱ層群	80	砂礫層	野川・河原
	Ⅰ層群	80	泥層(粘土石)	野川・河原
	Ⅰ層群	80	泥層	野川・河原
	Ⅰ層群	80	泥層	野川・河原
第四紀	Ⅲ層群	80	泥層	野川(浅海)
	Ⅱ層群	80	泥層	野川(浅海)
	Ⅰ層群	80	流紋岩層	野川
第四紀	Ⅲ層群	80	流紋岩層	野川
	Ⅱ層群	80	流紋岩層	野川
	Ⅰ層群	80	流紋岩層	野川

第1図 小山付近における模式層序（阿久津ほか 1984）

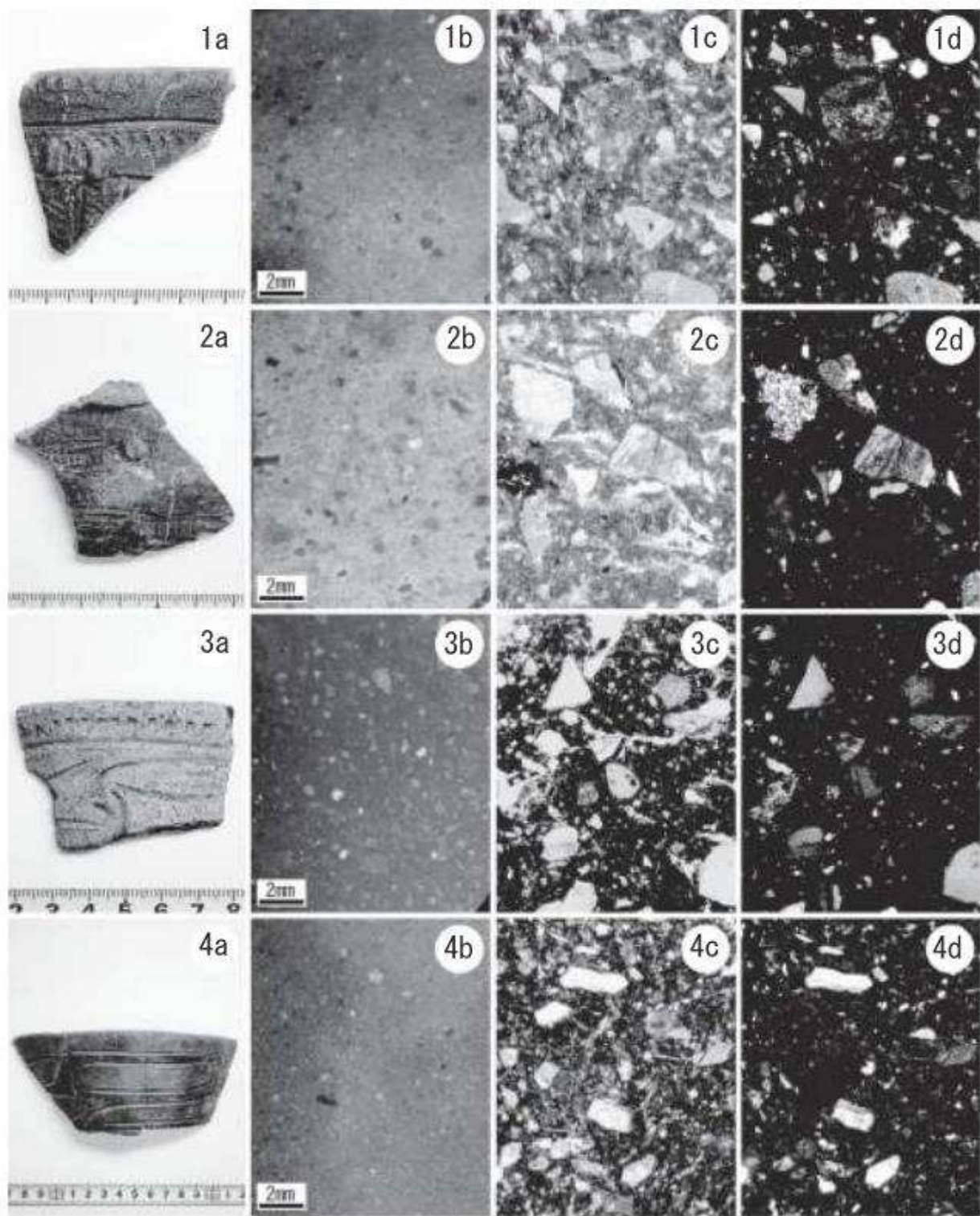
能性が考えられる。ただし，砂粒組成がCe群を示すNo.9は放散虫化石を含むため，海成層が分布する上流域の特徴と推定したが，同じように砂粒組成がCe群を示すNo.10の深鉢も，同様の地域が想定される。

なお，No.15の製塩土器胎土中の隙間には，製塩土器付着土中に見られるような完形殻 *Rhopalodia musculus* が密集して検出されたことから（図版5-15e），製塩土器として利用された証拠である。

今後の土器材料に関する検討は，基盤層の調査・分析を行えば，より具体的な土器材料について検討できると考える。なお，土器胎土中のテフラ起源の火山ガラスは，火山ガラスを抽出して屈折率の測定を行えば，起源テフラの同定が可能である（菅野ほか，2010）。

引用文献

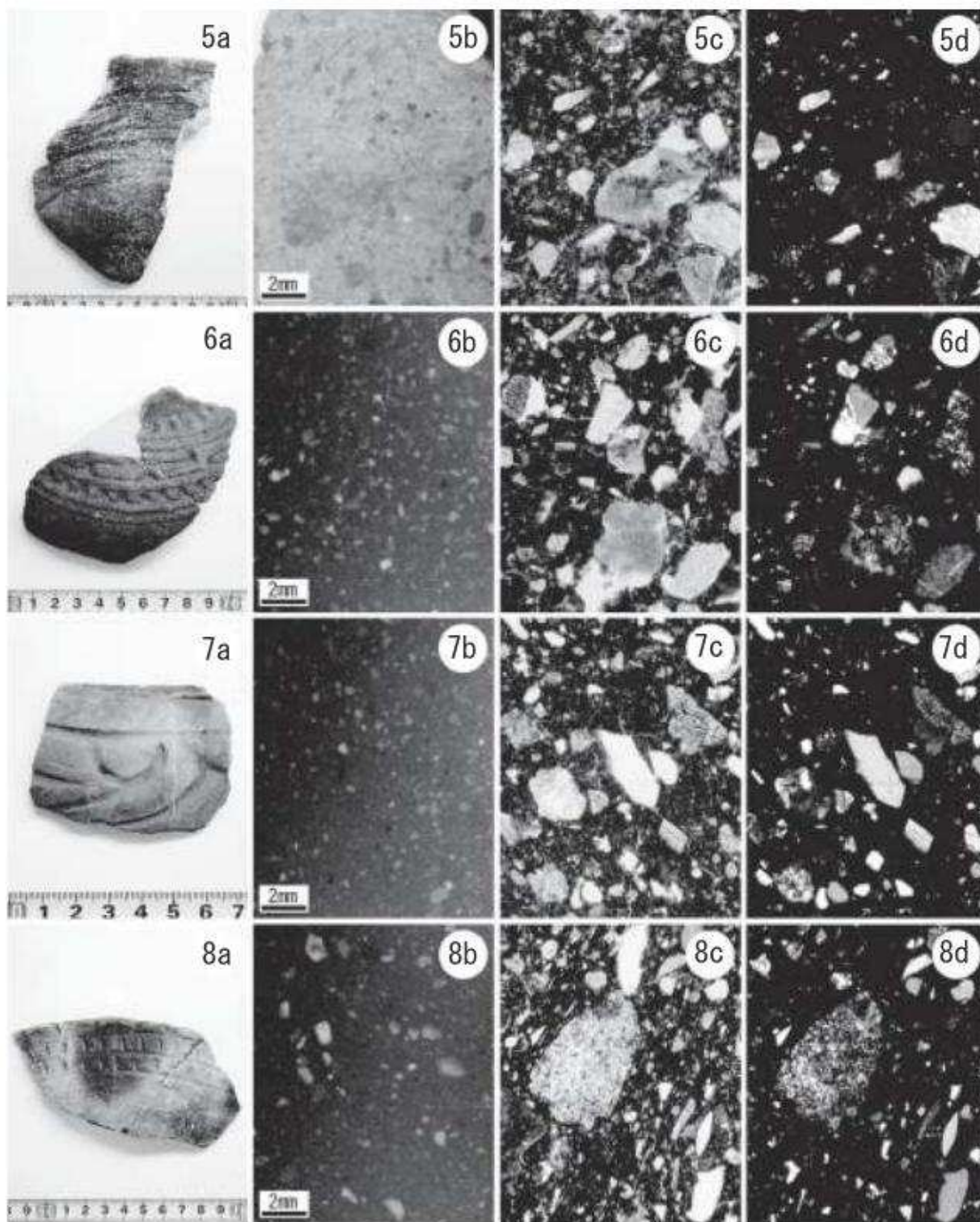
阿久津 純・金森定敏・町田康二・舞坂康一（1984）小山市史 通史編Ⅰ，自然，1-137
 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用，東北地理，42（2），73-88
 地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）増補改訂 地学事典，1612p，平凡社
 藤根 久（1998）東海地域（伊勢～三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料，東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ」：108-117，東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会
 藤根 久・今村美智子（2001）第3節 土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴，群馬県埋蔵文化財調査事業団編「波志江中宿遺跡」：262-277，日本道路公団，伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団
 日本の地質「関東地方」編集委員会編（1988）日本の地質3「関東地方」，共立出版，335p
 国土庁土地局（1998）地下水マップ付属説明書，183p
 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用，第四紀研究，27，1-20
 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）土器胎土の材料-粘土の起源を中心に-，日本考古学協会編「日本考古学協会第62回大会研究発表要旨」：153-156，日本考古学協会
 須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男（1991）20万分の1地質図幅「宇都宮」，地質調査所



図版1 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(1)

1. 分析No. 1, 2. 分析No. 2, 3. 分析No. 3, 4. 分析No. 4

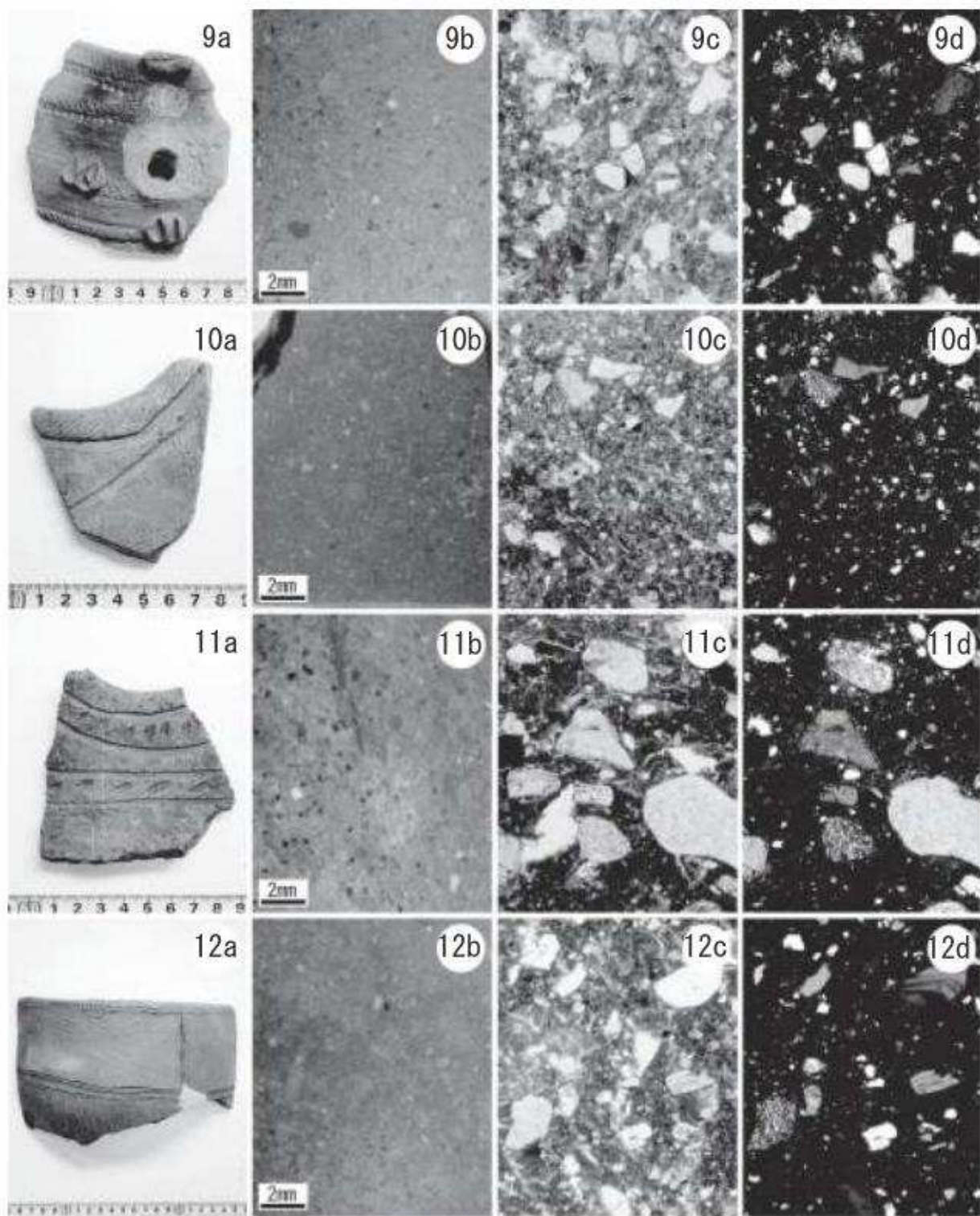
a 土器, b 土器断面, c 解放ニコル (スケール: 500 μ m), d 直交ニコル (スケール: 500 μ m)



図版2 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(2)

5. 分析No.5, 6. 分析No.6, 7. 分析No.7, 8. 分析No.8

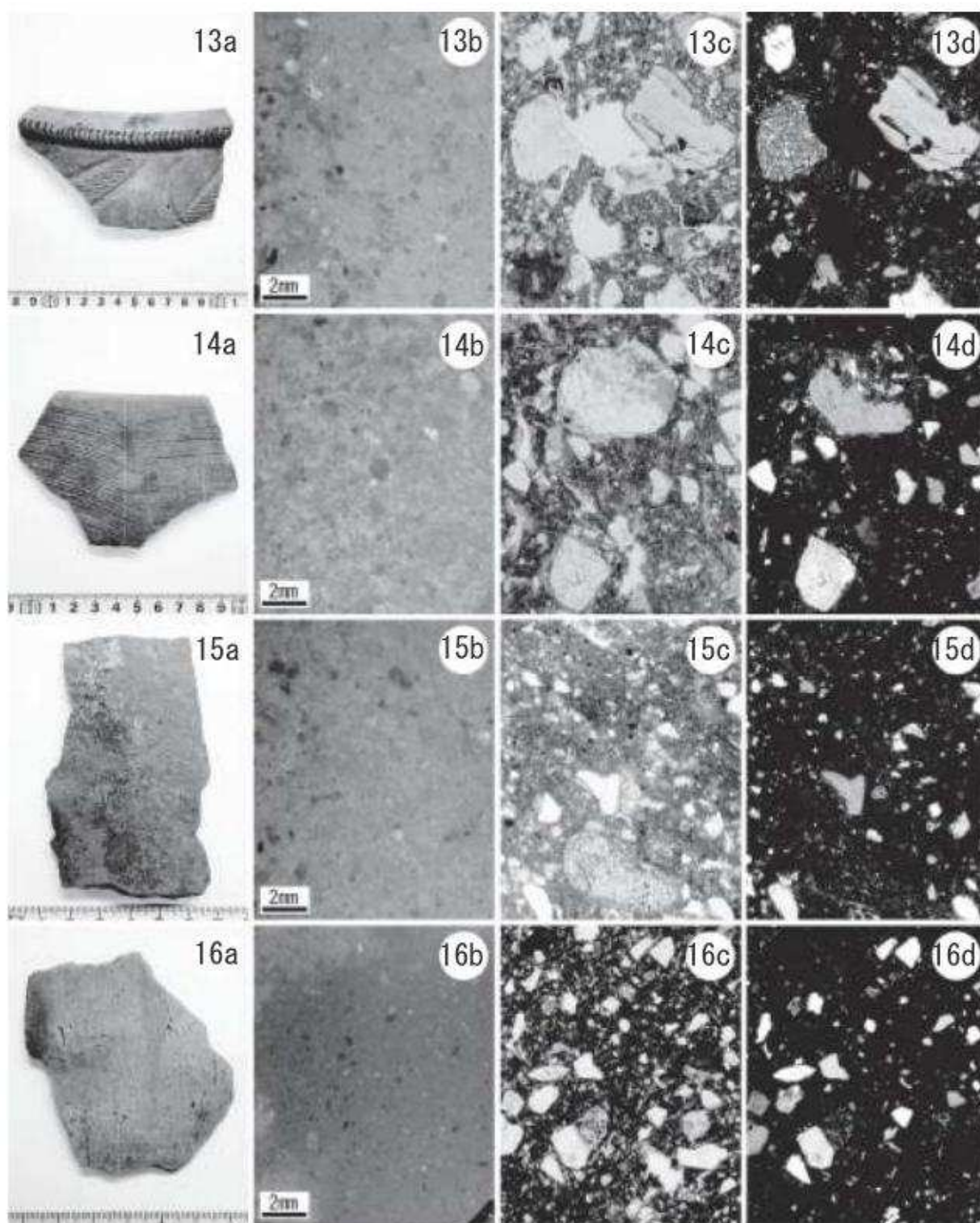
a: 土器, b: 土器断面, c: 解放ニコル(スケール: 500 μ m), d: 直交ニコル(スケール: 500 μ m)



図版3 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(3)

9. 分析No.9, 10. 分析No.10, 11. 分析No.11, 12. 分析No.12

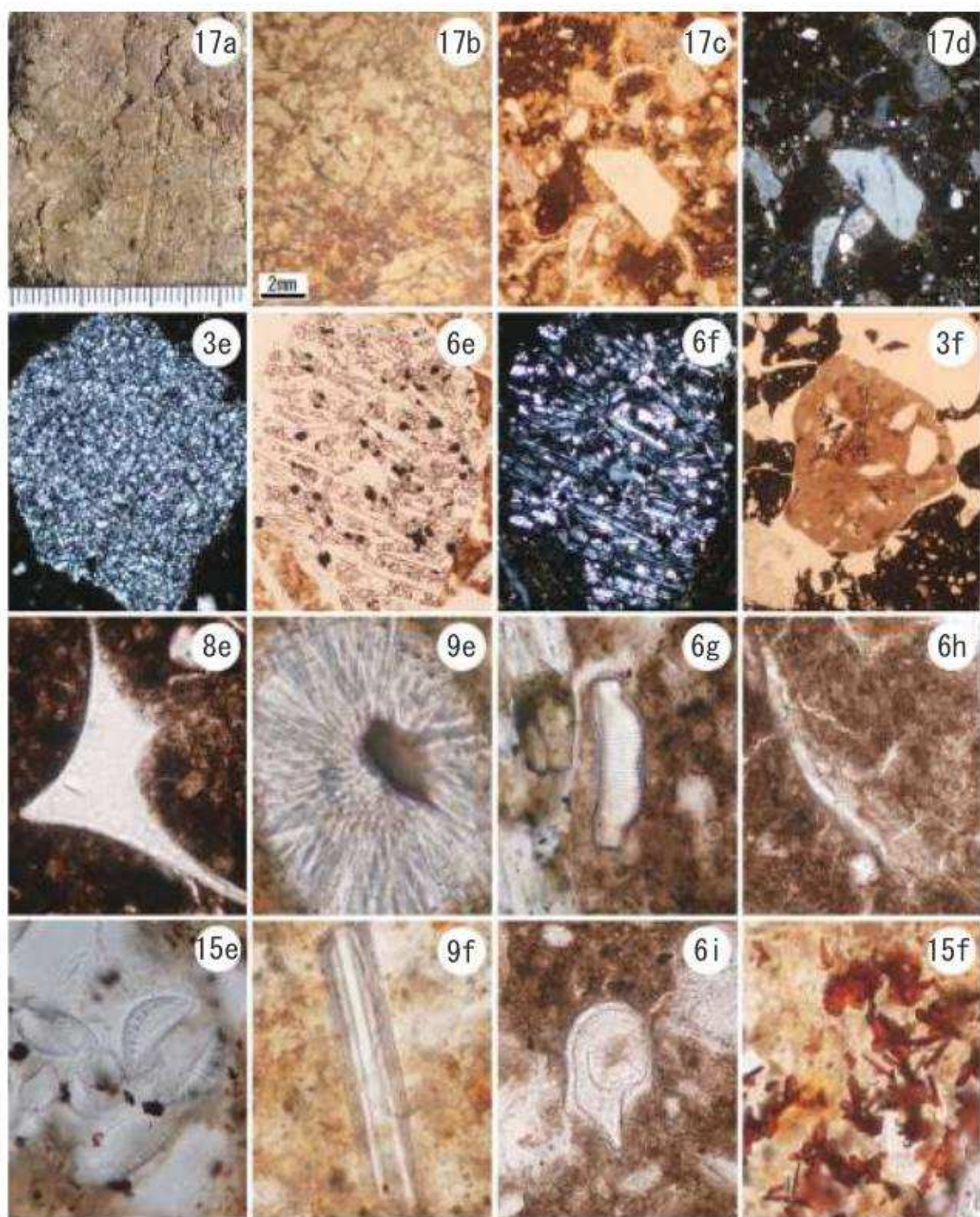
a 土器, b 土器断面, c 解放ニコル(スケール:500 μm), d 直交ニコル(スケール:500 μm)



図版4 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(4)

13. 分析No.13, 14. 分析No.14, 15. 分析No.15, 16. 分析No.16

a: 土器, b: 土器断面, c: 解放ニコル(スケール: 500 μ m), d: 直交ニコル(スケール: 500 μ m)



図版5 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(5)

(スケール:17c,17d, 3f:500 μ m, 3e, 6e, 6f, 8e:100 μ m, 6h, 6i:50 μ m, 9e, 6g,15e, 9f,15f:20 μ m)

17a. 分析No.17(粘土塊), 17b. 試料断面, 17c. 解放ニコル, 17d. 直交ニコル

3e. 複合石英類(微細), 6e. 完品質(解放ニコル), 6f. 完品質(直行ニコル), 3f. 流紋岩質

8e. 火山ガラス(バブル型), 9e. 放射虫化石, 6g. 珪藻化石 *Eunotia praerupta* v. *bidens*

6h. 珪藻化石 *Cymbella* 属, 15e. 珪藻化石 *Rhopalodia musculus* 密集, 9f. 骨針化石

6i. 植物珪酸体化石(ヨシ属), 15f. 赤色粒子の密集(褐鉄鉱)

付 章 5

築地遺跡出土獣骨類・魚骨類の同定

(株) イビソク

1 はじめに

茨城県常総市に位置する築地遺跡では、発掘調査によって縄文時代の遺構・遺物が検出されている。ここでは、築地遺跡の発掘調査で出土した動物遺体の同定結果を報告する。調査で取り上げた動物遺体は83地点388点であるが、種が同定できる程度に残存するものは限られている。このうち同定可能な24点について、同定作業を委託した。それ以外の動物遺体、及び合わせて出土している貝類については、(公財)茨城県教育財団調査員の江原美奈子が分類集計し、一覧表(表2)に示した。その際、動物遺体については、同調査員盛野浩一氏の助言を得た。また同遺跡では、竪穴建物跡や土坑の覆土中から動物遺体や貝類が多く出土することから、52地点について堆積土をサンプリングし、3ミリ・1ミリメッシュのフルイを用いて水洗洗浄を行った。そのうちの状態の良い2地点を選び、同定作業を委託した。対象試料については表1のとおりである。なお、合わせて出土している貝類については、江原が分類集計した。分析した第8号竪穴建物跡、及び第143号土坑からは、淡水産のオオタニシやマツカサガイなどが多く確認でき、内陸における水産資源の利用の一端をうかがうことができた。また第8号竪穴建物跡ではキセルガイなどの陸生微小巻貝類が多く確認できたが、第143号土坑ではほとんど見られなかった。また第143号土坑では細かい焼骨や炭化物が多く出土しており、水産資源の利用と廃棄後の状態に差があることが想定できる。(江原美奈子)

2 試料と方法

試料は、発掘調査現場で取り上げられた試料と水洗選別試料からなる。現場取り上げ試料は、骨角製品3点、獣骨類24点である。水洗選別試料は、2点である。動物遺体が採取された遺構・地点は、SI 3、SI 8、SI 9、SI22、SI24、SK28、SK57、SK70、SK105、SK143、HG 2、トレンチ3である。これらのうち、SI 8とSK143で水洗選別が行われた。

試料の観察は肉眼および実体顕微鏡下で行い、現生標本との比較により同定した。

3 結果(表3)

同定されたのは、魚類がウナギ属、ニシン科、コイ、フナ属、コイ科、ナマズ、サケ科、硬骨魚綱の8分類群、哺乳類がネズミ類、イヌ、イノシシ、ニホンジカ、食肉目、哺乳綱の6分類群、鳥類が鳥綱の1分類群、爬虫類がヘビ類の1分類群、計16分類群である。表1に同定結果を示す。

遺構ごとに同定された分類群を記す。

SI 3では、ニホンジカと哺乳綱が同定された。

SI 8では、ウナギ属、ニシン科、コイ、フナ属、コイ科、ナマズ、サケ科、硬骨魚綱、食肉目、イノシシ、ニホンジカ、哺乳綱、鳥綱、ヘビ類が同定された。なお、骨角製品のうち、ゆはず2点はニホンジカ角の可能性はあるが断定できず、かんざしはニホンジカ角と同定された。

SI 9では、鳥綱が同定された。

表2 現地取り上げ試料一覧表

試料名	試料				目録(枚数・g)							備考	
	分析 種	重 量 (g)	紙 骨 片 (g)	顕微鏡 可 能 紙 片 (枚数・g)	オオアニシ	マツカサカイ	アマトシシエ	カワニナ	イシガキ	ハマダリ	その他		総 量 (g)
S11 1区3x				1262									一部に紙屑
S11				8258									うち 5351 gに紙屑
S13				3568									
S13 P6													小白楯(P)
S14 4区2x													指り切り 紙屑
S14 1x				652									うち 127 gに紙屑
S14				717									
S15 上層													
S15 下層													
S15 4区1x													
S15 P9					021	右7 左7 177		右1 187					
S15				1501									
S16 x													
S16 2区3x													紙屑
S16				9853									うち 3083 gに紙屑
S18 断面	1	353											
S18 断面	9	9131	1013										
S18 断面	19	2562											
S18 断面	21	3547	852										
S18 断面	23	13882	561										
S18 断面	24	5910	1095										
S18 1x													149
S18 x			1451	シカ楯1-392									
S18 下層			2973							右1 344			紙屑
S18 P15								113					
S18 P15													222
S18 P15													120
S18 P18													697
S18 P19	13	3038	3655	シカ甲中骨1-1476 イノシシ歯M?1-752									230
S18 P19			1034		4 1083	右10 左8 3648		右1 左1 363					936
S18 P20			739		2 892	右6 左3 4206		右10 左5 2063					638
S18 P20			3998		628	右1-3		右2 左2 555					
S18 P20								左1 179					
S18 P20							223			右2 405			299
S18 P41			137		4 1952	右6 左12 3732		右2 左2 1611					650
S18 P42	30	1163											
S18 P45	2	1593	3584				右1 左1 339						
S18 P47					919			右1 左1 368					386
S18 P47							左1 154						
S18 P48	8	3558	1102							137			650
S18 P48			949	鹿角1-1649	4 1505	右2 565		右3 左1 922					
S18 P48								右1 231					
S18 P49	4	41											
S18 P52			657										588
S18 P56			217		6 254	050		右1 95					774
S18 P56					7 2518	右7 左4 2505		右1 左1 373		左1 953			311
S18 P60	35	923											
S18 P61					5 2268	右9 左15 4964		右3 左3 109	1 045		左1	キビガイ2 060	
S18 P61			869		10 5840	右 33 左 41 18012		右10 左8 3659					
S18				12347									うち 2712 gに紙屑
S19 P15													463
S19 P8													
S19 P17			594	イノシシ大歯Rメス 1-432					074				
S19 P17			296	シカ楯1-460									
S19 P20	15	100	839										
S19 断面				鹿角1-241									
S19				1522									
S112				2968									
S113 2x				1851	鹿角1-498								
S113 P37				855									小動物
S113				3728									うち 333 gに紙屑
S114 2区1x				893									紙屑
S115 P46				514			右2 左3 543			右6 左8 1941			
S115				1070									
S116				150									
S118				521									
S119				734									
S120 べら下4 x													
S120				535									
S122 P81 x	43	1314											
S122 P86 x													紙屑
S122 P97 x				390									指り切り
S122 2区2x													加工有 紙屑
S122 2区x													加工有 紙屑
S122 4区1x				1147				109					
S122 4区2x													

通称名	取付				目録(点数・g)							備考	
	分析 No	重量 (g)	取付片 (g)	組立予定可能破片 (点数・g)	オキタニン	マンササガイ	ヤマトシジミ	カタニシ	イソゴイ	ハマグリ	その他		総量 (g)
S 1 22 04, 4 x			275										※検不明(加工有) 既 熟出
S 1 22 覆土下層			342										加工後ありか
S 1 23			10280										うち 27.21 gに既熟出
S 1 23			249										
S 1 24	34	431											
S 1 25 1区1 x				イノシシ歯1・362									
S 1 25 2区2 x			199										指り切りか
S 1 25			241										
S 1 25 1区1 x							右1 063						うち 8.36 gに既熟出
S 1 25			1838										
S 1 27			2009										
S 1 28			712										既熟出あり
S 1 29			873										うち 2.61 gに既熟出
S 1 31 P 12			2104										既熟出
S 1 34			906										既熟出
S 1 35			3250										
S 1 36			4239										うち 14.53 gに既熟出
S 1 39			2565										うち 1.28 gに既熟出
S 1 41			131										うち 0.43 gに既熟出
S 1 43			1832										
S 1 47			1735										うち 6.49 gに既熟出
S 1 53			367										うち 1.84 gに既熟出
S K 6			238										
S K 8			489										
S K 26 x	32 33	3 2 20.83	4025		2 833	右2 34	右1 左1 239					142	
S K 28 x		3 1 353	232										
S K 28 覆土中層	30	6405											
S K 32			975										既熟出
S K 33			949										うち 7.99 gに既熟出
S K 57 1 x	36	1174											
S K 57			185										
S K 58			1286										
S K 70 x	42	1492											
S K 70			464										
S K 83 x			680										
S K 84 x			151										
S K 88			640										
S K 91 x			179										既熟出
S K 92			529										既熟出
S K 94				シカ歯185									
S K 105 10 x	26	1302	1864										小動物骨
S K 105			5410										
S K 107			201										
S K 115 1 x			678										
S K 121			497										
S K 122			370										
S K 125				鹿角1-3535									
S K 126 x			305	イノシシ歯1・170									
S K 126 x			497	イノシシ歯1・162									
S K 140 x							右1 左1 354						
S K 140 x			2832	イノシシ歯1・491									
S K 143 x					897	右4 左4 1178	右1 左1 461					1890	
S K 143 x			2648										うち 6.31 gに既熟出
S K 163			107										
S K 179			1040										
S K 221			470										
S K 228			201										
S K 246			831										既熟出
S K 247			201										
S K 247 x			180		2 236							149	
S K 254			690										
掘1号遺物集積地点			900										
H G 1-10			188										※加工あり 検不明
H G 1-13											アサリ 左1 481		
H G 1-15			311										
H G 1-15				小動物土器骨1・247									
H G 1-25							左1 066						
H G 1-26											右1 133		
H G 1			5248										うち 40.55gに既熟出
H G 2 C 6 n 3							右2 18						
H G 2 C 6 n 6	41	231											
H G 2 C 6 n 2 x	44	5934											
H G 2			11085										うち 27.33 gに既熟出
トレンチ3 1 x	39	4564											

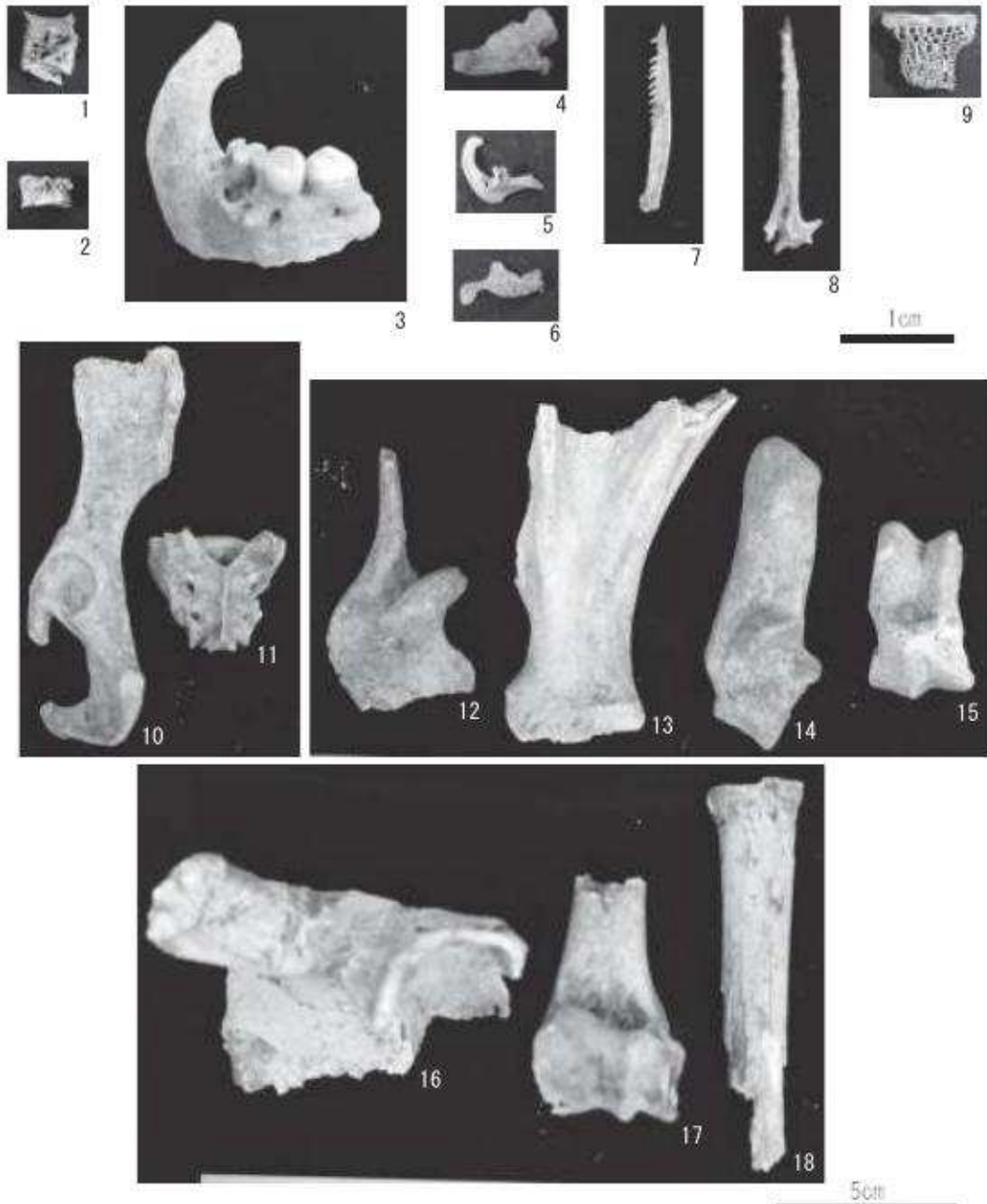
※取付片については、種の同定可能なもの以外は遺構ごとにとり、重量で示した。

※貝類については、殻頂部の残存などから個体数のおおなるものについては数も併記し、それ以外については重量を示した。

表3 動物遺体同定結果

遺体位置	その他	設計種別	No.	分類群	種別	左右	部分・状態	数量	備考			
SK3	—	現場取上	9	ニホンシシ	基部骨	不明	ほぼ完全・破片	3	焼け			
SK8	—	水洗選別	166	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼け			
				ウナギ属	椎骨	不明	破片	1				
					椎骨	—	断体	125				
					ニホン科	椎骨	—	断体	9			
					コイ	咽頭骨	左	破片	3			
						右	破片	2				
						方骨	右	破片	1			
					コイ?	主眼垂骨	左	破片	1			
						不明	不明	不明	不明			
					アナ属	咽頭骨	左	ほぼ完全	2			
							右	ほぼ完全・破片	8			
						主眼垂骨	左	破片	1			
					コイ科	咽頭骨	不明	破片	11			
							右	破片	1	コイとアナ属以外		
							主上顎骨	左	ほぼ完全	2		
							第1肋骨	—	断体	7		
							第2肋骨	—	断体	4		
							椎骨	—	断体	>300		
							鱗鱗	不明	ほぼ完全・破片	18		
					コイ科(アナ属?)	咽頭骨	左	破片	19			
							右	破片	14			
					コイ科(小型)	咽頭骨	左	ほぼ完全	2			
					ナマズ	胸鰓骨	不明	ほぼ完全・破片	10			
					サケ科	椎骨	—	破片	18			
					鯉科魚綱	前上顎骨	左	破片	1			
							主眼垂骨	右	破片	1	焼け。コイ科ではない	
							椎骨	—	断体	4		
					真面目	末節骨	不明	完全	1			
					哺乳綱	歯	不明	完全	1	遺棄		
							椎骨	—	破片	5	焼けあり	
							指骨	不明	破片	4		
					鳥綱	尾骨	左	完全	1			
					ハビ類	椎骨	—	断体	12			
P13	—	現場取上	11	ゾウシシ	頭蓋骨(線蓋骨)	—	破片	1				
					肩甲骨	左	破片	1				
					5	踵骨	左	ほぼ完全	1			
					24	ゾウシシ?	肋骨	左	骨髄	1		
					21	ニホンシシ	頭蓋骨	—	破片化	1	オス。肋骨骨に加工の可能性がある	
					1		中手骨	右	右位端	1		
					19		上腕骨	左	遠位端	1		
					2	ニホンシシ?	肋骨	—	ほぼ完全	1		
					P14	6	哺乳綱	頭蓋骨	—	破片化	1	
								頭蓋	—	破片	19	
								頭蓋	—	断体	1	
					P22	25		尾椎	—	完全	1	
								四肢骨	不明	破片	1	
					P7	40		四肢骨	不明	破片	1	
								不明	不明	破片	2	
	P20a	4	鳥綱	相互指骨	左	管腔	1					
				不明	不明	不明	不明					
	不明	現場取上	B3	ニホンシシ?	角?	不明	管筒断面	1				
	不明	現場取上	B2	ニホンシシ?	角?	不明	管筒断面	1				
	不明	不明	B1	ニホンシシ	角	不明	管筒断面	1				
SK9	—	現場取上	15	鳥綱	四肢骨	不明	骨髄	1				
SK22	P96a	現場取上	43	ゾウシシ	踵骨	右	ほぼ完全	1	焼け			
SK24	—	現場取上	34	ニホンシシ	基部骨	不明	ほぼ完全	1				
SK28	—	現場取上	32	ゾウシシ	踵骨	左	完全	1				
					ニホンシシ	部骨	左	右位端	1			
					哺乳綱	頭蓋骨	—	破片	2			
							大顎骨	左	ほぼ完全	1		
							肋骨	右	ほぼ完全	1		
						39	四肢骨	不明	破片	1		
		38	不明	不明	破片	1	焼け					
SK27	北1a	現場取上	36	ニホンシシ	中節骨	不明	完全	1				
SK70	—	現場取上	42	ゾウシシ	肋骨	右	ほぼ完全	1				
SK106	—	現場取上	26	イヌ?	肋骨	—	断体	1				
SK143	—	水洗選別	39	ウナギ属	椎骨	—	断体	15				
	—	水洗選別	39	ウナギ属	咽頭骨	左	ほぼ完全	32				
							右	ほぼ完全	19			
							主眼垂骨	左	ほぼ完全	12		
					コイ科	咽頭骨	左	ほぼ完全・破片	130			
							右	ほぼ完全・破片	154			
							不明	不明	破片	18		
							第1肋骨	—	断体	2		
							第2肋骨	—	断体	6		
							椎骨	—	断体	>500		
							鱗鱗	不明	ほぼ完全・破片	119		
					ナマズ	胸鰓骨	不明	ほぼ完全・破片	121			
						前上顎骨	右	ほぼ完全	1			
					鯉科魚綱	前肢	左	ほぼ完全	1			
							右	ほぼ完全	2			
							椎骨	—	断体	20		

発掘位置	その類	試料種別	SI	分類群	部位	左右	部分状態	数量	備考
SK143				ネズミ類	臼歯	不明	磨蝕	1	
					上顎骨	右	完全	2	
					犬歯骨	右	完全	1	
					四足骨	不明	破片	1	焼け
					指骨	不明	破片	3	
					へび類	椎骨	—	椎体	10
HG2	Chc1 2k	現地出土	44	イヌ	肋骨	左	ほぼ完全	1	
					肋骨	右	ほぼ完全	1	
					肋骨	—	椎体	2	
					肋骨	—	椎体	10	
					肋骨	—	椎体	1	
					肋骨	—	椎体	1	
					肋骨	—	椎体	1	
C636	41	哺乳類	肋骨	—	破片	1			
トレンナ3	—	現地出土	39	イノシシ	肩甲骨	左	破片化	1	



図版1 築地遺跡から出土した動物遺体

1. ウナギ属椎骨 (SI 8) 2. ニシン科椎骨 (SI 8) 3. コイ左咽頭骨 (SI 8) 4. コイ右方骨 (SI 8) 5. フナ属左咽頭骨 (SK143)
6. フナ属左主髁蓋骨 (SK143) 7. コイ科鱗棘 (SI 8) 8. ナマズ胸鱗棘 (SI 8) 9. サケ科椎骨 (SI 8) 10. イヌ左寛骨 (HG2)
11. イヌ仙骨 (HG2) 12. イノシシ頭蓋骨 (SI 8) 13. イノシシ左肩甲骨 (トレンナ3) 14. イノシシ左踵骨 (SK28) 15. イノシシ右距骨 (SK70) 16. ニホンジカ頭蓋骨 (SI 8) 17. ニホンジカ左上腕骨 (SI 8) 18. ニホンジカ右中手骨 (SI 8)

付 章 6

宮原前遺跡の出土人骨について

パリーノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

宮原前遺跡（茨城県常総市大生郷町に所在）は、鬼怒川と飯沼川に挟まれた標高約 20 mの台地上に位置する。これまでの発掘調査により本遺跡は、縄文時代の陥し穴、縄文時代前期・古墳時代・奈良時代の竪穴建物跡、平安時代の竪穴建物跡、室町時代の掘立柱建物跡などが確認されており、縄文時代から江戸時代までの複合遺跡であると考えられている。本分析調査では、江戸時代の墓坑から出土した人骨1体について、性別・年齢等に関する情報を得ることとした。

2 試料

分析対象資料は、江戸時代の墓坑から、屈葬の状態出土した人骨1体分であり、23の部位に分けて取り上げられている。便宜的に分析№1～23の通し番号を付した。いずれの試料も乾燥した状態にある。なお、試料の詳細については結果とともに表示する。

3 分析方法

試料に砂・泥分が付着する場合は、乾いた筆等で静かに除去する。試料を肉眼で観察し、形態的特徴から種・部位を同定する。また、計測が可能な場合はデジタルノギスを用いて測定し、歯牙計測値は藤田（1949）に従う。なお、骨格各部位の名称を図1に示す。

4 結果

同定結果を表1に、確認された歯牙の歯式を表2、歯牙計測値を表3に示す。

確認される部位は、前頭骨・左右頭頂骨、前頭骨、右側頭骨、左右鼻骨、脳頭蓋、頭蓋、左右上顎骨、左上顎第1大白歯、右上顎第2大白歯、右上顎第3大白、左右下顎骨、歯牙、第1頸椎、肩甲骨？、左右上腕骨、橈骨/尺骨、左尺骨、尺骨、右橈骨、右尺骨、左第2中手骨、中手骨、指骨（第1指基節骨？・基節骨・

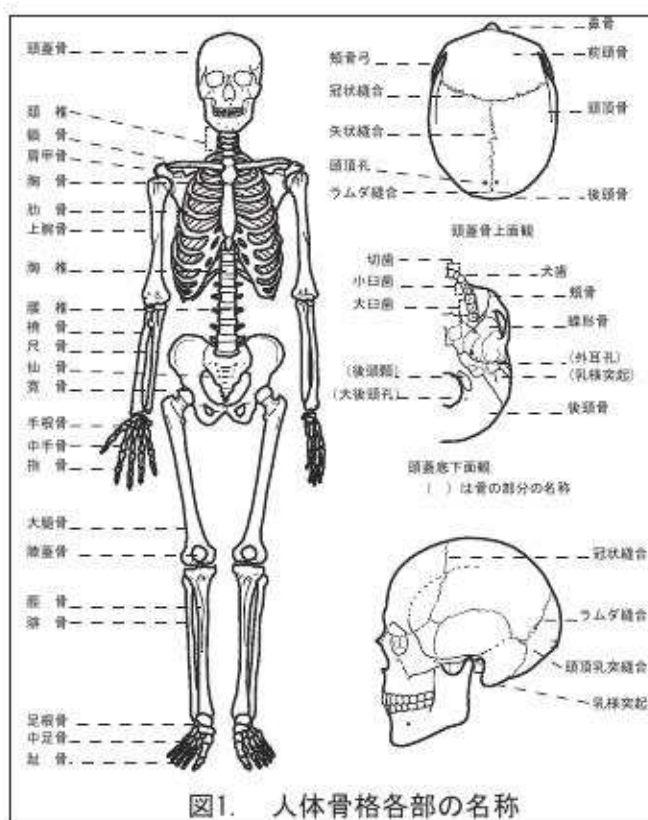


図1. 人体骨格各部の名称

表1. 骨同定結果

遺構	No.	種類	部位	左	右	状態等	数量	備考
SK128	1	ヒト	前頭骨-左右頭頂骨			破片	1	
			前頭骨			破片	1	
			側頭骨		右	破片	1	
			鼻骨	左	右	破片	1	
			脳頭蓋			破片	11	
			頭蓋			破片	1	
			不明			破片	18	
		残渣					293.89	g
	2	ヒト	上顎骨	左		破片	1	I1-P2 横立
					右	破片	1	I1-M1 横立
			上顎第1大臼歯	左		歯根	1	歯冠部鱗魚により欠損
			上顎第2大臼歯	左		略完	1	
					右	略完	1	
			上顎第3大臼歯		右	略完	1	
			下顎骨	左	右	破片	1	左M1-右C横立
			歯牙			歯根	1	
		残渣					13.14	g
	3	ヒト?	不明			破片	38.31	g 土塊状含む
	4	ヒト	上腕骨	左		両端欠	1	+
	5	ヒト	上腕骨		右	両端欠	1	+
	6	ヒト	橈骨/尺骨			破片	1	+
	7	ヒト	尺骨	左		近位端	1	
			尺骨			破片	1	+
	8	ヒト	橈骨		右	両端欠	1	+
	9	ヒト	尺骨		右	両端欠	1	+
	10	ヒト	第2中手骨	左		遠位端欠	1	近位端破損
			中手骨			両端欠	1	
						遠位端片	1	
			指骨(第1指基節骨?)			両端欠	1	
			指骨(基節骨)			略完	1	
						遠位端欠	1	
			指骨(基節骨?)			近位端欠	2	
			指骨(基節骨/中節骨)			近位端欠	2	
			手部?			破片	425.55	g 土塊状
	11	ヒト	大腿骨	左		近位端片	1	
				左		両端欠	1	
			大腿骨/脛骨			破片	175.91	g 土塊状含む
	12	ヒト	大腿骨		右	近位端片	1	
					右	両端欠	1	
			大腿骨遠位端-脛骨近位端		右	破片	1	+
			大腿骨/脛骨			破片	148.61	g 土塊状含む
	13	ヒト	脛骨	左		近位端	1	
				左		破片	1	+
				左		遠位端	1	
			腓骨?			破片	1	
	14	ヒト	脛骨		右	両端欠	1	+
	15	ヒト	腓骨?	左?		破片	1	+
		残渣					10.33	g
	16	ヒト	腓骨		右	破片	1	+
		残渣					10.68	g
	17	ヒト	距骨	左		破損	1	
			足根骨(舟状骨)	左		破片	1	
			不明			破片	16	+
	18	ヒト	踵骨		右	破片	1	
			距骨		右	略完	1	
			足根骨(舟状骨)		右	破片	1	
			足根骨(立方骨?)		右	破片	1	
			足根骨(中間楔状骨)		右	破片	1	
			第4中足骨		右	遠位端欠	1	
			中足骨			遠位端欠	2	近位端破損
			不明			破片	172.91	g 土塊状含む
	19	ヒト	第1頰椎			破片	1	
			肩甲骨?			肩峰?	1	
			中足骨?			近位端片?	1	
			中手骨/中足骨			両端欠	1	
			不明			破片	138	+
		釘等					17	
		残渣					730.72	g
	20	ヒト	不明			破片	10	+
	21	ヒト	不明			破片	22	+
		釘等					24	
		残渣					18.26	g

遺構	No.	種類	部位	左	右	状態等	数量		備考
	22	ヒト	不明			破片	37	+	土塊を含む
		土器				破片	1		
		釘等					13		
		残渣					67.65	g	
	23	残渣					184.99	g	

凡例) I:切歯 C:大歯 P:小臼歯 M:大臼歯

基節骨?・基節骨/中節骨), 手部?, 左右大腿骨, 右大腿骨遠位端・脛骨近位端, 左右脛骨, 大腿骨/脛骨, 左右腓骨, 左右距骨, 右踵骨, 左足根骨(舟状骨), 右足根骨(舟状骨・立方骨?・中間楔状骨), 右第4中足骨, 中足骨, 中足骨?, 中手骨/中足骨, 部位不明破片である。この他, 木片に付着する釘(表中では釘等と表記する)が検出される。

表2. 歯式

SK128	右								左							
	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
上顎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	
下顎					-	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

凡例) I:切歯 C:大歯 P:小臼歯 M:大臼歯 △:歯根のみ -:歯槽吸収

4 考察

出土した人骨は, 出土時の状況を見ると, 膝を曲げて上肢で抱え込み, 手部を胸部の前に持ってきている。また, 試料中から釘等がみられることから, 本人骨は座位屈葬状態で木棺に埋葬されたと推測される。性差を反映しやすい部位, 寛骨や頭蓋の乳様突起・後頭骨隆起が欠損し, また前頭骨も前頭隆起や眉上隆起が破損するため, これらの部位から性差判定が難しい。一方, 四肢骨を見ると, 比較的しっかりする印象があり, 上肢では尺骨長母指外転筋・長母指伸筋付近がやや発達し, 下肢骨では大腿骨殿筋粗面がやや発達, 脛骨のヒラメ筋線が発達する。また, 歯牙計測値を榎田(1959)と比較すると, 男性的である。これらのことから, 本人骨は男性の可能性がある。年齢は, 右上顎第3大臼歯が確認されることから成人に達していたと判断され, 頭蓋において冠状縫合・矢状縫合の癒合

表3. 歯牙計測値

単位: mm

SK128	歯冠幅	歯冠厚			
		左	右		
上顎 第1切歯	I1	9.35	9.61	8.11	8.07
第2切歯	I2	7.57	7.81	6.81	6.86
大歯	C	7.84	8.37	9.82	9.72
第1小臼歯	P1	8.02	7.56	11.04	10.76
第2小臼歯	P2	6.77	7.32	10.78	10.37
第1大臼歯	M1	-	11.71	-	12.72
第2大臼歯	M2	10.49	10.24	12.63	12.63
第3大臼歯	M3		9.16		12.84
下顎 第1切歯	I1	5.75	5.43	6.86	6.85
第2切歯	I2	6.35	6.01	7.63	7.57
大歯	C	6.94	7.38	8.97	8.82
第1小臼歯	P1	7.24		9.55	
第2小臼歯	P2	8.13		9.53	
第1大臼歯	M1	11.53		11.77	
第2大臼歯	M2				
第3大臼歯	M3				

凡例) -:計測不可

状態を観察すると, 内側が閉じており, 外側が閉じてないことから, 熟年程度と判断される。なお, 歯牙の状況を見ると, 右下顎第1小臼歯部の歯槽が閉じかけており, 左上顎第1大臼歯の歯冠部は齶蝕により欠損するなど口腔内の衛生状況が悪いが, これらは加齢に伴うものと推測される。ただし, 全体的に歯牙の咬耗状態が弱く, 大臼歯で見ると, 左下顎第1大臼歯において象牙質が僅かに露出する程度であり, 右上顎第1大臼歯・左上顎第2大臼歯・右上顎第3大臼歯はエナメル質が咬耗する程度にとどまり, 象牙質が露出しない。歯の咬耗すなわち歯の歯冠部分の咬合面の摩耗は, 食物の種類や調理内容に強く関係している。(片山

1990)。おそらく、埋葬者は、比較的軟らかい食材を主に食していた可能性がある。

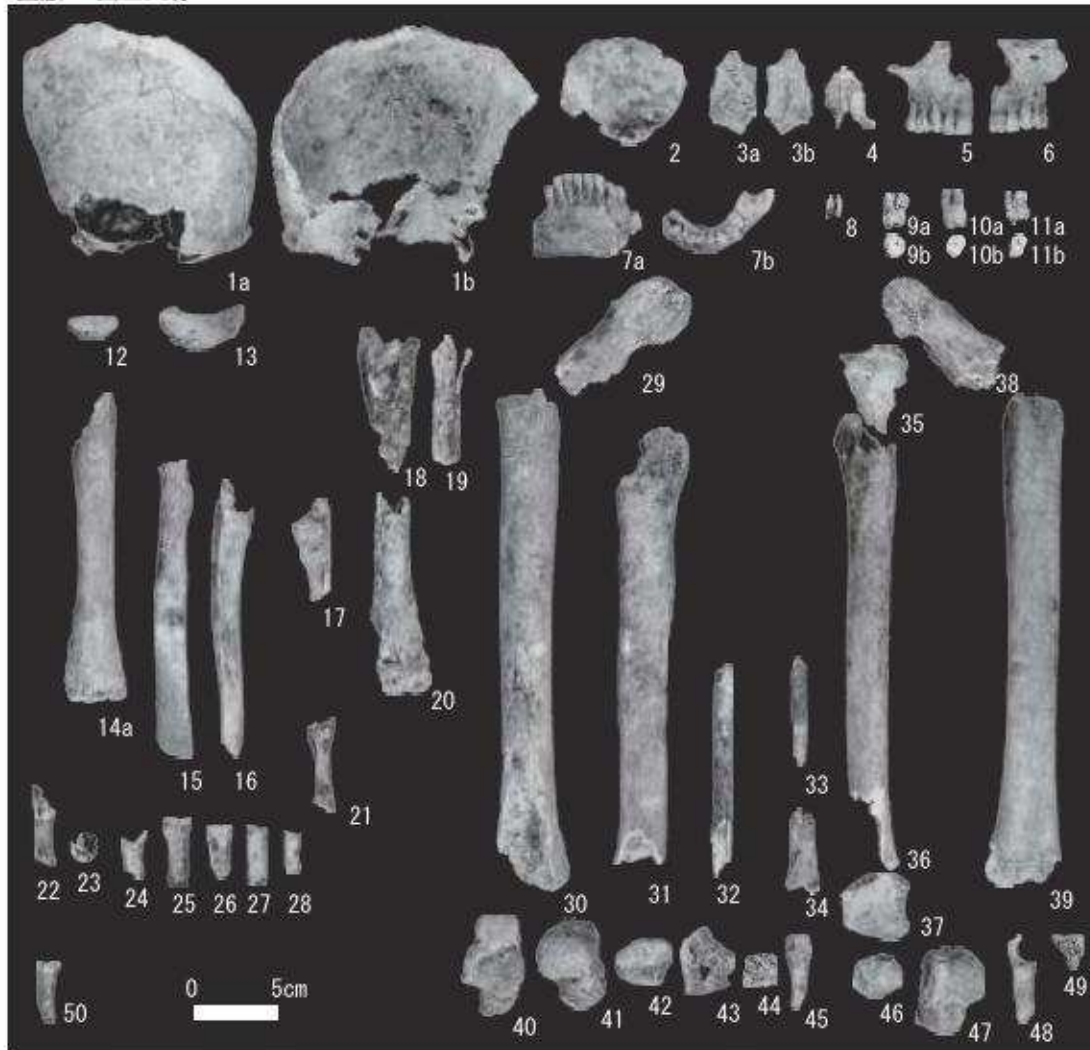
引用文献

横田 和良, 1959, 歯の大きさの性差について, 人類学雑誌, 67,151-163

藤田 恒太郎, 1949, 歯の計測基準について, 人類学雑誌, 61,27-32

片山 一道, 1990, 古人骨は語る - 骨考古学ことはじめ -, 株式会社同朋舎出版, 210p

図版1 出土人骨



- 1. 上 前頭骨 - 左右頭頂骨 (SK128 ; No. 1)
- 2. 上 前頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 3. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 4. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 5. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 6. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 7. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 8. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 9. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 10. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 11. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 12. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 13. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 14. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 15. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 16. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 17. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 18. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 19. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 20. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 21. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 22. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 23. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 24. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 25. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 26. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 27. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 28. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 29. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 30. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 31. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 32. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 33. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 34. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 35. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 36. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 37. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 38. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 39. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 40. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 41. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 42. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 43. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 44. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 45. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 46. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 47. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 48. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 49. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 50. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)

- 1. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 2. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 3. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 4. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 5. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 6. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 7. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 8. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 9. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 10. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 11. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 12. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 13. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 14. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 15. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 16. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 17. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 18. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 19. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 20. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 21. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 22. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 23. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 24. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 25. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 26. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 27. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 28. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 29. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 30. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 31. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 32. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 33. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 34. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 35. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 36. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 37. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 38. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 39. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 40. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 41. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 42. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 43. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 44. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 45. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 46. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 47. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 48. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 49. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)
- 50. 上 右側頭骨 (SK128 ; No. 1)

写 真 図 版

築 地 遺 跡
宮 原 前 遺 跡 2

PL1

遺跡全景
(北西から)



遺跡全景
(東から)



調査A区全景
(北から)



PL2



調査 A 区 東 側
(南 から)



調査 B 区 全 景
(北 東 から)



調査 B 区 全 景
(北 から)

PL3



調査前現況（西から）



調査A区完掘状況①（北西から）



調査A区完掘状況②（北東から）



調査A区完掘状況③（南西から）



調査A区完掘状況④（南西から）



調査A区完掘状況⑤（東から）

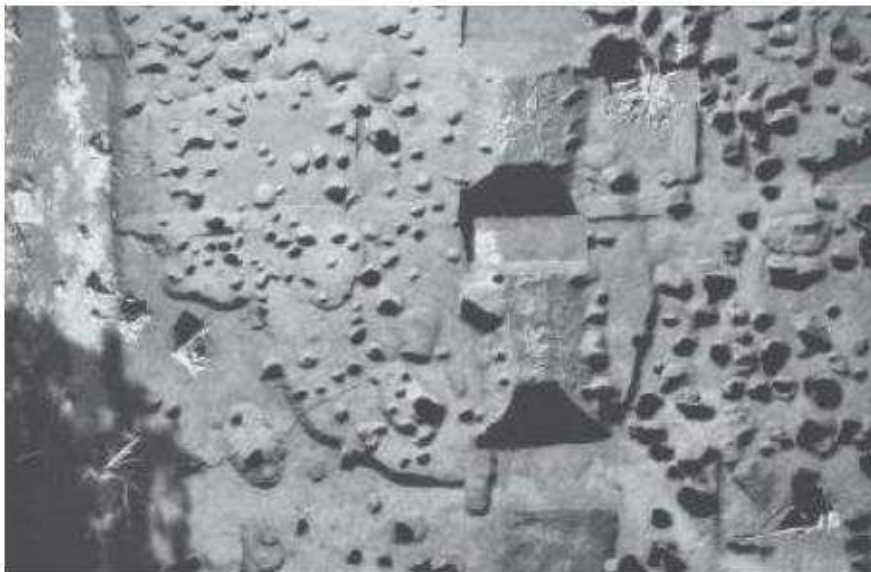


調査B区完掘状況①（北東から）

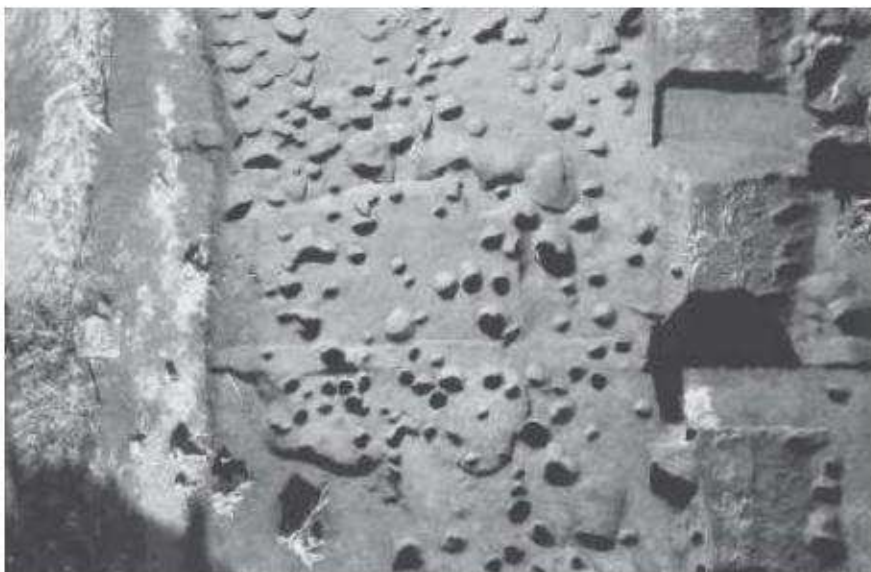


調査B区完掘状況②（北西から）

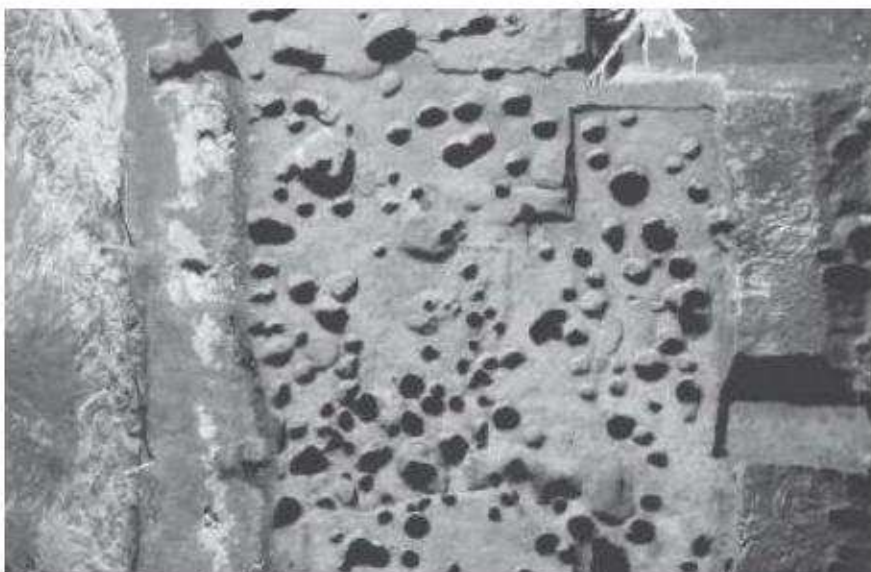
PL4



第1・4・7号竪穴
建物跡（南から）



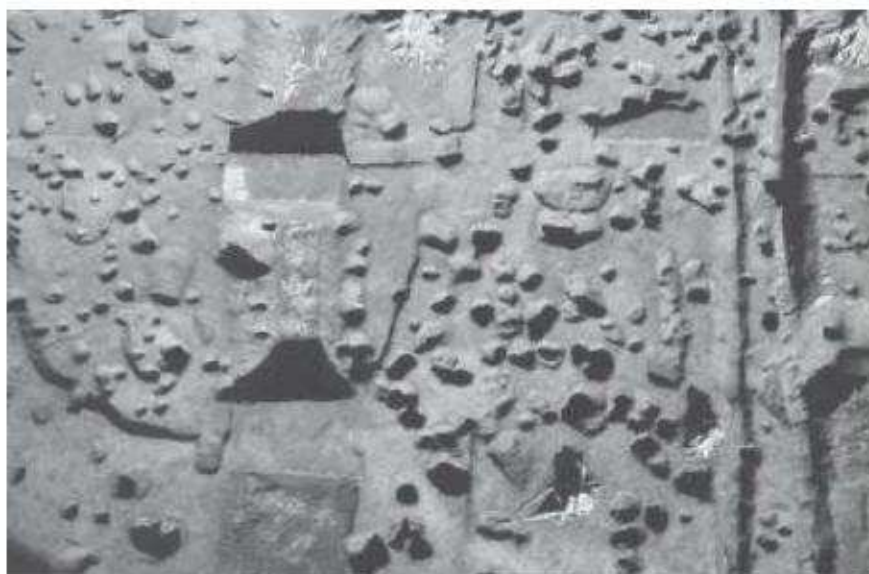
第4・55号竪穴
建物跡（南から）



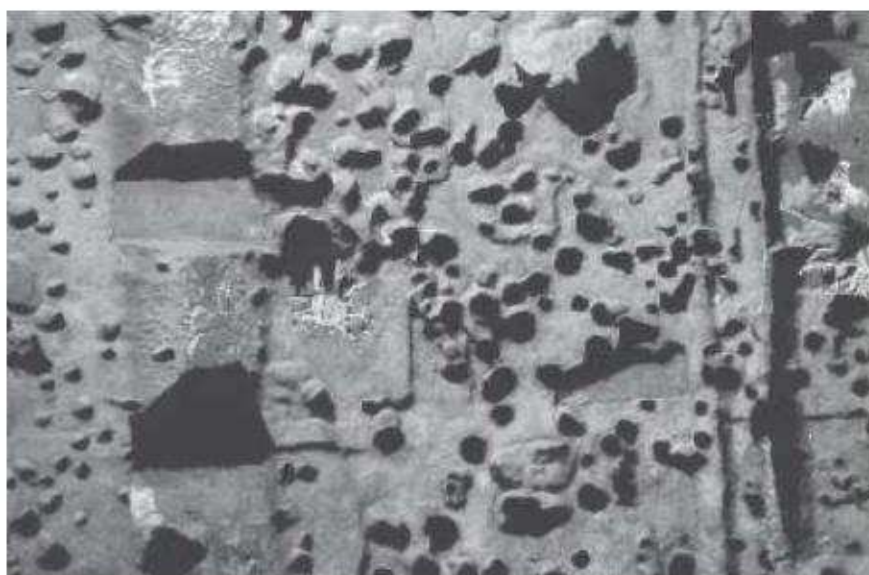
第5・19号竪穴
建物跡（南から）

PL5

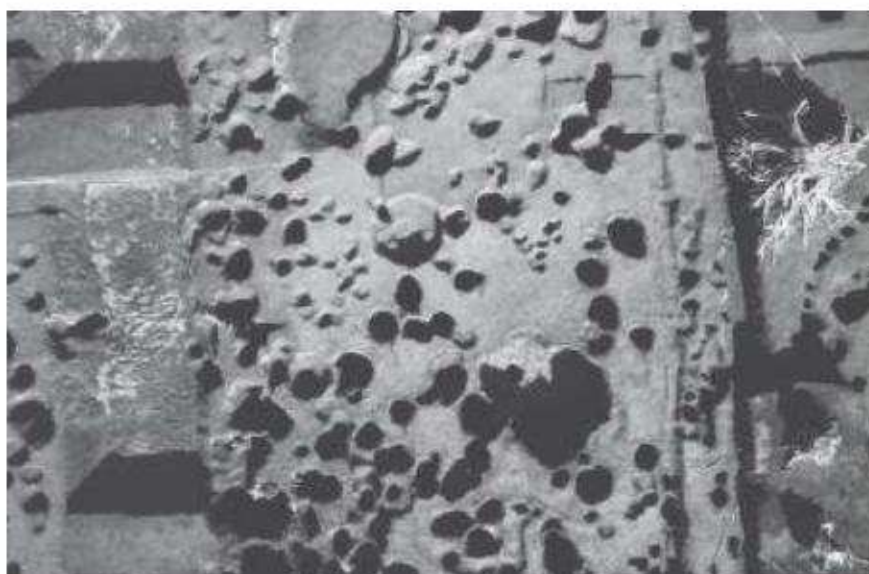
第 1・7・12号
竪穴建物跡(南から)



第 8号竪穴建物跡
(南から)



第 9・13号竪穴
建物跡(南から)





第1号竖穴建物跡遺物出土状況



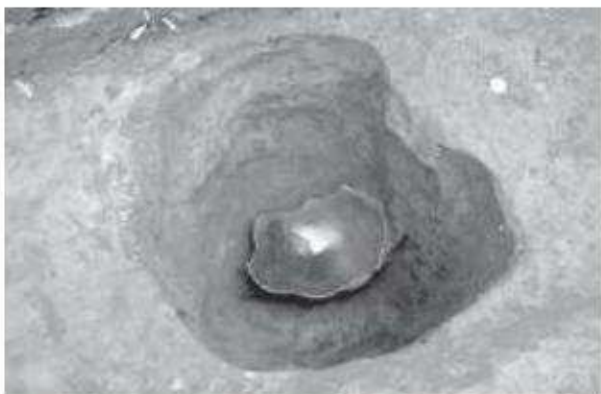
第1号竖穴建物跡（南から）



第3号竖穴建物跡（南から）



第3号竖穴建物跡遺物出土状況（南西から）



第5号竖穴建物跡P4遺物出土状況



第6号竖穴建物跡（北西から）



第6号竖穴建物跡炉（西から）



第8号竖穴建物跡遺物出土状況①（北東から）



第8号竖穴建物跡遺物出土状況②（北から）



第8号竖穴建物跡P53・54遺物出土状況（北東から）



第8号竖穴建物跡（南から）



第9号竖穴建物跡P20遺物出土状況（北東から）



第11号竖穴建物跡（南から）



第13号竖穴建物跡P49遺物出土状況（北から）



第14号竖穴建物跡（北から）



第15号竖穴建物跡（南から）



第15号竖穴建物跡P40遺物出土状況（南から）



第19号竖穴建物跡遺物出土状況①（南から）



第19号竖穴建物跡遺物出土状況②（南から）



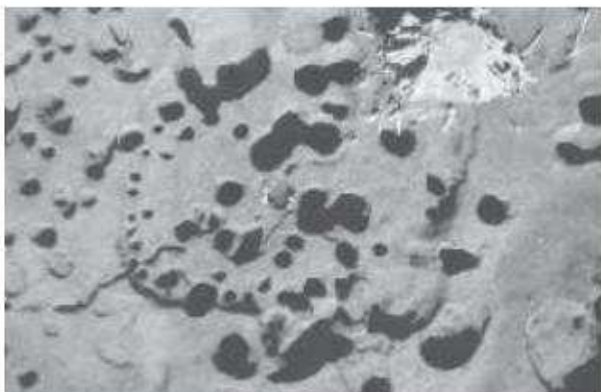
第19号竖穴建物跡遺物出土状況③（南から）



第20号竖穴建物跡遺物出土状況（西から）



第20号竖穴建物跡炉（北から）



第20号竖穴建物跡（南から）



第24・27号竖穴建物跡（南から）

PL9



第25号竖穴建物跡遺物出土状況



第29号竖穴建物跡P8遺物出土状況（北から）



第22・25号竖穴建物跡土層断面（北から）



第31号竖穴建物跡遺物出土状況（南から）



第35号竖穴建物跡遺物出土状況①（南から）



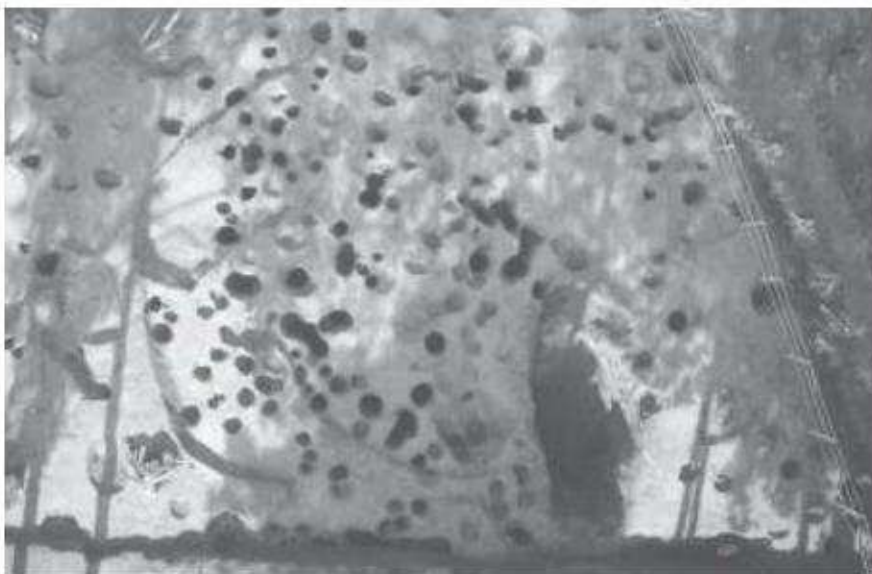
第35号竖穴建物跡遺物出土状況②



第35号竖穴建物跡遺物出土状況③



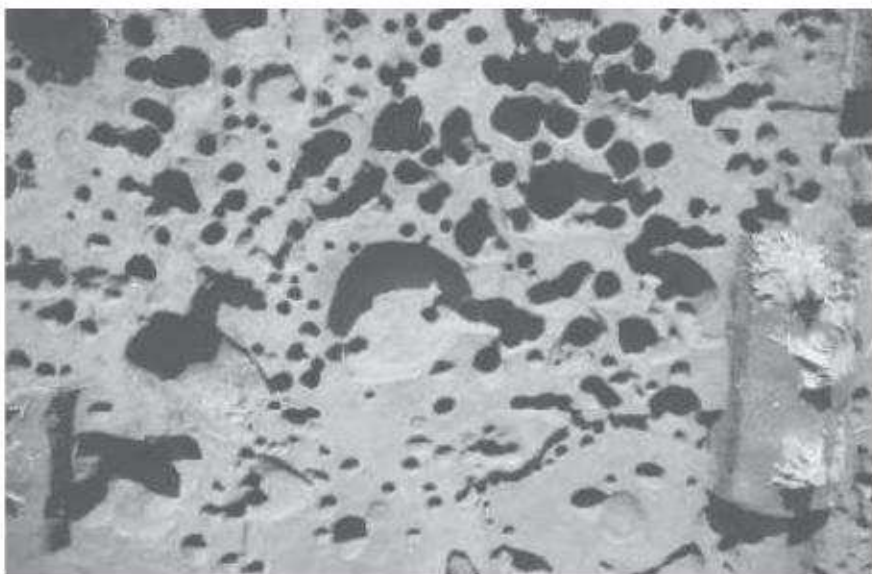
第35号竖穴建物跡P110遺物出土状況（南東から）



第 22・23・25・28
～30号竪穴建物跡,
第 3 号地下式坑,
第 1 号井戸跡
(南 から)



第24・27・29号竪穴
建物跡(北から)



第35・39・47号竪穴
建物跡(北から)

PL11

第 34・54・59 号
竪穴建物跡 (南から)



第 44・46号 竪穴
建物跡 (南から)



第 48・49号 竪穴
建物跡 (南から)





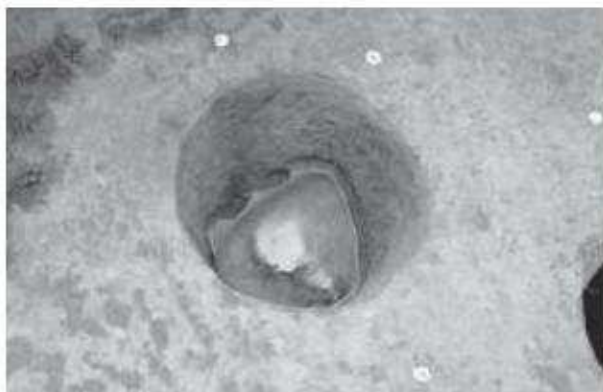
第35号竖穴建物跡P122遺物出土状況（北から）



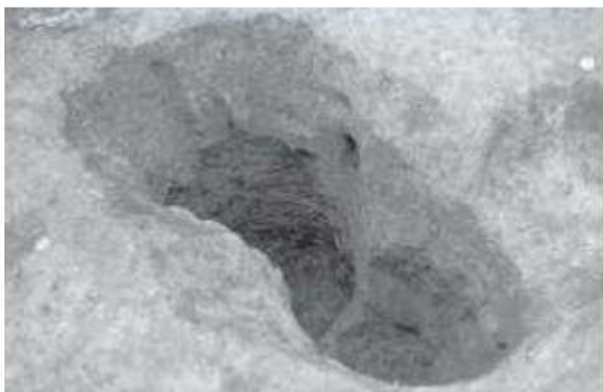
第35号竖穴建物跡P122・123土層断面（北から）



第36号竖穴建物跡P4遺物出土状況（南東から）



第36号竖穴建物跡P56遺物出土状況（南東から）



第37号竖穴建物跡P22・23（南から）



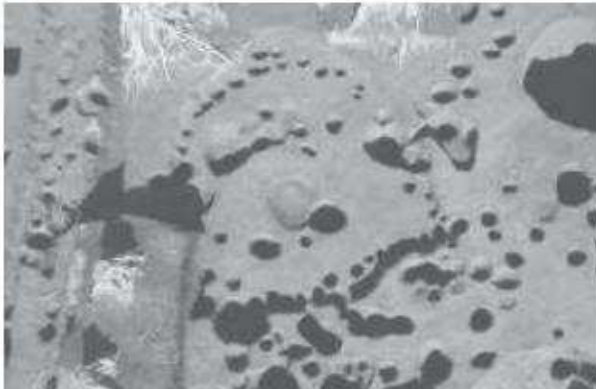
第39号竖穴建物跡遺物出土状況①（北から）



第39号竖穴建物跡遺物出土状況②（北西から）



第41号竖穴建物跡遺物出土状況（東から）



第41号竖穴建物跡（南から）



第43号竖穴建物跡遺物出土状況（東から）



第43号竖穴建物跡遺物・焼土出土状況（南から）



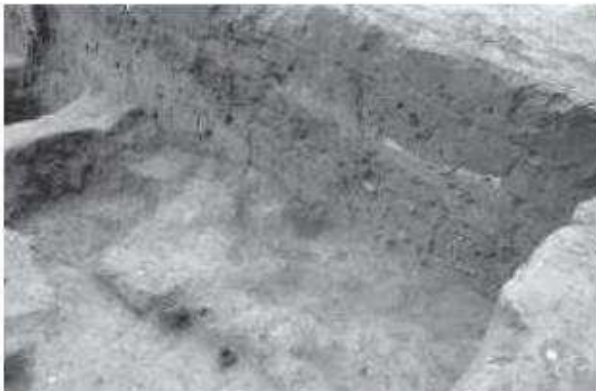
第43号竖穴建物跡炭化材・焼土出土状況（南から）



第43号竖穴建物跡土層断面①（南から）



第43号竖穴建物跡土層断面②（東から）



第43号竖穴建物跡土層断面③（北から）



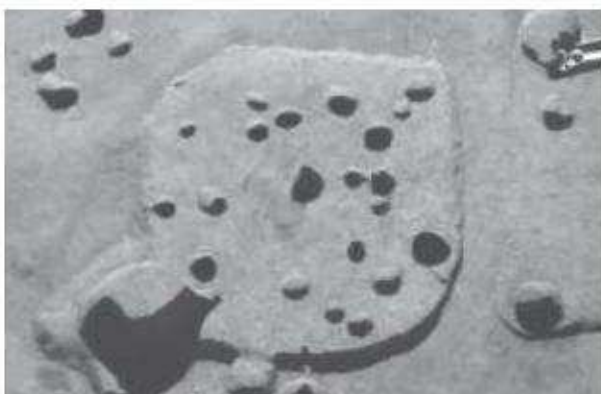
第43号竖穴建物跡焼土出土状況（北から）



第45号竖穴建物跡遺物出土状況① (南から)



第45号竖穴建物跡遺物出土状況② (南東から)



第45号竖穴建物跡 (南から)



第46号竖穴建物跡 (南から)



第48号竖穴建物跡遺物出土状況① (西から)



第48号竖穴建物跡遺物出土状況② (西から)



第51号竖穴建物跡 (南から)



第53号竖穴建物跡遺物出土状況 (北東から)



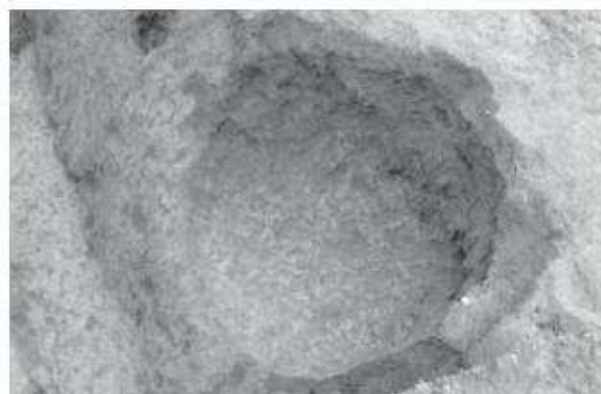
第53号竖穴建物跡P17遺物出土状況（北東から）



第4・168号土坑（北から）



第5号土坑（北から）



第26号土坑（北東から）



第28号土坑遺物出土状況①（東から）



第28号土坑遺物出土状況②（東から）



第28号土坑（北東から）



第29号土坑（北東から）



第32号土坑（南から）



第33号土坑（北から）



第33号土坑南部（北から）



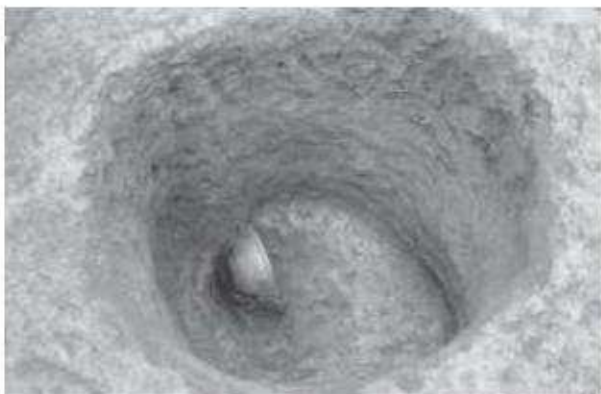
第34号土坑（北東から）



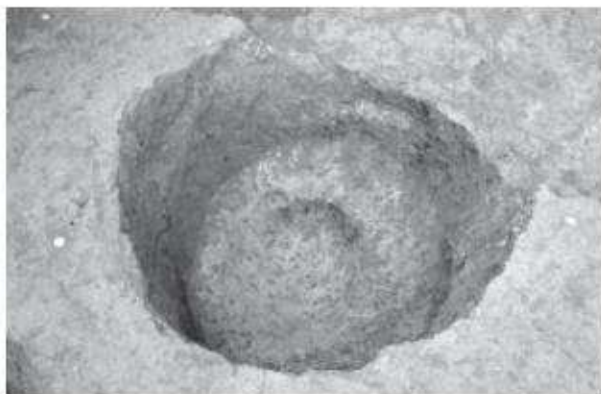
第34号土坑遺物出土状況（北東から）



第39号土坑遺物出土状況（南西から）



第45号土坑遺物出土状況（南西から）



第45号土坑（南から）



第54号土坑遺物出土状況（東から）



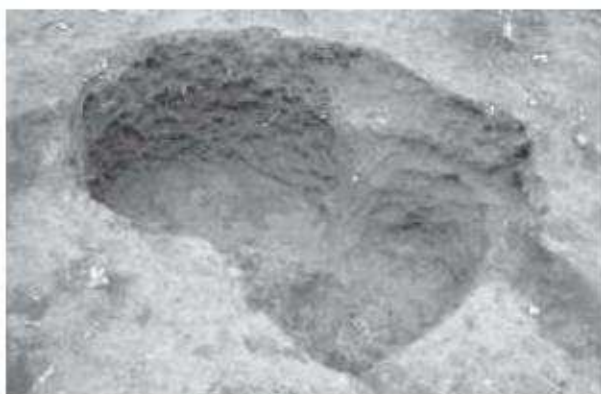
第75・78・79号土坑（北西から）



第99号土坑（南から）



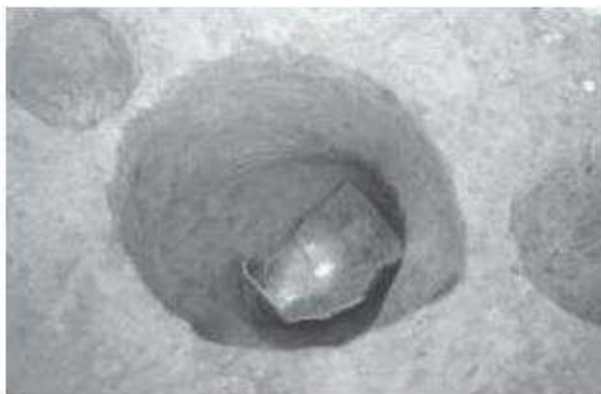
第102号土坑（東から）



第103・104号土坑（北西から）



第105号土坑遺物出土状況（南から）



第272号土坑遺物出土状況（南東から）



第1号粘土貼土坑（北から）



第105号土坑（北西から）



第106号土坑遺物出土状況（南東から）



第106～111号土坑（東から）



第113号土坑（南西から）



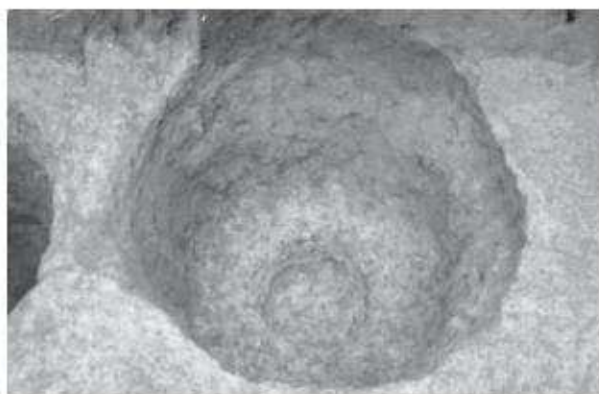
第121号土坑遺物出土状況（南東から）



第122号土坑遺物出土状況（西から）



第122号土坑（南から）



第126号土坑（東から）

PL19



第127号土坑遺物出土状況（北東から）



第127号土坑（北東から）



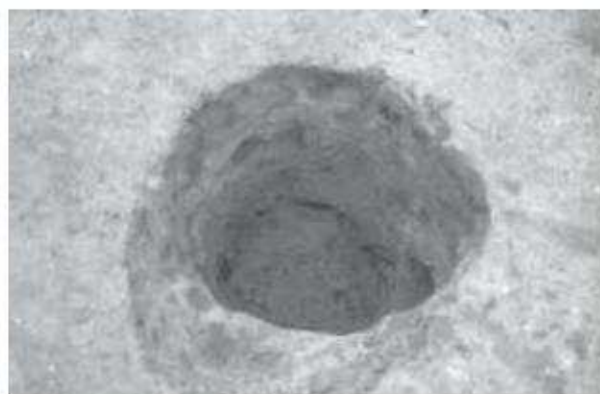
第129号土坑・第16号竪穴建物跡P15（東から）



第134号土坑（北西から）



第135号土坑土層断面（南東から）



第140号土坑（東から）



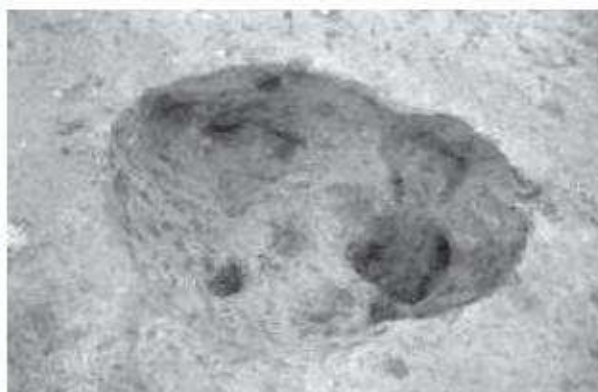
第141・142号土坑（南東から）



第143号土坑遺物出土状況（東から）



第143号土坑（北から）



第144号土坑（東から）



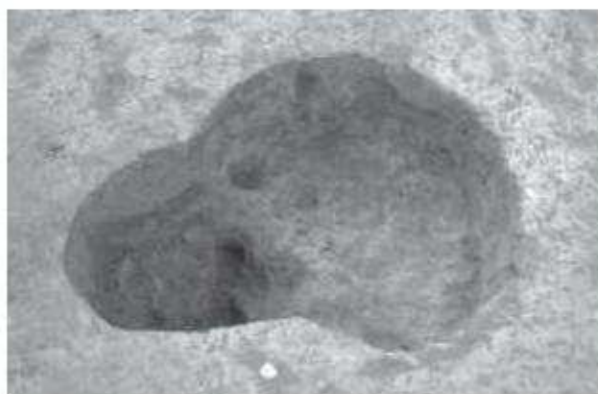
第146号土坑（北から）



第147号土坑（北東から）



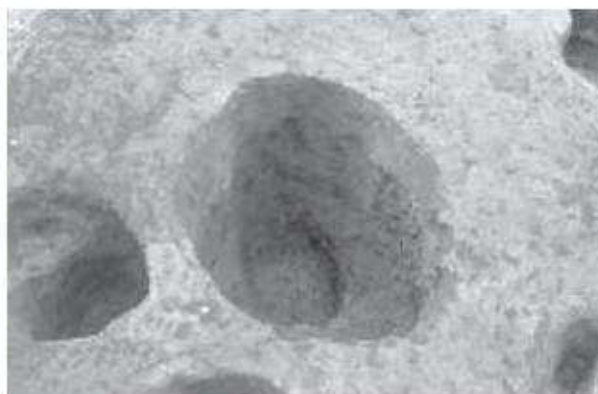
第148・158号土坑（南から）



第149号土坑（東から）



第150号土坑（北東から）



第153号土坑（北から）



第157号土坑（西から）



第159号土坑（東から）



第163号土坑遺物出土状況①（北東から）



第163号土坑遺物出土状況②（北東から）



第166号土坑遺物出土状況（南西から）



第166号土坑（南から）



第168号土坑遺物出土状況（西から）



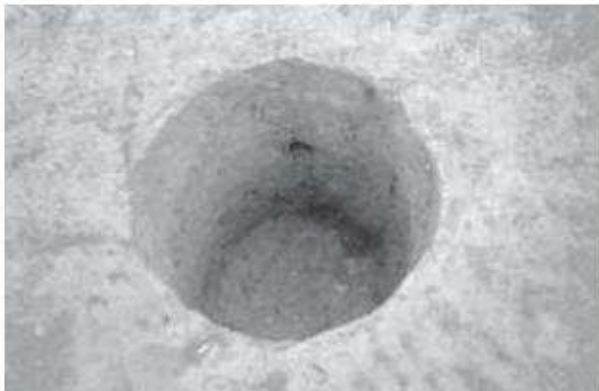
第178号土坑（東から）



第179号土坑遺物出土状況（北東から）



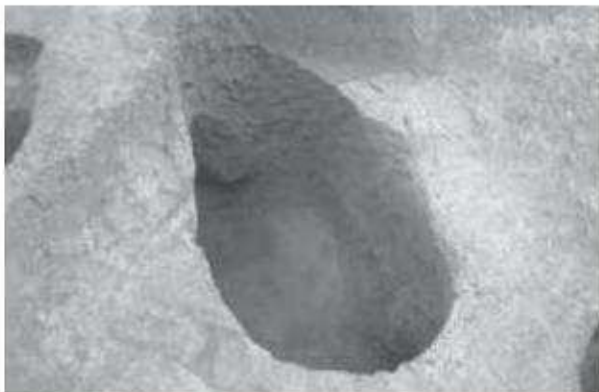
第180号土坑（北から）



第190号土坑（西から）



第229号土坑（南東から）



第198号土坑（北から）



第199・200号土坑（南から）



第204号土坑（北から）



第208号土坑（南から）

PL23



第223・243号土坑（東から）



第223号土坑上面遺物出土状況（南から）



第224号土坑（北から）



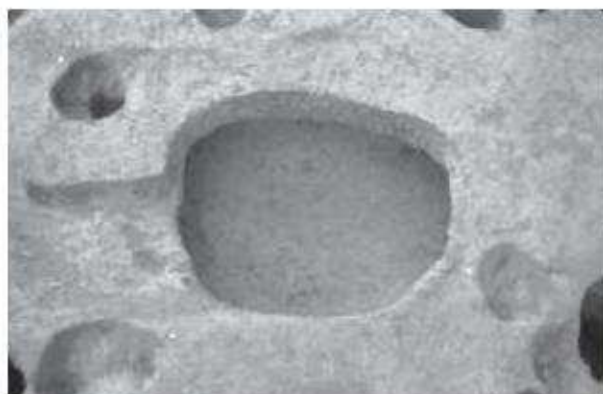
第228号土坑（北東から）



第231号土坑（北東から）



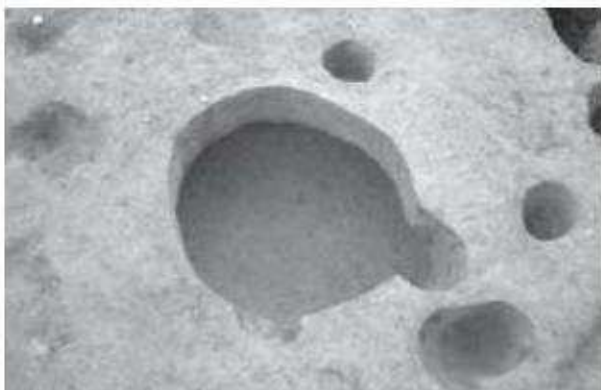
第232号土坑遺物出土状況（南西から）



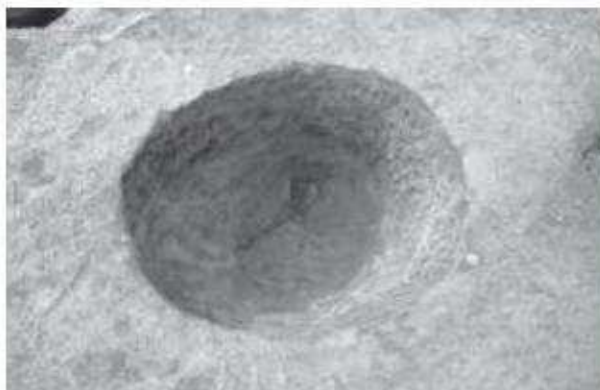
第232号土坑（南から）



第233号土坑遺物出土状況（北から）



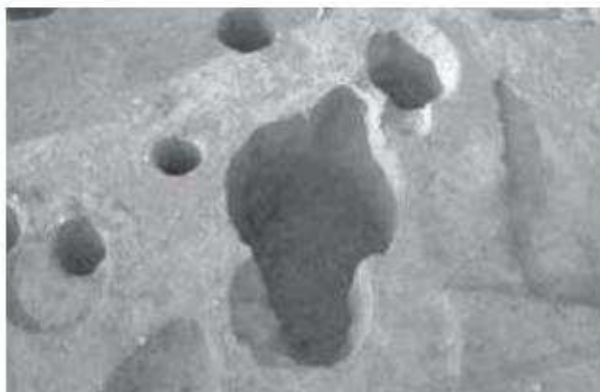
第233号土坑（北東から）



第235号土坑（北東から）



第246号土坑（南から）



第247号土坑（南から）



第253～255・270号土坑（東から）



第2号遺物包含層Aベルト土層断面（西から）



第2号遺物包含層遺物出土状況（耳飾り）



第2号遺物包含層Dベルト東土層断面①（北から）

PL25



第2号遺物包含層Dベルト東土層断面②（北から）



第2号遺物包含層Dベルト西土層断面（北東から）



第1号遺物包含層遺物出土状況



第1号遺物集中地点遺物出土状況①



第1号遺物集中地点遺物出土状況②



第1号遺物集中地点遺物出土状況③



第1号掘立柱建物跡（南から）



第1号地下式坑（南から）



第2号地下式坑（北東から）



第4号地下式坑（東から）



第6号地下式坑（北東から）



第7号地下式坑（南から）



第1号粘土採掘坑（北から）



第1号粘土採掘坑，第74～79号土坑（南から）



第1号掘跡（南から）

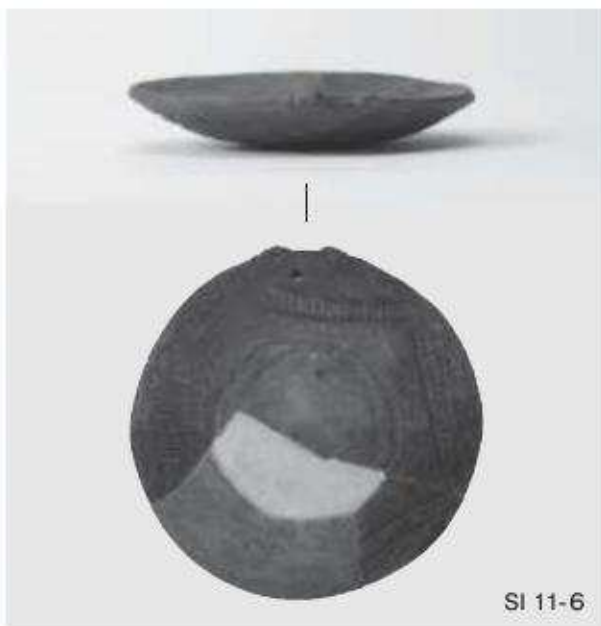
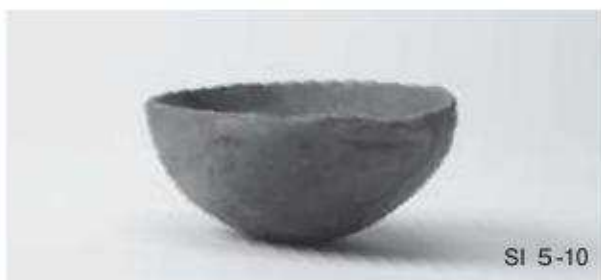


第2～4号溝跡（北から）

PL27



第1・5・6・8・9・11号竪穴建物跡出土土器



第1・4・5・9・11号竖穴建物跡出土土器

PL29



第9・13・15・31・35号竪穴建物跡出土土器



第6・11・13・20・22・35・43・45・51号竖穴建物跡出土土器

PL31



第36・48・53号竖穴建物跡，第272号土坑，第1号遺物集中地点出土土器



第53号竖穴建物跡，第34・122・127・168・179・254号土坑出土土器

PL33



第166・218・223・233・253号土坑，第1・2号遺物包含層出土土器



第35·43号竖穴建物跡，第29·106·122·135号土坑，第2号包含層出土土器

PL35



SI 22-4



SI 25-3



SK223-14



SI 39-27



SI 35-15



SI 35-12



SI 25-4



SI 29-1



SK194-1

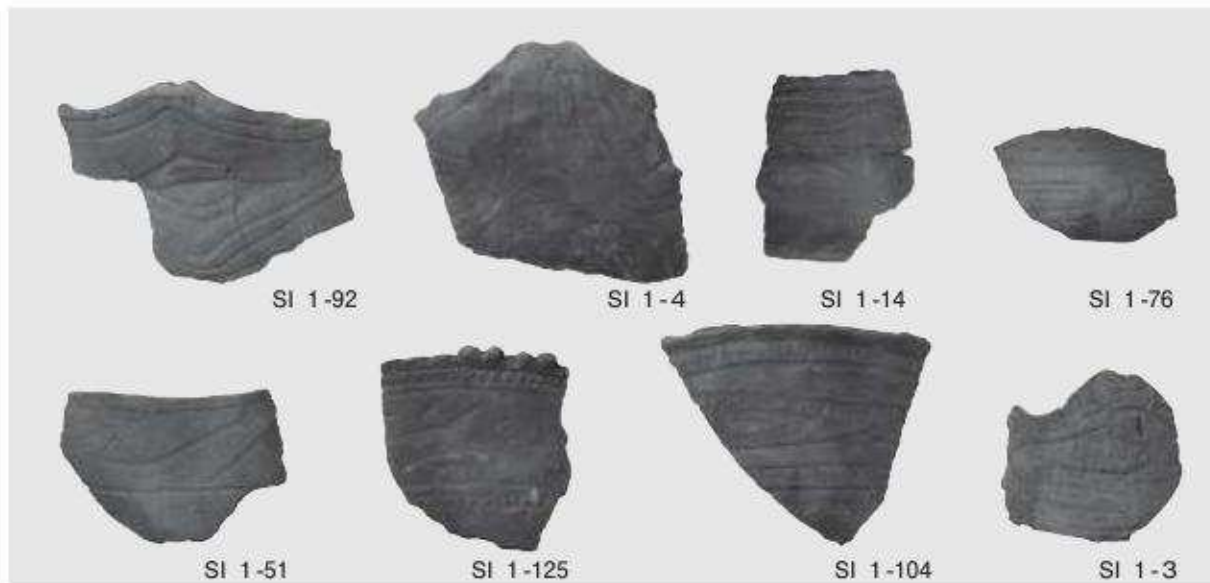


UP 2-3



UP 2-2

第22・25・29・35・39号竖穴建物跡，第223号土坑，第2号地下式坑出土土器，第194号土坑出土磁器

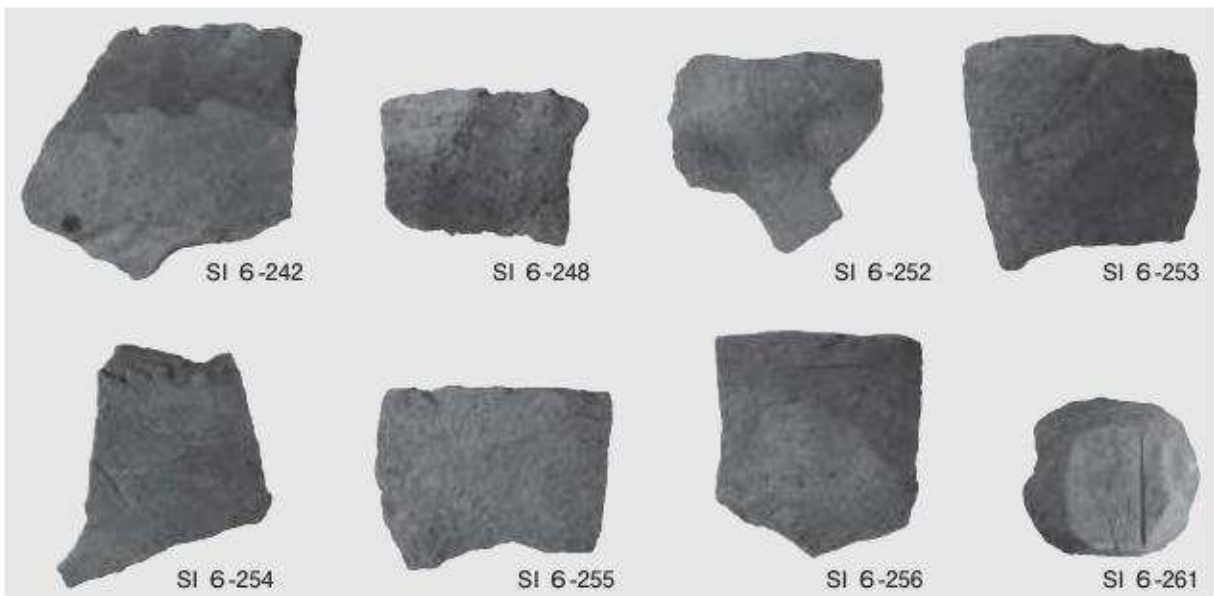
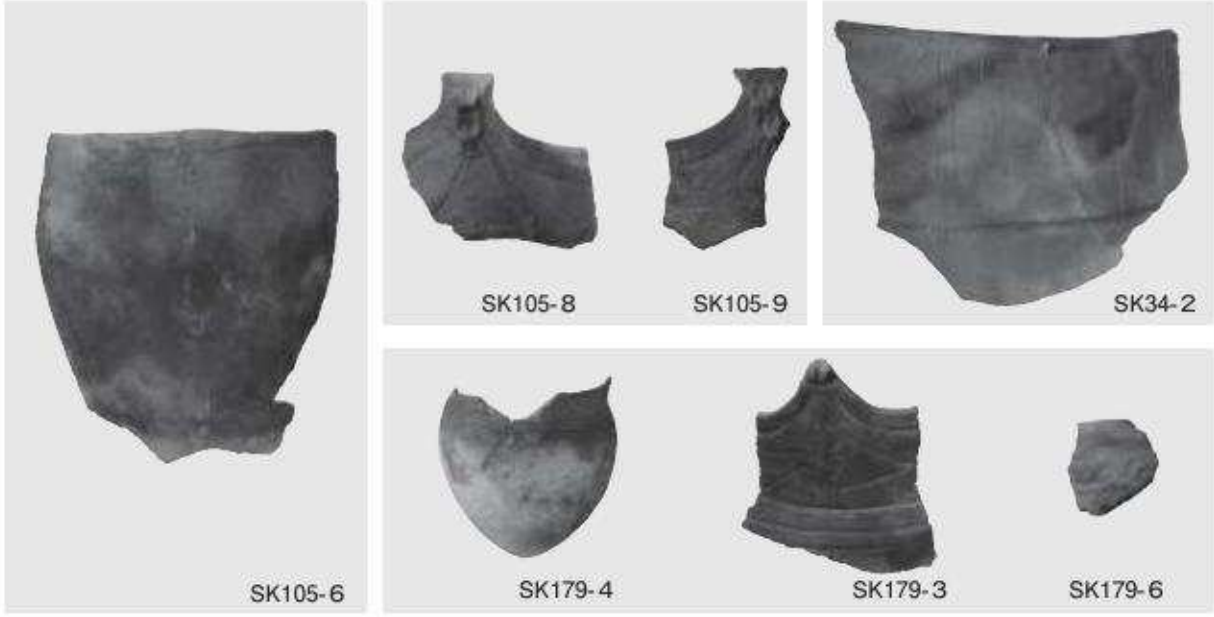


第1·4·5·6·7·8号竖穴建物跡出土土器

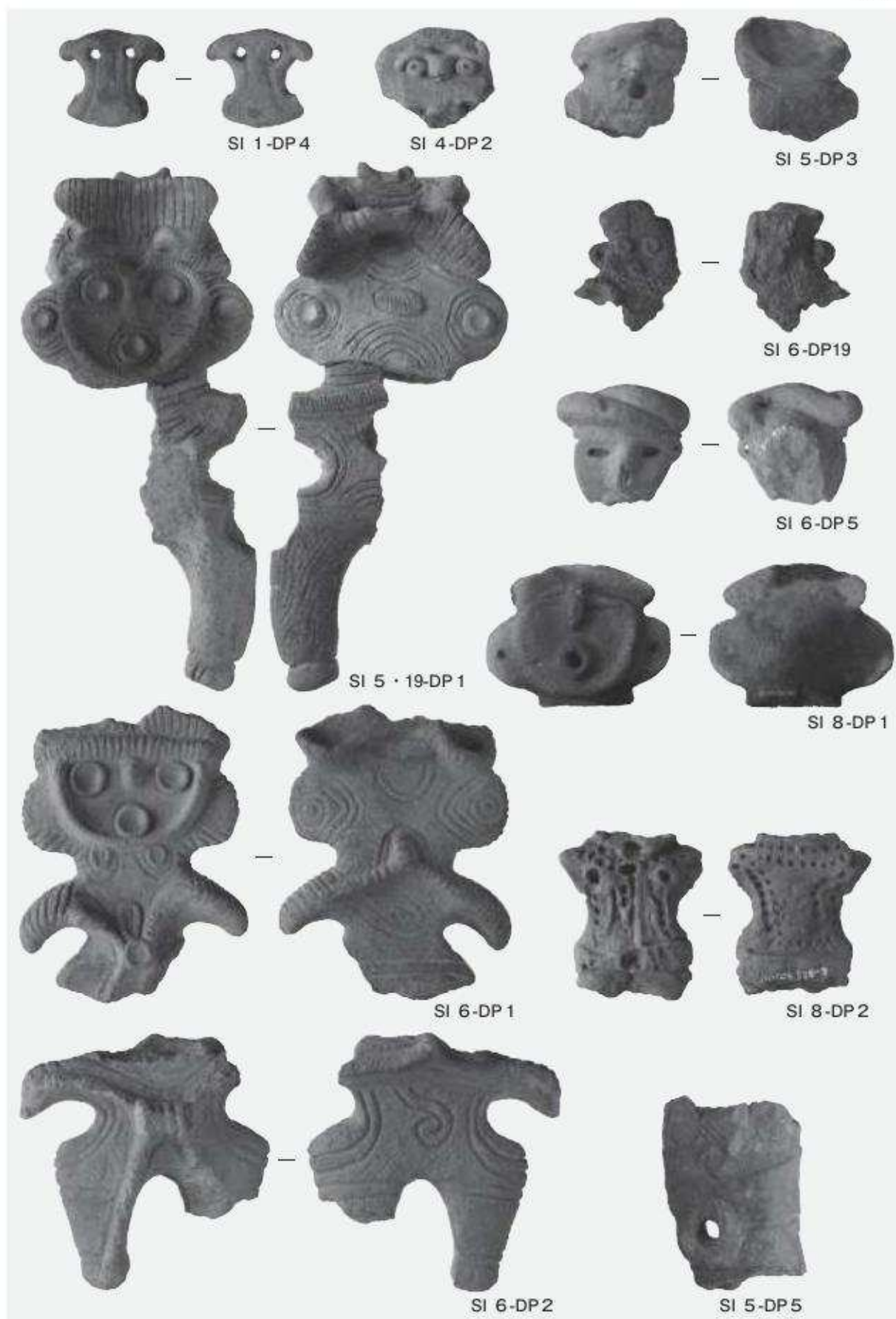
PL37



第11・13・20・22・23・24・41・43・45・47号竪穴建物跡，第29・39号土坑出土土器



第6号竖穴建物跡，第34・105・179号土坑，第2号遺物包含層出土土器

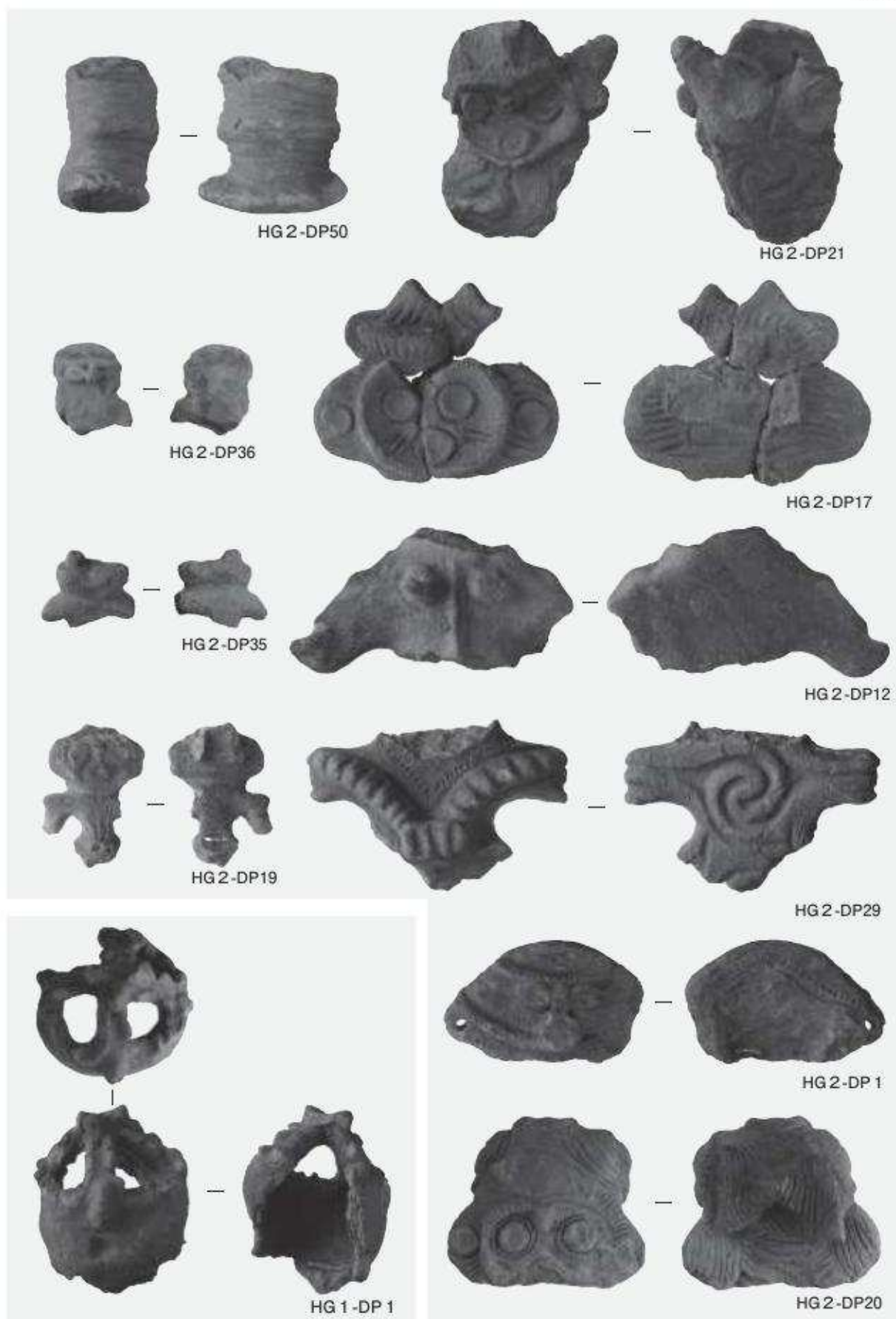


第1・4・5・6・8・19号竪穴建物跡出土土偶



第12·15·22·25·39·47号竖穴建物跡，第54号土坑，第1号遺物集中地点，第2号遺物包含層出土土偶

PL41

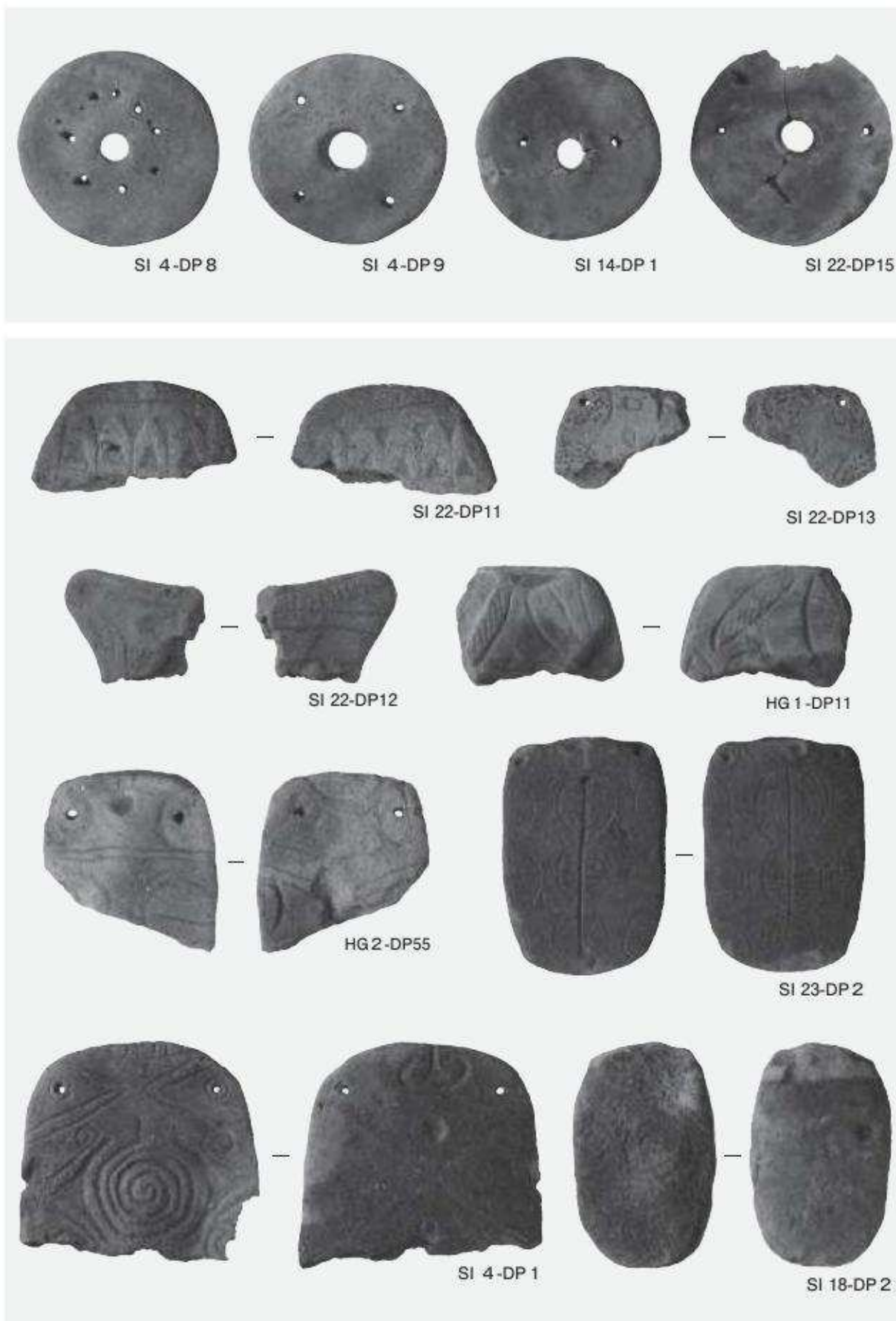


第1・2号遺物包含層出土土偶

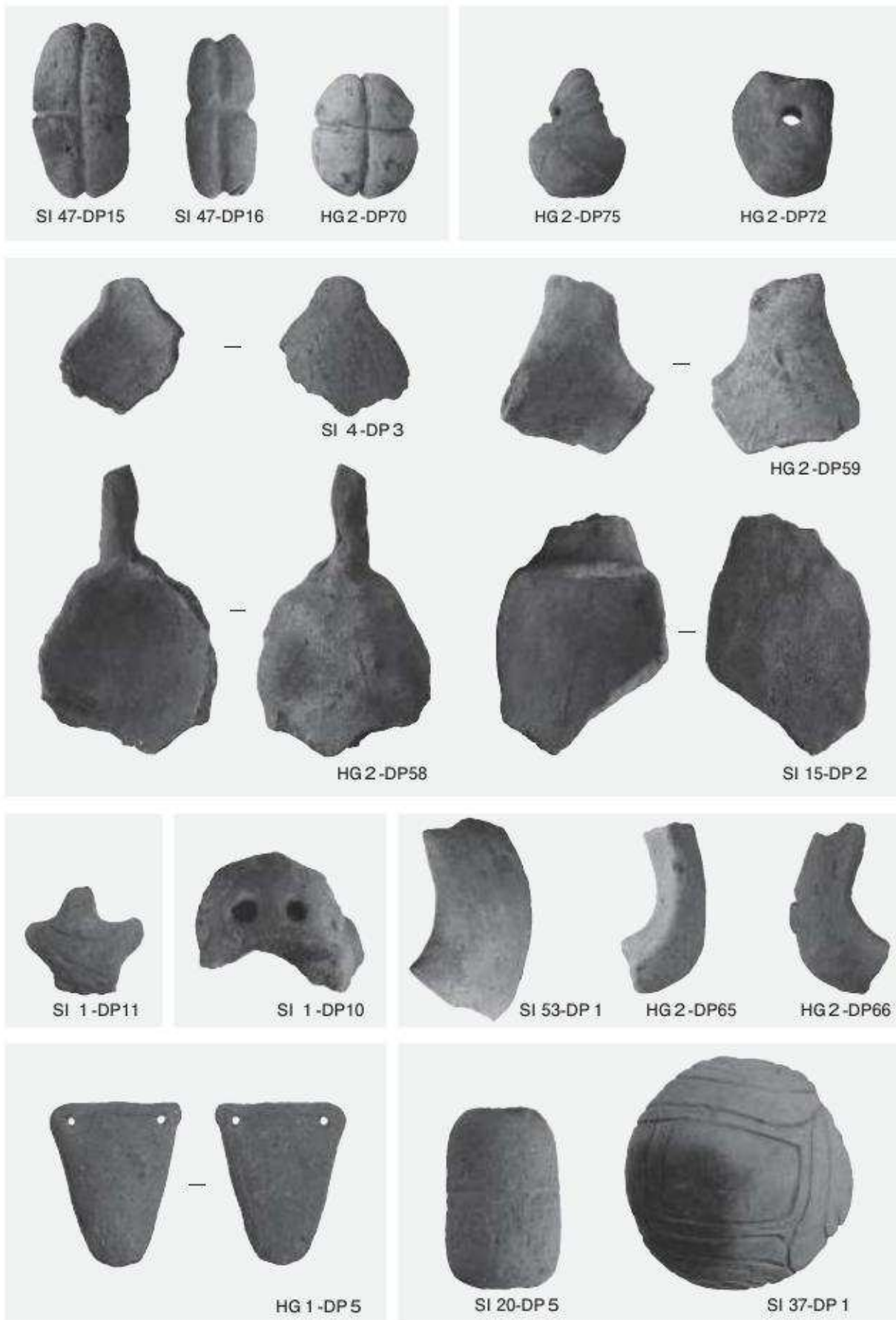


第1・20・22・34・35・39・47号竖穴建物跡，第8・223号土坑，第1・2号遺物包含層出土耳飾り

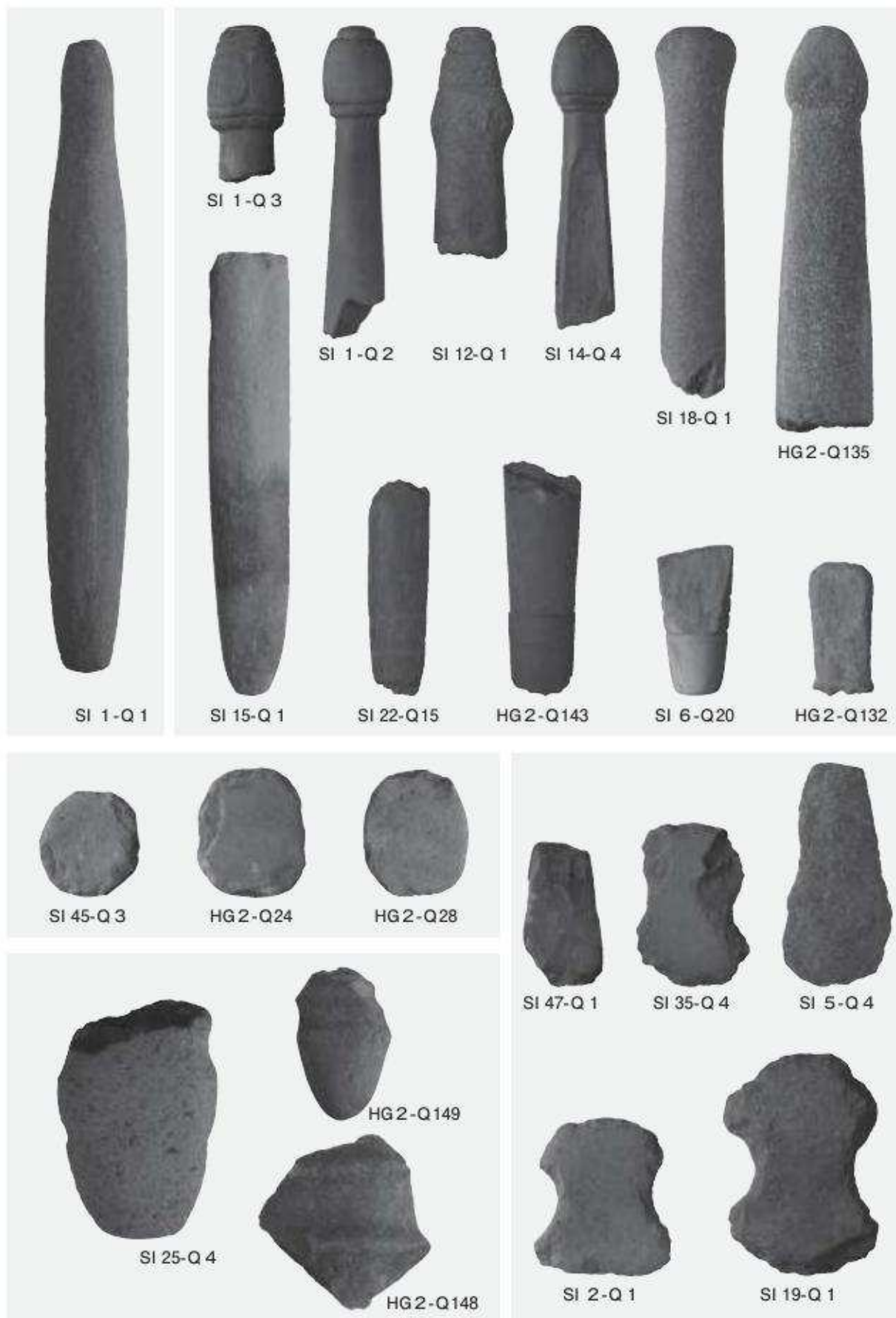
PL43



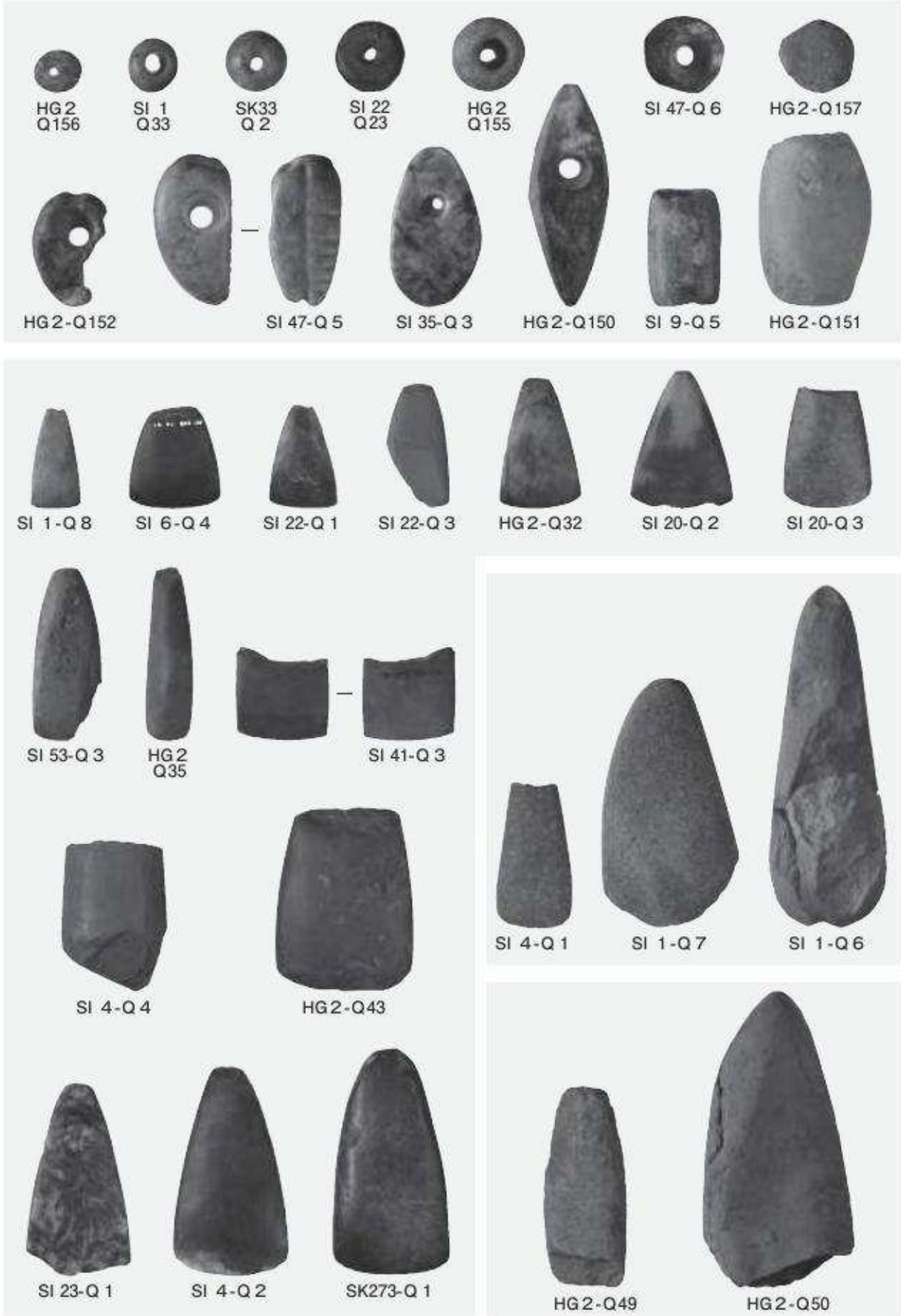
第4・14・18・22・23号竪穴建物跡，第1・2号遺物包含層出土土製品



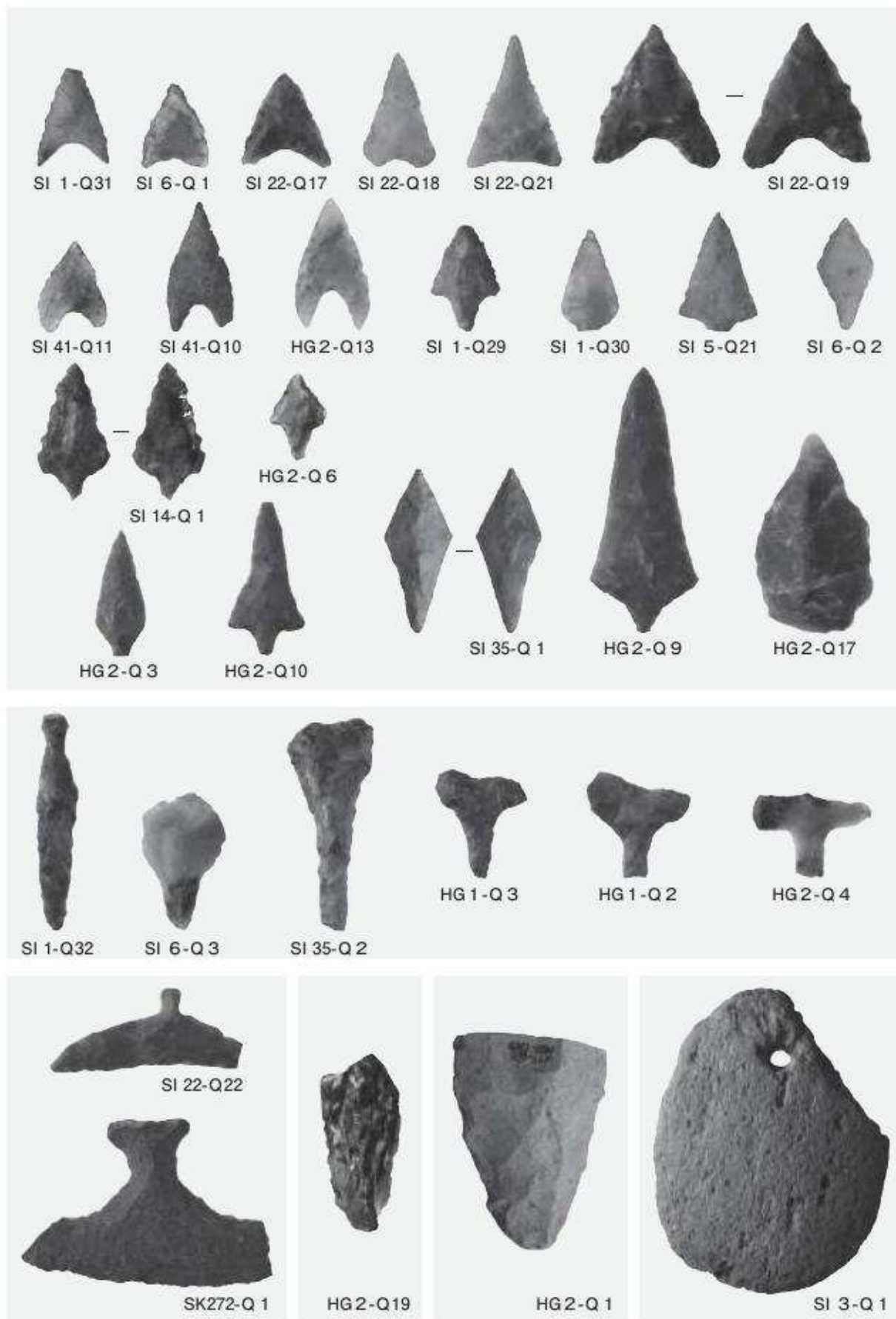
第1・4・15・20・37・47・53号竖穴建物跡，第1・2号遺物包含層出土土製品



第1・2・5・6・12・14・15・18・19・22・25・35・45・47号竪穴建物跡，第2号遺物包含層出土石器・石製品



第1·4·6·9·20·22·23·35·41·47·53号竖穴建物跡，第33·273号土坑，第2号遺物包含層出土石器·石製品



第1・3・5・6・22・14・35・41号竪穴建物跡，第272号土坑，第1・2号遺物包含層出土石器



第 1 · 3 · 4 · 5 · 22 · 23 · 28 · 35 · 36 · 39 · 47号竖穴建物跡, 第41 · 105 · 143号土坑, 第2号遺物包含層出土石器, 骨角器, 木製品

PL49



D区全景



E・F区全景

PL50



第30号竖穴建物跡



第31号竖穴建物跡
遺物出土状況

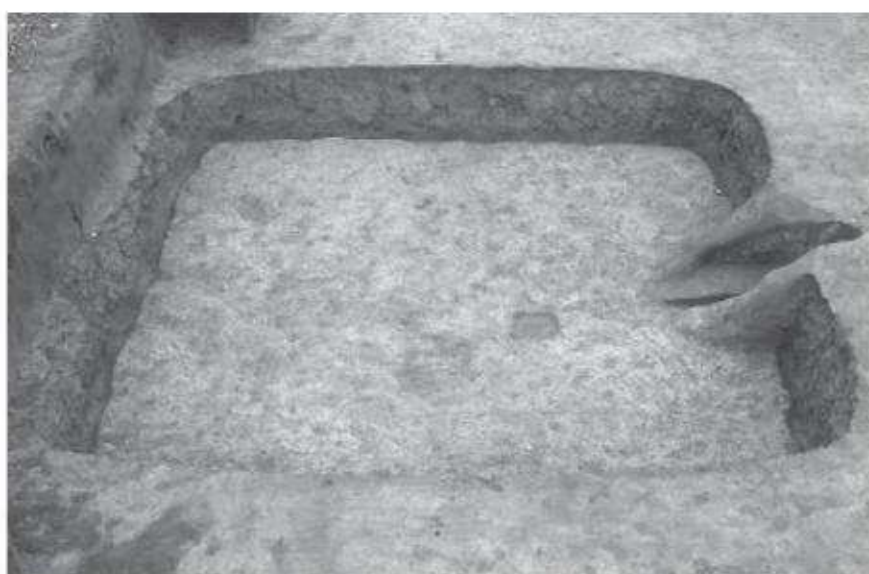


第31号竖穴建物跡

PL51



第37号竖穴建物跡



第39号竖穴建物跡



第40号竖穴建物跡
竈切石出土状況



第41号竖穴建物跡

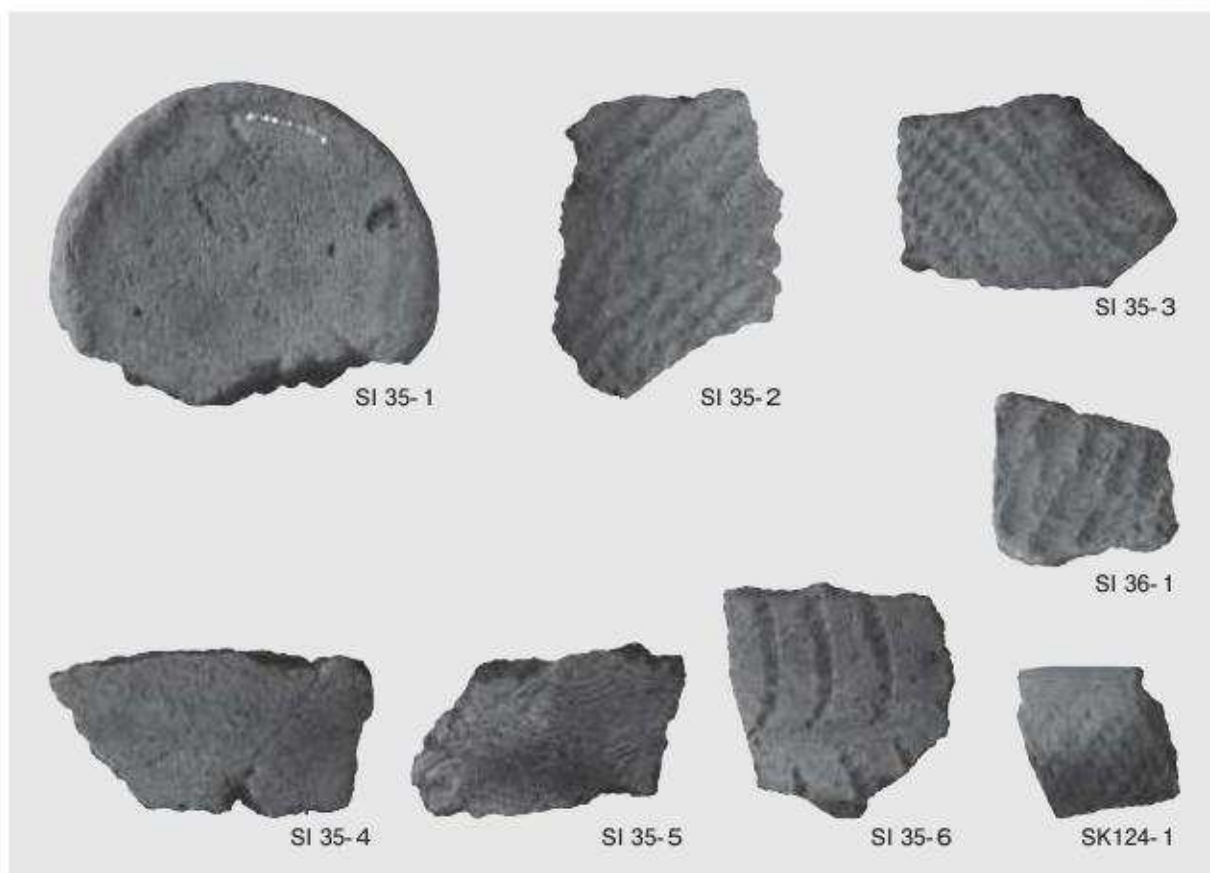


第34号竖穴建物跡



第10号井戸跡

PL53



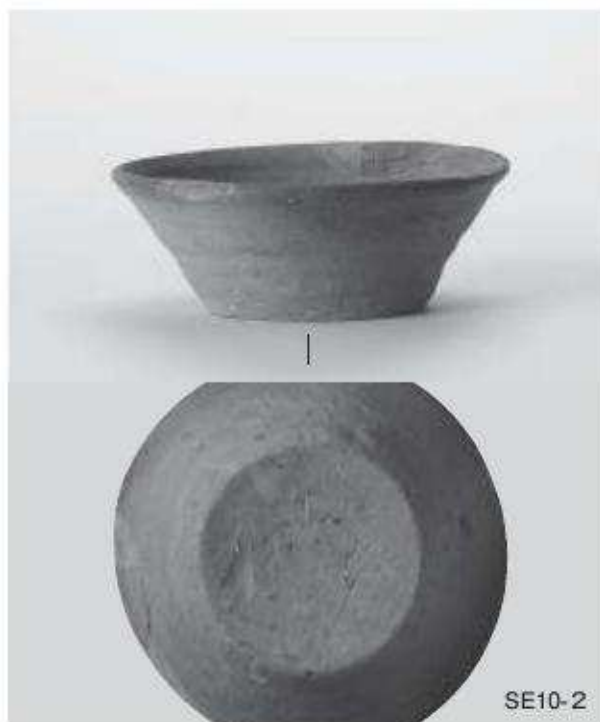
第32・35・36・38・40・42号竪穴建物跡，第124号土坑出土土器

PL54



第25・30・31・34・37・44号竖穴建物跡，第10号井戸跡出土土器

PL55

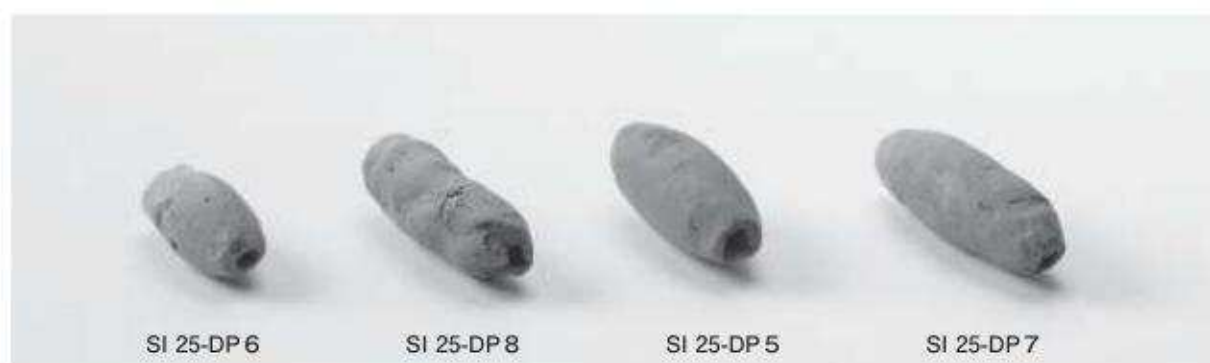


第31・34・37・41号竪穴建物跡，第10号井戸跡出土土器

PL56



第12号掘立柱建物跡出土陶器，第14・18号溝跡出土土器，陶器



第25・30・41号竖穴建物跡，第6号井戸跡，第21号溝跡，第9号ピット群，遺構外出土土製品，石器

PL58



SI 34-Q 1



SD18-Q 1



SD18-Q 2



PG9-Q 2



SI 40-Q 1



SI 32-M 1



SD19-M 1



SI 40-Q 2



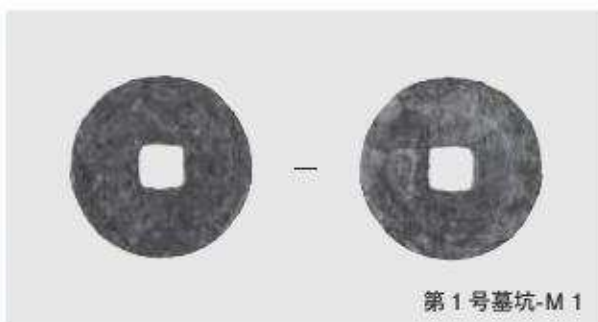
SD17-M 1



SD14-M 1



SI 40-Q 3



第1号墓坑-M 1

第32・34・40号竖穴建物跡，第1号墓坑，第14・17・18・19号溝跡，第9号ビット群出土石器，鉄製品，銅製品，銭貨

抄 録

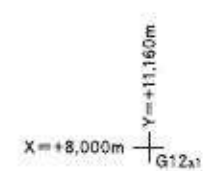
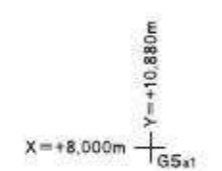
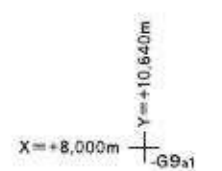
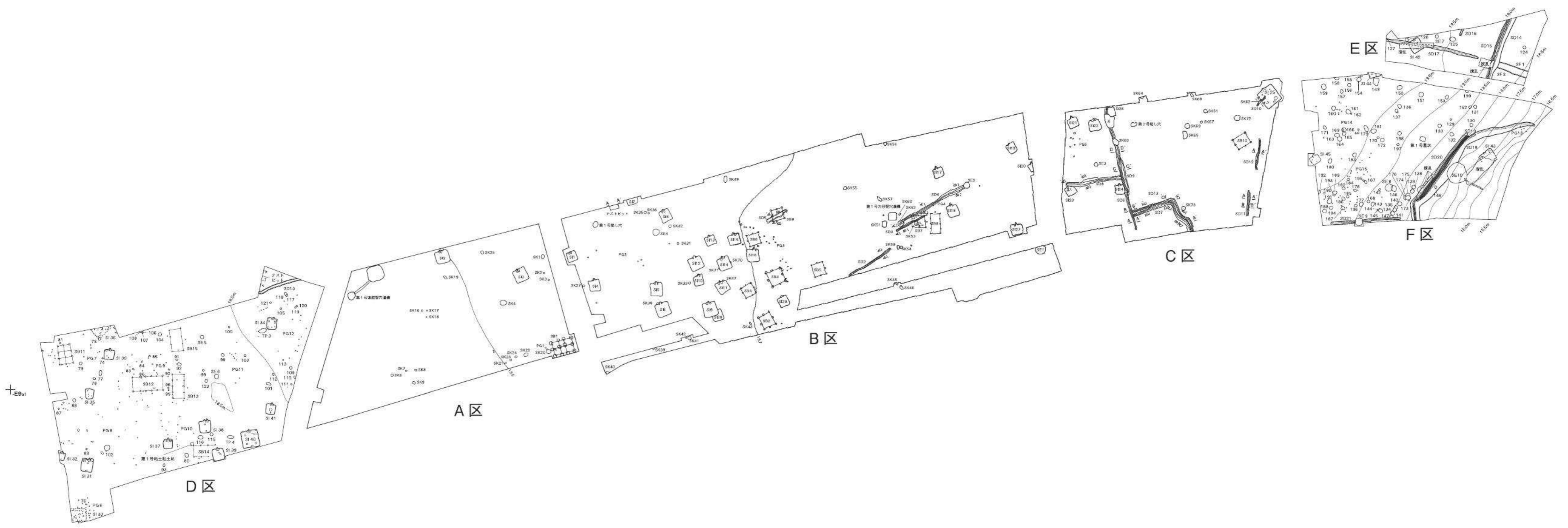
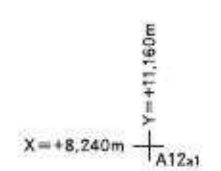
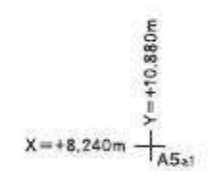
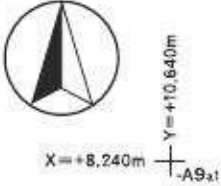
ふりがな	つじいせき みやはらまえいせき2								
書名	築地遺跡 宮原前遺跡2								
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第427集								
著者名	江原美奈子 近江屋成陽 矢ノ倉正男								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2018(平成30)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
築地遺跡	茨城県常総市 大輪町字築地 754番地の1ほか	08211 - 020	36度 04分 24秒	139度 57分 54秒	18 ~ 20m	20140401 ~ 20141031	2,908㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う事前調査	
宮原前遺跡	茨城県常総市 大生郷町字宮原前 3448番地ほか	08211 - 014	36度 04分 21秒	139度 57分 06秒	19 ~ 20m	20140401 ~ 20141031 20150201 ~ 20150331 20150409 ~ 20150430	4,795㎡ 1,641㎡ 4,010㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
築地遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡	69棟	縄文土器、土製品(土錘・土器片錘・耳飾り・土版・土偶・有孔円盤・動物形・匙形・棒状・貝輪状・土器片円盤・垂飾品)、石器・石製品(石鏃・石錐・磨製石斧・打製石斧・石皿類・磨石類・石錘・砥石・礫器・垂飾品・石剣・石棒類・独鈷石)、骨角製品(骨鏃・栓状・管・垂飾品)、木製品(櫛)				
		室町	地下式坑	6基	土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢)、陶器(小皿・天目茶碗・香炉・瓶子・甕)、石器・石製品(石臼・茶臼・宝篋印塔)				
		江戸	掘立柱建物跡	1棟	土師質土器(甗),陶器(碗・大鉢)、磁器(仏飯器・碗)、金属製品(煙管・釘)				
		その他	時期不明	粘土探掘坑	1基				
				土坑	4基				
				溝跡	3条				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮原前遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 3棟 陥し穴 2基 土坑 4基	縄文土器（深鉢）	
		古墳	竪穴建物跡 2棟	土師器（坏・碗・甕）、須恵器（坏・甕）、土製品（管状土錘・羽口）	
		奈良	竪穴建物跡 5棟 井戸跡 1基 土坑 1基	土師器（坏・高台付坏・甕・甗）、須恵器（坏・蓋・甕）、土製品（土玉・管状土錘）、金属製品（刀子・門）	
		平安	竪穴建物跡 7棟 井戸跡 2基 土坑 8基	土師器（坏・碗・高台付坏・皿・甕・小形甕）、須恵器（坏・鉢・甕・甗）、土製品（土玉・紡錘車）、石器（砥石）	
		室町	掘立柱建物跡 2棟 井戸跡 1基 粘土貼土坑 1基 土坑 2基	土師質土器（内耳鍋）、陶器（天目茶碗）	
		江戸	井戸跡 2基 墓坑 1基 土坑 3基 溝跡 5条 道路跡 2条	土師質土器（小皿・焙烙）、陶器（碗・皿・小皿・鉢・播鉢・片口鉢）、石器（砥石）、金属製品（煙管）、銭貨	
		その他	時期不明	掘立柱建物跡 3棟 土坑 102基 溝跡 4条 ビット群 10か所	須恵器（坏）、陶器（鉢・播鉢）、土製品（管状土錘・泥面子）、石器（石鏃・砥石）、金属製品（刀子・煙管）
要約	<p>築地遺跡は、縄文時代中期前半から晩期中葉の集落跡で、後期以降は層厚のある遺物包含層が堆積し、多量の遺物が出土している。反復的に多数の建物や土坑が構築されている様子が捉えられ、関東地方の後・晩期に見られる、いわゆる「環状盛土遺構」と類似する遺跡である。</p> <p>宮原前遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合集落遺跡である。竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認され、墨書土器が出土していることから、律令体制下の農村集落として機能していたと考えられる。また中・近世においては、瀬戸・美濃系の陶器類が出土していることから、当地においても陶器の流通が広く伝わっていることがわかる。</p>				



付図 築地遺跡全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第427集)





付図 宮原前遺跡全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第 427 集)



印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類 EPSON ES-1000G
		RICOH imagio MPW4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第427集

築地遺跡 宮原前遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成30(2018)年 3月15日 印刷

平成30(2018)年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
TEL 029-227-5505